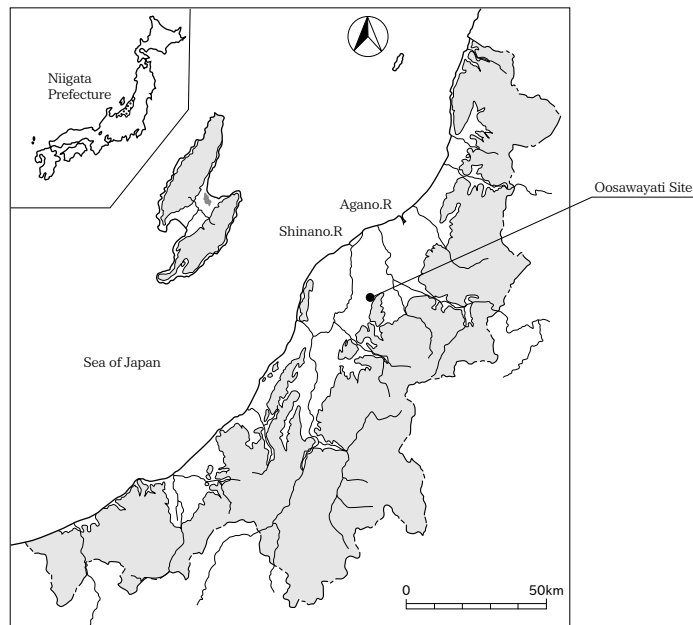


おおさわ や ち
大沢谷内遺跡Ⅱ
第7・9・11・12・14次調査

— 一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う
大沢谷内遺跡第2・4・6・7・9次発掘調査報告書 —

本 文 編



2012

新潟市教育委員会

例 言

- 1 本書は新潟県新潟市秋葉区天ヶ沢字丸山^{おおさわやち}内地内に所在する大沢谷内遺跡（新潟市遺跡 No.342）第1区～第4区（第7・9・11・12・14次調査）の発掘調査記録であり、本文編（観察表含む）と図面図版編、写真図版編の3分冊からなる。
- 2 大沢谷内遺跡関連の報告は第3・4次調査（1988・1989年）の本報告がなされており（川上1989a『大沢谷内遺跡発掘調査報告書』）、本書は第2集にあたるため『大沢谷内遺跡Ⅱ』となる。
- 3 調査は一般国道403号小須戸田上バイパス（以下「小須戸バイパス」）の整備工事に伴い、新潟市教育委員会（以下、「市教委」）が調査主体となり、新潟市文化観光・スポーツ部文化財センター（以下、「市文化財センター」）が補助執行した。
- 4 平成17年度から21年度に発掘調査、平成22年度から23年度に整理作業・報告書刊行を行った。発掘調査と整理作業の体制は第Ⅲ章に記した。
- 5 出土遺物および発掘調査・整理作業に係る記録類は、一括して市文化財センターが保管している。
- 6 本書の作成は細野高伯・伊比博和（株式会社シン技術コンサル）・立木宏明・相沢 央（市歴史文化課）・前山精明（市文化財センター）が行い、編集は細野・伊比が担当した。
- 7 自然科学分析は株式会社古環境研究所（平成17・18年採取試料）、株式会社火山灰考古学研究所（平成19・20年採取試料）、財団法人元興寺文化財研究所に執筆を含めて委託し、伊比が編集した。
- 8 動物遺体の分析及び執筆を松井章氏（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財センター）に依頼し、玉稿を賜った。
- 9 赤色顔料の分析及び執筆を三ツ井朋子氏（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団）に依頼した。
- 10 執筆は第Ⅰ章を立木、第Ⅱ章を細野・伊比、第Ⅲ章第1節を立木、第2節を細野・伊比、第Ⅳ章第1～3節を伊比、第4節を細野、第Ⅴ章第1節を伊比（第1節Aの胎土分類を前山）、第2節を細野、第Ⅵ章第1節A～E・G・H・第2節を株式会社古環境研究所・株式会社火山灰考古学研究所、第1節Fを前山、第3節を財団法人元興寺文化財研究所、第4節を松井氏、第5節を三ツ井氏、第Ⅶ章第1節を伊比、第2節A・B1）・2）を細野、B3）を相沢が行った。
- 11 遺構計測表の作成と遺構図版・遺構写真図版のレイアウト、遺物観察表の作成と遺物実測図版・写真図版レイアウトは、下層を伊比、上層を細野が行った。
- 12 下層遺跡出土の土器について、渡邊裕之氏（新潟県教育庁文化行政課）から御教示を頂いた。
- 13 上層遺跡出土の土器について、春日真実氏（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団）から御教示を頂いた。
- 14 本遺跡出土石器の石材鑑定は中村由克氏（野尻湖ナウマンゾウ博物館）に御指導頂き、個々の石材については担当者が判断した。
- 15 本書で用いた写真は、遺跡写真は平成17年度朝岡正康・今井さやか・八藤後智人（市文化財センター）、平成18年度立木宏明・八藤後智人・高野裕子（市文化財センター）、平成19年度渡邊ますみ（市文化財センター）・原 真・青木利文（株式会社シン技術コンサル）、平成20年度前山精明（市文化財センター）・細野高伯・伊比博和・安生素明（株式会社シン技術コンサル）、平成21年度前山精明（市文化財センター）・細野高伯・伊比博和・石川博之・小川長導（株式会社シン技術コンサル）が撮影し、遺物写真のうち下層土器は大久保厚（株式会社ソディックス）、上層土器は小池利光（フォトスタジオオー光）、石器・木製品・アスファルトは山際哲章（株式会社シン技術コンサル）・佐藤俊英（ビッグヘッド）が撮影した。ただし、写真図版1は米軍（国土地理院）、写真図版2は株式会社オリスが撮影したものを使用した。
- 16 遺構図のトレースと遺物実測図のトレースの一部、各種図版作成・編集に関しては、株式会社シン技術コンサルがデジタルトレースとDTPソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 17 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関より御指導・御協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げます。（所属・敬称略、五十音順） 甘粕 健・荒川隆史・五十嵐一治・石川智紀・石川日出志・伊藤秀和・小熊博史・春日真実・金子拓男・北村 亮・小島純一・小林達雄・坂井秀弥・笹澤正史・沢田 敦・鈴木俊成・関 雅之・高橋保雄・高濱信行・田中英司・田中耕作・田村浩司・鶴巻康志・寺崎裕助・田海義正・中島栄一・中村由克・久田正弘・藤巻正信・前原 豊・増子正三・松井 章・松島悦子・三ツ井朋子・宮尾 亨・四柳 隆・渡邊裕之・加茂市民俗資料館・石油の世界館友の会・新潟県教育庁文化行政課・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県立歴史博物館

凡 例

- 1 本書は3分冊から構成されるうちの「本文編」であり、本文と別表からなる。
- 2 遺構計測表・遺物観察表には各遺構の本文記載頁・掲載図版頁、各遺物の掲載図版頁を記載し、索引としての機能を付してある。
- 3 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏7度53分である。掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものは、原図の作成者・作成年を示した。
- 4 本文中の注は各節の末尾に記した。引用・参考文献は著者と発行年(西暦)を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載した。
- 5 遺構番号は現場で付したものをを用いた。番号は遺構の種別ごとに付さず、通し番号とした。
- 6 遺物番号は下層遺跡・上層遺跡ごと、さらに種別ごとに1からの通し番号を付してある。そのため、本文記載中には遺物番号の混乱を避けるために種別の略号を付している場合がある(土器=p、石器・石製品=s、木製品=w、土製品=d、金属製品=k)。なお、本文及び観察表・図版の番号は同一番号とした。
- 7 第IV章・V章の遺構と遺物の事実記載については図面図版(第2分冊)・写真図版(第3分冊)の掲載順序と対応している。
- 8 土層の土色観察は『新版 標準土色帖』〔農林水産省農林水産技術会議事務局 1967〕2005年度版を用いて、その記号を本書に掲載した。
- 10 本文中の挿図に用いた地形図、遺構・遺物実測図の縮尺は各図に示した。また既存の図を用いた場合は出典を記した。

目 次

第Ⅰ章 序 説	1
第1節 遺跡概観	1
第2節 発掘調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	4
第1節 遺跡の位置と地理的環境	4
第2節 周辺の遺跡	7
第3節 歴史的環境	16
第Ⅲ章 調査の概要	18
第1節 試掘・確認調査(第5・8・10・13次調査)	18
第2節 発掘調査(第7・9・11・12・14次調査)	18
A 調査方法	18
1) 現 況	18
2) グリッドの設定	18
3) 調査方法	21
B 調査経過	22
C 調査体制	24
第3節 整理作業	26
A 整理方法	26
1) 遺 物	26
2) 遺 構	26
B 整理経過	27
C 整理体制	27
第Ⅳ章 遺 跡	28
第1節 概 要	28
第2節 基本層序と旧地形の復元	28
A 基本層序	28
B 旧地形の復元	31
第3節 下層(縄文時代)の遺構	33
A 遺構の概要と分類	33
1) 住 居(SI)	33
2) 掘立柱建物(SB)	36
3) 土 坑(SK)	36
4) ピ ッ ト(Pit)	38
5) 性格不明遺構(SX)	40
6) 溝状遺構(SD)	40
B 遺構各説	40
1) 住 居(SI)	40
2) 掘立柱建物(SB)	47
3) 土 坑(SK)	49
4) ピ ッ ト(Pit)	78
5) 性格不明遺構(SX)	86
6) 溝状遺構(SD)	93
第4節 上層の遺構	95

A 遺構の概要	95
B 遺構各説	95
1) 柱穴列 (SA)	95
2) 掘立柱建物 (SB)	97
3) ピット (Pit)	105
4) 溝状遺構 (SD)	106
5) 井戸 (SE)	110
6) 土坑 (SK)	116
7) 性格不明遺構 (SX)	132
第V章 遺物	139
第1節 下層出土の遺物	139
A 縄文土器	139
1) 概要	139
2) 記述の方法と観察表	139
3) 分類	140
4) 出土土器各説	145
B 石器・搬入礫	164
1) 概要	164
2) 記述の方法と観察表	165
3) 分類	165
4) 出土石器各説	172
C アスファルト	183
1) 概要	183
2) 分類	183
3) 出土アスファルト各説	184
第2節 上層出土の遺物	186
A 土器	186
1) 概要	186
2) 弥生時代の土器	186
3) 古墳時代の土器	186
4) 飛鳥時代・古代の土器	187
5) 中世の土器	200
B 土製品	208
C 石器・石製品	209
1) 概要	209
2) 分類	209
3) 出土石器・石製品各説	211
D 木器・木製品	216
1) 木器・木製品の分類	216
2) 出土木器・木製品各説	218
E ガラス製品	227
F 金属製品	227
第VI章 自然科学分析	229
第1節 下層遺跡（縄文時代）における自然科学分析	229
A 植物珪酸体分析	229
1) 試料	229
2) 分析方法	229
3) 分析結果	229
4) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境	231
B 花粉分析	232
1) 試料	232
2) 分析方法	232
3) 分析結果	232
4) 花粉分析から推定される植生と環境	234
C 珪藻分析	234
1) 試料	234
2) 分析方法	234

3) 結 果	235	4) 珪藻分析から推定される堆積環境	236
D 炭化材の樹種同定	236		
1) 試 料	236	2) 分析 方法	236
3) 結 果	236	4) 所 見	236
E 種実同定	238		
1) 試 料	238	2) 分析 方法	238
3) 結 果	238	4) 所 見	238
F 溝状開析谷 (SD192) 出土の炭化物について	239		
1) 炭化物集中層の形成	239	2) 炭化物の構成	239
3) 出土炭化物の位置づけ	242		
G リン・カルシウム含量分析	243		
1) 分析 方法	244	2) 分析結果と考察	244
H 放射性炭素 (^{14}C) 年代測定	244		
1) 測定試料と測定方法	244	2) 測定 結果	244
I 黒曜石様物質の蛍光X線分析	246		
1) 分析 方法	246	2) 分析 結果	246
3) 考 察	247		
第2節 上層遺跡 (飛鳥時代・古代・中世) における自然科学分析	248		
A 植物珪酸体分析	248		
1) 試 料	248	2) 分析 方法	248
3) 分析 結果	248	4) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境	248
B 花粉分析	249		
1) 試 料	249	2) 分析 方法	249
3) 分析 結果	251	4) 花粉分析から推定される植生と環境	252
C 珪藻分析	252		
1) 試 料	253	2) 分析 方法	253
3) 分析 結果	253		
D SX1378 の分析	254		
1) 試 料	254	2) 寄生虫卵分析	254
3) 花粉分析	255	4) 種実同定	255
5) 考 察	258		
E 樹種同定	258		
1) 試 料	258	2) 分析 方法	258
3) 分析 結果	258	4) 所 見	258
F 種実同定	262		
1) 試 料	262	2) 分析 方法	262
3) 分析 結果	262	4) 考 察	262
5) ま と め	264		
G 放射性炭素 (^{14}C) 年代測定	265		
1) 測定試料と測定方法	265	2) 測定 結果	266
第3節 大沢谷内遺跡 (上・下層) 出土のアスファルト様物質の分析	266		
A 分析対象	266		

B	分析内容	266
C	使用機器	266
D	分析結果および考察	266
第4節	大沢谷内遺跡（上・下層）出土の動物遺体分析	269
A	はじめに	269
B	分析結果	269
1)	下層の動物遺存体	269
2)	上層の動物遺存体	270
3)	まとめにかえて	270
第5節	大沢谷内遺跡下層出土の赤色顔料について	272
A	試料と分析の目的	272
B	観察および分析の方法	272
C	結果と考察	272
第VII章	ま と め	276
第1節	下層（縄文時代）の遺跡	276
A	縄文土器	276
1)	装飾土器の型式学的検討	276
2)	出土状況からの検討	277
3)	土器の変遷	284
4)	胎土について	292
B	石器	294
1)	石器組成	294
2)	磨石類、敲石、石皿・台石類について	295
3)	石材	296
4)	周辺遺跡との比較	299
C	遺構と遺跡	300
1)	遺跡の変遷	300
2)	Vc層段階（大洞C1式終末～C2式I期）の遺跡と生業	300
3)	Vb層段階（大洞C2式II期）の遺跡と生業	311
4)	下層遺跡におけるアスファルトの利用について	319
5)	集落の性格と居住形態について	324
第2節	上層の遺跡	328
A	上層の遺構	328
1)	集落の変遷	328
2)	新潟市周辺の7世紀の遺跡	330
3)	祭祀遺構	332
B	上層の遺物	333
1)	各期の器種組成	333
2)	大沢谷内遺跡出土土器の編年的位置付け	335
3)	大沢谷内遺跡出土の木簡について	336
要 約		340
引用・参考文献		341
別 表		351
報告書抄録・奥付		巻末

挿 図 目 次

<p>第 1 図 大沢谷内遺跡位置図…………… 4</p> <p>第 2 図 大沢谷内遺跡周辺の地形分類図…………… 5</p> <p>第 3 図 大沢谷内遺跡周辺の地形と層序…………… 6</p> <p>第 4 図 大沢谷内遺跡第 4 次調査出土弥生土器 …… 8</p> <p>第 5 図 大沢谷内遺跡周辺の旧石器・縄文時代遺跡 分布図…………… 9</p> <p>第 6 図 大沢谷内遺跡周辺の弥生・古墳時代遺跡 分布図…………… 10</p> <p>第 7 図 大沢谷内遺跡周辺の古代遺跡分布図…………… 12</p> <p>第 8 図 大沢谷内遺跡周辺の中世遺跡分布図…………… 14</p> <p>第 9 図 大沢谷内遺跡試掘・確認調査位置図 …… 19</p> <p>第 10 図 大沢谷内遺跡 1～4 区試掘・確認調査位置図 …………… 20</p> <p>第 11 図 大沢谷内遺跡 1～4 区本発掘調査の経緯 …………… 22</p> <p>第 12 図 基本層序図…………… 29</p> <p>第 13 図 大沢谷内遺跡 1～4 区微地形の変遷 …… 32</p> <p>第 14 図 住居(SI)分布図 …… 33</p> <p>第 15 図 住居(SI)分類図① …… 34</p> <p>第 16 図 住居(SI)分類図② …… 35</p> <p>第 17 図 掘立柱建物(SB)分布図 …… 36</p> <p>第 18 図 掘立柱建物(SB)分類図 …… 36</p> <p>第 19 図 下層土坑(SK)分類図 …… 37</p> <p>第 20 図 ピット(Pit)分布図 …… 38</p> <p>第 21 図 下層性格不明遺構(SX)の分類図 …… 39</p> <p>第 22 図 溝状遺構(SD)分布図…………… 40</p> <p>第 23 図 大沢谷内遺跡縄文土器分類図①…………… 141</p> <p>第 24 図 大沢谷内遺跡縄文土器分類図②…………… 142</p> <p>第 25 図 大沢谷内遺跡縄文土器分類図③…………… 143</p> <p>第 26 図 大沢谷内遺跡縄文時代石器分類図①…………… 167</p> <p>第 27 図 大沢谷内遺跡縄文時代石器分類図②…………… 168</p> <p>第 28 図 大沢谷内遺跡縄文時代石器分類図③…………… 169</p> <p>第 29 図 大沢谷内遺跡縄文時代石器分類図④…………… 170</p> <p>第 30 図 大沢谷内遺跡下層出土アスファルト形状 分類図…………… 184</p> <p>第 31 図 大沢谷内遺跡古代土器分類図…………… 189</p> <p>第 32 図 大沢谷内遺跡中世土器分類図…………… 201</p> <p>第 33 図 大沢谷内遺跡上層出土砥石分類図…………… 210</p> <p>第 34 図 木製品分類模式図…………… 217</p> <p>第 35 図 刳舟復元図…………… 222</p> <p>第 36 図 大沢谷内遺跡(下層) 1 区 3K-1A 地点に おける植物珪酸体分析結果…………… 230</p> <p>第 37 図 大沢谷内遺跡(下層) 1 区 3K-1B 地点に</p>	<p>おける植物珪酸体分析結果…………… 230</p> <p>第 38 図 大沢谷内遺跡(下層) 4 区 SI650 北側地点に おける植物珪酸体分析結果…………… 230</p> <p>第 39 図 炉跡および溝状遺構における植物珪酸体 分析結果…………… 230</p> <p>第 40 図 大沢谷内遺跡(下層)の植物珪酸体(プラント・ オパール) …… 231</p> <p>第 41 図 大沢谷内遺跡(下層)の花粉・孢子 …… 234</p> <p>第 42 図 大沢谷内遺跡(下層)の珪藻…………… 235</p> <p>第 43 図 大沢谷内遺跡(下層)の炭化材…………… 237</p> <p>第 44 図 大沢谷内遺跡(下層)の炭化種実…………… 238</p> <p>第 45 図 SD192 炭化物集中層の形成とヒシ類の 出土数…………… 240</p> <p>第 46 図 SD192・大沢谷内北遺跡・御井戸遺跡の 炭化材・炭化種実出現率…………… 243</p> <p>第 47 図 大沢谷内遺跡(下層) SK920 における蛍光 X線分析結果(wt%) …… 244</p> <p>第 48 図 大沢谷内遺跡(下層)出土試料蛍光 X 線 スペクトル…………… 246</p> <p>第 49 図 和田の黒曜石の蛍光 X 線スペクトル例 …… 246</p> <p>第 50 図 通常の判別図 1 …… 247</p> <p>第 51 図 通常の判別図 2 …… 247</p> <p>第 52 図 黒曜石のプロット領域と大沢谷内遺跡試料 の位置…………… 247</p> <p>第 53 図 黒曜石の領域と大沢谷内遺跡試料の位置 …………… 247</p> <p>第 54 図 大沢谷内遺跡(上層) 1 区 3K-1A 地点に おける植物珪酸体分析結果…………… 249</p> <p>第 55 図 大沢谷内遺跡(上層)南部谷セクションに おける植物珪酸体分析結果…………… 249</p> <p>第 56 図 SX1378 における植物珪酸体分析結果 …… 249</p> <p>第 57 図 植物珪酸体(プラント・オパール)顕微鏡写真 …………… 249</p> <p>第 58 図 大沢谷内遺跡(上層)南部谷セクションに おける花粉ダイアグラム…………… 251</p> <p>第 59 図 大沢谷内遺跡(上層)南部谷の花粉・寄生虫卵 …………… 251</p> <p>第 60 図 大沢谷内遺跡(上層)南部谷セクションに おける主要珪藻ダイアグラム…………… 252</p> <p>第 61 図 大沢谷内遺跡(上層)南部谷の珪藻…………… 254</p> <p>第 62 図 大沢谷内遺跡(上層) SX1378 における花粉 ダイアグラム…………… 256</p> <p>第 63 図 SX1378 の種実…………… 257</p>
---	--

第64図	大沢谷内遺跡(上層)SX1378における種実 ダイアグラム……………	257	第90図	試料No.7二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	274
第65図	大沢谷内遺跡(上層)の木材1……………	260	第91図	試料No.8二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	274
第66図	大沢谷内遺跡(上層)の木材2……………	261	第92図	試料No.9二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	274
第67図	大沢谷内遺跡(上層)南部谷の種実……………	264	第93図	試料No.10二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	274
第68図	アスファルト4大組成のIRスペクトル……………	267	第94図	試料No.11二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	274
第69図	試料No.1の試料採取か所(上)と試料の ATR-FTIRスペクトル(下)……………	267	第95図	試料No.12二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	274
第70図	試料No.2の試料採取か所(上)と試料の ATR-FTIRスペクトル(下)……………	267	第96図	試料No.13二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	275
第71図	試料No.3の試料採取か所(上)と試料の ATR-FTIRスペクトル(下)……………	267	第97図	試料No.14二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	275
第72図	試料No.4の試料採取か所(上)と試料の ATR-FTIRスペクトル(下)……………	267	第98図	試料No.15二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	275
第73図	試料No.5の試料採取か所(上)と試料の ATR-FTIRスペクトル(下)……………	268	第99図	試料No.16二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	275
第74図	試料No.6の試料採取か所(上)と試料の ATR-FTIRスペクトル(下)……………	268	第100図	試料No.17二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	275
第75図	試料No.7の試料採取か所(上)と試料の ATR-FTIRスペクトル(下)……………	268	第101図	試料No.18二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	275
第76図	試料No.8の試料採取か所(上)と試料の ATR-FTIRスペクトル(下)……………	268	第102図	試料No.19二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	275
第77図	試料No.9の試料採取か所(上)と試料の ATR-FTIRスペクトル(下)……………	268	第103図	試料No.20二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	275
第78図	試料No.10の試料採取か所(上)と試料の ATR-FTIRスペクトル(下)……………	268	第104図	大沢谷内遺跡下層遺構検出層位模式図……………	277
第79図	試料No.11の試料採取か所(上,2か所)と 試料のATR-FTIRスペクトル(下)……………	268	第105図	縄文土器出土状況図①(SD192Ⅲ層段階)……………	278
第80図	試料No.12の試料採取か所(上)と試料の ATR-FTIRスペクトル(下)……………	268	第106図	縄文土器出土状況図②(SD192Ⅱ層段階)……………	279
第81図	下層検出の焼骨(左列・中央列:サケの椎骨 右列:エイの尾棘)……………	270	第107図	縄文土器出土状況図③(SD192Ⅰ層段階)……………	280
第82図	エイの尾棘……………	270	第108図	縄文土器出土状況図④(Vb層段階)……………	281
第83図	不明魚種A……………	270	第109図	大沢谷内遺跡下層土器変遷図①……………	285
第84図	試料No.1二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	273	第110図	大沢谷内遺跡下層土器変遷図②……………	287
第85図	試料No.2二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	273	第111図	大沢谷内遺跡装飾土器文様変遷図……………	291
第86図	試料No.3二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	273	第112図	大沢谷内遺跡下層土器器種組成・地文組成・ 胎土組成比率図……………	293
第87図	試料No.4二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	274	第113図	大沢谷内遺跡下層石器器種別組成比率図……………	294
第88図	試料No.5二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	274	第114図	磨石類・敲石各類長幅比……………	295
第89図	試料No.6二次電子線像(上)と X線チャート(下)……………	274	第115図	大沢谷内遺跡下層Vc層段階・Vb層段階 遺構配置図……………	301
			第116図	SD192最深部と上層井戸の底面深度……………	302
			第117図	大沢谷内遺跡下層(Vc層段階)の遺構配置 と生業関連の遺物分布図……………	303
			第118図	SD192・掘立柱建物・焼土遺構・住居・小竪	

	穴状遺構配置図……………	305	第127図	大沢谷内遺跡下層(Vc層段階)の アスファルト関連遺物分布図……………	320
第119図	掘立柱建物(SB)の主軸方向による群別 ……………	307	第128図	大沢谷内遺跡下層(Vb層段階)の アスファルト関連遺物分布図……………	321
第120図	大沢谷内遺跡下層(Vc層段階)デポ遺構配 置図……………	309	第129図	大沢谷内遺跡下層出土 アスファルト付着石器①……………	322
第121図	大沢谷内遺跡下層(Vc層段階)南側土坑群 配置図……………	311	第130図	大沢谷内遺跡下層出土 アスファルト付着石器②……………	323
第122図	大沢谷内遺跡下層(Vc層段階)南側ピット 群配置図……………	312	第131図	大沢谷内遺跡下層(上)と 昼塚・道下遺跡(下)の遺構分布図……………	325
第123図	大沢谷内遺跡下層(Vb層段階)の遺構配置 と生業関連の遺物分布図……………	313	第132図	東山丘陵周辺の晩期中葉遺跡の変遷……………	327
第124図	大沢谷内遺跡下層(Vb層段階)北側土坑群 配置図……………	315	第133図	各期の上層遺構……………	329
第125図	大沢谷内遺跡下層(Vb層段階)住居変遷図 ……………	317	第134図	新潟市周辺における7世紀の遺跡……………	331
第126図	大沢谷内遺跡下層(Vb層段階)土坑墓配置図 ……………	318	第135図	SX945土製有孔円盤・斎串出土状況……………	332
			第136図	主要遺構別器種組成表……………	334
			第137図	木簡釈文①……………	337
			第138図	木簡釈文②……………	338

表 目 次

第1表	大沢谷内遺跡調査履歴……………	3	第16表	大沢谷内遺跡(下層)放射性炭素年代測定 結果……………	245
第2表	大沢谷内遺跡周辺の旧石器・縄文時代遺跡 一覧表……………	8	第17表	大沢谷内遺跡(下層)試料の蛍光X線 スペクトル強度比(7回測定の平均値)……………	246
第3表	大沢谷内遺跡周辺の弥生・古墳時代遺跡 一覧表……………	11	第18表	和田の黒曜石の蛍光X線スペクトル強度比 (一例)……………	246
第4表	大沢谷内遺跡周辺の古代遺跡一覧表……………	13	第19表	大沢谷内遺跡(上層)における植物珪酸体 分析結果……………	248
第5表	大沢谷内遺跡周辺の中世遺跡一覧表……………	15	第20表	大沢谷内遺跡(上層)南部谷における花粉 分析結果……………	250
第6表	大沢谷内遺跡下層出土アスファルト一覧表 ……………	185	第21表	大沢谷内遺跡(上層)南部谷における珪藻 分析結果……………	253
第7表	大沢谷内遺跡における植物珪酸体分析結果 ……………	230	第22表	SX1378における寄生虫卵・花粉分析結果 ……………	256
第8表	大沢谷内遺跡(下層)における花粉分析結果 ……………	233	第23表	SX1378における種実同定結果……………	257
第9表	大沢谷内遺跡(下層)における珪藻分析結果 ……………	235	第24表	大沢谷内遺跡(上層)における樹種同定結果 (木製品・炭化材)……………	259
第10表	大沢谷内遺跡(下層)における樹種同定結果 ……………	236	第25表	大沢谷内遺跡(上層)南部谷における種実 同定結果……………	263
第11表	大沢谷内遺跡(下層)における炭化種実 同定結果……………	238	第26表	大沢谷内遺跡(上層)における放射性炭素 年代測定の試料と方法……………	265
第12表	SD192ブロック別炭化物一覧……………	240	第27表	大沢谷内遺跡(上層)放射性炭素年代測定 結果……………	265
第13表	大沢谷内北遺跡・御井戸遺跡出土炭化物一覧 ……………	242	第28表	大沢谷内遺跡アスファルト様物質分析対象 試料……………	266
第14表	大沢谷内遺跡(下層)SK920における蛍光X 線分析結果……………	244	第29表	アスファルトの4大組成……………	266
第15表	大沢谷内遺跡(下層)放射性炭素年代測定の 試料と方法……………	245			

第30表	分析試料の各種溶剤への溶解性……………	266	第33表	大沢谷内遺跡下層石器石材組成……………	297
第31表	大沢谷内遺跡検出焼骨の同定結果………	269	第34表	越後平野周辺における縄文時代晩期遺跡 出土の石器……………	299
第32表	大沢谷内遺跡(下層)出土試料赤色顔料分析 結果……………	273			

別表目次

別表 1	下層(縄文時代)遺構計測表……………	351	別表 6	上層出土土製品観察表……………	437
別表 2	上層遺構計測表……………	373	別表 7	上層出土石製品観察表……………	438
別表 3	下層出土(縄文時代)土器観察表……………	407	別表 8	上層出土木製品観察表……………	439
別表 4	下層出土(縄文時代)石器観察表……………	420	別表 9	上層出土ガラス・金属製品観察表………	444
別表 5	上層出土土器観察表……………	425	別表 10	上層主要遺構出土古代土器器種構成率・	445

第 I 章 序 説

第 1 節 遺 跡 概 観

大沢谷内遺跡は、新潟市の東端付近、秋葉区天ヶ沢字丸山地内にある。新津丘陵の山裾から西約 1 km の沖積地に所在し、現地表面での標高は 4 m ほどを測るにすぎない。付近一帯は低湿な環境にあり、周辺には「鎌倉潟」とよばれる潟が近世まで存在した。現在の景観は水田地帯となっている。

大沢谷内遺跡周辺では昭和 30 年代から遺物が出土することが知られていた〔柏 1970〕。大沢谷内遺跡との名称が周知されたのは、昭和 54 年に刊行された「新潟県遺跡地図 昭和 54 年度」に遺跡名と地点が掲載されたのが最初である〔新潟県教育委員会 1979〕。昭和 58 年刊行の『小須戸町史』には「大沢谷内遺跡」、「丸山遺跡」、「三軒屋敷遺跡」の出土遺物（須恵器有台坏・坏蓋・高坏・壺）が掲載されており、8 世紀後半の年代観が示されている〔中島 1983〕。また、昭和 60 年 8 月に行われた新潟県教育委員会（以下、「県教委」）主催の遺跡詳細分布調査のうちに、既存の遺跡範囲・地点である「大沢谷内遺跡」に、「丸山遺跡」「丑ヶ島遺跡」「三軒屋敷遺跡」の 3 遺跡範囲を包括する形で分布調査の成果を加え、大沢谷内遺跡範囲が再設定されている。

その後、本発掘調査および確認調査が、18 回行われている（第 1 表）。そのうち、国道建設に伴う調査以外では、小須戸町教育委員会による小規模な発掘調査が昭和 63 年から平成元年にかけて行なわれた（第 1～4 次調査）。小須戸バイパス建設予定地の東 500m に併走する広域農道の建設に伴うもので、奈良時代から平安時代にかけての集落跡の一部が確認された〔川上 1989a〕。

平成 16 年および 21 年に行われた市道鎌倉 1 号線改良工事に伴う確認調査（第 6・16 次）においては、遺跡がそれぞれ南東側および北西側に範囲拡大している。北西側にあたる地区は平成 22 年に本発掘調査（第 18 次）を行い、古代・中世の遺構・遺物を確認した〔前山 2011〕。

さらに、小須戸バイパスに伴う本発掘調査（第 7・9・11・12・14 次）の概要は以下の通りである。遺跡は水田耕作土の下から発見され、シルト質土層に飛鳥時代～中世の遺跡（上層遺跡）、その下に堆積するシルト質土層・粘質土層に縄文時代晩期中葉前半の遺跡（下層遺跡）が形成されている。本遺跡の調査は北側から 1～7 区の調査区に分けて行い（図版 2）、本書はそのうちの 1～4 区の調査報告である。1～4 区の上層遺跡では飛鳥時代・古代を中心とした掘立柱建物、柱穴列、井戸、溝、土坑から構成される集落跡と、谷部における祭祀場を検出し、中世の集落跡も確認した。また弥生時代、古墳時代の遺物が数点出土した。下層遺跡では縄文時代晩期中葉前半の短期間に営まれた掘立柱建物、住居、土坑群からなる集落跡を検出した。本発掘調査区南側の 5～7 区の上層からは飛鳥時代の遺構・遺物の検出は認められていないが、古墳時代・古代・中世の遺構・遺物、5・6 区の下層からは縄文時代晩期後葉の遺構・遺物が検出されている。

また北方約 100m の位置に隣接する大沢谷内北遺跡では、縄文時代晩期中葉後半の船着場と考えられる杭列群が検出されており〔前山・伊比ほか 2010〕、上層・下層ともに時間と場所を違えて転々と変遷しながらこの地を利用していた当時の状況が解明されつつある。

第 2 節 発掘調査に至る経緯

小須戸バイパスの整備工事計画にともない、秋葉区小須戸地区内の旧中蒲原郡小須戸町横川浜地内から天ヶ沢地内に至る、2 km あまりにわたる区間の用地取得が平成 13 年～15 年に行なわれた。建設予定地は新津丘陵から西約 1 km の沖積低地に位置し、丘陵と平行する幅員約 50m の直線区間である。小須戸町教育委員会（当時）と事業を所管する新潟県新津土木事務所（以下、「新津土木」）とで協議の結果、埋蔵文化財包蔵地の有無・内容を

把握するために事前の試掘・確認調査を実施することとなった。

平成16年11月29日から翌17年1月6日にかけて、小須戸町教育委員会は県教委の指導のもとに小須戸バイパス建設予定地全域を対象とした確認調査を実施した（大沢谷内遺跡にかかる発掘調査としては第5次にあたる。以降、各調査の番号や詳細については第1表、又は第Ⅲ章第1節を参照）。小須戸町教育委員会（当時）には埋蔵文化財担当の専門職員が配置されていなかったため、県教委文化行政課の指導のもと、同課および白根市教育委員会（当時）から調査員が派遣された。幅員50m、全長2km余、面積が2,136㎡に及ぶ調査対象範囲内に計99か所の試掘確認トレンチを設定し、遺跡の範囲や遺物包含層の深度などを確認した。この調査の結果、24か所の試掘確認トレンチで遺構や遺物が確認されたことから、工事を所管する新津土木と協議を重ねた結果、小須戸バイパス整備に先立ち、大沢谷内遺跡の本発掘調査が必要であること、また当面の調査範囲として約8,000㎡に及ぶ「大沢谷内遺跡1～4区」を設定することについて合意がなされた。面積が広大であること、また遺物包含層・遺構確認面が複数あることから、本発掘調査は複数年度にわたるものとし、随時追加の確認調査を実施することによって調査範囲の精度を高めることとした（追加の確認調査は第8次及び第10次調査）。

平成17年度には小須戸町を編入合併した新潟市が調査を引き継ぐこととなったため、新津土木は市に対し文書で調査を依頼（平成17年5月16日付け新津土98号）、調査実施主体となる市教委は文化財保護法（以下「法」と省略）第99条による着手報告（平成17年8月2日付け新歴第188号の8）を県教委に提出し、同月7日から新潟市埋蔵文化財センター（以下、「市埋蔵文化財センター」）が大沢谷内遺跡1～3区の発掘調査に着手することになった（第7次調査）。

平成18年度には市教委と県新潟地域振興局新津支局地域整備部（以下、「県振興局」）との協議によって前年度の調査を継続することとし、県振興局は市教委に調査依頼（平成18年4月4日付け新振津地4号）し、市教委は法第99条による着手報告（同年7月10日付け新歴第37号の12）を県教委に提出して、同日から市埋蔵文化財センターが調査を実施した（第9次調査）。事前に実施していた確認調査（第8次調査）の結果から1区北側の一部を拡張した。

平成19年度には第9次調査の結果に基づき下層遺跡発見に伴う調査の必要性から、市教委と工事を所管する新潟市土木部東部地域土木事務所建設課（平成19年度から新潟市の政令指定都市移行に伴い、国道建設の一部について権限委譲がなされた。以下、「東部土木」）との協議により、当初の調査計画を変更し2箇年の調査期間延長が決定された。東部土木は市教委に対し調査依頼（平成19年5月1日付け東土木第154号）し、市教委は法第99条による着手報告（平成19年5月29日付け新歴第5028号の8）を県教委に提出して、同年8月29日から市埋蔵文化財センターが前年度の継続調査を実施した（第11次調査）。

平成20年度には前年度の調査を継続して3区下層・4区上層の調査に加え、4区下層の包含層・遺構分布調査を実施するという内容で東部土木は市教委に対し調査依頼（平成20年2月7日付け東土木第1323号）し、市教委は法第99条による着手報告（平成20年4月11日付け新19新歴第5264号の4）を県教委に提出して、同月14日から市埋蔵文化財センターが調査を実施した（第12次調査）。

平成21年3月、第12次調査の結果に基づく協議により平成21年度の調査で1～4区本発掘調査の現場作業を終了させることとなり、東部土木は市教委に対し調査依頼（平成21年3月23日付け新東土木第864号）し、市教委は法第99条による着手報告（平成21年4月2日付け新歴第16号）を県教委に提出して、同月6日から市埋蔵文化財センターが調査を行った（第14次調査）。

第1表 大沢谷内遺跡調査履歴

年次	一般国道403号(小須戸田上バイパス)に伴う発掘調査回数	調査年	調査種別	主な成果	調査原因	調査主体	担 当	調査区	調査面積	試掘・確認調査トレンチ番号	文 献	旧遺跡名	備 考
		S60年(1985)8.4	分布調査		新潟県遺跡詳細分布調査	新潟県	県文化行政課 和田寿久					大沢谷内丸山区ヶ島三軒屋敷	4遺跡を統合して大沢谷内遺跡とする。
1次		S63年(1988)7.4～7.6	確認調査	平安時代の遺構・遺物を確認(本発掘調査範囲の確定)	農免道路建設	小須戸田	県文化行政課 鈴木俊成		76.84㎡	1～29T	[川上1989a]		調査区位置図については図版2参照。
2次		S63年(1988)7.14・7.15	確認調査	本発掘調査範囲の北西側の確認を行う。遺構・遺物は出土していない。	農免道路建設	小須戸田	県文化行政課 鈴木俊成		31㎡	30～37T	[川上1989a]		調査区位置図については図版2参照。
3次		S63年(1988)11.4～11.6	本調査	遺構はPtI基、遺物(平安時代土師器13点・須恵器22点)が少量出土した。	農免道路建設	小須戸田	川上貞夫	B地点	974.7㎡		[川上1989a]		調査区位置図については図版2参照。
4次		H1年(1989)4.12～4.21	本調査	平安時代の遺構・遺物を検出した。主な遺構はPtI群、井戸、土坑、溝などが確認されている。	農免道路建設	小須戸田	川上貞夫	A地点	940.5㎡		[川上1989a]		調査区位置図については図版2参照。
5次	1次	H16年(2004)11.29～12.10 H17年(2005)1.6	確認調査	縄文・飛鳥・奈良・平安時代の遺構・遺物を確認した。特に縄文時代晩期の遺物の発見は当初予想されておらず、「大沢谷内北遺跡」として登録した。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	小須戸田	県文化行政課 石川智紀 春日真実 白根市教育委員会 潮田憲幸		2,136㎡	1～99T			大沢谷内北遺跡の範囲を含む。
6次		H16年(2004)11.29～12.10 H17年(2005)1.6	確認調査	奈良・平安時代の遺物を確認した。遺構の検出はない。	市道鎌倉横川1号線改良工事	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 諏山えりか		36.4㎡	1～26T			
7次	2次	H17年(2005)8.7～12.20	本調査	主に上層の調査。飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町時代の遺構を多数確認した。下層に当初確認されなかった縄文時代晩期の遺跡が新たに発見した。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 朝岡政康	1～3区	1,912㎡		[本書]		
8次	3次	H17年(2005)10.19～12.2	確認調査	遺跡範囲確定のための追加確認調査。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 潮田憲幸		771.4㎡	107～154T			
9次	4次	H18年(2006)7.10～12.26	本調査	1区上下層と3区上面の調査および昨年度確認した縄文時代の調査を行い、1-3区の全面に縄文時代晩期中葉の包含層が分布していることを確認した。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 立木宏明	1・3区	4479.07㎡		[本書]		
10次	5次	H18年(2006)12.12	確認調査	遺跡範囲確定のための追加確認調査。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 立木宏明		22.5㎡	155～159T			
11次	6次	H19年(2007)8.29～12.28	本調査	3区下層の調査。縄文時代の遺構確認を主に行った。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 渡邊ますみ	3区	1,400㎡		[本書]		
12次	7次	H20年(2008)4.14～12.17	本調査	3区下層では縄文時代晩期中葉の遺構・遺物を検出した。4区上層では飛鳥時代・古代・中世の集落跡を検出した。調査区南の埋没谷からは大量の須恵器とともに祭祀木製品が出土し、県内では希少な飛鳥時代の集落跡と祭祀場の例として注目される。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 前山精明	3・4区	5,600㎡		[本書]		
13次	8次	H21年(2009)2.23～2.25	確認調査	遺跡範囲確定のための追加確認調査。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 潮田憲幸		200㎡	168T			
14次	9次	H21年(2009)4.6～12.28	本調査	3-4区下層の調査を行い、縄文時代晩期中葉の集落跡の全容が明らかとなった。焼土遺構群・掘立柱建物・住居状遺構等を検出し、土坑群の中には石器のテラコッタも確認した。遺物では多量の板状・塊状アスファルトの出土が注目される。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 前山精明	3-4区	5,920㎡		[本書]		
15次	10次	H21年(2009)6.1～H22年(2010)3.19	本調査	5区・6区ともに上層・下層の調査。上層では古墳時代から中世の遺構・遺物が確認された。下層では縄文時代晩期最終末の遺構・遺物を検出した。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 潮田憲幸	5・6区	7,319㎡				
16次		H21年(2009)11.10～H21年(2009)11.17	確認調査	平安時代の集落跡が北西に延びることを確認。	市道鎌倉横川1号線改良工事	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 廣野耕造			1～25T			
17次	11次	H22年(2010)4.12～H22年(2010)12.27	本調査	6区下層と7区の調査。6区下層では縄文時代晩期中葉の遺構・遺物が確認された。堅穴住居2棟や焼土遺構などが確認された。7区では平安・鎌倉・室町時代の遺構が確認された。平安時代では排水施設が明確な小区画水田跡が確認され、鎌倉・室町時代では溝・井戸などと島の跡を検出した。	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 潮田憲幸	6-7区	5,727㎡				調査区位置図については図版2参照。
18次		H22年(2010)9.24～H22年(2010)12.6	本調査	平安時代および鎌倉・室町時代の集落跡および島と考えられる畝状遺構を多数検出した。特筆される遺物として古代の天然アスファルトの塊を確認した。	市道鎌倉横川1号線改良工事	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 前山精明		823㎡				調査区位置図については図版2参照。

※以上の調査履歴は2010年3月現在までのものである。

※160～167Tは欠番。

大沢谷内北遺跡調査履歴

年次	一般国道403号(小須戸田上バイパス)に伴う発掘調査回数	調査年	主な成果	調査種別	調査原因	調査主体	担 当	調査区	調査面積	トレンチ番号	文 献	旧遺跡名	備 考
2次	2次	H17年(2005)10.17-18		確認調査	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 潮田憲幸		160㎡	100～106T			大沢谷内北遺跡第5次調査が1次調査を兼ねる。
3次	3次	H19年(2007)6.18～12.28		本調査	一般国道403号(小須戸田上バイパス)	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 前山精明		3,043㎡		[前山・伊比ほか2010]		

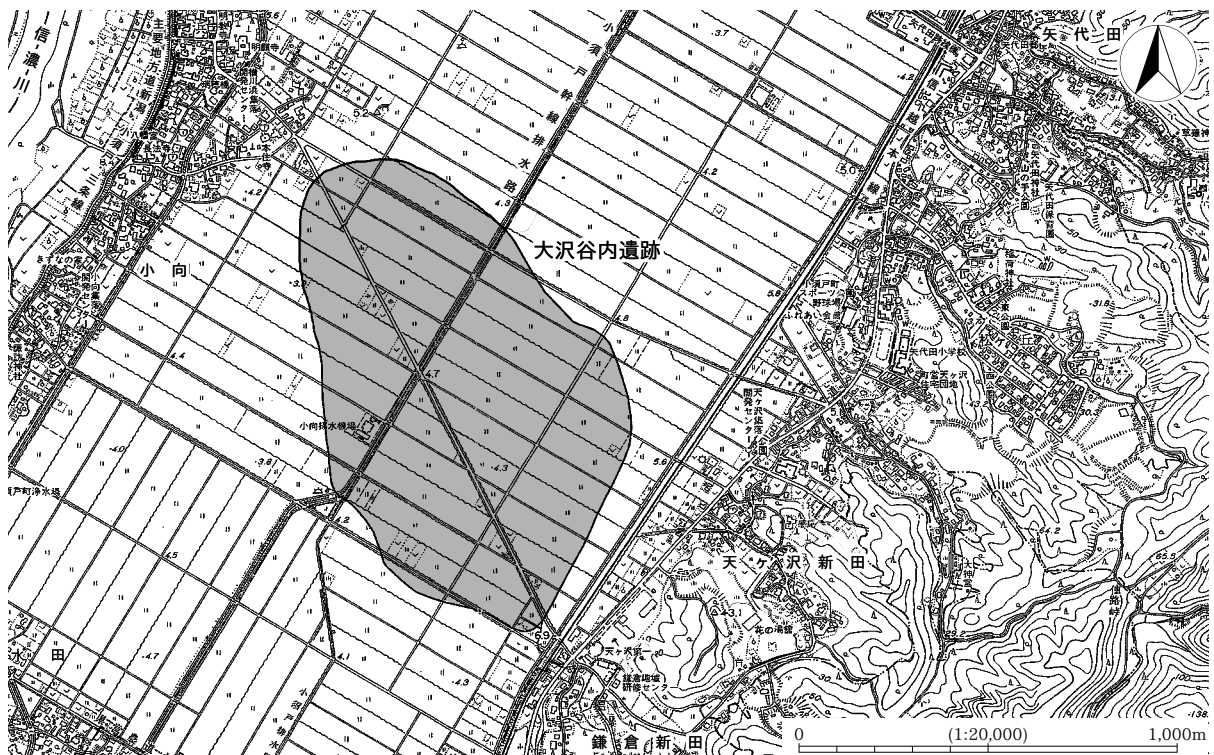
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

大沢谷内遺跡の所在する新潟市秋葉区（以下、「秋葉区」）は、越後平野のほぼ中央に位置し、合併前の旧新津市と旧中蒲原郡小須戸町にあたる。平野部に突出する標高100m前後の新津丘陵を中心として東に阿賀野川、西に信濃川という二大河川に挟まれ、阿賀野川から信濃川に流れる小阿賀野川を北限としている。北は新潟市江南区、西は信濃川を境に新潟市南区と接し、東は阿賀野川を境に阿賀野市、南は五泉市と南蒲原郡田上町と接している。大沢谷内遺跡は小須戸地区の天ヶ沢字丸山地内に所在する（第1図）。

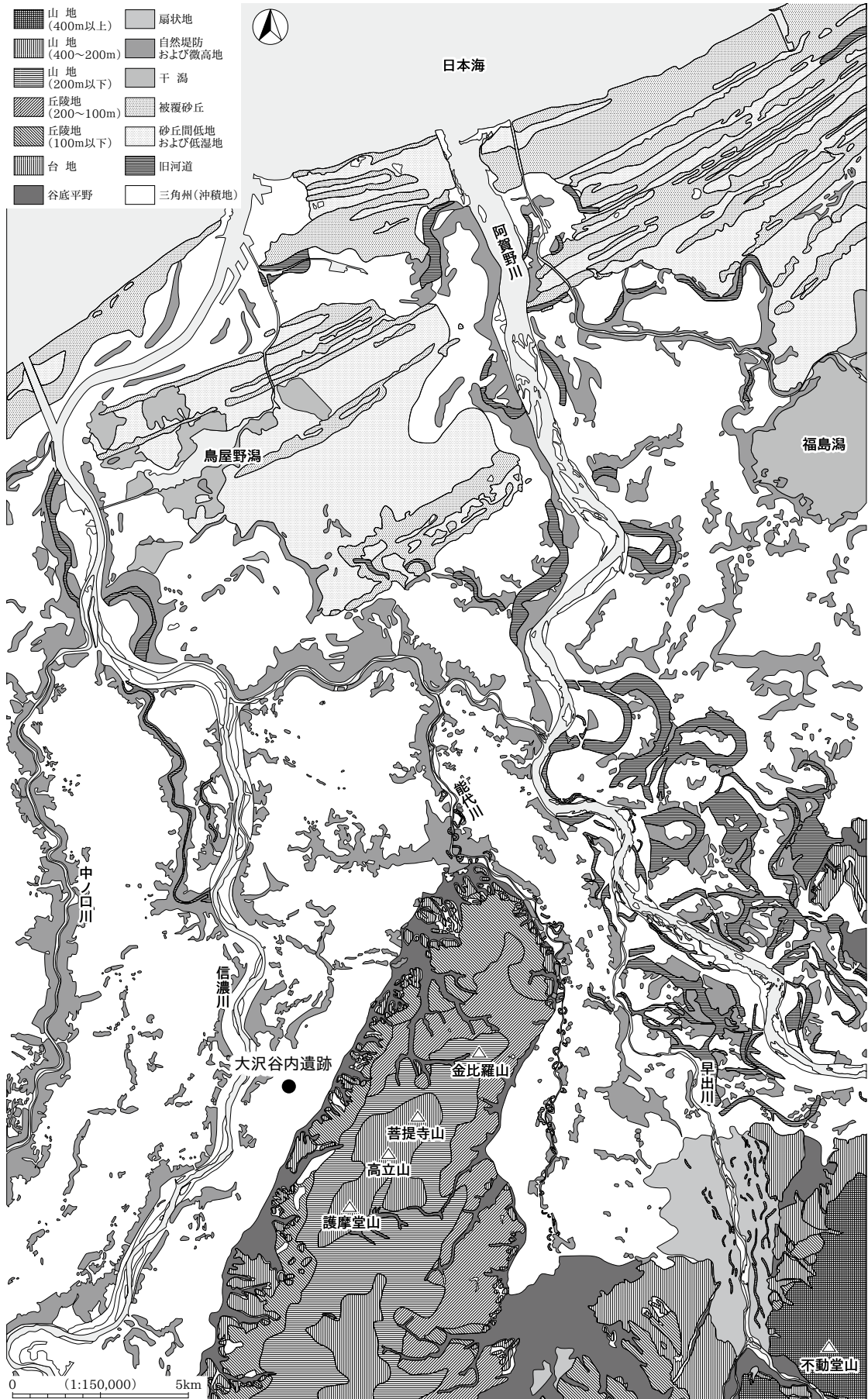
秋葉区周辺の主な地形は丘陵と段丘、沖積地から成る（第2図）。東山丘陵の北端部から加茂川までの南北16kmの間を一般に新津丘陵と呼び、丘陵幅は最大で6～7kmを測る。新津丘陵中央部には菩提寺山（248m）、高立山（276m）、護摩堂山（268m）の三峰が連なり、越後平野のランドマークとも言える景観を呈している。段丘は越後平野に面した新津丘陵西麓側から北端部を中心に形成され、沖積面との比高40m～50mの高位段丘、30m～35mの中位段丘、20m～25mの下位段丘に区別される。これらの段丘は川や沢の浸食により分断され、多くの開析谷が形成されている。この新津丘陵は石油産出地として知られているが、遺跡が位置する天ヶ沢の山裾部においても近世から石油採掘が行われており〔佐藤1983〕、現在でも遺跡周辺で石油がしみ出している。後述するが遺跡からは多くの天然アスファルト塊、アスファルト付着の遺物が出土しており、至近距離の産出地から採取し、利用されていた可能性が高い。

沖積地は秋葉区の東西を囲む阿賀野川・信濃川により形成され、自然堤防や旧河道・後背湿地・三角州等の地形が見られる。遺跡は信濃川が最も丘陵に接近する辺りの自然堤防背後の沖積地に位置し、現景観は水田地帯となっている。遺跡が位置するこの新津丘陵西麓の沖積地には、かつていくつもの潟が存在していた。第3図右の



（新潟市地形図2008年 1/10,000→1/20,000 一部改変）

第1図 大沢谷内遺跡位置図



第2図 大沢谷内遺跡周辺の地形分類図

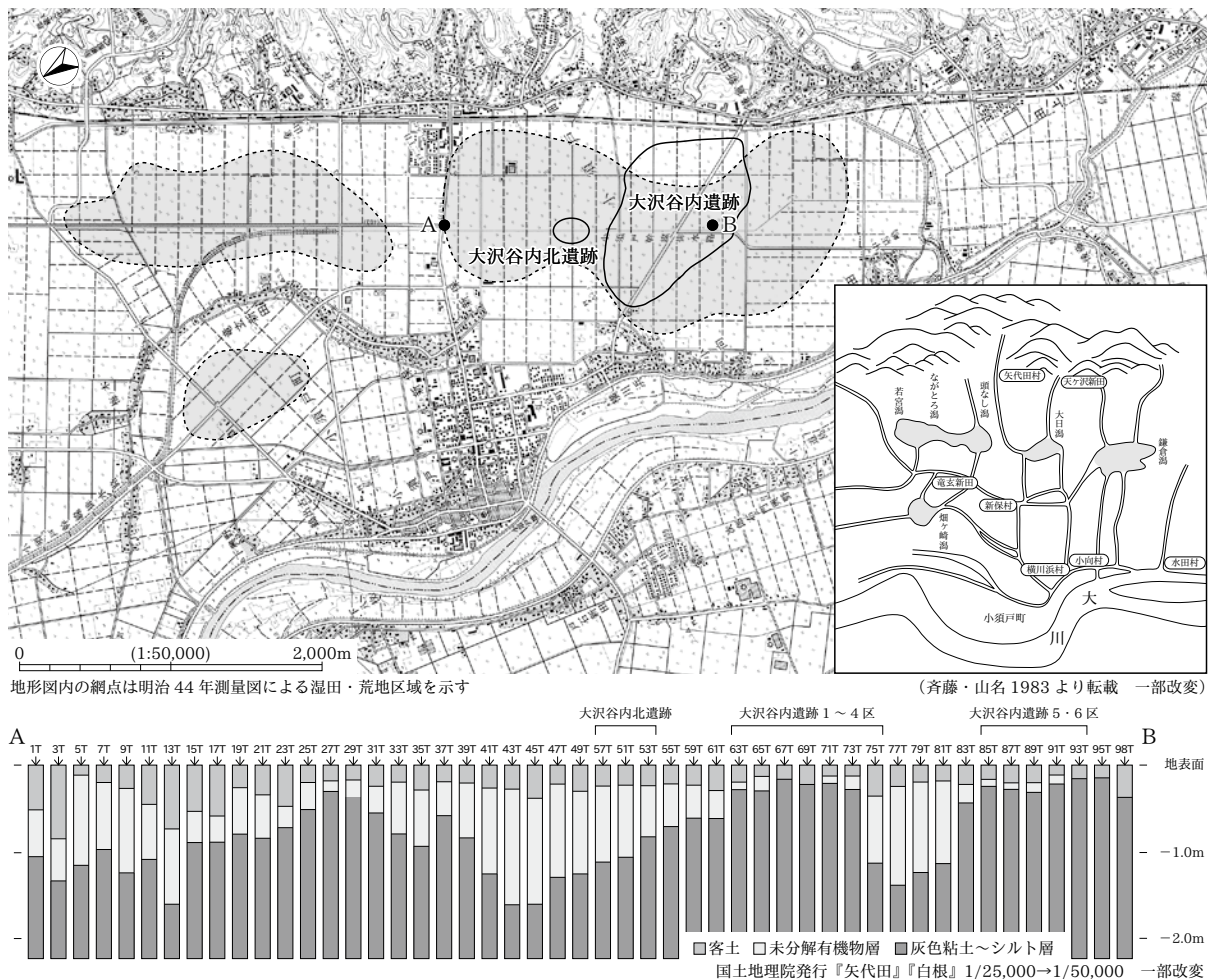
新潟県『土地分類基本調査 新潟・新津』1972・1974より作成 (1/150,000)

第1節 遺跡の位置と地理的環境

枠内は遺跡周辺を描いた元禄年間（1680～1709年）の絵図（新発田市立図書館蔵、以下、「元禄絵図」）を簡略化したもので〔斎藤・山名1983〕、新津丘陵と信濃川にはさまれた区域に潟が点在する様子が窺える。同図に示したトーン範囲は明治44年測量図に表記された湿田の範囲（図版1）を表したものであり〔前山・伊比ほか2010〕、「元禄絵図」に描かれる潟が湿田・荒地の範囲に反映されている。

第3図下の柱状図は小須戸バイパス建設予定地において全長約2kmの間で実施した試掘・確認調査時の層序を模式的に示したものである（第3章参照）。これを見ると本報告の1～4区とその南の5～7区の地山に相当する灰色粘土～シルト層が隆起しており、遺跡形成当時は微高地であったことが理解できる。これらの埋没地形は現在でも微地形として反映されており〔新潟市危機管理防災課ホームページ 地盤高図（標高図）2011年12月26日公開〕、低域部は昭和22年撮影米軍写真（写真図版1）においてもソイルマークとして暗く写し出されている。

本遺跡北に位置する縄文時代晩期中葉後半に営まれた大沢谷内北遺跡からは櫓が出土し〔前山・伊比ほか前掲〕、本遺跡（上層）からも刳舟が出土していることから（SE1363）、当時の活発な内水面利用の様子が想起される。このような旧地形と上記の新津丘陵三峰のランドマークとしての役割、また天然アスファルトが採取できる環境が遺跡立地の要因であると考えられる。



第3図 大沢谷内遺跡周辺の地形と層序

第2節 周辺の遺跡

秋葉区周辺地域の時代別の分布は、旧石器時代は丘陵部、縄文時代は丘陵と縁辺の段丘を中心に分布し、沖積平野部にも散見される。弥生時代の遺跡は丘陵・段丘上に集中している。古墳時代になると沖積平野・砂丘上に遺跡が進出し始め、奈良・平安時代になると沖積平野部の遺跡が増大する。これは、水田を初めとした開発が広く沖積地に及んだことの表れである。

旧石器時代の遺跡（第5図・第2表）

旧石器時代の遺跡は新潟市内では3遺跡確認され、うち2遺跡が秋葉区内の新津丘陵に位置する。丘陵北端部の草水町2丁目窯跡（No.27）、丘陵西麓の八幡山遺跡（No.38）〔渡邊・立木^{ほか}2001・2004〕でナイフ形石器・石刃などが散発的に出土しているのみである。もう1遺跡は角田山麓のケカチ堂遺跡であり尖頭器（旧石器～縄文時代草創期）等が出土している。当該期の遺跡は風化火山灰（ローム層）を上部に包含される場合が多い。

縄文土器時代の遺跡（第5図・第2表）

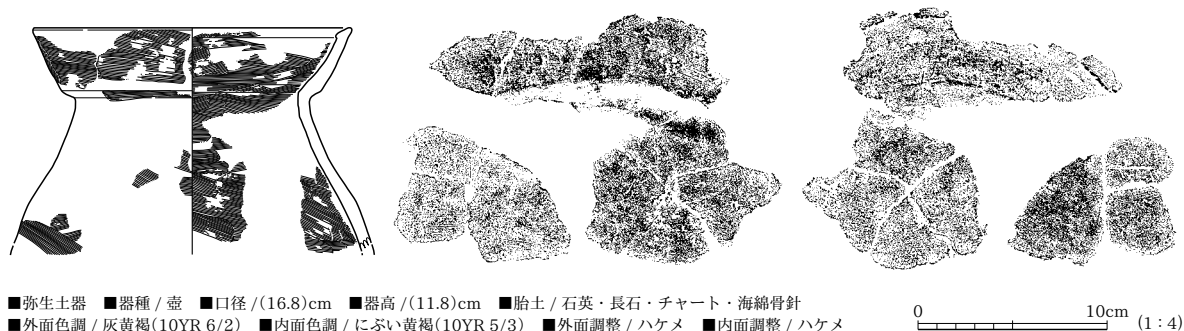
市内では166遺跡が確認されており、秋葉区では27を数える。草創期の遺跡としては新津丘陵北東端部の丘陵上に位置する愛宕澤遺跡（No.28）があり、草創期前半の石器（種子柴型の石斧・石核）が検出されている〔立木^{ほか}2004〕。続く早期の遺跡は確認されておらず、前期では新津丘陵から派生する通称「金津丘陵」に位置する居村C遺跡E地点（No.43）から前期前葉布目段階の土器が少量確認されている〔渡邊^{ほか}1997〕。周辺遺跡としては江南区旧亀田町の亀田砂丘上に位置する砂崩遺跡（No.11）〔酒井・廣野2002〕からも布目段階の土器が出土しており、その西側の小砂丘上に位置する笹山前遺跡（No.5）〔廣野1997〕からは前期前葉の新谷段階の土器が出土している。前期終末では草水町2丁目窯跡（No.27）の調査に際して比較的まとまった量の土器・石器が出土している。

中・後期には遺跡数が増加し、丘陵裾部や低位台地に長期継続型の遺跡も出現するようになる。代表的な遺跡としては丘陵平坦面に平遺跡（No.30）（中期初頭～前葉、後期初頭～中葉）〔川上・遠藤1983〕、原遺跡（No.33）（中～晩期）、秋葉遺跡（No.25）（中～後期）がありいずれも大規模な集落跡と推定される。周辺遺跡としては加茂川に面した丘陵上に位置する田上町川船河遺跡（No.59）〔川船河遺跡団体研究グループ1963、伊藤1996〕（中期後半～晩期）が拠点的性格を有している。

晩期前葉から中葉前半の遺跡数は激減し、非常に限定的となる。丘陵上の遺跡では後期後葉から継続する原遺跡（No.33）のみであり、周辺遺跡を見てもやはり後期後葉から継続する川船河遺跡（No.59）のみとなる。沖積地においても丘陵西麓に大沢谷内遺跡（1～4区）（No.48）〔本書〕が認められるのみである。大沢谷内遺跡は古代・中世面の下から検出されており、今後の沖積平野部の調査において注意を促すものである。晩期中葉後半～後葉では再び遺跡数が増加するが、丘陵上ではなく沖積平野部への立地が目立つようになる。丘陵周辺では西麓側の大沢谷内北遺跡（No.47）（中葉後半）〔前山・伊比^{ほか}2010〕・大沢谷内遺跡（5・6区）（後葉）・田上町保明浦遺跡（No.58）（中葉後半～後葉）〔田畑1993・1994・1996・2003・2004〕、東麓側の五泉市箕下遺跡（No.62）（中葉後半）〔山崎・鈴木^{ほか}2004〕があり、いずれも沖積地に立地する。それに比し丘陵上の遺跡は川船河遺跡のみである。その他市内の遺跡としては鳥屋遺跡〔関^{ほか}1980〕、緒立遺跡〔金子^{ほか}1983〕、御井戸遺跡〔前山1994〕という県内を代表する遺跡が存在するようになるが、立地は沖積平野部・微高地、台地縁辺から低地への変換地点というように低域部となる。

弥生時代の遺跡（第6図・第3表）

市内で58遺跡が確認され、秋葉区では14遺跡を数える。新津丘陵北部に集中して立地しており、中・後期の遺跡が目立つ。中期の遺跡としては平成15年の立会調査で秋葉遺跡（No.30）から中期前半の土器が出土し、塩辛遺跡（No.33）では台地から沖積地への転換地点の現地表面2m下から中期後半の土器が出土している〔渡



第4図 大沢谷内遺跡第4次調査出土弥生土器

邊朋・立木ほか2004)。塩辛遺跡の在り方は台地縁辺の遺跡の立地について注意を喚起するものである。後期の代表的な遺跡として高地性環濠集落である古津八幡山遺跡 (No.39) [川上1994、渡邊朋・立木ほか2001] と、その周辺に位置する居村C遺跡 (D・E地点) (No.40) [川上1996、渡邊朋ほか1997] が挙げられる。特に古津八幡山遺跡は一定期間定住していた拠点集落であり、二重の環濠・竪穴住居・炉跡・方形周溝墓が確認されている。遺物は東北系と北陸系の弥生土器、さらに両者の折衷型である「八幡山式」[渡邊朋2001] 土器が出土しており、当該地域の弥生時代を考える上で重要な遺跡である。また古津八幡山遺跡の丘陵裾部に立地する舟戸遺跡 (No.34) [川上1995] や1.2km程北に位置する山境遺跡 (No.37) から後期の遺物が出土しており、八幡山遺跡周辺に小規模な遺跡が点在していた可能性が高い。沖積平野部に立地する遺跡は不明瞭であるが、大沢谷内遺跡(1～4区) (No.44) [本報告] から後期の土器が出土しており、沖積平野部での遺跡の存在も推測される。1～4区では東北系と北陸系の土器が出土し、1989年の第4次調査 [川上1989a] (図版2) では八幡山式土器の出土が認められ(第4図)、古津八幡山遺跡との関連性が窺える。

古墳時代の遺跡 (第6図・第3表)

市内で81遺跡が確認され、秋葉区では17遺跡を数える。上記八幡山遺跡の北西端に、墳丘約60mで造りだし付きの新潟県下最大の円墳である古墳時代前期の古津八幡山古墳 (No.38) [甘粕・川村ほか1992] が築営される。隣接する高矢C遺跡 (No.35)・舟戸遺跡 (No.34) [川上前掲] も当該期の遺跡であり、いずれも丘陵縁辺や台地

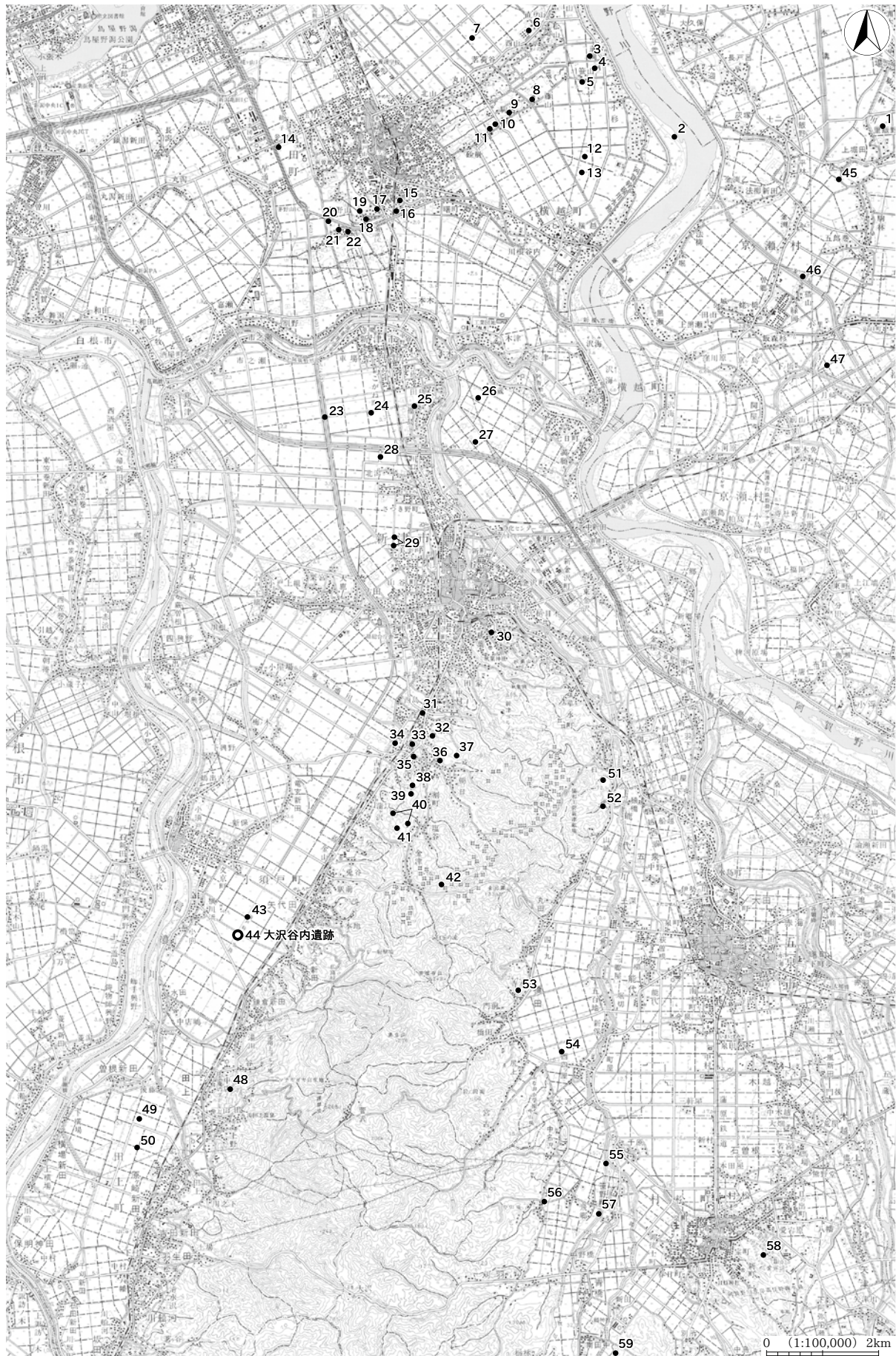
第2表 大沢谷内遺跡周辺の旧石器・縄文時代遺跡一覧表

No.	市町村名	遺跡名	時代	No.	市町村名	遺跡名	時代	No.	市町村名	遺跡名	時代
1	新潟市江南区	小丸山	縄文・古墳・平安・中世・近世	33	新潟市秋葉区	原	縄文	65	五泉市	赤坂	縄文
2	新潟市江南区	松山	縄文・中世	34	新潟市秋葉区	平林	縄文	66	五泉市	五百地	縄文
3	新潟市江南区	中山	縄文・古墳・奈良・平安	35	新潟市秋葉区	山境	縄文・弥生・江戸	67	五泉市	八幡平	縄文
4	新潟市江南区	城山	縄文・古墳・平安・鎌倉	36	新潟市秋葉区	高矢A	縄文	68	五泉市	宮古	縄文
5	新潟市江南区	笹山前	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	37	新潟市秋葉区	高矢B	縄文	69	五泉市	中ノ坪北Ⅱ	縄文
6	新潟市江南区	上の山	縄文・弥生・平安	38	新潟市秋葉区	古津八幡山	旧石器・縄文・弥生・古墳・平安	70	五泉市	中ノ坪	縄文・古代
7	新潟市江南区	駒込小丸山	縄文・弥生・奈良・平安	39	新潟市秋葉区	二百刈	縄文・古代	71	五泉市	若宮西Ⅱ	縄文・平安
8	新潟市江南区	山ノ家	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	40	新潟市秋葉区	下谷地	縄文	72	五泉市	熊野堂南	縄文・古代
9	新潟市江南区	前郷	縄文・弥生・奈良・平安	41	新潟市秋葉区	烏撃(打)場	縄文	73	五泉市	矢津	縄文
10	新潟市江南区	迎山	縄文・奈良～室町	42	新潟市秋葉区	神田	縄文・奈良・平安	74	五泉市	旭山	縄文
11	新潟市江南区	砂崩	縄文・奈良・平安	43	新潟市秋葉区	居村C	縄文・弥生・奈良・平安	75	五泉市	矢津川	縄文・古代
12	新潟市江南区	砂崩前郷	縄文・平安・江戸	44	新潟市秋葉区	十ヶ沢B	縄文	76	五泉市	中番坂	縄文
13	新潟市江南区	東園	縄文・弥生・古墳	45	新潟市秋葉区	坪が入	縄文	77	五泉市	深沢	縄文
14	新潟市江南区	金塚山	縄文・奈良・平安	46	新潟市秋葉区	三沢原	縄文	78	五泉市	諏訪平	縄文・中世
15	新潟市江南区	袋津向山	縄文	47	新潟市秋葉区	大沢谷内北	縄文・弥生・古代	79	五泉市	茨塚	縄文
16	新潟市江南区	斉助山	縄文・弥生・奈良・平安	48	新潟市秋葉区	大沢谷内1区～4区	縄文・弥生・古墳・飛鳥～平安・中世	80	五泉市	茨塚南	縄文
17	新潟市江南区	亀田城山A	縄文・弥生・奈良・平安	49	新潟市秋葉区	横川浜堤外地	縄文・平安	81	五泉市	カウノス	縄文
18	新潟市江南区	日水南	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・室町	50	田上町	五社神社	縄文	82	五泉市	小屋野	縄文
19	新潟市江南区	日水前	縄文・弥生・平安	51	田上町	向屋敷	縄文	83	五泉市	寺田野田	縄文・平安
20	新潟市江南区	養海山	縄文・弥生・古墳・平安	52	田上町	鎌吐	縄文・平安・中世	84	五泉市	長橋中江	縄文
21	新潟市江南区	西前郷	縄文・奈良・平安	53	田上町	三波	縄文・平安	85	五泉市	大ハゲⅠ	縄文
22	新潟市江南区	大田	縄文・弥生・平安	54	田上町	古屋敷	縄文	86	五泉市	大ハゲⅡ	縄文
23	新潟市秋葉区	大野中	縄文・平安	55	田上町	新川	縄文・平安	87	五泉市	大ハゲⅢ	縄文・平安
24	新潟市秋葉区	小手平	縄文	56	田上町	塚野	縄文	88	五泉市	羽場山	先
25	新潟市秋葉区	秋葉	縄文・弥生・平安	57	田上町	川の下	縄文	89	五泉市	羽場山西Ⅱ	縄文
26	新潟市秋葉区	秋葉ブドウ園	縄文・奈良・平安	58	田上町	保明浦	縄文・奈良・平安・近世	90	五泉市	羽場山西Ⅲ	縄文
27	新潟市秋葉区	草水町2丁目跡跡	旧石器・縄文・平安	59	田上町	川船河	縄文	91	五泉市	羽場山西Ⅰ	縄文
28	新潟市秋葉区	愛宕澤	縄文・平安・中世	60	五泉市	小実山	縄文・弥生・奈良・平安	92	五泉市	刈羽	縄文
29	新潟市秋葉区	居平	縄文	61	五泉市	下野山	縄文	93	五泉市	北山	縄文
30	新潟市秋葉区	平	縄文	62	五泉市	篁下	縄文・奈良・平安	94	五泉市	カイガ沢	縄文
31	新潟市秋葉区	城見山	縄文・奈良・平安・鎌倉・室町	63	五泉市	巳の明	縄文	95	五泉市	大沢淵穴	縄文
32	新潟市秋葉区	山崎	縄文	64	五泉市	新田	縄文	96	五泉市	大沢峠	縄文



第5図 大沢谷内遺跡周辺の旧石器・縄文時代遺跡分布図

国土地理院発行『新津』『加茂』1/50,000→1/100,000 一部改変



第6図 大沢谷内遺跡周辺の弥生・古墳時代遺跡分布図

国土地理院発行『新津』1/50,000→1/100,000 一部改変

第3表 大沢谷内遺跡周辺の弥生・古墳時代遺跡一覧表

No.	市町村名	遺跡名	時代	No.	市町村名	遺跡名	時代	No.	市町村名	遺跡名	時代
1	新潟市北区	居浦	古墳	21	新潟市江南区	養海山	縄文・弥生・古墳・平安	41	新潟市秋葉区	居村B	弥生・奈良・平安
2	新潟市江南区	小杉中洲	古墳	22	新潟市江南区	八幡前	弥生・平安	42	新潟市秋葉区	十ヶ沢A	弥生
3	新潟市江南区	中山	縄文・古墳・奈良・平安	23	新潟市秋葉区	結	古墳・奈良	43	新潟市秋葉区	大沢谷内北	縄文・弥生・古代
4	新潟市江南区	城山	縄文・古墳・平安・鎌倉	24	新潟市秋葉区	中田	古墳	44	新潟市秋葉区	大沢谷内1区～4区	縄文・弥生・古墳・飛鳥～平安・中世
5	新潟市江南区	笹山前	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	25	新潟市秋葉区	結七島	古墳・奈良・平安・中世	45	阿賀野市	山鳥屋敷	古墳・古代・中世
6	新潟市江南区	小丸山	縄文・古墳・平安・中世・近世	26	新潟市秋葉区	中谷内	古墳・奈良・平安・中世	46	阿賀野市	猫山	弥生
7	新潟市江南区	東開	縄文・弥生・古墳	27	新潟市秋葉区	沖ノ羽	古墳・古代・中世	47	阿賀野市	山口	弥生・古代・中世
8	新潟市江南区	上の山	弥生・平安	28	新潟市秋葉区	上浦B	古墳	48	田上町	中店	弥生
9	新潟市江南区	駒込小丸山	縄文・弥生・奈良・平安	29	新潟市秋葉区	山谷北	古墳	49	田上町	長沢	古墳
10	新潟市江南区	山ノ家	弥生・奈良・平安	30	新潟市秋葉区	秋葉	縄文・弥生・平安	50	田上町	土居下	古墳・平安
11	新潟市江南区	前郷	縄文・弥生・奈良・平安	31	新潟市秋葉区	東島大道下	古墳・奈良・平安・鎌倉・室町	51	五泉市	小突山	縄文・弥生・奈良・平安
12	新潟市江南区	上田	縄文・弥生・平安	32	新潟市秋葉区	山脇	古墳・平安	52	五泉市	諏訪田	弥生
13	新潟市江南区	宮尻郷	古墳・平安	33	新潟市秋葉区	塩辛	弥生・古墳・奈良・平安・中世	53	五泉市	大倉山	弥生
14	新潟市江南区	下西	古墳	34	新潟市秋葉区	舟戸	弥生・古墳・奈良・平安	54	五泉市	住吉田南	古墳・平安
15	新潟市江南区	斉助山	縄文・弥生・奈良・平安	35	新潟市秋葉区	高久C	古墳	55	五泉市	浦西	古墳
16	新潟市江南区	亀田城山A	縄文・弥生・奈良・平安	36	新潟市秋葉区	森田	弥生・古墳・平安・中世	56	五泉市	上ノ坪南	古墳
17	新潟市江南区	日水南	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・室町	37	新潟市秋葉区	山境	縄文・弥生・江戸	57	五泉市	中江橋	古墳
18	新潟市江南区	日水前	縄文・弥生・平安	38	新潟市秋葉区	古津八幡山古墳	弥生・古墳	58	五泉市	愛宕山	弥生
19	新潟市江南区	武左衛門裏	古墳	39	新潟市秋葉区	古津八幡山	縄文・弥生・古墳・平安	59	五泉市	寺田A	弥生
20	新潟市江南区	西郷	弥生・平安	40	新潟市秋葉区	居村C	縄文・弥生・奈良・平安				

端部の立地である。舟戸遺跡では古墳時代前～中期頃の堅穴住居跡が検出されており、古墳との関係が注目される。また、沖積平野部に立地する沖ノ羽遺跡(No.27)〔星野・石川^{ほか}1996〕・上浦B遺跡(No.28)〔坂上2003〕・結七島遺跡(No.25)〔田中・丹下^{ほか}2004〕では古代の生活面下から古墳時代前・中期の遺構・遺物が検出され、結遺跡(No.23)〔川上1989b〕では後期の内面黒色処理を施した高塚が出土しており、沖積平野部への遺跡の進出の様相が窺える。

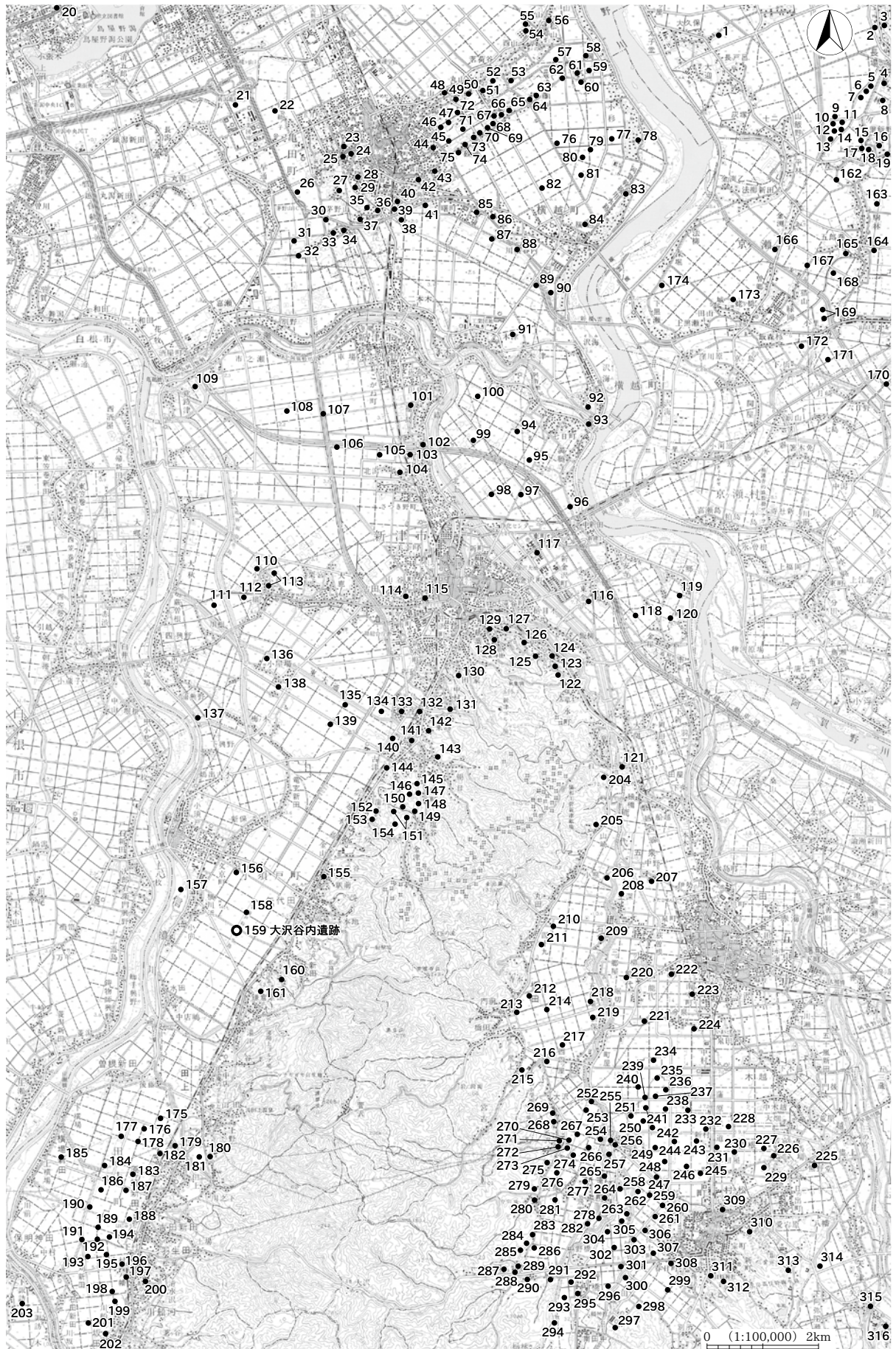
古代の遺跡(第7図・第4表)

古代(飛鳥～平安時代)の遺跡は市内で376遺跡確認され、秋葉区で72遺跡確認されている。集落遺跡は平野部に多く、新津丘陵裾部には製鉄遺跡、須恵器・土師器窯跡などの生産遺跡が集中する。

秋葉区における平野部の遺跡は、昭和20年代に行われた新津地区の土地改良工事等により存在が認識された。その後、磐越自動車道建設に伴い平成2年から4年にかけて新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施した上浦遺跡〔坂上2003〕、沖ノ羽遺跡〔石川^{ほか}1994、星野・石川^{ほか}1996〕など5遺跡の調査成果が契機となり、多くの集落遺跡が沖積地上に存在することが明確となった。

古墳時代から本格化した沖積平野部への進出は、丘陵縁辺部から河川と潟湖による広大な湿地周辺に発達した自然堤防などの微高地上に順次移行したと考えられ、信濃川の自然堤防上に位置する本遺跡(No.159)や東腰付遺跡(No.156)、阿賀野川の自然堤防上に位置する長沼遺跡(No.108)〔渡邊朋1991〕や上浦A遺跡(No.106)〔川上1997a、坂上2003〕など7世紀代から営まれる遺跡は先駆的な例であろう。沖積地への進出には国や有力者層の意図を多分に含んでいたと考えられ、上浦A・B遺跡(No.106・105)〔渡邊朋1992、川上1997a^{ほか}〕の奈良三彩小壺や銅帯丸軛、中谷内遺跡(No.100)〔立木^{ほか}1999〕の緑釉陶器や墨書土器、沖ノ羽遺跡(No.99)〔立木^{ほか}2008^{ほか}〕の瓦塔や仏鉢などの出土遺物からも窺える。このような沖積地を好んで選地した理由の一つに、技術力・生産力の向上に伴う未開地の新田開発による居住空間の拡大が挙げられよう。

新津丘陵裾部の生産遺跡は、窯跡群と製鉄遺跡群に代表される。窯跡群としては、新津丘陵北東斜面に分布する七本松窯跡群(No.126)、平成5年度の発掘調査で須恵器窯跡・土師器窯跡・粘土採掘坑等が検出された草水町2丁目窯跡(No.123)などの新津丘陵窯跡群があり、本遺跡の南東1.2kmに位置する六兵衛沢窯跡(No.164)からも8世紀代の須恵器が採集されており、丘陵西部にも窯跡群が形成されていた可能性が示唆される。新津丘陵での須恵器生産は8世紀前半から9世紀中頃が主体であり、蒲原郡内のみならず沼垂郡に属する遺跡からも相当量の出土が確認されている。しかし長沼遺跡や本遺跡の出土遺物から、新津丘陵での須恵器生産は7世紀中葉には操業を開始すると考えられよう。製鉄遺跡群は、新津丘陵北西側の金津地区に位置し、平成元年から3年にかけての調査で製鉄炉と多数の木炭窯等を検出した居村A・B遺跡(No.153・154)、大入遺跡(No.150)などの金津丘陵製鉄遺跡群〔川上1996、渡邊朋^{ほか}1997・1998〕に代表される。金津丘陵製鉄遺跡群は9世紀中葉から後半を主操業期とするが、居村遺跡では出土遺物から11～13世紀と考えられ、古代末から中世への過渡期



第7図 大沢谷内遺跡周辺の古代遺跡分布図

国土地理院発行『新津』1/50,000→1/100,000 一部改変



第8図 大沢谷内遺跡周辺の中世遺跡分布図

国土地理院発行『新津』『加茂』1/50,000→1/100,000 一部改変

第5表 大沢谷内遺跡周辺の中世遺跡一覧表

No.	市町村名	遺跡名	時代	No.	市町村名	遺跡名	時代	No.	市町村名	遺跡名	時代
1	新潟市北区	長場館跡	室町	63	新潟市秋葉区	三沢	室町	125	五泉市	相輪願成寺塔	室町
2	新潟市北区	里飯野石仏	中世	64	新潟市秋葉区	了尊寺跡	中世	126	五泉市	願成寺経塚	室町
3	新潟市北区	上堀田石仏B	中世	65	新潟市秋葉区	西瀧寺石仏	中世	127	五泉市	町	中世
4	新潟市北区	上堀田石仏C	中世	66	新潟市秋葉区	五木田館跡	室町	128	五泉市	門後	中世
5	新潟市北区	上堀田石仏A	中世	67	新潟市秋葉区	西籠屋山館跡	室町	129	五泉市	門後北墳墓	鎌倉
6	新潟市中央区	石仏山	中世	68	新潟市秋葉区	大沢谷内1区~4区	縄文・弥生・古墳・奈良~平安・中世	130	五泉市	門後墳墓	室町
7	新潟市江南区	大道外	平安・中世	69	新潟市南区	庄瀬館跡	室町	131	五泉市	高内西	中世
8	新潟市江南区	小丸山	縄文・古墳・平安・中世・近世	70	新潟市南区	元屋敷	中世	132	五泉市	荒屋	室町
9	新潟市江南区	松山	縄文・中世	71	阿賀野市	山鳥屋敷	古墳・古代・中世	133	五泉市	荒屋南墳墓	中世
10	新潟市江南区	細山石仏	室町	72	阿賀野市	駒林要害	室町	134	五泉市	高内	中世
11	新潟市江南区	城山	縄文・古墳・平安・鎌倉	73	阿賀野市	土居内西	平安・中世	135	五泉市	福蔵寺石仏群	南北朝
12	新潟市江南区	居附A	平安~室町	74	阿賀野市	轟	平安・中世	136	五泉市	熊野堂	中世
13	新潟市江南区	松原寺	平安・中世	75	阿賀野市	善四郎谷内C	平安・中世	137	五泉市	禪定院五輪塔姿	鎌倉
14	新潟市江南区	平山	平安・鎌倉	76	阿賀野市	下谷地	中世	138	五泉市	馬場館跡	室町
15	新潟市江南区	藤山	平安・鎌倉	77	阿賀野市	曾郷前	中世	139	五泉市	大畑	中世
16	新潟市江南区	迎山	縄文・奈良~室町	78	阿賀野市	大割	中世	140	五泉市	常照寺五輪塔姿	鎌倉
17	新潟市江南区	市助裏	平安・鎌倉	79	阿賀野市	本田裏	中世	141	五泉市	門後南	中世
18	新潟市江南区	川西	平安・鎌倉	80	阿賀野市	町道上	中世	142	五泉市	八反畑	中世
19	新潟市江南区	手代山	古墳・奈良・平安・鎌倉	81	阿賀野市	羽宮場	中世	143	五泉市	馬場西Ⅱ	古代・中世
20	新潟市江南区	鎌倉	鎌倉	82	阿賀野市	土居内	中世	144	五泉市	馬場西Ⅰ	中世
21	新潟市江南区	日水南	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・室町	83	阿賀野市	浄楽寺	中世	145	五泉市	馬場Ⅱ	中世
22	新潟市江南区	亀田城山B	南北朝~江戸	84	阿賀野市	紺屋	中世	146	五泉市	若宮西Ⅰ	古代・中世
23	新潟市江南区	三王山	室町	85	阿賀野市	下の橋館	室町	147	五泉市	若宮八幡宮	古代・中世
24	新潟市江南区	早通前	平安・鎌倉	86	阿賀野市	清水家石仏	中世	148	五泉市	若宮	中世
25	新潟市江南区	川根谷内墓所	平安・室町	87	阿賀野市	藤の木	室町	149	五泉市	宮ノ下五輪塔姿	鎌倉
26	新潟市江南区	横越館跡	室町	88	阿賀野市	柳目木	古代・中世	150	五泉市	善明寺板碑	鎌倉
27	新潟市江南区	下郷経塚	安土・桃山	89	阿賀野市	山口	弥生・古代・中世	151	五泉市	石曾神社五輪塔姿	鎌倉
28	新潟市江南区	平通寺石仏	室町	90	阿賀野市	諏訪神社	中世	152	五泉市	柳田氏蔵板碑	鎌倉
29	新潟市秋葉区	寺嶋	平安・鎌倉	91	阿賀野市	小川原	中世	153	五泉市	御堂入	古代・中世
30	新潟市秋葉区	長崎	室町	92	阿賀野市	嘉瀬島諏訪社	中世	154	五泉市	番坂	古代・中世
31	新潟市秋葉区	内野	平安・中世	93	阿賀野市	天神林の石仏	室町	155	五泉市	女窪	中世
32	新潟市秋葉区	新久免の塚	室町~近世	94	阿賀野市	中瀧神明宮の石仏	室町	156	五泉市	中原	中世
33	新潟市秋葉区	中谷内	古墳・奈良・平安・中世	95	阿賀野市	中瀧観音様の石仏	室町	157	五泉市	矢津石川家五輪塔姿	鎌倉
34	新潟市秋葉区	結七島	古墳・奈良・平安・中世	96	阿賀野市	玉泉寺石仏	中世	158	五泉市	伊右江門屋敷	中世
35	新潟市秋葉区	川原畑	中世	97	阿賀野市	玉泉寺	室町	159	五泉市	泉福寺板碑群	南北朝
36	新潟市秋葉区	下等別当	平安・鎌倉~室町	98	阿賀野市	村下	室町	160	五泉市	矢津川板碑	鎌倉
37	新潟市秋葉区	長沼	平安・鎌倉	99	阿賀野市	祥雲寺の石仏	室町	161	五泉市	永谷寺	鎌倉
38	新潟市秋葉区	江内	平安・中世・近世	100	阿賀野市	上江端の石仏	室町	162	五泉市	内野Ⅰ	中世
39	新潟市秋葉区	沖ノ羽	古墳・奈良・平安・中世	101	阿賀野市	新明野	室町	163	五泉市	諏訪平	縄文・中世
40	新潟市秋葉区	細池寺道上	平安・中世	102	阿賀野市	分田館跡	室町	164	五泉市	愛宕原	中世
41	新潟市秋葉区	盛岩寺石仏	中世	103	阿賀野市	内山王	室町	165	五泉市	猪沢	古代・中世
42	新潟市秋葉区	大関館跡	中世	104	阿賀野市	成田屋敷	室町	166	五泉市	猪沢北	古代・中世
43	新潟市秋葉区	尻池の塚	室町	105	阿賀野市	大岡家蔵石仏群	南北朝・室町	167	五泉市	正門寺板碑群	鎌倉
44	新潟市秋葉区	愛岩澤	縄文・平安・中世	106	田上町	護摩堂城跡	室町	168	五泉市	英林寺板碑	鎌倉
45	新潟市秋葉区	本町石仏	中世	107	田上町	山田古銭出土地	鎌倉	169	五泉市	猪沢墳墓	鎌倉
46	新潟市秋葉区	埋堀	中世	108	田上町	糠吐	縄文・平安・中世	170	五泉市	堀硝蔵石仏	南北朝
47	新潟市秋葉区	浄楽	室町	109	田上町	田上館跡	室町	171	五泉市	清水寺板碑	南北朝
48	新潟市秋葉区	小戸下組	平安・鎌倉~室町	110	五泉市	館越古銭出土その2	中世	172	五泉市	山王前	中世
49	新潟市秋葉区	川根	平安・鎌倉~室町	111	五泉市	館越古銭出土その1	中世	173	五泉市	一本杉	平安・中世
50	新潟市秋葉区	諏訪神社石仏	中世	112	五泉市	桑山石仏	中世	174	五泉市	八石	中世
51	新潟市秋葉区	腰廻	室町・安土・桃山	113	五泉市	丸田石仏群	中世	175	五泉市	十二南Ⅲ	中世
52	新潟市秋葉区	新津城跡	平安・室町	114	五泉市	高山石造物群	南北朝	176	五泉市	十二北	中世
53	新潟市秋葉区	程島館跡	戦国	115	五泉市	館之内宝篋印塔	中世	177	五泉市	十二南Ⅱ	中世
54	新潟市秋葉区	城見山	縄文・平安・鎌倉~室町	116	五泉市	堤	室町	178	五泉市	十二南Ⅰ	中世
55	新潟市秋葉区	東島大道下	古墳・平安・鎌倉~室町	117	五泉市	丸田館跡	室町	179	五泉市	牧城跡	室町
56	新潟市秋葉区	西島館跡	奈良・平安・鎌倉~室町	118	五泉市	延命寺石仏群	中世	180	五泉市	中丸北Ⅱ	平安・中世
57	新潟市秋葉区	塩辛	弥生・古墳・奈良・平安・中世	119	五泉市	大倉山尼寺跡	中世	181	五泉市	山ノ入	平安・中世
58	新潟市秋葉区	森田	弥生・古墳・平安・中世	120	五泉市	榎表	奈良・平安・中世	182	五泉市	家ノ浦	中世
59	新潟市秋葉区	東島城跡	室町	121	五泉市	榎表南	鎌倉・南北朝	183	五泉市	中ノ坪南Ⅱ	中世
60	新潟市秋葉区	下梅ノ木	平安・鎌倉~室町	122	五泉市	福島城	室町	184	五泉市	下ノ坪	古代・中世
61	新潟市秋葉区	曾根	平安・鎌倉	123	五泉市	福島	奈良・平安・中世	185	五泉市	町屋六条	古代・中世
62	新潟市秋葉区	金津城	南北朝	124	五泉市	諏訪ノ木石仏	中世	186	五泉市	便住城	室町

の製鉄遺跡としても重要である。

中世の遺跡（第8図・第5表）

中世の遺跡は市内で235遺跡確認され、秋葉区では42遺跡が確認されている。丘陵裾部に生産遺跡・山城、平野部微高地に集落跡といった古代と同様の占地を示す。城館跡は8ヶ所を数え、山城は東島城跡・金津城跡（No.59・62）〔横山・竹田ほか1987〕がある。東島城は程島館・新津城とともに、建武3（1336）年11月18日の「羽黒義成軍忠状写」に見られる「金津保新津城」に比定される城跡である。平野部の遺跡は、磐越自動車道建設に伴い発掘調査された江内遺跡（No.38）〔春日ほか1996〕で自然堤防上に立地する14~15世紀の集落の一部が明らかとなった。沖ノ羽遺跡（No.39）〔星野・石川ほか1996〕B地区や内野遺跡では、井戸や溝を主体とする遺構や、烏帽子や鉄鍋といった遺物も出土している。また、細池遺跡（No.40）〔小池ほか1994〕では、中世以降のほ場の各単位施設と思われる凹地遺構や、多数の溝等が検出されている。しかし、平野部の微高地は現居住域と重なる場所も多く、また水田としての土地利用が大半を占めるため、遺跡の規模や形状については不明である。

近世の遺跡

集落跡は平野部微高地に立地していると考えられるが、中世と同様に現在の住宅地が存続して立地することが多く、実態は不明な点が多い。秋葉区新津地区では江内遺跡〔春日^{ほか}前掲〕で17世紀前半からの集落の一部が検出されている。

秋葉区域の現集落の開発は近世初頭（慶長～寛永年間）に遡り、本格的な治水事業の展開により新田開発が盛んに行われ〔井野 1993〕、現景観が形成されてきたと考えられる。

第3節 歴史的環境

律令以前、日本海側の地域は広く越国と称されていた。大化3（647）年に淳足柵・翌年に磐舟柵が相次いで設置され、漸次北方の整備が図られていたと考えられる。越後国は、当初これら二柵の位置する阿賀野川以北の沼垂郡・岩船郡より北を指していたようである。越後国の領域の確定は、大宝2（702）年に越中国4郡（頸城・古志・魚沼・蒲原）を割いて越後国に編入〔『続日本紀』〕し、和銅5（712）年にそれまで越後国に属していた出羽郡を分割して出羽国を建国したことによる。その後、天平15（743）年に佐渡国を越後国に合併し、ほぼ現在の新潟県と同一の領域となった。しかし、天平勝宝4（752）年には、渤海朝貢使節の来島により、朝廷による直接把握を目的として佐渡国は復置されている。佐渡国3代国司穴人朝臣和麿の天平宝字5（761）年に造営が始まった佐渡国分寺には、小泊窯で製作された瓦が大量に運ばれており、古代越後国に膨大な須恵器の供給をもたらす小泊窯操業の契機としてとらえられよう。

秋葉区域は、古代の蒲原郡に属していた。現在の北蒲原郡を除いた三条市から阿賀野川までの範囲に比定される古代の蒲原郡には、承平年間（931～938）に撰進された『和名類聚抄』に桜井・勇礼・青海・小伏・日置の5郷が見られる。このうちの日置郷が秋葉区域に推定されているが、これは他の4郷に秋葉区域以外の有力な推定地があるのに対し、日置郷のみ推定地がないという消極的な理由によるものである。

古代の蒲原郡には、宝亀11（780）年の『西大寺資財流記帳』によって、鶉橋荘・槐田荘という荘園が施入されていた事が知られている。これらの西大寺領荘園は、神護景雲3（769）年の『越後国水田并墾田地帳』などから、8世紀中葉以降には確実に成立していたと考えられる。いずれの所在地も秋葉区域に比定されていないが、周辺遺跡からの仏教系遺物の出土との関連性も示唆されよう。西大寺領荘園は早くに衰退したと推定されており、その理由として東大寺領荘園に比べ進出が遅かったため、悪条件地に寺田を設定したためと考察されている〔木村 1993〕。

新津丘陵では、早ければ7世紀後半に「一郡一窯体制」による須恵器生産が開始される。新津丘陵窯跡群の最盛期は8世紀前半～9世紀中頃で、佐渡小泊窯からの供給量の激増により生産が衰退する。また、新津丘陵の北西側には、大規模な製鉄関連遺跡である金津丘陵製鉄遺跡群があり、主操業期間は9～10世紀・13世紀前後と考えられており、8～9世紀には新津丘陵が蒲原郡の須恵器・製鉄の生産を支えていたと言っても過言ではない。これらの製品は、能代川などの内水面交通を利用し、広く郡内に流通していたと考えられ、国府津である蒲原津などを經由して越後国内の他の郡域にも搬出されていた可能性は高い。能代川は、近代まで水上交通路として金津地区の草水油（石油）などの運搬を担っており、天智7（668）年に越国から燃水・燃土を近江京に献上した際のルートであった可能性も否定できない。

中世においては、秋葉区域の大半は国衙領金津保の保域に含まれると考えられている〔阿部 1983〕。金津保の成立時期は、明確ではないが、他の公領と同様に11世紀後半～12世紀後半に至る院政期に考察されている。金津保の文献上の初見は、建武3（1336）年11月18日の『羽黒義成軍忠状写』に、足利（北朝）方の義成が9月2日に金津保新津城に引き籠もり、新田（南朝）方の小国政光らと戦った記載にある。しかし、これ以前にも室町期に成立した『義経記』では承安4（1174）年に金津庄の名が見られ、また、寿永年間（1182～1183）には、

鎌倉幕府成立後金津保の地頭職となり、承久の乱（1221）に際し鎌倉方の北条朝時に従軍し上洛した、平賀（金津）蔵人資義が金津に居館を構えている。この他、『吾妻鏡』の建仁元（1201）年の史料には新津四郎の名が見られ、12世紀末には金津・新津周辺に勢力を持ち、地名を姓としたと考えられる武士たちが存在していたことが理解される。

蒲原郡における国衙領は、田畑などの生産域のみならず、河川流域や潟湖などをも主要素として成立している。信濃川・阿賀野川の最下流域にあり、蒲原津という越後国を代表する港津の背後という立地や、国衙領の凌駕した頸城郡と、大規模な荘園群が在した阿賀野川以北の中間という地理的環境から、金津保の重要性が高かったことは想像できよう。現に、14世紀前半の南北朝の動乱に際しては、蒲原津を軍事的に占拠し中・下越地方を制圧しようとした南朝軍と、阿賀野川を挟んで対峙した北朝軍との蒲原津から新津丘陵周辺での攻防が前記の『羽黒義成軍忠状写』に記されている。この動乱を経て、越後国は守護上杉氏・守護代長尾氏により室町幕府の統治下によって領国支配が推進されることとなる。

16世紀になると、守護上杉氏と守護代長尾氏の対立が激化し、越後国内での内乱が勃発するようになり、享禄・天文の乱（1530～1551）の天文4（1535）年には、秋葉区周辺も戦場と化したようである。この時期の金津保の実態については不明な部分が多いが、後世の『上杉家御年譜』や『上杉史料集』の「北越軍談」には、金津伊豆守祐高や新津彦二郎など、金津や新津郷を領有した人物の名が見られる。また、新津堰（能代川一の堰）もこの頃に開設されており、土地開発も着実に進展していた事が窺われる。

天文19（1550）年には、蒲原郡などの国人たちを帰順させていた長尾景虎（上杉謙信）が越後国主となったが、永禄2（1559）年の「侍衆御太刀之次第」では披露太刀ノ衆に新津殿、天正3（1575）年の「上杉家軍役帳」では、国人衆に出陣の際91人の軍役を負担した新津大膳亮の名が見られ、新津氏が上杉家臣団の一翼を担っていたことが判る。

天正6（1578）年3月、上杉謙信が急逝すると、養子である景勝・景虎の間で後継地位をめぐる「御館の乱」がおり、国内領主層の分裂をもたらした。この乱において、秋葉区周辺は両者軍勢の境界線として、また、会津芦名氏への防衛線として、重要な位置を担っており、新津勝資は景勝方に、平賀左京亮は景虎方に参戦している。景勝の勝利により、没落した平賀氏に代わり、新津氏が金津保に新たな発展をみせることとなる。新発田の乱平定後の『文禄三（1594）年定納員数目録』によれば、景勝家臣団の最上士層である「侍中」の筆頭中に新津勝資の名が見られ、その功績が窺える。しかし、慶長3（1598）年に豊臣秀吉の命により景勝が越後国主から会津へ国替えさせられることとなり、新津勝資・秀祐父子も景勝に随従し二本松での知行を指定され、先祖伝来の本領から引き離されることとなった。

景勝の移封に伴い、本庄（村上市）に村上頼勝・新発田に溝口秀勝が入封し、旧新津市域の大部分は新発田領、東部の一部が村上領となった。関ヶ原の戦いの際に会津国境付近より起きた「越後一揆」が画期となり、新発田藩は徳川方の支配大名としての地位を確立し、兵農分離が推進された。新発田藩は墾田治水に力を注ぎ、旧新津市域においては慶長9（1604）年に戦乱により荒廃していた新津堰を再興し、寛永4（1627）年には新津郷左近島の堤防修復を図り、本田畑の保護と新田開発を推進した。村上藩も同様に治水を行い、旧新津市域における堤防のほとんどは17世紀後半代には完成をみたようである。併せて、堰組などの水利組合を組織し、共同して江筋の維持管理・運営が行われた。大野開（古田新田枝郷）は、当初能代川流域の一之堰組に属しており、元和9（1623）年に二之堰が設置されると二之堰組に加わっている。また、大野開は、元禄2（1689）年に悪水や湛水の排除を目的として組織された七日町村樋組にもその名がみられ、当時はまだ低湿地帯であったと推察されよう。遺跡の現景観の基礎はこの時期に固まったものと推察できるが、治水が推進されても洪水などの水害は繰り返されており、その後の度重なる復旧を経て現景観が形成されたと考察されよう。

また、慶長13（1608）年に真柄仁兵衛によって発見され元和元（1615）年に採掘を許可された石油（草水油）の開発も、近世における秋葉区の特徴の一つに挙げられよう。

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 試掘・確認調査（5・8・10・13次調査）

以下は、小須戸バイパス関連の試掘・確認調査の概要である（第9・10図）。本発掘調査については第2節で述べる。

第5次調査（確認調査）平成16年11月29日から翌17年1月6日にかけて、小須戸町教育委員会は県教委の指導のもとに小須戸バイパス建設予定地全域を対象とした確認調査を実施した（第5次調査）。計99か所のトレンチを設定し、遺跡の範囲や埋没深度を確認したものである。調査面積は2,136㎡におよぶ。この調査では24か所のトレンチで遺構や遺物が確認され、大沢谷内遺跡の発掘調査が必要と判断された。その後、工事を主管する新津土木と協議を重ねた結果、本発掘調査を行うことが合意され、約8,000㎡におよぶ「大沢谷内遺跡1～4区」の調査範囲が設定された。

第8次調査（確認調査）平成17年10月から、第7次調査（本発掘調査）による下層遺跡の発見をうけ、本発掘調査区と北側の大沢谷内北遺跡、南側の大沢谷内遺跡5・6区周辺の間には100～154Tの確認トレンチを設定し、縄文時代晩期の遺跡範囲確定のための調査を実施した。その結果1区北側の108Tと調査区南側の142Tから平安時代の遺物が出土した。

第10次調査（確認調査）平成18年12月には下層遺跡の存在を念頭におき、再度調査区南限を確定するための確認調査を行った（第10次調査）。155～159Tを設定して実施した結果、遺構・遺物は検出されず、調査区が確定されるに至った。

第13次調査（確認調査）平成21年2月には第12次調査（本発掘調査）の結果をうけ、本遺跡（1～4区）南側の5区調査予定地に168Tを設け下層包含層の確認調査を行った。その結果5区においても古代と縄文時代晩期の2面が存在することが明らかとなった。

第2節 発掘調査（第7・9・11・12・14次調査）

A 調査方法

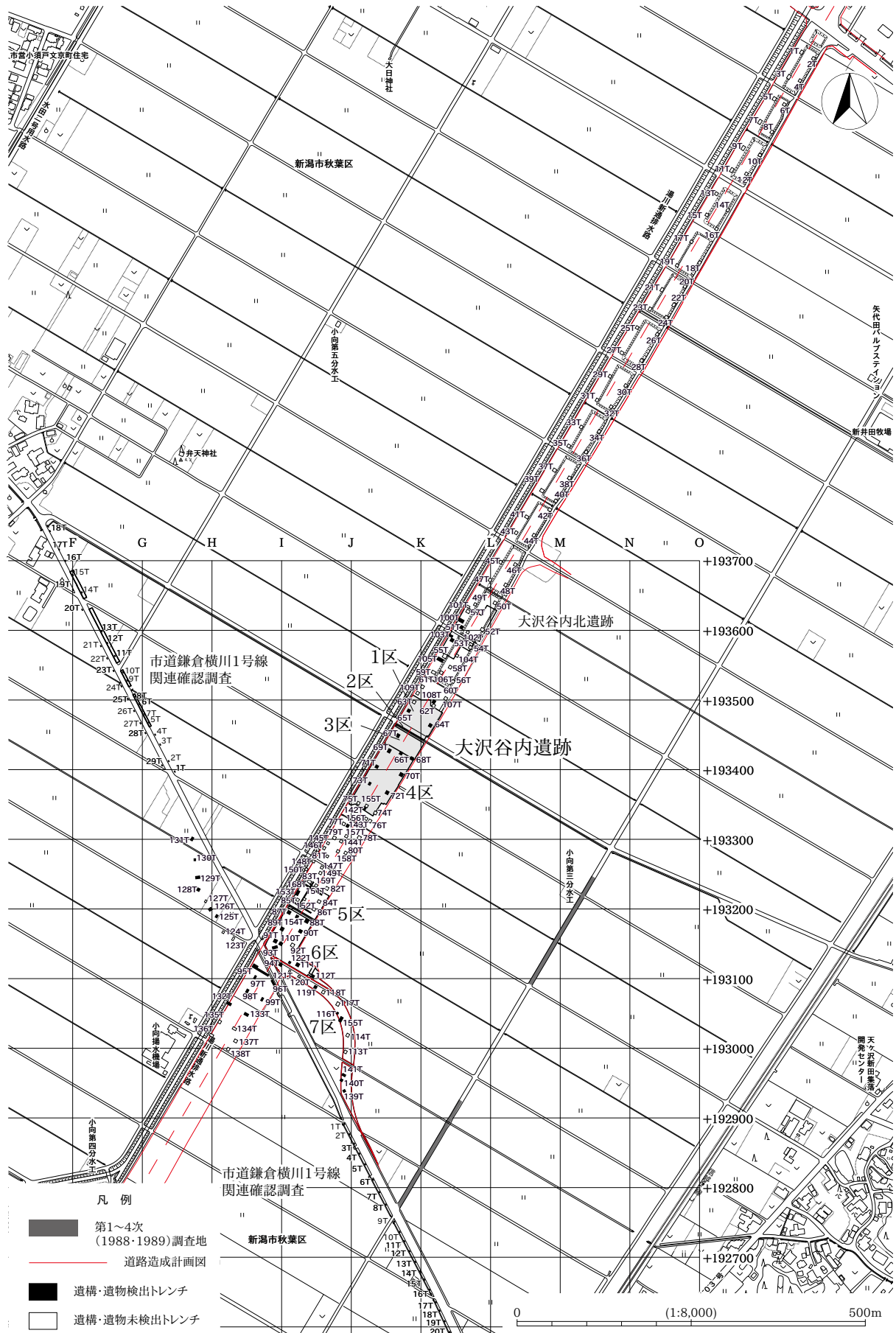
1) 現況

調査地周辺一帯は近世以後水田として利用されていた。道路用地として取得した後は荒地であった。

2) グリッドの設定（図版2～4）

大沢谷内遺跡と大沢谷内北遺跡を一つの遺跡群として捉え、両遺跡の全域を網羅してグリッドを設定した。X座標 193700.000、Y座標 50200.000（世界測地系平面直角座標第8系）、緯度 37° 44' 39.2346"、経度 139° 04' 10.6492" を基点として「1A」杭とした。通常は基点に対し10mの方眼を組みそれを大グリッドとしてきたが、本地域は対象面積が広大であるため100m方眼の大大グリッドを設定した。大大グリッドの名称は1A杭を基点として東西方向をA～Oのアルファベット、南北方向を1～19のアラビア数字で表し、10m方眼の大グリッドは「3K-3A」、「3J-7I」のように枝番を付して標記した。これをさらに2m方眼の25の小グリッドに分割し、「3K-3A1」のように呼称した。グリッドの名称については図版2～4に示すとおりである。基準杭の打設は測量業者に委託した。

発掘調査区内における任意のグリッド杭4点の座標は、3K-3A杭（X座標：193480.000、Y座標：51200.000、緯度 37° 44' 31.8992"、経度 139° 04' 51.4411"）、3J-7I杭（X座標：193440.000、Y座標：51180.000、緯度 37° 44' 30.6058"、経度 139° 04' 50.6140"）、4J-1F杭（X座標：193400.000、Y座標：51150.000、緯度 37° 44'

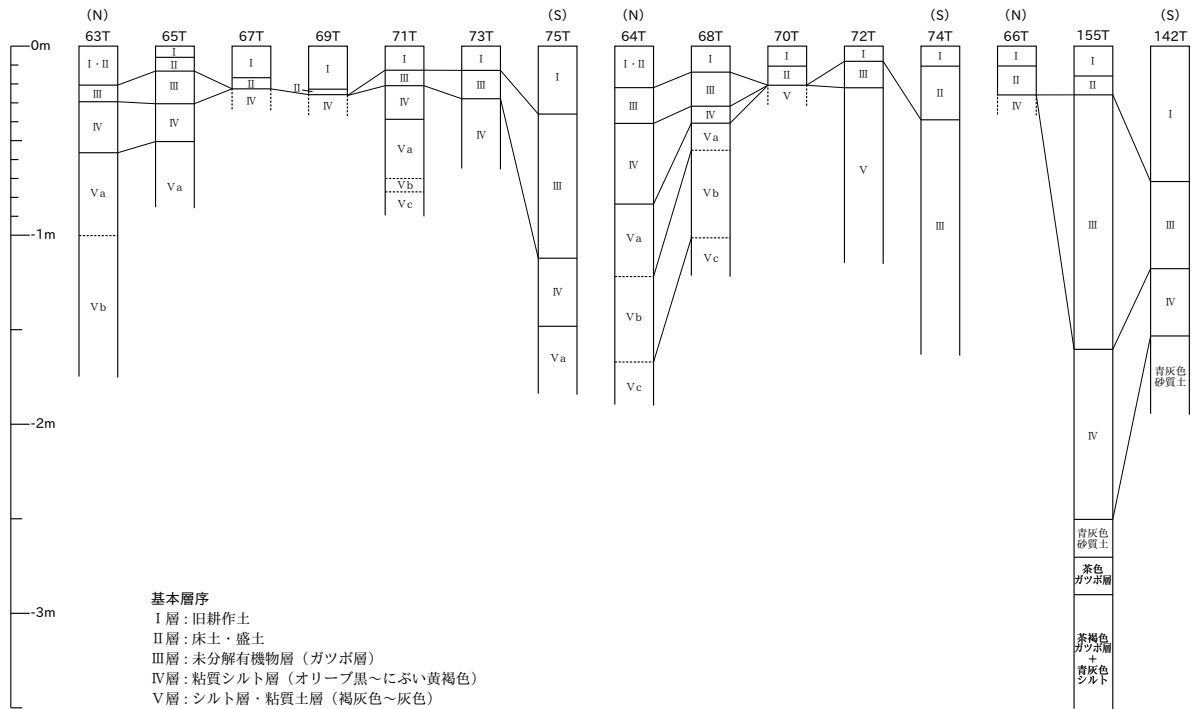


第9図 大沢谷内遺跡試掘・確認調査位置図



(国土基本図 2008 年 1/10,000→1/25,000 一部改変)

(国土基本図 2008 年 1/4,000→1/2,000 一部改変)



第 10 図 大沢谷内遺跡 1～4 区試掘・確認調査位置図

29.3143”、経度 139° 04' 49.3785”）、4J-5D 杭（X座標：193360.000、Y座標：51130.000、緯度 37° 44'28.0.09”、経度 139° 04'48.5515”）であり、3J-7I 杭の座標北は真北に対し 0 度 21 分 20 秒東偏し、磁北は真北に対し 7 度 53 分西偏する。

3) 調査方法

本遺跡は上層遺跡（飛鳥時代～中世）と下層遺跡（縄文時代晩期中葉前半）からなる。上層遺跡の遺構プランはある程度視認できるが、下層遺跡の遺構については覆土中の有機成分の溶脱化現象が著しく、検出が非常に困難であった。そのため、積極的にトレンチ調査を援用し、断面観察による遺構確認を含め、最大限の情報抽出に努めた。

①表土除去

試掘・確認調査により上層遺跡の検出レベルがほ場整備による耕作土と床土直下であり、包含層もほ場整備による削平を受けていたことが判明したため、遺物の出土に注意しながら重機（バックホー）を用いて除去した。

②包含層調査

上層遺跡の包含層はほ場整備等による削平により低域部のみの残存であった。残存部については手作業で掘り下げ、遺物の検出に努めた。

下層遺跡については上層調査終了後、大グリッド（10m 四方）に沿ってトレンチを全域に設け、壁面の層序の観察により包含層と遺構検出面の把握を行なった。トレンチの掘削深度は、VI層の砂質シルト層まで掘削が及ぶと崩落の危険性があるため、上位の粘質土層であるV d層までとした（層位については第IV章第2節参照）。上層遺跡の遺構検出層準であるIV層の大半が削平を受けており、一部下層遺跡の包含層であるV b層まで露呈していたため（4区南）、間層であるV a層の掘削は手作業で行い、包含層の掘削も手作業で行った。

排土は上・下層ともにベルトコンベアーにより調査区外へ搬出した。

③遺構検出・調査

上層遺跡の遺構確認は上記の削平によりV a層上面にて行うか所が大半であった。比較的遺構の確認が容易であったためジョレン等により平面精査を行い、遺構の検出にあたった。ただし調査に至っては地山に接する遺構外形部付近の覆土の溶脱化が認められる場合があり、遺構の形状を正確に把握できないおそれがあるため、場合によりサブトレンチを設け遺構の正確な形状の把握に努めた。

下層遺跡は、遺構内覆土と地山の色調・土質が非常に類似しており、平面のみでの確認がきわめて困難であった。遺物の分布、炭化物の分布、斑状に混じる褐色土、砂質分の差異などを手がかりにサブトレンチを設け、断面観察により遺構の認定を行なった。調査終了か所については砂質シルト層であるVI層上面まで重機を用いて掘削し、調査漏れがないよう最終確認の面下げ調査を行った。

④遺構平断面図・遺物微細図の作成

遺構断面図は 1/20 で作成し、平面図や各種測量点は測量業者に委託してトータルステーションを用いて取得したデータを基に CAD で作成した。遺物微細図は手取りと測量業者による写真測量を併用して作成した原図を、調査員が修正・加筆した。

⑤写真撮影

層序・遺構・遺物出土状況などの写真撮影にあたっては、35mm リバーサルフィルム・モノクロフィルム、デジタルカメラを使用した。このうち特に重要と判断されるものについては 6×7 版リバーサル・モノクロフィルムを使用し、必要に応じて俯瞰撮影を行った。

⑥遺物の取り上げ

調査年度により異なる。平成 17 年度（第 7 次調査）では上層・下層遺跡の調査ともに包含層は小グリッド単位、遺構出土遺物は遺構単位・小グリッド単位で取り上げた。平成 18 年度（第 9 次調査）では上層遺跡の調査においては包含層は小グリッド単位、遺構出土遺物は遺構単位・小グリッド単位で取り上げ、下層遺跡の調査においてはトータルステーションによる位置情報の記録を行い取り上げた。平成 19～21 年度（第 11・12・14 次調査）

ではトータルステーションを用いて取り上げた。本書ではこれらの位置情報に基づき出土状況を復元している。

B 調査経過

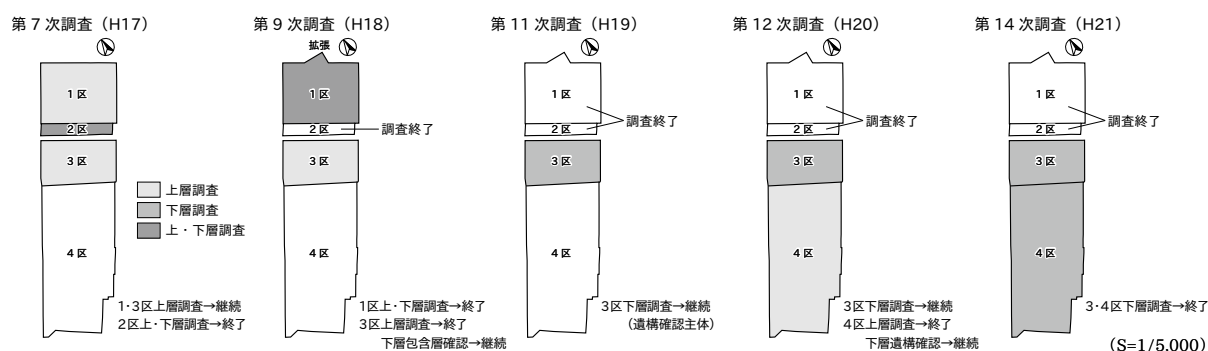
まず1～4区における本発掘調査の経緯概略を述べる(第11図)。本発掘調査区には広域農道が横切っている。この農道より北側を1区、農道部分を2区、農道より南側を3区・4区に分けて調査を行った。平成17年度第7次調査において1～3区の本発掘調査に着手した。当初遺跡は古代から中世の集落跡と見られていたが、1区における基本層序確認トレンチにおいて縄文時代の遺物が出土し、2区の古代～中世面の調査終了後に下層の確認をしたところ縄文時代晩期中葉の遺構・遺物が検出され、下層に縄文時代晩期の遺跡が存在することが判明した。

平成18年度の第9次調査では確認調査(第8次)の結果から1区北側の一部を拡張した。1・3区における上層の継続調査とともに1区の下層調査を行い、縄文時代晩期の遺構・遺物が検出されたため、併せて3区の下層包含層の確認調査を行った結果、3区においても縄文時代晩期中葉の包含層が分布していることが判明した。

平成19年度の第11次調査では3区の下層包含層掘削と遺構確認を行った結果、3区全面に遺構の分布が認められた。

平成20年度の第12次調査では3区下層・4区上層の調査を行った。特に上層遺跡南側からは埋没谷が検出され、多量の須恵器や祭祀木製品・木簡が出土した。さらに4区下層の包含層・遺構分布調査を行った結果、4区下層においてもほぼ全面に遺構の広がり確認された。

平成21年度の第14次調査では3区下層の継続調査と4区下層の調査を行い縄文時代晩期中葉の集落跡が検出され、計5箇年にわたる1～4区の上層遺跡・下層遺跡の本発掘調査を終了した。



第11図 大沢谷内遺跡1～4区本発掘調査の経緯

以下に年次ごとの調査経過を記す。

第7次調査(本発掘調査) 平成17年8月7日から重機により1・3区の表土除去を開始した。両区とも中央に基本層序観察用のベルトを設定し、表土除去を行った。ほ場整備による削平により包含層は一部に残存するのみであった。同月19日に機材を搬入し、同月22日から作業員を投入。1区外周の排水用の土側溝掘削を開始した。併せて調査区壁面の基本層序を確認・記録した。同月28日より1区の遺構検出を開始。同月31日に1区中央ベルト脇の土層確認用トレンチにて縄文時代晩期の土器が確認される。これにより下層遺跡の存在が指摘された。9月8日には1区の遺構検出を終了し、3区の調査に移る。調査区外周の土側溝掘削を開始し、同月12日から包含層掘削と遺構検出作業を行う。同月14日より遺構調査を開始した。3区の調査と併行して10月11日より広域農道を通行止めにし、歩行者・自転車用の仮設道路を設定して2区の表土除去に着手した。11月1日から包含層掘削を開始し順次遺構調査を行なった。同月11日にはローリングタワーにより2区上層遺跡完掘写真を撮影し、続けて下層遺跡確認用のトレンチ調査を行った。同月21日には高所作業車により3区の全景写真を撮影し17年度の3区調査を終了し次年度に継続する。

同月28日から2区下層遺跡の包含層掘削を開始し、掘削終了か所より遺構検出・調査を実施した。12月14日には清掃を行い、翌15日にローリングタワーにより2区下層遺跡完掘写真を撮影した。撮影後最終確認の面

下げ調査を行い、同月 20 日には 2 区の調査を完全に終了させ、17 年度の調査は終了した。

第 9 次調査（本発掘調査）平成 18 年 7 月 10 日より機材搬入、周辺環境整備に入る。8 月 1 日より作業員を全員投入し、前年度において検出された 1 区上層遺跡の継続調査を本格的に開始した。9 月 1 日には空中撮影用の清掃を行いローリングタワーにより全景を撮影し、翌 2 日に 1 区上層遺跡完掘全景空中写真を撮影した。その後 1 区を一時保護し、同月 5 日より 3 区の継続調査に入る。同月 20 日、3 区上層遺跡完掘全景空中写真を撮影し、翌 21 日より再び 1 区に戻り下層遺跡の確認調査に入る。同月 24 日には現地説明会を開催し、約 60 名の参加があった。同月 28 日より 3 区においても下層遺跡確認のためのグリッドライントレンチを設定し掘削を開始した。10 月 16 日より 1 区下層遺跡の包含層掘削を開始し、同月 25 日より遺構調査を行なった。同月 27 日には 1 区北側を一部拡張し、拡張部より縄文時代晩期の浅鉢が出土した。11 月 6 日には自然科学分析の試料採取を行った。同月 18 日にはローリングタワー、同月 20 日には空中撮影により 1 区下層遺跡完掘全景写真を撮影した。翌 21 日より最終確認の面下げ調査を行い、12 月 7 日には 1 区の調査を完全に終了した。その間 3 区では翌年度の継続調査のために遺構保護作業を行い、同月 26 日に 18 年度の調査を終了した。

第 11 次調査（本発掘調査）平成 19 年 8 月 29 日より調査区周辺の環境整備に入り前年度の遺跡保護を除去する。9 月 3 日より前年度の継続調査として 3 区下層遺跡の確認調査を開始した。グリッドライントレンチの整形を行い、壁面観察により基本層序の確認、遺構検出面の確認を行った。同月 11 日より上層遺跡と下層遺跡の間層にあたる V a 層の掘削を開始。同月 25 日より調査区北側から下層遺跡包含層の掘削を開始する。包含層掘削の際はトレンチの断面観察を行いながら慎重に面下げを行った。その際未確認であった上層遺跡の遺構が検出されたため併せて調査を行った。

19 年度の調査は本遺跡北に位置する大沢谷内北遺跡の調査と併行して行っており、10 月 1 日より人員を大幅に大沢谷内北遺跡に移すこととなった。したがって本年度の調査は包含層掘削とグリッドライントレンチにおける遺構確認を中心とし、できるかぎり平面における遺構精査を行うよう努めた。その結果遺物集中か所、炭化物集中範囲、焼土遺構等が確認され、3 区のほぼ全面に遺構が分布することが明らかとなった。11 月 30 日よりグリッドライントレンチ壁面の記録と併行して翌年度調査のための遺跡保護作業を行い、12 月 28 日に 19 年度の調査を終了した。

第 12 次調査（本発掘調査）平成 20 年 4 月 14 日より機材搬入・周辺環境整備を行い、4 区の表土除去を開始した。1～3 区同様に削平により包含層はほとんど遺存していない。併せて測量杭の打設を行った。同月 21 日より作業員を全員投入し遺構精査に入る。5 月 1 日には 4 区南から大規模な埋没谷が検出されたため、先行して谷部の調査に入る。谷崖線の検出と精査を行ったところ大量の須恵器と木製品が出土し始めた。同月 15 日には谷内部のトレンチ調査を開始した。谷内部の包含層に至るまでかなりの土量の存在が判明したため、同月 21 日より重機を投入し遺物の出土に注意しながら慎重に掘削を進めた。その結果谷斜面から底面にかけて大量の土器、祭祀木製品等が出土する祭祀場の様相が明らかとなってきた。

翌 22 日より 3 区下層遺跡の調査と 4 区上層遺跡の調査は別班を設けて進行させた。

（3 区下層遺跡調査）5 月 22 日より昨年度調査によるグリッドライントレンチ壁面の検討を行い、下層遺跡の調査方針を検討した。同月 26 日から包含層掘削を開始し、徐々に濃密な遺構分布が明らかになる。6 月 26 日、V c 層上面から上層遺跡に属する掘立柱建物柱穴を確認したため、以後、下層遺構の調査と並行しながら 8 月 12 日までの間に記録を行う。翌 27 日にトレンチ深層部で遺物が確認され、複雑な埋没地形の存在が推測された。これについてはトレンチ壁面層序の検討により、下層遺跡においても埋没谷が存在し、それに伴う遺物の可能性が高いことが 8 月 20 日に判明した。10 月 21 日からトレンチを新たに設定し、埋没谷の広がり把握にあたった。その結果東西方向に細長くのびる開析谷の存在が明らかとなった。10 月 25 日にはその過程で埋積土下部に炭化したクルミ破片や魚骨などの焼骨が多量に含まれることが確認された。12 月 13 日に空中写真撮影を行い、12 月 17 日に埋没谷の層序記録を行った。V b 層の掘削未了区域が広く残るが、埋没谷の精査を含めて多くの

作業を要することから、以後壁面の保護作業を行い、20年度の3区下層遺跡の調査を終了した。

(4区上層遺跡調査) 5月22日以降も谷部の調査を行い、6月4日には自然科学分析試料の採取を行った。谷部の調査と併行して谷崖線から水道管埋設による攪乱部までの間の調査を行った。縄文時代の遺構が検出されたためこの一帯は下層遺構検出面まで削平されていることが判明した。同月11日にこの区域を一時保護し、4区の北側より遺構検出・調査を開始した。同月18日に谷部の空中撮影を行った。その後も調査を進め掘立柱建物柱穴、井戸、溝、土坑等の多数の遺構が検出された。11月9日には現地説明会を開催し、約120名の参加があった。同月14日に完掘全景空中写真を撮影し、翌15日から下層遺跡確認のために東西・南北のロングトレンチを設定し掘削を開始した。同月27日に上層遺跡の調査を終え、これにより1～4区までの上層遺跡の調査が完全に終了した。

その後、トレンチ壁面観察による下層遺跡の確認調査を行い、併行して来年度調査のために遺跡保護作業を行った。下層遺跡確認調査の結果、4区下層においてもほぼ全面に遺構が確認された。同月17日に20年度の調査を終了した。

第14次調査(本発掘調査) 平成21年4月6日より機材を搬入し調査区周辺の環境整備に入る。翌7日より作業員を投入し、3区は前年度の継続調査として埋没谷の掘削を開始し、4区は3区境界側から包含層掘削の準備に入る。大グリッド単位(10m四方)でトレンチを設定し、VI層上面まで掘削を行い、壁面による遺構検出層位の確認を行いながらベルトを残しつつ面下げを行った。4区では下層遺跡の上面・下面の差異が3区よりは明瞭に分層可能であったため、大グリッド単位で上面調査を行い、調査終了次第面下げをして下面の遺構検出・調査に移り、グリッド単位で確実に調査を終了していくよう努めた。その際上面検出遺構は外形を土手状に残すことにより空中撮影に備えた。5月11日に3区北側において掘立柱建物を検出した。下層遺跡における初の建物跡検出であり、以降、掘立柱建物柱穴が多数検出される。同月19日には小須戸小学校6年生50名が発掘調査体験学習に参加した。同月30日に谷部の自然科学分析試料の採取を行い、谷部の調査が終了した6月5日に3区の空中写真撮影を行った。撮影終了後、上面検出遺構群の面下げと下面遺構の最終調査を行い、7月28日に3区下層遺跡の調査を終了した。4区では8月より住居跡が検出されはじめ下層遺跡は掘立柱建物と住居からなる集落跡であることが明確となった。同月28日には調査区南側の土坑群から多量のアスファルトが検出された。9月9日に3区と4区北側半分の完掘全景空中写真を撮影した。同月12日には現地説明会を開催し、約160名の参加があった。10月28日より、4区南側の遺構群を残しほぼ調査が終了したため、3区の最終確認面下げ調査を開始した。重機を投入してVI層上面まで掘削を行い、掘立柱建物柱穴の調査漏れがないよう努めた。11月13日に最終の自然科学分析試料の採取を行い、同月25日には4区南側を含めた最終の完掘全景空中写真を撮影した。

同月中に遺構調査をほぼ終了させたが、遺構分布範囲南側と上層谷部との間に遺構の存在しない区域があり、また土質が異なるため、状況確認のために12月1日より重機を投入して深掘調査を実施した。その結果、地滑り状の大規模な落ち込みの存在が確認された。縄文時代包含層の検出のために法面を設け2.5mほど掘削したが確認されず、より下位層に存在すると推測されるが深度の危険性から調査を断念した。同月28日に全ての調査・撤収作業を終え、平成17年度から平成21年度までの5か年にわたる1～4区の本発掘調査を完全に終了した。

発掘調査総面積は上層遺跡が8,004.4㎡、下層遺跡が7,684.4㎡である。

C 調査体制

【平成16年度：第5次調査(確認調査)】

調査主体	小須戸町教育委員会(教育長:吉田恒夫)
調査指導	新潟県教育庁文化行政課 埋蔵文化財係長 北村 亮
調査員	春日真実・石川智紀(新潟県教育庁文化行政課主任調査員) 潮田憲幸(白根市教育委員会生涯学習課主事)
事務局	小須戸町教育委員会教育課(課長:五十田美智子・係長:丸山 賢)

【平成17年度：第7次調査（本発掘調査）】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：佐藤満夫）
所管課	新潟市総務局国際文化部歴史文化課（課長：渡邊ユキ子・課長補佐兼文化財係長：倉地一則）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長：手島勇平）
調査担当	朝岡政康（新潟市埋蔵文化財センター主事）
調査員	今井さやか（新潟市埋蔵文化財センター主事）、八藤後智人（同専門臨時職員）

【平成17年度：第8次調査（確認調査）】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：佐藤満夫）
所管課	新潟市総務局国際文化部歴史文化課（課長：渡邊ユキ子・課長補佐兼文化財係長：倉地一則）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長：手島勇平）
調査担当	潮田憲幸（新潟市埋蔵文化財センター主事）

【平成18年度：第9次調査（本発掘調査）】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：佐藤満夫）
所管課	新潟市文化スポーツ部歴史文化課 （課長：倉地一則・課長補佐：山田一雄・埋蔵文化財係長：渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長：山田光行）
調査担当	立木宏明（新潟市埋蔵文化財センター主査）
調査員	八藤後智人・高野裕子（新潟市埋蔵文化財センター専門臨時職員）

【平成18年度：第10次調査（確認調査）】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：佐藤満夫）
所管課	新潟市文化スポーツ部歴史文化課 （課長：倉地一則・課長補佐：山田一雄・埋蔵文化財係長：渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長：山田光行）
調査担当	立木宏明（新潟市埋蔵文化財センター主査）

【平成19年度：第11次調査（本発掘調査）】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：佐藤満夫）
所管課	新潟市文化スポーツ部歴史文化課 （課長：倉地一則・課長補佐：山田一雄・埋蔵文化財係長：渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長：山田光行）
調査担当	渡邊ますみ（新潟市埋蔵文化財センター主査）
支援組織	株式会社シン技術コンサル
調査員	原 真・青木利文

【平成20年度：第12次調査（本発掘調査）】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：佐藤満夫）
所管課	新潟市文化スポーツ部歴史文化課 （課長：倉地一則・課長補佐：山田一雄・埋蔵文化財係長：渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長：山田光行）
調査担当	前山精明（新潟市埋蔵文化財センター副主幹）
支援組織	株式会社シン技術コンサル
調査員	細野高伯・折井 敦・伊比博和・安生素明

【平成20年度：第13次調査（確認調査）】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：佐藤満夫）
所管課	新潟市文化スポーツ部歴史文化課 （課長：倉地一則・課長補佐：山田一雄・埋蔵文化財係長：渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長：山田光行）
調査担当	潮田憲幸（新潟市埋蔵文化財センター副主査）

【平成21年度：第14次調査（本発掘調査）】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：鈴木廣志）
所管課	新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課
	（課長：倉地一則・課長補佐：頓所洋一・埋蔵文化財係長：渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長：山田光行）
調査担当	前山精明（新潟市埋蔵文化財センター副主幹）
支援組織	株式会社シン技術コンサル
調査員	細野高伯・伊比博和・石川博行・小川長導

第3節 整理作業

A 整理方法

1) 遺物

①遺物の洗浄・註記

整理補助員が作業にあたった。遺物の註記方法としては、発掘調査年度・遺跡名「大沢谷内」・上層の場合「上層」、下層の場合「下層」・遺構出土遺物の場合遺構名、包含層出土の場合はグリッド地点・取上げナンバー・出土層位、の順に記入した。

②微細遺物の抽出・集計

整理補助員が抽出・集計した。

③土器の接合・復元

整理補助員が行なった。本遺跡出土の土器は概して遺存状態が良好であるが、接着剤による接合だけでは不十分な個体が多数を占めた。そのため原則的に石膏・キューテックスを補填剤として使用し、撮影条件を考慮して補填か所の着色を行った。

④遺物の実測・トレース

遺物の素図作成は主として株式会社シン技術コンサルが行い、木製品の一部を前山が行った。トレースはデジタルトレースにて行い、株式会社シン技術コンサルが行った。実測図は新潟市埋蔵文化財センター職員が監査を行った。

⑤遺物写真撮影

下層土器は大久保厚（株式会社ソディックス）、上層土器は小池利光（フォトスタジオー光）、木製品の一部を佐藤俊英（ビッグヘッド）、その他の遺物については株式会社シン技術コンサルが撮影した。

2) 遺構

①遺構の整理

遺構覆土の把握が困難な状況であったため、同一遺構の上部・下部をそれぞれ別遺構と認識して遺構番号を付した場合があった。そのため整理段階において、位置・規模・形状・覆土・遺物の接合状況等から確実に同一遺構と考えられるものについては図上で復元し同一番号の遺構とした。

②図面の作成

平面図の作成にあたっては、測量業者に委託しトータルステーションを用いて取得したデータをCADにより作成した遺構平面図と、1/20の手取り断面図との校正作業を行った。各図面およびトレース図の作成は、校正した図面をもとにデジタルで処理を行った。

B 整理経過

平成17年度から21年度は、発掘調査と平行して遺物の洗浄・註記、記録類の基礎整理および土器の接合、土壌水洗により採取した微細遺物の抽出を行った。

平成22・23年度に本格的な整理報告書作成業務を行った。主な作業は株式会社シン技術コンサルに委託した。

平成22年度は、土器・石器類・木製品の実測作業と土器の復元、主要遺物の写真撮影、遺構・遺物の図版作成、各種図版のデジタルトレース等図版作成を行った。自然科学分析については株式会社古環境研究所、株式会社火山灰考古学研究所、財団法人元興寺文化財研究所に委託し、植物珪酸体分析、花粉分析、珪藻分析、樹種同定、種実同定、リン・カルシウム分析、放射性炭素年代測定、黒曜石様物質の蛍光X線分析を株式会社古環境研究所、株式会社火山灰考古学研究所が、アスファルトの分析を財団法人元興寺文化財研究所が実施した。また赤色顔料の分析を三ツ井朋子氏（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団）、動物遺体分析を松井章氏（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所）に依頼した。

平成23年度は主に図版作成、原稿執筆、編集作業を行い、報告書を刊行した。

C 整理体制

【平成22年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：鈴木廣志）
所管課	新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課 （課長：倉地一則・課長補佐：頓所洋一・埋蔵文化財係長：渡邊朋和・主査：立木宏明）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長：山田光行）
支援組織	株式会社シン技術コンサル
調査員	細野高伯・伊比博和

【平成23年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長：鈴木廣志）
所管課・事務局	新潟市文化観光・スポーツ部文化財センター （所長：高橋 保・所長補佐：丸山徳幸・主任：渡邊朋和・主査：立木宏明）
支援組織	株式会社シン技術コンサル
調査員	細野高伯・伊比博和

第IV章 遺 跡

第1節 概 要

大沢谷内遺跡1～4区は、新津丘陵と信濃川にはさまれた沖積地に所在し、現地表面での標高は4mほどを測る。周辺には近世まで「鎌倉潟」とよばれる潟が存在しており、現在は水田がひろがる。遺跡はこの水田耕作土の下から発見され、黄褐色シルト質土層に飛鳥時代・古代・中世の遺跡（上層遺跡）、間層をはさんでその下の灰色シルト質土層に縄文時代晩期中葉段階の遺跡（下層遺跡）が形成されている。上層遺跡の遺構分布範囲における平均標高は3.25m、下層遺跡では生活面が2面存在し、上面が3.00m、下面が2.90mを測る。上層遺跡の遺物包含層は鎌倉潟の潟底堆積物の名残と考えられる未分解有機物層の下位に存在するが、近現代のほ場整備等の土地改良により大部分が削平されており、当時の生活面もほぼ遺存しない状態であった。

遺構の概要は上層遺跡では飛鳥時代・古代を中心とした掘立柱建物、柱穴列、井戸、溝、土坑から構成される集落跡が検出され、遺跡南側には大規模な埋没谷があり、その斜面地において祭祀場が確認された。また中世における掘立柱建物、井戸も検出され集落跡が確認された。さらに遺物のみであるが弥生時代と古墳時代前期に属するものが数点出土しており、当該期の痕跡も周囲に存在することが予想される。下層遺跡からは縄文時代晩期中葉前半の短期間に営まれた掘立柱建物、住居、土坑群、焼土遺構からなる集落跡が検出された。

遺物量は遺物収納コンテナ（内法54.5×33.6×10.0cm）で512箱である。内訳は下層遺跡出土の縄文時代晩期土器が162箱、石器が92箱、アスファルト塊が10箱であり、上層遺跡出土の弥生時代の土器・石器が1箱、古墳時代～古代の土師器・須恵器が85箱、中世土師質土器・珠洲焼・陶磁器が8箱、土製品が2箱、木製品が50箱、石製品・礫が99箱、その他金属・ガラス製品が2箱、アスファルト塊が1箱である。

第2節 基本層序と旧地形の復元

A 基本層序

大沢谷内遺跡1～4区の基本層序はほぼ調査区全体に対応している。本遺跡の基本層序は盛土を除きI～VI層に大別され、11層に細分される。基本層序の位置・断面図については第12図に示し、写真は写真図版5に掲載した。

I層 旧水田耕作土

暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト層 粘性ややあり、しまりややあり。層厚は10～20cmである。

II層 旧水田床土

黄褐色（2.5Y5/3）粘質土層 粘性あり、しまりややあり。層厚は10cmほどである。

III層 未分解有機物含有層（いわゆるガツボ）

土地改良により大部分が削平をうけている。遺存地点は調査区北東側（セクション1・4）と南側の埋没谷（セクション27・28）等の低域部のみである。一部IV a層を攪拌しており、本層位下位から上層遺跡の遺物が出土している。

黒色（2.5Y2/1）シルト層 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物・未分解有機物を多量に含む。

IV層 上層遺跡文化層

IV a層 上層遺跡遺物包含層

土地改良により大部分が削平をうける。遺存地点はIII層遺存地点と同一であり、低域の調査区北東部と南側埋没谷のみで確認された。弥生時代～中世の遺物が出土している。

オリブ黒色 (5Y3/1) 粘質シルト層 粘性ややあり、しまりややあり。炭化物・未分解有機物を少量含む。

IV b 層 上層遺跡地山層

本層位上面が上層遺構掘り込み面であるが、土地改良等の削平により遺存か所は調査区北側と南側埋没谷のみである。

にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘質シルト層 粘性ややあり、しまりあり。

V 層 下層遺跡文化層

V a 層 漸移層

IV～V層の漸移層であり、上層遺跡と下層遺跡の間層となる。無遺物層である。上記IV b 層が削平されている調査区南側においては本層位上面が上層遺跡の確認面となる。

本層を境に下位層では土壌中有機成分の溶脱化が顕著である。

褐灰色 (10YR5/1) シルト層 粘性ややあり、しまりあり。炭化物粒を微量含む。

V b 層 下層遺跡遺物包含層・地山層

V b 層は3J-9 グリッドライン以北に分布し、以南ではV b1 層とV b2 層に細分される。V b1 層は下層遺跡上面段階の包含層であり、V b2 層が下層遺跡上面段階の地山である。またV b2 層は下層遺跡下面段階の包含層に該当する。3J-9 グリッドライン以北では層位的な細分は不可能であったが、遺物の接合関係・出土レベル、遺構の検出レベルの検討から上下面段階の遺物・遺構の分離が可能となった(第VII章第1節C参照)。

V b 層：灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質シルト層 砂質分が強く、白色細粒砂がラミナ状に混じるところがある。

粘性ややあり、しまりややあり。炭化物を全体的に少量含む。

V b1 層：灰色 (5Y6/1) シルト層 粘性あり、しまりややあり。炭化物を全体的に少量含む。

V b2 層：灰色 (7.5Y6/1) シルト層 V b1 層より砂質分が強い。粘性ややあり、しまりややあり。炭化物を全体的に少量含む。

V c 層 下層遺跡下面地山層

本層上面が下層遺跡下面段階の遺構確認面である。

灰色 (5Y4/1) 砂質シルト層 砂質分が全体的に強く、砂がラミナ状に混じるところがある。粘性ややあり、しまりややあり。炭化物粒を微量含む。

V d 層 基盤層

本層位より下位の河川堆積層上に堆積している離水した粘質土層である。本遺跡の基盤となる地形を形成している。

灰色 (10Y6/1) 粘質土 部分的に砂が入り込む。粘性あり、しまりややあり。

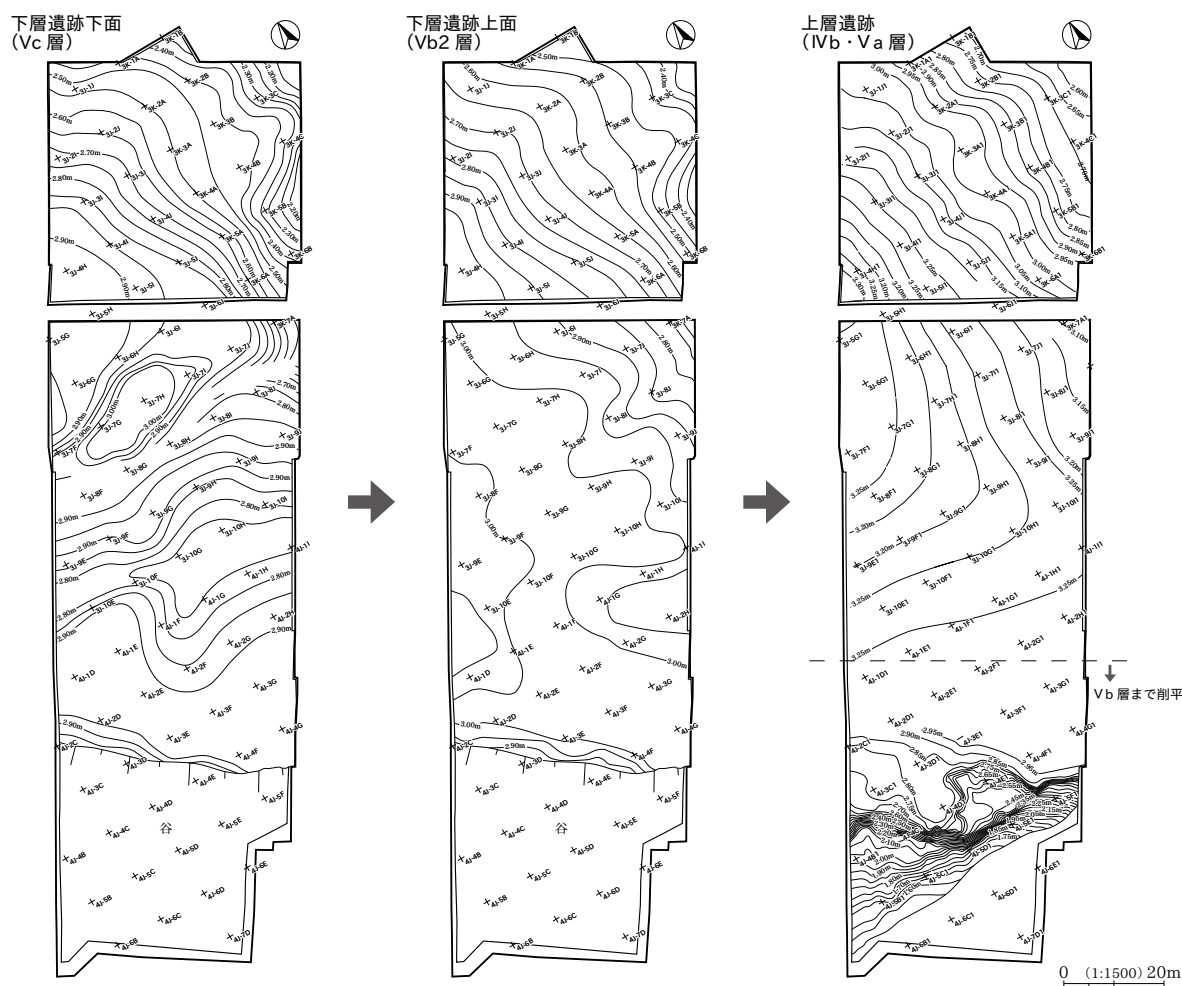
VI 層 河川堆積層

V d 層より下位層を一括する。砂質シルトを基調として砂層・粘質土層がラミナ状に互層堆積する河川堆積層である(セクション25、15層以下)。

緑灰色～青灰色 (7.5GY～5BG5/1) 砂質シルト 粘質土・白色細粒砂がラミナ状に混じる。粘性ややあり、しまりややあり。

B 旧地形の復元

第13図は下層遺跡下面(V c 層)・上面(V b2 層)、上層遺跡(IV b 層・V a 層)遺構検出面の等高線を示したものである。いずれの段階においても遺跡形成当時の地形は北東側と南側に傾斜しており、微高地上に遺跡が形成されていたことがわかる。微地形をみると、下層遺跡上面と上層遺跡の地形の概観はほぼ同じであり、V b 層の堆積により中世までの地形の形状は形成されたようである。下層遺跡下面と上面との間では微地形に変化が



第13図 大沢谷内遺跡1～4区微地形の変遷

みられる。下層遺跡下面では3J-9グリッドライン付近から4J-1グリッドライン付近が若干低地化しているが、上面段階ではほぼ平坦化している。セクション20では最も厚くV b2層が堆積しており、層厚は約0.30mを測る。

この微地形の変換点とV b層の土質が変化する境界がほぼ同一であり、3J-9グリッドライン以北ではV b層が細分し得ない。その要因として北側では覆土中の砂質分が強くラミナ状の堆積が認められ、河川性の流水作用により速い速度で堆積したためと考える。3J-9グリッド以南のV b2層も砂質分は強いが北側のV b層ほどではなく、また明瞭なラミナは認められない。北西方向からの流水が標高の低い3J-9グリッドから4J-1グリッド付近に滞水し、運ばれた土砂が拡散せずに堆積していったものとする。

本遺跡南には谷が存在する。下層遺跡の生活面を切って形成されている谷（セクション25・26）は地滑り状に形成されており、V a層にパックされている。つまり下層遺跡存続中から廃絶後のあまり時間が経過していない段階で形成されている。おそらく下層遺跡存続時には南側に並存した谷があり、下層遺跡上面段階が継続もしくは廃絶直後に地滑りにより谷際が北上したものと推察する。遺跡中には噴砂等の地震痕は認められず、この形成要因については不明である。地殻変動によるものであれば、この影響が下層遺跡廃絶要因となった可能性も想定される。上層遺跡南側の谷はガツボ層下にIV a層・IV b層・V a層が堆積しており（セクション27・28）、上層遺跡と並存している。IV a層からは祭祀木製品を中心に多量の土器等の遺物が出土しており、上層遺跡において重要な役割を担っていた場のようなものである。

第3節 下層（縄文時代）の遺構

A 遺構の概要と分類

遺構の説明は住居 SI、掘立柱建物 SB、土坑 SK、ピット Pit、小竪穴状遺構 SX、焼土遺構 SX、炭化物集中 SX、溝状地形（自然開析谷）SD、溝状遺構 SD の順に記し、遺構個別実測図版の掲載順と対応させている。

遺構番号は遺構の種別に関係なく検出順に通し番号を付した。ただし、検出段階に遺構番号を付した掘り込みで、調査の結果、攪乱と判断されたものはその番号を欠番とした。

遺構の形態分類・覆土の堆積状況については和泉 A 遺跡での分類〔加藤・荒川 1999〕を参考にしている。ただし、ピットにおいて柱痕跡がのこる堆積状況の場合は「柱痕」と分類した。

遺構図には出土遺物をドットで表示した。断面図もしくはエレベーション図における垂直分布のドット表示は投影法による。

以下に本遺跡で確認した縄文時代の遺構の概略と基本分類を記す。

1) 住 居 (SI)

住居跡の認定は、①地山面を掘り込んで床面が構築されている。②床面に炉を有する。③床面に柱穴と考えられるピットが存在する。④壁周溝を有する。という4つの条件のうち2つ以上適用できるものとした。その結果 15 軒を認定した。認定条件の組み合わせが数種類認められたため、以下のように分類する（第 15・16 図）。

A 類 浅く地山を掘り込んで床面を構築し、壁周溝がめぐる。床面には炉と柱穴を有する（認定条件①～④）。

柱穴が4本のもの（1類）と5本のもの（2類）がある。1類の4本主柱は台形状に配置され、2類は1類の台形状配置に1本突出した柱穴が加わり5角形配置となる。

B 類 床面に炉を有し、柱穴が炉を中心として二重に配置されるもの（認定条件②・③）。規模により2細分した。

B1 類 内側柱穴を結ぶ円の直径が約 3.00m、外側柱穴を結ぶ円は 5.50～6.00m の規模のもの。

SI951 には地山の掘り込みが確認されており、掘り込みが確認されなかった他の住居についても規模・構造が類似するため、実測図には SI951 の外形範囲である直径 7.00m の円を、推定外形範囲として破線表示してある。

B2 類 内側柱穴を結ぶ円の直径は約 3.00m であるが、外側柱穴の配置が B1 類より狭いもの（SI164）。

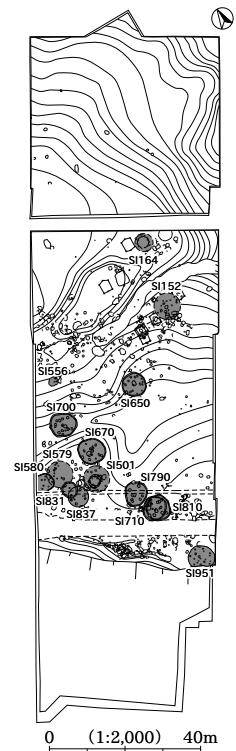
C 類 浅く地山を掘り込んで床面を構築し、柱穴を有するもの（認定条件①・③）。

主柱穴は4本で正方形に配置される。柱穴規模はいずれも掘立柱建物の柱穴と同規模であり、掘り込みが確認できなければ掘立柱建物に分類されるものである。

D 類 地山を掘り込んで床面を構築し、床面に炉を有するもの。明確な柱穴はない（認定条件①・②）。

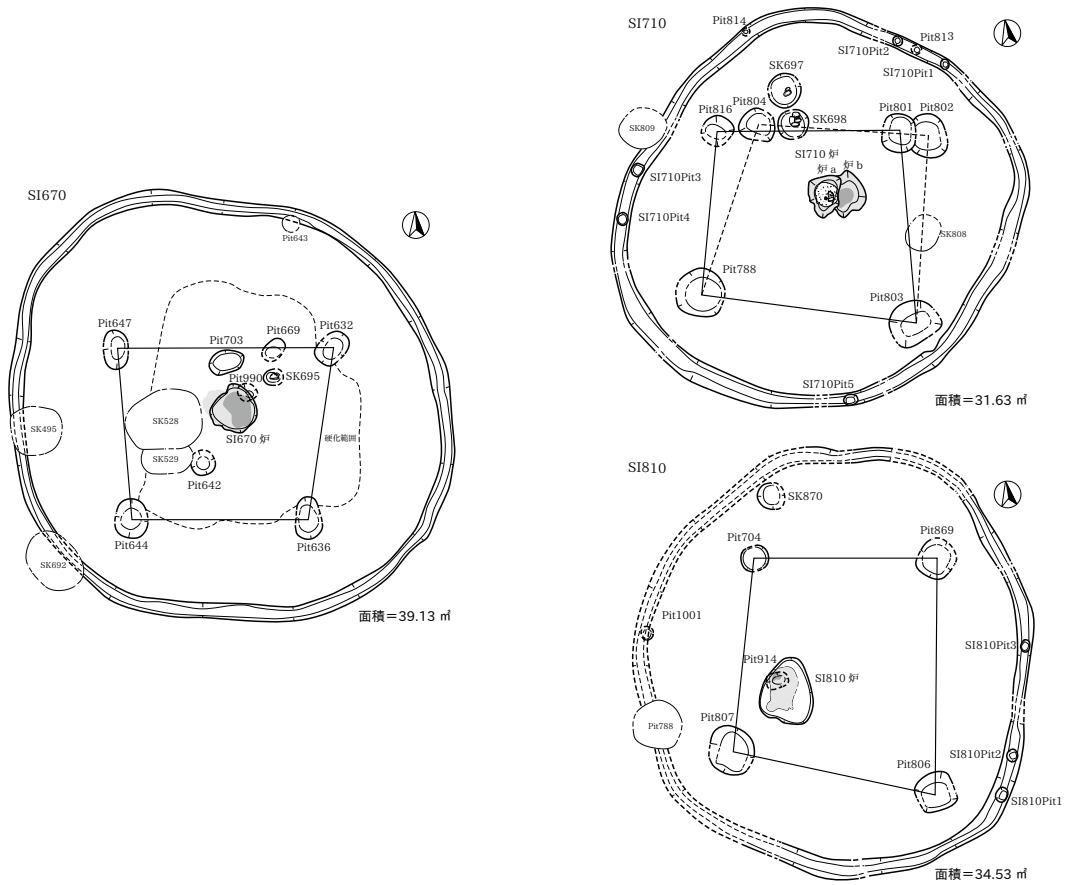
E 類 地山を掘り込んで床面を構築し、壁周溝がめぐるもの。明確な柱穴はない（認定条件①・④）。

これらの住居跡は調査区南半部に集中し、全体として東側が開口する半環状の分布となっている。V c 層検出の住居は B2 類（SI164）・C 類（SI837）・D 類（SI556）、V b2 層検出は A1 類（SI670・810）・A2 類（SI580・650・700・790）・B1 類（SI152・501・579・951）・E 類（SI831）、V b1 層検出は 1 軒のみとなり A1 類の SI710 である。

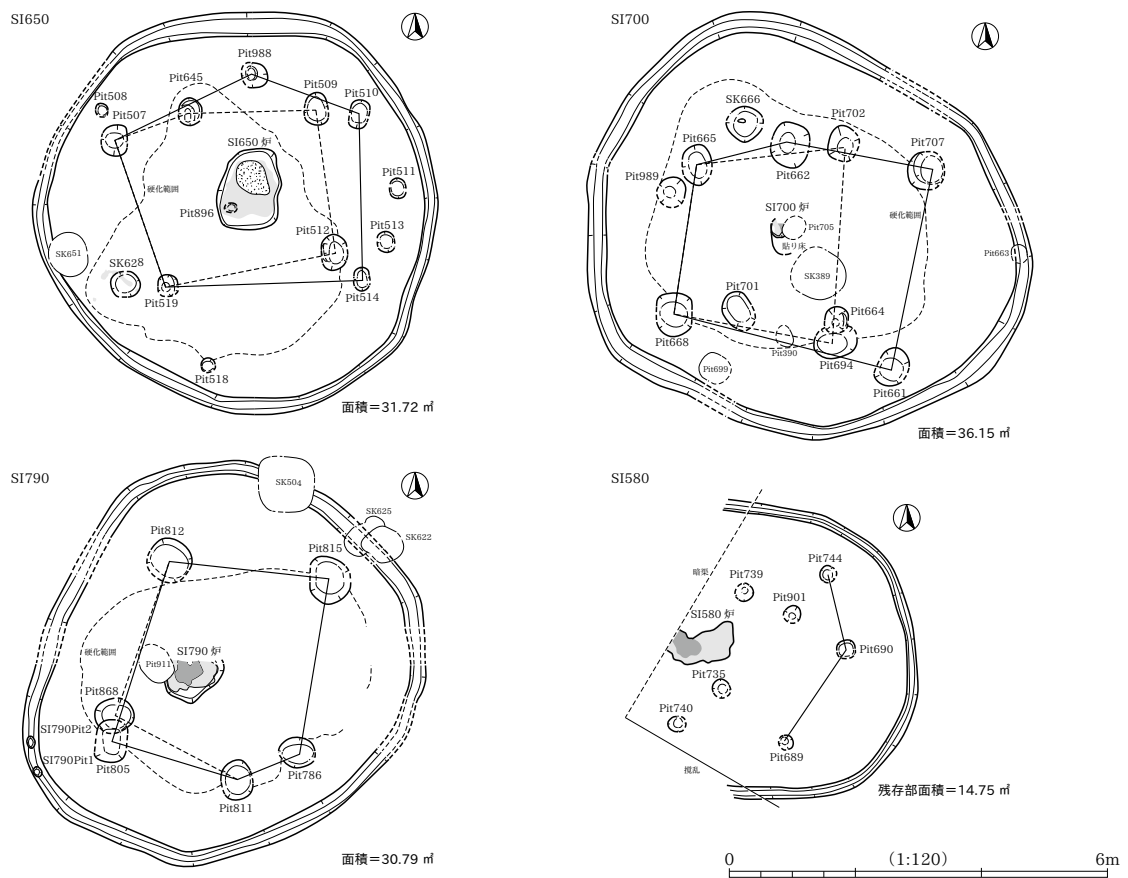


第14図 住居(SI)分布図

A1 類

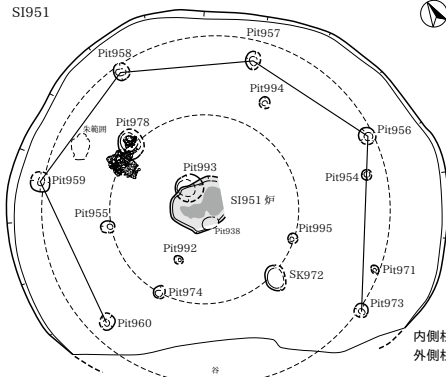


A2 類



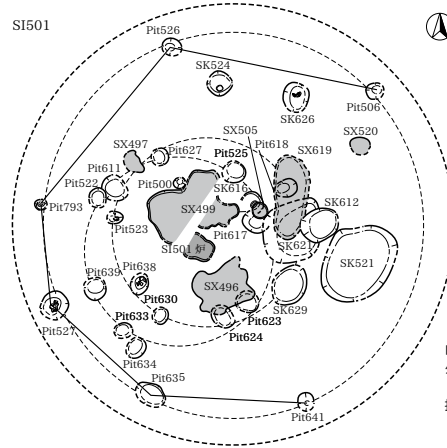
第15図 下層住居跡(SI)分類図①

B1類
SI951



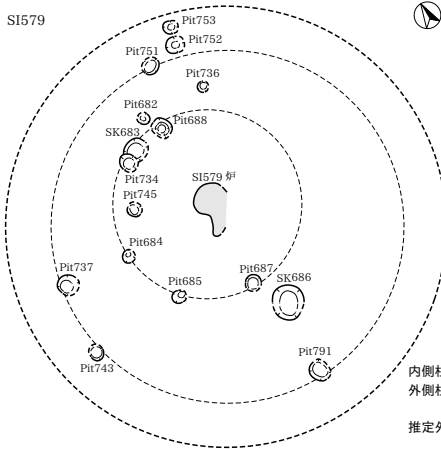
内側柱穴円：直径 3.00m
外側柱穴円：直径 5.50m
面積=23.75 m²
外形：7.03m×6.84m
面積=31.46 m²

SI501



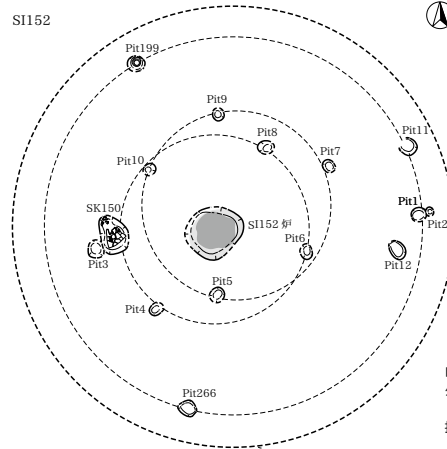
内側柱穴円：直径 3.00m
外側柱穴円：直径 6.00m
面積=28.26 m²
推定外形線：直径 7.00m
面積=38.47 m²

SI579



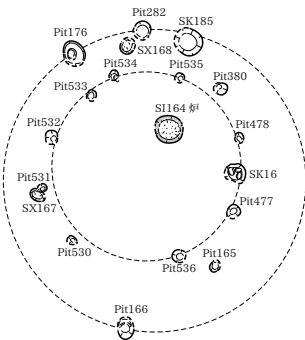
内側柱穴円：直径 3.00m
外側柱穴円：直径 5.50m
面積=23.75 m²
推定外形線：直径 7.00m
面積=38.47 m²

SI152



内側柱穴円：直径 3.00m
外側柱穴円：直径 6.00m
面積=28.26 m²
推定外形線：直径 7.00m
面積=38.47 m²

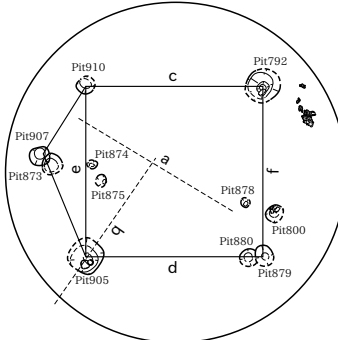
B2類
SI164



内側柱穴円：直径 3.00m
外側柱穴円：直径 4.80m
面積=18.09 m²

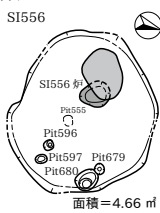
C類

SI837



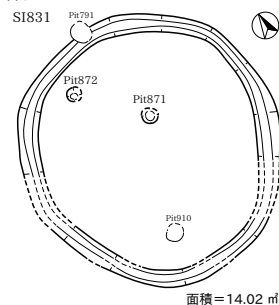
外形：直径 5.40m
面積=22.89 m²

D類

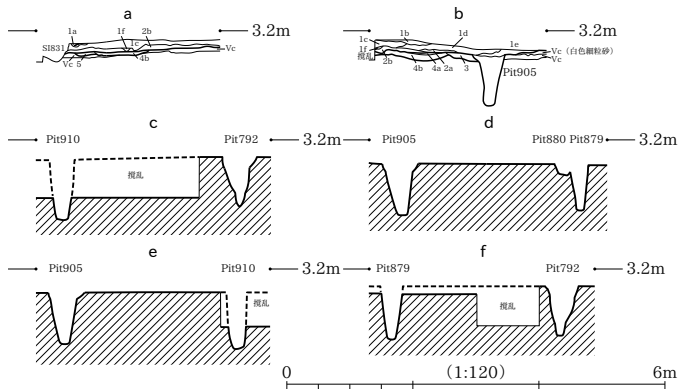


面積=4.66 m²

E類



面積=14.02 m²



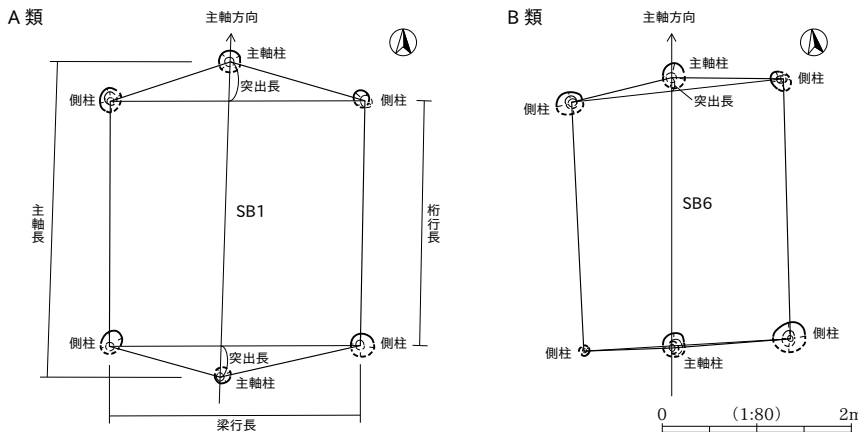
第16図 下層住居跡(SI)分類図②

2) 掘立柱建物 (SB)

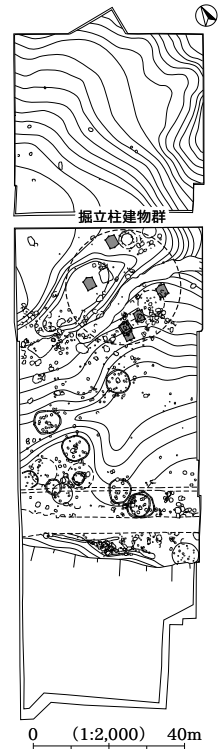
掘立柱建物の認定は、柱痕状のピットによる六角形の配置を有するものをそれとした。ただし柱穴が6基検出されない場合においても、他の柱穴の配置により建物の規模・主軸方向が復元できるものについては認定した。最低3基検出で、うち2基が主軸柱と推定できる場合である。これらを含め本遺跡で認定した建物は7棟である。建物を構成するピットには掘方がなく、断面の観察から地山が下に引き込まれている現象が確認され、打込式による構築方法が復元できた。つまり正確には掘立という名称を使うべきではないが便宜上これを用いる。柱痕の下端は砂を基調とするVI層中まで達しており、砂の締まりを利用して上屋を支えた構築法である。

掘立柱建物の分布は調査区北側（3区）に集中しており、溝状の開析谷（SD192）をはさみ北側に2棟、南側に5棟展開し、H・Iライングリッドの範囲におさまる。全てVc層検出である。

分類としては1間×1間の長方形または台形の両端に2本の主軸柱が突出する亀甲形のA類と、片方のみが突出する片亀甲形のB類がある。落棟の下屋が付随するものや、1間×1間の長方形のものは本遺跡では確認できなかった。



第18図 下層掘立柱建物(SB)分類図



第17図 掘立柱建物(SB)分布図

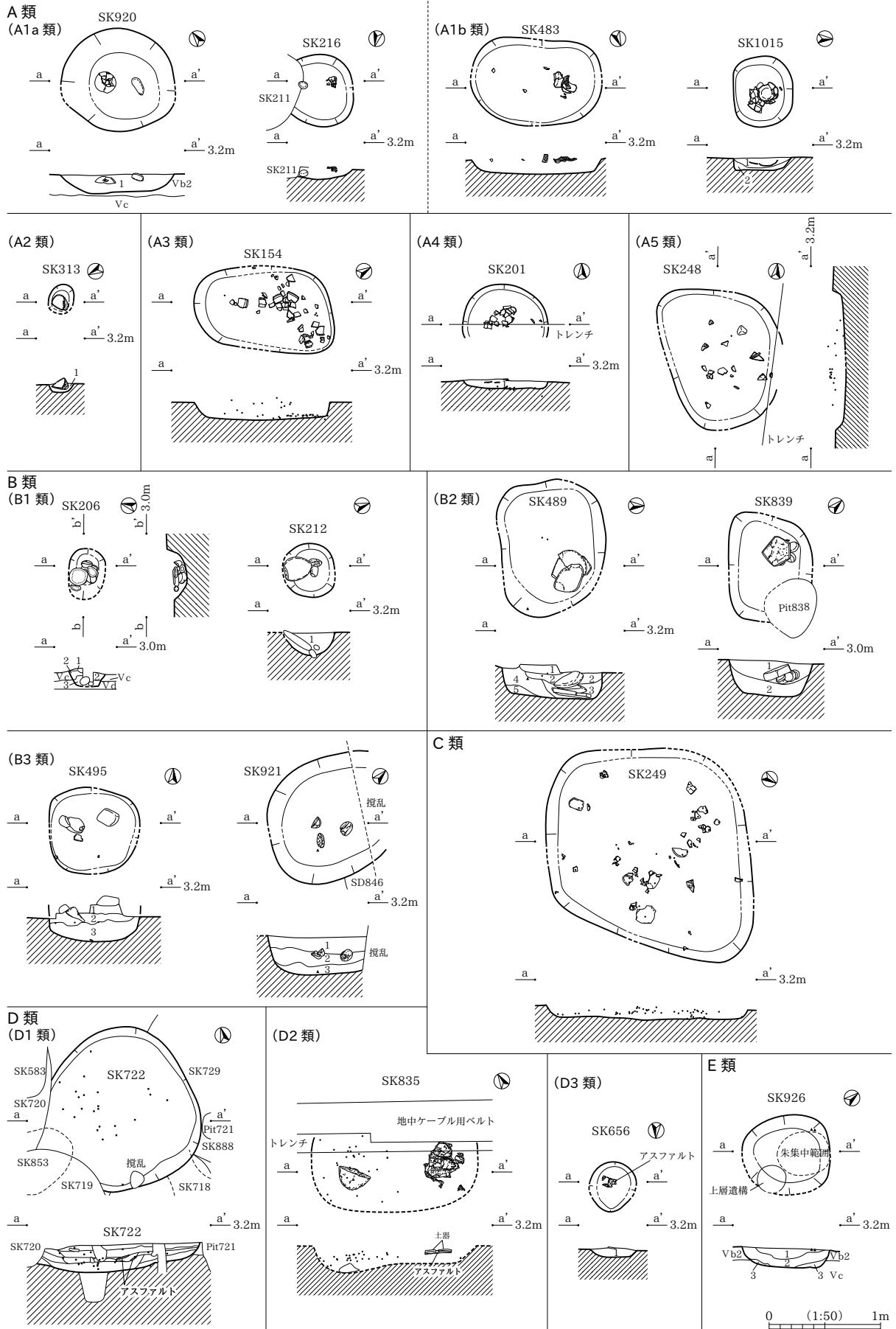
3) 土坑 (SK)

本遺跡で検出した土坑は318基を数え、調査区3・4区を中心に分布している。土坑群のうち規模・形状が確認できたものは295基である。平面形では円形87基、楕円形116基、長楕円形29基、長方形2基、隅丸方形12基、隅丸長方形15基、不整形34基となり、隅丸方形・隅丸長方形の土坑群は遺跡南側に偏る傾向が窺える。断面形は多くが弧状であり、次いで半円状、台形状、箱状があり、1基のみ袋状を呈するものがある（SK600）。堆積状況は単層とレンズ状堆積が大半であるが、シルト質土を基調とする覆土に砂や粘質土が斑状に混ざるものがあり、人為的な埋土の可能性が考慮される。大半の土坑は炭化物・炭化粒を含み、遺構検出のひとつの指標となっている。アスファルト塊や赤色顔料ブロックを含む土坑もあり、特にアスファルトの出土は本遺跡の大きな特徴である。また遺物の出土状況にいくつかのパターンが確認されたため、特徴的なパターンを示す土坑について以下のように分類する（第19図）。

A類 土器が主体的に出土する土坑

A1類 残存率の高い土器が底面から浮いて出土するもの。土圧で潰れた状態である（SK216・252・483・920・1015）。中村大氏の縄文時代晩期の土坑墓に関する認定基準〔中村2001〕のうち「(9)底面から覆土下部にかけて完形あるいはそれに近い土器が出土する土坑。(10)覆土中部から上部にかけて完形に近い土器が出土する土坑。」に該当するものである。

完形の磨石類を伴うもの（A1a類）（SK216・920）と伴わないもの（A1b類）（SK252・483・1015）がある。



第19図 下層土坑(SK)分類図

A1a類は両者とも浅鉢が逆位で覆土中からの出土である。

A2類 完形に近い土器が土器より一回り大きい土坑から出土し、埋納行為が想定されるもの。SK313の1基のみである。

A3類 残存率の高い土器が小破片の状態でもとまって出土するもの。覆土上位から出土するもの（SK178・208）と覆土内でレベル差をもって出土するもの（SK154・235）がある。磨石類・円礫が伴うものもあるが、その場合は完形ではなく、分割または破碎されている例が多い。

A4類 残存率は高くないが、土器片がまとまって出土するもの。

A5類 残存率は1～4類よりも低く、小破片が散在する、またはやや大きめの破片が出土するもの。破碎した礫・分割された磨石類・台石類が伴う例が多い。

B類 石器が主体的に出土する土坑

B1類 磨石類、石皿・台石類がそれらより一回り大きい土坑から出土し、収蔵された可能性が高いもの。底面直上か覆土下位からの出土である。「デボ遺構」〔田中英 2001〕に該当するものである。デボ遺構は複数個体出土のものが基本であるが、本遺跡では単独出土の場合であっても土坑規模が遺物に則っているものは、物を収納するために設けた施設と捉え、本類に含める。

B2類 複数個の磨石類・台石・石皿が遺構の隅からまとまって出土するもの。遺物の集積状態はB1類と同じであるが、遺物に対する土坑規模、遺物の配置が異なる。

B3類 B1・B2類以外で石器が出土するもの。散在する少数の土器片と共伴する例が多い。石鏃・不定形石器等の剥片石器を伴うB3a類と、磨石類・台石等の礫石器のみのB3b類がある。

C類 複数個体の土器破片が散在し、分割された磨石類、石皿・台石類、礫が伴うもので廃棄土坑と考えられるもの。SK249の1基のみである。土器の中にはミニチュア土器も含まれる。

D類 板状のアスファルト、またはアスファルト塊が出土する土坑。

D1類 多量のアスファルト塊と共に焼土・炭化物が廃棄されたもの。複数個体の土器片・剥片石器・磨石類・礫等も廃棄され、祭祀具も出土する。状況からアスファルトに関する作業の廃棄土坑と考えられるものである。

D2類 アスファルトが付着する土器が共伴するもの。磨石類・石皿類を伴うものがある。

D3類 D1・D2類以外でアスファルトが出土するもの。アスファルトのみが出土するもの、または少数の遺物を伴うものがある。

E類 赤色顔料の小ブロックを覆土中に含む土坑。

上記以外の土坑については無遺物もしくは土器小破片や小礫等が流入・混入した状態のものである。

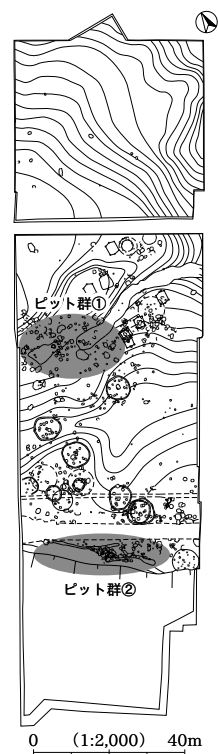
4) ピット (Pit)

ピット群が集中する場所は2か所認められ、掘立柱建物群が位置するエリアの西隣にあたる3J-7F・G、8F・Gの範囲（3区）と、本遺跡遺構分布範囲の最南端である4J-3ライン（4区南）に展開している。便宜上前者の一群をピット群①、後者をピット群②とした（図版74・76）。

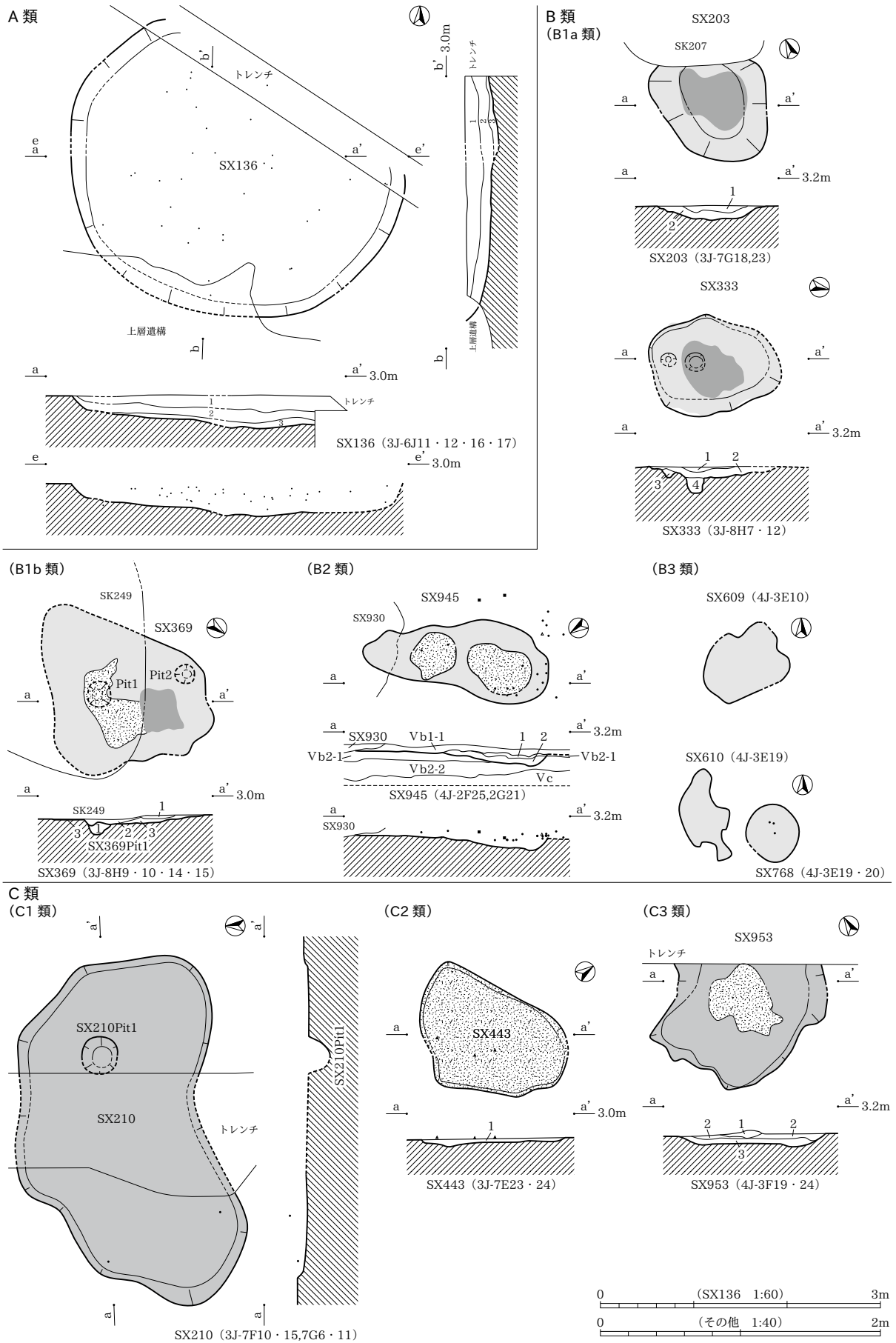
個々のピットの形状は以下の2種類に大きく分類される。

A類 柱痕、杭痕、柱穴と考えられるもの。掘方を有さない打込式によるものが大半である。

B類 A類以外のもの。形状が小土坑状となるもので、基本的に深度が平面規模より浅いか同等のものである。



第20図 ピット (pit) 分布図



第21図 下層性格不明遺構(SX)の分類図

上記A類は規模・深度により2細分される。遺構検出面からの深度が0.40m以上あり、掘立柱級の規模を有するもの（A1類）、遺構検出面からの規模が0.40m未満であり、A1類より一回り小さい規模のもの（A2類）がある。B類についてはデゴ遺構（土坑B1類）以外の土坑の最小規模を考慮し、基本的に直径が0.40m以下のものとした。

5) 性格不明遺構（SX）

機能・用途等の性格が明確でない一群である。大きく以下のように分類した（第21図）。

A類 小竪穴状遺構。竪穴住居状の掘り込みを有する遺構であるが、住居として認定される付帯施設を伴わないもの。

B類 焼土遺構。火の使用痕跡が認められるものである。

B1類 焼土が残り周囲に被熱範囲、または炭化物集中範囲が認められるもの。地山面を掘り込み火床面を構築する（B1a類）と地山面を火床とする（B1b類）がある。B1b類では焼土の残りが非常に僅かなものがある。

B2類 被熱痕と焼土ブロック・炭化物の混合土からなるもの。

B3類 地山面に被熱痕のみが認められるもの。

C類 炭化物集中範囲。その場における火の使用痕跡は認められず、炭化物を中心に焼土ブロック・灰等の混合土範囲が認められるものである。炉土の廃棄に関する遺構と考えられる。

C1類 炭化物範囲のみのもの。

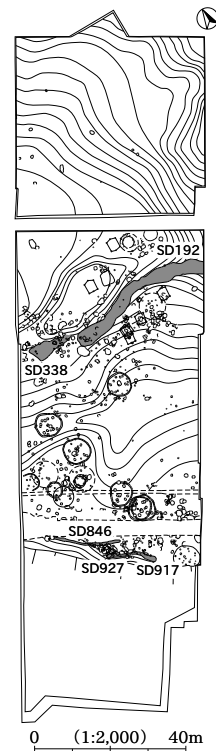
C2類 焼土ブロック・灰・炭化物・被熱した地山土のブロック等の混合土。

C3類 炭化物範囲に焼土ブロック等の混合土が認められるもの。

6) 溝状遺構（SD）

溝状遺構には自然の開析により生じたものと、人為的掘り込みにより構築されたものの2者があり、前者は厳密に言えば遺構ではないが、利用の痕跡が著しく認められるためSDの項で記載した。SD192・338が自然の営力により生じた細長い開析谷と考えられ、一部掘削された可能性を含むものである。SD192・338は一連のもの可能性がある。SD192・338は調査区ほぼ中央、遺構分布範囲の北側（3J-6E・7F～J・8G）に位置する。周囲には掘立柱建物群、焼土遺構群が集中して分布しており、これらの遺構群との有機的な関連が想定される。

人為掘削によるものは調査区南側の4J-2C・D、3C・D・E、4Eに位置しており、SD846・917・927の3条がある。ピット群②と土坑群と重複し、これらより古い段階に構築されている。本遺跡遺構分布範囲の最南端に位置し、集落の境界となっている。



第22図 溝状遺構(SD)分布図

B 遺構各説

1) 住居（SI）

SI164（図版12・19・20、写真図版8・9）

位置：3J-6I8～10・17～20に位置する。住居分布の中で最北端に位置している。SB1が隣接する。

遺構の確認と調査：平成20年度調査においてVc層上面にて炉を検出し、当初屋外炉と認識していたが翌年度の調査において炉跡周辺を面下げ調査したところ、環状に分布する柱穴群が検出されたため、炉を有する住居跡と判断した。

形状・規模等：内側ピット群直径3.00m、外側ピット群推定直径4.80m（第16図）。

壁面：検出されなかった。

床面：地山を床面としている。

柱穴：深度・形状から内側ピット群のうち、Pit380・477・478・530～536の10基、その外側のPit166・176の2基と考える。内側柱穴群のみの円形の掘立柱建物の可能性もある。

炉：浅い掘り込みの地床炉である。焼土の堆積は少ないが被熱層が確認できた。

主軸方位：炉が片寄る北側を奥壁、間隔の空くPit530とPit536の間を入口とするとN-15°-E。

他の付帯施設：住居内デポ遺構（SK16）がある。磨石類3点（s1～3）が収蔵されていた。

遺物：主に床面レベルから浅鉢（p1）、深鉢（p2～4・100・102）、深鉢類胴部・底部片（p5・6）、その他土器片33点、磨石類（s1～3）、破碎礫2点が出土している。

住居分類：B2類。

SI556（図版13・21、写真図版10・11）

位置：3J-8E8・9、13・14に位置する。

遺構の確認と調査：Vc層上面にて焼土ブロック・炭化物が集中する範囲が認められたためトレンチ調査を行ったところ、掘方に埋土をして床面を構築し、炉を有する小型の竪穴住居であることが判明した。

形状・規模等：長軸2.75m、短軸2.32mの楕円形を呈する。覆土は5層のレンズ状堆積であり、埋没過程の窪地に焼土・炭化物を廃棄している。

壁面：全周確認され、遺構検出面から床面までの深さは約0.18mである。

床面：掘方埋土を床面とする。

柱穴：床面東寄りに4基のピットを検出した。うち柱穴としての機能が想定し得るものはPit680のみである。

炉：床面中央やや北西寄りに位置する。明確な掘方をもたない地床炉である。焼土の上面に薄い炭化物層の広がりを確認した。

主軸方位：平面形と炉の位置からN-82°-E。

遺物：床面、またはやや床面から浮いた状態で鉢（p7）、深鉢類胴部片（p8）、その他土器片5点、石鏃（s4・5）が出土している。

住居分類：D類。

SI831（図版15・22、写真図版12）

位置：3J-10D23・24、4J-1D3・4・8・9に位置する。SI837を切り、SI579に切られる。

遺構の確認と調査：Vb2層上面で検出した。南側を攪乱により削平されており、壁面に炭化物の集中層を確認したため壁面を観察したところ、掘方と壁周溝を有する住居跡であることが判明した。

形状・規模等：長軸4.50m、短軸4.16mのほぼ円形を呈する。覆土は4層のレンズ状堆積である。地山を床面としている。

壁面：全周確認され、遺構検出面から床面までの深さは0.15～0.18mを測る。

床面：掘り込んだ地山面を床面としている。壁面に沿って壁周溝が全周し、床面からの深さは約0.10mを測る。

柱穴：床面中央北寄りと北西壁際に2基のピットを検出した。いずれのピットも浅く柱穴としての機能は不明である。

炉：焼土、被熱痕等は確認できなかった。

主軸方位：平面形からN-3°-W。

遺物：やや床面から浮いた状態で浅鉢（p37・39・54）、深鉢類胴部片（p38）、その他土器片16点、剥片3点が出土している。

住居分類：E類。

SI152（図版14・23・24、写真図版13・14）

位置：3J-7I21・22、8H5・10、8I1～3・6～8・11・12に位置する。SK140・141・263・264・271・311・312と重複するが、新旧関係は不明である。

遺構の確認と調査：V b層下面にて焼土遺構を検出し、V c層上面まで下げた段階でピット群を検出した。炉跡を中心に柱穴群が二重に配置される住居跡と判断した。

形状・規模等：内側のピット群を結ぶ円の直径は約3.00m、外側の円は直径約6.00mを測る。

壁面：検出できなかった。

柱穴：内側柱穴群は7基であり、いずれも浅く、4・5基単位で一度上屋の改築が行われた可能性がある（第16図）。外側はPit11・199・266の3基を柱穴と考えるが非常に浅い。配置は不明である。

炉：床面中央に位置する地床炉である。SI580と同様に床面よりやや高く構築されている。明確な掘方を有し、粘質土により火床が構築されている。

主軸方位：不明。

遺物：床面レベルから深鉢（p9～13）、深鉢底部片（p14・15）、その他土器片23点、磨石類（s6）、敲石（s7）、石皿・台石類（s8）、U・F1点、剥片2点、碎片2点、残核1点、破砕礫20点、礫7点が出土している。

住居分類：B1類。

SI700（図版13・25・26、写真図版15・16）

位置：3J-8E15・20、9E6～8・11～14・16～19・22に位置する。SK389、Pit390・663・699・705に切られる。

遺構の確認と調査：暗渠の壁面にて焼土と炭化物層の広がり確認された。そこで壁面と平面の精査を行ったところV b2層中から掘り込まれた竪穴住居であることが判明した。

形状・規模等：長軸7.29m、短軸6.30mのやや歪んだ円形を呈する。覆土は単層である。

壁面：全周確認され、遺構検出面から床面までの深さは約0.08mである。

床面：掘方埋土を床面とする。長軸約4m、短軸約3.50mの範囲で周辺と若干しまりが異なる硬化範囲が確認された。壁面に沿って壁周溝が全周し、床面からの深さは0.15～0.20mを測る。

柱穴：10基のピットを検出した。いずれも規模はほぼ同等であるがPit664・989がやや小規模である。炉が造り替えられていることから最低一回の改築が考えられ、炉を中心に据えると仮定した場合、ピットの配置から改築前の支柱穴はPit665・668・694・702の4本が妥当であり、改築後はPit665・668の継続使用と新規のPit661・707の4本、または北側に突出したPit662を加えた5本支柱の可能性が考えられる（第15図）。この改築については拡張の可能性もあるが、東側で旧住居の壁周溝が確認されなかったため、上屋・柱穴のみの建替えの可能性もある。改築するまでの断絶期間の有無は不明である。

炉：床面ほぼ中央に位置する。明確な掘方を有し、粘質土により火床が構築されている。炉は明確に造り替えられており、旧炉（炉b）を新炉（炉a）が切り、旧炉の上に粘質土による貼床を施している。

主軸方位：柱穴配置から（旧）N-7°-E。（新）N-0°。

その他の付帯施設：住居内デポ遺構（SK666）がある。磨石類1点（s10）が出土している。

遺物：床面直上から浅鉢（p16）、深鉢（p17）、その他土器片4点、不定形石器（s9）、磨石類（s10）、石皿・台石類（s11）、敲石（s12）、礫11点が出土している。

住居分類：A2類。

SI650（図版14・27・28、写真図版17・18）

位置：3J-9G7～9・11～14・16～19・22・23に位置する。SK651に切られる。

遺構の確認と調査：セクションベルト壁面にて焼土と炭化物層の広がり確認された。そこで壁面と平面の精査を行ったところV b2層上面から浅く掘り込まれた竪穴住居であることが判明した。

形状・規模等：長軸6.62m、短軸6.20mの円形を呈する。覆土は単層である。

壁面：南北のセクションベルトでのみ確認できた。遺構検出面から床面までの深さは約 0.08m である。

床面：掘方埋土を床面とする。長軸 4.20m、短軸 3.80m の範囲で周辺と若干しまりが異なる硬化範囲が確認された。壁周溝が全周し、床面からの深さは 0.15 ～ 0.18m を測る。

柱穴：床面から 12 基のピットを検出した。うち規模・配置から主柱穴の機能が想定されるのが Pit507・509・512・519 の 4 本であり、これに北側に突出した Pit645 を加えた 5 本主柱と考える。壁際のピット群は補助柱穴と考えられるが Pit510・514 がやや内側に位置し、北側に突出した Pit988 と合わせるとやや規模の大きい 5 本主柱の配置となる（第 15 図）。1 回の改築が想定され、この場合は上屋の建替えであろう。

炉：床面ほぼ中央に位置する。長軸 1.42m、短軸 1.06m の規模の大きな隅丸長方形の地床炉である。明確な掘方を有し、粘質土により火床が構築されている。ただし焼土の残りは少なく火床の被熱痕と焼土・灰・炭の混合土がわずかに検出されたのみである。

主軸方位：柱穴配置から（旧）N-10° -W。（新）N-0°。

遺物：床面直上から深鉢（p18）、底部片（p19）、その他土器片 1 点、礫 2 点が出土している。

住居分類：A2 類。

SI579（図版 15・29・30、写真図版 21・22）

位置：3J-10D8 ～ 10・12 ～ 15・17 ～ 20・23 ～ 25 に位置する。SI580・831 と重複し、これらを切る。

遺構の確認と調査：V c 層上面まで下げた段階で焼土遺構とピット群を検出し、炉跡を中心に柱穴群が二重に配置される住居跡と判断した。SI951 と同様の浅い掘方を有すると考えられ、また床面・炉跡レベルが SI580 と同じため掘り込み面は V b2 層であろう。

形状・規模等：内側のピット群を結ぶ円の直径は 3.00m、外側の円は直径約 5.50m を測る（第 16 図）。

壁面：検出できなかった。

床：調査時には掘方埋土は認識できなかったが、面下げの結果、遺物の出土と接合状況から床面構築の可能性が高い。

柱穴：内側柱穴群は西側半分に片寄って検出され、Pit682・684・685・687・688・745 の 6 基である。外側は Pit737・743・751・791 を柱穴と考えるが、Pit791 は非常に浅い。配置は不明である。

炉：床面中央に位置する。明確な掘方をもたない地床炉である。焼土の残りはわずかで被熱痕が検出された。

主軸方位：不明

遺物：床面下から浅鉢（p26・27）、床面直上から深鉢（p28～30）、底部片（p31～33）、その他土器片 20 点、石鏃（s13）、不定形石器（s14）、残核 1 点、剥片 3 点、破碎礫 1 点、礫 4 点が出土している。

住居分類：B1 類。

SI580（図版 15・29・30、写真図版 19・20）

位置：3J-10C15・20、10D11・12・16・17・21・22 に位置する。SI579 と重複し、これに切られる。

遺構の確認と調査：V b2 層精査中に遺物の集中、焼土、炭化物が認められたため住居の存在を想定し、これらの分布範囲を中心として十字ベルトを設定し面下げ調査を行った。当初焼土以外は検出されなかったが、焼土面より若干下げたレベルでピット・壁周溝が確認でき、浅い掘り込みによる竪穴住居であることが判明した。

形状・規模等：西側が調査区外までのびるため全体形は不明である。残存する部分の南北軸は 4.50m を測る。覆土は単層である。

壁面：平面では確認できず、ベルト部分でのみ確認できた。遺構検出面から床面までの深さは約 0.08m を測る。

床面：掘方埋土を床面とする。

柱穴：検出されたピットはいずれも小規模である。配置から Pit690 が東側に突出した 5 角形配置を想定し、Pit689・690・744 の 3 本と調査区外に 2 本の存在を仮定した（第 15 図）。

炉：調査区外周の暗渠に切られ全体形は不明である。粘質土により火床が構築された地床炉であるが、SI152

と同様に床面より若干高い位置に構築されている。

主軸方位：柱穴配置と調査か所の形状から N-76° -W。

遺物：床面直上またはやや浮いた状態で深鉢（p18・21）、浅鉢（p20・26・27）、深鉢類（p22～25）、その他土器片 39 点、石鏃（s15・16）、砥石（s17・19）、磨石類（s18）、加工痕のある礫石器（s20）、礫 1 点が出土している。

住居分類：A2 類。

SI670（図版 15・31・32、写真図版 23・24）

位置：3J-10E7～10・12～15・18～20・23・24 に位置する。SK495・528・529・692、Pit643 に切られる。

遺構の確認と調査：V b2 層の面下げ・精査中に焼土遺構を検出した。トレンチ調査によりピット・壁周溝が確認されたため住居と判断した。

形状・規模等：長軸 7.63m、短軸 6.97m の円形を呈する。覆土は砂・粘質土ブロックが若干混ざるシルト質土の単層がわずかに確認された。

壁面：セクションベルト壁面にて 0.05m ほどの非常に浅い壁面が確認された。

床面：掘方埋土を床面としている。長軸 3.75m、短軸 3.30m の範囲で周辺としまりの異なる硬化範囲を確認した。

柱穴：床面から 6 基のピットを検出した。うち柱穴としての機能が推定し得るものは Pit632・636・644・647 の 4 基である。Pit632 が東側にやや突出した台形状の配置である（第 15 図）。

炉：床面中央やや北寄りに位置する。浅い掘方に粘質土を貼り火床としている。焼土がわずかに残る。炉の下から Pit990 を検出した。

主軸方位：柱穴配置と炉の位置から N-2° -E。

その他の付帯施設：住居内デポ遺構（SK695）がある。石皿・台石類 1 点（s22）が出土している。

遺物：壺（p34・35）、底部片（p36）、その他土器片 2 点、軽石（s21）、石皿・台石類（s22）が出土している。

住居分類：A1 類。

SI837（図版 15・33・34、写真図版 25～27）

位置：4J-1D3～5・7～9・13～15・18～20 に位置する。SI831 と重複し、切られている。

遺構の確認と調査：V b2 層上面にて焼土ブロック・炭化物が集中する範囲が認められたためトレンチ調査を行ったところ、掘方に埋土をして床面を構築した竪穴住居であることが判明した。住居の掘り込みは非常に浅く、その浅い窪地に焼土・灰・炭化物を多量に含んだ土を投棄し、盛土状になった状態で住居が廃絶されていた。住居の掘り込み面は V c 層上面である。

形状・規模等：平面形が円形と推定とした場合、掘り方の直径は約 5.20m を測る。覆土は大きく 2 層に分けられ、焼土・炭化物の含有量により細分できた。住居西側は住居外にも焼土・炭化物・遺物が廃棄されている。

壁面：b - b' セクションベルトでのみ確認できた。非常に浅く、掘り込み面から 0.04m 足らずである。

床面：掘方埋土を床面としている。

柱穴：11 基のピットを検出した。うち Pit792・879・905・910 の 4 基はいずれも掘立柱級の規模であり、ほぼ正方形に配置する。さらに西側に位置する Pit907 も底面レベルがほぼ同じであり、主柱配置は五角形になると考えられる（第 16 図）。Pit792・905 は他の柱穴に比べ上部がひらいており、住居廃絶時に柱が折り取られるか抜き取られたためと考える。そして、その窪みに Pit792 からは石皿・台石類（s30）、Pit905 からは磨石類（s27）、石皿・台石類（s31）が納められた状態で出土している。

炉：検出されなかった。

主軸方位：柱穴配置から N-90°。

遺物:覆土中から動物形土製品 (p40)、壺 (p41)、浅鉢 (p42・43)、深鉢 (p44～51・192)、その他土器片 85 点、石鏃 (s23)、不定形石器 (s24・26)、両極剥離痕のある石器 (s25)、磨石類 (s27)、砥石 (s28)、敲石 (s29)、石皿・台石類 (s30・31)、剥片 8 点、碎片 7 点、残核 2 点、礫 10 点、アスファルト塊 4 点、赤色顔料ブロック 1 点、焼骨 2 点が出土しており、床面北東隅から板状のアスファルト 1 点が出土している。

住居分類：C 類。

SI501 (図版 15・35・36、写真図版 28・29)

位置：3J-10E21～23、4J-1D5、1E1～3・6～8・11～13 に位置する。SK579・640、SX760 を切り、SK484、SX757・758 と重複するが新旧は不明である。

遺構の確認と調査：V b2 層中にて焼土遺構と炭化物集中を検出し、V c 層上面にてピット群を検出した。その結果、柱穴が二重に配置された住居であることが判明した。

形状・規模等：掘方は検出されず、外側の柱穴群が直径 6.00m の円上に配置されている。SI951 と同規模の直径約 7.00m の掘方を有するものと推定する (第 16 図)。

壁面：検出されなかった。

床面：掘方埋め土等は確認できなかった。

柱穴：外側の柱穴は Pit506・526・527・635・641・793 の 6 基が検出された。東側に 1 基想定すると、炉がやや西寄りな点から Pit527 を奥壁側の柱穴とした、SI951 と同様の 7 角形の柱穴配置が復元できる (第 16 図)。内側の柱穴群は多数検出され直径 3.00m の円が重複するような配置となっており、上屋の改築が予想される。

主軸方位：N-117°-W。

炉：床面中央やや北西寄りに位置する。明確な掘方をもたない地床炉である。住居内の遺物の出土状況から周辺床面がやや低く、SI152・580 と同様に炉がやや高い位置に構築されている可能性がある。

他の付帯施設：住居内デポ遺構が 2 基ある (SK524・616)。磨石類 (s33・34) が埋納されていた。

遺物：浅鉢 (p52・54)、底部片 (p53)、その他土器片 8 点、磨石類 (s33・34)、不定形石器 (s35)、剥片 1 点、碎片 2 点、礫 1 点、アスファルト塊 2 点が出土している。

住居分類：B1 類。

SI790 (図版 16・37・38、写真図版 30・31)

位置：4J-1E24・25、1F16・21・22、2E4・5・9・10、2F1・2・6・7 に位置する。SK504・622・625、Pit911 に切られる。

遺構の確認と調査：遺構確認トレンチにて焼土と炭化物の広がり認められたため壁面の精査を行ったところ、壁周溝を有する非常に浅い掘り込みによる竪穴住居であることが判明した。遺構掘り込み面は V b2 層上面である。

形状・規模等：長軸 6.75m、短軸 6.23m の円形を呈する。覆土は単層。

壁面：東側が攪乱による削平のため失われている。遺構検出面から床面までの深さは約 0.08m である。

床面：掘方埋土を床面としている。長軸 4.30m、短軸 3.20m の範囲でしまりが周辺とは異なる硬化範囲が確認された。また壁面に沿って壁周溝が全周している。壁周溝の南西部から 2 基の小ピットを検出した。

柱穴：6 基のピットを検出した。南側の Pit811 が突出した 5 角形の配置となる。Pit805・868 が重複しており、柱の建替えが 1 回行われている (第 15 図)。

主軸方位：N-7°-E。

炉：床面中央やや南寄りに位置する。明確な掘方を持ち、粘質土により火床を構築した地床炉である。

遺物：深鉢類 (p55)、その他土器片 22 点、敲石 (s32)、石皿類 (破片) 1 点、礫 5 点、アスファルト塊 1 点が出土している。

住居分類：A2 類。

SI710 (図版 16・39・40、写真図版 32・33)

位置：4J-2E15・20、2F5・6・11～13・16～18・21～23に位置する。SI810と重複し、これを切る。

遺構の確認と調査：V b2層の面下げ・精査中に電線ケーブル用ベルトの壁面にて焼土遺構を検出した。トレンチ調査によりピット・壁周溝が確認されたため住居と判断した。壁面の精査により遺構の掘り込み面はV b1層であることを確認した。

形状・規模等：長軸 6.15m、短軸 5.60m の円形もしくは隅丸方形である。覆土は白色砂が若干混ざるシルト質土の単層である。

壁面：セクションベルト壁面にて 0.10m ほどの浅い壁面が確認された。

床面：掘方埋土を床面としている。壁面に沿って壁周溝が全周し、壁周溝底面から小ピットが7基検出された。

柱穴：床面から6基のピットを検出した。Pit801・802が重複し、Pit804・816が隣接することから1回の改築が想定された。炉跡も重複しており西側の炉 a が新しく、重複する Pit801・802 も西側の Pit801 が新しいことから改築後は若干西側にずらして配置されたことが判明した。Pit788・803は継続使用され、旧配置では Pit802・804 と炉 b、新配置では Pit801・816 と炉 a の組み合わせとなり、いずれも4本主柱の台形状配置となっている（第15図）。

主軸方位：柱穴配置から（旧）N-9°-E。（新）N-10°-E

炉：床面中央やや北寄りに位置する。小規模であるが浅い掘方に粘質土を貼り火床としている地床炉である。旧炉には片付けられた痕跡がなく焼土が残っていたが、新炉には焼土の堆積は認められず焼土ブロック・炭・灰の混合土中に遺物が廃棄された状態であった。

その他の付帯施設：住居内デポ遺構が2基ある（SK697・698）。磨石類、石皿・台石類が収蔵されている（s37～39・41・43～45）。

遺物：浅鉢（p56）、深鉢（p57～62）、底部片（p63）、その他土器片76点、石鏃（s36）、磨石類（s37～41・43）、敲石（s42）、石皿・台石類（s44～46）、剥片1点、礫9点、アスファルト塊5点が出土している。

住居分類：A1類。

SI810（図版16・41・42、写真図版34・35）

位置：4J-2F11～13・16～19・21～23、3F2・3に位置する。SI710と重複し、これに切られる。

遺構の確認と調査：V b2層の面下げ・精査中に電線ケーブル用ベルトの壁面にて SI710 を確認し、さらに重複するかたちでもう1軒の床面・壁周溝を確認した。SI710の掘方完掘時に炉跡を検出し、SI710と重複する古い住居跡 SI810の存在が明らかになった。V b2層上面からの掘り込みを確認した。

形状・規模等：長軸 6.60m、短軸 6.10m の円形を呈する。住居内覆土は SI710 と重複していない東側部分のみで確認できた。砂が若干混ざるシルト質土の単層である。

壁面：セクションベルト壁面にて約 0.08m の浅い壁面が確認された。

床面：掘方埋土を床面としているが、SI710 重複部分は SI710 の掘方により削平されている。周溝については全周確認された。

柱穴：床面から4基のピットを検出した。Pit806が南側に突出した台形状配置となる（第15図）。

主軸方位：N-6°-E。

炉：床面中央南東寄りに位置する。浅い掘方に粘質土を貼り火床としている地床炉である。炉の上面は SI710 により削平され、火床の被熱痕のみの検出である。炉の下から小ピットが検出された。

遺物：深鉢（p59）、鉢（p64）、浅鉢（p65）、胴部片（p66・67）、その他土器片24点、剥片1点、礫2点が出土している。

住居分類：A1類。

SI951（図版16・43・44、写真図版36～40）

位置：4J-4F2～5・7～10・12～15・19・20に位置する。Pit939に切られる。南西側は地滑りにより

形成された谷によって壊されている。

遺構の確認と調査：V b2 層上面にて炭化物が散在する範囲が認められたためトレンチ調査を行ったところ、掘方に埋土をして床面を構築し、炉を有する竪穴住居であることが判明した。

形状・規模等：直径約 7.00m の円形と推定する。

主軸方位：Pit954・971 間を入口と考えると N-53° -W。

壁面：南西側以外確認され、遺構検出面から床面までの深さは約 0.05m である。

柱穴：炉を中心として二重に配置される。外側の柱穴は Pit956～960・973 の 6 基が直径 5.50m の円上に配置され、内側の柱穴は西側にかたより Pit955・974・978・995 の 4 基が直径 3.00m の円上に配置されている。東側の Pit956・973 の間が他の柱穴間より広くあき、その間に小規模な Pit954・971 が位置しているためここを入口部と推測する。外側の柱穴配置は、南側攪乱部に 1 基の柱穴を想定した場合、Pit956・973 間を入口、反対の Pit959 を突出した奥壁側の柱穴とした 7 角形配置と考える（第 16 図）。

炉：床面中央やや北西寄りに位置する。浅い掘方に粘質土による炉床が構築してある地床炉である。

遺物：床面直上、またはやや浮いた状態で浅鉢（p68・69）、壺（p70・177）、鉢（p71）、深鉢（p72～75）、胴部・底部片（p76～78）、その他土器片 129 点、磨石類（s48・49）、不明石器（s47）、剥片 1 点、碎片 1 点、礫 1 点、アスファルト塊 7 点、板状アスファルト 1 点、赤色顔料ブロック 6 点、焼骨 1 点が出土している。板状のアスファルトは Pit978 脇に床面よりやや浮いた状態で検出され、上部が深鉢（p75）の破片で覆われていた。板状アスファルトの下部には土器片がないため、アスファルトの入った深鉢が倒れて潰れた状態ではない。

住居分類：B1 類。

2) 掘立柱建物 (SB)

SB1 (図版 11・12・45、写真図版 41・42)

位置：3J-6I1・2・6・7・11・12 にかけて位置する。

分類・規模等：主軸方向が N-3° -E で、平面形は両側の主軸柱が突出する A 類である。主軸長 3.32m、桁行長 2.59～2.60m、梁行長 2.65～2.69m を測る。主軸柱と側柱の柱間は Pit283 - Pit175 が 1.47m、Pit283 - Pit301 が 1.32m、Pit300 - Pit286 が 1.52m、Pit300 - Pit284 が 1.22m を測る。

柱穴：主軸柱は北側が Pit283、南側が Pit300 で、四隅の側柱は Pit301、Pit175、Pit284、Pit286 である。Pit300 はトレンチ底面、Pit301 は暗渠の底面にて検出した。いずれも打込式による柱であるが、Pit284 のみ 4 層に掘方埋土と考えられる覆土が観察された。

出土遺物：遺物は出土していない。

SB2 (図版 11・46、写真図版 43)

位置：3J-6H16・21・22、7H1・2 にかけて位置する。

分類・規模等：主軸方向が N-2° -E で、平面形は片方の主軸柱が突出する B 類である。柱穴は 4 基のみの検出で、東側 2 基は主軸を挟んで西側 2 基を線対称で推定配置したものである。主軸長 3.24m、桁行長 2.60m、梁行長推定 2.51～2.67m を測る。主軸柱と側柱の柱間は Pit289 - Pit287 が 1.47m、Pit462 - Pit464 が 1.25m を測る。

柱穴：主軸柱は北側が Pit289、南側が Pit462 で、四隅の側柱は Pit287、Pit464 の 2 基のみの検出である。Pit287 のレンズ状堆積の最上層には焼土ブロック・炭化物・土器の碎片・焼骨片が含まれており、柱を折り取つてできた窪地にそれらを廃棄したようである。

出土遺物：遺物は出土していない。

SB3 (図版 12・14・47、写真図版 44)

位置：3J-7I23～25・7J3～5・8～10 にかけて位置する。

分類・規模等：主軸方向が N-2° -E で、平面形は両側の主軸柱が突出する A 類である。主軸長 3.31m、桁

行長 2.65m、梁行長 2.54～2.57m を測る。主軸柱と側柱の柱間は Pit430 - Pit429 が 1.34m、Pit430 - Pit416 が 1.34m、Pit432 - Pit431 が 1.34m、Pit432 - Pit435 が 1.27m を測る。

柱穴：主軸柱は北側が Pit430、南側が Pit432 で、四隅の側柱は Pit416、Pit429、Pit431、Pit435 である。いずれの柱痕も打込式によるものである。

重複遺構：SX163 が身舎のほぼ中心に位置している。本遺構との新旧関係は不明であり、付帯施設の可能性も考慮される。

出土遺物：遺物は出土していない。

SB4（図版 14・48・49、写真図版 45・46）

位置：3J-8H7・8・12・13 にかけて位置する。

分類・規模等：主軸方向が N-4° -W で、平面形は両側の主軸柱が突出する A 類である。柱穴は 4 基のみの検出で、南側の側柱は主軸長を等分した位置で線対称に復元した。主軸長 3.03m、桁行長推定 2.23～2.43m、梁行長 2.52～2.55m を測る。主軸柱と側柱の柱間は Pit458 - Pit448 が 1.19m、Pit458 - Pit468 が 1.43m を測る。

柱穴：主軸柱は北側が Pit458、南側が Pit473 で、四隅の側柱は Pit468、Pit448 の 2 基のみである。Pit468 はトレンチ底面にて検出した。いずれも打込式による柱と考える。

重複遺構：SB 5・6 と重複するが直接新旧関係を示す根拠はない。SX331～333 とも重複するが新旧関係は不明である。

出土遺物：Pit448 から礫 1 点が出土している。

SB5（図版 14・48・49、写真図版 45～47）

位置：3J-8H7・8・12・13・17・18 にかけて位置する。

分類・規模等：主軸方向が N-2° -W で、平面形は両側の主軸柱が突出する A 類である。柱穴は 3 基のみの検出であるが、主軸方向・主軸長が判明するため掘立柱建物に認定した。南側主軸柱 Pit364 と側柱 Pit892 を基準として線対称の位置に柱穴を推定復元している。主軸長 3.06m、桁行長推定 2.71m、梁行長推定 2.39m を測る。主軸柱と側柱の柱間は Pit364 - Pit892 が 1.19m を測る。

柱穴：主軸柱は北側が Pit893、南側が Pit364 で、四隅の側柱は Pit892 の 1 基のみを検出した。Pit892・893 は最終確認面下げ調査時に VI 層にて検出した。いずれも打込式の柱と考えるが、Pit364 はテラスをもつ階段状の断面となり、柱が抜き取られた可能性がある。そのため Pit364 の覆土中には重複している焼土遺構 SX320 の焼土・炭化物が流入している。

重複遺構：Pit364 が SX320 を切っている。SB 4・6、SX331～333 と重複するが新旧関係は不明である。SX333 が身舎の中心に位置し、付帯施設の可能性がある。

出土遺物：遺物は出土していない。

SB6（図版 14・48・49、写真図版 45・47・48）

位置：3J-8H12・13・17・18・23 にかけて位置する。

分類・規模等：主軸方向が N-9° -E で、平面形は片方の主軸柱が突出する B 類である。主軸長 2.86m、桁行長 2.63～2.74m、梁行長 2.18～2.25m を測る。主軸柱と側柱の柱間は Pit472 - Pit474 が 1.18m、Pit472 - Pit479 が 1.08m、Pit539 - Pit476 が 1.26m、Pit539 - Pit540 が 0.94m を測る。

柱穴：主軸柱は北側が Pit472、南側が Pit539 で、四隅の側柱は Pit479、Pit474、Pit540、Pit476 である。Pit540 はトレンチ底面にて検出した。いずれも打込式による柱であるが、他の掘立柱建物の柱痕跡に比べて細い。

重複遺構：SB 4・5 と重複するが新旧関係は不明である。また、SX320 が身舎の中心に位置し、付帯施設の可能性も考慮される。

出土遺物：Pit479 から深鉢類 (p79)、Pit472 から土器片 1 点、アスファルト塊 1 点が出土している。

SB7（図版 14・50、写真図版 49）

位置：3J-8H9・10・14・15にかけて位置する。

分類・規模等：主軸方向がN-10°-Eで、平面形は両側の主軸柱が突出するA類である。主軸長2.86m、桁行長2.27～2.54m、梁行長2.32～2.46mを測る。主軸柱と側柱の柱間はPit419－Pit456が1.16m、Pit419－Pit449が1.40m、Pit447－Pit420が1.08m、Pit447－Pit471が1.22mを測る。

柱穴：主軸柱は北側がPit419、南側がPit447で、四隅の側柱はPit449、Pit456、Pit471、Pit420である。Pit456はトレンチ底面にて検出した。いずれも打込式による柱である。

重複遺構：Pit420がSK249に切られる。また、身舎の中心にSX369が位置し、付帯施設の可能性も考慮される。

出土遺物：Pit456から土器片1点が出土している。

3) 土 坑 (SK)

SK38 (図版9・51、写真図版50)

3J-1I24・25に位置する。Vc層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.56m、短軸0.40m、深さ0.08mを測る。覆土は単層。分割された石皿・台石類(s51)が出土している。デボ遺構のB1類である。

SK20 (図版9・51)

3J-2H15・20に位置する。Vc層で検出した。平面形は楕円形、断面形は浅い弧状である。規模は長軸0.93m、短軸0.74m、深さ0.05mを測る。覆土は単層。土器小片1点が出土している。

SK42 (図版9・51)

3J-3J12に位置する。Vc層で検出した。平面形は楕円形、断面形は浅い弧状である。規模は長軸1.24m、短軸0.91m、深さ0.12mを測る。覆土は単層。深鉢(p80)が出土している。

SK29 (図版11・51)

3J-3H2に位置する。Vc層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸推定0.63m、短軸0.50m、深さ0.13mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK19 (図版11・51)

3J-3H3・4・8・9に位置する。Vc層で検出した。平面形は不整楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.87m、短軸0.73m、深さ0.10mを測る。覆土は単層。土器小片2点が出土している。

SK31 (図版11・51)

3J-3H22に位置する。Vc層で検出した。平面形は不整円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.87m、短軸推定0.68m、深さ0.12mである。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK30 (図版11・51)

3J-3I16・21に位置する。Vc層で検出した。平面形は不整楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸2.06m、短軸0.90m、深さ0.20mを測る。覆土は2層のレンズ状堆積である。遺物は出土していない。

SK28 (図版12・51、写真図版50)

3J-4J15に位置する。Vc層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸0.55m、短軸0.52m、深さ0.18mを測る。覆土は単層。底面直上から石皿・台石類(s52)が出土している。デボ遺構のB1類である。

SK27 (図版12・51、写真図版50)

3J-4J15・20、3K-4A11・16に位置する。Vc層で検出した。平面形は円形、断面形は台形状である。規模は長軸推定0.72m、短軸推定0.57m、深さ0.20mを測る。覆土は単層。底面直上から石皿・台石類(s50)が出土している。デボ遺構のB1類である。

SK76 (図版11・51)

3J-5G7・8に位置する。Vc層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.02m、短

軸推定 0.80m、深さ 0.14m を測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK90 (図版 11・51)

3J-5H24・25、6H4・5 に位置する。V c 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.27m、短軸推定 1.00m、深さ 0.24m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積である。遺物は出土していない。

SK307 (図版 13・51)

3J-6F12 に位置する。V c 層で検出した。SK308 を切り、SK54・55 に切られる。平面形は円・楕円形と推定する。断面形は弧状である。規模は不明で、深さ 0.12m を測る。覆土は単層である。覆土上位から深鉢片 (p82・314)、土器片 1 点が出土している。

SK308 (図版 13・51)

3J-6F12・13・17 に位置する。V c 層で検出した。SK54・307 に切られる。平面形は推定楕円形、断面形は底面に凹凸のある弧状である。規模は長軸推定 1.21m、短軸推定 0.97m、深さ 0.13m を測る。覆土は単層。覆土上位から深鉢胴部片 (p83・84)、土器片 2 点、小礫 1 点が出土している。A5 類。

SK55 (図版 13・51)

3J-6F12・17 に位置する。V b 層で検出した。SK307 を切り、SK54 に切られる。平面形は推定楕円形、断面形は弧状、規模は長軸 0.82m、短軸不明、深さ 0.11m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積である。覆土中から深鉢口縁部片 (p85)、土器片 1 点が出土している。

SK54 (図版 13・51)

3J-6F12・17 に位置する。V b 層で検出した。SK55・64・307・308 を切る。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.73m、短軸 0.67m、深さ 0.10m である。覆土は 2 層のレンズ状堆積である。覆土中から深鉢口縁部片 (p81)、土器片 4 点が出土している。A5 類。

SK64 (図版 13・52)

3J-6F17・18 に位置する。V b 層で検出した。Pit304 を切り、SK54 に切られる。平面形は不整楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸不明、短軸 1.38m、深さ 0.18m を測る。覆土は単層。覆土中から深鉢胴部片 (p86)、土器片 1 点、破碎礫 1 点が出土している。A5 類。

SK57 (図版 13・52)

3J-6F21 に位置する。V b 層で検出した。平面形は推定楕円形、断面形は箱状、規模は長軸 0.70m、短軸推定 0.57m、深さ 0.17m を測る。覆土は単層。底面直上から深鉢底部片 (p87)、碎片 1 点が出土している。

SK58 (図版 13・52)

3J-6F17・21・22 に位置する。V b 層で検出した。SK60・63 を切り、SK57、Pit305 に切られる。北側と西側が攪乱により切られる。平面形は残存部分の形状から方形とした。断面形は弧状である。規模は長軸残存値約 2.08m、短軸残存値約 1.38m、深さ 0.16m の大型で浅い土坑である。覆土は単層。覆土中から壺の口縁部片 (p88)、深鉢口縁部片 (p89・90)、深鉢胴部片 (p91・92)、土器片 4 点、不定形石器 (s53)、破碎礫 1 点が出土している。A5 類。

SK63 (図版 13・52)

3J-6F22・23 に位置する。V b 層で検出した。SK58・61 に切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.32m、短軸 1.04m、深さ 0.15m を測る。覆土は単層。覆土中から深鉢片 (p93・96)、壺の胴部上位片 (p94)、土器片 3 点、破碎した礫 2 点が出土している。A5 類。

SK60 (図版 13・52)

3J-6F21・22 に位置する。V b 層で検出した。SK61 を切り、SK58 に切られる。平面形は推定楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.46m、短軸不明、深さ 0.17m である。覆土は 2 層のレンズ状堆積である。覆土上位から深鉢片 (p93)、土器片 2 点、破碎礫 1 点が出土している。A5 類。

SK61 (図版 13・52)

3J-6F22・23 に位置する。V b 層で検出した。SK63 を切り、SK60 に切られる。南側はグリッドトレンチで切られる。平面形は円形か楕円形、断面形は弧状であるが規模は不明である。深さは 0.20m を測る。覆土上位から深鉢片 (p93)、土器片 6 点、破碎した礫 2 点が出土している。A5 類。

SK67 (図版 13・52)

3J-6F23 に位置する。V b 層で検出した。平面形は残存部分の形状から楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.60m、短軸不明、深さ 0.18m を測る。覆土は単層。覆土中から土器小片 1 点と破碎した礫 1 点が出土している。

SK69 (図版 13・52)

3J-6F23 に位置する。V b 層で検出した。SK71 を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.25m、短軸 0.92m、深さ 0.10m である。覆土は単層。覆土中から土器小片 4 点、破碎した礫 1 点が出土している。

SK71 (図版 13・52)

3J-6F23 に位置する。V b 層で検出した。SK69 に切られる。平面形は円形と推定する。断面形はやや台形状である。規模は直径 0.58m、深さ 0.13m を測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK74 (図版 13・52)

3J-6F25 に位置する。V c 層で検出した。SK75 を切る。平面形は推定円形、断面形は弧状である。規模は直径 0.48m、深さ 0.09m である。覆土は単層。土器小片 2 点が出土している。

SK75 (図版 13・52)

3J-6F24・25 に位置する。V c 層で検出した。SK74 に切られる。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は直径 0.43m、深さ 0.11m である。覆土は単層。覆土上位から土器小片 2 点、被熱した礫 1 点が出土している。

SK235 (図版 13・52、写真図版 50・51)

3J-6G16・17・22 に位置する。V b 層で検出した。SK236、Pit255 を切る。平面形は隅丸方形、断面形はテラスをもち中央が一段くぼむ階段状である。規模は長軸 1.53m、短軸推定 1.40m、深さ 0.42m である。中央のくぼみは直径約 0.54m である。覆土は 4 層のレンズ状堆積である。深鉢 1 個体分の土器片 (p97) が出土しているが、当初弧状の土坑の底面に集積していた土器片が、中央のくぼみ部分に落ち込んだ状態を呈している。A3 類。

SK236 (図版 13・52)

3J-6G16 に位置する。V b 層で検出した。SK235 に切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.02m、短軸不明、深さ 0.14m である。覆土は 2 層のレンズ状堆積である。遺物は出土していない。

SK93 (図版 11・53)

3J-6H13・18 に位置する。V c 層で検出した。平面形は隅丸方形、断面形は半円状である。規模は長軸 1.00m、短軸 0.95m、深さ 0.28m である。覆土は 3 層のレンズ状堆積である。土器小片 1 点、赤色顔料ブロック 1 点が出土している。

SK104 (図版 11・53)

3J-6H19 に位置する。V c 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は台形状であるが、底面北寄りに小ピットがある。規模は長軸 0.90m、短軸 0.62m、深さ 0.26m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積である。遺物は出土していない。

SK94 (図版 11・53)

3J-6H18・19・23・24 に位置する。V c 層で検出した。SK95・100 を切る。南側を攪乱により切られてい

る。平面形は推定楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.86m、短軸不明、深さ 0.17m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積である。覆土中から深鉢胴部片 (p98) が出土している。

SK95 (図版 11・53)

3J-6H19・24 に位置する。V c 層で検出した。SK100 を切り、SK94 に切られる。平面形は東側が暗渠のために切られているが推定円形、断面形は弧状と考える。規模は長軸推定 0.75m、短軸 0.62m、深さ 0.06m である。覆土は単層。深鉢片 (p99・307)、土器片 3 点と破碎した礫 1 点が出土している。A5 類。

SK100 (図版 11・53)

3J-6H18・19 に位置する。V c 層で検出した。Pit303 を切り、SK94・95 に切られる。平面形は楕円形と推測する。断面形は弧状。規模は長軸 1.02m、短軸不明、深さ 0.11m である。覆土は 2 層のレンズ状堆積である。覆土中から深鉢片 (p307) が出土している。

SK101 (図版 11・53)

3J-6H19・24 に位置する。V c 層で検出した。平面形は推定円形か楕円形、断面形は台形状である。規模は長軸推定 0.54m、短軸推定 0.48m、深さ 0.12m を測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK102 (図版 11・53)

3J-6H19・20 に位置する。V c 層で検出した。平面形は推定円形から楕円形、断面形は弧状と考える。規模は不明、深さ 0.07m である。覆土は単層。覆土上位から深鉢 (p2) の胴部片が出土している。

SK190 (図版 12・53、写真図版 51)

3J-6I18 に位置する。V c 層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は直径約 0.28m、深さ 0.07m を測る。覆土は単層。覆土中から形状が保てないほど風化した磨石状の花崗岩が 1 点出土している。デポ遺構の B1 類に分類した。

SK178 (図版 12・53、写真図版 51)

3J-6I19・20・24 に位置する。V c 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.35m、短軸推定 0.70m、深さ 0.10m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積である。覆土上位には深鉢 2 個体 (p100・101) の破片が集積しており、その中心あたりの破片が傾き、沈み込んだ状態で出土した。A3 類。

SK177 (図版 12・53)

3J-6I20・25 に位置する。V c 層で検出した。平面形は隅丸長方形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.29m、短軸 0.96m、深さ 0.17m を測る。覆土は単層。覆土上位から深鉢 (p2) の口縁部・胴部片、破碎した礫が 1 点出土している。A5 類。

SK189 (図版 12・53)

3J-6I15・20 に位置する。V c 層で検出した。平面形は推定円形か楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.47m、短軸不明、深さ 0.12m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK179 (図版 12・53)

3J-6I20 に位置する。V c 層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は直径約 0.70m、深さ 0.06m である。覆土は単層。覆土中から深鉢 (p102) の胴部片が出土している。

SK182 (図版 12・53)

3J-6I25 に位置する。V c 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.88m、短軸推定 0.60m、深さ 0.08m である。覆土は単層。覆土上位から深鉢 (p100) の胴部片が出土している。

SK206 (図版 12・53、写真図版 51)

3J-6I24 に位置する。V c 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸推定 0.47m、短軸 0.32m、深さ 0.16m を測る。覆土は 3 層の水平レンズ状堆積である。底面直上から、磨石類 7 点 (s54～59)、石皿・台石類 (s60) が出土した。石皿・台石類 (s60) が磨石類の上に置かれた状態であった。デポ遺構

の B1 類である。

SK183 (図版 12・53)

3J-6I24・25 に位置する。V c 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.37m、短軸 1.11m、深さ 0.07m である。覆土は単層。覆土中から深鉢 (p102) の口縁部から胴部片と、深鉢 (p100) の胴部片が出土している。A5 類。

SK121 (図版 12・54)

3J-6I25、6J21 に位置する。V c 層で検出した。SK125 を切る。平面形は推定長楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 1.08m、短軸不明、深さ 0.23m を測る。覆土は 3 層のレンズ状堆積。覆土中位から深鉢 (p2) の胴部片が出土している。

SK134 (図版 12・54)

3J-6J21 に位置する。V c 層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.05m、短軸 0.90m、深さ 0.18m である。覆土は単層。覆土中から深鉢胴部片 (p104)、土器小片 3 点、破碎した礫 3 点が出土している。A5 類。

SK125 (図版 12・54)

3J-6I25、6J21、7J1 に位置する。V c 層で検出した。SK121 に切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸推定 1.50m、短軸推定 1.10m、深さ 0.11m を測る。覆土は単層。覆土中から浅鉢 (p103) が破片の状態出土している。A5 類。

SK135 (図版 12・54)

3J-6J17・18・22・23 に位置する。V c 層で検出した。SK126 に切られる。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 1.12m、短軸 1.00m、深さ 0.22m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積である。覆土中から深鉢胴部片 (p105)、土器小片 4 点が出土している。A5 類。

SK126 (図版 12・54)

3J-6J22 に位置する。V c 層で検出した。SK135 を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.58m、短軸 0.39m、深さ 0.07m を測る。覆土は単層。底面直上から敲石 (s61) と土器小片 1 点が出土している。B3b 類。

SK553 (図版 13・54)

3J-7E14・15 に位置する。V c 層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は直径約 0.43m、深さ 0.07m を測る。覆土は単層。遺物は出土していない。D3 類。

SK552 (図版 13・54、写真図版 52)

3J-7E24・25 に位置する。V c 層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸推定 0.60m、短軸推定 0.52m、深さ 0.11m を測る。覆土は単層で砂が混じる。底面から浮いた状態で磨石類 (s62) と石皿・台石類 (s63) がセットで出土している。沈み込み傾いた様子もなく、水平の状態であった。デポ遺構の B1 類である。

SK489 (図版 13・54、写真図版 52)

3J-7E24・25、8E4・5 に位置する。V c 層で検出した。平面形はやや不整隅丸長方形、断面形は箱状である。規模は長軸 1.27m、短軸 1.06m、深さ 0.24m を測る。覆土は 5 層からなるレンズ状堆積である。北東隅の底面直上から石皿・台石類 (s64・65) と台石状の礫 1 点が重なった状態で出土し、覆土中から深鉢胴部片 (p106) が出土している。B2 類。

SK222 (図版 13・54)

3J-7F1・2 に位置する。V b 層で検出した。SK239 を切る。攪乱とトレンチに切られ残存率が低く平面形は不明である。断面形は弧状である。規模は残存部の長軸が 1.10m、短軸不明、深さ 0.18m を測る。覆土中から流れ込みのような状態で深鉢 (p93) の口縁部・胴部片が出土している。

SK239（図版13・54）

3J-7F2に位置する。V b層で検出した。SK222に切られる。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸推定0.75m、短軸0.72m、深さ0.13mを測る。覆土は単層。覆土中から深鉢（p93）の胴部片と壺（p95）の頸部片、その他土器片4点が出土している。

SK231（図版13・54）

3J-7F2・3・7・8に位置する。V b2層で検出した。Pit232に切られる。平面形は隅丸方形、断面形は弧状である。規模は長軸0.95m、短軸0.90m、深さ0.12mを測る。覆土は単層。覆土中から深鉢胴部片（p107）が出土している。

SK218（図版13・54）

3J-7F3に位置する。V b層で検出した。SX256を切る。トレンチと攪乱に切られるため平面形・規模は不明である。断面形は深さ0.16mの弧状である。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK208（図版13・54、写真図版52）

3J-7F4・5に位置する。V c層で検出した。平面形は楕円形と推定する。断面形は弧状。規模は長軸1.50m、短軸推定0.82m、深さ0.13mを測る。覆土は単層。底面から浮いた状態で浅鉢（p108）の小片がまとまって出している。土器片は斜めに傾き、沈み込んだ状態であった。他に敲石（s66）が出土している。A3類。

SK219（図版13・55、写真図版53）

3J-7F7に位置する。V b層で検出した。平面形は円形、断面形は台形状である。規模は長軸推定0.73m、短軸推定0.63m、深さ0.14mである。覆土は2層の水平堆積。底面直上から深鉢胴部片10点が出土している。A5類。

SK257（図版13・55、写真図版53）

3J-7F7・8に位置する。V b層で検出した。SX244に切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.79m、短軸0.65m、深さ0.10mを測る。覆土は単層。遺構西側寄りの底面直上から深鉢胴部片（p109）、石鏃（s67）、摩石類（s68）、その他に小礫4点が出土している。B3a類。

SK246（図版13・55）

3J-7F9・14に位置する。V b層で検出した。SX209に切られる。平面形は推定円形、断面形は箱状である。規模は直径推定0.51m、深さ0.18mである。覆土は2層からなるレンズ状堆積。覆土中から深鉢（p125）の胴部片、石鏃未成品（s70）、不定形石器（s71）が出土している。B3a類。

SK351（図版13・55）

3J-7F11・12に位置する。V c層で検出した。SD338を切る。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.59m、短軸0.51m、深さ0.12mを測る。覆土は2層からなるレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK247（図版13・55）

3J-7F13・14に位置する。V b層で検出した。トレンチに切られ遺構全体形は不明である。平面形は推定円形か楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸不明、短軸0.40m、深さ0.06mを測る。覆土は単層。深鉢の胴部小片が3点出している。

SK226（図版13・55、写真図版53）

3J-7F14に位置する。V c層で検出した。Pit225に切られる。平面形は不整円形、断面形は浅い弧状である。規模は長軸1.33m、短軸1.18m、深さ0.08mである。覆土は2層からなるレンズ状堆積。検出面から覆土下位にかけて深鉢（p110）が小片の状態で散在していた。土器片は傾いており、沈み込んだ可能性がある。その他に破碎礫1点が出土している。A5類。

SK277（図版13・55）

3J-7F19に位置する。V b層で検出した。Pit492、SD338を切る。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.81m、短軸0.72m、深さ0.19mを測る。覆土は2層からなる水平堆積。覆土上面から深鉢口縁

部片 (p112)、磨石類 (s69)、底面直上の南東隅から破碎した礫 8 点がまとめて出土している。B3b 類。

SK279 (図版 13・55、写真図版 53)

3J-7F19 に位置する。V b 層で検出した。SD338 を切り、Pit280 に切られる。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.91m、短軸 0.89m、深さ 0.23m を測る。覆土は 2 層からなるレンズ状堆積。覆土上層から深鉢 (p110) の口縁部小片、深鉢 (p314) の胴部片、小礫 6 点が出土している。礫のうち 2 点は被熱している。A5 類。

SK202 (図版 13・55)

3J-7F20 に位置する。V b 層で検出した。Pit426 に切られる。トレンチに切られ遺構全体形は不明である。断面形は弧状。規模は長軸推定 0.76m、短軸不明、深さ 0.15m を測る。覆土は単層。覆土中から土器小片 3 点が出土している。

SK278 (図版 13・55、写真図版 54)

3J-7F23・24 に位置する。V b 層で検出した。Pit488、SD338 を切る。平面形は長楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.88m、短軸 0.58m、深さ 0.20m である。覆土は 2 層からなるレンズ状堆積。覆土上位から下位にかけて深鉢口縁部～胴部片 (p113)、壺頸部片 (p114)、分割された石皿・台石類 (s72)、破碎した礫 3 点が出土している。A5 類。

SK276 (図版 13・55)

3J-7F24 に位置する。V b 層で検出した。SD338 を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.91m、短軸 0.70m、深さ 0.19m である。覆土は 2 層からなるレンズ状堆積。覆土上層から深鉢胴部片 1 点、小礫 5 点が出土している。

SK394 (図版 13・55)

3J-7F23、8F3 に位置する。V b2 層で検出した。トレンチに切られ遺構全体形は不明であるが、平面形は楕円形、長楕円形と推測する。断面形は箱状。規模は長軸不明、短軸 0.53m、深さ 0.16m を測る。覆土は 3 層からなる斜位堆積。覆土上位から壺の口縁部片 (p115)、底面直上から深鉢 (p116) が出土している。A5 類。

SK400 (図版 13・55)

3J-7F23・24、8F3・4 に位置する。V b2 層で検出した。Pit490 を切る。平面形は推定円形、断面形は弧状である。規模は直径約 0.75m、深さ 0.22m を測る。覆土は 3 層からなるレンズ状堆積。覆土上位から深鉢 (p116) の胴部片が出土している。その他に土器片 4 点、小礫 1 点が出土している。A5 類。

SK414 (図版 13・55)

3J-7F24・25、8F4・5 に位置する。V c 層で検出した。SK392 を切る。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.64m、短軸推定 0.47m、深さ 0.23m を測る。覆土は単層。覆土上位から深鉢胴部片 (p117)、土器小片 1 点が出土している。

SK392 (図版 13・55)

3J-7F25、8F5 に位置する。V c 層で検出した。SK414 に切られる。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸推定 0.60m、短軸推定 0.56m、深さ 0.07m を測る。覆土は 2 層からなるレンズ状堆積。覆土底面直上から深鉢口縁部片 (p118・314) が出土している。A5 類。

SK446 (図版 13・56)

3J-7F25 に位置する。V c 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.54m、短軸 0.49m、深さ 0.14m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK200 (図版 13・56、写真図版 54)

3J-7G1・6 に位置する。V b 層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.56m、短軸推定 0.49m、深さ 0.05m を測る。覆土は単層。覆土上位から深鉢胴部片 (p119) が出土している。

SK89（図版13・56、写真図版54）

3J-7G7に位置する。V b層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.72m、短軸推定0.68m、深さ0.07mを測る。覆土は単層。底面から浮いた状態で壺（p120）1個体分の破片が出土している。土器片は傾き、沈み込んだ状態で出土した。他に礫1点が出土している。A3類。

SK211（図版13・56）

3J-7G11・12に位置する。V c層で検出した。SK216を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.98m、短軸推定0.84m、深さ0.13mを測る。覆土は単層。覆土中から破碎礫1点、アスファルト塊2点が出土している。D3類。

SK216（図版13・56、写真図版54・55）

3J-7G11に位置する。V c層で検出した。SK211に切られる。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は直径約0.65m、深さ0.10mを測る。覆土は単層。覆土上位から浅鉢片（p108）が逆位で出土し、壁面に接して磨石類（s73）が出土している。A1a類。

SK212（図版13・56、写真図版55）

3J-7G12に位置する。V c層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は直径約0.49m、深さ0.20mを測る。覆土は単層。底面直上から磨石類2点（s74・75）が出土し、それらに重なり、壁面に寄り掛かった状態で石皿・台石類（s76）が出土している。デボ遺構のB1類である。

SK207（図版13・56）

3J-7G18に位置する。V b層で検出した。SX203を切る。平面形は長楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.07m、短軸0.58m、深さ0.15m。覆土は4層からなるレンズ状堆積。底面中央に直径約0.20m、底面からの深さ0.17mのピットがある。覆土中から土器小片2点が出土している。

SK215（図版13・56）

3J-7G18・19に位置する。V b層で検出した。Pit214に切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸推定1.14m、短軸推定0.88m、深さ0.11mを測る。底面北側に直径約0.24m、底面からの深さ0.11mのピットがある。覆土は2層からなるレンズ状堆積。覆土中から土器小片4点が出土している。

SK248（図版13・56、写真図版55）

3J-7G20に位置する。V b層で検出した。平面形は隅丸長方形、断面形は弧状である。規模は長軸1.40m、短軸推定1.09m、深さ0.13mを測る。覆土は単層。覆土上位から壺胴部片（p111）、土器小片1点、覆土中から敲石（s77）、礫1点が出土している。土器片は中央にむかって傾いている。A5類。

SK326（図版13・56）

3J-7F25、7G21に位置する。V c層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.08m、短軸推定0.93m、深さ0.16mを測る。覆土は3層からなるレンズ状堆積。覆土中から深鉢口縁～胴部片（p314）が出土している。A5類。

SK245（図版13・56）

3J-7G20・25に位置する。V b層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸推定1.18m、短軸0.79m、深さ0.11mを測る。覆土は単層。覆土上位から中位にかけて浅鉢片（p121）、深鉢片（p122・123・125）が出土している。A5類。

SK405（図版13・56）

3J-7G21・22、8G1・2に位置する。V b2層で検出した。Pit569、SD192を切る。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は直径約0.63m、深さ0.14mを測る。覆土は単層。覆土中から浅鉢底部片（p124）が出土している。

SK201（図版13・56、写真図版55）

3J-7G24、8G4に位置する。V b層で検出した。トレンチに切られるため遺構全体形は不明である。断面形は弧状で、深さは0.10mを測る。覆土は単層。覆土中から深鉢(p125)の破片が遺構中央に集中して出土している。A4類。

SK87 (図版12・57、写真図版76)

3J-7H9・10に位置する。V c層で検出した。SX86に切られる。平面形は不整形、断面形はテラスをもつ階段状となっている。規模は長軸0.89m、短軸推定0.63m、深さ0.23mを測る。覆土は4層からなるブロック状堆積である。遺物は出土していない。

SK79 (図版14・57)

3J-7H25に位置する。V b層で検出した。平面形は推定隅丸方形、断面形は弧状であり、南側にピット状の落ち込みがある。規模は推定一辺0.92m、深さ0.12m、ピット状の落ち込みは検出面から0.25mを測る。覆土は3層からなるレンズ状堆積である。遺物は出土していない。

SK196 (図版12・57、写真図版56)

3J-7I6に位置する。V c層で検出した。平面形は隅丸方形、断面形は台形状である。規模は長軸1.38m、短軸1.29m、深さ0.27mを測る。覆土は4層からなる斜位堆積である。底面直上から分割された石皿・台石類(s79)が出土している。B3b類。

SK80 (図版12・57)

3J-7I2・7に位置する。V c層で検出した。Pit437を切る。平面形は長楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.28m、短軸推定0.80m、深さ0.12mを測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK82 (図版14・57)

3J-7H25、7I21に位置する。V b層で検出した。Pit84を切る。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸推定0.46m、短軸0.22m、深さ0.15mを測る。覆土は3層からなるレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK83 (図版14・57)

3J-7H25、7I21に位置する。V b層で検出した。SK85を切る。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は直径約0.48m、深さ0.08mを測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK85 (図版14・57)

3J-7H25、7I21に位置する。V b層で検出した。SK83・197、Pit84に切られる。平面形は長楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸推定1.14m、短軸不明、深さ0.19mを測る。覆土は3層からなるレンズ状堆積。覆土中から土器小片1点が出土している。

SK197 (図版14・57)

3J-7I21に位置する。V b層で検出した。SK85、Pit84を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.91m、短軸推定0.74m、深さ0.11mを測る。覆土は2層のレンズ状堆積。覆土中から深鉢口縁部片(p126)、その他土器片1点が出土している。

SK558 (図版13・57)

3J-7E25、8E5に位置する。V c層で検出した。平面形は不整形、断面形は弧状である。規模は長軸2.03m、短軸1.25m、深さ0.22mを測る。覆土は2層の水平堆積である。遺物は出土していない。

SK572 (図版13・57)

3J-8E16・17・21・22に位置する。V c層で検出した。平面形は不整楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.58m、短軸1.18m、深さ0.18mを測る。覆土は2層の斜位堆積。覆土上位から土器小片1点が出土している。

SK590 (図版13・57)

3J-8E25、8F21 に位置する。V c 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.81m、短軸 0.59m、深さ 0.08m を測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK346 (図版 13・57)

3J-8F3・4 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.95m、短軸 0.73m、深さ 0.11m を測る。覆土は単層。覆土中から深鉢 (p116) の口縁部・胴部片が出土している。

SK339 (図版 13・57)

3J-8F3 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は箱状である。規模は長軸 0.92m、短軸 0.78m、深さ 0.22m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土上層から深鉢口縁部片 (p127) が出土し、その他に土器片 2 点、破碎礫 2 点が出土している。

SK290 (図版 13・57)

3J-8F4 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は台形状である。規模は長軸 0.48m、短軸 0.43m、深さ 0.22m を測る。覆土は単層。覆土上位から土器小片 5 点が出土している。

SK399 (図版 13・58)

3J-8F9 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.54m、短軸 0.50m、深さ 0.16m を測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK330 (図版 13・58)

3J-8F6 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.69m、短軸 0.53m、深さ 0.20m を測る。覆土は 2 層からなるレンズ状堆積。覆土中位から深鉢口縁部片 (p128) が出土している。

SK328 (図版 13・58)

3J-8F6・11 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は不整楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 1.33m、短軸 1.06m、深さ 0.24m を測る。覆土は 5 層からなるレンズ状堆積。上位層に焼土粒が含まれている。底面直上から深鉢胴部片 (p129)、その他土器片 7 点が出土している。A5 類。

SK327 (図版 13・58)

3J-8F7 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.88m、短軸 0.78m、深さ 0.15m を測る。覆土は 4 層からなるレンズ状堆積である。覆土上位から壺の胴部上位片 (p130) が出土している。

SK406 (図版 13・58)

3J-8F12 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は不整円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.56m、短軸 0.43m、深さ 0.12m を測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK402 (図版 13・58)

3J-8F16 に位置する。V c 層で検出した。平面形は不整円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.48m、短軸 0.42m、深さ 0.12m を測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK403 (図版 13・58)

3J-8F21 に位置する。V c 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.72m、短軸 0.50m、深さ 0.23m を測る。覆土は 2 層からなる水平堆積である。遺構検出面から深鉢胴部片 (p131) が出土している。

SK367 (図版 13・58)

3J-8G1 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸推定 0.26m、短軸 0.21m、深さ 0.10m を測る。覆土は単層である。敲石 1 点 (s80) が出土している。デボ遺構の B1 類である。

SK293 (図版 13・58)

3J-7G22、8G2に位置する。V b層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.08m、短軸 0.80m、深さ 0.11m を測る。覆土は単層。覆土中から深鉢 (p125) の胴部片、小礫 1 点が出土している。
SK224 (図版 13・58)

3J-8G3・4に位置する。V b層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸推定 0.88m、短軸推定 0.62m、深さ 0.05m を測る。覆土は単層。覆土中から深鉢 (p125) の胴部片が出土している。
SK560 (図版 13・58)

3J-8G8に位置する。V c層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.57m、短軸 0.50m、深さ 0.06m を測る。覆土は単層。覆土中から浅鉢片(p132)、深鉢片(p133)、その他土器小片 4 点が出土している。
A5 類。
SK466 (図版 13・14・58)

3J-8G14・15に位置する。V c層で検出した。SK366に切られる。平面形は不整楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.00m、短軸推定 0.82m、深さ 0.10m を測る。覆土は 3 層からなるレンズ状堆積。覆土中から深鉢胴部片 (p134)、礫 2 点が出土している。覆土中には炭化物を多量に含んでおり、炭化物と共に廃棄された可能性がある。
SK366 (図版 14・58)

3J-8G15に位置する。V b2層で検出した。SK466を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.56m、短軸 1.14m、深さ 0.22m を測る。覆土は 3 層からなるレンズ状堆積。遺物は出土していない。
SK337 (図版 14・58)

3J-8G15・20に位置する。V c層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.48m、短軸 0.45m、深さ 0.13m を測る。覆土は単層。覆土上位から深鉢の胴部片 1 点、石錐 (s78) が出土している。
SK463 (図版 14・58、写真図版 56)

3J-8G15・20に位置する。V c層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸推定 0.26m、短軸 0.25m、深さ 0.06m を測る。覆土は単層。底面直上から磨石類 (s81) 1 点が出土している。デポ遺構の B1 類である。
SK365 (図版 13・58)

3J-8G16に位置する。V b2層で検出した。平面形は長楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.86m、短軸 0.51m、深さ 0.08m を測る。覆土は単層。底面から浮いた状態で深鉢片 (p135)、その他土器小片 3 点が出土している。A5 類。
SK368 (図版 13・58、写真図版 56)

3J-8G22に位置する。V b2層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸推定 0.29m、短軸推定 0.26m、深さ 0.08m を測る。覆土は単層。覆土中から敲石 (s84) が出土している。デポ遺構の B1 類である。
SK440 (図版 13・58、写真図版 56)

3J-8G23に位置する。V c層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸推定 0.38m、短軸 0.30m、深さ 0.06m を測る。掘り込み面はさらに上である。覆土は単層。磨石類 2 点 (s82・83) が出土している。デポ遺構の B1 類である。
SK566 (図版 13・59)

3J-8G13・14・18・19に位置する。V c層で検出した。平面形は不整楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.90m、短軸 1.42m、深さ 0.16m を測る。覆土は単層。底面直上から 2 個体の深鉢片 (p136・137)、軽石 (s85) が出土している。A5 類。
SK465 (図版 14・59)

3J-8G24・25に位置する。V c層で検出した。Pit461に切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.32m、短軸0.94m、深さ0.18mを測る。覆土は2層のレンズ状堆積である。覆土上位から土器小片1点が出土している。

SK249（図版14・59、写真図版57）

3J-8H9・10・14・15に位置する。V b層で検出した。Pit420（SB7）・447（SB7）、SX369を切る。平面形は不整形、断面形は弧状である。規模は長軸2.31m、短軸推定1.90m、深さ0.12mを測る。覆土は単層。覆土上位から底面直上にかけて深鉢（p138・141）、深鉢口縁部片（p140・142）、深鉢底部片（p143）、ミニチュア土器（p139）、土器小片20点、磨石類（s86・87）、分割された石皿類（s88）、分割された台石（s89）、その他に礫2点が投げ込まれたように散在していた。C類。

SK252（図版14・59、写真図版57）

3J-8H6・11に位置する。V c層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸推定0.66m、短軸不明、深さ0.22mを測る。覆土は4層からなるレンズ状堆積である。覆土上層から深鉢（p145）が潰れた状態で出している。ほかに深鉢片（p144・292）が出土している。A1b類。

SK317（図版14・59）

3J-8H19・20・25に位置する。V c層で検出した。SK318、Pit470・475を切る。平面形は長楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.05m、短軸0.64m、深さ0.13mを測る。覆土は2層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK318（図版14・59）

3J-8H20に位置する。V c層で検出した。SK319を切り、SK317に切られる。平面形は推定楕円形、断面形は弧状である。南東隅に小ピット状の落ち込みがある。規模は長軸不明、短軸0.88m、深さ0.18mを測る。覆土は3層のレンズ状堆積。覆土上位から土器胴部片1点、破碎礫1点が出土している。

SK319（図版14・59）

3J-8H15・20に位置する。V c層で検出した。SK318に切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸推定0.98m、短軸不明、深さ0.08mを測る。覆土は単層。覆土中から土器胴部片1点が出土している。

SK441（図版14・59）

3J-8H21に位置する。V c層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.76m、短軸0.62m、深さ0.12mを測る。覆土は単層。覆土上位から小型の鉢（p146）が出土している。

SK335（図版14・59）

3J-8H19・24に位置する。V b2層で検出した。SK336を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.72m、短軸0.55m、深さ0.11mを測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK336（図版14・59）

3J-8H19・24に位置する。V b2層で検出した。SK335に切られる。平面形は長楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.22m、短軸不明、深さ0.07mを測る。覆土は単層。覆土上面から土器小片1点が出土している。

SK316（図版14・59、写真図版57）

3J-8H23・24に位置する。V b2層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.58m、短軸0.53m、深さ0.04mを測る。覆土は単層。検出面より上から底面にかけて深鉢胴部片（p147）と深鉢胴部から底部片（p148）が集積していた。遺構掘り込み面は検出面よりかなり上になる。A4類。

SK363（図版14・59、写真図版57）

3J-8H24に位置する。V c層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸推定0.27m、短軸推定0.26m、深さ0.04mを測る。覆土は単層。覆土中から小型の無文鉢（p149）が出土している。A3類。

SK271（図版14・59）

3J-8I1・2 に位置する。V c 層で検出した。平面形は不整長楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.61m、短軸 0.37m、深さ 0.22m を測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK263 (図版 14・59)

3J-8I6 に位置する。V c 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.64m、短軸 0.57m、深さ 0.29m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK268 (図版 14・59)

3J-8I4・9 に位置する。V c 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.44m、短軸 0.36m、深さ 0.06m を測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK264 (図版 14・60)

3J-8I6・11・12 に位置する。V c 層で検出した。SK311 を切る。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.86m、短軸 0.71m、深さ 0.27m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土上位から壺 (p279) の胴部片が出土している。

SK311 (図版 14・60)

3J-8I11 に位置する。V c 層で検出した。SK264 に切られる。平面形は不整楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 1.25m、短軸 0.97m、深さ 0.27m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土上面から深鉢胴部片 (p150) が出土している。

SK144 (図版 14・60)

3J-8I11・16 に位置する。V c 層で検出した。SK145 を切る。平面形は長楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸推定 1.17m、短軸 0.68m、深さ 0.14m を測る。覆土は単層。底面直上から壺 (p279) の胴部片、破碎した礫 1 点が出土している。

SK145 (図版 14・60)

3J-8H15、8I11 に位置する。V c 層で検出した。SK144 に切られる。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は直径推定 0.78m、深さ 0.19m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。底面直上から壺 (p279) の胴部片が出土している。

SK140 (図版 14・60)

3J-8I12 に位置する。V c 層で検出した。SK141・312 を切る。平面形は楕円形、断面形はテラスをもつ階段状である。規模は長軸推定 1.35m、短軸 1.07m、深さ 0.35m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。V b2 層段階の SK312 を切るため、掘込面は V 6 層と考える。覆土上層から深鉢胴部下位片 (p151)、底部 (p15) の破片、磨石類 (s91) が出土している。B3b 類。

SK141 (図版 14・60)

3J-8I12・13 に位置する。V c 層で検出した。SK140 に切られる。平面形は長楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.95m、短軸 0.50m、深さ 0.14m を測る。覆土は単層。底面直上から深鉢 (p110) と同一個体片が出土している。

SK312 (図版 14・60)

3J-8I12 に位置する。V c 層で検出した。SK140 に切られる。平面形は不整円形、断面形は半円状である。規模は長軸推定 0.80m、短軸推定 0.70m、深さ 0.20m を測る。覆土は単層。底面から浮いた状態で深鉢胴部片 (p147) が出土している。p147 は V b2 層検出の SK316 からも出土しているため、本遺構も V b2 層所属と考える。

SK261 (図版 14・60)

3J-8I11・12・17 に位置する。V c 層で検出した。SK142 に切られる。平面形は長楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.98m、短軸推定 0.64m、深さ 0.24m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土上面か

ら注口土器胴部片（p152）が出土している。

SK142（図版14・60）

3J-8I11・12・16・17に位置する。V b層で検出した。SK261を切る。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.20m、短軸0.98m、深さ0.19mを測る。覆土は2層のレンズ状堆積。壁際に流れ込んだような状態で土器小片2点、破碎した礫2点が出土している。

SK161（図版14・60）

3J-8I16に位置する。V b2層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸推定0.43m、短軸0.34m、深さ0.11mを測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK160（図版14・60）

3J-8I16に位置する。V b2層で検出した。Pit262を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.12m、短軸0.83m、深さ0.15mを測る。覆土は単層。覆土中から壺胴部片（p153）、深鉢胴部片（p154）、破碎した礫2点が出土している。A5類。

SK267（図版14・60）

3J-8I16に位置する。V c層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸推定0.73m、短軸0.68m、深さ0.13mを測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK151（図版14・60）

3J-8I12・13・17・18に位置する。V b層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.17m、短軸1.09m、深さ0.16mを測る。覆土は単層。覆土中から土器小片1点、敲石（s90）が出土している。B3b類。

SK146（図版14・60）

3J-8I17に位置する。V b層で検出した。Pit258・259を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.97m、短軸0.80m、深さ0.10mを測る。覆土は単層。覆土上位から土器片1点が出土している。

SK158（図版14・60）

3J-8I17・18・22・23に位置する。V c層で検出した。SK171を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.93m、短軸0.87m、深さ0.16mを測る。覆土は単層。底面直上から深鉢胴部片（p155）、その他土器小片1点が出土している。

SK171（図版14・60）

3J-8I22に位置する。V c層で検出した。SK158に切られる。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸推定0.76m、短軸0.64m、深さ0.16mを測る。覆土は単層。覆土上位から深鉢（p291）の口縁部～胴部片が出土している。

SK413（図版14・61）

3J-8H25、8I21、9H5に位置する。V c層で検出した。トレンチと暗渠に切られ平面形は不明である。断面形は弧状。規模は不明、深さは0.11mを測る。覆土は単層。底面から浮いた状態で磨石類（s92）が出土している。B3b類。

SK741（図版15・61）

3J-9D19・24に位置する。V b2層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.99m、短軸0.80m、深さ0.08mを測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK747（図版15・61、写真図版58）

3J-9D23に位置する。V b2層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸推定0.45m、短軸推定0.41m、深さ0.18mを測る。覆土は2層のレンズ状堆積。覆土上位から深鉢（p158）が出土している。A4類。

SK746（図版15・61、写真図版58）

3J-9D23、10D3 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.67m、短軸 0.58m、深さ 0.24m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土上位から深鉢 (p156) の胴部～底部片が出土している。A4 類。

SK385 (図版 13・61)

3J-9E8・9 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は長楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.76m、短軸 0.46m、深さ 0.13m を測る。覆土は単層。深鉢 (p17) の胴部片が覆土中から出土している。土器片は壁際で傾き、流れ込みの可能性がある。

SK389 (図版 13・61)

3J-9E12・17 に位置する。V b2 層で検出した。暗渠で切られ遺構全体形は不明である。断面形は半円状で、規模は長軸不明、短軸推定 0.78m、深さ 0.12m を測る。覆土は 3 層のレンズ状堆積である。遺物は出土していない。

SK658 (図版 13・61)

3J-9E14・15 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.73m、短軸 0.49m、深さ 0.18m を測る。覆土は単層。覆土中から深鉢 (p19) の胴部片が出土している。

SK391 (図版 13・15・61)

3J-9E21 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.51m、短軸 0.48m、深さ 0.14m を測る。覆土は単層。覆土上位から土器片 2 点、礫 1 点が出土している。

SK502 (図版 13・61)

3J-9E25、10E5 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸推定 0.85m、短軸 0.75m、深さ 0.28m を測る。覆土は 2 層の水平堆積。覆土上面から深鉢 (p157) とその他土器片 1 点が出土している。

SK674 (図版 13・61)

3J-8E25、9E5 に位置する。V c 層で検出した。SK398、Pit675 を切る。平面形は不整楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.61m、短軸 1.28m、深さ 0.18m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土上層から深鉢口縁部片 (p159) とその他土器片 2 点が出土している。炭化物と共に廃棄された状況であった。

SK398 (図版 13・61)

3J-9E5、9F1 に位置する。V c 層で検出した。SK674、Pit397 に切られる。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸不明、短軸推定 0.79m、深さ 0.29m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK404 (図版 13・61)

3J-9F4・5 に位置する。V c 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.76m、短軸 0.68m、深さ 0.17m を測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK649 (図版 13・61、写真図版 58)

3J-9F7・8 に位置する。V c 層で検出した。平面形は不整楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.51m、短軸 0.39m、深さ 0.09m を測る。覆土は単層。底面から少し浮いた状態で砥石 (s93) が出土している。B3b 類。

SK660 (図版 13・61)

3J-9F8 に位置する。V c 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は直径約 0.51m、深さ 0.18m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土上位から板状の炭化物が出土している。

SK656 (図版 13・61)

3J-9F9 に位置する。V c 層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.46m、短軸 0.43m、深さ 0.08m を測る。覆土は単層。覆土上位から板状のアスファルトが出土している。D3 類。

SK653 (図版 13・61)

3J-9F12・13 に位置する。V c 層で検出した。トレンチに切られ遺構全体形は不明であるが、平面形は楕円形と推測する。断面形は弧状である。規模は長軸不明、短軸 0.39m、深さ 0.15m を測る。覆土は2層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK281 (図版 13・61)

3J-9F9・14 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.58m、短軸 0.52m、深さ 0.16m を測る。覆土は単層。覆土上位から深鉢口縁部片 (p160)、底部片が出土している。

SK285 (図版 13・62)

3J-9F9・10・15 に位置する。V b2 層で検出した。SK352 を切る。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は直径約 0.50m、深さ 0.08m を測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK352 (図版 13・62)

3J-9F14・15 に位置する。V b2 層で検出した。SK285 に切られる。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.57m、短軸推定 0.44m、深さ 0.15m を測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK646 (図版 13・62)

3J-9F15・20 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は長楕円形、断面形は中央が窪む階段状である。規模は長軸 0.61m、短軸 0.36m、深さ 0.16m を測る。覆土は2層のレンズ状堆積。覆土中から土器片 3 点が出土している。

SK355 (図版 13・62)

3J-9F19 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.59m、短軸 0.55m、深さ 0.10m を測る。覆土は単層。覆土上位から底部片 (p161) が出土している。

SK359 (図版 13・62)

3J-9F19・24 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.59m、短軸不明、深さ 0.13m を測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK358 (図版 13・62)

3J-9F21 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.70m、短軸 0.54m、深さ 0.18m を測る。覆土は3層からなるレンズ状堆積。覆土上層から土器片 2 点が出土している。

SK517 (図版 13・62、写真図版 58)

3J-9F23、10F3 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.76m、短軸 0.68m、深さ 0.21m を測る。覆土は単層。底面直上の北側寄りから2個の石皿・台石類 (s100・101) が直立した状態で出土した。B2 類。

SK354 (図版 13・62)

3J-9F25 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.48m、短軸 0.43m、深さ 0.14m を測る。覆土は単層。覆土上位から土器小片 1 点が出土している。

SK321 (図版 14・62、写真図版 59)

3J-9G3・8 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.69m、短軸 0.67m、深さ 0.17m を測る。覆土は2層のレンズ状堆積。覆土上位から深鉢胴部片 (p162) がまとまって出土している。A4 類。

SK659 (図版 13・14・62)

3J-9G16 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.57m、短軸 0.46m、深さ 0.11m を測る。覆土は2層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK651 (図版 13・14・62)

3J-9G16・17 に位置する。V b2 層で検出した。SI650 を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規

模は長軸 0.72m、短軸 0.63m、深さ 0.12m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK322 (図版 14・62)

3J-9G20 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.87m、短軸 0.75m、深さ 0.18m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土上位から深鉢 (p156) の口縁部片が出土している。

SK299 (図版 14・62)

3J-9G21 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.74m、短軸 0.67m、深さ 0.19m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土上層から土器小片 2 点が出土している。

SK342 (図版 14・62)

3J-9G22 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は長楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.60m、短軸 0.39m、深さ 0.16m を測る。覆土は単層。覆土上位から土器片 3 点が出土している。

SK341 (図版 14・62)

3J-9G22 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.66m、短軸 0.50m、深さ 0.12m を測る。覆土は単層。覆土上位から深鉢底部 (p163)、その他土器片 3 点、小礫 1 点が出土している。

SK515 (図版 14・62)

3J-9G22・23 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は不整長楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.98m、短軸 0.55m、深さ 0.10m を測る。覆土は単層。覆土上位の東寄りから深鉢 (p18) の胴部片がまとまって出土している。A4 類。

SK546 (図版 14・62、写真図版 59)

3J-9H2 に位置する。V c 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状より深い U 字状である。規模は長軸 0.25m、短軸 0.23m、深さ 0.18m を測る。覆土は 2 層の斜位堆積である。覆土下位から磨石状の風化した花崗岩 1 点が出土している。デポ遺構の B1 類である。

SK541 (図版 14・62、写真図版 59)

3J-9H3 に位置する。V c 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.34m、短軸 0.26m、深さ 0.16m を測る。覆土は単層。底面からやや浮いた状態で磨石類 (s94) が直立して出土した。遺物の出土状況と、覆土の斑状に混ざる堆積状況から人為的な埋め戻しによるものと考え、デポ遺構の B1 類に分類した。

SK356 (図版 14・62)

3J-9H4・5 に位置する。V b2 層で検出した。上層遺構に切られ遺構全体形は不明であるが、平面形は楕円形と推測する。断面形は弧状である。規模は長軸推定 0.89m、短軸推定 0.55m、深さ 0.22m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK297 (図版 14・62)

3J-9H1・6 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 1.00m、短軸 0.76m、深さ 0.32m を測る。覆土は 3 層のレンズ状堆積。覆土下層から深鉢胴部片 (p164) が出土している。

SK324 (図版 14・63)

3J-9H6 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.65m、短軸 0.53m、深さ 0.25m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK292 (図版 14・63)

3J-9H6 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.66m、短軸 0.50m、深さ 0.14m を測る。覆土は単層。覆土上位から深鉢胴部・底部片が出土している。風化が著しいため底部片のみ実測した (p165)。

SK298 (図版 14・63)

3J-9H6・7に位置する。V b2層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.51m、短軸 0.46m、深さ 0.20m を測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK329 (図版 14・63)

3J-9H11に位置する。V b2層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.45m、短軸 0.44m、深さ 0.12m を測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK349 (図版 14・63、写真図版 59)

3J-9H16・17に位置する。V c層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.73m、短軸推定 0.56m、深さ 0.15m を測る。覆土は単層。覆土下位の東寄りから磨石類(s95)が出土している。B3b類。

SK345 (図版 14・63)

3J-9H18に位置する。V b2層で検出した。平面形は長楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.48m、短軸推定 0.29m、深さ 0.08m を測る。覆土は単層。土器片が3点出土している。

SK313 (図版 14・63、写真図版 60)

3J-9I2に位置する。V c層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸推定 0.27m、短軸 0.23m、深さ 0.08m を測る。覆土は単層。覆土中から鉢(p166)がやや斜めに傾いた状態で出土している。覆土には砂が斑状に混ざる点から人為的な埋土の可能性が高い。p106はV b2層検出のSK154と遺構間接合にあるため、本遺構もV b2層に帰属する。A2類。

SK154 (図版 14・63、写真図版 60)

3J-9I2・3に位置する。V b2層で検出した。平面形は長楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.32m、短軸 0.78m、深さ 0.12m を測る。覆土は単層。深鉢(p170)が破片の状態で覆土上位から底面直上まで散在していた。その他に鉢(p166)、深鉢(p171)の口縁部片が出土している。A3類。

SK738 (図版 15・63)

3J-10D7・12に位置する。V b2層で検出した。平面形は長楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.34m、短軸 0.68m、深さ 0.09m を測る。覆土は単層。覆土上位から土器小片3点、破碎礫1点が出土している。

SK731 (図版 15・63)

3J-10D9に位置する。V b2層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.51m、短軸 0.43m、深さ 0.16m を測る。覆土は単層。覆土上位から壺口縁部片(p167)が出土している。

SK592 (図版 15・63)

3J-10D15、10E11に位置する。V b2層で検出した。トレンチに切られ平面全体形は不明であるが、楕円形と推測する。断面形は弧状である。規模は長軸不明、短軸 0.47m、深さ 0.14m を測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK593 (図版 15・63)

3J-10D20、10E16に位置する。V b2層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.84m、短軸 0.72m、深さ 0.36m を測る。覆土は2層の水平堆積。覆土上層から深鉢口縁部片(p168)が出土している。

SK594 (図版 15・63、写真図版 60)

3J-10D25、10E21に位置する。V b2層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.53m、短軸 0.38m、深さ 0.17m を測る。覆土は単層。覆土中から磨石状の礫(s96)が出土している。デポ遺構のB1類に分類した。

SK696 (図版 13・15・63)

3J-10E3に位置する。V b2層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.55m、短軸 0.41m、深さ 0.15m を測る。覆土は単層。覆土上位から土器片1点が出土している。

SK631 (図版 13・63)

3J-10E5 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.67m、短軸 0.63m、深さ 0.16m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土上位から壺の口縁部片 (p34) とアスファルト塊 2 点が出土している。D2 類。

SK681 (図版 15・63)

3J-10E11・16 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.57m、短軸 0.54m、深さ 0.11m を測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK495 (図版 15・63、写真図版 60)

3J-10E12 に位置する。V b2 層で検出した。SI670 を切る。平面形は隅丸方形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.87m、短軸 0.86m、深さ 0.34m を測る。覆土は 3 層の水平堆積。覆土中位・下位から深鉢片 (p169)、覆土上位から磨石類 (s97)、台石 (s99)、加工痕のある礫石器 (s98)、その他土器片 2 点が出土している。B3b 類。

SK528 (図版 15・64)

3J-10E13 に位置する。V b2 層で検出した。SI670、SK529 を切る。平面形は不整楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.23m、短軸 0.97m、深さ 0.18m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。土器小片 8 点 (うち P172 を図示) が出土している。A5 類。

SK529 (図版 15・64)

3J-10E13・18 に位置する。V b2 層で検出した。Pit642 (SI670) を切り、SK528 に切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.82m、短軸不明、深さ 0.10m を測る。覆土は単層。覆土上位から浅鉢 (p52) の口縁部片が出土している。

SK482 (図版 15・64)

3J-10E16・21 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.87m、短軸 0.61m、深さ 0.09m を測る。覆土は単層。覆土上位から深鉢底部片 (p173)、土器片 1 点が出土している。

SK691 (図版 15・64)

3J-10E17 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は不整円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.63m、短軸 0.52m、深さ 0.12m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK692 (図版 15・64)

3J-10E17 に位置する。V c 層で検出したが、V b2 層検出の SI670 を切るため、本遺構も V b 層に帰属する。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.04m、短軸 0.76m、深さ 0.16m を測る。覆土は 3 層のレンズ状堆積である。遺物は出土していない。

SK866 (図版 15・64)

3J-10E19 に位置する。V c 層で検出したが、V b2 層検出の SI670 を切るため、本遺構も V b 層に帰属する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.66m、短軸 0.55m、深さ 0.14m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK484 (図版 15・64)

3J-10E23 に位置する。V b1 層で検出した。SI501・670 を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.98m、短軸 0.73m、深さ 0.16m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土上位の南西隅から土器小片 1 点、碎片 2 点、小礫 2 点が出土している。覆土上層は炭化物を多量に含んでおり、遺物は炭化物とともに廃棄された状況である。

SK1015 (図版 13・64、写真図版 61)

3J-10F12 に位置する。V b1 層で検出した。平面形は隅丸方形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.65m、短軸 0.59m、深さ 0.11m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。浅鉢 (p174) が底面から浮いて正位の状態で潰

れていた。A1b類。

SK483（図版14・64、写真図版61）

3J-10G10に位置する。V b2層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.19m、短軸0.79m、深さ0.12mを測る。覆土は単層。覆土上面の北東寄りにほぼ完形の壺（p177）が潰れた状態で出土した。覆土にはブロック状の砂が含まれており、人為的な埋土の可能性ある。A1b類。

SK908（図版15・64）

4J-1C10、1D6に位置する。V b1層で検出した。トレンチに切られ平面全体形は不明であるが楕円形と推測する。断面形は半円状である。規模は長軸不明、短軸推定1.15m、深さ0.42mを測る。覆土は3層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK798（図版15・64）

3J-10D25、4J-1D4・5に位置する。V b2層で検出した。Pit795、SX757に切られる。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.47m、短軸1.45m、深さ0.12mを測る。覆土は単層。遺物は出土していない。

SK749（図版15・64）

4J-1D13・14・18・19に位置する。V b2層で検出した。平面形は長楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.33m、短軸0.83m、深さ0.25mを測る。覆土は単層。床面直上から深鉢口縁部片（p175）が出土している。

SK906（図版15・64）

4J-1D19に位置する。V c層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.53m、短軸0.37m、深さ0.09mを測る。覆土は単層。覆土上面から深鉢（p51）の口縁部片・胴部片が出土している。A5類。

SK516（図版15・64）

4J-1D20に位置する。V b2層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸0.67m、短軸0.58m、深さ0.06mを測る。覆土は単層。覆土中には焼土ブロックが含まれている。遺物は出土していない。

SK797（図版15・64、写真図版61）

4J-1D22・23に位置する。V c層で検出した。攪乱に切られ遺構全体形は不明である。平面形は不明、断面形は半円状である。規模は長軸1.29m、短軸不明、深さ0.54mを測る。覆土は3層のレンズ状堆積であり、1層・3層に炭化物を多量に含む。上層から浅鉢底部片（p176）、その他の土器片2点、小礫6点が出土している。

SK835（図版15・65、写真図版61）

4J-1D24・25に位置する。調査時に遺物が出土したため周辺を精査したが遺構の掘り込みが不明確であったため、遺物の周囲を掘り下げ遺物を検出した。遺物の出土状況から何らかの掘り込みが存在したことが想定され、分布状況から平面形は楕円形、断面形が弧状の土坑であると推定した。遺物の出土レベルから土坑の掘り込み面はV b2層と推測され、推定規模は長軸1.49m、短軸不明、深さ0.26m程と考える。底面レベルから半割された石皿（s103）が出土し、その周辺から深鉢（p181）の破片とアスファルト塊3点が出土し、それらの東側には板状のアスファルトの上に深鉢（p181）の大破片が被せられた状態で出土している。D2類。

SK759（図版15・65）

4J-1D10、1E6に位置する。V b2層で検出した。SX760を切り、Pit527（SI501）に切られる。トレンチとPit527に大部分を切られ平面形は不明である。断面形は弧状と推測する。規模は不明、残存部の深さは0.14mを測る。覆土は2層のレンズ状堆積である。覆土上層から、炭化物とともに船底形の浅鉢（p178）が破片の状態で出土している。A4類。

SK640（図版15・65）

4J-1E6に位置する。V b2層で検出した。Pit633（SI501）・638（SI501）・639（SI501）に切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.30m、短軸0.87m、深さ0.10mを測る。覆土は単層。床面から浮いた状態で浅鉢（p54）の底部片が出土している。A5類。

SK912 (図版 16・65)

4J-1F11 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は台形状である。規模は長軸 0.86m、短軸 0.54m、深さ 0.15m を測る。覆土は 2 層の水平堆積。上層から小礫 1 点が出土している。

SK913 (図版 16・65)

4J-1F11 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は台形状である。規模は長軸 0.78m、短軸 0.54m、深さ 0.13m を測る。覆土は 2 層の斜位堆積。遺物は出土していない。

SK504 (図版 16・65、写真図版 62)

4J-1F16・21 に位置する。V b2 層で検出した。SI790 を切る。平面形は隅丸方形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.05m、短軸 0.98m、深さ 0.20m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土上層から深鉢片 (p179)、壺の胴部片 (p180)、その他土器小片 3 点、下層から礫 4 点が出土している。A5 類。

SK622 (図版 16・65)

4J-1F22 に位置する。V b2 層で検出した。SI790、SK625 を切る。平面形は不整形円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.68m、短軸 0.60m、深さ 0.05m を測る。覆土は単層。焼土ブロックが少量混ざる。遺物は出土していない。

SK625 (図版 16・65)

4J-1F22 に位置する。V b2 層で検出した。SI790 を切り、SK622 に切られる。平面形は長楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.74m、短軸 0.44m、深さ 0.07m を測る。覆土は単層。焼土ブロックが少量混ざる。遺物は出土していない。

SK615 (図版 16・65)

4J-1F22 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.55m、短軸 0.46m、深さ 0.09m を測る。覆土は単層。焼土ブロックが少量混ざる。遺物は出土していない。

SK935 (図版 15・65、写真図版 62)

4J-2C4 に位置する。V c 層で検出した。Pit936 を切り、Pit934 に切られる。平面形は不整形方形、断面形は台形状である。規模は長軸 1.53m、短軸 1.34m、深さ 0.56m を測る。覆土は 3 層のレンズ状堆積。遺構東寄りの底面直上から浅鉢 (p182) ほぼ 1 個体分の破片、分割された石皿・台石片 9 点 (s102) が出土している。A3 類。

SK921 (図版 15・65、写真図版 62)

4J-2C4・5 に位置する。V c 層で検出した。SD846 を切る。攪乱に切られ平面全体形は不明であるが隅丸方形か隅丸長方形と推測する。断面形は台形状である。規模は長軸不明、短軸 1.09m、深さ 0.34m を測る。覆土は 3 層の水平堆積。覆土中層から剥片・石核 (s107a～c)、敲石 (s106) が出土している。剥片と石核は接合する。B3a 類。

SK584 (図版 15・65)

4J-2D19・24 に位置する。V c 層で検出した。SX762、SD846 を切る。平面形は方形、断面形は台形状である。規模は長軸 0.52m、短軸 0.44m、深さ 0.21m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK727 (図版 15・65)

4J-2D24 に位置する。V c 層で検出した。SD846 を切る。平面形は方形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.37m、短軸 0.36m、深さ 0.11m を測る。覆土は 3 層のレンズ状堆積。覆土上位から剥片 1 点 (s107d)、底面直上からアスファルト塊 1 点が出土している。D3 類。

SK589 (図版 15・66)

4J-2D24 に位置する。V c 層で検出した。SK725 を切る。平面形は長楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸推定 0.58m、短軸 0.36m、深さ 0.12m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土上位から小礫 1 点が出土している。

SK725（図版 15・66）

4J-2D24 に位置する。V c 層で検出した。SK932、SD846 を切り、SK589 に切られる。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.76m、短軸 0.72m、深さ 0.11m を測る。覆土は 4 層のブロック状堆積である。覆土上位から土器小片 1 点、赤色顔料のブロックが出土している。E 類。

SK932（図版 15・66）

4J-2D24、3D4 に位置する。V c 層で検出した。SK725・761、SD846 に切られる。平面形は長楕円形、断面形はテラスをもつ階段状である。規模は長軸不明、短軸 0.65m、深さ 0.16m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK902（図版 15・66）

4J-2E2・7 に位置する。V b2 層で検出した。トレンチに切られ平面形は不明である。断面形は弧状。規模不明、深さ 0.19m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK903（図版 15・66）

4J-2E2・3・7・8 に位置する。V b2 層で検出した。トレンチに切られ平面形は不明、断面形は半円状である。規模は不明、深さ 0.18m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土上層から土器小片 1 点が出土している。

SK1003（図版 16・66）

4J-2E4・9 に位置する。V b2 層で検出した。SI790 に切られる。平面形は不整楕円形、断面形は台形状である。規模は長軸 1.39m、短軸 1.14m、深さ 0.32m を測る。覆土は 3 層の斜位堆積。遺物は出土していない。

SK839（図版 16・66、写真図版 62・63）

4J-2E8・9・13・14 に位置する。V c 層で検出した。Pit838 に切られる。平面形は隅丸長方形、断面形は台形状である。規模は長軸 0.94m、短軸 0.84m、深さ 0.32m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺構北寄りの覆土中から深鉢胴部片（p183）、磨石類 4 点（s109～112）、石皿・台石類 1 点（s108）が出土している。磨石類の上に台石が重なった状態であった。B2 類。

SK819（図版 16・66）

4J-2E15 に位置する。V b2 層で検出した。SK1006 を切り、SI710、SK809、Pit817・818 に切られる。平面形は不整楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 1.24m、短軸 0.95m、深さ 0.34m を測る。覆土は 3 層のレンズ状堆積。覆土中から小礫 1 点が出土している。

SK809（図版 16・66）

4J-2E15、2F11 に位置する。V b1 層で検出した。SI710、SK819、Pit818 を切る。トレンチに切られ平面全体形は不明であるが円形か楕円形と推測する。断面形は半円状である。規模は長軸不明、短軸 0.65m、深さ 0.26m を測る。覆土は 3 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK1006（図版 16・66）

4J-2E15 に位置する。V c 層で検出した。SK819 に切られる。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.51m、短軸 0.44m、深さ 0.14m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK861（図版 16・66）

4J-2E13・14・18・19 に位置する。V c 層で検出した。攪乱に切られるが平面形は長楕円形と推測する。断面形は半円状である。規模は長軸不明、短軸 0.59m、深さ 0.24m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK600（図版 16・66、写真図版 63）

4J-2E14・19 に位置する。V b2 層で検出した。Pit712 を切る。平面形は円形、断面形は底部がやや広がる袋状である。規模は長軸 0.67m、短軸 0.61m、深さ 0.40m を測る。覆土は下部がレンズ状堆積、上部が焼土粒・被熱した地山土を含むブロック状堆積である。覆土上部のブロック状堆積層から土器小片 2 点、碎片 1 点が出土

しており、袋状土坑が埋没する過程でできた窪みに焼土・炭化物・遺物等を廃棄した状況が窺える。

SK900 (図版 16・66)

4J-2E15、2F11・16 に位置する。SI710・810 に切られ、検出層位はV b2 層である。平面形は長方形、断面形は台形状である。規模は長軸 1.80m、短軸 1.18m、深さ 0.39m を測る。覆土は 3 層の水平堆積。下層に炭化物を多量含む。遺物は出土していない。

SK808 (図版 16・67)

4J-2F17・18 に位置する。V b1 層で検出した。SI710・810 を切る。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.62m、短軸 0.53m、深さ 0.22m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK926 (図版 16・67、写真図版 63)

4J-2F25 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.82m、短軸 0.77m、深さ 0.17m を測る。覆土は 3 層のレンズ状堆積。1・2 層中には赤色顔料ブロックが混ざる。覆土上位から小礫 2 点が出土している。E 類。

SK986 (図版 16・67)

4J-2F25 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.60m、短軸 0.50m、深さ 0.18m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土上位から土器片 1 点が出土している。

SK459 (図版 16・67、写真図版 64)

4J-2G4・5 に位置する。V c 層上面で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.34m、短軸 0.28m、深さ 0.07m を測る。覆土は単層。底面直上から磨石類 2 点 (s104・105) と磨石状の風化した礫 2 点が出土している。遺物の出土状況から実際の掘り込み面は V b2 層である。デボ遺構の B1 類。

SK925 (図版 16・67)

4J-2G7・8 に位置する。V b1 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.61m、短軸 0.47m、深さ 0.25m を測る。覆土は 3 層のレンズ状堆積。覆土中から小礫 1 点が出土している。

SK920 (図版 16・67、写真図版 64)

4J-2G14 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.02m、短軸 0.92m、深さ 0.16m を測る。覆土は単層。床面から浮いた状態で完形の浅鉢 (p184) と磨石類 (s113) がセットで出土している。浅鉢は逆位の状態であった。覆土は暗褐色土と砂が斑状に混ざる人為堆積である。A1a 類。

SK950 (図版 16・67)

4J-2G20 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.83m、短軸 0.65m、深さ 0.18m を測る。覆土は単層。覆土上位の西寄りに鉢 (p185) が破片の状態で出土した。その他に覆土上位から深鉢口縁部片 (p186) が出土している。A4 類。

SK614 (図版 16・67)

4J-2G16 に位置する。V b2 層で検出した。SK964 を切る。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.44m、短軸 0.32m、深さ 0.13m を測る。覆土は 2 層の斜位堆積である。遺物は出土していない。

SK964 (図版 16・67)

4J-2G16・21 に位置する。V b2 層で検出した。SK614、SX930・946 に切られる。平面形は方形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.52m、短軸 0.42m、深さ 0.21m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土中から土器小片 1 点が出土している。

SK1002 (図版 16・67、写真図版 64)

4J-2F25、2G21、3F5、3G1 に位置する。V c 層で検出した。平面形は円形、断面形は台形状である。規模は長軸 1.13m、短軸 1.07m、深さ 0.27m を測る。覆土は単層。若干底面から浮いた状態で台石 (s115) が出土し、覆土中からは深鉢胴部片 (p187)、砥石 (s114) が出土している。B3b 類。

SK963（図版 16・67、写真図版 64・65）

4J-2G24 に位置する。V c 層で検出した。平面形は隅丸長方形、断面形は台形状である。規模は長軸 0.80m、短軸 0.62m、深さ 0.20m を測る。覆土は単層。覆土上位から台石(s116)、土器小片 1 点が出土している。B3b 類。

SK962（図版 16・67、写真図版 65）

4J-2G25 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.50m、短軸 0.47m、深さ 0.19m を測る。覆土は単層。覆土上位から鉢 (p185) の胴部下位～底部が逆位の状態で出土している。斜めに傾き、沈み込んだ状態である。A4 類。

SK583（図版 15・68・69）

4J-2D25、3D5 に位置する。V c 層で検出した。SK720、SD846 を切る。V b2 層帰属の SK720 より新しいため、本遺構も V b 層に帰属する。平面形は隅丸長方形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.00m、短軸 0.64m、深さ 0.09m を測る。覆土は 3 層の斜位堆積。覆土中から深鉢口縁部片(p188)、その他土器小片 4 点が出土している。

SK761（図版 15・68・69）

4J-2D24、3D4 に位置する。V c 層で検出した。SK932 を切る。平面形は長楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.49m、短軸 0.31m、深さ 0.11m を測る。覆土は 3 層の斜位堆積。遺物は出土していない。

SK720（図版 15・68・69）

4J-2D24・25、3D4・5 に位置する。V c 層で検出した。SK722・853、SD846 を切り、SK583・719 に切られる。平面形は長楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.91m、短軸 1.14m、深さ 0.15m を測る。覆土は 6 層のレンズ状堆積である。上位層に炭化物が多量に含まれている。覆土中から浅鉢 (p20) の胴部片、その他土器小片 2 点、礫 2 点が出土している。V b2 層帰属の SI580 出土の p20 が本遺構からも出土することから、所属は V b2 層と考える。A5 類。

SK722（図版 15・68・69、写真図版 65）

4J-3D5 に位置する。V c 層で検出した。SK718・729・853・888・1010、Pit775・776・779・780・851・852、SD846 を切り、SK719・720 に切られる。平面形は不整形円形、断面形は弧状である。規模は直径約 1.52m、深さ 0.24m を測る。覆土は 15 層のブロック状堆積である。炭化物を多量に含む層、焼土ブロックを含む層、灰白色土ブロックを含む層が互層になっており、くり返しこれらが廃棄された状況を示している。覆土中からは多量の遺物が出土し、浅鉢胴部片 (p189)、深鉢片 (p190～192)、その他の土器片 28 点、石剣 (s119・120)、石鏃未成品 (s121)、アスファルトが付着した敲石 (s122)、剥片 6 点、碎片 4 点、被熱して破碎した小礫 14 点、焼骨片 1 点が出土している。またアスファルト塊が 18 点出土しており、本遺跡で最も集中して出土している。覆土と遺物の在り方からアスファルトに関する作業に用いられた廃棄土坑であり、祭祀遺物の出土状況から廃棄行為に際して何らかの儀礼が行われた可能性がある。D1 類。

SK729（図版 15・68・69）

4J-3D5、3E1 に位置する。V c 層で検出した。SK855・888、Pit721・851・852・882、SD846 を切り、SK722 に切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.63m、短軸不明、深さ 0.12m を測る。覆土は炭化物を含んだ 4 層のブロック状堆積。覆土中から土器片 1 点、小礫 1 点が出土している。

SK730（図版 16・68・69）

4J-3E1 に位置する。V c 層で検出した。SK716・855 に切られる。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は直径約 0.50m、深さ 0.16m を測る。覆土は 3 層の斜位堆積。覆土中から土器小片 1 点と剥片 1 点が出土している。

SK719（図版 15・68・69、写真図版 66）

4J-3D4・5・10 に位置する。V c 層で検出した。SK718・720・722・853・1010、Pit765 を切る。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.27m、短軸 1.13m、深さ 0.24m を測る。覆土は焼土ブロック

を含む層、炭化物を含む層の12層からなるブロック状堆積である。4層に多量の焼土ブロックが廃棄されている。覆土中から浅鉢(p20)、深鉢(p59)の胴部片、その他土器片16点、分割された磨石類1点、屑片2点、被熱した小礫4点が出土している。SK722と類似した堆積状況を示しており、アスファルトに関する痕跡はないが同様な作業に関する廃棄土坑の可能性が考えられる。浅鉢(p20)はSK720を掘り返した際の混入と考える。深鉢(p59)はV b1層検出のSI710から主体的に出土しており、本遺構も同時期の可能性が高い。A5類。

SK774 (図版15・68・69)

4J-3D10に位置する。V c層で検出した。Pit923、SD927を切り、SK713・715・718・726に切られる。平面形は隅丸方形、断面形は箱状である。遺構南側が若干袋状となる。規模は長軸1.59m、短軸1.52m、深さ0.61mを測る。覆土は9層からなるレンズ状堆積。覆土下層から碎片1点が出土している。

SK713 (図版15・68・69)

4J-3D10に位置する。V c層で検出した。SK715・774を切り、SK718に切られる。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸0.66m、短軸0.44m、深さ0.16mを測る。覆土は3層の水平レンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK715 (図版15・16・68・69)

4J-3D10、3E6に位置する。V c層で検出した。SK774・887、Pit890、SD927を切り、SK713・714・718に切られる。平面形は推定楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸推定1.10m、短軸推定0.76m、深さ0.22mを測る。覆土は焼土・炭化物を含む6層のブロック状堆積。SK718・719・722と同様の機能が想定される。覆土中から深鉢口縁部片(p194)、その他土器小片2点、敲石(s118)、礫1点が出土している。B3b類。

SK714 (図版16・68・69)

4J-3D10、3E1・6に位置する。V b2層で検出した。SK715・855・887、Pit764・766・890を切り、SK716に切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.18m、短軸0.90m、深さ0.16mを測る。覆土は2層のレンズ状堆積。覆土中から土器胴部片(p193)、その他土器片3点、石鏃未成品(s117)、剥片2点、碎片1点、小礫3点が出土している。B3a類。

SK716 (図版16・68・69)

4J-3E1・6に位置する。V b2層で検出した。SK714・730・855、Pit766・942を切る。平面形は長楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.47m、短軸0.82m、深さ0.11mを測る。覆土は2層の水平堆積。覆土中から土器底部片(p195)、その他土器片2点、小礫1点、アスファルト塊2点が出土している。D3類。

SK853 (図版15・68・69)

4J-3D4・5に位置する。V c層で検出した。Pit765を切り、SK719・720・722に切られる。平面形は不整楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.90m、短軸0.57m、深さ0.14mを測る。覆土は4層のブロック状堆積。覆土中から土器小片1点が出土している。

SK726 (図版15・68・69)

4J-3D10に位置する。V b2層で検出した。SK718・774・1010を切る。平面形は不整楕円形、断面形はV字状である。規模は長軸0.44m、短軸0.34m、深さ0.15mを測る。覆土は3層からなる斜位のレンズ状堆積。上層には炭化物が多量含まれている。遺物は出土していない。

SK718 (図版15・68・69)

4J-3D5・10に位置する。V c層で検出した。SK713・715・774・855・888・1010を切り、SK719・722・726に切られる。平面形は推定円形か楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸推定1.44m、短軸不明、深さ0.09mを測る。覆土は2層のレンズ状堆積。上層には焼土・炭化物が多量含まれている。SK719・722と同様の廃棄土坑の可能性が考えられる。覆土上層から深鉢片(p190)、鉢(p196)、石鏃未成品(s123)、磨製石斧剥片1点、小礫5点が出土している。B3a類。

SK1010（図版 15・68・69）

4J-3D5・10 に位置する。V c 層で検出した。SK718・719・722・726 に切られる。平面形は推定楕円形、断面形は重複のため不明である。規模は不明、深さは残存部で 0.05m である。覆土残存部は単層。遺物は出土していない。

SK888（図版 15・16・69）

4J-3D5、3E1 に位置する。V c 層で検出した。SK718・722・729・855、Pit721・851・852・882 に切られる。平面形は推定楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸不明、短軸 0.35m、深さ 0.21m を測る。覆土は単層。土器小片 1 点が出土している。

SK855（図版 15・16・68・69）

4J-3D5、3E1・6 に位置する。V c 層で検出した。SK730・888、Pit882 を切り、SK714・716・718・729 に切られる。平面形は推定隅丸長方形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.22m、短軸 0.80m、深さ 0.13m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土上位から土器胴部片（p197）が出土している。

SK887（図版 16・68・69）

4J-3E6 に位置する。V c 層で検出した。Pit890、SD927 を切り、SK714・715 に切られる。平面形は不明、断面形は台形状である。規模は不明、残存部の深さ 0.12m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK922（図版 16・68・69、写真図版 90）

4J-3E6・11 に位置する。V c 層で検出した。SD927 を切り、Pit942 に切られる。平面形は円形、断面形は U 字状である。規模は長軸 0.94m、短軸 0.91m、深さ 0.95m を測る。覆土は 4 層からなるやや斜位のレンズ状堆積である。北側から覆土が流入した状況である。底面直上から浅鉢（p198）、深鉢（p199）、礫 1 点が出土している。

SK586（図版 16・70、写真図版 66）

4J-3E7 に位置する。V c 層で検出した。Pit830・841 を切る。平面形は隅丸長方形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.75m、短軸 0.62m、深さ 0.14m を測る。覆土は 2 層の水平堆積。底面から若干浮いた状態で磨石類 4 点（s124～127）が重なって出土している。B2 類。

SK825（図版 16・70）

4J-3E2・3・7・8 に位置する。V c 層で検出した。Pit824 に切られる。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.80m、短軸 0.72m、深さ 0.15m を測る。覆土は 2 層の斜位堆積。遺物は出土していない。

SK891（図版 16・70）

4J-3E6・7・11・12 に位置する。V c 層で検出した。SK845、Pit828、SD927 に切られる。平面形は楕円形、断面形は半円状と推測する。規模は長軸推定 1.52m、短軸推定 1.13m、深さ 0.42m を測る。覆土は 3 層の水平堆積。覆土中から胴部片（p200）、その他土器片 2 点が出土している。

SK845（図版 16・70）

4J-3E12 に位置する。V c 層で検出した。SK891 を切り、Pit844 に切られる。平面形は楕円形、断面形は台形状である。規模は長軸 0.81m、短軸 0.63m、深さ 0.32m を測る。覆土は 3 層のレンズ状堆積。覆土下層から破碎礫 1 点が出土している。

SK822（図版 16・70）

4J-3E7・8・12・13 に位置する。V c 層で検出した。SK821 を切る。平面形は長楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.44m、短軸 0.68m、深さ 0.16m を測る。覆土は 2 層の水平堆積。遺物は出土していない。

SK821（図版 16・70）

4J-3E12・13 に位置する。V c 層で検出した。SD917 を切り、SK822 に切られる。平面形は隅丸長方形、

断面形は箱状であるが南側がオーバーハングし袋状となる。規模は長軸 1.40m、短軸 0.90m、深さ 0.38m を測る。覆土は 12 層からなるブロック状堆積である。覆土上層から土器小片 1 点が出土している。

SK847 (図版 16・70)

4J-3E13 に位置する。V c 層で検出した。SD917 を切る。平面形は長楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.93m、短軸 0.39m、深さ 0.14m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK605 (図版 16・70)

4J-3E8・9・13・14 に位置する。V b2 層で検出した。SK607 に切られる。平面形は隅丸長方形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.02m、短軸 0.65m、深さ 0.14m を測る。覆土は 4 層の斜位堆積。覆土中から土器片 2 点が出土している。

SK607 (図版 16・70)

4J-3E14 に位置する。V b2 層で検出した。SK605 を切る。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.39m、短軸 0.37m、深さ 0.10m を測る。覆土は 3 層の斜位堆積。覆土中から土器片 1 点が出土している。

SK588 (図版 16・70)

4J-3E9・14 に位置する。V b2 層で検出した。SK602 を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.17m、短軸 0.84m、深さ 0.11m を測る。覆土は 2 層の斜位堆積。覆土上位から炭化物とともに土器片 5 点が出土している。

SK602 (図版 16・70)

4J-3E9・10 に位置する。V b2 層で検出した。SK588 に切られる。平面形は隅丸方形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.08m、短軸 0.98m、深さ 0.09m を測る。覆土は 5 層の斜位堆積。遺物は出土していない。

SK587 (図版 16・70)

4J-3E14 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.40m、短軸 0.35m、深さ 0.13m を測る。覆土は 2 層の水平堆積。覆土中から土器小片 1 点が出土している。

SK881 (図版 16・70)

4J-3E12・17 に位置する。V c 層で検出した。SD927 を切り、Pit860 に切られる。平面形は隅丸長方形、断面形は半円状である。規模は長軸 1.12m、短軸推定 0.85m、深さ 0.31m を測る。覆土は 4 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK856 (図版 16・71)

4J-3E17・18 に位置する。V c 層で検出した。平面形は隅丸長方形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.94m、短軸 0.62m、深さ 0.15m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK944 (図版 16・71)

4J-3E19・20・24・25 に位置する。V c 層で検出した。SD917 を切る。平面形は長楕円形、断面形はV字状である。規模は長軸 1.08m、短軸 0.59m、深さ 0.24m を測る。覆土は 3 層の水平堆積。2 層中に被熱した地山土のブロックが混ざる。遺物は出土していない。

SK771 (図版 16・71)

4J-3E15、3F11 に位置する。V b2 層で検出した。SX767 に切られる。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.54m、短軸 0.51m、深さ 0.10m を測る。覆土は 2 層のブロック状堆積。覆土上位から小礫 3 点が出土している。

SK883 (図版 16・71)

4J-3E15・20、3F11・16 に位置する。V c 層で検出した。SK886 を切り、SX767 に切られる。平面形は隅丸長方形、断面形は台形状である。規模は長軸 1.18m、短軸 0.75m、深さ 0.29m を測る。覆土は 5 層のブロック状堆積。覆土上位から小礫 1 点が出土している。

SK886（図版 16・71）

4J-3E20 に位置する。V c 層で検出した。SK883 に切られる。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は直径約 0.42m、深さ 0.11m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土上位から土器小片 1 点が出土している。

SK723（図版 16・71）

4J-2F23、3F3 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は半円状である。規模は長軸 0.58m、短軸 0.48m、深さ 0.16m を測る。覆土は 3 層のレンズ状堆積。3 層中に多量の炭化物を含む。遺物は出土していない。

SK724（図版 16・71）

4J-2F23・24、3F3・4 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.71m、短軸 0.57m、深さ 0.13m を測る。覆土は 3 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK728（図版 16・71）

4J-3F3 に位置する。V b2 層で検出した。トレンチと攪乱に切られ平面全体形は不明であるが隅丸長方形と推測する。断面形は弧状である。規模は長軸不明、短軸推定 0.63m、深さ 0.14m を測る。覆土は 6 層の斜位堆積。炭化物を多量に含む層が北側から流入した状態で堆積している。覆土上層から土器小片 15 点、礫 1 点が出土している。

SK843（図版 16・71）

4J-3F11・12 に位置する。V b2 層で検出した。トレンチと攪乱に切られ平面全体形は不明であるが、楕円形もしくは隅丸長方形と推測する。断面形は弧状である。規模は長軸不明、短軸 1.40m、深さ 0.18m を測る。覆土は 3 層のレンズ状堆積。覆土中から深鉢 (p202)、碎片 1 点、礫 1 点が出土している。

SK943（図版 16・71）

4J-3F12・16・17 に位置する。V c 層で検出した。Pit1009 を切り、SX603・604 に切られる。平面形は隅丸方形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.60m、短軸 1.54m、深さ 0.15m を測る。覆土は 2 層の水平に近いレンズ状堆積。覆土上位から深鉢胴部片 (p201) が出土している。

SK915（図版 16・71）

4J-3F17・21・22 に位置する。V c 層で検出した。Pit1009 を切る。トレンチに切られ平面全体形は不明、断面形は弧状である。規模は長軸 0.82m、短軸不明、深さ 0.09m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土下位から石鏃 (s128) が出土している。B3a 類。

SK850（図版 16・71）

4J-3F21 に位置する。V c 層で検出した。トレンチにきられ平面全体形は不明であるが長楕円形と推測する。断面形は弧状である。規模は長軸 0.77m、短軸不明、深さ 0.14m を測る。覆土は 3 層の水平レンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK899（図版 16・72）

4J-3G2 に位置する。V c 層で検出した。SK1005 を切る。平面形はやや不整楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.06m、短軸 0.79m、深さ 0.23m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK1005（図版 16・72）

4J-3G2 に位置する。V c 層で検出した。SK899 に切られる。平面形は隅丸方形、断面形は遺構中央が窪む階段状である。規模は長軸 1.35m、短軸 1.29m、深さ 0.56m を測る。覆土は 3 層のレンズ状堆積。炭化物を多量に含む 2 層中から土器小片 1 点、敲石 (s129) が出土している。B3b 類。

SK968（図版 16・72）

4J-3G1・2・6・7 に位置する。V b2 層で検出した。SK897 を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸 1.32m、短軸 1.03m、深さ 0.22m を測る。覆土は 2 層のレンズ状堆積。覆土上位から深鉢胴部片

(p203)、その他土器小片3点が出土している。

SK897 (図版 16・72・73)

4J-3G6・7に位置する。V b2層で検出した。SK1004を切り、SK968に切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.80m、短軸0.62m、深さ0.14mを測る。覆土は2層の水平堆積。覆土上位から深鉢口縁部片(p203)が出土している。

SK969 (図版 16・72)

4J-3F10、3G6に位置する。V b2層で検出した。SK1008を切り、SK965、SX948に切られる。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.79m、短軸1.60m、深さ0.24mを測る。覆土は2層のレンズ状堆積。覆土上位から壺頸部片(p204)、深鉢底部片(p205)、その他土器小片2点が出土している。

SK965 (図版 16・72)

4J-3F10・15、3G6・11に位置する。V b2層で検出した。SK969を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.27m、短軸0.89m、深さ0.16mを測る。覆土は2層のレンズ状堆積。覆土上層から炭化物とともに鉄鉱石(s131)が出土している。

SK1008 (図版 16・72・73)

4J-3G6に位置する。V c層で検出した。SK969・1004に切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.20m、短軸0.75m、深さ0.13mを測る。覆土は2層のレンズ状堆積。遺物は出土していない。

SK1004 (図版 16・72・73)

4J-3G6・7・11・12に位置する。V b2層で検出した。SK1008を切り、SK897に切られる。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.41m、短軸1.05m、深さ0.22mを測る。覆土は2層のレンズ状堆積。覆土上位から鉢(p185)の口縁部片、深鉢胴部片(p206・207)、被熱した小礫1点が出土している。

SK894 (図版 16・72・73)

4J-3G7・12に位置する。V b2層で検出した。SK898、Pit1007を切り、SK985に切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.10m、短軸0.87m、深さ0.18mを測る。覆土は2層のレンズ状堆積。覆土上位から深鉢胴部片(p208)、その他土器片2点が出土している。

SK898 (図版 16・72・73)

4J-3G7・12に位置する。V b2層で検出した。SK894に切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸不明、短軸0.88m、深さ0.24mを測る。覆土は3層のレンズ状堆積。底面直上から土器小片1点が出土している。

SK967 (図版 16・72・73)

4J-3G12・13に位置する。V b2層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.89m、短軸0.88m、深さ0.16mを測る。覆土は2層の水平堆積。覆土上位から深鉢口縁部・胴部片(p210)が出土している。

SK984 (図版 16・72・73)

4J-3G11に位置する。V b2層で検出した。SK985を切る。南側を攪乱に切られるが平面形は長楕円形と推定する。断面形は弧状である。規模は長軸1.53m、短軸不明、深さ0.20mを測る。覆土は2層のレンズ状堆積。覆土上位から深鉢(p75)の胴部片が出土している。

SK985 (図版 16・72・73、写真図版 66)

4J-3G11・12・17に位置する。V b2層で検出した。SK894・987、Pit1007を切り、SK984に切られる。攪乱に切られるため平面全体形は不明である。断面形は弧状である。規模は長軸2.64m、短軸残存値1.32m、深さ0.30mを測る。覆土は2層の水平堆積。覆土上層から深鉢(p210・211)、深鉢底部片(p212)、その他土器片5点、風化した磨石類(s130)、礫2点、板状アスファルトが2点出土している。うち深鉢(p211)には多

量のアスファルトが付着し、外面に煤の付着もみられる。D2類。

SK987（図版16・72・73）

4J-3G12・17に位置する。V b2層で検出した。SK961・985と攪乱に切られ、遺構全体形は不明である。残存する覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK961（図版16・72・73、写真図版66）

4J-3G17・18に位置する。V b2層で検出した。SK987を切る。攪乱とトレンチに切られ平面全体形は不明であるが隅丸長方形と推測する。断面形は弧状である。規模は不明であるがSK985と同様のやや大型の土坑と思われる。深さ0.25mを測る。覆土は2層の水平堆積。下層に炭化物を多く含み、底面から浮いた状態で浅鉢（p68）、深鉢（p209）、アスファルト塊1点が出土している。浅鉢（p68）は逆位の状態で潰れて出土した。D3類。SK937（図版16・73）

4J-4F2・3に位置する。V b2層で検出した。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.81m、短軸0.64m、深さ0.12mを測る。覆土は3層の斜位堆積。覆土上位から土器小片6点が出土している。

SK980（図版16・73）

4J-3F23、4F3に位置する。V c層で検出した。平面形は円形、断面形は弧状である。規模は長軸0.48m、短軸0.44m、深さ0.13mを測る。覆土は単層。覆土上面から土器小片1点が出土している。

SK975（図版16・73）

4J-4F4・5に位置する。V b2層で検出した。SI951とトレンチに切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.48m、短軸不明、深さ0.16mを測る。覆土は2層の水平堆積。覆土上層から炭化物とともに土器小片2点が出土している。

SK977（図版16・73）

4J-4G1・2・6に位置する。V c層で検出した。東側が調査区外までのびるため遺構全体形は不明である。断面形は弧状。検出部分の規模は長軸2.39m、短軸1.68m、深さ0.20mを測る。覆土は単層。覆土中から小礫1点が出土している。

4) ピ ッ ト (Pit)

ピット群①（図版74）

Pit486（図版13・74）

SD338の北側、3J-7F11に位置する。平面形は円形で、断面形はU字状である。深さは0.33mを測る。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。A2類。

Pit559（図版13・74）

3J-7E20、7F16に位置する。SD338の底面で検出した。平面形は円形で、断面形はU字状である。深さは0.26mを測る。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。B類。

Pit433（図版13・74）

3J-7E20、7F16に位置する。SD338と重複し、これを切っている。平面形は円形で、断面形はU字状である。深さは0.44mを測る。覆土は2層に分かれる。礫1点が出土している。A2類。

Pit225（図版13・74）

3J-7F14に位置する。SK226と重複し、これを切る。平面形は円形で、断面形は半円状である。深さは0.14mと浅い。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。B類。

Pit492（図版13・74）

3J-7F19に位置する。SK277と重複し、これに切られる。平面形は円形で、断面形はU字状である。深さは0.36mを測る。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。A2類。

Pit280（図版13・74）

3J-7F19 に位置する。SK279、SD338 と重複し、これらを切る。平面形は円形で、断面形はU字状である。深さは 0.34m を測る。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。A2 類。

Pit426 (図版 13・74、写真図版 67)

3J-7F14・15・19・20 に位置する。SD338 と重複し、これに切られる。平面形は不整な長楕円形で、断面形は広いテラスをもつ階段状である。深さは 0.59m を測る。覆土は 12 層でシルトと粘質土を基調とする。レンズ状堆積であるが 12 層に未分解有機物が多量含まれており柱痕と考える。SD192 最下層出土の深鉢 (p314) と同一個体片が出土している。その他土器片 4 点、碎片 3 点、礫 6 点が出土している。A1 類。

Pit487 (図版 13・74、写真図版 67)

3J-7F23 に位置する。SD338 と重複し、これに切られる。平面形は円形で、断面形はU字状である。深さは 0.67m を測る。覆土は 4 層に分かれる。2 層は柱痕である。遺物は出土していない。A1 類。

Pit490 (図版 13・74、写真図版 67)

3J-7F23 に位置する。SK400 と重複し、これに切られる。平面形は楕円形で、断面形はU字状である。深さは 0.37m を測る。覆土は 3 層に分かれる。2 層は柱痕である。遺物は出土していない。A2 類。

Pit488 (図版 13・74、写真図版 67)

3J-7F23 に位置する。平面形は円形で、断面形は漏斗状である。深さは 0.61m を測る。覆土は 4 層に分かれる。3 層が柱痕であり、テラス状に広がる部分から柱根の折り取りが推定される。3 層上面から壺の破片 (p213)、テラス部分から石核 (s134) が出土している。A1 類。

Pit485 (図版 13・74、写真図版 68)

3J-7F24 に位置する。SD338 と重複し、これに切られる。平面形は円形で、断面形は上部が若干ひらく漏斗状である。深さは 0.56m を測る。覆土は 3 層に分かれる。3 層が柱痕である。上部のひらき方と覆土から柱根の折り取りが推測される。遺物は出土していない。A1 類。

Pit291 (図版 13・74)

3J-7F20・25 に位置する。SD338 と重複し、これを切る。平面形は円形で、断面形はU字状である。深さは 0.28m を測る。覆土は粘質土の単層である。礫 2 点が出土している。A2 類。

Pit221 (図版 13・74)

3J-7G17 に位置する。平面形は円形で、断面形は漏斗状である。深さは 0.23m を測る。覆土は粘質シルトの単層である。遺物は出土していない。A2 類。

Pit220 (図版 13・74)

3J-7G13・18 に位置する。平面形は円形で、断面形は半円状である。深さは 0.15m を測る。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。B 類。

Pit214 (図版 13・74・75)

3J-7G18 に位置する。SK215 と重複し、これを切る。平面形は円形で、断面形は片階段状である。深さは 0.27m を測る。覆土は 3 層に分かれる。遺物は出土していない。A2 類。

Pit445 (図版 13・74・75)

3J-7F25、8F5 に位置する。平面形は楕円形で、断面形は漏斗状である。深さは 0.66m を測る。覆土は 4 層に分かれ、2・3 層が柱痕である。上部のひらき方と覆土から柱根の折り取りが想定される。2 層上面から石剣の破片 2 点 (s132・133) と礫 1 点が出土している。A1 類。

Pit569 (図版 13・74・75)

3J-7G21・22 に位置する。SK405、SD192 と重複し、これに切られる。平面形は円形で、断面形はU字状である。深さは 0.29m を測る。覆土はシルトの単層である。遺物は出土していない。A2 類。

Pit565 (図版 13・74・75)

3J-8G2・3に位置する。SD192と重複し、これに切られる。平面形は円形で、断面形はU字状である。深さは0.30mを測る。覆土は粘質シルトの単層である。遺物は出土していない。A2類。

Pit494（図版13・74・75）

3J-8G3・8に位置する。SD192と重複し、これに切られる。平面形は円形で、断面形は片階段状である。深さは0.30mを測る。覆土は砂質土の単層である。遺物は出土していない。A2類。

Pit564（図版13・74・75、写真図版68）

3J-8G11に位置する。SX996と重複し、これを切る。平面形は円形で、断面形はややひろくV字状である。深さは0.50mを測る。覆土は2層に分かれる。2層が柱痕である。上部のひらき方と覆土から柱根の折り取りが想定される。Pit493・563との配置・間隔から掘立柱建物の側柱の可能性もある。遺物は出土していない。A1類。

Pit563（図版13・75、写真図版68）

3J-8G12に位置する。平面形は円形で、断面形はU字状である。深さは0.47mを測る。覆土は2層に分かれる。Pit493・564との配置・間隔から掘立柱建物の主軸柱の可能性もある。遺物は出土していない。A1類。

Pit493（図版13・74・75、写真図版68）

3J-8G13に位置する。平面形は円形で、断面形はU字状である。深さは0.54mを測る。覆土は4層に分かれる。Pit563・564との配置・間隔から掘立柱建物の側柱の可能性もある。遺物は出土していない。A1類。

Pit549（図版13・74・75）

3J-8G8・13に位置する。平面形は隅丸方形で、断面形は漏斗状である。深さは0.47mを測る。覆土は2層に分かれる。上部のひらき方から柱の抜き取りが想定される。土器片1点が出土している。A2類。

Pit422（図版13・74・75）

3J-8G9に位置する。平面形は円形で、断面形はU字状である。深さは0.26mを測る。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。A2類。

Pit548（図版13・74・75）

3J-8G10に位置する。平面形は円形で、断面形はU字状である。最終面下げ調査によるVI層検出のため深さは0.06mである。周辺と合わせてVc層を掘り込み面とすると推定0.28mとなる。残存する下部の覆土は粘質土の単層である。遺物は出土していない。A2類。

Pit561（図版14・74・75）

3J-8G15に位置する。平面形は円形で、断面形はU字状である。深さは0.20mを測る。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。A2類。

Pit562・570・571（図版14・74・75）

3J-8G15、8H11に位置する。3基が重複し、Pit562が最も新しく、Pit571が最も古い。平面形はいずれも円形で、断面形はPit562・570がU字状、571が半円状である。深さはPit562・570がほぼ等しく0.33m、0.30mを測り、Pit571は0.18mと浅い。覆土はいずれも粘質土の単層である。Pit562から礫1点が出土している。Pit562・570はA2類、Pit571はB類である。

Pit491（図版13・74・75）

3J-8G12・17に位置する。掘立柱建物の可能性があるPit493・563・564の南側である。平面形は円形で、断面形はややひろくU字状である。深さは0.64mを測る。覆土は4層に分かれ、3・4層が柱痕である。上部のひらき方と覆土から柱根の折り取りが想定される。遺物は出土していない。A1類。

Pit547（図版13・74・75）

3J-8G13に位置する。周囲には掘立柱級のピット群が分布する。平面形は円形で、断面形はややひろくU字状である。深さは0.31mを測る。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。A2類。

Pit545（図版14・74・75）

3J-8H16 に位置する。平面形は円形で、断面形は半円状である。深さは 0.06m と浅い。覆土は粘質土の単層である。炭化物を多量に含んでいる。遺物は出土していない。B類。

Pit461 (図版 14・74・75)

3J-8G24 に位置する。SK465 と重複し、これを切る。平面形は円形で、断面形はU字状である。深さは 0.46m を測る。覆土は3層に分かれる。3層には腐植物が認められ、柱根が自然分解したものである。遺物は出土していない。A1類。

Pit401 (図版 13・74・75)

3J-8F16 に位置する。平面形は円形で、断面形は半円状である。深さは 0.17m を測る。覆土は粘質土の単層である。遺物は出土していない。B類。

Pit591 (図版 13・74・75)

3J-8F22 に位置する。平面形は円形で、断面形はU字状である。深さは 0.23m を測る。覆土はシルトの単層である。遺物は出土していない。A2類。

Pit393 (図版 13・74・75)

3J-8F19・20 に位置する。平面形は隅丸方形で、断面形は半円状である。深さは 0.13m を測る。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。B類。

Pit407 (図版 13・74・75)

3J-8F20 に位置する。平面形は円形で、断面形は漏斗状である。深さは 0.19m を測る。覆土は4層に分かれる。掘方を有するピットで、1～3層が柱痕である。遺物は出土していない。A2類。

ピット群② (図版 76)

Pit772 (図版 15・76・77、写真図版 68・69)

4J-2D13 に位置する。SD846 の北側に近接する。平面形は円形、断面形はU字状で深さは 0.59m を測る。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。A1類。

Pit582 (図版 15・76・77)

4J-2D13・14・18・19 に位置する。SD846 の北側に位置する。平面形は円形、断面形は半円状で深さは 0.16m を測る。覆土は2層に分かれる。上層から礫2点が出土している。B類。

Pit858 (図版 15・76・77)

4J-2D18 に位置する。SD846 の北側に近接する。平面形は円形、断面形はU字状で深さは 0.29m を測る。覆土は粘質シルトからなる単層である。遺物は出土していない。A2類。

Pit769 (図版 15・76・77)

4J-2D18・19 に位置する。SD846 の北側に近接する。平面形は楕円形、断面形はU字状で深さは 0.60m を測る。覆土は6層に分かれる。明確な掘方をもつピットであり、1～3層が柱痕である。遺物は出土していない。A1類。

Pit585 (図版 15・76・77)

4J-2D24 に位置する。SD846 と重複し、これを切る。平面形は円形、断面形は漏斗状で深さは 0.41m を測る。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。A1類。

Pit709 (図版 15・76・77、写真図版 69)

4J-2D24 に位置する。SD846 と重複し、これを切る。平面形は円形、断面形はU字状で深さは 0.47m を測る。覆土は粘質土からなる単層である。地山を引き込んでおり、打込式と考える。覆土上位から深鉢口縁部片 (p219) が出土している。柱根が自然分解した後の窪みに流れ込んだものと推察する。A1類。

Pit763 (図版 15・76・77、写真図版 69)

4J-2D25 に位置する。SD846 と重複し、これを切る。平面形は円形、断面形はU字状で深さは 0.45m を測る。覆土は2層に分かれる。1層に多量の炭化物を含む。遺物は出土していない。A1類。

Pit780（図版 15・76・77）

4J-3D5 に位置する。SK722 と重複し、これに切られる。平面形は円形、断面形はU字状で深さは推定復元で 0.52m を測る。覆土は 3 層に分かれる。掘方を持ち、1 層が柱痕と考える。1 層から土器底部片（p220）が出土している。A1 類。

Pit779（図版 15・76・77）

4J-3D5 に位置する。SK722 と重複し、これに切られる。平面形は円形、断面形はU字状である。深さは推定復元で 0.36m を測る。覆土は粘質土からなる単層である。遺物は出土していない。A2 類。

Pit765（図版 15・76・77）

4J-3D5 に位置する。SK719・853 と重複し、これに切られる。平面形は円形、断面形はU字状であるが、N-70°-W の方向に鉛直に対して 34° 傾く。深さは推定復元すると約 1.00m を測る。覆土は 8 層に分かれる。明瞭な柱痕跡が認められ、何らかの要因で傾いたものと推測する。覆土上層から土器片（p221）、礫 1 点が出土している。A1 類。

Pit776（図版 15・76・77）

4J-3D5 に位置する。SK722 と重複し、これに切られる。Pit775 と接する。平面形は円形、断面形はU字状で、深さは推定復元で 0.40m を測る。覆土は 2 層に分かれる。土器片 1 点が出土している。A1 類。

Pit775（図版 15・76・77、写真図版 69）

4J-3D5 に位置する。SK722 と重複し、これに切られる。Pit776 と接する。平面形は円形、断面形はU字状で、深さは推定復元で 0.54m を測る。覆土は 4 層に分かれる。土器片 1 点、アスファルト塊 1 点が出土している。A1 類。

Pit721（図版 15・16・76・77）

4J-3D5、3E1 に位置する。SK729、Pit852 と重複し、これらを切る。平面形は円形、断面形はU字状で深さは 0.31m を測る。覆土は 5 層に分かれる。深鉢片（p190）が出土している。A2 類。

Pit851（図版 15・16・76・77）

4J-3D5 に位置する。SK722・729・888、Pit852 と重複し、SK888、Pit852 を切り、SK722・729 に切られる。平面形は楕円形、断面形はU字状、深さは推定復元で 0.26m を測る。覆土は 3 層に分かれる。遺物は出土していない。A2 類。

Pit852（図版 15・16・76・77）

4J-3D5、3E1 に位置する。SK729・888、Pit721・851 と重複し、SK888 を切り、SK729、Pit721・851 に切られる。平面形は円形、断面形はV字状、深さは推定復元で 0.45m を測る。覆土は 5 層に分かれる。覆土中から、土器胴部片（p222）が出土している。A1 類。

Pit882（図版 16・76・77、写真図版 69・70）

4J-3D5、3E1 に位置する。SK729・855・888 と重複し、SK888 を切り、SK729・855 に切られる。平面形は円形、断面形はU字状で、深さは推定復元 0.66m を測る。覆土は 12 層に分かれる。覆土中から、深鉢片（p190）、その他土器片 1 点、アスファルト塊 1 点が出土している。A1 類。

Pit770（図版 15・76・77）

4J-3D9 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状で深さは 0.22m を測る。覆土は 3 層に分かれる。覆土上層から壺の口縁部片（p223）が出土している。B 類。

Pit923（図版 15・76・77）

4J-3D10 に位置する。SK774、SD927 と重複し、これらに切られる。平面形は円形、残存部の断面形はU字状で地山面からの推定深度は 0.56m ほどと考える。覆土は粘質土の単層である。遺物は出土していない。A1 類。

Pit889（図版 15・76・77）

4J-3D9 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状で深さは 0.11m を測る。覆土はシルトの単層である。

遺物は出土していない。B類。

Pit764 (図版 15・16・76・77、写真図版 70)

4J-3E6 に位置する。SK714 と重複し、これらに切られる。平面形は円形、断面形はU字状で深さは推定復元 0.56m を測る。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。A1 類。

Pit766 (図版 16・76・78、写真図版 70)

4J-3E6 に位置する。SK714・716 と重複し、これらに切られる。平面形は円形、断面形はU字状で地山面からの深さは0.70mを測る。覆土は8層に分かれる。掘方を持ち、1～4層が柱痕部分であると考え。覆土中から、壺の肩部片 (p224) が出土している。A1 類。

Pit890 (図版 16・76・78、写真図版 70)

4J-3D10、3E6 に位置する。SK714・715・887、SD917 と重複し、SD917 を切り、SK714・715・887 に切られる。平面形は楕円形、断面形はV字状で地山面からの深さは0.58mを測る。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。A1 類。

Pit942 (図版 16・76・78、写真図版 70・90)

4J-3E6 に位置する。SK716・922 と重複し、SK922 を切り、SK716 に切られる。平面形は円形、断面形は底面付近にテラスを持ち、若干階段状となる。深さは0.80mを測る。覆土は6層に分かれ、1～3層が柱痕である。遺物は出土していない。A1 類。

Pit857 (図版 16・76・78)

4J-3D10、3E6 に位置する。SD927 と重複し、これを切る。平面形は円形、断面形はU字状で深さは0.61mを測る。覆土は6層に分かれる。遺物は出土していない。A1 類。

Pit823 (図版 16・76・78、写真図版 71)

4J-3E3 に位置する。平面形は円形、断面形はU字状で深さは0.40mを測る。覆土は8層に分かれ、1・2層に柱痕がみられる。遺物は出土していない。A1 類。

Pit933 (図版 16・76・78)

4J-3E3 に位置する。平面形は円形、断面形はU字状で深さは0.31mを測る。覆土は粘質土の単層である。遺物は出土していない。A2 類。

Pit827 (図版 16・76・78)

4J-3E8 に位置する。平面形は円形、断面形はややV字状にひらき、深さは0.26mを測る。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。A2 類。

Pit824 (図版 16・76・78)

4J-3E8 に位置する。SK825 と重複し、これを切る。平面形は円形、断面形はU字状で深さは0.18mを測る。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。A2 類。

Pit830 (図版 16・76・78)

4J-3E7 に位置する。SK586 と重複し、これに切られる。平面形は円形、断面形はU字状で深さは0.25mを測る。覆土は5層に分かれる。遺物は出土していない。A2 類。

Pit841 (図版 16・76・78)

4J-3E7 に位置する。SK586 と重複し、これに切られる。平面形は円形、断面形はU字状で深さは0.20mを測る。覆土は粘質土の単層である。遺物は出土していない。A2 類。

Pit842 (図版 16・76・78)

4J-3E7 に位置する。平面形は円形、断面形は片階段状で深さは0.20mを測る。覆土は粘質シルトの単層である。遺物は出土していない。B 類。

Pit829 (図版 16・76・78)

4J-3E8 に位置する。平面形は円形、断面形はU字状で深さは0.23mを測る。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。A2類。

Pit828 (図版 16・76・78)

4J-3E7 に位置する。SK891 と重複し、これを切る。平面形は円形、断面形は半円状で深さは0.14mを測る。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。B類。

Pit941 (図版 16・76・78)

4J-3E11 に位置する。SD927 と重複し、これを切る。平面形は円形、断面形はU字状で深さは0.54mを測る。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。A1類。

Pit859 (図版 16・76・79)

4J-3E11・12 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状で深さは0.15mを測る。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。B類。

Pit844 (図版 16・76・79)

4J-3E12 に位置する。SK845 と重複し、これを切る。平面形は円形、断面形はU字状で深さは0.47mを測る。覆土は5層に分かれる。遺物は出土していない。A1類。

Pit860 (図版 16・76・79)

4J-3E12 に位置する。SK881、SD927 と重複し、これらを切る。平面形は円形、断面形はU字状で深さは0.26mを測る。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。A2類。

Pit919 (図版 16・76・79)

4J-3E17 に位置する。平面形は円形、断面形はU字状で深さは0.47mを測る。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。A1類。

Pit849 (図版 16・76・79、写真図版 71)

4J-3E9 に位置する。平面形は円形、断面形はU字状で深さは0.43mを測る。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。A1類。

Pit826 (図版 16・76・79、写真図版 71)

4J-3E13 に位置する。平面形は円形、断面形はU字状である。N-45°-W の方向に鉛直に対し10°傾く。深さは0.59mを測る。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。A1類。

Pit884 (図版 16・76・79)

4J-3E15 に位置する。平面形は円形、断面形はU字状で深さは0.19mを測る。覆土は5層に分かれる。覆土中から、深鉢類胴部片 (p225) が出土している。A2類。

Pit777 (図版 16・76・79)

4J-3E15 に位置する。平面形は円形、断面形は階段状で深さは0.36mを測る。覆土は5層に分かれ、1～3層が柱痕である。遺物は出土していない。A2類。

Pit854 (図版 16・76・79)

4J-3E18 に位置する。SD917 と重複し、これを切る。平面形は円形、断面形はU字状で深さは0.28mを測る。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。A2類。

Pit885 (図版 16・76・79)

4J-3E19 に位置する。SD917 と重複し、これを切る。平面形は円形、断面形はU字状である。N-42°-E の方向に鉛直に対して11°傾く。深さは0.39mを測る。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。A2類。

Pit918 (図版 16・76・79)

4J-3E19 に位置する。SD917 と重複し、これを切る。平面形は円形、断面形はU字状で深さは0.27mを測る。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。A2類。

Pit924 (図版 16・76・79)

4J-3E25 に位置する。SD917 と重複し、これを切る。平面形は円形、断面形はU字状で深さは 0.29m を測る。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。A2 類。

Pit773 (図版 16・76・79、写真図版 71)

4J-3F11 に位置する。SK843 と重複するが新旧は不明である。平面形は円形、断面形は片階段状で深さは 0.45m を測る。覆土は 7 層に分かれ、1～4 層が柱痕である。1 層から土器片 1 点が出土している。A1 類。

Pit848 (図版 16・76・79、写真図版 72)

4J-3F16 に位置する。平面形は円形、断面形はU字状である。N-62° -W の方向に、鉛直に対して 14° 傾く。深さは 0.42m を測る。覆土は 3 層に分かれる。遺物は出土していない。A1 類。

Pit1009 (図版 16・76・79)

4J-3F17 に位置する。SK915・943 と重複し、これらに切られる。平面形は円形、断面形はU字状で深さは 0.34m を測る。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。A2 類。

その他のピット

以下ではピット群①・②以外のピットで、特徴的なものについてのみ記載した。

Pit303 (図版 11・80、写真図版 72)

3J-6H18 に位置する。SK100 と重複し、これに切られる。平面形は円形、断面形は階段状で深さは 0.38m を測る。覆土は 4 層に分かれ、1～3 層は柱痕と考えられる。掘方から土器胴部片 1 点が出土している。A2 類。

Pit438 (図版 12・80、写真図版 72)

3J-7I1 に位置する。平面形は円形、断面形はやや上部がひろがるU字状で深さは 0.47m を測る。覆土は 2 層に分かれる。地山には明確な引き込み痕が認められ、打込式であることがわかる。遺物は出土していない。A1 類。

Pit437 (図版 12・80、写真図版 72・73)

3J-7I7 に位置する。SK80 と重複し、これに切られる。平面形は円形、断面形は上部がひろがるV字状で、深さは 0.48m を測る。覆土は 2 層に分かれる。引き込み痕が明瞭な打込式である。遺物は出土していない。A2 類。

Pit198 (図版 12・80、写真図版 73)

3J-7I24 に位置する。自然流路(河 138)に切られている。平面形は円形、断面形は漏斗状で深さは 0.34m を測る。床面標高が掘立柱建物柱穴と同様であり、建物柱穴の可能性はある。A1 類。

Pit310 (図版 12・81、写真図版 73)

3J-7J11 に位置する。SD192 と重複し、これを切る。平面形は円形、断面形は階段状で深さは 0.37m を測る。覆土は 5 層に分かれる。1・2 層が柱痕である。遺物は出土していない。A2 類。

Pit371 (図版 14・81、写真図版 73)

3J-8H7・8 に位置する。焼土遺構 SX332 と重複し、若干切られる。平面形は円形、断面形はU字状で深さは 0.20m を測る。覆土は 5 層に分かれる。1～3 層に炭化物が多量に含まれており、柱が焼失した可能性がある。遺物は出土していない。A2 類。

Pit460 (図版 14・81、写真図版 73・74)

3J-8H13 に位置する。平面形は円形、断面形はU字状で深さは 0.58m を測る。覆土は 2 層に分かれ、2 層に柱痕が認められる。遺物は出土していない。A1 類。

Pit470 (図版 14・81)

3J-8H20・25 に位置する。SK317 と重複し、これに切られる。平面形は隅丸方形、断面形は漏斗状で深さは 0.62m を測る。覆土は 2 層に分かれる。テラス部分から鉢 (p7) の口縁部片が出土している。A1 類。

Pit475 (図版 14・81、写真図版 74)

3J-8H20 に位置する。SK317 と重複し、これに切られる。平面形は円形、断面形はU字状で深さは 0.40m

を測る。覆土は2層に分かれる。覆土上層から不定形石器（s136）が出土している。A1類。

Pit397（図版13・82）

3J-9F1に位置する。SK398と重複し、これを切る。平面形は円形、断面形は半円状で深さは0.18mを測る。覆土は単層である。覆土上面から壺（p216）の口縁部片が出土している。B類。

Pit637（図版13・83）

3J-10E5・10に位置する。平面形は円形、断面形は半円状で深さは0.12mを測る。覆土は2層に分かれる。覆土上層からアスファルト塊が2点出土している。B類。

Pit936（図版15・84、写真図版74）

4J-2C4に位置する。SK935、Pit934と重複し、これらに切られる。平面形は推定楕円形、断面形はU字状で上部がひろがる。深さは0.41mを測る。覆土は2層に分かれる。上層から深鉢胴部片（p218）と石皿・台石類（s135）が出土している。A1類。

Pit712（図版16・84、写真図版74）

4J-2E19に位置する。SK600と重複し、これに切られる。平面形は円形、断面形はU字状で深さは0.57mを測る。覆土は4層に分かれる。遺物は出土していない。A1類。

Pit991（図版16・84、写真図版74）

4J-3F18・19に位置する。北東部を攪乱に切られており、平面形は円形か隅丸方形と推測する。断面形は階段状で深さは0.55mを測る。下端が南側に延びており、樹痕の可能性もある。覆土は3層に分かれる。鉢の口縁部片（p226）と深鉢胴部片（p227）が覆土上面と中位から出土している。その他に礫1点、アスファルト塊2点が出土している。A1類。

5）性格不明遺構（SX）

（小竪穴状遺構）

SX136（図版12・85、写真図版75）

3J-6J11・12・16・17に位置する。Vc層で検出した。調査区3区の北端に位置し、北側が排水用開渠に切られる。全体形は不明であるが残存部から平面形は円形と推定する。断面形は弧状で、平面直径は3.68m、深さは0.36mを測る。覆土は3層のレンズ状堆積で、粘質シルトと粘質土からなる。底面から炉跡、柱穴等の住居付帯施設が検出されなかったため小竪穴状遺構とした。覆土の上下から幅をもって遺物が出土しており、深鉢5点（p2・100・141・228・231）、壺の肩部片2点（p229・230）、その他土器片20点、礫3点がある。これらには周辺遺構との接合関係があるものも含まれており、本遺構埋没過程時の窪地に土器廃棄行為の一つとして投げ入れられたと考えられる。A類。

SX996（図版13・85、写真図版75）

3J-8F5・10・15、8G1・6・7・11・12に位置する。Pit564に切られる。調査区3区の最終確認面下げ調査時にVI層上面で検出した。Vd層での文化層は確認されていないため、実際の掘り込み面はVb層かVc層と想定する。検出面での平面形は不整楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸3.43m、短軸2.50mであり、検出面からの深さは0.15mを測る。推定深度はVc層を掘り込み面とした場合0.56mほどとなる。残存部の覆土は4層のレンズ状堆積で、シルトと砂質シルトからなる。底面から住居付帯施設が検出されなかったため小竪穴状遺構とした。覆土下位から、深鉢片4点（p232～234）、その他土器片2点、石皿・台石類1点（s137）、剥片1点が出土している。A類。

（焼土遺構）

SX439（図版13・86、写真図版75）

3J-7E10・15に位置する。SX444と接し、一連のものとする。Vb2層中で検出した。焼土ブロック・被熱した地山土のブロック・炭化物の混合土が長軸1.33m、短軸0.43mほどの範囲に点在していた。深鉢（p235）

が破片の状態出土している。C2類。

SX444 (図版 13・86、写真図版 75)

3J-7E10・15に位置する。SX439と接する。V b2層で検出した。被熱痕と焼土ブロック・炭化物の集中か所からなるB2類である。地山面を火床としており、被熱痕の平面形は不整楕円形で、規模は長軸0.99m、短軸0.87mを測る。小型の深鉢底部片(p236)のほか、土器小片2点、礫2点が出土している。

SX256 (図版 13・86)

3J-7F3に位置し、SK218に切られる。V b層検出である。上層遺構とトレンチに切られ全体形は不明である。深度は0.21m、焼土厚は0.02mを測る。掘方底面に粘質土をうすく貼り、火床面としている。遺物は出土していない。B1a類。

SX434 (図版 13・86)

3J-7E15、7F11に位置し、SD338を切る。V c層で検出した。平面形は楕円形で、断面形は弧状であり、中央にピット状の落ち込みがある。規模は長軸0.63m、短軸0.41mで、落ち込み部分までの深度は0.39mを測る。焼土の残りはなく、掘方をもち火床面が構築されたB1a類である。1層の熱硬化が顕著である。土器小片1点が出土している。

SX340 (図版 13・86、写真図版 76)

3J-7F18に位置する。SX343、SD338と重複する。SD338埋没後にSX343が構築され、その後白色細粒砂を多量に含んだ層をはさみ同位置にSX340を構築している。白色細粒砂のラミナは渦を巻いていないため比較的短期間で水成堆積し、SX343と同位置にSX340が構築されたものと思われる。掘方をもち、長軸1.08m、短軸0.76mの範囲に焼土、被熱土、炭化物、炭・灰混合土が分布している。土器片1点が出土している。B1b類。

SX343 (図版 13・86、写真図版 76)

3J-7F18・19・23に位置する。SD338覆土上面に構築され、白色細粒砂の間層をはさみSX340が重複している。掘方をもち、長軸1.08m、短軸0.97mの範囲に焼土・被熱痕が認められる。焼土厚は0.04mを測る。焼土中から深鉢片(p237)、その他土器片2点が出土している。B1b類。

SX424 (図版 13・86)

3J-7G14に位置する。V c層で検出した。上層遺構に切られ全体形は不明であるが、推定不整円形、残存部の長軸は0.57mを測り、深さは0.05m、焼土厚は0.02mである。周囲から深鉢(p238)、敲石(s138)、分割された石皿・台石類(s139)が出土している。B1a類。

SX203 (図版 13・86、写真図版 76)

3J-7G18・23に位置する。SD192北側に近接し、SK207に切られる。V b層で検出した。平面形はやや不整な楕円形、規模は長軸0.97m、短軸0.78m、深さ0.11m、焼土厚0.05mを測る。焼土中には径0.5cmほどの焼骨片が含まれていた。砂質シルトにより火床面が構築されている。B1a類。

SX86 (図版 12・86、写真図版 76)

3J-7H4・5・9・10に位置する。SK87を切る。V c層で検出した。平面形は隅丸方形で、規模は長軸0.91m、短軸0.82m、深さ0.08m、焼土厚0.04mを測る。粘質土による火床面が構築されたB1a類である。周囲から土器小片3点が出土している。

SX78 (図版 11・13・86、写真図版 76・77)

3J-7H7・12に位置する。南東側が暗渠により切られる。V c層で検出した。平面形は円形で、規模は長軸推定0.98m、短軸0.81m、深さ0.05m、焼土厚0.02mを測る。焼土の残りはわずかである。遺物は出土していない。B1a類。

SX306 (図版 13・86)

3J-7H16・21に位置する。V c層で検出した。地山面を火床とした被熱痕のみの検出である。トレンチに切

られ全体形は不明であるが不整楕円形と推定する。遺物は出土していない。B3類。

SX88（図版12・86、写真図版77）

3J-7I2に位置する。Vc層で検出した。掘方をもち火床面が構築されたB1a類である。平面形は円形で、規模は直径約0.60m、深さ0.07m、焼土厚0.04mを測る。遺物は出土していない。B1a類。

SX550（図版13・86、写真図版77）

3J-8G2に位置する。Vc層で検出した。火床が被熱土と地山土ブロックの混合土で構築されており、炉床の再構築が行われた可能性がある。平面形は不整長楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.22m、短軸0.59m、深さ0.08m、焼土厚0.04mを測る。遺物は出土していない。B1a類。

SX568（図版13・86）

3J-8G9・10・14・15に位置する。Vc層で検出した。浅く掘りこんだ底面を火床としている。平面形は不整楕円形で、断面形は弧状である。規模は長軸1.33m、短軸1.06m、深さ0.09m、焼土厚0.04mを測る。土器小片1点、礫1点が出土している。B1a類。

SX361（図版14・86、写真図版77）

3J-8H3・8に位置する。SX450を切る。Vc層で検出した。地山面を火床としており、被熱痕と炭化物集中範囲のみを検出した。わずかに焼土が認められた。平面形は不整形で、規模は長軸1.30m、短軸1.16mを測る。遺物は出土していない。B1b類。

SX362（図版14・87、写真図版77）

3J-8H3・8に位置する。Vc層で検出した。地山面を火床としており、被熱痕と炭化物集中範囲のみを検出した。わずかに焼土が認められた。平面形は不整楕円形で、規模は長軸0.89m、短軸0.67mを測る。周囲から土器片5点が出土している。B1b類。

SX332（図版14・87、写真図版78）

3J-8H7に位置する。Pit371を切る。Vc層で検出した。掘方をもち粘質土により火床面が構築されている。焼土はわずかに残り、焼土・灰・炭化物の混合土が火床の上に堆積している。本遺構使用後に周囲の灰・炭化物等をまとめて廃棄したような状況であった。トレンチに切られるが平面形は不整な円形と考えられ、断面形は弧状となる。規模は推定直径0.50m、深度0.12m、焼土厚0.02mを測る。遺物は出土していない。B1a類。

SX331（図版14・87、写真図版78）

3J-8H8・13に位置する。Vc層で検出した。浅い掘方に粘質シルトにより火床を構築している。平面形は不整長楕円形、断面形は浅い弧状である。規模は長軸1.04m、短軸0.50m、深さ0.08m、焼土厚0.03mを測る。遺物は出土していない。B1a類。

SX453（図版14・87、写真図版78）

3J-8H8・13に位置する。Vc層で検出した。掘方に粘質シルトによる火床を構築している。平面形は長楕円形、断面形は弧状である。規模は長軸1.03m、短軸0.67m、深さ0.07m、焼土厚0.02mを測る。遺物は出土していない。B1a類。

SX369（図版14・87、写真図版78）

3J-8H9・10・14・15に位置する。SK249に切られる。Vc層で検出した。地山面を火床とし、被熱痕、焼土・炭化物・灰等の混合土を検出した。混合土中には微細な焼骨片が含まれていた。混合土・被熱痕の下から小ピット2基を検出した。遺物は出土していない。B1b類。

SX333（図版14・87、写真図版78）

3J-8H7・12に位置する。Vc層で検出した。掘方に粘質シルトによる火床を構築している。平面形は楕円形、断面形は弧状、規模は長軸0.97m、短軸0.73m、深さ0.19m、焼土厚0.03mを測る。掘方底面から小ピット2基を検出した。遺物は出土していない。B1a類。

SX320 (図版 14・87、写真図版 46)

3J-8H12・17 に位置する。SB5 の主軸柱 Pit364 に切られる。V c 層で検出した。掘方にシルトによる火床を構築している。焼土・被熱痕・炭化物範囲を検出した。平面形は不整形、規模は長軸 0.88m、短軸 0.72m、深さ 0.07m、焼土厚 0.02m を測る。焼土・被熱痕の下から小ピット 1 基を検出した。遺構脇から深鉢胴部片 (p239)、その他土器片 6 点、碎片 1 点が出土している。B1a 類。

SX334 (図版 14・87、写真図版 79)

3J-8H14 に位置する。V c 層で検出した。地山を火床とし、被熱痕と炭化物範囲を検出した。平面形は不整形、規模は長軸不明、短軸 0.73m を測る。遺物は出土していない。B1b 類。

SX163 (図版 12・14・87)

3J-8I4 に位置する。V c 層で検出した。掘方にシルト・粘質土による火床を構築している。焼土が厚く残る。平面形は楕円形、断面形は弧状、規模は長軸推定 0.80m、短軸 0.61m、深さ 0.08m、焼土厚 0.05m を測る。遺物は出土していない。B1a 類。

SX574 (図版 15・87、写真図版 79)

3J-9D18・19 に位置する。SX578 を切る。V b2 層で検出した。掘方に粘質土による火床を構築している。焼土・被熱痕・炭化物範囲を検出した。平面形は不整楕円形、断面形は弧状、規模は長軸 0.99m、短軸 0.62m、深さ 0.09m、焼土厚 0.04m を測る。遺物は出土していない。B1a 類。

SX832 (図版 15・87、写真図版 79)

4J-1D11 に位置する。V c 層で検出した。浅い掘方に砂質土による薄い火床を構築している。僅かに残る焼土と被熱痕を検出した。掘方底面から深鉢胴部片 (p240) が出土している。平面形は不整楕円形、断面形は弧状、規模は長軸 1.11m、短軸 0.88m、深さ 0.05m を測る。B1a 類。

SX945 (図版 16・88、写真図版 79)

4J-2F25、2G21 に位置し、SX930 に切られる。V b2 層で検出した。浅い掘方に粘質土による火床を構築している。被熱痕と、焼土・炭化物の混合土を検出した。混合土中には赤色顔料ブロックが含まれていた。平面形は不整長楕円形、断面形は弧状、規模は長軸 1.33m、短軸 0.58m、深さ 0.07m を測る。被熱痕周囲には深鉢片 (p241・242)、アスファルト付着の礫 1 点が散在していた。その他に土器片 10 点、アスファルト塊 2 点が出土している。B2 類。

SX930 (図版 16・88、写真図版 79)

4J-2F25、2G16・21 に位置し、SK964、SX945・946・966 を切る。V b1 層上面で検出した。掘方にシルトによる火床を構築している。被熱痕と焼土ブロック・炭化物の混合土を検出した。トレンチと攪乱に切られ全体形・規模は不明である。遺構脇から土器片 1 点が出土している。B2 類。

SX946 (図版 16・88、写真図版 79・80)

4J-2G16・21 に位置し、SK964、SX966 を切り、SX930 に切られる。V b2 層中で検出した。掘方に粘質土による火床を構築している。被熱痕と焼土を検出したが、被熱痕の範囲は掘方よりひと回り小さい。平面形はやや不整楕円形、断面形は弧状、規模は長軸 1.25m、短軸 0.87m、深さ 0.07m、焼土厚 0.02m を測る。礫 2 点が出土している。B1a 類。

SX609 (図版 16・88)

4J-3E10 に位置する。V b2 層で検出した。地山面にのこされた被熱範囲である。平面形は不整形で、規模は長軸 0.64m、短軸 0.57m を測る。遺物は出土していない。B3 類。

SX610 (図版 16・88)

4J-3E19 に位置する。V b2 層で検出した。地山面にのこされた被熱範囲である。平面形は不整形で、規模は長軸 0.67m、短軸 0.35m を測る。遺物は出土していない。B3 類。

SX768（図版16・88）

4J-3E19・20に位置する。V b2層で検出した。地山面にのこされた被熱範囲である。平面形は円形で、規模は長軸0.42m、短軸0.39mを測る。深鉢胴部片（p243）、その他土器片1点が出土している。B3類。

SX949（図版16・88、写真図版80）

4J-3F3・4に位置する。SX982・983を切る。V b2層で検出した。直径1.80mほどの被熱範囲内に7か所の焼土ブロック・炭化物の混合土が分布している。混合土中から深鉢胴部片（p244）が出土している。その他土器片1点、礫1点が出土している。B2類。

SX982（図版16・88）

4J-3F4に位置し、SX949に切られる。V c層で検出した。地山面にのこされた被熱範囲である。平面形は不整形円で、規模は長軸0.57m、短軸0.44mを測る。遺物は出土していない。B3類。

SX983（図版16・88）

4J-3F3・4に位置し、SX949に切られる。V c層で検出した。地山面にのこされた小規模の被熱範囲である。平面形は不整形で、規模は長軸0.29m、短軸0.20mを測る。遺物は出土していない。B3類。

SX981（図版16・88）

4J-3F4に位置する。V b2層で検出した。地山面にのこされた被熱範囲である。平面形は不整形円で、規模は長軸0.80m、短軸0.70mを測る。遺物は出土していない。B3類。

SX940（図版16・88、写真図版80）

4J-3F23・24に位置し、SX976を切る。V b2層で検出した。地山面にのこされた被熱範囲である。平面形は不整形で規模は直径が0.50mほどである。遺物は出土していない。B3類。

SX976（図版16・88、写真図版80）

4J-3F23に位置し、SX952を切り、SX940に切られる。V c層で検出した。地山面にのこされた被熱範囲である。平面形は不整形で規模は長軸1.48m、短軸0.68mを測る。遺物は出土していない。B1b類。

SX952（図版16・88、写真図版81）

4J-3F23に位置し、SX976に切られる。V c層中で検出した。炭化物と被熱土ブロックの混合土である。平面形は不整形、規模は長軸0.95m、短軸0.76m、深さ0.14mを測る。覆土中から浅鉢片（p245）、その他の土器片2点、赤色顔料ブロックが出土している。C2類。

（炭化物集中）

SX442（図版13・89）

3J-7E18・19に位置する。V c層で検出した。西側を暗渠で切れ全体形は不明である。南側に被熱土と炭化物の混合土が分布し、その北側に炭化物を含んだ粘質土がひろがっていた。残存する分布範囲の長軸2.24m、短軸残存値1.12mを測る。礫が1点、アスファルト塊4点出土している。C3類。

SX443（図版13・89、写真図版81）

3J-7E23・24に位置する。V c層で検出した。炭化物と被熱土ブロックの混合土が分布している。分布範囲の平面形は不整形円形、規模は長軸1.19m、短軸0.87mを測る。礫3点、アスファルト塊3点が出土している。C2類。

SX243（図版13・89、写真図版81）

3J-7F3・4・8・9に位置する。V b層で検出した。平面形は不整形長楕円形、断面形は浅い掘り込みをもつ凹凸のある弧状、規模は長軸1.55m、短軸はトレンチに切れ不明である。深さは0.09mを測る。覆土は炭化物を全体的に含む粘質土とその上に堆積する焼土ブロックと炭化物の混合土からなる。底面から小ピット1基を検出した。遺物は出土していない。C3類。

SX209（図版13・89、写真図版81）

3J-7F9・14に位置する。SK246を切る。V b層で検出した。西側をトレンチに切られるが、平面形は推定楕円形、

断面形は浅い掘り込みをもつ弧状、規模は長軸 1.26m、短軸不明、深さ 0.11m を測る。覆土は炭化物を全体的に含む粘質シルトと、その上に堆積する焼土・炭化物・灰の混合土からなる。底面から小ピットを 2 基検出した。覆土中から破砕した礫 1 点が出土している。C3 類。

SX244 (図版 13・89、写真図版 82)

3J-7F8・13 に位置する。SK257 を切る。V b 層で検出した。北側を上層遺構に、東側・南側をトレンチに切られ、平面形・規模は不明である。残存部の規模は長軸約 1.50m、短軸 1.23m で、浅い掘り込みをもち深さ 0.09m を測る。炭化物を含む粘質土と焼土・被熱土ブロックの混合土が分布している。底面からピットを 1 基検出した。覆土中から土器小片 2 点と礫 2 点が出土している。C3 類。

SX210 (図版 13・89、写真図版 82)

3J-7F10・15、7G6・11 に位置する。V b 層で検出した。平面形は不整長楕円形、断面形は浅い掘り込みをもつ弧状、規模は長軸 2.59m、短軸 1.35m、深さ 0.10m を測る。全体的に炭化物を含む粘質シルトが堆積している。底面からピットを 1 基検出した。覆土中から礫が 1 点出土している。C1 類。

SX204 (図版 13・89、写真図版 82・83)

3J-7H6・7・11・12 に位置する。V c 層で検出した。平面形は不整楕円形、断面形は浅い掘り込みをもつ弧状、規模は長軸 2.06m、短軸 1.36m、深さ 0.10m を測る。全体的に炭化物を含む粘質シルトが堆積し、その上に焼土・炭・灰の混合土が分布している。底面からピットを 1 基検出した。覆土中から浅鉢胴部片 (p246) とその他土器片 9 点、破砕した礫 1 点が出土している。C3 類。

SX415 (図版 12・90)

3J-7I17 に位置する。V c 層で検出した。北側をトレンチに切られるが、平面形は楕円形と推定する。規模は長軸 0.86m で短軸は不明である。炭化物をブロック状に含む白色砂が 0.03m ほど堆積している。遺物は出土していない。C1 類。

SX577 (図版 13・90、写真図版 83)

3J-8E10・14・15 に位置し、SI556 に切られる。V c 層で検出した。平面形は不整長楕円形、断面形は浅い掘り込みをもつ弧状である。規模は長軸 1.97m、短軸推定 0.72m、深さ 0.13m を測る。全体的に炭化物を含むシルトが堆積している。底面から小ピットを検出した。遺物は出土していない。C1 類。

SX567 (図版 13・90、写真図版 83)

3J-8G17・22 に位置する。V c 層で検出した。平面形は不整形、断面形は浅い掘り込みをもつ弧状、規模は長軸 1.28m、短軸 0.90m、深さ 0.05m を測る。全体的に炭化物を含む粘質シルトが堆積し、その上に被熱土ブロックを主体とした焼土・炭・灰の混合土が分布している。遺物は出土していない。C3 類。

SX450 (図版 14・90、写真図版 83)

3J-8H3 に位置する。SX361 に切られる。V c 層で検出した。平面形は円形、断面形は浅い掘り込みをもち底面に凹凸がある弧状である。規模は長軸 1.16m、短軸 1.13m、深さ 0.06m を測る。全体的に炭化物を含む粘質土が堆積している。遺物は出土していない。C1 類。

SX451 (図版 14・90)

3J-8H17・22 に位置する。SB6 の Pit539 を切る。V b2 層で検出した。炭化物と焼土ブロックの混合土が 0.03m ほど堆積している。堆積範囲の平面形は不整円形、規模は長軸 0.50m、短軸 0.42m を測る。遺物は出土していない。C2 類。

SX423 (図版 14・90、写真図版 84)

3J-8I23、9I3 に位置する。V c 層で検出した。東側をトレンチに切られ全体形は不明である。残存部の平面形は不整形である。炭化物を全体的に含むシルトが 0.04m ほど堆積している。遺物は出土していない。C1 類。

SX578 (図版 15・90、写真図版 84)

3J-9D18・19に位置する。SX574に切られる。V b2層で検出した。炭化物と被熱土ブロックの混合土が0.05mほど堆積している。堆積範囲の平面形は不整円形、規模は長軸0.84m、短軸0.72mを測る。遺物は出土していない。C2類。

SX575（図版13・90）

3J-9D10・15、9E6・11に位置する。SI700を切る。V b2層で検出した。平面形は不整長楕円形、断面形は浅い掘り込みをもつ弧状である。規模は長軸推定0.82m、短軸0.36m、深さ0.06mを測る。炭化物と被熱土ブロックの混合土が堆積している。遺物は出土していない。C2類。

SX733（図版15・90）

3J-10D22に位置する。V b2層で検出した。炭化物と被熱土ブロックの混合土が0.03mほど堆積している。堆積範囲の平面形・規模はトレンチに切られ不明である。深鉢胴部片（p247）と碎片1点が出土している。C2類。

SX757（図版15・90）

4J-1D5、1E1に位置し、SK798、SX758を切り、Pit756・795に切られる。V b2層で検出した。平面形は不整楕円形、断面形は浅い掘り込みをもつ弧状である。規模は長軸2.11m、短軸1.74m、深さ0.12mを測る。全体的に炭化物を含むシルトが堆積している。遺物は出土していない。C1類。

SX758（図版15・90）

3J-10D25、10E21、4J-1D5、1E1に位置し、Pit756、SX757に切られる。V b2層で検出した。重複により大部分が切られるため平面形・規模は不明である。断面形は浅い掘り込みをもつ弧状である。深さは0.11mを測る。全体的に炭化物を含むシルトが堆積している。遺物は出土していない。C1類。

SX760（図版15・90）

4J-1D5・10、1E1・6に位置し、SK759に切られる。V b2層で検出した。平面形は不整楕円形、断面形は浅い掘り込みをもつ弧状である。規模は長軸1.52m、短軸1.07m、深さ0.10mを測る。全体的に炭化物を含むシルトが堆積している。覆土中から浅鉢片（p248）、その他土器片2点が出土している。C1類。

SX717（図版15・91）

4J-1D17に位置する。V b2層で検出した。焼土・炭化物と被熱土ブロックの混合土が0.03mほど堆積している。堆積範囲の平面形は楕円形、規模は長軸0.82m、短軸0.60mを測る。遺物は出土していない。C2類。

SX457（図版16・91、写真図版84）

4J-1G22・23に位置する。V b1層で検出した。焼土ブロック・炭化物と被熱土ブロックの混合土が0.03mほど堆積している。堆積範囲の平面形は不整楕円形、規模は長軸0.71m、短軸推定0.56mを測る。遺物は出土していない。C2類。

SX799（図版15・91、写真図版84）

4J-1D23・24、2D3・4に位置する。V c層で検出した。南側を暗渠で切られ全体形は不明である。断面形は浅い掘り込みをもつ弧状である。深さ0.11mを測る。炭化物と焼土・被熱土ブロックの混合土が堆積している。覆土中からは浅鉢（p249）、深鉢底部片（p250）、その他土器片8点、磨石類（s141）、台石状礫（s140）、剥片1点、礫1点が出土している。C2類。

SX762（図版15・91）

4J-2D18・19に位置し、SD846を切り、SK584に切られる。V c層で検出した。平面形は長楕円形、断面形は浅い掘り込みをもつ弧状である。規模は長軸0.80m、短軸0.42m、深さ0.09mを測る。全体的に炭化物を含むシルトが堆積している。遺物は出土していない。C1類。

SX601（図版16・91、写真図版85）

4J-2E19に位置する。V b2層で検出した。平面形は円形、断面形は浅い掘り込みをもつ弧状、規模は長軸0.46m、短軸0.43m、深さ0.06mを測る。全体的に炭化物を含む粘質土が堆積し、その上に被熱土ブロックと

炭化物の混合土が分布している。遺物は出土していない。C3類。

SX781 (図版 16・91)

4J-2F10 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は不整形、断面形は浅い掘り込みをもつ弧状である。東側をトレンチで切られ規模は長軸不明、短軸 0.94m、深さ 0.09m を測る。全体的に炭化物を含むシルトが堆積し、その上に焼土・被熱土ブロックと炭化物の混合土が分布している。遺物は出土していない。C3類。

SX966 (図版 16・91、写真図版 85)

4J-2G16・21・22 に位置し、SX930・946 に切られる。V b2 層で検出した。直径 1.00m ほどの炭化物範囲内に 3 か所の被熱土ブロック・炭化物の混合土が分布している。深鉢口縁部片 (p251) とその他土器片 2 点が出土している。C3類。

SX947 (図版 16・91、写真図版 85)

4J-3F10 に位置する。V b2 層で検出した。平面形は不整形、断面形は浅い掘り込みをもつ弧状である。規模は長軸 0.61m、短軸 0.50m、深さ 0.08m を測る。炭化物と被熱土ブロックの混合土が堆積している。覆土中からは深鉢胴部片 (p252) が出土している。C2類。

SX948 (図版 16・91)

4J-3F10、3G6 に位置する。SK969 を切る。V b2 層で検出した。平面形は不整形、断面形は浅い掘り込みをもつ弧状である。規模は長軸 0.49m、短軸 0.35m、深さ 0.05m を測る。炭化物と被熱土ブロックの混合土が堆積している。遺物は出土していない。C2類。

SX767 (図版 16・91)

4J-3E15、3F11 に位置し、SK771・883 を切る。V b2 層で検出した。平面形は隅丸方形、断面形は浅い掘り込みをもつ弧状である。規模は長軸 0.53m、短軸 0.48m、深さ 0.04m を測る。焼土粒、炭化物と被熱土ブロックの混合土が堆積している。土器片 1 点が出土している。C2類。

SX603 (図版 16・91)

4J-3F16・17 に位置し、SK943、SX604 を切る。V b2 層で検出した。東側がトレンチで切られ全体形は不明である。平面形は推定楕円形、断面形は浅い掘り込みをもつ弧状である。深さは 0.06m を測る。炭化物と被熱土ブロックの混合土が堆積している。覆土中から土器小片 1 点と碎片 1 点が出土している。C2類。

SX604 (図版 16・91)

4J-3F16・17 に位置し、SK943 を切り、SX603 に切られる。V b2 層で検出した。東側がトレンチで切られ全体形は不明である。平面形は推定楕円形、断面形は浅い掘り込みをもつ弧状である。深さは 0.04m を測る。炭化物と被熱土ブロックの混合土が堆積している。遺物は出土していない。C2類。

SX953 (図版 16・91、写真図版 85)

4J-3F19・24 に位置する。V b2 層で検出した。北側を攪乱に切られている。残存部の平面形は不整形、断面形は浅い掘り込みをもつ弧状である。規模は長軸不明、短軸 1.32m、深さ 0.09m を測る。全体的に炭化物を含む砂質土が堆積し、その上に焼土・被熱土ブロックと多量の炭化物との混合土が分布している。遺物は出土していない。C3類。

6) 溝状遺構 (SD)

SD192 (図版 12～14・92・93、写真図版 86～88)

3J-7G～J、8G に位置し、Pit494・565・569 を切り、SK201・224・293・405、Pit310、SX550 に切られる。V b 層によりバックされており、V c 層上面で検出した。形状が不明瞭であり、自然の営力により生じた溝状を呈する細長い開析谷と考える。N-88° -W の方向で東側は調査区外にまで延びており、検出長は 39.31m を測る。上面幅は 2.00～4.40m と幅がある。底面レベルは西端が 2.62m、東端が 2.33m で東西の高低差が 0.29m あり東側に下っている。V c 層上面の地形の高低を反映しており、全体的に西側からの水流の影響により生じた

開析谷と考えられる。

図版 92 のエレベーション図は底面レベルを投影したものであるが、SD192 の 3J-7H・I、8H グリッド部分が深くなり、検出面からの深さは平均 0.60 ～ 0.70m を測る。その部分に炭化物と遺物の分布が集中し、底面からは 2 基のピット (Pit410・411) を検出している。中でも 3J-7H21・22 グリッドのあたりが急激に落ち込み (f-f セクションライン)、検出面からの深さは約 1 m を測る。この底面標高は上層遺跡の井戸の底面標高とほぼ同一であり、水が湧出していた可能性がある (第 VII 章第 1 節 C 「2) V c 層段階の遺跡と生業」第 116 図)。これらの落ち込みは人為的な掘り込みの確認はないが、ピットの存在、遺物・炭化物の集中廃棄等、人為利用の痕跡が色濃いため SD としてここで記載した。3J-7H・I、8H グリッドに分布する炭化物集中は、SD192 の南北に対峙して位置する焼土遺構群に起因すると考える (第 VI 章第 1 節 F 「SD192 出土の炭化物」)。炭化物集中の内容物はヒシの殻が大半を占め、オニグルミ、クリが少数混ざる。また炭化材がほとんど含まれていない点が特徴的である。炭化物のほかには焼骨片が含まれておりサケ属が多く認められ、そのほかにもエイ類が特定されている (第 VI 章第 4 節 B 「動物遺体分析」)。

覆土は大きく I ～ III 層に分かれる。I 層は砂質土、砂質シルトが基調となり、II 層が砂質土または砂質シルトと、粘質シルトの互層、III 層は砂質シルト・粘質シルト・粘質土の互層が基調の堆積となっている。下位の II・III 層中に炭化物層が存在しており、特に II 層中に炭化物集中範囲がみられる。f-f セクションライン、g-g' セクションラインでは 2、3 枚の炭化物集中層が認められ、砂質土・シルトの間層をはさむ。遺物はこの炭化物集中層から特にまとまって出土している。断面の土層観察からラミナ状の堆積が認められ、水流の影響を受けた短期間における堆積状況が確認された。覆土中の珪藻分析からも堆積速度の速さが指摘されており (第 VI 章第 1 節 C 「珪藻分析」)、流水作用により短期間のうちに埋没し、V b 層にパックされたという埋没過程が想定できる。

遺物の出土状況は上述のように炭化物集中範囲にまとまり、I ～ III 層の上下の幅をもって出土している。II・III 層の遺物については大半が炭化物と廃棄された状態で出土し、I 層出土遺物については埋没途中の窪みに投入されたものである。I 層からは注口土器 (p253 ～ 255)、壺 (p259・260)、浅鉢 (p256・257)、深鉢 (p102・110・261 ～ 270)、深鉢胴部片 (p258)、磨石類 (s151 ～ 156・158)、石皿・台石類 (s162)、II 層からは注口土器の注口部 (p273)、壺 (p278 ～ 280)、浅鉢 (p132・271・272・274 ～ 277)、深鉢 (p144・281 ～ 301)、石鉢 (s144)、石錐 (s145 ～ 147)、石核 (s149)、剥片 (s150)、磨石類 (s159)、石皿・台石類 (s161・163・164)、III 層からは壺 (p302・303)、鉢 (p304・305・309)、深鉢 (p306 ～ 308・310・311)、石鉢 (s142・143)、石錐 (s148)、磨石類 (s157)、敲石 (s160) が出土している。その他に土器片 272 点、碎片 17 点、礫 108 点、板状アスファルト 1 点が出土している。

SD338 (図版 13・92・93、写真図版 88)

3J-6E、7F に位置し、Pit426・559 を切り、SK276 ～ 279・351・446、Pit280・291・433・485・487、SX340・343・434 に切られる。V b 層によりパックされており、V c 層上面で検出した。形状が不明瞭であり、溝状に開析された浅い谷状地形と考える。ほぼ N-90° の方向に延び、東側が SD192 西端付近で消滅している。全長は 9.75m、上面の幅は 1.50 ～ 4.27m を測る。深さは 0.08 ～ 0.23m と浅く、底面レベルは西端 2.67m、東端が 2.70m を測り高低差はほぼない。覆土は砂質シルトと砂質土から成り、周辺には白色の細粒砂が分布していたため水流の影響による短期間での埋没が予想される。これらは SD192 西側の I 層の覆土と類似するため、SD192 I 層と SD338 の埋没時期は同時期の可能性が高い。遺物は壺 (p312・313)、深鉢 (p110・237・314・315)、鉢 (p316)、その他土器片 55 点、石剣 (s165)、磨石類 (s166)、剥片 2 点、碎片 1 点、礫 120 点、アスファルト塊 1 点が出土している。

SD846 (図版 15・16・94、写真図版 89)

4J-2C・D、3D・E に位置し、SK932 を切り、SK583・584・720・722・725・727・729・921、Pit585・709・763、SX762 に切られる。V c 層上面で検出した。N-56° -W 方向の溝で、ほぼ直線的である。北西側が

攪乱に切られるため全長は不明であるが、残存部分の長さは18.91m、上面幅は0.64～0.80m、検出面からの深さは0.54～0.68mを測る。断面形はU字状～台形状を呈し、覆土は2～4層に分層され砂質土と粘質土からなる。覆土中から浅鉢(p182)、深鉢(p317)、剥片(s107)、磨石類(s167)、アスファルト塊2点が出土している。SD927(図版15・16・94、写真図版90)

4J-3D・Eに位置し、SK891を切り、SK715・774・881・887・992、Pit857・860・890・923・941に切られる。Vc層上面で検出した。N-64°-W方向の溝で、SD846の東側とほぼ並行している。全長は6.27mでほぼ直線的であり、上面幅は0.57～1.16m、検出面からの深さは0.54～0.72mを測る。長さ以外の規模はSD846と同等である。断面形は箱状を呈し、覆土は4層に分層され砂質シルトと粘質土からなるレンズ状堆積である。覆土中から深鉢胴部片1点、アスファルト塊1点が出土している。

SD917(図版16・94、写真図版90)

4J-3E、4Eに位置し、SK821・847・944、Pit854・885・918・924に切られる。Vc層上面で検出した。N-43°-W方向の溝で、非常に緩やかなS字状を呈す。全長は6.79m、上面幅は0.60～1.38mを測る。検出面からの深さは北西側がテラス状となり浅く0.12m、南東側が0.44mほどである。断面形は台形状を呈し、覆土は5・6層に分層され砂質土と粘質土からなる。北側から流入した状況の斜位堆積となっている。覆土中から深鉢(p318・319)、その他土器片4点が出土している。

第4節 上層の遺構

A 遺構の概要

上層遺構の検出層位は基本土層Va層上面が基本であるが、4区南端の谷部においてはIVb層中で確認された遺構や、下層調査においてVb層上面まで面下げした段階で検出された遺構も含まれている。

遺構種別は、柱穴列(SA)9列、掘立柱建物(SB)26棟、ピット(Pit)870本、溝状遺構(SD)26条、井戸(SE)40基、土坑(SK)141基、性格不明遺構(SX)49基で、総数1,161遺構からなる。

上層の出土遺物は弥生時代～現代に亘っており遺構も各時代に帰属すると考えられるが、遺構出土遺物が少ないことから個々の遺構の時期決定が困難であったため、ここでは上層の遺構として一括した。覆土および出土遺物から、遺構の主体は飛鳥時代と奈良時代、中世の3時期にあると考えられる。

遺構番号は検出順に通し番号とし、整理段階で認識した遺構についてはそれに連番とした。当初は下層の遺構も通し番号を付し煩雑化を防いでいたが、遺構数の増加に伴い上・下層に分けそれぞれにおいて1からの通し番号としたため上層においては欠番が多く存在している。

また、柱穴列と掘立柱建物については整理段階において個々のピットより抽出したため、遺構毎に新たに番号を付して対応した。

B 遺構各説

1) 柱穴列(SA)

本遺跡において、柱穴列は9列確認された。塀などの区画施設となる柱穴列も考慮されるが、ここに挙げた多くは掘立柱建物などの施設の柱穴列になるものと考えられる。

SA1541(図版100・110、写真図版97)

3J-2H10・15・19・20に位置する。3本の柱穴からなる南北列で、主軸方向はN-0°を指す。柱穴はいずれも平面円形を呈し、径0.15～0.29m、深度0.28～0.37mを測り、断面形は大略U字状を呈す。全長3.60mを測り、柱間寸法は1.80m(6尺)等間である。掘立柱建物の梁間と考えられるが、対応する柱穴が確認できなかったため柱穴列とした。遺物は出土していない。

SA1542 (図版 102・110、写真図版 92・97)

3J-5F23～25・5G16・21 に位置する。3本の柱穴で構成される東西列で、主軸方向はN-79°-Eを指す。柱穴は径0.26～0.28mの平面円形、断面形は大略台形状を呈す。深度は0.13～0.15mを測るが、Vb層上面での確認であるため本来の深度は0.30m程度であったと考えられる。柱間寸法はP1～P2で1.95m(6.5尺)、P2～P3で2.10m(7尺)を測り、全長は4.05mである。掘立柱建物の柱穴列と考察されるが、調査区西隅にあり北側には河138が位置するため、対応するピットは確認出来なかった。確認層位から、古代の所産と考察される。遺物は出土していない。

SA1543 (図版 105・110、写真図版 96～98)

3J-9G5、9H1・6・11 に位置する。3本の柱穴で構成される南北列で、主軸方向はN-14°-Wを指す。3本の柱穴は、いずれも平面楕円形、断面形はU字状を呈し、覆土の堆積は柱痕状を示している。規模は平面で長軸0.27m程度、短軸0.19～0.22m、深度は0.25～0.42mである。全長4.80mを測り、柱間寸法は2.40m(8尺)等間である。

本遺構の周辺ではピットが多く検出されており、掘立柱建物の桁行もしくは底部になる柱穴列と考察される。主軸方向や柱間寸法から、古代の所産と推察される。

遺物は出土していない。

SA1544 (図版 105・110、写真図版 96・98・99)

3J-9G14・19・24、10G4・5 に位置する。3本の柱穴からなる南北列で、主軸方向はN-8°-Wを指す。P1は平面略円形で径0.31～0.32m、断面形は階段状を呈し深度0.35mを測る。P2は平面円形で径0.22～0.24m、断面形はU字状を呈し深度0.29mを測る。P3は平面円形で径0.18～0.23m、断面形はU字状を呈し深度0.50mを測り、径0.12m程の柱根が出土している。柱間寸法はP1～P2で2.40m(8尺)、P2～P3で2.70m(9尺)、全長で5.10mを測る。覆土が黄灰色土主体であることと主軸方向から、古代の所産と推察される。遺物は、P3の柱根(w1)を図示した。

SA1545 (図版 105・111、写真図版 96・99)

3J10H4・9 に位置する。2本の柱穴からなり、主軸方向はN-29°-Wを指す。ともに平面隅丸方形で長辺0.34m、短辺0.32～0.33m、断面形はP1が階段状で深度0.75m、P2は漏斗状で深度0.43mを測り柱痕状の土層堆積が確認された。平断面ともに形態が類似しており柱穴列とした。柱間寸法は2.40m(8尺)を測る。

P2掘方の覆土が黄灰色土であることや柱間寸法から、古代初頭の所産と考察される。

遺物は出土していない。

SA1546 (図版 104・111、写真図版 94・99)

3J-9D9・10・13・14、9E6 に位置する。柱間寸法は5.10m(17尺)を測り、主軸方向はN-68°-Eを指す。P1は平面隅丸方形で長辺0.54m、短辺0.42m、断面形は台形状を呈し深度0.26mを測るが、Vb層上面で確認のため実際の深度は0.64m程度となる。P2は一辺0.53mの平面隅丸方形で、断面形は漏斗状を呈し深度0.75mを測る。規模とともに、厚板材を柱根としている共通点がある。西側調査区外へ延びる可能性もあるが、P2に連続もしくは直行する同類の柱穴は検出されていないため掘立柱建物の柱列とは考え難い。

5.10mという柱間寸法の例は少なく、昭和18年に日本古文化研究所・昭和45年に奈良国立文化財研究所によって調査された藤原宮の「朝集殿院南門」・門SB500の礎石建物跡が挙げられる〔奈良国立文化財研究所1976〕。本遺構も検出層位や覆土および柱間寸法から飛鳥時代の所産と考察される事から、門などの施設も可能性の一つとして考慮する必要があるだろう。

遺物は、P2の柱根(w2)を図示した。

SA1547 (図版 106・111、写真図版 94・99・100)

3J-10E1・6・7・12・17 に位置する。3本の柱穴からなり、主軸方向はN-11°-Wを指す。P1は平面楕円

形で長軸 0.32m、短軸 0.26m、断面形は階段状で深度 0.31m を測り、覆土は 8 層に分層される。P 2 は平面円形で径 0.29 ~ 0.34m、断面形は U 字状で深度 0.58m を測り、柱根が出土している。P 3 は平面円形で径 0.29 ~ 0.31m、断面形は U 字状で深度 0.78m を測り、柱根が出土している。いずれの覆土も柱痕の黒褐色土と掘方の黄灰色土に大別され、また P 2 の柱根は樹種分析によりヤナギ属という同定結果が得られている。

全長 5.10m を測り、柱間寸法は P 1 ~ P 2 で 2.40m (8 尺)、P 2 ~ P 3 で 2.70m (9 尺) である。覆土と柱間寸法から、飛鳥時代もしくは古代初頭の所産と考えられる。

遺物は、P 2・3 の柱根 (w3・4) を図示した。

SA1548 (図版 106・112、写真図版 94・100・101)

3J-10D12・13・18・23、4J-1D3・4 に位置する。4 本の柱穴からなる南北列で、主軸方向は N-21° -W を指す。P 1 は平面楕円形で長軸 0.45m、短軸 0.35m、断面形は U 字状を呈し深度 0.53m を測る。P 2 は平面円形で径 0.45 ~ 0.50m、断面形は漏斗状で深度 0.75m を測る。また P 2 では柱根が出土しており、分析によってクリと同定されている。P 3 は平面円形で径 0.29 ~ 0.32m、断面形は U 字状を呈し深度 0.48m を測る。P 4 は平面円形で径 0.26 ~ 0.30m、断面形は U 字状で深度は 0.18m である。P 2 ~ 4 の覆土は、柱痕の黒褐色土と掘方の黄灰色土に大別される。

全長 7.50m で、柱間寸法は P 1 ~ P 2・P 2 ~ P 3 は 2.40m (8 尺) 等間、P 3 ~ P 4 は 2.70m (9 尺) を測る。覆土と柱間寸法から、飛鳥時代もしくは古代初頭の所産と推察される。

遺物は、P 2 の柱根 (w5) を図示したのみである。

SA1549 (図版 106・112、写真図版 93・101)

4J-1D25、1E1、2E1・2 に位置する。下層調査時に V c 層で検出された 2 本の柱穴からなり、主軸方向は N-57° -W を指す。P 1 は平面隅丸方形で長辺 0.53m、短辺 0.49m、断面形は漏斗状を呈し深度 0.74m を測る。P 2 は平面隅丸方形で長辺 0.58m、短辺 0.52m、断面形は漏斗状で深度 0.80m を測る。V c 層での検出であるため、実際の深度は 2 本とも 1m を超える。

2 本共に半裁材の柱根が出土しており、樹種同定によりモクレン属という同定結果が得られている。本遺跡において行った木製品 128 点の樹種同定において、モクレン属と同定されたのはこの 2 本のみである。

柱間寸法は 4.20m (14 尺) を測り、本跡以南および P 2 以東は埋設水管により調査出来なかったため、全体の規模などは不明である。柱間寸法は違うものの柱穴や柱根の形状は SA1546 に類似する。

P 2 出土の柱根で行った AMS 法による年代測定によれば、交点で AD550 年という値が得られている。しかし本遺跡からは当該時期の遺物は出土しておらず、覆土や他遺構との比較から飛鳥時代の所産と考察するのが妥当と考える。

遺物は、柱根 2 本 (w6・7) を図示した。

2) 掘立柱建物 (SB)

本遺跡で確認された掘立柱建物は計 26 棟を数えるが、柱穴列やピットとして扱った中にも抽出しきれなかった掘立柱建物が少なからず存在すると考えられる。特に、東柱建物については時間的な制約もあり十分な検討が行えず、全てを抽出しきれしていない。

平面形態から分類した場合〔春日 2009〕、律令型とされる梁間 2 間の建物は 12 棟を数え、内訳は桁行 3 間が 10 棟・桁行 2 間が 2 棟となる。梁間 1 間型は 13 棟を数え、内訳は桁行 1 間 5 棟 (内 1 棟は棟持式)・桁行 2 間 4 棟・桁行 3 間 4 棟 (内 3 棟は棟持式) となる。桁行 1 間の建物は竪穴構造型とも考えられているが、本遺跡においては門などの施設が想定される柱間となっているものも多い。総柱型の建物は、SB1563 の 1 棟のみである。

構築時期を考察してみると、調査区中央より北側に中世、南側に古代以前の建物が多くなる傾向が窺える。これは遺物の出土量にも合致しており、特に飛鳥時代においては調査区南側の谷部を意識した建物構成になっていたと考えられる。覆土などから判断した時期別の棟数は、飛鳥時代 5 棟、奈良時代 6 棟、平安時代前期 8 棟、中

世7棟と考えられる。

SB1550 (図版102・113、写真図版92・101)

3J-5F25、6F4・5・8・9に位置する。4本の柱穴からなり、北西半が調査区外に延びる。桁行・梁間ともに2間以上を測るが、遺構の在り方から桁行3間×梁間2間の東西棟の側柱建物になると推定される。

規模は現況で桁行長7.66m、梁間長4.54mを測り、棟方向はN-64°-Eを指す。柱間寸法は桁行(P2~P4)で2.40m(8尺)等間、梁間(P1~P2)で2.10m(7尺)を測る。

柱掘方は、概ね平面円形で長軸0.17~0.26m、断面形はU字状を呈し、深度は0.15~0.27mである。

構築時期は不明であるが、柱間寸法から古代の可能性が高い。

遺物は出土していない。

SB1551 (図版104・113、写真図版92・102)

3J-6F12~14・16~19・21~24に位置する。桁行3間×梁間2間の東西棟の側柱建物と推定され、身舎の南側に1間の庇が付く。

規模は現況で桁行長4.74m、梁間総長2.55mを測り、棟方向はN-85°-Eを指す。柱間寸法は、桁行は北側柱列(P1~P2)および南側柱列(P4~P6)共に1.95m(6.5尺)等間、梁間はP2~P3で1.35m(4.5尺)、P3~P4で1.20m(4尺)を測る。庇部(P7)は身舎から1.35m(4.5尺)南側に設けられており、柱穴はほぼ身舎に対応している。

身舎の柱掘方は概ね平面円形、断面形はU字状を呈し、規模は長軸0.21~0.42m、深度は確認面から0.14~0.50mを測る。庇部の柱掘方は平面円形で長軸0.21~0.23m、断面形は台形状を呈し深度は0.14m程度である。

構築時期は不明であるが、P3・6がVb層での検出でありP6の覆土状況から古代と考察される。

遺物は出土していない。

SB1552 (図版104・114、写真図版92・103・104)

3J-6F21、7E10・14・15・19・20、7F1・2・6・7・11・12・16に位置する。現況で桁行3間×梁間2間以上を測るが、西半は調査区外へ延びるため全体の規模は不明である。桁行3間×梁間2間の南北棟の側柱建物と推察されるが、多柱梁間型の建物になる可能性も考えられる。

規模は現況で桁行総長7.80m(26尺)、梁間長4.30mを測り、棟方向はN-48°-Eを指す。柱間寸法は桁行でP2~P3で2.70m(9尺)、P3~P4で2.85m(9.5尺)、P4~P5で2.25m(7.5尺)、梁間は北壁列(P1~P2)が2.25m(7.5尺)、南壁列が1.80m(6尺)と統一性は見られない。

柱掘方は、P1は長軸0.46mの平面楕円形、他は長軸0.24~0.35mの平面円形を呈し、断面形はU字状もしくは台形状で深度0.22~0.65mを測る。

構築時期は、P3やP6の掘方埋土が灰黄色土もしくは黄灰色土である点や、P2・3の掘方検出面がVb層中であることから考えて、古代初頭の可能性が高い。

遺物は、P1から須恵器大甕(17)が出土している。

SB1553 (図版104・115、写真図版92・104・105)

3J-7E14・15・18~20・23~25に位置する。桁行2間以上、梁間3間の東西棟の側柱建物と推察されるが、西半が調査区外へ延びるため全体の規模は不明である。

規模は現況で桁行長3.38m、梁間総長3.72mを測り、棟方向はN-85°-Eを指す。柱間寸法は桁行のP6~P7で2.10m(7尺)を測り、梁間はP1~P3・P3~P5・P5~P6において1.24m(4尺)を測り等間となり、P1~P2・P2~P3は0.62m等間である。当初、梁間にはP1・3・5・6のみを充てたが、柱列上にある2・4を補助柱穴的な要素が強いと考えると本建物跡の柱穴とした。特にP2はP1~P3を等分する位置にあり、覆土も類似性が窺える。

柱掘方は平面円形で長軸 0.17 ～ 0.32m、断面形は大略U字状を呈し深度 0.23 ～ 0.51m を測る。覆土は、いずれの柱穴も柱痕部の黒褐色土と掘方の灰黄色土に大略される。

構築時期は、柱穴覆土から古代と推察される。

遺物は出土していない。

SB1554 (図版 104・115、写真図版 92・106)

3J-7E14・19・20・23 ～ 25、8E3 ～ 5 に位置する。桁行 3 間×梁間 2 間の南北棟の側柱建物と推察されるが、北西半が調査区外へ延びるため全体の規模は不明である。

規模は、現況で桁行 6.00m (2 間)、梁間 3.60m (2 間) を測り、棟方向は N-7° -W を指す。柱間寸法は、桁行 P 1 ～ P 2 で 3.30m (11 尺)、P 2 ～ P 3 で 2.70m (9 尺) を測り、梁間は P 3 ～ P 4・P 4 ～ P 5 とともに 1.80m (6 尺) 等間である。

柱掘方は、長軸 0.29 ～ 0.48m の平面円形もしくは方形、断面形はU字状もしくは台形状を呈し、深度 0.33 ～ 0.68m を測る。中でも P 3 は、長辺 0.46m、短辺 0.40m の平面方形で、底部中央の柱痕までの深度が 0.61m を測る大型の柱穴で、隅柱的な要素が強いと考えられる。

P 1 が V b 層での検出であり、柱間寸法や覆土などからみて、飛鳥時代と考えられる。

P 4 より土師器甕胴部片が 1 点出土したが、磨滅した小片のため図示しえなかった。

SB1555 (図版 104・116、写真図版 92・107)

3J-7F4・5・9・10・14・15、7G1・2・6・7・11・12 に位置する。桁行 1 間×梁間 1 間の身舎に、桁行 2 間×梁間 1 間の下屋が付設された建物と考えられる。南北棟の側柱建物で、棟方向は N-0° を指す。

身舎の柱間寸法は桁行 3.30m (11 尺)、梁間 2.10m (7 尺) を測り、心々部分での面積は 6.93㎡となる。柱掘方は、長軸 0.32 ～ 0.42m の平面円形、断面形は大略漏斗状を呈し、深度 0.27 ～ 0.38m を測る。

下屋は身舎の東に付設し、桁行総長 4.00m、梁間 2.00m を測る。桁行東側柱列では東柱 (P 7) が桁行を等分しており、構築時はすべて 2.00m 等間の柱間寸法であったと推察される。柱掘方は、P 7 を除き平面長軸 0.26 ～ 0.31m の平面円形、断面形はU字状で深度 0.31 ～ 0.33m と類似する。P 7 は径 0.12m、深度 0.08m と他の柱穴とは明らかにサイズが異なるため、東柱と考察した。

本建物跡は下屋が大きく、作業場などの機能を有していたと推察される。しかし、下屋内に位置する SK102 や身舎北で検出された SE49 からも遺物は出土しておらず、用途は不明である。

柱間寸法から見れば古代の所産とも考えられるが、構造的には中世の所産と考察されよう。

遺物は出土していない。

SB1556 (図版 104・116、写真図版 92・107・108)

3J-8F2・3・7・8・12・13 に位置する。桁行 2 間×梁間 1 間の南北棟の側柱建物である。

規模は桁行総長 3.36m、梁間は 1.80m (6 尺) を測り、心々部分の面積は 6.23㎡、棟方向は N-10° -W を指す。柱間寸法は、桁行で東・西側柱列とも北柱間 (P 1 ～ P 6・P 2 ～ P 3) は 1.50m (5 尺)、南柱間 (P 3 ～ P 4・P 5 ～ P 6) では 1.86m を測り、規格性が窺える。

柱掘方は平面円形を基本形とし、長軸 0.21 ～ 0.35m、断面形はU字状を呈し深度は 0.28 ～ 0.64m を測る。土層堆積状況は、概ね柱痕状を呈する。

本建物の北・南側梁間柱列の延長上に東に隣接する SB1557 の桁行柱穴列が配置されるため、当初は 1 棟の建物としていた。しかし、僅か 0.60m ではあるが 2 棟間に隙間があり、身舎と副屋など有機的な関係にある一連の別棟と考えられるため分離した。

柱間寸法に規格性が乏しく断定しかねるが、柱穴覆土から見れば古代の所産と推察される。

遺物は出土していない。

SB1557 (図版 104・117、写真図版 92・108 ～ 110)

3J-8F3 ～ 5・8 ～ 10・13・14 に位置する。桁行2間×梁間2間の東西棟の側柱建物である。

規模は、桁行総長 3.90m (13 尺)、梁間総長 3.30m (11 尺)、心々部分の面積は 12.78㎡を測り、棟方向は N-80° -E を指す。柱間寸法は、桁行は北・南側柱列ともに 1.95m (6.5 尺) で等間であるが、梁間は東側柱列 P 3 ～ P 4 が 1.35m (4.5 尺)・P 4 ～ P 5 が 1.95m (6.5 尺)、西側柱列 P 7 ～ P 8 で 1.60m・P 8 ～ P 1 で 1.70m とややばらつく。

柱掘方は、平面円形ないし楕円形で規模は長軸 0.21 ～ 0.34m、断面形はU字状を基本形とする。深度は 0.26 ～ 0.85m を測り、土層堆積状況は概ね柱痕状を呈する。

前述の有機的関係にあると考えられる SB1556 同様に柱間寸法の規格性が乏しいが、柱穴覆土からは古代の所産と考えられる。

遺物は出土していない。

SB1558 (図版 104・105・118、写真図版 93・110～112)

3J-7G15・20・25、7H11・12・16・17・21・22、8G5、8H1・2 に位置する。桁行3間×梁間2間の南北棟の側柱建物で、棟方向は N-17° -W を指す。

規模は、桁行長 5.40m (18 尺)、梁間長 3.90m (13 尺) を測り、心々部分の面積は 21.06㎡である。柱間寸法は、桁行は 1.80m (6 尺) 等間、梁間では P 1 ～ P 2 で 2.10m (7 尺)、P 2 ～ P 3 で 1.80m (6 尺)、P 6 ～ P 7 で 1.80m (6 尺) を測る。

柱掘方は、平面隅丸方形を基本形とし、規模は長軸 0.26 ～ 0.37m、断面形はU字状もしくは箱状を呈す。深度は現況では 0.08 ～ 0.33m であるが P 8 以外の柱穴はいずれも V b 層で検出されたため、確認面からの深度は 0.27 ～ 0.49m となる。

確認面が V b 層であり、覆土や柱間寸法が 6 尺基準であることから、古代の所産と考察される。

遺物は出土していない。

SB1559 (図版 104・105・118、写真図版 93・112・113)

3J-7H21 ～ 23、8H1 ～ 3・6 ～ 8 に位置する。桁行2間×梁間1間の東西棟の側柱建物で、身舎の北側に1間の庇が付く。

身舎の規模は、桁行長 3.90m (13 尺)、梁間 2.70m (9 尺)、心々部分の面積は 10.53㎡を測り、棟方向は N-80° -E を指す。柱間寸法は、桁行が北側柱列の P 1 ～ P 2 で 2.10m (7 尺)、P 2 ～ P 3 で 1.80m (6 尺)、南側柱列の P 4 ～ P 5 で 2.10m (7 尺)、P 5 ～ P 6 で 1.80m (6 尺) を測り、梁間は東・西側柱列とも 2.70m (9 尺) を測る。

庇部は身舎から 1.50m (5 尺) 北側に設けられており、柱穴はほぼ身舎の桁行に対応している。柱間寸法は、P 7 ～ P 8 で 1.80m (6 尺)、P 8 ～ P 9 で 2.10m (7 尺) である。

柱掘方は、身舎は平面楕円形もしくは隅丸方形で、長軸 0.29 ～ 0.48m、断面形は台形状を基本形とし、深度 0.41 ～ 0.63m を測る。庇部は長軸 0.28 ～ 0.42m の平面隅丸方形を基本形とし、断面形はU字状もしくは柱痕状で深度 0.25 ～ 0.75m を測る。

構築時期については、P 2 覆土と梁間長から古代と推察される。

遺物は出土していない。

SB1560 (図版 105・119、写真図版 93・113～116)

3J-8G15・20、8H7・8・11 ～ 14・16 ～ 19・21・22 に位置する。桁行3間×梁間2間の東西棟の側柱建物で、東側に棟持柱が突出する。

規模は桁行長 5.55m (18.5 尺)、梁間長 3.90m (13 尺)、心々部分の面積は 21.65㎡を測り、棟方向は N-79° -E を指す。柱間寸法は、桁行の北・南側柱列ともに西から 1.50m (5 尺、P 1 ～ P 2・P 9 ～ P 8)、1.20m (4 尺、P 2 ～ P 3・P 8 ～ P 7)、2.85m (9.5 尺、P 3 ～ P 4・P 7 ～ P 6) を測り、寸法はまちまちであるが桁行での

対応関係が窺える。梁間は西側柱列のP 1～10で2.10m（7尺）、P 10～9で1.80m（6尺）を測り、東側柱列の中間から1.40m 東側に棟持柱（P 5）が突出する。棟持柱については、梁間東側柱列中間より1.20m 東側に突出するPit456も考慮したが、平・断面形態からP 5を棟持柱とした。

柱掘方は、長軸0.24～0.56mの平面円形ないしは楕円形を基本形とし、断面形はU字状を呈し、深度は0.23～0.86mを測る。覆土の堆積状況は柱痕状で、P 1・P 10からは柱根が出土した。

遺構の構築時期は、身舎の構造や覆土から古代と推察される。

遺物はP 2掘方より土師器甕胴部片が出土したが、小片のため図示出来なかった。また、P 9壁面より縄文時代晩期の土器片が出土している。

SB1561（図版105・120、写真図版93・116～118・153・154・174）

3J-8G15・20・25、8H8・9・11～14・16～19・21～23に位置する。桁行3間×梁間1間の東西棟の側柱建物で、独立棟持式建物である。

規模は、桁行長7.80m（26尺）、梁間長3.60m（12尺）、心々部分の面積は28.08㎡を測り、棟方向はN-77°-Eを指す。柱間寸法は、桁行は北・南側柱列ともに2.60m等間、梁間は3.60mで、西梁間中央より西へ0.36m突出して西側棟持柱（P 10）、東梁間中央より東へ1m突出して東側棟持柱（P 5）が設置されている。

柱掘方は、四隅柱は長辺0.29～0.36mの平面隅丸方形を基本形としており、柱は径0.26～0.52mの平面円形が基本形である。断面形はいずれの柱穴もU字状を呈しており、深度は0.37～0.83mを測る。

P 1・8・9より柱根が出土している。P 8出土の柱根を自然科学分析し、クリ材でAMS年代はAD1320年という結果が得られている。桁行の柱間寸法が尺に基づかない点やAMS年代から、本建物は中世の所産と考察される。

遺物は、3本の柱根（w8～10）を図示した。

SB1562（図版104・121、写真図版94・118・119）

3J-8D20・25、8E16・21、9D4・5、9E1に位置し、SD800に切られる。現況で、桁行・梁間ともに1間以上を測るが、大半が調査区外へ延びるため、全体の形状等は不明である。

現況で桁行長4.20m、梁間3.60mを測り、棟方向は南北棟とした場合でN-8°-Wを指す。柱間寸法は、桁行・梁間ともに2.40m（8尺）を測る。

柱掘方は、長軸0.43～0.70mの平面隅丸方形および隅丸長方形を呈し、断面形は漏斗状を基本形とする。確認面からの深度は、0.55～0.70mを測る。覆土の堆積状況は、柱痕に黒褐色土または黄灰色土が入り、P 1では根固め痕が顕著に見受けられる。

P 3より出土した柱根の自然科学分析により、樹種はクリ材でAMS年代は交点がAD600年という結果が得られた。SD800が古代の所産であるため、本跡はそれよりも古い年代が与えられるが、当該時期の遺物は本遺跡からは出土しておらず、暦年較正年代の2σ：AD540～650年という結果から飛鳥時代の所産と考えるのが妥当であろう。

P 2掘方より縄文時代晩期の土器小片が2点出土している。分析に用いたP 3の柱根（w11）を図示した。

SB1563（図版104・121・122、写真図版95・119～121・198）

3J-9E10・14・15・19・20・24・25、9F6・11・16・21・22、10E5・10、10F1・2・6・7に位置する。桁行3間×梁間2間の、南北棟の総柱建物である。

規模は、桁行長9.00m（30尺）、梁間長は北側柱列で3.90m（13尺）、南側柱列で3.75m（12.5尺）を測り、僅かに南側が窄まる。心々部分の面積は34.69㎡で、棟方向はN-15°-Wを指す。柱間寸法は、桁行は東・西側柱列とも3.00m（10尺）等間、梁間は基本的に1.95m（6.5尺）等間であるが、南側柱列が窄まる分P 7～8のみ1.80m（6尺）を測る。また側柱と中柱の柱間寸法は、南北柱列（P 2～P 11・P 11～P 12・P 12～P 7）では桁行と同じく3.00m（10尺）等間、P 4～P 11・P 9～12で2.00m、P 10～P 11・P 5～P 12で1.90m

を測る。

柱掘方は、長軸 0.20 ~ 0.32m の平面隅丸方形、断面形はU字状を基本形とし、深度は 0.33 ~ 0.63m を測る。12本の柱穴の内、9本から柱根が出土している。このうち7本の柱根(P2~8)の樹種同定を行ったところ、いずれもハンノキという結果が得られた。また、中柱(P11・12)の掘方に側柱と規模等に差異が認められず床束とは考え難いため、本跡を総柱建物とした。

遺構の構築時期は、柱間寸法と覆土から古代と推察される。

遺物は、P7堀方より縄文時代晩期の土器片が1点出土した。柱根8本(w12~19)を図示した。

SB1564 (図版 104・123・124、写真図版 95・122 ~ 125・183)

3J-9E15・20・25、9F7・11・12・16 ~ 18・21 ~ 24、10F1 ~ 4・6 ~ 9 に位置する。桁行3間×梁間2間の南北棟の側柱建物で、身舎の南東隅に1間の下屋が設けられている。

規模は、身舎で桁行長 8.55m (28.5 尺)、梁間長 4.35m (14.5 尺) を測る。心々部分の面積は 37.62㎡で、棟方向は N-15° -W を指す。柱間寸法は、桁行の西側柱列は 2.85m (9.5 尺) 等間、東側柱列は P4 ~ P5・P5 ~ P6 で 1.80m (6 尺)、P6 ~ P7 で 2.25m (7.5 尺)、P7 ~ P8 で 2.70m (9 尺) を測る。梁間は、北側柱列の P1 ~ P2 で 1.80m (6 尺)、P2 ~ P3 で 0.90m (3 尺)、P3 ~ P4 で 1.65m (5.5 尺) を測り、南側柱列では P8 ~ P9 で 2.10m (7 尺)、P9 ~ P10 で 2.25m (7.5 尺) を測る。

下屋部分は、桁行東側柱列の P7・8 に対応した P13・14 により、身舎より東側に1間×1間で設けられている。P7 ~ P13・P8 ~ P14 の柱間寸法はいずれも 2.10m (7 尺) を測り、P13 ~ P14 は 2.55m (8.5 尺) と身舎桁より僅かに狭まる。下屋部分の心々面積は、5.51㎡を測る。

柱掘方は、長軸 0.18 ~ 0.52m の平面円形もしくは隅丸方形、断面形はU字状を基本形とし、深度は 0.14 ~ 0.59m を測る。また、下屋部分の P14 では礎盤が出土しており、樹種同定の結果クリ材と判明している。

遺構の構築時期は、柱間寸法のバラつきや柱痕覆土が黒色土主体であることから中世と考察される。

遺物は出土しておらず、P6出土の柱根(w20)とP14の礎盤(w21)を図示した。

SB1565 (図版 104・105・125、写真図版 95・96・125・126)

3J-9F20・25、9G16・21、10F5、10G1・2 に位置する。桁行2間×梁間1間の南北棟の側柱建物である。

規模は、桁行長 4.00m、梁間は北側柱列で 2.00m、南側柱列で 2.20m を測る。心々部分の面積は 8.34㎡で、棟方向は N-9° -W を指す。桁行の柱間寸法は、東・西側柱列とも 2.00m 等間である。

柱掘方は、長軸 0.19 ~ 0.55m の平面円形もしくは楕円形で、断面形はU字状を基本形とし、深度は 0.12 ~ 0.89m を測る。

遺構の構築時期は、柱間寸法や出土遺物から中世と考えられる。

遺物は、P2から珠洲焼甕(399)が出土している。

SB1566 (図版 104・105・125・126、写真図版 95・96・126 ~ 128)

3J-9G1 ~ 3・6 ~ 8・11 ~ 13・16 ~ 18・21 ~ 23 に位置する。桁行3間×梁間1間の南北棟で、側柱建物である。

規模は、桁行長 7.00m、梁間長 3.60m を測る。心々部分の面積は 25.20㎡で、棟方向は N-11° -W を指す。桁行の柱間寸法は、東・西側柱列ともに北側から 2.40m (8 尺、P1 ~ P8・P2 ~ P3)、2.40m (8 尺、P8 ~ P7・P3 ~ P4)、2.20m (P7 ~ P6・P4 ~ P5) を測り対応関係にある。

柱掘方は、長軸 0.29 ~ 0.39m の平面円形、断面形はU字状を基本形とし、深度は 0.64 ~ 0.97m と相対的に深く地中梁状を呈す。

本建物の P3 から東へ 0.90m の所から梁間南柱列中央より南へ 1.00m の所に、身舎に沿って SD690 が位置する。SD690 の規模は、全長 7.60m、幅 0.36 ~ 0.49m、深度 0.10m を測る。主軸方向は南北で N-11° -W、東西で N-79° -E を指す。身舎の棟方向と一致しており、本建物の雨落ち溝や区画溝などの性格を有すると考察

される。

遺構の構築時期は、柱掘方の覆土や深度から見て中世と推察される。

遺物は、P 8掘方から箸状(w22)が1点出土している。

SB1567 (図版105・127、写真図版96・129)

3J-9H13～15・18～20・24に位置する。桁行1間×梁間1間の東西棟の側柱建物で、身舎の南側に1間の庇が設置されている。

身舎の規模は、桁行長2.70m(9尺)、梁間1.95m(6.5尺)を測る。心々部分の面積は5.27㎡で、棟方向はN-45°-Wを指す。柱間寸法は、桁行・梁間とも等間である。底部(P5)は、身舎南西隅柱(P4)から1.05m(3.5尺)南側に設けられており、柱穴は身舎に対応すると推察される。

柱掘方は、長軸0.19～0.26mの平面円形もしくは方形、断面形はU字状を基本形とし、深度は0.30～0.46mを測る。

柱間寸法や柱掘方覆土から、飛鳥時代の所産と推察される。しかし、本建物は遺跡内で検出された他の建物跡と比較して、棟方向に極端な違いが認められる。これは占地や時期差に起因するものと考察されるが、詳細については言及しかねる。

遺物は、P5掘方より縄文時代晩期の土器片が出土したのみである。

SB1568 (図版104・106・127、写真図版95・130)

3J-9F21、10E3～5・9・10・14・15・19、10F1・6・7・11・12に位置する。桁行1間×梁間1間の南北棟の側柱建物である。

規模は、桁行長・梁間長ともに5.10m(17尺)を測る。心々部分の面積は26.01㎡で、棟方向はN-14°-Wを指す。5.10m(17尺)という柱間寸法は前述のSA1546と一致しており、門などの施設としての可能性も考える必要がある。

柱掘方は、長軸0.26～0.35mの平面円形、断面形は台形状を基本形とし、深度0.22～0.46mを測る。覆土の堆積状況は概ね柱痕状を呈し、柱痕部分に黄灰色土もしくは灰黄色土が入り本遺跡内における古様相を呈している。P1より径0.145m、残存長0.36m程の柱根が出土したが、遺存状態が悪く図示しえなかった。

柱間寸法や覆土の堆積状況から、飛鳥時代の所産と考察される。

遺物は、P4から磨石類(s2)が出土している。

SB1569 (図版105・128、写真図版96・131・132)

3J-10G3～5・7～10・12～15・18～20・23～25、10H11・16・21に位置する。桁行3間×梁間1間の、独立棟持式と考えられる南北棟の側柱建物である。

規模は、桁行長7.05m(23.5尺)、梁間5.55m(18.5尺)を測る。心々部分の面積は39.13㎡を測り、棟方向はN-12°-Wを指す。柱間寸法は、桁行西側柱列で、P1～P8およびP8～P7で2.25m(7.5尺)、P7～P6で2.55m(8.5尺)を測る。東側柱列は2本の柱穴しか確認されていないが、それぞれ西側柱列と対応関係にあるため、同程度の柱間寸法を測ると考えられる。北側梁間の中央より0.60m北側に北棟持柱(P2)、南梁間のほぼ中央より1.00m南側に南棟持柱(P5)が設置されており、棟持柱間の寸法は8.70m(29尺)を測る。

柱掘方は、長軸0.10～0.33mの平面円形もしくは楕円形、断面形はU字状を基本形とし、深度0.19～0.78mを測る。覆土の堆積状況は柱痕状が基本形であり、P1・3・7で柱根が確認されている。

遺構の構築時期は、棟方向から中世の可能性が推察される。

遺物は出土しておらず、3本の柱根(w23～25)と用途不明品(w26)を図示したのみである。

SB1570 (図版105・129、写真図版96・133～135)

3J-10H3・6～9・11～14・17～20・22～25、4J-1H3～5・9・10、111に位置する。桁行4間×梁間2間の、南北棟の側柱建物である。

規模は、桁行長 11.10m (37 尺)、梁間長 4.35m (14.5 尺) を測り、棟方向は N-30° -W を指す。柱間寸法は、桁行は西側柱列の P 8 ~ P 9 で 3.00m (10 尺) を測る以外は、いずれも 2.70m (9 尺) 等間である。梁間は北側柱列の P 1 ~ P 2 で 2.25m (7.5 尺)、P 2 ~ P 3 で 2.10m (7 尺)、南側柱列の P 7 ~ P 8 で 1.80m (6 尺) を測る。南東隅が調査区外へ延びるため南東隅柱が未調査であるが、規格性が高いため東側柱列の P6 から南東隅柱までは 3.00m (10 尺)、また南側柱列の P 7 から南東隅柱までの柱間は 2.55m (8.5 尺) と推察され、心々部分の面積は 48.29㎡程度になると考えられる。

柱掘方は、長軸 0.17 ~ 0.43m の平面円形、断面形は U 字状を基本形とし、深度は 0.20 ~ 0.91m を測る。P 1 ~ 6 の 6 本の柱穴から柱根が出土しており、内 4 本の樹種同定を行った結果 P 1・2・6 出土の柱根はクリ材、P 4 出土の柱根はスギ材という結果が得られている。

本遺跡における桁行 4 間の建物跡は本跡のみであり、規格性を重視すると南桁のみ柱間が長く、本来は桁行 3 間×梁間 2 間の身舎の南側に 1 間の庇もしくは下屋が設けられた建物であった可能性が強いと考えられる。こうした場合、身舎にあたる P 1 ~ 6 から柱根が出土している点や、庇部分にあたる P 7・8 が他の柱穴と比較して柱掘方が小規模になる点も納得できる。

P 3 出土の柱根 (w29) の AMS 年代では、交点が AD720 年という奈良時代の年代が得られている。しかし柱間寸法や覆土が黄灰色土主体であるなど古い要素が多いため、AMS 年代による奈良時代とともに、暦年較正年代の 2σ (AD660 ~ AD880 年) 内でもある飛鳥時代も念頭に置く必要がある。

遺物は出土しておらず、5 本の柱根 (w27 ~ 31) を図示した。

SB1571 (図版 105・107・130、写真図版 95・135 ~ 137)

3J-10F23 ~ 25、4J-1F3 ~ 5・8 ~ 10・14、1G6 に位置する。桁行 2 間×梁間 1 間の南北棟の側柱建物である。

規模は桁行長 5.25m (17.5 尺)、梁間長 4.20m (14 尺) を測る。心々部分の面積は 21.69㎡を測り、棟方向は N-21° -W を指す。桁行の柱間寸法は北側桁 (P 1 ~ P 6・P 2 ~ P 3) で 2.40m (8 尺)、南側桁 (P 6 ~ P 5・P 3 ~ P 4) で 2.85m (9.5 尺) を測る。

柱掘方は、長軸 0.26 ~ 0.48m の平面円形、断面形は U 字状を基本形とし、深度は 0.25 ~ 0.55m を測る。

柱痕覆土に黒色土が目立つことから、中世の所産であると考えられる。

遺物は、P 3 掘方より用途不明品 (w32) が出土している。

SB1572 (図版 107・131、写真図版 95・137・138)

4J-1F5・8 ~ 10・13 ~ 15・18 ~ 20・24・25、1G1・6・11・16・21・22 に位置する。桁行 2 間×梁間 2 間の、中柱を持つ南北棟の建物である。

規模は、桁行長 6.60m (22 尺)、梁間長 5.40m (18 尺) を測る。心々部分の面積は 35.64㎡を測り、棟方向は N-7° -W を指す。柱間寸法は、桁行で 3.30m (11 尺) 等間、梁間で 2.70m (9 尺) 等間である。

柱掘方は、長軸 0.21 ~ 0.41m の平面円形、断面形は U 字状を基本形とし、深度は 0.11 ~ 0.34m を測る。中柱 (P 7) は本建物の柱穴で最大径を測るが深度がさほど無く、床束柱と推察される。

規格的な柱間寸法と黒褐色土主体の覆土から、古代の所産と推察される。

遺物は出土していない。

SB1573 (図版 105・107・132、写真図版 96・138 ~ 140)

4J-1G15・19・20・24・25、1H11・12・16・17・21・22、2G5、2H1 に位置する。桁行 1 間×梁間 1 間の南北棟で、近接棟持式の建物である。

規模は、桁行長 4.05m (13.5 尺)、梁間 5.70m (19 尺) を測る。心々部分の面積は 23.09㎡で、棟方向は N-70° -E を指す。北側棟持柱は、梁間北側柱列の中央より 0.34m 北側へ突出するが、南側棟持柱は南側柱列上中央に設置されており、梁間を 2.85m (9.5 尺) に等分する。

柱掘方は、長軸 0.16 ~ 0.32m の平面円形、断面形は U 字状を基本形とする。深度は 0.32 ~ 0.57m を測り、

北側棟持柱（P2）の掘方のみ規模が小さくなる。

柱間寸法および柱痕覆土が黒褐色土主体であることから、古代の所産と推察される。

遺物は出土していない。

SB1574（図版105・107・133、写真図版96・140・141）

4J-1H3・7～9・12～14・17～19・22・23に位置し、現況で桁行3間×梁間1間を測る。南東半が調査区外に延びるため全体の規模は不明であるが、桁行3間×梁間1間の独立棟持式の南北棟になると推察される。

規模は、桁行長7.65m（25.5尺）、梁間長3.90m（13尺）を測り、棟方向はN-7°-Wを指す。柱間寸法は、検出した桁行西側柱列では2.55m（8.5尺）等間である。北側棟持柱（P2）は、北側梁間のほぼ中央から北側に0.90m（3尺）突出して設置されている。

柱掘方は、長軸0.16～0.43mの平面円形を基本形とするが、断面形はU字状や台形状など統一的ではない。深度0.12～0.60mを測り、棟持柱（P2）のみ他の柱穴に比べ規模が小さい。

覆土が黄灰色土主体となることや柱間寸法の規格性や棟方向から、飛鳥時代～古代初頭の所産と考察される。

遺物は出土していない。

SB1575（図版106・107・133、写真図版93・141・142）

4J-3D4・5・9・10・14・15、4E1・6・11に位置する、桁行1間×梁間1間の東西棟である。

規模は、桁行長2.70m（9尺）、梁間2.55m（8.5尺）、心々部分の面積は6.89㎡を測り、棟方向はN-88°-Eを指す。

柱掘方は、長軸0.23～0.33mの平面隅丸方形、断面形は漏斗状を基本形としており、深度は0.30～0.37mである。本建物はほ場整備により遺構上面が大きく削平されており、本来の深度は0.60m程度であったと推察される。

覆土が黄灰色土主体となることや柱間寸法から、古代以前の所産と推察される。周辺の遺物出土状況を加味すると、飛鳥時代の所産である可能性が高い。

本建物は谷へ向かう傾斜変換点に立地しており、同じく飛鳥時代の遺構であるSD480や谷部に位置する祭祀的要素の強いSX945などとの関連も指摘される。しかし構築面が残存しておらず、直接関連を示唆するような遺物は出土していない。

遺物は出土しておらず、P3の柱根（w33）を図示した。

3) ピ ッ ト (Pit)（図版134～161）

870本確認されている。これらの大部分は、組み合わされて掘立柱建物や柱穴列になると考察される。平面形の内訳は円形522本（60.0%）、楕円形176本（20.2%）、方形74本（8.5%）、隅丸方形58本（6.7%）、長楕円形17本（2.0%）、長方形17本（2.0%）、隅丸長方形2本（0.2%）、不整形4本（0.4%）である。

本数が多いためここでは個別の記載は避け、類型化し相対的に概観したい。なお、類型化に際しては深度データが得られていない198本のピットについては除外しており、残りの672本について類型化した。

I類 確認面からの深度が0.20m以下で、主に置柱や束柱など補助的な柱穴になると考えられるグループである。総数の31.1%にあたる209本が検出されており、平均深度は0.14m、平面の平均長軸は0.22mである。平面形は円形が143本（68.4%）と圧倒的に多く、次いで楕円形36本（17.2%）、方形ないし隅丸方形25本（12.0%）、その他5本（2.4%）となる。209本のうち柱根出土または土層断面に柱痕が観察されたピットは19本であり、僅か9%に過ぎない。

II類 確認面からの深度が0.21～0.50mを測り、一般的な掘立柱建物の柱穴と考えられるグループである。400本検出されており、総数の59.5%と本遺跡の基本的な規模と考えられる。平均深度は0.32m、平均長軸は0.28mである。平面形は円形が236本（59.0%）と過半数を占め、次いで楕円形75本（18.75%）、方形ないし隅丸方形72本（18.0%）、その他17本（4.25%）となる。このうち、柱根もしくは柱痕が確認出来たピットは70本（17.5%）である。

Ⅲ類 確認面からの深度が0.51m以上を測るグループである。63本検出され、総数の9.4%と少ない。平均深度は0.60m、平均長軸は0.33mである。平面形は円形が25本(39.7%)、楕円形15本(23.8%)、方形ないし隅丸方形19本(30.2%)、その他4本(6.3%)となる。柱根もしくは柱痕が認められたピットは11本(17.5%)あり、Ⅱ類と同様遺存率が高い。

このように、深度が深くなるに従い長軸が大きくなるのは当然の事と考えられるが、比率的には長軸の変化幅が少なく、柱の太さに大差が無かったと考察される。また、各グループとも平面形は円形が最多であるが、Ⅲ類に限り楕円形と方形ないし隅丸方形が逆転している。これは長軸長を変えずに深度を得るため、平面積を増やしたと推察できる。また、Ⅰ類で柱痕等の確認された比率が少ない理由として、単に深度が浅いために遺存しなかったとも捉えられるが、抜き取り易いため再利用率が高かったとも考えられる。

ピット出土の遺物として、Pit46から須恵器大甕(18)、Pit72から須恵器大甕(19・20)、Pit618から須恵器杯蓋(21)、Pit539から土師器小甕(22)、Pit718から須恵器有台杯(23)、Pit1289から須恵器有台杯(24)、Pit1211から土師器無台碗(25)、Pit161から珠洲焼甕(400)、Pit571から珠洲焼壺(401)、Pit572から珠洲焼中甕(402)、Pit587から珠洲焼甕(403)、Pit1097から珠洲焼片口鉢類(404)、Pit92から砥石(s3)、Pit778から台石(s4)、Pit717から磨石類(s5)、Pit861から砥石(s6)、Pit1510から台石(s7)、Pit589から柱根(w34)、Pit713から柱根(w35)、Pit922から皿(w36)、Pit581から柱根(w37)、Pit590から礎盤(w38)、Pit592から柱根(w39)、Pit783から柱根(w40)、Pit880から柱根(w41)、Pit1062から柱根(w42)、Pit1057から柱根(w43)、Pit1024から部材(w44)、Pit1488から柱根(w45)、Pit532から柱根(w46)、Pit533から柱根(w47)、Pit531から柱根(w48)、Pit530から柱根(w49)が出土している。

4) 溝状遺構(SD)

本遺跡で検出された26条の溝状遺構の内、深度が0.10mに満たないものが16条と半数以上を占める。特に調査区北側においてその傾向は顕著であり、視覚的には2条一対の様相を呈している。これらの溝状遺構は覆土から中世以降の所産と推察されるが、堆積状況から排水等の機能は考え難い。他遺構が疎になる立地にあることから生産域の可能性が推察され、畑作の畝とした場合もっと密に小溝が並行すると考えられる事から、水田区画の一部と推察される。

SD279(図版100・162、写真図版142)

3J-1I4・5・9・10・15・20・25、1J21、2J1に位置する。SD280と並走し、SD283を切る。走行方向はN-18～35°-Wで、全長11.11m、幅0.28～0.52m、深度0.09mを測る。覆土は灰黄褐色粘質土混じりの黒褐色粘質土の単層で、壁は弧状に立ち上がる。直交するSD283・219とともに畦畔などの区画を成していたと推察され、中世以降の所産である。遺物は、珠洲焼片口鉢類(405)が出土している。

SD283(図版100・162、写真図版142)

3J-1I3・4に位置し、東端はSD279に切れ西側は調査区外へ延びる。SD279に直交し、走行方向はN-83°-Wで、確認長2.16m、幅0.71～0.84m、深度0.62～0.78mを測り、壁は弧状に立ち上がる。覆土は黒褐色粘質土混じりの灰黄褐色粘質土の単層で、僅かに炭化物を含む。覆土から、中世以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SD280(図版100・162、写真図版142)

2J-10I25、3J-1I5・10・15、1J6・11・16・21・22、2J2・7・8・13・14・18・19・24、3J4・5に位置する。走行方向はN-14～31°-Wで、全長23.50m、幅0.23～0.38m、深度0.06mを測る。覆土は、褐灰色粘質土混じりの黒褐色粘質土の単層である。本溝状遺構の南側に、SD279・284が約1.50mの間隔で並走している。遺構間の硬度等の測定はしていないが、規模や覆土が類似する事から道路状遺構の側溝であったとも推察される。遺物は出土していない。

SD76(図版100・102・162、写真図版142・143・162)

3J-2H10・15、2I6・11・16・21、3I1・6・7・11・12・16・17・21・22、4I1・2・6・7に位置する。南端をSK260に切られ、SD153を切る。走行方向は、N-2°-Wを指し、全長21.10m、幅0.41～0.73m、深度0.05mを測り、浅い弧状の断面を呈す。覆土は、褐灰色粘質土の単層である。本溝状遺構の南側には、41.5～2.50mの距離においてSD174が並走している。遺物は、須恵器杯蓋(30)、切子玉(k1)が出土している。

SD153 (図版100・102・103・162、写真図版142・143)

3J-1H20・25、1I6・11・12・21・22、2H5、2I1・2・6・7・11・12・16・17・21・22、3I1・2・6～8・11～13・17・18・22・23、4I2・3・7～9・12～14・18・19・23～25、5I3～5・9・10・14・15・19・20・25、5J11・16・21・22、6I5、6J1・2・6～8・11～13・17～19・23～25、7J3～5・9・10・14・15・20・25、3K-7A6・11・16・21に位置する。走行方向はN-9～17°-Wで、南北両端は調査区外へ延びる。重複関係は、SD219・303、SK150を切り、SD76、SK79に切られる。調査区内での規模は、全長66.10m、幅2.28～2.92m、深度0.34m程度で壁は急斜度で立ち上がる。断面形は台形状を呈し、覆土は5層に分層され褐灰色土が主体となる。覆土および重複関係から、古代の所産と推察される。遺物は、弥生土器甕(1)・壺(2)、土師器高杯(7)、須恵器無台杯(26)・有台杯(27)・甕(28)、土師器小甕(29)、白磁碗(406)・珠洲焼片口鉢類(407)・甕(408・409)、部材(w50)・用途不明品(w51)が出土している。

SD174 (図版100・102・162、写真図版143)

3J-2H10・15・20・25、3H 5・10・15に位置する。走行方向はN-0°で、全長13.10m、幅0.31～0.80m、深度0.08mを測り、断面形は浅い弧状を呈す。覆土は2層に分層され、いずれも黒褐色粘質土と褐灰色粘質土の混合土である。北側に並走するSD76と規模や覆土に類似性が高く、2条で側溝等の機能を有していたと推察される。遺物は、青磁碗(410)が出土している。

SD99 (図版100・162、写真図版143)

3J-2H23・24に位置し、西端は調査区外へ延びる。走行方向はN-90°で、規模は確認長3.48m、幅0.35～0.63m、深度0.07mを測り、断面形は浅い弧状を呈す。覆土は、黒褐色粘質土と灰黄褐色土の2層に分層される。SD174に直交しており、SD219などとともに水田畦畔など区画の機能を有していたと推察される。遺物は出土していない。

SD219 (図版100・162、写真図版142・143)

3J-2I4・5・7～10、2J1に位置し、西端をSD153に切られる。走行方向はN-80°-Eで、全長8.93m、幅0.67m、深度0.09mを測り、断面形は浅い弧状を呈す。覆土は、黒褐色粘質土がブロック状に混じる灰黄褐色粘質土の単層である。SD283・279とともに、水田畦畔などの区画を成していたと推察される。遺物は出土していない。

SD284 (図版100・162、写真図版142・144)

3J-2J18・23に位置する。走行方向はN-26°-Wで、全長3.44m、幅0.17～0.22m、深度0.08mを測り、断面形は台形状を呈す。覆土は、褐灰色粘質土と黒褐色粘質土の混合土の単層である。規模や覆土などから、本来はSD279に連続する溝であったと考察される。遺物は出土していない。

SD22 (図版102・162)

3J-3H12・17・22に位置し、走行方向はN-18°-Wである。重複関係はPit1536より新しく、SD13・14より古い。全長2.50m、幅0.48～0.65m、深度0.10mを測り、断面形は台形状を呈す。覆土は褐灰色粘質土の単層で、炭化物を微量含む。遺物は出土していない。

SD13 (図版102・162、写真図版144)

3J-3H16～20に位置し、蛇行している。SD22、SK311、Pit406と重複関係にあり、一番新しい。全長7.58m、幅0.21～0.36m、深度0.09mを測り、断面形は台形状を呈す。覆土は2層に分層され、主体は炭化物を微量含む褐灰色粘質土と黒褐色粘質土の混合土となる。遺物は出土していない。

SD14 (図版102・162、写真図版144)

3J-3H17～19・21～23に位置し、走行方向はN-75°-Eを指す。SD22、Pit430・1521と重複関係にあり、一番新しい。全長4.79m、幅0.52～0.81m、深度0.07mを測り、断面形は台形状を呈す。覆土は単層で、炭化物を少量含む褐灰色粘質土と黒褐色粘質土の混合土である。遺物は出土していない。

SD232 (図版162、写真図版144)

3J-3H20・25、4H5・10・15・20・25、5H5・10に位置する。南端は農道下へ延び、走行方向はN-3～10°-Wである。確認長14.60m、幅0.23～0.34m、深度0.08mを測り、断面形は弧状を呈す。覆土は2層に分層され、炭化物を微量含む褐灰色粘質土が主体である。規模や覆土、走行方向の類似性から、並走するSD233と一対で畦畔などの機能を有していたと考えられる。遺物は、土師器長甕(31)が出土している。

SD233 (図版102・162、写真図版144)

3J-4H5・10・15・20・25、4I11・16・21・5I1に位置し、走行方向はN-4～12°-Wを指す。全長9.70m、幅0.28～0.48m、深度0.09mを測り、断面形は弧状を呈す。南寄りで一部断絶し、南端では掘り込みがなくなる。覆土は2層に分層され、炭化物を微量含む褐灰色粘質土が主体である。SD174の延長線上に位置しており、規模や覆土も類似することから本来は同一の遺構であった可能性が高い。遺物は出土していない。

SD157 (図版102・104・105・162・163、写真図版144)

3J-5F20、5G16・21、6G1・2・6・7・12・17・22、7G2・3・7・8・13・14・18～20・24・25、8G4・5・10・15、8H6・11・16・17・21～23、9H2・3・7・8・13・14・18・19・24・25、10H4・5・10・15、10I6・11・16・17に位置しており、両端は調査区外へ延びる。調査区を横断するため多くの遺構と重複関係にあるが、SB1567、Pit1392より新しく、他より古い。走行方向はN-10～30°-Wで、確認長55.60m、幅0.88～1.38m、深度0.53～0.75mを測る。壁面の崩落状態から、開口部幅は0.75mであったと推定される。断面形は台形状を呈し、覆土は灰色土を主体に大略4層に分層できる。土層の堆積状況から、地形に沿って構築された区画溝と推察される。覆土および重複関係から、飛鳥時代の所産と考えられる。遺物は、弥生土器甕(3)・土師器甕(9)、須恵器杯蓋(32～36)・有台杯(37～40)・提瓶(41)・長頸瓶(42～44)・甕(45～47)、土師器無台椀(48)・高杯(49・50)・鉢(51)・小甕(52～54)・長甕(55～62)、土師質土器皿(411)、羽口(d1～4)が出土している。

SD158 (図版104・105・163、写真図版144・145)

3J-8E24・25、8F17～25、8G9～19、8H3～12、8I1・6、9D10・15、9E2～9、9F1・2に位置する。西端はSD154に合流し、東端はSD800に切られる。多くの遺構と重複関係にあり、SD155～157より新しく他より古い。走行方向はN-73°-Eで、確認長43.70m、幅1.52～1.97m、深度0.16～0.24mを測り、断面形は台形状を呈す。覆土は4～8層に分層され、主体は黄灰色土である。幅員に対して深度が浅く、覆土の堆積状況からも流路とは考え難いため、一種の区画溝であったと推察できる。重複関係および出土遺物から、奈良時代の所産と考察される。遺物は、須恵器杯蓋(110・111)・有台杯(112・113)・長頸瓶(114)・甕(115～117)、土師器小甕(118・119)・長甕(120・121)、青磁椀(431)、珠洲焼片口鉢(432・433)・壺(434)・甕(435・436)、土師質土器皿(437)、磨石類(s8～10)、砥石(s11・12)、古銭(k4)、箸状(w52)が出土している。

SD156 (図版103・105・163、写真図版145)

3J-7H9・14・19・20・24・25、8H4・5・9・10・14・15・19・20・25、9H5・10・15・25、9I21、10H5・10・15・20、10I1・6・11・16・21に位置し、北端はSD155に切られ、南端は調査区外へ延びる。走行方向はN-5～10°-Wで、確認長34.90m、幅0.60～1.14m、深度0.17m程度を測り、断面形は弧状を呈す。覆土は2～3層に分層され、黒色土および黒褐色土が主体である。覆土から、平安時代の所産と推察される。遺物は、須恵器杯蓋(90～92)・無台杯(93～96)・有台杯(97・98)、土師器杯蓋(99)・小甕(100)・長甕(101～103)、珠洲焼甕(426・427)、瓦質土器播鉢(428)、円筒形土製品(d7)、砥石(s13)が出土している。

SD155 (図版102・103・105・163、写真図版145)

3J-6H13・14・18・19・24・25、7H4・5・9・10・14・15・20・25、8H5・10・15・20・25、8I6・11・16・21、9H5・10・15・20・25、9I1・6・11・16・21、10I1・6・11・16・21に位置し、北端は河138に切れ、南端は調査区外へ延びる。走行方向はN-5°-Wで、現況長42.60m、幅1.03～1.25m、深度0.23m前後を測り、断面形は弧状を呈す。覆土は4層に分層され、黒褐色土および黄灰色土が主体である。走行からSD156の造り替えと考察され、古代の所産と推察される。遺物は、土師器器台(8)、須恵器杯蓋(63)・無台杯(64・65)・有台杯(66～69)・甕(70～73)、土師器無台椀(74)・小甕(75～78)・長甕(79)、黒色土器高杯(80)、珠洲焼片口鉢類(412・413)・壺(414)・甕(415～419)、土師質土器皿(420～422)、瓦質土器挿鉢(423～425)、支脚(d5)・羽口(d6)、磨石類(s14・15)、砥石(s16～21)、加工痕のある礫(s22)、鉄鍋(k3)が出土している。

SD154 (図版103・105・163、写真図版145)

3J-6H25、6I21、7H5、7I1・6・11・16・17・21・22、8I1・2・6・7・11・12・16・17・21・22、9I1・2・6・7・12・17・22・23、10I2・3・7・8・12に位置し、北端は河138に切れ、南端は調査区外へ延びる。重複関係にある遺構内では一番古い。走行方向はN-6°-Wで、規模は現況長で34.10m、幅1.31～1.76m、深度0.28m程度を測る。断面形は台形状を呈し、覆土は黒褐色土主体に大略5層に分かれる。

本遺構は、緩やかではあるが東側へ落ちる傾斜変換点に構築されている。そのため、本遺跡における古代のほぼ東限となっており、SD156→155→154の順に徐々に東へ平行移動させながら集落域を拡大した結果とも捉えられる。直行する同規模のSD158とともに、区画溝としての機能を有していたと考察される。9I23で検出されているPit1379のような大規模なピットも、外郭施設の一部であった可能性も高い。

遺物は須恵器杯蓋(81・82)・有台杯(83)・小瓶(84)・甕(85～89)、砥石(s23)・分割礫(s24)が出土している。

SD303 (図版103・163、写真図版145)

3J-7J5、3K-7A1に位置する。南端はSD153に切れ、北端は調査区外へ延びる。走行方向はN-68°-Eを指し、確認長2.64m、幅0.29～0.44m、深度0.09mを測る。断面形は半円状を呈し、覆土は炭化物を微量含む暗灰黄色粘質土の単層である。規模・覆土ともに約50m北でほぼ平行するSD219に類似性が求められ、中世以降の区画の一員をなしていた遺構と考えられる。遺物は出土していない。

SD800 (図版104・106・163、写真図版145)

3J-8D25、9D4・5・8～10・13～15に位置する。SA1546P1、SB1562P3、SD158、SK1052と重複関係にあり、一番新しい。南東隅のみの確認であるため全体の規模は不明であるが、走行方向は北半がN-18°-W、南半がN-72°-Eと直角に曲がっており、区画溝と考えられる。確認長10.68m、幅1.65～2.28m、深度0.42mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は11層に分層でき、黄灰色土が主体である。SD158を切るが、SD158と走行方向に差異がないことから、ほぼ同時期の所産と考えられる。遺物は、須恵器杯蓋(104～106)・壺蓋(107)・把手付鉢(108)・円面硯(109)、珠洲焼甕(429・430)、アスファルト塊3点が出土している。

SD869 (図版104・106・163、写真図版146)

3J-9F16・17・21・22、10F1・2・7・12・13・17・18に位置する。走行方向はN-6°-Wを指すが、南端は屈曲しN-40°-Wとなる。規模は、全長10.87m、幅1.35m、深度0.22mを測り、断面形は台形状を呈す。平面形から、掘立柱建物に伴う雨落ち溝と推察したが、本溝状遺構に沿う建物は検出されていない。覆土は灰黄色土が主体であり、古代の所産と推察される。遺物は、珠洲焼甕(438)が出土している。

SD785 (図版105・164、写真図版146)

3J-10I11・12・17に位置し、東端はSD155に切れ西端は調査区外へ延びる。走行方向はN-46°-Wで、確認長1.95m、幅0.56m、深度0.19mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土にも類似性が窺えることから、SD157から分岐した溝状遺構と考えられる。遺物は出土していない。

SD474 (図版106・107・164、写真図版146)

4J-1C21～23、2C3～5・9・10・14・15、2D6・11・12・16・17・22・23、3D3・4・8～10・15、3E6・11に位置し、東端は調査区外に延びる。走行はN-47°-Wで、確認長23.63m、幅0.97～1.81m、深度0.25m程度を測る。覆土は黒褐色土主体であり、溝に沿って検出された杭のAMS年代測定の結果、交点が1950年という年代が与えられた。現代の土留め、もしくは堰跡である。遺物は土師器の小甕・長甕が出土しているが、いずれも小片のため図示しなかった。

SD477 (図版107・164、写真図版146・147)

4J-1G19・21～24、2F4～12、2G1～3に位置する。走行方向はN-68°-Eで、全長16.72m、幅1.24m、深度0.14～0.49mを測り、断面形は弧状もしくは台形状を呈す。覆土は8～11層に分層され、黄灰色土と黒褐色土が主体となる。平面形態から雨落ち溝を想定したが伴う掘立柱建物は無く、本溝状遺構以南では遺構が疎になる事やSD158とほぼ平行する点から本溝も区画溝と推定される。遺物は出土していない。

SD475 (図版107・164、写真図版146)

4J-3E6・11～13・17～19・23～25、4E5、4F1に位置する。走行方向はN-50°-Wで、本来はSD474と同一の溝状遺構である。規模は全長12.20m、最大幅1.44m、深度0.11mを測り、杭列を伴う現代の溝である。土師器の小甕・長甕が出土しているが、いずれも小片のため図示はしなかった。

SD480 (図版106・108・164、写真図版147)

4J-2B5・10、2C1・6・7・11～14・18～20・24・25、3D1・6・11・12・16・17・22、3G5・10、4D2に位置する。走行方向はN-19～71°-Wを描く。地形の傾斜変換に沿って蛇行している。東端は調査区外に延びており、現況で全長25.50m、幅0.32～0.43m、深度0.20m前後を測る。覆土は3～4層に分層され、黄灰色土が主体である。当初は走行から地割れ等も考慮したが、断面が明瞭な台形状を呈しており遺構と判断した。本遺構以南では遺構が疎になる事から、本遺跡の古代の生活域の南限と推察される。出土遺物および覆土から飛鳥時代の所産と推察され、SD157と同様に地形に沿って設けられた区画溝と考察される。遺物は、須恵器杯蓋(122・123)・無台杯(124)・有台杯(125)・横瓶(126)、土師器長甕(127～133)が出土している。

5) 井戸 (SE)

井戸は計40基確認されており、内28基は基本土層Va層での確認である。これらは遺跡内の微高地上に沿うように検出されており、後背湿地に向かい標高が低くなる地点からは2基しか検出されていない。

井戸の構築時期は、覆土と出土遺物から古代と中世に大別され、中世以降の井戸は素掘りになる傾向が顕著である。

SE173 (図版100・165、写真図版147)

3J-2H19に位置する。開口部の平面形は円形であるが、西壁がやや歪んでいる。規模は長軸0.71m、短軸0.68mを測り、確認面からの深度は0.88mで底面座標は2.27mである。断面形は漏斗状を呈し、杵材は確認されていない。覆土は黒色土が主体で7層に分層され、壁崩落土以外は各層とも微量な炭化物粒を含む。底面から上位0.20mで壁がオーバーハングしており、汀線レベルと考えられる。素掘りの井戸で、形態や覆土から中世の所産である。遺物は、箸状(w53)・部材(w54)、アスファルト塊1点が出土している。

SE1518 (図版102・165、写真図版148・164)

3J-5G23、6G3・4に位置し、重複するSK1517より新しい。開口部の平面形は円形で、規模は長軸0.82m、短軸0.75m、確認面からの深度は1.41mを測り、底面座標は1.88mである。断面形はU字状を呈し、素掘りである。覆土は13層に分層され、黒褐色土と黒色土が主体である。形態と覆土から、中世の所産である。遺物は、底面近くから箸状(w56)・用途不明品(w57・58)出土している。

SE242 (図版103・165、写真図版148)

3J-5J8・13に位置する。開口部の平面形は不整円形で、北東隅がやや膨らむ。規模は長軸1.61m、短軸1.38mを測り、確認面からの深度は1.01mで底面座標は2.07mを測る。断面形は台形状を呈し、杵材は確認されて

いないが覆土の堆積状況からは杵の存在が窺える。覆土は褐灰色土主体で5層に分層され、裏込め部分に微量の炭化物が含まれる。形態と覆土から、古代の所産と推察される。遺物は、須恵器甕(134)が出土している。

SE11 (図版104・165、写真図版148)

3J-6F8・9・13・14に位置する。開口部の平面形は円形で、西壁が歪んでいる。規模は長軸0.73m、短軸0.61mを測り、確認面からの深度は0.81mで底面座標は2.48mを測る。断面形はU字状を呈し、底面から廃絶時に投入したと考察される自然礫が出土している。覆土は褐灰色土を主体に5層に分層され、杵材の痕跡は認められないため、素掘りの井戸であったと推察される。形態から、中世の所産と考えられる。遺物は出土していない。

SE460 (図版104・165、写真図版148)

3J-6F16・17・21・22に位置し、Vb層で確認された。上部は暗渠によって削平されており、西半は調査区外へ延びる。SB1551P6、Pit446と重複関係にあり、本跡が古い。開口部の平面形は円形と考えられ、規模は長軸2.29m、確認面からの深度は1.14m、底面座標は1.96mを測る。断面形は漏斗状を呈し、杵材は確認されていない。覆土は暗灰黄色土を主体に12層に分層される。確認層位および掘方覆土から、古代の所産と考えられる。遺物は出土していない。

SE56 (図版104・166、写真図版149)

3J-6F23、7F3に位置する。開口部の平面形は円形で、規模は長軸1.07m、短軸0.96m、確認面からの深度は1.19mを測り、底面座標は2.10mである。断面形は漏斗状を呈し、杵材は確認されていないが覆土の堆積状況からは本体杵の存在が窺える。覆土は黒色土および灰色土を主体として10層に分層され、杵内は黒色土をブロック状に少量含む青灰色粘土となる。覆土および出土遺物から、中世の所産である。遺物は、珠洲焼壺(439)、部材(w55)が出土している。

SE49 (図版104・166、写真図版149)

3J-6F25に位置する。開口部の平面形は円形で、西壁が歪んでいる。規模は長軸0.85m、短軸0.73mを測り、確認面からの深度は0.89mで底面座標は2.37mを測る。断面形はU字状で、杵材は確認されていないが底面上位0.06mに有機物を多量に含む層が確認されており杵の存在が窺える。覆土は8層に分層され、炭化物を多く含む黒褐色土が主体となる。覆土からは古代とも考えられるが、形態からは中世の所産と考えられる。遺物は出土していない。

SE89 (図版102・166、写真図版149)

3J-6G3に位置する。開口部の平面形は円形で、規模は長軸0.58m、短軸0.48m、確認面からの深度は0.71mを測り、底面座標は2.52mとなる。断面形はU字状を呈し、素掘りの井戸と推察される。覆土は黒褐色土を主体に6層に分かれ、廃絶時に投入されたと考えられる全面に煤が付着した礫石器が4点出土している。形態や覆土から、中世の所産である。遺物は、珠洲焼片口鉢類(440)、磨石類(s25)、台石(s26・27)、砥石(s28)が出土している。

SE78 (図版102・166、写真図版149・150)

3J-6G6・7・11・12に位置する。Pit1526と重複関係にあり、本跡が新しい。開口部の平面形は楕円形で、主軸方向はN-1°-Eを指し南北に細長くなる。規模は長軸1.55m、短軸1.36mを測り、確認面からの深度は0.91mで底面座標は2.01mを測る。断面形はU字状で、杵材は確認されていない。覆土は5層に分かれ、暗灰黄色土およびオリブ灰色土が主体である。掘方規模や覆土から、古代の所産と推察される。遺物は、須恵器甕(135)、珠洲焼片口鉢類(441・442)が出土している。

SE80 (図版102・166、写真図版150)

3J-6G12・17に位置し、重複するSD157より新しい。開口部の平面形は円形で、規模は長軸0.98m、短軸0.97m、確認面からの深度1.24mを測り、底面座標は2.06mである。断面形は漏斗状で、底面から上位0.43mで壁面がオーバーハングしており、汀線レベルと考察される。杵材は確認されておらず、素掘りである。覆土は

7層に分層され、黒色土が主体となる。掘方および覆土から、中世の所産と推察される。遺物は、須恵器杯蓋(136)・甕(137)、珠洲焼片口鉢類(443)、土師質土器皿(444)、砥石(s29)、石核(s30)、曲物(w59)・部材(w60～63)が出土している。

SE170(図版103・166、写真図版150)

3J-6I7・8・12に位置する。開口部の平面形は円形で、南壁が凹む。規模は長軸1.34m、短軸1.23mを測り、確認面からの深度は0.63mで底面座標は2.38mを測る。断面形は半円状を呈し土坑とも類するが、堆積土から漏斗状の井戸を構築時に放棄した形態と考察した。覆土は7層に分層され、褐灰色土が主体となる。形態と覆土から、古代末から中世の所産と推察される。遺物は、土師器無台椀(138)が出土している。

SE183(図版104・167、写真図版150・151)

3J-7E10、7F1・2・6・7に位置する。開口部の平面形は円形で、東壁が大きく歪む。規模は長軸2.06m、短軸1.94mを測り、確認面からの深度は1.93mで底面座標は1.43mを測る。断面形は漏斗状を呈し、曲げ物を2段に重ねた井戸側が出土している。覆土は12層に分層され、井戸側内には緑灰色土が入る。覆土からは古代～中世の所産と考察され、規模や形態から古代の所産と推察される。遺物は、土師器小甕(139)、田下駄(w64・65)・曲物(w66～68)・箸状(w69)・部材(w70)・用途不明品(w71)が出土している。

SE57(図版104・167、写真図版151)

3J-7F2・3・7・8に位置し、重複するSB1551P2より新しい。開口部の平面形は円形で、東西の壁がやや凹む。規模は長軸2.05m、短軸1.87mを測り、確認面からの深度は1.02mで底面座標は1.94mを測る。断面形は幅広のU字状を呈し、杵材は確認されていない。覆土は10層に分層され、底面上位では堆積状況がブロック状をなしている。構築途中で放棄され、一部埋戻しを受けた井戸と推察される。掘方の規模や覆土が黄灰色土主体であることから、古代の所産と考察される。遺物は、土師器長甕(140)、土師質土器皿(445)、磨石類(s31・32)、砥石(s33)、曲物(w72)・部材(w73・74)・用途不明品(w75)が出土している。

SE504(図版104・167、写真図版151)

3J-7F12・17・18に位置し、重複するPit515・562より古い。開口部の平面形は円形を呈し、規模は長軸1.61m、短軸1.56m、確認面からの深度は1.15mを測り、底面座標は2.14mである。断面形は箱状を呈し、杵材は確認されていない。覆土は38層に分層され、黒色土および黒褐色土が主体である。覆土から、中世の所産と推察される。遺物はアスファルト塊が1点出土している。

SE497(図版104・167、写真図版151)

3J-7F11・16に位置する。開口部の平面形は円形で、規模は長軸0.75m、短軸0.71m、確認面からの深度0.87mを測り、底面座標は2.43mである。断面形はU字状を呈し、杵を伴わない素掘りの井戸と推察される。覆土は14層に分層され、黒色土が主体である。形態および覆土から中世の所産と考察される。遺物は、底面上位0.38mから珠洲焼の甕胴部片(446)が出土しており、木製品では部材(w76)、用途不明品(w77)が出土している。

SE542(図版168、写真図版151・152)

3J-7F16・17・21・22に位置し、重複関係にあるPit561・735より古い。開口部の平面形は楕円形で、主軸方向はN-25°-Wを指す。規模は長軸2.11m、短軸1.82mを測り、確認面からの深度は1.22mで底面座標は2.05mである。断面形は箱状を呈し、杵材の一部と考えられる木片が出土している。覆土は53層に分層され、黒褐色土が主体となる。形態および覆土からは、古代の所産と推察される。遺物は、須恵器有台杯(141)、青磁椀(447)、珠洲焼中甕(448)、鉄鉢(k5)、部材(w78・79)が出土している。

SE588(図版104・168、写真図版152)

3J-7F17・18に位置する。西に隣接してSE504が位置するが、西壁を暗渠によって壊されるため重複関係は不明である。開口部の平面形は楕円形を呈し、主軸方向はN-35°-Eを指すと考察される。規模は長軸0.76m、短軸は推定で0.62mを測り、確認面からの深度は1.22mで底面座標は2.07mを測る。断面形はU字状を呈

し、底面上位 0.30m 前後で東壁がオーバーハングする。枳材は確認されておらず、素掘りの井戸である。覆土は 13 層に分層され、暗灰黄色土が混じる黒褐色土が主体となる。形態および覆土から、中世の所産と考察される。底面から珠洲焼の片口鉢類口縁部 (449) が出土しており、他に台石 (s34)、曲物 (w80) が出土している。

SE485 (図版 104・168、写真図版 152)

3J-7F21・22、8F1・2 に位置しており、南東隅を暗渠に一部に切られている。開口部の平面形は東西にやや長い円形で、主軸方向は N-76° -E を指す。規模は長軸 1.68m、短軸 1.41m 程度と考えられ、確認面からの深度は 1.10m、底面座標は 2.18m を測る。断面形は箱状を呈し、枳材は確認されていない。覆土は 21 層に分層され、上部は黒褐色土、下部の本体部分は灰色および灰黄色土が主体となる。規模や覆土からは古代の遺構とも考えられるが、出土遺物からみて中世の所産と推察される。遺物は、珠洲焼甕 (450)、曲物 (w81)・折敷 (w82)・箸状 (w83)・用途不明品 (w84)、アスファルト塊 2 点が出土している。

SE105 (図版 104・169、写真図版 152)

3J-7G16 に位置する。開口部の平面形は円形で、南北にやや長く歪む。規模は長軸 0.99m、短軸 0.86m を測り、確認面からの深度は 1.14m で底面座標は 2.14m である。断面形は U 字状で、底面近くから木片が数点出土している。覆土の上部は黒褐色土を主体とし 14 層に分層され、底面から 0.20m 上位までの青黒色土には植物遺体を含んでいる。素掘りの井戸と考えられ、形態や覆土から中世の所産と推察される。遺物は、青磁碗 (451)、箸状 (w85～91)・部材 (w92～96)・柱根 (w97)・用途不明品 (w98) が出土している。

SE522 (図版 104・169、写真図版 153)

3J-8F13・14 に位置し、重複する SX521 より古い。開口部の平面形は円形で、西壁が歪む。規模は長軸 0.96m、短軸 0.93m を測り、確認面からの深度は 0.99m で底面座標は 2.30m を測る。断面形は U 字状で、枳材は確認されておらず素掘りと考察される。覆土は 17 層に分層され、黒褐色土が主体である。形態や覆土から、中世の所産と考えられる。遺物は須恵器杯蓋 (142)、珠洲焼片口鉢類 (452)、皿 (w99)・部材 (w100・101) が出土している。須恵器杯蓋は覆土上層南壁際からの出土であり、流れ込みと考察される。皿は底面近くからの出土である。

SE520 (図版 104・169、写真図版 153)

3J-8F19・24 に位置し、重複する SD158 より新しい。開口部の平面形は楕円形で、主軸方向は N-70° -E を指す。規模は長軸 1.06m、短軸 0.88m を測り、確認面からの深度は 1.02m で底面座標は 2.04m を測る。断面形は箱状を呈し、枳材は確認されていない。覆土は 13 層に分層され、黒褐色土が主体である。形態および覆土から、中世の所産と推察される。遺物は、覆土中から土師器の長甕が出土しているが、小片のため図示出来なかった。

SE556 (図版 105・169、写真図版 153・154)

3J-8G19・20 に位置し、重複する SB1561P10 に切られる。開口部の平面形は楕円形で、主軸方向は N-36° -E を指す。規模は長軸 1.05m、短軸 0.85m を測り、確認面からの深度は 1.17m で底面座標は 2.17m を測る。断面形は U 字状を呈し、枳材は確認されておらず素掘りと考察される。覆土は 16 層に分層され、黒褐色土が主体をなす。形態および覆土から、中世の所産と考えられる。遺物は、鍬 (w102)・碗 (w103)・曲物 (w104～107)・折敷 (w108)・箸状 (w109～117)・楔 (w118)・部材 (w119～125)・柱根 (w126・127)・用途不明品 (w128～131)・瓢箪 (w132・133) が出土している。

SE523 (図版 105・169、写真図版 154)

3J-8G25、8H21 に位置する。開口部の平面形は円形で、北壁がやや歪む。規模は長軸 0.87m、短軸 0.83m を測り、確認面からの深度は 0.73m で底面座標は 2.59m を測る。断面形は台形状を呈し、枳材は確認されていない。覆土は 17 層に分層され、黒褐色土が主体である。規模および覆土から、中世の所産と考えられる。遺物は出土していない。

SE853 (図版 104・170、写真図版 154)

3J-9E10・15 に位置し、重複する SB1563P2・SB1564P1 に切られる。開口部の平面形は円形で、北壁が

凹んでいる。規模は長軸 1.40m、短軸 1.24m を測り、確認面からの深度は 1.20m で底面座標は 2.04m を測る。断面形は台形状を呈しており、杵材は確認されていない。覆土は黒色土および黒褐色土を主体に 18 層に分層されるが、有機物を多く含む層を中央に挟み本体埋土は暗灰黄色土となる。堆積状況から、使用時には断面形は漏斗状を呈しており井戸杵が存在したものと推察される。また、本体上部に位置する未分解の有機物を多く含む層は基本土層Ⅲ層と考察され、本体埋没後も窪地状に開口していたものと推察される。形態および覆土から、古代の所産と考察される。遺物は、板状金属製品 (k6) が出土している。

SE577 (図版 104・170、写真図版 154・155)

3J-9F1・2・6・7 に位置し、南壁の一部を SX576 に切られる。開口部の平面形は円形で、北壁がやや膨らむ。規模は長軸 0.89m、短軸 0.83m を測り、確認面からの深度は 1.29m で底面座標は 1.97m を測る。断面形は U 字状を呈し、杵材は確認されておらず素掘りと考察される。覆土は 18 層に分層され、上部は黄灰色土・下部は黒色土が主体となる。形態および覆土から、中世の所産と考えられる。遺物は、珠洲焼甕 (453)、土師質土器皿 (454)、椀 (w134)・皿 (w135)・用途不明品 (w136・137) が出土している。

SE917 (図版 104・170、写真図版 155)

3J-9F23 に位置し、重複する SX1533 より新しい。開口部の平面形は楕円形で、主軸方向は N-2° -E を指す。規模は長軸 1.06m、短軸 0.85m を測り、確認面からの深度は 1.31m で底面座標は 1.98m を測る。断面形は漏斗状を呈し、杵材は確認されておらず素掘りと考察される。覆土は 15 層に分層され、黒褐色土と黒色土が主体をなす。形態および覆土から、中世の所産と考えられる。遺物は、珠洲焼甕 (455)、土製紡錘車 (d8)、蓋 (w138)・部材 (w139)、アスファルト塊 7 点が出土している。

SE541 (図版 105・170、写真図版 155)

3J-9G3・8 に位置する。開口部の平面形は円形で、南壁がやや膨らむ。規模は長軸 1.19m、短軸 0.96m を測り、確認面からの深度は 1.15m で底面座標は 2.19m を測る。断面形は漏斗状を呈し、杵材は確認されていない。覆土は 20 層に分層され、黒褐色土が主体である。堆積状況から、壁に粘土を貼っていた可能性も指摘される。また南壁が底面上位 0.25m 付近で僅かにオーバーハングしており、汀線レベルと推察される。遺物は、部材 (w140)・用途不明品 (w141) が出土している。

SE710 (図版 105・170、写真図版 155)

3J-9G17・18 に位置し、東壁の一部を Pit721 に切られる。開口部の平面形は方形で、南西隅は歪んで丸みを持ち、主軸方向は N-48° -E を指す。規模は長軸 1.45m、短軸 1.36m を測り、確認面からの深度は 1.03m で底面座標は 2.28m を測る。断面形は箱状を呈し、杵材は確認されていない。覆土は 15 層に分層され、黒褐色土が主体である。堆積状況が他の井戸とは異なっており、規模や形態が類似する SK1115 があることから土坑とも考えたが、深度があるため井戸とした。覆土からは、古代の所産と考察される。遺物は、須恵器杯蓋 (143)、珠洲焼甕 (456) が出土している。

SE709 (図版 105・171、写真図版 156)

3J-9G17・22 に位置する。開口部の平面形は円形で、北壁が歪む。規模は長軸 1.22m、短軸 1.22m を測り、確認面からの深度は 1.16m で底面座標は 2.16m を測る。断面形は漏斗状を呈し、杵材は確認されていない。覆土は 13 層に分層され、黒褐色土が主体であるが下半は有機物が主体となる。規模や形態からは井戸と考えられるが、堆積状況からは水溜め等の機能を有していた遺構とも推察される。覆土および出土遺物から、中世の所産である。遺物は、台石 (s35・36)、砥石 (s37)、軽石製品 (s38)、下駄 (w142) が出土している。

SE912 (図版 106・171、写真図版 156)

3J-10E15、10F11 に位置する。開口部の平面形は円形を呈し、規模は長軸 0.79m、短軸 0.76m、確認面からの深度は 1.09m を測り、底面座標は 2.18m を測る。断面形は U 字状を呈し、杵材は確認されておらず素掘りと考察される。覆土は 10 層に分層され、黒色土が主体となる。形態や覆土から、中世の所産と推察される。

遺物は、須恵器杯蓋(144)、砥石(s39)、箸状(w143)が出土している。

SE1091(図版106・171、写真図版156)

3J-10E16・17に位置する。開口部の平面形は円形で、規模は長軸0.90m、短軸0.81m、確認面からの深度は1.47mを測り、底面座標は1.80mである。断面形は箱状を呈し、杵材は確認されておらず素掘りと考察される。覆土は15層に分層され、黒褐色土が主体である。形態や覆土から、中世の所産と推察される。遺物は出土していない。

SE882(図版150・107・171、写真図版156・157)

3J-10F25に位置する。開口部の平面形は楕円形で、主軸方向はN-38°-Eを指す。規模は長軸0.97m、短軸0.75mを測り、確認面からの深度は1.05mで底面座標は2.23mを測る。断面形はU字状を呈し、杵材は確認されておらず素掘りと考察される。覆土は11層に分層され、黒色土が主体となる。形態や覆土から、中世の所産と推察される。遺物は、古墳時代の土師器小型壺(10)、須恵器甕(145)、椀(w144)・折敷(w145)・部材(w146)・用途不明品(w147)が出土している。

SE798(図版105・171、写真図版157)

3J-10G4・5・9・10に位置する。SA1544P3、SX797と重複関係にあり、本跡が新しい。開口部の平面形は円形で、南壁がやや膨らむ。規模は長軸1.34m、短軸1.34mを測り、確認面からの深度は1.07mで底面座標は2.21mを測る。断面形は台形状を呈し、杵材は確認されておらず素掘りと考察される。覆土は暗灰色土と暗オリーブ色土を主体12層に分層され、底面直上には黒色土が0.20m以上堆積している。形態や覆土から、中世の所産と推察される。遺物は、砥石(s40)が出土している。

SE1070(図版100・171、写真図版157)

4J-1E5・10、1F1・6に位置する。開口部の平面形は円形を呈し、規模は長軸0.89m、短軸0.87m、確認面からの深度は1.11mを測り、底面座標は2.17mを測る。断面形は箱状を呈し、杵材は確認されておらず素掘りと考察される。覆土は10層に分層され、黒色土が主体となる。形態と覆土から、中世の所産と推察される。遺物は、磨石類(s41)、砥石(s42)、箸状(w148)、用途不明品(w149・150)が出土している。

SE987(図版105・172、写真図版157・158)

4J-1G2・3に位置する。開口部の平面形は円形で、北壁がやや凹む。規模は長軸0.82m、短軸0.70mを測り、確認面からの深度は0.99mで底面座標は2.27mを測る。断面形はU字状を呈し、杵材は確認されておらず素掘りと考察される。覆土は9層に分層され、黒色土が主体である。形態と覆土から、中世の所産と推察される。遺物は、曲物側板(w151)、塹(k7)が出土している。

SE805(図版105・172、写真図版158)

4J-1G5・10・1H1・6に位置する。開口部の平面形は円形で、東壁がやや膨らむ。規模は長軸1.12m、短軸1.12mを測り、確認面からの深度は0.64mで底面座標は2.66mを測る。断面形はU字状を呈し、杵材は確認されていない。覆土は黒色土主体に11層に分層され、堆積状況から構築途中で放棄された井戸と判断した。覆土からは、中世の所産と推察される。遺物は、須恵器杯蓋(146)が出土している。

SE1037(図版107・172、写真図版158)

4J-1G6・7に位置し、重複するPit1035・1036より古い。開口部の平面形は円形で、西壁がやや歪む。規模は長軸0.80m、短軸0.73mを測り、確認面からの深度は0.93mで底面座標は2.26mを測る。断面形はU字状を呈し、杵材の一部と考えられる炭化材が出土している。覆土は7層に分層され、黄灰色土が主体である。覆土から、古代の所産と推察される。遺物は、土師器長甕(147)が出土している。

SE1505(図版107・172、写真図版158・159・190)

4J-1G12・13・18に位置し、重複するSK1028に上部を切られている。開口部の平面形は円形で、やや南北に開く。規模は長軸0.81m、短軸0.66mを測り、確認面からの深度は0.60mで底面座標は2.28mを測る。

断面形は台形状を呈し、杵材は確認されていない。覆土は5層に分層され、灰黄色土が主体となる。本跡の直上に位置するSK1028の底面からは、土師器小甕など古代の土器が纏まって出土している。覆土も遺跡内における古様相を呈しており、飛鳥時代から奈良時代の所産と考察される。遺物は出土していない。

SE1363 (図版107・172、写真図版159)

4J-2F10、2G6に位置する。開口部の平面形は楕円形と推定されるが、東半を暗渠に壊されている。規模は長軸0.89m、短軸0.65mを測り、確認面からの深度は0.85mで底面座標は2.34mを測る。断面形は台形状を呈し、刳舟を転用した杵材が出土している。覆土は9層に分層され、いずれも灰黄色土が混じる黄灰色土である。側とほぼ同径の掘方にも係わらず、裏込めがしっかり施されているのも特徴の一つといえる。覆土の堆積状況と形態的には土坑の可能性が高いと考えられるが、これまで新潟県内において刳舟が転用される例が井戸に限定されるため井戸とした。覆土からは飛鳥時代から古代初頭の所産と推察され、本遺跡における井戸では一番古い構築と考察される。遺物は、側内から鋤(w152～154)・刳舟(w155～w162)・櫛(w163)・用途不明品(w164～166)・モモ核(w167～169)など多くの木製品が出土している。

SE920 (図版107・172、写真図版159)

4J-2H2に位置する。開口部の平面形は円形で、北東隅が膨らむ。規模は長軸0.85m、短軸0.82mを測り、確認面からの深度は0.85mで底面座標は2.41mを測る。断面形はU字状を呈し、杵材は確認されておらず素掘りと考察される。覆土は11層に分層され、黒褐色土が主体である。形態や覆土から、中世の所産と推察される。遺物は、折敷(w170)・刳物(w171)が出土している。

6) 土 坑 (SK)

土坑は141基検出された。この内には、形態的に置柱もしくは束柱に伴う柱穴と考えられ本来はPitとして取り扱うべきものや、SXとして取り扱うべき地業に伴うと考えられるものも少なからず含まれているが、調査時の所見に基づき土坑として分類したものもある。これらの土坑は覆土などからおおよその構築時期を示したが、出土遺物が少なく明確な時期決定には至らなかった。

SK285 (図版100・173、写真図版159・160)

2J-10J16・21に位置する。平面は方形で、断面形は台形状を呈す。規模は長軸1.19m、短軸1.11mを測り、確認面からの深度は0.41mで底面座標は2.50mを測る。覆土は単層で、黒色粘質土と黄灰色粘質土の混合土である。覆土からは中世以降の所産と推察され、芋穴などの可能性もある。遺物は出土していない。

SK286 (図版100・173、写真図版160)

2J-10J22、3J-1J2に位置する。平面は不整形で、断面形は弧状を呈す。規模は長軸0.68m、短軸0.53mを測り、確認面からの深度は0.05mで底面座標は2.85mを測る。覆土は灰黄褐色粘質土と黒褐色粘質土の混合土の単層で、炭化物を少量含む。中世以降の覆土と考えられ、形態から土壌の歪みである可能性が高い。遺物は出土していない。

SK293 (図版100・173、写真図版160)

3K-1A12・13・18に位置する。平面は長方形で、断面形は台形状を呈す。規模は長軸1.70m、短軸1.38mを測り、確認面からの深度は0.23mで底面座標は2.67mを測る。覆土は褐灰色土混じりの混合土を主体に2層に分層され、ともに炭化物を含む。覆土からは、中世以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK100 (図版100・173、写真図版160)

3J-2H24・25に位置する。平面は長楕円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸0.84m、短軸0.37mを測り、確認面からの深度は0.04mで底面座標は2.82mを測る。覆土は黒褐色粘質土の単層で、炭化物を微量含む。覆土からは古代末の遺構と考えられるが、形態からは土壌の歪みである可能性もある。遺物は出土していない。

SK274 (図版100・173、写真図版160・161)

3J-2I5に位置する。平面は楕円形で、断面形は台形状を呈す。規模は長軸0.74m、短軸0.54mで、確認面

からの深度は0.13mで底面座標は2.81mを測る。覆土は黒褐色粘質土の単層で、灰黄褐色粘質土ブロックと少量の炭化物を含んでいる。覆土からは、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK292 (図版100・173、写真図版161)

3J-2J9・3・4・8に位置する。平面は方形で、断面形は台形状を呈す。規模は長軸1.47m、短軸1.27mを測り、確認面からの深度は0.42mで底面座標は2.53mを測る。覆土は3層に分層され、黒色粘質土が主体である。全ての層に炭化物を含んでおり、覆土からは中世以降と考えられる。遺物は出土していない。

SK281 (図版100・173、写真図版161)

3J-2J11に位置する。平面は長楕円形で、断面形はV字状を呈す。規模は長軸0.83m、短軸0.43mを測り、確認面からの深度は0.28mで底面座標は2.74mを測る。覆土は3層に分層され、炭化物を微量含む褐灰色粘質土が主体を成す。古代の覆土に類するが、形状からは根穴の可能性も考えられる。遺物は出土していない。

SK311 (図版102・173、写真図版161)

3J-3H16に位置し、重複するSD13より古い。平面は楕円形で、断面形は弧状を呈す。規模は長軸0.72m、短軸0.57mを測り、確認面からの深度は0.11mで底面座標は2.87mを測る。覆土は褐灰色粘質土と灰褐色シルトの2層に分層され、いずれも炭化物を含んでいる。覆土からは、古代の所産と考えられる。遺物は出土していない。

SK5 (図版102・173、写真図版161・162)

3J-3H20に位置する。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸0.65m、短軸0.61mを測り、確認面からの深度は0.19mで底面座標は2.90mを測る。覆土は黒色粘質土で、2層に分層され、中世以降の所産である。遺物は出土していない。

SK278 (図版101・173、写真図版162)

3K-3B9・10・14・15に位置する。平面は円形で、断面形は半円状を呈す。規模は長短軸ともに0.77mを測り、確認面からの深度は0.25mで底面座標は2.70mを測る。覆土は褐灰色土を主体に3層に分層され、いずれも炭化物を含む。覆土からは、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK246 (図版102・174、写真図版162)

3J-4G9・10・14・15に位置し、北西隅を暗渠によって壊されている。平面は円形で、断面形は台形状を呈す。規模は長軸1.99m、短軸1.96mを測り、確認面からの深度は0.35mで底面座標は2.79mを測る。覆土は青灰色粘土主体に3層に分層され、最下層の青灰色シルトに径3cm程度の炭化物が混じる。覆土からは、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK260 (図版102・174、写真図版162)

3J-4I6・7・11・12に位置する。平面は楕円形で、断面形は台形状を呈す。規模は長軸1.35m、短軸1.08mを測り、確認面からの深度は0.30mで底面座標は2.78mを測る。覆土は暗灰黄色粘質土と黒褐色粘質土の混合土の単層で、炭化物を少量含む。覆土からは中世以降の所産と考えられ、芋穴などの可能性もある。遺物は出土していない。

SK79 (図版102・174、写真図版162)

3J-4I14に位置し、重複するSD153より新しい。平面は楕円形で、断面形は台形状を呈す。規模は長軸1.43m、短軸1.08mを測り、確認面からの深度は0.29mで底面座標は2.42mを測る。覆土は単層で、褐灰色粘質土と黒褐色粘質土の混合土からなる。覆土からは中世以降の所産と考えられ、芋穴などの可能性もある。遺物は出土していない。

SK168 (図版102・174、写真図版163)

3J-4I21・22、5I1・2に位置する。平面は楕円形で、断面形は弧状を呈す。規模は長軸1.37m、短軸0.98mを測り、確認面からの深度は0.11mで底面座標は2.86mを測る。覆土は褐灰色砂が多量に混じる緑灰色シル

トの単層で、炭化粒を疎らに含む。覆土から、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK150 (図版 102・174、写真図版 163)

3J-4I23、5I3 に位置し、東半を SD153 に切られる。平面は楕円形で、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 0.79m、短軸 0.74m を測り、確認面からの深度は 0.13m で底面座標は 2.78m を測る。覆土は、炭化物を僅かに含む緑灰色シルトの単層である。覆土から、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK268 (図版 103・174、写真図版 163)

3J-4J8・12・13 に位置し、重複する Pit1536 より新しい。平面は長方形で、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.62m、短軸 1.24m を測り、確認面からの深度は 0.37m で底面座標は 2.31m を測る。覆土は黄橙色土ブロックが混じる褐灰色シルトと灰色粘質土の 2 層に分層され、ともに炭化物を含んでいる。覆土からは、古代の所産と推察される。遺物は、曲物側板 (w172) が出土している。

SK69 (図版 102・175、写真図版 163・164)

3J-5G2・3・7・8 に位置する。平面は長方形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 2.77m、短軸 1.85m を測り、確認面からの深度は 0.75m で底面座標は 2.50m を測る。覆土は 11 層に分層され黒褐色土が主体をなし、最下層には木枝が敷き込まれていた。覆土および出土遺物から、中世の所産である。遺物は、須恵器甕 (148)、珠洲焼片口鉢類 (457)、土師質土器皿 (458)、砥石 (s43～45)、曲物 (w173～178)・箸状 (w179～w182)・部材 (w183～186)・用途不明品 (w187～192) が出土している。

SK71 (図版 102・175、写真図版 164)

3J-5G17・22 に位置する。平面は円形、断面形は弧状を呈する。規模は長軸 0.61m、短軸 0.56m を測り、確認面からの深度は 0.12m で底面座標は 3.12m である。覆土は 2 層に分かれ、炭化物を含む黒色土が主体となる。覆土からは中世以降の所産と推察される。遺物は、珠洲焼片口鉢類 (459) が出土している。

SK83 (図版 102・175、写真図版 164)

3J-5G23、6G3 に位置し、重複する SK1517 より新しい。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.28m、短軸 1.12m を測り、確認面からの深度は 0.97m で底面座標は 2.32m を測る。覆土は 3 層に分層されるが、形態および堆積状況から構築中に放棄された井戸の可能性も考えられる。覆土から、中世の所産と推察される。遺物は、須恵器甕 (149)、柱根 (w193) が出土している。

SK1517 (図版 102・175、写真図版 164)

3J-5G23・6G3 に位置する。Pit664・1519、SK83、SE1518 と重複関係にあり、一番古い。平面は円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 1.72m、短軸 1.48m を測り、確認面からの深度は 0.48m で底面座標は 2.82m を測る。覆土は 2 層に分かれ、暗灰黄色土が混じる黒褐色土である。覆土から、古代から中世の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK112 (図版 102・175、写真図版 164)

3J-5H6・7・12 に位置する。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.89m、短軸 0.78m を測り、確認面からの深度は 0.45m で底面座標は 2.79m を測る。覆土は 2 層に分層されるが、いずれも黒色シルトである。覆土から、中世以降の所産と考えられる。遺物は出土していない。

SK175 (図版 102・175、写真図版 164)

3J-5I1・2 に位置する。平面は楕円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 0.63m、短軸 0.51m を測り、確認面からの深度は 0.12m で底面座標は 2.73m を測る。覆土は褐灰色粘土の単層で、疎らに炭化物を含む。覆土からは、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK149 (図版 102・176、写真図版 165)

3J-5I6・7 に位置する。平面は楕円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 0.72m、短軸 0.56m を測り、確認面からの深度は 0.11m で底面座標は 2.83m を測る。覆土は、炭化物を疎らに含むオリーブ灰色粘土の単層で

ある。覆土からは古代の可能性が高いが、形態からノイズの可能性もある。遺物は出土していない。

SK245 (図版 103・176、写真図版 165)

3J-5J24・25 に位置し、重複する Pit1537 より新しい。平面は長方形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.79m、短軸 1.40m を測り、確認面からの深度は 0.19m で底面座標は 2.81m を測る。覆土は、青灰色粘土ブロックが多量混じる暗灰色シルトの単層である。覆土から、中世以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK267 (図版 103・176、写真図版 165)

3J-5J25、6J5、3K-6A1 に位置する。平面は長方形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.21m、短軸 0.75m を測り、確認面からの深度は 0.39m で底面座標は 2.58m を測る。遺物は出土していない。

SK176 (図版 103・176、写真図版 165)

3J-6I14 に位置する。平面は楕円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 0.85m、短軸 0.66m を測り、確認面からの深度は 0.11m で底面座標は 2.87m を測る。覆土は、炭化物を少量含む褐灰色シルトの単層である。覆土から、中世以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK300 (図版 103・176、写真図版 166)

3J-6I19・24 に位置する。平面は隅丸方形で、断面形はU字状を呈する。規模は長軸 0.88m、短軸 0.86m を測り、確認面からの深度は 0.60m で底面座標は 2.32m を測る。覆土は 4 層に分層され、灰褐色粘質土が主体である。堆積状況および形態から、構築中に放棄された井戸の可能性もある。覆土からは、中世以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK249 (図版 103・176、写真図版 166)

3J-6J4 に位置する。平面は楕円形で、断面形は半円状を呈す。規模は長軸 0.80m、短軸 0.62m を測り、確認面からの深度は 0.25m で底面座標は 2.71m を測る。覆土は、黒褐色シルトの単層である。覆土から中世の所産と推察され、腐食木を少量含む覆土は基本土層Ⅲ層に由来すると考察される。遺物は出土していない。

SK210 (図版 103・176、写真図版 166)

3J-6J6・11 に位置し、北半は調査区外へ延びる。平面は楕円形と推定され、断面形は半円状を呈す。規模は現況で長軸 1.13m、短軸 0.36m を測り、確認面からの深度は 0.28m で底面座標は 2.74m を測る。覆土は褐灰色シルトの単層で、中世以降の所産と推察される。遺物は、柱根 (w194) が出土している。

SK527 (図版 104・176、写真図版 166)

3J-7E10・14・15 に位置する。平面は長楕円形で、断面形は箱状を呈する。規模は長軸 0.57m、短軸 0.28m を測り、確認面からの深度は 0.14m で底面座標は 3.19m を測る。覆土は 6 層に分層され、黒褐色土が主体である。覆土からは、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK731 (図版 104・176、写真図版 166・167)

3J-7E19 に位置し、重複する Pit1516 より新しい。平面は長楕円形で、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 0.53m、短軸 0.24m を測り、確認面からの深度は 0.09m で底面座標は 3.22m を測る。覆土は 4 層に分層され、黒褐色土が主体である。覆土から、古代以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK729 (図版 104・177、写真図版 167)

3J-7E24 に位置する。平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.59m、短軸 0.43m を測り、確認面からの深度は 0.15m で底面座標は 3.14m を測る。覆土は、暗灰黄色土ブロックが多量に混じる黒褐色土の単層である。覆土からは、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK738 (図版 104・177、写真図版 167)

3J-7F12 に位置し、重複する Pit739 より新しい。平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.54m、短軸 0.38m を測り、確認面からの深度は 0.25m で底面座標は 3.01m を測る。覆土は 10 層に分層され、黒色土および黒褐色土が主体である。覆土からは、中世の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK741 (図版 104・177、写真図版 167)

3J-7F12・13 に位置する。平面は楕円形、断面形は箱状を呈すると思われる。規模は長軸 0.58m、短軸 0.30m を測り、確認面からの深度は 0.14m で底面座標は 3.15m を測る。覆土は 4 層に分層され黒褐色土が主体となるが、最下層は灰黄色シルトである。覆土から、古代の所産と推察される。遺物は、遺構上面から砥石 (s46) が出土している。

SK538 (図版 104・177、写真図版 167・168)

3J-7F13・18 に位置する。平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.51m、短軸 0.47m を測り、確認面からの深度は 0.20m で底面座標は 3.09m を測る。覆土は 7 層に分層され、黒褐色土が主体である。覆土から、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK537 (図版 104・177、写真図版 168)

3J-7F18 に位置する。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.33m、短軸 0.32m を測り、確認面からの深度は 0.13m で底面座標は 3.19m を測る。覆土は 3 層に分かれるが、全て灰白色土ブロックが混じる黒色土である。覆土から、中世以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK102 (図版 104・177、写真図版 168)

3J-7G1・6 に位置する。平面は長方形、断面形は箱状を呈す。規模は長軸 0.97m、短軸 0.77m を測り、確認面からの深度は 0.19m で底面座標は 3.09m を測る。覆土は灰色シルトブロック混じりの黒色シルトの単層で、極めて締りが強く地業の可能性も考えられる。覆土から、中世以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK432 (図版 105・177、写真図版 168)

3J-7H24、8H4 に位置する。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.51m、短軸 0.49m を測り、確認面からの深度は 0.31m で底面座標は 2.93m を測る。覆土は 3 層に分層され黒褐色粘質シルトが主体で、最下層は暗灰黄色粘質シルトとの混合土となる。覆土からは、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK236 (図版 105・177)

3J-7I21・22、8I1・2 に位置する。SD154 と重複関係にあり、覆土などからは本跡が新しいと考察されるが、新旧関係は不明である。平面は長方形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.47m、短軸 0.97m を測り、確認面からの深度は 0.30m で底面座標は 2.69m を測る。覆土は 4 層に分かれ、褐灰色シルトが主体である。覆土から、古代の所産と考察される。遺物は出土していない。

SK889 (図版 104・177、写真図版 168・169)

3J-8E3 に位置し、重複する SB1554P5 より古く SK956 より新しい。平面は長楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.59m、短軸 0.40m を測り、確認面からの深度は 0.25m で底面座標は 3.01m を測る。覆土は 4 層に分かれるが、いずれも炭化物を僅かに含む黄灰色土である。覆土から、飛鳥時代もしくは古代初頭と推察される。遺物は出土していない。

SK956 (図版 104・177、写真図版 169)

3J-8E3 に位置し、重複する SK889 に切られる。平面は長楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.79m、短軸 0.41m を測り、確認面からの深度は 0.17m で底面座標は 3.09m を測る。覆土は 3 層に分層され、いずれも炭化物を僅かに含む黄灰色土である。覆土から、古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK888 (図版 104・178、写真図版 169)

3J-8E5 に位置する。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.79m、短軸 0.67m を測り、確認面からの深度は 0.33m で底面座標は 2.91m を測る。覆土は 9 層に分層され、ブロック状の堆積状況を呈している。黄灰色土が主体であり、古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK765 (図版 104・178、写真図版 169)

3J-8E7 に位置する。平面は円形、断面形は箱状を呈す。規模は長軸 0.32m、短軸 0.28m を測り、確認面か

らの深度は0.17mで底面座標は3.06mを測る。覆土は4層に分かれ、黄灰色土が主体となる。規模からは、置柱や束柱の柱穴の可能性も考えられる。覆土から、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK510 (図版104・178、写真図版169・170)

3J-8E8・9に位置する。平面は円形、断面形は半円状を呈す。規模は長軸0.45m、短軸0.42mを測り、確認面からの深度は0.21mで底面座標は3.09mを測る。覆土は7層に分層され、黒褐色土が主体である。堆積状況から柱穴の可能性も考えられる。覆土から、古代の遺構と推察される。遺物は出土していない。

SK484 (図版104・178、写真図版170)

3J-8E9・14に位置し、重複するPit511より新しい。平面は円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸0.75m、短軸0.73mを測り、確認面からの深度は0.12mで底面座標は3.17mを測る。覆土は2層に分かれ、ともに灰白色土ブロックが混じる黒褐色土である。覆土から、中世の所産と考察される。遺物は出土していない。

SK766 (図版104・178、写真図版170)

3J-8E10・15に位置する。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸1.30m、短軸1.13mを測り、確認面からの深度は0.25mで底面座標は3.02mである。覆土は5層に分層され、炭化物を含む黄灰色土が主体をなす。覆土から、飛鳥時代もしくは古代初頭の所産と推察される。遺物は、須恵器甕(151)が出土している。

SK483 (図版104・178、写真図版170)

3J-8E14・19に位置する。平面は長楕円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸0.77m、短軸0.58mを測り、確認面からの深度は0.16mで底面座標は3.14mを測る。覆土は2層に分かれ、上層は炭化物を微量含む黒褐色土、下層は灰白色土ブロックを多量に含む黒色土である。覆土からは、中世以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1374 (図版104・178、写真図版170)

3J-8E16・17・22に位置する。平面は長楕円形、断面形は半円状を呈す。規模は長軸0.46m、短軸0.28mを測り、確認面からの深度は0.17mで底面座標は2.96mを測る。覆土は6層に分層され、上部は暗黄灰色土主体であり下部は炭化物を僅かに含む黄灰色土および黄褐色土が主体となる。覆土からは、飛鳥時代もしくは古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK619 (図版104・178、写真図版171)

3J-8E18・23に位置し、重複するSK620・666・SX1506より新しい。平面は長楕円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸0.76m、短軸0.49mを測り、確認面からの深度は0.19mで底面座標は3.11mを測る。覆土は5層に分層され、黒褐色土が主体である。覆土から、古代の所産と推察される。遺物は、土師器の小甕・長甕が出土しているが、いずれも小片のため図示はしなかった。

SK620 (図版104・178、写真図版171)

3J-8E23に位置し、重複するSK619より古くSK666・SX1506より新しい。平面は長方形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸1.66m、短軸0.67mを測り、確認面からの深度は0.15mで底面座標は3.16mを測る。覆土は4層に分かれ、主体は黒褐色土となる。覆土から、古代の所産と推察される。遺物は、須恵器杯蓋(150)が出土している。

SK666 (図版104・178、写真図版171)

3J-8E18・19・22～24、9E3に位置する。重複するPit611、SK619・620より古く、SX1506より新しい。平面は長方形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸2.89m、短軸1.78mを測り、確認面からの深度は0.16mで底面座標は3.13mを測る。覆土は8層に分層され、黄灰色土が主体である。規模などSXの可能性も高いが、堆積状況や壁の立ち上がりが明確なため土坑とした。覆土と出土遺物から、飛鳥時代の所産と考察される。遺物は、須恵器杯蓋(152・153)・無台杯(154・155)、高杯(156・157)、土師器小甕(158)・長甕(159～161)が出土している。

SK524 (図版 104・178、写真図版 171)

3J-8F2・7 に位置する。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.55m、短軸 0.48m を測り、確認面からの深度は 0.32m で底面座標は 2.99m を測る。覆土は 5 層に分層され、黒色土が主体である。覆土からは、中世以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK519 (図版 104・178)

3J-8F4 に位置する。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.47m、短軸 0.43m を測り、確認面からの深度は 0.18m で底面座標は 3.18m である。覆土は、灰白色土ブロックが少量混じる黒色土の単層である。覆土からは、中世以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK503 (図版 104・179、写真図版 172)

3J-8F4・5 に位置する。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.89m、短軸 0.83m を測り、確認面からの深度は 0.50m で底面座標は 2.80m を測る。覆土は 11 層に分層されるが、基本は全て黒褐色土である。形態からは掘りかけの井戸の可能性も考えられるが、井戸の堆積状況とは差異が認められる。覆土からは古代の構築と考察されるが、上層から元豊通宝が出土しているため古代末から中世の可能性が強い。遺物は、元豊通寶 (k8) が出土している。

SK558 (図版 104・179、写真図版 172)

3J-8F4・9 に位置する。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.51m、短軸 0.45m を測り、確認面からの深度は 0.14m で底面座標は 3.17m を測る。覆土は 3 層に分かれ、黒色土が主体である。覆土から、中世以降の所産と推察される。遺物は、覆土中から土師器の小甕が出土したが、小片のため図示はしていない。

SK540 (図版 104・179、写真図版 172)

3J-8F10・15 に位置する。平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.60m、短軸 0.41m を測り、確認面からの深度は 0.16m で底面座標は 3.15m を測る。覆土は 4 層に分層され、灰白色土ブロックが混じる黒褐色土が主体をなす。覆土からは、中世以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK486 (図版 104・179、写真図版 172・173)

3J-8F11 に位置する。平面は円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 0.42m、短軸 0.40m を測り、確認面からの深度は 0.11m で底面座標は 3.21m を測る。覆土は 2 層に分かれるが、いずれも炭化物を含む黒褐色土主体である。形態から置柱などの柱穴の可能性が高い。中世以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK559 (図版 104・179、写真図版 173)

3J-8F13・18 に位置する。平面は長方形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 1.03m、短軸 0.55m を測り、確認面からの深度は 0.12m で底面座標は 3.00m を測る。覆土は単層で、ブロックを多く含む黒色土である。攪乱等の可能性もあるが、壁の立ち上がりが明確なため土坑とした。中世以降の所産である。遺物は出土していない。

SK534 (図版 104・179、写真図版 173)

3J-8F14 に位置する。平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.71m、短軸 0.55m を測り、確認面からの深度は 0.24m で底面座標は 3.01m を測る。覆土は 12 層に分層され、黒色土が主体である。覆土から、中世以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK488 (図版 104・179、写真図版 173)

3J-8E20、8F16 に位置する。平面は長方形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.51m、短軸 0.34m を測り、確認面からの深度は 0.25m で底面座標は 3.04m を測る。覆土は 6 層に分層され、主体は黒褐色土である。覆土から、中世以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK494 (図版 104・179、写真図版 173・174)

3J-8G6・7 に位置する。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.53m、短軸 0.48m を測り、確認面からの深度は 0.19m で底面座標は 3.14m を測る。覆土は 5 層に分層され、黒褐色土が主体である。覆土

は全体的に黒い印象が強く、近世以降の可能性が考察される。遺物は出土していない。

SK555 (図版 105・179、写真図版 174)

3J-8G20・25 に位置し、重複する SB1561P10 に切られる。平面は円形、断面形は箱状を呈す。規模は長軸 1.13m、短軸 0.99m を測り、確認面からの深度は 0.65m で底面座標は 2.59m を測る。覆土は 13 層に分層され、黒褐色土が主体をなす。規模や形態からは井戸とも推察されるが、近接する SE556 との堆積状況の比較から土坑とした。構築時期は中世である。遺物は、箸状 (w195～197)・用途不明品 (w198・199)、板状金属製品 (k9) が出土している。

SK127 (図版 105・179、写真図版 174)

3J-8H4・9 に位置し、重複する SD158 より新しい。平面は楕円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 0.67m、短軸 0.49m を測り、確認面からの深度は 0.14m で底面座標は 3.17m である。遺物は出土していない。

SK1530 (図版 105・179、写真図版 174)

3J-8I25 に位置し、重複する Pit435 に切られる。平面は長楕円形、断面形は半円状を呈す。規模は長軸 0.32m、短軸 0.20m を測り、確認面からの深度は 0.11m で底面座標は 2.86m を測る。覆土は 3 層に分かれ、黄灰色粘質シルトが主体となる。覆土からは、飛鳥時代から古代初頭の所産と考察される。遺物は出土していない。

SK223 (図版 103・179、写真図版 174・175)

3J-8J7・8・12・13 に位置する。平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.53m、短軸 1.19m を測り、確認面からの深度は 0.35m で底面座標は 2.63m を測る。覆土は単層で、灰白色土ブロックが混じる褐灰色シルトである。堆積状況からは、一気に埋め戻された地業痕とも攪乱とも考察される。覆土からすれば、古代の遺構とも推察される。遺物は出土していない。

SK224 (図版 103・180)

3J-8J9 に位置する。平面は長楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.71m、短軸 0.59m を測り、確認面からの深度は 0.36m で底面座標は 2.57m を測る。覆土は、暗灰黄色シルトブロックを多く含む黒褐色シルトの単層である。覆土からは、中世の遺構と推察される。遺物は出土していない。

SK1201 (図版 106・180、写真図版 175)

3J-9D13・14・18・19 に位置する。平面は長方形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 0.95m、短軸 0.71m を測り、確認面からの深度は 0.12m で底面座標は 3.13m を測る。覆土は単層で、灰黄色土ブロックが多量に混じる黄灰色土で炭化物を含む。地業の一種とも考えられ、覆土からは飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1010 (図版 104・106・180、写真図版 175)

3J-9D14 に位置し、重複する Pit1011 を切る。平面は円形、断面形は半円状を呈す。規模は長軸 0.59m、短軸 0.55m を測り、確認面からの深度は 0.18m で底面座標は 3.10m を測る。覆土は暗灰黄色土・黄褐色土・オリブ褐色土の 3 層に分層され、全てに炭化物を含んでいる。覆土から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1052 (図版 104・180、写真図版 175)

3J-9D14・15 に位置し、重複する SD800 に北壁を切られる。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸は推定で 0.69m、短軸 0.58m を測り、確認面からの深度は 0.15m で底面座標は 3.06m を測る。覆土は 5 層に分層され、全てに炭化物を含んでいる。ブロック状の堆積状況から地業の可能性もあり、覆土と切り合い関係から飛鳥時代の所産と推察される。遺物は土師器無台碗・小甕が出土したが、小片のため図示はしていない。

SK1005 (図版 106・180、写真図版 175・176)

3J-9D25、9E21 に位置し、重複する SK1090 より新しい。平面は略円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.78m、短軸 0.77m を測り、確認面からの深度は 0.27m で底面座標は 2.98m を測る。覆土は 8 層に分層され、

炭化物を僅かに含む黄灰色土が主体をなす。覆土から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1090 (図版 106・180、写真図版 176)

3J-9E21 に位置し、北壁を Pit1006、西壁を SK1005、南半を暗渠に切られる。平面は楕円形、断面形は台形状を呈すと推定される。規模は推定で長軸 0.93m、短軸 0.75m 程度と思われ、確認面からの深度は 0.30m で底面座標は 2.96m を測る。覆土は 2 層に分かれるが、いずれも炭化物を僅かに含む暗灰黄色土である。覆土と切り合い関係から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1515 (図版 104・191、写真図版 198)

3J-9E4・9 に位置し、西半を SX841 に切られる。平面は長楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 2.00m、短軸は推定で 0.58m、確認面からの深度は 0.10m 程度で、底面座標は 2.91m を測る。覆土は灰黄色土が主体であり、覆土と切り合い関係から飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK916 (図版 104・180、写真図版 176)

3J-9E5・10 に位置し、重複する Pit635、SD158 に切られる。平面は円形を呈すと推定され、断面形は箱状を呈す。規模は長軸は推定で 0.97m、短軸 0.86m を測り、確認面からの深度は 0.24m で底面座標は 2.97m を測る。覆土は 7 層に分層され、炭化物を僅かに含む黄灰色土が主体である。覆土から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は、須恵器杯蓋 (162・163) が出土している。

SK833 (図版 104・180、写真図版 176)

3J-9E19 に位置し、重複する Pit832 より古い。平面は長方形、断面形は箱状を呈す。規模は長軸は推定で 0.50m、短軸 0.42m を測り、確認面からの深度は 0.20m で底面座標は 3.06m を測る。覆土は 3 層に分かれ、いずれも炭化物を僅かに含む黄灰色土である。覆土から、飛鳥時代もしくは古代初頭の所産と推察される。遺物は土師器長甕が出土しているが、小片のため図示はしていない。

SK977 (図版 104・180、写真図版 177)

3J-9E25 に位置する。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.38m、短軸 0.33m を測り、確認面からの深度は 0.11m で底面座標は 3.18m を測る。覆土は 2 層に分かれ、炭化物を含む黄灰色土が主体をなす。覆土からは、古代の遺構と推察される。遺物は出土していない。

SK990 (図版 104・180、写真図版 177)

3J-9F2・3 に位置し、重複する Pit569 に南壁の一部を切られる。平面は長楕円形、断面形は箱状を呈す。規模は長軸 0.46m、短軸 0.28m を測り、確認面からの深度は 0.15m で底面座標は 3.08m を測る。覆土は 13 層に分層され、黄灰色土が主体となる。ブロック状の堆積状況から、地業の一種とも考えられる。古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1050 (図版 104・180、写真図版 177)

3J-9F16・17 に位置し、重複する SD869 より古く、Pit1164・1511 より新しい。平面は方形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.88m、短軸 0.80m を測り、確認面からの深度は 0.21m で底面座標は 2.89m を測る。覆土は 2 層に分層され、上層は灰白色土、下層は灰黄色土とともに炭化物を含む。覆土から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK691 (図版 104・180、写真図版 177・178)

3J-9F20 に位置し、重複する SB1565P1、SK695 より新しい。平面は長楕円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 1.15m、短軸 0.88m を測り、確認面からの深度は 0.13m で底面座標は 3.21m を測る。覆土は 6 層に分層され、炭化物を含む黒褐色土が主体である。覆土から、古代以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK695 (図版 104・180、写真図版 177・178)

3J-9F20 に位置し、南壁を重複する SK691 に切られる。平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.55m、短軸 0.45m を測り、確認面からの深度は 0.21m で底面座標は 3.11m を測る。覆土は 5 層に分層され、

黒褐色土が主体をなす。覆土からは、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK863 (図版 105・181、写真図版 178)

3J-9F25、9G21、10G1 に位置し、重複する Pit862・1510 に切られる。平面は円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 1.37m、短軸 1.19m を測り、確認面からの深度は 0.13m で底面座標は 3.16m を測る。覆土は 3 層に分かれ、灰黄色土ブロックが多く混じる黒色土が主体である。堆積状況から地業と考察され、中世の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1008 (図版 104・181、写真図版 178)

3J-9G2 に位置し、東半を暗渠に切られる。平面は円形を呈すると推定され、断面形は台形状を呈す。規模は推定で長軸 0.56m、短軸 0.53m を測り、確認面からの深度は 0.33m で底面座標は 2.96m を測る。覆土は 5 層に分層され、黒褐色土が主体である。形態から柱穴の可能性も高く、覆土から古代以降の所産と推察される。遺物は、須恵器甕 (164) が出土している。

SK1172 (図版 105・181、写真図版 178)

3J-9G25、9H21 に位置する。平面は円形、断面形は箱状を呈す。規模は長軸 0.65m、短軸 0.60m を測り、確認面からの深度は 0.19m で底面座標は 3.04m を測る。覆土は 4 層に分層され、いずれも灰黄色土ブロック混じりの黄灰色土である。地業の可能性も考えられ、覆土から飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1467 (図版 105・181)

3J-9H4・5・9・10 に位置する。平面は円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 0.56m、短軸 0.49m を測り、確認面からの深度は 0.10m で底面座標は 2.76m を測る。覆土は単層で、炭化物を少量含む黒褐色土である。V b 層での検出であり覆土の色調も明るいいため、古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1368 (図版 105・181、写真図版 179)

3J-9H5 に位置し、重複する Pit1367、SD156 に切られ、Pit1466 を切る。平面は楕円形、断面形は半円状を呈すと推察される。規模は長軸 0.91m、短軸 0.73m を測ると推定され、確認面からの深度は 0.55m で底面座標は 2.76m を測る。覆土は 4 層に分層され、黄灰色土が主体である。覆土と重複関係から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1180 (図版 105・181、写真図版 179)

3J-9H16 に位置し、重複する Pit1179 に南壁の一部を切られる。平面は長楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.29m、短軸 0.85m を測り、確認面からの深度は 0.22m で底面座標は 3.05m を測る。覆土は 2 層に分かれ、上層は黒褐色土、下層は灰黄色土となる。覆土からは、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1405 (図版 105・181、写真図版 179)

3J-9H16・17・22 に位置し、重複する Pit1404、SX795 に切られる。平面は円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 0.76m、短軸 0.71m を測り、確認面からの深度は 0.09m で底面座標は 2.84m を測る。覆土は、炭化物を微量含む褐灰色シルトの単層である。V b 層での検出であり、飛鳥時代もしくは古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1327 (図版 105・181、写真図版 180)

3J-9H21 に位置し、重複する Pit1332・1346、SX795 に切られる。平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.15m、短軸 0.77m を測り、確認面からの深度は 0.23m で底面座標は 2.95m を測る。覆土は 3 層に分かれ、いずれも炭化物を含む黄灰色土である。覆土と切り合い関係から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1177 (図版 105・181、写真図版 180)

3J-9H22 に位置し、重複する Pit1175、SX795 に北壁を切られる。平面は長楕円形、断面形はU字状を呈

す。規模は長軸 1.13m、短軸 0.38m を測り、確認面からの深度は 0.29m で底面座標は 2.98m を測る。覆土は 5 層に分層され、いずれも黄灰色土となる。飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1115 (図版 106・182・181、写真図版 180・181)

3J-10D2・3・7・8 に位置する。重複する Pit1109・1114 より古く、SD958、SK758 より新しい。平面は円形で、断面形は台形状をなす。規模は長軸 2.09m、短軸 1.96m を測り、確認面からの深度は 0.85m で底面座標は 2.41m を測る。覆土は 18 層に分層され、黒褐色土が主体である。堆積状況からは本体と掘方を想定させる様相を呈しており、当初は井戸として取り扱った。しかし本遺跡における井戸列からは外れた場所に位置しており、また伐採木が大量に出土していることから貯木場的な機能を想定して土坑とした。構築時期は、出土遺物と切り合い関係から古代と推察される。遺物は、須恵器杯蓋 (165)、土師器小甕 (166)、支脚 (d10)、部材 (w200)、柱根 (w201～206)、用途不明品 (w207)、伐採木 (w208～210)、鉄塊 (k10)、アスファルト塊 1 点が出土している。

SK758 (図版 106・182、写真図版 181)

3J-10D2・3・7 に位置する。重複する SK1115 より古く、Pit1160、SD958、SX957 より新しい。平面は長楕円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸は推定で 1.92m、短軸 1.11m を測り、確認面からの深度は 0.22m で底面座標は 3.02m を測る。覆土は 3 層に分層され、いずれも炭化物を含む黄灰色土である。覆土と出土遺物から、古代の所産と推察される。遺物は、土師器小甕 (167～169) が出土している。

SK1071 (図版 106・182、写真図版 182)

3J-10D9・10・14・15 に位置し、西壁を暗渠に切られる。平面は円形、断面形は U 字状を呈す。規模は長軸は推定で 0.81m、短軸 0.77m を測り、確認面からの深度は 0.58m で底面座標は 2.67m である。覆土は 13 層に分層され、黒褐色土と黄灰色土が主体となる。規模や形態からは井戸とも捉えられるが、堆積状況から土坑とした。覆土から、古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1099 (図版 106・182、写真図版 182)

3J-10D15 に位置する。平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.46m、短軸 0.31m を測り、確認面からの深度は 0.27m で底面座標は 3.00m を測る。覆土は 3 層に分層され、いずれも黄灰色土である。覆土から、古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1098 (図版 106・182、写真図版 182)

3J-10D15・20 に位置する。平面は円形、断面形は半円状を呈す。規模は長軸 0.46m、短軸 0.40m を測り、確認面からの深度は 0.22m を測る。覆土は 2 層に分かれ、主体は灰黄色土ブロックと炭化物を含む黄灰色土である。覆土から、古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1103 (図版 106・183、写真図版 182)

3J-10E11 に位置する。平面は楕円形、断面形は半円状を呈する。規模は長軸 0.43m、短軸 0.35m を測り、確認面からの深度は 0.21m で底面座標は 3.01m を測る。覆土は 3 層に分層され、炭化物を含む灰黄色土が最下層となる。規模や形態からは柱穴の可能性もあるが、覆土の堆積状況から土坑に分類した。覆土から、古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK926 (図版 104・183、写真図版 183)

3J-10F8 に位置し、重複する Pit896 に北壁を切られ、Pit1472 より新しい。平面は楕円形、断面形は半円状を呈す。規模は長軸 0.61m、短軸 0.47m を測り、確認面からの深度は 0.26m で底面座標は 3.04m を測る。覆土は 3 層に分層され、上層の灰黄色土ブロックを多量に含む黒色土と下層の炭化物を含む灰黄色土に大別される。最下層の覆土からは古代初頭の所産と考察され、後に地業などにより埋め戻しを受けたものと推察される。遺物は出土していない。

SK911 (図版 106・183、写真図版 183)

3J-10F17 に位置する。平面は円形、断面形は U 字状を呈す。規模は長軸は推定で 0.65m、短軸 0.60m を測り、

確認面からの深度は0.69mで底面座標は2.61mを測る。覆土は11層に分層され、黒色土が主体であり中世の所産と推察される。形態的には井戸または柱穴とも考察されるが、覆土の堆積状況から土坑に分類した。遺物は出土していない。

SK1286 (図版105・183、写真図版183)

3J-10G10・15に位置する。平面は長方形、断面形は箱状を呈す。規模は長軸0.60m、短軸0.34mを測り、確認面からの深度は0.21mで底面座標は3.07mを測る。覆土は4層に分層され、黄灰色土が主体である。覆土からは、古代初頭の所産と推察される。遺物は土師器小甕が出土しているが、小片のため図示はしていない。

SK848 (図版105・183、写真図版183)

3J-10G11・16に位置する。平面は円形、断面形は箱状を呈す。規模は長軸0.47m、短軸0.46mを測り、確認面からの深度は0.33mで底面座標は3.01mを測る。覆土は黄灰色土を主体に5層に分層され、形態からは束柱に伴う柱穴の可能性も考えられる。覆土から、飛鳥時代もしくは古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1247 (図版105・183、写真図版184)

3J-10G15、10H11に位置する。平面は楕円形、断面形は半円状を呈す。規模は長軸0.61m、短軸0.49mを測り、確認面からの深度は0.23mで底面座標は3.08mを測る。覆土は、灰黄色土混じりの黄灰色土を主体に6層に分かれる。覆土から、古代初頭の所産と推察される。遺物は土師器長甕が出土しているが、小片のため図示はしていない。

SK1284 (図版105・183、写真図版184)

3J-10G20に位置し、重複するSX1059に北西隅の一部を切られ、東壁は暗渠によって切られる。平面は円形、断面形は弧状を呈す。規模は推定で長軸1.23m、短軸1.10mを測り、確認面からの深度は0.15mで底面座標は3.12mを測る。覆土は3層に分層されるが、いずれも灰黄色土ブロックと炭化物を含む黄灰色土である。覆土からは古代初頭の所産と推察され、堆積状況から、地業の一種とも考察される。遺物は土師器小甕が出土したが、小片のため図示はしていない。

SK834 (図版105・183、写真図版184)

3J-10G25に位置する。平面は楕円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸0.39m、短軸0.29mを測り、確認面からの深度は0.11mで底面座標は3.21mを測る。覆土は2層に分かれ、灰黄色土ブロックを多く含む黒褐色土が主体である。覆土から、古代の構築と推察される。遺物は出土していない。

SK1277 (図版105・183、写真図版184)

3J-10G25、4J-1G5に位置する。平面は長楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸0.78m、短軸0.48mを測り、確認面からの深度は0.23mで底面座標は3.06mを測る。覆土は7層に分層され、上位は灰黄色土ブロック混じりの黄灰色土・下位は炭化物を含む暗灰黄色土が主体となる。覆土から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1274 (図版105・183、写真図版185)

3J-10G25、4J-1G5に位置する。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸0.53m、短軸0.52mを測り、確認面からの深度は0.33mで底面座標は2.98mを測る。覆土は8層に分層され、灰黄色土ブロック混じりの黄灰色土が主体をなす。覆土から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1271 (図版105・183、写真図版185)

3J-10H1・2に位置する。平面は円形、断面形は半円状を呈す。規模は長軸0.34m、短軸0.32mを測り、確認面からの深度は0.13mで底面座標は3.13mを測る。覆土は2層に分かれ、ともに炭化物を含む黄灰色土であり灰白色土粒の比率によって分層し、形態から、置柱等の柱穴の可能性もあるが、柱のあたりが見られず覆土の堆積状況から土坑とした。覆土から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1287 (図版 105・183、写真図版 185)

3J-9H23、10H3 に位置する。平面は楕円形、断面形は箱状を呈する。規模は長軸 0.47m、短軸 0.32m を測り、確認面からの深度は 0.12m で底面座標は 3.14m を測る。覆土は 4 層に分かれるが、いずれも灰白色土を含む黄灰白色土となる。覆土から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1282 (図版 105・183、写真図版 185)

3J-10H3・4 に位置する。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.41m、短軸 0.38m を測り、確認面からの深度は 0.14m で底面座標は 3.11m を測る。覆土は 3 層に分かれるが、いずれも炭化物と灰白色土ブロックを含む黄灰白色土でブロックの比率によって分層した。覆土から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1326 (図版 105・184、写真図版 186)

3J-10H6 に位置し、重複する SK1310 より新しい。平面は円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 0.49m、短軸 0.45m を測り、確認面からの深度は 0.11m で底面座標は 3.14m を測る。覆土は、炭化物を含む黄灰色土の単層である。覆土から、古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1310 (図版 105・184、写真図版 186)

3J-10H6 に位置し、重複する SK1326 に北壁を切られ Pit1312、SK1311 の西壁を切る。平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.91m、短軸 0.67m を測り、確認面からの深度は 0.15m で底面座標は 3.13m を測る。覆土は 3 層に分層され、炭化物を含む黄灰色土が主体である。底面が凹凸を持ち、覆土の堆積状況からも地業の可能性が窺える。構築時期は、切り合い関係から古代初頭と推察される。遺物は、円筒形土製品 (d11) が出土している。

SK1311 (図版 105・184、写真図版 186)

3J-10H6 に位置し、重複する SK1310 に西壁を切られる。平面は楕円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 0.61m、短軸 0.49m を測り、確認面からの深度は 0.18m で底面座標は 3.09m である。覆土は 3 層に分層され、主体は黄灰色土である。覆土と切り合い関係から、古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK796 (図版 105・184、写真図版 186)

3J-10H6・11 に位置する。平面は略円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.77m、短軸 0.73m を測り、確認面からの深度は 0.27m で底面座標は 3.01m を測る。覆土は 3 層に分層されるが、いずれも炭化物と灰黄色土ブロック混じりの黒褐色土である。覆土から、古代の所産と推察される。遺物は土師器長甕が出土しているが、小片のため図示はしていない。

SK1240 (図版 105・184、写真図版 186)

3J-10H7・8 に位置し、北西隅を重複する Pit1220 に切られる。平面は方形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.63m、短軸 0.55m を測り、確認面からの深度は 0.21m で底面座標は 3.07m を測る。覆土は 2 層に分かれるが、いずれも灰黄色土ブロック混じりの黄灰色土でありブロックの含有率によって分層した。覆土からは、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1317 (図版 105・184、写真図版 186)

3J-10H8 に位置する。平面は楕円形、断面形は半円状を呈す。規模は長軸 0.43m、短軸 0.32m を測り、確認面からの深度は 0.15m で底面座標は 3.11m を測る。覆土は 4 層に分層され、いずれも黄灰色土である。覆土から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK810 (図版 105・184)

3J-10H12 に位置し、西壁を Pit809 に切られ、Pit1358 より新しい。平面は長楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.62m、短軸 0.21m を測り、確認面からの深度は 0.07m で底面座標は 3.21m を測る。覆土は 2 層に分かれ、灰黄色土ブロックと炭化物が混じる黒褐色土が主体をなす。覆土から、古代の所産と推察される。

遺物は土師器長甕が出土しているが、小片のため図示はしていない。

SK1333 (図版 105・184、写真図版 187)

3J-10H12 に位置する。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.41m、短軸 0.37m を測り、確認面からの深度は 0.29m で底面座標は 3.02m を測る。覆土は 5 層に分層され、主体は炭化物混じりの黄灰色土である。形態および堆積状況から、柱穴の可能性が高いと考えられる。覆土から、古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1329 (図版 105・184、写真図版 187)

3J-10H13 に位置する。平面は楕円形、断面形は半円状を呈す。規模は長軸 0.51m、短軸 0.41m を測り、確認面からの深度は 0.21m で底面座標は 3.10m を測る。覆土は 4 層に分層され、灰黄色土ブロック混じりの黄灰色土が主体である。覆土から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK804 (図版 105・184、写真図版 187)

3J-10H16 に位置し、西半を暗渠によって壊されている。平面は楕円形を呈すと推定され、断面形は箱状を呈す。規模は推定で長軸 0.75m、短軸 0.50m を測り、確認面からの深度は 0.30m で底面座標は 3.00m である。覆土は 3 層に分層され、上から炭化物を含む黒褐色土、灰黄色土ブロック混じりの灰色土、黄灰色土である。覆土から、古代の所産と推察される。遺物は土師器長甕 (170) が出土している。

SK1294 (図版 105・184、写真図版 187)

3J-10H16 に位置する。平面は長楕円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 0.47m、短軸 0.29m を測り、確認面からの深度は 0.08m で底面座標は 3.23m を測る。覆土は、炭化物と灰黄色土ブロック混じりの黄灰色土の単層である。覆土から古代初頭の所産と推察され、堆積状況から地業の可能性も考えられる。遺物は出土していない。

SK1362 (図版 105・184、写真図版 188)

3J-10H17 に位置する。平面は楕円形、断面形は半円状を呈す。規模は長軸 0.51m、短軸 0.43m を測り、確認面からの深度は 0.20m で底面座標は 3.11m を測る。覆土は 4 層に分層され、いずれも灰黄色土粒が混じる黄灰色土である。覆土から、古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1279 (図版 105・184、写真図版 188)

3J-10H22 に位置し、南壁を重複する SX1222 に切られる。平面は方形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 0.77m、短軸 0.73m を測り、確認面からの深度は 0.13m で底面座標は 3.19m を測る。覆土は灰黄色土ブロック混じりの黄灰色土が主体で 5 層に分層され、いずれも炭化物を含んでいる。堆積状況から地業の可能性も考えられ、覆土からは古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1248 (図版 105・184、写真図版 188・200)

3J-10H22、4J-1H1・2 に位置し、重複する SX1222 より新しく東壁は暗渠に切られている。平面は楕円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 1.57m、短軸 1.11m を測り、確認面からの深度は 0.28m で底面座標は 3.02m を測る。覆土は 8 層に分層され、大略黒褐色土と黄灰色土が主体となる。土坑上面で長軸 0.54m、短軸 0.34m の楕円形の範囲に焼土が検出されており、墓坑等の可能性も考察される。覆土から、古代の所産と推察される。遺物は、須恵器無台杯 (171)・有台杯 (172)、土師器長甕 (173・174)・鍋 (175) が出土している。

SK647 (図版 105・185、写真図版 189)

3J-10I2・3 に位置し、重複する SK1507 の北半を切り、SD154 に切られる。平面は長方形、断面形は階段状を呈す。規模は長軸 2.33m、短軸 0.99m を測り、確認面からの深度は 0.77m で底面座標は 2.44m を測る。覆土は 7 層に分層され、灰黄色土ブロックを多量に含む黒色土が主体となる。形態から地下式坑の可能性も考えられ、覆土からは中世以降の所産と推察される。遺物は、須恵器有台杯 (176) が出土している。

SK1507 (図版 107・173)

3J-10I1・2に位置し、重複するSK647に南半を切られる。平面は長方形、断面形は台形状を呈し、規模は長軸0.84m、短軸0.51m程度と考えられるが、SK647と一緒に掘削されたため深度など詳細は不明である。遺物は出土していない。

SK1120 (図版107・185、写真図版189)

4J-1F3に位置する。平面は円形、断面形は半円状を呈す。規模は長軸0.36m、短軸0.34mを測り、確認面からの深度は0.12mで底面座標は3.20mを測る。覆土は4層に分かれ、主体は灰黄色土ブロックが混じる黒褐色土となる。覆土から、古代の遺構と推察される。遺物は出土していない。

SK1191 (図版107・185、写真図版189)

4J-1F6・7・11・12に位置する。平面は長楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸1.29m、短軸0.54mを測り、確認面からの深度は0.25mで底面座標は3.05mを測る。覆土は3層に分層され、いずれも黄灰色土である。覆土から、飛鳥時代もしくは古代初頭の構築と推察される。遺物は出土していない。

SK1300 (図版105・185、写真図版189)

4J-1G5、1H1に位置する。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸0.49m、短軸0.46mを測り、確認面からの深度は0.32mで底面座標は2.94mを測る。覆土は4層に分層され、上位は暗灰黄色土で最下層は僅かに炭化物を含む黄灰色土となる。形態からは柱穴の可能性も考えられるが、堆積状況から土坑とした。覆土から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1022 (図版105・185、写真図版190)

4J-1G8に位置する。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸0.50m、短軸0.49mを測り、確認面からの深度は0.13mで底面座標は3.12mを測る。覆土は2層に分かれ、灰黄色土ブロックが多量に混じる黒色土が主体である。形態から置柱の柱穴の可能性も高く、中世以降の所産である。遺物は出土していない。

SK1028 (図版107・185、写真図版158・190)

4J-1G12・13・17・18に位置し、重複するPit1122、SE1505より新しい。平面は楕円形、断面形は箱状を呈す。規模は長軸1.92m、短軸1.59mを測り、確認面からの深度は0.37mで底面座標は2.85mを測る。覆土は7層に分層され、大略中央部の灰黄色土と縁辺部の黄灰色土に分かれる。本遺構からは遺物が多く出土しており、特に底面中央から土師器小甕が纏まって出土している。覆土と出土遺物から、古代の所産である。遺物は、須恵器長頸瓶(177・178)・甕(179)、土師器長甕(180～182)、アスファルト塊1点が出土している。

SK1203 (図版107・185、写真図版190)

4J-1G20で暗渠に挟まれて位置し、西半は暗渠によって壊されており、重複するPit1257より新しい。平面は楕円形と推定され、断面形は箱状を呈す。規模は長軸は推定で0.91m、短軸0.81mを測り、確認面からの深度は0.12mで底面座標は3.11mを測る。覆土は3層に分かれ、灰黄色土ブロック混じりの黒褐色土が主体となる。覆土から、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1243 (図版105・185、写真図版191)

4J-1H4・5に位置し、重複するPit1242に西壁を切られる。平面は楕円形、断面形は半円状を呈す。規模は長軸は推定で0.68m、短軸0.49mを測り、確認面からの深度は0.17mで底面座標は3.14mを測る。覆土は3層に分層されるが、いずれも黄灰色土である。覆土と重複する柱穴の堆積状況から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK821 (図版105・185、写真図版191)

4J-1H4・9に位置する。平面は円形、断面形は箱状を呈す。規模は長軸0.58m、短軸0.51mを測り、確認面からの深度は0.20mで底面座標は3.12mを測る。覆土は2層に分かれ、灰黄色土ブロック混じりの褐灰色土が主体である。堆積状況から土坑としたが、形態からは柱穴の可能性もある。覆土から、古代以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK826 (図版 105・186、写真図版 191)

4J-1H7・8・12・13 に位置する。平面は長楕円形、断面形は箱状を呈す。規模は長軸 0.61m、短軸 0.28m を測り、確認面からの深度は 0.10m で底面座標は 3.19m を測る。覆土は 2 層に分かれ、炭化物を含む黄灰色土が主体である。覆土から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK813 (図版 105・186、写真図版 191)

4J-1H8 に位置し、重複する Pit1508 を切る。平面は長楕円形、断面形は箱状を呈す。規模は長軸 1.23m、短軸 0.32m を測り、確認面からの深度は 0.23m で底面座標は 3.06m を測る。覆土は上から灰黄色土ブロックが多量に混じる黒褐色土、黄灰色土、暗オリーブ灰色土の 3 層に分層され、全てに炭化物を含んでいる。平面形から見ると溝状遺構とも捉えられるが、対峙する遺構も検出されておらず、断面形と堆積状況から土坑に分類した。覆土から、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK811 (図版 105・186、写真図版 191・192)

4J-1H13 に位置する。平面は不整形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.57m、短軸 0.56m を測り、確認面からの深度は 0.22m で底面座標は 3.06m を測る。覆土は 4 層に分層され、大略黄灰色土とオリーブ灰色土に大別される。ブロック土が多く混じる堆積状況から、地業に伴う可能性も考えられる。覆土から、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK858 (図版 105・186、写真図版 192)

4J-1H17 に位置し、重複する Pit857・1509 に切られる。平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.43m、短軸 0.32m を測り、確認面からの深度は 0.17m で底面座標は 3.12m を測る。覆土は灰黄色土と暗灰黄色土の 2 層に分かれ、ともに黒色土ブロックが少量混じる。形態的には柱穴とも考えられ、覆土と重複関係から古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1532 (図版 105・186、写真図版 192)

4J-1H18 に位置し、重複する Pit823 に南壁を切られる。平面は楕円形、断面形は半円状を呈す。規模は長軸 0.53m、短軸 0.37m を測り、確認面からの深度は 0.20m で底面座標は 3.10m を測る。覆土は 3 層に分層され、主体は黄灰色土である。規模からは柱穴の可能性も考えられるが、堆積状況から土坑に分類した。覆土から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1538 (図版 106・186、写真図版 192・201)

4J-2E2・3 に位置し、重複する SX1088 に上部を切られる。平面は楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.95m、短軸 0.70m を測り、確認面からの深度は 0.25m で底面座標は 2.98m を測る。SX1088 が古代初頭の所産である事から、飛鳥時代の所産と考察される。遺物は出土していない。

SK1479 (図版 107・186、写真図版 192)

4J-2F25、2G21、3F5、3G1 に位置し、V b 層で検出された。Pit1473 を切る。平面は長楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.89m、短軸 0.49m を測り、確認面からの深度は 0.15m で底面座標は 2.93m を測る。覆土は暗褐色土の単層で、砂を多量に含んでいる。検出層位と覆土から、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK1348 (図版 108・186、写真図版 193)

4J-3C6・7・12 に位置する。平面は円形、断面形は半円状を呈す。規模は長軸 1.00m、短軸 0.87m を測り、確認面からの深度は 0.24m で底面座標は 2.53m を測る。覆土は 4 層に分層され、いずれも灰黄色土粒が混じる黄灰色土である。覆土から、飛鳥時代もしくは古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SK482 (図版 109・186、写真図版 193)

4J-4D4・9 に位置する。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 0.77m、短軸 0.75m を測り、確認面からの深度は 0.40m で底面座標は 2.12m を測る。覆土は 2 層に分かれるが、いずれも黒色土である。基

本土層Ⅲ層上位からの掘り込みであり、近世以降の所産と考察される。遺物は出土していない。

SK1500 (図版 107・186、写真図版 193)

4J-4F11・16 に位置し、V b 層中で検出された。南壁は傾斜面へ入るため明確ではないが、斜面地における遺物の出土状況等から考察して、地滑り等の要因とは考え難い。平面は長方形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.55m、短軸 1.15m を測り、確認面からの深度は 0.25m で底面座標は 2.68m を測る。覆土は上から炭化物を中量含む暗灰黄色土、灰黄色粘質土、炭化物を含む暗灰黄色粘質土の 3 層に分層される。本遺構は南側斜面地への崖線の上に位置しており、斜面側には飛鳥時代の祭祀的要素の強い SX945 が位置している。本遺構からも神功開寶が出土しており、祭祀的もしくは墓坑などの機能が推察される。覆土および出土遺物から、奈良時代の所産と推察される。遺物は神功開寶 (k11) の他、須恵器有台杯 (183)、土師質土器皿 (460) が出土している。

7) 性格不明遺構 (SX)

本遺跡で検出された性格不明遺構は 49 基ある。その多くは、微高地上に位置する地業に伴うと考えられるものと、斜面地に位置する遺物集中とに大別される。また、平面形からは溝状遺構や土坑と見なされる遺構についても、土層の堆積状況などから性格不明遺構に分類したのものもある。

SX275 (図版 100・187、写真図版 193・194)

3J-1I3・7～9・12～14 に位置し、西壁は暗渠によって壊されている。平面は不整形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸は現況で 3.46m、短軸 3.81m を測り、確認面からの深度は 0.53m で底面座標は 2.38m を測る。覆土は黒褐色土を主体に 5 層に分層され、中間にブロック土が含まれる特徴を持つ。覆土から古代以降の所産と推察され、覆土の堆積状況からは地業の可能性も考察される。遺物は、古墳時代の土師器高杯 (11)、須恵器甕 (184～186)、椀 (w211)・部材 (w212)・用途不明品 (w213) が出土している。

SX178 (図版 102・187、写真図版 194)

3J-4G10・15、4H1 に位置する。平面は不整形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 1.00m、短軸 1.00m を測り、確認面からの深度は 0.25m で底面座標は 2.84m を測る。覆土は 5 層に分層され、にぶい黄灰色シルトが主体をなす。覆土から中世以降の所産と推察され、その堆積状況から根穴の可能性も考えられる。遺物は出土していない。

SX65 (図版 102・187)

3J-4I6 に位置し、西壁を土側溝によって壊されている。平面は長楕円形、断面形は弧状を呈す。規模の長軸は推定で 1.53m、短軸 0.36～0.42m を測り、確認面からの深度は 0.04m で底面座標は 3.11m を測る。覆土は、黒褐色土が少量混じる褐灰色粘質土の単層である。平面形態からは溝状遺構とも考えられるが、深度が浅くノイズの可能性も否定できない。覆土から、古代以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SX184 (図版 103・187、写真図版 194)

3J-4J14・15・19・20 に位置する。平面は長方形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 2.52m、短軸 2.03m を測り、確認面からの深度は 0.30m で底面座標は 2.67m を測る。覆土は 2 層に分かれるが、いずれもにぶい黄橙色土がブロック状に混じる褐灰色粘質土である。構築時期は不明で、形態から地業もしくは芋穴と考察される。遺物は出土していない。

SX148 (図版 102・188、写真図版 194)

3J-5I3・8 に位置する。平面は不整形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.26m、短軸 1.12m を測り、確認面からの深度は 0.20m で底面座標は 2.76m を測る。覆土は単層で、炭化物を疎らに含み明褐色土が混じる褐灰色粘質シルトからなる。覆土や形態からは、根穴など攪乱の可能性も高い。遺物は出土していない。

SX15 (図版 104・188、写真図版 194・195)

3J-6F17・18・22・23 に位置し、重複する SB1551P5、SE460 より新しい。平面は不整形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 2.09m、短軸 1.88m を測り、確認面からの深度は 0.13m で底面座標は 3.25m を測る。覆土は、炭化物を少量含む黒褐色シルトの単層である。覆土および出土遺物から、中世以降の所産と推察される。

遺物は、青磁椀（461・462）が出土している。

SX447（図版 102・188、写真図版 195）

3J-6G13 に位置し、重複する Pit93 に切られる。V b 層中での検出であり、平面は長楕円形、断面形は半円状を呈し、主軸方向は N-44° -W を指す。規模は長軸 1.02m、短軸 0.12 ～ 0.14m を測り、確認面からの深度は 0.10m で底面座標は 3.08m を測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトと黄褐色粘質シルトの 2 層に分層され、ともに炭化粒を含んでいる。覆土から、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SX227（図版 102・103・188、写真図版 195）

3J-6H23・24、7H3・4・8・9 に位置し、重複する Pit1513、SD155 切られる。平面は長方形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 4.39m、短軸 2.57m を測り、確認面からの深度は 0.76m で底面座標は 2.53m を測る。覆土は 6 層に分層され、黒褐色シルトが主体となる。形態的には土坑と考察されるが、埋土の堆積状況が不自然であり SX とした。覆土から、中世の所産と推察される。遺物は、土師器壺（12）、須恵器有台杯（187・188）・長胴壺（189）・甕（190・191）、土師器小甕（192）・長甕（193～196）、台石（s47・48）、砥石（s49）、椀（w214）・箸状（w215）・刀子形（w216）・火鑽白（w217）・部材（w218～220）が出土している。

SX213（図版 103・189）

3J-6I11・16・17・22、7J1・2・6・7・11・12・16・17・22、8J2・7・12 に位置する、2 条一対を呈す地割れ痕である。調査区内において全長 29.52m、幅 0.10 ～ 0.57m を測り、走行方向は N-6 ～ 24° -W を指す。本遺跡 6 区（未報告）など周辺において検出された地割れ痕の成因が文政 11（1828）年の三条地震と推察されており、本跡も三条地震に起因するものと考察される。遺物は出土していない。

SX471（図版 103・189）

3J-6J16・21・22 に位置する。Pit472、SX213 と重複関係にあり、SX213 より古く Pit472 より新しい。平面は楕円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 1.86m、短軸 1.26m を測ると推定され、確認面からの深度は 0.35m で底面座標は 2.52m を測る。覆土は 5 層に分層され、炭化物を少量含む暗灰黄色粘質土が主体となる。しかし全体に地山土がブロック状に混入しており、倒木痕の可能性も考えられる。遺物は出土していない。

SX529（図版 104・189、写真図版 195）

3J-7E24、8E4・5 に位置し、重複する SB1554P4、Pit551・680・763 に切れ、SX1378 を切る。平面は隅丸方形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 1.85m、短軸 1.84m を測り、確認面からの深度は 0.29m で底面座標は 3.01m を測る。覆土は黄灰色土の単層で、黒色土と灰白色土のブロック土が混在し炭化物を少量含む。覆土全体が非常に硬く締まっており、地業痕と考察される。覆土から、古代の所産と推察される。遺物は土師器長甕が出土しているが、小片のため図示はしていない。

SX63（図版 104・189、写真図版 195）

3J-7F9・14 に位置する。平面は不整形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 0.88m、短軸 0.56m を測り、確認面からの深度は 0.09m で底面座標は 3.20m である。覆土は 2 層に分かれ、黒褐色シルトが主体である。形態から根穴等の可能性も高く、覆土から古代以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SX761（図版 104・189、写真図版 196）

3J-7F18・19 に位置する。平面は長楕円形、断面形は弧状を呈し、主軸方向は N-83° -W を指す。規模は全長 1.62m、幅 0.23m を測り、確認面からの深度は 0.10m で底面座標は 3.15m を測る。覆土は 4 層に分かれ、暗灰黄色土混じりの黄灰色土が主体である。形態は溝状遺構に類するが、覆土の堆積状況から SX に分類した。覆土から、古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SX160（図版 104・189）

3J-7G25、8G5 に位置し、重複する SB1558P8 より新しく南壁は攪乱によって壊されている。平面は不整形楕円形、断面形は弧状を呈し、主軸方向は N-13 ～ 29° -W を指す。規模は、全長は推定で 2.72m、幅 0.56 ～

0.84m を測り、確認面からの深度は 0.07m で底面座標は 3.26m を測る。覆土はにぶい黄橙色土ブロック混じりの黒褐色土の単層で、炭化物を含んでいる。覆土からは古代以降の所産と推察され、深度が浅く土壌の歪みである可能性もある。遺物は出土していない。

SX306 (図版 104・189、写真図版 196)

3J-7G5・10、7H1・6 に位置する。平面は不整形で、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 2.28m、短軸 2.03m を測り、確認面からの深度は 0.30m で底面座標は 2.99m を測る。堆積状況が不明なため言及しかねるが、形態からは地業もしくは倒木痕と推察される。構築時期は不明である。遺物は出土していない。

SX302 (図版 103・189、写真図版 196)

3J-7I5・10、7J1 に位置し、西壁は河 138 に切られる。平面は長楕円形、断面形はU字状を呈す。規模は全長 2.69m、幅 0.47～0.77m を測り、確認面からの深度は 0.29m で底面座標は 2.53m を測る。覆土は黄灰色粘質土の単層で、炭化物を極少量含んでいる。覆土からは、古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SX1378 (図版 190、写真図版 196)

3J-8E3・4・8・9 に位置し、重複する Pit617・767・1367 より古く、SX529 との新旧関係は不明である。平面は円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.83m、短軸 1.66m を測り、確認面からの深度は 1.53m で底面座標は 1.57m を測る。覆土は 25 層に分かれ、黄灰色土が主体となる。形態および堆積状況からは井戸と考察されるが、北西隅に埋設された枝打ちされた木材の内部の抉りが貫通しておらず SX とした。材の上部には薄板による囲いがあり、トイレ遺構の可能性も考慮し理化学的分析も実施したが、寄生虫等は検出されなかった。土層中央から出土した木杭は本来は覆屋の部材で、廃絶時に同時に破棄された可能性も高い。覆土から、古代の構築と考えられる。遺物は、曲物 (w221・222)・柱根 (w223～227)・用途不明品 (w228～231) が出土している。

SX1020 (図版 104・190、写真図版 196)

3J-8E12・13・17・18 に位置し、重複する Pit618 より古く SX1506 より新しい。平面は不整形、断面形は弧状を呈し、主軸方向は N-28° -W を指す。規模は長軸で 3.29m、短軸 2.33m を測り、確認面からの深度は 0.31m で底面座標は 2.96m を測る。覆土は 5 層に分層され、炭化物を少量含む黄灰色土が主体をなす。覆土の堆積状況から地業と考えられ、古代初頭の所産と推察される。遺物は、須恵器無台杯 (197)・有台杯 (198)、軽石製品 (s50) が出土している。

SX1506 (図版 104・190)

3J-8E12・13・17～19・22～24、9E3 に位置する。Pit602・605・611・618、SK619・620・666 と重複関係にあり、一番古い。平面は不整形、断面形は弧状を呈し、主軸方向は N-20° -W を指す。規模は長軸 4.51m、短軸 2.66m を測り、確認面からの深度は 0.23m で底面座標は 3.05m を測る。覆土は単層で、灰黄色土ブロック混じりの黄灰色土からなる。覆土と重複関係から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SX521 (図版 104・191、写真図版 197)

3J-8F8・12～14・17～19 に位置する。SB1556P4、SB1557P7、SE522、SK559 と重複関係にあり、一番新しい。平面は不整形、断面形は弧状を呈す。規模は、長軸は推定で 3.77m、短軸 2.59m を測り、確認面からの深度は 0.27m で底面座標は 3.04m を測る。覆土は 4 層に分層され、黒色土が主体となる。覆土および重複関係から、中世以降の所産である。遺物は、珠洲焼片口鉢類 (463)・甕 (464)、土師質土器皿 (465)、アスファルト塊 1 点が出土している。

SX1051 (図版 104・191、写真図版 197)

3J-8G21・22 に位置する。平面は長方形、断面形は台形状を呈し、主軸方向は N-54° -E を指す。規模は長軸 1.71m、短軸 1.08m を測り、確認面からの深度は 0.20m で底面座標は 3.11m を測る。覆土は 3 層に分かれ、いずれも炭化物を含む黄灰色土である。形態的には土坑とも考えられるが、底面が傾斜しているため SX とした。

覆土からは、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SX1380 (図版 105・191、写真図版 197)

3J-8I15・19・20 に位置し、東側の大半を暗渠によって壊されている。平面は楕円形と推定され、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 1.37m、短軸は推定で 0.34m を測り、確認面からの深度は 0.14m で底面座標は 2.75m を測る。覆土は白色砂がブロック状に少量混じる黒褐色土の単層で、炭化物を僅かに含んでいる。V b 層での検出であり、覆土からも古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SX957 (図版 106・182、写真図版 181)

3J-9D22・23、10D2・3 に位置し、南西隅を重複する SK758 に切られる。平面は長楕円形、断面形は台形状を呈し、主軸方向は N-59°-W を指す。規模は長軸 1.98m、短軸 1.07m を測り、確認面からの深度は 0.20m で底面座標は 3.08m である。覆土は 2 層に分層されるが、いずれも炭化物を含む黄灰色土である。覆土および重複関係から、古代の所産である。遺物は出土していない。

SX1197 (図版 104・191、写真図版 197)

3J-9E6・11 に位置し、重複する SD158 より古い。平面は長楕円形、断面形は半円状を呈し、主軸方向は N-77°-E と SD158 とほぼ同一方向を指す。規模は長軸 1.22m、短軸 0.45m を測り、確認面からの深度は 0.30m で底面座標は 2.97m を測る。覆土は 3 層に分層され、黒褐色土と黄灰色土からなる。覆土と重複関係から、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SX841 (図版 104・191、写真図版 198)

3J-9E3・4・8・9・13・14 に位置し、重複する SB1563P1、Pit819 より古く SK1515 より新しい。SD158 との新旧関係は不明であるが、本跡が新しいと推察される。平面は長方形、断面形は台形状を呈し、主軸方向は N-15°-W を指す。規模は長軸 4.22m、短軸 1.75m を測り、確認面からの深度は 0.34m で底面座標は 2.91m を測る。覆土は 13 層に分層でき、黒褐色土と黄灰色土が主体をなす。堆積状況から、本来は 2 基の土坑であった可能性も強い。また土層中央には焼土面があり、何らかの焼成遺構であった可能性も考察される。覆土および出土遺物から、古代の所産と推察される。遺物は、須恵器杯蓋 (199)・無台杯 (200)、土師器無台椀 (201)・小甕 (202～204)・長甕 (205～209)、円筒形土製品 (d12) が出土している。

SX871 (図版 104・192、写真図版 198)

3J-9E19・20 に位置し、重複する SB1563P10 より古く、Pit1455 より新しい。平面は不整形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 1.42m、短軸 1.39m を測り、確認面からの深度は 0.32m で底面座標は 2.93m を測る。覆土は 8 層に分層でき、灰黄色土ブロック混じりの黄灰色土が主体となる。ブロック状の堆積状況から地業と考察され、古代の所産と推察される。遺物は、須恵器杯蓋 (210) が出土している。

SX929 (図版 104・192、写真図版 198)

3J-9E23・24、10E3・4 に位置する。平面は長方形、断面形は台形状を呈し、主軸方向は N-46°-E を指す。規模は長軸 1.51m、短軸 0.81m を測り、確認面からの深度は 0.23m で底面座標は 3.04m を測る。覆土は全て灰黄色土混じりの黄灰色土であり、粒径や含有率によって 11 層に分層した。一部柱穴状の堆積状況が窺えることから、重複の可能性もある。また平面形からは土坑とも捉えられるが、底面に凹凸があるため SX に分類した。堆積状況からは一種の地業と考えられ、覆土から古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SX576 (図版 104・170、写真図版 154・155)

3J-9F1・2・6・7 に位置し、重複する SE577 より新しい。平面は方形、断面形は弧状を呈し、主軸方向は N-49°-W を指す。規模は長軸 1.07m、短軸 0.98m を測り、確認面からの深度は 0.23m で底面座標は 3.05m である。覆土は暗灰黄色土主体に 4 層に分層されるが、人為埋土と考えられる。覆土および重複関係から、中世以降の所産である。遺物は出土していない。

SX1533 (図版 104・170、写真図版 155)

3J-9F23 に位置し、重複する SE917 に東半を切られる。規模は長軸 0.88m、短軸 0.67m 程の平面楕円形を呈すると推察されるが、深度などについては不明である。遺物は出土していない。

SX1477 (図版 104・192、写真図版 198・199)

3J-9F25 に位置し、重複する SB1565P6 に東壁の一部を切られ西壁は暗渠によって壊されている。平面は不整形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 0.78m、短軸 0.71m を測り、確認面からの深度は 0.16m で底面座標は 2.80m を測る。覆土は、黒褐色土と黄褐色土の 2 層に分層される。覆土から、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SX797 (図版 105・192、写真図版 199)

3J-9G24・25、10G4・5 に位置し、重複する SA1544P3、SE798 より古い。平面は長方形、断面形は台形状を呈し、主軸方向は N-36° -E を指す。規模は長軸 2.86m、短軸 1.43m を測り、確認面からの深度は 0.22m で底面座標は 3.06m を測る。覆土は 2 層に分かれ、灰黄色土ブロックが多量に混じる黒色土が主体となる。地業もしくは土壌の歪みの可能性が考察され、覆土から中世以降の所産と推察される。遺物は土師器小甕・長甕が出土しているが、小片のため図示はしていない。

SX795 (図版 105・193、写真図版 199)

3J-9H16・17・21・22 に位置する。Pit1151・1161・1173・1174・1175・1346・1404、SK1177・1327・1405 と重複するが、新旧関係は不明である。平面は不整形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 3.08m、短軸 2.60m を測り、確認面からの深度は 0.27m で底面座標は 2.89m を測る。覆土は 6 層に分かれ、灰黄色土ブロック混じりの黄灰色土が主体となる。覆土の堆積状況から、地業の可能性が高いと思われる。覆土から、古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SX958 (図版 106・182、写真図版 181)

3J-10D3・8・9 に位置する。重複する Pit1108・1114、SK758・1115 より古く、Pit1160 より新しい。平面は不整形楕円形、断面形は台形状を呈し、主軸方向は N-70° -W を指す。推定規模は全長 3.11m、幅 0.55m を測り、確認面からの深度は 0.13m で底面座標は 3.12m を測る。覆土は単層で、若干の灰黄色土粒と黒褐色土粒が僅かに混じる黄灰色土からなる。覆土から、古代初頭の所産と推察される。遺物は出土していない。

SX1059 (図版 105・193、写真図版 199)

3J-10G14・15・19・20 に位置し、北壁中央の一部を Pit835 に切られる。平面は長方形、断面形は弧状を呈し、主軸方向は N-14° -E を指す。規模は、長軸 1.98m、短軸 1.28m を測り、確認面からの深度は 0.11m で底面座標は 3.18m を測る。覆土は単層で、灰黄色土ブロックと炭化物混じりの黄灰色土である。地業に関連する遺構と考えられ、覆土から、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SX892 (図版 105・193、写真図版 194・200)

3J-10G22、4J-1G1・2 に位置し、重複する Pit890・891 より古い。平面は長方形、断面形は弧状を呈し、主軸方向は N-45° -E を指す。規模は長軸 1.32m、短軸 1.01m を測り、確認面からの深度は 0.14m で底面座標は 3.12m を測る。覆土は 2 層に分かれ、黒色土と灰黄色土ブロックが少量混じる黄灰色土が主体となる。堆積状況から地業と考察され、古代以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SX628 (図版 105・193、写真図版 200)

3J-10H4・9 に位置する。平面は長楕円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 2.17m、短軸 0.98m を測り、確認面からの深度は 0.15m で底面座標は 3.17m を測る。覆土は 5 層に分層でき、灰白色土ブロックが多量に混じる黒色土が主体となる。堆積状況からは地業もしくは攪乱の可能性が考えられ、中世以降の所産と推察される。遺物は出土していない。

SX1219 (図版 105・194、写真図版 200)

3J-10H15・20、10I11・16 に位置し、重複する Pit1211・1212、SD155 より古い。平面は略円形、断面

形は台形状を呈す。規模は長軸 1.89m、短軸 1.68m を測り、確認面からの深度は 0.23m で底面座標は 2.98m を測る。覆土は 5 層に分層でき、灰黄色土粒と炭化物混じりの黄灰色土が主体をなす。堆積状況から地業と考察され、飛鳥時代の所産と推察される。遺物は円筒形土製品 (d13) が出土している。

SX1222 (図版 105・194、写真図版 188・200)

3J-10H21・22、4J-1H1・2 に位置する。重複する SK1248 より古く、Pit1258・1259・1512、SK1279 より新しい。平面は楕円形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 2.99m、短軸 2.18m を測り、確認面からの深度は 0.14m で底面座標は 3.06m を測る。覆土は 2 層に分かれ、炭化物を含む灰黄色土と黒褐色土の混合土が主体となる。上面に位置する SK1248 と土色が類似する事から、同一遺構の可能性もある。覆土から、古代の所産と推察される。遺物は出土していない。

SX648 (図版 105・194、写真図版 200・201)

3J-10H23・24、4J-1H3・4 に位置し、重複する Pit1208・1217 より新しい。平面は方形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸 2.36m、短軸 2.28m を測り、確認面からの深度は 0.28m で底面座標は 3.00m を測る。覆土は 2 層に分かれ、灰白色土ブロックが混じる黒色土が主体である。地業もしくは芋穴等の攪乱の可能性も考えられ、中世以降の所産である。遺物は土師器小甕・長甕が出土しているが、小片のため図示はしていない。

SX998 (図版 107・194、写真図版 201)

4J-1H21、2H1・2・6・7 に位置する。平面は長方形、断面形は台形状を呈し、主軸方向は N-18° -W を指す。規模は長軸 2.52m、短軸 1.41m を測り、確認面からの深度は 0.28m で底面座標は 2.92m を測る。覆土は 2 層に分かれ、上層が黄灰色土・下層は灰黄色土ブロックが多量に混じる黒褐色土である。堆積状況から地業と考えられ、古代の所産と推察される。遺物は土師器小甕が出土しているが、小片のため図示はしていない。

SX1088 (図版 106・194、写真図版 192・201)

4J-2E2・3 に位置し、南壁を攪乱によって壊されている。重複する SK1538 より新しく、主軸方向は N-37° -W を指す。平面は略円形、断面形は台形状を呈す。規模は長軸で 1.61m、短軸は推定で 1.35m を測り、確認面からの深度は 0.11m で底面座標は 3.21m を測る。本遺構は遺物も多く出土しており、南壁寄りでは 0.72m × 0.55m 範囲の焼土が検出されている。遺物の出土状況から焼成遺構とは考えられず、墓坑等の可能性も考慮する必要がある。出土遺物から、古代初頭の所産と考察される。遺物は、須恵器杯蓋 (211)・無台杯 (212)・高杯 (213)・甕 (214・215)、土師器長甕 (216～219)・甕 (220) が出土している。

SX473 (図版 106～109・195、写真図版 201)

4J-3D12～15・17～20・22～25、3E16・17・21～23、4D1～10・12～15・18・20、4E1～4・6～9・11～14・16～19 に位置する。重複する Pit1261・1336・1337・1342・1347 より新しく、SK482 より古い。平面は不整形、断面形は弧状を呈す。規模は長軸 18.43m、短軸 11.26m を測り、確認面からの深度は 0.35m で底面座標は 2.53m を測る。覆土は 3 層に分かれるが、全て基本土層Ⅲ層の所謂ガツボに由来する土である。本遺構は、南側の谷からオーバーフローしたガツボ層が窪みに堆積したものである。Ⅲ層の堆積年代は中世以降であり、土壌化の状況から近世に形成されたと推察される。遺物は、須恵器杯蓋 (221～223)・無台杯 (224・225)・有台杯 (226)・壺 (227)・甕 (228・229)、土師器杯蓋 (230)・無台碗 (231)・高杯 (232)・壺 (233)・小甕 (234～236)・長甕 (237・238)・甕 (239・240)、支脚 (d14)、磨石類 (s51)・砥石 (s52)、部材 (w232) が出土しているが、原位置を留めているものは少ないと考察される。

SX950 (図版 108・196、写真図版 202)

4J-4A13～15・18～20・23～25、4B11～25、4C16・21、5A4・5、5B1～5 の緩斜面に広がる遺物集中である。平面形は長楕円形を呈し、規模は長軸 16.20m、短軸 6.11m を測り、面積は 81.79㎡を測る。木製品および未製品が多い事が本遺物集中の特徴で、古代の所産と推察される。遺物は、土師器長甕 (241)、刳物 (w233)・曲物 (w234・235)・楔 (w236)・部材 (w237～240)・柱根 (w241)・用途不明品 (w242～255)・

伐採木 (w256) が出土している。

SX946 (図版 108・109・197、写真図版 202)

4J-4C12～15・17～20・23～25、4D16・17・21・22、5C3～5・9・10、5D1・2・6の斜面の傾斜変換点に位置する遺物集中である。規模は長軸 10.53m、短軸 7.00m を測り、面積は 47.44㎡を測る。破碎礫を多く含み、貯蔵具を比較的多く組成する特徴がある。出土遺物から、古代初頭の所産と考察される。遺物は、須恵器杯蓋 (242)・無台杯 (243・244)・有台杯 (245)・高杯 (246)・横瓶 (247・248)・平瓶 (249・250)・甕 (251～254)、土師器長甕 (255・256)・甕 (257)、磨石類 (s53～55)・台石 (s56)、砥石 (s57)、曲物 (w257～261)・刀形 (w262)・部材 (w263)・用途不明品 (w264～267) が出土している。

SX947 (図版 108・198、写真図版 202)

4J-4C21～23、5C1～3に位置する遺物集中である。規模は長軸 3.80m、短軸 2.77m を測り、面積は 8.87㎡を測る。土師器の煮炊具が多い事が特徴で、木製品も一定量含まれる。出土遺物から古代初頭の所産と考察されるが、斜面の低位に位置するため倒木に纏わり原位置を留めていない可能性も高い。遺物は、土師器小甕 (258・259)、曲物 (w268・269)・部材 (w270・271)・建築部材 (w272)・用途不明品 (w273～278) が出土している。

SX951 (図版 109・198、写真図版 203)

4J-4D23～25、4E21、5D3～5・8～10、5E1・2・6に位置する遺物集中である。規模は長軸 7.44m、短軸 3.74m を測り、面積は 22.52㎡を測る。木製品を主体とする組成であるが、谷内に位置するため原位置を留めていない可能性が高い。出土遺物から、飛鳥時代もしくは古代初頭の所産と考察される。遺物は、鉄鏃 (k12)、鏃形 (w279)・部材 (w280～282)・建築部材 (w283)・用途不明品 (w284～289) が出土している。

SX945 (図版 107・109・199、写真図版 202～204)

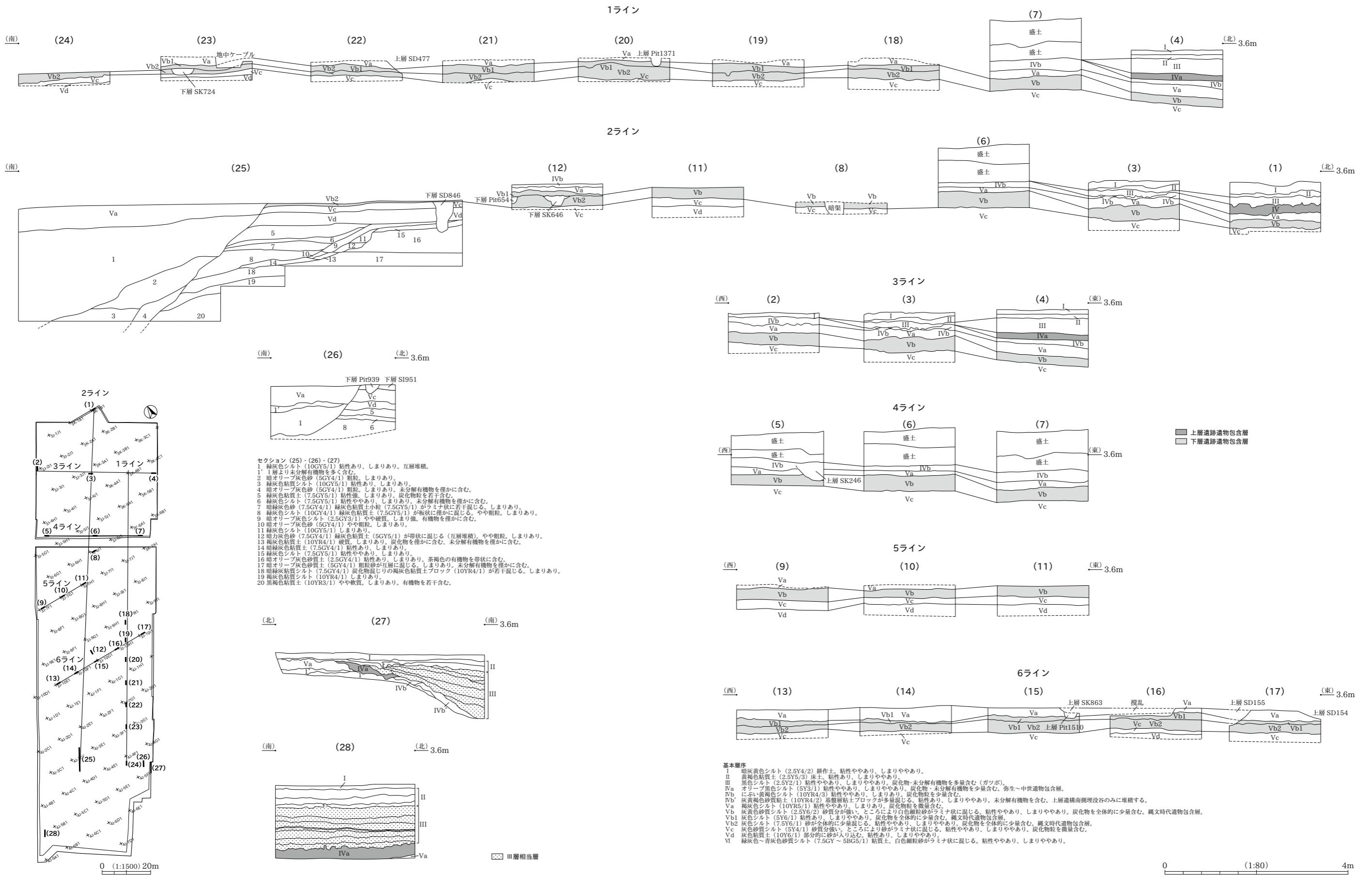
4J-4E18～20・23～25、4F16～19・21～24、5E3～5・8～10・13・14、5F1～3・6・7の斜面地に位置する遺物集中である。規模は長軸 12.20m、短軸 7.17m を測り、面積は 71.83㎡を測る。須恵器の食膳具が多く、木簡や斎串等の木製品や有孔土製品も含まれており祭祀的要素が強い事が特徴である。土器の接合状況から、西側から一括廃棄されたと考察される。出土遺物から、飛鳥時代の所産である。遺物は、須恵器杯蓋 (260・261)・無台杯 (262～272)・有台杯 (273～280)・高杯 (281～287)・仏鉢 (288)・短頸瓶 (289)・甕 (290・291)、土師器無台碗 (292)・高杯 (293・294)・小甕 (295・296)・長甕 (297～299)・甕 (300～306)、黒色土器高杯 (307～309)、土製有孔円盤 (d15～29)、砥石 (s58)、木簡 (w290)・櫛 (w291・292)・曲物 (w293～295)・円板 (w296)・斎串 (w297～299)・刀形 (w300)・部材 (w301～306)・用途不明品 (w307～316)、刀子 (k13) が出土している。

SX949 (図版 108・200、写真図版 202・203)

4J-5A14・15・19・20の谷内に位置する遺物集中である。規模は長軸 3.34m、短軸 3.07m を測り、面積は 8.37㎡を測る。古墳時代前期の壺 2 個体が纏まって出土しているが、土壌理化学分析によれば谷の埋没時期が AD540 年であるため原位置を留めていない可能性も高い。しかし、平坦面の調査においても古墳時代の土器片が微量ではあるが出土しており、本遺跡および周辺地域に当該時期の集落があった可能性が示唆される。遺物は、古墳時代前期の土師器壺 (13)・甕 (14) が出土したのみである。

SX948 (図版 108・200、写真図版 202・203)

4J-5B4・5・9・10・14・15、5C1・2・6・7・11・12の谷際に位置する遺物集中である。規模は長軸 5.03m、短軸 4.32m を測り、面積は 17.91㎡を測る。甕 1 個体が纏まって出土しており、古代初頭の所産と推察される。遺物は、土師器甕 (15)、黒色土器無台碗 (310)、木槌 (w317)・建築部材 (w318)・用途不明品 (w319) が出土している。



第12図 基本層序図

第V章 遺物

第1節 下層出土の遺物

A 縄文土器

1) 概要

本発掘調査で出土した土器は、縄文時代晩期中葉の大洞 C1 式～C2 式前半段階に属する土器群であり、中でも C2 式前半期の土器群が主体となっている。取り上げた土器片総重量は 101.5kg を計る。文様判別可能な資料は極力抽出し、接合・復元の結果 560 点を掲載した。うち、口縁部残存個体は 348 点を数える。

本遺跡出土土器群の特徴としては、装飾土器・無文土器・粗製土器が一定の割合で出土し、器種組成についても浅鉢・鉢・壺・注口土器・深鉢といった各種があり、さらに時期判別が可能な装飾土器に限られた時間幅に収束する状況からは、県内における当該期の様相解明に非常に有効な資料群といえる。

土器の出土状況は、SD192 と称した小規模の開析谷とその周囲に掘立柱建物群が位置する 3J-7 グリッドライン、調査区南側の住居跡群が分布する 3J-10D、4J-1D・1E・2E・2F・3E～G・4F に集中している（図版 6）。このように集中か所が 2 か所あり、それぞれ遺構の性格を全く異にしていることから、両地点出土の土器群の様相がいかなるものか、時期差の存在についても今回の土器分析の着眼点となる。まず、本節においては分析の基礎となる土器群の型式学的分類を行う。

2) 記述の方法と観察表

資料の掲載については、従来通り遺構一括資料重視の視点から遺構出土の土器を提示し、次いで包含層資料を提示した。そのため包含層出土であっても遺構との接合・同一個体関係が認められる場合は、遺構の範疇で提示している。また、遺構間で接合が認められた場合は主体的な出土状況の遺構に帰属させている。実測図の掲載順序については基本的に遺構個別図版（図版 19～94）の掲載順と対応している。包含層遺物については大グリッド単位でグリッドの若い方から掲載している。掲載資料の提示方法は実測図・写真で行い、個体の詳細な諸属性については観察表に記載した。

観察表の観察項目は、次のとおりである。報告 No. は、実測図番号で通し番号を付けた。本文中の番号、実測図番号、観察表報告 No.、写真図版の遺物番号は一致する。出土地点は、小グリッドまで記入した。遺構出土遺物は遺構名・層位の順に、遺構外出土の遺物は層位を記入した。器種・分類については以下に記す。法量は器形の外寸を計測し、口径・胴部最大径・底径・器高を cm 単位で記入した。欠損しているものについては、図上復元により法量が復元できる資料についてはその数値を（ ）内に記入した。残存率は口径全体に対する残存部の割合である。

胎土の分類は以下のとおりとした。

観察は 3 倍および 6 倍のルーペを使用して行った。『大沢谷内北遺跡 第 3 次調査』〔前山・伊比ほか 2010〕で示した分類法を基本的に踏襲し、磨耗鉱物（石英・長石）・磨耗岩石・破碎鉱物（石英・長石）・破碎凝灰岩・雲母の有無と含有量によって区分しているが、一部改変がある。なお、掲載資料中には 10% 強の割合で海綿骨針が含まれるが、下記の分類との間に有意な関連性を見出しがたいため、観察表に存在を示すにとどめた。

I 類 磨耗した石英・長石・岩石を何らかの形で含むグループ。磨耗した石英・長石を含む I a 類とそれらが欠落する I b 類に区分した。本類では破碎鉱物の含有量が一律でないため、相対的な多寡に基づきそれぞれ二分し、これら 2 項目の組み合わせによって 4 種に細分した。大沢谷内北遺跡で設定した I c 類については、本遺跡の実態に即していないため削除した。

- I a1 類 磨耗した石英・長石を含むが、破碎鉱物の含有量が少ないもの。
- I a2 類 磨耗した石英・長石を含み、多量の破碎鉱物も含有するもの。
- I b1 類 磨耗粒子が岩石に限定され、破碎鉱物の含有量も少量にとどまるもの。
- I b2 類 磨耗粒子が岩石に限定されるが、破碎鉱物を多量に含むもの。
- II 類 磨耗粒子が欠落するが、破碎した石英・長石を多量に含むもの。破碎岩石や雲母の含有量によって3種に細分できる。
 - II a 類 破碎鉱物以外の含有物が乏しいもの。
 - II b 類 破碎岩石も多量に含むもの。
 - II c 類 雲母を多量に含むもの。
- III 類 磨耗粒子が欠落し、破碎した凝灰岩を多量に含むもの。
 - III a 類 破碎凝灰岩以外の含有物が希薄なもの。
 - III b 類 破碎した石英・長石も多量に含むもの。
- IV 類 磨耗粒子を含まず、多量の破碎岩石に破碎した石英・長石が少量伴うもの。
- V 類 雲母を多量に含むが、これ以外の含有物が乏しいもの。
- VI 類 含有物が乏しいもの。

色調は外面の色調を『標準土色帖』〔2005年版〕に基づいて記載した。コゲ・ススなどの付着物を避け、一次焼成による胎土色の観察に努めた。

付着物については、器面内外両面について観察した。主に炭化物とアスファルトの付着状況である。本遺跡の特徴としてアスファルト付着の土器が多く出土しており、遺跡の性格を反映しているものと考えられる。

地文の施文方法については原体の横位回転施文が大半のため、その場合は施文方向の記載は省き、それ以外の場合は地文原体の後に（縦位）・（斜位）などの施文方向を記載した。

3) 分類 (第23～25図)

以下の記載では、まず器面装飾の度合いにより大別し、文様・施文方法・地文により細別した。そしてそれぞれの器種組成を示した。本遺跡出土土器の器種は深鉢形、鉢形、浅鉢形、壺形で構成される。壺形以外の器種分類については口径と器高の関係から、器高 / 口径が概ね0.8以上のものを深鉢形、0.6～0.8のものを鉢形、0.6以下のものを浅鉢形とした〔荒川ほか2004〕。また深鉢と鉢の判別が困難な破片資料については深鉢類として一括している。

文様名称については先学研究・報告書〔鈴木加1990・1991・2004、渡邊朋1992、渡邊朋・荒川1999、渡邊裕1998・2002・2004・2009、滝沢・高橋ほか2002、荒川2009〕、縄文原体については山内清男氏の研究〔山内1979〕に倣った。特に雲形文のネガ文様についての「主要素」・「副要素」の呼称は高橋龍三郎氏の設定〔高橋1981〕に従った。

I 群 装飾土器

1 類 彫去手法により雲形文が施されるもの。ネガ部分に入念な磨きが施される。装飾文様は、Z字文の主要素と、鉤爪形・三角形・鼓形等の副要素から成る (No.108・328・401)。主要素・副要素は文様帯界線から離れている。

器種は深鉢と浅鉢からなる。浅鉢は底径が小さく、口縁部が内湾する器形である。

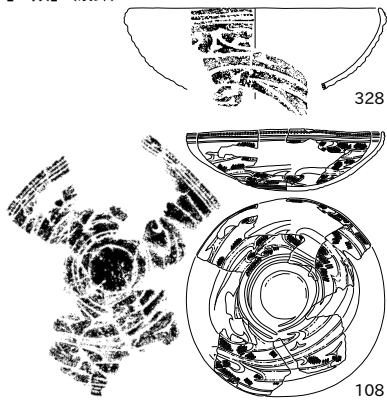
2 類 非常に浅い彫去手法または磨消手法によって、簡略化して間延びした雲形文が施されるもの。装飾文様の構成は1類と同じであるが、主要素・副要素が文様帯界線に接する。

器種は浅鉢が主である。器形は底径が広い平底で、若干内湾しながら直線的にひらく。陽刻による装飾口縁のもの (272) と、平口縁のもの (132・271)、口唇部に突起・沈線・刻目文が施されるもの (198) がある。

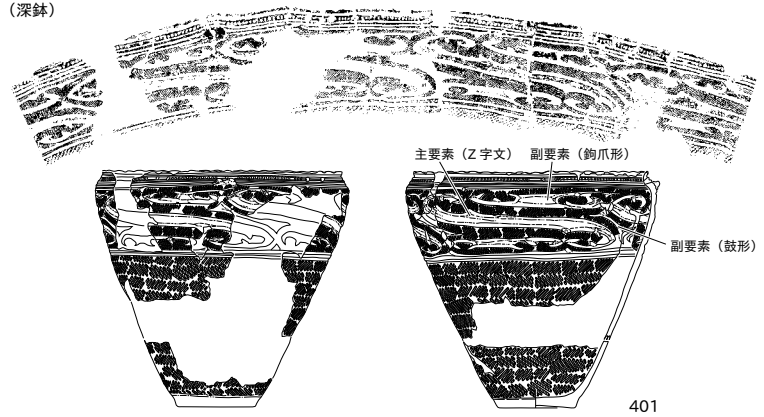
3 類 幅のある磨消縄文帯によりZ字文、もしくは鉤爪形の文様を主要素とした文様が施されるもの。副要素

I群 裝飾土器

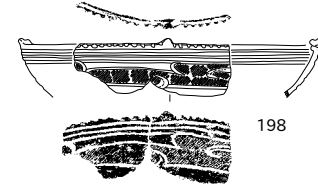
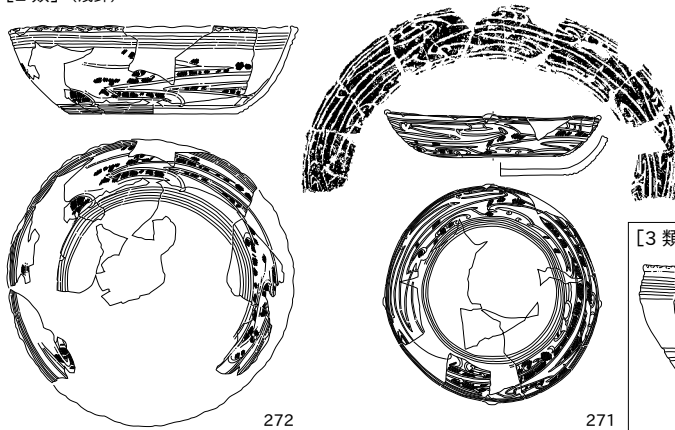
[1類] (浅鉢)



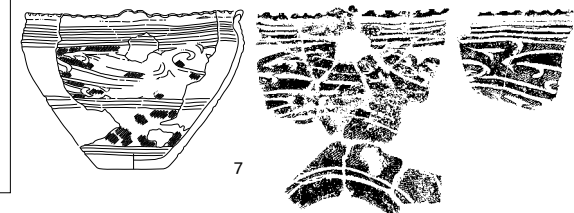
(深鉢)



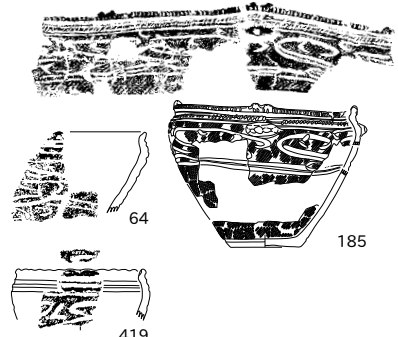
[2類] (浅鉢)



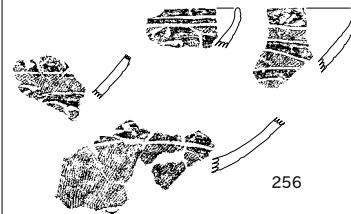
[3類] (鉢)



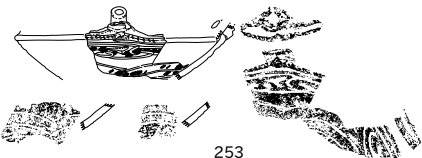
[4a類] (鉢)



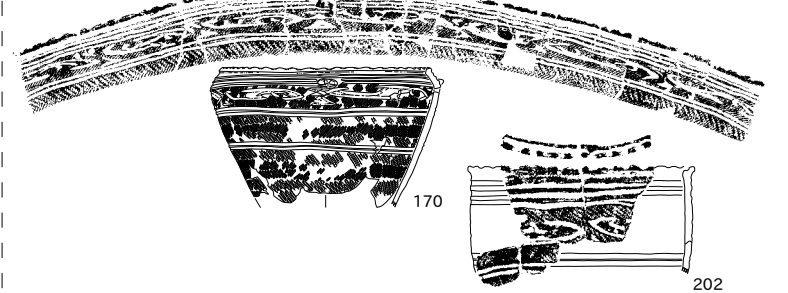
(浅鉢)



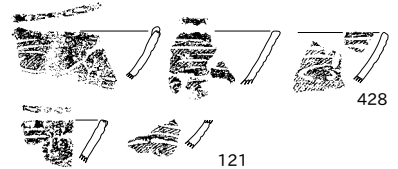
(注口)



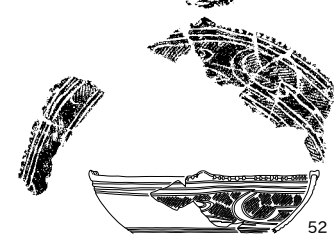
[4b類] (深鉢)



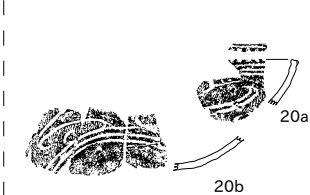
(浅鉢)



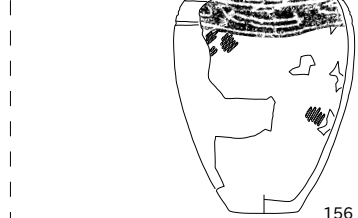
[5a類] (浅鉢)



[5b類] (浅鉢)

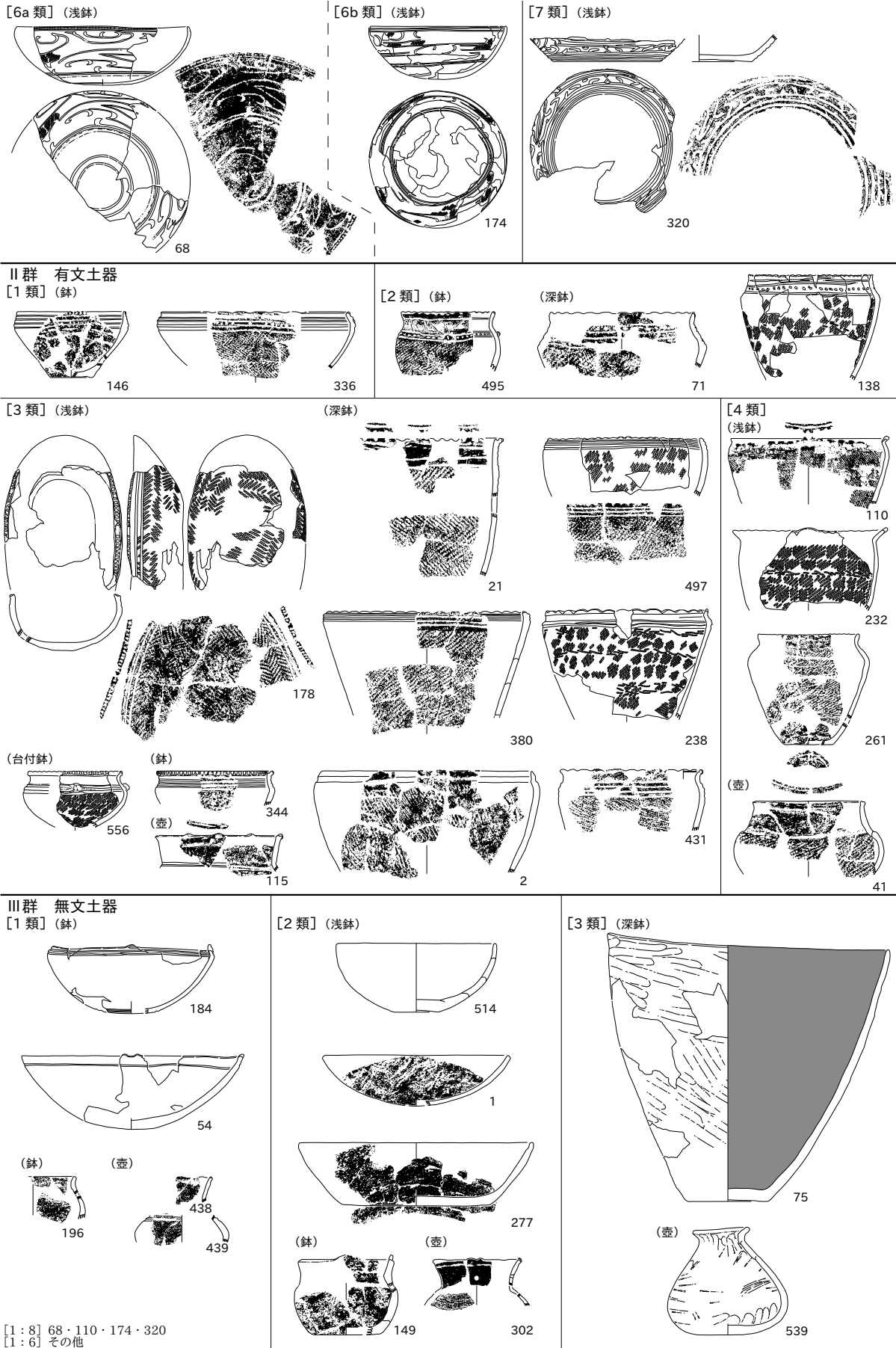


[5c類] (深鉢)

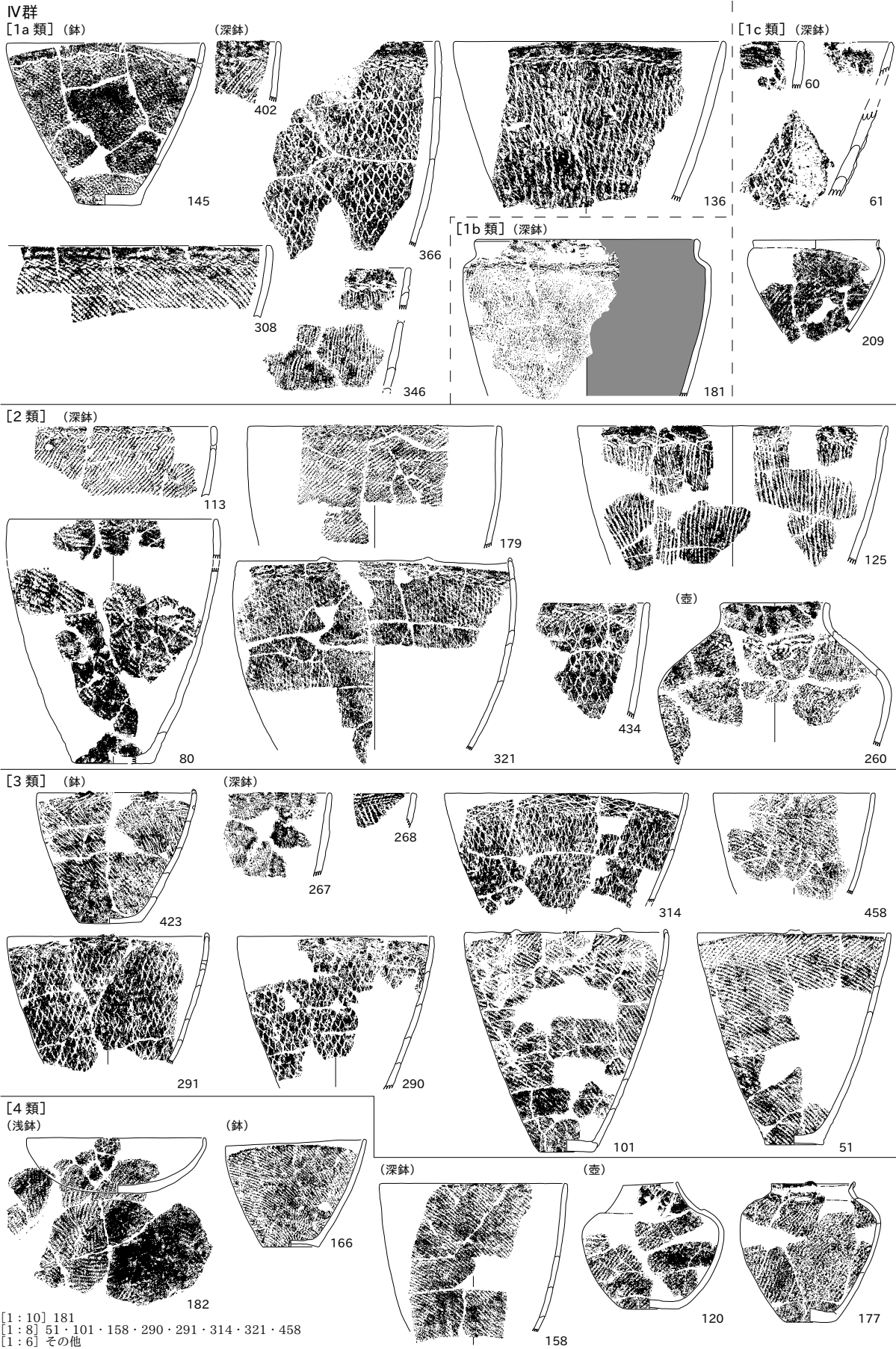


| 108・170・253・271・272・328・401 [1:8] その他 [1:6]

第23図 大沢谷内遺跡縄文土器分類図①



第24図 大沢谷内遺跡縄文土器分類図②



第25図 大沢谷内遺跡縄文土器分類図③

は1・2類のように大柄のものではなく、三叉文が施される。

浅鉢の装飾文様帯は胴部上半のみであり、丸みを帯びながらひろく椀形器形である。

4類 幅の狭い磨消縄文帯、または短沈線により直線・簡略化して崩れた装飾文様が施されるもの。

4a類 主要素がZ字文のもの。副要素には三叉文が施される。

浅鉢は丸みを帯びながらひろく椀形器形である。

4b類 主要素が鉤爪形の文様のもの。副要素には三叉文または三角形文が施される(170・202)。

5類 装飾文様に釣針状の文様が施されるもの。

5a類 釣針状の弧線文が幅狭の磨消縄文帯と連結しているもの(52)。

器種は浅鉢で、丸みを帯びながらひろく椀形である。口唇部に沈線文、口縁上端部に刻目文が施される。

5b類 文様帯界線と接する大柄な磨消弧線文のもの(20)。

器種は浅鉢で、器形・口縁部文様は5a類と同様である。

5c類 横位の磨消弧線文のもの(156)。

器種は深鉢で口縁部が内湾する器形である。口縁上端部に刻目文が施される。

6類 胴部下位に無文帯を有する浅鉢。

6a類 装飾文様がZ字文の主要素と大柄な副要素から成るもの(68)。

6b類 簡略化がすすんだZ字文のもの(26・27(同一固体)、174)。

器形は内湾しながらひろく椀形である。

7類 文様帯に地文が施されず、単沈線により直線的な主文様が施される浅鉢(320)。

底部から直線的にひろく器形である。

II群 有文土器 胴部に地文が施され、口縁部・頸部等に刺突文・沈線文が施される一群。

1類 平行沈線間に刻みが施される所謂「二溝間の截痕」が施されるもの(146・336ほか)。

器種は鉢のみである。

2類 平行沈線間に刺突文が施されるもの(71・138・495ほか)。刺突は器面に対して斜めに施される。口縁端部に刻目文、または小波状口縁となる傾向がある。

器種には深鉢・鉢がある。

3類 平行沈線文・単沈線文が施されるもの(2・21・115・178・238・344・431・497・556ほか)。口縁端部に刻目文、または小波状口縁となる傾向がある。

器種は豊富で、深鉢・鉢・台付鉢・浅鉢・壺がある。

4類 口縁端部に刻目文・刺突文・沈線文のみが施されるもの(41・110・232・261ほか)。

器種には深鉢・壺がある。

III群 無文土器 胴部に地文を有さない一群。

1類 口縁部、頸部に平行沈線文・単沈線文が施されるもの(54・184・196・438・439ほか)。器面は丁寧な磨きにより整形される。

器種には浅鉢・壺がある。浅鉢には底径が小さく丸みを帯びながら立ち上がり、口縁部が内湾する椀形のもの(184)、丸底でひろく椀形のもの(54)がある。

2類 まったくの無文であり、器面が丁寧な磨きにより整形されたもの(1・149・277・302・514ほか)。

器種には浅鉢・鉢・壺がある。浅鉢には底径が小さく丸みを帯びながら立ち上がる椀形のもの(515)、丸底でひろく浅い椀形のもの(1)、底径が大きく直線的に立ち上がる皿形のもの(277)がある。

3類 指ナデ、ケズリ整形のみで磨きが施されないもの(75・540)。

器種には深鉢・壺がある。深鉢は口縁部には横ナデ、胴部には縦位・斜位のナデが施される(75)。

IV群 地文土器 地文のみが施される一群。

器種には浅鉢・壺・鉢・深鉢がある。壺については口頸部は全て無文となるため、胴部の地文について下記の分類を適用する。また、頸胴部境に明瞭な段を有するもの（a種）と有さないもの（b種）があるため細別した。

1 類 口縁部にナデやケズリ整形による無文帯を有するもの。

1 a 類 無文帯下に1・2段の結節回転文が施され、胴部は地文となるもの（136・145・308・346・366・402 ほか）。

器種は深鉢のみである。地文には斜縄文・撚糸文・網目状撚糸文があり、斜縄文は横位と縦位の回転施文がある。絡条体は縦位施文のみである。

1 b 類 無文帯下に横位、胴部には縦位に同一原体が施文されるもの（181）。

器種は頸部が内湾し口縁部が直立する器形の深鉢1点のみである。地文は網目状撚糸文である。

1 c 類 無文帯下に結節回転文や異方向施文がなされず、地文のみが施されるもの（60・61・209 ほか）。

器種は深鉢類のみで、直線的に立ち上がるものと、頸部が内湾して口縁部が直立するものがある。地文は斜縄文と網目状撚糸文である。

2 類 無文帯を有さず、口縁部直下（壺の場合は頸部境）に1・2段の結節回転文が施され、それ以下が地文となるもの（80・113・125・179・260・321・434 ほか）。地文は1類と同じで斜縄文・撚糸文・網目状撚糸文があり、施文方向も1類と同様で斜縄文は横位と縦位の回転施文、絡条体は縦位施文となっている。

器種は深鉢と壺b種がある。

3 類 口縁部は横位、胴部は縦位に同一原体による地文が施されるもの（51・101・267・268・290・291・314・423・458 ほか）。施文法により口縁部文様帯を区分している。地文には斜縄文・撚糸文・網目状撚糸文が施される。

器種は深鉢のみである。

4 類 口縁部に幅広の無文帯や結節回転文を伴わず、且つ施文による文様帯区分もないもの（120・158・166・177・182 ほか）。原体には斜縄文・網目状撚糸文が施される。斜縄文の大半は横位施文であり、網目状撚糸文は縦位施文である。

器種には浅鉢・壺（a・b種）・鉢・深鉢がある。

4) 出土土器各説

①遺構出土土器（図版201～220、写真図版208～221）

SI164（図版201、写真図版208）

無文浅鉢（1）・有文深鉢（2）・地文深鉢（3・4）・深鉢類胴部片（5）・底部片（6）を図示した。1は底面が丸く器高の低い、無文のⅢ群2類浅鉢である。2は口縁部に幅広の沈線文が一条施されたⅡ群3類の深鉢である。胴部地文には縦位施文の撚糸文Rが施される。3は口縁部に結節回転文が施され、胴部に斜縄文LRが縦位施されたⅣ群2類の深鉢口縁部である。4は斜縄文LRが施されたⅣ群4類の深鉢口縁部である。5は斜縄文LRが施された胴部片である。6の底部片には斜縄文LRが縦位施文されている。

SI556（図版201、写真図版208）

装飾鉢（7）・深鉢胴部片（8）を図示した。7は胴部上半に非常に浅い彫去手法により簡略化したZ字文が描かれている。器面摩滅のため文様構成の詳細は不明であるが、大柄な副要素は施されず、三叉文が施されている。Ⅰ群3類。8の胴部片には斜縄文LRが施されている。

SI152（図版201、写真図版208）

有文深鉢（9）・地文深鉢（10～12）・深鉢胴部片（13）・底部片（14・15）を図示した。9は無文の口縁部が外反する器形で、胴部には斜縄文RLが施されるⅡ群4類。10は器面が風化しているが、口縁部に結節回転文帯、胴部に単軸絡条体第6類（以下第6類と省略）の網目状撚糸文Rが縦位施文されたⅣ群2類。11・12は単軸絡条体第5類（以下第5類と省略）の網目状撚糸文Rが口縁部には横位、胴部に縦位施文されたⅣ群3類である。13

は0段多条の斜縄文LRと斜縄文RLが縦位に施され羽状構成となっている。14・15は平底の底部で深鉢類と考えられ、15の底部には沈線がめぐる。

SI700 (図版201、写真図版208)

有文浅鉢(16)・地文深鉢(17)を図示した。16は口縁端部に刻目文、口縁部に沈線文が施される船底形浅鉢である。長軸方向の一辺が直線的に成形されており、片口状になると思われる。胴部の地文は器面風化のため不明である。Ⅱ群3類。178・248と同一個体の可能性が高い。17は網目状撚糸文R(第5類)によるⅣ群3類深鉢である。

SI579・580・650 (図版201・202、写真図版208・209)

地文深鉢(18)がSI580・650から出土し、SI650からは他に深鉢胴部片・底部片(19)が出土しており、SI580からは装飾浅鉢(20)・有文深鉢(21)・胴部片(22~24)・底部片(25)が出土している。18は斜縄文LRが施されたⅣ群4類である。SI580・650とSK515から出土している。19は斜縄文LRが縦位施文された胴部・底部片である。胴部と底部の境には段がある。20は口縁端部に刻目文、口縁部に平行沈線文が施され、胴部に鈎針状の弧線文が施されたⅠ群5b類である。弧線文の端部が胴部下位の文様帯界線と接している。21は口縁上端部に刻目文、口縁部に平行沈線文が施されたⅡ群3類の深鉢である。胴部には羽状縄文が施される。口縁部平行沈線は間隔が広く、また均一でない。22は網目状撚糸文R(第6類)が施された胴部片で、23は斜縄文LRが破片の上部には横位に、下部には縦位に施文されている。24は斜縄文RLが縦位施文されている。25は底部片であるが器面摩滅で詳細不明である。

SI579から装飾浅鉢(26・27)・有文深鉢(28)・地文深鉢(29・30)・底部片(31~33)が出土している。26・27はSI579の床面下とSI580床面から出土しており、SI580に帰属する。26・27は胎土・出土位置から同一個体と考えられる。器形は丸みを帯びてひらく椀形である。26は胴部上半の装飾文様帯であるが、文様構成は不明である。幅の非常に狭い磨消縄文により描出されている。Z字文系統であろうか。27は胴部下半であり、平行沈線による文様帯界線以下が無文帯となっている。Ⅰ群6b類に分類した。28は口縁端部に刻目文、口縁部に平行沈線文が施されるⅡ群3類で、胴部に斜縄文LRが施される。29・30は斜縄文RLが施された深鉢口縁部である。Ⅳ群4類。33の胴部には斜縄文RLが施されている。

SI670 (図版202、写真図版209)

有文壺(34)・装飾壺(35)・底部片(36)を図示した。34は口縁上端と内面に沈線文がめぐるⅡ群3類の壺である。内外面にアスファルトの付着が見られ、アスファルト貯蔵用としての用途が推測される。35は壺の胴部上位片であり、磨消による鈎爪状または鈎針状の装飾文様が見られる。Ⅰ群4類か5類に分類される。36の胴部には斜縄文RLが施されている。

SI831 (図版202、写真図版209)

無文浅鉢(37)・胴部片(38)・装飾浅鉢の底部片(39)を図示した。37は椀形器形の小型の無文浅鉢である。Ⅲ群2類。38は網目状撚糸文R(第6類)が縦位施文されている。39は底径が大きい浅鉢底部である。平行沈線文が見られることから装飾土器である。

SI837 (図版202・203、写真図版209)

土製品(40)・有文壺(41)・無文浅鉢(42・43)・地文深鉢(44~51)を図示した。土製品(40)は先端が二股状に成形され、湾曲した内側に円形の貼付文が施されているため、土偶ではなく動物形土製品の四肢と判断した。また形状からは四肢を地面につけた意匠ではないと考えられる。円形貼付文を足底球と推定した場合、イヌ・クマ科等が想定され、二股状の先端部を主蹄とし円形貼付文を副蹄と推定した場合、偶蹄目のシカ・イノシシ等が想定され、海獣を模したものではないと考える。管見によると肉球を模した例はなく、またイノシシの意匠は四肢を地面につけた状態のものが大半であり、シカを直接動物形土製品に現したものは例がない〔東北学院大学民俗学OB会1988pp.121~258〕。胴部が遺存しないため詳細は不明。41は頸体境に段を有する壺a種であ

る。口唇部に沈線文、胴部には斜縄文 LR が施されるⅡ群4類である。42は逆台形状の器形の無文浅鉢の口唇部に刻目文が施されたⅢ群1類である。43は底径の小さい浅鉢の底部である。44・45は口縁部が無文となり、以下に斜縄文 RL が施されるⅣ群1c類。46は斜縄文 LR が施されたⅣ群4類。47は結節斜縄文 LR が口縁部に横位、胴部には縦位施文されている。同一原体で施文方向が異なるためⅣ群3類に分類した。48は口縁部に無文帯を有し、結節斜縄文 LR が施されたⅣ群1a類。49は口縁部に2段の結節回転文、胴部に斜縄文 LR が施されたⅣ群2類。50は口縁部に結節回転文帯、胴部に第6類の網目状撚糸文 L が縦位施文されたⅣ群2類である。51は斜縄文 LR が口縁部に横位、胴部には縦位施文されたⅣ群3類である。

SI501 (図版203、写真図版209)

装飾浅鉢(52)・有文浅鉢(54)・底部片(53)を図示した。52は文様帯界線に接する釣針状の弧線文と、幅狭の磨消縄文帯が連結した主文様が施されている。Z字状の主要素から釣針文が発生する段階のものとする。Ⅰ群5a類。53は深鉢類の底部である。54は底部が丸底でひらく器形の無文浅鉢である。口縁端部に突起、口縁部に一条の沈線が施されたⅢ群1類である。

SI790 (図版203、写真図版209)

深鉢類胴部片(55)を図示した。撚糸文 R が縦位施文されている。

SI710 (図版203、写真図版209・210)

無文浅鉢(56)・有文深鉢(57)・地文深鉢(58～62)・底部片(63)を図示した。56は無文の浅鉢口縁部片である。Ⅲ群2類。57は小波状口縁と平行沈線文が施された有文土器である。装飾土器の可能性もある。58・59は口縁部に結節回転文帯、胴部に第6類の網目状撚糸文 R が縦位施文されたⅣ群2類である。60・61は口縁部に無文帯を有し、以下が網目状撚糸文 R (第6類)の縦位施文となるⅣ群1c類。アスファルトが付着している。62は斜縄文 LR が口縁部に横位、胴部に縦位施文されたⅣ群3類である。63の胴部下位には斜縄文 LR が縦位施文されている。

SI810 (図版203、写真図版210)

装飾鉢(64)・無文浅鉢(65)・胴部片(66・67)を図示した。64は風化が著しく装飾文様が判然としないが、太めの単沈線により崩れたZ字文が描出されているようである。Ⅰ群4a類とした。65は無文浅鉢のⅢ群2類。66は斜縄文 RL が横位・斜位に施文される胴部片である。67は斜縄文 RL が施される胴部片である。

SI951 (図版204、写真図版210)

装飾浅鉢(68)・無文浅鉢(69)・壺(70)・有文鉢(71)・地文深鉢(72～75)・胴部片(76・77)・底部片(78)を図示した。68は胴部下位に無文帯を有し、装飾文様帯がややせり上がったⅠ群6a類の浅鉢である。器面風化が著しいが、口縁部の平行沈線文には溝底の刺突が施され、胴部上位にはZ字文の主要素と、文様帯界線に接する鉤爪状の副要素からなる装飾文様が施されており、文様構成はⅠ群2類と同様である。装飾文様帯と無文帯の界線が明確な平行沈線ではなく、下位の沈線が幅広く浅いものとなっている。器厚が非常に薄いのが特徴的である。69は直線的にひらく器形のⅢ群2類無文浅鉢。70は壺の頸部片である。71は口縁部の間隔の広い平行沈線間に刺突列が施されたⅡ群2類の鉢である。72・73は口縁部に結節回転文が2段、胴部に斜縄文 LR が施されたⅣ群2類であり、74は原体の上部に結節を有する結節斜縄文 LR が施されたⅣ群2類である。75は無文の深鉢である。口縁部には横位、胴部には斜位・縦位方向の指ナデ痕がのこるⅢ群3類である。内面全体と外面の口縁部にアスファルトが多量に付着しており、アスファルトに関する用途が窺える。外面には煤の付着も確認され、煮沸に用いられている。76は結節斜縄文 LR が施された胴部片。77は羽状縄文が縦位施文された胴部片である。

SB6 (図版204、写真図版210)

SB6のPit479出土の深鉢胴部片(79)を図示した。網目状撚糸文 R (第5類)が縦位施文されている。

SK42 (図版205、写真図版210)

地文深鉢(80)を図示した。口縁部に1段の結節回転文、それ以下に斜縄文LRが縦位施文されたIV群2類である。

SK54(図版205、写真図版210)

地文深鉢(81)を図示した。網目状撚糸文R(第6類)が口縁部には横位、胴部には縦位施文されている。IV群3類。SK307(図版205、写真図版210)

深鉢胴部片(82)を図示した。網目状撚糸文R(第5類)が縦位施文されている。

SK308(図版205、写真図版210・211)

地文深鉢(83)・胴部片(84)を図示した。83は口縁上端が欠損している。口縁部に2段の結節回転文、胴部に斜縄文RLが施されたIV群2類である。84は斜縄文LRが施された深鉢胴部片である。

SK55(図版205、写真図版211)

地文深鉢(85)を図示した。斜縄文LRが施されたIV群4類である。

SK64(図版205、写真図版211)

深鉢胴部片(86)を図示した。斜縄文LRが斜位施文されている。

SK57(図版205、写真図版211)

底部片(87)を図示した。器面が風化しているが、胴部には羽状縄文が施されている。

SK58(図版205、写真図版211)

壺(88)・有文深鉢(89)・地文深鉢(90)・胴部片(91・92)を図示した。89は口縁端部に刻目文、口縁部に平行沈線文、胴部に斜縄文LRが施されたII群3類。90は斜縄文RLが施されたIV群4類の深鉢口縁部片。91は斜縄文LR、92は網目状撚糸文R(第6類)が縦位施文された深鉢胴部片である。

SK60・61・63・222・239(図版205、写真図版211)

地文深鉢(93)・装飾壺(94)・壺(95)・胴部片(96)を図示した。93がSK60・61・63・222・239から出土している。網目状撚糸文R(第6類)が口縁部に横位、胴部に縦位施文されたIV群3類である。94はSK63出土で、装飾壺の肩部である。小片のため構成は不明であるが、頸部の文様帯界線に接する釣針状のモチーフと考える。I群5b類の浅鉢20bを上下逆にした構図と類似する。95はSK239出土の壺の頸部片である。96はSK63出土である。網目状撚糸文R(第6類)が縦位施文された深鉢胴部片である。

SK235(図版205、写真図版211)

地文深鉢(97)を図示した。網目状撚糸文R(第5類)が口縁部に横位、胴部に縦位施文されたIV群3類である。

SK94(図版206、写真図版211)

胴部片(98)を図示した。斜縄文LRが施されている。

SK95(図版206、写真図版211)

胴部片(99)を図示した。器面が風化しているが網目状撚糸文が縦位施文されているようである。

SK178(図版206、写真図版211)

地文深鉢(100・101)を図示した。100は口縁部に無文帯と結節回転文帯が施され、胴部に網目状撚糸文R(第6類)が縦位施文されたIV群1a類。101は口縁端部に間隔をあけて突起が2か所付されており正面が意識されている。斜縄文LRが口縁部に横位、胴部に縦位施文されたIV群3類である。

SK183(図版206、写真図版212)

地文深鉢(102)を図示した。器面風化が著しく地文が不明である。口縁部には結節回転文が施されているようである。

SK125(図版206、写真図版212)

装飾浅鉢(103)を図示した。器面の風化が著しく文様構成が不明瞭である。底径が小さく口縁部が内湾する碗形器形であり、内湾する口縁部に平行沈線文帯が施される。胴部には彫去手法による主要素のZ字文と、鈎爪

形の副要素が重畳しているようである。I群1類。

SK134 (図版 206、写真図版 212)

胴部片(104)を図示した。網目状撚糸文R(第6類)が縦位施文されている。

SK135 (図版 206、写真図版 212)

胴部片(105)を図示した。網目状撚糸文R(第5類)が縦位施文されている。

SK489 (図版 206、写真図版 212)

胴部片(106)を図示した。斜縄文LRが施されている。

SK231 (図版 206、写真図版 212)

胴部片(107)を図示した。羽状縄文(RL・LR)が施されている。

SK208・216 (図版 206、写真図版 212)

装飾浅鉢(108)を図示した。底径が小さく、口縁部が内湾する椀形の器形である。口縁部には平行沈線文と、その沈線上に刺突列が施されている。胴部の装飾文様は彫去手法により2単位のZ字文を主要素とし、上に鉤爪形の副要素、下に三角形の副要素が配されている。I群1類。

SK257 (図版 207、写真図版 212)

胴部片(109)を図示した。網目状撚糸文R(第6類)が縦位施文されている。

SK226 (図版 207、写真図版 212)

有文深鉢(110)を図示した。110は波状口縁にB突起が付されたII群4類である。胴部には斜縄文RLが施される。SK226から主体的に出土し、SK141・279、SD192のI層、SD338の2層からも出土している。

SK248 (図版 207、写真図版 212)

地文壺の胴部(111)を図示した。肩が張る器形で斜縄文LRが肩部では横位に、胴部では斜位に施文されている。IV群3類。

SK277 (図版 207、写真図版 212)

地文深鉢(112)を図示した。口縁部だけの破片であり、斜縄文RLが横位施文されていることからIV群3類か4類に分類される。

SK278 (図版 207、写真図版 212)

地文深鉢(113)・壺(114)を図示した。113は口縁部に結節回転文帯、胴部に斜縄文LRが施されたIV群2類。114は壺の頸部片である。

SK346・394・400 (図版 207、写真図版 212)

有文壺(115)・地文深鉢(116)を図示した。115は頸部に平行沈線がめぐるII群3類であり、口縁端部に突起、突起間に沈線文が施されている。SK394出土である。116は口縁端部に突起が付され、口縁部に結節回転文帯、胴部に網目状撚糸文R(第6類)が縦位施文されたIV群2類である。

SK414 (図版 207、写真図版 212)

胴部片(117)を図示した。網目状撚糸文R(第6類)が縦位施文されている。

SK392 (図版 207、写真図版 212)

深鉢口縁部片(118)を図示した。器面が風化し不明瞭であるが、口縁部に無文帯を有し、その下に8字状の結節回転文、胴部には斜縄文RLが施されたIV群1a類である。

SK200 (図版 207、写真図版 212)

深鉢胴部片(119)を図示した。斜縄文LRが縦位施文されている。

SK89 (図版 207、写真図版 212)

地文壺(120)を図示した。頸胴部境に段を有する壺a種で、肩が張る器形である。胴部の地文には斜縄文LRが施されるIV群4類である。

SK245 (図版 207、写真図版 212・213)

装飾浅鉢(121)・地文深鉢(122・123)を図示した。121は内湾しながらひらく椀形器形で、口縁端部に突起、刻目文が施される。破片資料のため全体の文様構成は不明であるが、幅の非常に狭い磨消縄文帯により平行線化したZ字文が施されている。I群4a類。122は網目状撚糸文R(第5類)が口縁部に横位、胴部に縦位施文されたIV群3類である。123は羽状縄文(R・LR)が施されたIV群4類である。

SK405 (図版 207、写真図版 213)

底部片(124)を図示した。胎土が緻密で丁寧な整形がなされており、無文浅鉢の底部片の可能性はある。

SK201 (図版 208、写真図版 213)

地文深鉢(125)を図示した。口縁部に横8字状の結節回転文が施され、胴部には撚糸文Rが縦位施文されたIV群2類である。

SK197 (図版 208、写真図版 213)

地文深鉢(126)を図示した。結節斜縄文LRが縦位に施されたIV群4類である。

SK339 (図版 208、写真図版 213)

有文深鉢(127)を図示した。小波状口縁に平行沈線文が施されたII群3類である。

SK330 (図版 208、写真図版 213)

地文深鉢(128)を図示した。斜縄文LRが施されたIV群4類である。

SK328 (図版 208、写真図版 213)

胴部片(129)を図示した。斜縄文RLが縦位施文されている。

SK327 (図版 208、写真図版 213)

装飾壺(130)を図示した。胴部上半の破片である。文様構成は不明であるが磨消縄文により雲形文系統の文様が施されていると考える。

SK403 (図版 208、写真図版 213)

胴部片(131)を図示した。斜縄文LRが施されている。

SK560 (図版 208、写真図版 213)

装飾浅鉢(132)・地文深鉢(133)を図示した。132は直線状にひらく器形であり、底部が大きく器高が浅い皿形の浅鉢と考える。口縁端部に沈線文、口縁部に平行沈線文が施され、胴部には雲形文の鉤爪形と、三角形の副要素が施されている。地文原体・胎土・調整からSK722出土の189と同一個体と考える。器形からI群II類と考える。133は斜縄文RLが施されたIV群4類である。

SK466 (図版 208、写真図版 213)

胴部片(134)を図示した。網目状撚糸文R(第6類)が縦位施文されている。

SK365 (図版 208、写真図版 213)

地文深鉢(135)を図示した。口縁部に結節回転文、胴部には斜縄文LRが施されたIV群2類である。

SK566 (図版 208、写真図版 213)

地文深鉢(136・137)を図示した。136は口縁部に無文帯と結節回転文が施され、胴部に網目状撚糸文R(第5類)が縦位施文されたIV群1a類である。137は網目状撚糸文R(第6類)によるIV群3類である。

SK249 (図版 208、写真図版 213)

有文深鉢(138)・ミニチュア土器(139)・地文深鉢(140～142)・胴～底部片(143)を図示した。138は口縁端部に刻目文、外反する口縁部には間隔が広くやや乱れた平行沈線文間に刺突列が施され、胴部には斜縄文LRが施されている。II群2類である。139は単沈線により鉤爪形の文様が施されたI群4b類である。140は第6類、141は第5類の網目状撚糸文Rが口縁部に横位、胴部に縦位施文されたIV群3類である。142は口縁部に無文帯を有し、胴部に斜縄文LRが施されたIV群1c類である。143は胴部に斜縄文LRが施されている。

SK252 (図版 209、写真図版 213)

有文深鉢 (144)・地文深鉢 (145) を図示した。144 の口縁部には平行沈線文間に刺突列が施されている。II 群 2 類。145 は口縁部に無文帯と結節回転文、胴部に斜縄文 LR が縦位施文された IV 群 1a 類である。

SK441 (図版 209、写真図版 214)

有文鉢 (146) を図示した。口縁端部に刻目文、口縁部に二溝間の截痕が施されている。胴部の地文は器面風化により不明である。II 群 1 類。

SK312・316 (図版 209、写真図版 214)

胴部片 (147)・底部片 (148) を図示した。147 は斜縄文 RL が施されている。SK312・316 からの出土である。148 は網目状撚糸文 R (第 6 類) が縦位施文されている。SK316 出土である。

SK363 (図版 209、写真図版 214)

無文鉢 (149) を図示した。頸部が括れる器形で、口縁端部には突起を有する。III 群 2 類である。

SK311 (図版 209、写真図版 214)

胴部片 (150) を図示した。網目状撚糸文 R (第 6 類) が縦位施文されている。内面にはアスファルトが付着している。

SK140 (図版 209、写真図版 214)

胴部片 (151) を図示した。撚糸文 R が縦位施文された胴部下位の破片である。

SK261 (図版 209、写真図版 214)

注口土器 (152) を図示した。肩部の破片である。陽刻による装飾が施され、胴部には直線状の磨消縄文帯が施されている。I 群 3 類に分類した。

SK160 (図版 209、写真図版 214)

胴部片 (153・154) を図示した。153 は湾曲する器形から地文壺の肩部付近の破片と考える。斜縄文が施されている。154 は網目状撚糸文 R (第 5 類) が縦位施文された深鉢類の胴部片である。

SK158 (図版 209、写真図版 214)

胴部片 (155) を図示した。網目状撚糸文 R (第 6 類) が縦位施文されている。内外面にアスファルトの付着が認められる。

SK746 (図版 209、写真図版 214)

装飾深鉢 (156) を図示した。口縁部が内湾する器形である。口縁端部に刻目文、平行沈線文、装飾文様帯には横位 C 字状となっている釣針文が施され、胴部には斜縄文 LR が施されている。I 群 5c 類。SK746 から主体的に出土し、SK322 からも出土している。

SK502 (図版 209、写真図版 214)

有文深鉢 (157) を図示した。口縁部が外反して肩が張る器形である。口縁端部に突起と刻目文、頸部に平行沈線文帯が施された II 群 3 類である。胴部には斜縄文 LR が施されている。

SK747 (図版 209、写真図版 214)

地文深鉢 (158) を図示した。斜縄文 LR が縦位施文されている IV 群 4 類である。

SK674 (図版 209、写真図版 214)

地文深鉢 (159) を図示した。口縁部に結節回転文、胴部に斜縄文 RL が施された IV 群 2 類である。

SK281 (図版 209、写真図版 214)

有文深鉢 (160) を図示した。内湾する口縁部に平行沈線文が施され、胴部に斜縄文 LR が施されている。II 群 3 類である。

SK355 (図版 209、写真図版 214)

底部片 (161) を図示した。

SK321 (図版 209、写真図版 214)

胴部片 (162) を図示した。斜縄文 LR が縦位施文されている。

SK341 (図版 209、写真図版 214)

底部片 (163) を図示した。

SK297 (図版 209、写真図版 214)

胴部片 (164) を図示した。0段多条の原体による斜縄文 LR が施されている。

SK292 (図版 209、写真図版 214)

底部片 (165) を図示した。

SK313 (図版 209、写真図版 214)

地文鉢 (166) を図示した。斜縄文 RL が施されたIV群4類である。

SK731 (図版 209、写真図版 214)

壺 (167) を図示した。口縁部の小片である。

SK593 (図版 209、写真図版 214)

地文深鉢 (168) を図示した。結節斜縄文 LR が施されたIV群2類の口縁部片である。

SK495 (図版 209、写真図版 214)

地文深鉢 (169) を図示した。口縁部がやや括れる器形で無文となり、その下に結節回転文、胴部に斜縄文 LR が施されている。IV群 1a 類である。

SK154 (図版 210、写真図版 214)

装飾深鉢 (170)・地文深鉢 (171) を図示した。170 の口縁端部は小波状に成形され、口縁部には平行沈線文帯、その下に狭い装飾文様帯が配される。装飾深鉢 401 の装飾文様帯幅のちょうど半分ほどである。装飾文様には I 群 1 類土器の副要素である鉤爪形の文様が主要素として施され、副要素には三角形文・三叉文が施されている。文様描出は非常に浅い彫去による部分と、単沈線による崩れた描出が混在し、副要素も三角形の磨消縄文と単沈線による三叉文が混在している。胴部の地文には羽状縄文が施されている。I 群 4b 類に分類した。171 は斜縄文 RL が施されたIV群4類である。

SK528 (図版 210、写真図版 214)

胴部片 (172) を図示した。斜縄文 LR が横位・斜位施文されている。

SK482 (図版 210、写真図版 214)

底部片 (173) を図示した。

SK1015 (図版 210、写真図版 214)

装飾浅鉢 (174) を図示した。口縁部に平行沈線文、胴部上半に装飾文様帯、下位が無文となっている。器面風化が著しく文様構成は判然としないが、装飾文様には退化した Z 字文が描出されているようであり、横位の楕円状のモチーフも認められる。器面風化のため文様構成は不明である。I 群 6b 類。

SK749 (図版 210、写真図版 214)

口縁部片 (175) を図示した。外反する器形で沈線文が施されている。

SK797 (図版 210、写真図版 214)

底部片 (176) を図示した。胎土が緻密で、丁寧な磨きが施されており、底径が大きい逆台形状の浅鉢の底部であるとする。

SK483 (図版 210、写真図版 214)

地文壺 (177) を図示した。頸部に段をもたない壺 b 種であり、口縁端部には突起、胴部には斜縄文 LR が施されたIV群4類である。肩が張り、口縁部は短く外反する。

SK759 (図版 211、写真図版 215)

船底形の有文浅鉢（178）を図示した。口縁端部に刻目文、口縁部に平行沈線文、胴部から底部にかけて羽状縄文が施されている。Ⅱ群3類。16・248と同一個体と考える。

SK504（図版211、写真図版215）

地文深鉢（179）・胴部片（180）を図示した。179は口縁部に横8字状の結節回転文、胴部に0段多条のLRによる斜縄文が施されたⅣ群2類である。180は斜縄文LRが施された壺の胴部上位片である。

SK835（図版211、写真図版215）

地文深鉢（181）を図示した。頸部が内湾し、無文の口縁部が直立する。網目状撚糸文R（第6類）が頸部に横位、胴部に縦位施文されたⅣ群1b類である。内外面にアスファルトが多量に付着している。外面に煮沸の痕跡はなく、貯蔵用として使用されたものであろう。

SK935（図版211、写真図版215）

地文浅鉢（182）を図示した。椀形の器形である。口縁部から底面まで斜縄文LRが施されたⅣ群4類である。

SK839（図版211、写真図版215）

胴部片（183）を図示した。斜縄文LRが施されている。

SK920（図版211、写真図版215）

無文浅鉢（184）を図示した。口縁部が内湾する椀形の器形で、口縁部と底部に平行沈線文が施される。胴部は無文となり丁寧に磨かれている。Ⅲ群1類である。磨石類（s113）と共に、底面から浮いた状態で逆位で出土している。

SK950（図版212、写真図版215）

装飾鉢（185）・地文深鉢（186）を図示した。185は口縁上端に刻目文、口縁部の平行沈線間または沈線上にも刻目文が施され、胴部上半の装飾文様には崩れて沈線化したZ字文が施されている。胴部下半には斜縄文LRが施されている。Ⅰ群4a類。186はRLとLRによる羽状縄文が施されている。Ⅳ群4類。

SK1002（図版212、写真図版215）

胴部片（187）を図示した。斜縄文LRが施されている。

SK583（図版212、写真図版215）

地文深鉢（188）を図示した。網目状撚糸文R（第5類）が縦位施文されたⅣ群4類である。

SK722（図版212、写真図版215・216）

装飾浅鉢胴部片（189）・地文深鉢（190・191・192）を図示した。189は浅い彫去により雲形文が施された胴部片である。胎土と彫去手法・地文から浅鉢132と同一個体と考える。Ⅰ群2類。190は口縁部に横8字状の結節回転文、胴部に網目状撚糸文R（第5類）が縦位施文されたⅣ群2類である。191は斜縄文RLが施されたⅣ群4類。192は口縁部に結節回転文、胴部に斜縄文LRが縦位施文されたⅣ群2類である。

SK714（図版212、写真図版216）

胴部片（193）を図示した。斜縄文RLが施された胴部下位の破片である。

SK715（図版212、写真図版216）

地文深鉢（194）を図示した。口縁部に結節回転文、胴部に撚糸文Rが縦位施文されたⅣ群2類である。

SK716（図版212、写真図版216）

底部片（195）を図示した。

SK718（図版212、写真図版216）

無文鉢（196）を図示した。頸部が括れ、口縁部が外反する器形である。頸部に平行沈線文が施されている。Ⅲ群1類。

SK855（図版212、写真図版216）

胴部片（197）を図示した。網目状撚糸文R（第6類）が縦位施文されている。

SK922 (図版 212、写真図版 216)

装飾浅鉢 (198)・地文深鉢 (199) を図示した。198 は口縁端部に突起、刻目文、沈線文が施され、口縁部には平行沈線文、装飾文様には文様帯界線に接する間延びした台形状の副要素と、間延びした Z 字文の主要素が浅い彫去により施されている。I 群 2 類に分類した。199 は斜縄文 LR が施された IV 群 4 類である。

SK891 (図版 212、写真図版 216)

胴部片 (200) を図示した。斜縄文 LR が施されている。

SK943 (図版 212、写真図版 216)

胴部片 (201) を図示した。斜縄文 LR が施されている。

SK843 (図版 212、写真図版 216)

装飾深鉢 (202) を図示した。口縁端部が外に突出し、直線的に立ち上がる器形である。口縁部には幅の狭い無文部、その下に平行沈線文帯が施される。胴部上半の装飾文様帯には太い沈線により描出された鉤爪形の文様が施されている。文様内は非常に浅く彫去されているが磨かれていない。左側の文様は沈線の描出がつかならず、横位の弧線と三叉文になっている。I 群 4b 類に分類した。

SK897・968 (図版 212、写真図版 216)

地文深鉢 (203) を図示した。口縁部から胴部まで斜縄文 LR が施された IV 群 4 類である。

SK969 (図版 212、写真図版 216)

壺 (204)・底部片 (205) を図示した。204 は頸部片のみであるが帯状隆帯の貼り付けがある。胴部上半に装飾文様帯を有する装飾壺である。

SK1004 (図版 212、写真図版 216)

胴部片 (206・207) を図示した。206 は第 6 類、207 は第 5 類の網目状撚糸文 R が縦位施文されている。SK894 (図版 212、写真図版 216)

胴部片 (208) を図示した。結節斜縄文 RL が縦位施文された胴部下位の破片である。

SK961 (図版 212、写真図版 216)

地文深鉢 (209) を図示した。短い無文の口縁部が外反する器形である。胴部には斜縄文 LR が施される IV 群 1c 類。

SK985 (図版 212・213、写真図版 216)

地文深鉢 (210・211)・底部片 (212) を図示した。210 は口縁部に結節回転文、胴部に結節斜縄文 RL が施された IV 群 2 類である。211 は口縁部には斜縄文 LR が横位施文され、胴部には羽状縄文 (LR・縦位 LR) が縦位施文されている。IV 群 3 類に分類した。内面には多量のアスファルトが付着しており、外面には二次被熱痕が認められる。アスファルトに関する用途が考えられる。

Pit488 (図版 213、写真図版 216)

地文壺 (213) を図示した。頸肩境に段をもつ壺 a 種である。斜縄文 LR が施された肩部の破片である。

Pit259 (図版 213、写真図版 216)

無文土器の胴部片 (214) を図示した。III 群 2 類の胴部下位片である。器種は浅鉢か鉢と考える。

Pit381 (図版 213、写真図版 216)

胴部片 (215) を図示した。網目状撚糸文 R (第 5 類) が縦位施文されている。

Pit397 (図版 213、写真図版 216)

装飾壺 (216) を図示した。口縁端部が外に屈折する器形である。胴部上位の装飾文様には浅い彫去と入念な磨きが施された弧線文が描出されている。I 群土器であるが詳細は不明である。器面には赤彩がのこる。

Pit357 (図版 213、写真図版 216)

胴部片 (217) を図示した。網目状撚糸文 R (第 6 類) が縦位施文されている。内面にはアスファルトが付着し

ている。

Pit936 (図版 213、写真図版 216)

胴部片 (218) を図示した。羽状縄文 (LR・RL) が施されている。

Pit709 (図版 213、写真図版 216)

地文深鉢 (219) を図示した。斜縄文 RL が施されたIV群4類である。

Pit780 (図版 213、写真図版 216)

底部片 (220) を図示した。

Pit765 (図版 213、写真図版 216)

胴部片 (221) を図示した。斜縄文 LR が施された胴部下位の破片である。

Pit852 (図版 213、写真図版 216)

胴部片 (222) を図示した。網目状撚糸文 R (第5類) が縦位施文された胴部下位の破片である。

Pit770 (図版 213、写真図版 216)

壺 (223) を図示した。口縁端部に刻目文・沈線文、頸部に沈線文が施された口縁部片である。

Pit766 (図版 213、写真図版 216)

地文壺 (224) を図示した。頸部に段をもつ壺 a 種である。胴部には斜縄文 RL が施されている。

Pit884 (図版 213、写真図版 216)

胴部片 (225) を図示した。斜縄文 LR が縦位施文されている。

Pit991 (図版 213、写真図版 216)

無文土器 (226)・深鉢胴部片 (227) を図示した。226 は丁寧な整形のⅢ群2類である。器種は鉢か浅鉢である。227 は網目状撚糸文 R (第6類) が縦位施文されている。

SX136 (図版 213、写真図版 216)

装飾深鉢 (228)・壺 (229・230)・地文深鉢 (231) を図示した。228 は口縁部資料のため装飾文様は不明である。229 は頸部に結節回転文が施されるIV群2類の壺の胴部上位片である。頸体境に段をもたない壺 b 種である。内外面にアスファルトが付着している。230 は壺の肩である。羽状縄文が施されている。231 は口縁部に突起、結節回転文が施され、胴部には斜縄文 LR が施されている。IV群2類。

SX996 (図版 213、写真図版 216・217)

有文深鉢 (232)・胴部片 (233・234) を図示した。232 は小波状口縁に突起を有し、外反する無文の口縁部下に結節斜縄文 LR が施されたⅡ群4類である。233 は無文深鉢の胴部片であり、器面にはケズリ調整が施されている。Ⅲ群3類。234 は直前段反撚 LLR が斜位に施された胴部片である。

SX439 (図版 213、写真図版 217)

地文深鉢 (235) を図示した。外反する無文の波状口縁下に結節回転文が施され、胴部には網目状撚糸文 R (第6類) が縦位施文されている。Ⅱ群4類。

SX444 (図版 213、写真図版 217)

底部片 (236) を図示した。斜縄文 RL が施されている。

SX343 (図版 213、写真図版 217)

有文深鉢 (237) を図示した。口縁部に平行沈線文が施されたⅡ群3類である。胴部には羽状縄文 (LR・RL) が施されている。

SX424 (図版 213、写真図版 217)

有文深鉢 (238) を図示した。口縁部に平行沈線文が施されたⅡ群3類である。胴部には結節斜縄文 LR が施されている。

SX320 (図版 214、写真図版 217)

胴部片(239)を図示した。器面風化が著しいが網目状撚糸文R(第5類)が縦位施文されている。

SX832(図版214、写真図版217)

胴部片(240)を図示した。結節斜縄文RLが縦位施文されている。

SX945(図版214、写真図版217)

地文深鉢(241・242)を図示した。241は網目状撚糸文R(第6類)が縦位施文されたIV群4類の口縁部片、242は口縁部に結節回転文、胴部に斜縄文LRが施されたIV群2類である。内面には赤色顔料の付着が見られ、顔料の利用に関する用途が考えられる。

SX768(図版214、写真図版217)

胴部片(243)を図示した。斜縄文LRが施されている。

SX949(図版214、写真図版217)

胴部片(244)を図示した。斜縄文LRが施されている。胴部下位の破片である。

SX952(図版214、写真図版217)

無文の胴部片(245)を図示した。磨きが施された胴部片である。器種は浅鉢か鉢と考える。

SX204(図版214、写真図版217)

浅鉢胴部片(246)を図示した。主文様は磨消縄文帯化したZ字文と思われる。I群3類に分類した。

SX733(図版214、写真図版217)

胴部片(247)を図示した。斜縄文LRが施されている。

SX760(図版214、写真図版217)

船底形の有文浅鉢(248)を図示した。口縁端部に刻目文、口縁部に平行沈線文が施されたII群3類であり、胴部から底面まで羽状縄文(LR・RL)が施されている。16・178と同一個体と考える。

SX799(図版214、写真図版217)

無文浅鉢(249)・底部片(250)を図示した。249は磨きが施されたIII群2類の浅鉢である。250の底部には沈線文が施されている。

SX966(図版214、写真図版217)

地文深鉢(251)を図示した。斜縄文RLが施されたIV群4類である。

SX947(図版214、写真図版217)

胴部片(252)を図示した。斜縄文LRが施されている。

SD192(図版214～219、写真図版217～220)

(I層出土土器)

注口土器(253～255)・装飾浅鉢(256)・無文浅鉢(257)・装飾深鉢胴部片(258)・地文壺(259・260)・地文深鉢(261～270)を図示した。

253は注口土器の胴部である。胴部上位には幅の広い磨消縄文によりI群1・2類の副要素である鉤爪状の文様が施されている。胴部下位には磨消縄文帯ではなく平行沈線による弧線が描かれている。副要素は三叉文である。I群3類。254は注口土器の頸部片であり、磨消縄文帯が施されている。胎土から明らかに253とは別個体である。255は肩部の破片である。253と胎土・文様描出法・地文原体から同一個体の可能性が高いが、肩部の装飾が異なる。

256は碗形器形の装飾浅鉢である。口縁部に突起が付され、胴部上半に装飾文様帯、胴部下半に斜縄文LRが施されている。装飾文様は簡略化して磨消縄文帯化したZ字文が主文様として施されている。副要素は三叉文である。I群3類。胎土・地文・文様描出法から3J-9Iグリッド出土の479と同一の可能性が高い。257はIII群2類の無文浅鉢である。内外面に赤色塗彩がのこる。258は平行沈線文と斜縄文LRが施されている。装飾土器の胴部片と考える。

259は頸体境に段をもたない壺b種である。胴部には羽状縄文(LR・R)が施されている。IV群4類。260も壺b種であり、結節回転文帯と斜縄文LRが施されたIV群2類である。

261は口縁部がすぼまり外反する器形の深鉢で、口縁端部に刻目文が施されるII群4類である。胴部には結節斜縄文LRが施されている。262は口縁部に無文帯と結節回転文、胴部に網目状撚糸文R(第5類)が縦位施文されたIV群1a類。263は口縁端部が欠損しているが、口縁部に結節回転文、胴部に斜縄文LRが縦位施文されたIV群2類である。264はナデ整形による無文帯と結節回転文が施されるIV群1a類である。265～269は同一原体を口縁部に横位、胴部に縦位施文するIV群3類である。265は結節斜縄文LRが施され、266は斜縄文LRが胴部に斜位・縦位に施文されている。267・268は撚糸文Rが施されている。269は網目状撚糸文R(第6類)が横位施文された口縁部片である。胴部には縦位施文される可能性が高い。270は結節斜縄文LRが施されたIV群4類である。

(II層出土土器)

装飾浅鉢(271・272)・注口土器(273)・無文浅鉢(274～277)・壺(278～280)・有文深鉢(281・282)・地文深鉢(283～286・288・290～294・296)・胴部片(287・289・295)・底部片(297～301)を図示した。

271は皿形で平口縁の器形であり、口唇部に沈線がめぐる。装飾文様は簡略化して間延びしたZ字文を主要素、鉤爪形・台形の文様を副要素として構成されている。副要素は大柄で文様帯界線と接する。文様の描出は非常に浅い彫去とネガ部分の入念な磨きによる。I群2類。272は底径が大きい逆台形状の器形で、口縁部には陽刻による装飾が施される。胴部の装飾文様は器面の損傷が著しいが271と同様の構成であり、Z字文も文様帯界線と接している。文様描出は非常に浅い彫去とネガ部分の入念な磨きによる。内面の胴部と底部の境にわずかな段を有する。I群2類。273は注口部である。胎土・整形から253とは別個体である。

274～277はIII群2類の無文浅鉢である。274・277は皿形、275・276は椀形の器形である。

278は壺の口縁部片、279は頸体境に段を有する壺a種で、胴部に羽状縄文(LR・RL)が施されるIV群4類である。底部にも段を有する。280は地文壺の胴部である。内面全面にアスファルトの付着が顕著であり、アスファルトの貯蔵に使用されたものである。

281・282は口縁部に平行沈線文が施されたII群3類である。281は装飾土器の可能性もある。282は平行沈線文下に結節回転文が施されている。

283は斜縄文LRが口縁部に横位、胴部に縦位施文されたIV群3類である。284・285は胎土・原体から同一個体と考える。口縁部に結節回転文、胴部に網目状撚糸文R(第6類)が施されたIV群2類である。286は網目状撚糸文R(第6類)が口縁部に横位、胴部に縦位施文されたIV群3類。287は網目状撚糸文R(第5類)が施された深鉢胴部片。288は網目状撚糸文R(第5類)が口縁部に横位、胴部に縦位施文されたIV群3類である。内面にアスファルトが付着している。289は網目状撚糸文R(第5類)が縦位施文された深鉢胴部片である。290～292は網目状撚糸文R(第5類)が口縁部に横位、胴部に縦位施文されたIV群3類であり、291の口縁端部には突起が付されている。292の内面にはアスファルトが付着しており、内面口縁部には付着せず、胴部に付着していることからアスファルトを入れた容器と考えられる。外面には煤が付着している。293は斜縄文LRが口縁部には横位、胴部には縦位・斜位に施されたIV群3類である。294は器面風化が著しいが斜縄文LRが施されているようである。IV群4類。295は0段多条LRによる結節斜縄文が縦位施文された胴部片である。296は斜縄文LRが斜位施文されたIV群4類である。内面全面と外面口縁部にアスファルトの付着が見られる。外面には煤が付着しており煮沸に用いられた可能性がある。297の胴部には結節斜縄文LRが施されている。

(III層出土土器)

壺(302・303)・有文鉢(304・305)・地文深鉢(306～308)・地文鉢(309)・底部片(310・311)を図示した。

302は赤色に塗られたIII群2類の壺である。肩が丸い器形である。303は壺b種で、肩が張る器形である。斜縄文LRが施されるIV群4類である。

304 は小波状口縁で口縁部に突起と平行沈線文帯が施されたⅡ群3類の鉢である。胴部には斜縄文 LR が施される。305 は口縁部に平行沈線文が施されたⅡ群3類の鉢である。胴部には斜縄文 LR が施されている。

306 は口縁部に結節回転文、胴部に網目状撚糸文 R (第5類) が縦位施文されたⅣ群2類である。307 は口縁部端部に突起を有し、口縁部に結節回転文、胴部に斜縄文 LR が縦位施文されたⅣ群2類である。308 は口縁部に無文帯と結節回転文、胴部に斜縄文 RL が施されたⅣ群1a類である。309 は口縁部から胴部まで斜縄文 LR が施されたⅣ群4類の鉢である。

310 の胴部には斜縄文 LR が縦位施文されている。311 の胴部には撚糸文 R が斜位・横位に施文されている。
SD338 (図版 219、写真図版 220・221)

壺 (312・313)・地文深鉢 (314・315)・地文鉢 (316) を図示した。

312 は装飾壺の胴部上位片である。文様帯界線に接する台形状の副要素が非常に浅い陽刻により描出されている。Ⅰ群2類に分類した。313 は口縁上端に沈線文が施される壺口縁部片である。Ⅰ群かⅡ群である。

314 は網目状撚糸文 R (第6類) が口縁部に横位、胴部に縦位施文されたⅣ群3類である。315 は口縁部に結節回転文が施されたⅣ群2類である。胴部の地文は不明である。316 は口縁部から胴部まで斜縄文 LR が施されたⅣ群4類の鉢である。

SD846 (図版 220、写真図版 221)

有文深鉢 (317) を図示した。小波状口縁で口縁部に平行沈線文帯が施されるⅡ群3類である。胴部には斜縄文 LR が施される。

SD917 (図版 220、写真図版 221)

有文深鉢 (318・319) を図示した。318 は口縁部と胴部下位に平行沈線文が施されたⅡ群3類である。胴部には斜縄文 LR が施される。319 は小波状口縁で無文の口縁部がやや外反する器形である。無文部下に結節斜縄文 LR が施されたⅡ群4類である。

②包含層出土土器 (図版 220～228、写真図版 221～226)

3K-1A (図版 220、写真図版 221)

装飾浅鉢 (320)・地文深鉢 (321)・胴部片 (322・323) を図示した。320 は調査区最北端出土である。底径が大きく直線的に立ち上がる逆台形状の器形である。口縁部が欠損している。装飾文様には単沈線により直線状に崩れた雲形文が施されている。地文は施されていない。Ⅰ群7類。321 は口縁部に結節回転文、胴部に網目状撚糸文 R (第5類) が縦位施文されたⅣ群2類である。322 は0段多条 LR による斜縄文が縦位施文されている。深鉢胴部下位の破片である。323 は網目状撚糸文 R (第5類) が縦位施文された深鉢胴部片である。

3K-3B (図版 221、写真図版 221)

地文深鉢 (324) を図示した。網目状撚糸文 R (第6類) が口縁部から胴部まで縦位施文されたⅣ群4類である。

3J-1I (図版 221、写真図版 222)

装飾浅鉢 (325)・胴部片 (326) を図示した。325 は器面の風化が著しいが、陽刻による装飾口縁が施され、直線的に外傾する器形である。口縁部には平行沈線文帯、胴部の装飾文様には彫去による雲形文が施されている。Ⅰ群1類。326 は撚糸文 R が縦位施文された深鉢の胴部片である。

3J-1J (図版 221、写真図版 222)

地文深鉢 (327) を図示した。斜縄文 LR が施されたⅣ群4類である。

3J-2H (図版 221、写真図版 222)

装飾浅鉢 (328)・壺 (329)・地文深鉢 (330～332・334)・胴部片 (333) を図示した。

328 は口縁部が内湾する椀形器形の浅鉢であり、口縁部には「二溝間の截痕」、胴部には浅く彫去された雲形文が施されている。主要素はZ字文、副要素は三角形文であり文様帯界線から離れている。Ⅰ群1類。

329 は頸部に平行沈線文が施されたⅡ群3類の壺の口縁部である。

330 は斜縄文 LR が施されたIV群4類の深鉢口縁部である。331・332 は網目状撚糸文 R (第5類) が縦位施文されたIV群4類である。333 は網目状撚糸文 R (第5類) が横位施文された深鉢類の胴部片。334 は網目状撚糸文 R (第5類) が口縁部に横位、胴部に縦位施文されたIV群3類である。

3J-2J (図版 221、写真図版 222)

底部片 (335) を図示した。胴部下位には網目状撚糸文 R (第6類) が縦位施文されている。

3J-3G (図版 221、写真図版 222)

有文浅鉢 (336) を図示した。口縁部が内湾する椀形である。小波状口縁で口縁部には「二溝間の截痕」が施される。截痕は数か所で単位を成し、間隔をあけて施文されている。胴部には羽状縄文 (R・LR) が施されている。内外面に炭化物の付着が顕著である。II群1類。

3J-3H (図版 222、写真図版 222)

地文深鉢 (337)・胴部片 (338) を図示した。337 は羽状縄文 (R・LR) が施されたIV群4類。338 には撚糸文 R が横位施文されている。

3J-3I (図版 222、写真図版 222)

装飾浅鉢 (339)・地文壺 (340) を図示した。339 は「二溝間の截痕」が施された胴部下位片である。胴部上位には装飾文様が施される可能性が高い。内面には突帯というほど明瞭ではないが胴部と底部の境に段をもつ。340 はIV群4類の壺 b 種である。

3J-4G (図版 222、写真図版 222)

地文深鉢 (341・342) を図示した。341 は口縁部に無文帯と結節回転文が施されたIV群 1a 類である。器面風化のため胴部の地文は不明である。342 は網目状撚糸文 R (第5類) が口縁部に横位、胴部に縦位施文されたIV群3類である。

3J-4I (図版 222、写真図版 222)

装飾鉢 (343)・有文鉢 (344)・地文深鉢 (345) を図示した。343 は小波状口縁で口縁部には「溝底の刺痕」が施されている。胴部の装飾文様には彫去手法により間延びした鉤爪状の文様が描出されている。Z字文の端部か副要素と考える。I群1類に分類した。344 は口縁端部に刻目文、口縁部に平行沈線文帯が施されたII群3類である。胴部には斜縄文 LR が施されている。345 は口縁端部に突起を有し、口縁部に無文帯、結節回転文が施され、胴部に斜縄文 RL が施されたIV群 1a 類である。内外面に炭化物の付着が顕著である。

3J-4J (図版 222、写真図版 222)

地文深鉢 (346)・底部片 (347) を図示した。346 は口縁部に無文帯、結節回転文が施され、胴部には撚糸文 R が縦位施文されたIV群 1a 類である。347 の胴部には斜縄文 LR が施されている。器面が風化しており判然としないが条の間隔があいており、附加条の可能性もある。

3J-5G (図版 222、写真図版 222)

地文深鉢 (348・349) を図示した。348 は口縁部に結節回転文、胴部に斜縄文 LR が縦位施文されたIV群2類、349 は斜縄文 LR が施されたIV群4類である。

3J-5H (図版 222、写真図版 222)

地文深鉢 (350) を図示した。網目状撚糸文 R (第5類) が施されたIV群3類である。

3J-5I (図版 222、写真図版 222・223)

地文深鉢 (351～359) を図示した。351・352 は口縁部に結節回転文が施されるIV群2類で、351 の胴部には網目状撚糸文 R (第6類)、352 には網目状撚糸文 R (第5類) が縦位施文されている。353～357 は網目状撚糸文 R (第5類) が施されたIV群3類である。358・359 は斜縄文 LR が施されたIV群4類である。

3J-5J (図版 222・223、写真図版 223)

壺 (360)・有文深鉢 (361)・装飾深鉢胴部片 (362)・地文深鉢 (363・364・366)・底部片 (365) を図示した。

360は壺の口縁部である。口縁端部に沈線文が施されたⅡ群3類。361は口縁端部に刻目文、口縁部に平行沈線文が施されたⅡ群3類である。362は平行沈線文と羽状縄文(RL・LR)が施された装飾土器の胴部片。363は口縁部に結節回転文、胴部に網目状撚糸文R(第6類)が縦位施文されたⅣ群2類、364は器面風化が著しく原体の詳細は不明であるが網目状撚糸文によるⅣ群3類と思われる。365の胴部下位には斜縄文LRが施されている。366は口縁部に無文帯と結節回転文、胴部に網目状撚糸文R(第6類)が縦位施文されたⅣ群1a類である。

3J-6F(図版223、写真図版223)

底部片(367・368)を図示した。367は器面の風化が著しいが、胴部下位には網目状撚糸文が縦位施文されているようである。

3J-6G(図版223、写真図版223)

底部片(369)を図示した。胴部下位には羽状縄文(LR・RL)が施されている。

3J-6H(図版223、写真図版223)

壺(370)・地文深鉢(371・372)・底部片(373・374)を図示した。370は口縁部上端に沈線文が施されたⅡ群3類。肩が張る器形である。371は斜縄文LRが施されたⅣ群4類、372は風化のため地文は不明である。

3J-6I(図版223、写真図版223)

有文浅鉢(375)・壺(376・377)・地文深鉢(378・379)・有文深鉢(380)・底部片(381～384)を図示した。375は口縁端部が内湾する器形で、口縁部に平行沈線文が施されている。胴部は不明であるがⅡ群3類に分類した。376は壺の口縁部片。377は壺a種で、羽状縄文(L・R)が施されている。378は撚糸文Rが縦位施文されており、379は斜縄文LRが施されたⅣ群4類である。380は小波状口縁で内湾する口縁部に平行沈線文帯が施されたⅡ群3類である。胴部には斜縄文LRが施されている。381と384は斜縄文LRが施され、383には網目状撚糸文R(第6類)が縦位施文されている。

3J-6J(図版223、写真図版223)

地文深鉢(385)・胴部片(386)を図示した。385は器面風化のため原体は不明である。386は結節斜縄文LRが施された胴部下半の破片である。

3J-7F(図版223、写真図版223)

壺(387・388)を図示した。387は口縁端部に突起を有した口縁部片である。器面は丁寧に磨かれており、装飾壺の可能性もある。388は壺の頸部片である。

3J-7G(図版223、写真図版223)

装飾浅鉢(389)・有文深鉢(390)・装飾壺(391)・無文浅鉢(392)・装飾深鉢胴部片(393)・地文壺(394)・地文深鉢(395～397)・底部片(398)を図示した。389は内湾する口縁部に「二溝間の截痕」が施され、胴部には浅い彫去により装飾文様が施されている。口縁部小片のため文様構成は不明であるが、器形と文様描出方法からⅠ群1類に分類した。390は口縁端部にB突起、刻目文が施され、口縁部には「二溝間の截痕」が施されている。装飾土器の可能性もあるがⅡ群1類に分類した。391は突起が付された壺の口縁部片である。装飾壺の可能性もある。内面にはアスファルトの付着が見られる。392は椀形の無文浅鉢である。Ⅲ群2類。393は平行沈線文と羽状縄文(LR・RL)が施された装飾深鉢の胴部片である。394は壺b種の頸胴部境の破片である。胴部には斜縄文LRが施されている。Ⅳ群4類。395は口縁部に無文帯と結節回転文、胴部に斜縄文LRが施されたⅣ群1a類、396は口縁部に結節回転文が施されたⅣ群2類である。397は斜縄文LRが施されたⅣ群4類である。

3J-7H(図版223～225、写真図版223・224)

有文浅鉢(399・400)・装飾深鉢(401)・地文深鉢(402～405)・底部片(406～408)を図示した。

399は口縁部に平行沈線文帯と「溝底の刺痕」が施され、胴部には地文が施されるⅡ群2類である。400は口縁部に平行沈線文が施されたⅡ群3類の椀形の浅鉢である。胴部の地文は器面風化のため不明である。

401は口縁部に「溝底の刺痕」が施され、胴部上半の装飾文様帯には彫去手法により雲形文が施されている。主要素は4単位のZ字文で、その上下に鉤爪形の副要素、Z字文間に鼓形の副要素が配される。文様はいずれも文様帯界線から離れている。装飾文様帯の地文には細い原体による斜縄文LRが施され、胴部の地文には羽状縄文(LR・RL)が施されている。I群1類。

402は口縁部に無文帯と結節回転文、胴部に斜縄文LRが施されたIV群1a類である。403は網目状撚糸文R(第5類)が縦位施文されたIV群4類。404は斜縄文LRが口縁部に横位、胴部に縦位施文されたIV群3類。405は斜縄文LRが施されたIV群4類である。406の胴部には斜縄文LRが縦位施文されている。

3J-7I(図版225、写真図版224)

装飾浅鉢(409)・有文深鉢(410・411)・地文深鉢(412～415)・底部片(416～418)を図示した。

409は口縁端部に突起と沈線文が施され、口縁部に平行沈線文、胴部に沈線による弧線が施されている。破片資料のため詳細は不明である。410は短く内傾する口縁部片である。二溝間に斜めの刺突が施されている。II群2類。411は小波状口縁で、無文の口縁部が外反する器形である。胴部には斜縄文RLが施されている。II群4類。

412は口縁部に無文帯と結節回転文、胴部に斜縄文LRが施されたIV群1a類。413は口縁部に結節回転文、胴部に斜縄文LRが縦位施文されたIV群2類。414は口縁部に無文帯、胴部に撚糸文Rが縦位施文されたIV群1b類である。415は斜縄文LRが施されたIV群4類である。417の胴部下位には斜縄文LRが施されている。418には沈線文が施されており、装飾土器か有文土器の可能性が高い。内面にアスファルトの付着が顕著であり、アスファルトの使用に関する用途が推定される。

3J-7J(図版225、写真図版224)

装飾深鉢(419)・地文深鉢(420～423)・底部片(424～426)を図示した。

419は口縁部に平行沈線文、胴部上半の装飾文様帯には単沈線による雲形文が施されている。Z字文間に三叉文が描出されている。I群4a類。420は口縁部に無文帯と結節回転文、胴部に斜縄文RLが施されたIV群1a類。421は口縁部に結節回転文、胴部に斜縄文LRが縦位施文されたIV群2類であり、結節回転文には斜縄文部の施文も見られる。422は網目状撚糸文R(第5類)によるIV群3類、423は直前段反撚LLによるIV群3類であり、口縁端部に2か所の突起が付されている。426には斜縄文LRが施され、底面のケズリ整形が顕著である。

3J-8E(図版225、写真図版224)

装飾浅鉢(427・428)・装飾壺(429・430)・有文深鉢(431)・装飾深鉢胴部片(432)・地文深鉢(433・434・435)・底部片(436)を図示した。

427は装飾口縁で、胴部の文様構成は不明であるが沈線により鉤爪状の弧線が施されている。428のZ字文の端部と類似する。I群4a類。428は平口縁で、口縁部に平行沈線文帯が施され、装飾文様には幅が非常に狭い磨消縄文帯によるZ字文の端部が認められる。I群4a類。429は口縁端部が陽刻調となり、その下に刺突文が施されている。430は壺胴部上位の破片である。全体の文様構成は不明であるが、文様帯界線に大柄な台形状の副要素が接しているのがわかる。主要素はZ字文であろう。I群2類。431は外反する無文の口縁部と頸部に平行沈線文帯が施されたII群3類である。胴部には斜縄文LRが縦位施文されている。432は平行沈線文と羽状縄文が施された装飾深鉢の胴部片である。433は口縁部に無文帯と結節回転文、胴部に網目状撚糸文R(第5類)が縦位施文されたIV群1a類である。口縁部はナデ・ケズリ整形が顕著である。434は口縁部に結節回転文、胴部に網目状撚糸文R(第6類)が縦位施文されたIV群2類である。口縁部の結節回転文には斜縄文部まで施文されている。435は斜縄文LRによるIV群3類である。436の内面にはアスファルトが厚く残存している。

3J-8F(図版225、写真図版224)

地文深鉢(437)を図示した。斜縄文LRが施されている。IV群3類か4類である。

3J-8G(図版225・226、写真図版224)

無文土器(438～440)・地文深鉢(441～443)・胴部～底部片(444)を図示した。

438・439は胎土・整形から同一個体の壺の可能性が高い。頸部に平行沈線文が施された胴部無文のⅢ群1類である。内外面に赤彩が見られる。440はⅢ群2類の鉢か浅鉢である。441・442は網目状撚糸文によるⅣ群3類である。442は器面風化のため詳細は不明であるが、441は網目状撚糸文R(第5類)が施されている。443は網目状撚糸文R(第6類)が縦位施文されたⅣ群4類である。444は胴部にRLの縦位施文と横位施文による縦位の羽状構成となる斜縄文が施されている。内面には炭化物の付着が顕著である。

3J-8H(図版226、写真図版224・225)

注口土器(445)・有文深鉢(446・447)・地文深鉢(448～459)を図示した。

445は胴部上位片である。肩に陽刻による装飾が施され、装飾文様には単沈線による雲形文が施されている。胎土・文様から152・255と同一個体の可能性が高い。253とも似るが肩部の装飾が異なる。Ⅰ群3類。446は無文の口縁部が外反する器形で、頸部には間隔の広い平行沈線間に斜めの刺突文が施されている。Ⅱ群2類。447は口縁部が若干外反する器形で、頸部に平行沈線文が施され、胴部に撚糸文Rが縦位施文されたⅡ群3類である。

448・449・451・452は口縁部に結節回転文が施されたⅣ群2類で、胴部には斜縄文LRが施されている。450は斜縄文LRが施されたⅣ群4類。453～456は網目状撚糸文R(第5類)によるⅣ群3類。457は口縁端部に突起が付され、斜縄文RLが施されたⅣ群4類。458・459は結節斜縄文LRによるⅣ群3類である。

3J-8I(図版226、写真図版225)

地文深鉢(460～464)・胴部片(466)・底部片(465・467・468)を図示した。

460は口縁端部に突起が付され、口縁部に結節回転文、胴部に網目状撚糸文R(第6類)が縦位施されたⅣ群2類。口縁部の結節回転文には斜縄文部も見られる。461は器面風化のため原体不明である。462～464は斜縄文LRによるⅣ群4類である。465の内面には赤色顔料が付着しており、顔料の使用に関する用途が推定される。466は撚糸文Lが縦位施文された深鉢胴部片である。468には網目状撚糸文R(第6類)の縦位施文が見られる。

3J-8J(図版226、写真図版225)

無文浅鉢(469)・有文深鉢(470)・地文深鉢(471)・底部片(472)を図示した。

469は口縁部に平行沈線文が施され、胴部が無文となるⅢ群1類である。470は平行沈線文帯と斜縄文LRが施されたⅡ群3類である。471は口縁部に結節回転文、胴部に斜縄文LRが施されたⅣ群2類である。

3J-9D(図版227、写真図版225)

底部片(473・474)を図示した。473の胴部には網目状撚糸文R(第6類)が縦位施文されている。

3J-9E(図版227、写真図版225)

有文深鉢(475)を図示した。口縁端部に刻目文と沈線文が施され、口縁部に平行沈線文帯、胴部に斜縄文LRが施されたⅡ群3類である。

3J-9F(図版227、写真図版225)

地文深鉢(476)・底部片(477)を図示した。476は口縁部に結節回転文、胴部に斜縄文LRが施されたⅣ群2類。477の胴部下位には斜縄文LRが横位・斜位の異方向に施文されている。

3J-9H(図版227、写真図版225)

有文深鉢(478)を図示した。小波状口縁で口縁部に平行沈線文、胴部に斜縄文LRが施されたⅡ群3類である。

3J-9I(図版227、写真図版225)

装飾浅鉢(479)・壺(480)・地文深鉢(481)を図示した。479は胎土・地文・文様描出法からSD192Ⅰ層出土の256と同一個体の可能性が高い。磨消縄文による扁平な雲形文が施されたⅠ群3類。480は壺の口縁部片。481は結節斜縄文RLによるⅣ群4類である。

3J-10D(図版227、写真図版225)

装飾深鉢胴部片(482)・地文深鉢(483)・底部片(484)を図示した。482は平行沈線文と斜縄文LRが施さ

れている。483は直前段反撚RRが施された地文深鉢の口縁部片である。IV群3類か4類である。

3J-10G (図版227、写真図版225)

装飾浅鉢底部片(485)・底部片(486)を図示した。485はやや底径が大きめな浅鉢の底部であり、平行沈線が施されている。

3J-10F (図版227、写真図版225)

地文深鉢(487・488)・底部片(489)を図示した。487は口縁部に結節回転文、胴部に斜縄文RLが施されたIV群2類。488は斜縄文LRが施されたIV群4類である。

3J-10G (図版227、写真図版225)

地文深鉢(490・491)・底部片(492・493)を図示した。490・491は斜縄文LRが施されたIV群4類。492・493には斜縄文LRが施されている。

3J-10I (図版227、写真図版225)

有文深鉢(494)を図示した。口縁端部に刻目文、内湾する口縁部に平行沈線文帯、胴部に結節羽状縄文(RL・LR)が施されたII群3類である。装飾土器の可能性もある。

4J-1C (図版227、写真図版225)

有文鉢(495)・有文深鉢(496・497)・地文深鉢(498・499)を図示した。495は頸部をもつ器形で、頸部に突起と平行沈線間の刺突文が施されている。胴部には斜縄文LRが施されている。II群2類。496は小波状口縁で口縁端部が外折している。その直下に沈線文が施され、以下が斜縄文LRとなっている。II群3類。497は小波状口縁で内湾する口縁部に平行沈線文帯が施され、胴部には斜縄文LRが施されたII群3類である。498・499はIV群4類である。498は斜縄文RL、499は斜縄文LRが施されている。

4J-1D (図版227・228、写真図版225・226)

壺(500)・地文深鉢(501～505)・底部片(506・507)を図示した。500は肩が張り出す器形の地文壺である。肩部に結節回転文が施され、それより上位には羽状縄文(R・L)、胴部には斜縄文Rが施されている。胴部上位の文様帯を意識した施文である。501はIV群2類の結節回転文が施された口縁部片である。502は網目状撚糸文R(第5類)によるIV群3類。503・504は斜縄文LRが施されたIV群4類。505は口縁部に結節回転文、胴部に網目状撚糸文R(第6類)が縦位施文されたIV群2類である。507には網目状撚糸文が縦位施文されている。

4J-1E (図版228、写真図版226)

地文深鉢(508)・胴部・底部片(509～512)を図示した。508は口縁部に結節回転文、胴部に斜縄文LRが縦位施文されたIV群2類である。509には斜縄文LRが施されている。器形から壺の胴部の可能性がある。510の胴部の斜縄文は直前段反撚RRLによるものとする。511の胴部下位には斜縄文LRが施されている。

4J-1G (図版228、写真図版226)

壺(513)を図示した。突起を有する口縁部と、胴部上位片である。胴部には斜縄文LRが施されている。

4J-2D (図版228、写真図版226)

無文浅鉢(514)・壺(515)・底部片(516)を図示した。514は椀形のIII群2類浅鉢である。515は壺の頸部である。丁寧な磨きが施されている。

4J-2E (図版228、写真図版226)

地文深鉢(517)を図示した。羽状縄文(LR・RL)が施されたIV群4類である。

4J-2F (図版228、写真図版226)

地文深鉢(518)を図示した。口縁部に結節回転文、胴部に斜縄文LRが施されたIV群2類である。

4J-2G (図版228、写真図版226)

地文深鉢(519・520)を図示した。519は結節回転文と斜縄文LRが縦位施文されたIV群2類の口縁部である。520は網目状撚糸文R(第6類)が縦位施文されたIV群4類である。

4J-3E (図版 228、写真図版 226)

底部片 (521) を図示した。

4J-3F (図版 228、写真図版 226)

深鉢の口縁端部片 (522・523)・地文深鉢 (524～526)・底部片 (527) を図示した。522 は突起が付された有文か装飾土器の口縁部と考える。523 は小波状口縁の端部片である。524 は器面が風化しているが、網目状撚糸文 R (第6類) によるIV群3類である。525・526 は斜縄文が施されたIV群4類の口縁部片である。525 は原体 RL、526 は原体 LR である。527 は深鉢類の底部である。

4J-3G (図版 228、写真図版 226)

壺 (528・529)・地文深鉢 (530～532)・底部片 (533～536) を図示した。528 は壺の頸部片、529 は壺 a 種の頸～胴部片である。胴部に斜縄文 RL が施されたIV群4類である。530 は結節回転文が施されたIV群2類の口縁部片である。531 は網目状撚糸文 R (第6類) によるIV群3類。532 は斜縄文 LR が縦位施文されたIV群4類の深鉢口縁部片である。534 には斜縄文 LR が施されている。

4J-4F (図版 228、写真図版 226)

装飾浅鉢 (537) を図示した。椀形の器形である。器面が風化しているが、口縁部には平行沈線文が施され、胴部には幅の狭い磨消縄文帯による直線状の文様が施されている。I 群 4a 類と考える。

③上層・攪乱出土土器 (図版 229、写真図版 226)

538～540 は倒木痕に巻き込まれた状況で出土した。538 は網目状撚糸文 R (第5類) によるIV群3類深鉢である。539 は完形の壺で、外面にはナデとケズリ整形が施されたIII群3類である。壺の中に付着物等は見られない。540 は小型の底部片である。

541 は上層 SD153 からの出土である。外反する口縁端部片で小波状となっている。542 は上層 SE485 出土のIV群2類深鉢である。口縁部に結節回転文、胴部に斜縄文 LR が縦位施文されている。543 は上層 SD157 出土である。地文土器の口縁部片である。器面が風化して地文は不明である。544 は上層 SD158 出土のIV群4類深鉢である。斜縄文が施されているが、器面が風化しているため詳細は不明。545 は上層 Pit1379 出土の深鉢底部片である。器面が風化しているが胴部には結節回転文が見られる。

546～555 は近・現代の自然流路である河 138 から出土した。546 は装飾鉢の胴部片である。器面の風化が著しいが幅の狭い磨消縄文帯による Z 字文が施されている可能性がある。I 群 4a 類。547 は平行沈線文帯が施されたII群3類の深鉢口縁部片。548 は口縁部にナデによる無文帯と結節回転文が施されたIV群1a類深鉢の口縁部片である。549 はIV群2類深鉢の口縁部である。胴部には斜縄文 LR が施されている。550・551 は網目状撚糸文 R (第5類) によるIV群3類深鉢である。552～554 は地文深鉢の口縁部片であるが器面風化が著しい。553・554 には斜縄文が見られる。555 は小型の土器の底部片であり、斜縄文 RL が施されている。

556～560 は攪乱から出土した。556 は無文の口縁部が外反する器形で、頸部に平行沈線が施されたII群3類の台付鉢である。台部が欠損しているが底部の器形から台付と判断した。557 は「溝底の刺痕」と平行沈線文が施されたII群2類の深鉢口縁部である。558 は口縁部に結節回転文、胴部に網目状撚糸文 R (第6類) が縦位施文されたIV群2類深鉢である。559・560 はIV群4類深鉢であり、559 は斜縄文 RL、560 は斜縄文 LR が施されている。

B 石器・搬入礫

1) 概要

発掘調査で出土した石器・石製品・搬入礫は、剥片・碎片も含め総数 1551 点を数え、総重量は 421.13kg を測る。伴出する土器の様相から縄文時代晩期中葉前半の限られた時間幅に属するものと推定され、当該地域の当該時期における生業の解明に有効な資料群と言える。中でもアスファルト付着の石器が一定量認められ、アスファルト

に関する作業内容の解明に重要な資料群である。

提示資料の抽出としては器種認定が可能なもの、使用痕が認められるものについては全て抽出し、剥片・自然礫については特徴的なものの抽出にとどめた。その結果、提示資料は368点を数える。その内訳は、石鏃31点、石鏃未成品8点、石錐10点、両極剥離痕のある石器2点、不定形石器21点、磨製石斧8点、磨石類127点、敲石55点、砥石9点、石皿・台石類68点、小形石皿様石器1点、石核11点、石剣5点（3個体）、加工痕のある礫石器2点、剥片6点、不明石器1点、自然礫5点であり、磨石・敲石類が圧倒的に突出しており、それと対になる石皿・台石類とともに主体を成している。

石材については、剥片石器には珪質頁岩・珪質凝灰質頁岩・玉髓質珪質頁岩・玉髓が多く、磨製石斧では閃緑岩・ドレライト・緑色凝灰岩・透閃石岩が用いられている。磨石類では花崗岩・流紋岩・安山岩が多く用いられ、敲石には硬質な石材である変質チャート・砂岩（アルコース質アレナイト）が多く用いられている。石皿・台石類には花崗岩・花崗斑岩・流紋岩・安山岩が用いられ、磨石類と共通する。砥石には粒子の大きい砂岩からきめ細かい頁岩・凝灰岩が用いられており、用途による石材選択が窺える。石剣には砂岩（アルコース質アレナイト）・黒色片岩・緑色片岩の3種類が用いられている。自然礫の中には軽石が2点、鉄鉱石が2点あり、鉄鉱石は著しく被熱している。

2) 記述の方法と観察表

資料の掲載についてはセット関係を重視して遺構出土の石器を提示し、次いで包含層資料を提示する。実測図の掲載順序については基本的に遺構個別図版の掲載順と対応している。包含層遺物については大グリッド単位でグリッドの若い方から掲載している。掲載資料の提示方法は実測図・写真で行い、記述は本文と観察表で行った。

器種の分類については、『図録石器入門辞典〈縄文〉』（鈴木道之助1991）、『元屋敷遺跡Ⅱ』（滝沢・高橋ほか2002）での分類を主に参照した。

観察表は、個々の石器の諸属性を記入した表で、実測図版の掲載順に記載してある。各器種の観察項目は、次のとおりである。

報告Noは、実測図の番号で通しNoを付けた。本文中の番号、実測図番号、観察表の遺物番号、写真図版の遺物番号は一致する。出土地点は、出土地点のグリッド名を小グリッドまで記入した。遺構名・層位は、遺構出土遺物は遺構名・層位の順に、遺構外出土の遺物は層位を記入した。分類は、細分類基準を記号化し、それを記入した。法量は、長さ（高さ）・幅・厚さ・重さの計測値を記入した。石材は、石質名を記入した。状態は、定形石器について、おおよその遺存状況を記入した。その他、必要な観察事項を備考欄に加えた。

3) 分類

① 石 鏃

鋭利な先端部を作り出す小型の石器を石鏃とする。分類は、基部の形状と中茎の有無を基準として大別し、それぞれ細分類した。

A類 凹基有茎鏃。基部が凹状で、中茎のあるもの。

B類 平基有茎鏃。基部が平らで、中茎のあるもの。

C類 凸基有茎鏃。基部が突出し、中茎のあるもの。

C1類 体部と基部の境に角をもつもの〔加藤2009〕。

C2類 体部と基部の境に丸みをもつもの〔加藤前掲〕。

C3類 基部の突出が不明瞭なもの。D類に近い。

D類 尖基鏃。基部が尖るもの。

E類 凹基無茎鏃。基部が凹状で、中茎のないもの。

② 石鏃未成品

素材剥片の大きさ・二次加工等から将来的に石鏃を意図して製作されたと推測されるが、何らかの理由により製作途中で断念したものである。大半のものが剥片の厚みを減じることができず、加工を断念したものである。

A類 大型の剥片を用いたもの。尖頭部・側縁部・基部・中茎の作出が試みられている。凸基有茎鏃（70・117）と尖基鏃（242）を意図したものが認められる。

B類 小型の横長剥片を用いたもの。尖頭部・側縁部の加工が成されている。

③石 錐

意識的に先端部を形成している石器の中で、石鏃を除くものを石錐とした。分類は形状を基準とした。

A類 基部と錐部の区別が明瞭なもの。全面に二次加工が施される。

B類 基部と錐部の区別が不明瞭なもの。

B1類 基部が広がる正面観のもの。基部全面には二次加工が施されない。

B2類 棒状を呈するもの。

C類 石鏃からの転用品。

④両極剥離痕のある石器

両極石器、楔形石器、ピエス・エスキーユなどと呼称される、縁辺部に階段状の剥離痕が対になっているもの。

A類 2極1対のもの。

B類 4極2対のもの。

⑤不定形石器

剥片を素材とし、形状は不定形であるものの、二次加工や使用痕が認められる剥片石器を不定形石器とした。

A類 連続剥離による浅角度の刃部を有するもの。従来、削器（サイド・スクレイパー）と呼ばれているものである。

B類 連続剥離による急角度の刃部を有するもの。従来、搔器（エンド・スクレイパー）と呼ばれているものである。

B1類 小型の連続剥離による片刃のもの。

B2類 両面加工による両刃のもの。

C類 抉入状の刃部を有するもの。

D類 連続剥離による急角度の刃部と、抉入状の刃部を有するもの。

E類 刃部の加工はないものの、使用の結果生じたものと推定される微細剥離・磨耗・光沢などの使用痕が認められるもの。

E1類 剥片の側縁・底縁を削器状に用いたもの。

E2類 剥片の急角度な一端を搔器状に用いたもの。

⑥磨製石斧

剥離、敲打を基本に成形され、研磨で仕上げられた斧形の石器を磨製石斧とした。完形品は2点のみで、他は刃部のみ、基部のみの欠損品である。ほとんどが定角式磨製石斧であり、刃部幅に比べ基部幅が小さくすぼまるものである。

A類 刃部は両刃で、平面形は角が丸まる円刃である。基端部は若干の面を持つか、尖っている。

B類 刃部は両刃で、平面形は刃部端が張り出す円刃である。基端部は尖っている。

⑦磨石類

片手で保持・使用できる法量の円礫または扁平礫に磨痕・凹痕・敲打痕の残る石器を磨石類とした。『五丁歩遺跡』〔高橋1992〕を参考に、使用痕の組み合わせにより以下のように分類した。ここでいう凹痕とは明確に凹痕を呈するもの、浅い凹痕のもの、器面が凹凸状に荒れるもので〔山田2002〕、正裏面上の敲打痕を含む。

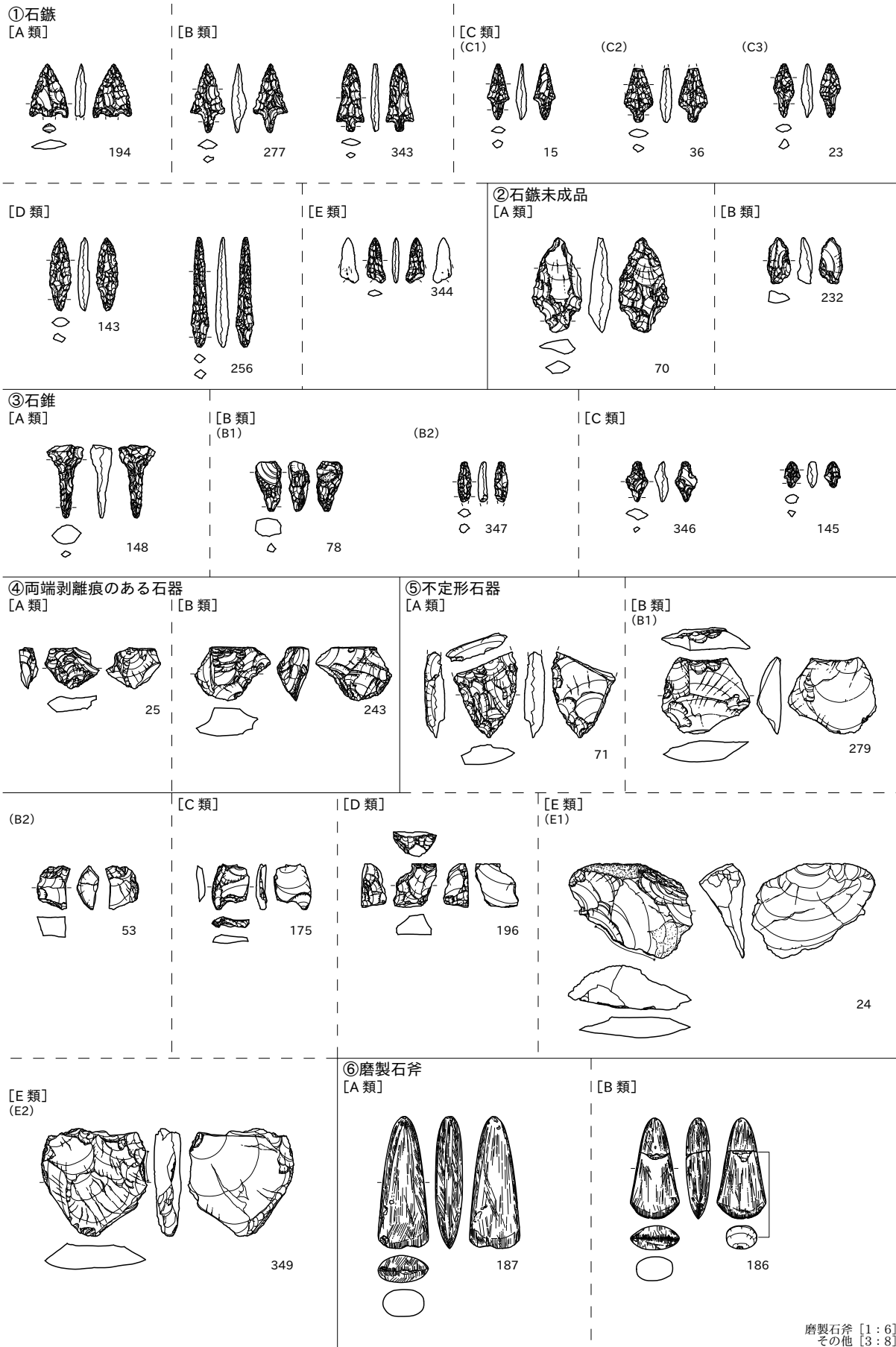
A類 磨痕のみ認められるもの。正裏面のいずれかに位置している。

B類 磨痕と凹痕が認められるもの。磨痕が正裏面のいずれかに位置している。

C類 磨痕と敲打痕が認められるもの。

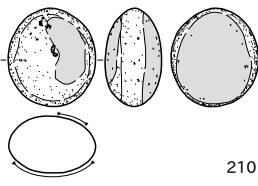
C1類 磨痕が正裏面のいずれかに位置し、敲打痕が端部に位置するもの。

C2類 磨痕が正裏面のいずれかに位置し、敲打痕が端部と側面に位置するもの。

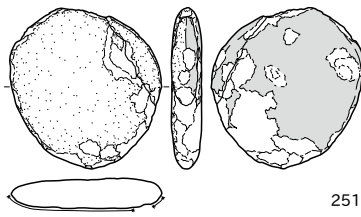


第26図 大沢谷内遺跡縄文時代石器分類図①

⑦磨石類
[A類]

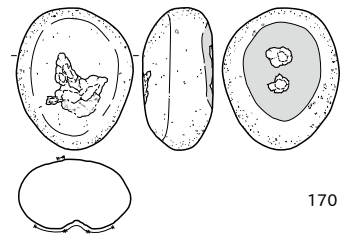


210



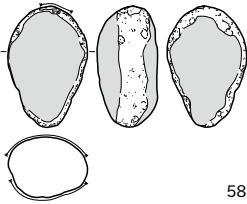
251

[B類]



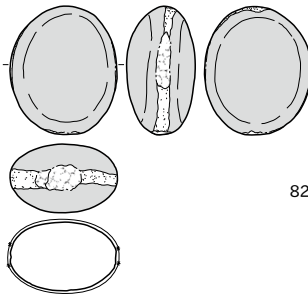
170

[C類]
(C1)



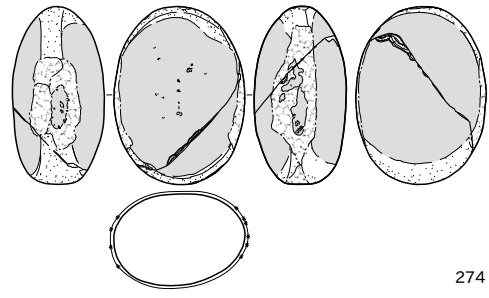
58

(C2)



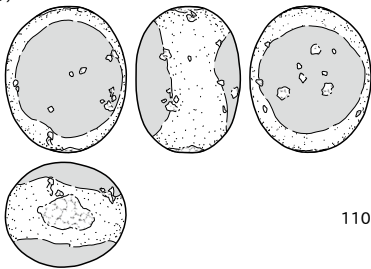
82

(C3)



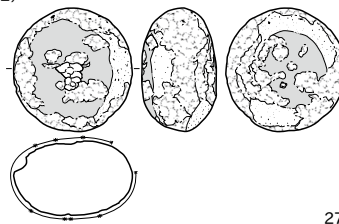
274

[D類]
(D1)

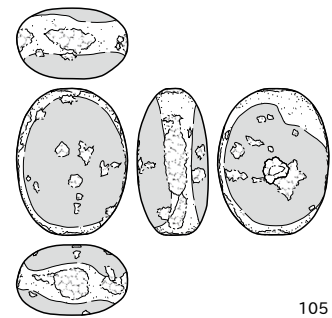


110

(D2)

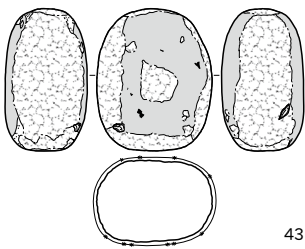


27

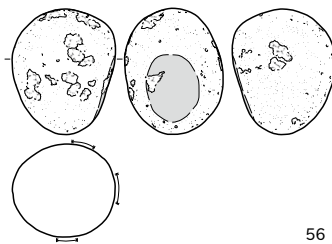


105

(D3)

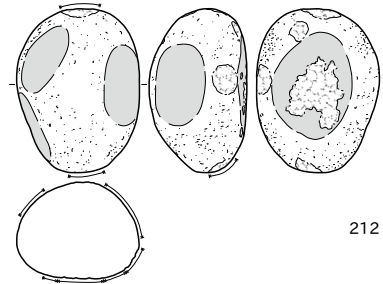


43



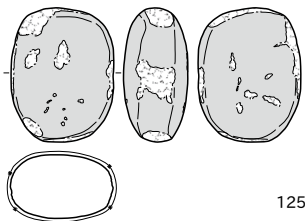
56

(D4)

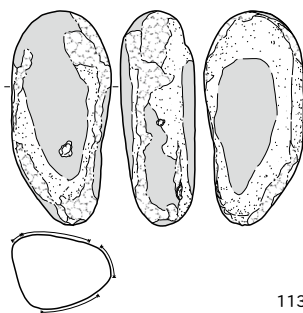


212

(D5)

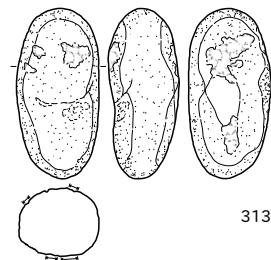


125



113

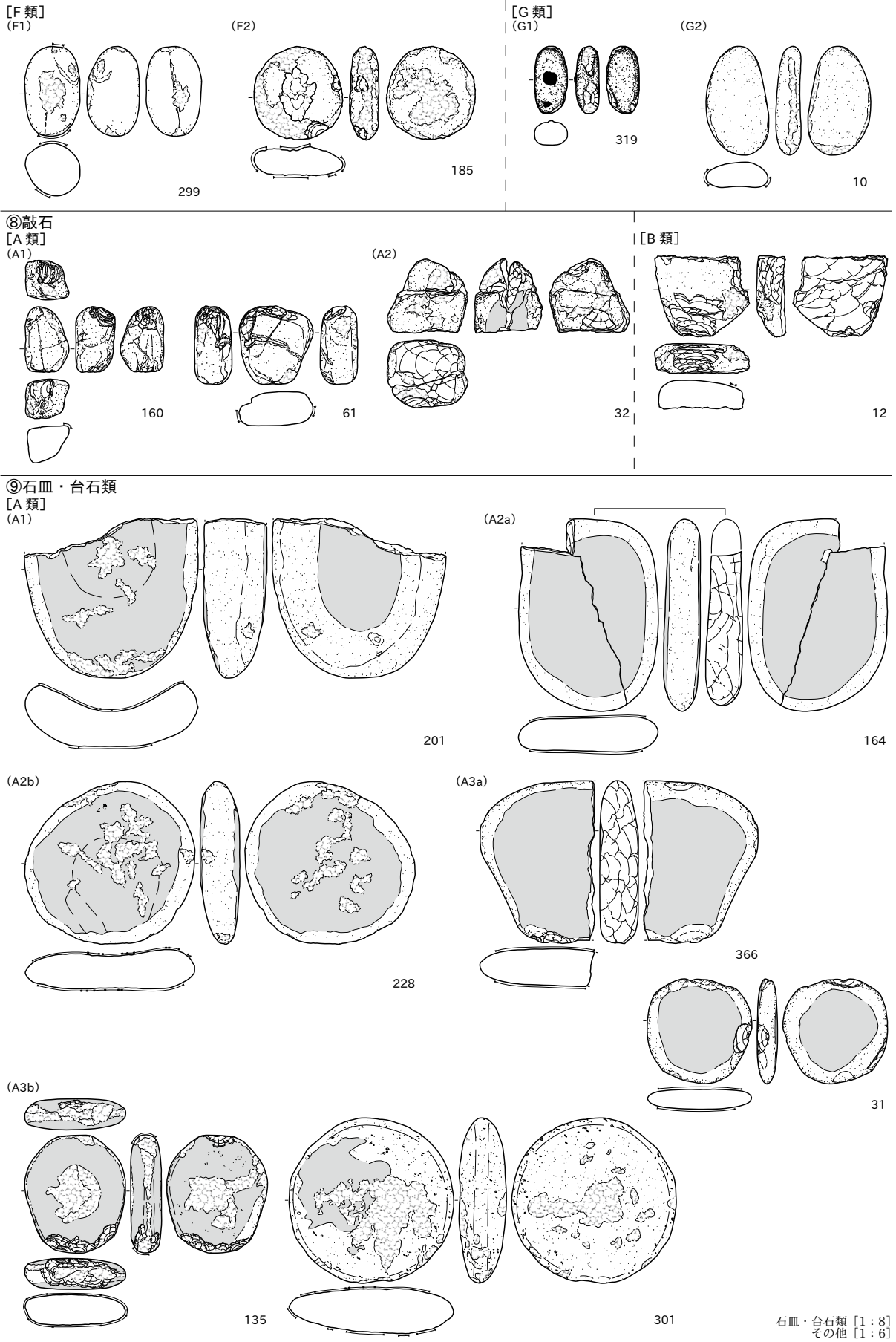
[E類]



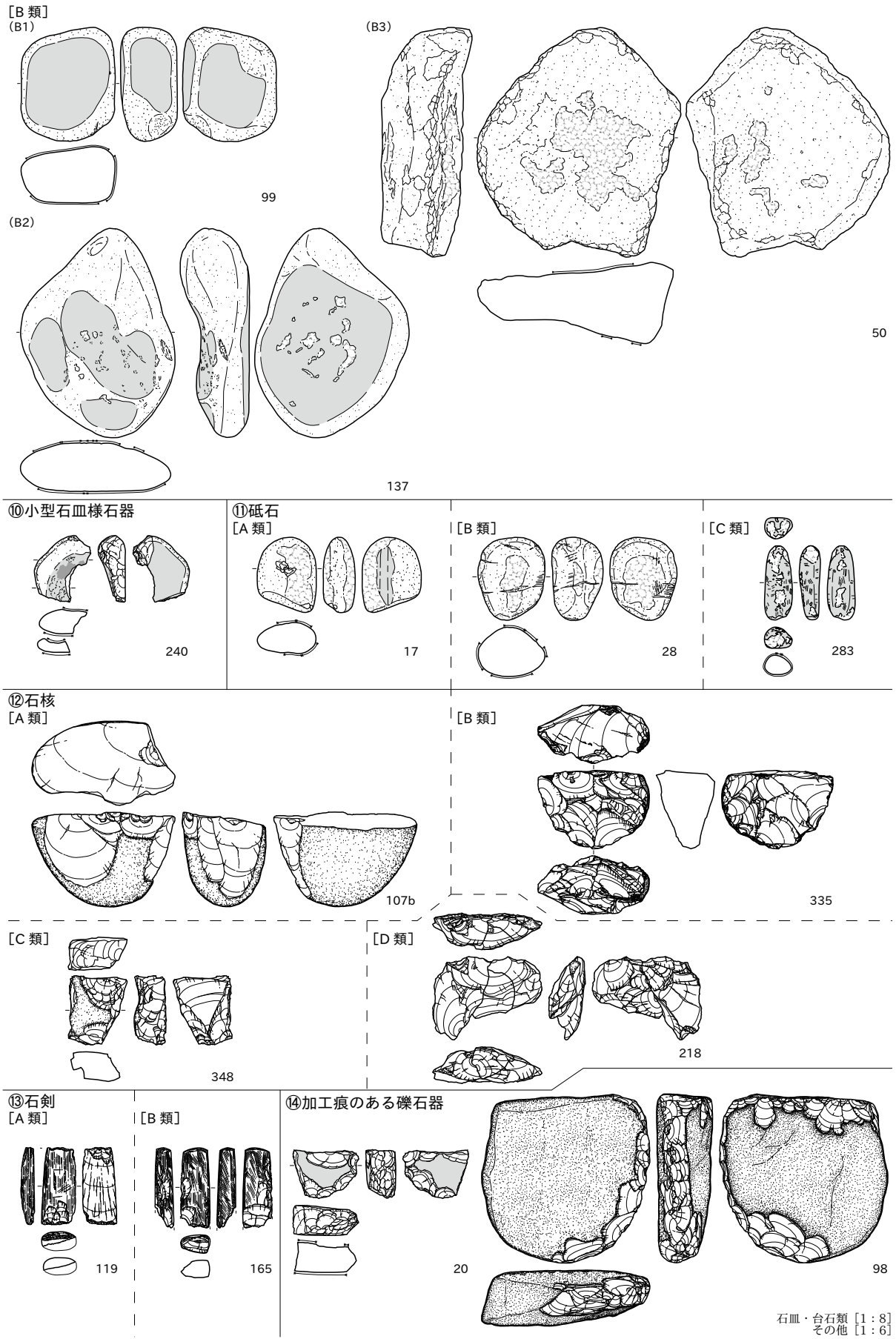
313

全て [1:6]

第27図 大沢谷内遺跡縄文時代石器分類図②



第 28 図 大沢谷内遺跡縄文時代石器分類図③



第29図 大沢谷内遺跡縄文時代石器分類図④

C3類 磨痕が正裏面のいずれかと側面に位置し、敲打痕が端部と側面に位置するもの。

D類 磨痕・凹痕・敲打痕すべて認められるもの。

D1類 磨痕が正裏面のいずれかに位置し、敲打痕が端部に位置するもの。

D2類 磨痕が正裏面のいずれかに位置し、敲打痕が端部と側面に位置するもの。

D3類 磨痕が側面に位置し、敲打痕が端部と側面に位置するもの。

D4類 磨痕が正裏面のいずれかと側面あるいは端部に位置し、敲打痕が端部に位置するもの。

D5類 磨痕が正裏面のいずれかと側面あるいは端部に位置し、敲打痕が端部と側面に位置するもの。

E類 凹痕のみ認められるもの。

F類 凹痕と敲打痕が認められるもの。

F1類 敲打痕が端部に位置するもの。

F2類 敲打痕が端部と側面に位置するもの。

G類 敲打痕のみ認められるもの。下記の「敲石」を除いたものである。

G1類 敲打痕が端部に位置するもの。

G2類 敲打痕が端部と側面に位置するもの。

⑧ 敲石

比較的硬質な素材礫が使用されているもので、垂円礫・垂角礫の稜線上、端部に敲打痕が認められるものを敲石とした。敲打痕には潰れと剥離痕が認められる。分割礫素材を用いるものも含み、石皿・台石類の分割片が転用されているものもある。

A類 礫素材のもの。

A1類 敲打痕のみのももの。

A2類 狭い平坦面に磨痕を伴うもの。

B類 分割礫素材のもの。

⑨ 石皿・台石類

大型の礫素材に磨痕・敲打痕等の使用痕跡が認められるものを一括した。扁平礫と比較的平坦な厚手の不定形な礫素材があり、前者が石皿、後者が砥石、もしくは台石に分類されるものであるが、使用痕の組み合わせが共通するため本稿では一括して扱った。

A類 大型扁平礫の1面または2面に広い使用面をもつもの。

A1類 使用面が加工により弓状に深くくぼむもの。いわゆる石皿である。磨痕と敲打痕が認められる。

A2類 使用面が使用により緩くくぼむもの。いわゆる石皿である。磨痕のみのももの(A2a類)と、磨痕と敲打痕が認められるもの(A2b類)がある。

A3類 使用面がほぼ平坦、もしくは凸状に緩く膨らむもの。磨痕のみのももの(A3a類)と、磨痕と敲打痕が認められるもの(A3b類)がある。A3b類には周縁に敲打痕が認められるものがある(30・44・135・206・227・241・301・305)。

B類 比較的平坦な礫の1面ないし複数面に使用面をもつもの。磨面は素材礫の平坦な部分に限られるためA類よりも狭く、素材礫は厚手のものが多い。台石・砥石の範疇に分類されるものも含まれる。

B1類 磨面のみが認められるもの。

B2類 磨面と敲打痕が認められるもの。

B3類 敲打痕のみが認められるもの。いわゆる台石である。

⑩ 小形石皿様石器

1点のみの出土である(240)。形状が球形～半球形の礫で平坦面が大きくくぼむ小形石皿様石器〔滝沢^{ほか}前掲〕とは形状が異なる。正面の使用面は弓状に深くくぼみ、裏面の使用面には磨痕が認められる。正面のくぼみは加

工によるものではなく自然の形状を利用したものとする。正面のくぼみには黒色の付着物と磨痕・敲打痕が認められ、植物質の対象物を磨り潰したものと推測する。

⑪砥石

すべて手持ちのものである。研磨痕の種類により大別した。

A類 溝状の研磨痕が認められるもの。敲打痕が認められるものがある。

B類 筋状の研磨痕が認められるもの。敲打痕も認められる。

C類 線状の研磨痕が認められるもの。敲打痕が認められるものがある。

⑫石核

剥片剥離作業が進行した段階の残核と、剥離作業前の調整石核である。

A類 円礫を半截したものを素材とし、半截面を打面として素材の周縁を作業面とするもの。

B類 円礫を半截したものを素材とし、半截面と周縁を打面として正裏面中央に向かって剥離するもの。

C類 上下に対向する打面を有するもの。

D類 古い剥離面を打面として打面転移を繰り返すもの。不定形な剥離痕がのこる。

⑬石剣

全て欠損品であり、側縁・端部に二次加工・敲打痕が認められることから再加工または敲打具としての再利用が考えられる。断面形状から2種に分類した。

A類 断面形が楕円形のもの。

B類 断面形がやや片刃状のもの。

⑭加工痕のある礫石器

大型礫、石皿・台石類の分割片に明確な加工が施されているもの。周縁に連続的な交互剥離による意図的な加工が認められるものである。刃部状となるが使用の痕跡はない。20と98の2点のみである。

⑮自然礫（搬入礫）

使用痕、調整・加工痕が認められない礫を一括した。本遺跡には礫層が存在しないため、すべて遺跡への搬入礫と考える。

4) 出土石器各説

①遺構出土石器（図版230～287、写真図版227～261）

SI164（図版230、写真図版227）

SI164内のSK16出土の磨石類(1～3)を図示した。1・2はD2類。2の下端は強い敲打により剥離している。3は花崗岩で、風化が著しく使用痕の詳細は不明である。

SI556（図版230、写真図版227）

石鏃(4・5)を図示した。両者とも凸基有茎鏃のC1類である。5は右側基部のほうが突出しており、先端は衝撃剥離している。

SI152（図版230、写真図版227）

磨石類(6)、敲石(7)、石皿・台石類(8)を図示した。6はD2類、7は小礫の端部に敲打による剥離痕が認められるA1類である。8は使用面が平坦なA3a類の分割片である。分割後の使用痕は認められない。

SI700（図版230・231、写真図版227）

不定形石器(9)、磨石類(10)、石皿・台石類(11)、敲石(12)を図示した。9は上端に短い急角度の剥離により搔器状の刃部が作出されたB1類である。下端にも調整痕が認められ、柄の装着部分の可能性もある。10は敲打痕のみのG2類。11は分割片。12は石皿・台石状の扁平礫の分割片を用いた敲石B類である。

SI579（図版231、写真図版227）

石鏃(13)、不定形石器(14)を図示した。13は凸基有茎鏃のC1類で、基部から中茎部分にかけてアスファ

ルトが付着している。14は剥片の上端部の急角度な一端を搔器状に用いたE2類である。

SI580 (図版231、写真図版227)

石鏃(15・16)、砥石(17・19)、磨石類(18)、加工痕のある礫石器(20)を図示した。石鏃(15・16)は凸基有茎鏃のC1類。15は横長剥片を素材としている。16の裏面の剥離は被熱による剥落である。砥石(17・19)は溝状の研磨痕が認められるA類である。17の正裏面には敲打痕が認められる。18は磨石類D5類で、一部強い敲打により欠損している。20は石皿・台石類A3類の分割片に鋸歯縁状の両刃が作出されている。刃部の使用痕跡は認められない。

SI670 (図版231、写真図版228)

軽石(21)、石皿・台石類(22)を図示した。21の正裏面は滑らかであるが使用痕は不明である。22はA3b類である。正裏両面使用されている。裏面の一部に敲打痕が認められる。

SI837 (図版232、写真図版228)

石鏃(23)、不定形石器(24・26)、両極剥離痕のある石器(25)、磨石類(27)、砥石(28)、敲石(29)、石皿・台石類(30・31)を図示した。23は凸基有茎鏃C3類である。左側縁が欠損している。被熱が著しい。24は底縁に使用痕が認められるE1類。25は上下端に剥離痕が認められる2極1対のA類。26は上端右側に急角度の連続剥離が認められるB1類。27は周縁に敲打痕がめぐるD2類。磨りの程度は弱い。周縁上部にアスファルトの付着が見られる。28は正裏面、端部、側縁に敲打痕が認められ、正裏面から側面にかけての稜部分に筋状の研磨痕が認められるB類。29は分割礫の端部に敲打痕が認められるB類である。30はやや厚みのある扁平礫の正裏面に磨痕、正面・周縁に敲打痕が認められるA3b類。31は扁平礫の正裏面に磨痕が認められるA3a類である。

SI790 (図版233、写真図版228)

敲石(32)を図示した。垂角礫の稜上・端部に敲打痕、平坦面に磨痕が認められるA2類である。強い敲打による分割・剥離痕が認められる。

SI501 (図版233、写真図版229)

磨石類(33・34)、不定形石器(35)を図示した。33・34はD2類である。34の上端部は強い敲打による剥離後も叩き潰しに用いられている。上端の一部にアスファルトの付着が見られる。35はE1類である。凝灰岩質の大型礫から取られた横長剥片の底縁を使用している。

SI710 (図版233～236、写真図版229・230)

石鏃(36)、磨石類(37～41・43)、敲石(42)、石皿・台石類(44～46)を図示した。36は凸基有茎鏃のC2類。先端が欠損している。中茎にアスファルトが付着している。37・38はD2類、39は風化が著しく端部の敲打痕以外は不明である。40はF1類である。41はD5類、42は敲石A2類、43はD2類で側面の一部にアスファルトの付着が見られる。44は小型の石皿・台石類A3b類。側面を敲打に用いている。45はB2類、46はB3類である。

SI951 (図版236、写真図版230)

不明石器(47)、磨石類(48・49)を図示した。47の左右側面には礫表が残っている。刃部の作出は認められず、何らかの調整剥片と考える。48はB類、49は風化が著しく正裏面の一部に敲打痕が認められるのみである。

SK27 (図版237、写真図版231)

石皿・台石類(50)を図示した。敲打痕のみのB3類で、台石として用いられたものである。

SK38 (図版238、写真図版231)

石皿・台石類(51)を図示した。A3b類の分割片である。

SK28 (図版238、写真図版232)

石皿・台石類(52)を図示した。敲打痕のみのB3類で、台石である。

SK58 (図版 238、写真図版 232)

不定形石器 (53) を図示した。B2 類である。

SK206 (図版 238・239、写真図版 232)

磨石類 (54～59)、石皿・台石類 (60) を図示した。54 は D2 類、55 は F1 類、56 は D3 類、57 は風化が著しく分類不可であるが、正裏面に磨痕、正面に敲打痕が認められる。58 は C1 類。59 は D1 類である。60 は A3b 類である。側縁の一部に剥離が見られる。

SK126 (図版 240、写真図版 232)

敲石 (61) を図示した。A1 類である。

SK552 (図版 240、写真図版 232・233)

磨石類(62)、石皿・台石類(63)を図示した。62 は D2 類。63 は A2b 類で正裏面ともに使用によりくぼんでいる。

SK489 (図版 241・242、写真図版 233・234)

石皿・台石類 (64・65) を図示した。64 は A2b 類、65 は A3b 類であり、両者とも正裏両面使用されている。

SK208 (図版 242、写真図版 234)

敲石 (66) を図示した。A1 類である。敲打により分割している。

SK257 (図版 242、写真図版 234)

石鏃 (67)、磨石類 (68) を図示した。67 は D 類で中茎部分が欠損している。基部にアスファルトの付着が見られる。68 は F2 類である。小型の石皿状の扁平礫を用いている。

SK277 (図版 242、写真図版 234)

磨石類 (69) を図示した。D2 類である。

SK246 (図版 242、写真図版 234)

石鏃未成品 (70)、不定形石器 (71) を図示した。70 は A 類。71 は A 類である。正面の調整痕から尖頭器もしくは石鏃の失敗品を転用したものとする。

SK278 (図版 243、写真図版 234)

石皿・台石類 (72) を図示した。分割片である。右側面に敲打痕があり、分割後に敲石に転用した可能性がある。

SK216 (図版 243、写真図版 234)

磨石類 (73) を図示した。D2 類である。正裏面の磨痕と周縁の敲打痕が顕著である。

SK212 (図版 243、写真図版 234・235)

磨石類 (74・75)、石皿・台石類 (76) を図示した。74 は D2 類、75 は風化が著しく分類不可であるが、正裏面に磨痕、正面に敲打痕が認められる。76 は A2b 類である。正裏面使用され、裏面は敲打痕のみの台石としての利用が考えられる。

SK248 (図版 244、写真図版 235)

敲石 (77) を図示した。A1 類である。正面の稜部分の敲打により剥離し、その剥離面の周縁も敲打面として使用している。

SK337 (図版 244、写真図版 235)

石錐 (78) を図示した。B1 類。基部の加工が曖昧である。

SK196 (図版 244、写真図版 235)

石皿・台石類 (79) を図示した。B2 類である。包含層 (3J-8I24) 出土の分割片と接合している。

SK367 (図版 244、写真図版 235)

敲石 (80) を図示した。A1 類である。

SK463 (図版 244、写真図版 235)

磨石類 (81) を図示した。D2 類である。

SK440 (図版 244・245、写真図版 235・236)

磨石類 (82・83) を図示した。82 は C2 類、83 は D2 類である。

SK368 (図版 245、写真図版 236)

敲石 (84) を図示した。A1 類である。

SK566 (図版 245、写真図版 236)

軽石 (85) を図示した。使用痕は認められない。

SK249 (図版 245・246、写真図版 236)

磨石類 (86・87)、石皿・台石類 (88・89) を図示した。86・87 は D2 類である。両者とも敲打により端部が剥離している。88 は石皿・台石類 A2a 類、89 は A3a 類である。両者とも分割されている。88 は包含層 (4J-2E14) 出土の分割片と接合している。

SK151 (図版 246、写真図版 236)

敲石 (90) を図示した。A1 類である。

SK140 (図版 246、写真図版 236)

磨石類 (91) を図示した。D2 類である。

SK413 (図版 246、写真図版 236)

磨石類 (92) を図示した。B 類である。

SK649 (図版 246、写真図版 236)

砥石 (93) を図示した。右上がりの線状の研磨痕が認められる C 類である。一部に黒色の付着物が見られるが詳細は不明である。

SK541 (図版 246、写真図版 236)

磨石類 (94) を図示した。F1 類である。端部に敲打痕が集中している。

SK349 (図版 246、写真図版 237)

磨石類 (95) を図示した。D2 類である。周縁は風化によるものか敲打によるものか剥落が著しい。

SK594 (図版 246、写真図版 237)

磨石状の礫 (96) を図示した。表面が風化しているため使用痕が不明である。

SK495 (図版 247、写真図版 237)

磨石類 (97)、加工痕のある礫石器 (98)、石皿・台石類 (99) を図示した。97 は C2 類である。98 は台石状礫の周縁の一部に交互剥離による刃部状の剥離痕が認められる。用途は不明である。99 は厚みのある礫で磨痕のみが認められる。B1 類である。

SK517 (図版 248、写真図版 237・238)

石皿・台石類 (100・101) を図示した。100 は B2 類、101 は A2b 類である。両者とも正裏面使用されている。101 の正面は使用により若干くぼんでいる。

SK935 (図版 248、写真図版 238)

石皿・台石類の分割片 (102) を図示した。敲石への転用の可能性も考えられる。

SK835 (図版 249、写真図版 238)

石皿・台石類 (103) を図示した。A2b 類である。正裏面使用されているが、正面側の磨痕が顕著で緩くくぼんでいる。

SK459 (図版 249、写真図版 238)

磨石類 (104・105) を図示した。両者とも D2 類である。104 には腐植物が付着している。一見、肉眼観察ではアスファルトと酷似するが、葉脈痕が確認でき、また有機溶剤に不溶であるため腐植物と判断した。

SK921 (図版 249・250、写真図版 239)

敲石(106)、石核・剥片(107)を図示した。106はA1類。上下端部を強い敲打に用いた敲石である。107は接合資料の石核と剥片である。円礫を半截し、その半截面を打面として周縁からやや縦長の剥片を連続剥離しているA類である。剥片は縁辺が若干磨耗、または微細剥離しており、削器として用いられたと考えられる。明瞭な二次加工はない。

SK839(図版251・252、写真図版240)

石皿・台石類(108)、磨石類(109～112)を図示した。108は風化により使用痕は不明である。台石か。109・112はD2類、110・111はD1類である。

SK920(図版252、写真図版240)

磨石類(113)を図示した。D5類である。

SK1002(図版252、写真図版240・241)

砥石(114)、石皿・台石類(115)を図示した。114は包含層(3J-10D20)出土の分割片と接合している。右側面と右側面から裏面にかけての部分に線状痕が認められる。C類である。115はB2類である。使用面は正面側のみである。

SK963(図版253、写真図版241)

石皿・台石類(116)を図示した。B2類である。

SK714(図版253、写真図版241)

石鏃未成品(117)を図示した。A類である。直接打撃による成形段階のものである。左側縁の厚みが減じられず製作途中で廃棄されたものとする。

SK715(図版253、写真図版241)

敲石(118)を図示した。A1類である。端部が敲打により剥離している。

SK722(図版253、写真図版241)

石剣(119・120)、石鏃未成品(121)、敲石(122)を図示した。119・120は石剣の胴部片である。断面形が楕円形のA類である。両者とも端部に剥離痕があり、敲石への転用か再加工を施そうとした可能性がある。石材から両者は別個体とする。121はB類。122はA1類の敲石である。端部にアスファルトの付着が見られる。

SK718(図版253、写真図版241)

石鏃未成品(123)を図示した。A類である。直接打撃による成形段階であるが、厚みを減じることができずに剥離作業がとまっている。被熱が著しい。

SK586(図版253・254、写真図版241・242)

磨石類(124～127)を図示した。124・126・127はD2類、125はD5類である。

SK915(図版254、写真図版242)

石鏃(128)を図示した。凸基有茎鏃のC1類。右側基部のほうが突出している。中茎が欠損している。

SK1005(図版254、写真図版242)

敲石(129)を図示した。B類である。台石状の礫から作出された分割片の周縁を敲打に用いている。

SK985(図版254、写真図版242)

磨石類(130)を図示した。風化が著しく正面に敲打痕が若干認められるのみである。

SK965(図版254、写真図版242)

鉄鋳石(131)を図示した。被熱が著しく礫表の一部が剥落している。

Pit445(図版254、写真図版242)

石剣(132・133)を図示した。胴部の碎片である。石材は砂岩であり、調整擦痕の状態と合わせてSD338出土の165と同一個体の可能性が高い。

Pit488(図版254、写真図版242)

石核(134)を図示した。凝灰岩の台石状礫が石核状に分割されている。古い剥離面を打面として打面転移を繰り返すD類である。

Pit936 (図版 254、写真図版 242)

小型の石皿・台石類(135)を図示した。A3b類である。上下端部の両極が敲打されている。

Pit475 (図版 254、写真図版 242)

不定形石器(136)を図示した。右側縁に急角度の刃部を有するB1類である。

SX996 (図版 255、写真図版 242)

石皿・台石類(137)を図示した。B2類である。正裏面使用されている。

SX424 (図版 255、写真図版 243)

敲石(138)、石皿・台石類(139)を図示した。138はA1類である。上下の稜部分で敲打している。139はA3b類の分割片である。

SX799 (図版 256、写真図版 243)

台石状礫(140)、磨石類(141)を図示した。140は台石状の大型礫であるが使用痕は確認できない。搬入した状態のものとする。141は正裏面に磨面のある磨石類の分割片である。

SD192 (図版 256～259、写真図版 243～245)

石鏃(142～144)、石錐(145～148)、石核(149)、剥片(150)、磨石類(151～159)、敲石(160)、石皿・台石類(161・162～164)を図示した。142・144は凸基有茎鏃で、142はC1類、144はC2類。142は右側基部のほうが突出している。144は先端・中茎部分が欠損している。142と同様に右側基部のほうが突出している。143は尖基鏃のD類である。基部・中茎部分にアスファルトの付着が見られる。145・146は中茎が欠損した石鏃から転用されたC類である。145は凸基有茎鏃、146は尖基鏃からの転用である。両者とも両端に擦痕が見られる。147はB2類、148はA類である。149は石核D類。被熱している。150は台石状の大型礫を素材とした剥片である。151は磨石類G1類の破片である。被熱が著しい。152はC1類、153はC2類であり、被熱している。154・156～159はD2類、155はD5類である。160は敲石A1類。161は石皿・台石類B3類の台石である。分割されている。162は分割片、163はA3a類の石皿・台石類が分割・廃棄されたものの接合資料である。163の分割片は敲石に転用されている。164はA2a類。半割して廃棄された状態であった。

SD338 (図版 259・260、写真図版 245)

石剣(165)、磨石類(166)を図示した。165は断面がやや片刃状になるB類である。左側面の敲打痕が顕著である。石材は砂岩。132・133の碎片は同一個体の可能性が高い。166はD2類である。

SD846 (図版 260、写真図版 245)

磨石類(167)を図示した。正裏面の磨痕が顕著なため磨石類に分類した。D2類である。正裏面の下端寄りに凹痕・敲打痕が見られる。上端側を持ち、ハンマーのように使用したものと推察する。また上下端部、左右側面の対峙する位置に剥離痕が認められ、錘への転用の可能性も考えられる。

②包含層出土石器 (図版 260～285、写真図版 245～260)

3J-1I (図版 260、写真図版 245)

168はアスファルトがほぼ全面に付着した扁平な磨石類である。小型の石皿類ともいえるサイズである。正面の一部と上部側面の一部のみ付着が希薄である。石器自体には敲打痕が認められ、被熱している。裏面の使用痕についてはアスファルト付着のため不明である。F2類に分類した。169はアスファルトが付着した小型の円礫である。使用痕はないが被熱が著しい。170は磨石類B類である。正面の敲打痕が顕著である。

3K-1A (図版 260、写真図版 245)

171は磨石類A類である。礫の平坦面を使用している。

3J-2I (図版 261、写真図版 246)

172は石皿・台石類 A3b 類である。正裏両面使用している。一部敲打により剥離している。173は磨石類 F2 類である。正裏面に凹痕、周縁が敲打されている。

3J-3H (図版 261、写真図版 246)

174は磨製石斧の基部である。基端部の剥離痕・敲打痕は研磨痕より新しいため、破損後に敲石に転用した可能性も考えられる。石材は閃緑岩である。175は抉入状の刃部をもつ不定形石器 C 類である。

3J-3I (図版 261・262、写真図版 246・247)

176は敲石 A1 類である。177は敲石 A2 類。裏面の平坦な部分にのみ磨痕が認められる。178は石皿・台石類 B3 類の台石である。正面のみの使用である。一部が敲打により剥離・分割されている。

3J-4H (図版 262・263、写真図版 247)

179は磨製石斧の刃部破片である。形状から A 類とした。石材は閃緑岩であり 174の基部破片と同一個体の可能性がある。180は磨石類 C2 類である。181は敲石 A1 類である。

3J-4I (図版 263、写真図版 247)

182は磨製石斧の刃部付近の破片である。石材は緑色凝灰岩であり、本遺跡ではこの 1 点のみである。敲石に転用している可能性がある。183は磨石類 G1 類である。下端のみを敲打に用いている。184は敲石 A1 類である。185は扁平な礫を用いた磨石類 F2 類であり、正面の敲打痕は凹痕となっている。

3J-4J (図版 263・264、写真図版 248)

186は磨製石斧 B 類である。本グリッドからは基部が出土し、刃部側は 4J-1E13 グリッドからの出土である。距離を隔てた接合関係が認められた。石材はドレライトである。187は磨製石斧 A 類である。石材は閃緑岩である。刃部に若干の欠損が見られるだけの完形である。188は石皿・台石類 A3b 類である。正裏両面使用されている。敲打痕は少ない。一部に剥離痕がある。189は石皿・台石類 A2b 類である。風化が著しいが正裏両面使用されている。

3J-5I (図版 264・265、写真図版 248・249)

190は磨石類 D2 類である。191は石皿・台石類 A3a 類である。分割され、本グリッドのほか、3J-5J・6H・6I・6J・8G・8I グリッドから出土している。分割片の一部は周縁を敲打に用いた敲石に転用されている。192は磨石類 D2 類である。側面の敲打面積が広く、平坦になっている。193は磨石類の分割片である。

3J-5J (図版 265・266、写真図版 249)

194は凹基有茎鏃の石鏃 A 類である。中茎部分が欠損している。本遺跡では 1 点のみの出土である。195は凸基有茎鏃の石鏃 C3 類である。先端欠損後、再加工が施されている。196は不定形石器 D 類である。上端部に明瞭な急角度の連続剥離による搔器状の刃部を有し、左側縁が抉入状の刃部となっている。両刃部には使用による潰れが観察できる。197は大型礫から剥離されたやや縦長の剥片である。使用痕はない。198は磨石類 D1 類である。分割され、3J-5I25 グリッドからも分割片を図示した。199は風化が著しく使用痕が不明な磨石状礫である。200は磨石類の分割片である。正面には凹痕、周縁にも敲打痕が顕著である。201は石皿・台石類 A1 類である。本遺跡で唯一の使用面が深くくぼむ石皿である。裏面の平坦部にも磨痕が認められる。上部が欠損した状態での出土である。202は被熱破碎した磨石類である。3J-8H グリッドからも破砕片を図示した。203は敲石 A1 類である。敲打により上下端部が剥離している。上端部は剥離後の稜を利用してさらに敲打している。

3J-6F (図版 266、写真図版 249)

204は平基有茎鏃の石鏃 B 類である。右側基部がやや丸い。205は石皿・台石類 A3 類の分割片である。二次利用の痕跡は認められない。

3J-6G (図版 267、写真図版 250)

206は石皿・台石類 A3b 類である。周縁にも敲打痕が認められる。207は石皿・台石類 A3 類の分割片である。二次利用の痕跡は認められない。

3J-6H (図版 267・268、写真図版 250)

208 は石錐の錐部である。破損面から使用時の回転による欠損と考えられる。209 は敲石 B 類である。分割礫の稜部分で敲打している。210 は磨石類 A 類である。正面上部にアスファルトの付着が見られる。211 は磨石類 D2 類である。一部剥離している。正裏面の平坦面が良く磨られている。212 は磨石類 D4 類である。213・214 は石皿・台石類 A3 類の分割片である。二次利用痕跡は認められない。

3J-6I (図版 268、写真図版 250)

215 は凸基有茎鏃の石鏃 C3 類である。右側基部がやや突出している。中茎部分が欠損している。基部にアスファルトの付着が見られる。216・217 は欠損した石錐である。216 は欠損後も再調整を行い使用されている。218 は打面転移を繰り返す石核 D 類である。正面の横長剥片剥離時に分割しているが、分割後も打面転移させながら小規模の不定形な剥片を剥離している。219 は正面・端部・側面に敲打による剥離・潰れが見られる敲石 A1 類である。220・221 は磨石類 F2 類である。正面には敲打痕が集中して凹痕となっている。221 は扁平な礫を用いている。222 は石皿・台石類から剥離された剥片が素材の不定形石器 E1 類である。縁辺部には使用による磨耗痕が見られる。

3J-6J (図版 268・269、写真図版 250・251)

223・224 は磨石類 D2 類である。225・226 は敲石 A1 類である。端部が敲打により剥離している。227 は石皿・台石類 A3b 類、228 は A2b 類である。227 の正面には腐植物が付着している。肉眼観察ではアスファルトと酷似するが、葉脈痕が確認でき、また有機溶剤に不溶であるため腐植物と判断した。228 の正面側上部のくぼみにはアスファルトが確認された。

3J-7E (図版 270、写真図版 251)

229 は磨石類であるが風化が著しい。わずかな磨痕と端部の敲打痕のみが認められた。230 は磨石類 D2 類である。正裏面の敲打痕は凹痕となっている。端部の敲打により分割している。分割片は 3J-7F14・8E15 グリッドからも出土している。231 は石皿・台石類 A3b 類である。正裏両面使用されている。

3J-7F (図版 270、写真図版 251・252)

232 は石鏃未成品である。小型の横長剥片が素材となっている B 類である。左側縁の厚みが減じられずに調整が止まっている。233 は磨石類 D4 類である。3J-8F18 から出土した分割片と接合している。234 は敲石 A1 類である。235 は石皿・台石類の分割片である。

3J-7G (図版 271、写真図版 252)

236 は凸基有茎鏃の石鏃 C1 類である。中茎にアスファルトが付着している。237 は凸基有茎鏃の石鏃 C3 類である。先端と中茎部が欠損している。238・239 は磨製石斧の基部破片である。両者とも石材はドレライトである。240 は小型の石皿様の礫石器である。正面の使用面は弓状に深くくぼみ、裏面の使用面には磨痕が認められる。正面のくぼみは加工ではなく自然の形状を利用したものと思われる。そのくぼみには黒色の付着物と、磨痕・敲打痕の使用痕が認められるため、タンニンを含む植物質の対象物を磨り潰したものと推測する。241 は磨石類 D2 類である。形状は小型の石皿・台石類である。分割しており、分割片は 3J-8H グリッドからも出土し接合している。

3J-7H (図版 271・272、写真図版 252・253)

242 は石鏃未成品 A 類である。やや大型の尖基鏃を意図したものと推測する。243 は両極剥離痕のある石器 B 類である。244 は磨製石斧の刃部破片である。石材は透閃石岩であり、本遺跡ではこの 1 点のみである。245～248 は磨石類 D2 類。249 は磨石類 G2 類で、端部と側面を敲打に用いている。250 は敲石 A1 類である。251 は磨石類 A 類である。非常に扁平な礫を素材としている。252 は石皿・台石類 A3b 類、253 は石皿・台石類 A3a 類である。252 は分割後、周縁部分を敲打に用いる敲石に転用している。253 は正面に黒色の付着物範囲が見られる。タンニンを含む植物を対象に作業されたことが推測される。

3J-7I (図版 273、写真図版 253)

254 は石皿・台石類 A3b 類である。敲打により分割されている。255 は石皿・台石類の分割片を敲石に転用した敲石 B 類である。

3J-7J (図版 273・274、写真図版 253・254)

256 は尖頭部が長い尖基鏃の石鏃 D 類である。中茎にはアスファルトの付着が見られる。257 は磨石類 D2 類である。258・259 は敲石 A1 類である。260 は磨石類 F2 類である。261 は台石の分割片が転用された敲石 B 類である。周縁を敲打に用いている。262 は端部を敲打に用い、正面・右側面・裏面に線状の研磨痕が見られる砥石 C 類である。下端は敲打により欠損している。263 は小型の石皿・台石類である。敲打痕のみの B3 類の台石である。264 は石皿・台石類 A3 類である。風化が著しく、一部の磨痕のみが認められた。

3J-8E (図版 274、写真図版 254)

265 は凸基有茎鏃の石鏃 C1 類である。先端が欠損している。266 は頁岩の円礫の平坦部分に線状の研磨痕が認められるため、砥石 C 類とした。

3J-8F (図版 274、写真図版 254)

267 は鉄鉱石の原石である。使用の痕跡は認められないが被熱が著しい。268 は敲石 A1 類である。

3J-8G (図版 274・275、写真図版 254)

269・270 は基部の突出が目立たない凸基有茎鏃の石鏃 C3 類である。両者とも基部から中茎部分にアスファルトの付着が見られる。269 は中茎、270 は先端が欠損している。271 は不定形石器 E1 類である。右側縁の一部を使用している。272・273 は敲石 A1 類である。274 は磨石類 C3 類である。側面の敲打痕が顕著である。275 は不定形石器 E1 類である。石皿から作出された剥片と考えられる。右側縁から底縁にかけて縁辺が磨耗している。276 は敲石 A1 類である。敲打により分割している。

3J-8H (図版 275・276、写真図版 254・255)

277 は平基有茎鏃の石鏃 B 類、278 は小型の凸基有茎鏃の石鏃 C1 類である。277 の中茎部分にはアスファルトが付着している。279 は不定形石器 B1 類である。剥片打面側の厚みを利用して急角度の刃部を設けている。また左側縁部にも急角度の小型の剥離痕が認められ、搔器状の刃部となっている。280 は磨石類 F2 類である。裏面は凹痕となり、また正面は側面への敲打により剥離している。281 は磨石類 D5 類である。282 は敲石 A1 類である。283 は線状の研磨痕が認められる砥石 C 類である。正面・端部を敲打に使用している。284・285 は磨石類の破片である。284 は被熱により破碎しており、285 は敲打による分割片である。286 は半割された小型の石皿である。石皿・台石類 A3a 類。正裏面が磨痕のみで、側面に敲打痕が見られる。側面の敲打痕は分割面より新しく、敲石への転用が考えられる。

3J-8I (図版 276・277、写真図版 255)

287 は凸基有茎鏃の石鏃 C3 類である。中茎が欠損している。288・289 は剥片の接合資料である。289 は 3J-9F5 グリッド出土である。288 は底縁に使用による微細剥離痕が見られる。不定形石器 E1 類に分類される。290 は石皿・台石類 B3 類の台石である。裏面への強い加撃で分割されている。分割片は 3J-4H16 グリッドから出土している。291 は磨石類 G1 類である。292 は敲石 A1 類で、側面が敲打により剥離している。

3J-8J (図版 277、写真図版 255)

293 は凸基有茎鏃の石鏃 C1 類である。先端・中茎は欠損後再加工が施されている。

3J-9D (図版 277・278、写真図版 256)

294・295 は石皿・台石類 A2b 類である。両者とも両面が使用されている。295 は正面からの加撃で分割されている。

3J-9G (図版 278、写真図版 256)

296 は正裏面と端部に敲打痕が見られる磨石類 F1 類である。297 は磨石類 D2 類、298 は敲石 B 類である。

298 は石皿・台石類の分割片からの転用である。

3J-9H (図版 278・279、写真図版 256・257)

299 は磨石類 F1 類である。300 は石核で、打面転移を繰り返す D 類である。

3J-9I (図版 279、写真図版 257)

301 は石皿・台石類 A3b 類である。周縁の一部に敲打痕が見られる。

3J-10D (図版 279、写真図版 257)

302 は凸基有茎鏃の石鏃 C1 類である。右側基部のほうが突出している。基部から中茎部分にかけてアスファルトが付着している。

3J-10E (図版 279、写真図版 257)

303 は磨石類の分割片である。正裏面に磨痕・凹痕が見られる。

3J-10F (図版 279、写真図版 257)

304 は石皿・台石類 B3 類の台石である。分割されており、下端と側縁に敲打による潰れが認められる。片手で保持できる大きさであり、敲打への転用が考えられる。

3J-10G (図版 280、写真図版 257)

305 は石皿・台石類 A3b 類である。完形品である。

3J-10H (図版 280、写真図版 257)

306 は敲打石 A1 類である。敲打により分割しており、4J-2H4 から出土している。分割後、分割面を打面としてやや横長の剥片を取っており、石核への転用が試みられている。307 は石皿・台石類 A3a 類である。側面への敲打により半割され、3J-10I7 グリッドからも出土している。分割後は敲打石として使用されている。

3J-10I (図版 281、写真図版 258)

308 は磨石類 D2 類である。端部の敲打痕が著しい。

4J-1C (図版 281、写真図版 258)

309 は打面転移を繰り返して不定形な剥片を取っている石核 D 類である。310 は敲打石 B 類である。分割礫を素材として下端を敲打に用いている。

4J-1D (図版 281、写真図版 258)

311 は小型の横長剥片を用いた石鏃未成品 B 類である。312 は右側縁上端部の急角度な一端を使用しており、アスファルトの付着が見られる。不定形石器 E2 類。313 は磨石類 E 類である。正裏面に敲打痕があり、中心ではなく上下側に寄っているため、一端を持ち、ハンマーのように用いたものと推察する。314 は敲打石 A1 類である。

4J-1E (図版 281・282、写真図版 258)

315 は磨石類 D2 類である。上端部に敲打痕が集中し、アスファルトが付着している。意図せず付着したというよりは、端部を用いてアスファルトをこねる、叩き潰すなどの乳棒のような使用方法が推察される。316・317 は敲打石 A1 類である。敲打により剥離している。316 にはアスファルトが付着している。318 は石皿・台石類 B3 類である。正裏面には明瞭な凹痕が認められる。

4J-1F (図版 282、写真図版 258)

319 は磨石類 G1 類である。上下端部の敲打が著しい。アスファルトが付着しているが使用部位ではない。

4J-1G (図版 282、写真図版 258)

320 は石核 A 類である。分割面を打面とした剥離痕が見られる。321 は分割された磨石類である。3J-7I4 グリッドから分割片を図示した。322 は磨石類 D2 類である。

4J-2D (図版 282、写真図版 258)

323 は磨石類 C1 類である。正面への加撃により半割され、分割面周縁の稜を敲打面として敲打石に転用されている。

4J-2E (図版 282・283、写真図版 258・259)

324 は敲石 A1 類である。繰り返しの敲打による剥離痕と潰れが見られる。325 は磨石類 D2 類である。敲打部にアスファルトの付着が見られる。326・327 は敲石 A1 類である。328 は石皿・台石類 B2 類である。砥石と台石の複合石器である。

4J-2F (図版 283、写真図版 259)

329 は凸基有茎鏃の石鏃 C1 類である。右側基部のほうが突出している。基部の一部にアスファルトの付着が見られる。330 は敲石 A1 類である。アスファルトの付着が見られる。

4J-2G (図版 283・284、写真図版 259)

331 は磨石類 B 類である。332 は石皿・台石類 A3b 類である。正裏両面を使用している。側面が風化で剥落している。

4J-3F (図版 284、写真図版 259)

333 は磨石類の分割片である。敲打により分割している。334 は磨石類であるが風化が著しく、わずかな磨痕が認められるにすぎない。335 は石核 B 類である。円礫半截後に裏面全体を周縁を打面として剥離し、その後半截面と裏面の周縁を打面として正面側を中心に向かって剥片を剥離している。

4J-3G (図版 284、写真図版 259)

336 は磨石類 F2 類の敲石である。337 は分割礫の稜部分で敲打している敲石 B 類である。礫の表面にアスファルトが付着している。敲打面・分割面には付着は見られない。

4J-4D (図版 284、写真図版 259)

338 は敲石 A1 類である。礫の稜を用いて敲打している。下端が敲打により剥離している。

4J-4F (図版 285、写真図版 260)

339 は凸基有茎鏃の石鏃 C1 類である。左側基部のほうが突出している。先端と中茎部分が欠損している。340 は砥石 C 類である。主軸に対して右上がりの線状研磨痕が認められる。

4J-4G (図版 285、写真図版 260)

341 は敲石 A1 類である。敲打による剥離が見られる。342 は磨石類 F2 類である。正裏面の使用が顕著で凹痕となっている。

③上層・攪乱出土石器 (図版 285～287、写真図版 260・261)

343 は平基有茎鏃の石鏃 B 類である。体部中ごろから基部に向かって広がる形状であり、他の石鏃とは異なる形状である。344 は凹基無茎鏃の石鏃 E 類である。左側脚部が欠損している。アスファルトが体部から基部にかけて付着している。345 は石鏃未成品 B 類である。346 は凸基有茎鏃からの転用と考えられる石錐 C 類。347 は石錐 B2 類であるが、錐部が使用により欠損している。348 は上下両方向からの剥離が見られる石核 C 類。349 は剥片右側縁の急角度な部分を搔器状に使用している不定形石器 E2 類。350 は上下方向からの剥離がみられる残核である。石核 C 類。上下端部に潰れが見られるためピース・エスキューとしての機能も推測される。351 は剥片の急角度な一部を使用している不定形石器 E2 類である。一部浅角度の部分も使用している。352 は礫表が残る剥片の端部を搔器状に用いている不定形石器 E2 類。353 は敲石 A1 類。長軸方向端部に敲打による潰れ、短軸方向には上下両極からの剥離が認められる。354 は敲石 B 類である。分割礫の稜部分を用いて敲打している。355 は磨石類 D2 類。356 は敲石 B 類である。石皿・台石状の礫の分割片を用いている。357 は磨石類 D5 類。358 は磨石類 D2 類。359 は磨石類の分割片である。端部が敲打により平坦となっている。360 は磨石類 D2 類である。敲打により欠損している。361 は磨石類の分割片である。362 は磨石類 D2 類である。側面の敲打面が広く平坦である。363 は磨石類の分割片を敲石に転用した敲石 B 類である。下端の敲打による潰れが分割面より新しい。364 は石皿・台石類の分割片を敲石に転用した敲石 B 類である。左側面の裏面側の稜線と下端の敲打が顕著である。365 は磨石類 F2 類である。366 は石皿・台石類 A3a 類である。使用面は正

裏両面であり、良く磨られている。正面への加撃により分割されている。367は石皿・台石類B3類の台石である。

④材質不明遺物（図版287、写真図版261）

368は包含層3J-7Hグリッド出土である。黒色のガラス質の材質であるため当初黒曜石と考え蛍光X線による産地同定を行ったが、その結果黒曜石とは異なる物質であることが判明した（第VI章第1節I参照）。ガラス転移したアスファルトの可能性も考慮し有機溶剤を付着させたが不溶であるため、アスファルト系の材質ではない。材質は不明であるが石器と同様の使用痕が認められるためここに記す。打瘤付近を素材とし右側縁の急角度な縁辺を搔器状に用いており、微細剥離・磨耗痕が認められる。不定形石器E2類に分類される。

C アスファルト

1) 概要

新潟県はわが国有数の石油産出県であり、「日本書紀」天智天皇7年（668年）の条に越国から燃土・燃水を献上したことが記されており、これがわが国の石油に関する最古の文献資料である。そして新津丘陵は石油の産出地として知られており、近世には遺跡の位置する天ヶ沢の丘陵裾部において石油採掘が行われていた（天ヶ沢字草水沢）。現在でも遺跡の東約1.5kmの山裾部において原油の湧出を見ることができ（鎌倉新田）、雨量が多いときは遺跡脇を流れる小須戸幹線排水路に流れ出てきている様子も見られる。

実際の利用ははるかに古く、県内では縄文時代前期末葉の尖基鏃の基部への使用例が報告されており〔猿額遺跡：桐原・斉藤ほか2008〕、その他には石匙つまみ部や石錘への紐の接着痕、土器・土偶の補修材としての使用例が報告されている〔田中・齊田1999〕。また使用前の保管状態の例としては大坂上道遺跡から土器内に貯蔵された状態のアスファルトが出土している〔滝沢・北村ほか1995〕。

本遺跡の調査では土器内に貯蔵された状態のものは認められないが、使用前のアスファルト塊・アスファルト付着遺物が多数出土しており、単体のアスファルト塊は87点を数える。重量については付着土壌を除去すると形状が崩壊するおそれがあるためあくまで推定となるが、総重量は3,000gほどと推測される。所属時期は伴出する土器の様相から縄文時代晩期中葉前半の限られた時間幅に属するものである。天然のアスファルトがこれほどまとまって出土した例は国内でも珍しく、当時のアスファルト利用の様相解明に非常に貴重な資料群と言える。

アスファルトは住居・土坑・焼土遺構・炭化物集中・溝状遺構等の遺構や、開析谷・包含層の遺構外からの出土が認められ、特に遺構分布範囲南側の4Jグリッド（図版8）からの出土が目立つ。出土状態は土器内に内蔵されて保管されたものではなく、塊状・板状等単独で出土するものが大半であり、そのほかに土器片に覆われて出土したもの（SI951・SK835）、土器片内面に付着、または石鏃基部への使用、それ以外で磨石類、石皿・台石類等の機能面に付着している例が認められた。

本項では単体出土のアスファルトについて考古学的手法による分類等の事実記載を行い、科学分析については第VI章第3節、アスファルト付着の土器・石器、出土状況等をふまえた総合的な考察は第VII章第1節C4)で行っている。図版等提示資料の抽出は、形状の異なるものの中で代表的なものを任意に抽出した（図版376・377、写真図版325～327）。その他の資料については第6表に記した。

2) 分類

出土アスファルトには形状、均質性・緻密性等の性状、不純物の有無に差異が認められた。

形状としては大きく塊状と板状に分かれる（第30図）。塊状には粒状の小さいものから棒状にやや長いもの、板状には厚さ0.5mm以下の非常に薄いものや3～4cmほどの厚手のものまであり定形化されない。

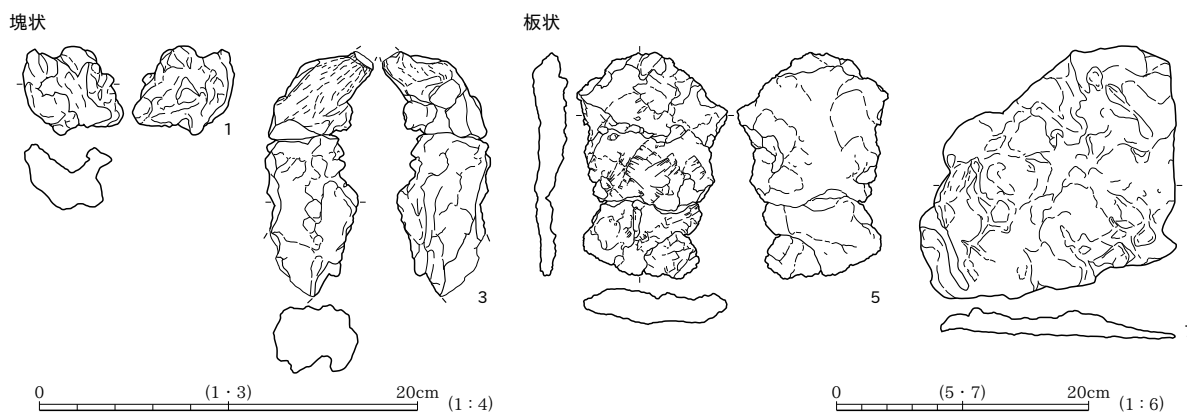
アスファルトの性状については破断面、もしくは表面の風化が著しくないか所で観察した。あくまでも肉眼観察のため精緻さを欠くが、大きく以下のように分類される（写真図版326・327参照）。

- 1類：全体的に均質なもの（報告No.3ほか）。非常にきめが細かく緻密である。不純物は含まない。
- 2類：均質性を欠くもの。部分的に黒色の粘質部や空洞部が認められ、稀に少量の不純物を含むものがある。

不純物が認められないものを2a類(報告No.1・2・4～7ほか)、ヨシ属等の未分解有機物が少量認められたものを2b類(包含層No.1747ほか)に細分した。不純物は表面では観察されず、断面観察により確認されたものであるため、2a・2b類の差異は微妙なものである。

3類:不純物を多量に含むもの(SK835深鉢下アスファルト)。表面の観察からも不純物を含む様子がわかるものである。

第6表に出土位置・各種属性・分類を示した。形状では塊状32点、板状55点となり板状の方がやや多く、性状別では1類41点、2a類36点、2b類9点、3類1点となり均質なものとそうでないものは約半々である。形状との組み合わせは塊状1類14点、塊状2a類15点、塊状2b類3点、板状1類27点、板状2a類21点、板状2b類6点、板状3類1点となる。以下に代表的なものについて個別に記載を行う。



第30図 大沢谷内遺跡下層出土アスファルト形状分類図

3) 出土アスファルト各説(図版376・377、写真図版325～317)

1・2はSK722出土である。塊状のアスファルトで、内部に空洞と黒色の粘質部が認められる2a類である。両者ともに表面の凹凸が著しく、非常に軽い資料である。

3はSI837覆土中出土である。非常に緻密な1類でやや縦長の塊状を呈する。上部がねじれており絞られたような痕跡が見られ、中央部付近で折損している。そして折損面を打面として側面側が剥離されているようである(写真図版326)。剥離面を見るとリング・フィッシャーが認められ、全体が均質であることがよく分かる資料である。アスファルトの工房址が検出された函館市(旧南茅部町)磨光B遺跡出土のアスファルト塊には、一部削られた痕跡があり使用のために削りとられたとの報告がある〔阿部・小林1995pp.34〕。

4はSK985出土で、深鉢(211)の胴部片に付着した状態で出土した2a類のアスファルトである。板状にのびているが厚みに均一性はない。破断面観察からは中央部に黒色の粘質部が認められ、外周は揮発成分が失われて風化が進んでいる。深鉢(211)の外周は非常に煤けており、火にかけられている。アスファルトの溶融に用いられた可能性が考えられる。

5はSD192 II層下部の遺物集中部の脇から出土している。板状を呈し、断面観察では中央に黒色の粘質部をはさみ外周は風化している。均質性にやや欠ける2a類である。正面中央に繊維の圧痕のような痕跡が認められ、植物質の繊維が残っている(写真図版326)。網代痕のような明確な編み方は不明であるが繊維の単位が交差しているように見える。

6は包含層4J-2D4グリッド出土である。薄くのびた板状で、厚さが均一である。上部に黒色の粘質部が認められ、下部は風化が進んでいる(写真図版326)。土壌への浸透が認められるため、土壌付着時は液状であった可能性が高い。不純物は認められないが均質性に欠けるため2a類とした。

7は包含層4J-2D5グリッド出土である。6よりも厚みがあるが類似した資料である。2a類。

上記以外の資料として写真図版327にはSK835出土のアスファルトを掲載してある。この資料は深鉢(181)

第6表 大沢谷内遺跡下層出土アスファルト一覧表

※土壌付きの重量は()表示

報告 No.	取り上げ No.	出土位置			法 量(cm・g)				形状	性状分類	含有物	備 考
		遺構名	グリッド	出土層位	長さ(長軸)	幅(短軸)	厚 さ	重 量				
	2634	SI501	4J-1E6	V b2	5.0	3.0	0.9	(30.0)	板状	2a	—	
	1	SI501 (Pit527)	4J-1E6	2	18.8	12.5	0.5	(126.4)	板状	1	—	非常に薄い・土壌に浸透
	1	SI501 (SK626)	3J-10E23	1	12.7	9.0	0.4	(55.9)	板状	1	—	薄い
	25	SI579	3J-10D17	1	7.6	5.9	0.8	(61.5)	板状	1	—	
	61	SI710	4J-2F6	1	7.5	2.4	0.5	(21.0)	板状	2a	—	
	66	SI710	4J-2F17	1	3.0	2.5	1.0	(23.0)	塊状	1	—	数点一括
	123	SI710	4J-2F12	1	4.5	4.3	0.7	(21.2)	板状	1	—	
	137	SI710	4J-2F17	4	12.3	8.6	0.8	74.5	板状	1	—	
	1	SI710 (Pit801)	4J-2F12	3	8.0	3.4	1.0	68.0	板状	2a	—	不均質
	1	SI790	4J-1F22	1	11.9	6.7	2.1	(80.6)	板状	1	—	薄い 土壌浸透
3	95	SI837	4J-1D13	1	13.0	4.4	3.6	96.3	塊状	1	—	絞り 削り
	179	SI837	4J-1D10	1	11.5	4.8	1.5	(18.9)	板状	1	—	薄い 土壌浸透
	180	SI837	4J-1D10	1	9.4	5.2	1.6	(57.5)	板状	1	—	薄い
	181	SI837	4J-1D10	1	11.4	6.9	1.2	(71.8)	板状	1	—	薄い
	182	SI837	4J-1D10	1	21.8	13.6	0.7	(150.0)	板状	2a	—	薄い
	106	SI951	4J-4F14	3	12.9	5.9	0.6	(45.0)	板状	1	—	薄い
	107	SI951	4J-4F10	3	2.0	1.0	0.5	(2.2)	塊状	2a	—	
	128	SI951	4J-4F12	3	2.2	1.5	1.0	2.1	塊状	1	—	
	164	SI951	4J-4F8	3	4.6	3.3	0.6	(8.3)	板状	1	—	
	166	SI951	4J-4F8	8	1.0	0.5	0.5	(2.2)	塊状	1	—	数点一括
	2	SB6 (Pit479)	3J-8H12	2	3.2	2.7	1.9	5.5	塊状	2a	—	空洞あり
	3	SK631	3J-10E5	1	4.5	2.6	0.5	10.0	板状	2a	—	
	4	SK631	3J-10E5	1	3.4	2.5	0.5	12.0	板状	2a	—	
	1	SK656	3J-9F9	1	12.9	9.9	0.5	(64.0)	板状	1	—	
	3	SK716	4J-3E6	2	8.5	5.7	0.3	(20.0)	板状	1	—	薄い
	4	SK716	4J-3E6	2	5.8	4.4	0.4	(17.6)	板状	1	—	薄い
	26	SK722	4J-3D5	4	2.5	1.6	0.1	(8.0)	塊状	2a	—	
	76	SK722	4J-3D5	2	6.2	5.3	1.1	(66.6)	板状	2b	—	未分解有機物
	77	SK722	4J-3D5	10	3.3	2.7	0.9	(27.3)	板状	2a	—	
2	80	SK722	4J-3D5	7	3.8	3.6	2.2	11.1	塊状	2a	—	
1	81	SK722	4J-3D5	11	5.0	4.6	3.4	20.7	塊状	2a	—	空洞あり
	82	SK722	4J-3D5	6	3.4	3.0	1.0	(20.0)	板状	2a	—	
	86	SK722	4J-3D5	4	7.9	3.9	1.7	(82.5)	板状	2a	—	
	87	SK722	4J-3D5	9	9.0	5.4	0.6	(70.3)	板状	1	—	薄い 土壌浸透
	88	SK722	4J-3D5	9	7.2	2.9	0.7	(79.5)	板状	1	—	薄い
	89	SK722	4J-3D5	4	13.1	6.4	0.6	(65.4)	板状	1	—	風化
	91	SK722	4J-3D5	11	3.5	3.0	0.8	(8.8)	塊状	2a	—	
	93	SK722	4J-3D5	11	1.3	0.9	0.3	(5.0)	塊状	2a	—	
	94	SK722	4J-3D5	11	0.7	0.6	0.5	(7.5)	塊状	2a	—	
	98	SK722	4J-3D5	14	4.5	3.5	1.5	(8.0)	板状	2a	—	
	100	SK722	4J-3D5	11	7.1	3.4	1.4	(25.5)	板状	2a	—	
	101	SK722	4J-3D5	8	1.1	0.7	0.5	(5.0)	塊状	2a	—	
	102	SK722	4J-3D5	11	2.1	1.9	0.5	(2.0)	板状	2a	—	
	103	SK722	4J-3D5	11	13.4	11.9	2.1	(353.4)	板状	2a	—	
	2	SK727	4J-2D24	2	2.2	1.6	0.3	(3.0)	塊状	2a	—	
	26	SK835	4J-1D25	1	7.9	3.9	1.0	(23.0)	板状	2b	—	未分解有機物?
	27	SK835	4J-1D25	1	6.3	5.6	0.9	34.0	板状	2b	—	未分解有機物?
	30	SK835	4J-1D25	1	4.0	3.0	1.0	(11.0)	板状	2b	—	未分解有機物?
土器 181 下		SK835	4J-1D25	1	24.5	14.5	2.8	373.9	板状	3	—	未分解有機物 不純物多量
	1	SK961	4J-3G18	1	3.1	2.1	1.0	(8.3)	塊状	1	—	
	10	SK985	4J-3G17	2	4.7	3.5	1.4	(58.4)	板状	2b	—	未分解有機物? 層状に剥離
4	11	SK985	4J-3G17	2	26.4	16.8	4.4	(467.0)	板状	2a	—	
	1	Pit637	3J-10E10	1	3.0	2.0	0.5	(15.0)	塊状	1	—	
	2	Pit637	3J-10E5	1	2.5	2.0	0.3	(5.8)	塊状	2a	—	
	2	Pit775	4J-3D5	3	2.3	0.7	0.5	(28.1)	塊状	2a	—	
	4	Pit882	4J-3E1	1	7.8	4.1	2.4	65.1	板状	2a	—	
	16	Pit991	4J-3F18	1	3.1	2.5	2.2	(34.7)	塊状	1	—	
	24	Pit991	4J-3F18	1	14.3	9.5	2.4	(139.8)	板状	1	—	
	3	SX442	3J-7E19	V b2	2.5	2.0	1.0	3.5	塊状	1	—	
	4	SX442	3J-7E8	V b2	21.1	7.8	0.8	(95.1)	板状	1	—	
	5	SX442	3J-7E19	V b2	2.7	1.7	0.5	(16.0)	塊状	1	—	
	6	SX442	3J-7E19	V b2	6.0	5.7	0.3	(25.2)	板状	1	—	薄い
	4	SX443	3J-7E23	V b2	2.2	1.6	1.1	4.2	塊状	2b	—	未分解有機物?
	5	SX443	3J-7E23	V b2	1.4	1.1	0.7	2.0	塊状	2b	—	未分解有機物?
	6	SX443	3J-7E23	V b2	3.4	2.3	0.9	6.0	塊状	2b	—	未分解有機物?
	18	SX945	4J-2G21	1	1.9	1.3	1.0	1.9	塊状	1	—	数点一括
	19	SX945	4J-2F25	1	2.6	2.4	1.0	1.9	塊状	1	—	
5	599	SD192	3J-7H23	II a	18.0	11.4	2.7	(245.7)	板状	2a	—	繊維状圧痕
	125	SD338	3J-7F16	2	4.0	3.0	2.0	(18.9)	塊状	2a	—	
	1	SD846	4J-2D18		20.9	12.1	4.1	(246.6)	板状	2a	—	薄い
	2	SD846	4J-2D24	1	6.4	3.3	0.7	(17.4)	板状	2a	—	薄い
	2	SD927	4J-3E6	1	4.0	2.5	1.7	(41.6)	塊状	2a	—	
	1747	包含層	3J-8H2	V b2	7.4	5.1	1.9	21.1	板状	2b	—	未分解有機物?
	2271	包含層	3J-8E19	V b2	8.4	5.3	1.3	(70.1)	板状	1	—	
	2377	包含層	3J-7E23	V b2	12.2	10.1	2.3	82.1	板状	1	—	
	2430	包含層	3J-9D18	V b2	7.3	6.2	2.3	(54.7)	板状	1	—	
	2451	包含層	4J-3F3	V b2	1.0	1.0	0.5	0.7	塊状	1	—	
	2454	包含層	3J-9E10	V c	7.5	5.6	0.8	(63.1)	板状	1	—	薄い
	2455	包含層	3J-9F21	V c	5.0	3.9	1.9	26.9	塊状	1	—	
	2551	包含層	4J-1E21	V b2	1.7	1.0	0.6	0.8	塊状	2a	—	
	2617	包含層	4J-2E4	V b2	22.5	16.3	2.0	200.0	板状	1	—	薄い
6	2691	包含層	4J-2D4	V b2	23.7	22.2	1.0	(250.0)	板状	2a	—	
7	2692	包含層	4J-2D5	V b2	20.4	20.1	1.8	(180.0)	板状	2a	—	
	2720	包含層	4J-1D19	V c		1.8	0.9	2.8	塊状	1	—	
	2756	包含層	4J-3F25	V b2	11.9	7.6	0.4	92.1	板状	1	—	薄い
	2759	包含層	4J-3F25	V b2	6.4	4.3	0.3	30.0	板状	1	—	薄い
	2881	包含層	4J-2F25	V b2	8.5	6.9	0.7	106.8	板状	2a	—	

4分の1個体分の破片に覆われて出土したものである（出土状況：図版65、写真図版61）。アスファルトを観察すると、不純物を多量に含む3類である。自然木、ヨシ属等の未分解有機物を多量に含んでおり、採取時のアスファルトの状態を示している可能性がある。土器内に貯蔵させるのではなく、何らかの理由により土器片を被せ保管していたようである。写真図版327のアスファルトbは地面側を写したものであるが、炭化した有機物が広がっている。敷物の可能性がある。アスファルトに含まれる未分解有機物の様子から潟湖のような場所に湧出地点が存在していた可能性が推察される。

第2節 上層出土の遺物

A 土 器

1) 概 要

大沢谷内遺跡1～4区上層からは、弥生時代・古墳時代前期・飛鳥時代・奈良時代・平安時代・中世と各時期に亘る遺物を図示した。この内、主体を占めるのは飛鳥時代のものであり、次いで奈良時代・中世の遺物となる。古墳時代および平安時代の遺物は少量で、弥生時代のは僅か十数点に過ぎない。

遺物出土総量は平箱(内法54.3×33.6×10.0cm)で換算して約250箱あり、内訳は土器が94箱、木製品が50箱、石製品・礫が99箱、土製品2箱、金属製品他が2箱である。遺物の大半は飛鳥時代～古代のものであり、その大半は調査区南端の遺物集中(SX945～951)からの出土である。

以下、遺物の記載については、土器は弥生時代、古墳時代、飛鳥時代・古代、中世の4区分とし、土製品・石製品・木製品・金属製品については時期を問わず遺構毎に一括して記述した。

出土土器の編年的位置付けや時期区分については、春日真実氏による一連の編年研究（以下「春日編年」）〔春日1999・2006^{ほか}〕を基本としており、文中に記載された時期区分は春日編年によるものである。また編年的位置付けを考察するにあたっては、坂井秀弥氏〔坂井1984・1989・1999〕や関雅之氏〔関2001〕、笹澤正史氏〔笹澤2003〕らによる研究成果を援用している。

2) 弥生時代の土器

SD153（図版288、写真図版263）

有段口縁甕(1)、壺(2)を図示した。1は口縁部片で、口径10.8cmを測り口唇部が直立する。口縁帯は1.0cmと短く内外面ヨコナデされ、法仏式に並行する北陸系の土器と考えられる。2は、底径6.0cmを測り平底である。外面は横位のRL縄文が施され、内面はヨコナデされる。胎土に海綿骨針を含む。天王山式系と考えられる。

SD157（図版288、写真図版263）

甕(3)を図示した。やや内湾する口縁部片で、上端部には突起が付く。口縁端部には斜位の刻みが施され、口縁部文様帯は斜位の刺突、鋸歯状文、交互刺突文で構成される。胴部とは横位の沈線により区画されており、天王山式系の土器と考えられる。

包含層

甕(4)・有段口縁甕(5)・壺(6)を図示した。4は肩部で、横位に連続した斜行刺突文が施される。5は口縁～胴部片で、口縁部は外反し胴部は倒卵形を呈す。口縁内面の段部は弱く、肩部には斜行刺突文が施される。4・5は法仏式に並行する北陸系の土器と考えられる。6は横位のRL縄文が施されており、天王山式系の土器と考えられる。

3) 古墳時代の土器

SD153（図版288、写真図版263）

土師器高杯(7)を図示した。直立気味の短脚の脚部で、胎土に海綿骨針を含む。

SD155（図版288、写真図版263）

土師器器台(8)を図示した。円形の透かしが施された脚台部で、内面はハケにより調整される。胎土に海綿骨針を含む。

SD157 (図版 288、写真図版 263)

土師器甕(9)を図示した。強く外反する口縁部で、内外面ともにナデにより調整される。

SE882 (図版 288、写真図版 263)

土師器小形壺(10)を図示した。ロクロ成形の胴部片で、内・外面ともにロクロナデにより調整される。

SX275 (図版 288、写真図版 263)

土師器高杯(11)を図示した。脚部で、外面はミガキが施され赤彩される。

SX227 (図版 288、写真図版 263)

土師器壺(12)を図示した。胴部片で、外面はケズリ調整され内・外面ともに赤彩される。

SX949 (図版 288・289、写真図版 263)

土師器壺(13)・土師器甕(14)を図示した。13の口縁部は直立気味に立ち上がり、上部でやや外反する。胴部は倒卵形を呈し、底部は丸底である。内外面ともにハケにより調整され、胴部にはススが付着する。14は、口縁部は短く「く」字状を呈す。底部は平底で、内・外面および底部にまでハケによる調整が施される。新潟シンボ編年〔滝沢 2005〕の 8 期に該当する資料である。

SX948 (図版 289、写真図版 264)

土師器甕(15)を図示した。口縁部は、先端部までほぼ同じ厚みで「く」字状に外反する。胴部は倒卵形を呈し、底部は平底である。外面はケズリ、内面はナデにより調整され、胴部外面にはスス、内面には炭化物が付着する。新潟シンボ編年 8 期に相当すると考えられる。

河 138 (図版 289、写真図版 264)

土師器小形甕(16)を図示した。口縁部で、端部は先細りつつ外反する。

4) 飛鳥時代・古代の土器

土器の分類と記述

用語の説明

記述は最初に土器分類を行い、次に遺構別・包含層出土の須恵器・土師器・黒色土器の順に記した。形態や手法による分類はアルファベット(A・B…)で表記し、法量による分類はローマ数字(I・II…)で表した。

土器分類および成形・調整技法の表現は、寺道上遺跡〔渡邊朋ほか 2001〕、駒首瀉遺跡第 3・4 次調査報告書〔渡邊まほか 2009〕などの記載を参考に、以下のとおりとした。

1. 「ロクロナデ」ーロクロ・回転台使用、「ナデ」ーロクロ・回転台未使用。
2. 「ロクロケズリ」ーロクロ・回転台使用、「ケズリ」ーロクロ・回転台未使用。
3. 「カキメ」ーロクロ・回転台使用、「ハケメ」ーロクロ・回転台未使用。
4. 「ミガキ」ーロクロ・回転台未使用。
5. 「タタキメ」ー外面成形痕、「あて具痕」ー内面成形痕。
6. 底部の「ヘラ切り」・「糸切り」は、いずれもロクロの回転を利用したものである。本来ならば「回転ヘラ切り」・「回転糸切り」とすべきものであるが、「回転」は省略した。
7. 「無調整」は切り離し後に調整を行わず、「再調整」はロクロナデ・ナデ・ロクロケズリ・ケズリ・ハケメなどの調整を行う。
8. 非ロクロ成形による子甕底部の「無調整」は切り離し技法の認められないもの。
9. 須恵器・土師器の区別は、基本的に形態による区分を重視した。

この他、法量などの詳細については遺物観察表に明記した。

また、須恵器の胎土は山三賀Ⅱ遺跡〔坂井ほか 1989〕、越後阿賀北地域の古代土器様相〔春日ほか 2004〕、駒首瀉

遺跡〔3・4次調査報告書〕などを参考に産地をA～Eの5群に分類した。しかし当該時期の窯跡の調査例がほとんどなく、理化学的分析も行っていないため、あくまで肉眼観察によるものである。なお、産地同定については春日真実氏にご教授を賜った。

A群：阿賀北地方

笹神丘陵の窯跡群など、阿賀野川以北の窯跡産と推定される一群。胎土そのものが相対的に粗く、金雲母を多く含み一部海綿骨針を含む。器面は一般的にざらついており、小礫が露出する。

B群：新津丘陵

本遺跡に隣接する、新津丘陵窯跡群産と推定される一群。胎土は比較的精良で、白色凝灰岩の小粒、海綿骨針を含む。器面は滑らかで、酸化焰焼成のものも一定量入る。

C群：佐渡地方

小泊窯跡群を中心とする、佐渡地方の窯跡産と推定される一群。胎土は精良で、白色小粒子を多く含み海綿骨針は含まない。器面に黒色の斑点が見られるものも多い。

D群：西古志地方

西山丘陵に分布する、西古志窯跡群産と推定される一群。胎土は比較的精良で、やや砂質が強い。白色小粒子・海綿骨針を含む。本遺跡においては、自然釉が付着するものが多い。

E群：その他

A～D群以外の窯跡産と考えられるものを一括した。角田山麓窯跡群や高田平野など新潟県内の窯跡以外に、石川県小松市など遠隔地の窯跡産と推定されるものも含まれている。

分類

I 須恵器

食膳具・貯蔵具と供養具がある。食膳具には杯蓋・無台杯・有台杯・高杯があり、貯蔵具には長頸壺（瓶）・平瓶・提瓶・横瓶・壺・甕などの器種がある。また、供養具には水瓶や仏鉢形土器などの器種がある。

須恵器の分類は、出土量が比較的多く器形の判明する杯蓋、杯などについて行い、出土量の少ない高杯などについては行っていない。

杯蓋 杯に伴う蓋で、本来は有台杯に伴うと考えられる。口縁部先端の形状によってA・Bの2類に分類した。法量は、無台杯・有台杯との共伴関係を考える上で、I：口径10cm前後、II：口径11cm前後、III：口径12cm前後、IV：口径13cm前後、V：口径14cm前後、VI：口径15cm前後、VII：口径16cm以上、の7類に細別した。

A類：口縁部内面にかえりをもつもの。II～VII類の6法量を確認した。

B類：口縁部内面にかえりを持たないもの。V～VII類の3法量を確認した。

無台杯 杯のうち高台を持たないもの。底部と器高によりA～Cの3類に分類し、B類については口縁部の形状により2類に細別した。法量は、杯蓋と同様に7類に分類した。

A類：胴部と底部の境界が不明瞭な所謂丸底を呈するもので、身が深く器高指数が35以上となるもの。法量はI～III類が確認出来る。

B類：丸底でやや身が浅く、器高指数が35未満のもの。法量はII・III類のみが認められる。

B1類：口縁部が直立もしくは外反するもの。

B2類：口縁部が内湾するもの。

C類：平底のもの。凡そ器高指数は30以下である。II～IV・VI類の4法量が確認出来る。

有台杯 杯のうち高台を持つもの。身の深さで2類に大別した。法量の分類は、杯蓋・無台杯と同様である。

A類：身の深い有台杯で、器高指数35以上のもの。法量はI・IV・VI類の3種がある。

B類：身の浅い有台杯で、器高指数 35 未満のもの。法量は I～VI類の 6 種がある。

高杯 杯のうち高い脚のついたもの。13 点図示したが器形全体が判るものはないため、分類は行っていない。

長頸壺・瓶 長い頸部を持つ壺・瓶。11 点図示したが、分類は行っていない。

平瓶 扁平な胴部の一方に偏して口頸部がつくもの。2 点 (249・250) 図示した。

提瓶 壺の胴部をやや平たくし、口部の左右の上肩部に把手がつくもの。1 点 (41) のみの出土である。

横瓶 俵形の胴部に、「く」字状の短い口縁部がつくもの。3 点 (126・247・248) 図示した。

水瓶 小形の瓶で、仏具の供養具である。

小瓶 水瓶を除く小形の瓶。

短頸壺・瓶 球形に近い胴部に、短く直立した口部が付く壺。器形の判るものはないが、形状から 2 点 (289・357) を短頸壺とした。

長胴壺 口縁が短く直立し、無台で胴部が長めの壺。胴部の成形から 1 点 (189) を長胴壺とした。

壺蓋 短頸壺に伴う蓋。1 点 (107) 出土している。

把手付鉢 把手付の鉢が 1 点 (108) 出土している。

仏鉢形土器 口縁が内湾し、張った肩から底部にかけて窄み、僧侶の施食容器に似た形状の鉢。鉄鉢形土器とも呼称されるように、金属器の模倣形態である。2 点 (288・393) を図示した。

甕 大きな胴部を持ち、貯蔵を目的としたもの。所謂大甕であるが、器形全体が把握出来るものは少ない。また口縁部の形状が判る資料も少ないため分類は行っていない。

円面硯 円形の外周に高い縁を設け、その内側に海を廻らし、さらに内側に上げ底の陸を備えた硯。

II 土師器

食膳具と煮炊具、貯蔵具に大別されるが、相対的に出土量は少ない。食膳具は無台椀、杯蓋、高杯の 3 種、煮炊具は長甕、小甕、甕、鍋の 4 種、貯蔵具には鉢、壺の 2 種が確認されている。

無台椀 非ロクロ成形とロクロ成形のものがあり、成形技法により分類した。

A類：非ロクロ成形のもの。

B類：ロクロ成形のもの。

杯蓋 ロクロ成形のものが少量ある。

高杯 非ロクロ成形とロクロ成形のものがあるが、少量のため分類は行っていない。

小甕 小形の甕で、おおむね器高が 18cm 未満のもの。非ロクロ成形とロクロ成形のものがあり、鉢形の形状を呈するものも含まれる。成形技法と口縁部形状、器形により分類した。

A類：非ロクロ成形のもの。

B類：ロクロ成形のもの。

a 類：口縁部が「く」字状に屈曲し、口縁端部は丸みを帯びるもの。

b 類：口縁部が外傾もしくは外反し、やや肥厚した短口縁となるもの。

c 類：口縁部がほぼ直立もしくは内湾するもの。

d 類：鉢形を呈するもの。

長甕 長胴の甕。付着物がほとんど確認出来ないため、便宜的に器高がおおむね 18cm 以上のものを長甕とした。非ロクロ成形とロクロ成形のものがあるが、底部は全て平底であるため、成形技法と口縁部形状により分類した。

A類：非ロクロ成形のもの。

B類：ロクロ成形のもの。

a 類：外傾もしくは外反する口縁部をもち、口縁端部が丸みを帯びるもの。

b類：僅かに外傾もしくは外反する短い口縁部をもち、口縁端部が肥厚するもの。

c類：ほぼ直立する口縁部をもち、端部が僅かに外反するもの。1点(101)のみ確認されている。

甕 「砂底」土器や沈線文土器など、甕形などとも呼称される東北系の甕を一括した。

鍋 非ロクロ成形のものが1点(175)のみ確認されている。

鉢 ロクロ成形の口縁部片が1点(51)のみ確認されている。

壺 非ロクロ成形の胴部が1点(233)のみ確認されている。

III 黒色土器

食膳具の無台椀と高杯が、少量出土している。

無台椀 ロクロ成形のものが、1点(310)のみ確認されている。

高杯 非ロクロ成形のものが、3点(307～309)確認されている。

遺構出土遺物

SB1552 (図版 289、写真図版 264)

P1から出土した、須恵器大甕の胴部片(17)を図示した。成形は外面タタキメ、内面にはあて具痕が観察でき、断面は摩耗しており砥石などに二次利用されたと考えられる。胎土に白色凝灰岩を含み、B群と推定される。

Pit46 (図版 289、写真図版 264)

須恵器大甕の胴部片(18)を図示した。成形は外面タタキメ、内面あて具痕による。胎土はB群である。

Pit72 (図版 289、写真図版 264)

須恵器大甕の胴部片(19・20)を図示した。いずれも外面タタキメ、内面あて具痕による成形である。いずれも胎土はB群である。

Pit618 (図版 289、写真図版 264)

須恵器杯蓋(21)を図示した。口径12.2cmのAⅢ類である。器面は比較的滑らかではあるが、胎土からはA群と考えられる。

Pit539 (図版 289、写真図版 264)

土師器小甕(22)を図示した。口径10.3cmのAc類で、外面のハケメ調整が顕著である。

Pit718 (図版 290、写真図版 264)

須恵器有台杯(23)の底部片を図示した。器面のざらつきと胎土から、A群とした。

Pit1289 (図版 290、写真図版 264)

須恵器有台杯(24)の底部片を図示した。内面は転用硯として使用された可能性が高く、胎土はB群である。

Pit1211 (図版 290、写真図版 264)

土師器無台椀(25)を図示した。非ロクロ成形のA類で、全体にヘラナデによる調整が施される。

SD153 (図版 290、写真図版 264)

須恵器無台杯(26)・有台杯(27)・甕(28)、土師器小甕(29)を図示した。26はCⅡ類で、口縁部内面に横位の沈線状の窪みが認められ、口縁端部はそこからやや外反気味に立ち上がる。27はBⅥ類で底部外面の中央部が転用硯として使用されており、春日編年のⅡ2期に並行する時期が考えられる。26はC群、27・28はB群と推定される。

SD76 (図版 290、写真図版 264)

須恵器杯蓋(30)を図示した。口径が14.8cmで、BⅥ類にあたる。砂性が強い胎土で、E群とした。

SD232 (図版 290、写真図版 264)

土師器長甕(31)を図示した。短口縁のAa類であるが、摩耗が著しく調整法は不明である。

SD157 (図版 290・291・292、写真図版 264・265・266)

須恵器杯蓋 (32～36)・有台杯 (37～40)・提瓶 (41)・長頸瓶 (42～44)・甕 (45～47)、土師器無台椀 (48)・高杯 (49・50)・鉢 (51)・小甕 (52～54)・長甕 (55～62) を図示した。32・33 はBⅥ類、34 はAⅢ類、35 はAⅣ類である。胎土は、いずれもD群と考えられる。37 は身の浅いBⅥ類、38・40 はBⅣ類である。37 はD群、38～40 はB群である。41 は提部が形骸化しており、胎土はB群である。42 は頸部に斜位の刻みが入り、全体に自然釉がかかる。胎土は緻密ではあるが夾雑物が目立つ事からE群とした。新潟県外からの搬入物である可能性が考えられる。45 は外面タタキメとカキメにより調整が施されており、底部は丸底となる。47 はAⅠ類の杯蓋が溶着した胴部片で、焼き台の可能性もある。胎土から45・47 はB群、46 はD群と推定される。48 はA類で、内外面ともにナデ調整される。51 はロクロ成形の口縁部で、内面に赤彩が施される。52 はA b類で、最大形の甕である。55 はA a類で、内外面ともにハケメ調整される。62 は底部外面にススが付着する。

SD155 (図版 292、写真図版 266・267)

須恵器杯蓋 (63)・無台杯 (64・65)・有台杯 (66～69)・甕 (70～73)、土師器無台椀 (74)・小甕 (75～78)・長甕 (79)、黒色土器高杯 (80) を図示した。63 の胎土は砂質が強く、D群と推定される。64 はB2Ⅳ類でB群、65 はCⅢ類と考えられ胎土はD群である。66 はBⅣ類、69 はAⅣ類である。67 の胎土はC群と推定され、他はB群である。70 はD群である。71 は内外面にアスファルトが付着し、72 は外面を砥石として転用している。71・72 は共にB群であり、73 は砂質の強い胎土であるためE群とした。74 はB類で、摩耗が著しく調整法は不明である。75 はA c類の口縁部で、ほぼ直立する。80 の内面は入念にミガキ調整が行われており、黒色処理が施されている。

SD154 (図版 292、写真図版 267)

須恵器杯蓋 (81・82)・有台杯 (83)・小瓶 (84)・甕 (85～89) を図示した。81・82 はB群、83 はC群とした。84 は外面はカキメ調整されており水瓶の可能性が高い。胎土はB群である。85～89 は、いずれもC群である。

SD156 (図版 292・293、写真図版 267)

須恵器杯蓋 (90～92)・無台杯 (93～96)・有台杯 (97・98)、土師器杯蓋 (99)・小甕 (100)・長甕 (101～103) を図示した。90・92 はBⅦ類、91 はBⅥ類である。胎土は、90 はD群、91・92 はB群である。93 はCⅡ類で、底部はヘラ切りされ胎土はC群である。94 はCⅤ類でB群、95 はCⅢ類と考えられ胎土はC群である。96 はC類で、胎土はB類である。97 はD群、98 はAⅣ類で、高台の製作技法が東海系に近い。胎土はB群である。99 は口径 13.2cm と考えられ、Ⅳ類の法量である。100 はA b類の口縁部である。101 はA c類、102 はA a類である。

SD800 (図版 293、写真図版 267)

須恵器杯蓋 (104～106)・壺蓋 (107)・把手付鉢 (108)・円面硯 (109) を図示した。104 はBⅢ類、105 はAⅢ類で、胎土は共にB群である。107 は口径 12.9cm で、内外面ともにロクロナデによる調整が施される。つまみは剥落しており、角田山麓窯跡群産と考えられ、胎土はE群である。壺蓋はこの1点のみの出土である。把手付鉢も 108 の1点のみの出土であり、類似する資料としては長沼遺跡〔渡邊朋 1991〕出土のものが挙げられる。胎土はB群である。109 は脚台部を欠く圈足円面硯で、外堤径は復元で 12.4cm である。海部は深く陸部は平らな作りであり、脚部の方形の透孔数も多い事から古様相を呈する円面硯と考えられる。胎土はD群と考えられる。

SD158 (図版 293、写真図版 267・268)

須恵器杯蓋 (110・111)・有台杯 (112・113)・長頸瓶 (114)・甕 (115～117)、土師器小甕 (118・119)・長甕 (120・121) を図示した。110 はAⅣ類でD群、111 はBⅦ類でB群と推定される。112 はBⅤ類、113 はAⅥ類で器高指数が 50 と身が深い。胎土は、共にB群である 114～116 はB群、117 はD群である。118 はA c類、121 は内外面ハケメ調整される。

SD480 (図版 293・294、写真図版 268)

須恵器杯蓋 (122・123)・無台杯 (124)・有台杯 (125)・横瓶 (126)、土師器長甕 (127～133) を図示した。122 は A IV 類、123 は A VI 類で、122 はかえりが深くなる。胎土は、共に B 群である。124 は C VI 類で、胎土は砂性が非常に強く E 群とした。125 は B V 類で、胎土は B 群である。126 の閉塞円盤は剥がれて出土しており、胴部との接合が確認出来なかったため図上で復元した。胎土は B 群である。127・128 は A a 類で、127 の外面にはススが付着する。133 は、底部の形状から球胴甕と考えられる。

SE242 (図版 294、写真図版 268)

須恵器甕 (134) を図示した。薄手であり、瓶の可能性もある。胎土は B 群である。

SE78 (図版 294、写真図版 268)

須恵器甕 (135) を図示した。外面に自然釉が塊となって付着しており、器面にやや歪みを生じている。胎土は B 群と考えられる。

SE80 (図版 294、写真図版 268)

須恵器杯蓋 (136)・甕 (137) を図示した。136 は A V 類と考えられ、胎土は共に B 群である。

SE170 (図版 294、写真図版 268)

土師器無台椀 (138) を図示した。A 類で、摩耗が著しく調整法は不明である。

SE183 (図版 294、写真図版 268)

土師器小甕 (139) を図示した。底部片で、摩耗が著しく調整法は不明である。

SE57 (図版 294、写真図版 268)

土師器長甕 (140) を図示した。底部片で、外面はケズリ・ナデ、内面はナデ調整される。

SE542 (図版 294、写真図版 268)

須恵器有台杯 (141) を図示した。内外面ともにロクロナデによる調整であり、胎土は B 群である。

SE522 (図版 295、写真図版 268)

須恵器杯蓋 (142) を図示した。B VII 類で、かえりが内湾しており天井部は右回転のロクロケズリがなされる。胎土は B 群である。

SE710 (図版 295、写真図版 268)

須恵器杯蓋 (143) を図示した。A V 類で、焼成不良のためやや軟質である。胎土は B 群である。

SE912 (図版 295、写真図版 268)

須恵器杯蓋 (144) を図示した。B VII 類で、胎土は B 群と考えられる。

SE882 (図版 295、写真図版 268)

須恵器甕 (145) を図示した。薄手で、胎土は B 群である。

SE805 (図版 295、写真図版 268)

須恵器杯蓋 (146) を図示した。A 類で、内外面ともにロクロナデ調整される。器形は歪んでおり、外面には自然釉が付着する。胎土は D 群である。

SE1037 (図版 295、写真図版 269)

土師器長甕 (147) を図示した。外面はケズリ、内面および底部はヘラナデ調整される。

SK69 (図版 295、写真図版 269)

須恵器甕 (148) を図示した。胎土は C 群である。

SK83 (図版 295、写真図版 269)

須恵器甕 (149) を図示した。胎土は C 群である。

SK620 (図版 295、写真図版 269)

須恵器杯蓋 (150) を図示した。A VI 類で、胎土は B 群である。

SK766 (図版 295、写真図版 269)

須恵器甕 (151) を図示した。胎土はB群である。

SK666 (図版 295、写真図版 269)

須恵器杯蓋 (152・153)・無台杯 (154・155)・高杯 (156・157)、土師器小甕 (158)・長甕 (159～161) を図示した。152 はB V類で、口縁はやや外反する。152・153 はB群である。154 はB1 VII類で、丸底としては最大法量となる。155 はB1 III類で、重ね焼きにより胴部外面にのみ自然釉が付着する。156 は脚台部、157 の身は口径 16.0cm で法量はVII類である。154～157 の胎土はD類である。158 はA c類、159 はA b類で、ともに海綿骨針を含む。

SK916 (図版 295、写真図版 269)

須恵器杯蓋 (162・163) を図示した。162 はB V類で、胎土の砂性が強いいためE群としたがD群の可能性もある。163 は最小法量のA I類で、胎土はB群である。

SK1008 (図版 295、写真図版 269)

須恵器甕 (164) を図示した。胎土はC群と考えられる。

SK1115 (図版 295、写真図版 269)

須恵器杯蓋 (165)、土師器小甕 (166) を図示した。165 はB VII類で、端部はほぼ垂直に立ち上がる。胎土はB群である。166 はA類で、内外面ともにナデ調整と思われるが摩耗が著しく不明瞭である。

SK758 (図版 295、写真図版 269)

土師器小甕 (167～169) を図示した。167・169 はA a類、168 はA c類である。

SK804 (図版 295、写真図版 269)

土師器長甕 (170) を図示した。A類で、外面の調整は摩耗により不明瞭である。

SK1248 (図版 296、写真図版 269)

須恵器無台杯 (171)・有台杯 (172)、土師器長甕 (173・174)・鍋 (175) を図示した。171 はC IV類で、171・172 の胎土はB群である。173 はA b類、174 はA a類であり、本遺跡における鍋の出土は 175 の 1 点のみである。

SK647 (図版 296、写真図版 269)

須恵器有台杯 (176) を図示した。酸化焰焼成で内外面ともにロクロナデにより調整され、胎土はB群である。SK1028 (図版 296、写真図版 270)

須恵器長頸瓶 (177・178)・甕 (179)、土師器長甕 (180～182) を図示した。177・178 は、ともに口縁端部が受け口状を呈し、角田山麓窯跡群産と考えられ、胎土はE群である。179 は口縁部が無文で胎土はC群と考えられるが、砂性が強くE群の可能性もある。180・181 はA a類で、180 の口縁部はやや肥厚する。182 の底部片は、靨痕が明瞭に観察される。

SK1500 (図版 296、写真図版 270)

須恵器有台杯 (183) を図示した。B IV類で春日編年IV 1期に並行すると考えられ、胎土はA群と考えられる。SX275 (図版 296、写真図版 270)

須恵器甕 (184～186) を図示した。胎土はいずれもB群である。

SX227 (図版 296・297、写真図版 270)

須恵器有台杯 (187・188)・長胴壺 (189)・甕 (190・191)、土師器小甕 (192)・長甕 (193～196) を図示した。187 はB VI類で、187・188 はいずれもB群である。189 は、器形から長胴壺とした。古志郡の東山丘陵に位置する長岡市笹山窯産と推察されるが、西山丘陵 (西古志地方) とは区別するため胎土はE群とした。190・191 はいずれもB群である。

SX1020 (図版 297、写真図版 270)

須恵器無台杯(197)・有台杯(198)を図示した。197はB2Ⅲ類、198はAⅣ類と考えられ、胎土はいずれもB群である。

SX841(図版297、写真図版270・271)

須恵器杯蓋(199)・無台杯(200)、土師器無台椀(201)・小甕(202～204)・長甕(205～209)を図示した。199・200はB群である。201は手捏ねのA類で、口径8.4cmで甕の底部を切り離したようなコップ形を呈す。202はA d類で、本来は鉢に分類される器形と考えられる。203はA a類である。205～207はA a類とした。端部が外反する206や短口縁の207など細分すべき要素は含まれているが、総体的に出土量が少ないため外反として一括した。

SX871(図版297、写真図版271)

須恵器杯蓋(210)を図示した。BⅤ類で、胎土はA群である。

SX1088(図版297、写真図版271)

須恵器杯蓋(211)・無台杯(212)・高杯(213)・甕(214・215)、土師器長甕(216～219)・甕(220)を図示した。211はAⅢ類で胎土はB群、212はAⅡ類で底部に1か所の穿孔がある。同法量の杯蓋と無台杯の出土から、杯蓋A類は無台杯に伴う可能性が高いと考察される。212は砂性が強くE群とした。213～215はD群である。216はA b類、217はA a類である。220は、内面の粗く太いハケメが特徴的な東北系の「甕形」土器である。

SX473(図版298、写真図版271・272)

須恵器杯蓋(221～223)・無台杯(224・225)・有台杯(226)・壺(227)・甕(228・229)、土師器杯蓋(230)・無台椀(231)・高杯(232)・壺(233)・小甕(234～236)・長甕(237・238)・甕(239・240)を図示した。221はAⅢ類で、つまみの形から古様相を呈すと考えられる。223は口径16.0cmのAⅦ類で、同類では最大法量となる。224はB1Ⅲ類、225はB2Ⅲ類と考えられる。226はBⅣ類の有台杯と考えられる。221～226の胎土はいずれもB群である。227は酸化焰焼成の須恵器で、胴部内面に於て具痕が観察される。長頸瓶もしくは横瓶の可能性が高く、胎土はD群である。228・229はいずれもB群である。230はロク口成形のかえりのある蓋で、Ⅴ類の法量である。胎土に海綿骨針を含み、酸化焰焼成の須恵器の可能性が高い。231の底部は糸切りされ、232は脚部である。233は内外面ともにハケメ調整され、内面には多くの指頭圧痕が見られる。球胴甕の可能性もあるが、器形から壺とした。234はA a類、235はB b類で、いずれも短口縁である。237は短口縁のA a類で、内外面ともハケメとナデで調整される。239は口頸部に目の粗い4条のハケを横走させており、東北系の沈線文土師器の範疇と判断した。240は、口頸部に2条の横走沈線が入る。

SX950(図版298、写真図版272)

土師器長甕(241)を図示した。A a類で、外面カキメ、内面はナデ、ハケメとミガキにより調整される。

SX946(図版298・299・300、写真図版272・273・274)

須恵器杯蓋(242)・無台杯(243・244)・有台杯(245)・高杯(246)・横瓶(247・248)・平瓶(249・250)・甕(251～254)、土師器長甕(255・256)・甕(257)を図示した。242はBⅦ類、243はB2Ⅱ類で、胎土はともにE群である。244はAⅢ類で、胎土はE群である。245はBⅤ類と考えられ、246は口径15.5cmで酸化焰焼成である。胎土はともにE群である。247は側端部外面に黒漆が広く付着し、胎土はB群と考えられる。248は口頸部で、胎土はB群である。249は丸く扁平な胴部であり把手も省略される7世紀代の形式で、胎土はD群である。250も同形式と考えられ、胴部下半には同心円状にアスファルトが付着する。このアスファルトは使用または保管により付着したと考えられ、胎土はB群である。251は、外反するやや長い口縁部の上端付近に太い凸帯を持つ。胎土は砂質で小砂利を含み、E群とした。252は緻密で硬質な胎土のE群、253はD群とした。254の口縁端部は玉縁状を呈し、細めの凸帯が付く。やや砂質気味の白色の精良な胎土で、E群とした。257は丁寧な作りで、頸部に段を有する東北系の甕である。

SX947(図版300、写真図版274)

土師器小甕 (258・259) を図示した。258 はA a類、259 はA類である。

SX945 (図版 300～302、写真図版 274～277)

須恵器杯蓋 (260・261)・無台杯 (262～272・292)・有台杯 (273～280)・高杯 (281～287)・仏鉢形 (288)・短頸瓶 (289)・甕 (290・291)、高杯 (293・294)・小甕 (295・296)・長甕 (297～299)・甕 (300～306)、黒色土器高杯 (307～309) を図示した。260 はA V類、261 はB V類で、胎土はいずれもB群である。262～264・270 はいずれもB2 III類、265 はA I類、266 はA II類、267 はB1 III類、268 はC III類、269 はB1 II類である。271 は口縁端部が受け口となっており瓶などの可能性も考えられるが、法量から無台杯とした。胎土は、262・264・266・269 はA群、263・265・267 はB群、270～272 はD群、268 はE群とした。263 は胎土に輝石を含み、石川県小松市の窯跡群産の可能性が考えられる。268 は二次焼成により不明瞭であるが、D群の可能性も考えられる。273 はAIV類、274 はBVI類で、胎土はいずれもB群である。275～277 はB V類であり、278 はA III類、279 はA I類、280 はB III類と考えられる。281 は口径 15.0cm の身部であり、282～287 は脚台部である。275～287 の胎土は、いずれもD群である。288 は口径 13.0cm で、内外面ロクロナデ調整を行い底部はヘラ切りである。胎土は緻密で、E群とした。289 の胎土はB群であるが、外面に黒斑がみられる。290・291 の胎土はD群である。292 はB類で、法量はIII類にあたる。丸底と考えられ、酸化焰焼成の須恵器である。胎土はE群と考える。293 は口径 14.0cm の身部で、内外面ともにミガキ調整される。294 はロクロ成形の脚部で、293・294 はともに胎土に海綿骨針を含んでいる。295 は屈曲した口縁部をもつA d類、296 はB類の底部である。297 はA a類、299 は球胴甕の底部と考えられる。300 の外面は太いハケメによって調整され、内面は横位のケズリによって調整される。301 は底部縁辺にドーナツ状の底部を上貼りしており、上げ底部には小砂利と考えられる剥落痕が確認される事からいわゆる「砂底」土器と考えられる。底部を作製した後に胴部を積み上げたと考えられ、接着部には段差が生じる。口頸部には1条の太い沈線が横走しており、「砂底」と沈線文という東北系の2要素を持つ甕である。302 は太いハケメで調整され、外面にススが付着する。303～306 も器形や調整具から東北系とした。307～309 の身部は内外面をミガキ調整し、内面を黒色処理される。

本遺構の遺物は斜面上に一括廃棄された状態で出土しており、同時性は高いと考えられる。このことはAMS法による年代測定によっても、302 付着のスス (交点AD 650)・曲物 (w 293・交点AD 640)・包含層内の樹木片 (交点AD 660) という近似した値が得られている事からも裏付けられよう。

SX948 (図版 302、写真図版 277)

黒色土器無台碗 (310) を図示した。口径 15.8cm と大振りで、内面は黒色処理後にミガキ調整が施される。

包含層出土遺物

2J-10I (図版 302、写真図版 277)

20・25 グリッド出土の須恵器杯蓋 (311)・有台杯 (312)・甕 (313・314) を図示した。311 はB V類で端部がやや内傾し、312 はB類の底部である。ともに胎土はB群である。314 の口縁端部は内面に肥厚し平縁状を呈しており、本遺跡ではこの1点のみの形状である。313・314 の胎土はC群である。

3J-2I (図版 302、写真図版 277)

13 グリッド出土の土師器高杯 (315) を図示した。内外面ともにロクロナデにより調整される。

3K-2A (図版 302、写真図版 277)

15 グリッド出土の須恵器甕 (316) を図示した。胎土はC群である。

3K-3A (図版 302、写真図版 277)

6 グリッド出土の須恵器杯蓋 (317) を図示した。胎土はB群である。

3J-3H (図版 302、写真図版 277)

16 グリッド出土の須恵器甕(318)を図示した。胎土はC群である。

3J-5H (図版 303、写真図版 277)

25 グリッド出土の須恵器無台杯(319)を図示した。C類で、胎土はB群である。

3J-5I (図版 303、写真図版 277)

21 グリッド出土の須恵器杯蓋(320)を図示した。AⅡ類で、内外面ともにロクロナデ調整である。胎土はB群である。

3K-4A (図版 303、写真図版 277)

10 グリッド出土の須恵器有台杯(321)と17 グリッド出土の須恵器長頸瓶(322)を図示した。322は肩部で、外面には自然釉が付着する。胎土はともにB群であるが、322の内面には黒斑がみられる。

3K-4B (図版 303、写真図版 277)

18 グリッド出土の須恵器有台杯(323)を図示した。BⅣ類で、内外面ともにロクロナデ調整による。胎土はB群である。

3K-5A (図版 303、写真図版 277)

3 グリッド出土の須恵器甕(324)と1・6 グリッド出土の土師器無台碗(325)を図示した。324の胎土はB群、325はロクロ成形によるもので、口径は14.8cmとⅥ類の法量を持つ。

3J-6F (図版 303、写真図版 277)

5 グリッド出土の須恵器無台杯(326)を図示した。CⅡ類で、胎土はB群である。

3J-6I (図版 303、写真図版 277)

6 グリッド出土の須恵器甕(327)を図示した。胎土はB群である。

3K-6A (図版 303、写真図版 277)

6 グリッド出土の須恵器杯蓋(328)を図示した。AⅣ類で、端部が開き凸帯状になる。胎土はB群と考える。

3J-7H (図版 303、写真図版 277)

20 グリッド出土の須恵器無台杯(329)を図示した。摩耗が著しく、調整法は不明瞭である。胎土はD群と考えられる。

3K-7A (図版 303、写真図版 277)

7 グリッド出土の須恵器甕(330)を図示した。胎土はB群である。

3J-8E (図版 303、写真図版 277)

土師器小甕(331)を図示した。B a類と考えられるが、摩耗により調整法は不明瞭である。

3J-8J (図版 303、写真図版 277)

5 グリッド出土の須恵器有台杯(332)を図示した。口径が19.0cmと大振りのAⅦ類と考えられ、胎土はB群である。

3J-9D (図版 303、写真図版 277)

須恵器無台杯(333)を図示した。C類で、法量は不明である。胎土はC群である。

3J-9E (図版 303、写真図版 277)

2 グリッド出土の須恵器甕(334)を図示した。口縁端部はやや内面に肥厚し、細い凸帯を呈す。胎土はA群である。

3J-9H (図版 303、写真図版 277)

23 グリッド出土の土師器小甕(335)を図示した。外面はケズリ、底部はナデにより調整される。

3J-9I (図版 303、写真図版 277)

15 グリッド出土の須恵器杯蓋(336)を図示した。口径16.5cmのBⅦ類で、胎土はB群である。

3J-10H (図版 303、写真図版 277)

須恵器無台杯(337)を図示した。口径13.2cmのCⅣ類で、底部はヘラ切りされる。胎土はE群である。

4J-2C (図版303、写真図版278)

19グリッドと24グリッド出土の須恵器杯蓋(338・339)、9グリッド出土の須恵器無台杯(340)を図示した。338はAⅦ類で胎土に海綿骨針を含み、339は擬宝珠型のつまみである。340はC類である。胎土は、いずれもB群である。

4J-2D (図版303、写真図版278)

11グリッド出土の須恵器高杯(341)と21グリッド出土の土師器甕(342)を図示した。341の胎土はE群、342は底部外縁に小砂利大の剥落痕が見受けられることから、「砂底」土器と考えられる。

4J-3D (図版303、写真図版278)

20グリッド出土の土師器甕(343)を図示した。外面は粗いハケメ、底部内面はミガキ調整される。

4J-4C (図版303、写真図版278)

2グリッド出土の須恵器杯蓋(344)と8グリッド出土の土師器長甕(345)を図示した。344はAⅡ類で、つまみの剥離痕が顕著であり外面には自然釉が付着する。胎土はE群。345は外面をやや粗めのハケメ、内面はミガキ調整される。

4J-4D (図版303、写真図版278)

19グリッド出土の須恵器甕(346)を図示した。胎土はB群である。

4区 (図版303、写真図版278)

出土グリッドは不明であるが、4区包含層出土の須恵器長頸瓶(347)を図示した。内外面ともにロクロナデ調整で、貼付高台である。胎土はB群である。

攪乱ほか出土遺物

河138 (図版303～305、写真図版278・279)

須恵器杯蓋(348～351)・無台杯(352～356)・短頸瓶(357)・長頸瓶(358)・平瓶(359)・水瓶(360)・甕(361～373)、土師器無台椀(374・375)・小甕(376・377)を図示した。348は、擬宝珠型のつまみである。348～351の胎土は、いずれもB群である。352はCⅥ類、353はⅥ類である。354は丸底、355・356はC類の底部である。胎土は、352・353はC群、354はA群、355はB群、356はD群である。357は2条の並行沈線が施され、頸部外周に自然釉が付着する。胎土はB群である。358は貼付高台の端部がやや外側に開き、内外面に自然釉が付着する。胎土は、緻密で夾雑物がみられないためE群とした。359は内面には墨痕が認められ、転用硯として使用されている。緻密で精良な胎土のためE群としたが、白色凝灰岩を含むことからB群の可能性もある。360はハケメと2条の並行沈線により文様付けされており、浄瓶の可能性もある。胎土は、緻密で夾雑物を含まないE群である。361は酸化焰焼成で口縁端部は内側に屈曲し、365・367・373は転用砥石としての使用痕が認められる。361～373の胎土は、いずれもB群である。374はB類、375はA類の底部である。376はB類、377はA類の底部である。

暗渠 (図版305、写真図版279)

3J-9Eグリッド出土の須恵器杯蓋(378)、3J-6I6グリッド出土の須恵器有台杯(379)、4J-1H2グリッド出土の土師器無台椀(380)を図示した。378はAⅥ類と考えられ、379とともに胎土はB群である。380はA類で、口径10.0cmと法量はI類に準じる。内外面ともにナデ調整である。

攪乱 (図版305、写真図版279)

須恵器杯蓋(381～383)・無台杯(384)・有台杯(385)・高杯(386)・水瓶(387)・甕(388～390)を図示した。381・383はBⅦ類で、381の端部は僅かに内傾する。382はAⅥ類である。381・382の胎土はB群、383はC群である。384はCⅤ類の口縁部と考えられ、385はBⅠ類である。胎土はともにC群である。386

は脚台部で胎土はE群、387は1条の沈線が廻る事から水瓶の頸部とした。胎土はB群である。388の外面にはスレが生じており、転用砥石の可能性もある。胎土はB群。390は、酸化焰焼成で、胎土はB群である。

表採・排土（図版305、写真図版279）

須恵器有台杯（391）、土師器甕（392）、須恵器仏鉢（393）を図示した。391はBⅡ類で、胎土はC群である。392は内外面ともに粗いハケメにより調整され、口頸部に段を有す。393は口径11.4cmと小振りで、口縁部が内湾する。胎土はC群と考えられる。

試掘調査出土遺物（図版305、写真図版279）

須恵器甕（394・395）・壺（396）、土師器無台椀（397・398）を図示した。394は54T出土で外面を転用砥石として二次利用されており、395は64Tからの出土である。胎土はともにB群である。396・397は70Tからの出土である。396の内外面には自然釉が付着し、特に内面には厚く付着する。底部は糸切りされ、胎土はD群である。397はA類の底部である。398は108Tからの出土で、A類で口縁部はやや内湾し底部は丸底である。内・外面にミガキが施されており、外面胴部～底部にかけて漆状の付着物がみられる。

5) 中世の土器

土器の分類（第32図参照）

中世の土器の分類については以下の文献を参考とした。輸入陶磁器の白磁・青磁の分類は大宰府での成果〔山本2000〕、珠洲焼は吉岡編年〔吉岡1994〕、瀬戸美濃焼は藤澤良佑の研究〔藤澤2005〕がある。土師質土器は水澤幸一〔水澤2005〕、品田高志〔品田1991・1999〕、鶴巻康志〔鶴巻2003〕らの一連の研究を参考とした。

青 磁

6点図示した。全て龍泉窯系の碗と推定する。器形が不明なものが多く、胴部外面の文様で分類した。縞蓮弁文を持つA類（451・461）、片彫蓮弁文を描き弁の中心線には縞がないB類（410・431・447）、その他のC類（462）に分類した。唯一高台形が観察できる431は、大宰府の分類〔山本2000〕に当てるとⅡ類（Ⅱ-c類）に該当し、13世紀中頃～14世紀初頭前後に出現するとされる。他の5点においても431の様相から逸脱するものはなく、13～14世紀代に比定されるものと推定する。

白 磁

碗1点（406）を図示した。高台が残る破片資料で、内面に櫛目文が見られる。底部や高台から胴部に至る器形などからⅥ類〔山本2000〕となる可能性がある。Ⅵ類は11世紀後半～12世紀前半の標識磁器とされる。

珠洲焼

84点図示した。内訳は片口鉢類37点、壺10点、甕36点、壺または甕1点である。片口鉢の形状などから吉岡編年〔吉岡1994〕のⅢ～Ⅳ期頃（13世紀後半～14世紀末）が主体と推定する。

片口鉢類：口径が推定できるものを分類対象とした。口縁端部の形状によって、外端で面を取るもの（A類）、水平に面を取るもの（B類）、内端で面を取るもの（C類）に分類した。さらに口径によって、25.0cm以下（Ⅰ類）、25.1～30.0cm（Ⅱ類）、30.1～35.0cm（Ⅲ類）、35.1cm以上（Ⅳ類）に細分した。

壺：全体の器形を把握できる個体が出土していないため、成形技法による器種分類に留めた。紐叩打成形によるT種（494など）と紐轆轤成形によるR種（414・483など）がある。

甕：全体の器形を把握できる個体が出土していないため、分類は行わなかった。ただし、口径を推定できる個体が3点あり、口径60cm以上を大甕、50cm前後を中甕（402など）、30cm以下を小甕（497）として、器種分類を行った。

瀬戸美濃焼

5点図示した。出土数が少ないため器種分類に留めた。卸皿、端反皿、柄付片口、小型仏花瓶がある。

卸 皿：476・500があり、2点は胎土などから同一個体の可能性がある。器形が皿状で内面底部に格子状の卸目を持つものを卸皿とした。中期様式のⅠ～Ⅲ期頃（14世紀前半）と推定する。

青磁碗			A類	B類	C類	白磁碗
珠洲焼片口鉢			A類	B類	C類	
I類						
II類						
III類						
IV類						
壺			T種	R種	甕	
					<p>中甕</p> <p>小甕</p>	
瀬戸美濃焼卸皿			端反皿	柄付片口	小型仏花瓶	
土師質土器皿			T種	R種	RH種	
<p>a類</p> <p>b類</p> <p>c類</p>						
瓦質土器播鉢					<p>小皿</p>	

第32図 大沢谷内遺跡中世土器分類図

402 [1:12]・その他 [1:6]

端反皿：513の1点がある。器形が皿状で口縁部がやや括れた後大きく外反するものを端反皿とした大窯1期前半（15世紀末）と推定する。

柄付片口：474の1点がある。円筒状の胴部と大きく外反する口縁部に注口が付く。口縁端部がつまみ上げられ、縁が付くのが特徴的である。中期様式I期（14世紀初め）に該当するであろうか。

小型仏花瓶：520の1点がある。古瀬戸前期様式の編年〔藤澤1995〕に小型仏花瓶の名称が使用されていたため採用した。台部から一旦窄まり、球胴状の胴部が作出される。胴部の最大径が下半にあり、再び頸部に向けて窄まる。円筒状の頸部から口縁部は外反する器形である。前期様式IV期～中期様式I期頃（13世紀末～14世紀初め）と推定する。

土師質土器

20点図示した。器種は皿と小皿（480）がある。成形技法により、水澤氏の分類〔水澤2005〕に準じて分類した。

T種：手づくね成形で、a～cの3種に細分した。

a：口縁部が強く外反するもの（472など）。

b：口縁部と胴部の境界に陵が形成されるもの（421など）。

c：口縁部付近に指押さえ圧痕が残るもの（501など）。

R種：ロクロ成形で、底部が糸切りされるもの（504など）。

RH種：ロクロ成形で、底部がヘラ切りされるもので、品田氏によって「阿賀北型」〔品田1991〕と称されたもの（445など）。

瓦質土器

9点図示した。表面に炭素を吸着させるいぶし焼きをされたと思われる瓦質の土器を瓦質土器とした。器種はすべて播鉢である。423～425・428・514・515は胎土が類似することなどから同一個体の可能性が高い。このことから個体数は多くとも4個体と考えられ、詳細な分類は行わなかった。

遺構出土

SB1565P2（図版305、写真図版279）

珠洲焼（399）を図示した。甕の胴部である。外面はタタキメ、内面はあて具痕が見られる。

Pit161（図版305、写真図版279）

珠洲焼（400）を図示した。甕の胴部である。外面はタタキメ、内面はあて具痕が見られる。

Pit571（図版305、写真図版279）

珠洲焼（401）を図示した。壺R種の口縁部である。外反する口縁部である。内・外面ともロクロナデが見られる。

Pit572（図版305、写真図版279）

珠洲焼（402）を図示した。甕の口縁～胴部である。口径が52.0cmと推定でき、中甕の可能性がある。外反する丸縁の口縁部である。胴部は外面にタタキメ、内面にあて具痕が見られる。

Pit587（図版306、写真図版279）

珠洲焼（403）を図示した。甕の胴部である。外面はタタキメ、内面はあて具痕が見られる。

Pit1097（図版306、写真図版279）

珠洲焼（404）を図示した。片口鉢類の胴部である。内面の卸目は幅2.3cmの11本一単位である。

SD279（図版306、写真図版279）

珠洲焼（405）を図示した。片口鉢類の胴～底部である。内面の卸目は幅3.1cmの9本一単位である。焼成が不良のためか、破断面は橙色を呈する。外面の胴部下から底部にかけて炭化物が付着する。

SD153（図版306、写真図版279・280）

白磁（406）、珠洲焼（407～409）を図示した。406は碗の胴～底部である。高台と胴部の境が明瞭であり、

胴部の立ち上がりは緩やかである。内面には12本一単位の櫛目文が施される。高台内は露胎であり、畳付部分の釉は削り取ったと思われる。407は片口鉢類の口縁～胴部である。口縁部は直線的に開き、やや肥厚した内端で面を取る。内面の卸目は幅1.8cmの8本一単位である。CⅢ類に分類した。408・409は甕の胴部である。408は胴部の下部で、409は上部である。両方とも外面はタタキメ、内面はあて具痕が見られる。408は外面下部に漆が、409は外面に炭化物が付着する。

SD174 (図版306、写真図版280)

青磁(410)を図示した。碗の胴部である。外面に幅の広い蓮弁文が片切彫で表現される。蓮弁部の盛り上がりは少ない。B類に分類した。

SD157 (図版306、写真図版280)

土師質土器(411)を図示した。皿の口縁～底部である。底部から口縁部までやや急な角度で直線的に立ち上がる。磨耗が著しく観察が困難だが、内・外面にロクロナデが見られる。RH種に分類した。

SD155 (図版306・307、写真図版280・281)

珠洲焼(412～419)、土師質土器(420～422)、瓦質土器(423～425)を図示した。

412・413は片口鉢類である。412は口縁～胴部で、口縁部はやや内湾しつつ外傾し、端部が肥厚した外端で面を取る。卸目は幅2.9cmの11本一単位である。被熱を受けたためか、内・外面にススが付着しており、破断面の一部にも及んでいる。AⅠ類に分類した。413は口縁部で、内湾しつつ外傾する器形である。端部はやや肥厚し、ほぼ水平に面を取る。内・外面にロクロナデが見られる。BⅡ類に分類した。414は壺R種の胴～底部である。内・外面にロクロナデが見られ、底部は静止糸切りである。底部、胴部下及び破断面に炭化物が付着する。415～419は甕の胴部である。5点とも外面はタタキメ、内面はあて具痕が見られる。416は内面・破断面にススが付着し、外面にはアスファルトが付着している。419は外面にススが付着し、破断面の一部を砥石に転用している。

420～422は皿で、420・421は口縁～胴部、422は底部である。420はほぼ直線的に短く立ち上がる。Tc種に分類した。421は胴部から内湾気味に立ち上がる。Tb種に分類した。422は内・外面、破断面に炭化物が付着する。RH種に分類した。

423～425は挿鉢である。3点は接合しないが、胎土などから同一個体の可能性がある。423・424は口縁～胴部である。423は胴部から直線的に開く口縁部であり、端部に面は形成されない。内面には横位の密な沈線に垂直に交わるようにやや深めの沈線が3条施されるのが確認できる。内面に炭化物が、外面にススが付着する。424はわずかに突き出た隅丸方形の注口が見られる。やはり内面には炭化物が、外面にはススが付着する。425は胴部下で、423と同様に卸目は横位の密な沈線に垂直に交わるようにやや深めの沈線が3条施される。内・外面に炭化物が付着する。

SD156 (図版307、写真図版281)

珠洲焼(426・427)、瓦質土器(428)を図示した。426・427は甕の胴部である。2点とも外面にタタキメ、内面にあて具痕が見られる。428は挿鉢の口縁～胴部である。423～425と接合はしないが、胎土などから同一個体の可能性がある。胴部から直線的に開く口縁部であり、端部に面は形成されない。口縁端部に横位の沈線が2条巡り、外面には縦位のタタキメ?が巡る。内面は横位・斜位の密な沈線に垂直に交わるようにやや深めの沈線が3条施される。内面に炭化物が、外面にススが付着する。

SD800 (図版307、写真図版281)

珠洲焼(429・430)を図示した。甕の胴部である。2点とも外面にはタタキメが、内面にはあて具痕が見られる。

SD158 (図版307、写真図版281)

青磁(431)、珠洲焼(432～436)、土師質土器(437)を図示した。

431は碗の胴～底部である。高台は断面四角形を呈し、底部は厚みを持つ。内底見込みに蓮華文のスタンプが、

外面には幅の広い蓮弁文が施される。高台内は露胎であり、畳付の釉は削り取られていない。B類に分類した。432・433は片口鉢類の口縁部である。432は直線的に開き、外端に面を取る。内面から端部にかけてアスファルトが付着する。AⅡ類に分類した。433は胴部から直線的に開く口縁部であり、端部に水平な面を取る。内面には僅かに卸目が確認できる。BⅣ類に分類した。434は壺T種の胴部である。外面はタタキメが、内面はあて具痕が見られる。435・436は甕の胴部である。2点とも外面にタタキメが、内面にあて具痕が見られる。437は皿の口縁～胴部である。底部から内湾気味に立ち上がるが、口縁部付近で外反する。Tc種に分類した。SD869（図版308、写真図版281）

珠洲焼（438）を図示した。甕の胴部である。外面にタタキメが、内面にあて具痕が見られる。

SE56（図版308、写真図版281）

珠洲焼（439）を図示した。壺T種の胴部である。外面にタタキメが、内面にあて具痕が見られる。

SE89（図版308、写真図版281）

珠洲焼（440）を図示した。片口鉢類の口縁部である。直線的に開き、外端に面を取る。口縁端部はやや肥厚する。AⅠ類に分類した。

SE78（図版308、写真図版281）

珠洲焼（441・442）を図示した。片口鉢類である。441は胴部であり、内面にやや深く刻まれた卸目が確認できる。442は胴～底部で、底部の静止糸切りが確認できる。

SE80（図版308、写真図版281）

珠洲焼（443）、土師質土器（444）を図示した。443は片口鉢類の口縁～胴部である。口縁部は直線的に開き、外端に面を取る。口縁端部はやや肥厚する。AⅡ類に分類した。444は皿の口縁～底部である。緩い角度で直線的に立ち上がり、口縁端部は先細る。内・外面に炭化物が付着する。R種に分類した。

SE57（図版308、写真図版281）

土師質土器（445）を図示した。皿の口縁～底部である。底部からやや急な角度で直線的に立ち上がる。ロク口整形されており、底部は回転ヘラ切りである。内面にススが付着する。RH種に分類した。

SE497（図版308、写真図版281）

珠洲焼（446）を図示した。甕の胴部である。外面にタタキメが、内面にあて具痕が見られる。さらに外面には自然釉が僅かにかかり、光沢を帯びる。

SE542（図版308、写真図版281・282）

青磁（447）、珠洲焼（448）を図示した。447は碗の口縁～胴部である。口縁部は直線的に開き、外面に幅の広い蓮弁文が片切彫で表現される。蓮弁部の盛り上がりは少ない。B類に分類した。448は甕の口縁～胴部である。口径が49.1cmと推定でき、中甕に分類した。折り返し外反する丸縁の口縁部で、外面の口縁部下部には粘土が貼り付けられている。胴部は外面にタタキメが、内面にあて具痕が見られる。

SE588（図版308、写真図版282）

珠洲焼（449）を図示した。片口鉢類の口縁～胴部である。口縁部は内湾しており、端部はやや肥厚する。断面が円形状の注口が付き、両脇は挟られるようにして注口を際立たせている。卸目は幅1.8cmの11本一単位である。CⅡ類に分類した。

SE485（図版308、写真図版282）

珠洲焼（450）を図示した。甕の胴部である。胴部下で、器壁が厚い。外面にタタキメが、内面にあて具痕が見られる。

SE105（図版308、写真図版282）

青磁（451）を図示した。碗の胴部である。外面に幅の広い縞蓮弁文が片切彫で表現される。蓮弁部の盛り上がりは少ない。A類に分類した。

SE522 (図版 308、写真図版 282)

珠洲焼(452)を図示した。片口鉢類の胴～底部である。底部から垂直に立ち上がり、角度を変え胴部はほぼ直線的に開く。底部は静止糸切りである。内面の卸目は幅 1.5cm の 8 本一単位である。外面にススが付着する。

SE577 (図版 308、写真図版 282)

珠洲焼(453)、土師質土器(454)を図示した。453は甕の胴部である。外面にタタキメ、内面にあて具痕が見られる。内・外面にススが付着する。454は土師質土器で、皿の口縁～胴部である。口縁部はやや内湾して立ち上がる。内・外面はロクロナデで調整される。外面上部にススが、内面には炭化物が付着する。R種に分類した。

SE917 (図版 308、写真図版 282)

珠洲焼(455)を図示した。甕の胴部である。底部に近い部位と思われ、器壁が厚手である。外面にタタキメが、内面にあて具痕が見られる。

SE710 (図版 308、写真図版 282)

珠洲焼(456)を図示した。甕の胴部である。外面にタタキメが、内面にあて具痕が見られる。

SK69 (図版 309、写真図版 282)

珠洲焼(457)、土師質土器(458)を図示した。457は片口鉢類の口縁～胴部である。口縁部は直線的に開き、やや肥厚した外端面を取る。AⅡ類に分類した。458は皿の口縁～胴部である。ほぼ直線的に開く器形であるが、口縁部が僅かに外反する。底部は回転糸切りである。内・外面にススが付着する。R種に分類した。

SK71 (図版 309、写真図版 282)

珠洲焼(459)を図示した。片口鉢類の口縁部である。やや内湾する口縁部であり、端部に水平な面を取る。また、端部はやや肥厚する。BⅠ類に分類した。

SK1500 (図版 309、写真図版 282)

土師質土器(460)を図示した。皿の口縁～底部である。口縁部がほぼ直線的に開く器形で、胴部と底部の境が明瞭でない。内・外面にススが付着する。RH種に分類した。

SX15 (図版 309、写真図版 282)

青磁(461・462)を図示した。碗の胴部である。461は外面に蓮弁文が施される。蓮弁部のラインがやや盛り上がることで表現される。A類に分類した。462は外面に丸彫りで表現された曲線とそのやや太めの線が交差しているのが見られる。C類に分類した。

SX521 (図版 309、写真図版 282)

珠洲焼(463・464)、土師質土器(465)を図示した。463は珠洲焼で、片口鉢類の口縁部である。やや内湾する口縁で、水平に面を取る。BⅡ類に分類した。464は甕の胴部である。外面にタタキメが、内面にあて具痕が見られる。また、外面にススが付着する。465は皿の口縁～胴部である。外反する口縁部を持つ。内面に黒斑が見られる。Ta種に分類した。

包含層出土

2J-10I (図版 309、写真図版 282)

珠洲焼(466)を図示した。片口鉢類の胴～底部である。底部から胴部へ段もなく緩い角度で立ち上がる。内面の卸目は幅 2.1cm に 8 本一単位である。外面及び底部にはススが付着する。

3J-1I (図版 309、写真図版 282)

珠洲焼(467)を図示した。片口鉢類の口縁～胴部である。やや内湾気味に立ち上がり、内端で面を取る。内面の卸目は幅 1.7cm に 7 本一単位である。CⅡ類に分類した。

3J-2J (図版 309、写真図版 282)

珠洲焼(468)を図示した。片口鉢類の口縁～胴部である。内湾気味に立ち上がり、水平に面を取る。内面に卸目が確認できる。BⅡ類に分類した。

3J-3H(図版309、写真図版282)

珠洲焼(469)を図示した。片口鉢類の胴～底部である。底部から胴部へ段もなく緩い角度で立ち上がる。底部は静止糸切りである。内面に卸目が確認できる。

3J-3J(図版309、写真図版282)

珠洲焼(470)を図示した。甕の胴部である。外面にタタキメが、内面にあて具痕が見られる。

3J-4H(図版309、写真図版282)

珠洲焼(471)を図示した。片口鉢類の口縁～胴部である。胴部から内湾して立ち上がる。口縁部は肥厚せず、器壁がやや薄い。CⅢ類に分類した。

3J-5G(図版309、写真図版282)

土師質土器(472・473)を図示した。皿の口縁～胴部である。472は緩い角度で立ち上がり、口縁部で僅かに外反する。内面下部に黒斑が見られる。Ta種に分類した。473はやや急な角度で直線的に立ち上がる。472に比べ、器壁が厚い。内・外面にススが付着する。RH種に分類した。

3J-5J(図版309、写真図版282)

瀬戸美濃焼(474)を図示した。柄付片口の口縁～胴部である。口縁部は大きく外反し、端部がつまみ上げられたように縁取りされる。胴部はほぼ垂直に立ち上がっている。注口の破断面には黒色の付着物が見られ、周囲が被熱していることから焼継痕と思われる。中期様式Ⅰ期(14世紀初め)に該当するであろうか。

3J-6H(図版309、写真図版283)

珠洲焼(475)を図示した。片口鉢類の胴～底部である。底部から垂直に立ち上がり、すぐ角度を変えて外傾する。底部は静止糸切りである。

3J-6I(図版309・310、写真図版283)

瀬戸美濃焼(476)、珠洲焼(477)を図示した。476は卸皿の胴～底部である。緩い角度で立ち上がり、すぐに角度が急になる。底部は回転糸切りである。内面には格子状の卸目が見られる。胎土などから500と同一個体の可能性がある。中期様式のⅠ～Ⅲ期頃(14世紀前半)と推定する。477は片口鉢類の口縁～胴部である。口縁部は直線的に開き、水平に面を取る。端部はやや肥厚する。BⅡ類に分類した。

3J-7E(図版310、写真図版283)

珠洲焼(478)を図示した。片口鉢類の胴～底部である。底部は静止糸切りである。内面の卸目は幅2.1cmの11本一単位である。

3J-8J(図版310、写真図版283)

土師質土器(479・480)を図示した。479は皿の口縁～胴部である。直線的に開く器形である。外面にススが、内面にアスファルトが付着する。Tc種に分類した。480は小皿の口縁～底部である。底部から短く先細りながら立ち上がる。外面に黒斑が見られる。RH種に分類した。

3J-9F(図版310、写真図版283)

珠洲焼(481)を図示した。甕の口縁～胴部である。口縁部は折り返し気味に反り、端部は丸縁を呈す。胴部は外面にタタキメ、内面にあて具痕が見られる。

3J-9I(図版310、写真図版283)

瓦質土器(482)を図示した。播鉢の胴～底部である。胴部の器壁は423などと比べると薄い。内面はハケ調整される。全体的に黒色を帯び、外面には炭化物が付着する。

3J-10F(図版310、写真図版283)

珠洲焼(483)を図示した。壺R種の頸～肩部である。張り出した肩部から頸部への窄まる部分である。内・

外面にロクロナデが見られる。頸部付近には自然釉が垂れた痕跡も見られる。

3K-4A (図版 310、写真図版 283)

珠洲焼 (484) を図示した。片口鉢類の口縁～胴部である。ほぼ直線的に開く器形であり、口縁部は内端で面を取る。破断面の一部に被熱した痕跡が見られる。C III類に分類した。

グリッド不明 (図版 310、写真図版 283)

珠洲焼(485)を図示した。片口鉢類の胴部である。やや内湾しながら開く器形である。内面には卸目が確認でき、幅 1.1cm の 8 本一単位である。

河 138・攪乱・その他出土

河 138 (図版 310・311、写真図版 283・284)

珠洲焼 (486～499) と瀬戸美濃焼 (500) と土師質土器 (501～504) を図示した。

486～493 は片口鉢類である。486～489 は口縁～胴部である。4 点はほぼ直線的に開く器形で、外端で面を取る。ただし、487 の端部はやや丸みを帯びる。486・488・489 は端部の肥厚が顕著である。487 以外は卸目が確認でき、486 の卸目は幅 3.0cm の 9 本一単位である。488 は幅 1.4cm の 8 本一単位、489 は幅 2.5cm の 15 本一単位である。486・488 は A II類、487 は A I類、489 は A III類に分類した。490～492 は胴部であり、490・491 はほぼ直線的に開く器形で、492 はやや内湾する器形である。3 点とも内面には卸目が見られ、492 の卸目は幅 2.9cm の 17 本一単位であり、直線状と蛇行状に施される。493 は胴～底部である。底部は静止糸切りで、内面の卸目は幅 2.9cm の 9 本一単位である。内面と破断面の一部にススが付着する。

494～496 は壺である。494 は壺 T 種の口縁～胴部である。頸部からやや外傾しながら立ち上がり、口縁部で外反する。胴部は外面にタタキメが、内面にあて具痕が見られる。495 は壺 T 種の胴部である。外面にタタキメが、内面にあて具痕が見られる。496 は壺 R 種の胴～底部である。底部は静止糸切りで、外面にはススが付着し、内面は赤色を呈する。

497～499 は甕である。497 は甕の口縁部である。口径が 29.2cm と推定でき、小甕の可能性はある。頸部から折り返し気味に外反しており、端部は丸縁となる。上部には自然釉がかかる。内面にはハケによる調整も見られる。498・499 は甕の胴部である。2 点とも外面にタタキメが、内面にあて具痕が見られる。また、内・外面にススが付着する。

500 は卸皿の口縁～胴部である。やや内湾しながら、口縁端部は外側に面を持つように立ち上がる。内・外面にロクロナデが見られ、釉は内面のみにかかる。胎土などから 476 と同一個体の可能性がある。中期様式の I～III期頃 (14 世紀前半) と推定する。

501～504 は皿である。501 は口縁～胴部である。緩斜度で直線的に開く。口縁端部に向けて器壁が薄くなっていく。Tc 種に分類した。502 は口縁～底部である。胴部と底部の境が明瞭であり、ロクロナデの凹凸が目立つが口縁部までほぼ直線的に開く。口縁部付近に孔が 1 つ穿たれる。内・外面に黒斑がつく。RH 種に分類した。503・504 は胴～底部である。503 は胴部と底部の境が明瞭でない。外面にロクロナデが見られるが、内面は欠損している。RH 種に分類した。504 は胴部と底部の境が明瞭で、やや急な角度で立ち上がる。底部は回転糸切りである。内・外面に黒斑が見られる。R 種に分類した。

暗渠 (図版 311、写真図版 284)

珠洲焼 (505)、瓦質土器 (506) を図示した。505 は片口鉢類で口縁～胴部である。口縁端部の直前で括れ、端部は肥厚する。外端で面を取る。A I類に分類した。506 は瓦質土器で、播鉢の胴～底部である。底面がやや薄手になる。底部は静止ヘラ切りである。内面に炭化物が、外面及び底部にススが付着する。

攪乱 (図版 311・312、写真図版 284)

珠洲焼 (507～512)、瀬戸美濃焼 (513)、瓦質土器 (514～516)、土師質土器 (517) を図示した。507 は片

口鉢類の胴～底部である。底部は静止糸切りである。焼成が悪く、にぶい黄橙色を呈する。508は壺T種の肩部である。外面にタタキメが、内面にあて具痕が見られる。509は甕の口縁～胴部である。折り返し気味に外反する丸縁の口縁部を呈する。口縁部付近は器壁が厚く、胴部は薄くなる。外面の口縁部と胴部の境に工具を当てた痕が残る。内面にはあて具痕とともにナデの痕が見られ、胴部から口縁部付近に近づくほど丁寧に施される。510・511は甕の胴部である。2点とも外面にタタキメが、内面にあて具痕が見られる。511の内面にはさらに横位のハケにより調整される。512は甕の胴部下半である。外面にタタキメが、内面にあて具痕と横位のハケ調整が見られる。

513は端反皿の口縁～胴部である。緩斜度で立ち上がり、口縁部で角度を変え外反する。内・外面は施釉される。大窯1期前半(15世紀末)のものとして推定する。

514～516は挿鉢である。514は口縁～胴部である。423などと同一個体の可能性がある。胴部から口縁部が直線的に開く器形である。内面に横位のハケメが見られ、それに直行するように縦位の卸目が1本見られる。外面にススガ、内面に炭化物が付着する。515は口縁部である。514などと同一個体の可能性がある。口縁部は直線的に開く器形であり、内面に横位のハケメが見られる。内・外面に炭化物が付着する。516は胴部である。外面にロクロナデが、内面に卸目が見られる。外面に炭化物が付着する。

517は皿の口縁～底部である。底部から緩斜度で立ち上がるがすぐに角度を変え直線的に開く。口縁部は外面から先細るため、垂直に立ち上がるようなシルエットとなる。外面にススガ、内面に炭化物が付着する。Tb種に分類した。

表採(図版312、写真図版284)

珠洲焼(518)を図示した。甕の胴部である。外面にタタキメが、内面にあて具痕が見られる。外面を砥石に転用している。

立会表採(図版312、写真図版284)

珠洲焼(519・521)、瀬戸美濃焼(520)を図示した。519は甕、521は甕あるいは壺T種である。519は底部である。内・外面にロクロナデが見られ、底部は静止糸切りである。521は胴部であり、外面にタタキメが、内面にあて具痕と横位のハケメが見られる。520は小型仏花瓶の頸～底部である。胴部の丸味が強く、頸部にかけて緩やかに窄まる。底部は回転糸切りである。胴部に櫛描きによる平行沈線が3段にわたって施される。胴部以上には施釉され、台部は垂れ落ちるのみで無釉である。前期様式IV期～中期様式I期頃(13世紀末～14世紀初め)と推定する。

試掘(図版312、写真図版284)

珠洲焼(522・523)を図示した。522は片口鉢類の胴部で、内・外面にロクロナデが見られる。523は壺T種の胴部で、外面にタタキメが、内面にあて具痕が見られる。

B 土 製 品

遺構出土遺物

SD157(図版313、写真図版285)

鞆の羽口(1～4)を図示した。外径4.6～6.6cm、孔径1.9～3.6cmと推定され、いずれも溶解物が付着する。

SD155(図版313、写真図版285)

支脚(5)・鞆の羽口(6)を図示した。5は断面略円形で、残存長7.5cmを測る。6の残存長は6.1cmで、外径7.4cm、孔径2.9cmと推定される。外面には粘土質溶解物が付着し、熱変色する。

SD156(図版313、写真図版285)

円筒形土製品(7)を図示した。底径5.7cmで、外面はハケメ、内面および底面はナデにより調整される。SE917(図版313、写真図版285)

紡錘車(8)を図示した。径7.3cmの中央部に0.5cm径の孔が開き、厚さは2.7cmである。

SK1327(図版313、写真図版285)

円筒形土製品(9)を図示した。底径5.7cmで、外面はハケメ、内面および底面はナデ調整である。

SK1115(図版313、写真図版285)

支脚(10)を図示した。残存長11.5cmで、断面多角形であるが表面は被熱による剥落が顕著である。

SK1310(図版313、写真図版285)

円筒形土製品(11)を図示した。径8.3cmで、外面はハケメにより調整され内面はナデ調整と考えられる。

SX841(図版313、写真図版285)

円筒形土製品(12)を図示した。口径10.0cmで、肥厚した口縁部は僅かに外反する。内外面ともに、ハケメにより調整される。

SX1219(図版313、写真図版285)

円筒形土製品(13)を図示した。口径10.1cmで、口縁部は直立する。内外面ともに、ナデ調整である。

SX473(図版313、写真図版285)

支脚(14)を図示した。残存長7.0cmで、断面は略円形である。外面は、丁寧なナデにより調整される。

SX945(図版313、写真図版285)

有孔円盤(15～29)を図示した。径2.7～4.4cmを測るが、3.0cm前後のものが大半を占める。簡単なナデ調整により器面はやや湾曲しており、部分的にミガキ調整されるものもある。穿孔は焼成前と焼成後の双方が認められるが、焼成前のものが圧倒的に多い。祭祀的要素が強い遺物である。

攪乱・暗渠出土遺物

河138(図版313、写真図版285)

轆の羽口(30～35)を図示した。外径6.0～7.7cm、孔径3.3～4.5cmで、断面形はいずれも略円形である。いずれも外面に粘土質溶解物が付着しており、熱変色が見られる。

暗渠・暗渠埋土(図版313、写真図版285)

支脚(36)・土錘(37)を図示した。36は残存長8.2cmで、断面は径4.0～4.3cmの略円形である。37は上端を欠損しており、残存長5.4cm、径2.0cm、孔径0.5cmを測る。本遺跡における土錘は、この1点のみである。

C 石器・石製品

1) 概要

上層で出土した石器・石製品・搬入礫は総数1,730点を数え、総重量196.73kgを量る。掲載した資料は総数89点である。内訳は、磨製石斧1点、磨石類26点、砥石46点、台石10点、軽石製石製品3点、石核1点、加工痕のある礫石器1点、分割礫1点である。

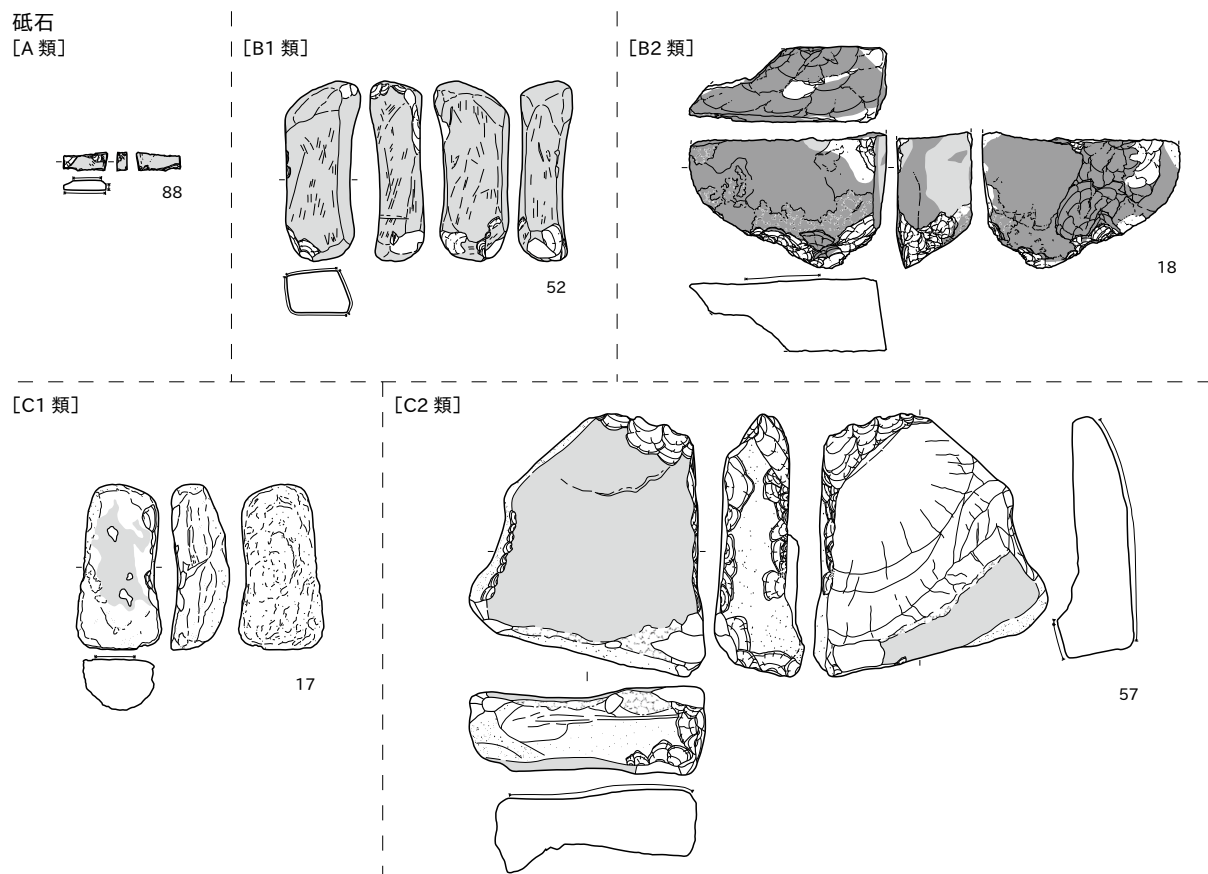
上層からは弥生時代後期から近世の遺物が出土しており、石器・石製品も多時期に亘るものと考えられる。また、下層の石器が上層出土遺物として数多く混入しており、これらについては可能な限り分類し下層の遺物として取り扱った。

2) 分類

器種分類および細分類は下層の分類に準じたが、砥石については『古渡路遺跡』〔土橋2011〕を参考に下層とは別分類とした。また、下層から出土していない器種については、以下のように分類した。

砥石(第33図)

「研ぐ」「磨く」「仕上げる」ものとして、その対象物を刃物に限定せず広義に「研磨する」道具を砥石〔汐見1999〕とし、研磨に起因する平滑面や刃物傷がある石器を砥石とした。形状および石材により、次のように分



全て [1:6]

第33図 大沢谷内遺跡上層出土砥石分類図

類した。

A類：板状のもの。

B類：四～多角柱状のもの。砥面に反りや歪みが生じているものもある。

B1類：手に持って使用可能な小型のもの。

B2類：置いて使用されたと推定できる大型のもの。

C類：素材礫の形状を生かしたもの。

C1類：手に持って使用可能な小型のもの。

C2類：置いて使用されたと推定できる大型のもの。

I類：砂岩、砂岩（アルコース質アレナイト）、アプライト。

II類：流紋岩、デイサイト、中粒の凝灰岩。

III類：細粒の凝灰岩。

石材の違いは用途と密接に関係しており、I類は荒砥、II類は中砥、III類は仕上砥と考えられる。

また土器を研磨具として使用した、いわゆる「転用砥石」も出土している。これらについても砥石として、研磨部位によって分類した。

1類：外面のタタキメに研磨痕が見られるもの（148・367・518）

2類：破断面に研磨痕が見られるもの（17・419）

3類：外面のタタキメと破断面の両方に研磨痕が見られるもの（365）

これらは素材の形状を生かしたC類に分類され、1類は面的に研磨痕が認められることからC2類、2類は置いた時の安定性を考慮するとC1類、3類は両要素を含むものと考えられ、石材的にはII類に分類されるもの

である。

軽石製石製品

軽石製の加工痕あるいは使用痕が認められるものを軽石製石製品とした。磨耗したもの（38・50）や擦痕が見られるもの（69）がある。

分割礫

被熱し分割された礫を分割礫とした。1点（24）図示した。礫層が存在しない本遺跡において礫はすべて搬入礫と考えられることから、掲載することとした。

3）出土石器・石製品各説

①弥生時代

3J-4I（図版314、写真図版286）

磨製石斧（1）を図示した。大型の蛤歯石斧の刃部片と推定する。信州系の榎田式であろうか。B類に分類した。石材はドレライトである。

②遺構出土石器・石製品

SB1568（図版314、写真図版286）

P4出土の磨石類（2）を図示した。C2類で、石材は安山岩である。

Pit92（図版314、写真図版286）

砥石（3）を図示した。分割された円礫を素材とする。正裏面だけでなく、破断面にも砥面が存在する。C2-I類で、石材は砂岩（アルコース質アレナイト）である。

Pit778（図版314、写真図版286）

台石（4）を図示した。平坦面をもつ大型の礫を素材とする。B1類に分類した。裏面および右側面を中心にアスファルトが付着する。石材は流紋岩である。

Pit717（図版314、写真図版286）

磨石類（5）を図示した。正面に磨痕および敲打痕が、裏面と右側面に明確な凹痕が見られる。B類に分類した。被熱しており、部分的にススが付着している。石材は安山岩である。

Pit861（図版315、写真図版286）

砥石（6）を図示した。砥石の分割片である。平・断面形がほぼ方形を呈する。正裏面が砥面となる。B2-I類に分類した。下面を除き被熱しており、部分的にススが付着する。石材は砂岩（アルコース質アレナイト）である。

Pit1510（図版315、写真図版286）

台石（7）を図示した。正面に平坦な面を持つ大型の礫を素材とする。正面に磨面と敲打痕が、右側面から裏面にかけて磨面が見られる。B2類に分類した。また、右側面から裏面にかけてアスファルトが付着する。石材は流紋岩である。

SD158（図版316・317、写真図版286）

磨石類（8～10）、砥石（11・12）を図示した。8は磨石の分割片である。円礫を素材とし、端部に敲打痕が見られる。また、破断面にアスファルトが僅かに付着する。G1類で、石材は変成チャートである。9は正裏面に磨痕・凹痕が、側縁部に敲打痕が見られる。D5類で、石材は砂岩である。10は磨石類の分割片である。破断面以外に磨痕が見られ、端部と側面に部分的に敲打痕が見られる。破断面も含めて部分的にススが付着することから、被熱により分割された可能性がある。C3類で、石材は変成チャートである。11・12は砥石の分割片である。11は正面には研磨痕や刃物傷とともに敲打痕が見られ、裏面の研磨痕は稜が明確に見られるほど使い込まれている。C2-II類で、石材は流紋岩である。12は正面に研磨痕が見られ、端には一部敲打痕が見られる。砥石の分割片か、台石を砥石に転用した可能性もある。C2-I類で、石材は砂岩（アルコース質アレナイト）である。正面にはススが付着する。

SD156 (図版 316、写真図版 286)

砥石 (13) を図示した。砥石の分割片である。B1- II類で、石材は流紋岩である。

SD155 (図版 316、写真図版 286・287)

磨石類 (14・15)、砥石 (16～21)、加工痕のある礫石器 (22) を図示した。14 は磨石類の分割片である。小型の円礫を素材とする。正裏面に磨面が、正面と側面に敲打痕が見られる。敲打により分割したのであろうか。B2類で、石材はアブライトである。15 は小型の円礫を素材とする。敲打痕が顕著に見られるため、敲打の可能性もある。B3類で、石材はデイサイトである。16 は四角錘状の礫を素材とする。正裏面・右側面に研磨痕が、さらに正面には刃物傷が見られる。C1- II類に分類した。石材はデイサイトである。17 は断面がかまぼこ状を呈し、研磨痕のある面はやや湾曲している。C1- II類で、石材は流紋岩である。18 は砥石の分割片である。分割された礫を素材としており、その側面に研磨痕が見られる。正裏面は平坦面を成し、ほぼ平行する面である。正面には研磨痕とともに敲打痕も見られる。被熱しており、ほぼ全面にススが付着する。B2- II類で、石材は流紋岩である。19 は砥石の分割片である。小型の円礫を素材とする。破断面以外は研磨痕及び刃物傷が見られる。C1- II類で、石材は凝灰岩である。20 は砥石の分割片である。大型の礫を素材とする。C2- II類で、石材は凝灰岩である。21 は小型の円礫を素材とする。正面のみに研磨痕、刃物傷が認められる。C1- II類で、石材は流紋岩質凝灰岩である。22 は小型の円礫の一部に剥離痕が残っているものである。石材は安山岩である。

SD154 (図版 317、写真図版 287)

砥石 (23)、分割礫 (24) を図示した。23 は砥石の分割片である。正面・右・左側面に研磨痕が見られる。C2- II類で、石材は流紋岩である。24 は礫の分割片である。被熱しており、ススが付着する破断面と付着しない破断面がある。石材はデイサイトである。

SE89 (図版 317・318、写真図版 287・288)

磨石類 (25)、台石 (26・27)、砥石 (28) を図示した。25 は端部および側面に敲打痕が見られ、磨石類に分類したが敲打の可能性もある。被熱しており、ほぼ全面にススが付着する。敲打によりススが取れている部分と敲打痕上にススが付着している部分があり、被熱前と被熱後に使用されたことが認められる。G2類で、石材はデイサイトである。26 は正裏面に敲打痕が見られ、正面はほぼ平坦な面である。被熱しており、正面を中心にススが付着する。B3類で、石材はデイサイトである。27 は正裏面に敲打痕が見られる。B3類で、石材は流紋岩である。被熱しており、ほぼ全面にススが付着する。28 は砥石の分割片で、正面に研磨痕が見られる。大型の礫を素材としており、破断面を含め部分的にススが付着する。C2- II類で、石材は流紋岩である。

SE80 (図版 319、写真図版 288)

砥石 (29)、石核 (30) を図示した。29 は砥石の分割片である。正裏面に研磨痕と刃物傷が見られる。被熱しており、右側面以外ほぼ全面にススが付着する。正面の敲打痕はススが取れており、裏面の敲打痕はススで覆われている。このことから被熱前と被熱後の使用は明白であるが、砥石としての使用は被熱前に限られており、被熱後は台石のような用途に変わったものと推定される。C2- I類で、石材は砂岩 (アルコース質アレナイト) である。30 は剥片を取り終えた石核で、一部に自然面が残る。加熱処理のためか、やや光沢を帯びている。D類で、石材は玉髄もしくは石英である。

SE57 (図版 319、写真図版 288)

磨石類 (31・32)、砥石 (33) を図示した。31 は小型の球状の礫を素材とし、正裏面に凹痕が、端部及び側縁部に敲打痕が見られる。F2類で、石材はアブライトである。32 は小型の円礫を素材とし、正裏面に磨痕、端部及び側縁部に敲打痕が見られる。被熱しており、正面の一部にススが付着する。C2類で、石材は砂岩 (アルコース質アレナイト) である。33 は断面が六角形状を呈し、6面すべてに研磨痕が見られ平坦面を成す。B1- I類で、石材はアブライトである。

SE588 (図版 320、写真図版 288)

台石 (34) を図示した。台石の分割片である。平面形が楕円形の礫を素材とする。正裏面に磨痕および敲打痕が見られる。B2 類で、石材は砂岩 (アルコース質アレナイト) である。

SE709 (図版 320・321、写真図版 288・289)

台石 (35・36)、砥石 (37)、軽石製石製品 (38) を図示した。35 は台石の分割片で、2 点が接合している。正裏面に敲打痕が見られ、被熱により全面にススが付着する。接合面にもススは付着しており、分割後の被熱である。B3 類で、石材は流紋岩である。36 は台石の分割片で、正裏面に磨面および敲打痕が見られる。下面の破断面以外にススが付着する B2 類で、石材は砂岩 (アルコース質アレナイト) である。37 は砥石の分割片で、正裏面・両側面に研磨痕と刃物傷が見られる。A-Ⅲ類に分類した。右側面にススが付着しており、被熱したことがわかる。石材は凝灰岩である。38 は磨耗した軽石であり、磨痕あるいは研磨痕が見られる。使用により部分的に平坦面が作出される。

SE912 (図版 321、写真図版 289)

砥石 (39) を図示した。礫の分割片を素材とする。裏面は礫の破断面であり、破断面にも研磨痕が見られる。主に右側面が赤みを帯びており、礫の分割前に被熱したと考えられる。C1-Ⅰ類で、石材は砂岩 (アルコース質アレナイト) である。

SE798 (図版 321、写真図版 289)

砥石 (40) を図示した。出土個体は小さいが、分割前は置いて使用するような大型の砥石であったと考えられる。砥面はやや湾曲しており、C2-Ⅱ類で石材は凝灰岩である。右側面の破断面にのみススが付着しており、分割には被熱前と被熱後の 2 段階を経ていると考えられる。

SE1070 (図版 321・322、写真図版 289)

磨石類 (41)、砥石 (42) を図示した。41 は正面に凹痕が、端部に敲打痕が見られる。F1 類で、石材は変成チャートである。42 は正面に研磨痕が見られる。C2-Ⅱ類で、石材はデイサイトである。

SK69 (図版 322、写真図版 289)

砥石 (43～45) を図示した。43 は上面を除いてほぼ全周に研磨痕が見られ、正面上部には溝状の研磨痕も見られる。A-Ⅲ類で、石材は凝灰岩である。44 は断面形が方形を呈する。正裏面と両側面に研磨痕と刃物傷が見られ、砥面は研磨により湾曲している。B1-Ⅱ類で、石材は凝灰岩である。45 は分割片で、破断面の一部にも研磨痕が見られることから、大型の礫を分割した後に砥石として利用したか、砥石が分割した後も使用していた可能性が考えられる。C2-Ⅰ類で、石材は砂岩 (アルコース質アレナイト) である。

SK741 (図版 323、写真図版 289)

砥石 (46) を図示した。分割片で、正面に研磨痕が見られる。被熱して分割したものと考えられ、C2-Ⅰ類で石材は砂岩 (アルコース質アレナイト) である。

SX227 (図版 323、写真図版 290)

台石 (47・48)、砥石 (49) を図示した。47 は正裏面に敲打痕が見られる。被熱によりススが付着しているが、敲打によりススが取れている部分と敲打痕上にススが付着する部分がある B3 類で、石材は流紋岩である。48 は分割片で、2 点が接合している。被熱しており、ススが付着する。B3 類で、石材は流紋岩である。49 は正裏面に研磨痕が見られ、被熱のためか正面が褐色に変色している。C2-Ⅱ類で、石材は流紋岩である。

SX1020 (図版 324、写真図版 290)

軽石製石製品 (50) を図示した。下部は欠損するが楕円形を呈し、正裏面に磨面と敲打痕が見られる。

SX473 (図版 324、写真図版 290)

磨石類 (51)、砥石 (52) を図示した。51 は小型の円礫を素材としており、正裏面に磨痕が見られる。A 類で、石材は流紋岩である。52 はほぼ全面に研磨痕が見られ、研磨により断面がほぼ方形となる。B1-Ⅱ類で、石材は凝灰岩である。

SX946 (図版 324・325、写真図版 290)

磨石類 (53～55)、台石 (56)、砥石 (57) を図示した。53 は小型の円礫を素材としており、裏面にほぼ平坦な磨面が存在し、端部に敲打痕が見られる。C1 類で、石材はデイサイトである。54 は、円礫素材の磨石を輪切りにしたような形態の分割片である。正裏面に磨痕、側面に敲打痕が見られる。B2 類で、石材は流紋岩である。55 は平面楕円形を呈する礫を素材としており、正裏面に磨痕および凹痕、側面には敲打痕が見られる。被熱しており、部分的にススが付着する。端部の欠損は、被熱か敲打によるものかは不明である。D2 類で、石材はアプライトである。56 は破断面以外に磨痕、角に敲打痕が見られる。正面の一部にススが付着しており、B2 類で石材は変成チャートである。57 は正裏面に研磨痕がみられるが、特に裏面の欠損が著しい。正面の側縁部は部分的に剥離しており、被熱のためか全体にやや黄色い色調である。C2- I 類で、石材は砂岩である。

SX945 (図版 325、写真図版 291)

砥石 (58) を図示した。分割礫を素材としており、破断面である正面に研磨痕が見られ砥面にのみススが付着する。C1- I 類で、石材は砂岩 (アルコース質アレナイト) である。

③包含層出土石器・石製品

3J-1F (図版 325、写真図版 291)

磨石類 (59) を図示した。卵形状の礫を素材としており、正面に凹痕、端部に敲打痕が見られる。F1 類で、石材は安山岩である。

3K-1A (図版 325、写真図版 291)

磨石類 (60) を図示した。正裏面に磨痕と凹痕が見られる。B 類で、石材は安山岩である。

3J-2I (図版 325、写真図版 291)

砥石 (61) を図示した。部分的に欠損するが、平・断面が方形状を呈する。細かい線状の研磨痕が見られる。B1- III 類で、石材は凝灰岩である。

3J-3H (図版 325、写真図版 291)

砥石 (62) を図示した。板状の礫を素材とした分割片で、正裏面に研磨痕と敲打痕が見られる。C2- II 類で、石材は流紋岩質凝灰岩である。

3J-4J (図版 325・326、写真図版 291)

磨石類 (63・64) を図示した。63 は球状の礫を素材としており、正裏面に磨面および敲打痕、端部に敲打痕が見られる。D1 類で、石材は安山岩である。64 は円礫を素材とし、正裏面に磨面と凹痕、端部および側面に敲打痕が見られる。D2 類で、石材は花崗岩もしくは石英安山岩である。

3J-5I・3J-6I (図版 326、写真図版 291)

砥石 (65) を図示した。隣接するグリッドから出土した 2 片が接合したもので、分割された礫を素材とする。正裏面・右側面に研磨痕が見られる。C1- II 類で、石材は凝灰岩である。

3J-5J (図版 326、写真図版 291)

砥石 (66) を図示した。小型の円礫を素材としており、正裏面・側面に部分的に研磨痕が見られる。また、右側面と裏面には凹痕が見られる。C1- II 類で、石材は凝灰岩である。

3K-5A (図版 326、写真図版 291)

砥石 (67) を図示した。板状で、平坦な面を持つ礫を素材とする。正裏面に、研磨痕および線状の磨痕が見られる。C1- II 類で、石材は流紋岩質凝灰岩である。

3J-9H (図版 326、写真図版 291)

砥石 (68) を図示した。分割片で、正裏面に研磨痕が見られる。C2- II 類で、石材は流紋岩である。

3J-10D (図版 326、写真図版 291)

軽石製石製品 (69) を図示した。平・断面形が楕円状を呈する軽石で、ほぼ全面が磨耗しており磨痕の可能性

がある。

4J-1F (図版 326、写真図版 292)

砥石 (70) を図示した。分割片で、正面に研磨痕や細かい線状の刃物傷が見られ、残りは破断面となっている。C1- II類で、石材は凝灰岩である。

4J-2G (図版 326、写真図版 291)

砥石 (71) を図示した。分割片で、破断面以外に研磨痕が見られる。破断面以外に部分的にススが付着しており、被熱して分割したと考えられる。C2- I類で、石材は砂岩 (アルコース質アレナイト) である。

4J-3D (図版 327、写真図版 291)

砥石 (72) を図示した。小型の円礫を素材としており、正裏面に研磨痕が見られる。C1- II類で、石材はデイサイトである。

4J-3E (図版 327、写真図版 291)

磨石類 (73・74) を図示した。73 は平面形が楕円形を呈する礫を素材としており、正裏面に研磨痕と凹痕、端部と側面に敲打痕が見られる。D2類で、石材は安山岩である。74 は小型の円礫を素材としており、ほぼ全周に研磨痕が見られる。正裏面に凹痕、端部および側面に敲打痕が見られる。D5類で、石材はデイサイトである。

4J-4C (図版 327、写真図版 291・292)

磨石類 (75)、砥石 (76・77) を図示した。75 は正面に凹面、裏面に磨痕、端部および側面に敲打痕が見られる。被熱により部分的に黒色に変色しており、ひびが入っている。D2類で、石材は砂岩である。76 は分割片で、正裏面に研磨痕、端部と側面に敲打痕が見られる。C1- I類で、石材は砂岩である。77 は正裏面に研磨痕が見られ、被熱により部分的に黒色に変色している。C1- II類で、石材は流紋岩である。

④ 攪乱ほか出土石器・石製品

河 138 (図版 327・328、写真図版 292)

磨石類 (78～80)、砥石 (81～86) を図示した。78 は平面形が楕円形の礫を素材とし、正裏面に磨痕、端部に敲打痕が見られる。C1類で、石材は花崗岩である。79 は球状の礫を素材とし、正裏面に磨痕が見られる。また、欠損あるいは敲打痕が不規則に見られる。C1類で、石材は安山岩である。80 は分割片で、正裏面に磨痕、端部に敲打痕が見られる。被熱したためか、やや赤みがかかる。C1類で、石材は閃緑岩である。81 は、分割された礫の破断面を砥面としている。正面および側面に研磨痕と敲打痕が見られる。C1- I類で、石材は砂岩である。82 は分割片で、正面に研磨痕と敲打痕が見られる。分割前の被熱により、使用面と破断面以外は黒色に変色している。C2- II類で、石材は流紋岩質凝灰岩である。83～85 は分割片で、83・84 は正面と左側面に平坦な砥面を持ち、後は破断面となっている。84 は、左側面に線状の研磨痕が2条見られる。85 は砥面が湾曲しており、被熱により破断面以外は黒色を帯びる。これらは砥面の配置などから、元は平・断面形が四角形を意識した作りであったと考えられる。いずれも B1- II類で、石材は83・85が流紋岩、84が凝灰岩である。86 は正裏面が砥面となった板状の分割片で、上面にも研磨痕が見られる。A- III類で、石材は凝灰岩である。

南谷部 (図版 328、写真図版 292)

磨石類 (87) を図示した。平面形が長楕円形の礫を素材としており、端部と側面に敲打痕が見られる。被熱しているため、部分的に黒色を呈する。G2類で、石材は安山岩である。

攪乱 (図版 328、写真図版 292)

砥石 (88・89) を図示した。88 は薄い板状の分割片で、正裏面と側面が砥面となる。A- III類で、石材は凝灰岩である。89 は正裏面・側面・上面が砥面となっており、研磨痕とともに線状の刃物傷も見られる。形状は角錘状に先細るが、先端は欠損している。B1- II類で、石材は凝灰岩である。

D 木器・木製品

1) 木器・木製品の分類

器種名は『木器集成図録－近畿古代編』・『木器集成図録－近畿原始編』〔奈良国立文化財研究所 1985・1993〕、『延命寺遺跡』〔山崎ほか 2008〕などを参考に下記のように分類した。用途が不明なものについては、釘穴などが残存し他の部材との組み合わせが想定されるものについては部材、単独で用いられたと考えられるものもしくは組み合わせが判明できないものについては用途不明品として分類した。

工 具…木槌

農 具…鍬・鋤・田下駄

漁労具…刳舟・櫂

服飾具…櫛・下駄

容 器…挽物・刳物・曲物・折敷・円板

食事具…箸状

祭祀具…斎串・刀子形・刀形・鍬形・舟形・弓形

雑 具…発火具（火鑽白・火鑽杵）

部 材…楔・支脚・箱・各種部材

建築材…柱根・礎盤・建築部材

その他…用途不明品・伐採木・瓢箪

木筒：九九木筒が1点（290）出土している。

木槌：組み合わせ式の木槌の頭が1点（317）出土している。

鍬：鍬身が1点（102）出土している。

鋤：鋤身が1点（152）と、鋤柄片が2点（153・154）出土している。

田下駄：杵型が2点（64・65）、足駄型が1点（324）出土している。

刳舟：8片（155～162）が井戸杵として出土している。

櫂：一本式の櫂が2点（291・292）出土している。

櫛：横櫛が1点（163）出土している。

下駄：1点（142）出土している。

挽物：蓋1点（138）・椀5点（103・134・144・211・214）・皿3点（36・99・135）・不明1点（333）を図示した。木取りは134が縦木取りの他は、全て横木取りである。また36のみが白木作りで、他は漆器である。

刳物：部材（233）と用途不明品（171）の2点を図示した。

曲物：井筒2点（66・67）・蓋4点（81・221・222・234）・側板18点（68・80・105・107・151・172～178・261・269・293・294・320・340）・底板12点（59・72・104・106・235・257～260・268・295・328）の36点を図示した。

底板の結合法は『木器集成図録－近畿原始編－』の分類によれば、72は側板を底板上面に直接当てる樺皮結合法のE、104・106・235・257・258・268・295・328は側板下端外側から底板を釘で固定する釘結合法のFであり、残りの3点については不明である。

折敷：方形曲物や長方形曲物を折敷として総称した。側板4点（82・108・145・170）を図示した。

円板：1点（296）出土している。

箸状：小割りされた素材を、細い丸棒に整形されたもので、32点（22・52・53・56・69・83・85～91・109～117・143・148・179～182・195～197・215）を図示した。火付け木あるいは串状木製品が含まれている可能

性も高いが、分別が不明確なため形状から箸状とした。形態分類は棒状部材と共通である。

祭祀具：斎串（297～299）・刀子形（216）・刀形（262・300・335）・鋏形（279）・舟形（334）・弓形（336）を
図示した。

発火具：火鑽白が1点（217）出土している。

楔：固定するための楔が3点（118・236・338）出土している。

部材：支脚（282）・箱（60・119・212・280）の他に、釘穴等が認められるが製品が不明確なものを59点図示した。
これらは材の形状によって、幅が厚さの2倍に満たないものを棒状部材、厚さの2倍以上のものを板状部材と呼
称した。

棒状部材は、断面および下端の形状に基づいて以下に分類した。

- I類…断面形が円形のもの。
- II類…断面形が楕円形のもの。
- III類…断面形が方形、もしくはそれに準ずるもの。
- IV類…断面形が半円形、もしくはそれに準ずるもの。
- A1類…下端が平坦になるもの
- A2類…下端が平坦になるが、縁辺部に加工・調整が認められるもの。

- B類…下端が斜めに切断もしくは削られるもの。
- C類…下端が表裏両面から加工され、断面がV字状となるもの。
- D類…下端が杭状に先鋭するもの。

板状部材は、端部および側縁の形状に基づいて以下に分類した。

- I類…長辺縁が平坦なもの。
- II類…長辺縁の片面が斜めに切断もしくは削られるもの。
- III類…長辺縁の両面が斜めに切断もしくは削られるもの。
- IV類…長辺縁が面取りされ、丸みを帯びるもの。
- A1類…短辺端部が平坦なもの。
- A2類…短辺端部が平坦で、面取りされ丸みを帯びるもの。
- B1類…短辺端部が片縁辺から斜めに切断もしくは削られるもの。
- B2類…短辺端部が片縁辺から斜めに切断もしくは削られ、面取りされ丸みを帯びるもの。
- C1類…短辺端部が両縁辺から斜めに切断もしくは削られ、V字状となるもの。
- C2類…短辺端部が両縁辺から斜めに切断もしくは削られ、V字状となったものを面取りし丸みを帯びるもの。
- D1類…短辺端部が短辺と平行に切断されるもの。
- D2類…短辺端部が短辺と平行に切断され、面取りされるもの。

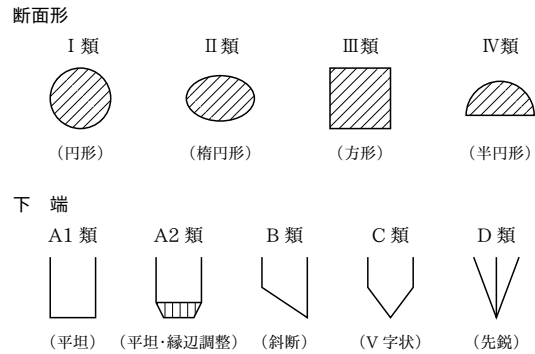
柱根：60本を図示した。下端の形状は概ね平坦もしくは杭状に尖るものに大別され、棒状に準拠して分類した。

礎盤：2点（21・38）出土している。

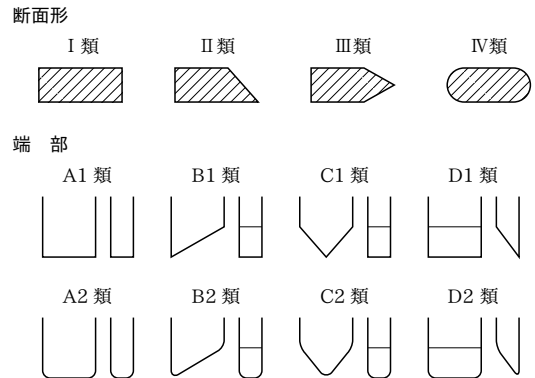
建築部材：丸木取りされた両端が斜めに切断された柱状の部材（272）のほか2点（283・318）を図示した。

用途不明品：単独で用いられたと考えられるもので、用途が不明確なものを用途不明品とし87点を図示した。

■箸状・柱根・棒状の分類



■板状の分類



第34図 木製品分類模式図

用途不明品も棒状と板状に大別され、部材に準拠して分類を行った。

伐採木：SK1115 出土の木製品の内、製品の原材料と推察される 208～210 を伐採木とした。これらは建築部材や素材などにも分類可能であるが、貯木場的な遺構の性格から伐採木とした。256 も伐採木とした。

瓢箪：3点（132・133・332）出土している。碎片のため、容器として使用されたのか不明である。

その他、SE1363 よりモモ核が3点（167～169）出土している。

2) 出土木器・木製品各説

SA1544（図版 329、写真図版 293）

P 3 出土の柱根（1）を図示した。木取りは広葉樹の半裁材を使用し、先端部は鋭角な調整が施されるIV D類である。残存長は 46.2cm である。

SA1546（図版 329、写真図版 293）

P 2 出土の柱根（2）を図示した。柾目厚板材を使用したⅢ A1 類で、残存長は 60.0cm である。

SA1547（図版 329、写真図版 293）

P 2・3 出土の柱根（3・4）を図示した。木取りは、3 は丸木材の I B類、4 は樹皮付きの半裁材を使用したIV D類である。残存長は、3 は 36.7cm、4 は 49.2cm を測る。

SA1548（図版 330、写真図版 294）

P 2 出土の柱根（5）を図示した。木取りは丸木材を使用した I D類で、先端が一部炭化している。

SA1549（図版 330、写真図版 294）

P 1・2 出土の柱根（6・7）を図示した。6 は半裁材を用いたIV A1 類、7 は芯去半裁材を使用したIV B類である。樹種は共にモクレン属である。本遺跡で実施した樹種同定において、モクレン属はこの2点だけである。

SB1561（図版 331、写真図版 294・295）

P 1・8・9 出土の柱根（8～10）を図示した。いずれも丸木取りで、樹種はクリである。8 は I A 1 類、9・10 は I B類である。

SB1562（図版 331、写真図版 295）

P 3 出土の柱根（11）を図示した。丸木取りの I A1 類で、樹種はクリである。

SB1563（図版 332～334、写真図版 295・296）

P 2～9 出土の柱根 8本（12～19）を図示した。木取りは、19 が芯持半裁材を使用する他は全て丸木取りである。12～14・17 は I A1 類、15 はIV A2 類、16・19 はIV B類、18 はIV C類と考えられ、12 には樹皮が遺存している。同定を行った 12～19 の樹種はいずれもハンノキ属ハンノキ節であり、材に対する指向性が窺える。

SB1564（図版 334、写真図版 296・297）

P 6 出土の柱根（20）と P 14 出土の礎盤（21）を図示した。20 は丸木取りの I D類である。21 はミカン割に木取りしたIV C1 類で、ブナ科の板材の一端に斜方向の加工が施される。

SB1566（図版 334、写真図版 297）

P 8 出土の箸状（22）を図示した。Ⅱ類で、両端が欠損する。残存長は 3.4cm で、樹種はスギである。

SB1569（図版 335、写真図版 297）

P 1・3・7 出土の柱根（23～25）と、P 4 出土の用途不明品（26）を図示した。23～25 はいずれも丸木取りで、23・25 は I B類、ノコギリによる切断痕が認められる 24 は I A1 類である。いずれも広葉樹と考察されるが、同定は行っていない。26 は板状 I A 1 類の用途不明品であるが、薄板状をなし部材の可能性が高い。

SB1570（図版 335・336、写真図版 297・298）

P 1～4・6 出土の柱根（27～31）5本を図示した。芯去半裁材もしくはミカン割材を使用しており、27 はⅢ C類、28 はⅢ A 1 類、29 はIV A2 類、30 はⅢ C類、31 はⅢ B類である。同定を実施した 27～29・31 の

樹種はいずれもクリである。

SB1571 (図版 336、写真図版 298)

P 3 出土の用途不明品 (32) を図示した。板目取りされた棒状ⅢB類で、腕木と推察される。

SB1575 (図版 336、写真図版 298)

P 3 出土の柱根 (33) を図示した。板目取りの厚板の下端を先鋭させたⅢD類である。

Pit589 (図版 336、写真図版 298)

柱根 (34) を図示した。側のみが残存し、芯去半裁状を呈する。先端形状はD類と思われる。

Pit713 (図版 336、写真図版 298)

柱根 (35) を図示した。丸木材を用いたⅣC類で、残存長は 18.4cm である。

Pit922 (図版 336、写真図版 298)

皿 (36) を図示した。柁目板を横木取りにし、轆轤挽き後に体部外面に面取りを施す。底部外面に、鑿ハツリ痕および 3 か所の工具トメ痕が認められる。口径 8.6cm、高さ 1.0cm を測る白木作りで、樹種は広葉樹である。

Pit581 (図版 337、写真図版 298)

柱根 (37) を図示した。丸木取りで、先端部に切断痕が認められるⅠD類である。残存長は、15.6cm である。

Pit590 (図版 337、写真図版 299)

礎盤 (38) を図示した。芯去半裁材の一端にV字状の加工が入るⅠC1類で、樹種はブナ科である。

Pit592 (図版 337、写真図版 299)

柱根 (39) を図示した。丸木取りされた材の下端を、入念な調整により平坦面を作出するⅠA2類である。残存長は 35.3cm で、樹種はヤナギ属である。

Pit783 (図版 337、写真図版 299)

柱根 (40) を図示した。丸木取りのⅠA1類で、残存長は 81.2cm を測る。

Pit880 (図版 337、写真図版 299)

柱根 (41) を図示した。丸木取りのⅠD類で、残存長は 59.2cm を測る。

Pit1062 (図版 338、写真図版 299)

柱根 (42) を図示した。丸木取りで下端を杭状に加工したⅠD類で、残存長は 43.2cm である。

Pit1057 (図版 338、写真図版 299)

柱根 (43) を図示した。丸木取りのⅠC類で、残存長は 50.2cm を測る。

Pit1024 (図版 338、写真図版 299)

部材 (44) を図示した。ⅠA1類の薄板で、一部連続したハツリ痕が認められる。

Pit1488 (図版 338、写真図版 299)

柱根 (45) を図示した。丸木取りで下端を先鋭させたⅠD類で、残存長は 65.6cm を測る。

Pit532 (図版 338、写真図版 300)

柱根 (46) を図示した。丸木取りのⅠD類で、残存長は 40.4cm を測る。樹種はコナラ属コナラ節である。

Pit533 (図版 338、写真図版 300)

柱根 (47) を図示した。丸木取りのⅠC類で、残存長 131.5cm を測る。樹種はマメ科のイヌエンジュである。

Pit531 (図版 338、写真図版 300)

柱根 (48) を図示した。丸木取りのⅠB類で、残存長は 37.5cm を測る。一部樹皮が遺存する。

Pit530 (図版 338、写真図版 300)

柱根 (49) を図示した。丸木取りのⅠB類で、残存長は 48.5cm を測る。

SD153 (図版 338、写真図版 300)

部材 (50) と用途不明品 (51) を図示した。50 は両端が欠損する棒状Ⅲ類で、両側縁に 1 孔ずつ釘穴が認め

られるため部材とした。51は厚さ0.4cmの薄板のIV A 2類で、上端および側面の調整から形や部材の一部である可能性が考えられる。

SD158 (図版 338、写真図版 300)

箸状(52)を図示した。II D類で上端が欠損しており、残存長は11.8cmである。

SE173 (図版 339、写真図版 300)

箸状(53)と部材(54)を図示した。53は割材の下端を先鋭させたIII D類で、上端は欠損する。残存長は9.0cmである。54は榫目取りで、曲物底板と考えられるが厚さが0.3cmと薄く側面も面取りされる。結合方法が不明であるため、IV A 2類の部材とした。

SE56 (図版 339、写真図版 300)

部材(55)を図示した。板状IV A 2類の厚さ0.4cmの薄板で、側板と考えられる。

SE1518 (図版 339、写真図版 300)

箸状(56)・用途不明品(57・58)を図示した。56はI D類で、上端は欠損する。57は板状II B類で、下端にD類の加工痕があるが調整はされておらず整形時のハツリ片と考察される。58は棒状I B類で、一部樹皮が遺存する。両端加工され3か所に刃物痕が認められるが、素材もしくは枝打ち材と思われる。

SE80 (図版 339、写真図版 300)

曲物(59)・部材(60～63)を図示した。59は榫目取りされた曲物の底板であるが、結合方法は不明である。60は箱の側板で、榫目取りされた短冊形の短辺を斜めに削り、両端には各1孔の釘孔があり、長辺は面取りされる。樹種はスギである。61は榫目取りのI A 1類の板状部材で、短辺両端に加工が見られる。62は榫目取りの厚板で、短辺の一端が切り欠きされるI A 1類である。樹種はスギである。63は板目取りされたIII類の棒状部材で、両端は欠損している。釘孔が1孔あり、樹種はスギである。

SE183 (図版 339～341、写真図版 300・301)

田下駄(64・65)・曲物(66～68)・箸状(69)・部材(70)・用途不明品(71)を図示した。64・65は形状から粹型の田下駄と分類したが、鼻緒孔が無いいため他製品の可能性もある。樹種はともにケヤキである。66・67は井筒で本体側として使用されており、板状部材IV C 1類の70によって連結されていたと考察される。68は井筒の側板である。69は扁平な箸状II類で、両端が欠損する。70は形状からは曲物柄杓の柄とも考えられるが、柄杓が出土しておらず背面に摩耗痕が認められるため大型の楔を想定し部材とした。樹種はスギー・ヒノキ科である。71は棒状III B類で先端に鋭利な調整が見られ、補助的な楔として使用された可能性もある。

SE57 (図版 342、写真図版 301)

曲物(72)・部材(73・74)・用途不明品(75)を図示した。72は榫目取りされた楕円形曲物の底板で、側板との摩耗痕が明瞭に残存する。樺皮結合Eによる2孔一対の孔があり、残存長は38.2cmを測る。73・74は榫目取りの板状部材で、共にI A 1類である。75は榫目取りの板状II D 1類で、両端が鋭利に切断され楔状を呈するが表裏面ともに加工がなされておらず、自然木の可能性もある。

SE497 (図版 342、写真図版 301)

部材(76)・用途不明品(77)を図示した。76は榫目取りされたIV A 2類の板状部材で、釘孔が2孔あり側板と考えられる。77は榫目取りされたII D2類の被熱した板材で、上部両側面に三角形の抉りがある。形状からは荷札木簡と考えられるが、タール状の付着物があり篋として転用された可能性もある。樹種はスギである。

SE542 (図版 342、写真図版 301・302)

部材(78・79)を図示した。78は榫目取りのII A1類の薄板で、端部に2孔の釘孔があく。79は榫目取りで、厚さ0.6cmの薄板である。IV A 1類で一部欠損しており、部位等は不明である。

SE588 (図版 342、写真図版 302)

曲物側板(80)を図示した。綴じ孔が2孔あり、裏面はハツリ痕が良く残る。

SE485 (図版 342、写真図版 302)

曲物 (81)・折敷 (82)・箸状 (83)・用途不明品 (84) を図示した。81 は榎目取りされた楕円形曲物の蓋で、2 孔一対の結合孔が 2 か所あり、樺皮紐も一部残存する。樹種はスギーヒノキ科である。82 は榎目取りの折敷の側板で、2 孔一対の結合孔が 2 か所にある。樹種はスギである。83 はⅡD 類で、両端を先鋭させる。84 は棒状Ⅲ類で、上端が被熱する。

SE105 (図版 342・343、写真図版 302)

箸状 (85～91)・部材 (92～96)・柱根 (97)・用途不明品 (98) を図示した。85 はⅡ類、86 はⅢ類で、共に両端が欠損する。87 はⅢD 類と考えられ、88 はⅠA1 類である。89 は、Ⅰ類で両端が欠損する。樹種はスギである。90・91 はⅠD 類で、91 は両端が先鋭する。92 は琴柱状を呈すが、釘孔が 2 孔あるためⅣA2 類の部材とした。把手等の部位が推察され、樹種はスギである。93 は板状Ⅱ類であるが、断面が三角形であり形の可能性もある。94 は榎目取りの板状Ⅰ類で、曲物底板に類するが側面に 3 か所の抉りがあるため部材とした。95 は板目取りされた板状ⅠA2 類、96 は板目取りの棒状ⅢA2 類である。97 は丸木取りのⅠD 類である。98 は榎目取りの棒状ⅠD 類であるが、上部に向かうにつれ幅広・扁平となっており齋串の可能性が高い。

SE522 (図版 343、写真図版 302・303)

皿 (99)・部材 (100・101) を図示した。99 は横木取りの漆器で、全体に黒漆がかけられるが内外面共に塗漆の上から轆轤目が明瞭であり下地は施されていない。高さは 1.1cm で、樹種は散孔材である。100・101 は、榎目取りの板状Ⅰ類である。同一部材と考えられるが、101 の端部は被熱している。100 の樹種はスギである。

SE556 (図版 344～346、写真図版 303・304)

鎌 (102)・椀 (103)・曲物 (104～107)・折敷 (108)・箸状 (109～117)・楔 (118)・部材 (119～125)・柱根 (126・127)・用途不明品 (128～131)・瓢箪 (132・133) を図示した。102 は組合せ鎌の身で、柄孔には柄の一部が遺存する。榎目板を半楕円状に型取り、着装部を薄くし頭部は弧面をなす。中央部やや上寄りに平面台形の柄孔をあげ、刃部に対する着柄角度は 89° とほぼ直角に近い。柄孔の幅は前面より後面がやや広く、柄は後面から挿入されている。身長 22.5cm に対し、着装部長は $1/3$ の 7.5cm を測る。樹種はコナラ属コナラ節である。103 は木心を避けた横木取りの無台椀で、全体に黒漆塗りされるが漆塗方法は不明である。内外面共に朱漆により、木と推察される文様が描かれる。また、内面にはアスファルトが広く付着しており、アスファルト容器として転用されていたと考察される。口径 15.8cm、高さ 5.6cm、厚さ 0.6cm を測り、樹種は散孔材である。104 は径 0.2～0.4cm の孔が裏面から無数穿孔される底板で、釘結合法 F によるものである。樹種はスギである。105 は側板で、内面に連続したハツリ痕がある。樹種はスギである。106 は釘結合法 F による底板片である。107 は綴孔と樺皮が遺存する側板である。108 は板目取りの折敷の側板で、釘孔が 2 孔あり木釘が遺存する。樹種はスギーヒノキ科である。109 はⅡA1 類で、上半は欠損する。110 はⅢ類、111 はⅡ類で、共に両端が欠損する。112 はⅢD 類で下端が欠損し、113 はⅢ類で上半のみである。114 はⅠD 類、115 はⅢD 類で、共に上端を欠損する。116 は幅が 1.0cm と太めのⅡ類の上端、117 はⅢ類で両端が欠損する。118 は、榎目取りの板材の先端を円形に整形した楔である。119 は榎目取りの板状ⅠA1 類で、両端が切断される。120 は板目取りの板状Ⅰ類である。121～124 は棒状Ⅲ類の同一部材と考えられ、樹種はスギである。125 は板目取りの棒状Ⅲ類であるが、本来は板状部材である。126 は丸木取りのⅠD 類、127 はⅠC 類で樹皮が遺存しており、樹種はヤナギ属である。128 は板目取りの板状ⅠB2 類で曲物底板と考えられるが、先端が切先状に両面から薄く整形され下端も刀区状になるため、刀子形へ転用された可能性が高い。129 は板目取りの板状ⅡD1 類で、両短辺が加工されるため楔の可能性もある。130 は板目取りの棒状ⅢB 類で、表面は磨かれ裏面には刻みもあり、湾曲する大形製品の一部と考えられる。樹種はスギーヒノキ科である。131 は榎目取りの板状ⅠB2 類であるが、形状から齋串の可能性もある。132 は釘孔が 1 孔あき、容器として使用された可能性が高い。

SE577 (図版 346、写真図版 304・305)

椀 (134)・皿 (135)・用途不明品 2 点 (136・137) を図示した。134 は縦木取りの漆器で、底部外縁に断面台形の高台をつくる。下地塗りした後に全体に黒漆塗りされ、内外面共に朱漆による菱形紋が描かれる。口径 15.0cm、高さ 5.2cm、厚さ 0.4cm で、樹種はトチノキである。135 は横木取りの漆器で、素地に下地塗りしたのち外面黒漆、内面朱漆がかけられる。口径 9.3cm、高さ 1.3cm、厚さ 0.3cm で、樹種は針葉樹である。136 は柁目取りの棒状Ⅱ類で、両端が欠損する。137 は板状Ⅱ D 1 類で、ハツリ片の可能性もある。

SE917 (図版 347、写真図版 305)

蓋 (138)・部材 (139) を図示した。138 は横木取りの漆器で、笠形の頂部と直立する縁部からなる。頂部は厚く縁部は薄く挽かれ、その境に稜線が入る。全体に黒漆がかけられ、口径 7.4cm、高さ 1.2cm を測る。樹種は広葉樹である。139 は柁目取りの、板状Ⅳ A 2 類の方形板である。容器の底板と推察されるが、各辺によって結合孔数が異っており製品は特定できなかった。樹種はスギーヒノキ科である。

SE541 (図版 347、写真図版 305)

部材 (140)・用途不明品 (141) を図示した。140 は柁目取りの板状Ⅳ A 2 類で、上端に 1 孔の釘孔を持つ切り欠きがあり木釘も遺存する。141 は柁目取りの板状Ⅰ D 1 類で、下端の切断後は無調整である。

SE709 (図版 347、写真図版 305)

下駄 (142) を図示した。柁目板の木表を台の上面にあて小判形に整形したもので、後端に向かってやや弧面をなす。無歯で、前壺が 2 孔あくため鼻緒孔は 4 孔となる。使用による摩耗は認められず、未製品と考えられる。樹種はスギである。

SE912 (図版 347、写真図版 305)

箸状 (143) を図示した。Ⅱ D 類で、上端は欠損する。残存長は 17.8cm あり、樹種はスギである。

SE882 (図版 347、写真図版 305)

椀 (144)・折敷 (145)・部材 (146)・用途不明品 (147) を図示した。144 は横木取りの漆器で、底部外縁に断面台形の高台をつくる。全面に黒漆がかけられるが塗漆の上からでも轆轤目は明瞭であり、素地の上に直接塗漆されたものである。口縁部外面にタール状の付着物がある。口径 9.4cm、高さ 3.6cm、厚さ 0.5cm で、樹種はトチノキである。145 は柁目取りの折敷の側板で、2 孔一対の結合孔が 2 か所あり底板との磨滅が顕著である。樹種はスギである。146 は柁目の板状Ⅰ A 2 類で、底板と考えられるが結合などは確認出来ない。樹種はスギである。147 は板目取りの板状Ⅳ B 1 類で、先端は三角形に整形される。

SE1070 (図版 348、写真図版 305)

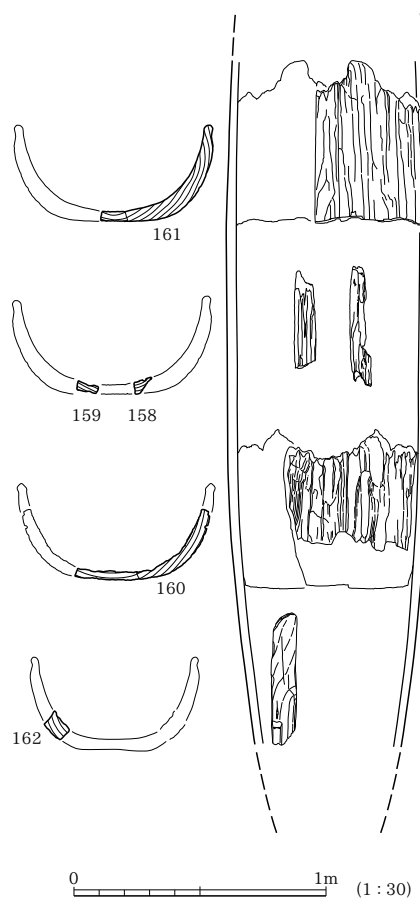
箸状 (148)・用途不明品 (149・150) を図示した。148 はⅡ D 類で、基部は炭化しており串状もしくは火付け木である。149 は柁目取りの板状Ⅳ B 2 類で、下端に向かうにつれ幅が狭小する。齋串もしくは曲物側板の可能性が考えられる。150 は柁目取りの板状Ⅰ B 1 類で、先端は連続した加工により斜めに整形される。部材と思われるが、部位は不明である。樹種はスギである。

SE987 (図版 348、写真図版 305)

曲物側板 (151) を図示した。柁目取りで、綴じ孔が 1 孔あく。

SE1363 (図版 348～352、写真図版 306・307・308)

鋤 (152～154)・剝舟 (155～162)・櫛 (163)・用途不明品 (164～166)・モモ核 3 点 (167～169) を図示した。152 は組合せ鋤の身



第 35 図 剝舟復元図

でなで肩1種の形態をなすが、左肩が薄く整形されるのに対し右肩は厚みを持たせる整形である。刃部は身の前面がやや膨らむⅡ式である。着柄は柄結合法により、身の中央近くと着柄軸中央に長方形の柄孔があく。着柄軸と刃部との角度は177度とほぼ一直線をなし、直伸鋤である。また鉄刃装着部には、丸柄孔1孔と釘孔2孔があく。形状からは所謂掘り棒と考えられる。身長33.8cm、刃部長18.2cmで、樹種は広葉樹である。153は鋤柄片で樹種は身と同じく広葉樹、154は固定具で樹種はクスノキ科である。155～162は刳舟で、井戸枳材への転用品である。舟としての部位は第35図に示す。樹種はクリである。163は長方形で肩部に丸みをもたすAⅡ形式で、3cmあたりの歯の挽き出しが34枚あり、形状からは8世紀以降のものである。樹種はナン亜科である。164は棒状ⅠA2類で箸状を呈するが、残存長が37.4cmと長く火鑽杵や柄など別用途も考えられるため不明品とした。165は柁目板の板状ⅠC1類、166は板目板の板状ⅡD1類である。

SE920 (図版352、写真図版309)

折敷(170)・刳物(171)を図示した。170は板目取りの側板で、釘孔が2孔あき木釘が1本遺存する。樹種はスギである。171は板目材で、裏面に2本台状の部位を削り出す。当初は下駄の未製品と考えたが、台の断面が長楕円形であるため槽などの可能性も考え不明品とした。樹種はクリーコナラ属コナラ節である。

SK268 (図版352、写真図版309)

曲物側板(172)を図示した。柁目取りで、連続したハツリ痕が明瞭である。

SK69 (図版352・353、写真図版309)

曲物(173～178)・箸状(179～182)・部材(183～186)・用途不明品(187～192)を図示した。173～178は側板で、173～175は板目取り、176～178は柁目取りで、いずれもハツリ痕が明瞭である。179はⅡB類で、上端は炭化する。下端が幅狭となり、串状もしくは火付け木である。180はⅢ類で両端が欠損する。181はⅡD類、182はⅠD類である。183は柁目取りの板状ⅣA2類で、短辺に切断痕が認められるが結合痕はない。箱もしくは蓋の部材と考えられる。184は板状ⅠD1類、185は柁目取りの薄板Ⅳ類で、箱もしくは曲物の部材と考えられる。186は板目取りの板状Ⅱ類である。187は柁目取りの板状Ⅳ類で、小形の櫛の水かき部もしくは直柄鋸の身の可能性が考えられる。188は板目取りで両端加工の板状ⅡD1類であるが、ハツリ片の可能性が高い。189～191は丸木取りの棒状ⅠB類で、先端加工がなされるのみであり、189の樹皮の遺存状況から考えて枝打ち材の可能性もある。192は板目取りで「コ」字形の把手状に整形されるが、部位および結合法は不明である。樹種は広葉樹である。

SK83 (図版354、写真図版310)

柱根(193)を図示した。丸木取りのⅠA1類で、残存長は22.7cmである。

SK210 (図版354、写真図版310)

柱根(194)を図示した。丸木取りのⅠA1類で、残存長は67.6cmである。

SK555 (図版354、写真図版310)

箸状(195～197)・用途不明品(198・199)を図示した。195・197はⅢD類、196はⅡ類である。198は柁目取りの板状ⅠD1類であるが、断面は三角形を呈し先端が削られる。199は柁目取りの板状ⅣD2類で、串状の両側が板状に張り出し下面になるに従い幅が狭小する。頭部は圭頭で、形状からは齋串の一種と考えられる。樹種はスギーヒノキ科である。

SK1115 (図版354～356、写真図版310・311)

部材(200)・柱根(201～206)・用途不明品(207)・伐採木(208～210)を図示した。200は柁目取りの板状ⅡA1類で、樹種はスギである。201～205は丸木取りのⅠD類で、205の樹種は散孔材である。206はⅠB類で、先端が被熱している。207は丸木取りの棒状ⅢA1類で、残存長は77.3cmあり梁材等の可能性がある。208～210はいずれも両端加工されており、209の切り欠きは建築部材としてのものか切断途中のものであるかは不明である。209の樹種はエノキ属、210はクリーコナラ属コナラ節である。

SX275 (図版 356、写真図版 311・312)

椀 (211)・部材 (212)・用途不明品 (213) を図示した。211 は横木取りの漆器で、底部外縁に断面台形の高台をつくるが、摩耗が顕著である。素地の上に下地塗りした後全体に黒漆をかけ、口径 14.4cm、高さ 5.1cm、厚さ 0.7cm を測る。212 は板目取りの板状 I B 1 類で、下辺に 1 孔、各短辺に 1 孔の釘孔があく。213 は板目材の板状 II 類で、削り痕が明瞭である。

SX227 (図版 356・357、写真図版 312)

椀 (214)・箸状 (215)・刀子形 (216)・火鑽臼 (217)・部材 (218～220) を図示した。214 は横木取りの漆器で、底部外縁に断面台形の高台をつくる。素地の上に下地を塗り、全体に黒漆がかけられる。口径 13.0cm、高さ 3.7cm、厚さ 0.9cm を測る。樹種はクリーコナラ属コナラ節である。215 は III A2 類で、上端は斜めに切断される。216 は柁目取りで、先端を片刃状に整形する。基部は扁平となり、下端は被熱している。217 は断面三角形の板目取りの板材で、半球形の火鑽穴が 3 か所あり全て被熱している。下端も被熱しており、部材もしくは形からの転用品と考えられる。218 は柁目取りの板状 IV B2 類で、150 に類する加工が施される。219 は板目取りの板状 IV B1 類で、側縁上に釘孔が 1 孔あく。220 は柁目取りの棒状 III 類で、支脚部分と両端に向きの違う柄孔を持つ部材が連結しており、柁の部材と考えられる。

SX1378 (図版 357・358、写真図版 312・313)

曲物 (221・222)・柱根 (223～227)・用途不明品 (228～231) を図示した。221 は柁目板の蓋で、把手を結合した釘孔 3 孔が直線的に開けられる。樹種はスギである。222 は柁目板の蓋で、上面に斜めに打ち込んだ釘孔が 2 孔あき把手付であったと思われる。径が 7.8cm と小さく、土器など曲物以外の蓋であった可能性も考えられる。223～227 はいずれも樹皮が遺存しており、223～226 は I B 類、227 は I C 類である。228 は板目の板状 I C 1 類で、先端を V 字状に加工した樹皮である。柱根の先端部片の可能性が高い。229～231 は板目取りの板材であるが、端部および側面の形状・整形から刳舟を板目に沿って分割して板材に転用したものと推察され、分割後に面の調整は行われていない。

SX473 (図版 358、写真図版 313)

部材 (232) を図示した。柁目取りの板状 IV 類で、両端が欠損する。樹種はスギーヒノキ科である。

SX950 (図版 359～361、写真図版 313～315)

刳物 (233)・曲物 (234・235)・楔 (236)・部材 (237～240)・柱根 (241)・用途不明品 (242～255)・伐採木 (256) の 24 点を図示した。233 は板目材で容器の部材と考えられるが、楕円形の孔が 2 孔あき製品は不明である。樹種はスギである。234 は柁目取りの落とし蓋で、内面に煤が付着する。樹種はヒノキである。235 は柁目取りの底板で、釘結合孔が 3 孔あく。236 は柁目板の両短辺を斜断した板状 IV D 1 類で、先端を薄く全体を逆三角形に整形するため楔とした。樹種はスギである。237 は柁目取りの板状 IV B 2 類で、底板と思われるが断面形が三角形となる。238 は板目取りの板状 IV A 2 類、239 は板目取りの板状 I 類で両端が欠損する。240 は板目板を方形に整形した盤で、製品は不明である。樹種はスギである。241 は I D 類で、先端の加工部位が長い特徴がある。242・243 は柁目取りの板状 I D 1 類で、242 は両端、243 は下端が切断され、形状からは楔とも考えられる。244 は柁目取りの稜を持つ板状 II C 1 類で、上端が被熱する。長さ 71.2cm を測り、梁材など建築部材の可能性もある。245 は柁目取りの板状 IV D1 類で、先端が切断により楔状をなす。部材からの転用品と考えられ、樹種はスギである。246 は板目材の板状 I D 1 類で、上端は切断される。下端に向かうに連れやや幅広となり、整形時の刃物痕が明瞭に残存する。247 は板目材の板状 IV A2 類で、長さ 60.4cm を測り刃物痕が多く残る。248 は板目材の板状 I A2 類で、断面三角形を呈すが下端での断面は楕円形に整形されており、刀形未製品の可能性も考えられる。樹種はスギである。249 は棒状 I D 類で、串状を呈し樹皮が遺存する。樹種はクスノキ科である。250 は芯去半裁材の板状 II 類であるが、調整が施されておらず素材もしくは自然木の可能性が高い。251 は棒状 I A2 類で、端部に向かうに従い細くなり端部に浅い切り込みが廻る。調整が丁寧で

あり直弓の弓幹である可能性が高いが、一方の端部が欠損するため用途不明品とした。252は板目割材の棒状ⅢD類で、下端は丸みを帯び炭化する。下端の形状からは火鑽杵と考えられるが、断面形が方形であるため火付け木の類と考察される。樹種はマツ属複継管東亜属である。253は柁目割材の棒状ⅢC類で、先端を丸く加工し上端部は欠損する。樹種はスギである。254は棒状ⅣD類、255は棒状ⅣA1類で、共に両端加工の芯持半裁材で素材と考えられる。256は棒状Ⅰ類で、両端が欠損する。上端に切断痕が認められる以外調整は施されておらず、枝打ち材と考えられる。

SX946 (図版 361～363、写真図版 315・316)

曲物 (257～261)・刀形 (262)・部材 (263)・用途不明品 (264～267) を図示した。257・258は柁目取りの釘結合Fによる底板で、257の裏面には「×」が線刻される。樹種はいずれもスギである。259・260も柁目板の底板と考えられるが、結合法は不明である。259の樹種はスギーヒノキ科である。261は258と同位置から出土した側板で、ハツリ痕が明瞭である。樹種はスギである。262は板目材を整形し柄と刀身からなるA型式で、残存長108.0cmを測る。刀背と柄の片面は揃い、棟の反りは見られない。柄は断面方形、刃区から上は両面を削り薄く整形する。刃先および切先の形状は、欠損により不明である。樹種はスギーヒノキ科である。263は板目取りの板状ⅣB1類で、両短辺には切断痕が認められる。釘孔が2孔あくが、孔位置は側面に対してズレが生じる。樹種はスギである。264は柁目取りの板状ⅣB2類で、長さは103.7cmである。両短辺は斜断され、一方の長辺には三角形の挟りがほぼ9cm(3寸)間隔で8か所に入る。上面を削り、切り欠きを有する側面が薄くなるように整形される。265は柁目板の板状ⅣB2類で、短辺一方を斜断し長辺端部に切り欠きが5か所あり、内4か所は7.5cm(2.5寸)等間である。当初は火鑽臼と考えたが、被熱や火鑽穴は確認できない。264に類するものと考えられる。これらは等間隔に切り込みを入れる事から、織機等の機能が推察される。樹種はクリーコナラ属コナラ節である。266は柁目板で短辺一方が斜断加工される板状ⅠB1類で、形状から264・265の原形と考えられる。267は板目取りの板状ⅠB1類で、上端は斜めに切断加工されており部材の可能性が高い。

SX947 (図版 363・364、写真図版 316・317)

曲物 (268・269)・部材 (270・271)・建築部材 (272)・用途不明品 (273～278) を図示した。268は釘結合Fによる曲物で、側板は樺皮による1列上外下内5段綴じである。樹種はスギーヒノキ科である。269は釘結合Fによる側板で、樺皮紐が遺存する綴じ代である。樹種はスギである。270は板目取りの板状Ⅰ類で、両端が欠損する。271は板目取りの板状Ⅰ類で、裏面に摩擦痕が認められるため部材とした。樹種はスギである。272は、丸木取りした材の両端を90度転移して斜断加工したⅠB類である。伐採木の可能性もあるが、鋸等の可能性を考え建築部材とした。273は板目取りの板状Ⅳ類で、側面が面取りされるが両端は欠損する。樹種はスギーヒノキ科である。274は板目材の棒状ⅢB類で、下端を斜めに加工し上半は両面より幅狭に整形する。275・276は柁目材の棒状ⅢD類で、いずれも端部は被熱しており火付け木と考えられる。277は棒状Ⅳ類の芯去半割材で、先端に加工が施される。278はY字状を呈し、端部がいずれも斜めに切断される以外に目立った調整はない。枝打ち材、もしくは一種の形の可能性が考えられる。樹種は広葉樹である。

SX951 (図版 364・365、写真図版 317・318)

鋸形 (279)・部材 (280～282)・建築部材 (283)・用途不明品 (284～289) を図示した。279は板目材を用いて柳葉式の鉄鋸を模っており、長さ38.5cm、幅3.1cm、厚さ1.0cmを測る。両端は被熱しており、樹種はスギである。280は板状ⅣA1類で、2孔ある釘孔の両孔ともに木釘が遺存する。箱の部材と考えられる。281は柁目取りの板状Ⅰ類で、両端が欠損する。282は支脚で、柁目取りの角材の一木口に出柄をつくる。樹種はスギである。283はⅣA1類のミカン割材で、両端は切断加工される。長さが176.0cmあり、梁材等と考えられる。284は板目取りの板状Ⅰ類で、両端が欠損する。樹種はスギである。285は板目板材の板状ⅡB2類で、刃物痕が多く残る。先端から上部は両面から側面へかけての調整によりやや薄く整形され、下半は側面を面取

りすることにより丸みを帯びた断面形となっており、刀形の可能性もある。286は板目材の板状I C1類、287は丸木取りの棒状III B類で、共に下端を先鋭させる。288は板目材の棒状III A1類、289は断面三角形のミカン割材である。

SX945 (図版 366～370、写真図版 318～321)

木筒(290)・櫛(291・292)・曲物(293～295)・円板(296)・斎串(297～299)・刀形(300)・部材(301～306)・用途不明品(307～316)の27点を図示した。290は九九木筒で、下端が欠損する。残存長20.9cm、幅3.7cm、厚さ0.4cmを測り、樹種はスギである。291は水かきの部分を両面から削り薄く整形し、柄は断面楕円形に整形する。両端が欠損しており、残存長50.6cm、樹種はスギである。292は身に「コ」字状の挟りがあり、柄孔を持つ部材からの転用品と考えられる。柄は断面円形、水かき部分は両面から粗く削り薄く整形する。樹種はケンボナシ属である。293・294は同一品で、側面には入念な面取りが施され、ハツリ痕間の一側面は弧を描く。釘孔・綴じ孔ともに認められるため、長方形曲物など容器の側板と考えられる。樹種はヒノキである。293はAMS法による年代測定により、暦年較正年代の交点がAD 640年という年代が与えられている。295は釘結合Fによる底板で、樹種はスギである。296は柁目板を円板に整形しており、径17.4cm、厚さ3.0cmで、断面はやや台形となる。樹種はクリである。297は板目材の上端を圭頭に整形し、切込みは入らない。下端に向かいやや幅狭となり、下端は杭状に先鋭する。長さ38.7cm、幅2.2cm、厚さ1.1cmとやや厚みはあるが、形状から斎串とした。樹種はスギヒノキ科である。298は柁目取りの薄板で、下端に向かい幅狭となり頭部も湖面を成す事から斎串の上端と判断した。樹種はスギである。299は両端が欠損する板目材で、上端と下端では僅かに幅の差異が認められる。300は角柱状の板目材を用い、上部は断面三角形の薄板、下部は断面方形に整形してあるため、区など明瞭な部位はないが刀形の未製品と考えた。301は板目材の板状I B 1類、302は柁目板のIV B1類の箱部材で、それぞれ2孔、1孔の釘孔があく。303は柁目板の板状IV D1類で、下端が切断により楔状に整形される。薄板であり、綴じ孔が4孔あく事から曲物側板からの転用と考えられる。304は板状I B 1類、305は板状IV類で樹種はスギである。306は板状IV B 1類で、先端が斜めに切断される。307は柁目取りの割材で、棒状の中心と薄板状の側縁からなる。中心部と側縁部にそれぞれ2孔ずつ釘孔があくが、器種や結合法は不明である。308は柁目板を櫛状に加工した板状IV C 1類で、長辺に2孔と1孔の釘孔があく。形状から307と同一製品の可能性もある。樹種は環孔材である。309は弧状を呈する柁目材で、下端近くで面の振れが見られ網枠の可能性もある。310は柁目取りの板状I類で、両端が欠損する。下部両側面に微細な挟りが認められ、部材もしくは形の原形と考えられる。樹種はスギである。311は柁目板の側面を面取り調整した板状IV類で、両端は欠損する。312は被熱した割材で、断面三角形を呈し上端の一部が斜めに面取りされる。313は棒状I A 2類で、下端全周を削るが先鋭はさせない。火鑽杵もしくは弓形と考えられる。樹種はスギである。314は棒状IV類の半裁材、315は棒状III A類。316は板目材の棒状III C類で、両端が切断される。下半の形状は刀形の柄部に類似しており、刀形の可能性もある。樹種はスギである。

SX948 (図版 371、写真図版 321・322)

木槌(317)・建築部材(318)・用途不明品(319)を図示した。317は組み合わせ式の木槌の頭で、丸木取りをした柱状の角材に面取りを施し、断面は円に近い多角形である。一側面の中央から柄を挿入するための長方形の孔を貫通させており、木口面の一端に敲打痕が残存する。樹種はコナラ属クヌギ節である。318は柁目取り材を両端加工した棒状III B類で、一端の削りが杭状に尖るため建築部材とした。319は棒状I A 2類で、先端部外縁に求心状の削りがなされる。被熱しておらず未使用の火鑽杵とも考えられるが、素材が枝状であるため枝打ち材の可能性もある。

遺構外出土遺物 (図版 371～373、写真図版 322・323)

田下駄(324)・挽物(333)・曲物(320・328・340)・刀形(335)・舟形(334)・弓形(336)・部材(321・

341)・柱根(323・325)・楔(338)・用途不明品(322・326・327・329～331・337・339・342)・瓢箪(332)を図示した。

324は足駄型の足板と考えたが、緒孔が歯の直上に位置し後壺間の距離は約6cmしかないため別製品の可能性もある。樹種はスギである。333は当初皿と考えたが、釘孔の方向と磨滅痕の位置から蓋もしくは台とする。樹種はケヤキである。320・340は側板、328は釘結合Fの底板で樹種はスギである。335は刀形の未製品と考えられ、区などはないが柄部を断面楕円形、刀身を断面三角形に整形する。334は船首と船尾をとがらせたA型式の舟形で、甲板部分が一段低く整形される。樹種はスギーヒノキ科である。336は、一端に丸木材の先端を両側から削り込んで作り出された柄状の弭を留める。弭以外は、樹皮が残存するような粗い整形である。樹種はイヌガヤである。321は板目取りの板状IV類である。341は板状ID1類で、釘孔がいずれも斜方向に7孔あく。両端が短辺に沿って切断されており楔等へ転用された可能性がある。樹種は広葉樹である。323・325は、いずれも丸木取りのID類である。338は柁目板の板状ID1類で、形状から楔とした。322は柁目板の板状IVC2類で、曲物の底板と思われるが上端を圭頭状に整形しており斎串の可能性もある。326は割材で、先端に切先の調整があり形の可能性もある。327は棒状IA2類で、下端は面取りされ上端に向かうに従い径が大きくなる。形状が247に類しており、弓形の可能性もある。329は板状IVB2類で、一短辺を両側からの削りにより切先状に整形する。330は柁目板の曲物底板と考えられるが、区状の切り欠きを両側縁に施し包丁状の形に整形する。331は棒状IVB類で、先端が斜めに切断され炭化する。火付け木もしくはハツリ片の可能性が高い。337は棒状IA2類で、下端を削り込み柄状に調整する。樹種はスギである。339は断面三角形を呈し、頭部調整が認められる。342は棒状IID類で、上半は断面三角形を呈し下端を先鋭させる。杭もしくは形の未製品の可能性もある。

E ガラス製品

SD76(図版374、写真図版324)

切子玉(1)を図示した。水晶製で、縦1.9cm、横1.2cm、厚さは1.2cmである。

4J-3D(図版374、写真図版324)

ガラス小玉(2)を図示した。上下が研磨され角が丸く仕上げられた白形で、色調は緑青色である。上下の研磨面はほぼ平行し、縦・横ともに0.6cm、厚さ0.5cmを測る。孔径は0.11cmで、孔内壁面は滑沢な円筒状である。

F 金属製品

遺構出土遺物

SD155(図版374、写真図版324)

鉄鍋(3)を図示した。底径15.6cm、重さ27.7gを量る。底部の小片であるため、吊耳や把手などの形状や足の有無などは不明である。

SD158(図版374、写真図版324)

5枚の固着した銭貨(4)を図示した。判読可能な銭名は上下の2枚のみで、「開元通寶」(初鑄621年)と「天聖元寶」(初鑄1023年)である。本来は、覆土中に位置した土坑など中世の別遺構に、六道銭として埋納されたものと考えられる。

SE542(図版374、写真図版324)

鉄錠(5)を図示した。口縁部片で、口径は10.9cmと推定される。

SE853(図版374、写真図版324)

板状製品(6)を図示した。両端が欠損するが、ほぼ直角に曲がる事から錠などの留め具と推察される。

SE987 (図版 374、写真図版 324)

鑿(7)を図示した。頭柱は付かず突き鑿と考えられ、両区からの刃長 11.0cm、刃幅 1.9cm である。刃部の断面は「く」字状を呈しており、刃先は片刃で内湾する。口金は無く、仕込み部の長さは 6.7cm である。柄木は完存し、長さ 10.7cm、柄幅 2.3cm で樹種はミカン割材のコナラ属アカガシ亜属である。

SK503 (図版 374、写真図版 324)

元豊通寶(8)を図示した。元豊元(1078)年に初鑄された、北宋銭である。

SK555 (図版 374、写真図版 324)

板状製品(9)を図示した。「く」字状に屈曲しており、両端は内湾する。厚さが 0.3cm と薄く、箱などの留め金具と推察される。

SK1115 (図版 374、写真図版 324)

鉄塊(10)を図示した。長軸 4.2cm、短軸 3.5cm、厚さ 2.6cm であり、重量は 47.9 g を量る。

SK1500 (図版 374、写真図版 324)

神功開寶(11)を図示した。天平神護元(765)年に初鑄された、皇朝十二銭の3番目の銭貨である。銅銭で、「功」のつくりが「力」ではなく「刀」となっている。裏は無文である。

SX951 (図版 374、写真図版 324)

鉄鎌(12)を図示した。長頸鎌で、鎌身先端部を欠損するが残存部の断面は両丸であり、端刃系の両刃鎌と推察される。頸部は細身で長く、断面は方形である。関は蕨関で、その突出は弱い。鎌部残存長 0.9cm、頸部長 9.4cm、茎部長 4.2cm を測り、形態から7世紀代のもと考えられる。

SX945 (図版 375、写真図版 324)

刀子(13)を図示した。平棟作り・両区式で、断面三角形の片切刃である。刀身部の残存長は 5.6cm で、刃先は欠損する。柄木は下端が膨らんでおり、長さ 5.0cm、幅 1.5cm で樹種はスギである。赤外線写真により、柄木と茎の結合部に口金と考えられる環状の金具が認められる。

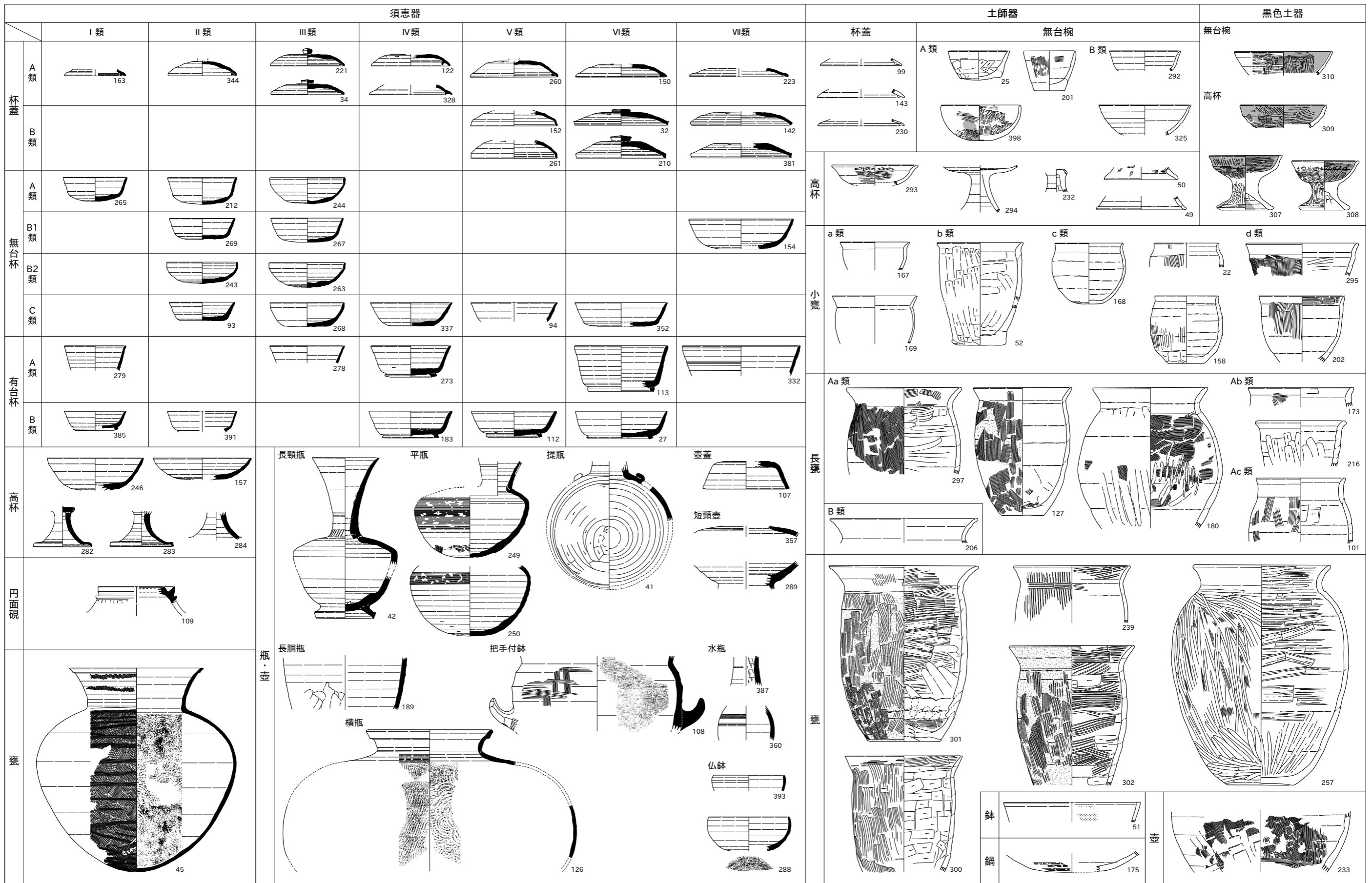
遺構外出土遺物

包含層出土遺物 (図版 375、写真図版 324)

皇宋通寶(14)・嘉祐通寶(15)・不明製品(16)を図示した。14は3J-6H10グリッドから出土した宝元二(1039)年初鑄の北宋銭で、篆書体である。15は3J-7I7グリッドから出土した嘉祐元(1056)年初鑄の北宋銭で、篆書体である。16は2か所に穿孔された、部品もしくは留め金具と考えられる。

攪乱他出土遺物 (図版 375、写真図版 324)

河 138 出土の元豊通寶(17)・鉄鎌(18)、4J-1Gグリッド土側溝出土の管状製品(19)、3J-8I3グリッド攪乱出土の嘉祐元寶(20)、表採の天保通寶(21)を図示した。17は篆書体で、元豊元(1078)年初鑄の北宋銭である。18は頸部以下が残存する長頸鎌で、鎌身の形式は不明である。小型の鎌で、頸部長 6.2cm、茎部長 2.0cm を測る。関は茎部方向へと広がる角錘状の四面台関で、茎部はやや短めである。関の形態などから、7世紀代のもと考えられる。19は両端が欠損し、残存長 12.4cm、径 0.6cm である。20は真書体で、初鑄は嘉祐通寶と同時である。21は本座細郭であり、天保8(1837)年より鑄造された第2期の天保通寶と考えられる。



第31図 大沢谷内遺跡古代土器分類図

45 [1:12]・その他 [1:6]

第VI章 自然科学分析

第1節 下層遺跡（縄文時代）における自然科学分析

A 植物珪酸体分析

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO_2) が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている〔杉山 2000〕。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である〔藤原・杉山 1984〕。

1) 試料

分析試料は、基本土層（1区 3K-1A グリッド地点 V a ~ V c 層・3K-1B グリッド地点 V c、4区 V d 層・SI650 北側地点 V a ~ V d 層）、住居内炉跡（SI650、SI1700、SI951）、および開析谷 SD192 から採取された計 17 点である。試料採取層位を分析結果図に示す。

2) 分析方法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法〔藤原 1976〕を用いて、次の手順で行った。

1. 試料を 105°C で 24 時間乾燥（絶乾）。
2. 試料約 1 g に対し直径約 $40 \mu\text{m}$ のガラスビーズを約 0.02g 添加（0.1mg の精度で秤量）。
3. 電気炉灰化法（ 550°C ・ 6 時間）による脱有機物処理。
4. 超音波水中照射（300W ・ 42KHz ・ 10 分間）による分散。
5. 沈底法による $20 \mu\text{m}$ 以下の微粒子除去。
6. 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成。
7. 検鏡・計数。

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1 g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1 g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0 と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位： 10^{-5}g ）をかけて、単位面積で層厚 1 cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる〔杉山 2000〕。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率およびメダケ率（メダケ属とササ属の比率）を求めた。

3) 分析結果

①分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第 7 表および第 36 ~ 39 図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕 イネ、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ属 A

〔イネ科-タケ亜科〕 チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、マダケ属型、未分類等

〔イネ科-その他〕 表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

第1節 下層遺跡（縄文時代）における自然科学分析

第7表 大沢谷内遺跡における植物珪酸体分析結果

検出密度(単位:×100個/g)

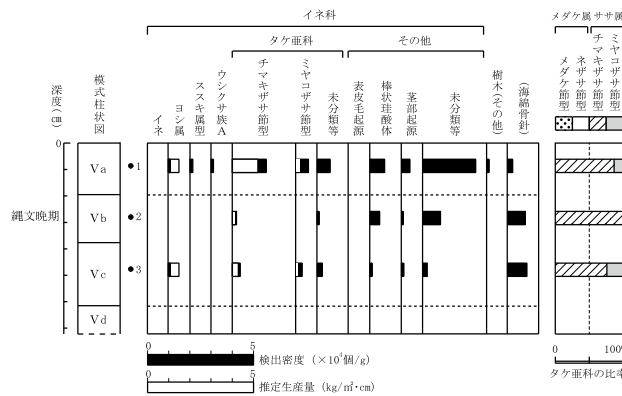
分類群	学名	基本土層(1区北側)				基本土層(4区SI650北側地点)						SI650	SI700	SI951	SD192			
		1(Va層)	2(Vb層)	3(Vc層)	1(Vb層)2(Vc層)	1	2	3	4	5	6	2	1	1	10	12	16	
イネ科	Gramineae (Grasses)																	
イネ	<i>Oryza sativa</i>																	
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	8	8	5	57			8		7		15						
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	8																
ウシクサ属A	Andropogoneae A type	8			14													
タケ亜科	Bambusoideae																	
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	166	15	38	32	7	200	49	23	7	8	30	8	8	15	8		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	60		30			43	37	8	7	7	8	14	8	8	15	15	
メダケ属型	<i>Phyllostachys</i>					7												
未分類等	Others	60	7	23	11	14	57	37	8	22	7	15	22	30	8	8	30	8
その他のイネ科	Others																	
表皮毛起源	Husk hair origin						7	6										
棒状珪酸体	Rod-shaped	68	45	8	32	64	14	12	8		15	15	22	23	8	23	15	8
茎部起源	Stem origin	38	7	8		21	7	6	8						8			
未分類等	Others	248	82	15	75	199	57	31	15	22	60	30	58	15	45	8	15	23
樹木起源	Arboreal																	
その他	Others	8				7	7				8	7		15				
(海綿骨針)	Sponge spicules	23	82	90	11	64	7	6			15	8	7	15	45	15		
植物珪酸体総数	Total	670	157	128	154	391	392	179	75	60	97	83	123	120	98	60	90	60

おもな分類群の推定生産量(単位:kg/m²・cm):試料の仮比重を1.0と仮定して算出

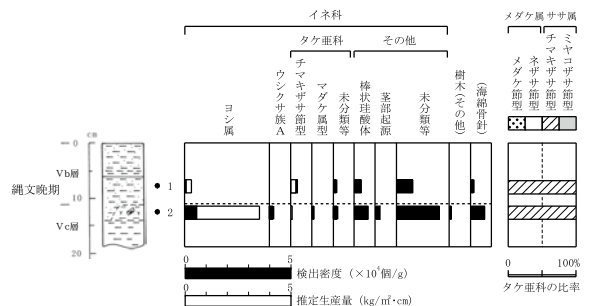
イネ	<i>Oryza sativa</i>																
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	0.47	0.47	0.34	3.59			0.48		0.47			0.95				
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.09															
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	1.24	0.11	0.28	0.24	0.05	1.50	0.37	0.17	0.06		0.06	0.23	0.06	0.06	0.11	0.06
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	0.18		0.09			0.13	0.11	0.02	0.02	0.02	0.04	0.02	0.02	0.05	0.04	0.05

タケ亜科の比率(%)

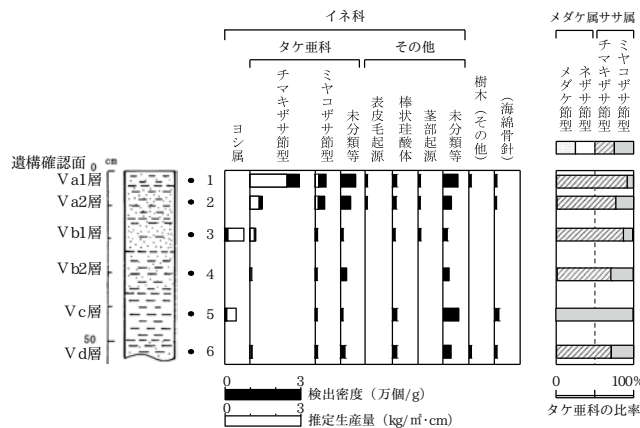
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	87	100	76	100	100	92	77	88	71		71	91	71	56	71	56	
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	13		24			8	23	12	29	100	29	100	9	29	44	29	44
メダケ率	Medake ratio						0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



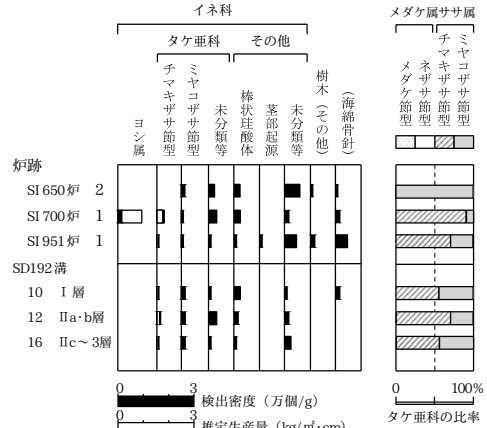
第36図 大沢谷内遺跡(下層)1区3K-1A地点における植物珪酸体分析結果



第37図 大沢谷内遺跡(下層)1区3K-1B地点における植物珪酸体分析結果



第38図 大沢谷内遺跡(下層)4区SI650北側地点における植物珪酸体分析結果



第39図 炉跡および溝状遺構における植物珪酸体分析結果

〔樹木〕その他

②植物珪酸体の検出状況

基本土層（1区北側地点） 下位のV c層とV b層では、ヨシ属やチマキザサ節型などが検出されたが、いずれも比較的少量である。また、これらの層では海綿動物に由来する海綿骨針〔宇津川ほか1979〕が比較的多く検出された。V a層からは、チマキザサ節型が増加し、ミヤコザサ節型や樹木（その他）なども認められた。おもな分類群の推定生産量によると、V a層はチマキザサ節型が優勢であり、3K-1B地点のV c層ではヨシ属が優勢となっている。

基本土層(SI650北側地点) 下位のV d層(試料6)では、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型、樹木（その他）などが検出されたが、いずれも少量である。V c層(試料5)からV b1層(試料3)にかけてもおおむね同様であるが、V c層(試料5)とV b1層(試料3)ではヨシ属も検出された。V a2層(試料2)からV a1層(試料1)にかけては、チマキザサ節型が増加している。おもな分類群の推定生産量によると、V a2層からV a1層にかけてはチマキザサ節型が優勢で、V b1層ではヨシ属も比較的多く検出された。

住居炉跡(SI650、SI1700、SI951) SI650炉では、ミヤコザサ節型、樹木（その他）などが検出されたが、いずれも少量である。SI1700炉とSI951炉ではチマキザサ節型、SI1700炉ではヨシ属も検出されたが、いずれも少量である。おもな分類群の推定生産量によると、SI1700炉ではヨシ属が優勢となっている。

溝状開析谷(SD192) I層、II a・b層、II c～3層では、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。

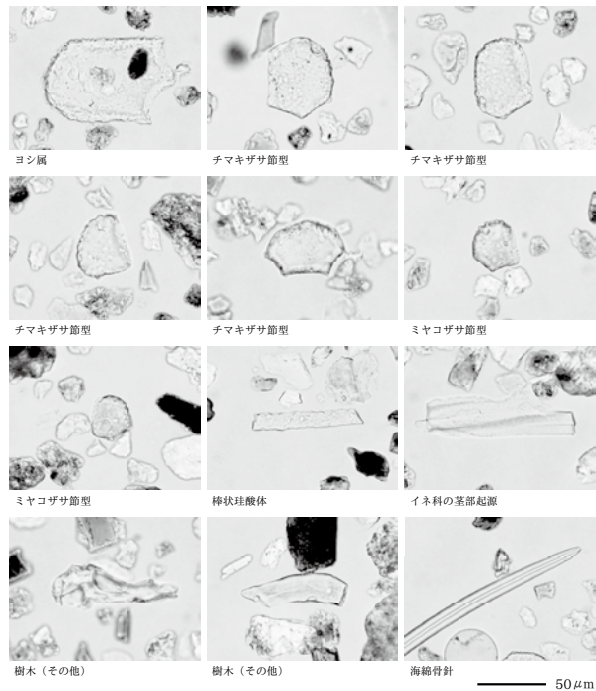
4) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

基本土層（1区北側地点） V c層・V b層の堆積当時はおおむねヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、V a層にかけては周辺にササ属（おもにチマキザサ節）が多く分布していたと推定される。なお、V d層とV c層では海綿骨針が比較的多く認められることから、何らかの海水の影響を受けていた可能性が示唆される。

基本土層(SI650北側地点) 下位のV d層からV b1層(試料3)にかけては、河川の影響など何らかの原因でイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったと考えられるが、部分的にヨシ属が生育するような湿潤なところが見られ、周辺の比較的乾燥したところには部分的にササ属（チマキザサ節やミヤコザサ節）なども生育していたと推定される。

縄文時代晩期中葉とされるV b1層にかけては、ササ属（おもにチマキザサ節）を主体としたイネ科植生であったと考えられ、遺跡周辺には何らかの樹木が生育していたと推定される。ササ属のうちチマキザサ節やチシマザサ節は日本海側の寒冷地などに広く分布しており積雪に対する適応性が高いが、ミヤコザサ節は太平洋側の積雪の少ない比較的乾燥したところに分布している〔室井1960、鈴木1996〕。ここでは前者が優勢であることから、当時は積雪（降水量）が比較的多かったと考えられる。

住居炉跡(SI650、SI1700、SI951) 炉跡の埋土の堆積当時は、何らかの原因でイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったと考えられるが、部分的にヨシ属が生育するような湿潤なところが見られ、周辺の比較的乾燥したところにはササ属（チマキザサ節やミヤコザサ節）なども生育していたと推定される。ここでは、炉跡で燃



第40図 大沢谷内遺跡(下層)の植物珪酸体(プラント・オパール)

料などとして利用された植物の検出が期待されたが、これを示唆するような結果は得られなかった。

溝状開析谷（SD192）SD192の埋土の堆積当時は、何らかの原因でイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったと考えられるが、周辺の比較的乾燥したところにはササ属（チマキザサ節やミヤコザサ節）などが生育していたと推定される。

B 花粉分析

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

1) 試料

分析試料は、基本土層（1区北側3K-1A地点、4区SI650北側地点）および開析谷SD192から採取された計12点である。これらは、植物珪酸体分析に用いられたものと同一試料である。

2) 分析方法

花粉の分離抽出は、中村〔1967〕の方法をもとに以下の手順で行った。

1. 試料から1 cm³を秤量。
2. 0.5%リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加えて15分間湯煎。
3. 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去。
4. 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置。
5. 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。
6. 再び氷酢酸を加えて水洗処理。
7. 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成。
8. 検鏡・計数。

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉〔1973〕および中村〔1980〕をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。イネ属については、中村〔1974・1977〕を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

3) 分析結果

①分類群

出現した分類群は、樹木花粉26、樹木花粉と草本花粉を含むもの4、草本花粉12、シダ植物孢子2形態の計44である。分析結果を第8表に示し、主要な分類群について顕微鏡写真を示す。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕モミ属、ツガ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属-アサダ、クリ、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、ウルシ属、モチノキ属、カエデ属、トチノキ、ハイノキ属、トネリコ属、タニウツギ属、サンショウ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕クワ科-イラクサ科、マメ科、ウコギ科、ニワトコ属-ガマズミ属

〔草本花粉〕ガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ナデシコ科、タデ属サナエタデ節、キンボウゲ属、アブラナ科、セリ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物孢子〕単条溝孢子、三条溝孢子

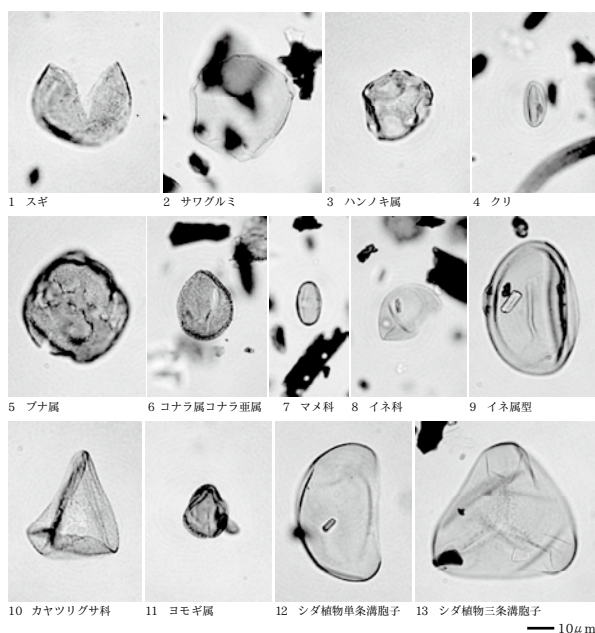
第8表 大沢谷内遺跡(下層)における花粉分析結果

分類群	学名	和名	基本土層 (1区北側3K-1A)			基本土層(4区SI650北側地点)						SD192		
			1(Va層)	2(Vb層)	3(Vc層)	Va1層	Va2層	Vb1層	Vb2層	Vc層	Vd層	I層	IIa層	IIc層
						No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.10	No.12	No.16
Arboreal pollen	樹木花粉													
	<i>Abies</i>	モミ属			1									
	<i>Tsuga</i>	ツガ属		1										
	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属		2	10								1	
	<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ		1	7	1		1				1		1
	Taxaceae-Cephalotaxaceae-	イチイ科-イヌガヤ科												
	Cupressaceae	-ヒノキ科			1									
	<i>Salix</i>	ヤナギ属			27									
	<i>Juglans</i>	クルミ属		1	2									
	<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ		2	10									2
	<i>Alnus</i>	ハンノキ属	6	161	141	1	5	3	2		1	1	2	11
	<i>Betula</i>	カバノキ属		2	2									
	<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシテ属-アサダ		5	2					1		1		
	<i>Castanea crenata</i>	クリ	2	13	3									1
	<i>Fagus</i>	ブナ属		8	42						2	1		1
	<i>Quercus</i> subgen.	コナラ属コナラ亜属	2	29	47					2		1		5
	<i>Lepidobalanus</i>													
	<i>Quercus</i> subgen.	コナラ属アカガシ亜属		1	2									
	<i>Cyclobalanopsis</i>													
	<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ		3	3	1		1	1		2			1
	<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ		3	7									
	<i>Rhus</i>	ウルシ属			3									
	<i>Ilex</i>	モチノキ属		4	2									
	<i>Acer</i>	カエデ属		3	2									
	<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ		5	7									
	<i>Symplocos</i>	ハイノキ属	1		1									
	<i>Fraxinus</i>	トネリコ属		1	1									
	<i>Weigela</i>	タニウツギ属			1									
	<i>Zanthoxylum</i>	サンショウ属					1							
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉													
	Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科		2	2			1						1
	Leguminosae	マメ科		1										2
	Araliaceae	ウコギ科			2									
	<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニワトコ属-ガマズミ属		1	2									2
Nonarboreal pollen	草本花粉													
	<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属		1										
	<i>Alisma</i>	サジオモダカ属			1									
	Gramineae	イネ科	2	27	34	2	1			1				1
	<i>Oryza type</i>	イネ属型				1		1						
	Cyperaceae	カヤツリグサ科	1	37	10									1
	Caryophyllaceae	ナデシコ科											1	
	<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節		2	1									
	<i>Ranunculus</i>	キンボウゲ属			1									
	Cruciferae	アブラナ科			2									
	Apioidae	セリ亜科		1	2									
	Asteroidae	キク亜科		5	3									
	<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	5	20	11			6		1				1
Fern spore	シダ植物胞子													
	Monolate type spore	単条溝胞子	3	49	36	2	2	6	1	2	1	7	8	16
	Trilate type spore	三条溝胞子		2	4			1				1	1	4
	Arboreal pollen	樹木花粉	11	245	323	3	6	5	3	0	6	6	4	22
	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	3	4	0	1	0	0	0	0	0	0	5
	Nonarboreal pollen	草本花粉	3	73	54	3	1	7	0	0	2	0	2	2
	Total pollen	花粉総数	11	250	331	6	8	12	3	0	8	6	6	29
Pollen frequencies of 1cm ³	試料1cm ³ 中の花粉密度		1.4	3.2	1.0	4.8	4.8	7.8	2.8	0.0	7.0	5.6	4.2	2.1
			×10 ²	×10 ³	×10 ⁴	×10	×10	×10	×10		×10	×10	×10	×10 ²
	Unknown pollen	未同定花粉	1	11	12	0	0	1	1	0	2	1	0	1
	Fern spore	シダ植物胞子	3	49	36	2	3	6	1	2	1	8	9	20
	Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	Charcoal fragments	微細炭化物	(-)	(-)	(-)									(++)

②花粉群集の特徴

基本土層(1区北側3K-1A地点) Vc層(試料3)では、樹木花粉の占める割合が草本花粉より高い。樹木花粉では、ハンノキ属が優勢、コナラ属コナラ亜属、ブナ属、ヤナギ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、エノキ属-ムクノキ、トチノキ、サワグルミなどが伴われる。草本花粉では、イネ科、ヨモギ属、カヤツリグサ科などが認められる。Vb層(試料2)では、樹木花粉のハンノキ属が増加し、ヤナギ属、ブナ属は減少している。草本花粉ではカヤツリグサ科が増加している。Va層(試料1)では、ハンノキ属、クリ、コナラ属コナラ亜属、イネ科、ヨモギ属などが検出されたが、いずれも少量である。

基本土層(SI650北側地点) 各試料とも花粉密度が極めて低く、部分的に樹木花粉のハンノキ属、ニレ属-ケヤキ、



第41図 大沢谷内遺跡(下層)の花粉・胞子

落葉広葉樹林が分布していたと推定される。また、森林の縁辺部などにはイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などの草本類が分布していたと考えられる。V b 層でも、おおむね同様の状況であったと考えられるが、ハンノキ属の湿地林が拡大し、ヤナギ属、ブナ属などは減少したと推定される。

V a 層では、花粉があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難である。花粉があまり検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたことなどが考えられる。植物珪酸体分析では、同層より上位でササ属（おもにチマキザサ節）が優勢となっていることから、この頃に堆積当時が乾燥化した可能性が考えられる。

基本土層（SI650 北側地点）花粉があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難であるが、周囲にはイネ科やヨモギ属などの草本類が生育し、遺跡周辺にはハンノキ属やニレ属－ケヤキなどの落葉広葉樹が生育していたと考えられる。V b1 層とV a1 層ではイネ属型が認められることから、周辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。花粉があまり検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたこと、土層の堆積速度が速かったこと、および水流や粒径による淘汰・選別を受けたことなどが考えられる。

溝状開析谷（SD192）花粉があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難であるが、周囲にはイネ科やヨモギ属などの草本類が生育し、遺跡周辺にはハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、ブナ属などの落葉広葉樹が生育していたと考えられる。花粉あまりが検出されない原因としては、前述のようなことが考えられる。

C 珪藻分析

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物で、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映しており、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

1) 試料

分析試料は、SD192 のII c 層（No.16）から採取された1点である。

2) 分析方法

珪藻の抽出と同定は、以下の手順で行った。

スギ、草本花粉のヨモギ属、イネ科などが検出されたものの、いずれも少量である。なお、V b1 層（試料1）とV a1 層（試料3）ではイネ属型が認められた。溝状開析谷（SD192）各試料とも花粉密度が極めて低く、部分的に樹木花粉のハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、ブナ属、草本花粉のイネ科、カヤツリグサ科、ナデシコ科、ヨモギ属などが検出されたが、いずれも少量である。なお、II c 層では樹木・草本花粉のマメ科、ニワトコ属－ガマズミ属、クワ科－イラクサ科も認められた。

4) 花粉分析から推定される植生と環境

基本土層（1区北側3K-1A地点）V c 層の堆積当時は、周囲にハンノキの湿地林をはじめヤナギ属、サワグルミなどの河辺林が分布していたと考えられ、遺跡周辺にはナラ類（コナラ属コナラ亜属）、ブナ属などの

1. 試料から 1 cm³ を秤量。
2. 10%過酸化水素水を加え、加温反応させながら 1 晩放置。
3. 上澄みを捨て、細粒のコロイドと薬品を水洗 (5~6 回)。
4. 残渣をマイクロピペットでカバーガラスに滴下して乾燥。
5. マウントメディアによって封入し、プレパラート作成。
6. 検鏡・計数。

検鏡は、生物顕微鏡によって 600 ~ 1500 倍で行った。計数は珪藻被殻が 100 個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

3) 結 果

①分 類 群

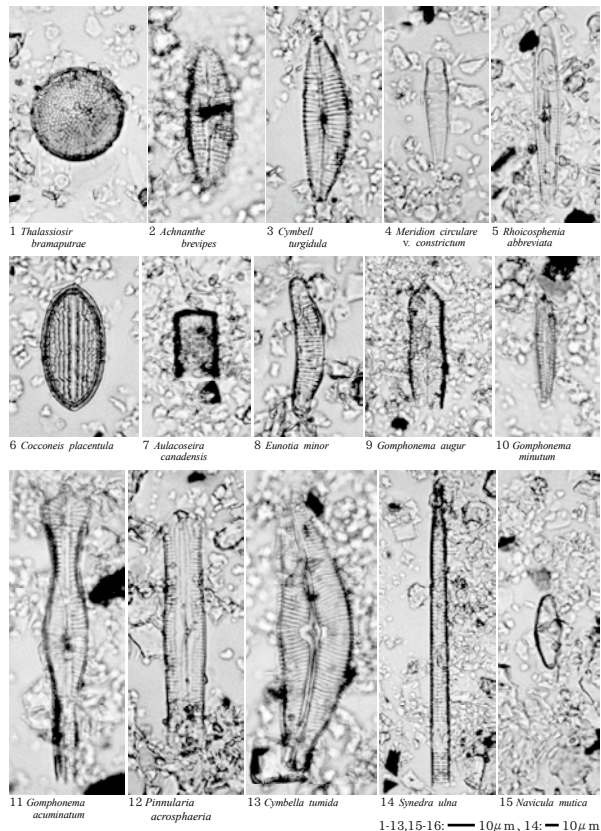
試料から出現した珪藻は、真-中塩性種 (海-汽水生種) 1 分類群、中-貧塩性種 (汽-淡水生種) 1 分類群、貧塩性種 (淡水生種) 23 分類群である。分析結果を第 9 表に示す。珪藻の生態性については Lowe [1974] や渡辺 [2005]、陸生珪藻については小杉 [1986]、環境指標種群の海水生種から汽水生種については小杉 [1988]、淡水生種については安藤 [1990] の記載を参照した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

②珪藻群集の特徴

SD192 の II c 層 (No.16) では珪藻密度が低く、ほとんどが貧塩性種 (淡水生種) で占められ、中-貧塩性種や真-中塩性種もわずかに認められた。貧塩性種 (淡水生種) では *Cocconeis placentula* がやや多く、*Gomphonema gracile*、*Gomphonema minutum*、*Gomphonema parvulum*、*Eunotia minor*、*Meridion circulare v. constrictum*、*Synedra ulna* などが伴われる。中-貧塩性種では *Achnanthes brevipes*、真-中塩性種では *Thalassiosira bramptonae* が認められた。

第 9 表 大沢谷内遺跡(下層)における珪藻分析結果

分類群	SD192
	II c 層 No.16
貧塩性種 (淡水生種)	
<i>Aulacoseira ambigua</i>	2
<i>Aulacoseira canadensis</i>	1
<i>Cocconeis placentula</i>	11
<i>Cymbella</i> spp.	1
<i>Cymbella tumida</i>	2
<i>Cymbella turgidula</i>	2
<i>Epithemia adnata</i>	2
<i>Eunotia minor</i>	3
<i>Fragilaria pinnata</i>	1
<i>Gomphonema acuminatum</i>	2
<i>Gomphonema augur</i>	1
<i>Gomphonema gracile</i>	4
<i>Gomphonema minutum</i>	4
<i>Gomphonema parvulum</i>	4
<i>Hantzschia amphioxys</i>	2
<i>Meridion circulare v. constrictum</i>	3
<i>Navicula mutica</i>	1
<i>Neidium ampliatum</i>	1
<i>Pinnularia acrosphaeria</i>	1
<i>Pinnularia schroederii</i>	1
<i>Pinnularia subcapitata</i>	1
<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>	1
<i>Synedra ulna</i>	3
中-貧塩性種 (汽-淡水生種)	
<i>Achnanthes brevipes</i>	5
真-中塩性種 (海-汽水生種)	
<i>Thalassiosira bramptonae</i>	1
合 計	60
未同定	2
破片	107
試料 1 cm ³ 中の殻数密度	1.2 × 10 ⁴
完形殻保存率 (%)	-



第 42 図 大沢谷内遺跡(下層)の珪藻

4) 珪藻分析から推定される堆積環境

SD192のII c層 (No.16)では、珪藻があまり検出されないことから堆積環境の推定は困難であるが、不安定な淡水域の環境が示唆される。珪藻密度が低い原因としては、珪藻の生育に適さない乾燥した堆積環境であったこと、水流や粒径による淘汰・選別を受けたこと、土層の堆積速度が速かったことなどが考えられる。

D 炭化材の樹種同定

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体で、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能で、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

1) 試料

分析対象試料は、基本層序V c層、開析谷 (SD192)、焼土遺構 (SX369・946)、住居炉 (SI700・951)、アスファルト多出土坑 (SK722) から出土した炭化材計30点である。

2) 分析方法

試料を割折して新鮮な横断面 (木口と同義)、放射断面 (柾目)、接線断面 (板目) の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって50～1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

3) 結果

第10表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す (同定根拠となった特徴：省略)。

4) 所見

樹種同定の結果、エゴノキ属4点、ヤナギ属4点、ヤマグワ5点、トネリコ属3点、ブドウ科2点、マツ属複雑維管束亜属1点、エノキ属1点、クリ1点、コナラ属コナラ節1点、サクラ属1点、環孔材1点、散孔材1点、広葉樹3点、不明炭化物1点が同定された。

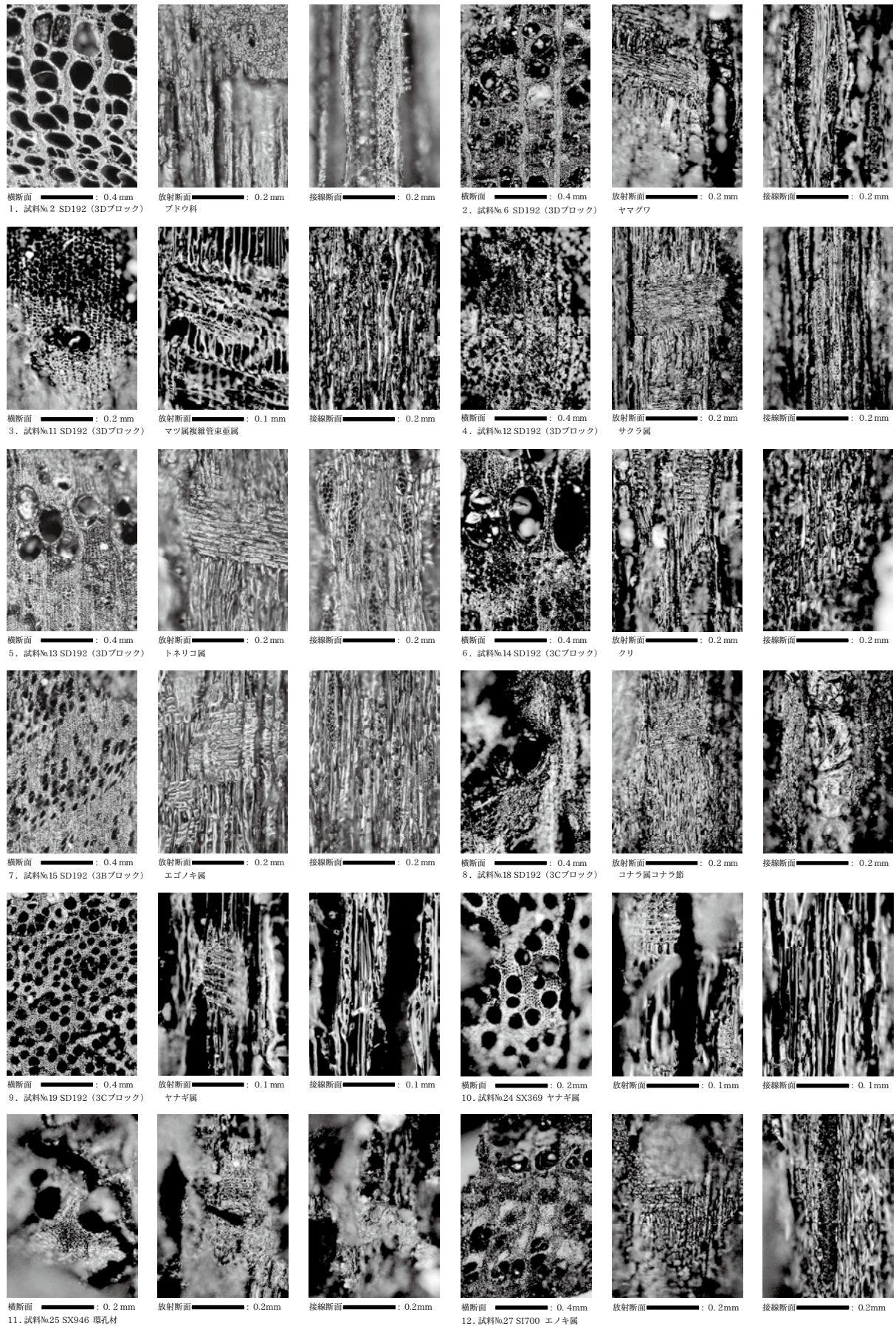
エゴノキ属は、温帯を中心に広く分布する落葉の小高木であり、エゴノキは流路沿いを好む。ヤナギ属は温帯を中心に広く分布する落葉高木から低木で、湿地や河辺などの水辺に生育する。ヤマグワは温帯に広く分布する落葉高木で、谷間や緩傾斜地の適潤な深層の肥沃地を好む。トネリコ属は温帯を中心に広く分布する落葉の高木で、沢沿いなどの湿原や水湿のある低地に生育し、ときには湿地林を形成する。やや多いエゴノキ属、ヤナギ属、ヤマグワ、トネリコ属は、いずれも谷や流路沿い、湿地に分布する樹木であり、堆積地周辺が河辺や湿地などの環境であったことが示唆される。

ブドウ科はつる性の木本または草本で山野に生育する。マツ属複雑維管束亜属は温帯を中心に広く分布する針葉樹で常緑の高木である。エノキ属は温帯を中心に広く分布する落葉高木で、谷あい、斜面、河川沿いや平坦地に生育する。木材の強さは概して中庸、やや堅く従曲性に富んでいる。

クリは、温帯に広く分布する落葉高木であり暖温帯と冷温帯の間域では純林を

第10表 大沢谷内遺跡(下層)における樹種同定結果(ブロック名称は本節F参照)

試料No.	採取地点	ブロック	層位	結果 (学名/和名)	
1	SD192 炭化物集中	1	II e層	<i>Styrax</i>	エゴノキ属
2	SD192 炭化物集中	3D	II c ②層	Vitaceae	ブドウ科
3	SD192 炭化物集中	3C	II c ②層	<i>Fraxinus</i>	トネリコ属
4	SD192 炭化物集中	3D	II c ②層	<i>Salix</i>	ヤナギ属
5	SD192 炭化物集中	3D	II c ②層	Vitaceae	ブドウ科
6	SD192 炭化物集中	3D	II c ①層	<i>Morus australis</i> Poirlet	ヤマグワ
7	SD192 炭化物集中	3D	II c ①層	<i>Fraxinus</i>	トネリコ属
8	SD192 炭化物集中	3D	II c ①層	<i>Salix</i>	ヤナギ属
9	SD192 炭化物集中	3D	II c ①層	broad-leaved tree	広葉樹
10	SD192 炭化物集中	3D	II c ①層	<i>Styrax</i>	エゴノキ属
11	SD192 炭化物集中	3D	II c ①層	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑維管束亜属
12	SD192 炭化物集中	3D	II c ①層	<i>Prunus</i>	サクラ属
13	SD192 炭化物集中	3D	II c ①層	<i>Fraxinus</i>	トネリコ属
14	SD192 炭化物集中	3C	II c層	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	クリ
15	SD192 炭化物集中	3B	II c層	<i>Styrax</i>	エゴノキ属
16	SD192 炭化物集中	1	II e層	broad-leaved tree	広葉樹
17	SD192 炭化物集中	1	II e層	<i>Styrax</i>	エゴノキ属
18	SD192 炭化物集中	3C	II c ②層最下部	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>	コナラ属コナラ節
19	SD192 炭化物集中	3C	II c ①層	<i>Salix</i>	ヤナギ属
20	SD192 炭化物集中	3D	II c ①層	<i>Morus australis</i> Poirlet	ヤマグワ
21	SD192 炭化物集中	5	II a層	<i>Morus australis</i> Poirlet	ヤマグワ
22	SD192 炭化物集中	3C	II c ①層	diffuse-porous wood	散孔材
23	SD192 炭化物集中	3D	II c ①層	broad-leaved tree	広葉樹
24	焼土遺構 SX369			<i>Salix</i>	ヤナギ属
25	焼土遺構 SX946			ring-porous wood	環孔材
26	SK722 覆土			ring-porous wood	環孔材
27	SI700 炉			<i>Celtis</i>	エノキ属
28	SI951 炉			unknown	不明
29	3K-1A グリッド	V c層		<i>Morus australis</i> Poirlet	ヤマグワ
30	3K-1A グリッド	V c層		<i>Morus australis</i> Poirlet	ヤマグワ



第43図 大沢谷内遺跡(下層)の炭化材

形成することもある。乾燥した台地や丘陵地を好み二次林要素でもある。コナラ属コナラ節は、温帯を中心に広く分布する落葉高木である。サクラ属は温帯に分布する落葉の高木または低木で、排水の良い斜面等に生育する。概して堅硬な材と言える。

いずれの樹種も当時の遺跡周辺もしくは近隣の地域で採取可能であったと考えられる。

E 種実同定

植物の種子や果実には比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。そこで、堆積物などから種実を検出してその種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

1) 試料

試料は、開析谷 SD192 の炭化物集中 II c 層ブロック 3C および II a 層ブロック 5（本節 F 参照）から出土した水洗された種実類および炭化物で、それらの粒数（破片を含む）は順に 270 粒と 193 粒である。

2) 分析方法

種実類について肉眼および双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって、科、属、種の階級で示した。

3) 結果

①分類群

種実同定の結果、樹木 2、草本 1 の計 3 分類群が同定された。学名、和名および粒数を第 11 表に示し、主要な分類群を写真に示す（同定根拠となる形態的特徴：省略）。

②種実群集の特徴

II c 層ブロック 3C

樹木種実のオニグルミ（4 粒子）、ブナ科（5 粒子）、草本種実のヒシ（5 粒子）が同定された。いずれも破片である。また、不明種実（15 粒子）、不明炭化物（234 粒子）、炭化材片（7 粒子）が認められた。

II a 層ブロック 5

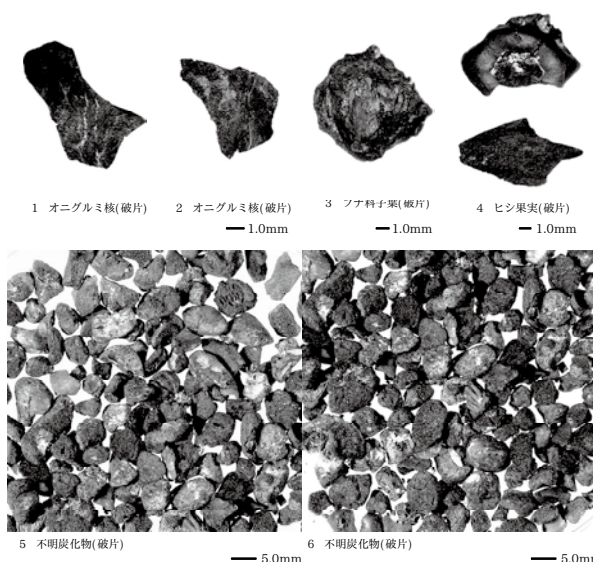
樹木種実のオニグルミ（1 粒子）、草本種実のヒシ（4 粒子）が同定された。いずれも破片である。また、不明種実（7 粒子）、不明炭化物（174 粒子）、炭化材片（7 粒子）が認められた。

4) 所見

SD192 炭化物集中の II c 層ブロック 3C と II a 層ブロック 5 から出土した炭化物について、種実同定を行った結果、オニグルミ、ブナ科、ヒシが同定された。これらのうち、オニグルミは食用となる有用植物で、谷沿いの湿潤地に生育する。ヒシも食用となる有用植物で、水深 1 m 前後の水域に生育する。ブナ科にはいくつかの種類が含まれ、アク抜きをすれば食用になる。いずれも破片で、食用に用いた残滓が捨てられた可能性が考えられる。

第 11 表 大沢谷内遺跡(下層)における炭化種実同定結果

分類群		部位	SD192炭化物集中	
学名	和名		II c層ブロック3C	II a層ブロック5
Arbor		樹木		
<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr	オニグルミ	核(破片)	4	1
Fagaceae	ブナ科	子葉(破片)	5	
Herb		草本		
<i>Trapa japonica</i> Flerov.	ヒシ	果実(破片)	5	4
Total		合計	14	5
Unknown seeds		不明種実(破片)	15	7
Unknown charred material		不明炭化物(破片)	234	174
		炭化材片(破片)	7	7



第 44 図 大沢谷内遺跡(下層)の炭化種実

F 溝状開析谷 (SD192) 出土の炭化物について

調査区中央東の微高地緩斜面に位置する SD192 の埋積土に炭化物を密に含む堆積層が形成されていた。本遺跡の中では最も多量の炭化物が堆積するとともに焼骨も含まれることから、主要部分の土砂を回収し篩選別作業にあたった。本項ではこのうち炭化物の集計結果を報告し、あわせてその位置づけについて検討する。

1) 炭化物集中層の形成

SD192 は、最大幅 4 m、最大深度 1 m あまりの埋没谷である。調査区内での連なりは東西 30 m におよび、西部に位置する 13㎡ あまりの範囲に炭化物が濃密に分布していた。

埋積土は第 I 層から第 III 層に大別できる (図版 93)。このうち炭化物を多量に含むのは第 II 層である。同層における炭化物の集中域は、土砂をはさんで大きく 3 層に分かれるところから、上から順に II a 層・II c 層・II e 層とした。

II c 層と II e 層では、少量ながら微細な焼骨も含まれる。第 II 層の堆積期間には周囲に焼土遺構が分布する (第七章第 118 図)。炭化物集中層は左右両岸からの堆積によって形成されており、焼土遺構で生じた炭化物などを集中廃棄したことが窺える。炭化物の集中域は 6 つのブロックに分かれ、次のような変遷をたどることができる (第 45 図)。

① II e 層

最下部に堆積するもので、東端の北岸寄りに位置するブロック 1 がこれにあたる。分布範囲は長さ 3.2m、幅 1.1m、最大厚 5 cm で、全体面積は約 2.0㎡ である。堆積土砂は谷中央に向かって傾斜し、北岸からの廃棄によって形成されたことが窺える。後述の II c 層ブロック 2 とは重複的な広がりをもつ。北端部ではこれと接するが、南に向かって間層が広がり、ブロック 2 とのレベル差は最大 5 cm を測る。

② II c 層

ほぼ全域にわたって分布する主要堆積層で、ブロック 2～4 に分けられる。

ブロック 2 は前述のブロック 1 の上部に堆積する。長さ 1.5m、幅 0.8m、最大厚 3 cm で、ブロック 1 と同様に北岸からの廃棄によって形成されたものである。全体面積は 0.9㎡ である。

ブロック 3 は 2 の西に隣接する。谷の南側から中央付近にかけて長さ 10.4 m、1.5m 前後の幅で堆積し、全体面積は 11㎡ あまりにおよぶ。本ブロックは 3 か所のトレンチによって東西 4 区域に分断されるところから、便宜上東から 3A～3D に区分した。このうち西半部の 3C・3D では、最大 8 cm ほどの間層をはさんで上部層 (II c ①層) と下部層 (II c ②層) に細分できた。各区域の最大厚は、3A が 10cm、3B が 3 cm、3C と 3D の II c ①層が 3 cm、II c ②層が 8 cm である。ほぼ全域が南岸からの廃棄によって形成されているが、中央部の 3B・3C では北岸からの廃棄もみられる。

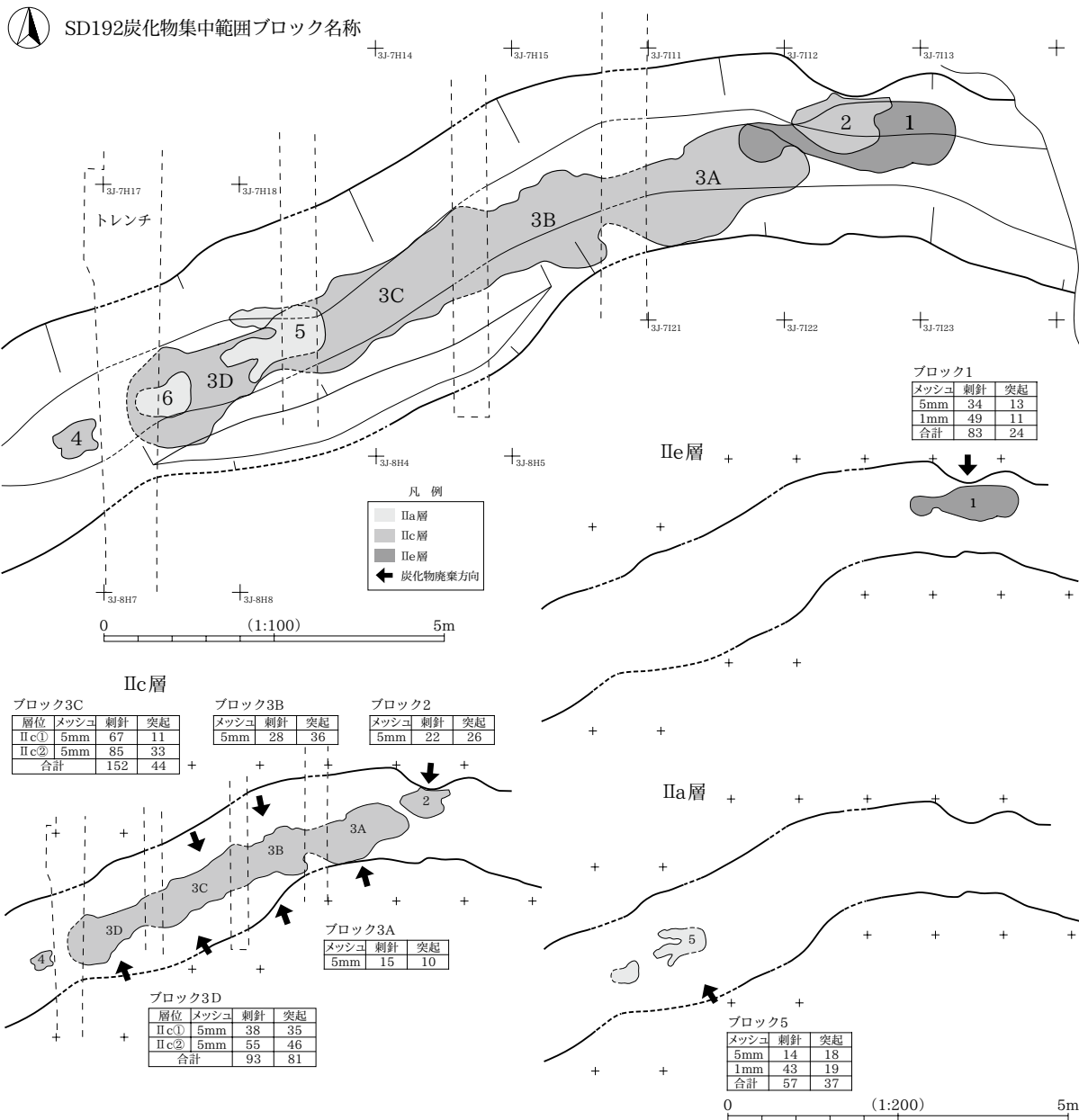
ブロック 4 は II c 層西端に位置する。谷中央部に形成された長さ 0.7m、幅 0.5m、0.3㎡ の小ブロックで、厚さ 1 cm ならずの薄層として存在する。廃棄方向は明らかでない。

③ II a 層

最上部に堆積するもので、谷西部の中央付近に位置するブロック 5・6 が該当する。東側のブロック 5 は II c 層との間に最大 14cm のレベル差をもち、長さ 1.6m、幅 1.1m、0.9㎡ の範囲に不整形な形で堆積する。最大厚は 4 cm で、南岸から廃棄されたものである。その西 0.5m に位置するブロック 6 は厚さ 1 cm 前後の薄層で、長さ 0.9m 前後、幅 0.5m、0.3㎡ の範囲に限定される。廃棄方向は明らかでない。

2) 炭化物の構成

以上の 6 ブロックについて、2008 年のトレンチ調査区域を除く全域の堆積土砂を回収し、5 mm・1 mm メッシュによる土壌水洗を行った。抽出できた炭化物は、II e 層 54.6g、II c 層 891.4g、II a 層 56.3g である。このうち II c 層では 5 mm メッシュ採取試料に限定し、出土量が乏しい II e 層と II a 層は全試料を検討対象と



第45図 SD192炭化物集中層の形成とヒシ類の出土数

第12表 SD192 ブロック別炭化物一覧

ブロック	層位	土壌採取面積 (㎡)	炭化材 (g)		5mm採取炭化種実 (g)					1mm採取炭化種実 (g)				未分類 (g)	合計 (g)
			5mm	1mm	ヒシ	クルミ	クリ	不明A	不明B	ヒシ	クルミ	不明A	不明B		
1	IIe層	2.0	3.0	6.7	2.1	0.1	—	6.4	—	0.7	0.4	33.8	1.4	—	54.6
2	IIc層	0.6	1.6	—	1.2	—	—	4.4	0.4	—	—	—	—	—	56.5
3A	IIc層	2.2	2.6	—	1.0	0.1	—	1.9	0.1	—	—	—	—	—	40.7
3B	IIc層	2.1	10.8	—	2.0	6.1	—	11.6	0.4	—	—	—	—	—	317.1
3C	IIc層①	2.5	7.5	—	3.3	5.9	0.1	8.2	1.0	—	—	—	—	—	73.1
3C	IIc層②	2.5	4.4	—	3.6	—	—	8.0	2.0	—	—	—	—	—	54.9
3D	IIc層①	1.8	29.8	—	2.4	0.2	—	7.9	0.9	—	—	—	—	—	123.4
3D	IIc層②	1.8	3.6	—	3.8	—	—	9.8	0.5	—	—	—	—	—	75.5
4	IIc層	0.3	1.1	—	—	—	—	0.1	—	—	—	—	—	—	1.8
5	IIa層	0.6	4.3	12.7	0.9	2.5	—	5.7	—	1.0	2.5	23.6	1.7	—	54.9
6	IIa層	0.3	—	1.1	—	—	—	—	—	—	—	0.2	0.1	—	1.4
合計		16.7	68.7	20.5	20.3	15.0	0.1	64.0	5.3	1.7	2.9	57.6	3.2	743.0	1,002.3

した。抽出試料は種実と材からなり、前者については種の同定を行った。なお、現時点で未分類となっているⅡc層1mmメッシュ採取試料の種実および材の数量は、Ⅱe層・Ⅱa層での1mmメッシュ試料からの抽出率を種別に求め、この数値をもとに推定した(第12表)。

①炭化種実

層位別にみた確認数は、Ⅱe層44.9g(5mm:8.6g)、Ⅱc層87.0g、Ⅱe層47.8g(5mm:9.1g)である。いずれも細片化しているため、種の特定が困難なものが大多数を占める。同定できた種実、ヒシ類・オニグルミ・クリ・アカメガシワ・タデ類の5種である。不明種実については2種に大別した。以下では、食料残渣の可能性が高い前三者と出土量が多い不明種実の特徴を述べる。アカメガシワはⅡc層のブロック3A、タデ類はⅡa層のブロック5から1点ずつ見出すにとどまった。

ヒシ類

刺針および環状の突起とみされるものをこれとした。5種の中では最多の21.6gを測る。層位ごとの刺針確認数は、Ⅱe層(ブロック1)83点(1mm:49点)、Ⅱc層(ブロック2・3)の5mm採取試料310点、Ⅱa層(ブロック5)57点(1mm:43点)である(第45図)。Ⅱc層全体の刺針数は、Ⅱe層とⅡa層での1mm検出率65.7%に基づき904点と推定する。突起はいずれも破片試料である。確認数は、Ⅱe層(ブロック1)24点(1mm:11点)、Ⅱc層(ブロック2・3)の5mm試料197点、Ⅱa層(ブロック5)37点(1mm:19点)で、Ⅱc層全体の出土数は386点と推定する。

ヒシ類にはオニビシ・ヒシ・ヒメビシの別がある。SD192から出土した試料がいずれにあたるかは現時点で明らかでないが、隣接する大沢谷内北遺跡の遺物包含層下に堆積したⅥ層からは、自然堆積の状態が多量のヒメビシが出土した〔前山・伊比^{ほか}2010〕。ヒメビシは二つの刺針をもつ。本遺跡出土のヒシ類がヒメビシであると仮定した場合、各層での数量はⅡe層42個体、Ⅱc層452個体、Ⅱa層19個体となる。

オニグルミ

細片化した核が出土した。層位別の内訳は、Ⅱe層0.5g(1mm:0.4g)、Ⅱc層の5mm採取試料12.4g、Ⅱa層5.0g(1mm:2.5g)である。Ⅱc層の全重量は26.4gと推定する。大沢谷内北遺跡では全重量が明らかでない炭化クルミが出土しており、1個体あたりの平均重量は3gであった。この数値をもとに個体数を求めると、各層での出土量は、Ⅱe層1個体、Ⅱc層8個体、Ⅱa層2個体となる。

クリ

ブロック3CのⅡc①層からクリの子葉特有の皺をもった試料が2点出土した。ともに一辺5mmたらずの微細破片で、合計重量は0.1gにすぎない。本試料は、委託分析でブナ科とされたものの一部にあたる。

不明種実A種

表面が平滑で、微細な粒状組織からなるものをこれとした。表面の状態や全体の質感から破片化したヒシ類の可能性が高い試料が多数含まれるが、部位の特定が困難なため別個に扱った。本類は委託分析で不明炭化物とされたものである。層位別に見た5mm採取試料の重量は、Ⅱe層6.4g、Ⅱc層51.9g、Ⅱa層5.7gで、前述のヒシ類とよく似た出現傾向をみせる。

不明種実B種

破断面が光沢を帯びる点でクルミに類似するが、殻の厚さが0.5mm～1mmにとどまり、なおかつ表面が平滑なものをこれとした。委託分析で不明炭化物とされた試料である。層位別にみた重量は、Ⅱe層1.4g(1mmのみ)、Ⅱc層5.3g、Ⅱa層1.8g(1mmのみ)である。

②炭化材

微細破片が大半を占め、1cm以上の試料は皆無に等しい。抽出できた炭化材は、Ⅱe層9.7g(1mm:6.7g)、Ⅱc層の5mm採取試料61.6g、Ⅱa層18.1g(1mm:13.8g)である。Ⅱe層・Ⅱa層における1mmメッシュでの検出率73.7%に基づくⅡc層全体の炭化材重量は246.4gと推定される。ちなみに、炭化物全体に占める

第13表 大沢谷内北遺跡・御井戸遺跡出土炭化物一覧

(御井戸遺跡は5mmメッシュ篩からの抽出資料に限定される)

遺跡	採取地	層位	所属時期	面積 (㎡)	炭化材 (g)	炭化種実 (g)					合計 (g)
						ヒシ	クルミ	クリ	トチ	不明	
大沢谷内北	1K-9H・9I	Vc層・Vd層	晩期中葉	24.0	973.0	—	59.8	—	—	—	1,032.8
御井戸	91-C・4・1	泥炭A層	晩期終末	2.2	282.3	0.1	3.7	1.7	0.1	13.7	301.6
御井戸	91-C・4・1	泥炭B層	晩期終末	2.2	197.2	0.9	1.6	1.1	—	3.7	204.5
御井戸	94-39D	IIIc層	晩期終末	1.0	328.9	1.6	1.8	0.5	—	8.5	341.3

炭化材の割合は極めて低く、II e層 17.8%、II c層 27.6%、II a層 32.1%にとどまる。

3) 出土炭化物の位置づけ

周辺に分布する縄文時代遺跡の出土例と比較しながら、SD192 出土炭化物の位置づけを考える。越後平野の周辺でこれまで行われた調査では炭化物に関する十分な検討がなされておらず、それらを数量的に把握できる報告例は限られる。そこで本項では、隣接する大沢谷内北遺跡と西約 20kmに位置する新潟市西蒲区御井戸遺跡での集計データ（第13表）を比較試料としてとりあげる。

大沢谷内北遺跡は本遺跡の北約 100 m～200 mに位置する。かつての沼地とこれに接する微高地を対象とした 3,000㎡あまりの発掘調査が 2007 年に行なわれ、晩期中葉の杭列や土坑が確認された。炭化物の集計値は、低域部の 6 グリッド (24㎡) において遺物包含層 (V c層・V d層) の全土壌を対象とした水洗選別によってえられたものである〔前山 2010〕。

御井戸遺跡は、角田山の東南麓に形成された低台地の縁辺部から台地下の低地にかけて立地する。晩期中葉～後葉を中心とした拠点集落で、台地上に大型掘立柱建物群、台地下の低地に木柱群や水場遺構などが分布する〔前山 2003〕。ここに提示する試料は、低地に形成された総面積 50㎡ほどにおよぶ「トチ塚」堆積物の中から抽出した 2 グリッド分 (5.4㎡) の 5 mm メッシュ採取試料で、所属時期は晩期終末である。

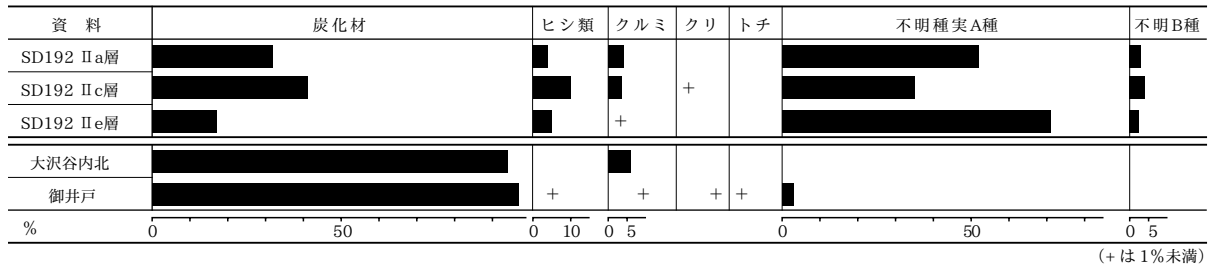
①炭化種実

前述のように、SD192 から出土した炭化種実の主体をなすのはヒシ類である。数量的に多数を占める不明種実A種の多くがその破片とみられる点もふまえれば、出土試料の大半がヒシ類に属す可能性は極めて高いと言える。ところで、本遺跡出土の植物遺体は炭化物に限定される。既に腐朽した種実が少なからず存在したことを考慮した場合、ヒシ類の卓越が種実利用の実態をどのように反映しているかが問題になる。

越後平野の周辺では、低湿地遺跡での調査の進展に伴ない植物性食料残渣の大量出土例が増加しつつある。新潟市御井戸遺跡〔前山 1996〕・新発田市青田遺跡〔猪狩 2004〕・胎内市野地遺跡〔坂上 2009〕は晩期の代表例である。いずれの遺跡においてもトチの内果皮が多量に出土しており、御井戸遺跡で行った栄養価分析では、主食料として機能していたことが明らかになった〔前山 1996〕。このほか、御井戸遺跡ではドングリ類の果皮とオニグルミ、青田遺跡と野地遺跡ではクリの果皮とオニグルミも多量に出土しているが、ヒシ類は御井戸で少量確認できた程度である。

一方、事例は少ないものの、トチやクリの果実が炭化した状態でまとまって出土するケースもみられる。長岡市申道遺跡（中期）では 700 個あまりのトチ〔駒形 1998〕、同市（旧栃尾市）栃倉遺跡（中期）では多量のクリ〔寺村 1960〕が竪穴住居内から出土した。胎内市野地遺跡（後期～晩期）では、トチ 1,200 個、クリ 200 個ほどが炭化物集中域に廃棄されていた〔坂上 2009〕。これらはいずれも火災に伴ない偶発的に被熱した試料とみられる。これに対し、SD192 からえられた多量の炭化ヒシ類は各層から概ね安定した割合で出土しており、上記のような事例とはその性格を根本的に異にすると考えなければならない。

ヒシ類の多出現象を考えるうえで、大沢谷内北遺跡での花粉構成と出土種実のあり方は重要である。検出された花粉のなかで木本類ではハンノキ属が卓越し〔パリノサーヴェイ 2010〕、遺物包含層や同層直下の第VI層では多量のオニグルミとヒメビシが自然堆積していた。本節「B花粉分析」で述べられるように SD192 の土壌内から検出された花粉はわずかであったが、ハンノキ属が最も多い点において大沢谷内北遺跡と共通しており、類似した植生環境にあったことを窺わせる。大沢谷内北遺跡は、植物性食料残渣が良好に保存される条件にあった。し



第46図 SD192・大沢谷内北遺跡・御井戸遺跡の炭化材・炭化種実出現率

かし出土種実の中にトチは全く見あたらず、クリの果皮も1点の出土にとどまった。

以上のような点に基づけば、SD192の埋没期間においてトチやクリの果皮が多量に廃棄されていた可能性はほとんどなく、周囲に生育するヒシ類を主とした種実利用が推定できる。この時期における拠点集落の種実構成とは様相を大きく異にするもので、本遺跡の性格を考える上で重要な特徴と考えるべきである。

②炭化材

SD192からえられた炭化物の中で、材の出土量が半数にも満たない現象が意味するところを検討する。その位置づけにあたり、大沢谷内北遺跡・御井戸遺跡との単位面積あたりの炭化材出土量の比較は有効である。

SD192における1㎡あたりの炭化材重量は、IIe層（土壌採取面積2.0㎡）で4.9g、IIc層（土壌採取面積13.8㎡）で4.4g、IIa層（土壌採取面積0.9㎡）で20.0gと算出される（第12表）。これに対し、大沢谷内北遺跡（24㎡）では40.5g、御井戸遺跡（5.4㎡）では149gの数値を示す。SD192の主要包含層準にあたるIIc層に比べ、前者は9.2倍、後者は33.9倍もの数値を示しており、本遺跡における炭化材の絶対的な乏しさが明らかになる。炭化物全体に占める材の割合が両遺跡で95%前後に達する点もこれに関連した現象と言える（第46図）。

縄文時代晩期の新潟県内では、県南の西頸城と県北の阿賀北で磨製石斧の生産が行われ、越後平野周辺は全国的にみても潤沢な石斧供給環境におかれていた。当地を代表する拠点集落の一つ御井戸遺跡では、そうした状況を背景に石器群全体に占める磨製石斧の割合が10%を上回る。森林資源に恵まれたこの遺跡では、直径40cm～50cm前後のクリ材が木柱に多用され、炭化材の多くもクリによって占められていた〔パリノサーヴェイ2004〕。

一方、越後平野の沖積地に立地する晩期遺跡では磨製石斧の量が総じて少なく、大沢谷内北遺跡の2007年調査区や本遺跡6区下層ではその存在すら確認できなかった。木工具の乏しさは、大沢谷内北遺跡から出土した杭の加工痕に良く表れている。同遺跡の杭は遺跡近辺に生育する直径10cm前後のハンノキとトネリコを使用していた。石斧加工痕が明瞭に残る試料はなく、主として折り取りや引き裂きによって先端部を作出したものである。

対照的に、出土した伐採木や板材・割材には付近で入手が困難なクリ・ヤマグワ・カエデが使用され、それらの三分の一で被熱痕が確認できた。炭化材の樹種においてもクリ・ヤマグワなどの非現地産樹木が多数を占めることから、大沢谷内北遺跡の伐採木や加工木は、燃料材として搬入された可能性を強く示唆している。

本遺跡での樹木利用の実態は明らかでないが、焼土遺構・住居の炉出土炭化材で行った樹種同定によれば（本節D参照）、ヤナギとエノキの存在が確認された。ともに近辺で入手可能な樹種とみられ、大沢谷内北遺跡とは異なる木材の調達手段がとられた可能性を示唆する点で留意すべきである。

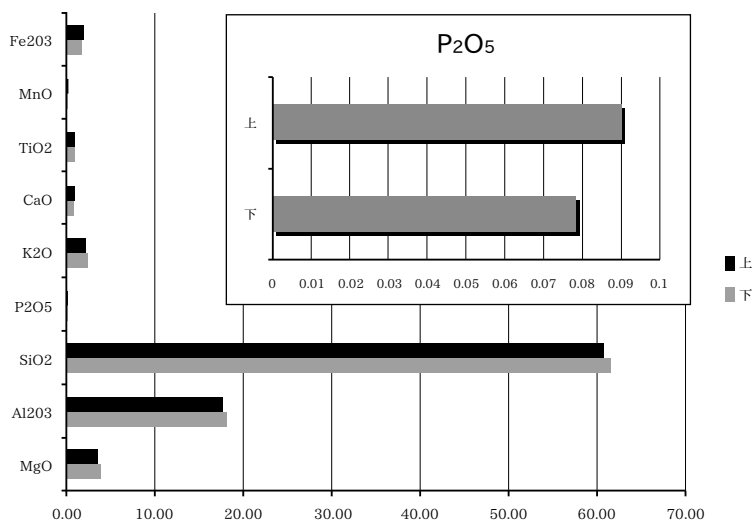
このような観点からSD192における炭化材の含有密度と炭化物の構成内容をみると、炭化材の量が最も少ないIIe層で種実の占有率が74%に達するのに対し、炭化材が相対的に多いIIc層での種実の割合が57%にとどまり、両者が補完的に推移する点が注目される。樹木利用が制約された環境下において、遺跡周辺で容易に採集できるヒシの殻が燃料材としても活発に使用された可能性を指摘したい。

G リン・カルシウム含量分析

SK920内で出土した土器内部の土壌と直下の土壌を採取し、土壌の特性を明らかにするための蛍光X線分析を実施して、リン(P)とカルシウム(Ca)の含有量を比較した。

第14表 大沢谷内遺跡(下層)SK920
における蛍光X線分析結果

	上 (wt%)	下 (wt%)
MgO	3.56	3.88
Al ₂ O ₃	17.76	18.15
SiO ₂	60.85	61.59
P ₂ O ₅	0.09	0.08
K ₂ O	2.35	2.39
CaO	1.01	1.00
TiO ₂	0.95	0.95
MnO	0.10	0.09
Fe ₂ O ₃	1.94	1.68



第47図 大沢谷内遺跡(下層)SK920における蛍光X線分析結果(wt%)

1) 分析方法

蛍光X線分析の手順は次の通りである。

1. 試料を恒温乾燥器で 50°C に設定し約 2 週間乾燥。
2. 乾燥前と乾燥後の重量から含水比を算出。
3. 乾燥後の試料をタングステン・カーバイド製乳鉢で 75μm 程度に粉碎し、約 12t の圧力でプレスして錠剤状試料を作成。
4. 奈良教育大学に設置されているリガク製波長分散型蛍光 X 線分析 3270 型を用いて、Mg、Al、Si、P、K、Ca、Ti、Mn、Fe の 9 種類を測定。
5. 産業技術総合研究所が提供する岩石標準試料 JG-1、JG-1a、JR-1、JB-2、JB-3、JA-3 の 6 試料を用いて検量線を作成し、酸化物として濃度に換算。

2) 分析結果と考察

蛍光 X 線分析結果を第 14 表に示す。また、土器内部土壌（以下「上」と直下の土壌（以下「下」）における濃度比較を図に示す。土壌の含水比は、上下の試料で 39% と 44% であった。P₂O₅ および CaO は、上部で 0.09% と 1.01%、下部で 0.08% と 1.00% であった。蛍光 X 線分析の結果では、上下において明瞭な差異は認められなかった。また、土壌中でリンの挙動に関与するとされる Al や Fe などにおいても上下で比較を行ったが、大きな差異はみられなかった。

謝 辞

蛍光 X 線分析装置の使用にあたっては、奈良教育大学の長友恒人先生に便宜をはかっていただいた。末筆ながら、記して感謝いたします。

H 放射性炭素 (¹⁴C) 年代測定

1) 測定試料と測定方法

下層遺跡で検出された炭化物、土器内外面付着炭化物 15 点について、酸-アルカリ-酸洗浄のちに加速器質量分析 (AMS) 法により放射性炭素 (¹⁴C) 年代測定を行った。試料の詳細を第 15 表に示す。年代測定は米国の Beta Analytic Inc. (ベータ社) で実施され、測定には 3MV HVEE タンデトロン加速器が使用された。

2) 測定結果

測定結果および暦年較正年代を第 16 表に示す。各用語の意味は次の通りである。

第15表 大沢谷内遺跡(下層)放射性炭素年代測定の試料と方法

試料	採取地点・試料の種類	重量	前処理	測定方法	備考
No.1	3K-1A グリッド V c 層・炭化材	—	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	平成 18 年度採取試料
No.2	3K-1A グリッド V c 層・炭化材	—	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	平成 18 年度採取試料
TNH-0119Y	SI650 炉・炭化物	0.07g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0120Y	SI700 炉・炭化物	0.17g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0121Y	SI951 炉・炭化物	0.48g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0122Y	土器 (p336)・付着物	0.10g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0123Y	土器 (p170)・付着物	0.07g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0124Y	土器 (p302)・付着物	0.10g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0125Y	土器 (p62)・付着物	0.10g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0126Y	土器 (p185)・付着物	0.10g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0127Y	土器 (p7)・付着物	0.10g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0128Y	SI710・4 層・炭化材	0.61g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	年輪外側 7 年分
TNH-0129Y	SD192- II c 層②最下部・炭化物	0.08g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0130Y	SX369・炭化物	0.51g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0131Y	SK722 (11 層) ブロック・炭化物	0.32g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	

第16表 大沢谷内遺跡(下層)放射性炭素年代測定結果

試料	未補正 ¹⁴ C 年代 (y BP)	δ ¹³ C	補正 ¹⁴ C 年代 (y BP)	暦年較正年代 (Cal BP)	測定番号
No. 1	2930 ± 40	-24.7	2930 ± 40	2 σ : cal BC 1270 ~ 1010 1 σ : cal BC 1210 ~ 1050 交点 : cal BC 1120	Beta-232027
No. 2	2880 ± 40	-27.8	2830 ± 40	2 σ : cal BC 1120 ~ 900 1 σ : cal BC 1020 ~ 920 交点 : cal BC 1000	Beta-227788
TNH-0119 Y	2760 ± 40	-24.4	2770 ± 40	2 σ : BC 1010 ~ BC 820 1 σ : BC 970 ~ BC 960, BC 940 ~ BC 890 BC 870 ~ BC 850 交点 : BC 910	Beta-285501
TNH-0120Y	2600 ± 40	-24.0	2620 ± 40	2 σ : BC 830 ~ BC 770 1 σ : BC 810 ~ BC 790 交点 : BC 800	Beta-285502
TNH-0121Y	2640 ± 40	-23.5	2660 ± 40	2 σ : BC 900 ~ BC 790 1 σ : BC 830 ~ BC 800 交点 : BC 810	Beta-285503
TNH-0122Y	2960 ± 40	-25.1	2960 ± 40	2 σ : BC 1310 ~ BC 1040 1 σ : BC 1260 ~ BC 1120 交点 : BC 1200	Beta-285504
TNH-0123Y	3050 ± 40	-24.0	3070 ± 40	2 σ : BC 1420 ~ BC 1260 1 σ : BC 1400 ~ BC 1300 交点 : BC 1380, BC 1330, BC 1330	Beta-285505
TNH-0124Y	2790 ± 40	-25.7	2780 ± 40	2 σ : BC 1010 ~ BC 830 1 σ : BC 980 ~ BC 900 交点 : BC 920	Beta-285506
TNH-0125Y	5420 ± 40	-23.9	5440 ± 40	2 σ : BC 4350 ~ BC 4240 1 σ : BC 4340 ~ BC 4310, BC 4300 ~ BC 4260 交点 : BC 4330	Beta-285507
TNH-0126Y	2830 ± 40	-26.1	2810 ± 40	2 σ : BC 1050 ~ BC 890, BC 870 ~ BC 850 1 σ : BC 1010 ~ BC 910 交点 : BC 970, BC 960, BC 940	Beta-285508
TNH-0127Y	2910 ± 40	-24.7	2910 ± 40	2 σ : BC 1260 ~ BC 1000 1 σ : BC 1190 ~ BC 1140, BC 1140 ~ 1020 交点 : BC 1120	Beta-285509
TNH-0128Y	2700 ± 40	-25.5	2690 ± 40	2 σ : BC 910 ~ BC 800 1 σ : BC 890 ~ BC 870, BC 850 ~ 810 交点 : BC 820	Beta-285510
TNH-0129Y	2830 ± 40	-25.1	2830 ± 40	2 σ : BC 1120 ~ BC 900 1 σ : BC 1020 ~ BC 920 交点 : BC 1000	Beta-285511
TNH-0130Y	2700 ± 40	-23.1	2730 ± 40	2 σ : BC 970 ~ BC 960, BC 940 ~ BC 810 1 σ : BC 910 ~ BC 820 交点 : BC 890, BC 870, BC 850	Beta-285512
TNH-0131Y	2840 ± 40	-24.3	2850 ± 40	2 σ : BC 1120 ~ BC 910 1 σ : BC 1050 ~ BC 970, BC 960 ~ BC 940 交点 : BC 1010	Beta-285513

①未補正 ¹⁴C 年代値 (measured radiocarbon age)

試料の ¹⁴C/¹²C 比から、単純に現在 (AD1950 年) から何年前かを計算した値。¹⁴C の半減期は、国際的慣例によりリビー (Libby) の 5,568 年を用いた。

② δ ¹³ C 測定値

試料の測定 ¹⁴C/¹²C 比を補正するための炭素安定同位体比 (¹³C/¹²C)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

③補正 ¹⁴C 年代値 (conventional radiocarbon age)

δ ¹³ C 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、¹⁴C/¹²C の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試

料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を -25 (‰) に標準化することによって得られる年代値である。

④ 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を補正することにより算出した年代（西暦）。補正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値、およびサンゴの U-Th 年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。

使用したデータセットは、INTCAL04: Calibration Issue of Radiocarbon, 46 (3), 2004（海洋性試料については、Marine04）である。また、較正曲線のスムーズ化には下記の理論を用いた。

Talma, A.S. and Vogel, J.C. (1993) A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Radiocarbon, 35 (2), p.317-322.

なお、暦年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1 σ (68%確率)・2 σ (95%確率) は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。

I 黒曜石様物質の蛍光X線分析

大沢谷内遺跡における発掘調査では、黒曜石様の物質が検出された（3J-7H グリッドV c層：図版 287 No.368）。黒曜石とすれば遺物として貴重なことから、黒曜石の産地同定に利用される蛍光X線分析によりその特徴を明らかにするとともに、黒曜石の産地同定を試みた。

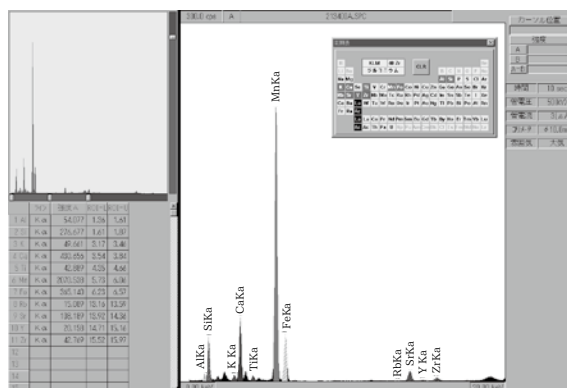
1) 分析方法

分析には、エネルギー分散蛍光X線分析（以下 EDXRF と略す）である。分析装置は、セイコーインスツルメンツ社製エネルギー分散型蛍光X線装置 SEA-2110L で、X線管ターゲットはロジウム、検出器は Li (Si) 半導体検出器で、7ポイントの分析を実施した。測定を行った元素は、アルミニウム (Al)、ケイ素 (Si)、カリウム (K)、カルシウム (Ca)、チタン (Ti)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe)、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr) である。また、測定条件は、電圧：50Kv、電流：自動設定、測定時間：240sec、雰囲気：真空である。

2) 分析結果

大沢谷内遺跡出土試料の蛍光X線スペクトルを第48図に示す。また、通常の黒曜石のスペクトルの例として和田の黒曜石のスペクトルを第49図に示す。さらに、今回の試料と、和田の黒曜石の蛍光X線スペクトルの強度比（一例）を第17表と第18表に示す。

通常、黒曜石の産地同定の際には、得られた結果を判別図(第50図および第51図)上にプロットすることで、



第48図 大沢谷内遺跡(下層)出土試料蛍光X線スペクトル

第17表 大沢谷内遺跡(下層)今回試料の
蛍光X線スペクトル強度比(7回測定の平均値)

Rb%	Sr%	Y%	Zr%	Fe/K	log (Fe/K)	Mn*100/Fe
0.35	74.98	3.13	21.53	11.46	1.06	587.68

第18表 和田の黒曜石の蛍光X線スペクトル強度比(一例)

Rb%	Sr%	Y%	Zr%	Fe/K	log (Fe/K)	Mn*100/Fe
52.98	0.22	23.54	23.25	1.18	0.07	13.61

Sum=Rb 強度 + Sr 強度 + Y 強度 + Zr 強度としたとき

Rb% (Rb 分率) = Rb 強度 *100/sum

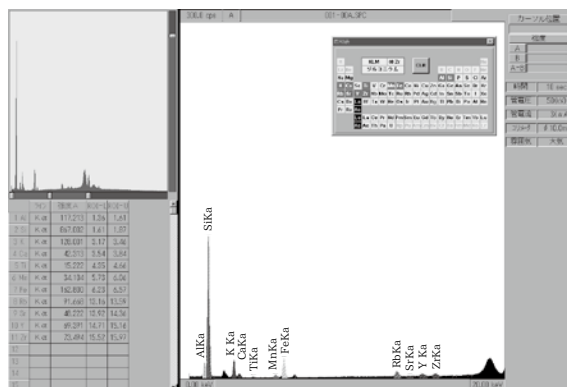
Sr% (Sr 分率) = Sr 強度 *100/sum

Y% (Y 分率) = Y 強度 *100/sum

Zr% (Zr 分率) = Zr 強度 *100/sum

Fe/K=Fe 強度 /K 強度

Mn*100/Fe= Mn 強度 *100/Fe 強度

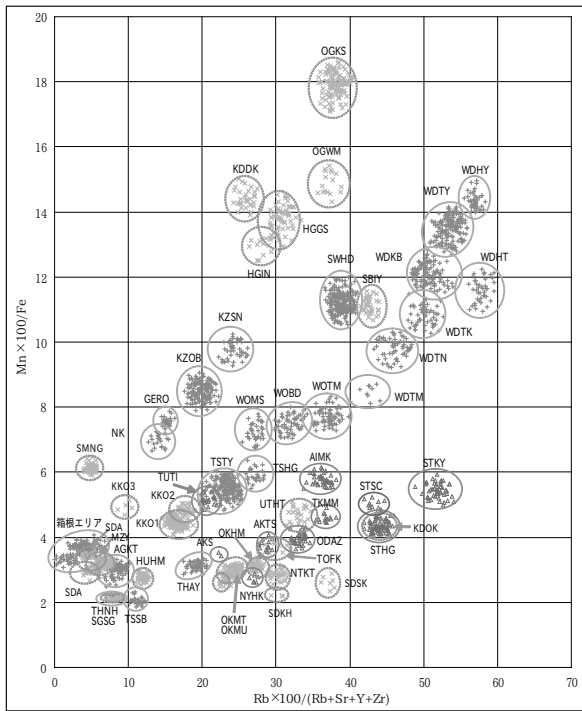


第49図 和田の黒曜石の蛍光X線スペクトル例

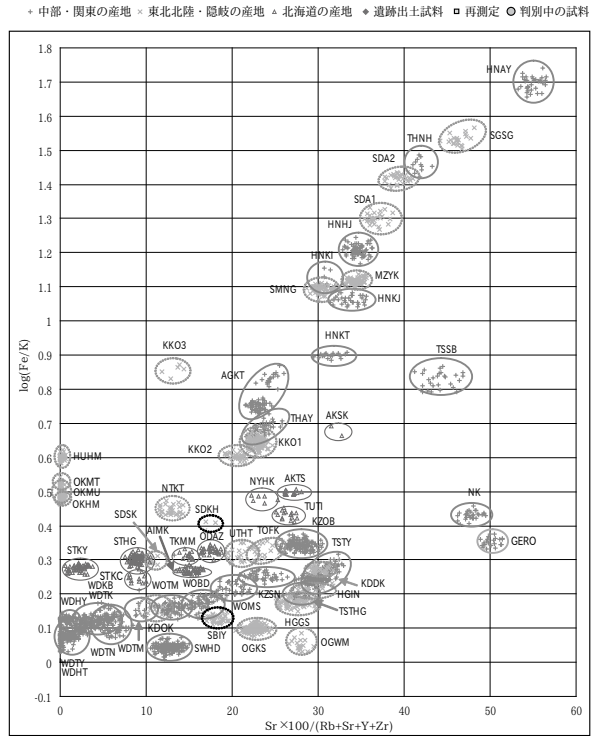
原産地の黒曜石と比較することがよく行われている。しかしながら、今回得られた値を判別図上にプロットすると、従来知られている我が国の黒曜石の領域から大きく離れている位置になる。

3) 考 察

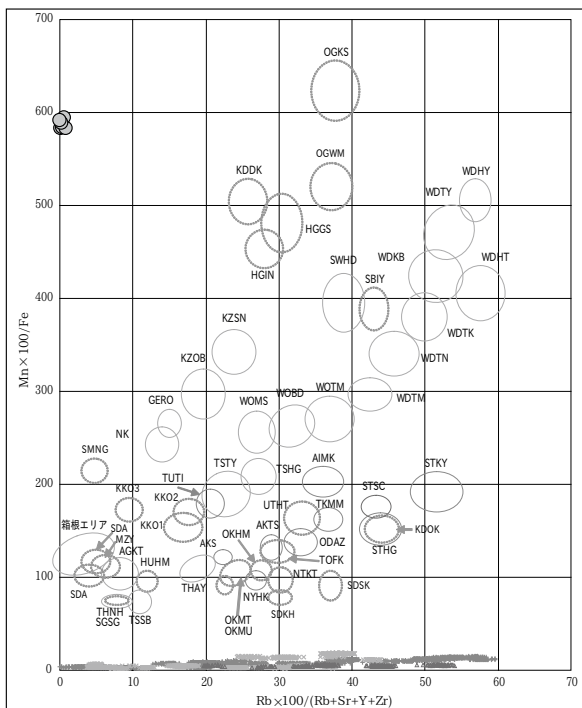
和田の黒曜石は我が国の黒曜石の中でも、もっとも Mn/Fe 比が大きな部類に入るが、今回はそれと比較しても桁違いにその値が大きい(第52図および第53図)。また、SiやCaも通常の黒曜石とは異なる傾向になる。したがって、今回の試料については、黒曜石ではないと考えられる。



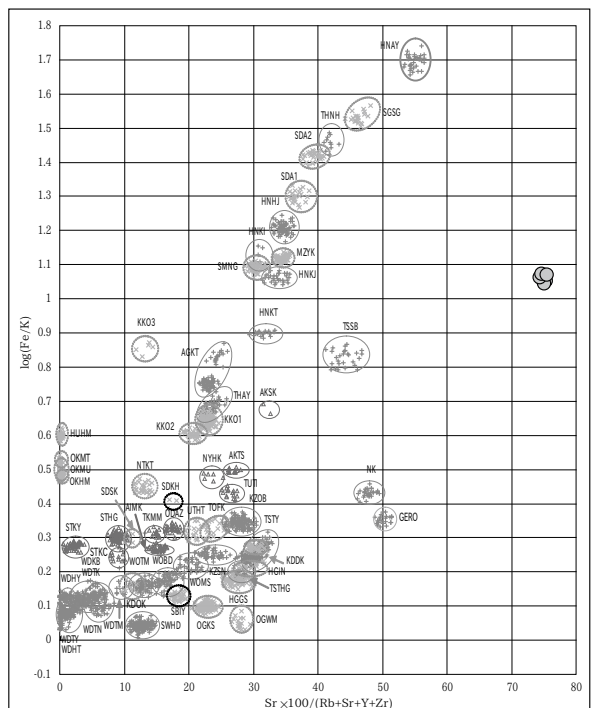
第50図 通常の判別図1



第51図 通常の判別図2



第52図 黒曜石のプロット領域と大沢谷内遺跡試料の位置



第53図 黒曜石の領域と大沢谷内遺跡試料の位置

第2節 上層遺跡（飛鳥時代・古代・中世）における自然科学分析

A 植物珪酸体分析

原理については第1節A参照。

1) 試料

分析試料は、基本土層（1区3K-1Aグリッド地点Ⅲ・Ⅳ層）、4区南側埋没谷セクションの包含層Ⅳb層と谷底部の有機物含有層およびSX1378から採取された計5点である。試料採取層位を分析結果図に示す。

2) 分析方法

第1節A参照。

3) 分析結果

①分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第19表および第54～56図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕イネ

〔イネ科－タケ亜科〕チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

〔イネ科－その他〕表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕その他

②植物珪酸体の検出状況

基本土層（1区北側地点）Ⅲ層（試料1）から

イネが検出されたが、密度は1,300個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

またⅢ・Ⅳ層ではチマキザサ節型が優勢であり、ミヤコザサ節型や樹木（その他）なども認められた。

谷セクション 下位の谷底部層では、チマキザサ節型が比較的多く検出され、ミヤコザサ節型なども認められた。上位のⅣb層では、チマキザサ節型が減少し、イネおよび樹木（その他）が出現している。イネの密度は700個/gと低い値で、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/gを下回っている。おもな分類群の推定生産量によると、谷底部層ではチマキザサ節型が優勢となっている。

SX1378 SX1378では、チマキザサ節型が比較的多く検出され、ミヤコザサ節型なども認められた。おもな分類群の推定生産量によると、チマキザサ節型が優勢となっている。

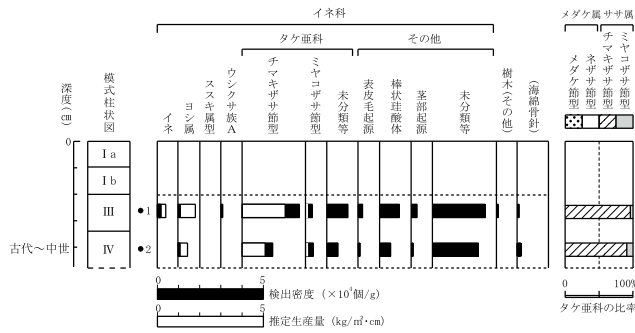
4) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

基本土層（1区北側地点）植物珪酸体（プラント・オパール）分析の結果、3K-1A地点のⅢ層ではイネが検出され、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が認められた。Ⅴa層からⅠc層にかけては周辺にササ属（おもにチマキザサ節）が多く分布していたと推定される。

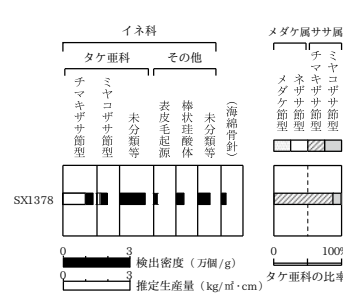
谷セクション 谷底部層の堆積当時は、ササ属（おもにチマキザサ節）などの笹類を主体としたイネ科植生であつ

第19表 大沢谷内遺跡(上層)における植物珪酸体分析結果

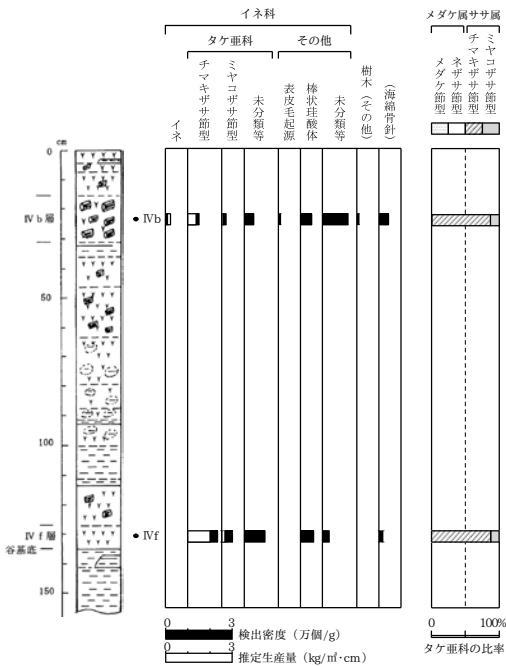
検出密度(単位: × 100 個 / g)		地点・試料		1区北側		4区南側谷		SX1378
分類群	学名	1(Ⅲ層)	2(Ⅳ層)	包含層Ⅳb	谷底部層			
イネ科	Gramineae (Grasses)							
イネ	<i>Oryza sativa</i>		13			7		
ヨシ属	<i>Phragmites</i>		13	7				
ウシクサ族A	Andropogoneae A type		6					
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)							
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	279	149	53	139	139		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	32	36	20	49	46		
マダケ属型	<i>Phyllostachys</i>							
未分類等	Others		97	50	40	90	112	
その他のイネ科	Others							
表皮毛起源	Husk hair origin		19	7	7		13	
棒状珪酸体	Rodshaped		91	50	47	56	33	
茎部起源	Stem origin		26	7				
未分類等	Others		247	214	113	28	53	
樹木起源	Arboreal							
その他	Others		6		7			
(海綿骨針)	Sponge		6	14	40	14	20	
植物珪酸体総数	Total		832	520	293	361	397	
おもな分類群の推定生産量(単位: kg / m ² · cm)								
イネ	<i>Oryza sativa</i>		0.38		0.20			
ヨシ属	<i>Phragmites</i>		0.82	0.45				
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	2.10	1.12	0.40	1.04	1.04		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	0.10	0.11	0.06	0.15	0.14		
タケ亜科の比率(%)								
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	96	91	87	88	88		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	4	9	13	12	12		
マダケ率	Medake ratio			0	0	0		



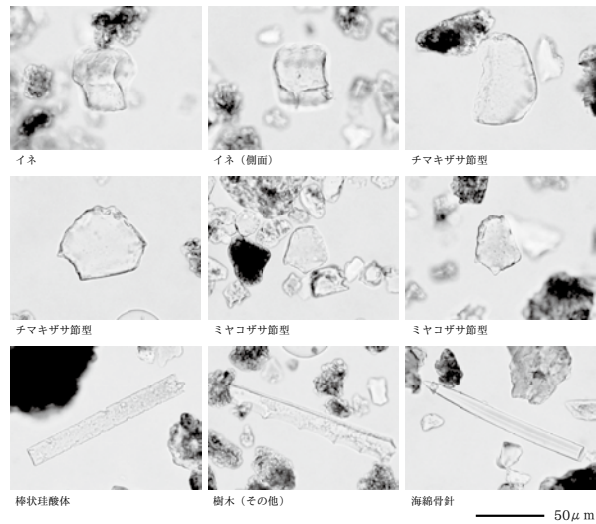
第54図 大沢谷内遺跡(上層)1区3K-1A地点における植物珪酸体分析結果



第56図 SX1378における植物珪酸体分析結果



第55図 大沢谷内遺跡(上層)南部谷セクションにおける植物珪酸体分析結果



第57図 植物珪酸体(プラント・オパール)顕微鏡写真

たとえられる。花粉分析では森林に覆われたような状況が推定されていることから、これらの笹類は林床植生として繁茂していた可能性が考えられる。

ササ属のうちチマキザサ節やチシマザサ節は日本海側の寒冷地などに広く分布しており積雪に対する適応性が高いが、ミヤコザサ節は太平洋側の積雪の少ない比較的乾燥したところに分布している〔室井1960、鈴木1996〕。ここでは前者が優勢であることから、当時は積雪(降水量)が比較的多かった可能性が考えられる。

飛鳥～奈良時代とされるIV b層では、少量ながらイネが検出されることから、周辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。また、遺跡周辺には何らかの樹木が生育していたと推定される。

SX1378 古代とされるSX1378の埋土底部の堆積当時は、ササ属(おもにチマキザサ節)が生育するような比較的乾燥した環境であったと考えられる。

B 花粉分析

原理については第1節B参照。

1) 試料

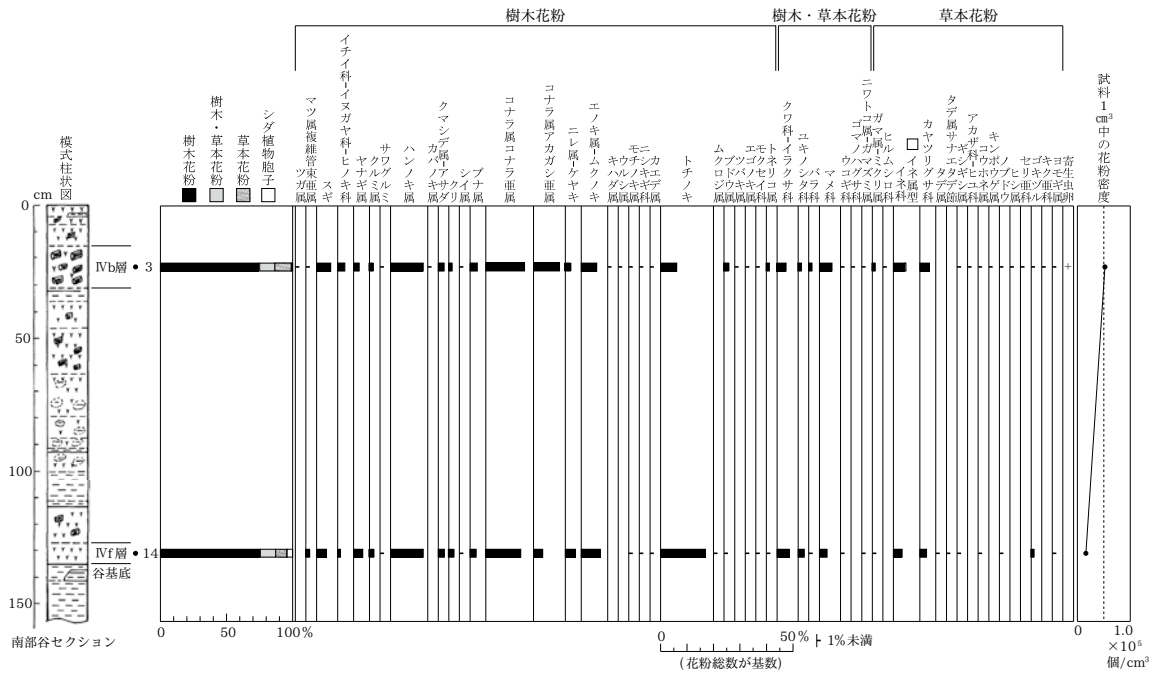
分析試料は、南側埋没谷セクションの包含層IV b層と谷底部の有機物含有層から採取された計2点である。試料採取か所を分析結果図に示す。これらは、植物珪酸体分析に用いられたものと同一試料である。

2) 分析方法

第1節B参照。

第20表 大沢谷内遺跡(上層)南部谷における花粉分析結果

学名	分類群 和名	南部谷	
		包含層IV b層	谷底部層
Arboreal pollen	樹木花粉		
<i>Tsuga</i>	ツガ属	2	
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	3	6
<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxylon</i>	マツ属単維管束亜属	1	
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	34	18
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	17	5
<i>Salix</i>	ヤナギ属	13	17
<i>Juglans</i>	クルミ属	8	7
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ	5	4
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	77	59
<i>Betula</i>	カバノキ属	2	
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ	14	11
<i>Castanea crenata</i>	クリ	7	8
<i>Castanopsis</i>	シイ属	1	4
<i>Fagus</i>	ブナ属	17	11
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	91	63
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	61	17
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ	11	18
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ	37	34
<i>Phellodendron</i>	キハダ属	1	
<i>Rhus</i>	ウルシ属	1	
<i>Ilex</i>	モチノキ属	4	2
Celastraceae	ニシキギ科	5	1
<i>Acer</i>	カエデ属	1	1
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ	38	81
<i>Sapindus</i>	ムクロジ属		4
<i>Vitis</i>	ブドウ属	10	2
<i>Camellia</i>	ツバキ属	2	
<i>Styrax</i>	エゴノキ属	2	2
Oleaceae	モクセイ科	2	2
<i>Fraxinus</i>	トネリコ属	6	2
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉		
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	21	22
Saxifragaceae	ユキノシタ科	7	11
Rosaceae	バラ科	7	4
Leguminosae	マメ科	30	14
Araliaceae	ウコギ科	2	2
Scrophulariaceae	ゴマノハグサ科	2	
<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニワトコ属-ガマズミ属	3	4
Nonarboreal pollen	草本花粉		
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属	6	1
Potamogetonaceae	ヒルムシロ科	5	
Gramineae	イネ科	26	16
<i>Oryza type</i>	イネ属型	3	
Cyperaceae	カヤツリグサ科	22	12
<i>Polygonum</i>	タデ属		1
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節		1
<i>Rumex</i>	ギンギン属	1	1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1	
<i>Nuphar</i>	コウホネ属	1	1
<i>Ranunculus</i>	キンボウゲ属	1	
<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ	1	1
<i>Trapa</i>	ヒシ属	1	
Apiodeae	セリ亜科	1	
<i>Actinostemma lobatum</i>	ゴキツル	5	5
Asterioideae	キク亜科	1	
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	4	4
Fern spore	シダ植物胞子		
Monolate type spore	単条溝胞子	6	22
Arboreal pollen	樹木花粉	473	379
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	72	57
Nonarboreal pollen	草本花粉	79	43
Total pollen	花粉総数	624	479
Pollen frequencies of 1cm ³	試料 1cm ³ 中の花粉密度	5.2	1.6
		× 10 ⁴	× 10 ⁴
Unknown pollen	未同定花粉	14	16
Fern spore	シダ植物胞子	6	22
Helminth eggs	寄生虫卵		
<i>Trichuris (trichiura)</i>	鞭虫卵	1	
Total	計	1	0
Helminth eggs frequencies of 1cm ³	試料 1cm ³ 中の寄生虫卵密度	1.2	0.0
		× 10	
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)



第58図 大沢谷内遺跡(上層)南部谷セクションにおける花粉ダイアグラム

3) 分析結果

①分類群

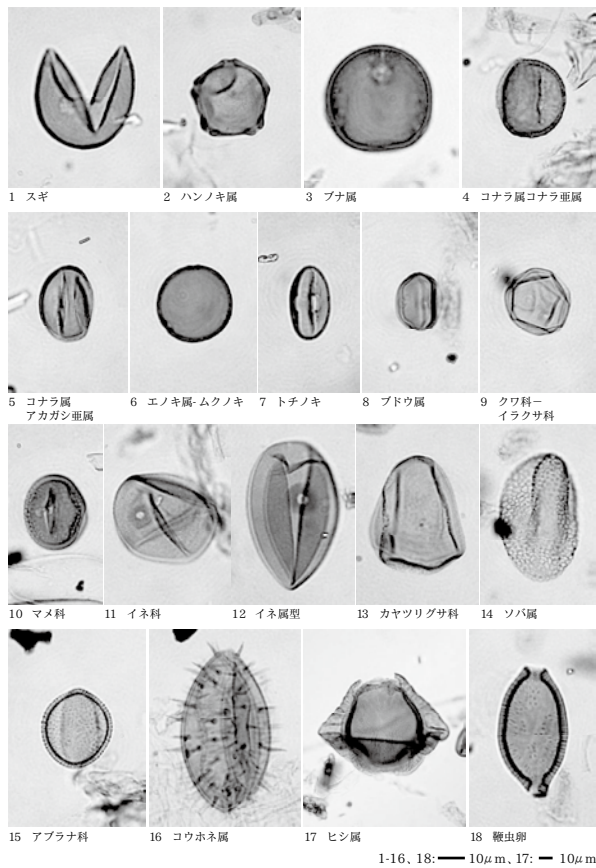
出現した分類群は、樹木花粉 30、樹木花粉と草本花粉を含むもの 7、草本花粉 17、シダ植物胞子 1 形態の計 55 である。また、寄生虫卵 1 分類群が検出された。分析結果を第 20 表に示し、花粉数が 100 個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕 ツガ属、マツ属複雑維管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、キハダ属、ウルシ属、モチノキ属、ニシキギ科、カエデ属、トチノキ、ムクロジ属、ブドウ属、ツバキ属、エゴノキ属、モクセイ科、トネリコ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕 クワ科-イラクサ科、ユキノシタ科、バラ科、マメ科、ウコギ科、ゴマノハグサ科、ニワトコ属-ガマズミ属

〔草本花粉〕 ガマ属-ミクリ属、ヒルムシロ科、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、タデ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、アカザ科-ヒユ科、コウホネ属、キンポウゲ属、ノブドウ、ヒシ属、セリ亜科、ゴキヅル、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕 単条溝胞子



第59図 大沢谷内遺跡(上層)南部谷の花粉・寄生虫卵

〔寄生虫卵〕 鞭虫 *Trichuris (trichiura)*

②花粉群集の特徴

下位の谷底部層では、樹木花粉の占める割合が約75%を占める。樹木花粉ではトチノキ、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属が優勢で、エノキ属—ムクノキ、コナラ属アカガシ亜属、スギ、ニレ属—ケヤキ、ヤナギ属などが伴われる。樹木・草本花粉ではクワ科—イラクサ科、マメ科、ユキノシタ科などが認められた。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、ゴキヅルなどが低率に認められた。

上位のIVb層では、谷底部層とおおむね同様の結果であるが、樹木花粉のトチノキが減少し、コナラ属アカガシ亜属が増加している。草本花粉ではイネ科（イネ属型を含む）、カヤツリグサ科が検出され、コウホネ属、ヒシ属なども認められた。また、鞭虫卵がわずかに認められた。

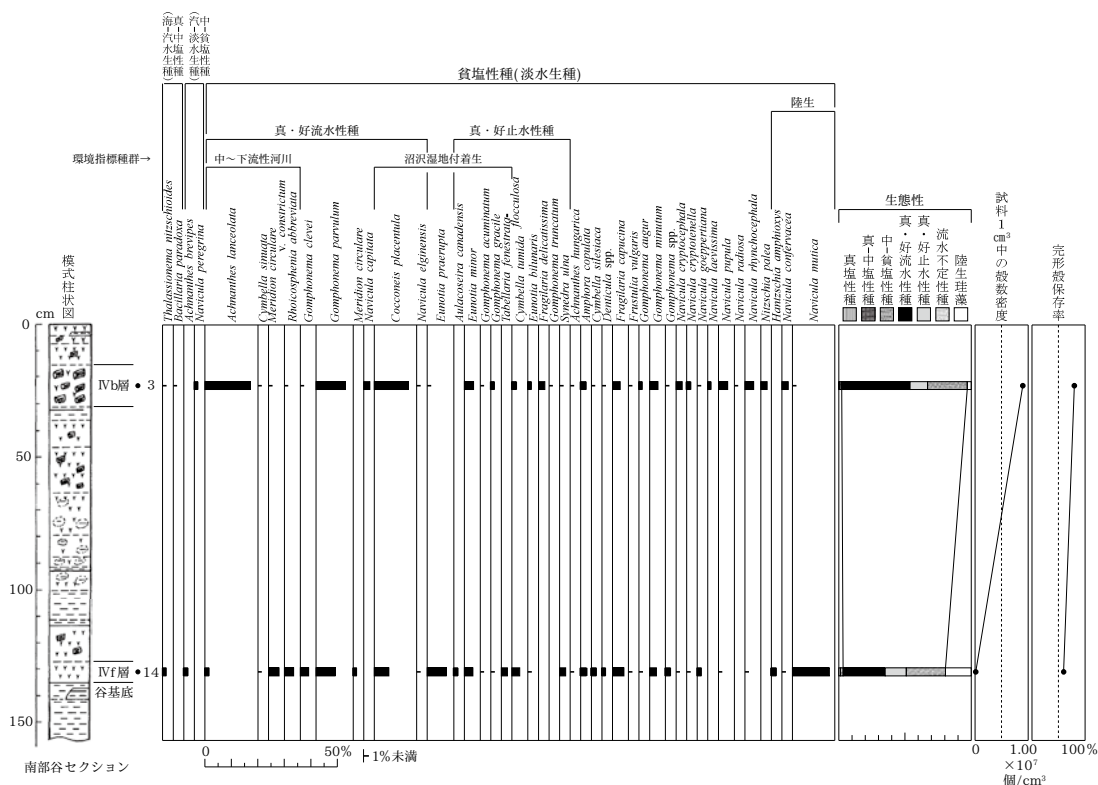
4) 花粉分析から推定される植生と環境

谷底部の有機物含有層の堆積当時は、周辺は森林で覆われるような状況であったと考えられ、谷の周辺にはトチノキ、ハンノキ属を主としてエノキ属—ムクノキ、スギ、ニレ属—ケヤキ、ヤナギ属なども生育する湿地林や河辺林が分布し、遺跡周辺にはコナラ属コナラ亜属などの落葉広葉樹林が分布していたと推定される。草本類は少なく、林縁などにクワ科—イラクサ科、マメ科、ユキノシタ科、イネ科、カヤツリグサ科、ゴキヅルなどが生育していたと考えられる。

飛鳥～奈良時代とされるIVb層の堆積当時も、周辺は森林が優勢な環境であったと推定されるが、イネ属型が検出され、コウホネ属、ヒシ属の浮葉植物も認められることから、当時は周辺で水田稲作が行われていた可能性が考えられる。また、少量ながら寄生虫卵（鞭虫卵）が検出されることから、近隣での居住や人為干渉が示唆される。

C 珪藻分析

原理については第1節C参照。



第60図 大沢谷内遺跡(上層)南部谷セクションにおける主要珪藻ダイアグラム

第21表 大沢谷内遺跡(上層)南部谷における珪藻分析結果

分類群	南部谷		分類群	南部谷	
	包含層IV b層	谷底部層		包含層IV b層	谷底部層
貧塩性種(淡水生種)			<i>Navicula cuspidata</i>	3	
<i>Achnanthes exigua</i>	3		<i>Navicula elginensis</i>	5	1
<i>Achnanthes hungarica</i>	5	2	<i>Navicula gallica</i>	1	3
<i>Achnanthes inflata</i>	2	1	<i>Navicula goeppertiana</i>	2	5
<i>Achnanthes lanceolata</i>	113	5	<i>Navicula kotschyi</i>	1	2
<i>Actinella brasiliensis</i>	2		<i>Navicula laevis</i>	7	
<i>Amphora copulata</i>	12	7	<i>Navicula mutica</i>	2	48
<i>Amphora montana</i>	2	3	<i>Navicula pupula</i>	23	2
<i>Aulacoseira ambigua</i>		2	<i>Navicula radiosa</i>	5	
<i>Aulacoseira canadensis</i>		5	<i>Navicula rhynchocephala</i>	22	1
<i>Caloneis silicula</i>	1		<i>Navicula spp.</i>	3	
<i>Cocconeis placentula</i>	85	19	<i>Navicula trivialis</i>	1	
<i>Cymbella cistula</i>	2		<i>Neidium ampliatum</i>	1	
<i>Cymbella naviculiformis</i>	1	1	<i>Nitzschia amphibia</i>	3	
<i>Cymbella silesiaca</i>	2	6	<i>Nitzschia debilis</i>	2	
<i>Cymbella sinuata</i>	4	3	<i>Nitzschia palea</i>	16	
<i>Cymbella tumida</i>	10	10	<i>Nitzschia spp.</i>	1	
<i>Cymbella turgidula</i>	2	3	<i>Nitzschia vermicularis</i>	2	
<i>Denticula spp.</i>	6	4	<i>Pinnularia acrosphaeria</i>	1	
<i>Diatoma mesodon</i>		2	<i>Pinnularia gibba</i>	2	
<i>Diploneis elliptica</i>	2	3	<i>Pinnularia interrupta</i>		1
<i>Diploneis finnica</i>		1	<i>Pinnularia microstauron</i>	1	1
<i>Epithemia adnata</i>	1	1	<i>Pinnularia schroederii</i>		3
<i>Eunotia bilunaris</i>	8	2	<i>Pinnularia spp.</i>	1	
<i>Eunotia minor</i>	23	11	<i>Pinnularia stomatophora</i>	1	
<i>Eunotia praerupta</i>	1	25	<i>Pinnularia viridis</i>	1	3
<i>Eunotia sudetica</i>		2	<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>	3	12
<i>Eunotia veneris</i>		2	<i>Rhopalodia gibba</i>	4	1
<i>Fragilaria brevistriata</i>	2	3	<i>Stauroneis anceps</i>	1	
<i>Fragilaria capucina</i>	19	15	<i>Stauroneis phoenicenteron</i>	2	
<i>Fragilaria delicatissima</i>	16		<i>Stauroneis smithii</i>	1	2
<i>Fragilaria pinnata</i>		1	<i>Surirella tenera</i>	1	
<i>Frustulia vulgaris</i>	4	2	<i>Synedra ulna</i>	2	8
<i>Gomphonema acuminatum</i>	5	1	<i>Tabellaria fenestrata-flocculosa</i>		8
<i>Gomphonema angustatum</i>	4	1	中一貧塩性種(汽-淡水生種)		
<i>Gomphonema angustum</i>	1	1	<i>Achnanthes brevipes</i>		5
<i>Gomphonema augur</i>	7	1	<i>Navicula peregrina</i>	8	
<i>Gomphonema clevei</i>	1	11	<i>Rhopalodia gibberula</i>	1	
<i>Gomphonema globiferum</i>	1		中塩性種(汽水生種)		
<i>Gomphonema gracile</i>	8	2	<i>Caloneis permagna</i>	1	
<i>Gomphonema minutum</i>	21	9	<i>Nitzschia levidensis v. salinarum</i>	1	
<i>Gomphonema parvulum</i>	74	25	<i>Nitzschia littoralis</i>	1	
<i>Gomphonema spp.</i>	1	6	真一中塩性種(海-汽水生種)		
<i>Gomphonema truncatum</i>	6		<i>Bacillaria paradoxa</i>	4	
<i>Gyrosigma spp.</i>	1	3	<i>Cyclotella striata-stylorum</i>	1	
<i>Hantzschia amphioxys</i>		6	真塩性種(海水生種)		
<i>Melosira varians</i>	1		<i>Actinoptychus undulatus</i>	1	2
<i>Meridion circulare</i>		4	<i>Coscinodiscus marginatus</i>	1	1
<i>Meridion circulare v. constrictum</i>	5	14	<i>Thalassionema nitzschioides</i>	1	4
<i>Navicula americana</i>	2	1	合計	664	346
<i>Navicula capitata</i>	15		未同定	12	16
<i>Navicula clementis</i>	1		破片	166	257
<i>Navicula confervacea</i>	16	3	試料 1 cm ³ 中の殻数密度	9.0	1.1
<i>Navicula contenta</i>	1	2		× 10 ⁶	× 10 ⁵
<i>Navicula cryptocephala</i>	15	1	完形殻保存率(%)	80.3	58.5
<i>Navicula cryptotenella</i>	9	1			

1) 試料

分析試料は、南側埋没谷セクションの包含層IV b層と谷底部の有機物含有層から採取された計2点である。試料採取か所を分析結果図に示す。これらは、植物珪酸体分析に用いられたものと同一試料である。

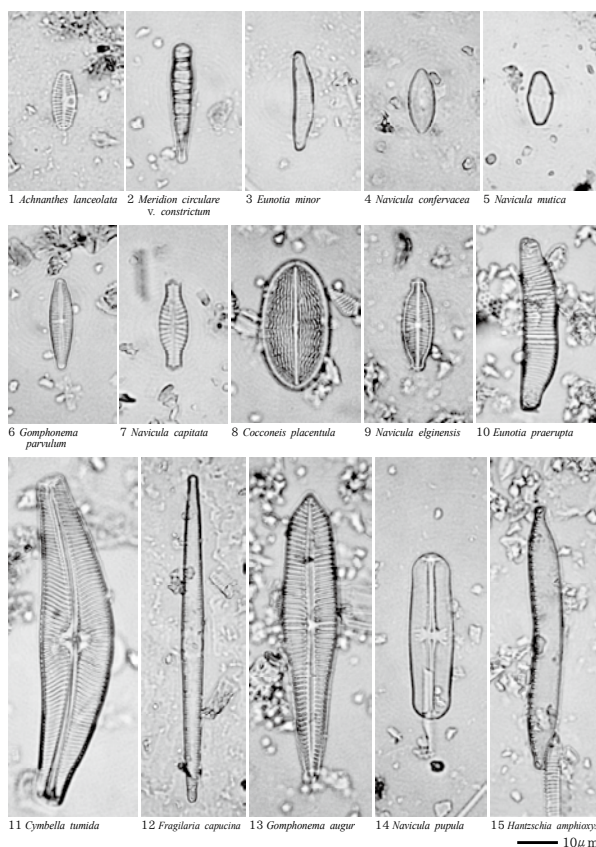
2) 分析方法

第1節C参照。

3) 分析結果

①分類群

試料から出現した珪藻は、真塩性種(海水生種)3分類群、真一中塩性種(海-汽水生種)2分類群、中一貧塩性種(汽-淡水生種)3分類群、貧塩性種(淡水生種)89分類群である。破片の計数は基本的に中心域を有するものは1個、中心域がない種については両端2個につき1個と数えた。分析結果を第21表に示し、珪藻総数を基数とする百分率を算定したダイアグラムを第60図に示す。珪藻ダイアグラムにおける珪藻の生態性についてはLowe(1974)



第61図 大沢谷内遺跡(上層)南部谷の珪藻

capucina, *Gomphonema minutum*, *Amphora copulata* などが出現する。真・好止水性種では沼沢湿地付着生環境指標種群の *Eunotia minor*, *Tabellaria fenestrata-floculosa*, 好止水性種の *Cymbella tumida*, *Synedra ulna* などが低率に出現する。中-貧塩性種（汽-淡水性種）で海水泥質干潟環境指標種群の *Achnanthes brevipes*, 真塩性種（海水性種）で外洋、内湾環境指標種群の *Thalassionema nitzschioides* がわずかに出現するなど多種多様に出現する。

IV b 層では珪藻密度が増加し、真・好流水性種の占める割合が高くなる。真・好流水性種で中～下流性河川環境指標種群の *Achnanthes lanceolata*, 沼沢湿地付着生環境指標種群の *Cocconeis placentula*, 好流水性種の *Gomphonema parvulum* が優占し陸生珪藻が減少する。

③珪藻分析から推定される堆積環境

谷底部の有機物含有層堆積当時は、流水の影響のある沼沢湿地、水草の生育する不安定な滞水域、湿潤な陸域など、多様な環境が共存もしくは繰り返されていたと推定される。飛鳥～奈良時代とされるIV b 層では、好流水性種が増加していることから、何らかの原因で河川による流水の影響が増加したと考えられる。

D SX1378 の分析

糞便の堆積物は、寄生虫卵密度、花粉群集組成、種実群集組成において特異性を示し、その特徴からトイレ遺構を識別することができる。また、その遺体群集や食物残渣から食物を直接的に探ることも可能である。

1) 試料

分析試料は、SX1378 から採取された1点である。

2) 寄生虫卵分析

①原理

人や動物などに寄生する寄生虫の卵殻は、花粉と同様の条件下で堆積物中に残存しており、人の居住域では寄

や渡辺〔2005〕、陸生珪藻については小杉〔1986〕、環境指標種群の海水性種から汽水性種については小杉〔1988〕、淡水性種については安藤〔1990〕の記載を参照した。主要な分類群については顕微鏡写真を示す。

②珪藻群集の特徴

谷底部層では、珪藻密度が低く、ほとんどが貧塩性種（淡水性種）で占められ、中-貧塩性種（汽-淡水性種）や真-中塩性種（海水性種）もわずかに認められた。貧塩性種（淡水性種）では、真・好流水性種と流水不定性種がほぼ同じ割合を占め、陸生珪藻、真・好止水性種と続く。特に優占種はないが、陸生珪藻では *Navicula mutica* がやや多い。真・好流水性種では好流水性種の *Gomphonema parvulum*, 沼沢湿地付着生環境指標種群の *Cocconeis placentula*, 中～下流性河川環境指標種群の *Meridion circulare v. constrictum*, *Rhoicosphenia abbreviata*, 好流水性種の *Gomphonema clevei* などが出現する。流水不定性種では沼沢湿地付着生環境指標種群の *Eunotia praerupta* や *Fragilaria*

生虫卵による汚染度が高くなる。寄生虫卵分析を用いて、トイレ遺構の確認や人糞施肥の有無の確認が可能であり、寄生虫卵の種類から、摂取された食物の種類や、そこに生息していた動物種を推定することも可能である。

②分析 方法

寄生虫卵の分離抽出は、微化石分析法を基本にして、以下の手順で行った。

1. サンプルを採量。
2. 脱イオン水を加えて攪拌。
3. 篩別および沈澱法により大きな砂粒や木片等を除去。
4. 25%フッ化水素酸を加えて30分静置(2~3度混和)。
5. 遠心分離(1500rpm、2分間)による水洗の後にサンプルを2分割。
6. 片方にアセトリシス処理を施す。
7. 両方のサンプルを染色後、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成。
8. 検鏡・計数。

③分析 結果

分析の結果、寄生虫卵および明らかな消化残渣は検出されなかった。

3) 花粉 分析

①分析 方法

第1節B参照。

②分析 結果

1. 分類群

出現した分類群は、樹木花粉17、樹木花粉と草本花粉を含むもの3、草本花粉13、シダ植物孢子2形態の計35である。分析結果を第22表に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。主要な分類群の顕微鏡写真については本節B参照。以下に出現した分類群を記載する。

【樹木花粉】 トウヒ属、マツ属複雑維管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、クマシデ属-アサダ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、アカメガシワ、トチノキ、ハイノキ属

【樹木花粉と草本花粉を含むもの】 クワ科-イラクサ科、バラ科、マメ科

【草本花粉】 イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、ツリフネソウ属、オオバコ属、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

【シダ植物孢子】 単条溝孢子、三条溝孢子

2. 花粉群集の特徴

SX1378の試料では、草本花粉の占める割合が樹木花粉よりも多い。草本花粉ではヨモギ属が優勢で、イネ科(イネ属型を含む)、アカザ科-ヒユ科などが伴われる。樹木花粉ではトチノキが優勢で、ハンノキ属、スギ、コナラ属コナラ亜属、ブナ属などが伴われる。樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科も比較的多い。

4) 種実 同定

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

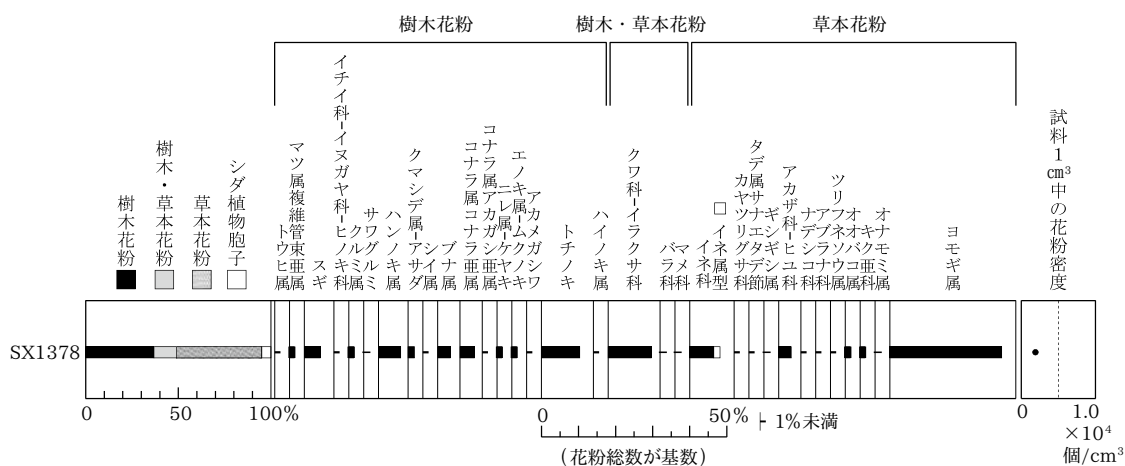
①分析 方法

以下の手順で、種実の抽出と同定を行った。

1. 試料 200cm³ に水を加えて泥化。
2. 攪拌した後、0.25mm の篩で水洗選別。

第22表 SX1378 における寄生虫卵・花粉分析結果

学名	分類群	和名	SX1378
Helminth eggs		寄生虫卵	(-)
Digestion rimeins		明らかな消化残渣	(-)
Arboreal pollen		樹木花粉	
<i>Picea</i>		トウヒ属	1
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>		マツ属複雑維管束亜属	3
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	10
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	2
<i>Juglans</i>		クルミ属	3
<i>Pterocarya rhoifolia</i>		サワグルミ	1
<i>Alnus</i>		ハンノキ属	14
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ	4
<i>Castanopsis</i>		シイ属	1
<i>Fagus</i>		ブナ属	8
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	9
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>		コナラ属アカガシ亜属	2
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属-ケヤキ	3
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>		エノキ属-ムクノキ	3
<i>Mallotus japonicus</i>		アカメガシワ	1
<i>Aesculus turbinata</i>		トチノキ	24
<i>Symplocos</i>		ハイノキ属	1
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	
Moraceae-Urticaceae		クワ科-イラクサ科	27
Rosaceae		バラ科	1
Leguminosae		マメ科	2
Nonarboreal pollen		草本花粉	
Gramineae		イネ科	15
<i>Oryza type</i>		イネ属型	4
Cyperaceae		カヤツリグサ科	1
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節	2
<i>Rumex</i>		ギンギン属	2
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科-ヒユ科	8
Caryophyllaceae		ナデシコ科	1
Cruciferae		アブラナ科	1
<i>Impatiens</i>		ツリフネソウ属	1
<i>Plantago</i>		オオバコ属	3
Asteroidae		キク亜科	3
<i>Xanthium</i>		オナモミ属	1
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	70
Fern spore		シダ植物胞子	
Monolate type spore		単条溝胞子	11
Trilate type spore		三条溝胞子	1
Arboreal pollen		樹木花粉	90
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉	30
Nonarboreal pollen		草本花粉	112
Total pollen		花粉総数	232
Pollen frequencies of 1cm ³		試料 1cm ³ 中の花粉密度	1.9 × 10 ³
Unknown pollen		未同定花粉	6
Fern spore		シダ植物胞子	12

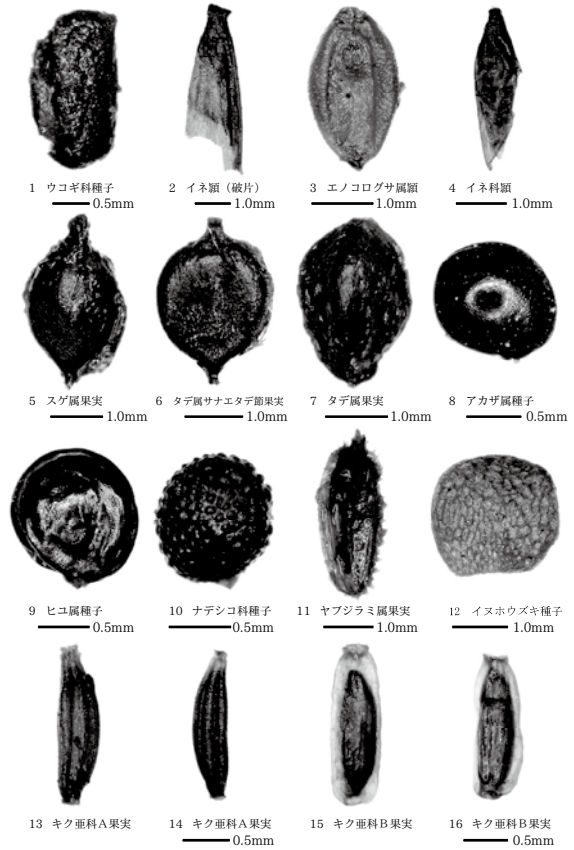


第62図 大沢谷内遺跡(上層) SX1378 における花粉ダイアグラム

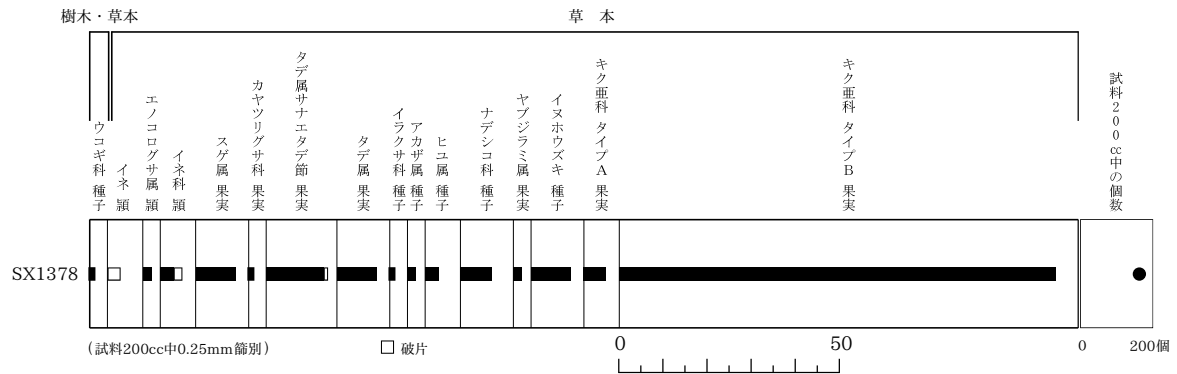
第 23 表 SX1378 における種実同定結果

分類群		部位	SX1378
学名	和名		
Arbor・Herb	樹木・草本		
Araliaceae	ウコギ科	種子	1
Herb	草本		
<i>Oryza sativa</i> L.	イネ	穎 (破片)	3
<i>Setaria</i> Beauv.	エノコログサ属	穎	2
Gramineae	イネ科	穎	3
		(破片)	2
<i>Carex</i>	スゲ属	果実	9
Cyperaceae	カヤツリグサ科	果実	1
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	果実	13
		(破片)	1
<i>Polygonum</i>	タデ属	果実	9
Urticaceae	イラクサ科	種子	1
<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	2
<i>Amaranthus</i>	ヒユ属	種子	3
Caryophyllaceae	ナデシコ科	種子	7
<i>Torilis Adans.</i>	ヤブジラミ属	果実	2
<i>Solanum nigrum</i> L.	イヌホウズキ	種子	9
Asteroidae A	キク亜科 A	果実	5
Asteroidae B	キク亜科 B	果実	99
Total	合計		172
Unknown seeds	不明種実		3

(200cm³ 中 0.25mm 篩)



第 63 図 SX1378 の種実



第 64 図 大沢谷内遺跡(上層)SX1378における種実ダイアグラム

3. 双眼実体顕微鏡下で検鏡・計数。

同定は種実の形態的特徴および現生標本との対比で行い、結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

②分析結果

1. 分類群

樹木・草本 1、草本 19 の計 20 が同定された。学名、和名および粒数を第 23 表に示し、200cm³ 中の種実数を第 64 図に示す。主要な分類群を顕微鏡写真に示す (同定根拠となる形態的特徴：省略)。

2. 種実群集の特徴

SX1378 では、草本のキク亜科が優勢で、タデ属サナエタデ節、スゲ属、タデ属、イヌホウズキ、ナデシコ科、イネ科、イネ、エノコログサ属、アカザ属、ヤブジラミ属、カヤツリグサ科、イラクサ科などが伴われる。また、樹木・草本のウコギ科も認められた。

5) 考 察

①トイレ遺構の可能性について

分析の結果、寄生虫卵および明らかな消化残渣は検出されず、花粉分析、種実同定においてもトイレ遺構に関連する食性を示す遺体群は検出されなかった。したがって、SX1378の試料に糞便は含まれていないと考えられ、SX1378がトイレ遺構である可能性は低いとみなされる。

②推定される植生と環境

SX1378の花粉群集では、草本花粉のヨモギ属が優占し、アカザ科-ヒユ科、クワ科-イラクサ科（カラムシやカナムグラなど）、イネ属型を伴うイネ科が出現し、いずれも人里植物ないし耕地雑草の性格を有する。種実ではキク亜科が最も多く、タデ属、イヌホウズキ、ナデシコ科などの人里植物ないし耕地雑草、タデ属サナエタデ節、スゲ属などの水湿地植物が検出される。

これらの結果から、SX1378の覆土の堆積当時は、タデ属サナエタデ節、スゲ属などが生育する湿った環境であり、周囲では水田稲作が行われていた可能性が考えられる。また、周辺の比較的乾燥したところにはタデ属、イヌホウズキ、ナデシコ科、アカザ科-ヒユ科、クワ科-イラクサ科などが分布していたと考えられる。周辺地域には、トチノキ、ハンノキ属などの湿潤な環境を好む樹木が生育する湿地林や河辺林をはじめ、コナラ属コナラ亜属、ブナ属などの落葉広葉樹林、およびスギなどが分布していたと推定される。

E 樹 種 同 定

原理については第1節D参照。

1) 試 料

試料は、大沢谷内遺跡（上層）で出土した133点の木材（木製品を含む）である。試料の詳細を第24表に示す。

2) 分析 方法

試料は、カミソリ等を用いて採取された切片および細片について、横断面（木口と同義）、放射断面（柁目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面を、生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

3) 分析 結果

第24表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す（同定根拠となった特徴：省略）。

4) 所 見

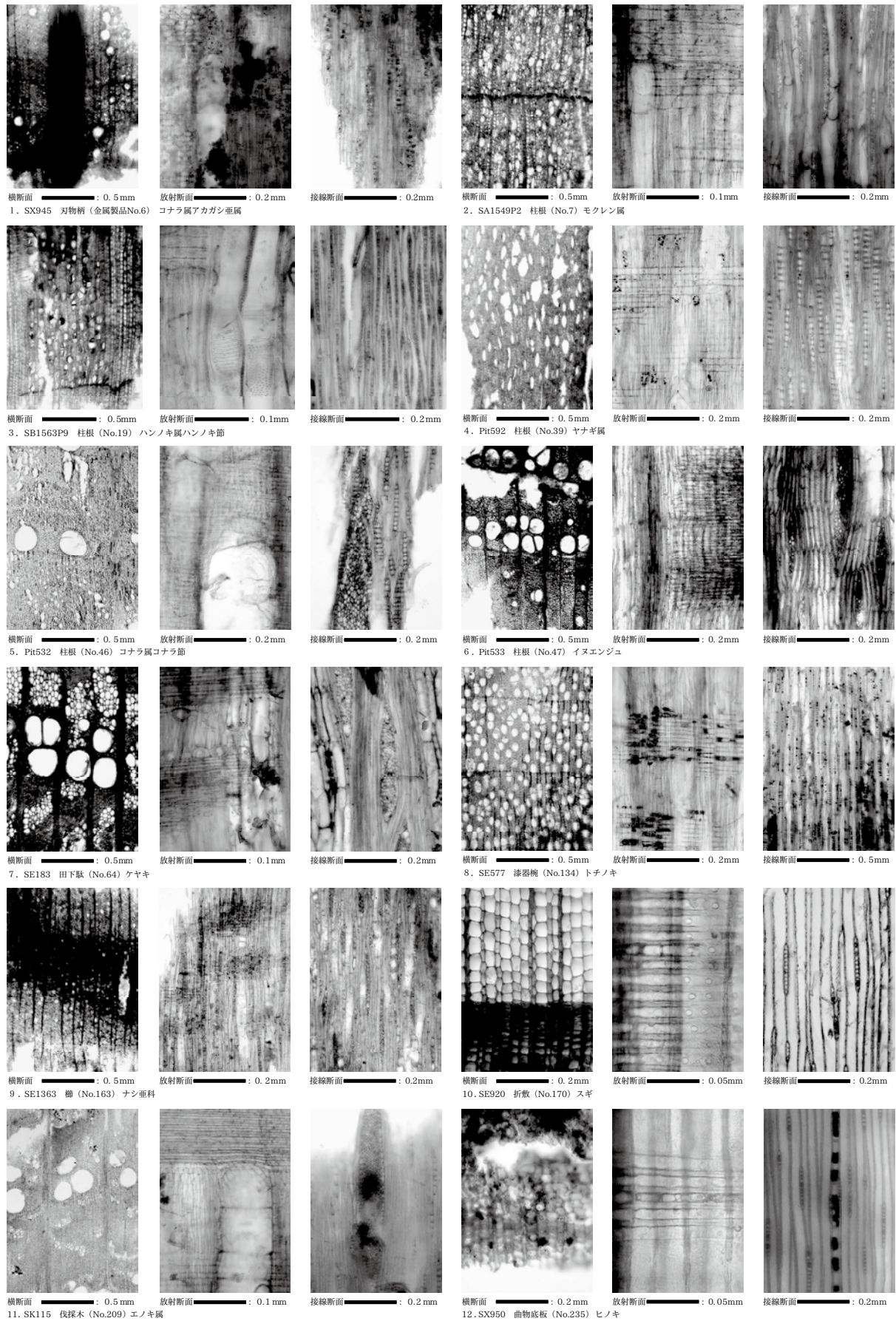
樹種同定の結果、スギ56点、スギ-ヒノキ科11点、ハンノキ属ハンノキ節9点、クリ11点、クリーコナラ属コナラ節5点、ヒノキ4点、ヤナギ属3点、ケヤキ3点、コナラ属コナラ節2点、トチノキ2点、クスノキ科2点、ブナ科2点、モクレン属2点、イヌガヤ1点、エノキ属1点、クルミ属1点、コナラ属クヌギ節1点、コナラ属アカガシ亜属1点、ナシ亜科1点、マツ属複維管束亜属1点、イヌエンジュ1点、ケンボナシ属1点、散孔材3点、針葉樹1点、広葉樹8点が同定された。

最も多いスギは、温帯を中心に広く分布する針葉樹であり、日本海側の多雪地帯などでは純林を形成する。イヌガヤ、マツ属複維管束亜属、スギ、ヒノキ、ヒノキ科は温帯を中心に広く分布する針葉樹であり、ヒノキは温帯中部に多く、マツ属複維管束亜属には土壌条件の悪い岩山に生育し二次林を形成するアカマツと砂地の海岸林を形成するクロマツとがある。イヌガヤは森林下の谷側などに生育し適潤性の土壌を好む。ハンノキ属ハンノキ節、ヤナギ属、モクレン属、エノキ属、クルミ属、クリ、コナラ属コナラ節、コナラ属クヌギ節、コナラ属アカガシ亜属、ケヤキ、クスノキ科、ナシ亜科、イヌエンジュ、トチノキ、ケンボナシ属は温帯を中心に広く分布する広葉樹である。このうちハンノキ属ハンノキ節は、沢沿いなどの湿原や水湿のある低地に生育する落葉の低木から高木である。ヤナギ属は湿地や河辺などの水辺に生育する落葉高木から低木である。モクレン属は、谷合いまたはこれに続く斜面等に分布する落葉高木である。エノキ属は谷あい、斜面、河川沿いや平坦地に生育する落

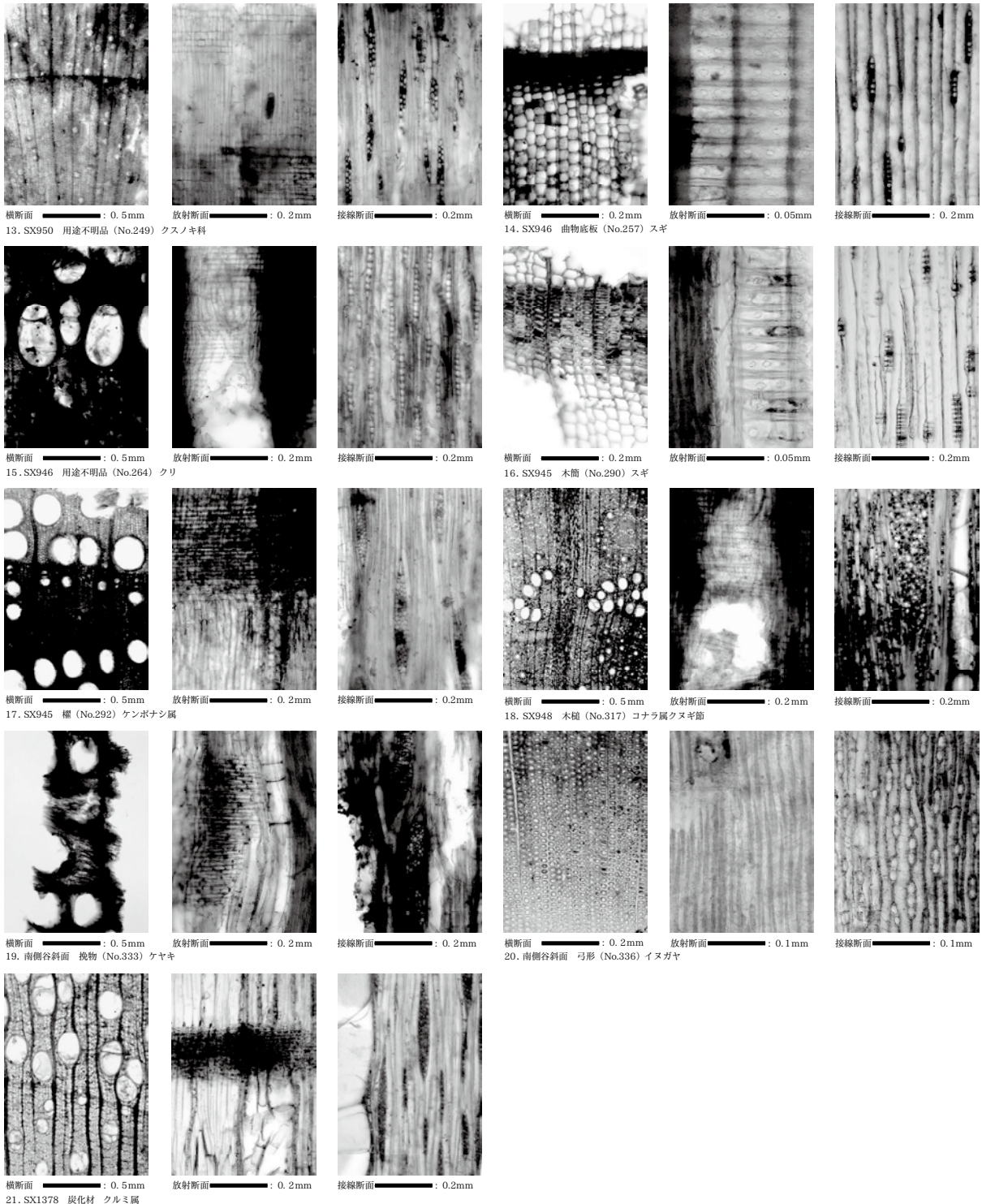
第24表 大沢谷内遺跡(上層)における樹種同定結果(木製品・炭化材)

試料 (報告No.)	出土位置	器種	結果(学名/和名)	試料 (報告No.)	出土位置	器種	結果(学名/和名)	
1	SA1544-P3	柱根	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.- <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>	163	SE1363	櫛	Subfam. Maloideae ナシ亜科	
3	SA1547-P2	柱根	<i>Salix</i>	170	SE0920	折敷	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
5	SA1548-P2	柱根	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	171	SE0920	用途不明品	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.- <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i> クリーコナラ属コナラ節	
6	SA1549-P1	柱根	<i>Magnolia</i>	192	SK0069	用途不明品	broad-leaved tree 広葉樹	
7	SA1549-P2	柱根	<i>Magnolia</i>	199	SK0555	用途不明品	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don-Cupressaceae スギーヒノキ科	
9	SA1548-P2	柱根	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	200	SK1115	部材	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
11	SB1562-P3	柱根	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	205	SK1115	柱根	diffuse-porous wood 散孔材	
12	SB1563-P2	柱根	<i>Alnus</i> sect. <i>Gymnothyrus</i>	209	SK1115	伐採木	<i>Celtis</i> エノキ属	
13	SB1563-P3	柱根	<i>Alnus</i> sect. <i>Gymnothyrus</i>	210	SK1115	伐採木	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.- <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i> クリーコナラ属コナラ節	
14	SB1563-P4	柱根	<i>Alnus</i> sect. <i>Gymnothyrus</i>	214	SX0227	椀(漆器)	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.- <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i> クリーコナラ属コナラ節	
15	SB1563-P5	柱根	<i>Alnus</i> sect. <i>Gymnothyrus</i>	221	SX1378	曲物(蓋)	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
16	SB1563-P6	柱根	<i>Alnus</i> sect. <i>Gymnothyrus</i>	232	SX0473	部材	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don-Cupressaceae スギーヒノキ科	
17	SB1563-P7	柱根	<i>Alnus</i> sect. <i>Gymnothyrus</i>	233	SX0950	剝物	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
18	SB1563-P8	柱根	<i>Alnus</i> sect. <i>Gymnothyrus</i>	234	SX0950	曲物(蓋)	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ	
19	SB1563-P9	柱根	<i>Alnus</i> sect. <i>Gymnothyrus</i>	235	SX0950	曲物(底板)	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ	
21	SB1564-P14	楚盤	Fagaceae	236	SX0950	楔	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
22	SB1566-P8	箸状	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	240	SX0950	部材	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
27	SB1570-P1	柱根	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	245	SX0950	部材	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
28	SB1570-P2	柱根	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	248	SX0950	用途不明品	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don-Cupressaceae スギーヒノキ科	
29	SB1570-P3	柱根	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	249	SX0950	用途不明品	Lauraceae クスノキ科	
30	SB1570-P4	柱根	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	252	SX0950	用途不明品	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i> マツ属複雑管束亜属	
31	SB1570-P6	柱根	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	253	SX0950	用途不明品	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
36	Pit0922	皿	broad-leaved tree	257	SX0946	曲物(底板)	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
38	Pit0590	楚盤	Fagaceae	258	SX0946	曲物(底板)	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
39	Pit0592	柱根	<i>Salix</i>	259	SX0946	曲物(底板)	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don-Cupressaceae スギーヒノキ科	
46	Pit0532	柱根	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>	261	SX0946	曲物(側板)	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
47	Pit0533	柱根	<i>Maackia amurensis</i> Rupr. et Maxim.	262	SX0946	刀形	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don-Cupressaceae スギーヒノキ科	
56	SE1518	箸状	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	263	SX0946	部材	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
60	SE0080	箱	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	264	SX0946	用途不明品		
62	SE0080	部材	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	265	SX0946	用途不明品	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.- <i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i> クリーコナラ属コナラ節	
63	SE0080	部材	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	268	SX0947	曲物(底板)	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
64	SE0183	田下駄	<i>Zelkova serrata</i> Makino	268	SX0947	曲物(側板)	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don-Cupressaceae スギーヒノキ科	
65	SE0183	田下駄	<i>Zelkova serrata</i> Makino	269	SX0947	曲物(側板)	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
66	SE0183	曲物 (井筒上段)	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	271	SX0947	部材	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
67	SE0183	曲物 (井筒上段)	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	273	SX0947	用途不明品	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don-Cupressaceae スギーヒノキ科	
70	SE0183	部材	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don-Cupressaceae	275	SX0947	用途不明品	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
77	SE0497	用途不明品	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	278	SX0947	用途不明品	broad-leaved tree 広葉樹	
81	SE0485	曲物(蓋)	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don-Cupressaceae	279	SX0951	籬形	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
82	SE0485	折敷	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	282	SX0951	部材	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
89	SE0105	箸状	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	284	SX0951	用途不明品	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
92	SE0105	部材	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	290	SX0945	木簡	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
99	SE0522	皿(漆器)	diffuse-porous wood	291	SX0945	櫛	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
100	SE0522	部材	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	292	SX0945	櫛	<i>Hovenia</i> ケンボナシ属	
102	SE0556	鍬	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>	293	SX0945	曲物(部材)	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ	
103	SE0556	椀(漆器)	diffuse-porous wood	294	SX0945	曲物(部材)	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl. ヒノキ	
104	SE0556	曲物(底板)	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	295	SX0945	曲物(底板)	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don-Cupressaceae スギーヒノキ科	
105	SE0556	曲物(側板)	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	296	SX0945	円板	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ	
108	SE0556	折敷	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don-Cupressaceae	297	SX0945	斎串	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don-Cupressaceae スギーヒノキ科	
123	SE0556	部材	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	298	SX0945	斎串	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
127	SE0556	柱根	<i>Salix</i>	305	SX0945	部材	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
128	SE0556	用途不明品	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don-Cupressaceae	308	SX0945	用途不明品	ring-porous wood 環孔材	
130	SE0556	用途不明品	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don-Cupressaceae	310	SX0945	用途不明品	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
134	SE0577	椀(漆器)	<i>Aesculus turbinata</i> Blume	313	SX0945	用途不明品	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
135	SE0577	皿(漆器)	conifer	316	SX0945	用途不明品	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
138	SE0917	蓋(漆器)	broad-leaved tree	317	SX0948	木槌	<i>Quercus</i> sect. <i>Aegilops</i> コナラ属クヌギ節	
139	SE0917	部材	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don-Cupressaceae	324	包含層	田下駄	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
142	SE0709	下駄	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	328	包含層	曲物(底板)	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don-Cupressaceae スギーヒノキ科	
143	SE0912	箸状	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	333	南側谷斜面	挽物	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ	
144	SE0882	椀(漆器)	<i>Aesculus turbinata</i> Blume	334	南側谷斜面	舟形	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don-Cupressaceae スギーヒノキ科	
145	SE0882	折敷	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	336	南側谷斜面	弓形	<i>Cephalotaxus harringtonia</i> K. Koch イヌガヤ	
146	SE0882	部材	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	337	南側谷斜面	用途不明品	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ	
150	SE1070	用途不明品	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	341	遺構外	部材	broad-leaved tree 広葉樹	
152	SE1363	鋤	broad-leaved tree	-	SB1563-P1	柱根	<i>Alnus</i> sect. <i>Gymnothyrus</i> ハンノキ属ハンノキ節	
153	SE1363	鋤	broad-leaved tree	金属製品	12	SE0987	刀子	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
154	SE1363	鋤	Lauraceae	金属製品	6	SX0945	刃物柄	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i> コナラ属アカガシ亜属
160	SE1363	剝舟	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc.	-	SX1378	炭化材	<i>Juglans</i> クルミ属	

第2節 上層遺跡（飛鳥時代・古代・中世）における自然科学分析



第65図 大沢谷内遺跡(上層)の木材1



第66図 大沢谷内遺跡(上層)の木材2

葉高木である。クルミ属は沢沿いなどの適潤地に生育する落葉高木である。クリは暖温带と冷温带の間域では、純林を形成することもあり、乾燥した台地や丘陵地を好む落葉高木で二次林要素でもある。

コナラ属コナラ節は日当たりの良い山野に生育する落葉高木であり、ミズナラなどの冷温带落葉広葉樹林の主要構成要素や暖温带性のナラガシワ、二次林要素でもあるコナラなどが含まれる。コナラ属クヌギ節にはクヌギとアバマキがあり、山林や乾燥した台地、丘陵地に生育する落葉高木で二次林要素でもある。コナラ属アカガシ亜属は、一般にカシと総称されるが、イチイガシ、アラカシなど多くの種があり、温带下部の暖温帯の照葉樹林を形成する主要高木である。イチイガシは自然度が高いが、アラカシは二次林性でもある。ケヤキは谷沿いなど

の適潤な肥沃地に生育する落葉高木である。クスノキ科は照葉樹林の主要構成要素を含む常緑高木である。ナン亜科は山地等に生育し、落葉または常緑の低木から高木である。イヌエンジュはやや乾燥した原野や尾根筋、斜面などを好む落葉高木である。トチノキは谷沿いなどの湿潤地を好んで生育する落葉高木である。ケンボナシ属は山野に生育する落葉高木である。

最も多いスギは加工工作が容易な上、大きな材がとれる良材である。ヒノキないしヒノキ科の木材も大きな材がとれる良材で、特にヒノキは木理通直で保存性が高い。マツ属複雑管束亜属は水湿に良く耐える材であり、イヌガヤはやや堅硬で緻密な材である。ハンノキ属ハンノキ節は概して強さ中庸の材である。ヤナギ属は耐朽性、保存性は低く、切削、加工の容易な材である。モクレン属は軽軟で緻密な材で、耐朽性、保存性は低いが、切削、加工が極めて容易である。エノキ属は強さ概して中庸、やや堅く従曲性に富んだ材である。クルミ属は強さ中庸で耐朽性、保存性は低いが、靱性に富み切削、加工の容易な材である。クリは重硬で保存性が良い材である。コナラ属コナラ節、コナラ属クスギ節、コナラ属アカガシ亜属のコナラ属の木材は、強靱で弾力に富む。ケヤキの木材は強靱、従曲性に富み、耐朽性、保存性は高く水湿にもよく耐える。クスノキ科、ケンボナシ属の木材は概して強さ中庸、ナン亜科は重く堅いと言える。イヌエンジュは耐朽性、保存性は高くやや強靱で堅い材である。トチノキは耐朽性、保存性は極めて低く、切削、加工は容易で柔らかい材である。

以上のように、大沢谷内遺跡（上層）で出土した木材（木製品を含む）は、スギが多いのが特徴的であり、当時の遺跡周辺もしくは近隣の地域にスギが多く分布していた可能性が考えられる。その他の樹種も温帯域に分布するものばかりであり、当時の遺跡の周囲ないしは周辺地域からもたらすことのできる樹木である。

F 種実同定

原理については第1節E参照。

1) 試料

試料は、上層南部谷（6ベルト）のIV a層、IV b層、IV c層の3層準から出土した水洗選別済みの種実類であり、粒数（破片を含む）はIV a層は1540粒、IV b層は5242粒、IV c層は5118粒である。

2) 分析方法

第1節E参照。

3) 分析結果

種実同定の結果、樹木33、樹木・草本を含むもの2、草本35の計70分類群が同定された。学名、和名および粒数を第25表に示し、主要な分類群を写真に示す（同定根拠となる形態的特徴：省略）。

4) 考察

①IV a層

樹木種実のうち、モモ、スモモは食用になる栽培植物で、トチノキ、オニグルミ、ムクノキ、ブドウ属、ガマズミ属、オオカメノキ、ヒメコウゾは食用になる有用植物である。エゴノキ、ミズキ、トチノキ、オニグルミ、ムクノキ、ハンノキ属は、河川や谷合いなどの湿潤地に生育する。ブドウ属、ガマズミ属、オオカメノキ、ヒメコウゾは、山野に普通に生育する落葉低木であり、クマヤナギ属、ブドウ属は木に巻きついでつぼる性の落葉低木で山地に生育する。コブシ、サクラ属サクラ節は排水の良い谷あいまたはこれに続く斜面などに生育し、ニワトコ、クサギは山地の藪や林縁に生育し、二次林種でもある。アカメガシワ、ミズキ、カラスザンショウ、サンショウ属は林縁の二次林種でもある。ヤブツバキは海岸から河川の沿岸に多く分布する常緑高木で、温帯下部の暖温帯に分布する照葉樹林の構成要素である。

草本種実のうち、ウリ類、ナス、ヒョウタン類、イネ、トウガンは食用になる栽培植物であり、ノブドウ、マメ科、ヒシ、オニバスは食用になる有用植物である。カナムグラ、イネ科、カヤツリグサ科、ヤブガラシ、ハギ属、キク亜科は畑や集落のやや乾燥した人為地に生育する。ホタルイ属、スゲ属、ウキアガラ、ミクリ属、タデ

第25表 大沢谷内遺跡(上層)南部谷における種実同定結果

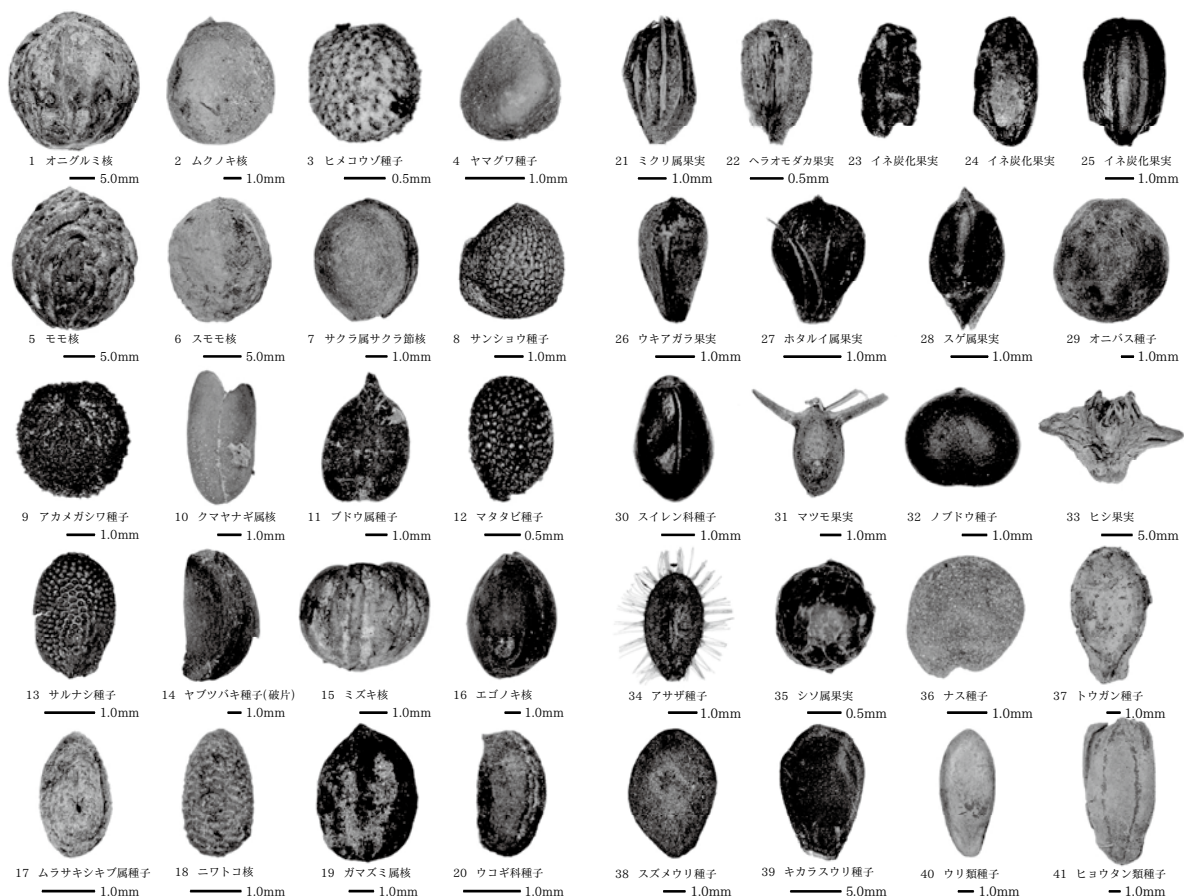
学名	分類群	和名	部位	南部谷6ベルト		
				IV a層	IV b層	IV c層
Arbor		樹木				
<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr		オニグルミ	核 (半形) (破片)		3 1	4 1
<i>Alnus</i>		ハンノキ属	果実	2		
<i>Betula</i>		カバノキ属	果実			4
<i>Quercus</i> subgen.		コナラ属	幼果	35	55	322
<i>Lepidobalanus</i>		コナラ亜属	殻斗(破片)	25	6	
<i>Quercus</i>		コナラ属	堅果(破片)	3		
<i>Aphananthe aspera</i> Planch.		ムクノキ	ヘソ(破片)	9	2	5
<i>Broussonetia kazinoki</i> Sieb.		ヒメコウゾ	核 (破片)		4 7	1 24
<i>Morus australis</i> Poir.		ヤマグワ	種子 (破片)	1		3 1
<i>Magnolia borealis</i> Kudo		コブシ	種子 (破片)	3 3	7	1 6
<i>Prunus persica</i> Batsch		モモ	核 (破片)	2		1
<i>Prunus salicina</i> Lindley		スモモ	核	1		
<i>Prunus</i> sect. <i>Pseudocerasus</i>		サクラ属サクラ節	核	1		
<i>Phellodendron amurense</i> Rupr.		キハダ	種子 (破片)		2 1	2
<i>Zanthoxylum piperitum</i> DC.		サンショウ	種子	1		
<i>Zanthoxylum ailanthoides</i> S. et Z.		カラスザンショウ	種子 (破片)	1 2		1 8
<i>Zanthoxylum</i>		サンショウ属	種子(破片)	2	1	1
<i>Mallotus japonicus</i> Muell. et Arg.		アカメガシワ	種子 (破片)	48 79	47 142	355 461
<i>Ilex macropoda</i> Miq.		アオハダ	種子	1		6
<i>Aesculus turbinata</i> Blume		トチノキ	種子(破片)	21	59	1
<i>Sapindus mukorossi</i> Gaertn.		ムクロジ	種子 (破片)	1		8 4
<i>Berberis</i> Necker		クマヤナギ属	核 (破片)	29 4	42 6	38 3
<i>Vitis</i>		ブドウ属	種子 (破片)	41 14	136 98	208 58
<i>Actinidia polygama</i> Planch. ex Maxim.		マタタビ	種子 (破片)		2 1	3
<i>Actinidia arguta</i> Planch. ex Miq.		サルナシ	種子 (破片)		2 2	
<i>Camellia japonica</i> L.		ヤブツバキ	種子(破片)	1		
<i>Alangium platanifolium</i>		ウリノキ	果実		2	3
<i>Swidia controversa</i> Hemsl.		ミズキ	核 (破片)	40 30	78 17	269 99
<i>Styrax japonica</i> S. et Z.		エゴノキ	核 (破片)	201 269	819 483	731 194
<i>Callicarpa</i>		ムラサキシキブ属	種子		3	62
<i>Clerodendrum trichotomum</i> Thunb.		クサギ	核 (破片)	3 2	4 6	8 6
<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex graedn		ニワトコ	核	4	9	9
<i>Viburnum furcatum</i> Blume ex Maxim.		オオカメノキ	核 (破片)	1 1	4	6
<i>Viburnum</i>		ガマズミ属	核	1	3	6
Arbor-Herb		樹木・草本				
Vitaceae		ブドウ科	種子(破片)		3	
Araliaceae		ウコギ科	種子 (破片)	14 1	84 2	532 66
Herb		草本				
<i>Sparganium</i>		ミクリ属	果実	70	83	921
<i>Potamogeton</i>		ヒルムシロ属A	果実 (破片)	1	9	1 1
<i>Potamogeton</i>		ヒルムシロ属B	果実		4	

学名	分類群	和名	部位	南部谷6ベルト		
				IV a層	IV b層	IV c層
<i>Alisma canaliculatum</i> A. Br. et Bouche		ヘラオモダカ	果実	1		1
<i>Oryza sativa</i> L.		イネ	炭化果実	1	1	
<i>Setaria</i> Beauv.		エノコログサ属	穎			3
Gramineae		イネ科	穎 (破片)	2		2 1
<i>Scirpus fluviatilis</i> A. Gray		ウキヤガラ	果実	34	17	10
<i>Scirpus</i>		ホタルイ属	果実 (破片)	120 1	26 3	9
<i>Carex</i>		スゲ属	果実 (破片)	58 9	22 13	26 11
Cyperaceae		カヤツリグサ科	果実	1		
<i>Humulus scandens</i> Merr.		カナムグラ	種子 (破片)	10	38	11
<i>Polygonum pfoliatum</i> L.		イシミカワ	種子 (破片)			2 1
<i>Polygonum Thunbergii</i> S. et Z.		ミゾソバ	果実 (破片)	7		1
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i>		タデ属	果実 (破片)	1	3	12 8
<i>Polygonum</i>		タデ属	果実 (破片)	8 3	8 5	4 5
<i>Euryale ferox</i> Salisb.		オニバス	種子 (破片)	1 9	2 1077	1 53
Nymphaeaceae		スイレン科	種子 (破片)	1 1	1 2	1 2
<i>Ceratophyllum demersum</i> L.		マツモ	果実 (破片)			1 2
<i>Lespedeza</i>		ハギ属	種子	1	2	
Leguminosae		マメ科	種子 (破片)	4 7		1 24
<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> var. <i>Heterophylla</i> Hara		ノブドウ	種子 (破片)	10 18	43 108	20 53
<i>Cayratia japonica</i> Gagn.		ヤブガラシ	種子(破片)	1		
<i>Trapa japonica</i> Flerov.		ヒシ	果実 (破片)			10 1
Apioidaeae		セリ亜科	果実		2	2
<i>Nymphoides peltata</i>		アサザ	種子 (破片)	4 1		1 3
<i>Perilla</i>		シソ属	果実 (破片)	1 1		2 3
Labiatae		シソ科	果実			
<i>Solanum nigrum</i> L.		イヌホウズキ	種子 (破片)		13	30 2
<i>Solanum melongena</i> L.		ナス	種子 (破片)	32 9	35 6	2 6
<i>Benincasa hispida</i> Cogn.		トウガン	種子 (破片)	1 38	40 3	
<i>Melothria japonica</i> Maxim.		スズメウリ	種子 (破片)		3 1	12 1
<i>Trichosanthes kirilowii</i> Maxim. var. <i>japonica</i> Kitam		キカラスウリ	種子			1 1
<i>Cucumis melo</i> L.		ウリ類	種子 (破片)	51 168	151 1212	16 275
<i>Lagenaria siceraria</i> Standl.		ヒョウタン類	種子 (破片)	3 1	7 48	2 1
Asteroidaeae		キク亜科	果実 (破片)			8
Total		合計		1540	5238	5063
Unknown seeds		不明種実			5	55
Unknown plants		不明植物遺体	(破片)	(+)	(+++)	(+)

属、イネ科、ミゾソバ、タデ属サナエタデ節、ヘラオモダカは湿地から浅い水域(1mまで)に生育し、オニバス、ヒルムシロ属A、スイレン科はやや深い水域(1~1.5m)に生育する。これらの状況から、湿地から水深1m内外の沼沢地の環境が示唆される。

②IV b層

IV a層とおおむね同様の出現状況であり、加えてヤマグワ、ムクロジ、マタタビ、ムラサキシキブ属、キハダ、アオハダ、ウリノキ、サンショウ属、イヌホウズキ、スズメウリ、イシミカワ、アサザ、マツモが同定された。ヤマグワは流路沿いなどに生育する。ムクロジは日あたりのよい適潤地を好み、マタタビはつる性の落葉低木で山地に生育する。ムラサキシキブ属、キハダ、アオハダは山地に自生する落葉低木で、有用植物でもある。ウリノキは谷部の林縁に生育する。サンショウ属は山地、丘陵などの林内に生育する。イヌホウズキ、スズメウリ、



第67図 大沢谷内遺跡(上層)南部谷の種実

イシミカワは畑や集落のやや乾燥した人為地に生育し、アサザ、マツモは池や沼などのやや深い水域（1～1.5m）に生育する。オニバスの種子は破片が多く、明らかに食用に用いられたとみなされる。IV a層と同様に湿地から水深1m内外の沼沢地の環境が示唆される。

③IV c層

IV b層とおおむね同様の出現状況であり、加えてカバノキ属、サルナシ、エノコログサ属、シソ科、キカラスウリが同定された。カバノキ属、サルナシは山地に生育するが、サルナシはつる性である。草本種実のエノコログサ属は畑や集落のやや乾燥した人為地に生育し、シソ科は有用植物である。キカラスウリはつる性で山地に生育する有用植物である。同層ではコナラ属コナラ亜属、サンショウ属、アカメガシワ、ミズキ、エゴノキ、ウコギ科などの二次林を形成する樹木が多く、堆積地は湿地の状況であるが周囲にはこれらの樹木が多かったと推定される。

5) まとめ

4区上層埋没谷6ベルトのIV a層、IV b層、IV c層から出土した洗浄済み試料について種実同定を行った。その結果、樹木種実のオニグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属、ムクノキ、ヒメコウゾ、ヤマグワ、コブシ、モモ、スモモ、サクラ属サクラ節、キハダ、サンショウ、カラスザンショウ、サンショウ属、アカメガシワ、アオハダ、トチノキ、ムクロジ、クマヤナギ属、ブドウ属、マタタビ、サルナシ、ヤブツバキ、ウリノキ、ミズキ、エゴノキ、ムラサキシキブ属、クサギ、ニワトコ、オオカメノキ、ガマズミ属、樹木・草本を含むブドウ科、ウコギ科、および草本種実のミクリ属、ヒルムシロ属、ヘラオモダカ、イネ、エノコログサ属、イネ科、ウキヤガラ、ホタルイ属、スゲ属、カヤツリグサ科、カナムグラ、イシミカワ、ミゾソバ、タデ属サナエタデ節、タデ属、オニバス、スイレン科、マツモ、ハギ属、マメ科、ノブドウ、ヤブガラシ、ヒシ、セリ亜科、アサザ、シソ属、シソ科、イヌホウズキ、ナス、トウガン、スズメウリ、キカラスウリ、ウリ類、ヒョ

ウタン類、キク亜科が同定された。

栽培植物としては、樹木のモモ、スモモ、草本のイネ、ナス、トウガン、ウリ類、ヒョウタン類がある。食用となる有用植物では、樹木のオニグルミ、ムクノキ、ヒメコウゾ、ヤマグワ、サクラ属サクラ節、サンショウ、トチノキ、ムクロジ、ブドウ属、マタタビ、サルナシ、ニワトコ、オオカメノキ、ガマズミ属、草本のオニバス、ヒシ、シソ属があり、破片が多いことから食用として利用されたとみなされる。アカメガシワ、ミズキなどの林縁等で二次林を形成する樹木もやや多い。ホタルイ属、スゲ属、ウキアガラ、ミクリ属、タデ属、ミゾソバ、タデ属サナエタデ節、ヘラオモダカ、オニバス、ヒルムシロ属、スイレン科などの水生植物も多く、湿地から水深1 m内外の沼沢地の環境が示唆される。

G 放射性炭素 (¹⁴C) 年代測定

1) 測定試料と測定方法

調査区南側埋没谷の包含層と谷底部で検出した樹木、包含層出土の木製品、掘立柱建物・柵列の柱根・杭、土

第26表 大沢谷内遺跡(上層)放射性炭素年代測定の試料と方法

試料	採取地点・試料の種類	重量	前処理	測定方法	備考
TNH-0112Y	南側谷包含層IV b層・樹木片	4.37g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0113Y	南側谷底部層・樹木片	20.00g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0114Y	木製品 No.290 (木筒)	微量	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	Beta 社で採取。
TNH-0115Y	木製品 No.294 (曲物)	0.90g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0116Y	木製品 No.264 (用途不明品)	0.21g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0118Y	土師器 No.302 囊付着物	0.10g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0153Y	木製品 No.7 (柱根)	0.25g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0154Y	木製品 No.9 (柱根)	1.65g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0155Y	木製品 No.29 (柱根)	0.72g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	
TNH-0156Y	木製品 No.11 (柱根)	0.59g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法	

第27表 大沢谷内遺跡(上層)放射性炭素年代測定結果

試料	未補正 ¹⁴ C年代 (y BP)	δ ¹³ C	補正 ¹⁴ C年代 (y BP)	暦年較正年代 (Cal BP)	測定番号
TNH-0112Y	1430 ± 40	-28.8	1370 ± 40	2σ : AD 610 ~ AD 690 1σ : AD 640 ~ AD 670 交点 : AD 660	Beta-285495
TNH-0113Y	1570 ± 40	-26.8	1540 ± 40	2σ : AD 420 ~ AD 610 1σ : AD 440 ~ AD 490, AD 520 ~ AD 570 交点 : AD 540	Beta-285496
TNH-0114Y	1230 ± 40	-23.5	1250 ± 40	2σ : AD 670 ~ AD 880 1σ : AD 690 ~ AD 780 交点 : AD 770	Beta-285859
TNH-0115Y	1390 ± 40	-22.9	1420 ± 40	2σ : AD 570 ~ AD 660 1σ : AD 610 ~ AD 650 交点 : AD 640	Beta-285497
TNH-0116Y	1480 ± 40	-25.2	1480 ± 40	2σ : AD 540 ~ AD 650 1σ : AD 550 ~ AD 620 交点 : AD 590	Beta-285498
TNH-0117Y	190 ± 40	-25.4	180 ± 40	2σ : AD 1650 ~ AD 1710, AD 1710 ~ AD 1880, AD 1910 ~ AD 1950 1σ : AD 1660 ~ AD 1690, AD 1730 ~ AD 1810, AD 1930 ~ AD 1950 交点 : AD 1670, AD 1770, AD 1800, AD 1940, AD 1950	Beta-285499
TNH-0118Y	1390 ± 40	-25.4	1380 ± 40	2σ : AD 610 ~ AD 680 1σ : AD 640 ~ AD 660 交点 : AD 650	Beta-285500
TNH-0153Y	1540 ± 40	-26.1	1520 ± 40	2σ : AD 430 ~ AD 620 1σ : AD 540 ~ AD 590 交点 : AD 550	Beta-290537
TNH-0154Y	610 ± 40	-25.3	610 ± 40	2σ : AD 1290 ~ AD 1420 1σ : AD 1300 ~ AD 1400 交点 : AD 1320, AD 1350, AD 1390	Beta-290538
TNH-0155Y	1280 ± 40	-26.3	1260 ± 40	2σ : AD 660 ~ AD 880 1σ : AD 680 ~ AD 780 交点 : AD 720, AD 740, AD 770	Beta-290539
TNH-0156Y	1490 ± 40	-26.5	1470 ± 40	2σ : AD 540 ~ AD 650 1σ : AD 560 ~ AD 640 交点 : AD 600	Beta-290540

師器付着の炭化物の計 10 点について、酸-アルカリ-酸洗浄ののちに加速器質量分析（AMS）法により放射性炭素（¹⁴C）年代測定を行った。試料の詳細を第 26 表に示す。年代測定は米国の Beta Analytic Inc.（ベータ社）で実施され、測定には 3MV HVVEE タンデトロン加速器が使用された。

2) 測定結果

測定結果および暦年較正年代を第 27 表に示す。各用語の意味は第 1 節 H 参照。

第 3 節 大沢谷内遺跡（上・下層）出土のアスファルト様物質の分析

大沢谷内遺跡上層・下層出土アスファルト様物質の分析について、以下の通り報告する。

A 分析対象

大沢谷内遺跡（上・下層）出土アスファルト様物質 計 12 点（第 28 表）。

B 分析内容

FT-IR による成分分析、および、有機溶剤に対する溶解性試験。

C 使用機器

全反射フーリエ変換型赤外分光光度計（ATR-FTIR、SensIR Technologies 社製 TravelIR）

試料に赤外線を照射し、そこから得られる分子の構造に応じた固有の周波数の吸収を解析し、化合物を同定する。全反射吸収測定法（ATR）により分解能 4cm⁻¹、検出器 DLATGS で測定した。

D 分析結果および考察

まず、12 点の試料から黒色で粘稠な分析試料を第 69～80 図に示したように少量採取した（第 28 表）。

これらの試料は土壌成分の混じった天然アスファルトであると想定された。天然アスファルトの主成分であるアスファルトはアスファルト基原油が熱、圧力、酸素、触媒、バクテリア等の作用により変成したもので、数千種類以上の有機化合物の集合体であるが、第 29 表にあるように飽和分、芳香族分、レジン、アスファルテンの 4 つの組成に大きく分けることができる〔高橋 1990〕。アスファルト 4 大組成の IR スペクトルを第 68 図に示した〔菊池 1961〕。

第 28 表 大沢谷内遺跡アスファルト様物質 分析対象試料

試料 No.	出土遺構・遺物報告 No.	試料採取量(mg)
1	SK722 (1)	40
2	SK985 (4)	40
3	SI837 (3)	3
4	SE504 (8)	20
5	SD192 (5)	4
6	壺 (p278)	8
7	底部片 (p436)	30
8	石皿類 (s228)	2
9	石鏃 (s302)	2
10	磨石類 (s200)	2
11	石皿類 (s201)	3
12	深鉢 (p211)	10

第 29 表 アスファルトの 4 大組成〔高橋 1990〕

組成分	外観・性状	抗生物質	分子量	H/C (原子数比)
飽和分 SATURATES	無色/淡黄色のすんだ液状物質比重 1 より小	パラフィン およびナフ テン	300 ~ 2,000	1.9 ~ 2.0
芳香族分 AROMATICS	赤褐色粘調液体比重 1 より小	芳香族の小 さな集合	300 ~ 2,000	1.5
レジン RESINS	暗褐色の粘い固体又は半固体；加熱すると溶融比重 1 より大	縮合した芳 香族環構造	500 ~ 50,000	1.3 ~ 1.4
アスファルテン ASPHALTENES	暗褐色、黒褐色の固体粉末；加熱しても溶けないで分解してコークスになる比重 1 より大	縮合した芳 香族環の層 状構造	1,000 ~ 100,000	1.1 ~ 1.2

第 30 表 分析試料の各種溶剤への溶解性

試料 No.	エタノール	n-ヘキサン	キシレン	クロロホルム
1	一部溶解	一部溶解	可溶	可溶
2	一部溶解	一部溶解	可溶	可溶
3	不溶	不溶	可溶	可溶
4	不溶	不溶	可溶	可溶
5	不溶	不溶	可溶	可溶
6	不溶	不溶	可溶	可溶
7	一部溶解	一部溶解	可溶	可溶
8	不溶	不溶	可溶	可溶
9	不溶	不溶	可溶	可溶
10	不溶	不溶	可溶	可溶
11	不溶	不溶	不溶	不溶
12	不溶	一部溶解	可溶	可溶

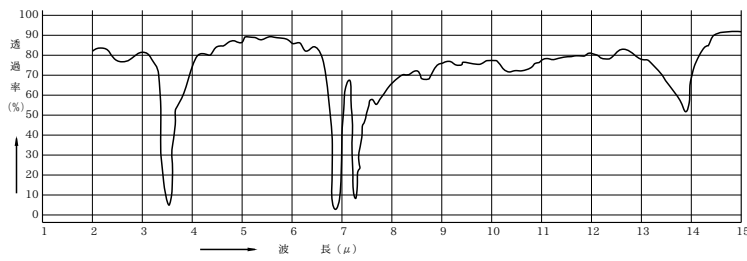
これら 12 点の試料をエタノール・n-ヘキサン・キシレン・クロロホルムに浸漬、一晩静置してその溶解性を観察し、第 30 表にまとめた。次に、ATR-FTIR にて測定し、その結果を第 69 ~ 80 図に示した。

試料 11 は 4 種類全ての溶剤に不溶で、ATR-FTIR 測定で 2900cm⁻¹ 付近のメチル基およびメチレン基の伸縮振動による吸収がほとんど無かったため、炭化が進んだ植物等の可能性があった。確認のため再度試料採取し同様の結果を得た。

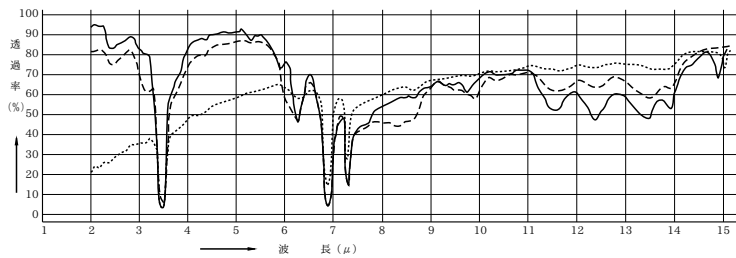
その他の試料は何れもキシレンに可溶であり、ATR-FTIR 測定により得られたスペクトルが、第 68 図に示すアスファルトの飽和分、芳香族分、レジン、アスファルテンの 4 成分のスペクトルの主な吸収と近似の位置にあることから、天然アスファルトである可能性があった。

前述のように、天然アスファルトは多くの有機化合物が集合した複雑な物質なので、今回の分析に加えて、熱分解ガスクロマトグラフ質量分析法による測定を行うとより多くの情報を得られると思われる。

(文責：川本耕三)

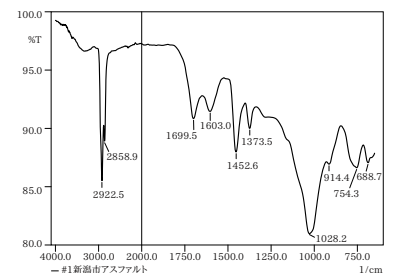


アスファルト飽和成分の赤外吸収スペクトル

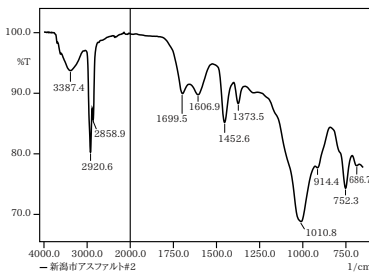


アスファルト芳香族成分 (—) レジン分 (.....) およびアスファルテン (---) の赤外吸収スペクトル

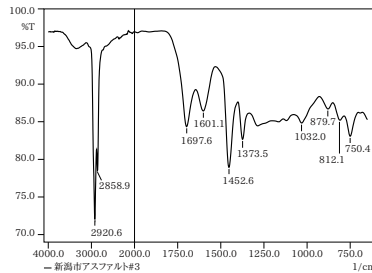
第 68 図 アスファルト 4 大組成の IR スペクトル [菊池 1961]



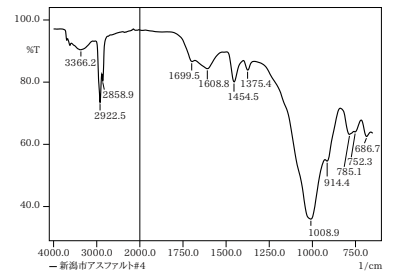
第 69 図 試料 No.1 の試料採取か所(上)と試料の ATR-FTIR スペクトル(下)



第 70 図 試料 No.2 の試料採取か所(上)と試料の ATR-FTIR スペクトル(下)

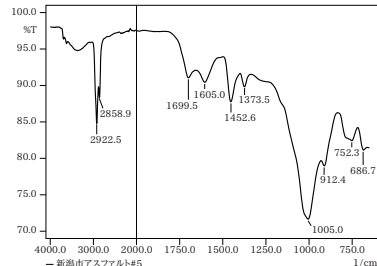


第 71 図 試料 No.3 の試料採取か所(上)と試料の ATR-FTIR スペクトル(下)

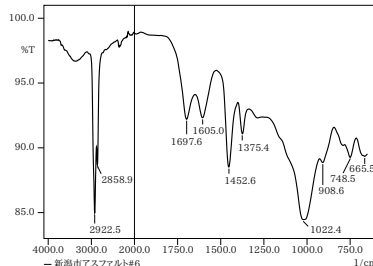


第 72 図 試料 No.4 の試料採取か所(上)と試料の ATR-FTIR スペクトル(下)

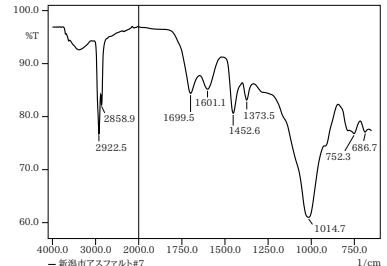
第3節 大沢谷内遺跡(上・下層)出土のアスファルト様物質の分析



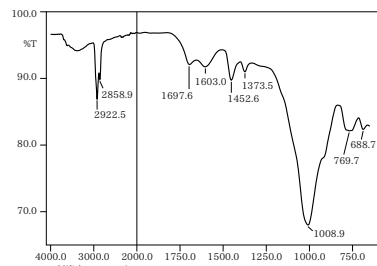
第73図 試料No.5の試料採取か所(上)と試料のATR-FTIRスペクトル(下)



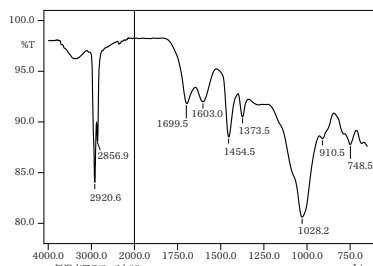
第74図 試料No.6の試料採取か所(上)と試料のATR-FTIRスペクトル(下)



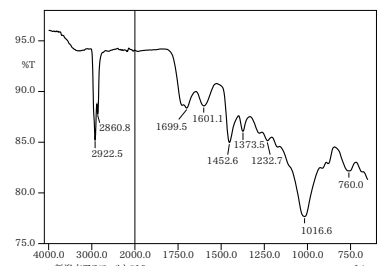
第75図 試料No.7の試料採取か所(上)と試料のATR-FTIRスペクトル(下)



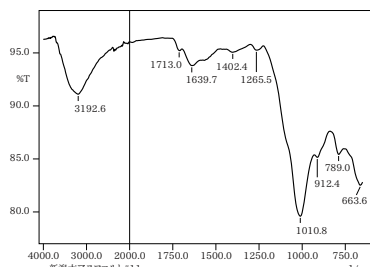
第76図 試料No.8の試料採取か所(上)と試料のATR-FTIRスペクトル(下)



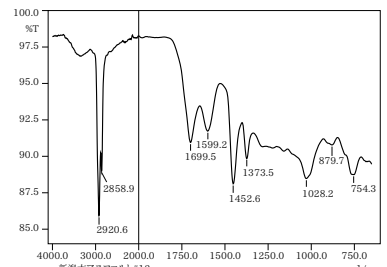
第77図 試料No.9の試料採取か所(上)と試料のATR-FTIRスペクトル(下)



第78図 試料No.10の試料採取か所(上)と試料のATR-FTIRスペクトル(下)



第79図 試料No.11の試料採取か所(上,2か所)と試料のATR-FTIRスペクトル(下)



第80図 試料No.12の試料採取か所(上)と試料のATR-FTIRスペクトル(下)

第4節 大沢谷内遺跡（上・下層）出土の動物遺体分析

（独）国立文化財機構 奈良文化財研究所埋蔵文化財センター 松井 章

A はじめに

大沢谷内遺跡の発掘調査により下層と上層から検出された動物遺存体について分析を実施した。そのうち、下層から出土した遺物は、越後平野に連なる海岸砂丘と新津丘陵とに挟まれた沖積低地の埋没した微高地上の縄文時代晩期中葉の焼土遺構（大洞C2式古段階の土器を共存）から出土したものである。新潟県内の海岸部砂丘の集落遺跡に伴う廃棄場（ゴミ捨て場）の土壌を水洗選別すると、多くの焼けた骨の破片が採集されることは、牛道遺跡〔松井1999〕、西郷遺跡〔納屋内・松井2009〕などで確かめられており、そのなかで最も多く検出されるのが遡河性サケ科（*Salmonidae*）、サケ属（*Oncorhynchus*）の椎骨破片と遊離歯である。

B 分析結果

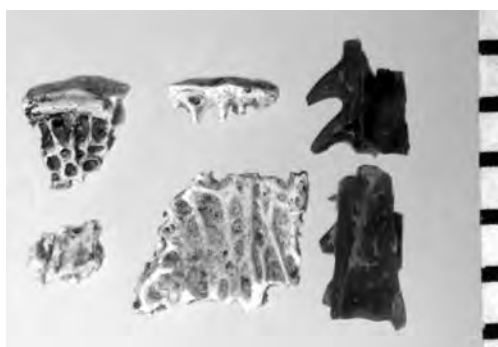
1) 下層の動物遺存体

下層から採集され送付された焼骨の中で最も多かったのは、サケ属の椎骨破片（第81図の右列を除く）で、そのほか軟骨魚綱に分類されるエイ類（エイ目）のトビエイ属、アカエイ属などにみられる尾棘の破片、コイ科を含む少なくとも2種類の小型硬骨魚綱の椎骨片である（第31表）。

これらのうち、エイ類の尾棘（第82図）は有毒で、しばしばその毒を利用してヤジリやヤスに加工される（エイの尾棘）。本遺跡から出土した尾棘（第81図右、上下2点）は両端が欠けた破片で、加工の有無を観察すること

第31表 大沢谷内遺跡検出焼骨の同定結果

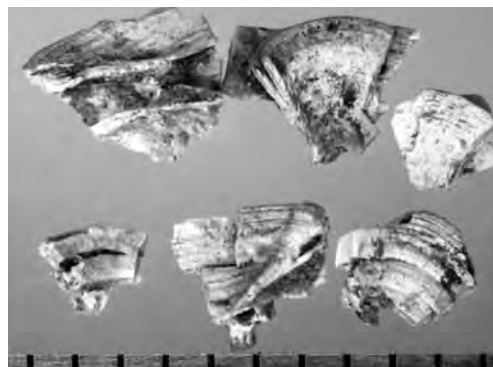
番号	地点	遺構・土層	時代	大分類	小分類	部分	備考
1	下層遺跡開析谷	SD192・II c層①炭化物集中	縄文時代晩期中葉	脊椎動物	不明	四肢骨ほか	破片
1	下層遺跡開析谷	SD192・II c層②炭化物集中	縄文時代晩期中葉	硬骨魚綱(Osteichthyes)	不明	椎骨	1 破片
2	下層遺跡開析谷	SD192・II c層炭化物集中	縄文時代晩期中葉	脊椎動物	不明	四肢骨ほか	破片
2	下層遺跡開析谷	SD192・II c層炭化物集中	縄文時代晩期中葉	鳥類綱(Aves)	不明	四肢骨	破片1
3	下層遺跡開析谷	SD192・II c層①炭化物集中	縄文時代晩期中葉	脊椎動物	不明	四肢骨ほか	破片
4	下層遺跡開析谷	SD192・II c層①炭化物集中	縄文時代晩期中葉	脊椎動物	不明	四肢骨ほか	破片
4	下層遺跡開析谷	SD192・II c層①炭化物集中	縄文時代晩期中葉	硬骨魚綱(Osteichthyes)	不明	椎骨	2 破片
5	下層遺跡開析谷	SD192・II c層②炭化物集中	縄文時代晩期中葉	脊椎動物	不明	四肢骨ほか	破片
5	下層遺跡開析谷	SD192・II c層②炭化物集中	縄文時代晩期中葉	硬骨魚綱(Osteichthyes)	不明	椎骨	1 破片
6	下層遺跡開析谷	SD192・II c層②最下部炭化物集中	縄文時代晩期中葉	脊椎動物	不明	四肢骨片ほか	破片
7	下層遺跡開析谷	SD192・II c層②最下部炭化物集中	縄文時代晩期中葉	硬骨魚綱(Osteichthyes)	サケ科 (<i>Salmonidae</i>) サケ属の一種 (<i>Oncorhynchus</i> sp)	椎骨	3 破片
7	下層遺跡開析谷	SD192・II c層②最下部炭化物集中	縄文時代晩期中葉	硬骨魚綱(Osteichthyes)	不明	椎骨	2 破片
8	下層遺跡開析谷	SD192・II c層②最下部炭化物集中	縄文時代晩期中葉	鳥類綱(Aves)	不明	四肢骨	4 破片
8	下層遺跡開析谷	SD192・II c層②最下部炭化物集中	縄文時代晩期中葉	硬骨魚綱(Osteichthyes)	不明	椎骨(含:不明魚種A)	9 破片
8	下層遺跡開析谷	SD192・II c層②最下部炭化物集中	縄文時代晩期中葉	脊椎動物	不明	四肢骨片ほか	破片
9	下層遺跡開析谷	SD192・II c層②最下部炭化物集中	縄文時代晩期中葉	硬骨魚綱(Osteichthyes)	不明	椎骨	2 破片
9	下層遺跡開析谷	SD192・II c層②最下部炭化物集中	縄文時代晩期中葉	軟骨魚綱(Chondrichthyes)	トビエイ目 (<i>Myliobatiformes</i>) トビエイ亜目の一種 (<i>Myliobatoidei</i> gen. et sp.indent.)	尾棘	2 同一個体
9	下層遺跡開析谷	SD192・II c層②最下部炭化物集中	縄文時代晩期中葉	硬骨魚綱(Osteichthyes)	サケ科 (<i>Salmonidae</i>) サケ属の一種 (<i>Oncorhynchus</i> sp)	椎骨	4 破片
10	下層遺跡開析谷	SD192・II e層炭化物集中	縄文時代晩期中葉	脊椎動物	不明	四肢骨ほか	破片
1658	上層遺跡南部谷	4J-5C16, IV b層	飛鳥時代	鳥類綱(Aves)	カモ目 (<i>Anseriformes</i>) カモ科(<i>Antidae</i>) カモ科の一種(<i>Antidae</i> gen.et sp.indent)	鳥口骨	中型カモ、ヒド 左 リガモ、オナガ ガモ相当
499	上層遺跡南部谷	4J-4F22, IV b層	飛鳥時代	哺乳綱(Mammalia)	不明	四肢骨	
819	上層遺跡南部谷	4J-5E5, IV b層	飛鳥時代	哺乳綱(Mammalia)	イノシシ (<i>Sus scrofa</i> <i>leucomystax</i>)	犬歯	不明



第81図 下層検出の焼骨
(左列・中央列:サケの椎骨 右列:エイの尾棘)



第82図 エイの尾棘



第83図 不明魚種A

はできなかつた。

硬骨魚類の椎骨には、ハゼ科やコイ科のものと思われる破片(仮に不明魚種Bとする)と、椎体に厚みと丸みを持つ不明魚種(仮に不明魚種Aとする)がある(第83図)。手元の現生魚類骨格標本と比較したところ、不明魚種Aは、淡水魚の中でも大形のドンコ(*Odontobutis obscura*)に類似するが、出土試料が椎体の破片のみの出土のために属・種名の同定はできなかつた。

本州日本海沿岸に見られる遡河性サケ属には、初夏に河川を遡上するサクラマス(*Oncorhynchus masou*)と、秋に河川を遡上するシロザケ(*Oncorhynchus keta*)が代表的で、まれにマスノスケ(*Oncorhynchus tshawytscha*)が見られる。同じサケ属でもサクラマスの陸封型にヤマメがあるが、その体長は20cm程度で、遡上性のサクラマスが体長40~70cmに達し、シロザケはさらに大きいことから、本遺跡で出土するサケ属は、その椎骨破片の大きさから遡上性サケ属のものであると考えられる。

2) 上層の動物遺存体

大沢谷内遺跡の発掘調査で採集された破片の中には、鳥類の四肢骨と見られる比較的薄くて緻密な骨の破片が少なからず存在した。そのうち、属および種の同定までできたのは、調査区南部谷の飛鳥時代(7世紀中葉)と推定されるIV b層出土のカモ科鳥口骨である。現生骨格標本と比較すると、大きさや形態からヒドリガモ、オナガガモに相当する。

さらに、送付試料の中には哺乳類の四肢骨の碎片と思われる試料が数多くあるが、同定できたのはやはり調査区南部谷IV b層から出土したイノシシの犬歯のエナメル質破片のみであった。

3) まとめにかえて

大沢谷内遺跡では、新潟平野の他の埋没砂丘後背湿地の遺跡と同様に、水洗された下層の土壌から多くの焼けた動物遺存体を採集することができた。また、上層からも動物遺体を検出することができた。ただ、それらの多くは碎片化がすすみ同定不能であった。とくに、縄文時代の食料資源は、太平洋岸に多く分布する貝塚や、内陸部の石灰岩地帯の洞穴、岩陰遺跡から出土する動物遺存体を中心に行われてきたが、日本海沿岸の資料として貴重である。

近年、新潟県内では海岸沿いに発達する埋没した海岸砂丘の背後に存在した湿地帯から焼けた動物遺存体の出土例が増加しつつあり、イノシシやニホンジカの出土比が時代や遺跡によって異なることや、サケ・マス類を中心とした多数の魚骨が存在することが明らかになってきた。そうした遺跡で同定された動物種でもっとも多いのは、決まって季節に産卵のために河川を遡上するサケ科サケ属である。日本列島の縄文文化には、東高西低という文化格差が存在し、その主要な原因が、西日本ではドングリを保存食としたのに対し、東日本ではドングリに加えてサケ・マス類を保存食にできたことが、人口密度や文化の格差となったとする山内清男が提唱した「サケ・マス論」として知られる。ところが、大部分の動物遺存体が報告される海岸部の貝塚からサケ・マス類の出土例が少なかったことから、東日本の縄文文化人が本当にサケ・マス類に頼っていたのかについて賛否が分かれてき

た。

近年、新潟平野における貝塚以外の遺跡から、土壌の水洗選別を行い、焼けた動物遺存体を採集する例が増加してきた。縄文時代の遺跡では、その多くがサケ・マス類の椎骨破片であることが明らかになったと言え、新潟県内における縄文文化の繁栄を、サケ・マス類の保存食が支えたことが確かめられつつあると言える〔松井 2010〕。

補足資料 新潟平野のサケ・マス類についての資料〔松井 2010〕

(1) 新潟市西郷遺跡 (弥生時代)

新潟市西郷遺跡は、新潟県埋蔵文化財事業団が発掘を行い、弥生時代前期から後期にかけての遺構覆土や遺物包含層を1mmの篩で水洗篩別することによって大量の焼骨を得た。この遺跡は、越後平野でも阿賀野川による沖積作用によって生じた新潟砂丘上に立地している。

奈良文化財研究所で同定・集計作業を行ったところ、焼骨の総重量は推定3,229gを量り、いくつかの袋に入った焼けた骨の破片の重量と破片数を数えて推定したところ、破片数は全部で164,000点¹⁾となった。しかし、大半の焼骨は白く灰化した破片のためにほとんどが同定が不可能で、科、属、種名まで同定することができたのは464点、破片数比で0.28%にすぎなかった。大量の焼骨の内容は、ニホンジカが341点とほぼ4分の3を占めるが、ニホンジカの大半は枝角と歯のエナメル質片で、それぞれ種としての特徴が顕著なことが、多くの比率を占めるに至った理由である。

イノシシが9点1.9%で少数となるが、同定できなかった四肢骨破片にもニホンジカとイノシシに相当する破片が多く、実際はイノシシの比率がもっと大きかったと推定できる。魚類はタイ科の遊離した臼歯が58点と最多で、コイ科は6点、サケ・マス類²⁾の椎骨破片は2点にとどまる。このように弥生集落においては、ニホンジカが主体を占めつつ、魚類も消費されていたが、サケ・マス類はタイ科(マダイやクロダイを含む)に比べると少なかったことがわかる〔納屋内・松井 2009〕。

(2) 牛道遺跡 (平安時代)

西郷遺跡における動物遺存体の産出状況の特徴は、近隣の牛道遺跡の平安時代の土坑から出土した焼骨でもうかがうことができる。この遺跡は、阿賀野川の下流の亀田砂丘に立地する平安時代の畑や井戸が検出され、その井戸をゴミ捨て穴に転用したと思われる埋土を発掘担当者が水洗篩別したところ、おそらくイトヨ³⁾と思われるトゲウオ科の棘とともに、アジ科の鱗、サケ・マス類の椎骨の破片が少量ずつ焼けた状態で含まれていた〔松井 1993〕。

(3) 的場遺跡 (奈良～平安時代)

新潟市的場遺跡は信濃川の河口域近くで、砂丘上に立地する。新潟市教育委員会の発掘により、奈良・平安時代の8～10世紀の大形の倉庫を含む14棟の掘立柱建物が検出され、多くの人形、木簡などの官衙的な遺物や、約8,600点の漁網錘、約100点の木製の浮き、網針などの漁具が出土した。このうち、大型の漁網錘は、昭和初期まで信濃川河口部で使われていたサケ網のものに類似するという。木簡には「杉人鮭」や「をの尔へ(魚の贄)」と書かれた荷札があり、官衙的な性格も帯びつつ、同時に漁業も盛んに行なっていたと考えられよう。発掘時に肉眼で採集された焼骨のうち、焼けたサケ・マス類の歯が2点含まれていた〔松井 1993〕。こうした遺跡で捕獲・保存処理されたサケ・マス類が、『延喜式』などに見える越後から貢納された「鮭内子(イクラ)」、「氷頭(ひず)」（頭部の軟骨）、「背腸(せわた)」（脊椎骨付近の血管の塩辛）などが生産・管理されていたのであろう。

1) 総量の推定は、平均的な1袋あたりの骨片の破片点数と重量を計測し、それをもとに推計した。

2) 報告書では記載が漏れたが、椎骨の大きさから陸封性でなく、溯河性のサクラマスおよびシロザケであったと考えられる。

3) 報告書執筆の際にはトミヨとしていたが、松井の記憶違いで、新潟で食用とするのは同じトゲウオ科のイトヨだという教示を受け、現生標本との比較も行った結果、イトヨに訂正したい。

第5節 大沢谷内遺跡下層出土の赤色顔料について

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 三ツ井朋子

A 試料と分析の目的

日本列島で使用されていた旧石器時代から古墳時代のまでの赤色顔料は、現在大きく分けて2種類あることが自然科学分析によって確認されている。一つは硫化水銀(HgS)を主成分とする「水銀朱」、もう一つは酸化第二鉄(Fe₂O₃)を主成分とするベンガラである。本報告では、大沢谷内遺跡から出土した赤色顔料と赤色の土、鉄鉱石、計20点を分析対象試料とし(第32表)、これらが赤色顔料やその原料であるかどうかを確認し、赤色顔料については、その種類と原料を把握することを目的とした。

B 観察および分析の方法

試料の観察・分析にあたっては、東北芸術工科大学文化財保存修復センターの分析走査型電子顕微鏡を借用させていただき、米村祥央氏からご指導いただいた。

試料の採取・調整 試料 No.1～18の赤色の土や赤色顔料は、提供された試料からピンセットとメスを用いて赤色顔料を削り取り、実体顕微鏡下で混入した土砂を取り除き、観察・分析試料とした。また、試料 No.19・20の鉄鉱石については、不純物の少ない部分から試料を採取し、その他の試料と同様に調整した。

走査型電子顕微鏡による試料の粒子の観察 試料の粒子の形状を観察し、赤色顔料か否か、また赤色顔料の原料を把握するため、前項で採取した試料をスライドガラスに貼付したカーボンテープにのせ、走査型電子顕微鏡(SEM)による二次電子像の観察を行った。観察には、日本電子株式会社製分析走査型電子顕微鏡JSM-6390LAを加速電圧15kVの条件下で使用し、1,000倍で観察した。

エネルギー分散型X線分析装置による存在元素の確認 試料が「水銀朱」か「ベンガラ」かを判別する指標となる、水銀(Hg)と鉄(Fe)の存在を確認するため、前述のSEMにエネルギー分散型X線分析装置を連動させ、加速電圧15kVの条件下で存在元素の確認を行った。

C 結果と考察

対象試料20点のSEMによる粒子の観察とX線分析の結果を、第32表と第84～103図にまとめた。

分析した試料のうち、試料 No.1～9・11～18は酸化鉄系赤色顔料のベンガラ、試料 No.19・20は赤鉄鉱であることが確認できた。大沢谷内遺跡出土のベンガラは、粒子の形状と検出元素から2種類に分類できる。

試料 No.1～9・11～16のベンガラは、直径約1μm、長さ約数～15μmのパイプ状粒子が塊を形成、あるいは分散した状態で存在し、検出元素にFe・Si・Alなどが認められる(第84～92・94～99図)。一般に「パイプ状ベンガラ」と呼ばれ、ベンガラの中でも鉄分の含有率が高く、質が良いと考えられている。パイプ状粒子は、鉄細菌が水中に溶存している鉄分を体内に蓄積して生成する生体鉱物の一種である〔岡田1997〕。鉄細菌は、崖端の湧水部や地下水・伏流水中に棲息し、赤褐色の綿屑状に浮遊したり、沈殿物を生じていることがある。縄文人は、これらを集めて加熱・粉砕し、赤色顔料に利用していたものと推測される。

一方、試料 No.17・18のベンガラは、パイプ状粒子を含まず、表面に凹凸のあるブロック状や、不定形の細かい粒子が塊を呈しており、検出元素にSi、Fe、Al、Kが認められる(第100・101図)。現時点では、原料の特定が難しいが、粒子の形状や検出元素から、表面が風化した鉄石英などと近似する。試料 No.10の赤色礫が、試料 No.17・18の二次電子線像・X線チャートと近似しており、赤色顔料の原料である可能性が考えられる。

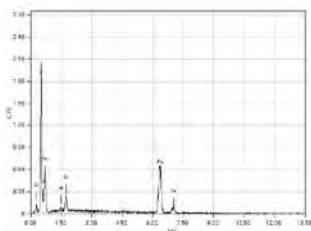
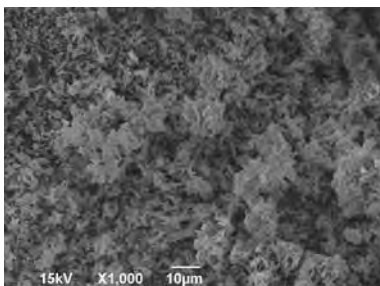
試料 No.19・20は、赤鉄鉱と考えられる。赤鉄鉱は、風化すると表面が赤い粉末状になり、青森県などでは縄文時代に赤色顔料として多用されている。しかし、試料 No.19・20は、まだあまり風化が進んでおらず、他

の赤色顔料と見られる試料と粒子の形状、検出元素の組成が異なることから（第102・103図）、大沢谷内遺跡では、赤色顔料の原料として利用されていたとは考え難い。

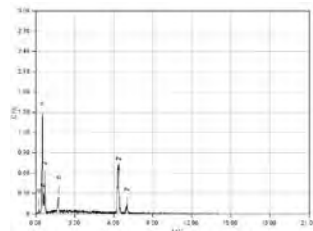
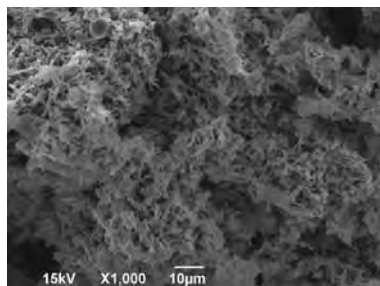
今回の分析対象とした赤色顔料は、遺構覆土や包含層中に粒状に散在していたものであることから、これらがどのように利用されていたか不明であるが、今後、赤彩遺物等の分析が行われれば、利用状況がより具体的に把握できると期待される。

第32表 大沢谷内遺跡(下層)出土試料赤色顔料分析結果

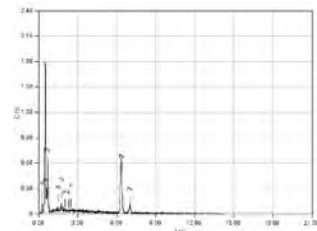
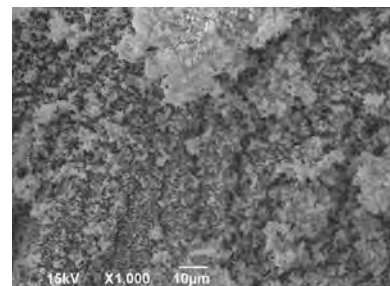
試料No.	遺物種類	出土位置					観察・分析		
		年度	遺構種類	遺構No.	取り上げNo.	試料採取位置	SEMの観察	X線分析	分析結果
							粒子の形状	主要検出元素	
1	サンプル土 a	09	SX	945			パイプ状	Fe, Si, Al	パイプ状ベンガラ
2	サンプル土 b	09	SX	945			パイプ状	Fe, Si	パイプ状ベンガラ
3	サンプル土 a	09	SK	926			パイプ状	Fe, Si, Al, P, S	パイプ状ベンガラ
4	サンプル土 b	09	SK	926			パイプ状	Si, Fe, Al, Mg	パイプ状ベンガラ
5	サンプル土 c	09	SK	926			パイプ状	Fe, Si	パイプ状ベンガラ
6	サンプル土 d	09	SK	926			パイプ状	Fe, Si, Al, P, S	パイプ状ベンガラ
7	赤色顔料	09	SK	725	2	1層 4J-2D24	パイプ状	Si, Fe, Al	パイプ状ベンガラ
8	赤色顔料	09	SI	790	38	1層 4J-2E5	パイプ状	Fe, Si	パイプ状ベンガラ
9	赤色顔料	09	SI	837	178	1層 4J-1D5	パイプ状	Fe, Si	パイプ状ベンガラ
10	赤色礫	09	SI	837	155	1層 4J-1D14	ブロック状	Si, Fe, Al, K	ベンガラの原料か
11	赤色顔料	09	SI	951	70	2層 4J-4F8	パイプ状	Si, Fe	パイプ状ベンガラ
12	赤色顔料	09	SI	951	110	3層 4J-4F3	パイプ状	Si, Fe, Al	パイプ状ベンガラ
13	赤色顔料	09	SI	951	108	2層 4J-4F8	パイプ状	Si, Fe, Al	パイプ状ベンガラ
14	赤色顔料	09	SI	951	109	2層 4J-4F8	パイプ状	Si, Fe, Al	パイプ状ベンガラ
15	赤色顔料	09	SI	951	90	3層 4J-4F8	パイプ状	Fe, Si, Al	パイプ状ベンガラ
16	赤色顔料	09	SI	951	169	8層 4J-4F3	パイプ状	Si, Fe, Al	パイプ状ベンガラ
17	赤色顔料	09	SX	952	5	1層 4J-3F23	ブロック状	Si, Fe, Al, K	ベンガラ
18	赤色顔料	09	SX	952	4	1層 4J-3F23	ブロック状	Si, Fe, Al, K	ベンガラ
19	鉄鉱石(S267)	09	包含層			V b層 3J-8F10	ブロック状	Fe, Si, Al	(赤鉄鉱)
20	鉄鉱石(S131)	09	SK	965		1層 4J-3F15	パセリ状	Fe	(赤鉄鉱)



第84図 試料No.1 二次電子線像(上)とX線チャート(下)

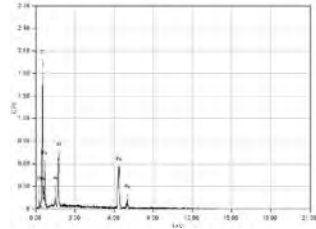
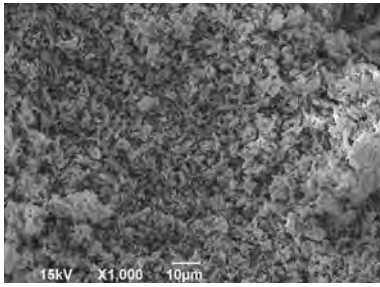


第85図 試料No.2 二次電子線像(上)とX線チャート(下)

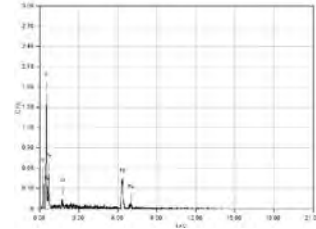
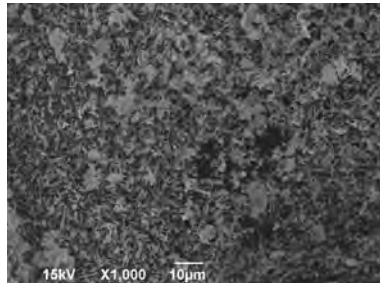


第86図 試料No.3 二次電子線像(上)とX線チャート(下)

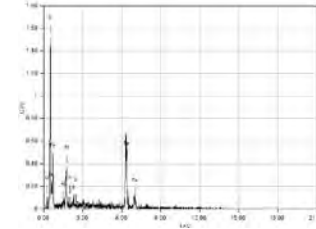
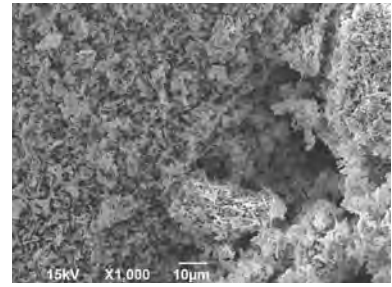
第5節 大沢谷内遺跡下層出土の赤色顔料について



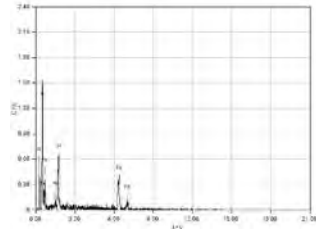
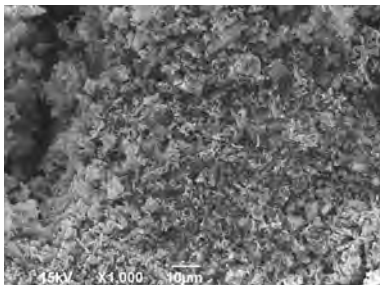
第87図 試料No.4 二次電子線像(上)とX線チャート(下)



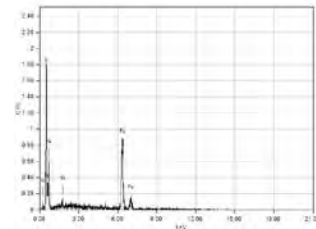
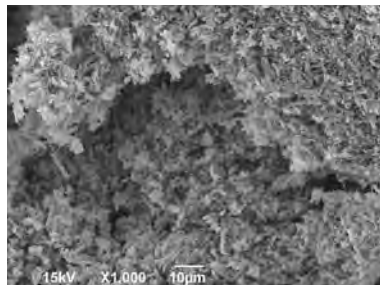
第88図 試料No.5 二次電子線像(上)とX線チャート(下)



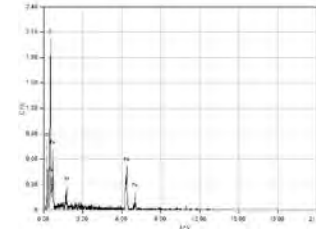
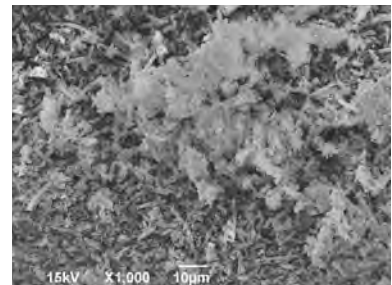
第89図 試料No.6 二次電子線像(上)とX線チャート(下)



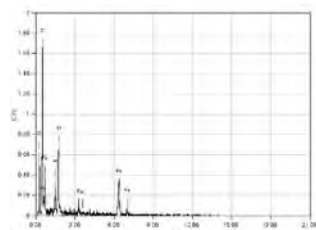
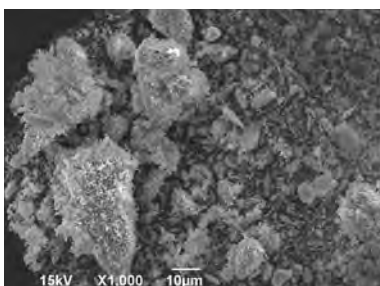
第90図 試料No.7 二次電子線像(上)とX線チャート(下)



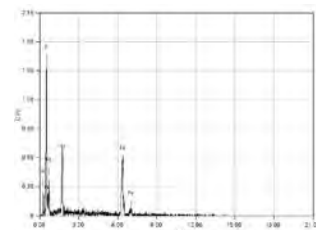
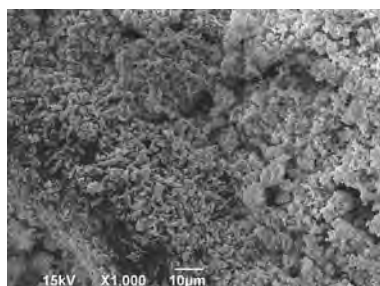
第91図 試料No.8 二次電子線像(上)とX線チャート(下)



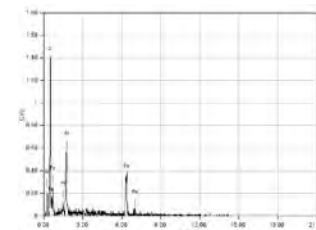
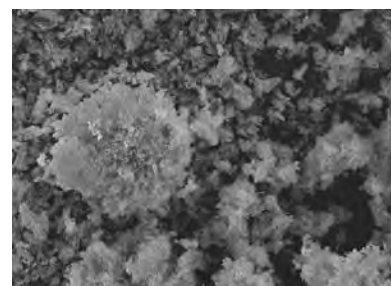
第92図 試料No.9 二次電子線像(上)とX線チャート(下)



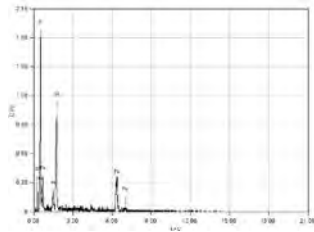
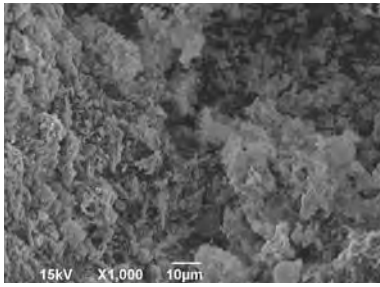
第93図 試料No.10 二次電子線像(上)とX線チャート(下)



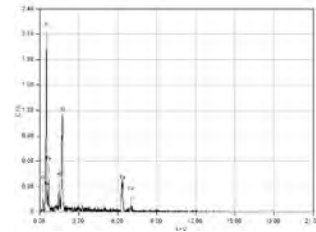
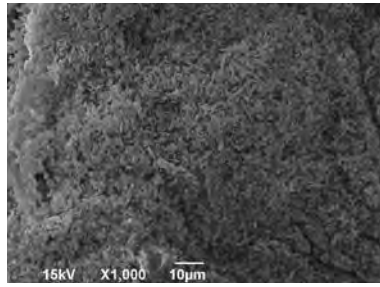
第94図 試料No.11 二次電子線像(上)とX線チャート(下)



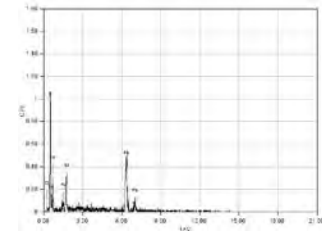
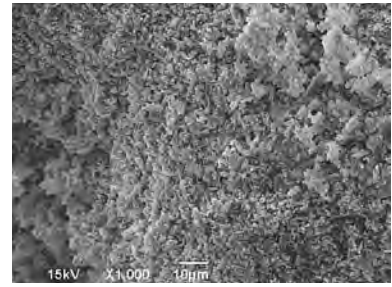
第95図 試料No.12 二次電子線像(上)とX線チャート(下)



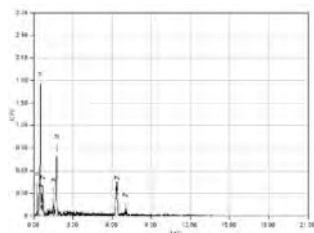
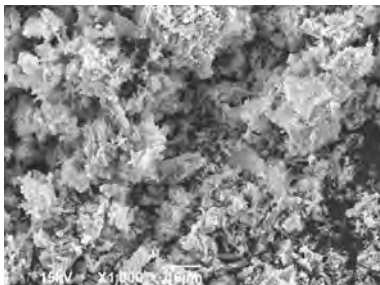
第96図 試料No.13 二次電子線像(上)とX線チャート(下)



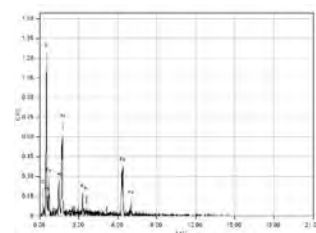
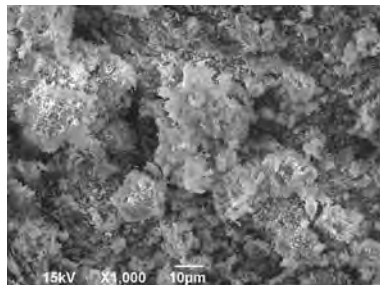
第97図 試料No.14 二次電子線像(上)とX線チャート(下)



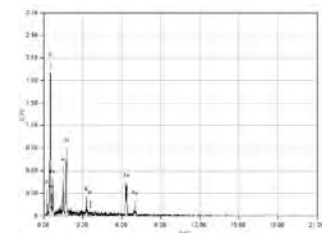
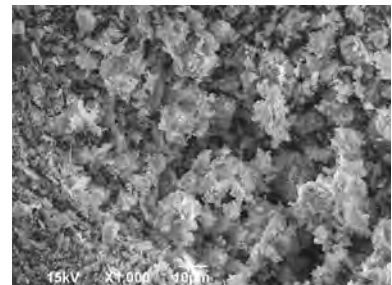
第98図 試料No.15 二次電子線像(上)とX線チャート(下)



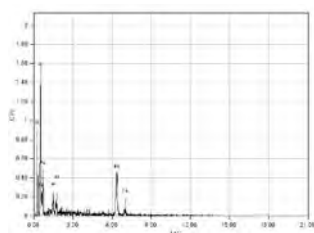
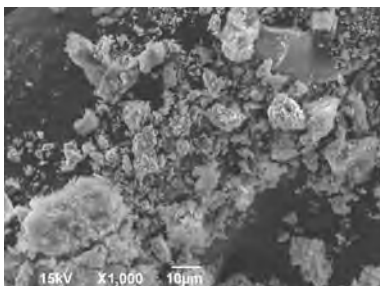
第99図 試料No.16 二次電子線像(上)とX線チャート(下)



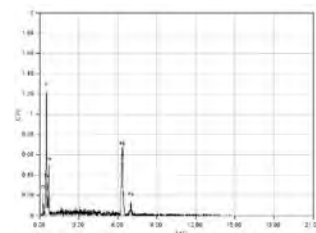
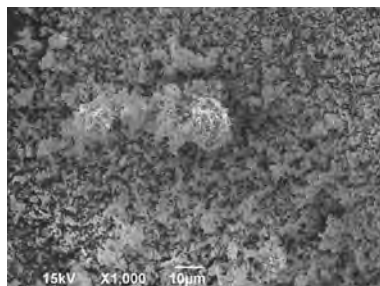
第100図 試料No.17 二次電子線像(上)とX線チャート(下)



第101図 試料No.18 二次電子線像(上)とX線チャート(下)



第102図 試料No.19 二次電子線像(上)とX線チャート(下)



第103図 試料No.20 二次電子線像(上)とX線チャート(下)

第七章 ま と め

第1節 下層（縄文時代）の遺跡

A 縄文土器

1) 装飾土器の型式学的検討

本遺跡からは晩期中葉前半段階の大洞 C1 式から大洞 C2 式前半期の土器が出土している。従来大洞 C2 式前半段階の土器については層位的な検討を踏まえた編年がなされておらず、型式学的な検討によるもののみであった。以下ではまず出土状況は加味せずに第 V 章第 1 節における分類（第 23・24 図）に基づいて装飾土器（I 群土器）の型式学的な検討を行い、次項において出土状況を踏まえた本遺跡の変遷を検討する。当該期の装飾土器の位置づけについては、南奥大洞式土器の一連の研究による鈴木加津子氏の段階設定〔鈴木 1991・2004〕を基準とし、県内における荒川隆史氏と渡邊裕之氏による五泉市矢津遺跡出土土器の検討〔荒川 2009、渡邊裕 2009〕を参考にした。本項では鈴木氏〔2004〕と渡邊氏〔2009〕の時期設定に倣い、大洞 C2 式前半を I 期・II 期古段階・II 期新段階とする三段階区分を採用し、さらに矢津遺跡の時期区分（III 期：大洞 C1 式期、IV a 期：大洞 C2 式古段階、IV b 期：大洞 C2 式中段階）〔荒川 2009〕と対応を試みた（矢津遺跡対応資料については第 109・110 図参照）。

まず本遺跡出土の I 群 1 類は装飾文様に彫去手法による雲形文が施されたものである。ネガ文様の構成は Z 字文の主要素と鉤爪形の副要素が重なり、三角形や台形状の彫去が加えられている。また副要素が文様帯界線から離れて宙に浮いている。鈴木氏によると偏平化した主文様に簡略化した別系統の主文様、つまり本遺跡資料では鉤爪形の副要素のことであるが、これが宙に浮いて重畳する段階を大洞 C1 式終末期の一つの指標としており〔鈴木 1991〕、本類はそのまま当てはまる。浅鉢の器形は底径が小さく口縁部が内湾するのが特徴である。矢津遺跡 III 期～IV a 期の一部の資料と対応する。

2 類は 1 類と同じ装飾文様の構成であるが、ネガ文様の彫去が非常に浅くなり主要素である Z 字文の横帯化が著しい。また主要素の Z 字文や副要素が文様帯界線と接するものがあり（198・271・272）、大洞 C2 式 II 期古段階の指標である「釣針文」（I 群 5b 類浅鉢 20）の祖形が認められる。浅鉢の器形はすべて底径が広いものであり、本類は大洞 C2 式 I 期に比定される。矢津遺跡 IV a 期に対応する。

3 類は 1・2 類のような大柄な副要素の発達は認められず、三叉文が副要素となっている。7・256 は 1・2 類と同様に Z 字文が主要素であり、253 については 1・2 類の副要素である鉤爪形の文様が主要素となり何単位かが展開するように見える。浅鉢の装飾文様帯は胴部上半に狭まっている。矢津遺跡出土の類似資料は IV a 期（大洞 C2 式 I 期）に位置づけられている。

4 類は装飾文様が崩れ、沈線化、平行線化するものである。4a 類は主要素が Z 字文、4b 類は 1・2 類の副要素である鉤爪形の文様が独立して主要素化しているものである。1・2 類の主要素と副要素の分離が明確であり、文様の形骸化から上記の大洞 C2 式 I 期に比定される土器群とは様相が異なる。矢津遺跡出土の類似資料は IV b 期に位置付けられており、大洞 C2 式 II 期の古段階に比定されると考える。

5 類は釣針文成立前後と考えられる一群である。5a 類浅鉢 52 は幅の非常に狭い平行線化した磨消縄文帯が弧線と連結しており、釣針文成立直前の状態と考えられ、5b 類浅鉢 20 や 5c 類深鉢 156 のような釣針文とは段階的に差があるようである。大洞 C2 式 II 期を古・中・新に三段階区分した鈴木氏の論考〔鈴木 1991〕では 52 の浅鉢が古段階、20・156 は中段階に比定される。矢津遺跡 IV b 期に対応する。

6 類は胴部下半に無文帯を有する浅鉢である。大洞 C2 式 III 期以降に定着する属性であり、新相を示す。ただし 6a 類 68 の装飾文様は Z 字文を主要素として鉤爪形の副要素が重なる伝統的な雲形文が施されており、6b 類

174には退化したZ字文が施されている。さらにⅡ期新段階で確立する胴部下位の無文帯を有するものは、装飾文様帯と無文帯との界線が2本ないしは3本の明確な平行沈線により施されるが、6a類68の文様帯界線は浅くて幅の広い不明確なものである。型式学的にはこの二者には時期差が存在するようである。本類は大洞C2式Ⅱ期新段階の特徴を有する一群であり、矢津遺跡ではⅣb期に対応する。

7類は320の1点のみであるが、装飾文様帯に短沈線による直線的な主文様が施されたものであり、地文が施されていない。これは他の浅鉢とは異なる特徴である。器形から見ると底径が大きく直線的にひらく逆台形状であり、大洞C1式に見られるものである。

以上のように本遺跡出土の装飾土器は大洞C1式～大洞C2式Ⅱ期新段階までの幅をもち、中でも大洞C2式Ⅱ期古段階に比定される土器群が主体となっている。

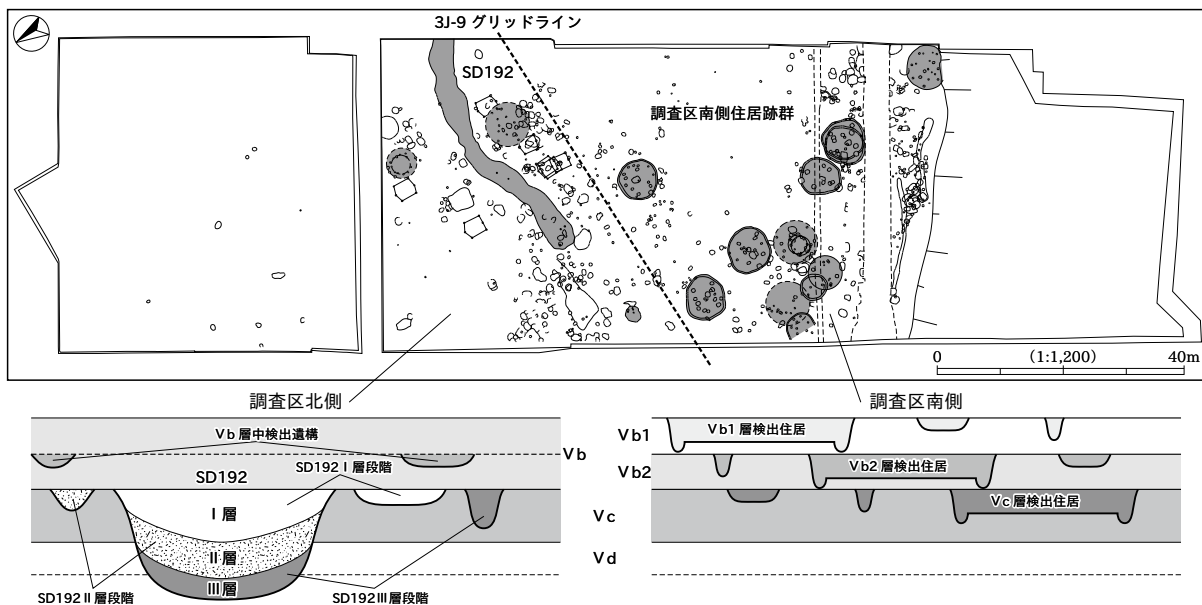
2) 出土状況からの検討

本遺跡では遺構の検出が層位的に捉えられ、また土器の遺構間における接合関係・同一個体関係が多く認められた。よって本項では上述のⅠ群土器の型式学的検討を踏まえつつ出土状況からの分析を行い、併せて型式学的分析が困難な他群土器の様相を把握することを目的とする。

まず本遺跡の層位的状況を説明すると(第104図)、3J-9グリッドライン近辺を境として、調査区北側と南側で若干様相が異なる。自然開析谷SD192を中心とする調査区北側では遺構検出面は2面確認された。Vb層中とVc層上面である。さらにVc層上面検出のSD192は覆土が大きく3層に分けられ、その上をVb層にバックされているため、層位的な変遷としてはVc層(SD192Ⅲ層→SD192Ⅱ層→SD192Ⅰ層)→Vb層となり、Vc層段階が三細分される。SD192各層出土土器と接合関係にある遺構は、Vc層段階の各細分段階に帰属することとなり、もちろん共伴遺物もその段階に帰属することになる。

住居跡群が分布する調査区南側では、砂質分と炭化物の含有状況の差異によりVb層がVb1層とVb2層に分けられ、遺構検出面はVb1層中、Vb2層上面～Vb2層中、Vc層上面の3面が確認された。

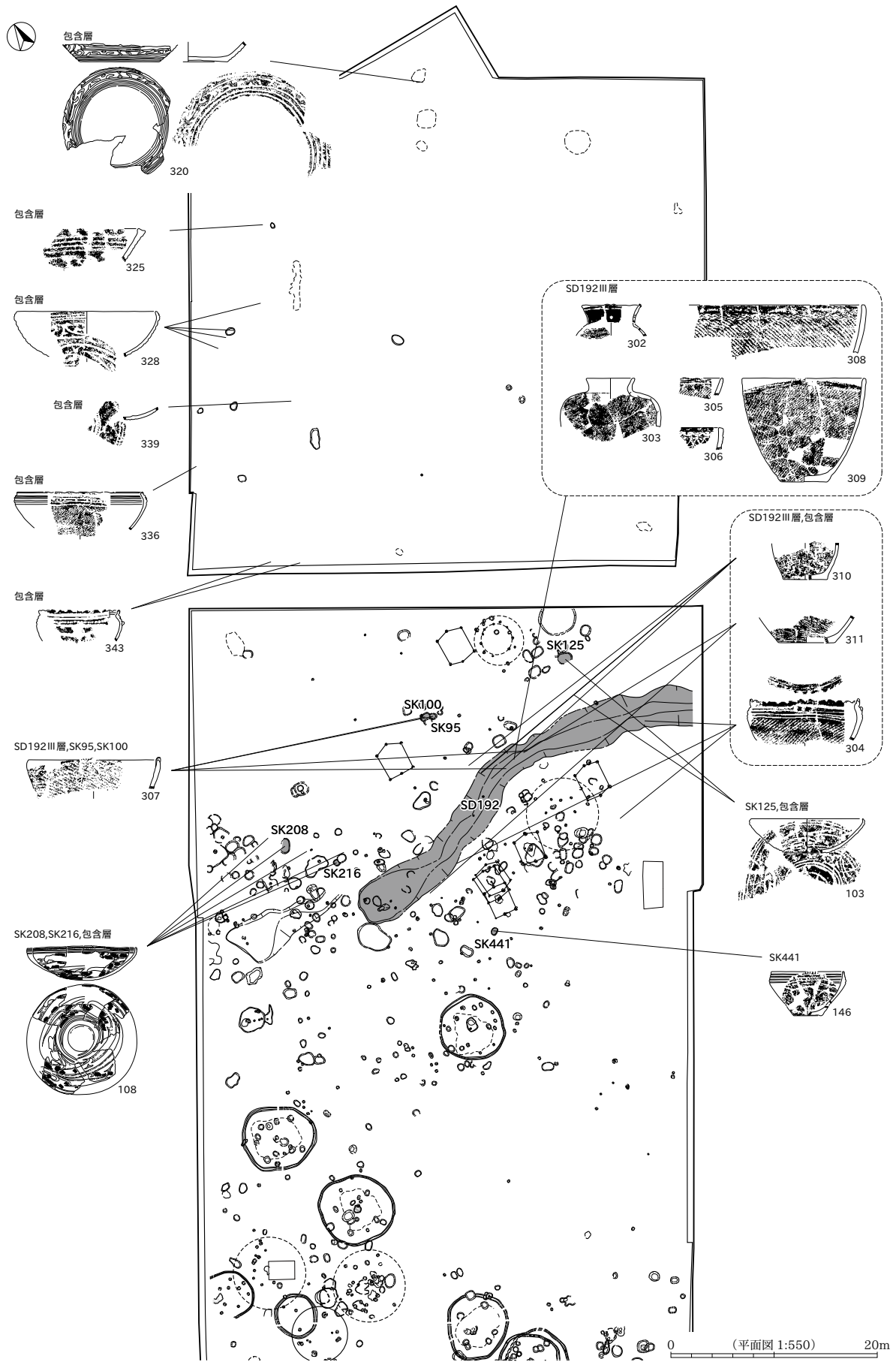
以上のような層位的な遺構の検出状況と土器の接合・同一個体関係、さらには遺構の新旧関係を踏まえてⅠ群土器の出土状況を軸に、他群の出土状況を分析する。



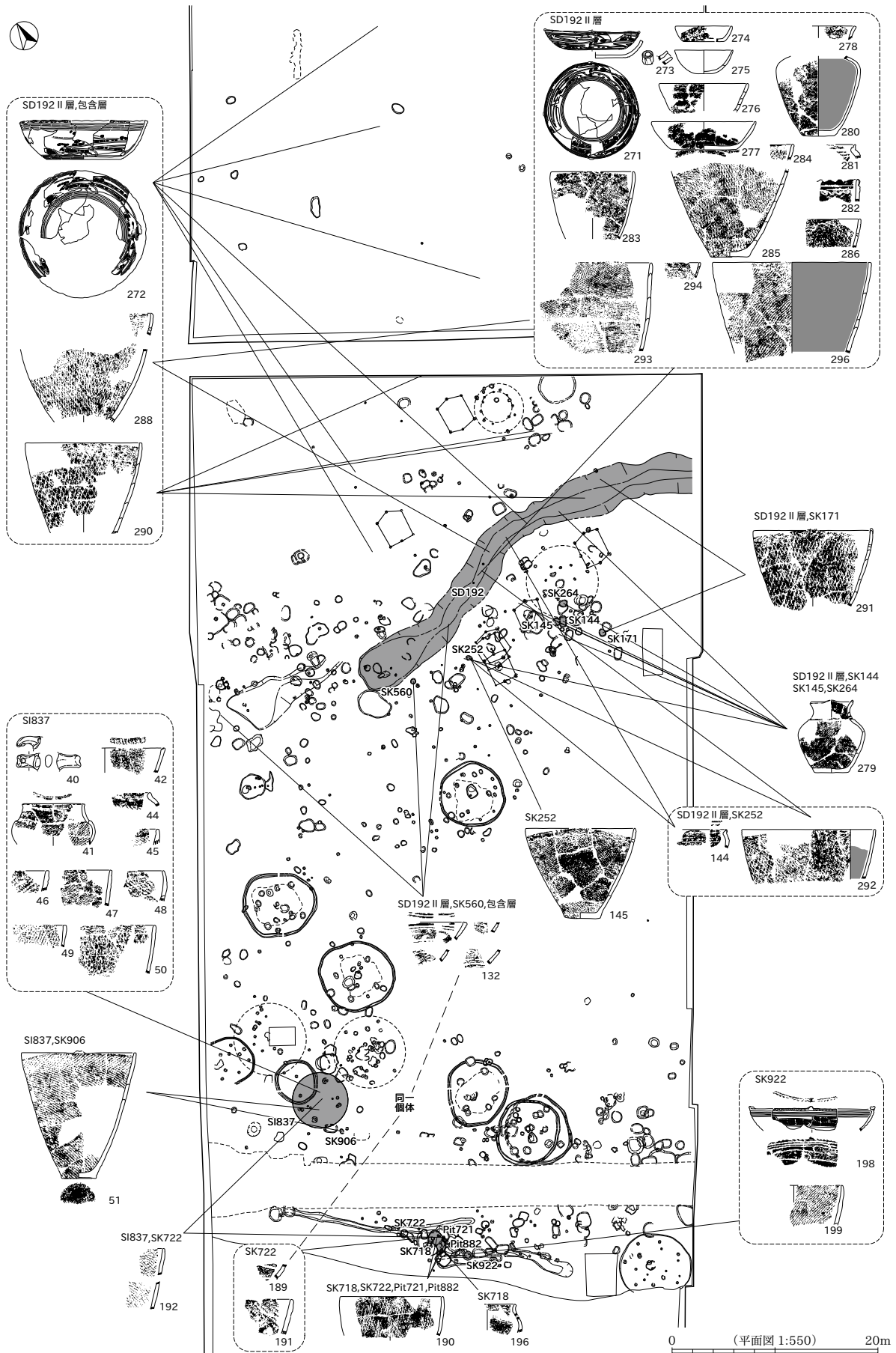
第104図 大沢谷内遺跡下層遺構検出層位模式図

(SD192Ⅲ層段階) (第105図・図版93)

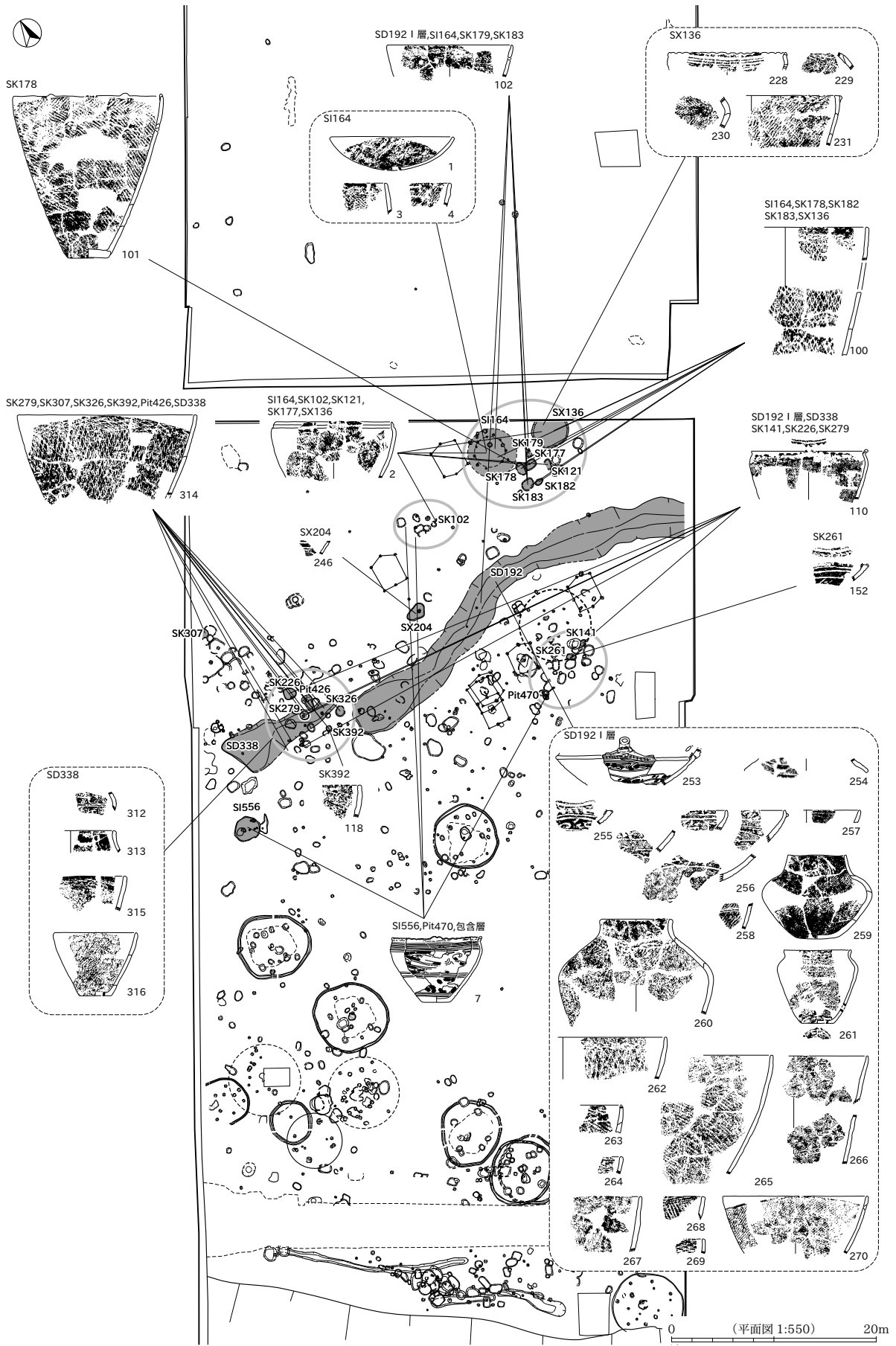
本遺跡において層位的に確認できる最古の段階である。SD192Ⅲ層からはⅠ群土器の出土は認められないが、型式学的に最も古いⅠ群1類が対応すると考え、その分布状況も併せて示している。また同時期に比定される「二



第105図 縄文土器出土状況図① (SD192 III層段階)



第 106 図 縄文土器出土状況図② (SD192 II 層段階)



第107図 縄文土器出土状況図③ (SD192 I層段階)

溝間の截痕」が施されるⅡ群Ⅰ類(146・336)、当段階の可能性が考えられるⅠ群Ⅶ類の浅鉢320の分布状況も加えて示した。いずれの土器もⅤc層直上出土である。調査区北側の包含層から浅鉢320・325・328・339、鉢336・343が出土し、調査区北部にまとまっている。SD192周辺遺構では浅鉢103がSK125から、浅鉢108がSK208・216、鉢146がSK441から出土している。

SD192Ⅲ層出土で他遺構と接合・同一個体関係にあるものは深鉢307のみであり、SK95・100から出土している。

当段階出土土器はⅠ群Ⅰ類(103・108・325・328・343)・Ⅶ類(320)、Ⅱ群Ⅰ類(146・336)、Ⅱ群Ⅲ類(304・305)、Ⅲ群Ⅱ類(302)、Ⅳ群Ⅰa類(308)、Ⅳ群Ⅱ類(306・307)、Ⅳ群Ⅳ類(303・309)である。

(SD192Ⅱ層段階)(第106図・図版93)

SD192Ⅱ層からはⅠ群Ⅱ類の浅鉢132・271・272が出土している。他類のⅠ群土器は出土していない。調査区南側の土坑群からも出土が認められ、SK722からは浅鉢132と同一個体の可能性が高い浅鉢胴部片189が出土し、そのSK722出土の深鉢192はSI837から同一個体が出土している。またSK922からは浅鉢198が出土している。接合関係による根拠はないが、遺構の新旧関係からはSK722より古いと推測される。

SD192Ⅱ層出土で他遺構と接合・同一個体関係が認められるものは、浅鉢132と壺279、深鉢144・291・292であり、SD192周辺の土坑群から出土している。深鉢144と深鉢292は共にSK252出土である。

当段階の分布状況を見ると、調査区北側は包含層からの出土状況も含め前段階の分布を踏襲しており、そこに調査区南側の土坑群と住居跡SI837が加わる状況となっている。

当段階出土土器はⅠ群Ⅱ類(132・198・271・272)、Ⅱ群Ⅱ類(144)・Ⅲ類(282)・Ⅳ類(41)、Ⅲ群Ⅰ類(42・196)・Ⅱ類(274～277)、Ⅳ群Ⅰa類(48・145)・Ⅰc類(44・45)・Ⅱ類(49・50・190・192・283～285)・Ⅲ類(47・51・286・288・290～293)・Ⅳ類(46・191・199・279・294・296)である。

(SD192Ⅰ層段階)(第107図・図版93)

SD192Ⅰ層からはⅠ群Ⅲ類の注口土器253～255、浅鉢256が出土している。またSD192Ⅰ層と並存していたSD338から壺312が出土している。壺312は胴部の装飾文様帯界線に接する台形状または鉤爪形の副要素が施されておりⅠ群Ⅱ類に分類される。

接合・同一関係を見ると、○で示した4か所に集中していることが分かる。当段階の分布状況はSD192・338周辺のみ集中する。

当段階出土土器はⅠ群Ⅱ類(312)・Ⅲ類(7・152・246・253～256)、Ⅱ群Ⅲ類(2)・Ⅳ類(110・261)、Ⅲ群Ⅱ類(1・257)、Ⅳ群Ⅰa類(100・118・262・264)・Ⅱ類(3・229・231・260・263・315)・Ⅲ類(101・265～269・314)・Ⅳ類(4・259・270・316)である。

(Ⅴb層検出遺構出土土器)(第108図)

第108図は土器が出土しているⅤb層中検出の遺構群と、その接合・同一個体関係図である。SD192が完全に埋没した段階である。SI710・SK1015がⅤb1層検出であり、他はⅤb層中、またはⅤb2層検出の遺構群である。

まず遺構群の分布と接合関係の状況を根拠にA～Dグループにグルーピングした。A・Bグループは前段階からの分布を踏襲し、Aグループは埋没したSD192・338の上部に展開している土坑群である。Cグループは調査区南東側の土坑群と住居群、Dグループは西側の住居群からなる。

当段階のⅠ群土器は4a類(64・121・185・419・427・428)・4b類(139・170・202)・5a類(52)・5b類(20・94)・5c類(156)・6a類(68)・6b類(26・27(同一個体)・174)である。6b類浅鉢174(Dグループ:SK1015出土)のみがⅤb1層出土であり、他は全てⅤb2層出土である。

分類別に出土状況を確認すると、4a・4b類はBグループ(4a類:121・419、4b類:139・170)・Cグループ(4a類:64・185、4b類:202)にまとめ、Aグループ・Dグループから4a類の破片資料(121・427・428)が

出土している状況である。

5a・5b・5c類はDグループ内にまとまり（5a類：52、5b類：20、5c類：156）、5b類はAグループからも出土が認められる（94）。

6a類（68）はCグループ、6b類（26・27）はDグループ出土である。

グループごとの出土状況は、B・Cグループが4類のZ字文・鉤爪形の文様が主要素となる雲形文系統であり、Dグループには5類の釣針文系統がまとまっており、装飾文様の系統により分布にまとまりが認められる。Aグループのみが雲形文系統の4a類と釣針文系統の5b類が出土している。そのAグループの接合関係に注目すると、地文深鉢の接合関係にa～cのまとまりが認められる。aグループの土坑群では地文深鉢125、bグループの土坑群では地文深鉢93、cグループの土坑群では地文深鉢116が接合関係を成しており、aグループのSK245から4a類121、bグループのSK63から5b類94が出土している。cグループのSK394出土の壺115は口縁端部に小突起と短沈線が施される新しい属性を有している。Aグループ内の土坑群は、系統もしくは時期が異なるグループにより利用されていた場である可能性が高い（本節C3）①第124図）。

次にこれらI群土器の新旧関係について見ると、個々の出土状況から直接に新旧関係が把握できる事例は少なく、遺構出土の例ではDグループ内の5a類浅鉢52と5b類浅鉢20、6b類浅鉢26・27（同一個体）、同じく6b類浅鉢174についてのみである。まず6b類浅鉢174はV b1層出土であるため、本遺跡I群土器の中で最も新しい段階に位置付けられる。その他はV b2層検出であり、5a類浅鉢52がSI501から出土し、そのSI501出土の無文浅鉢54がSI831と接合関係にある。SI831はSI579に切られ、そのSI579掘方から6b類の浅鉢26・27が出土しているため、6b類26・27は5a類浅鉢52よりも新しい。そしてその6b類26・27はSI580の床面から5b類浅鉢20と伴出している（図版30）。

以上の遺構の新旧関係と接合関係からは「5a類浅鉢52→5b類浅鉢20＝6b類浅鉢26・27」の新旧関係と同時存在性が確認された。その他のI群土器については直接に新旧関係を示す事実根拠は認められなかった。

当該段階出土の他群土器はV b2層段階がII群2類（71・138）・3類（16・178・248（同一個体）・21・28・89・115・127・157・160・237）・4類（9・235）、III群1類（54・184）・2類（37・65・69）・3類（75）、IV群1a類（169）・1b類（181）・1c類（142・209）・2類（10・72～74・113・116・125・135・168・179・210・242）・3類（11・12・17・81・93・97・111・122・140・141・211）・4類（18・85・90・120・123・126・128・158・166・171・177・186・188・203・213・241）であり、V b1層段階がIII群2類（56）、IV群1c類（60・61）・2類（58・59）・3類（62）である。

3）土器の変遷（第109～111図）

上記の出土状況を踏まえて第109・110図に本遺跡の土器の変遷を示した。それと同時にI群土器については本遺跡周辺で比較が可能な五泉市矢津遺跡の類似資料についても提示した〔荒川2009〕。さらに本遺跡から北に100mほど離れたところに位置する大沢谷内北遺跡〔前山・伊比ほか2010〕は本遺跡の次段階に位置づけられる遺跡であり、当該地域での変遷を捉える上で重要と考え代表的な資料を提示してある。

（1段階）

V c層（SD192 III層）段階の土器群である。

I群（装飾土器） I群1類が対応する。矢津遺跡類似資料として浅鉢327と鉢222を対応させた。浅鉢327はやや簡略化したZ字文を主要素として鉤爪形の副要素が重なり、宙に浮いている。底径の小さい器形からも本遺跡I類と適合する。鉢222は本遺跡深鉢401と非常に類似している資料である。その他に本遺跡I群7類浅鉢320が当該段階に属すると考える。

II群（有文土器） II群は二溝間の截痕が施される1類と平行沈線文が施される3類である。

III群（無文土器） III群は2類の壺（302）が出土しており、肩が丸い器形である。

IV群（地文土器） IV群は口縁部に無文帯と結節回転文が施される1a類、その他に2類、4類が出土している。

地文は斜縄文が大半で、2類306のみ網目状撚糸文である。307の斜縄文は縦位施文となっている。

当段階は大洞C1式終末期に比定される。

(2段階)

Vc層(SD192Ⅱ層)段階の土器群である。

I群(装飾土器) I群2類が出土している。矢津遺跡類似資料として浅鉢254・263・264・322を対応させた。矢津遺跡浅鉢322は底径の大きい器形・口縁部装飾・主文様が文様帯界線と接する点など、本遺跡浅鉢272と類似する。ただし本遺跡272のモチーフの方がより直線化しており新相の可能性がある。

Ⅱ群(有文土器) Ⅱ群は平行沈線間に刺突文が施される2類が出土している。3類の平行沈線下には結節回転文が施されている(282)。

Ⅲ群(無文土器) Ⅲ群は他段階に比べて量が多く、2類の浅鉢の器形は装飾浅鉢と対応している。

Ⅳ群(地文土器) Ⅳ群では3類が出現し、網目状撚糸文が定着する。2類は前段階と同様に斜縄文と網目状撚糸文が施され、斜縄文のものは縦位施文が多い。

当段階は大洞C2式Ⅰ期に比定される。

(3段階)

Vc層(SD192Ⅰ層)段階の土器群である。

I群(装飾土器) I群2類・3類が出土している。当段階において前段階までの装飾文様の構成に変化が生じ、大柄な副要素の発達が認められずに三叉文が施されるものが出現する(3類)。この要因として1・2段階における鉤爪形の副要素が主要素化して独立する可能性が推測される(253)。つまり当段階では、前段階から継続する大柄な副要素が文様帯界線に接するもの(2類312)、主要素がZ字文で副要素が三叉文のもの(3類7・256)、主要素が鉤爪形の文様で副要素が三叉文のもの(3類253)の3系統に派生すると思われる。

矢津遺跡類似資料は浅鉢252・253を対応させた。当段階の浅鉢は装飾文様帯が胴部上位に狭まる。

Ⅱ群(有文土器) Ⅱ群に明確な文様帯をもつものは出土していない。新たな特徴として地文に縦位施文の撚糸文が用いられたもの(2)、無文の外反する口縁部となるもの(110・261)が現れる。

Ⅲ群(無文土器) Ⅲ群では底面が丸く浅い器形のもの(1)が出土している。

Ⅳ群(地文土器) Ⅳ群では口縁部に無文帯と結節回転文を有する1a類の地文に、網目状撚糸文が施されるようになる。また3類にもⅡ群土器と同様に地文が撚糸文のもの(267・268)が出土している。2類の斜縄文の施文方向は前段階と異なり横位施文となっている。壺では頸部に結節回転文が施されたもの(260)がある。

当段階は釣針文の出現が認められない点から、大洞C2式Ⅰ期の範疇と考えたい。

(4段階)

Vb2層段階の土器群である。

I群(装飾土器) I群は4a・4b・5a～c・6a・6b類が出土しており、前段階までとは異なり類型が増える。4類は雲形文の系統であり、4a類は従来の雲形文の主要素であるZ字文、4b類は前段階で主要素化したと推測した鉤爪形の文様が施されており、本段階ではこれらの主要素がさらに崩れる。5a～c類は釣針文の系統である。6a・6b類は胴部下位に無文帯を有するものである。

上記の出土状況の分析からは釣針文系統では5a類→5b類の新旧関係が確認され、また5b類と6b類の共伴関係も確認された。他のI群土器についても新旧関係が存在すると想定されるが、出土状況からは直接の根拠を見出すことができなかった。型式学的に見ると、まず5c類156は釣針文成立後の段階であり5b類・6b類と同段階に位置付けられよう。Cグループ(第108図)の6a類68は胴部下位に無文帯を有しているが文様帯界線が平行沈線となっておらず、さらに胴部の雲形文の構成は上述の2段階における2類と同様であるため6b類より古い様相が強い。他のCグループの土器群では新しい属性が認められるものがあり、4b類202は、口縁部に若干の無文帯を有し、装飾文様は大洞C2式Ⅲ期に盛行する横位のC字文とそれに対となる三叉文に変化する

途上のようにも見える。さらに頸部に隆帯が貼り付けられた壺の頸部片（204：SK969）が出土しており新しい属性といえる。これに対しBグループでは本遺跡3段階からの遺構を継続使用しており（SX136）、分布位置も前段階を踏襲しているため前段階からの継続性が強い。このように考えると4a類・4b類の雲形文系統内においても新旧関係が存在する可能性がある。

本段階のI群土器は、前段階に分離したと考えられるZ字文と鉤爪形の文様がより形骸化し（4a類・4b類）、それと同時に釣針状の弧線モチーフの出現（5a類）・浅鉢胴部下位の無文帯の出現（6a類）、その後の釣針文（5b類・5c類）と浅鉢胴部下位の無文帯が確立する段階である（第111図）。5a類の釣針状モチーフは直線状のZ字文系統から派生し、5b類の釣針文についてはI群2類の文様帯界線に接するZ字文または副要素から派生するものとする。

矢津遺跡類似資料として4a類に対応するものは浅鉢257・259・260・261、鉢225・228が類似する。4b類では本遺跡深鉢170と非常に類似した深鉢204が出土している。鉤爪形の文様が崩れて沈線化している点まで類似する資料である。本遺跡4b類深鉢202と類似する資料として深鉢208がある。上述したCグループSK969出土の壺頸部片204と同様の带状隆帯が貼り付けられたものとして壺335がある。

5b類・6a類に関連する資料として、矢津遺跡出土資料の中に釣針状のモチーフと無文帯を有する浅鉢328がある。装飾文様は大洞C2式I期（I群2類）の文様帯界線に接するZ字文の主要素または台形・鉤爪形の副要素が釣針文へ変化する途上のもので捉えられ、胴部下位に無文帯を有しているが文様帯界線は6a類と同様に明確な平行沈線とはなっていない。5b類釣針文の発生と、無文帯の発生について示す資料と考える。

矢津遺跡では釣針文が施された資料が少なく、274の浅鉢胴部下位の破片資料が数少ない例である。本遺跡5b類浅鉢20bと似た構図となっているが274のほうが副要素が目立つ。6類についても資料は少ないが、明確な文様帯界線による無文帯を有する浅鉢255がある。

II群（有文土器） I群以外の土器群については細分が困難なため当該段階を一括して示す。II群では外反する口縁部が定着する。2類・3類に施される平行沈線の中には、きっちりとした平行沈線にならず間隔が乱れるものが存在する（21・138）。特徴的なものとして船底形の浅鉢178が出土している。壺115の口縁端部には山形の小突起と、その間に短沈線が施されている。

III群（無文土器） III群は前段階でも見られた底面が丸く浅い器形の浅鉢（54）と、内湾する器形の浅鉢（37・65・184）がある。その他に口縁部には横位、胴部には斜位・縦位方向の指ナデ痕がのこる3類の深鉢（75）が出土している。ナデ方向はIV群3類の施文方向と同一であり、口縁部文様帯を意識している。

IV群（地文土器） IV群においてもII群と同様に外反する口縁部のものがある（169・181・209）。2類の口縁部に施される結節回転文には横8字状のものが新たに出現する（125・179）。地文には斜縄文・網目状撚糸文・撚糸文が施される。斜縄文が施される場合は横位施文であり、結節斜縄文の場合は縦位施文（210）となっている。3類では壺（111）で肩と胴部の施文方向を変えるものがある。3類の地文は網目状撚糸文が大半を占めている。4類の地文は斜縄文が主体であり、施文方向は横位と縦位がある。他に羽状縄文（123）、網目状撚糸文（188・241）が施されるものもある。壺では口頸部が非常に短い器形のもの（177）がある。

当該段階は大洞C2式II期古段階を主体とするが、新段階の属性も認められる。

（5段階）

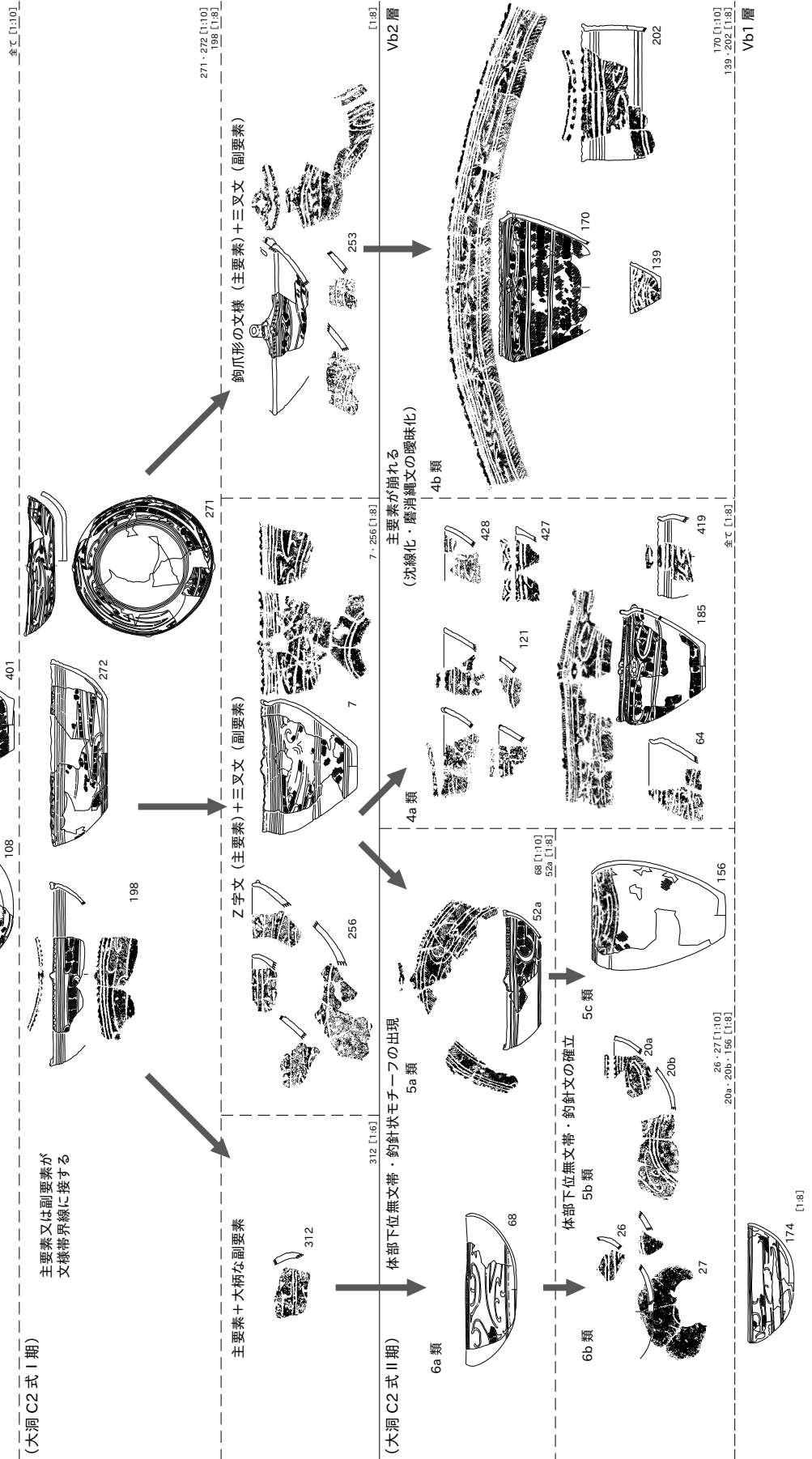
V b1 層段階の土器群であり、本遺跡で最も新しい段階に属する。

装飾土器はI群6b類の浅鉢174のみが出土している。胴部下位の無文帯は前段階から発生しており、さらに次段階へ継承される属性である。浅鉢174は器面風化が著しく文様構成が判然としない。退化したZ字文、または鉤爪状のモチーフが横位楕円化しているものであろうか。次段階の属性である口縁部の無文帯はまだ形成されていない。

その他の土器は無文土器III群2類（56）、地文土器IV群1c類（60・61）・2類（58・59）・3類（62）のみであ

(大洞 C1 式終末)

Vc 層



第 111 図 大沢谷内遺跡装飾土器文様変遷図

る。IV群土器の地文は縦位の網目状撚糸文と斜縄文である。

当段階は大洞 C2 式Ⅱ期新段階に比定される。

（大沢谷内北遺跡出土土器）

大沢谷内北遺跡からは、装飾土器Ⅰ群に相当するものは大洞 C2 式後半に位置づけられる一群が出土している。鈴木氏の段階設定〔鈴木 1991〕を参考にすると大洞 C2 式Ⅲ期からⅤ期に比定され、いわゆる上野原段階直前から上野原段階に相当する。浅鉢の特徴は本遺跡4段階から出現する胴部下半の無文帯と、新たなものとして口縁部の無文帯化と肥厚化、頸部の眼鏡状隆帯の出現が挙げられる。主文様は本遺跡4段階以降の退化した雲形文や釣針文の磨消部が変化し、単位文化している。横長楕円文（38・176・230）・三角連繫文（137・139・231）が当段階の主要モチーフである。

有文土器Ⅱ群に相当するものでは、前段階から継続するものとして平行沈線間に刺突文が施される2類（117）、平行沈線文が施される3類（4・130）がある。130の口縁部の小突起外面に施された三角形の彫去は新しい傾向である。本遺跡で出土していない例としては口縁部に方向の変わる集合短沈線文が施される234、指頭圧痕文が施される95・236がある。

無文土器Ⅲ群に相当するものでは縦位方向のケズリが施された93の小形深鉢がある。

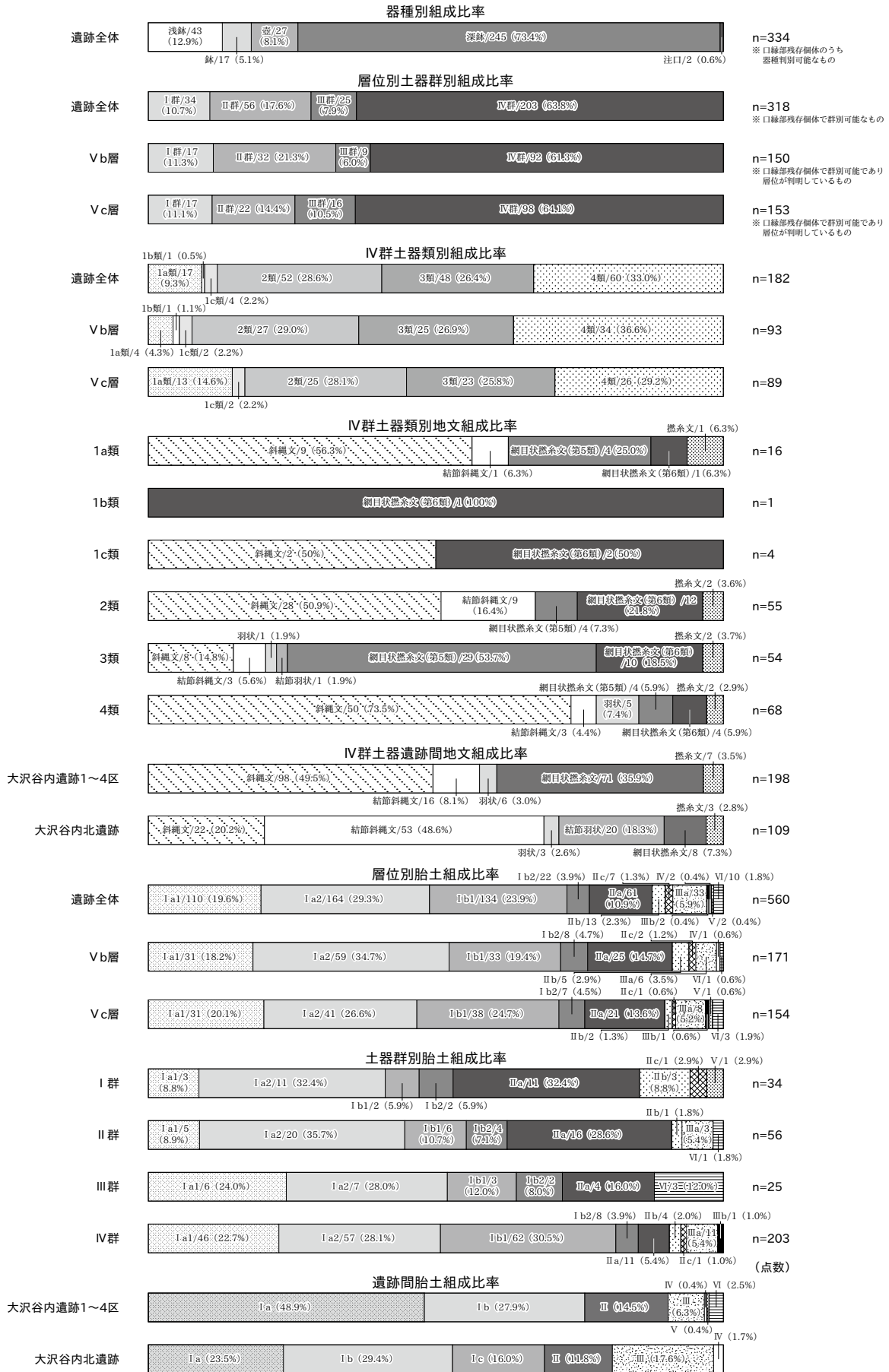
地文土器Ⅳ群では口縁部に無文帯を有し結節回転文が施される1a類に相当するものとして131・147・237がある。237は新しい特徴として口縁部が肥厚する。口縁部に結節回転文が施される2類に相当するものは新しい傾向が顕著となる。前段階までは結節回転文が1・2段であったのに対し、大沢谷内北遺跡段階では非常に幅広い無文部を設定し、そこに数段の結節回転文が施されている（79・225）。結節回転文の種類も本遺跡と同じ横S字・Z字・8字状のものに加え、緩く結節した原体による幅の広い結節回転文が施されるものも出現する（62・145）。また本遺跡では胴部の地文に網目状撚糸文が施されるものが一定量存在していたが、当段階では著しく減少し、斜縄文・結節斜縄文が大半を占めるようになる。同一原体を口縁部には横位・胴部には縦位に施文する3類に相当するものは本遺跡と同様に斜縄文・網目状撚糸文・撚糸文が施されている（110・185・207）。しかし地文土器全体の中で占める3類土器の比率は大きく異なり、本遺跡で26.4%を占めていたものが大沢谷内北遺跡では僅か2.5%となり、主要な施文方法ではなくなるようである。4類に相当するものでは本遺跡では確認されなかった網目状撚糸文が横位施文されるもの（107）が一定量出土している。

以上のように矢津遺跡、大沢谷内北遺跡を含めて大洞 C2 式期を中心とした土器変遷について見たが、Ⅰ群に比べ他群の変遷は非常に緩やかであり、個々の土器での段階設定を困難にしている。しかしながら僅かではあるが各段階において特徴が見出され、大洞 C2 式前半期（大沢谷内遺跡3・4区）と後半期（大沢谷内北遺跡）での差異は大きなものがある。本遺跡と大沢谷内北遺跡の調査により当該地域の大洞 C2 式期の様相は、装飾性が乏しい土器群も含め、ある程度把握できたものと考えられる。本遺跡南に位置する大沢谷内遺跡5・6区において晩期後葉の土器群が出土しており、より一層の当該地域における晩期土器群の変遷が補完されよう。

4) 胎土について

第112図には第Ⅴ章第1節において分類した本遺跡出土土器の胎土組成を示した。層位別の胎土組成を見るとⅤc層・Ⅴb層・遺跡全体で比率がほぼ同じであることが分かる。このことは遺跡利用時を通して土器の製作・供給元が安定していたことを窺わせる。

次に土器の群別の胎土組成を見ると、Ⅰ群・Ⅱ群土器で多く用いられているのがⅠa2類とⅡa類であり、ともに破碎した石英・長石が多量に含まれているものであることがわかる。Ⅲ群土器ではⅠa1類とⅠa2類が多く、磨耗・破碎の別はあるが、胎土に石英・長石が含まれるものを用いており、また他群ではほぼ用いられていないⅥ類も用いられている。Ⅵ類は海綿骨針以外の含有物を含まない緻密なものであり、無文土器製作のために意図的に選択された可能性がある。Ⅳ群土器では幅広く胎土が選択されており、Ⅲ類の使用も見られる。最も特徴的なのがⅠb1類の高い比率であり、他群とは異なる傾向を示している。さらにⅠ～Ⅲ群で高い比率を示すⅡa類



第 112 図 大沢谷内遺跡下層土器器種組成・地文組成・胎土組成比率図

の比率は低く、破碎した石英・長石を含む比率がⅠ～Ⅲ群より低いと言える。このように土器分類と胎土分類にはある程度の傾向が認められ、製作対象により胎土を選択していたことが推測される。

本遺跡の次段階に位置づけられる大沢谷内北遺跡の胎土比率と比較すると、本遺跡ではⅠa類48.9%、Ⅰb類27.9%、Ⅱ類14.5%、Ⅲ類6.3%、その他3.3%であるのに対し、大沢谷内北遺跡ではⅠa類23.5%、Ⅰb類29.4%、Ⅰc類16.0%、Ⅱ類11.8%、Ⅲ類17.6%、その他1.7%となり、Ⅰc類の出現とⅢ類の増加が認められる。このことは土器の供給・流通経路に変化が生じた可能性を示唆している。

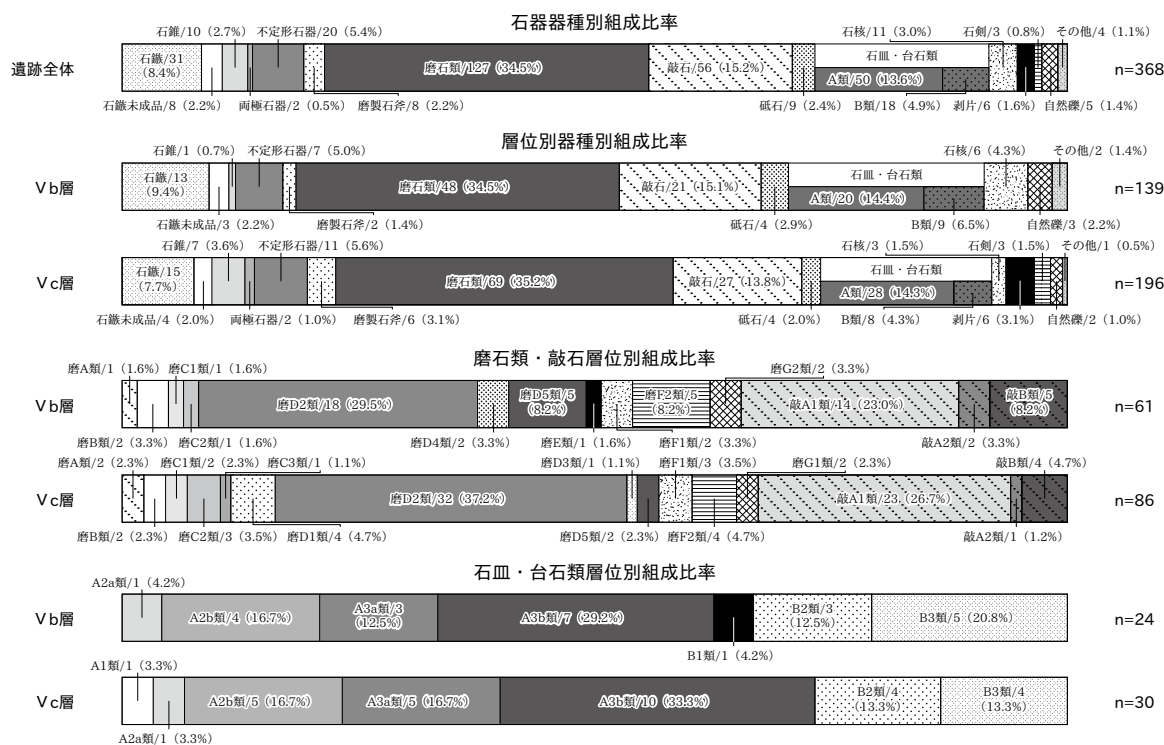
B 石 器

本遺跡出土石器群の時期は出土土器の様相から縄文時代晩期中葉前半に属すると考えられる。さらに土器の様相からVc層段階は大洞C1式終末～C2式Ⅰ期、Vb層段階は大洞C2式Ⅱ期に属することが判明しており、より短期間の石器群の位置づけが可能となっている。ここでは遺跡全体の石器組成、各段階の石器組成、石材の選択性について整理し、周辺遺跡と比較することで本遺跡石器群の位置づけを行う。石器の出土状況については本節「C遺構と遺跡」において場の機能の推定と生業の分析とともに記載している。

1) 石器組成

第113図には遺跡全体と各層段階の器種別組成比率を示した。まず遺跡全体の比率を見ると、磨石・敲石類が突出した割合を示し、49.7%（183点）と半数を占める。中でも調理加工具の用途が推定される磨石類が34.5%（127点）であり、本遺跡の主要石器である。これと対になる石皿・台石類の比率が次いで高く18.5%（68点）となり両者のセット関係をよく示している比率となっている。

各層段階の組成比率を見ると、両段階において磨石類、敲石、石皿・台石類が突出した比率となり、同様の傾向を示している。このことは時期を違えても同様の作業が行われていたことを示しており、つまりは同様の目的で遺跡が利用されていたことを窺わせる。本節Cで述べているが、Vc層段階とVb層段階では遺構の構成が大きく変化している。前者は掘立柱建物と焼土遺構が主体の短期居住型であり、後者では住居群が主体となる定住型の構成である。このように生業に変化がないにもかかわらず居住形態に変化が見られるということは、本遺



第113図 大沢谷内遺跡下層石器器種別組成比率図

跡と周辺の関係集落を包含する当時の社会に何らかの変化が生じたことが窺える。

2) 磨石類、敲石、石皿・台石類について

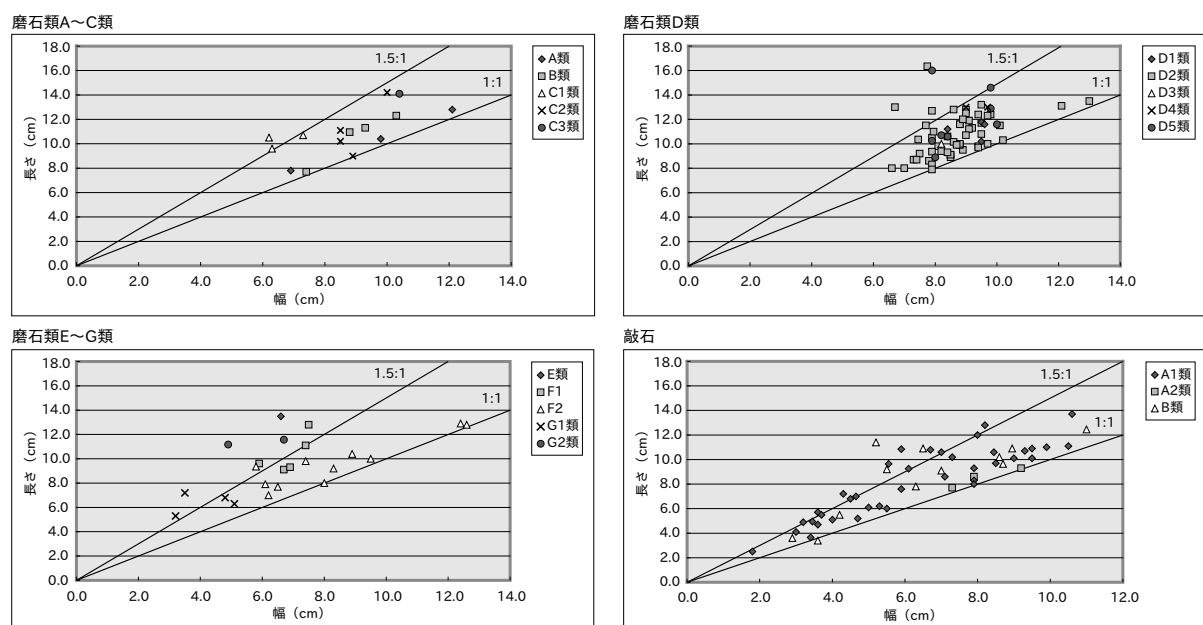
第113図には本遺跡主要石器の磨石類、敲石、石皿・台石類の各層段階の細分類別組成比率も併せて示してある。磨石類・敲石の組成比率では、V b 層段階になると敲打痕のみの磨石類E～G類と敲石の比率が増加し、石皿・台石類の構成比率ではV b 層段階になると砥石・台石としての機能が推測されるB類が同様に増加しており、両者に相関性が見られる。つまり磨石類A～D類と石皿・台石類A類、磨石類E～G類・敲石と石皿・台石類B類が対応関係にあることを示唆している。

第114図には磨石類と敲石の長幅比を示した。まず磨石類について見ると、磨痕のみのA類は長幅比がほぼ1:1の正面形が円形のものであり、扁平な礫が用いられている。B類・C2類・C3類については長さ8.0～14.0cm、幅8.0～10.0cmの範囲に集中している。これらはD類の集中範囲と対応している。C1類は長さ10.0cm前後、幅6.0～8.0cmにまとまり、長幅比が1.5:1となる。C1類は敲打痕が上下端部に認められるものであり、やや縦長の素材礫を選択している。

本遺跡で主体を成すD類は長幅比1:1～1.5:1の間に大半がまとまり、長さ8.0～14.0cm、幅8.0～10.0cm付近に最も集中している。ほぼ同規模の素材を選択していることが窺える。

E・F・G類は凹痕を含め敲打痕のみが認められるものである。E類は1点のみであるが長幅比が2:1であり、縦長の素材礫を用いている。敲打痕の位置を見ると正裏面中央ではなく上下端部側に片寄っている(313)。これは縦長の礫素材の一方を持ち、ハンマーのように使用した結果であると考えられる。F1類・G1類・G2類もやや縦長の素材を用いており、これらは上下端部に敲打痕が認められる点で共通している。F1類とG1類は素材礫の形状は長幅比1.5:1で類似しているがF1類が長さ9.0～13.0cm、幅6.0～8.0cm、G1類は長さ5.0～8.0cm、幅3.0～8.0cmの範囲にまとまっており、F1類が一回り大きい。F1類は正裏面にも敲打痕(凹痕)が認められるため、正裏面利用の用途により大きいサイズの礫が選択されたか、G1類が小型の対象物のために選択されたのであろう。F2類は長幅比が1:1付近であり、正面形が円形を呈するものが多い。断面形状も扁平なものが多い。使用痕では正裏面に他類と比べ明瞭な凹痕が認められる。扁平な形状と明瞭な凹痕から、手で保持して使用方法のほか凹部分に対象物を据え置く小型の台石的な機能も考えられる。

次に敲石について見ると礫素材を用いるA1類と、分割礫素材または石皿・台石類の分割片を素材としているB類の分布範囲が重なる点が注目される。さらに上述の敲打痕のみの磨石類E～G類の分布範囲とも重複する。



第114図 磨石類・敲石各長幅比

これは「敲打」という行為に適したサイズを示しており、分割片を素材とする際にも最適な法量のものを選択していることがわかる。ただし石材選択では敲打 A1 類では硬質のチャートが積極的に用いられているのに対し、磨石類は軟質の石材である。これは敲打という行為は共通するが対象物が異なることを示していると言えよう。

（磨石類・敲打の利用について）

上述のように本遺跡において主体となる磨石類と敲打は何に利用されていたのかを考察する。磨石類については従来から石皿とセットになり植物質食糧の磨り潰しに用いられたと考えられており、本遺跡における食料残渣の主体をなすヒシの実、またはクルミがその対象物に挙げられる。敲打は硬質な石材が選択されており、石器製作に用いるハードハンマーとしての役割が推測され、本遺跡出土の石核・剥片、石鏃未成品はその対象物であろう。しかしながらそれらの石器製作に関する遺物、つまり石核・剥片・破片は非常に少なく、敲打の量とは比例しない。小型石器の搬出の可能性を仮定しても、その作業残渣があまりにも少ない傾向にある。Vc 層段階の出土位置を見ると（本節C第117図）、磨石類と敲打に分布の偏りはなく混在しており、磨石類を用いた作業と関連する機能も推測される。具体的には上述の磨石類の対象物と推定したヒシの実とクルミに関する作業であり、クルミ核は言うまでもないが、ヒシの実も茹で上げる、または乾燥するとすぐに殻が硬質化して剥くことが非常に困難となるため、このような敲打を殻剥きの作業に充てた可能性は十分に想定される。

本遺跡においては磨石・敲打に他の用途も確認された。本節C4)にて詳述しているが、使用部位にアスファルトが付着した磨石類、また対になる石皿・台石類が出土している。これらは偶然に付着したとは考え難い状況であるため、アスファルトに関する作業に用いられたと推測される（第129・130図）。

時代は異なるが旧石器時代においては磨石類に皮なめしの機能も推定されており〔堤2000pp.78〕、本遺跡の磨石類の利用状況と併せ、「磨石類＝植物質食糧の加工」という一義的な機能推定に注意を促すものとして注目されよう。

3) 石 材 (第33表)

石材は、花崗岩 53 点、閃緑岩 11 点、アプライト 2 点、石英斑岩 4 点、花崗斑岩 10 点、ドレライト 4 点、流紋岩 43 点、石英安山岩（デイサイト）14 点、安山岩 55 点、頁岩 4 点、砂岩 8 点、砂岩（アルコース質アレナイト）29 点、凝灰質頁岩 1 点、凝灰質砂岩 1 点、礫岩 2 点、チャート（変質）25 点、凝灰岩 13 点、流紋岩質凝灰岩 2 点、緑色凝灰岩 2 点、軽石 2 点、黒色片岩 1 点、緑色片岩 1 点、透閃石岩 1 点、ホルンフェルス 10 点、珪質頁岩 16 点、珪質凝灰質頁岩 4 点、玉髄質珪質頁岩 25 点、碧玉（鉄石英）4 点、玉髄 19 点、鉄鉱石 2 点である。

器種別石材については、剥片石器には珪質頁岩・珪質凝灰質頁岩・玉髄質珪質頁岩・玉髄が多く、磨製石斧では閃緑岩・ドレライト・緑色凝灰岩・透閃石岩が用いられている。磨石類には花崗岩・閃緑岩・アプライト・石英斑岩・花崗斑岩・ドレライト・流紋岩・石英安山岩・安山岩・頁岩・砂岩（アルコース質アレナイト）・変質チャート・凝灰岩・ホルンフェルスが用いられ、中でも花崗岩・流紋岩・安山岩が突出している。敲打には花崗岩・閃緑岩・流紋岩・石英安山岩・安山岩・頁岩・砂岩・砂岩（アルコース質アレナイト）・凝灰質砂岩・変質チャート・凝灰岩・ホルンフェルスが用いられ、硬質な石材である変質チャート・砂岩（アルコース質アレナイト）が突出しており、主となる石材が磨石類とは異なるため用途による石材の選択が窺える。

石皿・台石類には花崗岩・閃緑岩・石英斑岩・花崗斑岩・流紋岩・石英安山岩・安山岩・砂岩・砂岩（アルコース質アレナイト）・礫岩・凝灰岩・流紋岩質凝灰岩が用いられ、A類では安山岩・花崗岩・花崗斑岩、B類では流紋岩が突出し、やはり両者に異なる傾向が認められる。

砥石は溝状の研磨痕がのこるA類は砂岩、筋状痕がのこるB類は硬質な砂岩（アルコース質アレナイト）、線条痕が認められるC類には流紋岩・石英安山岩・頁岩・凝灰岩・流紋岩質凝灰岩が用いられ、A・B類が荒砥、C類が仕上げ砥の可能性はある。

石剣には砂岩（アルコース質アレナイト）・黒色片岩・緑色片岩の3種類が用いられている。

自然礫の中には軽石が2点、鉄鉱石が2点あり、軽石の使用痕は不明であるが、鉄鉱石は著しく被熱している。

石材の入手については磨石類、石皿・台石類の主要石材である花崗岩類・流紋岩は阿賀野川流域とその支流である早出川流域、安山岩類は新津丘陵、敲石の主要石材である変質チャートは早出川流域の地質に由来し、剥片石器の主要石材である珪質頁岩類に関しては七谷層の分布域である加茂川流域、五十嵐川流域が推定される〔新潟県地質図2000年度版〕。石皿・台石類に用いられる大型の礫が新津丘陵東方面からの搬入であり、早出川左岸の低位段丘上には本遺跡と同時期に営まれた矢津遺跡が立地しており、石材の入手経路とともに関連性が窺える。またVc層段階とVb層段階において使用石材の傾向に変化が認められないため（第33表）、遺跡継続期間を通して同一の供給元・流通経路を採っていたことが推測される。

4) 周辺遺跡との比較

第34表は石器群を食料の調達・加工に用いたA群、工具的な性格の強いB群、非実用的なC群の三つの石器群に区分した越後平野周辺における縄文時代晩期遺跡の出土石器数の一覧である。石器組成を比較する場合、遺跡の完掘率が問題となるがここでは大まかな傾向を考察し、本遺跡の位置付けを考えたい。まずA群石器については台地・丘陵上の遺跡において石鏃主体型が多く、それらはC群石器を多量に伴う傾向があり拠点的性格の強い遺跡に認められる（村尻・上野原・藤橋遺跡）。沖積地においては石鏃主体型と磨石主体型があり、前者は台地上と同様にC群石器を一定量伴い、拠点的性格の強い遺跡である（野地・青田・御井戸A・蒲田遺跡）。本遺跡は後者の磨石主体型に属し、昼塚遺跡・寺前遺跡と同様の傾向を示す。遺構について見ると昼塚遺跡は小型の掘立柱建物と小型の貯蔵穴・土坑群が主体であり、季節的な作業場所としての機能が推定されており〔折井ほか2007〕、寺前遺跡では木組みの水場遺構が検出され堅果類の水晒し場としての機能が推定され〔高橋保ほか2008〕、両者ともに生産を主とした場であることがわかる。本遺跡Vc層段階では昼塚遺跡と同規模の掘立柱建物群が主体となり（本節C2）③参照）、開析谷SD192の炭化物集中層からはヒシの実の殻が主体的に出土し、さらにオニグルミ核、サケ属の焼骨が出土している。これらの点から本遺跡の機能についても生産を主とした場の利用が推測される。本遺跡Vb層段階では住居群が構築されるようになるが、上述のように石器組成自体に変化はなく、利用の目的はVc層段階と同様である可能性が高い。ただし石器の数量的には乏しくなる。道下遺跡ではほぼ遺跡全体の完掘調査が行われた結果竪穴住居を10軒検出したが、A～C群石器の数量は84点と乏しく、本遺跡Vb層検出住居数12軒に対しA～C群石器の数量86点という傾向に酷似している。胎内川右岸に位置する昼塚・道下・野地遺跡については有機的な関連性の存在が推定されており〔渡邊裕ほか2009〕、本遺跡Vc層段階・Vb層段階の居住形態の変化を解析する際に良好なモデルケースとなる遺跡群である。これについては後述する（本節C5）参照。）。

第34表 越後平野周辺における縄文時代晩期遺跡出土の石器（〔前山2010b〕に本遺跡を加筆）

遺跡名(所在地)	所属時期	立地	A群石器					B群石器					C群石器					総数	
			石鏃	石錘	打斧	磨石	石皿	磨斧	石匙	石錐	石篋	砥石	石棒	石剣	石冠	独鈷	玉類		
道端(村上市)	前葉	沖積地	4			8	2	1	4										19
昼塚(胎内市)	前葉	沖積地	7			35		8	2	1	1	1							55
道下(胎内市)	前葉	沖積地	22			27	1	9	11	5	5	1						3	84
野地(胎内市)	前葉	沖積地	86			63	5	5	7	15	1	15		2			1		200
青田(新発田市)	後葉	沖積地	549		20	345	34	44	3	264	3	64		3	2	4	18		1353
村尻(新発田市)	前葉～後葉	段丘	700			342	8	280	85	180	11	92	79	35	4	1	7		1824
館ノ内(新発田市)	中葉～後葉	段丘	86	1	1	120	45	39	6	9		4	1	3	2	1	1		319
鳥屋(新潟市)	後葉	砂丘地	13			65	3	15	1	11	1	32		1	4			1	147
六野瀬(阿賀野市)	後葉	段丘	84			49	6	18	8	95		5							265
大沢谷内北(新潟市)	中葉	沖積地	2			6	9												17
大沢谷内1～4区(新潟市)	中葉(遺跡全体)	沖積地	31			127	50	8		10		9		3					238
	(Vb層段階)		13			48	20	2		1		4							86
	(Vc層段階)		15			69	28	6		7		5		3					135
上野原(三条市)	中葉	台地	131		2	23	1	18			1			2	1	5	15	1	200
藤平(三条市)	後葉	段丘	79	2	5	8	2	14	8										118
長畑(三条市)	後葉	沖積地	37			12	1	11	1	1		1							66
御井戸A(新潟市)	前葉～後葉	台地・沖積地	105			24	4	20	2	15			1	1	1			1	174
蒲田(弥彦村)	中葉～後葉	沖積地	63	1		20	5	9	1	5			1	1	1				108
寺前(出雲崎町)	中葉～後葉	沖積地	7			118	4	12		4			2	2		1			150
藤橋(長岡市)	前葉	台地	103	4		47	18	37	1	18			26	19	2	1	1	1	278

C 遺構と遺跡

1) 遺跡の変遷

第115図は遺構の層位的な検出状況と本節A項「縄文土器」における土器の出土状況、接合・同一個体関係から導き出されたVc層段階（大洞C1式～C2式I期）とVb層段階（大洞C2式II期）の遺構配置図である。各段階の遺構の構成・配置を概観すると、Vc層段階では東西に走る溝状の自然開析谷であるSD192を中心として、掘立柱建物群・焼土遺構群（SX B類）が両岸に展開し、そこに住居跡2軒、土坑群、炭化物集中（SX C類）が加わる。そしてその南側の遺構が希薄な部分をはさみ、遺構分布範囲最南端に溝状遺構と、ピット群、土坑群が重複し、そこに1軒の住居跡が加わる。等高線を見るとVc層段階の地形は、SD192周辺の遺構分布範囲が標高2.85～3.00mで最も高く微高地化しており、そこから北東側、南側に傾斜し、南側の遺構群との間が低くなる。そして再び緩やかに上がって微高地化しているところに溝状遺構・ピット群・土坑群が形成されている。そのすぐ南はVb層段階の遺跡存続中か廃絶後あまり時間が経過していない段階に形成された谷に切れ、当段階の生活面は存在していない（第IV章第2節B）。

Vb層段階になると遺構群の構成が一変する。住居群が東側を開口して半環状に展開し、土坑群が伴う「集落」へと変化する。住居群が分布する一帯は標高2.95～3.05mと高く、北東～東側に傾斜し低くなっている。

Vc層段階からVb層段階への変化としては、Vc層段階で遺構配置の中心を成したSD192が完全に埋没し、中央の低地部分も微高地化している。調査区西側においてVc層上面を白色砂が覆う現象が認められたため、Vb層段階の地形形成の要因は遺跡西側方面からの流水作用によるもの、つまり信濃川の氾濫により形成された自然堤防状の微高地であると考えられ、遺跡東側はその後背湿地にあたる。

このような自然の営力による地形変化に伴い、当時当該地域に生活していた人々の社会に変化、居住形態の転換が図られたようである。それでは各段階の遺跡の利用目的・機能は何であったのか。以下では生業を踏まえ各段階の場の機能、遺構の機能について考察する。

2) Vc層段階（大洞C1式終末～C2式I期）の遺跡と生業

概要 当段階は土器の分析から大洞C1式終末から大洞C2式I期に営まれている（本節A「縄文土器」）。第117図は当段階における生業関連遺物の出土地点を示した図である。具体的には石器、動植物遺体、アスファルト、赤色顔料に関する遺物の分布である。概観すると、石器については本節B「石器」で示したように磨石類・敲石が主体となっており、その分布は開析谷SD192を中心とする北側遺構群の分布範囲に最も集中している。分布の北限は標高2.70mの等高線付近であり、それ以上低い所からは出土しなくなる。これは土器の分布とも重なり、「場」の利用範囲を示すと同時に、標高が下がる北東側には瀉が存在した可能性がある。遺構群・石器分布の中心となるSD192の炭化物集中層からはヒシの実の殻が多量に出土し、その他オニグルミの核、サケ属の焼骨も出土している。これらの状況から北側遺構群周辺では磨石類・敲石を用いたこれらの加工作業が行われていた可能性が高い。また、SD338西側の炭化物集中SX442・443とその周囲からはアスファルト塊が出土しており、この周辺においてはアスファルト関連の作業が行われていた可能性がある。

南側の遺構群では土坑群からアスファルト塊、赤色顔料ブロックが出土しており、中でもSK722からは焼土・灰・炭化物が互層となる覆土中から、多量のアスファルト塊が出土している。また住居SI837からもアスファルト塊・赤色顔料ブロックが出土しており、この区域での主体的な生業は食糧関連ではなくアスファルト・赤色顔料の加工に関するものと考えられる。

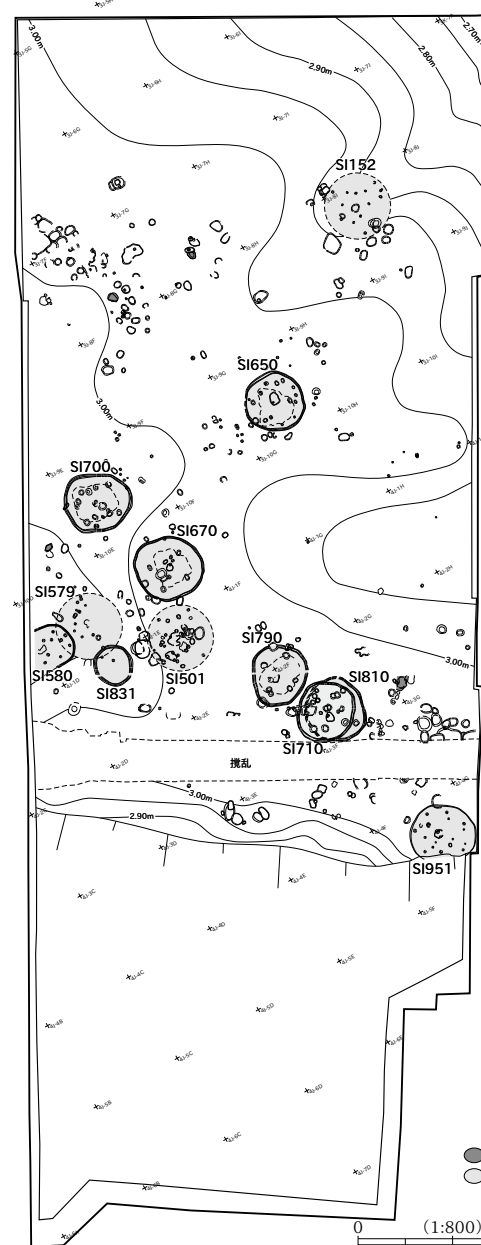
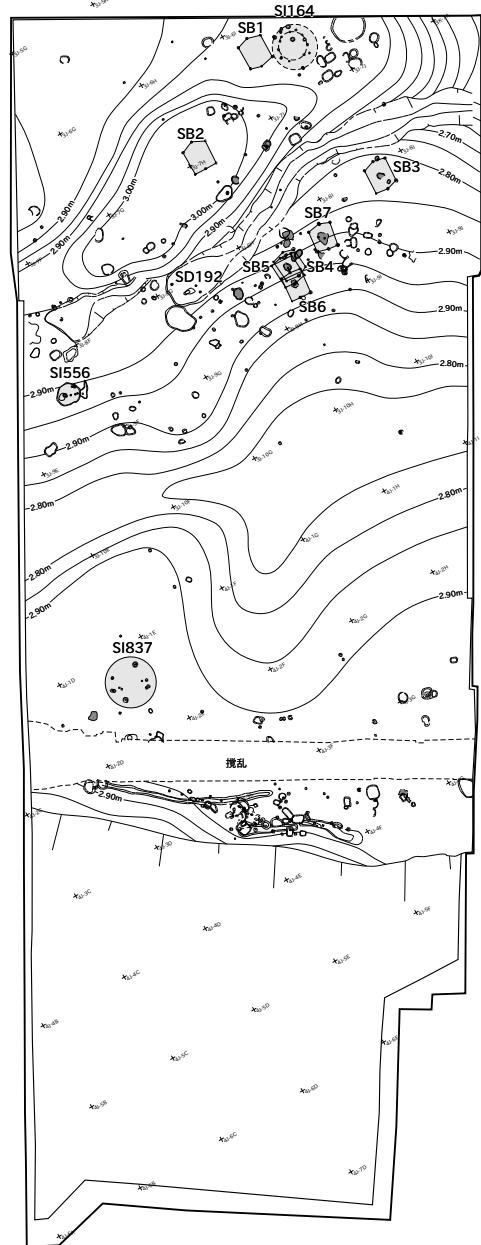
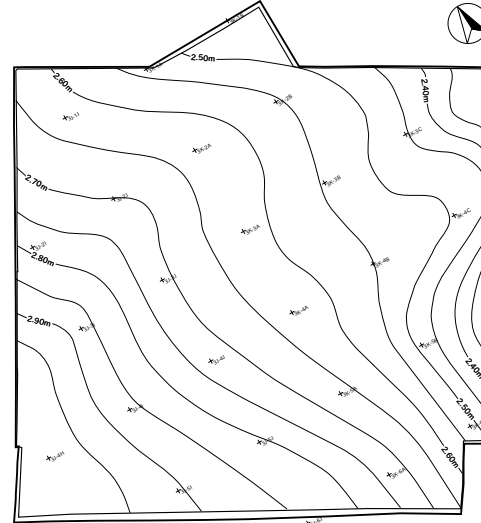
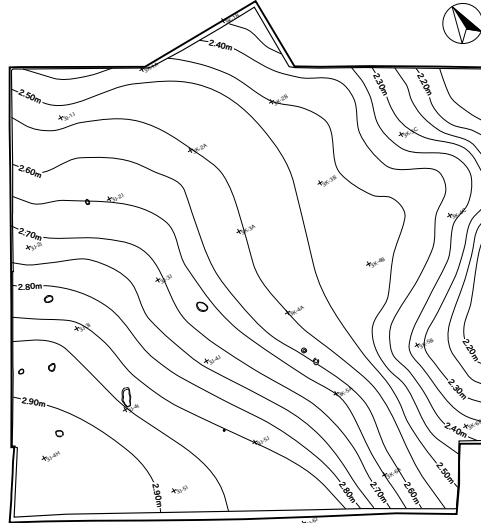
以上の生業関連の情報を踏まえ、各遺構の機能・性格等について考察する。

①自然開析谷SD192・338（第116～118図）

上述のように北側の遺構群はSD192・338を中心として形成されており、作業に関してもその周囲が中心の

Vc層（大洞C1式終末～C2式I期）

Vb層（大洞C2式II期）



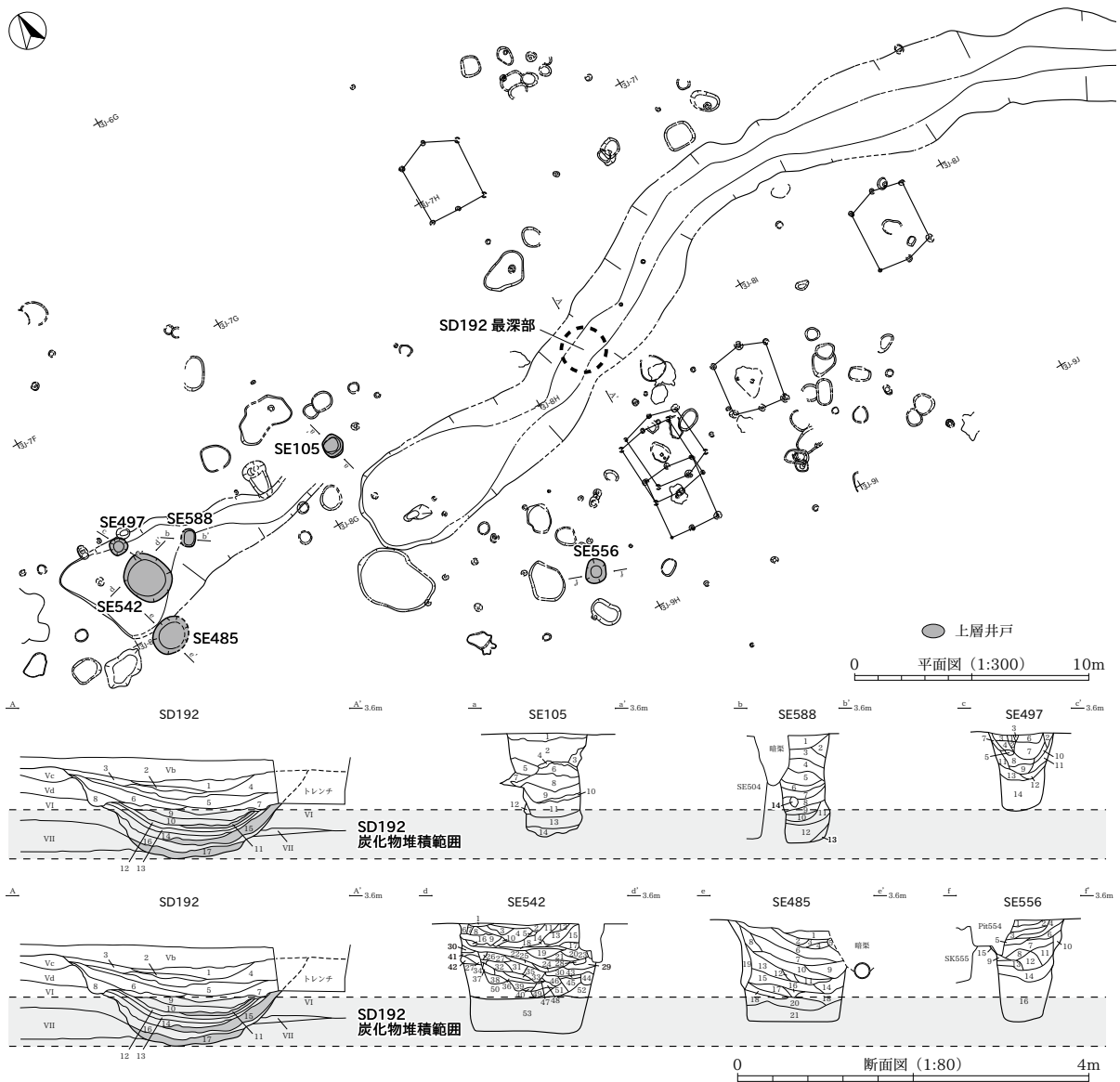
- 焼土遺構
- 住居
- 掘立柱建物

0 (1:800) 20m

第 115 図 大沢谷内遺跡下層 Vc 層段階・Vb 層段階遺構配置図

場であることが石器の分布、その他の生業関連の残渣からも理解できる（第117図）。すなわち当段階の遺跡形成の重要な要因となっているのがSD192・338の存在である。SD192と338はその位置的状況からも一連のものの可能性が考えられる。では、この細長い開析谷がなぜ遺跡の中心を成しているのか、その要因について考察する。

第IV章第3節において述べているが、SD192・338は東側へ緩やかに傾斜しており、3J-7H22グリッド部分が一部分のみ深く落ち込んでいる（第116図、図版92ff' セクション）。遺物の廃棄においても最も集中しているか所であり、この地点の重要性が窺える。この地点の解明のヒントとなるのが上層遺跡における「井戸」である。第116図はVc層遺構群に上層井戸の位置を重ねて示した図であり、上層井戸はSD338と重複、SD192に近接した位置に構築されていることが分かる。つまり地下水脈の存在を示している。そして第116図の断面図はそれらの井戸の断面図とSD192の落ち込み部分の断面図を並べたものであるが、落ち込み部分の底面標高は井戸と同程度もしくは若干深いことがわかる。これらの事象からSD192の落ち込み部分には湧水地点が存在していた可能性が考えられる。そしてSD192の炭化物物集中層は井戸の底面標高の範囲と対応しており、SD192の落ち込み部分では埋没が進行しながらも最上位の炭化物層が形成される段階までは水が湧出し、この地点が利用されていたことが推測される。



第116図 SD192 最深部と上層井戸の底面深度

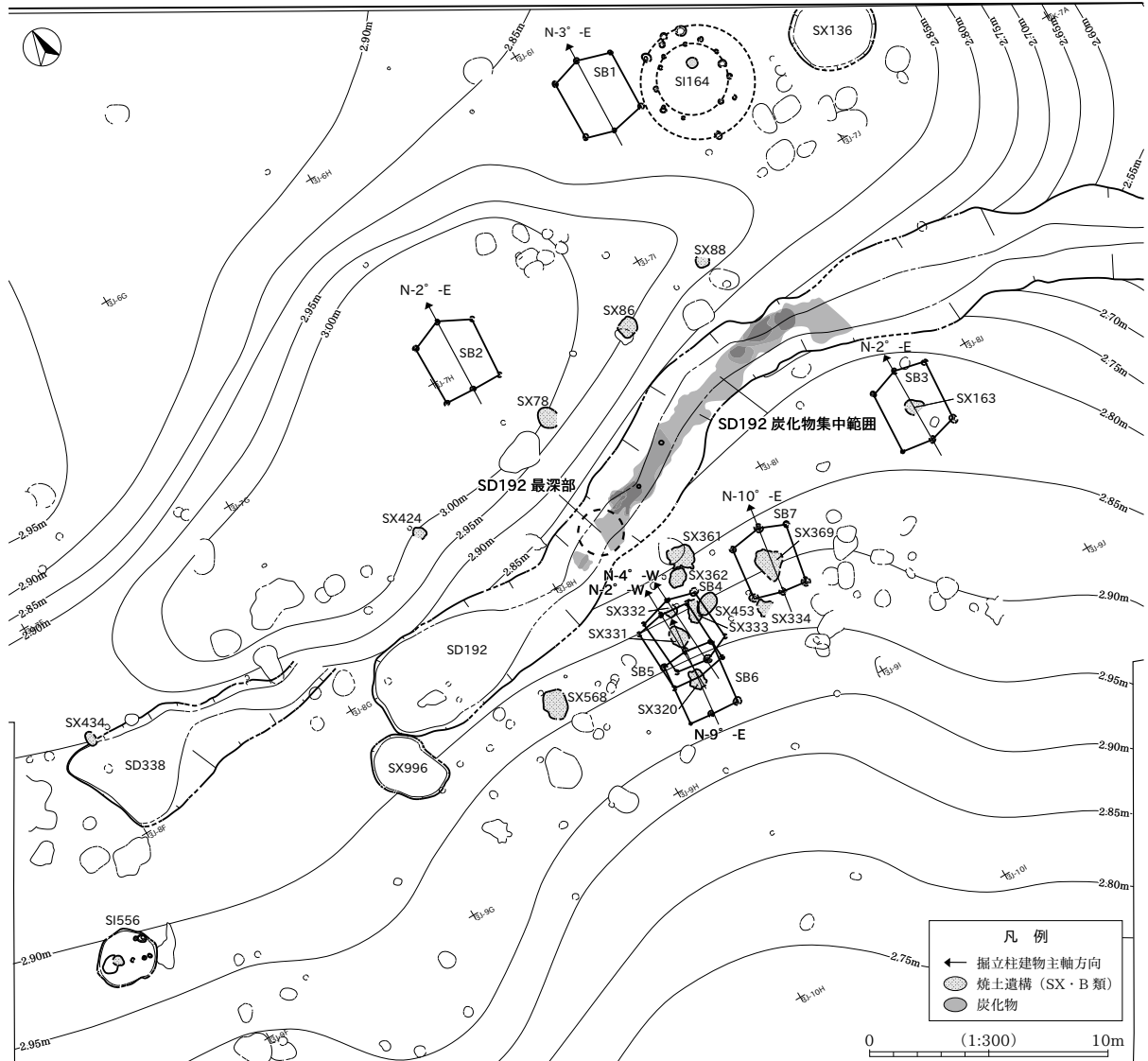
この湧水地点の存在がV c層段階における北側遺構群形成の重要な要因の一つであったと考える。

②焼土遺構 (SX B類) (第118図)

SD192の両岸にSD192に沿うようにして位置している。特に北岸の焼土遺構群は、掘方を有するB1a類が等間隔に位置しており (SX78・86・88・424)、配置に計画性が窺える。南岸にも北岸に対峙するように焼土遺構群が分布するが、様相が異なっている。SD192最深部付近に最も集中しており、さらに注目すべきは掘立柱建物との関係である。身舎のほぼ中心に焼土遺構が位置しており (SB3とSX163、SB4・5とSX333、SB6とSX320、SB7とSX369)、偶然の配置とは考え難く、掘立柱建物の付帯施設としての機能が推測される。

SD192内の炭化物集中範囲は焼土遺構の配置と対応している。そして最も焼土遺構群が集中しているSD192最深部付近が最も炭化物集中が濃いところである。SD192内の炭化物の生成要因が周囲の焼土遺構と関連していることはほぼ間違いないであろう。

SD192内の炭化物集中からは上述のように食料残渣が確認されている。最も多いのは炭化したヒシの殻であり、量的に炭化材を凌いでいる (第Ⅵ章第1節F参照)。その他に炭化して砕けたクルミ核、焼けた動物遺存体が出土しており、その中でも硬骨魚類の椎骨が一定量認められ遼上性のサケ属と考えられている。他にはエイ類の尾棘、鳥類の四肢骨も少数出土している (第Ⅵ章第4節参照)。SD192と焼土遺構群との関連から、遺跡東側の湧



第118図 SD192・掘立柱建物・焼土遺構・住居・小竪穴状遺構配置図

に生育していたヒシの実、周辺湿潤地に生育していたオニグルミ、付近の河川に遡上してきたサケ・マスを採用し、澄んだ水が湧出するこの地点を作業域として磨石類・敲石、石皿・台石類を主な道具に調理・加工を行っていた人々の活動が復元される。

③掘立柱建物（SB）（第118・119図）

掘立柱建物はSD192をはさみ北側に2棟（SB1・2）、南側に5棟（SB3～7）が位置している（第118図）。SB4～6が重複しているため、すべての建物が同時並存していたわけではないことは明らかである。これらの掘立柱建物はすべて南北方向に主軸をもつ。しかしながら遺構分布図を見ると主軸が真北から微妙にずれていることが分かる。そしてこのズレには3パターンあることが判明した。真北から2・3°東方向にずれるⅠ群（SB1～3）、2～4°西方向にずれるⅡ群（SB4・5）、東方向に10°ほどずれるⅢ群（SB6・7）である。これらの群ごとの建物の規模を示した図が第119図である。これを見ると主軸方向が一致しているものは主軸長も一致していることが分かる。さらに主軸柱と側柱間の距離、桁行長または梁間、主軸長に2：4：5の整数比が認められる点も注目される。これはⅠ～Ⅲ群すべてに適用されている。そしてこの整数比から導き出される基準の単位はⅠ群が約0.66m、Ⅱ群が0.61m、Ⅲ群が0.57mであり、成人男性の腕の長さが相当するのではないかと推察する。

以上のことからⅠ～Ⅲ群の差は建築者の差異を示している可能性が高く、Vc層段階の本遺跡は少なくとも3単位の集団により営まれていたことが判明した。

掘立柱建物の機能 ここで本遺跡検出の掘立柱建物と、沖積地における他遺跡で検出された縄文時代晩期の掘立柱建物の構造・規模を比較し、その機能について考察する。

構造・規模の比較 本遺跡検出の掘立柱建物の面積はⅠ群SB1が7.92㎡、SB2が7.56㎡、SB3が推定7.56㎡、Ⅱ群SB4が推定6.76㎡、SB5が推定6.89㎡、Ⅲ群SB6が6.16㎡、SB7が6.25㎡であり、平均が7.01㎡となる。

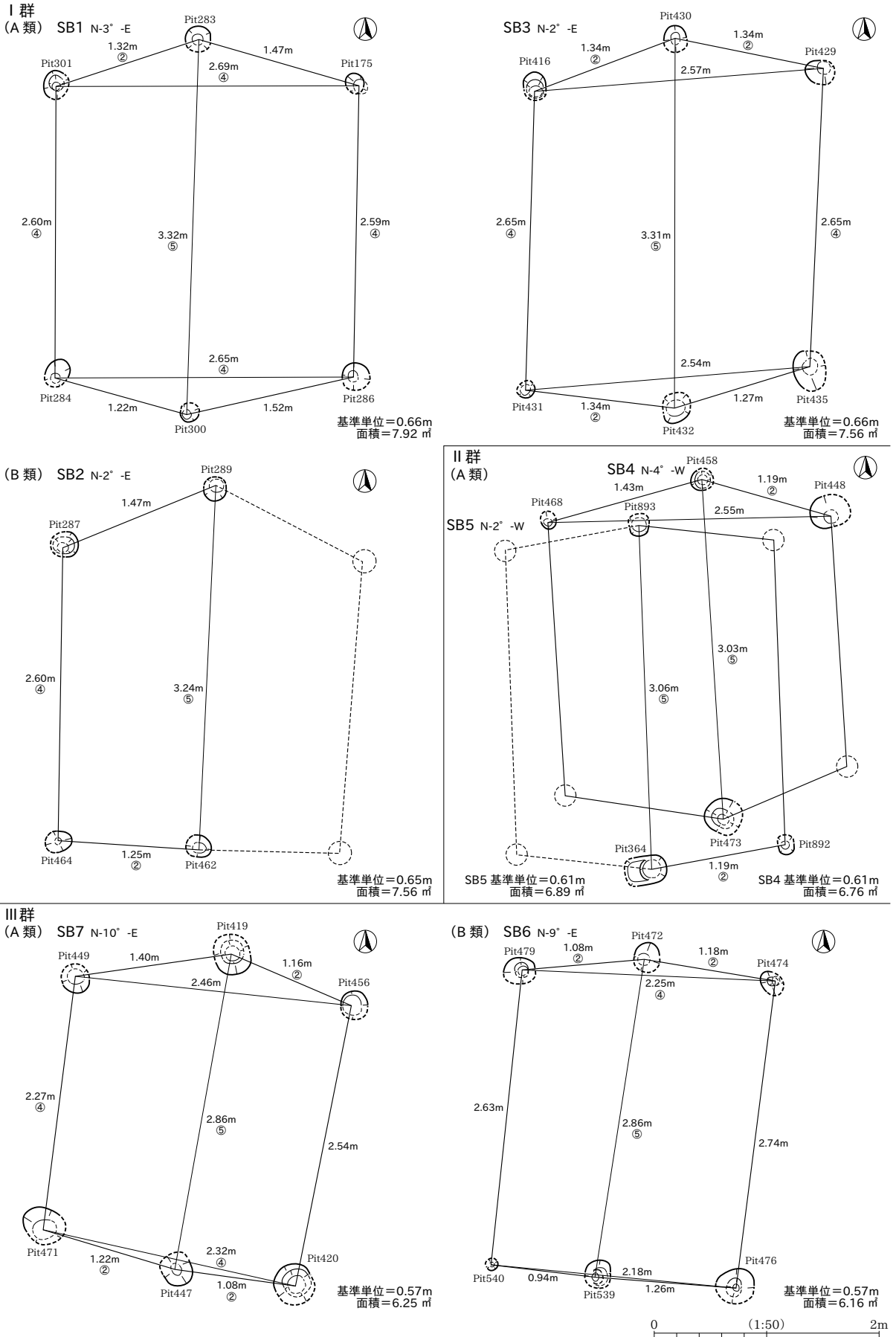
胎内市（旧中条町）に位置する野地遺跡は縄文後期中葉から晩期前葉まで営まれた長期継続型の拠点的性格の強い遺跡である。掘立柱建物は晩期前葉大洞BC式に相当する層に構築されており、長六角形の身舎に落棟が付随する掘立柱建物が1棟検出されている。身舎部分の面積は16.6㎡で総面積は23.6㎡である〔渡邊裕ほか2009〕。

同じく胎内市（旧中条町）に位置し、野地遺跡との有機的な関連が予想される昼塚遺跡では、大洞B2式とBC2式段階の掘立柱建物が検出されている。大洞BC2式段階の掘立柱建物は3棟あり6本柱による亀甲形である〔折井ほか2006〕。規模はSB7が6.15㎡、SB8が8.25㎡、SB9が5.20㎡であり、平均は6.53㎡となる。

新発田市（旧北蒲原郡加治川村）に位置する青田遺跡は沖積平野の低湿地帯に営まれた晩期後葉の掘立柱建物群を主体とする大規模集落である〔荒川ほか2004〕。掘立柱建物は6本柱による亀甲形のA類、落棟が付随するB類、その他に方形のC類がある。A類は主軸柱の突出具合によりA1類とA2類に細分され、A1類の平均面積が6.2㎡、A2類の平均面積が10.2㎡、B類の平均面積が19.2㎡である。

機能の推定 本遺跡検出の掘立柱建物は、構造・規模ともに昼塚遺跡と青田遺跡A1類とA2類の小規模なタイプに相当する。昼塚遺跡では掘立柱建物群とその周辺に分布する小型袋状土坑が主な遺構であり、磨石類が突出する石器組成からも、季節的な集落あるいは季節的作業所としての性格が想定されている〔折井ほか2007〕。青田遺跡A類の小規模なものは炭化物集中範囲と重複しており、何らかの作業施設としての機能が指摘されている〔荒川ほか前掲〕。このように本遺跡の掘立柱建物は昼塚遺跡と、青田遺跡A類の小規模タイプとの類似性、さらに柱がすべて打込式による簡易な構築方法という点から長期利用の恒久的な建物ではなく、短期利用の作業施設の可能性が高い。上述のようにSD192南側の掘立柱建物群の身舎中央に焼土遺構が位置しており、これを付帯施設と仮定した場合、これらの焼土遺構の規模は当段階の住居の炉と比較しても大きく、建物内の居住空間を考えると居住用の建物と考えるよりは作業用の施設と考えたほうが妥当である。

青田遺跡B類については柱構造からも恒久的な建物として住居の可能性が考えられており〔荒川ほか前掲〕、野地遺跡の掘立柱建物も同様の構造であるため、住居としての機能が想定されよう。この落棟が付随するタイプは



第 119 図 掘立柱建物 (SB) の主軸方向による群別

本遺跡と昼塚遺跡からは検出されておらず、大規模・拠点的な性格を有する集落に伴うものと考えられる。

④住居跡（SI）（第117図）

当段階の住居跡は少なく、SD192北側のSI164(B2類)、SD338南側のSI556(D類)、南側遺構群のSI837(C類)がある。SI837は大洞C2式I期段階(大沢谷内遺跡2段階)、SI164・556は大洞C2式I期～II期の過渡期段階(大沢谷内遺跡3段階)に属している。

本遺跡で最も古い住居であるC類SI837は非常に浅い掘方を有し、掘立柱建物の柱痕よりもひと回りほど大きい規模の主柱穴が設けられた住居であり、炉は持たない。この規模の主柱穴を有するのは本遺跡で1軒のみであり、想定される柱の規模から北側遺構群の掘立柱建物群との関連性が窺える。

次段階のD類SI556は第16図(第IV章第3節)を見ても分かるように本遺跡検出の住居跡の中で4.66㎡と最小規模である。浅い掘方を有し、床面に炉をもつが明確な柱穴配置はない。規模と簡易な構造からは長期利用の可能性は考え難い。B2類SI164は、規模はひとまわり小さいがVb層段階で盛行するB1類に類似する構造であり、次段階への継続性が窺え、Vb層段階の集落を営む集団との関連性を示している。

上記のSI837では本遺跡の中でも特異な廃絶状況が認められた。非常に浅い掘方に焼土・灰・炭化物を多量に含んだ土が投棄され、盛土状になっていた。また動物形土製品(p40)、大型哺乳類の焼骨(自然科学分析では種別不明)が出土するなど他の住居とは様相が異なる。

さらに柱穴のうち2基から磨石類と石皿・台石類が出土している。住居廃絶時に柱を折り取るか抜き取り、柱穴が半埋没した凹みをデポ遺構として利用したようである。出土石器は欠損しておらず使用可能なものであり(S27・30・31)、覆土がブロック状で人為堆積であることから回帰時に利用するための「収蔵デポ遺構」[田中英2001]と考えられる。

その柱穴出土の磨石類(s27)の使用部位にはアスファルトの付着が認められ(第129図)、また住居内覆土からアスファルト塊、赤色顔料ブロックが出土している。さらにアスファルト塊が最も出土している南側土坑群のSK722からは、SI837覆土中出土の深鉢片(p192)と同一個体片が出土している(第106図)。このことからSI837と南側土坑群との関連性が窺え、住居内覆土の成因は南側土坑群周辺における作業により生じたものと推定できる。SI837は住居廃絶時は回帰を計画して収蔵デポ遺構を残したが、その後は遺物・作業残渣の廃棄場として利用されていた可能性が高い。なお住居内デポ遺構はSI164にも付帯している。磨石類が収蔵されていた(SK16:SI～3)。氾濫による堆積でパックされたために再利用されずに遺存したと推測する。

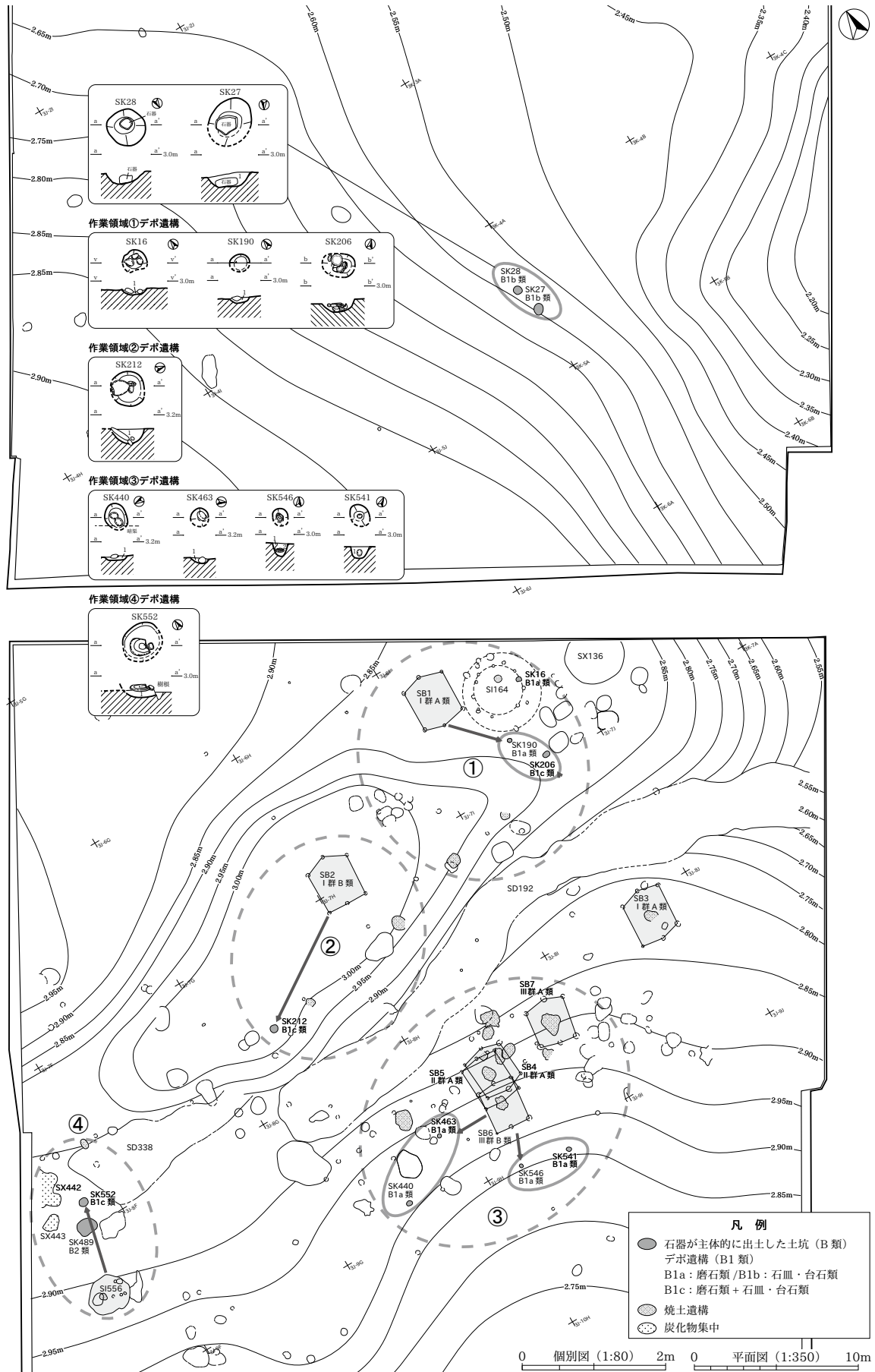
⑤小竪穴状遺構（SX A類）（第118図）

Vc層段階では小竪穴状遺構が2基検出された。SI164に隣接するSX136とSD192西端に位置するSX996である。両者とも住居跡以上の掘り込みを有している。床面に付帯施設が認められないために住居跡には認定していない。平面規模は小さくSX136は7.08㎡、SX996は6.38㎡であり、住居跡では最小規模のD類SI556に最も近く、掘立柱建物と同様の規模である。SX996の床面東寄りには台石が据えられており、剥片が出土しているため何らかの作業が行われていたことが推測されるが、具体的な内容については不明である。SX136は覆土中から多くの土器片が出土しており、さらに周辺には土器片が主体的に出土する土坑A3・A5類がまとまっており、石皿の分割片(s163・191)も散在している。最終的には廃棄場に利用されたことが窺える。SX136は覆土中の土器の接合状況から当段階から次段階まで継続しており(第107・108図)、埋没過程の窪地に継続して土器が廃棄されたようである。当初の利用目的については不明である。

⑥デポ遺構（SK）（第120図）

当段階で最も特徴的なのは磨石類、石皿・台石類の「デポ遺構」[田中英2001]である。第117図に石器の分布と共にデポ遺構を示してある。概観すると、北側遺構群のSD192・338周辺の作業域に集中して分布していることが分かる。

第120図にはデポ遺構群の検出状況と配置を示した。調査区北側に位置するSK27・28は台石類が収蔵され



第 120 図 大沢谷内遺跡下層 (Vc 層段階) デボ遺構配置図

ている B1b 類であり近接している。SD192 南側の SK440・463・541・546 は磨石類が収蔵されていた B1a 類であり、単独収蔵のものが多く、分布にある程度のまとまりがある。それに対して SD192 北側と SD338 付近には、磨石類・石皿類がセットの B1c 類が間隔を空けて点在している (SK206・212・552)。

このようなデポ遺構の配置は「建物」の配置と関連があるようである。B1c 類デポ遺構が間隔を空けて位置している SD192 北側と SD338 周辺には、SB1・SI164 は近接しているが、距離を隔てて SB2 が位置し、さらに距離を隔てて SI556 が位置している。単独収蔵の B1a 類デポ遺構がまとまって分布する SD192 南側には掘立柱建物Ⅱ群 SB4・5 とⅢ群 SB6・7 が重複・近接している。第 120 図にはこれらの建物群と関連が想定されるデポ遺構を「→」で示した。SB1 と SI164 の関係については直接示す根拠はないが、接するほどの近接配置であるためおそらく同時存在ではないだろう。そして SI164 には住居内施設として B1a 類のデポ遺構が存在しているため、SK190・206 と関係があるのは SB1 であると推測する。SD192 をはさんで SB1 と対峙する SB3 は同じⅠ群 A 類の建物であり、こちらの方が SK190・206 との関係がより高いと推測される。

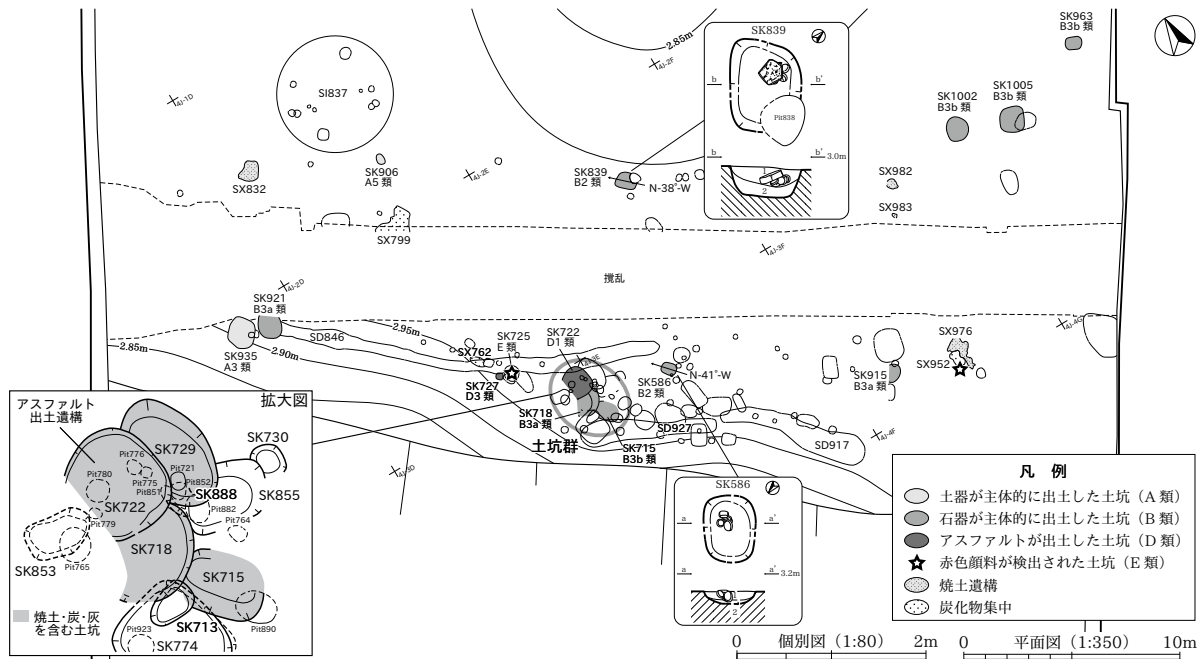
これらの関係性を前提とした場合、デポ遺構の設置者は建物の所有者であり、その建物とデポ遺構が位置している周辺のスペースが所有者集団の作業領域と考えることができる。①～④の破線の範囲が推定した作業領域である。SB1 と SB2 の集団はそれぞれ 2 基の焼土遺構を保有することになり、規則性が窺える。SB4・5・6・7 のように規格性が同一の建物が近接・重複するのは作業領域に関する規制が背景に存在したためであろう。

では、なぜこのようなデポ遺構を設ける必要があるのか。上記の掘立柱建物の分析において、これらは作業所または短期居住用の施設と考察した。つまり V c 層段階の遺跡が通年利用されていたわけではなく、季節的な集落あるいは作業所であり、拠点となる集落との間に移動と回帰が存在したことが想定できる。磨石類や石皿・台石類は携行するには困難な道具であり、さらにこれらの石器に選択されている石材である花崗岩・閃緑岩・流紋岩はいずれも新津丘陵を越えた地域で入手されるものである (本節 B「石器」参照)。以上の点から、次の回帰時に使用するために、「再び回収する意図を持って保管・隠蔽したもの」〔田中英前掲 pp.7〕と考えるのが最も妥当であろう。

また SK27・28 については、他のデポ遺構と異なり調理・加工の場から離れて位置している。遺跡の北限近くの場所であり、目前には瀉が面していた可能性が高い。出土石器は携行困難な台石であり、石材は新津丘陵東側方面から入手される流紋岩であるため、水上交通による石材流通の中継点としての役割も想定できる。出土した台石は分割されていない完形であり、使用痕も薄弱である。

⑦南側土坑群 (アスファルト・赤色顔料に関する作業域) (第 121 図)

第 121 図は遺跡南側の土坑群について示した図である。土坑群の構築は溝状遺構やピット群よりも新しい。第 117 図に示してあるように、この区域ではアスファルト塊の出土が目立つ。その中でも第 121 図のグルーピングしてある土坑群に位置する SK722 からは 18 点ものアスファルト塊が出土している。覆土は炭化物を多量に含む層、焼土ブロックを含む層、灰白色土ブロックを含む層が互層になっており、くり返しこれらが廃棄された状況を示している。覆土中からは多量の遺物が出土し、土器片、石剣、石鏃未成品、アスファルトが付着した敲石 (s122)、剥片 6 点、碎片 4 点、被熱して破碎した小礫 14 点が出土している。覆土と遺物の在り方からアスファルトに関する作業に用いられた土坑と考えられ、最終的に廃棄土坑となっている。また石鏃未成品、敲石、剥片、碎片の出土から周辺で石器製作も行われていた可能性がある。周辺の重複土坑群も覆土と堆積状況は類似しており、土器片・石器・礫が出土している (図版 68・69)。土坑群の重複状況から同一地点を繰り返し掘り起こし、これらの作業を行ったと考える。さらに土坑群西側に位置する SK725 の覆土中には赤色顔料ブロックが認められている。上述のように SI837 の覆土には多量の焼土・灰・炭化物が含まれ、アスファルト塊・赤色顔料ブロックも出土しており、廃絶後は土坑群と同様に作業残渣の廃棄場に利用されている。このように本段階の遺跡南側では攪乱で大きく破壊されてはいるが、おそらくこの空間がアスファルト・赤色顔料に関する作業域であったと推測する。



第121図 大沢谷内遺跡下層（Vc層段階）南側土坑群配置図

その他の特徴的な土坑としては、B2類土坑がある（SK586・839）。デポ遺構と同様に複数の磨石類、石皿・台石類が出土するが土坑の隅にまとまる特徴がある。土坑群に近接した位置（SK586）と、攪乱をはさんだ北側に位置している（SK839）。B2類土坑は北側遺構のSI556の作業域に推定したか所にも位置しており（第117図、SK489）、アスファルトが出土し、炭化物や焼土ブロックが廃棄された場所の近くに位置している点でSK586と共通する。さらにこれらのB2類の形状はいずれも隅丸形状であり、SK586・839については主軸方向が両者ともN-40°-W前後である点は注目される。B2類土坑のように空間部を有する場合には土坑墓の可能性が指摘されており〔田中英前掲〕、出土石器は副葬品ということになる。ただしいずれも作業域に位置しており、墓とする明確な根拠に欠けるため慎重に判断したい。

⑧ピット群と溝状遺構（第122図）

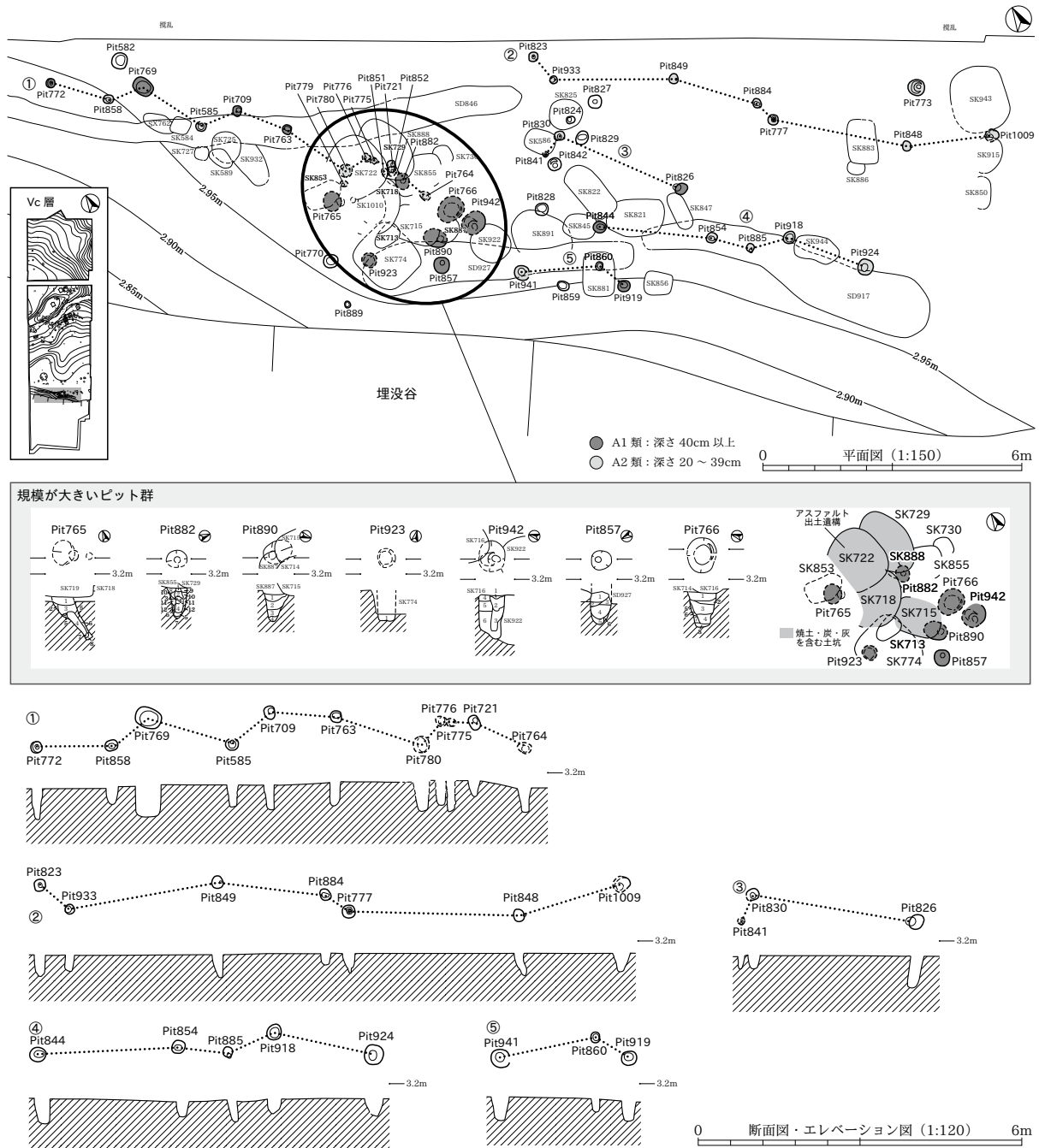
第122図には南側遺構群のピット配置を示した。ピット群は溝状遺構（SD846・917・927）より新しく、上述の土坑群より古い。①～⑤のピット列は、近接配置している40cm前後の深さを測るA類ピットを結んだものである。その配置は直線配置ではなく交互にずれる千鳥配置状になっている。そしてこれらの列はN-40°～50°-Wの方向で配置されており、等高線の流れとほぼ平行している。ピット群のすぐ南側にはVb層段階の遺跡存続中か廃絶後あまり時間が経過していない段階に形成された埋没谷があり、急激な落ち込みによる地形変換点が存在する（第IV章第2節）。そのためVc層段階の谷際は消滅しているが、当時から地滑り等による生活面の侵食が生じていたと考えられ、表土流出防止の土留め杭の機能を有していた可能性が高い。また、これらのピット列に切られる溝状遺構については集落南端の境界を示すものと思われるが、上記のような理由により埋め立てられ土留めの杭列に変更されたと推測する。

ピット列①と④・⑤の間にはこれらのピットよりもひと回り規模の大きい柱痕が検出された（Pit765・766・857・882・890・923・942）。配置は不明であるが、これらのピット群と重複する土坑群は上記のアスファルトに関する作業・廃棄土坑であり、それらに伴う何らかの上屋構造が存在した可能性を考える。

3) Vb層段階（大洞C2式II期）の遺跡と生業

概要 第115図にはVb層段階の遺跡全体図、第123図にはVb層段階の遺構配置と生業関連の遺物分布を示した。本段階になると遺構群の構成は住居群と土坑群に集約される。住居群は標高2.95～3.05mの最も

第1節 下層（縄文時代）の遺跡



第 122 図 大沢谷内遺跡下層（Vc 層段階）南側ピット群配置図

高い場所に分布し、標高が下がる東側が開口した配置になっている。土坑群は第 123 図に示した A・B グループの二か所に集中して分布し、その他は住居跡周辺に点在している。

作業域の推定 生業関連の遺物の分布を見ると（第 123 図）、遺跡南側でアスファルトの出土が目立ち、住居内での出土も認められる。赤色顔料ブロックについても同様である。B グループでは焼土遺構から赤色顔料ブロックが検出されており、この周辺で赤色顔料の生成作業が行われていたことが推測される。また、土坑群・包含層からアスファルト塊、アスファルト付着の石器・土器が出土しており、アスファルトに関する作業も行われていたようである。B グループ西側の SK835 周辺（破線で囲んだ範囲）からもアスファルト塊・アスファルト付着の石器が出土している。そして SK835 自身からも土器片で覆われたアスファルトが出土しており、アスファルトの「隠蔽デポ遺構」（田中英 2001）の様相を呈している。攪乱で破壊されているが Vc 層段階と同様に、遺跡の

南側でアスファルトと赤色顔料に関する作業が行われていたようである。

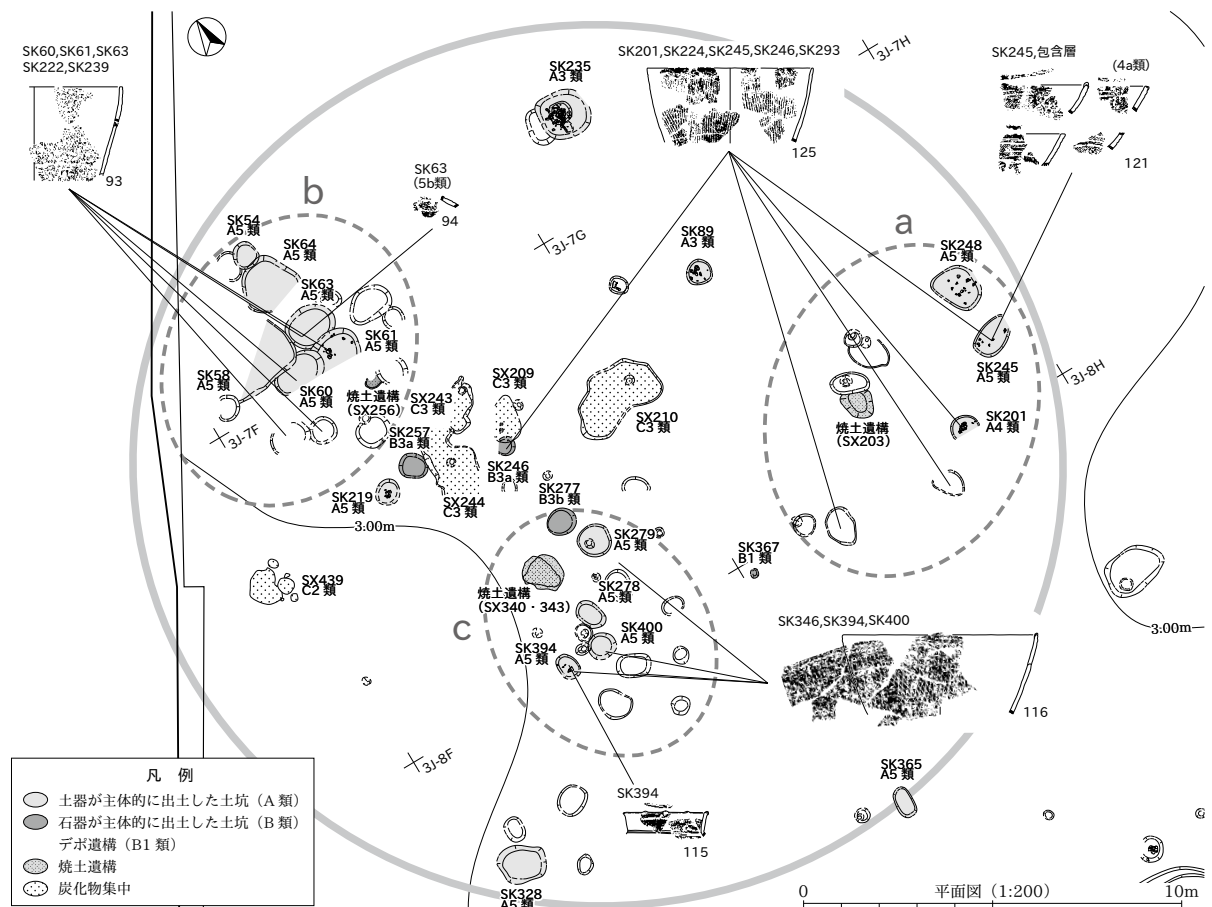
食糧関連の作業についてはV c層段階のSD192のように食糧残渣の廃棄場所が確認されていない。ただし石器の分布を見ると遺跡東側の、遺構が希薄な所に磨石類、敲石、石皿・台石類が分布しており（東側破線範囲）、磨石類のデボ遺構（SK459）も存在している。V c層段階ではデボ遺構は作業域に分布しているため、当該段階では遺跡東側の調査区外に食糧関連の作業域の存在が予想される。

またAグループの土坑群とその周辺からも石器の出土が目立ち、作業域の可能性が考えられる。ただし出土石器を見ると石鏃がまとまり、不定形石器・鉄鋌石、そしてデボ遺構からは敲石が出土しており、東側のエリアとは様相が異なる。V c層段階では作業域における石器分布に器種ごとのまとまりはなく、混在していた。当該段階では食糧関連の対象物により「場」の細分が行われたのであろうか。当該段階の石器群を組成比率で見るとV c層段階とほぼ同じ傾向が認められる（本節B第113図）。すなわち総合的な生業目的は同一である可能性が非常に高い。V c層段階のSD192の埋没に伴い食糧関連の作業場に変化が生じたのであろう。

①土坑群（SK）（第124図）

第124図には上述のAグループ土坑（第123図）の詳細図を示した。Aグループ土坑はさらにa～cの土坑群に細分される。本節A項「縄文土器」で述べているが、aグループではp125、bグループではp93、cグループではp116の接合関係をグルーピングの根拠としている（第108図）。

Aグループの構造を見ると、a～c土坑群の中心には、炭化物とともに焼土ブロック等が廃棄された炭化物集中（SX209・210・243・244）がまとまっている。さらに各グループ内には焼土遺構が位置しており、配置に規則性が窺える。



第124図 大沢谷内遺跡下層（V b層段階）北側土坑群配置図

焼土遺構からは焼骨片が出土しており（aグループ：SX203、cグループ：SX343）、また石鏃の出土がまとまっている点から狩猟関係、動物質食糧に関する調理・加工が行われた場の可能性がある。周辺の土坑群は土器小破片が散在するA5類が多く、当初は調理・加工の場として利用し、最終的には廃棄場となった状況が推測される。また炭化物集中には小ピットが認められ、何かが立てられていた可能性が想定される。アイヌの物送り儀礼に用いられるイナウのように廃棄儀礼に関するものであるか、ランドマークの役割を果たすものか、その機能は不明である。

a～cグループの差異は、出土土器の様相からはaグループが雲形文系統（4a類p121）、bグループが鈎針文系統（5b類p94）、cグループは系統不明であるが、本遺跡内で新しい属性をもつ壺の口縁部（p115）が出土している。そのためグループの差異は系統差か時期差によるものと考えられる。系統が異なるグループにより利用された、または世代をこえて利用された公共の場であったと推測する。

②住居跡（SI）（第125図）

V b層段階の住居はA1類SI670・710・810、A2類SI580・650・700・790、B1類SI152・501・579・951、E類SI831がある。そのうち、SI710のみがV b1層検出であり最も新しく、他はV b2層検出である。

第125図左に示したグループは本節A項「縄文土器」の分析によるグルーピングと対応している（第108図）。

Aグループは住居が存在しない上述の土坑群である。第125図にはAグループ以外のグループ単位の住居と、その新旧関係を示した。

Bグループの住居はB1類SI152の1軒のみである。住居群の中で唯一V c層段階の遺構分布範囲を踏襲しており、V c層段階のSI164（B2類）との関連性が推測される。

Cグループの住居はA1類SI810とA2類SI790が隣接し、B1類のSI951が加わる。さらにV b1層検出のSI710が位置している。SI700・810については新旧関係を示す根拠はないが、隣接した配置と南北方向に柱穴間が広い住居構造の類似点から、同一集団による建て直しが推測され、新旧関係が存在すると考える。

Dグループには最も住居群が集中する。遺物の出土状況と遺構の新旧関係から四段階の変遷が想定される。

- ① SI700出土の浅鉢16と同一個体の浅鉢178がSK759、浅鉢249がSX760から出土しており、これらの遺構はSI501に切られる。よってSI501が新しくSI700が古い。
- ② SI501出土の浅鉢52はSI670を切るSK529からも出土している。よってSI501が新しくSI670が古い。
- ③ SI501出土の浅鉢54はSI831からも出土し、同時性が高い。
- ④ SI831とSI580はSI579に切られる。
- ⑤ SI580出土土器（浅鉢20・26・27）はSI501出土土器（浅鉢52）より新しい。
- ⑥ 深鉢18がSI580とSI650で遺構間接合しており、同時性が高い。

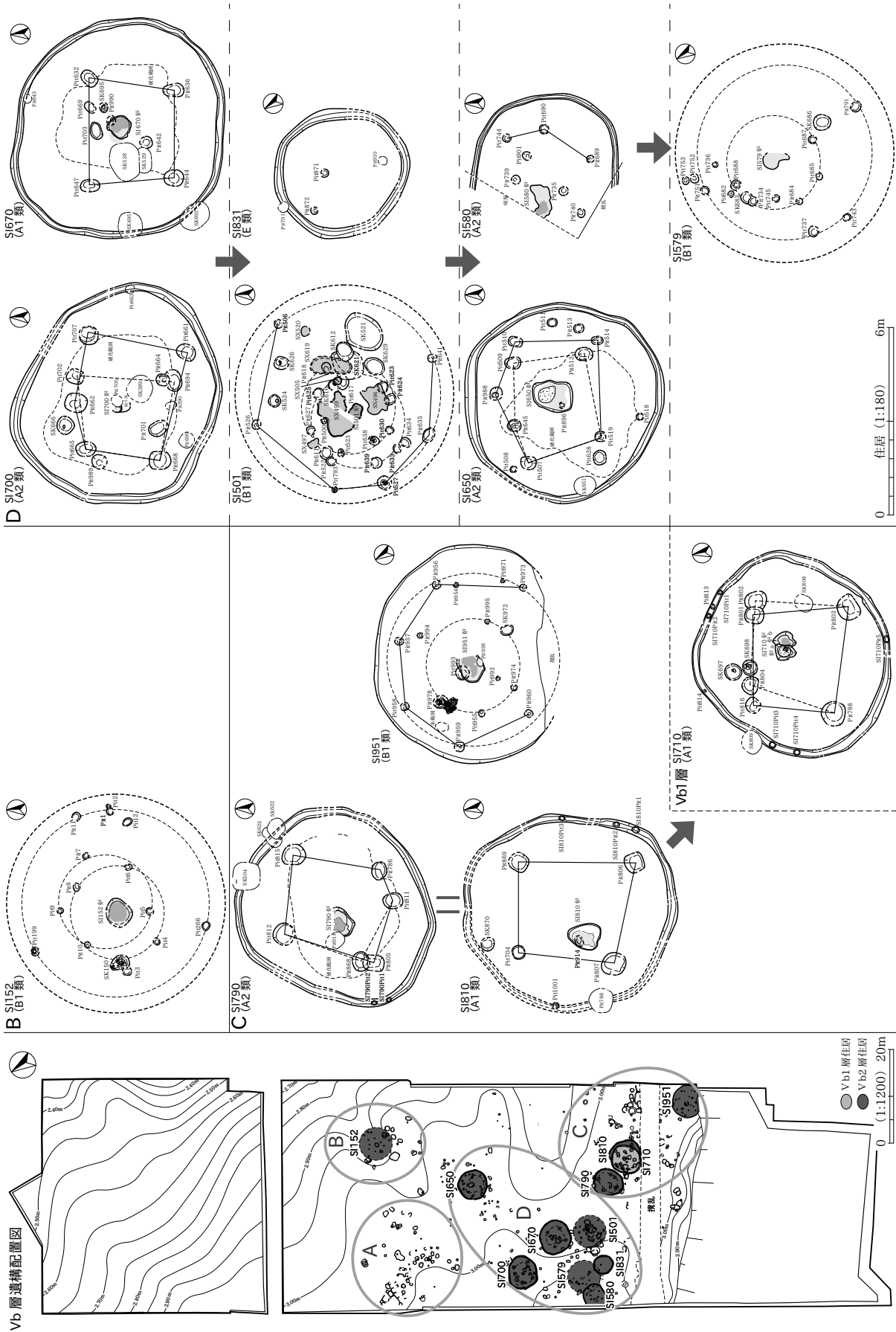
以上の点からSI670・700→SI501・831→SI580・650→SI579の変遷が導き出された。

本段階の集落に同時存在していたと推定される住居数は最大でBグループ1軒、Cグループ2軒、Dグループ2軒の5軒となり、3単位の集団により営まれていた可能性が高い。この集団数はV c層段階の掘立柱建物の分析から導き出された単位数と等しい（本項2）③参照）。

（住居構造の比較）

本段階の住居には構造上大きく差異のあるA類とB類が存在する。グループ内ではA類とB類が混在しており、双分制組織の存在も推測されるが、上記のDグループの住居変遷を見るとA類とB類が並存しないため、出自の異なる集団が交互に集落を営んでいた可能性も考えられる。

A類の住居については県内の晩期中葉遺跡の事例でも多く認められ、中でも御井戸A遺跡の住居〔前山1996a〕や中道遺跡第22号住居〔駒形・鳥居ほか1998〕の周溝内には板材が残り、壁立式の住居構造であることがわかる。B類の構造は壁際ではなくやや内側に7～8角形の配置となる柱穴が設けられ、さらに炉の周囲に4・5本



第 125 図 大沢谷内遺跡下層 (V b 層段階) 住居変遷図

の柱穴が配置される構造である。B類については本県においてはあまり類例がみられないが、元屋敷遺跡ⅡのSI568〔滝沢・高橋ほか2002〕は壁周溝がめぐらずに柱穴群が二重に配置されており、本遺跡B類住居に類似する。柱穴群が重複しており改築がなされたものと推測する。県外においては福島県鬼渡A遺跡で柱穴群が円形に配置している住居跡が検出されており（SI01～06）〔芳賀1989〕、同県北向遺跡4号・18号住居跡〔高木ほか1990〕、岩下B遺跡1号住居跡〔鈴鹿1989〕等で認められる。B類住居については隣接県からの影響が窺え、土器の伝播のみでなく人の動きそのものが背景にあることを示している。

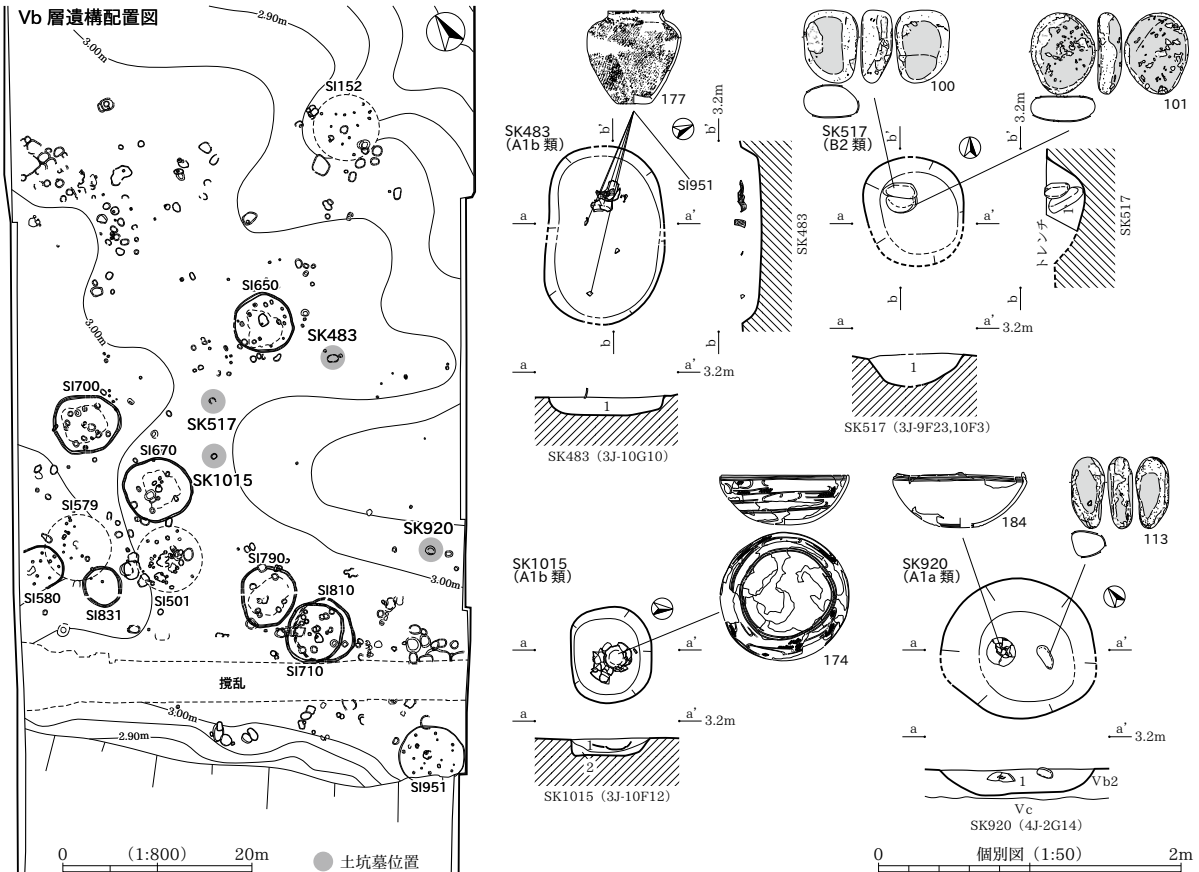
③土坑墓（SK）（第126図）

中村大氏の縄文時代晩期の土坑墓に関する認定基準〔中村2001〕のうち「(9) 底面から覆土下部にかけて完形あるいはそれに近い土器が出土する土坑。(10) 覆土中部から上部にかけて完形に近い土器が出土する土坑。」に該当するものであり、本遺跡のSK分類でA1類に分類したものを土坑墓と推定した（SK483・920・1015）。

完形の磨石類を伴うもの（A1a類）（SK920）と伴わないもの（A1b類）（SK483・1015）がある。覆土は暗褐色土や砂がブロック状に混ざり、人為堆積を示している。

その他にB2類に分類したSK517も土坑墓と推定した。二つの石皿・台石類が土坑の隅に直立してまとまった状態で出土している。上述のようにデポ遺構と同様の収蔵物であるが土坑内に空間部を有している場合には土坑墓の可能性が指摘されている〔田中英2001〕。

これらの土坑墓と推定した土坑群の配置を見ると（第126図）、住居群が東側を開口して半環状に配置するその内側に位置していることがわかる。また、土坑墓と住居の関係であるが、SK483出土の壺177の破片がSI951からも出土しており、さらにSK1015はV b1層検出であり、同じく唯一V b1層検出のSI710との関連が窺える。このように土坑墓の配置は関連住居からやや距離を隔てて配置され、他の遺構群を避けた結果、住居群の内側に配置された状態になったものと推測する。



第126図 大沢谷内遺跡下層（V b層段階）土坑墓配置図

4) 下層遺跡におけるアスファルトの利用について (第 127 ~ 130 図、写真図版 325 ~ 327)

下層遺跡 (縄文時代晩期) から出土したアスファルトは、遺物付着のものをのぞき、点数にして 87 点を数える。これらのアスファルトは塊状・板状の 2 形状があり、断面の観察からは均質な 1 類と、1 類に比し均質性を欠く 2 類に大別でき、2 類を不純物が認められない 2a 類と若干であるが不純物が認められる 2b 類に細分した。さらに不純物を多量に含む 3 類が存在する (第Ⅴ章第 1 節 C・写真図版 326・327)。

これらの出土位置は (第 6 表)、1 類が住居から 15 点 (塊状 4 点・板状 11 点)、土坑から 7 点 (塊状 1 点・板状 6 点)、ピットから 3 点 (塊状 2 点・板状 1 点)、焼土遺構から 2 点 (全て塊状)、炭化物集中から 4 点 (塊状 2 点・板状 2 点)、包含層から 10 点 (塊状 3 点・板状 7 点) 出土し、2a 類は住居から 5 点 (塊状 1 点・板状 4 点)、掘立柱建物のピットから 1 点 (塊状)、土坑から 18 点 (塊状 8 点・板状 10 点)、ピットから 3 点 (塊状 2 点・板状 1 点)、溝状遺構から 3 点 (塊状 1 点・板状 2 点)、自然開析谷 SD192・338 から 2 点 (塊状・板状)、包含層から 4 点 (塊状 1 点・板状 3 点) 出土している。2b 類は土坑から 5 点 (全て板状)、炭化物集中から 3 点 (全て塊状)、包含層から 1 点 (板状) 出土し、多量に不純物を含む 3 類は SK835 の土器片に覆われた 1 点のみである。

遺構出土のアスファルトでは緻密で均質な 1 類の大半が住居出土であり、やや粗い 2a 類が土坑主体である。そのうち 14 点は第Ⅳ章第 3 節にてアスファルトに関する作業土坑と推定した SK722 からの出土であり、さらに唯一の 3 類は SK835 における特殊な出土状況である。このようにアスファルトの類別と出土状況に偏りがある点は注目される。

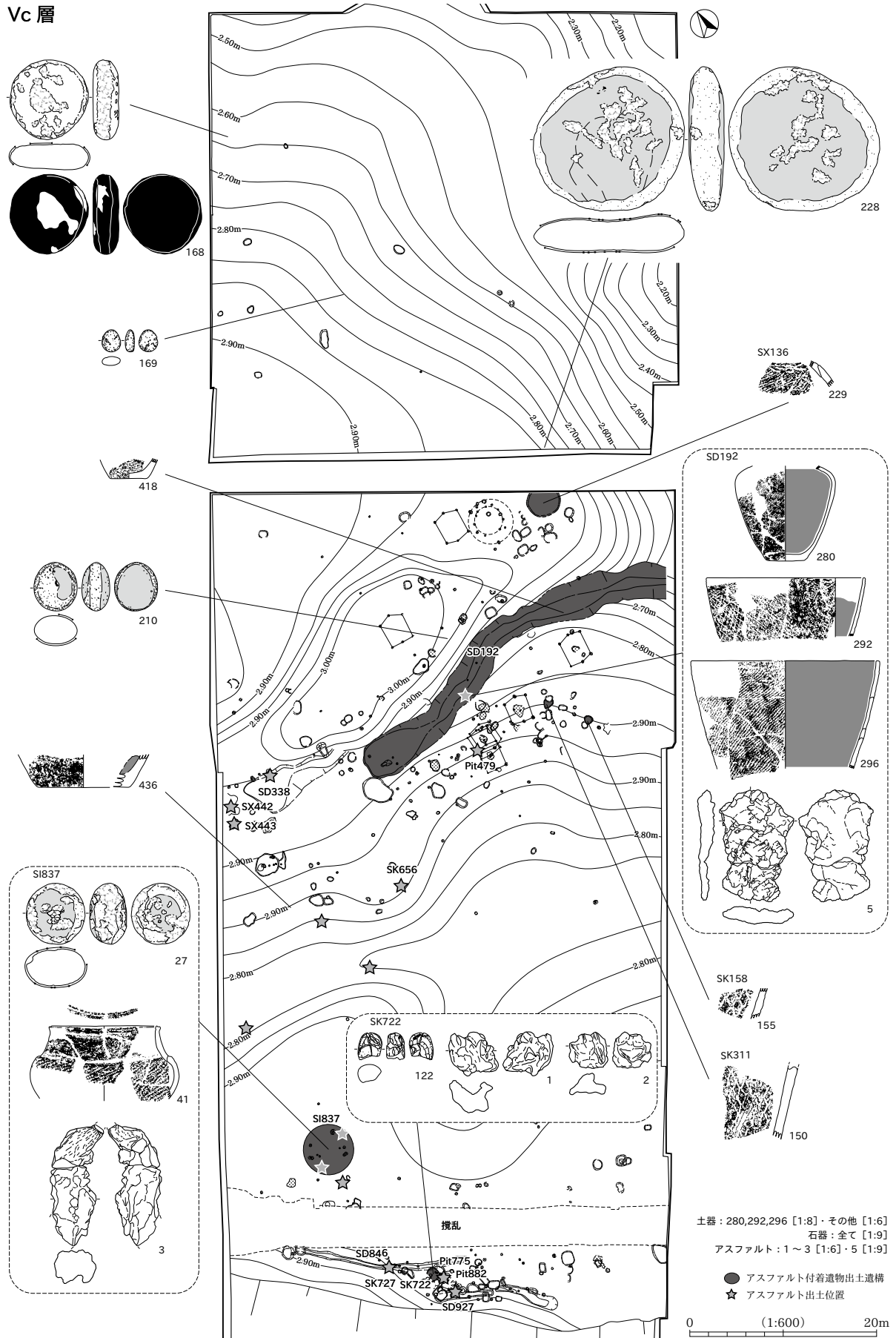
②アスファルトが付着する遺物 (第 127 ~ 130 図)

第 127・128 図には層位別の石鏃使用例以外のアスファルト付着石器・土器の出土位置、アスファルトの分布を示した。作業場の考察は前述までの各層段階の遺跡の考察で述べているが、V c 層段階では遺跡南端の SK722 を中心とする土坑群であり、V b 層段階においても遺跡南側にアスファルト関連の遺物が集中する。土坑群・焼土遺構、そして住居内からの出土も目立ち、SK835 からは 3 類のアスファルトが土器片 p181 に覆われた状態で検出された (図版 65・写真図版 61)。

アスファルト付着土器 V c 層段階の土器では壺形が 3 点 (p41・229・280)、深鉢形 4 点 (p150・155・292・296)、底部片 2 点 (p418・436) があり、深鉢 p292・296 の外面には煤が付着している。そして底部片 p436 の内面には不純物を含む 2b 類のアスファルトが残存していた。その他の土器にはうっすらとアスファルトが付着するのみであった (写真図版 327)。V b 層段階の土器は壺形 (p34)、深鉢形 (p60・61・181・75・211・217・460) が出土しており、遺跡南東側のアスファルト集中か所から出土している深鉢 p75・211 の外面には煤が付着しており被熱の痕跡が認められる。p211 に付着していたアスファルト (4) は 2a 類である。

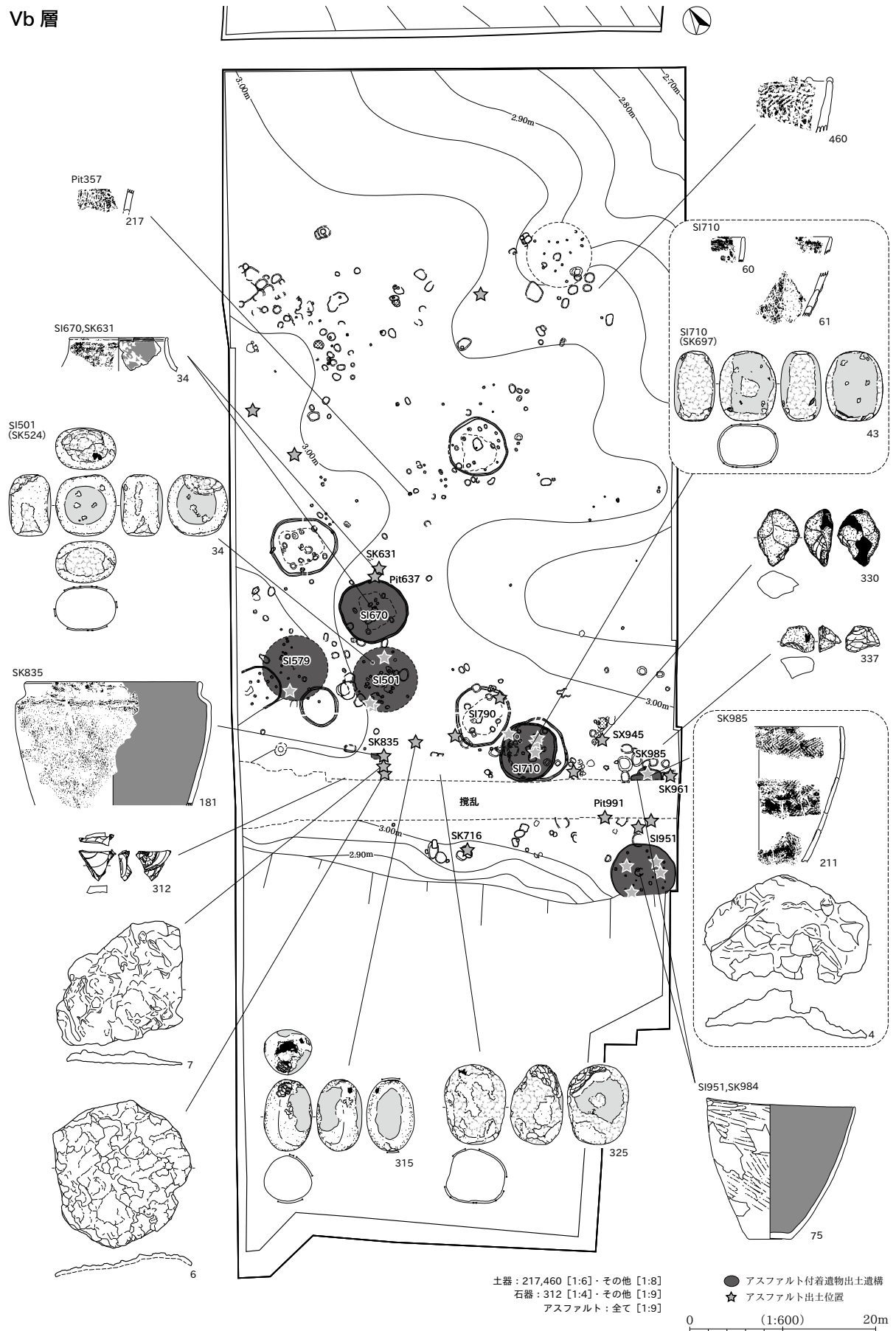
アスファルト付着石器 石鏃の中茎部分への接着剤としての使用が認められるものは 12 点ある。本遺跡において特徴的なのは、使用による付着ではなく、目的な使用以前の段階で何らかの理由によりアスファルトが付着した石器群が存在する点である (第 129・130 図)。V c 層段階では遺跡北側から多量にアスファルトが付着した扁平な磨石類 s168 が出土しており、本遺跡で最も多量に付着している。特に裏面に厚く付着しており主な使用面は裏面と考える。石器自体は被熱しており、アスファルトを融解させるために用いたのであろうか。使用法は不明である。その他に北側から被熱した自然礫に付着したもの (s169)、石皿類の使用面に付着したもの (s228) が出土している。開析谷周辺からは 1 点のみ確認され、磨石類 A 類の s210 の磨面に付着している。その他は遺跡南側で SI837 から敲打部に付着が見られる磨石類 D2 類の s27、使用部位ではないが端部に付着が見られる SK722 出土の敲石 A 1 類の s122 がある。

V b 層段階では住居内のデポ遺構から敲打面・磨面にアスファルトが付着した磨石類 D2 類が出土している (SI501 内 SK524 出土の s34、SI710 内 SK697 出土の s43)。その他は全て遺跡南側からの出土であり、SK835 周辺から搔器状に用いた刃部にアスファルトの付着が見られる不定形石器 E2 類の s312、敲打面・磨面に付着が見られる磨石類 D2 類の s315・325 が出土している。南東側からはアスファルト付着の敲石 s330・337 が出



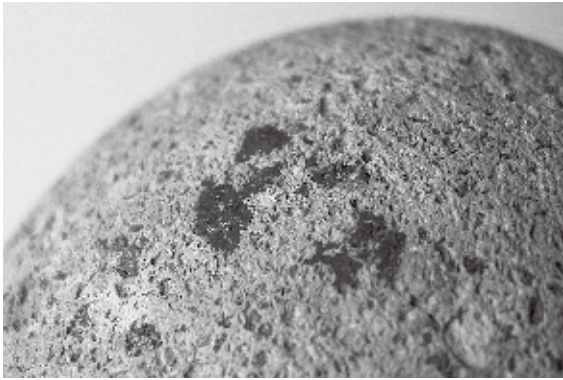
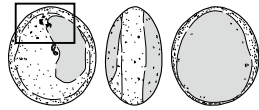
第127図 大沢谷内遺跡下層（Vc層段階）のアスファルト関連遺物分布図

Vb層

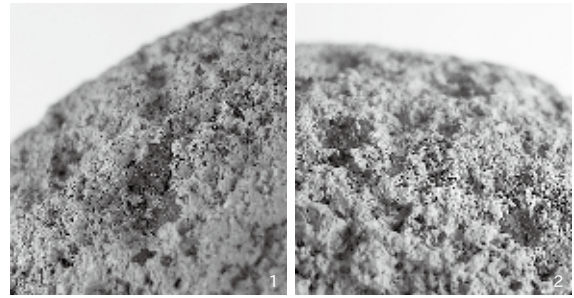


第128図 大沢谷内遺跡下層（Vb層段階）のアスファルト関連遺物分布図

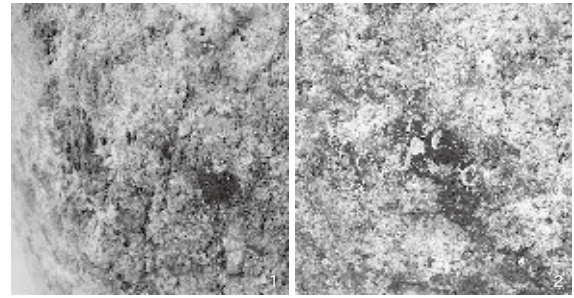
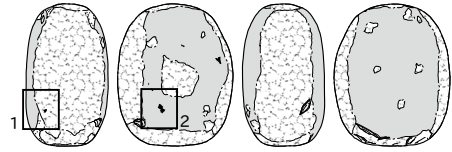
210 (磨石類 A 類)



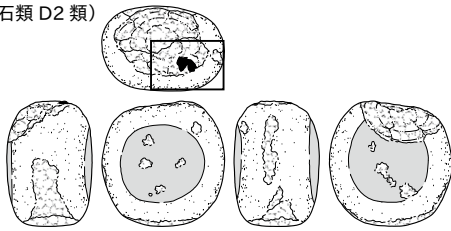
27 (磨石類 D2 類)



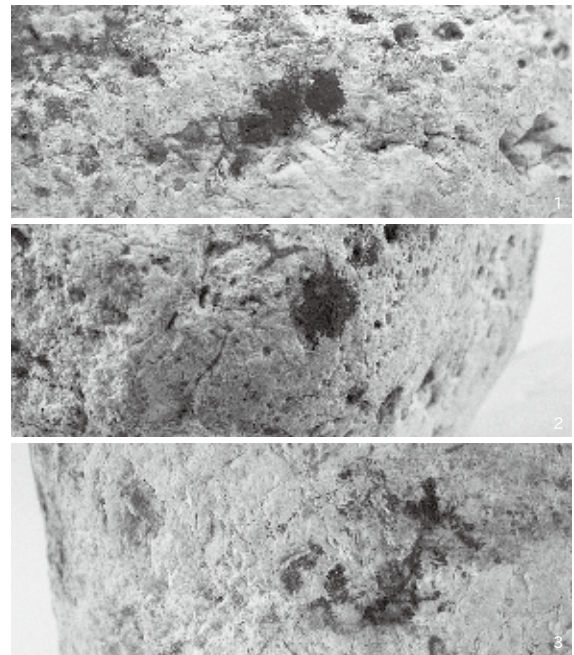
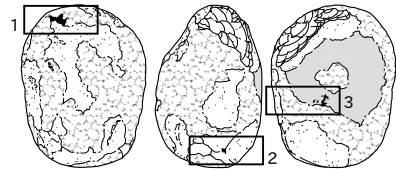
43 (磨石類 D2 類)



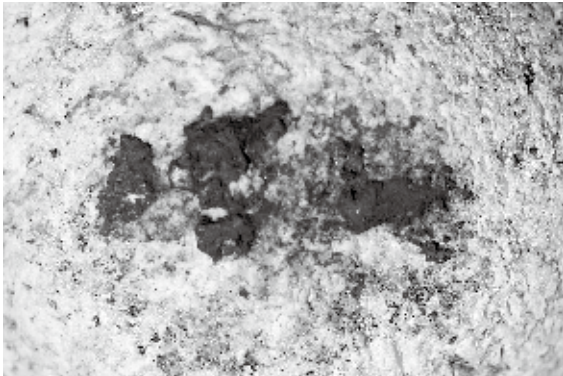
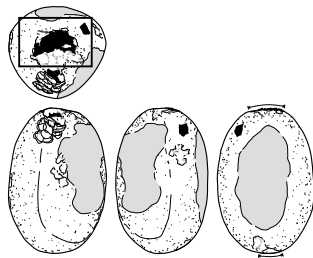
34 (磨石類 D2 類)



325 (磨石類 D2 類)



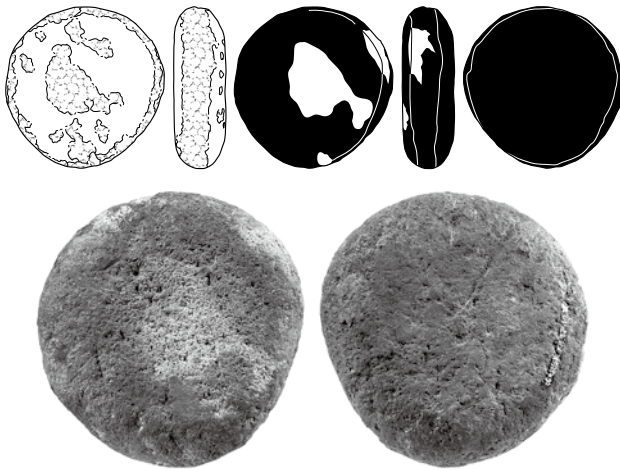
315 (磨石類 D2 類)



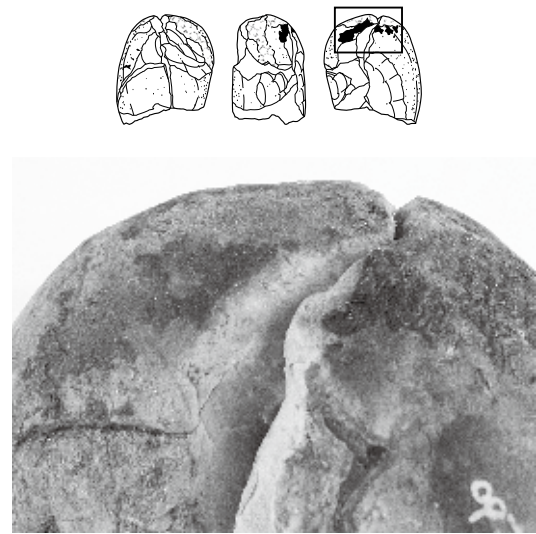
第 129 図 大沢谷内遺跡下層出土アスファルト付着石器①

実測図 全て [1:6]

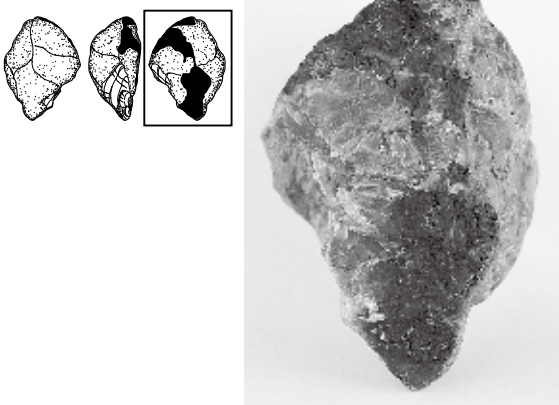
168 (磨石類 F2 類)



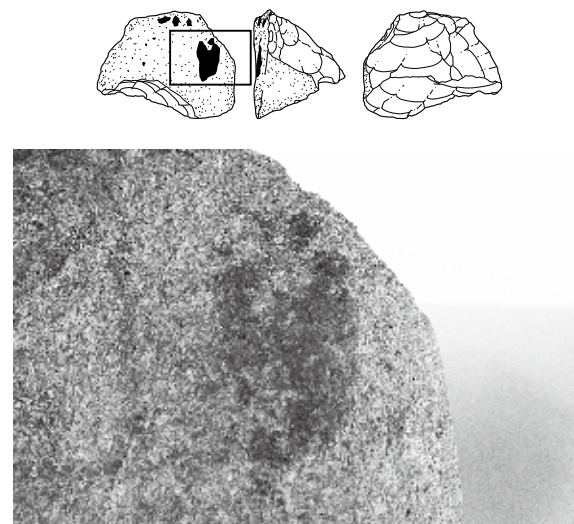
122 (敲石 A1 類)



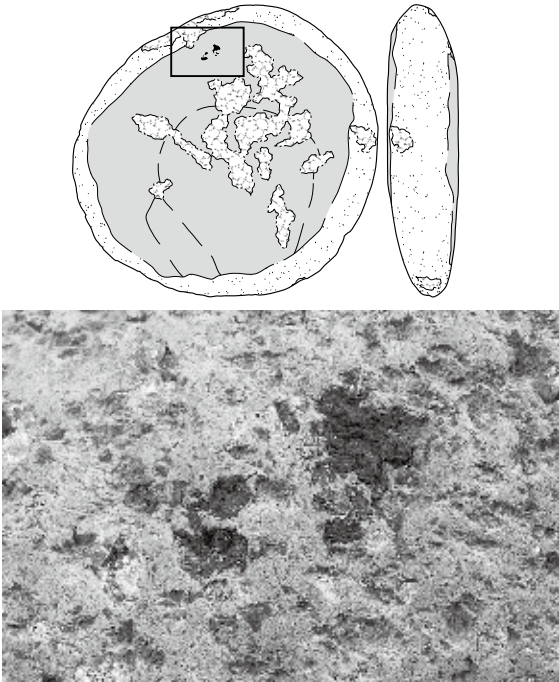
330 (敲石 A1 類)



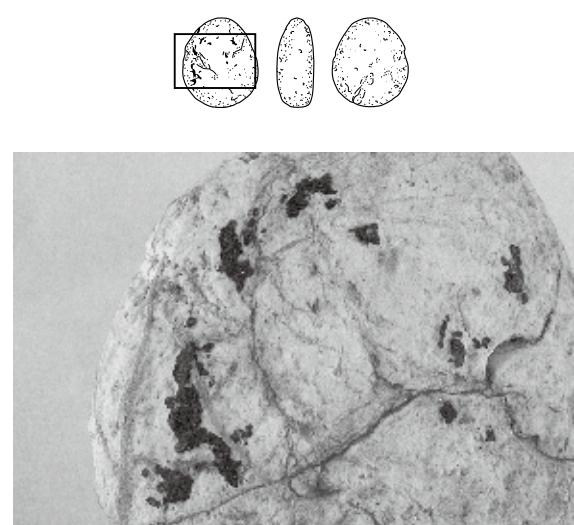
337 (敲石 B 類)



228 (石皿・台石類 A2b 類)



169 (自然礫)



第 130 図 大沢谷内遺跡下層出土アスファルト付着石器②

実測図 168・228 [1:6] その他 [1:3]

土しているが、V c 層段階出土の敲石 s122 と同様に使用部位への付着ではない。使用法は不明である。

③想定されるアスファルトに関する作業

上記までのアスファルト、またはアスファルト付着遺物の観察から、本遺跡において行われていたアスファルトに関する作業について推察する。

まず観察された事項を列挙すると、

- ①アスファルトには均質で緻密な1類、均質ではないが不純物を含まない2a類、わずかに不純物が認められる2b類、不純物を多量に含む3類があり、その質には明瞭な差異が認められる。
- ②出土状況では住居内出土のアスファルトは1類が多く、アスファルトの作業場と推定したSK722からは2a類の出土が多い。また土器片で覆われて出土したSK835のアスファルトは3類である。
- ③アスファルトの容器として用いられた深鉢には外面に煤が付着するものがあり、火にかけられた可能性がある。
- ④外面に煤が付着している深鉢211に付着したまま廃棄されていたアスファルト塊(4)は2a類であり、底部片(436)に詰まっていたアスファルトは2b類である。
- ⑤アスファルト付着の磨石類は周縁部・端部等の使用部位に付着するものが大半である。
- ⑥石皿・台石類には使用面に付着しているものがある。

以上の痕跡から推測されるアスファルトに関する作業について可能性を述べる。

①・②からは、焼土・炭化物・灰とともに廃棄された状況であったSK722出土の2a類は不純物を除去した作業残渣と捉えることができ、塊状のものには内部に空洞をもつもの(1)がある。それに対してSI837出土の塊状アスファルト(3)はその均質性、さらには上端部の絞りとりられたような痕跡、側面の削り取られたような痕跡(写真図版325・326)から製品化されたものと考えられ、1類は一連の作業による製品と推測する。他の1類は板状、小規模な塊状であり、板状のものには断面観察によると土壤に浸透している状態のものもあるため、製品化途中で漏れ出したものと推察する。そして不純物を多量に含んだままの3類は作業前の搬入時に近い状態のものと推測する。採取地は不純物の未分解有機物の状況からヨシ属や小枝等が溜まる場所、潟湖のような場所であったと考える。

③の深鉢の痕跡からは、単なる鍋としての使用後にアスファルト貯蔵用とした可能性が指摘されるが、もう1点、アスファルトを融解させた容器としての可能性が挙げられる。目的としては固体化したアスファルトを融解させて液状化させることにより、3類のようなアスファルト内の不純物を除去する、または油分を揮発させて粘度を高めるといった目的が推測される。その結果得られた純度の高いアスファルトが1類であり、④に示した2a類・2b類はこのような作業の未成品であるか残渣である可能性が考えられる。

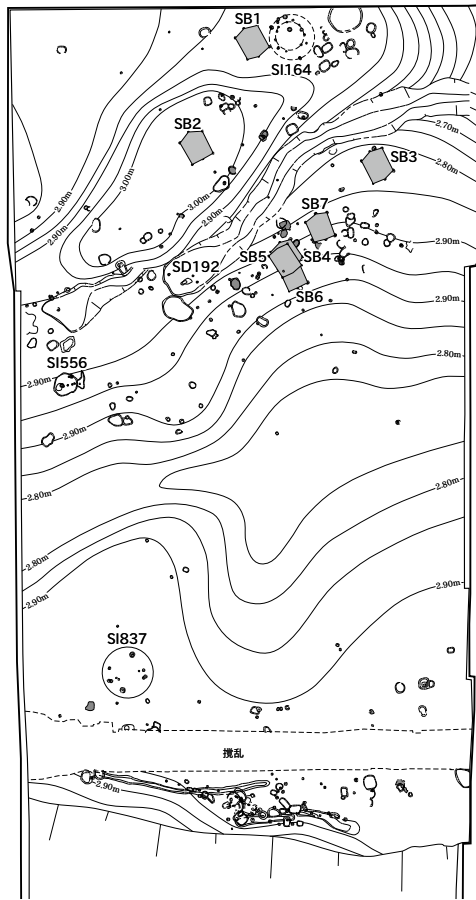
⑤の磨石類の痕跡からは端部に付着のものは磨石類を乳棒のように用い、敲く・潰す・こねるという作業が推測され、⑥の石皿類の痕跡は磨石類と対になるものであろう。付着痕跡が少ないのは作業時に皮や繊維質の敷物を用いたためであろうか。SD192出土のアスファルト(5)には繊維が交差した痕跡が見られる。磨石類端部付着のアスファルトの状態からは対象は固体・半個体状のものとの可能性が予想される。接着剤としてのアスファルトの使用例が認められる他遺跡においてこのような礫石器群の出土例が報告されていないということは、使用前段階の何らかの処理に用いられたものと推測できる。ただし一連の作業のうちどの工程で用いられたかは不明である。これらの磨石類は住居内デポ遺構からの出土が認められるため、ある程度精製された状態のものを対象としたか、またはSK835周辺においても出土しているため個体・半個体化した採取状態のものを砕く、潰すなどして不純物を取り除く等の作業を行っていたと推測する。

以上の点から、本遺跡では採取した天然アスファルトの精製・加工が行われていたと推測する。

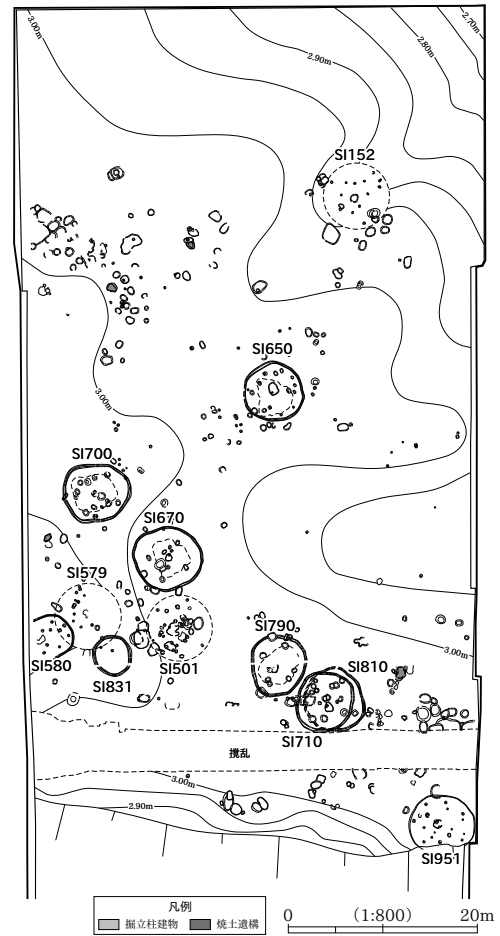
5) 集落の性格と居住形態について

上述のように大沢谷内遺跡1～4区の下層遺跡はV c 層段階(大洞C1式終末～C2式I期)とV b 層段階(大洞C2式II期古段階)では、集落の様相が大きく異なる。

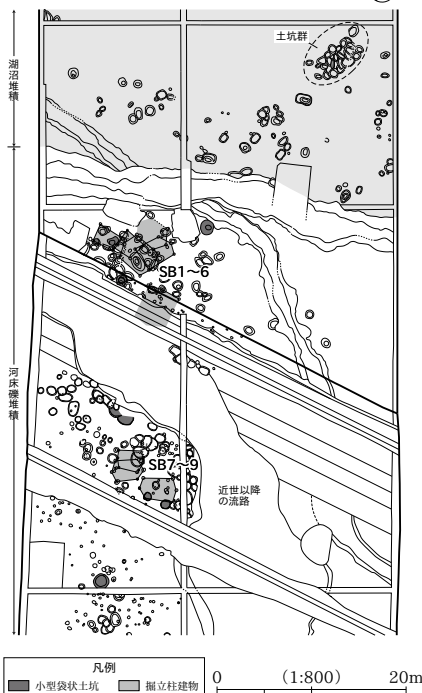
大沢谷内遺跡 Vc 層段階



大沢谷内遺跡 Vb 層段階



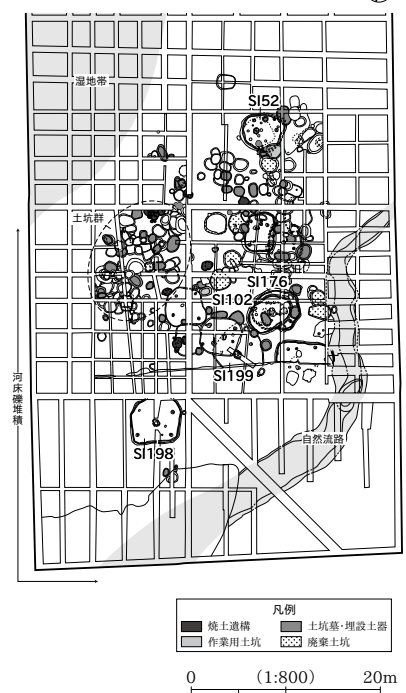
昼塚遺跡 (新潟県胎内市)



昼塚遺跡・道下遺跡・野地遺跡の位置関係



道下遺跡 (新潟県胎内市)



第 131 図 大沢谷内遺跡下層 (上) と昼塚・道下遺跡 (下) の遺構分布図

V c 層段階は掘立柱建物群を中心とした集落構成であり、掘立柱建物の規模の比較と、石器組成における磨石類突出という傾向から、胎内市昼塚遺跡〔折井^{ほか}2005・2006〕との類似点を指摘し、その性格を季節的な集落あるいは季節的作業所と推定した（本項2）③参照）。その比較対象とした昼塚遺跡から約500m離れたところに道下遺跡〔折井^{ほか}2007〕が位置しており、さらに約1.2km離れたところに野地遺跡〔渡邊裕^{ほか}2009〕がある（第131図）。

道下遺跡は住居跡10軒と土坑群を中心に構成されており、本遺跡V b 層段階の集落構成・規模と類似している。

野地遺跡は落棟が付随するタイプの掘立柱建物に板敷土坑墓、大規模な捨て場が検出されており、集落規模はトレンチ調査部分のみでも15,500㎡、遺物包含層相当層の広がりには60,000㎡にも及ぶと推定され、遺構分布範囲が1,500㎡の道下遺跡、2,800㎡の昼塚遺跡に比し非常に大規模・拠点的な集落であることがわかる。これら近距離に位置する遺跡の存続期間は道下遺跡が大洞BC1式～BC2式古段階、昼塚遺跡が大洞B2式と、その後断絶期間があり大洞BC2式新～C1式に営まれ、両遺跡は土器形式的には補完関係にある。そして野地遺跡は後期中葉加曾利B2式～後期中葉大洞C1式まで営まれる長期継続型集落であり、野地遺跡の存続期間内に道下・昼塚両遺跡が含まれる並存関係にある〔渡邊裕2009〕。直接的な根拠は見出されていないが、近距離の遺跡配置、存続期間から考えて背景に有機的な関連性の存在が想定できる。これら胎内川右岸の三遺跡をモデルケースと捉えて本遺跡をみると、V c 層段階が昼塚タイプ、V b 層段階が道下タイプに該当する。そうした場合に拠点となる集落が問題となる。

第132図は東山丘陵周辺の台地・段丘、沖積平野部に位置する後期中葉の遺跡を、1段階：大洞C1式～C2式I期段階、2段階：C2式II期段階、3段階：上野原（C2式III～V）段階に分けて示したものである。1段階は本遺跡がV c 層段階に相当し、掘立柱建物を主体とした季節的なキャンプサイトとしての性格が強い時期である。2段階は本遺跡がV b 層段階に相当し、住居を主体とした集落が形成された時期である。3段階は本遺跡が北方約100mに位置する大沢谷内北遺跡〔前山・伊比^{ほか}2010〕に変遷した段階である。

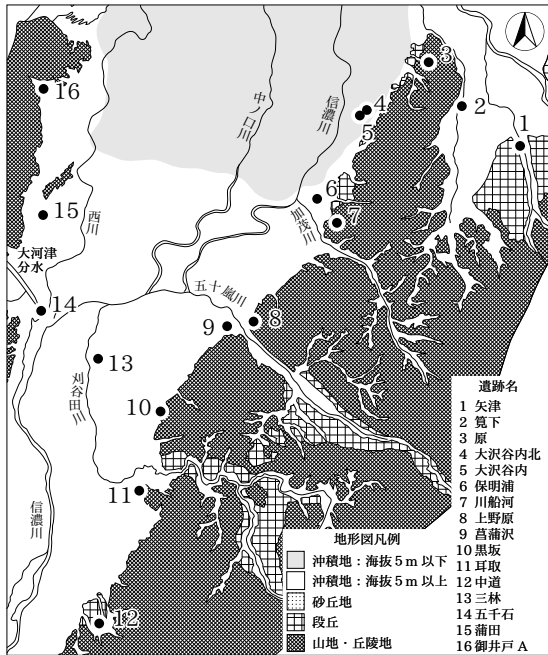
遺跡の分布を見ると、1段階では長岡市中道遺跡〔駒形^{ほか}1998〕（No.12）、見附市黒坂遺跡〔池亀1981〕（No.10）、田上町川船河遺跡〔川船河遺跡団体研究グループ1963、伊藤1996〕（No.7）が約15kmの間隔を隔てて丘陵上に位置しており、これらの三遺跡は中・後期から存続する長期継続型の遺跡で拠点的性格を有している。そして丘陵北端部には秋葉区原遺跡（No.3）が存在し、詳細な時期は不明であるが平成12年の立会調査により晩期の遺物が確認されており〔渡邊・立木^{ほか}2001〕、次段階の土器は踏査によっても散見されている。原遺跡も中・後期から存続する長期継続型であり、上記三遺跡と同様の性格を有するものと推測される。原遺跡は川船河遺跡からは約13kmの距離を隔てており、丘陵上の拠点集落はほぼ等間隔に位置していることがわかる。この段階の沖積平野部の遺跡は東山丘陵沿いでは本遺跡（No.5）以外不明である。平野を挟んだ対岸の蒲田遺跡（東蒲原郡弥彦村）（No.15）において土器が出土している〔前山2000〕。

2段階になると、前段階の遺跡に加え、耳取遺跡（見附市）〔関1971〕（No.11）が刈谷田川左岸の丘陵端部に、五千石遺跡（長岡市・燕市）〔加藤由2011、松島^{ほか}2010〕（No.14）が信濃川を挟んだ東頸城丘陵側の沖積平野部に出現する。本遺跡が住居を主体とする集落に変遷する時期であり、周辺地域においても分村が始まったようである。

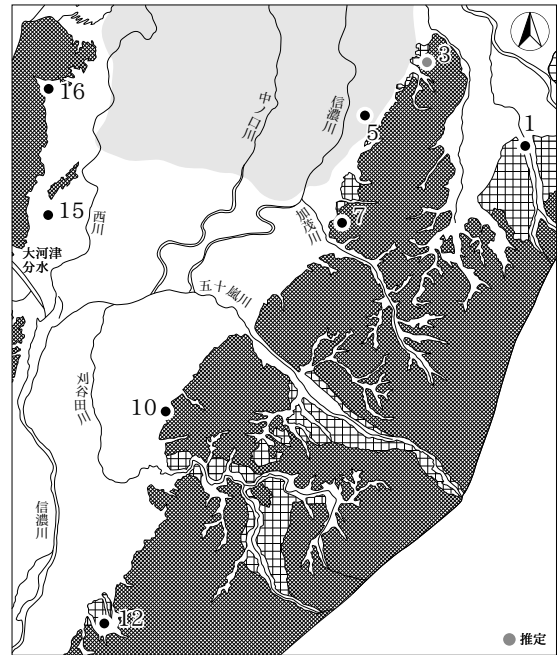
3段階になると遺跡数が増加する。2段階で空白地帯となっていた五十嵐川流域に新たな拠点集落が出現し（三条市上野原遺跡No.8〔上原・中島^{ほか}1966、中島1981〕）、拠点集落付近（川船河遺跡No.7と保明浦遺跡No.6〔田畑1993・1994・1996・2003・2004〕、上野原遺跡No.8と菖蒲沢遺跡No.9〔金子・田村1994〕：上野原段階の地文土器が出土している）、または拠点集落から5kmほど離れた沖積平野部に点在するようになる（大沢谷内北遺跡No.4、笥下遺跡No.2、三林遺跡No.13〔小熊2002〕）。新津丘陵周辺に注目すると、川船河遺跡（No.7）と関連がある遺跡は保明浦遺跡（No.6）と考えられ、本遺跡は大沢谷内北遺跡（No.4）に移動する。原遺跡（No.3）が当該期に営まれていた場合は大沢谷内北遺跡との関連が有力となる。

上記のような現時点における遺跡分布から本遺跡の拠点となる遺跡を推察すると、原遺跡と川船河遺跡が候補に挙げられる。両遺跡とも本遺跡が営まれる1・2段階では不明瞭な部分が多いが、3段階の遺跡分布から推測するに新津丘陵南側の川船河・保明浦遺跡と、北側に位置する原・大沢谷内北遺跡の間には領域境が存在するようである。大沢谷内北遺跡は本遺跡の集団が地点を換えて立地したと考えられるため、本遺跡も原遺跡の領域に含まれていた可能性が高いと言えよう。原遺跡の詳細については不明であるが、いずれにせよ新津丘陵北半部に拠点集落が存在し、その一帯を領域とする集団により営まれていたと考える。

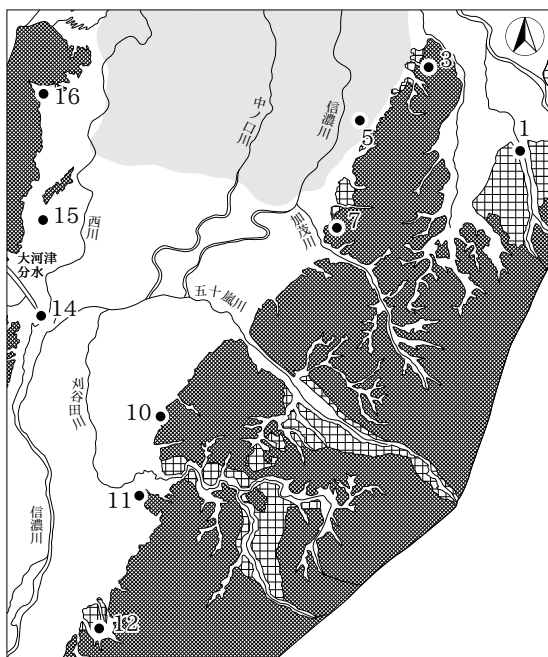
以上のように現時点では上記2遺跡が拠点集落の可能性を含むが、両遺跡ともモデルケースとした胎内川右岸



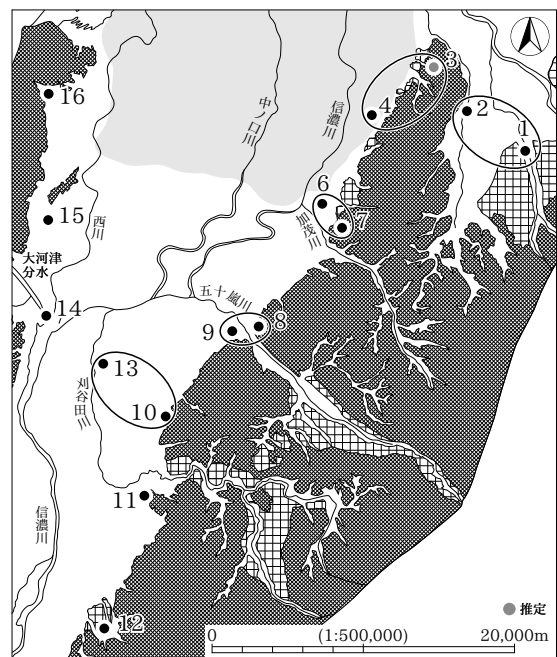
東山丘陵周辺(台地・段丘、沖積平野部)の縄文時代晩期中葉の遺跡



1段階(大洞C1式~C2式I期)



2段階(大洞C2式II期)



3段階(上野原段階)

第132図 東山丘陵周辺の晩期中葉遺跡の変遷

の遺跡群よりも距離を隔てている。胎内側右岸の遺跡群では本遺跡で特徴的な「収蔵デポ遺構」が存在せず、かつ石皿の出土もほぼ認められない（本節B第34表）。これは回帰先が近いために遺跡から搬出された可能性を想定させる。そうした場合に本遺跡の「収蔵デポ遺構」の存在は移動・回帰先が遠距離であるために再回帰時の使用のために保管したものと解釈すると矛盾がない。大沢谷内北遺跡からは櫛（オール）が出土しており〔前山・伊比ほか前掲〕、当該地域の移動手段には活発な内水面の利用が考えられ、遠距離への移動を可能にしていたものと推測する。

石材の主な入手先は新津丘陵を跨いだ東側の阿賀野川・早出川方面であり、拠点集落の矢津遺跡（No.1）が位置している。丘陵西側の集団は矢津遺跡の集団を介し、磐越を貫流する阿賀野川を通じて、東北南部との交流を行っていたことであろう。また本遺跡SD192からはエイ類の焼骨が出土しており（第VI章第4節参照）、日本海側の集団との関りも予想され、平野部を挟んだ蒲田遺跡（No.15）からは西山丘陵側からの入手経路も予想されるがアスファルト塊が出土している〔前山2000〕。さらに土器胎土についても角田山麓で特徴的な凝灰岩を多量に含んだもの（胎土Ⅲ類）が本遺跡にて一定量出土しており、当時の内水面利用による広域のネットワークの存在を考慮する必要があるだろう。

第2節 上層の遺跡

A 上層の遺構

1) 集落の変遷

大沢谷内遺跡上層で検出された遺構は、柱穴列9列、掘立柱建物26棟、ピット870本、溝状遺構26条、井戸40基、土坑141基、性格不明遺構49基である。出土遺物および遺構埋土から、ピットを除くこれらの遺構を可能な限り以下のⅠ～Ⅳ期に分類し、集落構造の変遷について概観する。

Ⅰ期：飛鳥時代（7世紀後半代）

南側の谷に面した微高地上を居住域とし、北端は調査区を横断するSD157、南側はSD480によって区画される。居住域では地業が行われており、6棟の掘立柱建物は梁間2間および1間を基本とし、棟方向は北に対し10°前後偏するものが主体となる。また、柱間寸法の長い柱穴列も2列みられる。SD480の切れる南西部では谷部の祭祀的利用（SX945）も見られる。

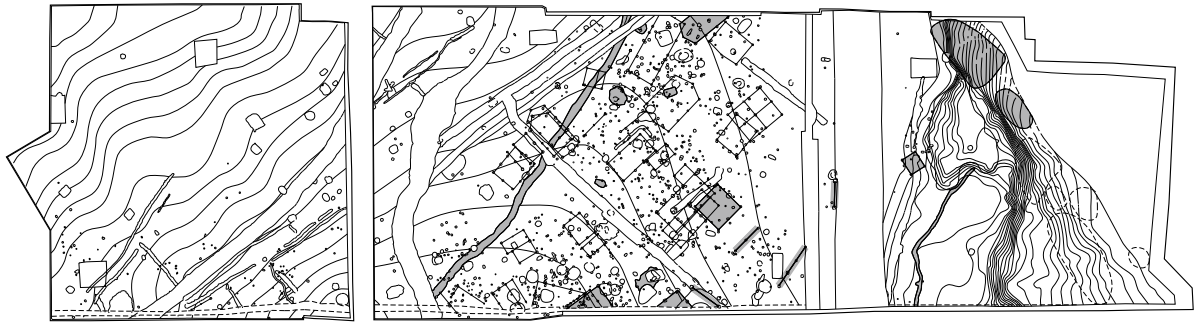
Ⅰ期は、国造制から評制へと地方支配体制が移行して間もなく営まれた集落である。『日本書紀』にみられる淳足柵が設置（647年）された時期にもあたり、その造営には中央王権の直接的な指導が関与した可能性が強い。「柵」は防衛的機能を有する区画施設と考えられ、仙台市郡山遺跡の調査事例などから材木列などの「木柵」を伴う区画溝が一般的な外囲い施設である。本遺跡から防御施設は検出されていないが、溝による区画はなされていると考えられる。防衛的施設として防塁や築地塀などの施設も考えられるが、土地改良事業などにより削平されておりこれらの有無は不明である。しかし、SA1546・1547など柱間寸法が5.1mを測る柱穴列や、初現的な律令祭祀の様相を呈するSX945など、一般的な集落とは異なる面を有している。主たる生業は認められないが、出土遺物から須恵器生産などに関与した可能性も考えられる。

Ⅱ期：奈良時代（8世紀初頭～終末）

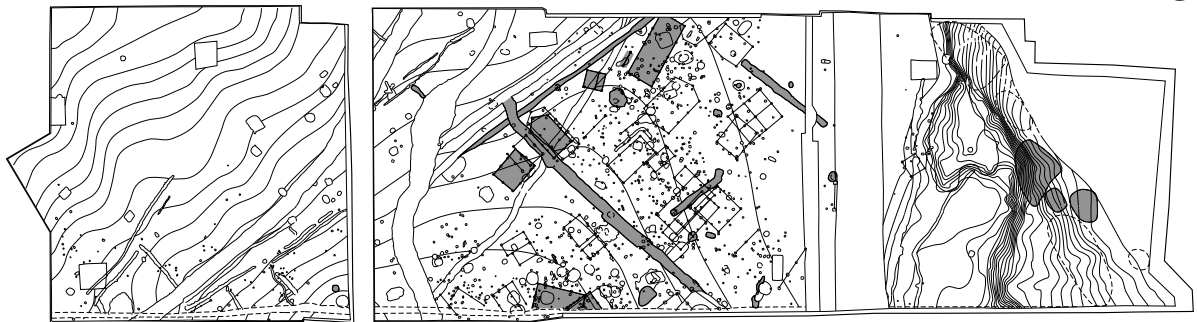
Ⅰ期同様に微高地上が居住域の主体となり、居住域の地業は頻繁に行われている。SD156・158・477により方形区画を意識したとも考えられ、出土遺物が少ないため断言は出来ないが、厳密にはⅡ期は前・後半の2段階に分離されると推察される。掘立柱建物は梁間2間×桁行3間の建物を基本とするが、棟方向に統一性は窺えない。前段階では祭祀的な場であった南側の谷部は、生産域としての利用に移行する。

Ⅱ期も溝による区画がみられ、Ⅰ期と同様な要素を多分に持っていたと考えられる。谷部での祭祀行為は、出土遺物から8世紀前半代まで行われた可能性はある。しかし、徐々に西側の緩傾斜地へと利用場所を移し、生業

I 期



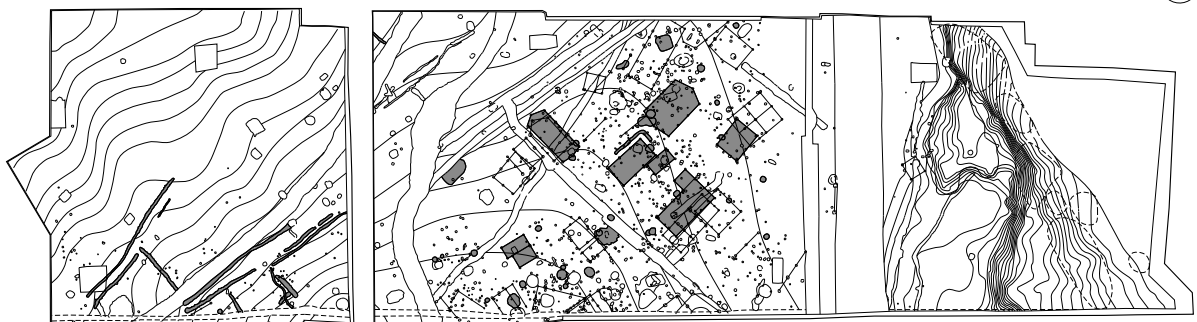
II 期



III 期



IV 期



0 (1:1200) 30m

第 133 図 各期の上層遺構

としての木製品の製作跡となっていたと考えられる。

Ⅲ期：平安時代前期（8世紀最終末～9世紀前半）

Ⅱ期に続き微高地上が居住域の中心である事に変わりはないが、居住域が北側に拡大する。南北を区画する東西方向の溝状遺構は見られなくなり、居住域西側はSD 153～155で区画される。内郭を区画すると推察されるSD800は南西隅だけの検出であり、内郭の状況は不明である。8棟の掘立柱建物は梁間2間を主体とし、棟方向は概ね北に対し10～20°東偏するものが主体となるが、配置などに画一性は認められない。南側の谷部は、緩斜面地を主に木製品の生産域として利用される。

Ⅲ期は居住域の拡大が図られ、一般的な集落への過渡期と考えられる。また南側谷部は、生業域としてのみの利用となる。出土遺物から、本調査地内における古代の集落は9世紀前半代で一端断絶すると考えられる。しかし市道鎌倉横川1号線改良工事に伴う調査地点などは9世紀後半代が主体となるように、大沢谷内遺跡内の試掘・調査事例から地点を変えながら古代末まで集落が存続する事が判明している。

Ⅳ期：中世

集落は依然微高地上に展開するものの、区画溝は見られなくなる。集落内には井戸が目立つようになり、掘立柱建物の棟方向は北から9～21°東西に偏する。Ⅲ期にみられるSD153は用水路としての機能に転じたと考察され、集落北側の後背湿地を生産域として拡大する。

Ⅳ期は一般的な中世村落の様相を呈しており、Ⅲ期まで続いた南側谷部の土地利用はなくなる。これは、頻繁な地滑りや冠水などにより不安定な谷部を放棄し、湿潤ながらも安定した北側湿地を生産域として選択した結果と考えられる。

このように各期においても居住域の中心は調査区東寄りの微高地上にあり、本調査区は集落の西側縁辺部にあたると考えられる。本来遺跡の中心と推察される東側調査区外の様相が不明なため一概に断言しかねるが、中央王権もしくは官的要素を持った集落から一般的な集落への構造変化が窺える。

I期でみられた官的要素が薄れた要因の一つとして、大宝元（701）年に制定された大宝律令が挙げられる。柵では「覓国使」などによる個別的な支配拡大がなされたとされるが、律令下では「撫慰」と「征討」という硬軟政策を用いた「国司」による地方支配の拡大が行われるようになる。本遺跡の位置する蒲原郡は大宝2（702）年には越中国から越後国に編入されており、淳足柵の設置から、磐舟柵（648年）、都岐沙羅柵（658年）、出羽柵（709年）と順次北上した柵と同様に、本遺跡の機能も移転したのと考えられる。

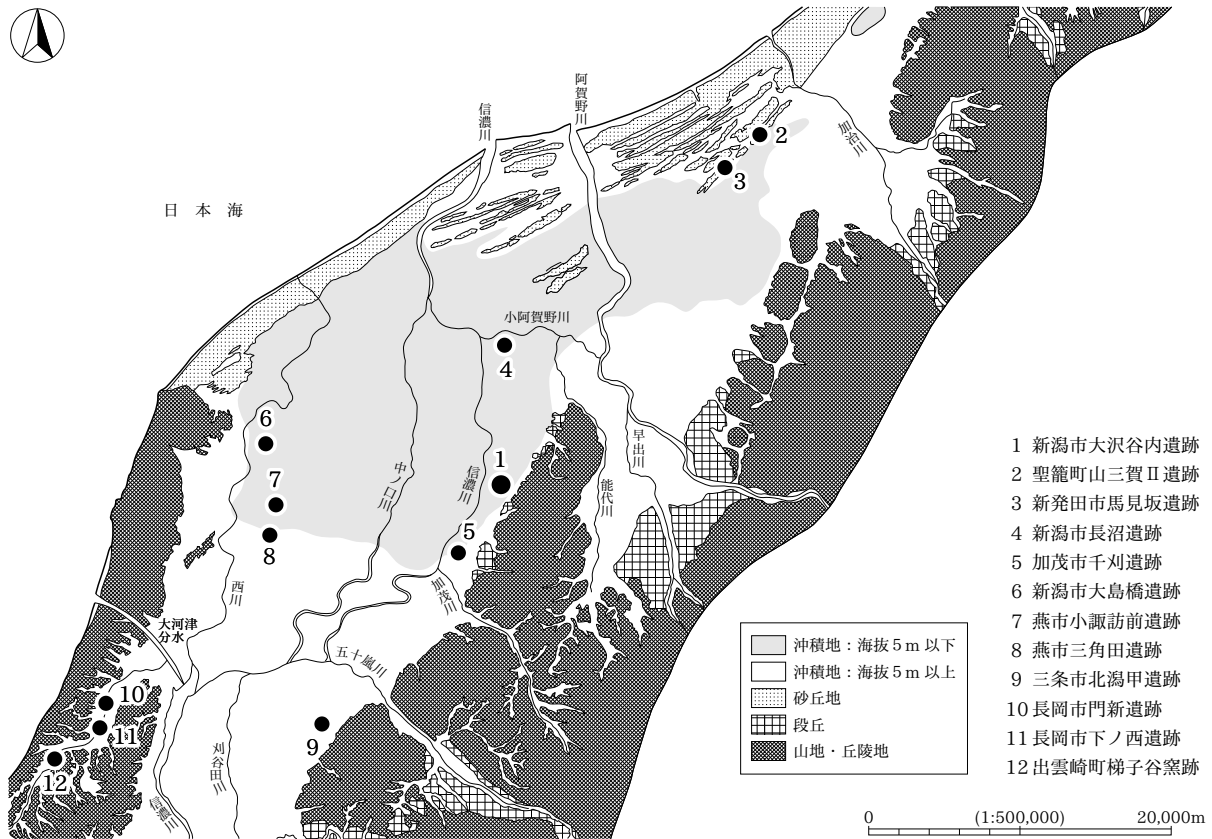
Ⅱ期前半には新津丘陵窯跡群の操業が活発化しており、生業の拠点が新津丘陵北東斜面に移動したと考えられる。それに伴い新津丘陵北東部および信濃川や能代川など新津丘陵沿いを流れる河川の下流域に、拠点的な集落は移転したと推察される。

2) 新潟市周辺の7世紀の遺跡

大沢谷内遺跡では、7世紀代後半の土器群がまとまって出土している。これらの大半は土器集中域からの出土であるが、完形率も高く一括性が窺える資料である。新潟県内における7世紀の土器様相については春日真実氏によって詳細な分析がなされており〔春日2006〕、ここでは新潟市周辺の遺跡について概観する。

新潟市および周辺で7世紀代の土器が出土している遺跡は、大沢谷内遺跡を含め12遺跡が挙げられる。立地からみると大きく砂丘上（馬見坂遺跡・山三賀Ⅱ遺跡）、沖積地（長沼遺跡・大沢谷内遺跡・千刈遺跡・大島橋遺跡・小諏訪前遺跡・三角田遺跡・北潟甲遺跡）、丘陵地（門新遺跡・下ノ西遺跡・梯子谷窯跡）に分類される。

砂丘上の遺跡立地は縄文時代にまで遡り、それ以降も継続的に利用される。山三賀Ⅱ遺跡と馬見坂遺跡は内陸側の新砂丘Ⅰ-2〔新潟古砂丘研究グループ1974〕に立地するが、山三賀Ⅱ遺跡は比較的幅広の砂丘上に占地し、馬見坂遺跡は小丘状に発達した先端部の微高地に占地する。山三賀Ⅱ遺跡の古代集落の成立は8世紀初頭であり、9世紀後半に衰退するまで集落は継続〔坂井ほか1989〕しており、春日編年Ⅲ1～Ⅵ3期にあたる長期的集落である。対して馬見坂遺跡は7世紀第2四半期〔関2001〕という、春日編年Ⅰ3期で収束する短期間の遺跡と考えられる。



第134図 新潟市周辺における7世紀の遺跡

沖積地の遺跡は、自然堤防などの微高地に立地すると考えられる。長沼遺跡は阿賀野川の自然堤防上に位置し、かえりのある須恵器杯蓋などから春日編年Ⅱ2～Ⅲ1期の遺跡と考えられる。大沢谷内遺跡は信濃川の自然堤防上に位置し、地点を移動しながら春日編年Ⅱ1～Ⅶ期まで集落は存続する。千刈遺跡は加茂川支流の千刈川河床下に位置しており、自然堤防上の遺跡と考えられる。須恵器杯身の形態から、大阪府堺市の泉北丘陵に広がる陶邑窯跡群における中村浩氏による編年（以下、「中村編年」）〔中村2001〕のⅡ型式3段階前後〔伊藤1994〕と考えられ、春日編年Ⅰ1期もしくはそれ以前にあたると考えられる。大島橋遺跡は旧鰐潟の西岸微高地に位置し〔山口1984〕、須恵器杯蓋（杯G蓋）や平瓶の特徴から中村編年Ⅲ型式1段階、春日編年Ⅰ3期にあたると考えられる。小諏訪前遺跡、三角田遺跡は大通川の自然堤防上の微高地上に立地し、出土遺物から小諏訪前遺跡は春日編年Ⅰ3期、三角田遺跡はⅡ2～Ⅲ期の遺跡である。北潟甲遺跡は刈谷田川低地に位置し、春日編年Ⅰ2期を主体とする。

丘陵地の遺跡として、門新遺跡Ⅲ区は杯の形態から春日編年Ⅰ1～2期と考えられる。下ノ西遺跡Ⅲ区は、中村編年Ⅱ型式6段階の須恵器無台杯（杯H）からⅢ型式2段階と考えられるかえりを持つ大振りの須恵器杯蓋や須恵器有台杯などから、春日編年Ⅰ3～Ⅱ1期が主体となると考えられる。

集落の消長を考察する上で春日編年を実年代とすると、Ⅰ1期：6世紀終末～7世紀初頭、Ⅰ2期：7世紀第一四半世紀、Ⅰ3期：7世紀第二四半世紀、Ⅱ1期：7世紀第三四半世紀、Ⅱ2期：7世紀第四四半世紀、Ⅲ1期：7世紀最終末～8世紀第一四半世紀、Ⅲ2期：8世紀第二四半世紀、Ⅳ1～3期：8世紀後半、Ⅴ1・2期：9世紀前半、Ⅵ1～3期：9世紀後半にあたると考える。

6世紀後半から7世紀代の遺跡は、大沢谷内遺跡と三角田遺跡を除き短期間で収束する傾向が窺える。特に7世紀第2四半世紀と考えられる遺跡は地形に関係なく認められるが、いずれも短期間でその役割を終えると推察される。これには相次ぐ淳足柵・磐舟柵の造営が多分に関与していると考察され、中央王権の辺境支配に伴う移転が頻繁に行われたと推察される。また柵戸や柵養などの配備により、広大な集落が必要であった可能性も高い。

柵造営直後の7世紀後半代に属する遺跡は激減する。当該期の遺跡として大沢谷内遺跡、長沼遺跡、三角田遺

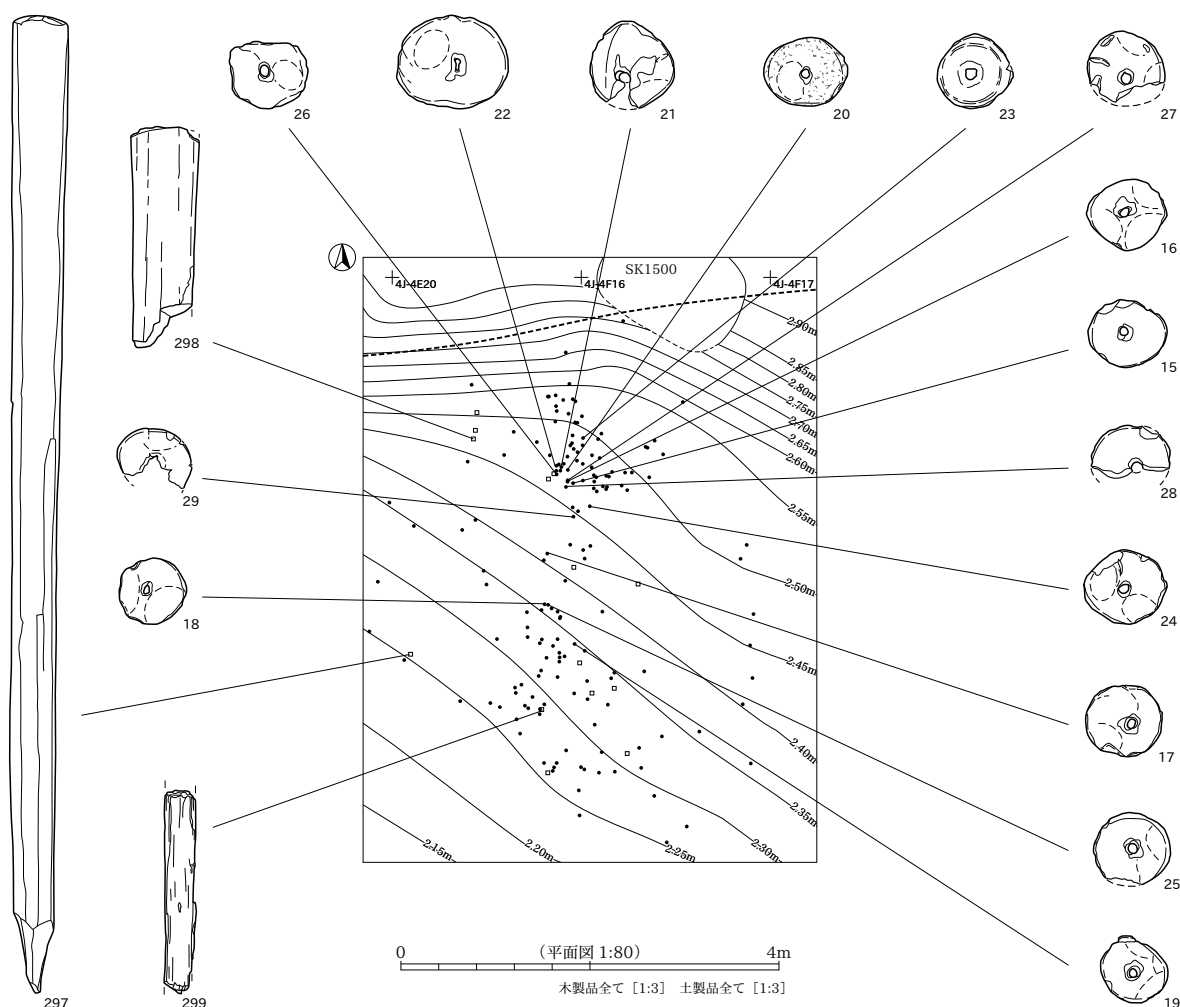
跡が挙げられるが、いずれも自然堤防上の微高地を選地しているため、西川から阿賀野川にかけた内水面を取り囲む自然堤防などの微高地上に、本時期の遺跡が埋没している可能性が高いと考えられる。

大宝律令後の8世紀初頭になると、山三賀Ⅱ遺跡のように継続的な集落が数多く出現する。これらの集落は生産力向上などを目的に律令下で整備された集落と考えられ、律令体制の弱体化に伴い8世紀終末には集落の多様化が図られ、体制の崩壊する9世紀後半に急速に集落が衰退する事も裏付けとなる。

3) 祭祀遺構

大沢谷内遺跡の南側谷部の東端で、祭祀に伴うと考えられる遺物集中(SX945)が確認された。本遺構からは一括廃棄と考えられる須恵器食膳具を主体とした土器と共に、斎串や刀形などの木製品、土製の孔円盤などが出土している。また、南側谷斜面出土とした舟形や弓形も、本来は本遺構に含まれていた可能性が高い。SX945における遺物出土層位の木片や土器付着物のAMS年代は650年前後という測定結果が得られており、土器型式からみた年代観と矛盾を生じない。この年代観は、天武・持統朝に出現するとされる人形・馬形などの木製祭祀具が出土していない事からも妥当である。

古代社会における祭祀の果たす役割は極めて重要なものであり、初期国家の形成過程であり祭政一致の社会とされる古墳時代には、首長の葬送儀礼はもとより山岳信仰や農耕、漁業などに伴う多くの祭祀行為が報告されている。その後陰陽道の諸道が伝来し、天武朝に入ると『日本書紀』にも陰陽寮関係の記事が多く見られるようになり、持統3(689)年施行の浄御原令に陰陽寮として定着したと推察される。しかし、7世紀後半の天武・持統朝の頃の国家祭祀は大和地方の広瀬・龍田祭という祭祀形態を拡大したものであったとされており、大宝律令



第135図 SX945 土製有孔円盤・斎串出土状況

において神祀令の祭祀体系が確立したと考察される。すなわち大宝律令までの地方における祭祀体系は、可変的・流動的な要素を多分に含んでいたと考察される。

本遺構からは、斎串など律令祭祀を窺わせる遺物と共に古墳時代の延長とも考えられる土製有孔円盤が纏まって出土（第135図）しており、まさに可変期にあたる祭祀行為と考えられる。また、新潟県内における木製祭祀具については山崎忠良氏によって変遷案や出土状況が把握されている〔『延命寺遺跡』山崎ほか2008〕が、この変遷案に当てはめた場合にも本遺跡出土の木製祭祀具はいずれも古様相を呈している。

本遺構は谷部の斜面にあり、祭祀場の位置からは川や農耕の祭祀が想定される。しかし、一括廃棄された須恵器の肉眼観察による産地は、阿賀北産、新津丘陵産、西古志産が認められ、さらに東北系の土師器甕や黒色土器高杯なども出土している。このように出土遺物が多様な地域性を示すことから、本祭祀は単に一集落の水辺の祭祀と看過すべきではないと考えられる。AMS年代で示された640～660年という年代は淳足柵・磐舟柵の造営前後であり、国家的に辺境政策が推し進められた時期にあたる。大宝律令により、越後国司には陸奥・出羽の国司と共に「饗給・征討・斥候」という辺境地支配の権限が与えられるが、この硬軟政策は改新政権下でも実施されていたと考察される。本遺構で出土した多量の須恵器は、饗応などに使用された食膳具を一括廃棄したものと考えられる。国家的政策による祭祀と考えた場合、出土遺物の多様性・多地域性は必然的なものであり、本遺構は可変的な形態内における初現的な律令祭祀の場と考察出来よう。

B 上層の遺物

1) 各期の器種組成

大沢谷内遺跡からは、平箱（内法54.3×33.6×10.0cm）で換算して約140箱の土器が出土している。これら遺物の大半は南側谷部の土器集中や包含層からの出土であり、遺構出土の土器は少ない。その中でも比較的多くの遺物が出土した遺構を抽出し、各期の器種組成について検討を加えたい。抽出した遺構は6遺構で、出土土器からSD157、SX945がⅠ期（飛鳥時代）、SK666、SX946・1088がⅡ期（奈良時代）、SK1028がⅢ期（平安時代）である。Ⅲ期になると遺構数および出土遺物が激減するため、抽出は1基に止まった。

Ⅰ 期

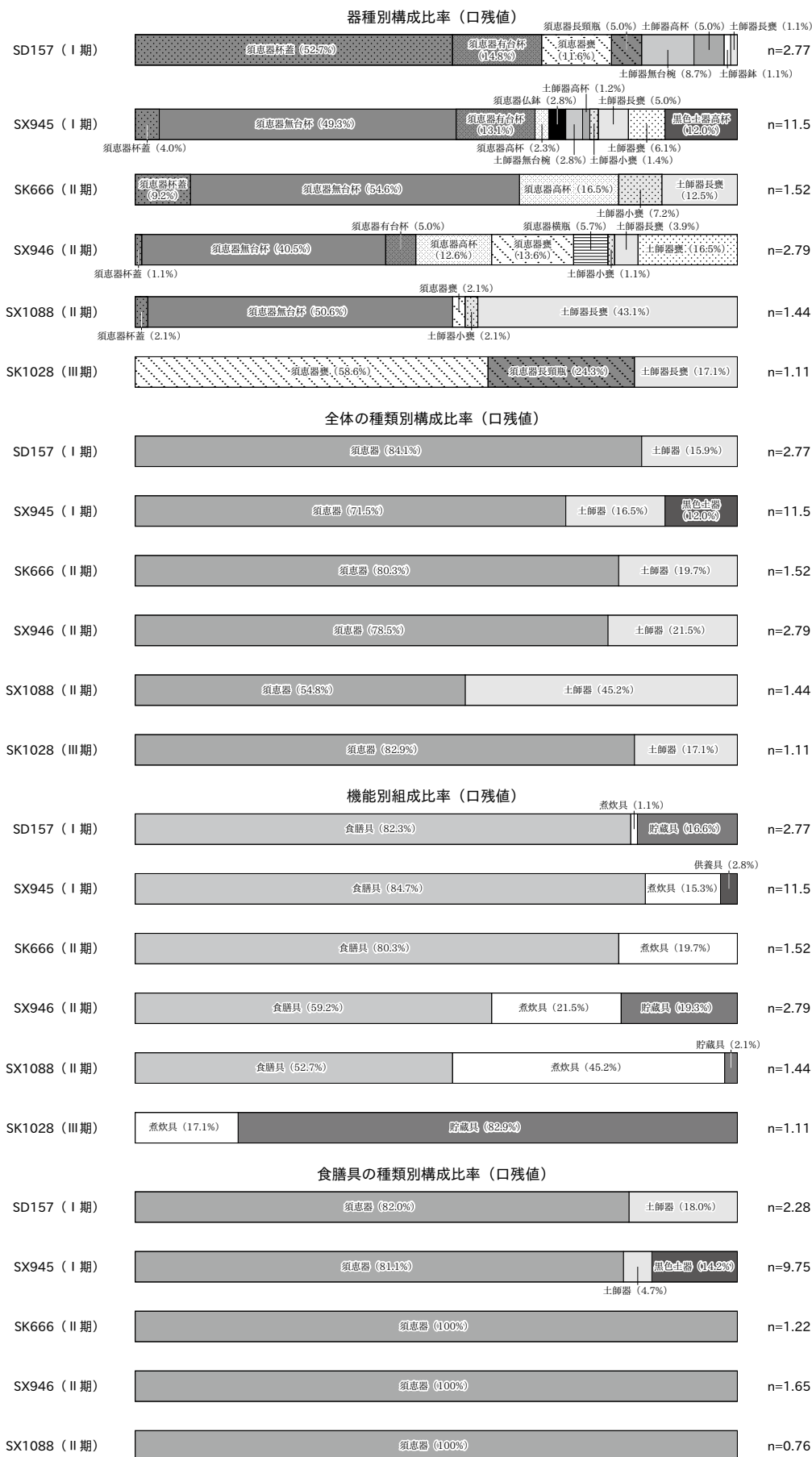
SD157はⅠ期集落北側の区画溝で、出土遺物は須恵器が出土遺物の82.9%を占め、煮炊具は土師器長甕の僅か1.1%に過ぎない。器種は食膳具、貯蔵具・煮炊具が出土しており、食膳具の割合は須恵器杯蓋64.0%、須恵器有台杯18.0%、土師器無台椀10.6%、土師器高杯6.1%、土師器鉢1.3%である。須恵器無台杯が認められず、食膳具に占める土師器の割合が18.0%となる。貯蔵具は須恵器で占められており、内訳は須恵器甕70.0%、須恵器長頸壺30.0%である。須恵器の産地は、新津丘陵窯産と西古志窯産に限定される。

SX945は南側谷部斜面に位置する土器集中で、出土遺物の内訳は須恵器71.5%、土師器16.5%、黒色土器12.0%である。食膳具の割合は、須恵器無台杯58.2%、須恵器有台杯15.5%、須恵器杯蓋4.7%、須恵器高杯2.7%、黒色土器高杯14.2%、土師器無台椀3.3%、土師器高杯1.4%であり、杯身に対し杯蓋が少ない傾向が窺える。また、東北系の土師器甕が煮炊具に占める割合が48.8%と高くなる。須恵器の産地は西古志窯産が多く、阿賀北産、新津丘陵窯産が定量含まれる。また、石川県小松市など遠隔地の窯跡産と推察されるものも散見される。

Ⅱ 期

SK666は須恵器が出土遺物の80.3%を占めており、食膳具は須恵器に限定される。食膳具の割合は、須恵器無台杯68.0%、須恵器高杯20.5%、須恵器杯蓋11.5%であり、無台杯が圧倒的に多く有台杯は見られない。須恵器の産地は、西古志窯産と推察されるものが多くを占める。

SX946は南側谷部斜面に位置する土器集中で、出土土器の内訳は須恵器78.5%、土師器21.5%で、食膳具と貯蔵具は須恵器が占める。食膳具の割合は、須恵器無台杯68.4%、須恵器有台杯8.4%、須恵器高杯21.3%、須恵器杯蓋1.9%で、須恵器無台杯が7割近くを占め須恵器高杯の比率が高い事も特徴的である。貯蔵具には須



第136図 主要遺構別器種組成表

恵器甕と須恵器横瓶があり、また煮炊具に東北系の土師器甕の占める割合が76.7%と非常に高い。須恵器の産地は、西古志窯産の占める割合が高く、新津丘陵窯産や阿賀北窯産の割合は低く、産地不明としたE群の中でも小砂利を含む緻密質な胎土の須恵器が数点含まれる。

SX1088の出土土器の割合は須恵器54.8%、土師器45.2%と土師器の割合が多くなるが、土師器は煮炊具に限定される。食膳具の割合は、須恵器無台杯96.0%、須恵器杯蓋4.0%と偏った器種組成を示す。煮炊具においても、土師器長甕が95.3%を占め、偏りが顕著である。器種組成の偏りは遺構の性格によるものとも考えられ、本遺構で検出された焼土などが何かしらの影響を与えている可能性も推察される。須恵器の産地は、西古志窯産と推察されるものが多く、僅かに新津丘陵窯産が存在する。

Ⅲ 期

SK1028の出土土器の割合は須恵器82.9%、土師器17.1%であるが、須恵器は貯蔵具、土師器は煮炊具に限定され、食膳具は出土していない。須恵器の内訳は甕70.7%、長頸瓶29.3%で、土師器は全て長甕であり、器種の偏りが顕著である。須恵器の産地は新津丘陵窯産が主体で、一部佐渡小泊窯産が見られる。

各期を通して食膳具には須恵器が使用される傾向が窺え、特に須恵器無台杯の多さが目立つ。時期的にⅡ～Ⅲ期では須恵器有台杯が増加すべきと考察されるが、抽出した遺構の性格からか器種組成からはその傾向は窺えない。また須恵器の産地については、Ⅰ・Ⅱ期では阿賀北窯産や新津丘陵窯産も定数見られるものの西古志窯産が大多数を占め、一部遠隔地からの搬入も認められる。しかし出土遺物全体を概観した場合、Ⅰ・Ⅱ期における須恵器貯蔵具は新津丘陵窯産と推察されるものが多く、器種によって産地を選定していた可能性も窺える。Ⅲ期になると新津丘陵産が増加し、西古志産はほぼ見られなくなる。佐渡小泊窯産の須恵器が定量確認されるようになるが、県内他地域と較べ8世紀後半以降に佐渡小泊窯産の須恵器が膨大に増加する傾向は窺えない。

また、SX945・946は斜面に位置する祭祀的要素の強い土器集中であり、SX945では供養具である仏鉢も出土している。煮炊具に沈線文や砂底といった東北系の土師器甕が目立ち須恵器の産地でも遠隔地を含むなど、他遺構とは異なった器種組成が見られる。これは本遺跡の広範囲に亘る多岐な交流によるものと推察され、飛鳥時代から奈良時代初頭まで本遺跡が担ったと考察される国家的性格に因るものであろう。

各期を春日編年に対応させた場合、概ねⅠ期のSD157、SX945はⅡ1～2期、Ⅱ期のSK666、SX946・1088はⅢ1期、Ⅲ期のSK1028は食膳具がないため不明な点も多いがⅣ3～Ⅴ1期になると考える。

2) 大沢谷内遺跡出土土器の編年的位置付け

大沢谷内遺跡上層からは、弥生時代～中世の土器が出土している。ここでは県内で出土例の少ない7世紀の須恵器について、その編年的位置付けを考察したい。

大沢谷内遺跡SX945から、7世紀の須恵器がまとまって出土している。これらを概観した場合、口径12cm以下の丸底の無台杯が目立つ。また所謂杯Hは認められず、有台杯(杯B)が僅かに見られるのみである。

陶邑編年を構築する重要な要素である杯蓋をみてみると、蓋内面のかえりは形骸化されておらず、天井部のつまみは擬宝珠様を呈するものが多く乳頭状も一部みられる。陶邑における中村編年によれば、かえりのある杯蓋はⅢ型式に限定され、1段階では乳頭状のつまみが2段階では擬宝珠様に変化する。またかえりについてみると、2段階から短くなる傾向にあり3段階では形骸化する。杯蓋からすれば、本遺跡はⅢ型式2段階が中心になると考えられる。

他の器種について考察すると、Ⅲ型式1段階は杯G蓋が身に転じた段階であるため丸底を呈する無台杯が一般的であるが、徐々に平底化する傾向が窺える。2段階になると有台杯が組成されるようになり、口径などの法量がやや大きくなる傾向が窺える。本遺跡では丸底の無台杯が主体となるものの、有台杯もみられることからⅢ型式2段階の土器群と考えられ、中村編年においては杯蓋の年代観とも一致する。

小田裕樹氏による7世紀の土器編年(以下、「飛鳥編年」)[小田2009]と比較した場合、飛鳥Ⅱ期の基準資料とされる水落遺跡で宝珠形のつまみと内面縁部にかえりのある杯G蓋が出土している。形態的に若干の時期差は考

えられるものの20個体という纏まった出土から、つまみの付くかえりのある杯蓋はこの段階で定型化し始めたものと推察される。また同遺跡から、壺脚部のような高台の付く杯Bが1点出土している。飛鳥Ⅲ期の基準資料である大官大寺下層SK121の出土遺物を見ると、杯蓋のかえりが短くなるものや形骸化するものもみられるためやや時間幅があるとは考えられるが、杯B（有台杯）が定型化し、無台杯は法量がやや大きくなる傾向が窺える。また本期に杯Hは消滅し、「律令的土器様式」の萌芽的成立とされる。器種組成は異なるものの、杯蓋や無台杯、有台杯についていえば、大沢谷内遺跡は飛鳥Ⅱ～Ⅲ期にあたると考えられる。飛鳥Ⅱ期からⅢ期への変化は中村編年のⅢ型式1段階から2段階への変化と類似性が高く、そこからすれば飛鳥Ⅲ期初頭を中心とすると考えるのが妥当である。

飛鳥Ⅱ期を前期難波宮から斉明朝、飛鳥Ⅲ期を天智朝の土器型式とした場合、飛鳥Ⅱ期は652～661年、飛鳥Ⅲ期は662～671年という年代となり、いずれも7世紀第三四半世紀にあたる。

大沢谷内遺跡では杯Hが欠落することから北陸における田嶋明人氏の編年〔田嶋1997〕のⅡ-1～2期の過渡期にあたる土器群と思われ、春日編年ではⅡ1期にあたると考えられる。この年代観は中村編年におけるⅢ型式2段階とも一致し、SX945出土遺物の自然科学分析によるAMS年代も交点が650年という測定結果が与えられている。

以上のことから、大沢谷内遺跡SX945出土須恵器の主体は7世紀第三四半世紀に位置づけられると考察される。

また、SX945からは多くの木製品も出土しており、後述の九々木簡(w290)は包含層上位から出土している。AMS法による分析により、包含層中から出土した曲物や土師器甕に付着した炭化物は、それぞれ640年、650年と土器群の年代観と一致した測定年代が得られている。木簡のAMS年代は、暦年較正年代においては $1\sigma \cdot 2\sigma$ ともに7世紀代の年代が含まれるものの、交点が770年という測定結果となっている。本遺構の北側平坦面に位置するSK1500からは神功開寶や春日編年Ⅳ1期にあたる須恵器有台杯が出土しており、木簡に与えられたAMS法による年代に一致する。しかし、出土層位や九々の書き進め方からは7世紀末から8世紀前半のものと考えられ、試料が微量のために生じた年代誤差とも考えられる。

3) 大沢谷内遺跡出土の木簡について

〔釈文と法量〕

釈文①〈1〉(第137図)

〔形 状〕

上端と左辺は原状をとどめている。右辺は一部をわずかに欠損するがほぼ原状である。下端は欠損している。表面の右半分やや直線的な部分があるので、刃物を入れて切断された可能性もあるが断定できない。木簡の中央からやや右寄りには上端から中ほど近くまでの割れがある。

〔内 容〕

文字は表面にのみ書かれている。3行(列)書きで、現状では五段にわたって九々が記されている。古代の九々は現在と異なり、「九々八十一」から始まり、「八九七十二、七九六十三…」と掛けられる数が少なくなっていく。本木簡では、一段目左列の「九々八十一」から始まり、右へ横方向に書き進め、五段目右列の「一八〇」まで、九の段と八の段の九々が記されている。各段をきちんとそろえて記しており、3列×5段の九々算表のようになっている。後述するように、九々の書き進め方は異なるが、見た目は、長野県千曲市屋代遺跡群出土81号木簡〔市川・寺内2000〕や中国出土の九々を記した木簡〔湖南省博物館2006〕〔大庭1990〕に似ている。

九々の間違いや誤字・脱字が多く見られる。間違いでは、二段目左列の「六九」が「七十四」となっていたり、三段目左列の「三九」が「二十四」となっていたりする。誤字では、二段目中列が、本来は「五九」とあるべきところが「七九」となっている。脱字では、二段目右列が、本来は「四九三十六」とあるべきところが「九」と「十」

- 〔1〕新潟市大沢谷内遺跡出土木簡积文

「 七九六一三 四三六 一九々々□ 六八卅八 一八〇
〔十力〕

八九七十二 七九四七 二九四八 七八七十六 二八〇
〔卅力〕

九々八十一 六九七十四 三九二十四 八々六十四 五八〇□
〔二〇九〕×三五×四〇一九型式
- 〔2〕胎内市草野遺跡出土木簡积文

a

・六八卅八 五八卅 四八卅三 三八
〔二五三〕×二六×四〇一九型式

b

〔符籙様記号〕九々八十一
三三〇×二九×六〇二型式
- 〔3〕新発田市七社遺跡出土木簡积文

・□九八十一八九七十二七九六十卅三
〔四力〕
 六九五十四五九□□九□□
 一九又九八八六十四
- 〔4〕長野県千曲市屋代遺跡群出土木簡积文

a、八一号木簡

・〔八十七〕〔八九〕〔二〕〔七九〕
〔九九〕
 九九□□一 □□七十□ □□六十三 六九五
〔六〕 □□

□九卅 四九卅 三九廿七 二九十八
〔八〕 □□

・□九如□ 八々□十四 七□
 五八卅 □□ 三八廿四 二八十六
〔三三五〕×五五×五〇一九型式
- 〔5〕京都府長岡京左京出土一〇号木簡积文

b、一一六号木簡

□四七廿八 □□ 四六廿四
 □五七 五 □□ 五六
 □金刺舎人小尼南□□ □□
 南南南 北 □□北 □□

〔二七八〕×四〇×八〇八型式

c、一一七号木簡

・六四六三五十五 □□□
 □□ 四五廿 □□□
〔穴力〕
 □□ 大大入入口

〔一九九〕×〔四〇〕×五〇一九型式
- 〔6〕奈良県藤原宮跡出土木簡积文

a

〔八九七十二〕 七九□
 九々八十

〔二二四〕×三二×七〇一九型式

b

八九

○九一型式〔削唇〕

第 137 図 木簡积文①

<p>〇新潟市馬場屋敷遺跡出土二二号木簡釈文</p> <p>・「☆(梵字) (梵字) 蘇民将来子孫(六星図)」</p> <p>・「☆(梵字) (梵字) 九々八十一 一十八々九」</p> <p>二五〇×三〇〇×三 〇五一型式</p>	<p>《参考》</p> <p>〇新潟市馬場屋敷遺跡出土二二号木簡釈文</p> <p>・「☆(梵字) (梵字) 蘇民将来子孫(六星図)」</p> <p>・「☆(梵字) (梵字) 九々八十一 一十八々九」</p> <p>二五〇×三〇〇×三 〇五一型式</p>	<p>〈7〉島根県大田市白坏遺跡出土木簡釈文</p> <p>九々八〇×</p> <p>八九七×</p> <p>七九×</p> <p>六九〇×</p> <p>五×</p> <p>四九卅×</p> <p>三九廿×</p> <p>二〇〇×</p> <p>一×</p> <p>(八九×(四四)×五 〇八一型式)</p>	<p>〈8〉中国湖南省竜山里耶城址出土秦簡釈文</p> <p>・「 八十一 三九廿七 三八廿四 二七十四 三五十五 二々而四</p> <p>□〇十二 二九十八 二八十六 六々卅六 二五而十 一々而二</p> <p>七九六十三 八々六十四 七々卅九 五六卅 四々十六 二半而一</p> <p>六九五十四 七八五十六 六七卅二 四六廿四 三四十二 凡千一百一十三字</p> <p>五九卅五 六八卅八 五七卅五 三六十八 二四而八</p> <p>四九卅六 五八卅 四七廿八 二六十二 三々而九</p> <p>四八卅二 三七廿一 五々廿五 二三而六</p> <p>四五廿</p> <p>二二〇×四五</p>	<p>〈9〉中国甘肃省敦煌出土漢簡釈文</p> <p>「九九八十一 八八六十四 五七卅五 二六十二 二三而六</p> <p>八九七十二 七八五十六 四七廿八 五五廿五 二二而四 大凡千一百一十三</p> <p>七九六十三 六八卅八 三七廿一 四五廿 一一而一</p> <p>五八卅</p> <p>三五十五</p> <p>二六〇×(二四)</p>
---	---	---	---	--

第138図 木簡釈文②

を脱して「四三六」となっている。また、五段目は、左列の「五八」の次の「四八」と「三八」を飛ばして中列に「二八」、右列に「一八」を記している。八の段を五段目までに収めようとしたと考えられる。

〔考察〕

i. 九々の書き進め方について

九々を記す古代の木簡（以下、九々木簡）は、これまでに藤原京〔(独) 奈良文化財研究所 2004 (65)・2005 (537)]・平城京・長岡京〔(財) 京都市埋蔵文化財研究所 1997] などの都城のほか、長野県千曲市屋代遺跡群〔市川・寺内前掲]、兵庫県神戸市深江北町遺跡、島根県大田市白坏遺跡〔木簡学会 1988] など、各地の遺跡から出土している（第137・138図）。新潟県内では、胎内市（旧中条町）草野遺跡で2点〔水澤 2004・2009]（第137図〈2〉）、新発田市七社遺跡で1点〔田中耕・笹澤^{ほか} 2011]（第137図〈3〉）出土している。

本木簡の特徴は九々の書き進め方が特異な点である。木簡の上端左側から書き始め、右へ横方向に書き進める。これまでに各地から出土した九々木簡の多くは、木簡の上端から下へ縦方向に書き進め、複数行にわたる場合は、左行（あるいは左側面）へ書き進める。例として屋代遺跡群出土 81 号木簡〔市川・寺内前掲]（第137図〈4〉 a）と長岡京左京出土 10 号木簡〔(財) 京都市埋蔵文化財研究所前掲]（第137図〈5〉）を掲げる。このような九々の書き進め方は、天禄元（970）年成立の貴族の子弟向け教科書『口遊』や、鎌倉中期成立の有職故実書『拾芥抄』に載せる九々算表にも見られる。

本木簡と同じように横方向へ書き進める例は、藤原宮跡出土の2点〔(独) 奈良文化財研究所前掲]（第137図〈6〉）、屋代遺跡群出土 116 号・117 号木簡（第137図〈4〉 b・c、同一個体の可能性が指摘されている）、島根県大田市白坏遺跡出土木簡〔木簡学会前掲]（第138図〈7〉）、板材を横長に用いた横材木簡）などがある。また、時代が大きく異なるが、中国の里耶秦簡の九々木簡〔湖南省博物館 2006]（第138図〈8〉）や敦煌漢簡の九々木簡〔大庭 1990 (755)]（第138図〈9〉）も横方向へ書き進める。このうち、藤原宮跡出土の1点、白坏遺跡出土木簡、里耶秦簡と敦煌

漢簡の九々木簡は、右から左へ書き進める。本木簡と同じように、左から右へ書き進めるのは、藤原宮跡出土の1点と屋代遺跡群出土116号、117号木簡である。

九々の書き進め方に様々なバラエティがあるのは、九々が通常の文章ではなく、「 $9 \times 9 = 81$ 」「 $8 \times 9 = 72$ 」「 $7 \times 9 = 63$ 」といった、45（あるいは37）の個々の九々算からなる計算式群だからである。条里制や条坊制で、基準となる位置から東西南北へ、それぞれ一条、二条…、一坊、二坊…などと、多様な数え進め方があるのと似ている。しかし、九々の書き進め方の違いが何によるのかはよく分からない。

なお、本木簡のように左から右へ横方向に書き進める類例は、現在のところ藤原宮跡、屋代遺跡群という7世紀末から8世紀前半の遺跡のみで確認される。この時期に特有の九々の書き進め方の可能性があるが、藤原宮跡や屋代遺跡群では別の書き進め方をする九々木簡も出土しており、断定できない。

ii. 木簡の機能について

古代の九々木簡の機能については、九々を習得するための習書とする見解や、つれづれに意のおもむくまま筆を進めた落書（楽書）とする見解のほか、中世の呪符に「九々八十一」「八九七十二」が呪句としてみられる（第138図《参考》）ことから、呪術的な性格のものとする見解がある〔和田1982、鬼頭1984、佐藤信1997、館野2001など〕。

本木簡の機能を考えるにあたっては、その出土状況に特に注意する必要がある。本木簡は平成20年度調査区の南側で検出された東から西方向へ流れる河川跡の北側の川岸から出土した。川岸からは、本木簡のほかに、斎串、舟形、鋸形木製品、有孔土製円盤などの祭祀具が出土した。また、完形の須恵器坏の一括廃棄もみられ、川岸は水辺で行われた祭祀の場と考えられている。このような出土状況の特徴からすれば、本木簡の機能についても祭祀にかかわるものとするのが妥当であろう。木簡の出土が本木簡だけで、他の習書木簡や文書木簡、荷札木簡などが出土していないことも、本木簡が習書や落書ではなく、祭祀にかかわるものとする理解を補強するであろう。本木簡が習書や落書であれば、他の習書木簡や文書木簡などと共に廃棄されるのではなかろうか。

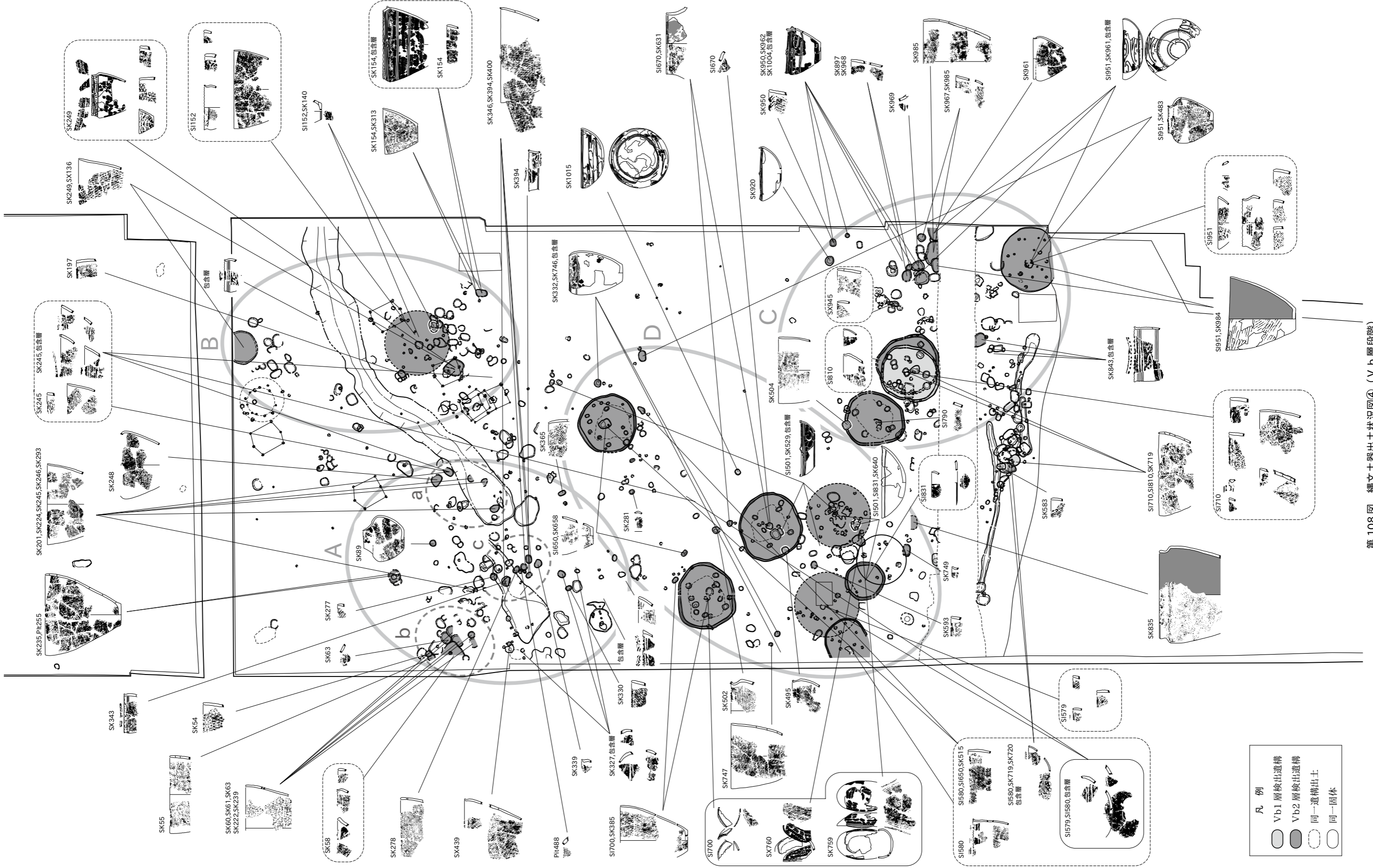
本木簡が何らかの祭祀的な目的で記されたとすれば、九々の間違いや誤字・脱字があったり、「四八」と「三八」を飛ばしたりしていることも理解しやすいだろう。つまり、祭祀的な機能が目的であるならば、とにかく「九々」が記されていることが重要なのであり、九々の間違いや誤字・脱字などは、あまり意に介さなかった可能性もあるのではないかと思われる。

[ま と め]

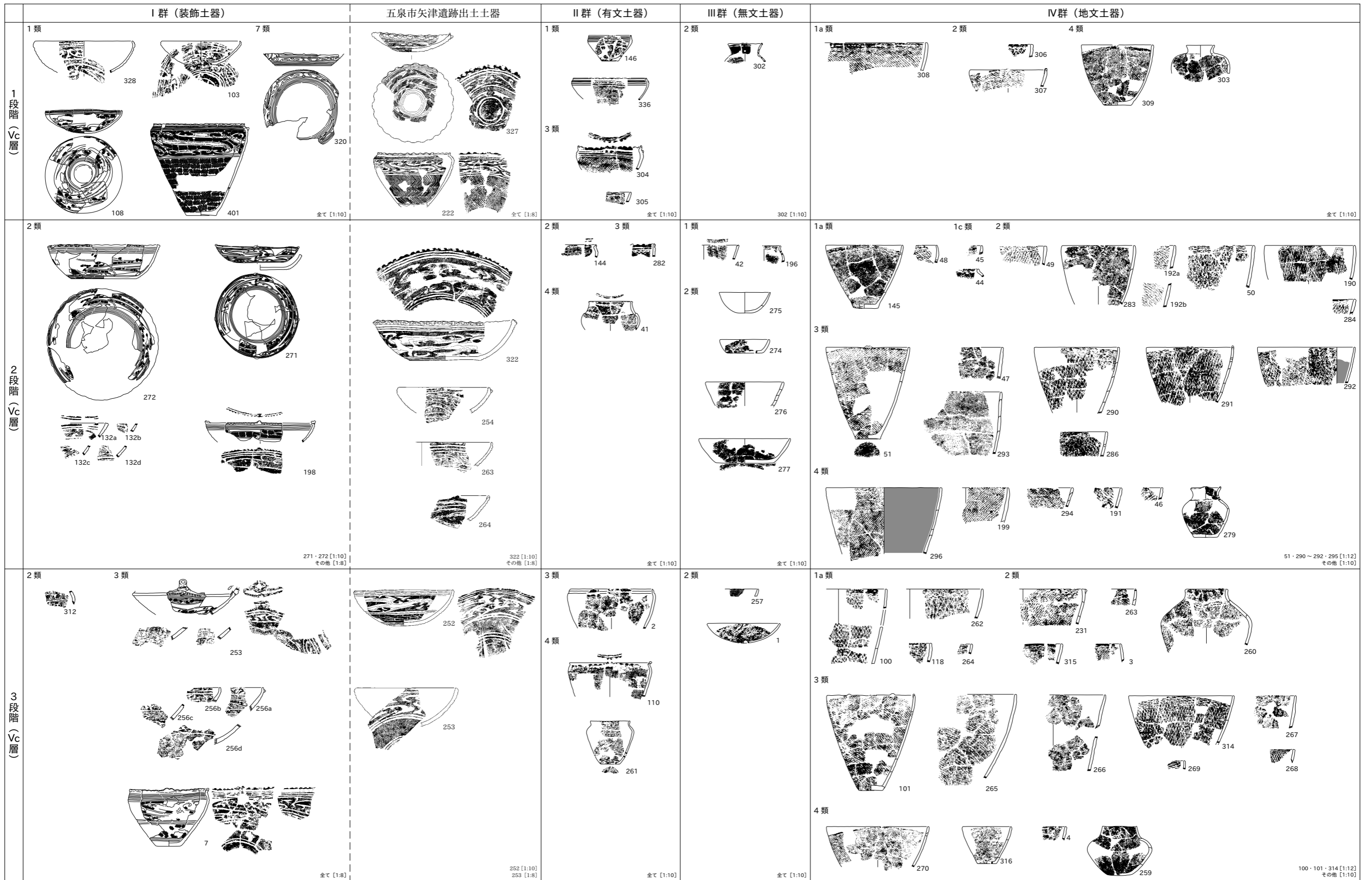
以上のように、本木簡は出土状況の特徴から祭祀で用いられたものと考えられる。九々に間違いや誤字・脱字があったり、九々算の一部を飛ばしたりしていることも、本木簡が祭祀的な機能を目的として記されたことと理解しやすい。これまでに各地で出土した古代の九々木簡にも、間違いや誤字・脱字などが多く認められている。本木簡は古代の九々木簡の機能を考える上で重要な資料である。なお、本木簡の年代については、既述のように、九々の書き進め方の特徴から7世紀に遡る可能性がある。そうだとすると、現時点において、新潟県内出土木簡の中では最古であり、県内初の7世紀の木簡ということになる。

要 約

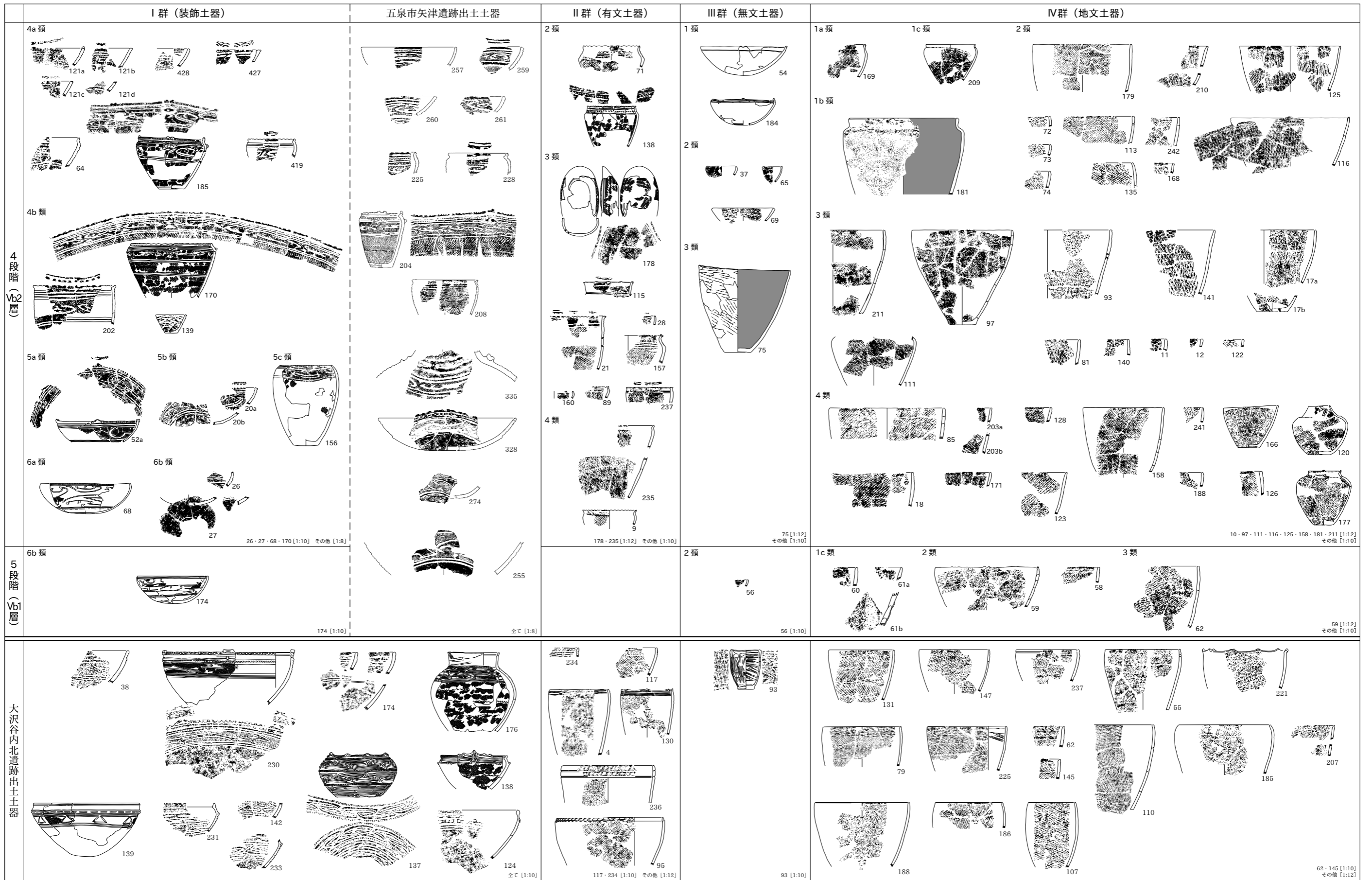
- 1 大沢谷内遺跡1～4区は一般国道403号線小須戸田上バイパスの整備工事計画にともない平成17年～21年度に新潟市教育委員会が発掘調査した。
- 2 発掘調査の結果、上層から飛鳥・古代～中世の遺跡、下層から縄文時代晩期中葉の遺跡が検出された。上層遺跡の発掘調査面積は8,004.4㎡、下層遺跡の発掘調査面積は7,684.4㎡である。
- 3 下層遺跡は縄文時代晩期中葉前半大洞C1式終末～C2式前半に営まれた集落であり、県内でも稀な晩期中葉前半に限定された遺跡である。上面・下面の2面に分けられる。
- 4 下層遺跡下面(Vc層段階)は大洞C1式終末～C2式I期の土器が出土し、石器は磨石・敲石の比率が突出する。遺構は掘立柱建物と焼土遺構、土坑群からなる。土坑群のうち磨石類や石皿・台石類が収められた「デポ遺構」が特徴的である。北側と南側に遺構群が分かれ、北側では開析谷の両岸に掘立柱建物と焼土遺構が配置し、主にヒシの実を対象とした作業が行われていた。南側では土坑群からアスファルトが集中して出土し、これらに関する作業が行われていたと推測する。
- 5 下層遺跡上面(Vb層段階)は大洞C2式II期の土器が出土し、石器は下面と同じく磨石・敲石が突出している。遺構は住居群と土坑群からなり、住居群は半環状に展開している。土坑群には墓と推測されるものも存在する。
- 6 下層遺跡からは天然アスファルト塊が多数検出された。さらに使用面にアスファルトが付着した磨石類・石皿類、火にかけられた痕跡のある深鉢の内面にもアスファルトの付着が確認され、接着剤として使用する前のアスファルトの精製作業の可能性を示す資料として重要である。このようなアスファルト関連の遺物のまとまった出土は県内では初例である。
- 7 上層遺跡は7世紀後半から9世紀初頭、中世に営まれた集落であり、いずれの時期も掘立柱建物を中心とした集落構造を持つ。特に7世紀後半から8世紀初頭の集落は県内でも稀である。
- 8 7世紀第二四半世紀から営まれる飛鳥時代の集落は、溝によって区画されており一種の官的要素を担っていたと考えられ、647年に造営された淳足柵との関係も指摘される。
- 9 飛鳥時代に祭祀行為が行われており、初現的な律令祭祀と考えられる。また、祭祀場からは県内最古の「九九」木簡をはじめ、斎串、刀形、鏃形、舟形、弓形など多くの木製祭祀具が出土している。
- 10 県内では希少な7世紀後半の土器がまとまって出土している。これらは、大阪市堺市に位置する陶邑窯跡群における中村浩氏の編年によるⅢ型式2段階を主体にⅣ型式1段階までの資料と考えられる。
- 11 沈線文や砂底といった、東北系の土師器甕も定量出土している。須恵器の産地も阿賀北窯産から西古志窯産、石川県など遠隔地窯産と広域に亘っており、交流域の広さが窺える。
- 12 奈良時代の居住域も溝による区画が見られ、円面硯などの出土から官的要素は律令下まで存続したと考えられる。また、横櫛や木槌など木製品も豊富に出土している。
- 13 平安時代には居住域を北側に拡大するが、9世紀前半には古代集落は断絶すると考えられる。
- 14 中世の村落は、北側の低地を生産域として利用する。
- 15 上層遺跡からも天然アスファルト塊が出土しており、生業の一つとされていた可能性もある。しかし、井戸や攪乱からの単発的な出土が多く纏まりは認められていない。



第 108 図 縄文土器出土状況図④ (V b 層段階)



第 109 図 大沢谷内遺跡下層土器変遷図①



第 110 図 大沢谷内遺跡下層土器変遷図②

第33表 大沢谷内遺跡下層石器石材組成

下層遺跡全体・器種別石材組成

Table showing the composition of stone materials for various tool types in the lower layer of the site. Columns include stone types (e.g., 花崗岩, アブライト), counts, and categories like 石鏃, 磨石類, 敲石, etc.

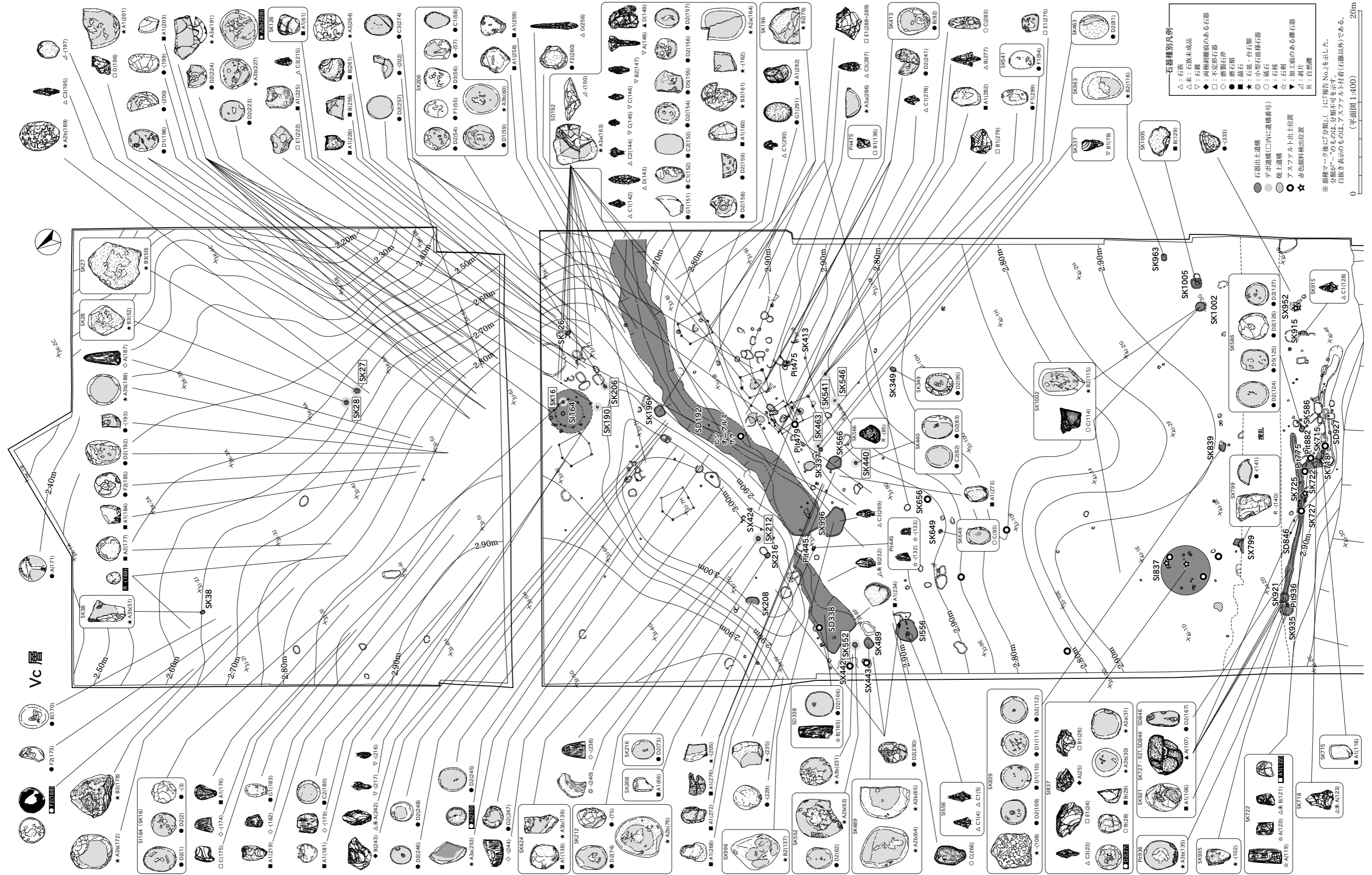
段階別・器種別石材組成

Vc層段階

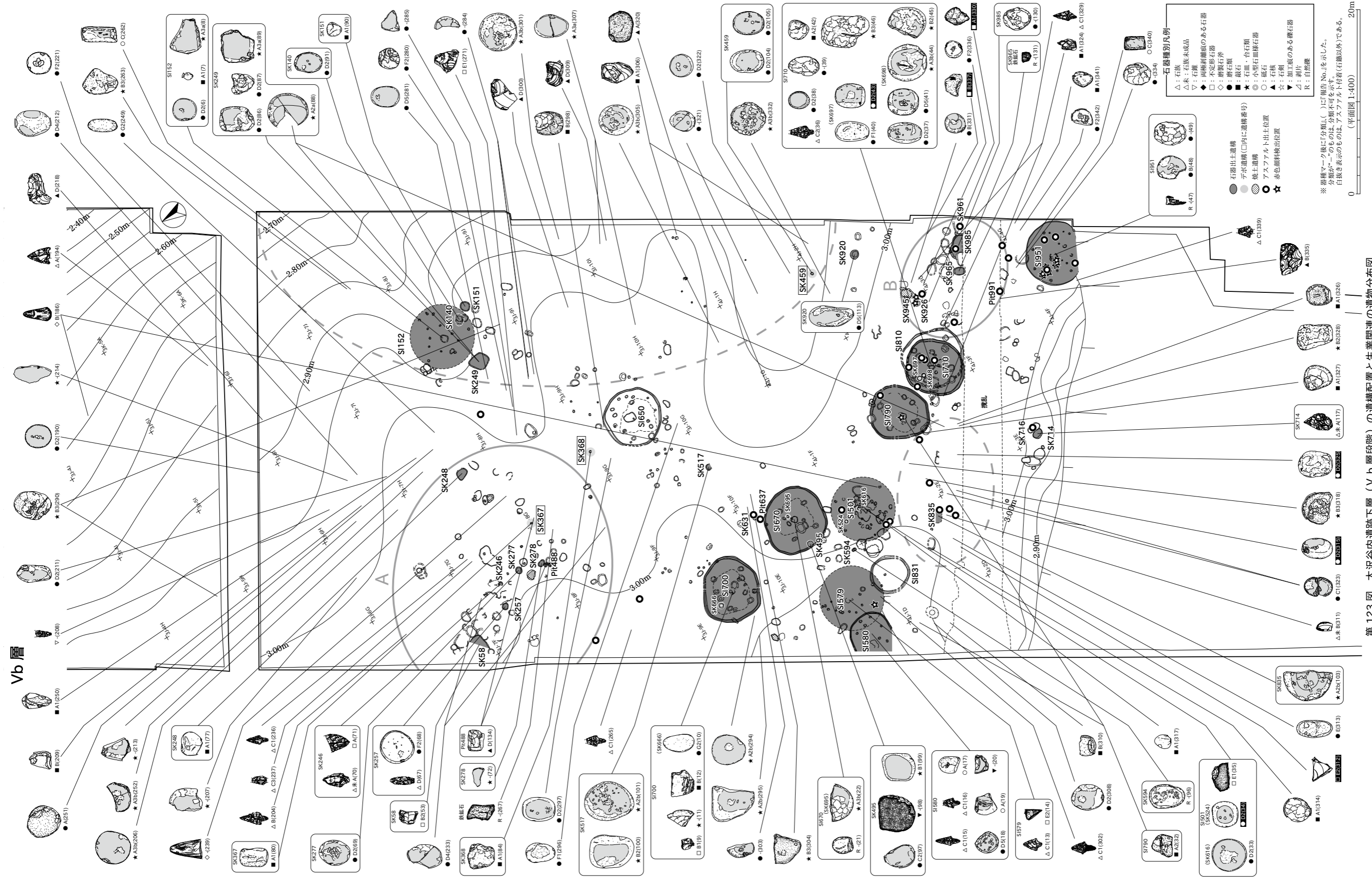
Table showing the composition of stone materials for tool types in the Vc layer. Columns include stone types, counts, and categories similar to the main table.

Vb層段階

Table showing the composition of stone materials for tool types in the Vb layer. Columns include stone types, counts, and categories similar to the main table.



第117図 大沢谷内遺跡下層(Vc層段階)の遺構配置と生業関連の遺物分布図



第123図 大沢谷内遺跡下層(Vb層段階)の遺構配置と生業関連の遺物分布図

引用・参考文献

- ア 阿部 朝衛 1988 「第五章鳥屋遺跡の発掘調査（遺構外の遺物） 第三節石器と石製品」『豊栄市史 資料編1 考古編』 豊栄市
- 阿部 千春・小林 貢 1995 『磨光B遺跡 縄文時代後期の集落跡とアスファルト加工工房址の調査』 南茅部町教育委員会
- 阿部 洋輔 1983 「第一編古代・中世の郷土 第二章越後国の成立と進展」『小須戸町史』 小須戸町
- 甘粕 健・川村 浩司^{ほか} 1992 『古津八幡山古墳Ⅰ 1991年測量調査報告書』 新津市教育委員会
- 荒川 隆史 2001 「晩期遺構集成Ⅱ 新潟県」『日本考古学協会 2001年度盛岡大会研究発表資料集 亀ヶ岡文化一集落とその実体一晩期遺構集成Ⅱ』 日本考古学協会 2001年度盛岡大会実行委員会
- 荒川 隆史・石丸 和正・猪狩 俊哉・加藤 学^{ほか} 2004 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ 青田遺跡』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 荒川 隆史 2009 「新潟県矢津遺跡出土土器の再検討」『新潟県立歴史博物館研究紀要』第10号 新潟県立歴史博物館
- 安藤 正美 1996 「細田遺跡」『見附市内遺跡範囲確認調査報告書』見附市埋蔵文化財調査報告書 第11 見附市教育委員会
- イ 家田順一郎 1981 『曾根遺跡Ⅰ』 豊浦町教育委員会
- 家田順一郎 1982 『曾根遺跡Ⅱ』 豊浦町教育委員会
- 家田順一郎 1986 『藤平遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 下田村教育委員会
- 五十嵐一治 1999 『伊勢堂岱遺跡 県道木戸石鷹巣線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告第293集 秋田県埋蔵文化財センター
- 池亀 正昭 1981 「(第1編) 原始時代の見附」『見附市史』上巻(一) 見附市
- 石川智紀^{ほか} 1994 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅰ(A地区)』新潟県埋蔵文化財調査報告書第58集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川日出志 1988 「第五章鳥屋遺跡の発掘調査（遺構外の遺物） 第一節土器・第二節鳥屋式土器の構成」『豊栄市史 資料編1 考古編』 豊栄市史
- 石川日出志・増子 正三・渡邊 裕之・鶴巻 康志 1992 『六野瀬遺跡 1990年調査報告書ー立川ブライント工業株式会社東日本工場増設に伴う新潟県北蒲原郡安田町六野瀬遺跡発掘調査報告書ー』 新潟県安田町文化財調査報告12 安田町教育委員会
- 石原 正敏・菅沼 亘 1996 「第二章十日町市の遺跡と遺物 第3節水沢の遺跡と遺物 赤羽根遺跡」『十日町市史 資料編2 考古』 十日町市
- 石丸 和正 2004 「第Ⅴ章遺物 3 石器」『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ 青田遺跡』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 伊藤 秀和 1994 「加茂市千刈遺跡出土の須恵器について」『新潟考古』第5号 新潟県考古学会
- 伊藤秀和^{ほか} 1995 『加茂市役所遺跡一旧加茂市役所庁舎解体撤去工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』 加茂市教育委員会
- 伊藤 秀和 1996 『川船河遺跡ー新潟経営大学建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』 田上町教育委員会
- 伊藤 秀和 1997 「平成8年遺跡発掘調査と出土遺物について」『民俗資料館だより』第4号 加茂市民俗資料館
- 市川 桂子・寺内隆夫^{ほか} 2000 『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書28 更埴条里遺跡・屋代遺跡群ー総論編一』 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書54 (財)長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター
- 井野 進 1993 「第二編第三章諸産業と交通」『新津市史 通史編上巻』 新津市
- 猪狩 俊哉 2004 「第Ⅴ章遺物 8 植物遺体」『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ 青田遺跡』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 伊比 博和 2010 「第Ⅶ章第2節縄文土器について」『大沢谷内北遺跡 第3次調査』 新潟市教育委員会
- ウ 上原甲子郎 1963 『幕島ー新潟県分水町幕島遺跡調査報告一』 分水町文化財調査報告第一集 分水町教育委員会
- 上原甲子郎・中島栄一^{ほか} 1966 『上野原遺跡概要（第一次発掘調査概要）』 三条市教育委員会
- 潮田 憲幸 2002 「第Ⅴ章遺物 5 石器・石製品(36) 自然礫」『奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書ⅩⅣ 元屋

- 敷遺跡Ⅱ（上段）』新潟県朝日村教育委員会・新潟県
- 潮田 憲幸 2010 『上浦A遺跡 第14次調査』新潟市埋蔵文化財センター
- 卜部 厚志・高濱 信行 2002 「新潟平野・西蒲原地域における縄文時代中期の古地理」『新潟考古』第13号 新潟県考古学会
- 工 蝦夷研究会 2004 『古代蝦夷と律令国家』奥羽史研究叢書7 高志書院
- オ 青海町教育委員会 1988 『須沢角地A遺跡発掘調査報告書』
- 大熊 孝 1979 「信濃川治水の歴史」『アーバンクボタ』No.17 株式会社クボタ
- 大島 秀俊 2007 「第V章遺物 2 石器」『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXⅡ 道下遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第174集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 大庭 脩 1990 『大英図書館蔵 敦煌漢簡』同朋舎
- 小熊 博史 1994 「Ⅱ考古資料 3 遺跡と遺物 布目遺跡」『巻町史 資料編1 考古』巻町
- 小熊 博史 2002a 「沖積地の遺跡(5) 東山丘陵」『新潟考古』第13号 新潟県考古学会
- 小熊 博史 2002b 『馬高・三十稲場遺跡-史跡「馬高・三十稲場遺跡」環境整備事業に伴う発掘調査報告書Ⅰ-』長岡市教育委員会
- 小田 裕樹 2009 「7世紀の土器様相」『平成21年度埋蔵文化財担当者専門研修「古代陶磁器調査過程」』資料(独)奈良文化財研究所
- 小野 昭・前山 精明・小林 巖雄・小池 裕子・藤田 英忠・島村 忠淳 1988 「巻町豊原遺跡の調査」『巻町史研究』Ⅳ 巻町
- 長田 友也 2002 「第V章遺構・遺物 6 石器B 自然石」『奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書XⅢ アチャ平遺跡上段』新潟県朝日村教育委員会・新潟県
- 折井 敦・小林 晴生・金内 元ほか 2005 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XⅠ 昼塚遺跡Ⅰ・江添遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第147集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 折井 敦・大島 秀俊・伊比博和ほか 2006 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XⅡ 昼塚遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第167集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 折井 敦・大島 秀俊・伊比博和ほか 2007 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XⅡⅡ 道下遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第174集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- カ 柏 大治 1970 『こすど風土記』小須戸風土記刊行会
- 加藤 学・荒川 隆史 1999 『上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ 和泉A遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第93集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財事業団
- 加藤 学 2009 「第V章遺物 2 石器・石製品」『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXⅡⅡ 野地遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第196集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤由美子ほか 2011 『特定構造物改築事業(大河津可動堰改築)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 五千石遺跡1区・3区・4区東地区・5区』長岡市教育委員会
- 春日 真実 1999 「第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』新潟県考古学会
- 春日 真実 2000 「考古編 第5章まとめ」『吉田町史 資料編1 考古・古代・中世』吉田町
- 春日 真実 2001 「柏崎市鶴巻遺跡出土漆器の編年的位置」『新潟考古学談話会会報』第23集 新潟考古学談話会
- 春日 真実 2005 「北陸地方における7世紀の様相-越後を中心に-」『日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム資料集』日本考古学協会2005年度福島大会実行委員会
- 春日 真実 2006 「越後における7世紀の土器編年」『新潟考古』第17号 新潟県考古学会
- 春日 真実 2009 「越後における古代掘立柱建物」『新潟県の考古学Ⅱ』新潟県考古学会
- 春日真実ほか 1996 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 江内遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第76集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 2001 『梯子谷窯跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第104集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 2004 『越後阿賀北地域の古代土器様相』新潟古代土器研究会
- 金子拓男ほか 1983 『緒立遺跡発掘調査報告書』黒埼町教育委員会
- 金子 浩昌 1988 「根立遺跡の獣骨」『根立遺跡調査報告書』三島町教育委員会
- 金子 裕之 1980 「古代の木製模造品」『研究論集』Ⅵ 奈良国立文化財研究所

- 金子 裕之 1991 「律令期祭祀遺物集成」菊池康明編『律令制祭祀論考』 塙書房
- 金子 正典・田村 浩司 1994 『県道バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告書 綾ノ前・菖蒲沢遺跡』 三条市教育委員会
- 金原美奈子 2009 「第IV章西郷遺跡の自然科学分析 1 西郷遺跡における自然科学分析 F 炭化種実同定」『一般国道49号線亀田バイパス関係発掘調査報告書II 西郷遺跡・大蔵遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第200集 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 萱野 茂 1978 『アイヌの民具』 すずさわ書店
- 川上 貞雄 1982 『平遺跡緊急発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上 貞雄 1989a 『大沢谷内遺跡発掘調査報告書』 小須戸町教育委員会
- 川上 貞雄 1989b 「第二編 考古」『新津市史 資料編第1巻 原始・古代・中世』 新津市
- 川上 貞雄 1994 『八幡山遺跡I 遺構編』 新津市教育委員会
- 川上 貞雄 1995 『舟戸遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上 貞雄 1996 『金津丘陵製鉄遺跡群 居村B・D地区』 新津市教育委員会
- 川上 貞雄 1997a 『上浦A遺跡 新津市工業団地第2期工事内発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上 貞雄 1997b 『曾根遺跡III 天王小学校改築に伴う遺跡発掘調査報告書』 豊浦町教育委員会
- 川上 貞雄・荒木繁雄^{ほか} 1991 『笹神村文化財調査報告8 発久遺跡』 新潟県笹神村教育委員会
- 川上 貞雄・遠藤 孝司 1983 『平遺跡緊急発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川崎 利夫・北野博司^{ほか} 2008 『出羽国ができるころー出羽建国期における南出羽の考古学ー』 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
- 川船河遺跡団体研究グループ 1963 「川船河遺跡について」『地球科学67』 地学団体研究会
- キ 北野 博司 2003 「津倉田遺跡」『上越市史』資料編2 考古 上越市
- 北野 博司・春日 真実 2003 「一之口遺跡」『上越市史』資料編2 考古 上越市
- 鬼頭 清明 1984 「藤原宮で発見された九九木簡」『木簡の社会史』 河出書房新社
- 木下 正史・川越俊一^{ほか} 1995 『飛鳥・藤原宮発掘調査報告IV 飛鳥水落遺跡の調査』 奈良国立文化財研究所
- 木村 宗文 1993 「第一編 原始・古代・中世の新津 第二章第三節1～5」『新津市史 通史編・上巻』 新津市
- 京都市埋蔵文化財研究所 1997 『長岡京左京出土木簡』1 (財)京都市埋蔵文化財研究所
- 桐原 雅史・斉藤 準^{ほか} 2008 『一般国道49号揚川改良関係発掘調査報告書II 大坂道上遺跡II・猿額遺跡II』新潟県埋蔵文化財調査報告書第186集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財事業団
- ク 熊谷 公男 2004 『古代の蝦夷と城柵』歴史文化ライブラリー178 吉川弘文館
- コ 小池 邦明・藤塚 明^{ほか} 1993 『新潟市市場遺跡』 新潟市教育委員会
- 小池 邦明・本間 桂吉 1995 『新潟市小丸山遺跡』 新潟市教育委員会
- 小池義人^{ほか} 1994 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 細池遺跡・寺道上遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 湖南省博物館 2006 『湖南十大考古新発現陳列』32p. 湖南省博物館
- 小林巖雄^{ほか} 2002 『新潟県地盤図説明書』 社団法人新潟県地質調査行組合
- 小林 昌二 2008 「淳足柵・磐舟柵研究の現状と課題に向けて」『新潟県村上市西部遺跡整理報告会』 新潟県教育委員会 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小林昌二^{ほか} 2002 『前近代の潟湖河川交通と遺跡立地の地域史的研究 科学研究費補助金基盤研究A-2平成13年度研究経過報告書』 新潟大学人文学部
- 駒形 敏郎・鳥居 美榮・小熊 博史・広井 造 1998 『中道遺跡ー農業基盤整備事業に伴う発掘調査ー』 長岡市教育委員会
- サ 斉藤 義信・山名 正平 1983 「序章 小須戸町の自然」『小須戸町史』 小須戸町
- 斎藤 道春 1988 「根立遺跡大型植物遺体の処理」『根立遺跡調査報告書』 三島町教育委員会
- 酒井 和男 1990 「原始・古代・中世編 第一章原始一. 砂崩遺跡」『亀田の歴史 資料編』 亀田町
- 酒井 和男 2000 「原始・古代 第二章 考古資料 上田遺跡」『横越町史』資料編 横越町
- 酒井 和男・廣野 耕造 2002 「新潟砂丘における居住の初源」『新潟考古』第13号 新潟県考古学会
- 坂井 秀弥 1982 『栗原遺跡 第4次・第5次発掘調査概報』 新潟県教育委員会 新井市教育委員会
- 坂井秀弥^{ほか} 1984 『今池遺跡 下新町遺跡 子安遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集 新潟県教育委員会
- 坂井秀弥^{ほか} 1989 『山三賀II遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集 新潟県教育委員会
- 坂上 有紀 2003 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 上浦遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第118集 新潟県

- 教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財事業団
- 坂上 有紀 2009 「第V章遺物 8 植物遺体」『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXII 野地遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第196集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 笹澤 正史 1999 「第2節 窯業」『新潟県の考古学』新潟県考古学会
- 笹澤 正史 2003 「第1節 時代概説」『上越市史』資料編2 考古 上越市
- 佐藤 賢次 1983 「第二章 近世農村の展開 第四節 天ヶ沢草水の開発」『小須戸町史』小須戸町
- 佐藤 信 1997 「習書と落書」『日本古代の宮都と木簡』吉川弘文館
- シ 汐見 一夫 1999 「砥石について—中世遺跡出土の仕上砥を中心に—」『第12回北陸中世考古学研究会資料集 中世北陸の石文化I』北陸中世考古学研究会
- 實川 順一 2001 「第IV章遺物 3 石器」『大蔵遺跡—大蔵遺跡学術調査報告書—』五泉市文化財報告(6) 五泉市教育委員会
- 品田 高志 1991 「越後の中世土師器—編年の研究の現状と課題—」『新潟考古学談話会会報』第8号
- 品田 高志 1999 「越後における中世後期の土師器皿—京都系土師器第2波の流入と展開—」『中近世土器の基礎研究XIV 京都系土師器皿の伝播と受容—中世後期を中心に—』日本中世土師器研究会
- ス 鈴鹿 良一 1985 「岩下B遺跡」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告書VII』福島県文化財調査報告書第150集 福島県教育委員会・(財)福島県文化財センター
- 鈴木 郁夫 1989 「第一編 自然」『新津市史 資料編第1巻 原始・古代・中世』新津市
- 鈴木加津子 1990 「茨城県滝の上遺跡の縄紋式晩期中葉の土器—茨城県西部の2遺跡から見た南奥大洞C2式の変遷—」『利根川』11 利根川同人
- 鈴木加津子 1991 「安行文化の終焉(2)」『古代』第91号 早稲田大学考古学会
- 鈴木加津子 2004 「コメント」『第17回縄文セミナー—晩期中葉の再検討—』—記録集— 縄文セミナーの会
- 鈴木 俊成 1998 「新潟県の縄文時代石器組成—新潟県の縄文時代早期から晩期について—」『新潟考古学談話会会報』第18号 新潟考古学談話会
- 鈴木 俊成・春日真実ほか 1994 『一之口遺跡東地区』新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集 新潟県教育委員会(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木道之助 1991 『図録石器入門辞典〈縄文〉』柏書房
- セ 関 雅之 1971 『耳取遺跡』見附市教育委員会
- 関 雅之 2001 「新潟県新発田市馬見坂遺跡出土の土師器—阿賀北地域の7世紀の土器様相とその意義—」『北越考古学』第12号 北越考古学研究会
- 関 雅之・田中 耕作・阿部 朝衛・石川日出志ほか 1980 『島屋遺跡I』豊栄市教育委員会
- 関 雅之・田中 耕作・阿部 朝衛・石川日出志ほか 1982 『村尻遺跡I』新発田市教育委員会
- タ 高木政光ほか 1990 「北向遺跡」『東北横断自動車道遺跡調査報告7』福島県文化財調査報告書第232集 福島県教育委員会・(財)福島県文化センター
- 高橋 達夫 1985 「IV遺物 2 石器・石製品」『藤橋遺跡—史跡整備事業に伴う発掘調査—』長岡市教育委員会
- 高橋 保・穴沢義功ほか 2008 『一般国道116号 出雲崎バイパス関係発掘調査報告書VI 寺前遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第189集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋 保雄 1992 「第IV章 五丁歩遺跡B石器類」『関越自動車道関係発掘調査報告書 五丁歩遺跡・十二木遺跡』新潟県埋蔵文化財報告書第57集 新潟県教育委員会
- 高橋 保雄 2003 「第V章遺物 3 石器」『磐越自動車道関係発掘調査報告書 北野遺跡I(下層)』新潟県埋蔵文化財調査報告書第119集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 滝沢 規朗・北村 亮ほか 1995 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 大坂上道遺跡・猿額遺跡・中棚遺跡・牧ノ沢遺跡』新潟県埋蔵文化財報告書第68集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財事業団
- 滝沢 規朗・高橋保雄ほか 2002 『奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書XIV 元屋敷遺跡上段II(上段)』朝日村文化財報告書第22集 新潟県朝日村教育委員会
- 滝沢 規朗 2005 「土器の分類と変遷—いわゆる北陸系を中心に—」『シンポジウム新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』新潟県考古学会
- 田嶋 明人 1988 「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』北陸古代土器研究会
- 田嶋 明人 1997 「北陸での7世紀の土器」『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東5 7世紀の土器—』古

代の土器研究会

- 田嶋 明人・越坂一也^{ほか} 1986 『漆町遺跡Ⅰ』 石川県埋蔵文化財センター
- 館野 和己 2002 「九九算」国立歴史民俗博物館企画展図録『古代日本 文字のある風景—金印から正倉院文書まで—』 国立歴史民俗博物館 朝日新聞社
- 田中 英司 2001 『日本先史時代におけるデボの研究』 千葉大学考古学研究叢書Ⅰ
- 田中 一廣・丹下昌之^{ほか} 2004 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 新津市教育委員会
- 田中 耕作・齊田美穂子 1999 「第2章第6節第2項アスファルト」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会
- 田中 耕作・笹澤正史^{ほか} 2011 『七社遺跡発掘調査報告書 県営ほ場整備事業（加治川地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ』 新発田市埋蔵文化財調査報告第42 新発田市教育委員会
- 田中 耕作・鶴巻 康志 1992 『館ノ内遺跡D地点の調査—新潟県新発田市館ノ内遺跡D地点発掘調査報告書』 新発田市埋蔵文化財調査報告第14 新発田市教育委員会
- 田中 靖 2003 『下ノ西遺跡Ⅳ』 和島村埋蔵文化財調査報告書第14集 和島村教育委員会
- 田畑 弘 1993 『保明浦遺跡—新潟県営高生産性大区画ほ場整備事業〔田上郷地区〕埋蔵文化財緊急発掘調査報告書—』 田上町埋蔵文化財調査報告書第3集 田上町教育委員会
- 田畑 弘 1994 「第一編 原始・古代・中世の田上郷 第一章 原始時代の田上 第二節 縄文時代の田上二. 田上町の遺跡 学術調査された保明浦遺跡」『田上町史』 通史編 田上町
- 田畑 弘 1996 『保明浦遺跡Ⅱ—埋蔵文化財緊急発掘調査報告書—』 田上町文化財調査報告書第8集 田上町教育委員会
- 田畑 弘 2003 『保明浦遺跡Ⅲ—新潟県営高生産性大区画事業〔田上郷地区〕埋蔵文化財緊急発掘調査報告書—』 田上町文化財調査報告書第20集 田上町教育委員会
- 田畑 弘 2004 『保明浦遺跡Ⅳ—新潟県営湛水防除事業〔田上郷地区〕埋蔵文化財緊急発掘調査報告書—』 田上町文化財調査報告書第21集 田上町教育委員会
- 玉田 芳英 2002 「大官大寺下層土坑出土の貯蔵器と煮炊具」『奈良文化財研究所紀要2002』（独）奈良文化財研究所
- ツ 立木宏明^{ほか} 1999 『中谷内遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明^{ほか} 2004 『愛宕澤遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明^{ほか} 2008 『沖ノ羽遺跡Ⅳ 第15次調査』 新潟市教育委員会
- 堤 隆 2000 「搔器の機能と寒冷適応としての皮革利用システム」『考古学研究』第47巻第2号（通巻186号）考古学研究会
- 土屋 積・百瀬 長秀・広田和穂^{ほか} 1999 『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書12 榎田遺跡』 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第37集（財）長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター
- ト 東北学院大学民俗学OB会 1998 『東北民俗学研究』第6号 東北学院大学民俗学OB会
- 土橋由理子 2009 「第三章西郷遺跡 5下層の遺物D石器」『一般国道49号線亀田バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ 西郷遺跡・大蔵遺跡』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第200集 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子 2011 「第V章3E石器」『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXXVI 古渡路遺跡』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第221集 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 富岡 直人 2003 「第V章自然科学分析 7動物遺存体」『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅳ 道端遺跡Ⅱ』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第127集 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 富岡 直人 2004 「第二章縄文時代 第二節主な遺跡3 幕島遺跡 幕島遺跡出土の動植物遺体」『分水町史 資料編Ⅰ 考古・古代・中世』 分水町
- ナ 長岡市藤橋遺跡等発掘調査委員会編 1977 『埋蔵文化財発掘調査報告書 藤橋遺跡』 長岡市藤橋遺跡等発掘調査委員会
- 長岡市藤橋遺跡等発掘調査委員会編 1977 『埋蔵文化財調査報告書 藤橋遺跡 尾立遺跡 旧富岡農学校跡遺跡』 長岡市藤橋遺跡等発掘調査委員会
- 長岡市 1992 「第三章縄文時代の遺跡と遺物 晩期 藤橋遺跡」『長岡市史 資料編Ⅰ 考古』
- 中島栄一^{ほか} 1976 『古屋敷遺跡』 田上町文化財調査報告書第2輯 田上町教育委員会
- 中島 栄一・藤塚 明・金子 正典 1980 「矢津遺跡」『村松町史』 資料編第一巻 考古・古代・中世 村松町史

- 編さん委員会
- 中島 栄一 1981 「Ⅲ 発掘調査された遺跡 二、上野原遺跡」『三条市史』資料編第一巻 考古・文化 三条市史編修委員会
- 中島 栄一 1983 「第一編 古代・中世の郷土 第一章 郷土のあけぼの 第三節 町内における遺跡」『小須戸町史』小須戸町史編纂室
- 中村 大 2001 「亀ヶ岡文化の墓と墓域」『日本考古学協会 2001 年度盛岡大会研究発表資料集 亀ヶ岡文化－集落とその実体－晩期遺構集成 I』日本考古学協会 2001 年度盛岡大会実行委員会
- 中村 浩 1981 『和泉陶器窯の研究』柏書房
- 中村 浩 2001 『和泉陶器窯出土須恵器の型式編年』芙蓉書房
- 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 2011 『宮都 奈良』学生社
- 奈良国立文化財研究所 1974 『平城宮発掘調査報告書Ⅵ 平城京左京一条三坊の調査』奈良国立文化財研究所学報第 23 冊
- 奈良国立文化財研究所 1976 『飛鳥・藤原宮発掘調査報告 I 小墾田宮推定地・藤原宮の調査』奈良国立文化財研究所学報第 27 冊
- 奈良国立文化財研究所 1985 『木器集成図録－近畿古代編』
- 奈良国立文化財研究所 1993 『木器集成図録－近畿原始編』
- (独) 奈良文化財研究所 2004 『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報 (18)』(独) 奈良文化財研究所
- (独) 奈良文化財研究所 2005 『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報 (19)』(独) 奈良文化財研究所
- 二 新潟県 1975 『地形分類図 新津』
- 新潟県 1984 『地形分類図 加茂』
- 新潟県 2000 『新潟県地質図 2000 年度版』
- 新潟県教育委員会 1979 『新潟県遺跡地図 昭和 54 年度』新潟県教育委員会
- 新潟古砂丘グループ 1974 「新潟砂丘と人類遺跡－新潟砂丘の形成史 1－」『第四紀研究』第 13 巻第 2 号 日本第四紀学会
- 西 弘海 1986 『土器様式の成立とその背景』真陽社
- 西口 壽生・玉田 芳英 2001 「大官大寺下層土坑の出土土器」『奈良文化財研究所紀要 2001』(独) 奈良文化財研究所
- 日本考古学協会 1997 年度秋田大会実行委員会 1997 『蝦夷・律令国家・日本海－シンポジウムⅡ・資料集－』
- ハ 芳賀 栄一 1989 『国営会津農業水利事業関連遺跡調査報告 7 鬼渡 A 遺跡』福島県文化財調査報告書第 207 集 福島県教育委員会・(財) 福島県文化センター
- ヒ 廣野 耕造 1997 『笹山前遺跡・神明社裏遺跡・城山遺跡 県営圃場整備事業に伴う平成七年度・八年度発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- フ 藤澤 良祐 1995 「9. 中世陶器〔1〕古瀬戸」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会
- 藤澤 良祐 2005 「瀬戸系(施釉陶器生産技術の伝播)」『全国シンポジウム中世窯業の諸相－生産技術の展開と編年－』全国シンポジウム中世窯業の諸相実行委員会
- 布施 智也・平岡 和夫 2000 『江添 E 遺跡』吉田町文化財調査報告書第 7 集 吉田町教育委員会・山武考古学研究所
- ホ 星野 信明・石川智紀ほか 1996 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅱ (B 地区)』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 80 集 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 細野高伯ほか 2002 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 本間 信昭・戸根与八郎・高橋 陽子 1975 『上越新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書』埋蔵文化財緊急調査報告書第 4 新潟県教育委員会
- マ 前山 精明 1994 「Ⅱ 各時代の概観 2 縄文時代・3 遺跡と遺物 新谷遺跡・上ノ原遺跡・御井戸遺跡」『巻町史 資料編 1 考古』巻町
- 前山 精明 1996a 「新潟県西蒲原郡巻町御井戸遺跡」『日本考古学年報』47 (1994 年度版) 日本考古学協会
- 前山 精明 1996b 「縄文時代晩期後集落の経済基盤」『遺跡と考古学の保護』甘粕健先生退官記念論文集刊行会
- 前山 精明 2000 「第 4 章 吉田町周辺の遺跡 第 2 節 旧石器時代～古墳時代遺跡各説 蒲田遺跡」『吉田町史 資料編 1 考古・古代・中世』吉田町
- 前山 精明 2002 「青田遺跡の石器群」『川辺の縄文集落』新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団

- 前山 精明・相田 泰臣 2002 『南赤坂遺跡－縄文時代前・中期と古墳時代前期を主とする集落跡の調査』 巻町教育委員会
- 前山 精明・相田 泰臣 2003 『御井戸遺跡 I - 2002 年度確認調査の概要 -』 巻町教育委員会
- 前山 精明 2010a 「第七章第 2 節 B 4) 胎土について」『大沢谷内北遺跡 第 3 次調査』 新潟市教育委員会
- 前山 精明 2010b 「第七章第 3 節 A 石器組成」『大沢谷内北遺跡 第 3 次調査』 新潟市教育委員会
- 前山 精明 2011 「大沢谷内遺跡」『平成 22 年度 新潟市遺跡発掘調査報告会資料』 新潟市埋蔵文化財センター
- 前山 精明・伊比博和^{ほか} 2010 『大沢谷内北遺跡 第 3 次調査』 新潟市教育委員会
- 松島 悦子 2001 『国営新荒井川排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 三角田遺跡』 燕市埋蔵文化財発掘調査報告書第 1 集 燕市教育委員会・吉田町教育委員会
- 松島悦子^{ほか} 2010 『特定構造物改築事業（大河津可動堰改築）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 五千石遺跡 2 区・4 区西地区』 燕市埋蔵文化財発掘調査報告書第 6 集 燕市教育委員会
- ミ 水澤 幸一 2004 『草野遺跡 2 次 県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書 7』 中条町埋蔵文化財調査報告書 30 中条町教育委員会
- 水澤 幸一 2005 「越後の中世土器」『新潟考古』第 16 号 新潟県考古学会
- 水澤 幸一 2009 『草野遺跡 3 次 県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書 V』 胎内市埋蔵文化財調査報告書 15 胎内市教育委員会
- モ 望月 清司 2004 「北陸地域における飛鳥時代須恵器の様相－飛鳥 I～III 期併行の北陸諸窯の様相差を中心として－」『白門考古論集 稲生典太郎先生追悼考古学論集』 中央考古会・中央大学考古学研究会
- 木簡学会 1988 『木簡研究』10 号 木簡学会
- ヤ 山口 栄一 1984 「西川町の遺跡」『西川町史考 その 12 史料・民具紹介と古老の話』 西川町教育委員会
- 山崎 忠良・畠野 義昭・田中一穂^{ほか} 2008 『一般国道 253 号上越三和道路関係発掘調査報告書 VI 延命寺遺跡』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第 201 集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山崎 天・草間 裕・田村 典雄・土 任隆 2004 『能代川関係発掘調査報告書 III 新田遺跡』 五泉市教育委員会・国際航業株式会社文化財事業部
- 山崎 天・鈴木 進・湯原 勝美・土生 朗治 2004 『能代川関係発掘調査報告書 V 筧下遺跡』 五泉市教育委員会・(有)山武考古学研究所
- 山崎 天・草間 裕・田村 大器・金内 元・真壁 鈴子 2004 『能代川関係発掘調査報告書 VII 巳ノ明遺跡』 五泉市教育委員会・(株)野上建設興業
- 山田 寛子 2002 「第 V 章 5 C (11) 磨石類」『奥三面ダム関連遺跡発掘調査報告書 X IV 元屋敷遺跡上段 II (上段)』 朝日村文化財報告書第 22 集 新潟県朝日村教育委員会
- 山内 清男 1979 『日本先史土器の縄紋』 先史考古学会
- 山本 信夫 2000 「3 分類の問題と補足」「4 陶磁器分類」『太宰府市の文化財第 49 集 太宰府条坊跡 X V - 陶磁器分類編』 太宰府市教育委員会
- ユ 湯原 勝美・折原 洋一・秋山真好^{ほか} 2010 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書 X X X III 西部遺跡 II』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第 206 集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ヨ 横山 勝栄・竹田和夫^{ほか} 1987 『新潟県中世城館跡等分布調査報告書』 新潟県教育委員会
- 吉岡 康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
- 吉川 純子 2004 「第 II 章植物学的調査 2 青田遺跡より産出した大型植物化石からみた古環境と植物利用」『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書 V 青田遺跡』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ワ 和田 萃 1982 「呪符木簡の系譜」『木簡研究』4 号 木簡学会
- 渡邊 朋和 1991 『長沼遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊 朋和 1992 『上浦遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊 朋和 1992 「新潟県」『第 5 回縄文セミナー縄文晩期の諸問題』 縄文セミナーの会
- 渡邊 朋和 1993 「上浦 B 遺跡」『埋文にいがた』No. 2 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 渡邊 朋和 2001 「第七章 1 弥生土器」『八幡山遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和^{ほか} 1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書 II - 居村遺跡 E・A・C 地点、大入遺跡 A 地点』 新津市教育委員会
- 渡邊朋和^{ほか} 1998 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書 III (分析・考察編)』 新津市教育委員会

- 渡邊 朋和・荒川 隆史 1999 「第6項 晩期」『新潟県の考古学』新潟県考古学会
- 渡邊朋和ほか 2001 『寺道上遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊 朋和・立木宏明ほか 2001 『八幡山遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊 朋和・立木宏明ほか 2004 『八幡山遺跡群発掘調査報告書—第11・12・13・14次調査—』新津市教育委員会
- 渡邊 裕之 1998 「新潟県における縄文晩期後半の粗製土器—鳥屋式土器の理解にむけて—」『新潟県考古学談話学会報』第18号 新潟県考古学談話会
- 渡邊 裕之 2002 「朝日式土器」の再検討—延命寺ヶ原遺跡出土土器の検討をとおして—『新潟県立歴史博物館研究紀要』第3号 新潟県立歴史博物館
- 渡邊 裕之 2004 「新潟県における縄文晩期中葉の様相」『第17回縄文セミナー—晩期中葉の再検討—』縄文セミナーの会
- 渡邊 裕之 2009 「新潟県北東部における縄文晩期前葉の土器群—野地遺跡出土土器の検討を中心に—」『新潟県の考古学Ⅱ』新潟県考古学会
- 渡邊 裕之・加藤 学・坂上 有紀 2009 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXXⅡ 野地遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第196集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 渡邊 誠 1975 『縄文時代の植物食』雄山閣
- 渡邊ますみ 1998 「考古資料第二章第二節第二項緒立遺跡B地区」『黒埼町史資料編1 原始・古代・中世』黒埼町史編さん原始・古代・中世部会
- 渡邊ますみほか 2009 『駒首潟遺跡 第3・4次調査—大型小売店舗建設に伴う駒首潟遺跡第3・4次発掘調査報告書—』新津市教育委員会

第VI章 自然科学分析参考文献

(第1節A)

- 宇津川 徹・細野 衛・杉原 重夫 1979 「テフラ中の動物珪酸体“Opal Sponge Spicules”について」『ペドロジスト』23(2) p.134-144.
- 杉山 真二・藤原 宏志 1986 「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定—古環境推定の基礎資料として—」『考古学と自然科学』19 p.69-84.
- 杉山 真二 2000 「植物珪酸体(プラント・オパール)」『考古学と植物学』同成社 p.189-213.
- 鈴木 貞雄 1996 「タケ科植物の概説」『日本タケ科植物図鑑』聚海書林 p.8-27.
- 藤原 宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法—」『考古学と自然科学』9 p.15-29.
- 室井 綽 1960 「竹笹の生態を中心とした分布」『富士竹類植物園報告』5 p.103-121.

(第1節B)

- 金原 正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本 第10巻 古代資料研究の方法』角川書店 p.248-262.
- 島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集 60p.
- 中村 純 1967 『花粉分析』古今書院 p.82-110.
- 中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として」『第四紀研究』13 p.187-193.
- 中村 純 1977 「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』10 p.21-30.
- 中村 純 1980 「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録』第13集 91p.

(第1節C)

- Lowe, R. L. 1974 Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh? water diatoms National Environmental Reserch Center 333p.
- 安藤 一男 1990 「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『東北地理』42 p.73-88.
- 伊藤 良永・堀内 誠示 1991 「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『珪藻学会誌』6 p.23-45.
- 小杉 正人 1986 「陸生珪藻による古環境解析とその意義—わが国への導入とその展望—」『植生史研究』第1号 p.29-44.
- 小杉 正人 1988 「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『第四紀研究』27 p.1-20.
- 渡辺 仁治 2005 「群集解析に基づく汚濁指数DAIpo, pH耐性能」『淡水珪藻生態図鑑』内田老鶴圃 666p.

(第1節D)

- 島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉 高義・石田 茂雄・重松 頼生・須藤 彰司 1985 『木材の構造』文永堂出版 290p.

島地 謙・伊東 隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』 雄山閣 296p.

山田 昌久 1993 「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成－用材から見た人間・植物関係史」『植生史研究』特別1号 242p.

(第1節E)

南木 睦彦 1992 「低湿地遺跡の種実」『月刊考古学ジャーナル』No.355 ニューサイエンス社 p.18-22.

南木 睦彦 1993 「葉・果実・種子」『第四紀試料分析法』日本第四紀学会 東京大学出版会 p.276-283.

渡辺 誠 1975 『縄文時代の植物食』 雄山閣 187p.

(第1節F)

猪狩 俊哉 2004 「第V章遺物 8植物遺体」『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書V 青田遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

駒形 敏郎 1998 「第2章縄文時代の中道遺跡 2遺構」『中道遺跡』長岡市教育委員会

坂上 有紀 2009 「第V章遺物 8植物遺体」『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXXII 野地遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第198集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

寺村 光晴・寺田 兼方 1960 「第二章遺物 I土器」『柝倉』吉川弘文館

バリノ・サーヴェイ株式会社 2004 「II御井戸A遺跡の調査 4自然科学分析」『御井戸遺跡II』巻町教育委員会

バリノ・サーヴェイ株式会社 2010 「第VI章自然科学分析 第4節古植生の復元・第5節木材資源の利用」『大沢谷内北遺跡 第3次調査』新潟市教育委員会

前山 精明 1996 「縄文時代晩期後葉集落の経済基盤」『考古学と遺跡の保護』甘粕健先生退官記念論集刊行会

前山 精明 2010 「第VI章自然科学分析 第1節微細動物遺体」『大沢谷内北遺跡 第3次調査』新潟市教育委員会

前山 精明 2004 「II御井戸A遺跡の調査 1御井戸A遺跡概観」『御井戸遺跡II』巻町教育委員会

(第2節A)

杉山 真二・藤原 宏志 1986 「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定－古環境推定の基礎資料として－」『考古学と自然科学』19 p.69-84.

杉山 真二 2000 「植物珪酸体(プラント・オパール)」『考古学と植物学』同成社 p.189-213.

鈴木 貞雄 1996 「タケ科植物の概説」『日本タケ科植物図鑑』聚海書林 p.8-27.

藤原 宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－」『考古学と自然科学』9 p.15-29.

室井 綽 1960 「竹筵の生態を中心とした分布」『富士竹類植物園報告』5 p.103-121.

(第2節B)

金原 正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法』角川書店 p.248-262.

島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集 60p.

中村 純 1967 『花粉分析』古今書院 p.82-110.

中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ(Oryza sativa)を中心として」『第四紀研究』13 p.187-193.

中村 純 1977 「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第10号 p.21-30.

中村 純 1980 「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録』第13集 91p.

(第2節C)

Lowe,R.L. 1974 Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh?water diatoms National Environmental Reserch Center 333p.

安藤 一男 1990 「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『東北地理』42 p.73-88.

伊藤 良永・堀内 誠示 1991 「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『珪藻学会誌』6 p.23-45.

小杉 正人 1986 「陸生珪藻による古環境解析とその意義－わが国への導入とその展望－」『植生史研究』第1号 植生史研究会 p.29-44.

小杉 正人 1988 「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『第四紀研究』27 p.1-20.

渡辺 仁治 2005 「群集解析に基づく汚濁指数 DAIPo, pH 耐性能」『淡水珪藻生態図鑑』内田老鶴圃 666p.

(第2節D)

Peter J.Warnock and Karl J.Reinhard 1992 Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils Journal of Archaeological Science 19 p.231-245.

金子 清俊・谷口 博一 1987 「線形動物・扁形動物. 医動物学」『新版臨床検査講座』8 医歯薬出版 p.9-55.

- 金原 正明・金原 正子 1992 「花粉分析および寄生虫」『藤原京跡の便所遺構—藤原京7条1坊—』奈良国立文化財研究所 p.14-15.
- 笠原 安夫 1985 『日本雑草図説』養賢堂 494p.
- 笠原 安夫 1988 「作物および田畑雑草種類」『弥生文化の研究第2巻生業』雄山閣出版 p.131-139.
- 金原 正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法』角川書店 p.248-262.
- 金原 正明 1999 「寄生虫」『考古学と動物学』『考古学と自然科学』2 同成社 p.151-158.
- 金原 正明・福富恵津子・金原 正子 2005 「糞石の基礎的研究」『日本文化財科学会』第22回 p.118-119.
- 島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集 60p.
- 中村 純 1967 『花粉分析』古今書院 p.82-102.
- 中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として」『第四紀研究』13 p.187-193.
- 中村 純 1977 「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第10号 p.21-30.
- 中村 純 1980 「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録』第13集 91p.
- 南木 睦彦 1991 「栽培植物」『古墳時代の研究第4巻生産と流通I』雄山閣出版 p.165-174.
- 南木 睦彦 1992 「低湿地遺跡の種実」『月刊考古学ジャーナル』No.355 ニューサイエンス社 p.18-22.
- 南木 睦彦 1993 「葉・果実・種子」『第四紀試料分析法』日本第四紀学会編 東京大学出版会 p.276-283.
- 吉崎 昌一 1992 「古代雑穀の検出」『月刊考古学ジャーナル』No.355 ニューサイエンス社 p.2-14.
- 渡辺 誠 1975 『縄文時代の植物食』雄山閣 187p.
- (第2節E)
- 島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉 高義・石田 茂雄・重松 頼生・須藤 彰司 1985 『木材の構造』文永堂出版 290p.
- 島地 謙・伊東 隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣 296p.
- 山田 昌久 1993 「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史」『植生史研究特別1号』植生史研究会, 242p.
- (第2節F)
- 笠原 安夫 1985 『日本雑草図説』養賢堂 494p.
- 笠原 安夫 1988 「作物および田畑雑草種類」『弥生文化の研究 第2巻 生業』雄山閣出版 p.131-139.
- 金原 正明 1996 「古代モモの形態と品種」『月刊考古学ジャーナル』No.409 p.15-19.
- 南木 睦彦 1991 「栽培植物」『古墳時代の研究 第4巻 生産と流通I』雄山閣出版 p.165-174.
- 藤下 典之 1982 「菜畑遺跡から出土したメロン仲間 *Cucumis melo* L. とヒョウタン仲間 *Lagenaria siceraria* Standl. の種子について」『菜畑遺跡』唐津市教育委員会 p.455-463.
- 藤下 典之 1992 「出土種子からみた古代日本のメロンの仲間、その種類、渡来、伝搬、利用について」『月刊考古学ジャーナル』No.354 p.7-13.
- (第3節)
- 菊池英一ほか 1961 「アスファルトのクロマトグラフ組成分析および劣化による組成の変化」『石油学会誌』第11号(社)石油学会 p.850-853.
- 高橋 正昭 1990 「4大組成分」『アスファルト』第163号 一般社団法人日本アスファルト協会 p.71-72.
- (第4節)
- 納屋内高史・松井 章 2009 「西郷遺跡出土の動物遺存体」『一般国道49号亀田バイパス関係発掘調査報告書II 西郷遺跡・大蔵遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 p.168-178.
- 松井 章 1999 「牛道遺跡出土の動物遺存体」『国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書3 牛道遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 p.121-123.
- 松井 章 2010 「サケ・マス類」『人と動物の関わりあい—縄文時代の考古学4』同成社 p.104-117.
- (第5節)
- 岡田 文男 1997 「パイプ状ベンガラ粒子の復元」『日本文化財科学会第14回大会研究発表会』

別表1 下層(縄文時代)遺構計測表

凡例

- 1 観察表の記載順は遺構の種別ごと、番号順であり、あわせて分割図版No.・個別図版No.・写真図版No.・本文記載頁を明記し、索引としての役割をもたせてある。
- 2 遺構の分類及び項目・切り合い関係等は、本文第IV章の記述に対応する。
- 3 規模の()内数値は残存部からの復元推定値である。
- 4 重複関係の表示は、>…切る・<…切られる・=…不明。
- 5 住居(SI)の下端規模は床面の規模を示す。

住居(SI)

分割図版No.	個別図版No.	写真図版No.	本文記載頁	遺構	グリッド	時代	分類・種別	確認面	主軸方向	規模 (m)					底面標高(m)	形態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物図版No.	備考	
										上端		下端		深度		平面	断面							
										長軸	短軸	長軸	短軸											
14	23・24	13・14	41・42	SI152	3J-7I21・22.8H5・10.8I11～3・6～8・11・12	縄文晩期	B1類	V b2	—	—	—	—	—	2.77	—	—	—	—	=SK140・141・263・264・271・311・312	土器(p9～15)、土器片23点、磨石類(s6)、敲石(s7)、石皿・台石類(s8)、U・F1点、剥片2点、砕片2点、残核1点、破砕礫20点、礫7点	201・230	7本主柱か		
14	23・24	13		SI152	炉 3J-8I6・7	縄文晩期	地床炉		N-73°-E	(0.95)	0.83	(0.75)	0.68	0.08	2.69	円形	弧状	3	レンズ状		土器(p9)、破砕礫2点	201		
14	23・24				Pit1 3J-8I8	縄文晩期			N-56°-E	0.25	(0.23)	(0.18)	(0.75)	0.08	2.72	円形	弧状	1	単層					
14	23・24				Pit2 3J-8I8	縄文晩期			N-10°-W	(0.15)	0.13	(0.07)	0.06	0.06	2.73	円形	半円状	1	単層					
14	23・24	14			Pit3 3J-8I6	縄文晩期	内柱穴		N-23°-W	(0.29)	(0.27)	(0.18)	(0.16)	0.16	2.67	円形	U字状	1	単層					
14	23・24	14			Pit4 3J-8I6	縄文晩期	内柱穴		N-52°-E	(0.24)	0.19	(0.13)	0.09	0.18	2.63	円形	U字状	1	単層					
14	23・24	14			Pit5 3J-8I7	縄文晩期	内柱穴		N-15°-E	(0.25)	(0.23)	(0.16)	0.11	0.16	2.63	円形	U字状	1	単層					
14	23・24	14			Pit6 3J-8I7	縄文晩期	内柱穴		N-4°-W	(0.25)	(0.19)	(0.16)	0.09	0.12	2.69	円形	半円状	1	単層		土器(p12)	201		
14	23・24	14			Pit7 3J-8I3	縄文晩期	内柱穴		N-40°-W	(0.22)	(0.18)	(0.14)	0.10	0.10	2.64	円形	半円状	1	単層					
14	23・24	14			Pit8 3J-8I2	縄文晩期	内柱穴		N-86°-W	(0.26)	(0.22)	(0.14)	(0.11)	0.21	2.53	円形	U字状	1	単層					
14	23・24				Pit9 3J-8I2	縄文晩期	内柱穴		N-1°-E	(0.21)	0.19	(0.12)	0.10	0.09	2.67	円形	半円状	1	単層					
14	23・24				Pit10 3J-8I1	縄文晩期	内柱穴		N-42°-E	(0.21)	0.18	(0.12)	(0.12)	0.06	2.74	円形	半円状	1	単層					
14	23・24				Pit11 3J-8I3	縄文晩期	外柱穴		—	—	0.27	—	0.18	0.12	2.66	円形	半円状	1	単層					
14	23・24				Pit12 3J-8I8	縄文晩期			N-25°-W	(0.33)	0.24	(0.26)	0.16	0.09	2.70	円形	半円状	1	単層					
14	23・24	13			Pit199 3J-7I21	縄文晩期	外柱穴		N-77°-E	0.27	(0.25)	(0.20)	0.18	0.20	2.64	円形	台形状	3	レンズ状		土器(p14)	201		
14	23・24	13		Pit266 3J-8I11・12	縄文晩期	外柱穴		N-74°-W	0.31	0.26	0.25	0.17	0.22	2.62	円形	台形状	1	単層		土器(p13)、剥片1点	201			
14	23・24	13		SK150 3J-8I6	縄文晩期			N-36°-W	0.65	(0.86)	0.51	0.37	0.07	2.74	楕円形	弧状	1	単層		土器(p10)、土器片5点	201			
12	19・20	7～9	40・41	SI164	3J-6I8～10・17～20	縄文晩期	B2類	V c	N-15°-E	—	—	—	—	—	2.86	—	—	—		土器(p1～6・100・102)、土器片33点、磨石類(s1～3)、破砕礫2点	201・206・230			
12	19・20	8		SI164	炉 3J-6I9・14	縄文晩期	地床炉		N-51°-W	0.48	0.46	0.34	(0.32)	0.04	2.82	円形	弧状	2	レンズ状		土器片1点			
12	19・20				Pit165 3J-6I19	縄文晩期			N-23°-E	(0.20)	0.16	(0.11)	(0.08)	0.07	2.78	円形	半円状	1	単層					
12	19・20	9			Pit166 3J-6I18	縄文晩期	外柱穴		N-1°-W	(0.35)	(0.25)	(0.15)	(0.13)	0.06	2.81	円形	U字状	2	柱痕				打込式	
12	19・20	9			Pit176 3J-6I8	縄文晩期	外柱穴		N-33°-W	(0.43)	(0.35)	(0.14)	0.10	0.27	2.59	円形	階段状	2	柱痕		土器(p100)、土器片2点	206		打込式
12	19・20				Pit282 3J-6I8	縄文晩期			N-2°-E	(0.31)	(0.27)	(0.20)	(0.19)	0.07	2.70	円形	弧状	1	単層					
12	19・20	8			Pit380 3J-6I9	縄文晩期	内柱穴		N-77°-E	(0.22)	0.19	(0.08)	0.07	0.27	2.50	円形	V字状	2	柱痕		土器(p5)	201		打込式
12	19・20				Pit477 3J-6I14	縄文晩期	内柱穴		N-8°-E	(0.23)	0.21	(0.12)	0.09	0.15	2.58	円形	V字状	1	柱痕					打込式
12	19・20	8			Pit478 3J-6I14	縄文晩期	内柱穴		N-10°-W	(0.17)	(0.14)	(0.09)	(0.07)	0.32	2.42	円形	U字状	2	柱痕					打込式
12	19・20	9			Pit530 3J-6I13	縄文晩期	内柱穴		N-59°-W	(0.17)	(0.13)	0.08	(0.06)	0.23	2.50	円形	U字状	1	柱痕					打込式
12	19・20				Pit531 3J-6I13	縄文晩期	内柱穴		N-80°-E	(0.15)	0.13	(0.08)	0.06	0.18	2.40	円形	V字状	1	柱痕					打込式
12	19・20	9			Pit532 3J-6I13	縄文晩期	内柱穴		N-35°-W	(0.23)	(0.22)	(0.10)	(0.09)	0.32	2.43	円形	V字状	2	柱痕					打込式
12	19・20	9			Pit533 3J-6I8	縄文晩期	内柱穴		N-9°-W	(0.19)	(0.15)	(0.12)	(0.09)	0.35	2.43	円形	U字状	2	柱痕					打込式
12	19・20	9			Pit534 3J-6I8	縄文晩期	内柱穴		N-28°-E	(0.17)	0.14	(0.05)	(0.04)	0.38	2.30	円形	V字状	1	柱痕					打込式
12	19・20	9			Pit535 3J-6I9	縄文晩期	内柱穴		N-16°-W	(0.16)	(0.15)	(0.08)	(0.07)	0.39	2.35	円形	U字状	2	柱痕					打込式
12	19・20	9			Pit536 3J-6I14・19	縄文晩期	内柱穴		N-34°-W	(0.23)	(0.22)	0.12	(0.10)	0.30	2.49	円形	U字状	1	柱痕					打込式
12	19・20	8			SK16 3J-6I14	縄文晩期	住居内テボ遺構		N-53°-W	0.36	(0.30)	0.26	0.20	0.08	2.81	円形	弧状	1	単層		磨石類(s1～3)	230		
12	19・20				SK185 3J-6I9	縄文晩期			N-40°-W	(0.45)	0.42	(0.19)	0.17	0.11	2.76	円形	弧状	1	単層					
12	19・20			SX167 3J-6I13	縄文晩期	炭化物集中		N-60°-W	(0.27)	(0.19)	(0.18)	0.11	0.06	2.81	円形	弧状	1	単層						
12	19・20			SX168 3J-6I8	縄文晩期	炭化物集中		N-1°-E	(0.27)	(0.24)	(0.20)	0.16	0.03	2.81	円形	弧状	1	単層						

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本記 文 記載頁	遺構	グリッド	時代	分類・種別	確認面	主軸方向	規模 (m)					底面 標高 (m)	形態		覆土	堆積 状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備考
										上 端		下 端		深度		平面	断面						
										長軸	短軸	長軸	短軸										
15	35・36	7 28 29	45	SI501	3J-10E21～ 23,4J-1D5,1E1～ 3・6～8・11～13	縄文晩期	B1類	V b2	N-117°-W	—	—	—	—	—	3.19	—	—	—	>SK579・ 640,SX760 =SK484,SX757・ 758	土器(p52～54)、土器片8点、 磨石類(s33・34)、不定形石器 (s35)、剃片1点、破片2点、礫1 点、アスファルト塊2点	203・233	7本主柱か	
15	35・36	28		SI501	炉	4J-1E7	縄文晩期	地床炉	—	—	0.43	—	0.36	0.04	3.11	不整楕円形	弧状	1	単層				
15	35・36	28			Pit500	5J-1E2	縄文晩期		N-56°-E	(0.19)	(0.18)	(0.09)	(0.08)	0.17	2.96	円形	U字状	1	単層				
15	35・36	29			Pit506	3J-10E23,4J-1E3	縄文晩期	外柱穴	N-44°-E	(0.30)	(0.28)	(0.16)	(0.14)	0.25	2.79	円形	U字状	2	水平			土器片1点	
15	35・36				Pit522	4J-1E1	縄文晩期	内柱穴	N-11°-W	(0.33)	0.28	(0.24)	0.18	0.19	2.89	円形	U字状	1	単層				
15	35・36	29			Pit523	4J-1E1・6	縄文晩期	内柱穴	N-77°-E	(0.27)	(0.21)	(0.12)	(0.09)	0.19	2.91	円形	U字状	1	単層			土器(p54)、土器片1点	203
15	35・36				Pit525	4J-1E2	縄文晩期	内柱穴	N-88°-W	(0.38)	(0.36)	(0.27)	0.24	0.21	2.80	円形	U字状	1	単層				
15	35・36				Pit526	3J-10E21・22	縄文晩期	外柱穴	N-69°-W	(0.32)	(0.28)	(0.16)	(0.12)	0.18	2.78	円形	U字状	1	単層				
15	35・36	29			Pit527	4J-1E6	縄文晩期	外柱穴	N-3°-E	(0.47)	(0.43)	(0.30)	(0.26)	0.22	2.80	円形	U字状	2	レンズ状			アスファルト塊1点	
15	35・36				SK617	4J-1E2・7	縄文晩期	内柱穴	—	—	0.41	—	0.20	0.17	2.81	円形	U字状	1	単層				
15	35・36				Pit618	4J-1E2・3	縄文晩期	内柱穴	N-68°-E	(0.37)	0.29	(0.20)	(0.14)	0.22	2.91	円形	U字状	1	単層				
15	35・36				Pit623	4J-1E7	縄文晩期	内柱穴	N-75°-E	(0.37)	(0.36)	(0.31)	(0.26)	0.15	2.82	円形	U字状	1	単層				
15	35・36	29			Pit624	4J-1E7	縄文晩期	内柱穴	N-56°-W	(0.41)	0.33	(0.32)	(0.22)	0.17	2.83	円形	U字状	1	単層			土器片1点	
15	35・36				Pit627	4J-1E1・2	縄文晩期	内柱穴	N-30°-E	(0.29)	(0.28)	(0.20)	(0.17)	0.18	2.83	円形	U字状	1	単層				
15	35・36				Pit630	4J-1E6・7	縄文晩期	内柱穴	N-0°	(0.28)	(0.27)	(0.21)	(0.16)	0.17	2.87	円形	U字状	1	単層				
15	35・36				Pit633	4J-1E6	縄文晩期	内柱穴	N-84°-W	(0.30)	(0.25)	(0.20)	(0.17)	0.07	2.75	円形	U字状	1	単層				
15	35・36				Pit634	4J-1E6・11	縄文晩期	内柱穴	N-48°-E	(0.35)	(0.29)	(0.26)	(0.18)	0.26	2.78	円形	U字状	2	単層				
15	35・36				Pit635	4J-1E11・12	縄文晩期	外柱穴	N-65°-W	(0.50)	(0.37)	(0.38)	(0.28)	0.14	2.90	円形	半円状	1	単層				
15	35・36				Pit638	4J-1E6	縄文晩期	内柱穴	N-15°-E	(0.37)	0.28	0.22	0.17	0.12	2.91	円形	U字状	2	レンズ状			土器(p54)	203
15	35・36				Pit639	4J-1E6	縄文晩期	内柱穴	N-5°-E	(0.38)	(0.36)	(0.26)	(0.22)	0.21	2.80	円形	U字状	2	レンズ状				
15	35・36	29			Pit641	4J-1E13	縄文晩期	外柱穴	N-5°-E	(0.30)	0.25	(0.08)	(0.07)	0.26	2.77	円形	V字状	2	柱痕				
15	35・36	29			Pit793	4J-1D5,1E1	縄文晩期	外柱穴	N-68°-W	(0.20)	0.19	(0.07)	0.06	0.19	2.78	円形	階段状	1	柱痕				
15	35・36				SK521	4J-1E8	縄文晩期		N-53°-E	1.41	1.14	1.18	0.86	0.14	2.86	楕円形	弧状	2	水平			土器片3点	
15	35・36	28			SK524	3J-10E22	縄文晩期	住居内デポ遺構	N-90°	(0.41)	0.40	(0.33)	0.28	0.10	2.90	円形	弧状	1	単層			磨石類(s34)	233
15	35・36				SK611	4J-1E1	縄文晩期		N-30°-W	0.43	(0.39)	(0.32)	(0.28)	0.19	2.89	円形	半円状	2	レンズ状			土器片1点、礫1点	
15	35・36				SK612	4J-1E3・8	縄文晩期		N-65°-E	0.63	0.49	0.48	0.40	0.16	2.85	楕円形	弧状	1	単層				
15	35・36	28・29			SK616	4J-1E2	縄文晩期	住居内デポ遺構	—	—	(0.37)	—	(0.28)	0.12	2.88	円形	半円状	1	単層			磨石類(s33)	233
15	35・36				SK621	4J-1E2・3・7・8	縄文晩期		N-33°-E	(1.17)	0.97	(0.90)	(0.65)	0.25	2.85	隅丸方形	台形状	2	水平			土器(p53)	203
15	35・36				SK626	3J-10E22,23,4J-1E2・3	縄文晩期		N-16°-W	(0.49)	0.42	(0.37)	(0.25)	0.09	2.89	楕円形	弧状	1	単層			アスファルト塊1点	
15	35・36				SK629	4J-1E7・8	縄文晩期		N-37°-E	(0.70)	(0.53)	(0.54)	(0.43)	0.09	2.92	楕円形	弧状	1	単層				
15	35・36	28			SX496	4J-1E7	縄文晩期	炭化物集中	N-34°-E	1.04	0.90	—	—	0.05	3.09	不整形	—	1	単層				
15	35・36				SX497	4J-1E1	縄文晩期	炭化物集中	N-26°-W	0.38	0.26	—	—	0.05	3.03	不整形	—	1	単層				
15	35・36	28		SX499	4J-1E1・2・6・7	縄文晩期	炭化物集中	N-86°-W	1.45	0.95	1.40	0.87	0.07	3.06	不整形	—	1	単層			剃片1点、破片2点		
15	35・36			SX505	4J-1E2	縄文晩期	炭化物集中	N-18°-W	0.26	0.24	0.23	0.20	0.04	3.08	円形	—	1	単層					
15	35・36			SX520	4J-1E3	縄文晩期	炭化物集中	N-89°-W	0.31	0.27	—	—	0.08	3.00	円形	—	1	単層					
15	35・36			SX619	4J-1E2・3・7・8	縄文晩期	炭化物集中	N-0°	(1.36)	(0.56)	(1.26)	(0.48)	0.06	3.04	長楕円形	—	1	単層			土器(p52)、土器片1点、不定形 石器(s35)、礫1点	203・233	
13	21	10・11	41	SI556	3J-8E8・9,13・14	縄文晩期	D類	V c	N-82°-E	2.75	2.32	2.49	2.18	0.18	2.73	楕円形	弧状	5	レンズ状			土器(p7・8)、土器片5点、石鏃 (s4・5)	201・230
13	21	10・11		SI556	炉	3J-8E9・14	縄文晩期	地床炉	N-73°-E	0.95	0.64	0.44	0.37	—	2.69	楕円形	—	1	単層				焼土厚0.04
13	21	11			Pit596	3J-8E14	縄文晩期		N-85°-W	0.19	0.17	0.05	0.05	0.10	2.69	円形	V字状	1	単層			土器(p8)	201
13	21				Pit597	3J-8E14	縄文晩期		N-10°-W	0.19	0.15	0.12	0.08	0.04	2.78	楕円形	弧状	1	単層				
13	21	11			Pit679	3J-8E9	縄文晩期		N-78°-E	0.18	0.16	0.06	0.06	0.06	2.61	円形	半円状	1	単層				
13	21	11			Pit680	3J-8E9	縄文晩期	柱穴?	N-74°-W	(0.38)	0.31	0.14	0.12	0.20	2.49	楕円形	階段状	1	単層				
15	29・30	7 21 22	43	SI579	3J-10D8～10・12～ 15・17～20・23～25	縄文晩期	B1類	V b2	—	—	—	—	—	—	2.95	—	—	—	>SI580・831	土器(p26～33)、土器片20点、 石鏃(s13)、不定形石器(s14)、残 核1点、剃片3点、破砕礫1点、礫 4点、板状アスファルト1点	202・231		

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本文 記載頁	遺構	グリッド	時代	分類・種別	確認面	主軸方向	規模 (m)				底面 標高 (m)	形態		覆土	堆積 状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備考		
										上端		下端			深度	平面							断面	
										長軸	短軸	長軸	短軸											
15	29・30	21		SI579	炉	3J-10D13・18	縄文晩期	地床炉	N-25°-E	0.76	—	—	—	2.91	不整形	—	—	—			被熱範囲			
15	29・30				Pit682	3J-10D13	縄文晩期	内柱穴	N-15°-W	(0.32)	(0.27)	(0.19)	(0.18)	0.12	2.75	円形	半円状	1	単層					
15	29・30	22			Pit684	3J-10D12	縄文晩期	内柱穴	N-44°-E	(0.23)	(0.21)	(0.08)	(0.07)	0.17	2.73	円形	V字状	1	単層					
15	29・30	22			Pit685	3J-10D18	縄文晩期	内柱穴	N-65°-E	(0.24)	(0.23)	(0.10)	(0.10)	0.44	2.46	円形	U字状	2	柱痕			打込式		
15	29・30				SK686	3J-10D18	縄文晩期		N-11°-E	0.57	(0.41)	0.40	(0.29)	0.13	2.81	円形	弧状	1	単層					
15	29・30	22			Pit687	3J-10D18	縄文晩期	内柱穴	N-20°-E	(0.28)	0.25	(0.18)	0.16	0.19	2.74	円形	U字状	1	単層					
15	29・30	22			Pit688	3J-10D8・13	縄文晩期	内柱穴	N-9°-E	(0.37)	(0.32)	(0.13)	(0.12)	0.39	2.47	円形	U字状	2	柱痕			打込式		
15	29・30				Pit734	3J-10D8	縄文晩期		N-12°-W	(0.21)	(0.19)	(0.09)	(0.07)	0.12	2.73	円形	V字状	1	単層					
15	29・30				Pit736	3J-10D9・14	縄文晩期		N-43°-E	(0.19)	(0.17)	(0.11)	(0.10)	0.11	2.76	円形	U字状	1	単層					
15	29・30	21			Pit737	3J-10D12	縄文晩期	外柱穴	N-75°-W	(0.35)	(0.34)	(0.21)	0.18	0.16	2.72	円形	階段状	1	単層					
15	29・30	21			Pit743	3J-10D17	縄文晩期	外柱穴	N-12°-E	(0.27)	(0.23)	(0.18)	(0.18)	0.20	2.68	円形	U字状	1	単層					
15	29・30				Pit745	3J-10D13	縄文晩期	内柱穴	N-6°-E	(0.25)	(0.24)	(0.17)	(0.12)	0.21	2.66	円形	U字状	1	単層					
15	29・30	21			Pit751	3J-10D8	縄文晩期	外柱穴	N-47°-E	(0.30)	(0.27)	(0.22)	(0.15)	0.25	2.63	円形	U字状	1	単層					
15	29・30	21			Pit752	3J-10D9	縄文晩期	外柱穴	N-72°-E	(0.33)	(0.29)	(0.12)	(0.11)	0.20	2.66	円形	U字状	1	単層					
15	29・30	21			Pit753	3J-10D9	縄文晩期	外柱穴	N-30°-W	(0.25)	(0.22)	(0.12)	(0.10)	0.14	2.70	円形	U字状	1	単層					
15	29・30	21			Pit791	3J-10D23	縄文晩期	外柱穴	N-18°-E	(0.37)	(0.34)	(0.26)	(0.20)	0.10	2.80	円形	弧状	1	単層	土器(p32)、土器片1点、剥片1点	202			
15	29・30			SK683	3J-10D13	縄文晩期		—	—	(0.36)	—	(0.24)	0.06	2.81	円形	弧状	1	単層						
15	29・30	7 19 20	43・44	SI580	3J-10C15・20,10D11・12・16・17・21・22	縄文晩期	A2類	V b2	N-76°-W	—	4.76	—	4.10	0.08	2.93	円・楕円形	弧状	1	単層	<SI579	土器(p18・20～25・27)、土器片39点、石籬(s15・16)、砥石(s17・19)、磨石類(s18)、加工痕のある礫石器(s20)、礫1点	201・202・231	壁周溝・4本主柱か	
15	29・30	19		SI580	炉	3J-10C15,10D11	縄文晩期	地床炉	—	—	0.58	—	—	0.10	2.86	不整形	弧状	2	レンズ状			焼土厚0.04		
15	29・30	19			Pit689	3J-10D16	縄文晩期	主柱穴	N-16°-W	0.23	(0.22)	0.12	(0.11)	0.24	2.65	円形	U字状	1	単層					
15	29・30	20			Pit690	3J-10D12	縄文晩期	主柱穴	N-34°-E	(0.33)	(0.31)	(0.25)	(0.22)	0.14	2.76	円形	半円状	1						
15	29・30	20			Pit735	3J-10D16	縄文晩期		N-5°-W	(0.31)	(0.28)	(0.15)	(0.15)	0.26	2.61	円形	U字状	1		土器片1点				
15	29・30	20			Pit739	3J-10D11	縄文晩期		N-10°-E	(0.30)	(0.29)	(0.11)	(0.10)	0.22	2.69	円形	V字状	1	単層	土器(p23)	202			
15	29・30				Pit740	3J-10C20	縄文晩期		N-69°-E	(0.29)	(0.25)	(0.17)	(0.14)	0.19	2.70	円形	U字状	1	単層					
15	29・30	20			Pit744	3J-10D11・12	縄文晩期	主柱穴	N-5°-W	(0.28)	(0.27)	(0.16)	(0.15)	0.25	2.62	円形	U字状	1	単層					
15	29・30	20			Pit901	3J-10D11	縄文晩期		N-30°-E	(0.29)	(0.27)	(0.11)	(0.09)	0.20	2.59	円形	階段状	1	単層					
13・14	27・28	17・18	42・43	SI650	3J-9G7～9・11～14・16～19・22・23	縄文晩期	A2類	V b2	(旧)N-10°-W (新)N-0°	6.62	6.20	5.90	5.50	0.08	2.83	円形	—	1	単層	<SK651	土器(p18・19)、土器片1点、礫2点	201	壁周溝全周・建替え1回4本→5本	
14	27・28	17		SI650	炉	3J-9G13・18	縄文晩期	地床炉	N-34°-E	1.42	1.06	1.30	0.89	0.07	2.76	隅丸長方形	弧状	3	レンズ状					
13・14	27・28	18			Pit507	3J-9G12	縄文晩期	主柱穴(旧・新)	N-25°-E	0.51	(0.45)	(0.28)	0.24	0.26	2.75	円形	台形状	1	単層					
13・14	27・28				Pit508	3J-9G12	縄文晩期	補助柱穴	N-36°-W	(0.24)	(0.20)	(0.16)	(0.15)	0.15	2.85	円形	U字状	1	単層					
14	27・28	18			Pit509	3J-9G8・13	縄文晩期	主柱穴(旧)	N-21°-W	0.53	(0.39)	0.38	(0.29)	0.19	2.82	楕円形	U字状	2	水平					
14	27・28	18			Pit510	3J-9G14	縄文晩期	主柱穴(新)	N-12°-E	0.47	0.31	0.32	(0.25)	0.20	2.82	楕円形	箱状	2	水平					
14	27・28	18			Pit511	3J-9G14	縄文晩期	補助柱穴	N-17°-W	0.33	0.28	0.24	(0.20)	0.26	2.76	円形	U字状	1	単層					
14	27・28	18			Pit512	3J-9G18・19	縄文晩期	主柱穴(旧)	N-5°-E	0.58	(0.42)	0.36	(0.23)	0.36	2.64	楕円形	U字状	3	水平					
14	27・28				Pit513	3J-9G19	縄文晩期	補助柱穴	N-15°-W	0.34	(0.28)	0.24	(0.20)	0.18	2.82	円形	U字状	1	単層					
14	27・28	18			Pit514	3J-9G19	縄文晩期	主柱穴(新)	N-3°-E	0.38	(0.27)	0.27	(0.17)	0.20	2.79	楕円形	U字状	2	斜位					
14	27・28				Pit518	3J-9G22・23	縄文晩期	補助柱穴	N-12°-E	(0.25)	(0.24)	(0.17)	(0.16)	0.16	2.85	円形	U字状	1	単層					
14	27・28	18			Pit519	3J-9G17	縄文晩期	主柱穴(旧・新)	N-40°-W	(0.37)	(0.36)	(0.15)	(0.14)	0.22	2.78	円形	U字状	1	単層					
14	27・28				SK628	3J-9G17	縄文晩期		N-75°-W	0.48	0.43	0.33	(0.30)	0.15	2.86	円形	弧状	1	単層					
14	27・28				Pit645	3J-9G7・12	縄文晩期		N-3°-W	0.45	0.38	0.22	(0.09)	0.32	2.70	円形	階段状	2	柱痕					
14	27・28				Pit896	3J-9G13	縄文晩期		N-75°-E	(0.20)	(0.16)	(0.12)	(0.10)	0.13	2.82	円形	U字状	2	レンズ状					
14	27・28	18			Pit988	3J-9G8	縄文晩期	主柱穴(新)	N-48°-W	(0.46)	(0.41)	0.18	(0.10)	0.30	2.72	円形	階段状	2	レンズ状					
13・15	31・32	7 23 24	44		SI670	3J-10E7～10・12～15・18～20・23・24	縄文晩期	A1類	V b2	N-2°-E	7.63	6.97	6.30	5.88	0.05	2.95	円形	弧状	1	単層	<SK495・528・529・692,Pit643	土器(p34～36)、土器片2点、軽石(s21)、石皿・台石類(s22)	202・231	壁周溝全周・4本主柱

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記 載 頁	遺 構	グリッド	時 代	分類・種別	確認面	主軸方向	規 模 (m)					底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積 状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
										上 端		下 端		深度		平面	断面							
										長軸	短軸	長軸	短軸											
15	31-32	23		SI670	炉	3J-10E13・14	縄文晩期	地床炉	N-8°-W	0.80	0.76	0.66	0.65	0.02	2.93	不整形	弧状	2	レンズ状			焼土厚0.03		
15	31-32	24			Pit632	3J-10E9-14	縄文晩期	主柱穴	N-65°-E	0.60	(0.53)	0.37	0.17	0.25	2.71	楕円形	台形状	3	レンズ状					
15	31-32	24			Pit636	3J-10E19	縄文晩期	主柱穴	N-5°-E	0.67	0.43	0.44	(0.32)	0.26	2.71	楕円形	U字状	3	レンズ状					
15	31-32	24			Pit642	3J-10E13・18	縄文晩期		N-46°-W	(0.42)	(0.40)	(0.22)	0.20	0.25	2.71	円形		2						
15	31-32	24			Pit644	3J-10E17・18	縄文晩期	主柱穴	N-13°-W	0.65	(0.54)	(0.34)	0.33	0.26	2.66	円形	台形状	2	水平					
15	31-32	24			Pit647	3J-10E7・8・12・13	縄文晩期	主柱穴	N-7°-W	0.63	(0.40)	0.37	(0.22)	0.25	2.68	楕円形	台形状	2	レンズ状					
15	31-32				Pit669	3J-10E9-14	縄文晩期		N-47°-E	(0.41)	(0.29)	(0.25)	(0.17)	0.19	2.77	楕円形	U字状	2	水平					
15	31-32	24			SK695	3J-10E14	縄文晩期	住居内デボ遺構	N-72°-E	(0.32)	(0.27)	(0.22)	0.15	0.12	2.88	円形	半円状	1	単層	石皿・台石類(s22)	231			
15	31-32				Pit703	3J-10E13・14	縄文晩期		N-75°-E	0.57	0.37	0.45	0.26	0.14	2.77	楕円形	台形状	2	レンズ状					
15	31-32	24			Pit990	3J-10E14	縄文晩期		N-63°-W	(0.32)	(0.29)	(0.14)	(0.10)	0.24	2.69	円形	階段状	3	レンズ状					
13	25-26	7 15 16	42	SI700	3J-8E15・20,9E6 ~8・11~14・16 ~19・22	縄文晩期	A2類	V b2	(旧)N-7°-E (新)N-0°	7.29	6.30	6.30	5.80	0.08	2.95	不整形	弧状	1	単層	<SK389,Pit390- 663・699・705	土器(p16-17)、土器片4点、不 定形石器(s9)、磨石類(s10)、石 皿・台石類(s11)、敲石(s12)、 礫11点	201-230 ・231	壁周溝全周・建 替え1回4本→ 5本	
13	25-26	15		SI700	炉a(新)	3J-9E12	縄文晩期	地床炉	—	—	(0.32)	—	—	0.14	2.32	楕円形	弧状	3	レンズ状					
13	25-26	15			炉b(旧)	3J-9E12	縄文晩期	地床炉	—	—	—	—	—	0.14	2.34	楕円形	弧状	3	レンズ状					
13	25-26	16			Pit661	3J-9E18	縄文晩期	主柱穴(新)	N-37°-E	0.64	(0.50)	0.40	0.36	0.34	2.57	円形	U字状	3	レンズ状					
13	25-26				Pit662	3J-9E7-12	縄文晩期	主柱穴(新)	N-15°-W	0.75	0.65	0.34	(0.25)	0.37	2.53	楕円形	半円状	3	レンズ状					
13	25-26				Pit664	3J-9E17	縄文晩期		N-35°-E	(0.45)	(0.40)	(0.12)	(0.10)	0.32	2.58	円形	U字状	3	レンズ状	石皿・台石類(s11)	231			
13	25-26	16			Pit665	3J-9E6-11	縄文晩期	主柱穴(旧・新)	N-0°	0.65	0.46	0.42	(0.29)	0.34	2.53	楕円形	U字状	3	水平					
13	25-26	16			Pit668	3J-9E16	縄文晩期	主柱穴(旧・新)	N-41°-W	0.71	0.69	(0.44)	0.40	0.39	2.53	隅丸方形	箱状	3	レンズ状					
13	25-26	16			Pit694	3J-9E17	縄文晩期	主柱穴(旧)	N-62°-E	(0.71)	(0.53)	0.48	(0.42)	0.35	2.54	楕円形	U字状	3	レンズ状					
13	25-26				Pit701	3J-9E16-17	縄文晩期		N-23°-W	(0.65)	0.47	(0.45)	0.29	0.26	2.62	楕円形	U字状	2	レンズ状					
13	25-26	16			Pit702	3J-9E7-12	縄文晩期	主柱穴(旧)	N-12°-W	(0.59)	(0.51)	(0.29)	(0.26)	0.30	2.58	円形	U字状	2	水平					
13	25-26	16			Pit707	3J-9E8-13	縄文晩期	主柱穴(新)	N-33°-E	(0.65)	(0.61)	(0.43)	(0.34)	0.54	2.36	円形	U字状	3	レンズ状					
13	25-26				Pit989	3J-9E11	縄文晩期		N-27°-E	(0.50)	(0.45)	(0.20)	(0.17)	0.37	2.52	円形	U字状	3	レンズ状					
13	25-26	16			SK666	3J-9E6-7	縄文晩期	住居内デボ遺構	N-76°-E	0.59	0.57	0.33	(0.23)	0.13	2.73	円形	弧状	1	単層	磨石類(s10)	230			
16	39-40	7 32 33	45・46		SI710	4J-2E15・20,2F5- 6・11~13・16~ 18・21~23	縄文晩期	A1類	V b1	(旧)N-9°-E (新)N-10°-E	6.15	5.60	5.55	5.15	0.10	3.15	隅丸方形	弧状	1	単層	>SI810	土器(p56~63)、土器片76点、 石鏝(s36)、磨石類(s37~41、 43)、敲石(42)、石皿・台石類 (s44~46)、剥片1点、礫9点、 アスファルト塊5点	203-233 ~236	壁周溝全周・4 本主柱
16	39-40	32-33		SI710	炉a(新)	4J-2F17	縄文晩期	地床炉	N-28°-E	0.70	0.51	0.40	0.37	0.06	3.10	不整形	弧状	2	レンズ状			土器(p56)	203	焼土厚0.03
16	39-40	32			炉b(旧)	4J-2F17	縄文晩期	地床炉	N-14°-E	0.75	—	0.52	—	0.07	3.11	不整形	弧状	2	レンズ状					
16	39-40	33			Pit816	4J-2F11	縄文晩期	主柱穴(新)	N-90°	(0.53)	(0.50)	(0.34)	(0.19)	0.48	2.62	円形	U字状	3	レンズ状					
16	39-40	33			Pit804	4J-2F11	縄文晩期	主柱穴(旧)	N-16°-W	0.58	0.57	0.39	(0.33)	0.48	2.63	円形	U字状	3	レンズ状					
16	39-40	33			Pit801	4J-2F12・13	縄文晩期	主柱穴(新)	N-16°-W	0.65	0.58	0.46	0.38	0.50	2.58	円形	箱状	6	柱痕	アスファルト塊1点				
16	39-40	33			Pit802	4J-2F12・13・18	縄文晩期	主柱穴(旧)	N-25°-W	0.73	0.64	0.48	0.46	0.39	2.66	円形	半円状	3	水平					
16	39-40				Pit788	4J-2E20,2F16	縄文晩期	主柱穴(旧・新)	N-33°-W	0.82	0.80	0.58	0.55	0.42	2.62	円形	箱状	3	レンズ状					
16	39-40	33			Pit803	4J-2F22	縄文晩期	主柱穴(旧・新)	N-76°-W	0.85	0.75	(0.48)	0.23	0.48	2.52	円形	箱状	3	水平	土器片4点				
16	39-40	33			SK697	4J-2F11・12	縄文晩期	住居内デボ遺構	N-16°-E	0.56	0.53	0.46	0.40	0.16	2.94	円形	弧状	1	単層	磨石類(s38-43)	234-235			
16	39-40	33			SK698	4J-2F11・12	縄文晩期	住居内デボ遺構	N-65°-E	0.50	0.48	(0.41)	0.36	0.29	2.82	円形	半円状	1	単層	>Pit704 (SI810)	磨石類(s37・39・41)、石皿・台 石類(s44・45)、礫1点	234~ 236		
16	39-40				Pit813	4J-2F13	縄文晩期		N-87°-E	(0.16)	(0.15)	0.09	0.08	0.10	2.85	円形	U字状	1	単層					
16	39-40				Pit814	4J-2F6	縄文晩期		N-33°-E	(0.14)	(0.11)	0.07	0.06	0.06	2.98	円形	U字状	1	単層					
16	39				710Pit1	4J-2F13	縄文晩期		N-17°-W	0.17	0.14	0.09	0.08	0.15	2.81	円形	U字状	1	単層					
16	39				710Pit2	4J-2F12・13	縄文晩期		N-42°-W	0.17	0.16	0.09	0.08	0.07	2.83	円形	U字状	1	単層					
16	39				710Pit3	4J-2E15	縄文晩期		N-76°-E	0.22	0.20	0.16	0.15	0.07	2.88	円形	U字状	1	単層					
16	39				710Pit4	4J-2E20	縄文晩期		N-11°-E	0.20	0.18	0.15	0.14	0.07	2.86	円形	U字状	1	単層					
16	39				710Pit5	4J-2F22	縄文晩期		N-79°-W	0.23	0.18	0.15	0.10	0.08	2.85	円形	U字状	1	単層					

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本文 記載頁	遺構	グリッド	時代	分類・種別	確認面	主軸方向	規模 (m)					底面 標高 (m)	形態		覆土	堆積 状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備考
										上 端		下 端		深度		平面	断面						
										長軸	短軸	長軸	短軸										
16	37-38	7-30-31	45	SI790	4J-1E24・25,1F16・21・22,2E4・5・9・10,2F1・2・6・7	縄文晩期	A2類	V b2	N-7°-E	6.75	6.23	5.70	5.00	0.08	312.5	円形	弧状	1	単層	<SK504・622・625,Pit911	土器(p55)、土器片22点、敲石(s32)、石皿類(破片)1点、礫5点、アスファルト塊1点	203・233	壁周溝全周・土屋建替え1回
16	37-38	30		SI790	炉	4J-2E5,2F1	縄文晩期	地床炉	—	—	(0.90)	—	(0.75)	0.04	3.00	不整形円形	弧状	3	レンズ状		礫1点		焼土厚0.02
16	37-38	31			Pit786	4J-2F1・6	縄文晩期	主柱穴	N-68°-W	0.58	0.49	(0.50)	0.32	0.28	2.77	円形	箱状	2	水平				
16	37-38	31			Pit805	4J-2E5・10	縄文晩期	主柱穴(新)	N-10°-E	0.68	(0.50)	0.42	(0.30)	0.50	2.61	楕円形	U字状	3	レンズ状				
16	37-38	31			Pit811	4J-2F6	縄文晩期	主柱穴	N-12°-E	0.65	0.52	0.46	(0.40)	0.22	2.83	円形	半円状	2	レンズ状				
16	37-38	30			Pit812	4J-1E25	縄文晩期	主柱穴	N-17°-W	(0.73)	(0.71)	(0.61)	(0.50)	0.32	2.63	扇丸方形	箱状	3	水平				
16	37-38	31			Pit815	4J-1F21・22	縄文晩期	主柱穴	N-14°-W	0.78	(0.66)	0.53	(0.47)	0.33	2.73	円形	箱状	3	レンズ状				
16	37-38	31			Pit868	4J-2E5	縄文晩期	主柱穴(旧)	N-77°-W	0.63	(0.58)	0.46	(0.39)	0.36	2.70	円形	箱状	3	レンズ状				
16	37-38				790Pit1	4J-2E9	縄文晩期		N-18°-W	0.16	0.13	0.09	0.08	0.08	2.82	円形	V字状	1	単層				周溝内ビット
16	37-38				790Pit2	4J-2E4・9	縄文晩期		N-8°-W	0.19	0.13	0.13	0.07	0.05	2.85	円形	V字状	1	単層				周溝内ビット
16	41-42	7-34-35	46		SI810	4J-2F11~13・16~19-21~23,3F2・3	縄文晩期	A1類	V b2	N-6°-E	6.60	6.10	6.03	5.60	0.08	3.03	円形	弧状	1	単層	<SI710	土器(p59・64~67)、土器片24点、剥片1点、礫2点	203
16	41-42	34		SI810	炉	4J-2F16・17	縄文晩期	地床炉	N-5°-W	1.07	0.87	1.01	0.82	0.06	3.00	不整形円形	弧状	2	レンズ状		土器(p65・67)、土器片12点、礫1点	203	
16	41-42	34			Pit704	4J-2F11・12	縄文晩期	主柱穴	N-38°-E	0.45	0.44	0.37	0.36	0.33	2.63	円形	箱状	1	単層				
16	41-42	35			Pit806	4J-2F23	縄文晩期	主柱穴	N-35°-E	0.70	0.59	0.48	0.42	0.49	2.55	扇丸方形	箱状	3	レンズ状		土器片2点		
16	41-42	35			Pit807	4J-2F16・21	縄文晩期	主柱穴	N-19°-W	0.83	0.74	0.65	0.51	0.45	2.60	円形	台形状	3	ブロック状		土器片1点		
16	41-42	35			Pit869	4J-2F13	縄文晩期	主柱穴	N-4°-E	(0.67)	(0.65)	0.48	(0.46)	0.34	2.64	扇丸方形	台形状	3	レンズ状				
16	41-42	34			Pit914	4J-2F17	縄文晩期		N-80°-E	(0.36)	(0.24)	(0.21)	(0.13)	0.15	2.88	円形	U字状	1	単層		土器片1点		
16	41-42	35			Pit1001	4J-2F11・16	縄文晩期		N-26°-W	(0.22)	(0.21)	(0.17)	(0.13)	0.35	2.63	円形	U字状	3	水平				
16	41-42				810Pit1	4J-2F23	縄文晩期		N-18°-E	0.24	0.18	0.15	0.11	0.12	2.75	円形	U字状	1	単層				
16	41-42				810Pit2	4J-2F23	縄文晩期		N-19°-E	0.21	0.18	0.12	0.11	0.10	2.77	円形	U字状	1	単層				
16	41-42				810Pit3	4J-2F19	縄文晩期		N-3°-W	0.20	0.15	0.13	0.11	0.08	2.80	円形	U字状	1	単層				
16	41-42	35			SK870	4J-2F12	縄文晩期		N-30°-W	(0.47)	(0.43)	(0.32)	(0.28)	0.17	2.87	円形	半円状	2	水平				
15	22	7-12	41		SI831	3J-10D23・24,4J-1D3・4・8・9	縄文晩期	E類	V b2	N-3°-W	4.50	4.16	3.60	3.30	0.15	2.80	円形	弧状	4	レンズ状	>SI837 <SI579	土器(p37~39・54)、土器片16点、剥片3点	202・203
15	22	12		SI831	Pit871	4J-1D3	縄文晩期		N-21°-W	(0.28)	(0.26)	(0.16)	(0.15)	0.13	2.61	円形	U字状	1	単層				
15	22	12			Pit872	3J-10D23	縄文晩期		N-66°-E	(0.25)	(0.24)	(0.12)	(0.09)	0.14	2.57	円形	U字状	1	単層				
15	33-34	7-25~27	44・45	SI837	4J-1D3~5・7~9・13~15・18~20	縄文晩期	C類	V c	N-90°	(5.20)	(5.20)	(5.00)	(5.00)	0.04	2.85	(円形)	弧状	2	ブロック状	<SI831	動物形土製品(p40)、土器(p41~51・192)、土器片85点、石鏃(s23)、不定形石器(s24・26)、両極剝離痕のある石器(s25)、磨石類(s27)、砥石(s28)、敲石(s29)、石皿・台石類(s30・31)、剥片8点、砕片7点、残核2点、礫10点、アスファルト塊4点、板状アスファルト1点、赤色顔料ブロック1点、焼骨2点	202・203・212・232・376	4本主柱
15	33-34	25-26		SI837	Pit792	4J-1D4・5・9・10	縄文晩期	主柱穴	N-22°-E	(0.56)	0.53	0.10	0.09	0.90	2.12	円形	V字状	2	レンズ状		石皿・台石類(s30)、残核1点	232	廃絶行為あり
15	33-34	27			Pit800	4J-1D15	縄文晩期		N-56°-E	0.30	(0.27)	(0.16)	0.14	0.15	2.82	円形	半円状	2	水平		土器片4点		
15	33-34	27			Pit873	4J-1D8	縄文晩期		N-23°-E	(0.34)	(0.33)	(0.23)	(0.22)	0.16	2.60	円形	半円状	1	単層		土器片1点		
15	33-34				Pit874	4J-1D8	縄文晩期		N-78°-E	(0.17)	(0.15)	(0.08)	(0.05)	0.35	2.43	円形	V字状	2	柱痕				打込式
15	33-34	27			Pit875	4J-1D8	縄文晩期		N-12°-E	(0.21)	(0.18)	(0.07)	(0.06)	0.34	2.46	円形	V字状	1	柱痕				打込式
15	33-34				Pit878	4J-1D14	縄文晩期		N-15°-W	(0.16)	(0.14)	(0.08)	0.06	0.33	2.59	円形	V字状	2	柱痕				打込式
15	33-34	26			Pit879	4J-1D14・15	縄文晩期	主柱穴	N-36°-W	(0.35)	(0.30)	(0.12)	(0.11)	0.74	2.05	円形	V字状	3	レンズ状				
15	33-34	26			Pit880	4J-1D14	縄文晩期		N-79°-E	(0.30)	(0.28)	(0.15)	(0.13)	0.18	2.62	円形	U字状	1	単層				
15	33-34	26			Pit905	4J-1D13	縄文晩期	主柱穴	N-7°-W	(0.59)	(0.58)	(0.20)	(0.12)	0.80	1.98	円形	階段状	3	レンズ状		磨石類(s27)、石皿・台石類(s31)	232	廃絶行為あり
15	33-34	27			Pit907	4J-1D8	縄文晩期	主柱穴	N-47°-W	(0.35)	(0.22)	0.14	0.10	0.30	2.10	円形	U字状	1	単層				
15	33-34	26-27			Pit910	4J-1D8	縄文晩期	主柱穴	N-74°-E	(0.20)	(0.17)	(0.19)	(0.15)	0.36	1.90	円形	U字状	2	レンズ状				

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構	グリッド	時 代	分類・種別	確認面	主軸方向	規 模 (m)					底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積 状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
										上 端		下 端		深度		平面	断面						
										長軸	短軸	長軸	短軸										
16	43・44	7・ 36 ~ 40	46・47	SI951	4J-4F2~5・7~10・ 12~15・19・20	縄文晩期	B1類	V b2	N-53° -W	7.03	—	6.84	—	0.05	2.98	円形	弧状	3	レンズ状	<Pit939	土器(p68~78・177)、土器片 129点、不明石器(s47)、磨石類 (s48・49)、剥片1点、砕片1点、 礫1点、アスファルト塊7点、板 状アスファルト1点、赤色顔料 ブロック6点、焼骨1点	204・ 210・ 236	7本柱か
16	43・44	37		SI951	炉	4J-4F8・9,13・14	縄文晩期	地床炉	—	—	(0.75)	—	(0.74)	0.06	2.94	楕円形	弧状	2	レンズ状		土器片1点、骨1点		焼土厚0.03
16	43・44	38			Pit954	4J-4F15	縄文晩期	入口柱穴	N-22° -E	0.16	(0.15)	0.09	(0.08)	0.19	2.74	円形	U字状	2	レンズ状		土器(p77)	204	
16	43・44	40			Pit955	4J-4F8	縄文晩期	内柱穴	N-53° -W	0.23	(0.19)	0.09	0.08	0.19	2.78	円形	階段状	2	レンズ状				
16	43・44	38・39			Pit956	4J-4F15	縄文晩期	外柱穴	N-15° -W	(0.29)	0.26	(0.14)	(0.14)	0.43	2.50	円形	U字状	2	レンズ状				
16	43・44	39			Pit957	4J-4F9	縄文晩期	外柱穴	N-40° -E	0.29	(0.25)	0.15	(0.12)	0.32	2.62	円形	U字状	2	レンズ状				
16	43・44	37			Pit958	4J-4F3・4	縄文晩期	外柱穴	N-26° -E	(0.28)	(0.26)	(0.16)	0.10	0.32	2.64	円形	U字状	3	レンズ状				
16	43・44	37・38			Pit959	4J-4F7・8	縄文晩期	外柱穴	N-6° -W	(0.35)	(0.33)	(0.14)	0.11	0.36	2.58	円形	V字状	2	レンズ状				
16	43・44	38			Pit960	4J-4F12	縄文晩期	外柱穴	N-33° -E	(0.28)	(0.25)	(0.12)	0.09	0.41	2.54	円形	U字状	3	レンズ状				
16	43・44	38			Pit971	4J-4F19	縄文晩期	入口柱穴	N-11° -W	0.16	(0.12)	0.06	(0.05)	0.11	2.86	円形	U字状	1	単層				
16	43・44	38			Pit973	4J-4F19	縄文晩期	外柱穴	N-0°	(0.24)	(0.23)	(0.12)	(0.08)	0.46	2.52	円形	U字状	2	レンズ状				
16	43・44	40			Pit974	4J-4F13	縄文晩期	内柱穴	N-67° -E	0.22	(0.20)	0.11	0.10	0.21	2.74	円形	U字状	1	単層				
16	43・44	39・40			Pit978	4J-4F8	縄文晩期	内柱穴	N-23° -E	(0.49)	(0.41)	—	—	0.49	2.47	円形	階段状	3	レンズ状		土器(p75)	204	
16	43・44	40			Pit992	4J-4F13	縄文晩期	内柱穴	N-19° -W	(0.15)	(0.14)	(0.06)	(0.05)	0.25	2.65	円形	V字状	1	単層				
16	43・44	37・40			Pit993	4J-4F8・9	縄文晩期		N-40° -W	(0.46)	(0.45)	(0.30)	(0.27)	0.43	2.55	円形	U字状	3	レンズ状		土器片3点、アスファルト塊2点		
16	43・44	39			Pit994	4J-4F9	縄文晩期	内柱穴	N-17° -E	(0.19)	(0.17)	(0.09)	(0.08)	0.32	2.59	円形	U字状	2	レンズ状				
16	43・44	40			Pit995	4J-4F14	縄文晩期	内柱穴	N-19° -E	(0.17)	0.16	(0.07)	(0.07)	0.58	2.32	円形	U字状	1	単層				
16	43・44				SK972	4J-4F14	縄文晩期		N-6° -W	(0.43)	(0.33)	0.33	(0.26)	0.06	2.90	楕円形	弧状	1	単層				

掘立柱建物(SB)

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構	グリッド	時 代	分類	確認面	桁行	柱穴間	梁間	柱穴間	主軸長	柱穴間	突出部	主軸方位	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
11・12	45	7・ 41・42	47	SB1	3J-6I1・2・6・7・11・12	縄文晩期	A	V c	2.59	Pit175・286	2.69	Pit301・175	3.32	Pit283・300	北に0.40 南に0.25	N-3° -E	—			
									2.60	Pit301・284	2.65	Pit284・286								
11・13	46	7・43	47	SB2	3J-6H16・21・22,7H1・2	縄文晩期	B	V c	2.60	Pit287・464	(2.67)	Pit287・推定	3.24	Pit289・462	—	N-2° -E	—			
									(2.60)	推定・推定	(2.51)	Pit464・推定								
12・14	47	7・44	47・48	SB3	3J-7I23~25, 7J3~5,8~10	縄文晩期	A	V c	2.65	Pit429・435	2.57	Pit416・429	3.31	Pit430・432	北に0.35 南に0.25	N-2° -E	=SX163			
									(2.23)	Pit448・推定	2.55	Pit468・448								
14	48・49	7・ 45・46	48	SB4	3J-8H7・8・12・13	縄文晩期	A	V c	(2.43)	Pit468・推定	2.52	推定・推定	3.03	Pit458・473	北に0.33 南に0.30	N-4° -W	=SB5・6,SX331~ 333	礫1点		
									(2.71)	推定・Pit892	(2.39)	推定・推定								
14	48・49	7・ 45~47	48	SB5	3J-8H7・8・12・13・ 17・18	縄文晩期	A	V c	(2.71)	推定・推定	(2.39)	推定・Pit892	3.06	Pit893・364	北に0.18 南に0.16	N-2° -W	>SX320 =SB4・ 6,SX331~333			
									(2.71)	推定・推定	(2.39)	推定・Pit892								
14	48・49	7・45・ 47・48	48	SB6	3J-8H12・13・17・ 18・23	縄文晩期	B	V c	2.74	Pit474・476	2.25	Pit479・474	2.86	Pit472・539	北に0.13 —	N-9° -E	=SB4・5,SX320	土器(p79)、土器片1点、ア スファルト塊1点	204	
									2.63	Pit479・540	2.18	Pit540・476								
14	50	7・49	48・49	SB7	3J-8H9・10・14・15	縄文晩期	A	V c	2.54	Pit456・420	2.46	Pit449・456	2.86	Pit419・447	北に0.33 南に0.11	N-10° -E	=SX369 <SK249	土器片1点		
									2.27	Pit449・471	2.32	Pit471・420								

掘立柱建物柱穴(Pit)

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構	グリッド	時 代	確認面	主軸方向	柱痕跡規模 (m)				底面標高 (m)	形 態		種 別	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
								上 端		下 端			深 度	平 面						断 面
								長軸	短軸	長軸	短軸									
12	45	42	SB1	Pit175	3J-6I2	縄文晩期	V c	N-29° -W	(0.19)	(0.17)	(0.14)	(0.12)	0.52	2.35	円	U字状	側柱			
11・12	45	41		Pit283	3J-6I2	縄文晩期	V d	N-31° -W	(0.25)	(0.24)	(0.10)	(0.09)	0.48	2.27	円	U字状	主軸柱			
11・12	45	42		Pit284	3J-6I11	縄文晩期	V d	N-39° -E	(0.27)	0.20	(0.09)	(0.09)	0.46	2.28	円	U字状	側柱			
12	45	42		Pit286	3J-6I12	縄文晩期	V d	N-32° -W	(0.26)	(0.25)	(0.10)	(0.08)	0.45	2.27	円	U字状	側柱			
12	45	41		Pit300	3J-6I11・12	縄文晩期	VI	N-66° -E	(0.18)	(0.17)	0.09	(0.08)	0.24	2.23	円	U字状	主軸柱			
11	45	41・42	SB2	Pit301	3J-6I1	縄文晩期	暗渠内	N-2° -W	(0.26)	(0.23)	0.08	(0.07)	0.29	2.33	円	U字状	側柱			
11	46	43		Pit287	3J-6H21	縄文晩期	V c	N-88° -W	(0.25)	0.22	(0.10)	(0.08)	0.35	2.49	円	U字状	側柱			
11	46	43		Pit289	3J-6H16	縄文晩期	V c	N-20° -E	(0.22)	(0.20)	(0.13)	(0.12)	0.21	2.61	円	U字状	主軸柱			
11	46	43		Pit462	3J-7H1	縄文晩期	V c	N-65° -W	(0.23)	(0.20)	(0.13)	0.10	0.28	2.54	円	U字状	主軸柱			
11・13	46	43		Pit464	3J-7G5,7H1	縄文晩期	V c	N-71° -E	(0.24)	0.19	(0.06)	(0.05)	0.45	2.37	円	U字状	側柱			
12	47	44	SB3	Pit416	3J-7I23	縄文晩期	V c	N-1° -E	(0.26)	0.20	(0.12)	(0.10)	0.58	2.07	円	U字状	側柱			
12	47	44		Pit429	3J-7I25	縄文晩期	V d	N-75° -W	(0.27)	(0.22)	(0.12)	(0.11)	0.47	2.02	円	U字状	側柱			
12	47	44		Pit430	3J-7I24	縄文晩期	V c	N-3° -W	(0.24)	(0.20)	(0.12)	0.08	0.29	2.41	円	U字状	主軸柱			
14	47	44		Pit431	3J-8I8	縄文晩期	V d	N-27° -E	0.16	(0.15)	(0.10)	(0.08)	0.43	2.13	円	U字状	側柱			
14	47	44		Pit432	3J-8I9	縄文晩期	V c	N-43° -E	(0.30)	(0.26)	(0.17)	(0.14)	0.60	2.18	円	U字状	主軸柱			
12・14	47	44	SB4	Pit435	3J-8I9・10	縄文晩期	V c	N-22° -W	(0.39)	(0.29)	(0.15)	(0.14)	0.56	2.02	円	U字状	側柱			
14	48・49	45・46		Pit448	3J-8H8	縄文晩期	V c	N-83° -W	(0.36)	(0.31)	(0.13)	(0.12)	0.68	2.15	円	U字状	側柱		礫1点	
14	48・49	45		Pit458	3J-8H7・8	縄文晩期	V c	N-6° -E	(0.20)	(0.19)	(0.09)	(0.09)	0.48	2.32	円	U字状	主軸柱			
14	48・49	45		Pit468	3J-8H7	縄文晩期	V d	N-18° -W	(0.17)	(0.14)	0.08	(0.06)	0.18	2.23	円	U字状	側柱			
14	48・49	46		Pit473	3J-8H12・13	縄文晩期	V d	N-17° -W	(0.35)	(0.34)	(0.10)	0.08	0.40	2.35	円	V字状	主軸柱			
14	48・49	46	SB5	Pit364	3J-8H17	縄文晩期	V c	N-83° -W	(0.38)	(0.27)	(0.17)	(0.16)	0.21	2.78	円	階段状	主軸柱		>SX320	
14	48・49	46・47		Pit892	3J-8H13・18	縄文晩期	VI	N-48° -W	(0.18)	(0.17)	(0.08)	0.07	0.14	2.24	円	U字状	側柱			
14	48・49	46		Pit893	3J-8H7	縄文晩期	VI	N-18° -E	(0.21)	(0.19)	(0.14)	(0.12)	0.05	2.23	円	U字状	主軸柱			
14	48・49	47		Pit472	3J-8H12	縄文晩期	V c	N-2° -E	(0.27)	(0.23)	(0.12)	(0.11)	0.56	2.24	円	U字状	主軸柱		土器片1点	
14	48・49	48		Pit474	3J-8H13	縄文晩期	V c	N-35° -W	(0.24)	(0.18)	(0.08)	(0.07)	0.40	2.28	円	U字状	側柱			
14	48・49	48	SB6	Pit476	3J-8H17・18・22・23	縄文晩期	V c	N-77° -E	(0.35)	(0.31)	0.06	0.05	0.53	2.24	円	V字状	側柱			
14	48・49	47		Pit479	3J-8H12	縄文晩期	V c	N-66° -E	(0.29)	(0.25)	0.09	(0.08)	0.44	2.36	円	U字状	側柱		土器(p79)、アスファルト塊1点	204
14	48・49	48		Pit539	3J-8H17・22	縄文晩期	V c	N-38° -E	(0.26)	(0.24)	0.07	0.06	0.40	2.38	円	U字状	主軸柱			
14	48・49	48	SB7	Pit540	3J-8H16・17	縄文晩期	V d	N-89° -E	(0.12)	(0.11)	(0.04)	(0.04)	0.09	2.35	円	U字状	側柱			
14	50	49		Pit419	3J-8H10	縄文晩期	V c	N-43° -W	(0.39)	(0.34)	(0.14)	(0.13)	0.66	2.11	円	U字状	主軸柱			
14	50	49		Pit420	3J-8H15	縄文晩期	V c	N-27° -W	(0.37)	0.35	(0.17)	(0.16)	0.48	2.26	円	U字状	側柱			
14	50	49		Pit447	3J-8H14・15	縄文晩期	V c	N-34° -W	(0.30)	(0.27)	(0.12)	0.08	0.43	2.31	円	U字状	主軸柱		<SK249	
14	50	49		Pit449	3J-8H9	縄文晩期	V c	N-15° -W	(0.27)	(0.24)	(0.15)	(0.14)	0.64	2.11	円	U字状	側柱			
14	50	49		Pit456	3J-8H10	縄文晩期	V c	N-5° -E	(0.26)	(0.24)	(0.19)	0.17	0.14	2.25	円	U字状	側柱		土器片1点	
14	50	49		Pit471	3J-8H14	縄文晩期	V c	N-72° -W	(0.39)	(0.32)	(0.22)	(0.17)	0.57	2.23	円	U字状	側柱			

土坑(SK)

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時 代	分類	確認面	主軸方向	規 模 (m)					底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
											上 端		下 端		深度		平 面	断 面						
											長軸	短軸	長軸	短軸										
11	51		49	SK	19	3J-3H3・4・8・9	縄文晩期		Vc	N-65°-E	0.87	0.73	0.72	0.53	0.10	2.81	不整楕円形	弧状	1	単層		土器小片2点		
9	51		49	SK	20	3J-2H15・20	縄文晩期		Vc	N-88°-W	0.93	0.74	0.79	0.60	0.05	2.82	楕円形	弧状	1	単層		土器小片1点		
10・12	51	50	49	SK	27	3J-4J15・20, 3K-4A11・16	縄文晩期	B1	Vc	N-26°-E	(0.72)	(0.57)	(0.39)	(0.35)	0.20	2.58	円形	台形状	1	単層		石皿・台石類(s50)	237	
12	51	50	49	SK	28	3J-4J15	縄文晩期	B1	Vc	N-31°-W	0.55	0.52	0.29	0.23	0.18	2.56	円形	半円状	1	単層		石皿・台石類(s52)	238	
11	51		49	SK	29	3J-3H2	縄文晩期		Vc	N-77°-E	(0.63)	0.50	(0.54)	0.40	0.13	2.78	楕円形	弧状	1	単層				
11	51		49	SK	30	3J-3I16・21	縄文晩期		Vc	N-31°-E	2.06	0.90	1.82	0.74	0.20	2.67	不整楕円形	弧状	2	レンズ状				
11	51		49	SK	31	3J-3H22	縄文晩期		Vc	N-31°-W	0.87	(0.68)	0.77	(0.58)	0.12	2.78	不整楕円形	弧状	1	単層				
9	51	50	49	SK	38	3J-1I24・25	縄文晩期	B1	Vc	N-19°-E	0.56	0.40	0.40	0.32	0.08	2.82	楕円形	弧状	1	単層		石皿・台石類(s51)	238	
9	51		49	SK	42	3J-3J12	縄文晩期		Vc	N-19°-W	1.24	0.91	1.15	0.76	0.12	2.64	楕円形	弧状	1	単層		土器(p80)	205	
13	51		50	SK	54	3J-6F12・17	縄文晩期	A5	Vb	N-11°-E	0.73	0.67	0.59	0.52	0.10	2.90	円形	弧状	2	レンズ状	>SK55・64・ 307・308	土器(p81)、土器片4点	205	
13	51		50	SK	55	3J-6F12・17	縄文晩期		Vb	N-9°-E	0.82	—	0.7	—	0.11	2.90	楕円形	弧状	2	レンズ状	<SK54>SK307	土器(p85)、土器片1点	205	
13	52		50	SK	57	3J-6F21	縄文晩期		Vb	N-32°-E	0.70	(0.57)	(0.58)	(0.46)	0.17	2.83	楕円形	箱状	1	単層	>SK58	土器(p87)、碎片1点	205	
13	52		50	SK	58	3J-6F17・21・22	縄文晩期	A5	Vb	N-76°-E	(2.08)	(1.38)	(2.04)	(1.28)	0.16	2.87	方形	弧状	1	単層	>SK60・63,Pit305 <SK57	土器(p88~92)、土器片4点、 不定形石器(s53)、破砕礫1点	205・238	
13	52		50	SK	60	3J-6F21・22	縄文晩期	A5	Vb	N-78°-E	1.46	—	1.22	—	0.17	2.87	楕円形	弧状	2	レンズ状	>SK61 <SK58	土器(p93)、土器片2点、破砕 礫1点	205	
13	52		51	SK	61	3J-6F22・23	縄文晩期	A5	Vb	—	—	—	—	—	0.20	2.84	円・楕円	弧状	2	レンズ状	>SK63 <SK60	土器(p93)、土器片6点、破砕 礫2点	205	
13	52		50	SK	63	3J-6F22・23	縄文晩期	A5	Vb	N-81°-E	1.32	1.04	1.14	0.89	0.15	2.86	楕円形	弧状	1	単層	<SK58・61 =SK67	土器(p93・94・96)、土器片3 点、破砕礫2点	205	
13	52		50	SK	64	3J-6F17・18	縄文晩期	A5	Vb	—	—	1.38	—	1.32	0.18	2.82	不整楕円形	弧状	1	単層	>Pit304 <SK54	土器(p86)、土器片1点、破砕 礫1点	205	
13	52		51	SK	67	3J-6F23	縄文晩期		Vb	N-50°-W	0.60	—	0.47	(0.32)	0.18	2.84	楕円形	半円状	1	単層	=SK63	土器片1点、破砕礫1点		
13	52		51	SK	69	3J-6F23	縄文晩期		Vb	N-79°-E	1.25	0.92	1.04	0.67	0.10	2.85	楕円形	弧状	1	単層	>SK71	土器片4点、破砕礫1点		
13	52		51	SK	71	3J-6F23	縄文晩期		Vb	N-68°-E	0.58	—	(0.47)	0.44	0.13	2.87	円形	台形状	1	単層	<SK69			
13	52		51	SK	74	3J-6F25	縄文晩期		Vc	N-29°-E	0.48	—	0.35	—	0.09	2.89	円形	弧状	1	単層	>SK75	土器小片2点		
13	52		51	SK	75	3J-6F24・25	縄文晩期		Vc	N-70°-E	0.43	—	0.28	(0.28)	0.11	2.85	円形	半円状	1	単層	<SK74	土器小片2点、被熱礫1点		
11	51	49・50	57	SK	76	3J-5G7・8	縄文晩期		Vc	N-89°-W	1.02	(0.80)	(0.88)	(0.70)	0.14	2.73	楕円形	弧状	1	単層				
14	57		57	SK	79	3J-7H25	縄文晩期		Vb	N-52°-W	0.92	—	0.24	(0.18)	0.25	2.70	隅丸方形	弧状	3	レンズ状				
12	57		57	SK	80	3J-7I2・7	縄文晩期		Vc	N-31°-W	1.28	0.80	1.01	0.59	0.12	2.80	長楕円形	弧状	1	単層	>Pit437			
14	57		57	SK	82	3J-7H25,7I21	縄文晩期		Vb	N-75°-W	(0.46)	0.22	(0.39)	0.24	0.15	2.80	楕円形	半円状	3	レンズ状	>Pit84			
14	57		57	SK	83	3J-7H25,7I21	縄文晩期		Vb	N-86°-E	(0.48)	0.45	(0.38)	(0.34)	0.08	2.81	円形	半円状	1	単層	>SK85			
14	57		57	SK	85	3J-7H25,7I21	縄文晩期		Vb	N-70°-E	(1.14)	—	(1.00)	—	0.19	2.77	長楕円形	半円状	3	レンズ状	<SK83・197・ Pit84	土器小片1点		
12	57	76	57	SK	87	3J-7H9・10	縄文晩期		Vc	N-33°-W	0.89	(0.63)	(0.44)	(0.42)	0.23	2.67	不整形	階段状	4	ブロック状	<SX86			
13	56	54	56	SK	89	3J-7G7	縄文晩期	A3	Vb	N-65°-E	0.72	0.68	0.60	0.58	0.07	3.05	円形	弧状	1	単層		土器(p120)、礫1点	207	
11	51		50	SK	90	3J-5H24・25,6H4・5	縄文晩期		Vc	N-80°-W	1.27	(1.00)	1.00	(0.83)	0.24	2.58	楕円形	弧状	2	レンズ状				
11	53		51	SK	93	3J-6H13・18	縄文晩期		Vc	N-56°-E	1.00	0.95	0.80	0.79	0.28	2.63	隅丸方形	半円状	3	レンズ状		土器小片1点、赤色顔料ブロッ ク1点		
11	53		51・52	SK	94	3J-6H18・19・23・24	縄文晩期		Vc	N-86°-W	0.86	—	0.69	—	0.17	2.77	楕円形	弧状	2	レンズ状	>SK95・100	土器(p98)	206	
11	53		52	SK	95	3J-6H19・24	縄文晩期	A5	Vc	N-56°-W	(0.75)	0.62	0.53	0.44	0.06	2.86	円形	弧状	1	単層	>SK100 <SK94	土器(p99・307)、土器片3点、 破砕礫1点	206・219	
11	53		52	SK	100	3J-6H18・19	縄文晩期		Vc	N-70°-E	1.02	—	0.86	—	0.11	2.82	楕円形	弧状	2	レンズ状	>Pit303 <SK94・95	土器(p307)	219	
11	53		52	SK	101	3J-6H19・24	縄文晩期		Vc	N-36°-W	(0.54)	(0.48)	(0.35)	(0.31)	0.12	2.77	円・楕円	台形状	1	単層				
11	53		52	SK	102	3J-6H19・20	縄文晩期		Vc	—	—	—	—	—	0.07	2.85	円・楕円	弧状	1	単層		土器(p2)	201	
11	53		51	SK	104	3J-6H19	縄文晩期		Vc	N-2°-W	0.90	0.62	0.73	0.49	0.26	2.64	楕円形	台形状	2	レンズ状				
12	54		53	SK	121	3J-6I25,6J21	縄文晩期		Vc	N-17°-E	1.08	—	0.87	—	0.23	2.56	長楕円形	半円状	3	レンズ状	>SK125	土器(p2)	201	
12	54		53	SK	125	3J-6I25,6J21,7J1	縄文晩期	A5	Vc	N-60°-W	(1.50)	1.10	1.29	0.97	0.11	2.70	楕円形	弧状	1	単層	<SK121	土器(p103)	206	

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時 代	分類	確認面	主軸方向	規 模 (m)				底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
											上 端		下 端			深度	平 面							断 面
											長軸	短軸	長軸	短軸										
12	54		53	SK	126	3J-6J22	縄文晩期	B3b	Vc	N-0°	0.58	0.39	0.43	(0.28)	0.07	2.63	楕円形	弧状	1	単層	>SK135	敲石(s61)、土器小片1点	240	
12	54		53	SK	134	3J-6J21	縄文晩期	A5	Vc	N-66°-E	1.05	0.90	0.73	0.64	0.18	2.64	円形	弧状	1	単層		土器(p104)、土器小片3点、破砕礫3点	206	
12	54		53	SK	135	3J-6J17・18・22・23	縄文晩期	A5	Vc	N-47°-E	1.12	1.00	0.94	0.73	0.22	2.57	楕円形	半円状	2	レンズ状	<SK126	土器(p105)、土器小片4点	206	
14	60		61	SK	140	3J-8I12	縄文晩期	B3b	Vc	N-61°-W	(1.35)	1.07	0.68	0.57	0.35	2.60	楕円形	階段状	2	レンズ状	>SK141・312 =SI152	土器(p15・151)、 磨石類(s91)	201・209 ・246	
14	60		61	SK	141	3J-8I12・13	縄文晩期		Vc	N-72°-E	0.95	0.50	0.64	(0.36)	0.14	3.00	長楕円形	半円状	1	単層	<SK140-SI152	土器(p110)	207	
14	60		62	SK	142	3J-8I11・12・16・17	縄文晩期		Vb	N-81°-E	1.20	0.98	1.04	0.78	0.19	2.76	円形	弧状	2	レンズ状	>SK261	土器小片2点、破砕礫2点		
14	60		61	SK	144	3J-8I11・16	縄文晩期		Vc	N-28°-E	(1.17)	0.68	(1.04)	0.51	0.14	3.01	長楕円形	弧状	1	単層	>SK145=SI152	土器(p279)、破砕礫1点	217	
14	60		61	SK	145	3J-8H15,8I11	縄文晩期		Vc	N-14°-W	(0.78)	—	0.63	—	0.19	2.76	円形	弧状	2	レンズ状	<SK144	土器(p279)	217	
14	60		62	SK	146	3J-8I17	縄文晩期		Vb	N-78°-W	0.97	0.80	0.78	0.37	0.10	2.81	楕円形	弧状	1	単層	>Pit258・259	土器片1点		
14	60		62	SK	151	3J-8I12・13・17・18	縄文晩期	B3b	Vb	N-79°-E	1.17	1.09	0.96	0.90	0.16	2.77	円形	弧状	1	単層		敲石(s90)、土器小片1点	246	
14	63	60	66	SK	154	3J-9I2・3	縄文晩期	A3	Vb2	N-53°-E	1.32	0.78	1.19	(0.75)	0.12	2.80	長楕円形	弧状	1	単層		土器(p166・170・171)	209・210	
14	60		62	SK	158	3J-8I17・18・22・23	縄文晩期		Vc	N-23°-W	0.93	0.87	0.80	0.73	0.16	2.78	楕円形	弧状	1	単層	>SK171	土器(p155)、土器小片1点	209	
14	60		62	SK	160	3J-8I16	縄文晩期	A5	Vb2	N-67°-E	1.12	0.83	0.96	0.58	0.15	2.76	楕円形	弧状	1	単層	>Pit262	土器(p153・154)、破砕礫2点	209	
14	60		62	SK	161	3J-8I16	縄文晩期		Vb2	N-54°-W	(0.43)	0.34	(0.32)	0.23	0.11	2.82	楕円形	半円状	1	単層				
14	60		62	SK	171	3J-8I22	縄文晩期		Vc	N-16°-E	(0.76)	0.64	(0.63)	0.52	0.16	2.78	円形	半円状	1	単層	<SK158	土器(p291)	218	
12	53		52	SK	177	3J-6I20・25	縄文晩期	A5	Vc	N-58°-E	1.29	0.96	1.12	0.76	0.17	2.65	隅丸長方形	弧状	1	単層		土器(p2)、破砕礫1点	201	
12	53		52	SK	178	3J-6I19・20・24	縄文晩期	A3	Vc	N-7°-E	1.35	(0.70)	1.20	(0.66)	0.10	2.77	楕円形	弧状	2	レンズ状		土器(p100・101)	206	
12	53		52	SK	179	3J-6I20	縄文晩期		Vc	N-49°-E	(0.70)	(0.66)	(0.52)	(0.41)	0.06	2.75	円形	弧状	1	単層		土器(p102)	206	
12	53		52	SK	182	3J-6I25	縄文晩期		Vc	N-82°-E	0.88	(0.60)	0.69	0.42	0.08	2.75	楕円形	弧状	1	単層		土器(p100)	206	
12	53		53	SK	183	3J-6I24・25	縄文晩期	A5	Vc	N-53°-E	1.37	1.11	1.17	(0.92)	0.07	2.76	楕円形	弧状	1	単層		土器(p100・102)	206	
12	53		52	SK	189	3J-6I15・20	縄文晩期		Vc	N-7°-W	0.47	—	0.32	—	0.12	2.69	円・楕円	半円状	1	単層				
12	53	51	52	SK	190	3J-6I18	縄文晩期	B1	Vc	N-54°-W	0.28	(0.25)	(0.21)	(0.18)	0.07	2.68	円形	弧状	1	単層	=SI164	磨石類(風化)1点		
12	57	56	57	SK	196	3J-7I6	縄文晩期	B3b	Vc	N-59°-E	1.38	1.29	1.16	1.08	0.27	2.67	隅丸長方形	台形状	4	斜位		石皿・台石類(s79)	244	
14	57		57	SK	197	3J-7I21	縄文晩期		Vb	N-89°-W	0.91	0.74	0.75	0.66	0.11	2.82	楕円形	弧状	2	レンズ状	>SK85,Pit84 =SI152	土器(p126)、土器片1点	208	
13	56	54	55	SK	200	3J-7G1・6	縄文晩期		Vb	N-11°-W	0.56	0.49	0.45	0.38	0.05	3.03	円形	弧状	1	単層		土器(p119)	207	
13	56	55	56・57	SK	201	3J-7G24,8G4	縄文晩期	A4	Vb	—	—	—	—	—	0.10	3.00	—	弧状	1	単層		土器(p125)	208	
13	55		55	SK	202	3J-7F20	縄文晩期		Vb	N-60°-W	(0.76)	—	(0.61)	—	0.15	2.87	—	弧状	1	単層	>Pit426 =SD338	土器小片3点		
12	53	51	52・53	SK	206	3J-6I24	縄文晩期	B1	Vc	N-79°-E	(0.47)	0.32	0.28	0.20	0.16	2.63	楕円形	半円状	3	レンズ状		磨石類(s54~59)、石皿・台石類(s60)	238・239	
13	56		56	SK	207	3J-7G18	縄文晩期		Vb	N-55°-W	1.07	0.58	0.90	0.44	0.15	2.90	長楕円形	弧状	4	レンズ状	>SX203	土器小片2点		
13	54	52	54	SK	208	3J-7F4・5	縄文晩期	A3	Vc	N-41°-E	1.50	(0.82)	1.29	(0.76)	0.13	2.93	楕円形	弧状	1	単層		土器(p108)、敲石(s66)	206・242	
13	56		56	SK	211	3J-7G11・12	縄文晩期	D3	Vc	N-59°-E	0.98	0.84	0.85	(0.69)	0.13	2.87	楕円形	弧状	1	単層	>SK216	破砕礫1点、アスファルト塊2点		
13	56	55	56	SK	212	3J-7G12	縄文晩期	B1	Vc	N-76°-W	0.49	(0.47)	0.38	0.32	0.20	2.80	円形	半円状	1	単層		磨石類(s74・75)、 石皿・台石類(s76)	243	
13	56		56	SK	215	3J-7G18・19	縄文晩期		Vb	N-35°-W	(1.14)	(0.88)	(1.08)	(0.82)	0.11	2.81	楕円形	弧状	2	レンズ状	<Pit214	土器小片4点		
13	56	54・55	56	SK	216	3J-7G11	縄文晩期	A1a	Vc	—	—	0.65	—	0.49	0.10	2.86	円形	弧状	1	単層	<SK211	土器(p108)、磨石類(s73)	206・243	
13	54		54	SK	218	3J-7F3	縄文晩期		Vb	—	—	—	—	—	0.16	2.85	—	弧状	1	単層	>SX256			
13	55	53	54	SK	219	3J-7F7	縄文晩期	A5	Vb	N-41°-E	(0.73)	(0.63)	(0.60)	(0.47)	0.14	2.98	円形	台形状	2	水平		土器片10点		
13	54		53	SK	222	3J-7F1・2	縄文晩期		Vb	N-75°-W	1.10	—	0.90	—	0.18	2.82	—	弧状	1	単層	>SK239	土器(p93)	205	
13	58		59	SK	224	3J-8G3・4	縄文晩期		Vb	N-44°-W	(0.88)	(0.62)	(0.80)	(0.56)	0.05	2.83	楕円形	弧状	1	単層		土器(p125)	208	
13	55	53	54	SK	226	3J-7F14	縄文晩期	A5	Vc	N-39°-W	1.33	1.18	1.20	1.07	0.08	2.92	不整円形	弧状	2	レンズ状	<Pit225	土器(p110)、破砕礫1点	207	
13	54		54	SK	231	3J-7F2・3・7・8	縄文晩期		Vb2	N-42°-E	0.95	0.90	0.73	(0.61)	0.12	2.88	隅丸長方形	弧状	1	単層	<Pit232	土器(p107)	206	
13	52	50・51	51	SK	235	3J-6G16・17・22	縄文晩期	A3	Vb	N-44°-W	1.53	(1.40)	1.25	1.14	0.42	2.59	隅丸長方形	階段状	4	レンズ状	>SK236,Pit255	土器(p97)	205	
13	52		51	SK	236	3J-6G16	縄文晩期		Vb	N-3°-E	1.02	—	0.80	—	0.14	2.85	楕円形	弧状	2	レンズ状	<SK235			
13	54		54	SK	239	3J-7F2	縄文晩期		Vb	N-89°-W	(0.75)	0.72	(0.60)	(0.57)	0.13	2.86	円形	弧状	1	単層	<SK222	土器(p93・95)、土器片4点	205	
13	56		56	SK	245	3J-7G20・25	縄文晩期	A5	Vb	N-54°-E	(1.18)	0.79	(1.06)	0.67	0.11	2.87	楕円形	弧状	1	単層		土器(p121~123・125)	207・208	
13	55		54	SK	246	3J-7F9・14	縄文晩期	B3a	Vb	—	—	(0.51)	—	(0.38)	0.18	2.77	円形	箱状	2	レンズ状	<SX209	土器(p125)、石鏃未成品(s70)、不定形石器(s71)	208・242	
13	55		54	SK	247	3J-7F13・14	縄文晩期		Vb	—	—	0.40	—	0.30	0.06	2.95	楕円形	弧状	1	単層		土器小片3点		
13	56	55	56	SK	248	3J-7G20	縄文晩期	A5	Vb	N-43°-W	1.40	(1.09)	1.23	0.98	0.13	2.88	隅丸長方形	弧状	1	単層		土器(p111)、土器小片1点、敲石(s77)、礫1点	207・244	

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時 代	分類	確認面	主軸方向	規 模 (m)				底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
											上 端		下 端			深度	平 面							断 面
											長軸	短軸	長軸	短軸										
14	59	57	60	SK	249	3J-8H9・10・14・15	縄文晩期	C	V b	N-18°-E	2.31	(1.90)	2.08	(1.69)	0.12	2.85	不整形	弧状	1	単層	>Pit420 (SB7)・447 (SB7).SX369	土器(p138~143)、土器片 20点、磨石類(s86・87)、石皿・ 台石類(s88・89)、礫2点	208・ 245・246	
14	59	57	60	SK	252	3J-8H6・11	縄文晩期	A1b	V c	N-26°-W	(0.66)	—	0.46	—	0.22	2.52	楕円形	半円状	4	レンズ状		土器(p144・145・292)	209・218	
13	55	53	54	SK	257	3J-7F7・8	縄文晩期	B3a	V b	N-46°-W	0.79	0.65	0.60	0.53	0.10	2.87	楕円形	弧状	1	単層	<SX244	土器(p109)、石鏃(s67)、磨石 類(s68)、小礫4点	207・242	
14	60	61・62	61	SK	261	3J-8I11・12・17	縄文晩期		V c	N-68°-W	0.98	(0.64)	0.86	0.46	0.24	2.57	長楕円形	半円状	2	レンズ状	<SK142 =SI152	土器(p152)	209	
14	59	61	61	SK	263	3J-8I6	縄文晩期		V c	N-53°-W	0.64	0.57	0.47	0.45	0.29	2.50	円形	半円状	2	レンズ状	=SI152			
14	60	61	61	SK	264	3J-8I6・11・12	縄文晩期		V c	N-86°-W	0.86	0.71	0.71	0.52	0.27	2.51	楕円形	半円状	2	レンズ状	>SK311 =SI152	土器(p279)	217	
14	60	62	62	SK	267	3J-8I16	縄文晩期		V c	N-43°-E	(0.73)	0.68	(0.62)	0.57	0.13	2.66	円形	弧状	1	単層				
12・14	59	61	61	SK	268	3J-8I4・9	縄文晩期		V c	N-23°-E	0.44	0.36	0.34	0.21	0.06	2.65	楕円形	弧状	1	単層	=SB3			
14	59	60・61	61	SK	271	3J-8I1・2	縄文晩期		V c	N-80°-W	0.61	0.37	0.36	0.16	0.22	2.49	不整形楕円形	半円状	1	単層	=SI152			
13	55	55	55	SK	276	3J-7F24	縄文晩期		V b	N-10°-E	0.91	0.70	0.64	0.54	0.19	2.90	楕円形	弧状	2	レンズ状	>SD338	土器片1点、小礫5点		
13	55	54・55	55	SK	277	3J-7F19	縄文晩期	B3b	V b	N-90°	0.81	0.72	0.66	0.58	0.19	2.88	円形	弧状	2	水平	>Pit492,SD338	土器(p112)、磨石類(s69)、破 砕礫8点	207・242	
13	55	54	55	SK	278	3J-7F23・24	縄文晩期	A5	V b	N-18°-W	0.88	0.58	0.66	0.43	0.20	2.87	長楕円形	弧状	2	レンズ状	>Pit488,SD338	土器(p113・114)、石皿・台石 類(s72)、破砕礫3点	207・243	
13	55	53	55	SK	279	3J-7F19	縄文晩期	A5	V b	N-33°-W	0.91	0.89	0.82	0.77	0.23	2.86	円形	半円状	2	レンズ状	>SD338 <Pit280	土器(p110・314)、小礫6点 (うち2点被熱)	207・219	
13	61	64	64	SK	281	3J-9F9・14	縄文晩期		V b2	N-6°-E	0.58	0.52	0.38	0.37	0.16	2.87	円形	半円状	1	単層		土器(p160)	209	
13	62	64	64	SK	285	3J-9F9・10・15	縄文晩期		V b2	N-26°-W	(0.50)	—	0.43	—	0.08	2.98	円形	弧状	1	単層	>SK352			
13	57	58	58	SK	290	3J-8F4	縄文晩期		V b2	N-18°-E	0.48	0.43	0.34	0.26	0.22	2.89	円形	台形状	1	単層		土器小片5点		
14	63	65	65	SK	292	3J-9H6	縄文晩期		V b2	N-79°-E	0.66	0.50	0.35	0.30	0.14	2.94	楕円形	弧状	1	単層		土器(p165)	209	
13	58	58・59	58	SK	293	3J-7G22,8G2	縄文晩期		V b	N-4°-W	1.08	0.80	0.98	0.69	0.11	2.98	楕円形	弧状	1	単層		土器(p125)、小礫1点	208	
14	62	65	65	SK	297	3J-9H1・6	縄文晩期		V b2	N-34°-E	1.00	0.76	(0.79)	0.60	0.32	2.78	楕円形	半円状	3	レンズ状		土器(p164)	209	
14	63	65・66	65	SK	298	3J-9H6・7	縄文晩期		V b2	N-71°-W	0.51	0.46	(0.32)	0.26	0.20	2.88	円形	半円状	1	単層				
14	62	65	65	SK	299	3J-9G21	縄文晩期		V b2	N-14°-W	0.74	0.67	0.56	0.53	0.19	2.86	円形	半円状	2	レンズ状		土器小片2点		
13	51	50	50	SK	307	3J-6F12	縄文晩期		V c	—	—	—	—	—	0.12	2.81	円・楕円	弧状	1	単層	>SK308 <SK54・55	土器(p82・314)、土器片1点	205・219	
13	51	50	50	SK	308	3J-6F12・13・17	縄文晩期	A5	V c	N-37°-W	(1.21)	(0.97)	(1.10)	(0.90)	0.13	2.79	楕円形	弧状	1	単層	<SK54・307	土器(p83・84)、土器片2点、 小礫1点	205	
14	60	61	61	SK	311	3J-8I11	縄文晩期		V c	N-67°-E	1.25	0.97	1.01	0.81	0.27	2.51	不整形楕円形	半円状	2	レンズ状	<SK264 =SI152	土器(p150)	209	
14	60	61	61	SK	312	3J-8I12	縄文晩期		V c	N-69°-W	(0.80)	(0.70)	(0.62)	(0.52)	0.20	2.56	不整形楕円形	半円状	1	単層	<SK140 =SI152	土器(p147)	209	
14	63	60	66	SK	313	3J-9I2	縄文晩期	A2	V c	N-41°-W	(0.27)	0.23	(0.19)	0.16	0.08	2.70	円形	半円状	1	単層		土器(p166)	209	
14	59	57	60	SK	316	3J-8H23・24	縄文晩期	A4	V b2	N-4°-E	0.58	0.53	0.45	0.41	0.04	2.82	円形	弧状	1	単層		土器(p147・148)	209	
14	59	60	60	SK	317	3J-8H19・20・25	縄文晩期		V c	N-36°-W	1.05	0.64	0.91	(0.44)	0.13	2.70	長楕円形	弧状	2	レンズ状	>SK318,Pit470・ 475			
14	59	60	60	SK	318	3J-8H20	縄文晩期		V c	—	—	0.88	—	0.75	0.18	2.66	楕円形	弧状	3	レンズ状	>SK319 <SK317	土器片1点、破砕礫1点		
14	59	60	60	SK	319	3J-8H15・20	縄文晩期		V c	—	(0.98)	—	0.84	—	0.08	2.75	楕円形	弧状	1	単層	<SK318	土器片1点		
14	62	59	64	SK	321	3J-9G3・8	縄文晩期	A4	V b2	N-6°-E	0.69	0.67	0.51	—	0.17	2.86	円形	弧状	2	レンズ状		土器(p162)	209	
14	62	65	65	SK	322	3J-9G20	縄文晩期		V b2	N-79°-W	0.87	0.75	0.49	0.46	0.18	2.83	円形	半円状	2	レンズ状		土器(p156)	209	
14	63	65	65	SK	324	3J-9H6	縄文晩期		V b2	N-2°-E	0.65	0.53	0.43	0.35	0.25	2.83	楕円形	半円状	2	レンズ状				
13	56	56	56	SK	326	3J-7F25,7G21	縄文晩期	A5	V c	N-25°-E	1.08	(0.93)	(0.94)	(0.55)	0.16	3.01	楕円形	弧状	3	レンズ状		土器(p314)	219	
13	58	58	58	SK	327	3J-8F7	縄文晩期		V b2	N-84°-W	0.88	0.78	0.73	0.64	0.15	2.92	楕円形	弧状	4	レンズ状		土器(p130)	208	
13	58	58	58	SK	328	3J-8F6・11	縄文晩期	A5	V b2	N-42°-W	1.33	1.06	1.03	0.78	0.24	2.96	不整形楕円形	半円状	5	レンズ状		土器(p129)、土器片7点	208	
14	63	66	66	SK	329	3J-9H11	縄文晩期		V b2	N-46°-W	0.45	0.44	0.34	0.33	0.12	2.95	円形	弧状	1	単層				
13	58	58	58	SK	330	3J-8F6	縄文晩期		V b2	N-20°-E	0.69	0.53	0.54	0.32	0.20	2.90	楕円形	半円状	2	レンズ状		土器(p128)	208	
14	59	60	60	SK	335	3J-8H19・24	縄文晩期		V b2	N-30°-W	0.72	0.55	(0.60)	(0.32)	0.11	2.83	楕円形	弧状	1	単層	>SK336			
14	59	60	60	SK	336	3J-8H19・24	縄文晩期		V b2	N-17°-W	1.22	—	1.05	—	0.07	2.88	長楕円形	弧状	1	単層	<SK335	土器小片1点		
14	58	59	59	SK	337	3J-8G15・20	縄文晩期	B3a	V c	N-90°	0.48	0.45	0.36	0.30	0.13	2.76	円形	半円状	1	単層		土器片1点、石鏃(s78)	244	
13	57	58	58	SK	339	3J-8F3	縄文晩期		V b2	N-10°-W	0.92	0.78	0.86	(0.62)	0.22	2.82	楕円形	箱状	2	レンズ状		土器(p127)、土器片2点、破砕 礫2点	208	
14	62	65	65	SK	341	3J-9G22	縄文晩期		V b2	N-21°-E	0.66	0.50	0.50	0.38	0.12	2.92	楕円形	弧状	1	単層		土器(p163)、土器片3点、小礫 1点	209	

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時 代	分類	確認面	主軸方向	規 模 (m)				底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
											上 端		下 端			深度	平 面							断 面
											長軸	短軸	長軸	短軸										
14	62		65	SK	342	3J-9G22	縄文晩期	Vb2	N-37°-E	0.60	0.39	0.41	(0.25)	0.16	2.91	長楕円形	半円状	1	単層		土器片3点			
14	63		66	SK	345	3J-9H18	縄文晩期	Vb2	N-46°-W	0.48	(0.29)	0.37	0.20	0.08	2.90	長楕円形	半円状	1	単層		土器片3点			
13	57		58	SK	346	3J-8F3・4	縄文晩期	Vb2	N-76°-E	0.95	0.73	0.73	0.55	0.11	2.99	楕円形	弧状	1	単層		土器(p116)	207		
14	63	59	66	SK	349	3J-9H16・17	縄文晩期	B3b	Vc	N-57°-E	0.73	(0.56)	0.52	(0.39)	0.15	2.82	楕円形	半円状	1	単層		磨石類(s95)	246	
13	55		54	SK	351	3J-7F11・12	縄文晩期	Vc	N-74°-W	0.59	0.51	0.36	0.23	0.12	2.86	円形	弧状	2	レンズ状	>SD338				
13	62		64	SK	352	3J-9F14・15	縄文晩期	Vb2	N-32°-W	0.57	(0.44)	0.41	0.37	0.15	2.90	楕円形	半円状	1	単層	<SK285				
13	62		64	SK	354	3J-9F25	縄文晩期	Vb2	N-80°-W	0.48	0.43	0.34	0.25	0.14	2.90	円形	半円状	1	単層		土器小片1点			
13	62		64	SK	355	3J-9F19	縄文晩期	Vb2	N-48°-W	0.59	0.55	0.46	0.42	0.10	2.93	円形	弧状	1	単層		土器(p161)	209		
14	62		65	SK	356	3J-9H4・5	縄文晩期	Vb2	N-55°-E	(0.89)	(0.55)	(0.43)	(0.27)	0.22	2.89	楕円形	弧状	2	レンズ状					
13	62		64	SK	358	3J-9F21	縄文晩期	Vb2	N-7°-W	0.70	0.54	0.49	0.42	0.18	2.78	楕円形	半円状	3	レンズ状		土器片2点			
13	62		64	SK	359	3J-9F19・24	縄文晩期	Vb2	N-49°-E	0.59	—	0.30	—	0.13	2.90	楕円形	半円状	1	単層					
14	59	57	60	SK	363	3J-8H24	縄文晩期	A3	Vc	N-51°-W	(0.27)	(0.26)	0.18	(0.15)	0.04	2.85	円形	半円状	1	単層		土器(p149)	209	
13	58		59	SK	365	3J-8G16	縄文晩期	A5	Vb2	N-17°-E	0.86	0.51	0.71	0.39	0.08	2.99	長楕円形	弧状	1	単層		土器(p135)、土器片3点	208	
14	58		59	SK	366	3J-8G15	縄文晩期	Vb2	N-90°	1.56	1.14	1.42	0.92	0.22	2.84	楕円形	弧状	3	レンズ状	>SK466				
13	58		58	SK	367	3J-8G1	縄文晩期	B1	Vb2	N-21°-E	(0.26)	0.21	(0.16)	(0.11)	0.10	2.99	円形	半円状	1	単層		敲石(s80)	244	
13	58	56	59	SK	368	3J-8G22	縄文晩期	B1	Vb2	N-40°-W	(0.29)	(0.26)	(0.20)	(0.16)	0.08	3.04	円形	半円状	1	単層		敲石(s84)	245	
13	61		63	SK	385	3J-9E8・9	縄文晩期	Vb2	N-10°-W	0.76	0.46	(0.60)	(0.40)	0.13	2.82	長楕円形	弧状	1	単層		土器(p17)	201		
13	61		63	SK	389	3J-9E12・17	縄文晩期	Vb2	—	—	0.78	—	0.51	0.12	2.81	—	半円状	3	レンズ状					
13-15	61		63	SK	391	3J-9E21	縄文晩期	Vb2	N-64°-E	0.51	0.48	0.40	0.37	0.14	2.75	円形	半円状	1	単層		土器片2点、礫1点			
13	55		55	SK	392	3J-7F25,8F5	縄文晩期	A5	Vc	N-26°-E	(0.60)	(0.56)	(0.46)	(0.42)	0.07	3.03	円形	弧状	2	レンズ状	<SK414	土器(p118・314)	207・219	
13	55		55	SK	394	3J-7F23,8F3	縄文晩期	A5	Vb2	—	—	0.53	—	0.43	0.16	3.00	楕円・長楕円	箱状	3	斜位		土器(p115・116)	207	
13	61		63	SK	398	3J-9E5,9F1	縄文晩期	Vc	—	—	(0.79)	0.87	0.67	0.29	2.60	楕円形	半円状	2	レンズ状	<SK674,Pit397				
13	58		58	SK	399	3J-8F9	縄文晩期	Vb2	N-71°-E	0.54	0.50	0.36	0.30	0.16	2.80	円形	半円状	1	単層					
13	55		55	SK	400	3J-7F23・24,8F3・4	縄文晩期	A5	Vb2	N-71°-W	0.75	—	0.54	—	0.22	2.92	円形	弧状	3	レンズ状	>Pit490	土器(p116)、土器片4点、小礫1点	207	
13	58		58	SK	402	3J-8F16	縄文晩期	Vc	N-7°-E	0.48	0.42	0.37	0.26	0.12	2.80	不整円形	弧状	1	単層					
13	58		58	SK	403	3J-8F21	縄文晩期	Vc	N-55°-W	0.72	0.50	(0.58)	0.40	0.23	2.65	楕円形	半円状	2	水平		土器(p131)	208		
13	61		63	SK	404	3J-9F4・5	縄文晩期	Vc	N-1°-W	0.76	0.68	0.66	0.56	0.17	2.74	円形	半円状	1	単層					
13	56		56	SK	405	3J-7G21・22,8G1・2	縄文晩期	Vb2	N-0°	(0.63)	0.61	0.51	0.50	0.14	2.96	円形	弧状	1	単層	>Pit569,SD192	土器(p124)	207		
13	58		58	SK	406	3J-8F12	縄文晩期	Vb2	N-38°-E	0.56	0.43	(0.41)	0.30	0.12	2.85	不整円形	弧状	1	単層					
14	61		62	SK	413	3J-8H25,8I21,9H5	縄文晩期	B3b	Vc	—	—	—	—	0.11	2.65	—	弧状	1	単層		磨石類(s92)	246		
13	55		55	SK	414	3J-7F24・25,8F4・5	縄文晩期	Vc	N-83°-W	0.64	(0.47)	0.52	(0.34)	0.23	2.85	楕円形	半円状	1	単層	>SK392	土器(p117)、土器片1点	207		
13	58	56	59	SK	440	3J-8G23	縄文晩期	B1	Vc	N-79°-W	(0.38)	0.30	0.28	0.22	0.06	2.94	円形	弧状	1	単層		磨石類(s82・83)	244・245	
14	59		60	SK	441	3J-8H21	縄文晩期	Vc	N-42°-E	0.76	0.62	0.70	0.45	0.12	2.68	楕円形	弧状	1	単層		土器(p146)	209		
13	56		55	SK	446	3J-7F25	縄文晩期	Vc	N-44°-E	0.54	0.49	0.39	0.35	0.14	2.83	円形	半円状	2	レンズ状	=SD338				
16	67	64	71	SK	459	4J-2G4・5	縄文晩期	B1	Vb2	N-68°-E	0.34	0.28	0.24	0.21	0.07	2.86	円形	半円状	1	単層		磨石類(s104・105)、磨石状礫(風化)2点	249	
14	58	56	59	SK	463	3J-8G15・20	縄文晩期	B1	Vc	N-86°-W	(0.26)	0.25	0.12	(0.09)	0.06	2.80	円形	半円状	1	単層		磨石類(s81)	244	
14	59		59・60	SK	465	3J-8G24・25	縄文晩期	Vc	N-20°-W	1.32	0.94	1.12	0.60	0.18	2.68	楕円形	弧状	2	レンズ状	<Pit461	土器小片1点			
13-14	58		59	SK	466	3J-8G14・15	縄文晩期	Vc	N-24°-W	1.00	(0.82)	0.85	(0.67)	0.10	2.76	不整楕円形	弧状	3	レンズ状	<SK366	土器(p134)、礫2点	208		
15	64		67	SK	482	3J-10E16・21	縄文晩期	Vb2	N-3°-E	0.87	0.61	(0.65)	0.45	0.09	2.84	楕円形	弧状	1	単層		土器(p173)、土器片1点	210		
14	64	61	68	SK	483	3J-10G10	縄文晩期	A1b	Vb2	N-66°-W	1.19	0.79	1.08	0.69	0.12	2.91	楕円形	弧状	1	単層		土器(p177)	210	
15	64		67	SK	484	3J-10E23	縄文晩期	Vb1	N-26°-W	0.98	0.73	0.89	0.56	0.16	2.99	楕円形	弧状	2	レンズ状	>SI501・670	土器小片1点、碎片2点、小礫2点			
13	54	52	53	SK	489	3J-7E24・25,8E4・5	縄文晩期	B2	Vc	N-83°-E	1.27	1.06	1.04	0.82	0.24	2.58	不整隅丸長方形	箱状	5	レンズ状		土器(p106)、石皿・台石類(s64・65)、台石状礫1点	206・241・242	
15	63	60	67	SK	495	3J-10E12	縄文晩期	B3b	Vb2	N-45°-E	0.87	0.86	0.80	0.77	0.34	2.71	隅丸方形	半円状	3	水平	>SI670	土器(p169)、土器片2点、磨石類(s97)、加工痕のある礫石器(s98)、石皿・台石類(s99)	209・247	
13	61		63	SK	502	3J-9E25,10E5	縄文晩期	Vb2	N-38°-E	(0.85)	0.75	(0.50)	0.31	0.28	2.79	円形	半円状	2	水平		土器(p157)、土器片1点	209		
16	65	62	69	SK	504	4J-1F16・21	縄文晩期	A5	Vb2	N-48°-W	1.05	0.98	0.78	0.75	0.20	2.86	隅丸方形	弧状	2	レンズ状	>SI790	土器(p179・180)、土器小片3点、小礫4点	211	
14	62		65	SK	515	3J-9G22・23	縄文晩期	A4	Vb2	N-73°-E	0.98	0.55	0.83	0.40	0.10	2.81	不整長楕円形	弧状	1	単層		土器(p18)	201	
15	64		68	SK	516	4J-1D20	縄文晩期	Vb2	N-50°-E	0.67	0.58	0.55	0.53	0.06	3.02	楕円形	半円状	1	単層					

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時 代	分類	確認面	主軸方向	規 模 (m)				底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
											上 端		下 端			深度	平 面							断 面
											長軸	短軸	長軸	短軸										
13	62	58	64	SK	517	3J-9F23,10F3	縄文晩期	B2	V b2	N-32° -W	0.76	0.68	0.58	0.52	0.21	2.82	円形	半円状	1	単層		石皿・台石類(s100・101)	248	
15	64		67	SK	528	3J-10E13	縄文晩期	A5	V b2	N-89° -W	1.23	0.97	0.82	0.73	0.18	2.86	不整楕円形	弧状	2	レンズ状	>SI670,SK529	土器(p172)、土器片7点	210	
15	64		67	SK	529	3J-10E13・18	縄文晩期		V b2	N-90°	0.82	—	0.63	—	0.10	2.87	楕円形	弧状	1	単層	>Pit642(SI670) <SK528	土器(p52)	203	
14	62	59	65	SK	541	3J-9H3	縄文晩期	B1	V c	N-65° -W	0.34	0.26	0.15	0.14	0.16	2.68	円形	半円状	1	単層		磨石類(s94)	246	
14	62	59	65	SK	546	3J-9H2	縄文晩期	B1	V c	N-50° -W	0.25	0.23	0.13	0.10	0.18	2.70	円形	U字状	2	斜位		磨石状(風化した花崗岩) 1点		
13	54	52	53	SK	552	3J-7E24・25	縄文晩期	B1	V c	N-69° -E	(0.60)	(0.52)	(0.50)	(0.42)	0.11	2.61	円形	弧状	1	単層		磨石類(s62)、 石皿・台石類(s63)	240	
13	54		53	SK	553	3J-7E14・15	縄文晩期	D3	V c	N-12° -W	(0.43)	(0.43)	(0.33)	0.29	0.07	2.64	円形	弧状	1	単層				
13	57		57	SK	558	3J-7E25,8E5	縄文晩期		V c	N-66° -E	2.03	1.25	1.40	0.75	0.22	2.61	不整形	弧状	2	水平				
13	58		59	SK	560	3J-8G8	縄文晩期	A5	V c	N-46° -E	0.57	0.50	0.45	0.40	0.06	2.70	円形	弧状	1	単層		土器(p132・133)、土器小片4点	208	
13	59		59	SK	566	3J-8G13・14・18・19	縄文晩期	A5	V c	N-5° -E	1.90	1.42	1.51	1.26	0.16	2.66	不整楕円形	弧状	1	単層		土器(p136・137)、軽石(s85)	208・245	
13	57		57	SK	572	3J-8E16・17・21・22	縄文晩期		V c	N-54° -E	1.58	1.18	1.38	1.01	0.18	2.73	不整楕円形	弧状	2	斜位		土器小片1点		
15	68・69		72	SK	583	4J-2D25,3D5	縄文晩期		V c	N-21° -E	1.00	0.64	0.91	0.52	0.09	2.88	隅丸長方形	弧状	3	斜位	>SK720,SD846	土器(p188)、土器片4点	212	
15	65		69	SK	584	4J-2D19・24	縄文晩期		V c	N-80° -W	0.52	0.44	0.36	0.26	0.21	2.80	方形	台形状	2	レンズ状	>SX762,SD846			
16	70	66	74	SK	586	4J-3E7	縄文晩期	B2	V c	N-41° -W	0.75	0.62	0.61	0.44	0.14	2.88	隅丸長方形	弧状	2	水平	>Pit830・841	磨石類(s124～127)	253・254	
16	70		75	SK	587	4J-3E14	縄文晩期		V b2	N-25° -E	0.40	0.35	0.34	0.25	0.13	2.89	円形	半円状	2	水平		土器小片1点		
16	70		75	SK	588	4J-3E9・14	縄文晩期		V b2	N-72° -W	1.17	0.84	1.05	0.68	0.11	2.92	楕円形	弧状	2	斜位	>SK602	土器片5点		
15	66		69	SK	589	4J-2D24	縄文晩期		V c	N-26° -W	0.58	0.36	0.28	0.21	0.12	2.84	長楕円形	半円状	2	レンズ状	>SK725	小礫1点		
13	57		57・58	SK	590	3J-8E25,8F21	縄文晩期		V c	N-28° -E	0.81	0.59	0.65	0.52	0.08	2.84	楕円形	弧状	1	単層				
15	63		66	SK	592	3J-10D15,10E11	縄文晩期		V b2	—	—	0.47	—	0.37	0.14	2.79	楕円形	弧状	1	単層				
15	63		66	SK	593	3J-10D20,10E16	縄文晩期		V b2	N-53° -W	0.84	0.72	0.67	0.56	0.36	2.59	楕円形	半円状	2	水平		土器(p168)	209	
15	63	60	66	SK	594	3J-10D25,10E21	縄文晩期	B1	V b2	N-10° -E	0.53	0.38	0.19	0.18	0.17	2.82	楕円形	半円状	1	単層		磨石状礫(s96)	246	
16	66	63	70・71	SK	600	4J-2E14・19	縄文晩期		V b2	N-53° -W	0.67	0.61	0.58	0.52	0.40	2.60	円形	袋状	17	ブロック・ レンズ状	>Pit712	土器小片2点、砕片1点		
16	70		75	SK	602	4J-3E9・10	縄文晩期		V b2	N-81° -W	1.08	0.98	0.96	0.86	0.09	2.93	隅丸方形	弧状	5	斜位	<SK588			
16	70		75	SK	605	4J-3E8・9・13・14	縄文晩期		V b2	N-13° -E	1.02	0.65	0.89	0.53	0.14	2.88	隅丸長方形	弧状	4	斜位	<SK607	土器片2点		
16	70		75	SK	607	4J-3E14	縄文晩期		V b2	N-70° -E	0.39	0.37	0.26	0.24	0.10	2.93	円形	半円状	3	斜位	>SK605	土器片1点		
16	67		71	SK	614	4J-2G16	縄文晩期		V b2	N-0°	0.44	0.32	0.34	0.22	0.13	2.92	楕円形	半円状	2	斜位	>SK964			
16	65		69	SK	615	4J-1F22	縄文晩期		V b2	N-80° -W	0.55	0.46	0.43	0.32	0.09	2.86	円形	弧状	1	単層				
16	65		69	SK	622	4J-1F22	縄文晩期		V b2	N-85° -W	0.68	0.60	0.58	0.48	0.05	2.91	不整円形	弧状	1	単層	>SI790,SK625			
16	65		69	SK	625	4J-1F22	縄文晩期		V b2	N-56° -E	0.74	0.44	0.68	0.38	0.07	2.92	長楕円形	弧状	1	単層	>SI790 <SK622			
13	63		67	SK	631	3J-10E5	縄文晩期	D2	V b2	N-67° -W	0.67	0.63	0.56	0.45	0.16	2.78	円形	半円状	2	レンズ状		土器(p34)、アスファルト塊2点	202	
15	65		68	SK	640	4J-1E6	縄文晩期	A5	V b2	N-34° -W	1.30	0.87	1.20	0.77	0.10	3.11	楕円形	弧状	1	単層	<Pit633(SI501)・ 638(SI501)・639 (SI501)	土器(p54)	203	
13	62		64	SK	646	3J-9F15・20	縄文晩期		V b2	N-3° -W	0.61	0.36	0.20	0.13	0.16	2.85	長楕円形	階段状	2	レンズ状		土器片3点		
13	61	58	63	SK	649	3J-9F7・8	縄文晩期	B3b	V c	N-23° -W	0.51	0.39	(0.30)	0.25	0.09	2.79	不整楕円形	弧状	1	単層		礫石(s93)	246	
13・14	62		64・65	SK	651	3J-9G16・17	縄文晩期		V b2	N-16° -W	0.72	0.63	0.56	0.49	0.12	2.88	楕円形	弧状	2	レンズ状	>SI650			
13	61		63・64	SK	653	3J-9F12・13	縄文晩期		V c	—	—	0.39	(0.56)	0.18	0.15	2.73	楕円形	弧状	2	レンズ状				
13	61		63	SK	656	3J-9F9	縄文晩期	D3	V c	N-5° -E	0.46	0.43	0.38	0.30	0.08	2.91	円形	弧状	1	単層		板状アスファルト		
13	61		63	SK	658	3J-9E14・15	縄文晩期		V b2	N-2° -W	0.73	0.49	0.39	0.13	0.18	2.72	楕円形	半円状	1	単層		土器(p19)	201	
13・14	62		64	SK	659	3J-9G16	縄文晩期		V b2	N-14° -W	0.57	0.46	(0.44)	0.30	0.11	2.93	楕円形	半円状	2	レンズ状				
13	61		63	SK	660	3J-9F8	縄文晩期		V c	N-31° -W	(0.51)	(0.50)	(0.35)	(0.28)	0.18	2.69	円形	半円状	2	レンズ状		板状炭化物		
13	61		63	SK	674	3J-8E25,9E5	縄文晩期		V c	N-34° -W	1.61	1.28	1.45	1.10	0.18	2.72	不整楕円形	弧状	2	レンズ状	>SK398,Pit675	土器(p159)、土器片2点	209	
15	63		67	SK	681	3J-10E11・16	縄文晩期		V b2	N-10° -W	0.57	0.54	0.47	0.40	0.11	2.80	円形	弧状	1	単層				
15	64		67	SK	691	3J-10E17	縄文晩期		V b2	N-21° -W	0.63	0.52	0.32	(0.29)	0.12	2.98	不整円形	弧状	2	レンズ状				
15	64		67	SK	692	3J-10E17	縄文晩期		V c	N-30° -W	1.04	0.76	0.83	0.62	0.16	2.77	楕円形	弧状	3	レンズ状	>SI670			
13・15	63		66	SK	696	3J-10E3	縄文晩期		V b2	N-0°	0.55	0.41	0.42	(0.29)	0.15	2.80	楕円形	半円状	1	単層		土器片1点		
15	68・69		73	SK	713	4J-3D10	縄文晩期		V c	N-14° -W	0.66	0.44	0.51	0.35	0.16	2.88	楕円形	半円状	3	水平レンズ	>SK715・774 <SK718			
16	68・69		73	SK	714	4J-3D10,3E1・6	縄文晩期	B3a	V b2	N-20° -W	1.18	0.90	(1.08)	0.65	0.16	2.89	楕円形	弧状	2	レンズ状	>SK715・855・ 887,Pit764・766・ 890 <SK716	土器(p193)、土器片3点、石鏃 未成品(s117)、剥片3点、小礫 3点	212・253	

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時 代	分類	確認面	主軸方向	規 模 (m)				底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
											上 端		下 端			深度	平 面							断 面
											長軸	短軸	長軸	短軸										
15・16	68・69		73	SK	715	4J-3D10,3E6	縄文晩期	B3b	V c		(1.10)	(0.76)	(0.99)	—	0.22	2.81	楕円形	弧状	6	ブロック状	>SK774・887・ Pit890,SD927 <SK713・714・718	土器(p194)、土器小片2点、 敲石(s118)、礫1点	212・253	
16	68・69		73	SK	716	4J-3E1・6	縄文晩期	D3	V b2	N-3° -E	1.47	0.82	1.39	0.72	0.11	2.91	長楕円形	弧状	2	水平	>SK714・730・ 855,Pit766・ 942	土器(p195)、土器片2点、小礫 1点、アスファルト塊2点	212	
15	68・69		73・74	SK	718	4J-3D5・10	縄文晩期	B3a	V c	N-57° -E	(1.44)	—	(1.28)	—	0.09	2.91	円・楕円	弧状	2	レンズ状	>SK713・715・774・ 855・888・1010 <SK719・722・726	土器(p190・196)、石籬未成品 (s123)、磨製石斧剥片1点、小 礫5点	212・253	
15	68・69	66	72・73	SK	719	4J-3D4・5・10	縄文晩期	A5	V c	N-1° -E	1.27	1.13	1.22	1.07	0.24	2.77	円形	弧状	12	ブロック状	>SK718・720・ 722・853・ 1010,Pit765	土器(p20・59)、土器片16点、 磨石類(分割)1点、屑片2点、 小礫(被熱)4点	201・203	
15	68・69		72	SK	720	4J-2D24・25、 3D4・5	縄文晩期	A5	V c	N-29° -E	1.91	1.14	—	0.86	0.15	2.83	長楕円形	弧状	6	レンズ状	>SK722・ 853,SD846 <SK583・719	土器(p20)、土器小片2点、礫 2点	201	
15	68・69	65	72	SK	722	4J-3D5	縄文晩期	D1	V c	N-24° -E	1.52	—	1.37	—	0.24	2.78	不整形円形	弧状	15	ブロック状	>SK718・729・853・ 888・1010,Pit775・ 776・779・780・ 851・852,SD846 <SK719・720	土器(p189～192)、土器片28 点、石剣(s119・120)、石籬未成品 (s121)、敲石(s122)、剥片6点、 屑片4点、小礫(被熱して破砕) 14点、アスファルト塊18点、骨1点	212 253 376	
16	71		76	SK	723	4J-2F23,3F3	縄文晩期		V b2	N-65° -E	0.58	0.48	0.43	0.32	0.16	2.88	楕円形	半円状	3	レンズ状				
16	71		76	SK	724	4J-2F23・24,3F3・4	縄文晩期		V b2	N-5° -E	0.71	0.57	0.60	0.33	0.13	2.91	楕円形	弧状	3	レンズ状				
15	66		70	SK	725	4J-2D24	縄文晩期	E	V c	N-4° -W	0.76	0.72	0.63	0.60	0.11	2.83	円形	弧状	4	ブロック状	>SK932,SD846 <SK589	土器小片1点、赤色顔料ブロッ ク		
15	68・69		73	SK	726	4J-3D10	縄文晩期		V b2	N-73° -E	0.44	0.34	0.30	0.21	0.15	2.88	不整形楕円形	V字状	3	斜位レンズ	>SK718・774・ 1010			
15	65		69	SK	727	4J-2D24	縄文晩期	D3	V c	N-8° -W	0.37	0.36	0.28	0.24	0.11	2.82	方形	半円状	3	レンズ状	>SD846	剥片(s107)、アスファルト塊1点	250	
16	71		76	SK	728	4J-3F3	縄文晩期		V b2	—	—	(0.63)	—	(0.47)	0.14	2.85	隅丸長方形	弧状	6	斜位		土器片15点、礫1点		
15	68・69		72	SK	729	4J-3D5,3E1	縄文晩期		V c	N-4° -W	1.63	—	1.35	—	0.12	2.93	楕円形	弧状	4	ブロック状	>SK855・888、 Pit721・851・852・ 882,SD846<SK722	土器片1点、小礫1点		
16	68・69		72	SK	730	4J-3E1	縄文晩期		V c	N-31° -W	0.50	—	0.33	0.29	0.16	2.87	円形	半円状	3	斜位	<SK716・855	土器小片1点、剥片1点		
15	63		66	SK	731	3J-10D9	縄文晩期		V b2	N-56° -E	0.51	0.43	0.41	0.27	0.16	2.67	楕円形	半円状	1	単層		土器(p167)	209	
15	63		66	SK	738	3J-10D7・12	縄文晩期		V b2	N-8° -W	1.34	0.68	1.17	0.52	0.09	2.80	長楕円形	弧状	1	単層	=SI579	土器小片3点、破砕礫1点		
15	61		62	SK	741	3J-9D19・24	縄文晩期		V b2	N-63° -E	0.99	0.80	0.88	0.68	0.08	2.80	楕円形	弧状	1	単層				
15	61	58	62・63	SK	746	3J-9D23,10D3	縄文晩期	A1b	V b2	N-17° -W	0.67	0.58	(0.57)	(0.42)	0.24	2.68	円形	半円状	2	レンズ状		土器(p156)	209	
15	61	58	62	SK	747	3J-9D23	縄文晩期	A4	V b2	N-0°	(0.45)	(0.41)	(0.26)	(0.23)	0.18	2.73	円形	半円状	2	レンズ状		土器(p158)	209	
15	64		68	SK	749	4J-1D13・14・18・19	縄文晩期		V b2	N-47° -W	1.33	0.83	1.00	0.67	0.25	2.75	長楕円形	弧状	1	単層	=SI837	土器(p175)	210	
15	65		68	SK	759	4J-1D10,1E6	縄文晩期	A4	V b2	—	—	—	—	—	0.14	2.84	—	弧状	2	レンズ状	>SX760 <P527 (SI501)	土器(p178)	211	
15	68		72	SK	761	4J-2D24,3D4	縄文晩期		V c	N-16° -E	0.49	0.31	0.40	0.26	0.11	2.89	長楕円形	半円状	3	斜位	>SK932			
16	71		75	SK	771	4J-3E15,3F11	縄文晩期		V b2	N-44° -E	0.54	0.51	0.39	0.33	0.10	2.88	円形	弧状	2	ブロック状	<SX767	小礫3点		
15	68・69		73	SK	774	4J-3D10	縄文晩期		V c	N-25° -E	1.59	1.52	1.45	1.30	0.61	2.42	隅丸方形	箱状	9	レンズ状	>Pit923,SD927 <SK713・715・ 718・726	屑片1点		
15	64	61	68	SK	797	4J-1D22・23	縄文晩期		V c	N-55° -W	1.29	—	0.57	0.47	0.54	2.38	—	半円状	3	レンズ状		土器(p176)、土器片2点、小礫 6点	210	
15	64		68	SK	798	3J-10D25,4J-1D4・5	縄文晩期		V b2	N-35° -W	1.47	1.45	1.29	1.15	0.12	2.76	円形	弧状	1	単層	<Pit795,SX757			
16	67		71	SK	808	4J-2F17・18	縄文晩期		V b1	N-72° -E	0.62	0.53	0.44	0.30	0.22	2.75	楕円形	半円状	2	レンズ状	>SI710・810			
16	66		70	SK	809	4J-2E15,2F11	縄文晩期		V b1	—	—	0.65	—	0.32	0.26	2.91	円・楕円	半円状	3	レンズ状	>SI710,SK819, Pit818			
16	66		70	SK	819	4J-2E15	縄文晩期		V b2	N-59° -W	1.24	0.95	0	0.80	0.34	2.72	不整形楕円形	半円状	3	レンズ状	>SK1006 <SI710,SK809, Pit817・818	小礫1点		
16	70		74・75	SK	821	4J-3E12・13	縄文晩期		V c	N-77° -W	1.40	0.90	1.25	0.88	0.38	2.52	隅丸長方形	箱状	12	ブロック状	>SD917 <SK822	土器小片1点		
16	70		74	SK	822	4J-3E7・8・12・13	縄文晩期		V c	N-10° -W	1.44	0.68	1.32	0.53	0.16	2.79	長楕円形	弧状	2	水平	>SK821			
16	70		74	SK	825	4J-3E2・3・7・8	縄文晩期		V c	N-76° -W	0.80	0.72	0.69	0.60	0.15	2.78	円形	弧状	2	斜位	<Pit824			

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時 代	分類	確認面	主軸方向	規 模 (m)				底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
											上 端		下 端			深度	平 面							断 面
											長軸	短軸	長軸	短軸										
15	65	61	68	SK	835	4J-1D24・25	縄文晩期	D2	V b2	N-58° -W	(1.49)	—	—	—	0.26	2.76	楕円形	弧状	—	—		土器(p181)、石皿・台石類(s103)、板状アスファルト1点、アスファルト塊3点	211・249	
16	66	62・63	70	SK	839	4J-2E8・9・13・14	縄文晩期	B2	V c	N-38° -W	0.94	0.84	0.72	0.63	0.32	2.57	隅丸長方形	台形状	2	レンズ状	<Pit838	土器(p183)、石皿・台石類(s108)、磨石類(s109~112)	211・251・252	
16	71		76	SK	843	4J-3F11・12	縄文晩期		V b2	—	—	1.40	—	1.23	0.18	2.78	隅丸長方形	弧状	3	レンズ状	=Pit773	土器(p202)、砕片1点、礫1点	212	
16	70		74	SK	845	4J-3E12	縄文晩期		V c	N-74° -W	0.81	0.63	0.66	0.43	0.32	2.63	楕円形	台形状	3	レンズ状	>SK891 <Pit844	破砕礫1点		
16	70		75	SK	847	4J-3E13	縄文晩期		V c	N-4° -E	0.93	0.39	0.76	0.16	0.14	2.72	長楕円形	半円状	2	レンズ状	>SD917			
16	71		76	SK	850	4J-3F21	縄文晩期		V c	N-20° -E	0.77	—	0.55	—	0.14	2.84	長楕円形	弧状	3	レンズ状				
15	68・69		73	SK	853	4J-3D4・5	縄文晩期		V c	N-90°	0.90	0.57	0.78	0.42	0.14	2.71	不整楕円形	弧状	4	ブロック状	>Pit765 <SK719・720・722	土器小片1点		
15・16	68・69		74	SK	855	4J-3D5,3E1・6	縄文晩期		V c	N-70° -E	1.22	0.80	0.89	0.54	0.13	2.90	隅丸長方形	弧状	2	レンズ状	>SK730・888, Pit882 <SK714・716・718・729	土器(p197)	212	
16	71		75	SK	856	4J-3E17・18	縄文晩期		V c	N-83° -W	0.94	0.62	0.62	0.49	0.15	2.74	隅丸長方形	弧状	2	レンズ状				
16	66		70	SK	861	4J-2E13・14・18・19	縄文晩期		V c	—	—	0.59	—	0.45	0.24	2.67	長楕円形	半円状	2	レンズ状				
15	64		67	SK	866	3J-10E19	縄文晩期		V c	N-4° -W	0.66	0.55	(0.54)	0.44	0.14	2.76	楕円形	半円状	2	レンズ状	>SI670			
16	70		75	SK	881	4J-3E12・17	縄文晩期		V c	N-3° -W	1.12	(0.85)	0.90	0.56	0.31	2.62	隅丸長方形	半円状	4	レンズ状	>SD927 <Pit860			
16	71		75・76	SK	883	4J-3E15・20, 3F11・16	縄文晩期		V c	N-4° -W	1.18	0.75	0.92	0.59	0.29	2.65	隅丸長方形	台形状	5	ブロック状	>SK886 <SX767	小礫1点		
16	71		76	SK	886	4J-3E20	縄文晩期		V c	N-30° -W	0.42	—	0.31	0.39	0.11	2.83	円形	弧状	2	レンズ状	<SK883	土器小片1点		
16	68・69		74	SK	887	4J-3E6	縄文晩期		V c	—	—	—	—	—	0.12	2.81	—	台形状	2	レンズ状	>Pit890,SD927 <SK714・715			
15・16	68・69		74	SK	888	4J-3D5,3E1	縄文晩期		V c	—	—	0.35	—	0.15	0.21	2.76	楕円形	半円状	1	単層	<SK718・722・729・855,Pit721・851・852・882	土器小片1点		
16	70		74	SK	891	4J-3E6・7・11・12	縄文晩期		V c	N-34° -W	(1.52)	(1.13)	(1.21)	(0.92)	0.42	2.53	楕円形	半円状	3	水平	<SK845,Pit828, SD927	土器(p200)、土器片2点	212	
16	72・73		77	SK	894	4J-3G7・12	縄文晩期		V b2	N-57° -E	1.10	0.87	0.86	0.68	0.18	2.84	楕円形	弧状	2	レンズ状	>SK898,Pit1007 <SK985	土器(p208)、土器片5点	212	
16	72・73		77	SK	897	4J-3G6・7	縄文晩期		V b2	N-15° -W	0.80	0.62	0.55	0.44	0.14	2.87	楕円形	弧状	2	水平	>SK1004 <SK968	土器(p203)	212	
16	72・73		77	SK	898	4J-3G7・12	縄文晩期		V b2	—	—	0.88	—	0.70	0.24	2.77	楕円形	弧状	3	レンズ状	<SK894	土器小片1点		
16	72		76	SK	899	4J-3G2	縄文晩期		V c	N-81° -W	1.06	0.79	0.64	0.50	0.23	2.63	不整楕円形	弧状	2	レンズ状	>SK1005			
16	66		71	SK	900	4J-2E15,2F11・16	縄文晩期		V b2	N-88° -W	1.80	1.18	1.55	0.90	0.39	2.61	長方形	台形状	3	水平	<SI710・810			
15	66		70	SK	902	4J-2E2・7	縄文晩期		V b2	—	—	—	—	—	0.19	2.83	—	弧状	2	レンズ状				
15	66		70	SK	903	4J-2E2・3・7・8	縄文晩期		V b2	—	—	—	—	—	0.18	2.85	—	半円状	2	レンズ状		土器小片1点		
15	64		68	SK	906	4J-1D19	縄文晩期	A5	V c	N-9° -W	0.53	0.37	0.44	0.31	0.09	2.75	楕円形	弧状	1	単層		土器(p51)	203	
15	64		68	SK	908	4J-1C10,1D6	縄文晩期		V b1	—	—	(1.15)	0.61	(0.56)	0.42	2.62	楕円形	半円状	3	レンズ状				
16	65		69	SK	912	4J-1F11	縄文晩期		V b2	N-12° -W	0.86	0.54	0.78	0.44	0.15	2.89	楕円形	台形状	2	水平		小礫1点		
16	65		69	SK	913	4J-1F11	縄文晩期		V b2	N-0°	0.78	0.54	0.68	0.42	0.13	2.90	楕円形	台形状	2	斜位				
16	71		76	SK	915	4J-3F17・21・22	縄文晩期	B3a	V c	N-49° -E	0.82	—	0.70	—	0.09	2.88	—	弧状	2	レンズ状	>Pit1009	石籤(s128)	254	
16	67	64	71	SK	920	4J-2G14	縄文晩期	A1a	V b2	N-24° -W	1.02	0.92	0.68	0.60	0.16	2.82	円形	弧状	1	単層		土器(p184)、磨石類(s113)	211・252	
15	65	62	69	SK	921	4J-2C4・5	縄文晩期	B3a	V c	—	—	1.09	—	0.82	0.34	2.54	隅丸長方形	台形状	3	水平	>SD846	巖石(s106)、剥片・石核(s107)	249・250	
16	68・69	90	74	SK	922	4J-3E6・11	縄文晩期		V c	N-15° -E	0.94	0.91	0.60	0.52	0.95	1.96	円形	U字状	4	斜位	>SD927 <Pit942	土器(p198・199)、礫1点	212	
16	67		71	SK	925	4J-2G7・8	縄文晩期		V b1	N-40° -E	0.61	0.47	0.38	0.25	0.25	2.85	楕円形	半円状	3	レンズ状		小礫1点		
16	67	63	71	SK	926	4J-2F25	縄文晩期	E	V b2	N-69° -E	0.82	0.77	0.61	0.52	0.17	3.01	円形	弧状	3	レンズ状		小礫2点、赤色顔料ブロック		
15	66		70	SK	932	4J-2D24,3D4	縄文晩期		V c	—	—	0.65	—	0.45	0.16	2.74	長楕円形	階段状	2	レンズ状	<SK725・761,SD846			
15	65	62	69	SK	935	4J-2C4	縄文晩期	A3	V c	N-12° -E	1.53	1.34	1.12	0.86	0.56	2.31	不整方形	台形状	3	レンズ状	>Pit936 <Pit934	土器(p182)、石皿・台石類(s102)	211・248	
16	73		78	SK	937	4J-4F2・3	縄文晩期		V b2	N-71° -E	0.81	0.64	0.61	0.37	0.12	2.92	楕円形	台形状	3	斜位		土器小片6点		
16	71		76	SK	943	4J-3F12・16・17	縄文晩期		V c	N-53° -E	1.60	1.54	1.47	1.38	0.15	2.86	隅丸長方形	弧状	2	レンズ状	>Pit1009 <SX603・604	土器(p201)	212	
16	71		75	SK	944	4J-3E19・20・24・25	縄文晩期		V c	N-45° -W	1.08	0.59	0.92	0.27	0.24	2.65	長楕円形	V字状	3	水平	>SD917			
16	67		71	SK	950	4J-2G20	縄文晩期	A4	V b2	N-63° -W	0.83	0.65	0.58	0.35	0.18	2.77	楕円形	半円状	1	単層		土器(p185・186)	212	

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時 代	分類	確認面	主軸方向	規 模 (m)				底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
											上 端		下 端			深度	平 面							断 面
											長軸	短軸	長軸	短軸										
16	72・73	66	78	SK	961	4J-3G17・18	縄文晩期	D3	V b2	—	—	—	—	0.25	2.76	隅丸長方形	弧状	2	水平	>SK987	土器(p68・209)、アスファルト塊1点	204・212		
16	67	65	72	SK	962	4J-2G25	縄文晩期	A4	V b2	N-66° -W	0.50	0.47	0.35	0.28	0.19	2.80	円形	半円状	1	単層		土器(p185)	212	
16	67	64・65	72	SK	963	4J-2G24	縄文晩期	B3b	V c	N-88° -W	0.80	0.62	0.64	0.44	0.20	2.68	隅丸長方形	台形状	1	単層		土器小片1点、石皿・台石類(s116)	253	
16	67		71	SK	964	4J-2G16・21	縄文晩期		V b2	N-72° -E	0.52	0.42	0.28	0.18	0.21	2.87	方形	半円状	2	レンズ状	<SK614, SX930・946	土器小片1点		
16	72		77	SK	965	4J-3F10・15,3G6・11	縄文晩期		V b2	N-22° -E	1.27	0.89	1.02	0.75	0.16	2.88	楕円形	弧状	2	レンズ状	>SK969	鉄鉱石(s131)	254	
16	72・73		77	SK	967	4J-3G12・13	縄文晩期		V b2	N-21° -E	0.89	0.88	0.73	(0.58)	0.16	2.85	円形	弧状	2	水平		土器(p210)	212	
16	72		76・77	SK	968	4J-3G1・2・6・7	縄文晩期		V b2	N-40° -W	1.32	1.03	1.07	0.81	0.22	2.80	楕円形	弧状	2	レンズ状	>SK897	土器(p203)、土器片3点	212	
16	72		77	SK	969	4J-3F10,3G6	縄文晩期		V b2	N-9° -W	1.79	1.60	1.32	1.09	0.24	2.79	円形	弧状	2	レンズ状	>SK1008 <SK965, SX948	土器(p204・205)、土器片2点	212	
16	73		78	SK	975	4J-4F4・5	縄文晩期		V b2	N-26° -E	1.48	—	1.31	—	0.16	2.88	楕円形	弧状	2	水平	<SI951	土器小片2点		
16	73		78	SK	977	4J-4G1・2・6	縄文晩期		V c	N-6° -W	2.39	1.68	2.20	—	0.20	2.74	—	弧状	1	単層		小礫1点		
16	73		78	SK	980	4J-3F23,4F3	縄文晩期		V c	N-13° -W	0.48	0.44	0.35	0.25	0.13	2.84	円形	弧状	1	単層		土器小片1点		
16	72・73		77	SK	984	4J-3G11	縄文晩期		V b2	N-60° -W	1.53	—	1.38	—	0.20	2.73	長楕円形	弧状	2	レンズ状	>SK985	土器(p75)	204	
16	72・73	66	77・78	SK	985	4J-3G11・12・17	縄文晩期	D2	V b2	N-55° -W	2.64	(1.32)	2.37	(1.12)	0.30	2.72	—	弧状	2	水平	>SK894・ 987, Pit1007 <SK984	土器(p210~212)、土器片5点、磨石類(s130)、礫2点、板状アスファルト2点	212・213 ・254・376	
16	67		71	SK	986	4J-2F25	縄文晩期		V b2	N-39° -E	0.60	0.50	0.28	0.25	0.18	2.83	円形	半円状	2	レンズ状		土器片1点		
16	72・73		78	SK	987	4J-3G12・17	縄文晩期		V b2	—	—	—	—	—	0.15	2.74	—	—	1	単層	<SK961・985			
16	67	64	71	SK	1002	4J-2F25,2G21, 3F5,3G1	縄文晩期	B3b	V c	N-7° -W	1.13	1.07	0.99	0.86	0.27	2.59	円形	台形状	1	単層		土器(p187)、砥石(s114)、石皿・台石類(s115)	212・252	
16	66		70	SK	1003	4J-2E4・9	縄文晩期		V b2	N-40° -W	1.39	1.14	0.94	0.92	0.32	2.75	不整楕円形	台形状	3	斜位	<SI790			
16	72・73		77	SK	1004	4J-3G6・7・11・12	縄文晩期		V b2	N-0°	1.41	1.05	1.00	0.87	0.22	2.69	円形	弧状	2	レンズ状	>SK1008 <SK897	土器(p185・206・207)、小礫1点	212	
16	72		76	SK	1005	4J-3G2	縄文晩期	B3b	V c	N-72° -E	1.35	1.29	0.30	0.22	0.56	2.34	隅丸長方形	階段状	3	レンズ状	<SK899	土器小片1点、砥石(s129)	254	
16	66		70	SK	1006	4J-2E15	縄文晩期		V c	N-17° -W	0.51	0.44	0.30	0.22	0.14	2.78	円形	弧状	2	レンズ状	<SK819			
16	72・73		77	SK	1008	4J-3G6	縄文晩期		V c	N-0°	1.20	0.75	0.88	0.54	0.13	2.77	楕円形	弧状	2	レンズ状	<SK969・1004			
15	68・69		74	SK	1010	4J-3D5・10	縄文晩期		V c	—	—	—	—	(0.05)	2.86	楕円形	—	1	単層	<SK718・719・ 722・726				
13	64	61	67・68	SK	1015	3J-10F12	縄文晩期	A1b	V b1	N-66° -W	0.65	0.59	0.53	0.45	0.11	2.98	隅丸長方形	半円状	2	レンズ状		土器(p174)	210	

ピット(Pit)

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時 代	分類	確認面	主軸方向	規 模 (m)				底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
											上 端		下 端			深度	平 面							断 面
											長軸	短軸	長軸	短軸										
11	80			Pit	35	3J-4I19	縄文晩期	B	V c	N-29° -E	0.20	0.19	0.15	0.14	0.08	2.69	不正円形	半円状	1	単層				
14	80			Pit	84	3J-7H25,7I21	縄文晩期	A2	V b	N-6° -E	(0.55)	—	(0.11)	(0.09)	0.30	2.67	円形	漏斗状	5	ブロック状	>SK85 <SK82・197			
11	80			Pit	91	3J-5H18	縄文晩期	A2	V c	N-54° -W	(0.13)	(0.11)	(0.09)	(0.09)	0.38	2.43	円形	U字状	1	単層				
11	80			Pit	103	3J-6H19	縄文晩期	A2	V c	N-89° -E	(0.47)	(0.45)	(0.10)	(0.10)	0.08	2.50	円形	V字状	1	単層		土器片1点		
12	80			Pit	186	3J-6I15	縄文晩期	B	V c	—	—	—	—	0.10	2.72	円形	半円状	1	単層					
12	80	73	85	Pit	198	3J-7I24	縄文晩期	A2	V i	N-45° -E	(0.51)	0.42	(0.11)	0.09	0.34	2.25	円形	漏斗状	3	レンズ状				
13	74・75		79	Pit	214	3J-7G18	縄文晩期	A2	V b	N-77° -E	(0.50)	0.47	0.15	0.09	0.27	2.74	円形	階段状	3	レンズ状	>SK215			
13	74		79	Pit	220	3J-7G13・18	縄文晩期	B	V c	N-63° -E	(0.27)	0.23	(0.16)	0.13	0.15	2.83	円形	半円状	2	レンズ状				
13	74		79	Pit	221	3J-7G17	縄文晩期	A2	V c	N-74° -E	(0.37)	0.32	0.15	0.11	0.23	2.74	円形	漏斗状	1	単層				
13	74		78	Pit	225	3J-7F14	縄文晩期	B	V b	N-70° -E	(0.27)	0.23	(0.12)	(0.11)	0.14	2.88	円形	半円状	2	レンズ状	>SK226			
13	80			Pit	227	3J-7F10,7G6	縄文晩期	A2	V c	N-79° -E	(0.20)	(0.13)	(0.09)	0.08	0.14	2.83	円形	U字状	1	単層				
13	80			Pit	228	3J-7F9	縄文晩期	A2	V b	N-2° -E	(0.29)	(0.23)	(0.12)	0.09	0.20	2.81	円形	U字状	2	斜位				
13	80			Pit	232	3J-7F2	縄文晩期	A2	V b2	N-80° -W	(0.31)	(0.30)	0.19	0.17	0.21	2.77	円形	台形状	3	斜位	>SK231			
13	80			Pit	255	3J-6G17	縄文晩期	A2	V b	N-7° -E	(0.36)	(0.24)	(0.27)	(0.17)	0.23	2.53	楕円形	U字状	1	単層	<SK235	土器(p97)、土器片1点	205	
14	81			Pit	258	3J-8I17	縄文晩期	B	V c	N-17° -W	(0.48)	0.30	0.20	0.19	0.24	2.54	楕円形	半円状	1	単層	<SK146			

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構	グリッド	時 代	分類	確認面	主軸方向	規 模 (m)				底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積 状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
										上 端		下 端			深 度	平 面							断 面
										長軸	短軸	長軸	短軸										
14	81			Pit	259 3J-8I17	縄文晩期	B	Vc	N-86°-E	0.36	(0.32)	0.26	0.22	0.22	2.60	円形	半円状	1	単層	<SK146	土器(p214)	213	
14	81			Pit	260 3J-8I23	縄文晩期	B	Vc	N-17°-W	(0.40)	(0.33)	(0.18)	0.12	0.18	2.64	円形	階段状	1	単層				
14	81			Pit	262 3J-8I16	縄文晩期	B	Vc	N-65°-W	0.30	0.29	0.26	0.24	0.16	2.62	円形	半円状	1	単層	<SK160	礫1点		
13	74		79	Pit	280 3J-7F19	縄文晩期	A2	Vb	N-29°-W	(0.26)	(0.25)	(0.16)	(0.14)	0.34	2.77	円形	U字状	2	レンズ状	>SK279,SD338			
11	80			Pit	288 3J-6H11	縄文晩期	A2	Vc	N-41°-E	(0.21)	(0.20)	(0.10)	(0.09)	0.27	2.55	円形	U字状	1	単層				
13	74		79	Pit	291 3J-7F20・25	縄文晩期	A2	Vb2	N-17°-W	(0.28)	(0.27)	(0.13)	(0.12)	0.28	2.69	円形	U字状	1	単層	>SD338	礫2点		
14	82			Pit	294 3J-9G4	縄文晩期	B	Vb2	N-90°	(0.28)	(0.27)	(0.16)	(0.14)	0.22	2.88	円形	U字状	1	単層				
14	82			Pit	295 3J-9G5	縄文晩期	B	Vb2	N-65°-E	(0.23)	(0.20)	(0.14)	(0.12)	0.17	2.90	円形	U字状	1	単層				
14	82			Pit	296 3J-9G9	縄文晩期	A2	Vb2	N-69°-W	(0.18)	(0.17)	(0.12)	(0.09)	0.23	2.85	円形	U字状	1	単層				
12	80			Pit	302 3J-6H25	縄文晩期	A2	Vc	N-61°-W	(0.31)	(0.27)	(0.18)	(0.16)	0.24	2.54	円形	U字状	1	単層				
11	80	72	85	Pit	303 3J-6H18	縄文晩期	A2	Vc	N-58°-E	(0.29)	(0.27)	(0.06)	(0.05)	0.38	2.42	円形	階段状	4	柱痕	<SK100	土器片1点		
13	80			Pit	304 3J-6F17	縄文晩期	B	Vc	N-19°-E	(0.30)	(0.29)	(0.18)	(0.17)	0.14	2.70	円形	半円状	2	斜位	<SK64			
13	80			Pit	305 3J-6F21・22	縄文晩期	A2	Vc	N-73°-W	(0.37)	(0.36)	(0.14)	(0.12)	0.27	2.60	円形	階段状	3	斜位	<SK58			
11	80			Pit	309 3J-5G25	縄文晩期	A2	Vc	N-58°-E	(0.24)	(0.20)	0.08	0.07	0.19	2.69	円形	V字状	1	単層				
12	81	73	85	Pit	310 3J-7J11	縄文晩期	A2	Vc	N-31°-W	(0.42)	(0.36)	(0.13)	0.10	0.37	2.30	円形	階段状	5	柱痕	>SD192			
14	82			Pit	323 3J-9G20	縄文晩期	B	Vb2	N-80°-E	(0.35)	(0.29)	(0.20)	(0.18)	0.20	2.82	円形	箱状	1	単層		土器小片2点		
14	82			Pit	344 3J-9G19・20・24・25	縄文晩期	A2	Vb2	N-10°-W	(0.35)	0.29	(0.20)	(0.18)	0.32	2.70	円形	U字状	1	単層		土器小片1点		
14	82			Pit	350 3J-9G5	縄文晩期	B	Vb2	N-62°-W	(0.32)	(0.26)	0.20	(0.14)	0.15	2.92	円形	半円状	1	単層				
13	82			Pit	353 3J-9F15	縄文晩期	A2	Vb2	N-28°-W	(0.25)	(0.23)	(0.13)	(0.12)	0.20	2.87	円形	U字状	1	単層				
13	82			Pit	357 3J-9F18	縄文晩期	B	Vb2	N-62°-W	(0.42)	(0.35)	(0.28)	(0.24)	0.12	2.91	円形	半円状	1	単層		土器(p217)	213	
13	81			Pit	360 3J-9E3・4・8・9	縄文晩期	B	Vb2	N-78°-E	(0.34)	(0.32)	(0.22)	0.21	0.16	2.81	円形	半円状	1	単層				
14	81			Pit	370 3J-8H14	縄文晩期	A2	Vc	N-83°-E	(0.20)	0.17	(0.10)	(0.09)	0.18	2.68	円形	U字状	3	水平				
14	81	73	85	Pit	371 3J-8H7・8	縄文晩期	A2	Vc	N-12°-E	(0.20)	(0.18)	0.14	(0.11)	0.20	2.69	円形	U字状	5	柱痕	<SX332			
14	83			Pit	372 3J-10H17	縄文晩期	B	Vb2	N-15°-W	0.17	0.14	0.10	0.09	0.11	2.84	円形	U字状	1	単層				
14	83			Pit	373 3J-10H16・17	縄文晩期	A2	Vb2	N-86°-W	0.19	(0.16)	0.11	(0.10)	0.13	2.79	円形	U字状	2	柱痕				
14	83			Pit	374 3J-10H21	縄文晩期	B	Vb2	N-41°-W	(0.27)	(0.23)	(0.15)	(0.12)	0.19	2.75	円形	U字状	1	単層				
14	83			Pit	375 3J-10H13	縄文晩期	A2	Vc	N-83°-E	(0.49)	(0.46)	0.10	(0.08)	0.38	2.50	円形	階段状	3	レンズ状				
14	83			Pit	376 3J-10H23	縄文晩期	B	Vb2	N-50°-E	(0.40)	(0.35)	0.13	(0.10)	0.15	2.87	円形	半円状	1	単層	>Pit377			
14	83			Pit	377 3J-10H23	縄文晩期	A2	Vb2	—	—	(0.19)	(0.09)	(0.09)	0.20	2.80	円形	V字状	2	レンズ状	<Pit376			
14	83			Pit	378 3J-10H25	縄文晩期	A2	Vb2	N-24°-E	(0.24)	(0.23)	(0.17)	(0.13)	0.20	2.79	円形	U字状	3	ブロック状				
11	80			Pit	379 3J-6H4	縄文晩期	A2	Vc	N-54°-W	(0.18)	(0.16)	(0.08)	0.05	0.16	2.58	円形	階段状	1	単層				
13	81			Pit	381 3J-9E14	縄文晩期	B	Vb2	N-30°-W	(0.29)	(0.22)	0.15	(0.13)	0.11	2.78	円形	半円状	1	単層		土器(p215)、土器片1点	213	
13	81			Pit	382 3J-9E9・14	縄文晩期	B	Vb2	N-22°-W	(0.25)	(0.20)	(0.13)	0.12	0.11	2.75	円形	半円状	1	単層				
13	81			Pit	383 3J-9E14	縄文晩期	B	Vb2	N-47°-W	(0.14)	0.13	0.08	0.07	0.09	2.80	円形	U字状	1	単層				
13	81			Pit	384 3J-9E9	縄文晩期	B	Vb2	N-24°-E	(0.26)	(0.25)	0.17	0.12	0.12	2.78	円形	階段状	1	単層		土器片1点		
13	82			Pit	390 3J-9E17	縄文晩期	B	Vb2	N-20°-W	(0.36)	(0.26)	0.19	(0.15)	0.18	2.74	円形	台形状	1	単層	>SI700			
13	74・75		81	Pit	393 3J-8F19・20	縄文晩期	B	Vc	N-79°-W	0.38	0.32	0.30	0.26	0.13	2.82	隅丸方形	半円状	2	水平				
13	82		86	Pit	397 3J-9F1	縄文晩期	B	Vc	N-75°-W	(0.37)	0.36	(0.26)	(0.23)	0.18	2.68	円形	半円状	1	単層	>SK398	土器(p216)	213	
13	74・75		81	Pit	401 3J-8F16	縄文晩期	B	Vc	N-32°-W	(0.26)	(0.25)	0.16	(0.14)	0.17	2.68	円形	半円状	1	単層				
13	74・75		81	Pit	407 3J-8F20	縄文晩期	A2	Vb2	N-60°-E	(0.42)	(0.40)	0.12	0.09	0.19	2.77	円形	漏斗状	4	柱痕				
14	83			Pit	408 3J-10G10	縄文晩期	B	Vb2	N-40°-W	(0.40)	(0.37)	(0.18)	(0.17)	0.22	2.83	円形	半円状	2	レンズ状				
14	83			Pit	409 3J-10G5	縄文晩期	B	Vb2	N-2°-W	(0.29)	(0.28)	(0.20)	(0.19)	0.14	2.90	円形	半円状	2	レンズ状				
14	92			Pit	410 3J-7H19	縄文晩期	B	—	—	0.20	—	0.15	—	0.16	2.16	円形	U字状	1	単層	<SD192	礫1点		SD192底面検出
14	92			Pit	411 3J-7H23	縄文晩期	B	—	—	0.16	—	0.08	—	0.16	2.12	円形	U字状	1	単層	<SD192			SD192底面検出
14	84			Pit	412 4J-1H12	縄文晩期	A2	Vb2	N-26°-W	(0.17)	(0.13)	(0.09)	(0.07)	0.09	2.89	円形	U字状	1	単層				
12・14	80			Pit	417 3J-7I22	縄文晩期	B	Vc	N-9°-E	(0.32)	(0.30)	(0.25)	(0.21)	0.15	2.53	円形	半円状	2	水平				
13	80			Pit	418 3J-7G13・14	縄文晩期	A2	Vc	N-15°-E	(0.19)	(0.17)	(0.08)	0.07	0.17	2.65	円形	U字状	2	レンズ状				
11・13	80			Pit	421 3J-7H6	縄文晩期	A2	Vc	N-28°-W	(0.21)	(0.19)	(0.14)	(0.13)	0.20	2.62	円形	U字状	1	単層				
13	74・75		80	Pit	422 3J-8G9	縄文晩期	A2	Vc	N-60°-E	(0.25)	(0.22)	0.08	0.06	0.26	2.63	円形	U字状	2	レンズ状				

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構	グリッド	時 代	分類	確認面	主軸方向	規 模 (m)				底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積 状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考		
										上 端		下 端			深度	平 面							断 面	
										長軸	短軸	長軸	短軸											
14	81			Pit	425	3J-8H4・9	縄文晩期	B	Vc	N-32°-E	(0.23)	(0.22)	(0.13)	0.10	0.10	2.76	円形	半円状	1	単層				
13	74	67	79	Pit	426	3J-7F14・15・19・20	縄文晩期	A1	Vc	N-3°-E	(1.78)	1.05	(0.25)	(0.20)	0.59	2.14	不整長楕円形	階段状	12	レンズ状 柱痕	<SD338 =SK202	土器(p314)、土器片4点、碎片3点、礫6点	219	
14	81			Pit	427	3J-8H2・7	縄文晩期	A2	Vc	N-29°-E	(0.31)	(0.28)	(0.10)	0.08	0.17	2.71	円形	階段状	2	柱痕				
14	81			Pit	428	3J-8H3・8	縄文晩期	A2	Vc	N-1°-W	(0.19)	(0.16)	(0.12)	(0.10)	0.15	2.69	円形	U字状	2	レンズ状				
13	74		78	Pit	433	3J-7E20,7F16	縄文晩期	A2	Vb	N-31°-W	(0.25)	(0.21)	(0.08)	0.06	0.44	2.62	円形	U字状	2	斜位	>SD338	礫1点		
11・12	80			Pit	436	3J-7H3・8	縄文晩期	A2	Vc	N-21°-W	0.28	0.22	0.12	0.09	0.22	2.56	円形	V字状	1	単層		土器片1点		
12	80	72・73	85	Pit	437	3J-7I7	縄文晩期	A2	Vc	N-64°-W	(0.34)	(0.30)	(0.08)	0.05	0.48	2.25	円形	V字状	2	柱痕	<SK80			
12	80	72	85	Pit	438	3J-7I1	縄文晩期	A1	Vc	N-36°-W	(0.23)	(0.19)	(0.13)	(0.08)	0.47	2.29	円形	U字状	2	柱痕				
13	74・75		79	Pit	445	3J-7F25,8F5	縄文晩期	A1	Vb2	N-30°-W	(0.52)	0.35	0.09	(0.07)	0.66	2.39	楕円形	漏斗状	4	柱痕		石剣(s132・133)、礫1点	254	
14	83			Pit	452	3J-10H25	縄文晩期	B	Vb2	N-7°-W	(0.38)	(0.35)	(0.17)	(0.12)	0.23	2.77	円形	半円状	1	単層				
13	82			Pit	455	3J-9F6・11	縄文晩期	B	Vb2	N-22°-E	(0.31)	(0.30)	(0.22)	(0.18)	0.16	2.84	円形	半円状	1	単層				
14	81	73・74	85	Pit	460	3J-8H13	縄文晩期	A1	Vc	N-38°-W	(0.23)	(0.21)	(0.12)	(0.10)	0.58	2.24	円形	U字状	2	柱痕				
14	74・75		81	Pit	461	3J-8G24	縄文晩期	A1	Vc	N-0°	(0.23)	(0.20)	(0.09)	0.08	0.46	2.53	円形	U字状	3	柱痕	>SK465			
14	81		85	Pit	470	3J-8H20・25	縄文晩期	A1	Vc	N-21°-W	(0.65)	0.56	0.10	(0.09)	0.62	2.12	隅丸方形	漏斗状	2	柱痕	<SK317	土器(p7)	201	
14	81	74	85・86	Pit	475	3J-8H20	縄文晩期	A1	Vc	N-8°-W	(0.29)	(0.23)	(0.11)	0.09	0.40	2.26	円形	U字状	2	柱痕	<SK317	不定形石器(s136)	254	
14	82			Pit	481	3J-9H7	縄文晩期	B	Vc	N-45°-E	(0.19)	(0.18)	(0.09)	0.08	0.14	2.70	円形	U字状	1	単層				
13	74	68	79	Pit	485	3J-7F24	縄文晩期	A1	Vb2	N-1°-W	(0.24)	0.22	0.06	0.04	0.56	2.36	円形	漏斗状	3	柱痕	<SD338			
13	74		78	Pit	486	3J-7F11	縄文晩期	A2	Vc	N-30°-W	(0.23)	(0.21)	0.10	(0.08)	0.33	2.48	円形	U字状	2	斜位				
13	74	67	79	Pit	487	3J-7F23	縄文晩期	A1	Vb2	N-55°-W	(0.28)	(0.25)	(0.08)	(0.08)	0.67	2.30	円形	U字状	4	柱痕	<SD338			
13	74	67	79	Pit	488	3J-7F23	縄文晩期	A1	Vb2	N-27°-W	(0.50)	(0.46)	(0.11)	0.08	0.61	2.39	円形	漏斗状	4	柱痕	=SK278・400	土器(p213)、石核(s134)	213・254	
13	74	67	79	Pit	490	3J-7F23	縄文晩期	A2	Vb2	N-82°-W	(0.40)	0.30	(0.16)	0.11	0.37	2.60	楕円形	U字状	3	柱痕	<SK400			
13	74・75		80	Pit	491	3J-8G12・17	縄文晩期	A1	Vc	N-18°-W	(0.37)	(0.31)	(0.09)	(0.08)	0.64	2.26	円形	U字状	4	柱痕				
13	74		78	Pit	492	3J-7F19	縄文晩期	A2	Vc	N-4°-E	(0.21)	(0.15)	(0.09)	(0.08)	0.36	2.44	円形	U字状	3	斜位	<SK277			
13	74・75	68	80	Pit	493	3J-8G13	縄文晩期	A1	Vc	N-72°-E	(0.29)	(0.27)	(0.14)	(0.14)	0.54	2.52	円形	U字状	4	ブロック状				
13	74・75		80	Pit	494	3J-8G3・8	縄文晩期	A2	Vc	N-63°-E	(0.24)	(0.22)	(0.12)	(0.08)	0.30	2.42	円形	階段状	1	単層	<SD192			
15・16	83			Pit	503	4J-1E5,1F11	縄文晩期	A2	Vb2	N-25°-W	(0.27)	(0.23)	(0.17)	(0.13)	0.24	2.74	円形	U字状	1	単層				
14	74・75		81	Pit	545	3J-8H16	縄文晩期	B	Vc	N-42°-W	(0.16)	0.14	0.10	(0.08)	0.06	2.74	円形	半円状	1	単層				
13	74・75		80	Pit	547	3J-8G13	縄文晩期	A2	Vc	N-69°-W	(0.28)	0.23	(0.09)	0.07	0.31	2.51	円形	U字状	2	斜位				
13	74・75		80	Pit	548	3J-8G10	縄文晩期	A2	Vc	N-51°-W	(0.13)	0.12	(0.08)	0.07	(0.28)	2.58	円形	U字状	1	単層				
13	74・75		80	Pit	549	3J-8G8・13	縄文晩期	A2	Vc	N-30°-E	(0.39)	(0.35)	(0.08)	(0.08)	0.47	2.40	隅丸方形	漏斗状	2	柱痕		土器片1点		
13	81			Pit	555	3J-8E14	縄文晩期	A2	Vc	N-24°-E	(0.18)	(0.17)	0.12	0.11	0.24	2.63	円形	U字状	1	単層	>SI556			
13	74		78	Pit	559	3J-7E20,7F16	縄文晩期	B	Vc	N-0°	(0.37)	(0.32)	(0.16)	(0.13)	0.26	2.47	円形	U字状	2	レンズ状	<SD338			SD338底面
14	74・75		80	Pit	561	3J-8G15	縄文晩期	A2	Vc	N-88°-E	(0.24)	(0.21)	(0.08)	0.07	0.20	2.56	円形	U字状	2	斜位				
14	74・75		80	Pit	562	3J-8G15,8H11	縄文晩期	A2	Vc	N-28°-E	(0.47)	(0.40)	0.07	0.07	0.33	2.43	円形	U字状	1	単層	>Pit570	礫1点		
13	74・75	68	80	Pit	563	3J-8G12	縄文晩期	A1	Vc	N-67°-E	(0.27)	(0.26)	(0.09)	0.08	0.47	2.36	円形	U字状	2	斜位				
13	74・75	68	80	Pit	564	3J-8G11	縄文晩期	A1	Vc	N-36°-W	(0.27)	(0.26)	(0.09)	(0.08)	0.50	2.33	円形	V字状	2	柱痕	>SX996			
13	74・75		80	Pit	565	3J-8G2・3	縄文晩期	A2	Vc	N-82°-E	(0.20)	(0.18)	(0.09)	(0.08)	0.30	2.43	円形	U字状	1	単層	<SD192			
13	74・75		79	Pit	569	3J-7G21・22	縄文晩期	A2	Vc	N-30°-W	(0.30)	(0.29)	(0.11)	(0.10)	0.29	2.40	円形	U字状	1	単層	<SK405,SD192			
14	74・75		80	Pit	570	3J-8G15,8H11	縄文晩期	A2	Vc	—	—	—	0.06	0.06	0.30	2.45	円形	U字状	1	単層	>Pit571 <Pit562			
14	74・75		80	Pit	571	3J-8H11	縄文晩期	B	Vc	N-34°-W	(0.35)	—	0.06	0.06	0.18	2.58	円形	半円状	1	単層	<Pit570			
15	76・77		81	Pit	582	4J-2D13・14・18・19	縄文晩期	B	Vb2	N-89°-W	0.40	(0.38)	0.24	(0.22)	0.16	2.85	円形	半円状	2	斜位		礫2点		
15	76・77		81	Pit	585	4J-2D24	縄文晩期	A1	Vc	N-61°-W	(0.25)	(0.22)	0.14	(0.13)	0.41	2.59	円形	漏斗状	4	柱痕	>SD846			
13	74・75		81	Pit	591	3J-8F22	縄文晩期	A2	Vc	N-77°-W	(0.22)	(0.20)	0.12	(0.12)	0.23	2.62	円形	U字状	1	単層				
13	80			Pit	599	3J-7E14	縄文晩期	A2	Vc	N-75°-E	(0.31)	(0.27)	(0.16)	(0.13)	0.24	2.53	円形	U字状	2	レンズ状				
14・16	83			Pit	613	4J-1F5,1G1	縄文晩期	A2	Vb1	N-45°-E	(0.29)	(0.24)	(0.19)	(0.13)	0.29	2.88	円形	U字状	1	単層				
13	83		86	Pit	637	3J-10E5・10	縄文晩期	B	Vb2	N-17°-E	(0.33)	(0.25)	(0.20)	(0.14)	0.12	2.84	円形	半円状	2	レンズ状		アスファルト塊2点		
13・15	83			Pit	643	3J-10E9	縄文晩期	B	Vb2	N-4°-W	(0.28)	0.26	0.18	(0.13)	0.18	2.76	円形	U字状	1	単層	>SI670			
13	82			Pit	652	3J-9F15	縄文晩期	B	Vb2	N-90°	(0.30)	(0.29)	(0.22)	(0.21)	0.08	2.92	円形	弧状	1	単層				

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構	グリッド	時 代	分類	確認面	主軸方向	規 模 (m)				底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積 状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考		
										上 端		下 端			深 度	平 面							断 面	
										長軸	短軸	長軸	短軸											
13	82			Pit	654	3J-9F20	縄文晩期	B	V b2	N-45° -W	(0.38)	(0.25)	0.15	(0.12)	0.11	2.90	円形	半円状	1	単層				
13	82			Pit	655	3J-9F20	縄文晩期	B	V b2	N-51° -W	(0.29)	(0.28)	(0.18)	(0.17)	0.09	2.90	円形	台形状	1	単層				
13	82			Pit	657	3J-9F20	縄文晩期	B	V b2	N-13° -E	(0.27)	(0.21)	(0.14)	(0.12)	0.10	2.90	円形	半円状	1	単層				
13	82			Pit	663	3J-9E14	縄文晩期	A2	V b2	N-13° -W	(0.31)	0.25	(0.18)	(0.15)	0.30	2.66	円形	U字状	3	斜位	>SI700			
13	81			Pit	675	3J-9E5	縄文晩期	B	V b2	N-73° -W	(0.31)	(0.25)	(0.17)	(0.13)	0.14	2.75	円形	半円状	2	水平	<SK674			
13	81			Pit	676	3J-8E25	縄文晩期	B	V b2	N-24° -W	(0.29)	(0.24)	(0.16)	0.13	0.18	2.75	円形	U字状	1	単層				
13	81			Pit	677	3J-9E4・5	縄文晩期	B	V b2	N-0°	(0.42)	0.37	(0.23)	0.19	0.19	2.69	円形	台形状	2	水平				
14	82			Pit	693	3J-9G22,10G2	縄文晩期	B	V c	N-90°	(0.32)	0.29	(0.24)	0.21	0.18	2.76	円形	箱状	2	水平				
13	82			Pit	699	3J-9E16	縄文晩期	A2	V b2	N-79° -W	(0.53)	(0.47)	(0.20)	(0.17)	0.37	2.63	円形	階段状	2	レンズ状	>SI700			
13	82			Pit	705	3J-9E12	縄文晩期	B	V b2	N-64° -E	(0.40)	(0.36)	(0.26)	(0.23)	0.22	2.78	円形	台形状	1	単層	>SI700			
15	76・77	69	81	Pit	709	4J-2D24	縄文晩期	A1	V c	N-33° -E	(0.25)	0.20	0.12	(0.10)	0.47	2.48	円形	U字状	1	単層	>SD846	土器(p219)	213	
16	84			Pit	711	4J-2F9	縄文晩期	B	V c	N-20° -E	(0.29)	(0.21)	(0.17)	(0.13)	0.16	2.71	円形	箱状	2	レンズ状				
16	84	74	86	Pit	712	4J-2E19	縄文晩期	A1	V b2	N-63° -W	(0.29)	0.24	(0.10)	(0.09)	0.57	2.43	円形	U字状	4	レンズ状	<SK600			
15-16	76・77		82	Pit	721	4J-3D5,3E1	縄文晩期	A2	V c	N-30° -E	(0.28)	0.20	0.11	0.09	0.31	2.76	円形	U字状	5	斜位	>SK729,Pit852	土器(p190)	212	
15	83			Pit	732	3J-10D25	縄文晩期	B	V c	N-82° -E	(0.23)	0.22	(0.13)	(0.12)	0.12	2.66	円形	半円状	1	単層				
15	81			Pit	742	3J-9D25	縄文晩期	B	V b2	N-11° -W	(0.34)	(0.31)	(0.16)	0.14	0.20	2.64	円形	U字状	1	単層				
15	83			Pit	748	4J-1D19	縄文晩期	B	V b2	N-75° -E	(0.29)	(0.27)	(0.17)	(0.14)	0.20	2.80	円形	半円状	1	単層				
15	82			Pit	754	3J-10D4	縄文晩期	A2	V b2	N-54° -W	(0.25)	(0.21)	0.12	(0.08)	0.27	2.55	円形	U字状	1	単層				
15	83			Pit	756	4J-1D5	縄文晩期	A2	V b2	N-64° -E	(0.27)	(0.25)	0.12	(0.11)	0.19	2.81	円形	U字状	1	単層	>SX757・758			
15	76・77	69	81・82	Pit	763	4J-2D25	縄文晩期	A1	V c	N-30° -E	(0.24)	(0.21)	(0.16)	(0.10)	0.45	2.57	円形	U字状	2	柱痕	=SD846			
15-16	76・77	70	83	Pit	764	4J-3E6	縄文晩期	A1	V c	N-38° -W	(0.27)	(0.20)	(0.14)	(0.13)	(0.56)	2.47	円形	U字状	3	斜位	<SK714			
15	76・77		82	Pit	765	4J-3D5	縄文晩期	A1	V c	N-21° -E	(0.47)	(0.41)	0.12	0.11	(1.00)	1.96	円形	U字状	8	柱痕	<SK719・853	土器(p221)、礫1点	213	
16	76・78	70	83	Pit	766	4J-3E6	縄文晩期	A1	V c	N-52° -E	0.66	0.56	0.38	(0.32)	(0.70)	2.31	円形	U字状	8	柱痕	<SK714・716	土器(p224)	213	
15	76・77		81	Pit	769	4J-2D18・19	縄文晩期	A1	V c	N-5° -E	0.49	(0.39)	(0.34)	(0.28)	0.60	2.35	楕円形	U字状	6	柱痕				
15	76・77		82	Pit	770	4J-3D9	縄文晩期	B	V c	N-63° -W	(0.35)	0.30	(0.21)	0.17	0.22	2.64	円形	半円状	3	ブロック状		土器(p223)	213	
15	76・77	68・69	81	Pit	772	4J-2D13	縄文晩期	A1	V c	N-7° -E	(0.22)	(0.21)	(0.09)	0.07	0.59	2.34	円形	U字状	4	レンズ状				
16	76・79	71	85	Pit	773	4J-3F11	縄文晩期	A1	V c	N-30° -W	(0.39)	(0.38)	0.11	0.09	0.45	2.52	円形	階段状	7	柱痕	=SK843	土器片1点		
15	76・77	69	82	Pit	775	4J-3D5	縄文晩期	A1	V c	N-0°	(0.17)	(0.16)	(0.14)	(0.13)	(0.54)	2.47	円形	U字状	4	ブロック状	<SK722	土器片1点、アスファルト塊1点		
15	76・77		82	Pit	776	4J-3D5	縄文晩期	A1	V c	N-15° -W	(0.21)	0.18	(0.15)	(0.12)	(0.40)	2.59	円形	U字状	2	斜位	<SK722	土器片1点		
16	76・79		84	Pit	777	4J-3E15	縄文晩期	A2	V c	N-8° -W	(0.26)	(0.25)	(0.02)	(0.02)	0.36	2.58	円形	階段状	5	柱痕				
15	76・77		82	Pit	779	4J-3D5	縄文晩期	A2	V c	N-58° -W	(0.18)	0.15	(0.08)	0.06	(0.36)	2.64	円形	U字状	1	単層	<SK722			
15	76・77		82	Pit	780	4J-3D5	縄文晩期	A1	V c	N-85° -E	0.33	(0.20)	(0.26)	(0.17)	(0.52)	2.48	円形	U字状	3	柱痕	<SK722	土器(p220)	213	
16	84			Pit	787	4J-2F9	縄文晩期	B	V c	N-13° -W	(0.36)	0.33	0.21	0.21	0.12	2.75	円形	半円状	2	レンズ状				
15	83			Pit	795	4J-1D5	縄文晩期		V b2	N-12° -W	(0.18)	0.15	(0.09)	0.08	0.12	2.83	円形	U字状	1	単層	>SK798,SX757			
15	83			Pit	796	3J-10D25,4J-1D5	縄文晩期	B	V b2	N-60° -E	(0.22)	(0.21)	(0.09)	(0.08)	0.08	2.82	円形	半円状	1	単層	=SX758			
16	84			Pit	817	4J-2E15	縄文晩期	A2	V b1	N-17° -W	(0.37)	(0.33)	(0.25)	0.17	0.24	2.90	円形	U字状	2	レンズ状	>SK819			
16	84			Pit	818	4J-2E15	縄文晩期	A2	V b2	N-7° -W	(0.40)	(0.38)	(0.19)	(0.15)	0.31	2.71	円形	U字状	2	レンズ状	>SK819 <SK809			
16	84			Pit	820	4J-2E13・14	縄文晩期	A2	V c	N-69° -W	(0.30)	(0.28)	(0.20)	(0.14)	0.31	2.61	円形	U字状	2	レンズ状				
16	76・78	71	83	Pit	823	4J-3E3	縄文晩期	A1	V c	N-80° -E	(0.24)	(0.22)	(0.09)	(0.07)	0.40	2.74	円形	U字状	8	柱痕				
16	76・78		83	Pit	824	4J-3E8	縄文晩期	A2	V c	N-82° -W	(0.20)	0.17	0.11	(0.08)	0.18	2.75	円形	U字状	2	斜位	>SK825			
16	76・79	71	84	Pit	826	4J-3E13	縄文晩期	A1	V c	N-88° -W	(0.30)	(0.25)	(0.18)	(0.16)	0.59	2.32	円形	U字状	3	レンズ状				
16	76・78		83	Pit	827	4J-3E8	縄文晩期	A2	V c	N-68° -E	(0.34)	(0.33)	(0.11)	0.08	0.26	2.86	円形	V字状	2	レンズ状				
16	76・78		84	Pit	828	4J-3E7	縄文晩期	B	V c	N-78° -E	(0.32)	(0.30)	(0.22)	(0.18)	0.14	2.80	円形	半円状	2	水平	>SK891			
16	76・78		84	Pit	829	4J-3E8	縄文晩期	A2	V c	N-57° -E	(0.33)	(0.27)	0.22	(0.12)	0.23	2.71	円形	U字状	2	レンズ状				
16	76・78		83	Pit	830	4J-3E7	縄文晩期	A2	V c	N-76° -E	(0.26)	(0.22)	(0.12)	(0.10)	0.25	2.69	円形	U字状	5	レンズ状	<SK586			
16	84			Pit	838	4J-2E9・14	縄文晩期	A2	V c	N-30° -W	0.53	(0.45)	(0.28)	(0.22)	0.32	2.58	円形	U字状	3	レンズ状	<SK839			
16	76・78		83	Pit	841	4J-3E7	縄文晩期	A2	V c	N-23° -E	(0.14)	0.13	(0.08)	(0.06)	0.20	2.76	円形	U字状	1	単層	<SK586			
16	76・78		83	Pit	842	4J-3E7	縄文晩期	B	V c	N-68° -E	(0.31)	(0.30)	(0.12)	(0.11)	0.20	2.74	円形	階段状	1	単層				
16	76・79		84	Pit	844	4J-3E12	縄文晩期	A1	V c	N-63° -W	(0.30)	(0.27)	(0.19)	(0.13)	0.47	2.45	円形	U字状	5	柱痕	>SK845			

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時 代	分類	確認面	主軸方向	規 模 (m)				底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積 状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
											上 端		下 端			深度	平 面							断 面
											長軸	短軸	長軸	短軸										
16	76-79	72	85	Pit	848	4J-3F16	縄文晩期	A1	Vc	N-8° -E	(0.24)	(0.20)	(0.06)	(0.05)	0.42	2.53	円形	U字状	3	斜位				
16	76-79	71	84	Pit	849	4J-3E9	縄文晩期	A1	Vc	N-35° -E	(0.24)	(0.22)	(0.02)	(0.02)	0.43	2.51	円形	U字状	3	斜位				
15-16	76-77		82	Pit	851	4J-3D5	縄文晩期	A2	Vc	N-6° -E	(0.20)	0.15	(0.10)	0.06	(0.26)	2.76	楕円形	U字状	3	ブロック状	>SK888,Pit852 <SK722-729			
15-16	76-77		82	Pit	852	4J-3D5,3E1	縄文晩期	A1	Vc	N-38° -E	(0.24)	(0.22)	(0.06)	0.05	(0.45)	2.70	円形	V字状	5	レンズ状	>SK888 <SK729,Pit721-851	土器(p222)	213	
16	76-79		84	Pit	854	4J-3E18	縄文晩期	A2	Vc	N-85° -W	(0.27)	(0.25)	(0.14)	0.10	0.28	2.58	円形	U字状	2	斜位	>SD917			
16	76-78		83	Pit	857	4J-3D10,3E6	縄文晩期	A1	Vc	N-48° -E	0.39	0.38	0.12	0.10	0.61	2.36	円形	U字状	6	ブロック状	>SD927			
15	76-77		81	Pit	858	4J-2D18	縄文晩期	A2	Vc	N-65° -W	(0.25)	0.19	(0.13)	0.10	0.29	2.83	円形	U字状	1	単層				
16	76-79		84	Pit	859	4J-3E11・12	縄文晩期	B	Vc	N-33° -W	0.28	(0.22)	0.19	(0.16)	0.15	2.67	円形	半円状	2	斜位				
16	76-79		84	Pit	860	4J-3E12	縄文晩期	A2	Vc	N-50° -E	(0.20)	0.16	(0.14)	0.11	0.26	2.66	円形	U字状	2	水平	>SK881,SD927			
16	84			Pit	862	4J-2E15	縄文晩期	B	Vc	N-21° -E	(0.36)	(0.28)	(0.28)	0.22	0.28	2.72	円形	半円状	2	レンズ状				
16	84			Pit	863	4J-2E15	縄文晩期	A2	Vc	N-62° -E	(0.36)	(0.27)	(0.29)	(0.22)	0.32	2.60	円形	U字状	3	斜位				
15	83			Pit	864	3J-10E8	縄文晩期	B	Vc	N-23° -W	(0.33)	(0.32)	(0.25)	(0.23)	0.15	2.77	円形	半円状	2	水平	=SI670			
15	83			Pit	865	3J-10E18	縄文晩期	B	Vc	N-0°	(0.34)	0.26	(0.26)	0.20	0.17	2.75	円形	半円状	2	レンズ状	=SI670			
16	84			Pit	867	4J-2E9・10	縄文晩期	A2	Vb2	N-88° -E	(0.35)	(0.27)	(0.20)	(0.16)	0.29	2.75	円形	U字状	3	レンズ状				
15	83			Pit	876	3J-10C25,4J-1C5	縄文晩期	B	Vb2	N-68° -E	0.59	0.52	0.46	0.35	0.35	2.53	円形	箱状	2	レンズ状				
15	84			Pit	877	4J-1E21,2E1	縄文晩期	A2	Vc	N-9° -W	(0.33)	(0.31)	(0.19)	(0.14)	0.37	2.45	円形	U字状	3	レンズ状				
15-16	76-77	69-70	82	Pit	882	4J-3D5,3E1	縄文晩期	A1	Vc	N-16° -E	0.38	(0.32)	(0.12)	(0.10)	(0.66)	2.36	円形	U字状	12	柱痕	>SK888 <SK729- 855	土器(p190)、土器片1点、ア スファルト塊1点	212	
16	76-79		84	Pit	884	4J-3E15	縄文晩期	A2	Vc	N-9° -W	(0.23)	(0.20)	(0.14)	(0.09)	0.19	2.76	円形	U字状	5	ブロック状		土器(p225)	213	
16	76-79		84	Pit	885	4J-3E19	縄文晩期	A2	Vc	N-20° -E	0.20	(0.19)	(0.10)	(0.08)	0.39	2.49	円形	U字状	3	斜位	>SD917			
15	76-77		82・83	Pit	889	4J-3D9	縄文晩期	B	Vc	N-25° -E	(0.16)	(0.13)	(0.12)	0.08	0.11	2.73	円形	半円状	1	単層				
16	76-78	70	83	Pit	890	4J-3D10,3E6	縄文晩期	A1	Vc	N-41° -W	(0.55)	(0.42)	0.16	0.13	(0.58)	2.31	楕円形	V字状	4	レンズ状	>SD917 <SK714- 715-887			
16	84			Pit	895	4J-2F17	縄文晩期	B	Vb1	N-20° -E	(0.36)	0.28	(0.16)	0.13	0.14	2.80	円形	半円状	2	レンズ状	=SI710-810			
15	83			Pit	904	4J-1D12・13	縄文晩期	A2	Vc	N-45° -E	0.25	(0.22)	(0.17)	(0.14)	0.26	2.57	円形	U字状	2	レンズ状		土器片1点		
15	83			Pit	909	4J-1D23	縄文晩期	A2	Vc	N-0°	(0.22)	(0.18)	0.09	(0.08)	0.18	2.60	円形	U字状	1	単層		土器片1点		
16	84			Pit	911	4J-2E5	縄文晩期	A2	Vb2	N-30° -W	(0.65)	(0.49)	(0.23)	(0.19)	0.44	2.66	円形	U字状	3	レンズ状	>SI790			
16	76-79		84-85	Pit	918	4J-3E19	縄文晩期	A2	Vc	N-74° -E	(0.31)	(0.28)	(0.20)	(0.18)	0.27	2.64	円形	U字状	3	柱痕	>SD917			
16	76-79		84	Pit	919	4J-3E17	縄文晩期	A1	Vc	N-68° -W	(0.29)	0.16	(0.17)	0.14	0.47	2.50	円形	U字状	3	レンズ状				
15	76-77		82	Pit	923	4J-3D10	縄文晩期	A1	Vc	N-5° -E	(0.36)	(0.34)	(0.26)	(0.24)	(0.56)	2.31	円形	U字状	1	単層	<SK774,SD927			
16	76-79		85	Pit	924	4J-3E25	縄文晩期	A2	Vc	N-90°	(0.38)	(0.37)	(0.18)	(0.14)	0.29	2.59	円形	U字状	2	斜位	>SD917			
15	83			Pit	931	4J-1C9・10	縄文晩期	A2	Vc	N-34° -E	(0.30)	(0.25)	(0.13)	(0.10)	0.28	2.53	円形	U字状	1	単層				
16	76-78		83	Pit	933	4J-3E3	縄文晩期	A2	Vc	N-20° -W	(0.19)	(0.18)	0.13	(0.11)	0.31	2.82	円形	U字状	1	単層				
15	84	62		Pit	934	4J-2C4	縄文晩期	A2	Vc	N-83° -E	(0.29)	(0.27)	(0.17)	0.14	0.22	2.64	円形	U字状	1	単層	>SK935,Pit936			
15	84	62-74	86	Pit	936	4J-2C4	縄文晩期	A1	Vc	N-7° -E	(0.40)	—	—	—	0.41	2.42	楕円形	U字状	2	レンズ状	<SK935,Pit934	土器(p218)、石皿・台石類(s135)	213-254	
16	84			Pit	938	4J-4F13・14	縄文晩期	B	Vb2	N-82° -W	(0.28)	0.19	(0.18)	0.11	0.08	3.00	楕円形	半円状	1	単層	>SI951			
16	84			Pit	939	4J-4F13	縄文晩期	B	Vb2	N-13° -W	(0.33)	(0.31)	(0.21)	0.14	0.20	2.82	円形	半円状	2	レンズ状	>SI951			
16	76-78		84	Pit	941	4J-3E11	縄文晩期	A1	Vc	N-12° -W	(0.37)	(0.35)	0.18	0.16	0.54	2.41	円形	U字状	3	レンズ状	>SD927			
16	76-78	70-90	83	Pit	942	4J-3E6	縄文晩期	A1	Vc	N-80° -E	(0.59)	(0.48)	(0.16)	(0.12)	0.80	2.08	円形	階段状	6	柱痕	>SK922 <SK716			
16	84	74	86	Pit	991	4J-3F18・19	縄文晩期	A1	Vb2	—	—	—	(0.17)	(0.14)	0.55	2.43	円形	階段状	3	水平		土器(p226-227)、礫1点、ア スファルト塊2点	213	
14	82			Pit	997	3J-9G23	縄文晩期	A2	Vb2	N-47° -E	(0.24)	(0.21)	0.16	0.10	0.19	2.50	円形	U字状	1	単層	=SI650			
13-14	82			Pit	998	3J-9G2・3	縄文晩期	A2	Vc	N-21° -W	(0.40)	(0.39)	0.10	0.09	0.43	2.42	円形	U字状	2	レンズ状				
16	84			Pit	999	4J-2F16	縄文晩期	B	Vb1	N-22° -W	(0.39)	(0.35)	(0.28)	(0.25)	0.13	2.58	円形	半円状	1	単層	=SI710-810			
16	84			Pit	1007	4J-3G12	縄文晩期	A2	Vb2	N-53° -E	(0.39)	(0.32)	(0.18)	0.16	0.20	2.68	円形	U字状	2	レンズ状	<SK894-985			
16	76-79		85	Pit	1009	4J-3F17	縄文晩期	A2	Vc	N-65° -W	(0.33)	(0.29)	(0.14)	(0.13)	0.34	2.63	円形	U字状	2	レンズ状	<SK915-943			

不明遺構(SX)

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本文 記載頁	遺 構		グリッド	時 代	分類	確認面	主軸方向	規 模 (m)				底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積 状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
											上 端		下 端			深度	平 面							断面
											長軸	短軸	長 軸	短軸										
11·13	86	76·77	87	SX	78	3J-7H7·12	縄文晩期	B1a	Vc	N-9° -W	(0.98)	0.81	—	—	0.05	2.94	円形	弧状	2	レンズ状			焼土厚0.02	
12	86	76	87	SX	86	3J-7H4·5·9·10	縄文晩期	B1a	Vc	N-25° -E	0.91	0.82	—	—	0.08	2.89	隅丸方形	弧状	2	レンズ状	>SK87	土器片3点		焼土厚0.04
12	86	77	88	SX	88	3J-7I2	縄文晩期	B1a	Vc	—	—	(0.60)	—	—	0.07	2.87	円形	弧状	3	レンズ状			焼土厚0.04	
12	85	75	86	SX	136	3J-6J11·12·16·17	縄文晩期	A	Vc	N-66° -W	3.68	—	3.34	—	0.36	2.44	円形	弧状	3	レンズ状		土器(p2·100·141·228~231)、 土器片20点、礫3点	201·206· 208·213	堅穴遺構
12·14	87		89	SX	163	3J-8I4	縄文晩期	B1a	Vc	—	(0.80)	0.61	(0.68)	0.51	0.08	2.74	楕円形	弧状	6	レンズ状				焼土厚0.05
13	86	76	87	SX	203	3J-7G18·23	縄文晩期	B1a	Vb	N-27° -W	0.97	0.78	—	—	0.11	2.90	不整楕円形	弧状	2	レンズ状	<SK207			焼土厚0.05
13	89	82·83	91	SX	204	3J-7H6·7·11·12	縄文晩期	C3	Vc	N-78° -E	2.06	1.36	1.92	1.20	0.10	2.92	不整楕円形	弧状	3			土器(p246)、土器片9点、破砕 礫1点	214	ビットあり
13	89	81	90·91	SX	209	3J-7F9·14	縄文晩期	C3	Vb	N-30° -E	1.26	—	—	—	0.11	2.93	楕円形	弧状	2	レンズ状	>SK246	破砕礫1点		ビットあり
13	89	82	91	SX	210	3J-7F10·15·7G6·11	縄文晩期	C1	Vb	N-70° -E	2.59	1.35	2.35	(1.34)	0.10	2.87	不整長楕円形	弧状	1	単層		礫1点		ビットあり
13	89	81	90	SX	243	3J-7F3·4·8·9	縄文晩期	C3	Vb	N-38° -E	1.55	—	1.39	—	0.09	2.92	不整長楕円形	弧状	2	レンズ状	=SX244			ビットあり
13	89	82	91	SX	244	3J-7F8·13	縄文晩期	C3	Vb	N-0°	1.50	1.23	—	1.10	0.09	2.95	—	弧状	1	単層	>SK257 =SX243	土器小片2点、礫2点		ビットあり
13	86		87	SX	256	3J-7F3	縄文晩期	B1a	Vb	—	—	—	—	0.21	2.92	不整円形	弧状	3	レンズ状	<SK218			焼土厚0.02	
13	86		87·88	SX	306	3J-7H16·21	縄文晩期	B3	Vc	—	—	0.62	—	—	0.03	2.79	不整楕円形	弧状	1	単層				火床のみ検出
14	87	46	89	SX	320	3J-8H12·17	縄文晩期	B1a	Vc	N-18° -E	0.88	0.72	—	—	0.07	2.91	不整形	—	4	—	<P364 (SB5)	土器(p239)、土器片6点、破片1点	214	焼土厚0.02
14	87	78	88	SX	331	3J-8H8·13	縄文晩期	B1a	Vc	N-10° -E	1.04	0.50	—	—	0.08	2.88	不整長楕円形	弧状	2	レンズ状	=SX453			焼土厚0.03
14	87	78	88	SX	332	3J-8H7	縄文晩期	B1a	Vc	—	—	0.50	—	0.29	0.12	2.84	不整円形	弧状	3	レンズ状	>Pit371			焼土厚0.02
14	87	78	88·89	SX	333	3J-8H7·12	縄文晩期	B1a	Vc	N-7° -E	0.97	0.73	(0.85)	(0.58)	0.19	2.78	楕円形	弧状	4	レンズ状				焼土厚0.03 ビッ トあり
14	87	79	89	SX	334	3J-8H14	縄文晩期	B1b	Vc	—	—	0.73	—	—	0.02	2.88	不整形	—	2	—				火床・炭化物範囲
13	86	76	87	SX	340	3J-7F18	縄文晩期	B1b	Vb	N-23° -W	1.08	0.76	—	—	0.03	2.93	不整楕円形	—	4	—	>SX343,SD338	土器片1点		焼土厚0.02
13	86	76	87	SX	343	3J-7F18·19·23	縄文晩期	B1b	Vb	N-70° -W	1.08	0.97	—	—	0.09	2.93	不整円形	—	2	—	>SD338 <SX340	土器(p237)、土器片2点	213	焼土厚0.04
14	86	77	88	SX	361	3J-8H3·8	縄文晩期	B1b	Vc	N-25° -W	1.30	1.16	—	—	0.02	2.94	不整形	—	2	—	=SX450			火床・炭化物範囲
14	87	77	88	SX	362	3J-8H3·8	縄文晩期	B1b	Vc	N-55° -E	0.89	0.67	—	—	0.02	2.95	不整楕円形	—	2	—		土器片5点		火床・炭化物範囲
14	87	78	88	SX	369	3J-8H9·10·14·15	縄文晩期	B1b	Vc	N-3° -E	1.45	(1.10)	—	—	0.03	2.80	不整形	—	3	—	<SK249			焼土厚0.02 ビッ トあり
12	90		91	SX	415	3J-7I17	縄文晩期	C1	Vc	N-75° -W	0.86	—	—	—	0.03	2.65	楕円形	—	1	—				
14	90	84	91	SX	423	3J-8I23,9I3	縄文晩期	C1	Vc	—	—	(1.18)	—	(1.13)	0.04	2.71	不整形	—	1	—				
13	86		87	SX	424	3J-7G14	縄文晩期	B1a	Vc	N-32° -W	0.57	—	—	—	0.05	2.97	不整円形	弧状	2	レンズ状		土器(p238)、敲石(s138)、石 皿・台石類(s139)	213·255	焼土厚0.02
13	86		87	SX	434	3J-7E15,7F11	縄文晩期	B1a	Vc	N-5° -E	0.63	0.41	0.07	0.06	0.39	2.69	楕円形	弧状	3	ブロック状	>SD338	土器片1点		ビットあり
13	86	75	86·87	SX	439	3J-7E10·15	縄文晩期	C2	Vb2	—	1.33	0.43	—	—	—	2.87	円形	—	1	—	>SX444	土器(p235)	213	
13	89		90	SX	442	3J-7E18·19	縄文晩期	C3	Vc	—	2.24	(1.12)	—	—	0.06	2.78	—	—	1	—		礫1点、アスファルト塊4点		
13	89	81	90	SX	443	3J-7E23·24	縄文晩期	C2	Vc	N-89° -E	1.19	0.87	1.15	0.80	0.05	2.76	不整楕円形	—	1	—		礫3点、アスファルト塊3点		
13	86	75	87	SX	444	3J-7E10·15	縄文晩期	B2	Vb2	N-13° -W	0.99	0.87	—	—	—	2.83	不整楕円形	—	1	—	<SX439	土器(p236)、土器小片2点、礫 2点	213	
14	90	83	91	SX	450	3J-8H3	縄文晩期	C1	Vc	N-78° -E	1.16	1.13	1.05	(1.06)	0.06	2.73	円形	弧状	1	—	<SX361			
14	90		91	SX	451	3J-8H17·22	縄文晩期	C2	Vb2	N-65° -W	0.50	0.42	0.40	0.35	0.03	2.89	不整円形	—	1	—	>Pit539 (SB6)			
14	87	78	88	SX	453	3J-8H8·13	縄文晩期	B1a	Vc	N-68° -E	1.03	0.67	—	—	0.07	2.76	長楕円形	弧状	2	レンズ状	=SX331			焼土厚0.02
16	91	84	92	SX	457	4J-1G22·23	縄文晩期	C2	Vb1	N-43° -E	0.71	(0.56)	—	—	0.03	3.03	不整楕円形	弧状	1	単層				
13	86	77	88	SX	550	3J-8G2	縄文晩期	B1a	Vc	N-72° -W	1.22	0.59	—	—	0.08	2.73	不整長楕円形	弧状	4	レンズ状				焼土厚0.04
13	90	83	91	SX	567	3J-8G17·22	縄文晩期	C3	Vc	N-50° -W	1.28	0.90	1.03	(0.59)	0.05	2.76	不整形	弧状	2	レンズ状				
13	86		88	SX	568	3J-8G9·10·14·15	縄文晩期	B1a	Vc	N-7° -W	1.33	1.06	1.11	0.91	0.09	2.73	不整楕円形	弧状	2	ブロック状		土器小片1点、礫1点		焼土厚0.04
15	87	79	89	SX	574	3J-9D18·19	縄文晩期	B1a	Vb2	N-74° -E	0.99	0.62	—	—	0.09	2.72	不整楕円形	弧状	3	レンズ状	>SX578			焼土厚0.04
13	90		92	SX	575	3J-9D10·15,9E6·11	縄文晩期	C2	Vb2	N-59° -E	(0.82)	0.36	(0.74)	0.30	0.06	2.89	不整長楕円形	弧状	1	単層	>SI700			
13	90	83	91	SX	577	3J-8E10·14·15	縄文晩期	C1	Vc	N-22° -E	1.97	(0.72)	1.88	—	0.13	2.76	不整長楕円形	弧状	1	単層	<SI556			ビットあり
15	90	84	92	SX	578	3J-9D18·19	縄文晩期	C2	Vb2	N-39° -W	0.84	0.72	—	—	0.05	2.88	不整円形	弧状	1	単層	<SX574			
16	91	85	92·93	SX	601	4J-2E19	縄文晩期	C3	Vb2	N-67° -E	0.46	0.43	—	—	0.06	2.95	円形	弧状	2	レンズ状				
16	91		93	SX	603	4J-6F16·17	縄文晩期	C2	Vb2	—	—	0.82	—	0.74	0.06	2.96	楕円形	弧状	2	水平	>SK943,SX604	土器小片1点、砕片1点		

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時 代	分類	確認面	主軸方向	規 模 (m)				底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積 状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
											上 端		下 端			深度	平 面							断面
											長軸	短軸	長 軸	短軸										
16	91		93	SX	604	4J-6F16・17	縄文晩期	C2	V b2	—	—	—	—	0.04	2.99	楕円形	弧状	1	単層	>SK943 <SX603				
16	88		89	SX	609	4J-3E10	縄文晩期	B3	V b2	N-23° -E	0.64	0.57	—	—	—	3.02	不整形	—	1	—				
16	88		89・90	SX	610	4J-3E19	縄文晩期	B3	V b2	N-10° -W	0.67	0.35	—	—	—	3.02	不整形	—	1	—				
15	91		92	SX	717	4J-1D17	縄文晩期	C2	V b2	N-14° -W	0.82	0.60	—	—	0.03	2.91	楕円形	—	1	単層				
15	90		92	SX	733	3J-10D22	縄文晩期	C2	V b2	—	—	—	—	0.03	2.89	—	—	1	—			土器(p247)、碎片1点	214	
15	90		92	SX	757	4J-1D5,1E1	縄文晩期	C1	V b2	N-60° -E	2.11	1.74	—	—	0.12	2.84	不整楕円形	弧状	1	単層	>SK798,SX758 <Pit756・795			
15	90		92	SX	758	3J-10D25,10E21, 4J-1D5,1E1	縄文晩期	C1	V b2	—	—	(1.09)	—	—	0.11	2.88	—	弧状	1	単層	<Pit756,SX757			
15	90		92	SX	760	4J-1D5・10,1E1・6	縄文晩期	C1	V b2	N-48° -E	1.52	1.07	—	—	0.10	2.88	不整楕円形	弧状	1	単層	<SK759	土器(p248)、土器片2点	214	
15	91		92	SX	762	4J-2D18・19	縄文晩期	C1	V c	N-30° -W	0.80	0.42	0.72	0.35	0.09	2.89	長楕円形	弧状	1	単層	>SD846 <SK584			
16	91		93	SX	767	4J-3E15,3F11	縄文晩期	C2	V b2	N-70° -W	0.53	0.48	0.46	0.40	0.04	2.97	隅丸方形	弧状	1	単層	>SK771・883	土器片1点		
16	88		90	SX	768	4J-3E19・20	縄文晩期	B3	V b2	N-12° -W	0.42	0.39	—	—	—	2.98	円形	—	1	—		土器(p243)、土器片1点	214	
16	91		93	SX	781	4J-2F10	縄文晩期	C3	V b2	—	—	0.94	—	—	0.09	2.85	不整形	弧状	1	単層				
15	91	84	92	SX	799	4J-1D23・24, 2D3・4	縄文晩期	C2	V c	—	—	—	1.45	—	0.11	2.81	—	弧状	1	単層		土器(p249・250)、土器片8 点、台石状礫(s140)、磨石類 (s141)、剥片1点、礫1点	214・256	
15	87	79	89	SX	832	4J-1D11	縄文晩期	B1a	V c	N-74° -E	1.11	0.88	0.60	0.45	0.05	2.77	不整楕円形	弧状	1	単層		土器(p240)	214	火床面のみ
16	88	79	89	SX	930	4J-2F25,2G16・21	縄文晩期	B2	V b1	—	—	—	—	—	0.07	3.05	—	弧状	2	レンズ状	>SK964,SX945・ 946・966	土器片1点		
16	88	80	90	SX	940	4J-3F23・24	縄文晩期	B3	V b2	—	—	0.50	—	—	0.02	3.06	不整形	—	1	—	>SX976			
16	88	79	89	SX	945	4J-2F25,2G21	縄文晩期	B2	V b2	N-43° -E	1.33	0.58	1.10	0.40	0.07	2.95	不整長楕円形	弧状	2	レンズ状	<SX930	土器(p241・242)、土器片10点、礫 (アスファルト付着)1点、アスファル ト塊2点、赤色顔料ブロック	214	
16	88	79・80	89	SX	946	4J-2G16・21	縄文晩期	B1a	V b2	N-41° -E	1.25	0.87	1.07	0.95	0.07	2.98	不整楕円形	弧状	3	レンズ状	>SK964,SX966 <SX930	礫2点		焼土厚0.02
16	91	85	93	SX	947	4J-3F10	縄文晩期	C2	V b2	N-49° -W	0.61	0.50	—	—	0.08	2.97	不整形	弧状	1	単層		土器(p252)	214	
16	91		93	SX	948	4J-3F10,3G6	縄文晩期	C2	V b2	N-81° -W	0.49	0.35	—	—	0.05	2.98	不整円形	弧状	1	単層	>SK969			
16	88	80	90	SX	949	4J-3F3・4	縄文晩期	B2	V b2	—	—	—	—	—	0.04	2.96	不整形	—	1	—	>SX982・983	土器(p244)、土器片1点、礫1点	214	混合土7箇所
16	88	81	90	SX	952	4J-3F23	縄文晩期	C2	V c	N-48° -E	0.95	0.76	0.69	0.53	0.14	2.94	不整形	弧状	2	斜位	<SX976	土器(p245)、土器片2点、赤色 顔料ブロック2点	214	
16	91	85	93	SX	953	4J-3F19・24	縄文晩期	C3	V b2	—	—	1.32	—	(1.10)	0.09	2.91	不整形	弧状	3	水平				
16	91	85	93	SX	966	4J-2G16・21・22	縄文晩期	C3	V b2	—	—	(1.01)	—	—	0.03	2.99	不整形	—	2	—	<SX930・946	土器(p251)、土器片2点	214	
16	88	80	90	SX	976	4J-3F23	縄文晩期	B1b	V c	N-14° -W	1.48	0.68	—	—	0.02	2.97	不整形	—	1	—	>SX952 <SX940			焼土僅かにのこる
16	88		90	SX	981	4J-3F4	縄文晩期	B3	V b2	N-62° -W	0.80	0.70	—	—	0.05	2.95	不整楕円形	—	1	—				
16	88		90	SX	982	4J-3F4	縄文晩期	B3	V c	N-40° -W	0.57	0.44	—	—	0.04	2.90	不整円形	—	1	—	<SX949			
16	88		90	SX	983	4J-3F3・4	縄文晩期	B3	V c	N-3° -W	0.29	0.20	—	—	0.05	2.85	不整形	—	1	—	<SX949			
13	85	75	86	SX	996	3J-8F5・10・15, 8G1・6・7・11・12	縄文晩期	A	VI	N-42° -W	3.43	2.50	3.10	2.32	0.15	2.22	不整楕円形	弧状	4	レンズ状	<Pit564	土器(p232～234)、土器片2点、石 皿・台石類(s137)、剥片1点	213・255	竪穴状遺構

溝状遺構(SD)

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構	グリッド	分 類	時 代	確認面	主軸方向	規 模 (m)				底面標高 (m)	形態 断面	覆土	堆積 状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
										上 端		下 端										深度
										長軸	短軸	長軸	短軸									
12~14	92・93	86~88	93・94	SD192	3J-7G~J,8G	自然開析谷	縄文晩期	Vc	N-88°-W	(39.31)	2.00~ 4.40	(39.14)	0.43~ 3.80	0.45~ 1.00	1.90~ 2.35	弧状~ 半円状	17	レンズ状	>Pit410・411・ 494・565・569 <SK201・224・293・ 405,Pit310,SX550	土器(p102・110・132・144・253~311)、土器片 272点、石鏃(s142~144)、石鏃(s145~148)、 石核(s149)、剥片(s150)、磨石類(s151~159)、 燧石(s160)、石皿・台石類(s161~164)、砕片17 点、礫108点、アスファルト塊1点	206~209・ 214~219・ 256~259・ 376	一部人為掘削か
13	92・93	88	94	SD338	4J-6E,7F	自然開析谷	縄文晩期	Vc	N-90°	(9.75)	1.50~ 4.27	(9.70)	0.45~ 3.95	0.08~ 0.23	2.67~ 2.70	弧状	3	レンズ状	>Pit426・559-SK276~ 279・351・446、 Pit280・291・433・485・ 487,SX340・343・434	土器(p110・237・312~316)、土器片 55点、石剣(s165)、磨石類(s166)、剥 片2点、砕片1点、礫120点、アスファル ト塊1点	207・213・ 219・259・ 260	
15・16	94	7・89	94・95	SD846	4J-2C・D,3D・E	溝状遺構	縄文晩期	Vc	N-56°-W	(18.91)	0.64~ 0.80	(18.41)	0.15~ 0.33	0.54~ 0.68	1.78~ 2.15	U字~ 台形状	4	レンズ状	>SK932<SK583・584・ 720・722・725・727・ 729・921,Pit585・709・ 763,SX762	土器(p182・317)、剥片(s107)、磨石類 (s167)、アスファルト塊2点	211・220・ 250・260	
16	94	7・90	95	SD917	4J-3E,4E	溝状遺構	縄文晩期	Vc	N-43°-W	6.79	0.60~ 1.38	5.67	0.28~ 0.68	0.12~ 0.44	2.00~ 2.45	台形状	5	斜位	<SK821・847・ 944,Pit854・885・ 918・924	土器(p318・319)、土器片4点	220	
15・16	94	7・90	95	SD927	4J-3D・E	溝状遺構	縄文晩期	Vc	N-64°-W	6.27	0.57~ 1.16	5.95	0.32~ 0.70	0.54~ 0.72	1.75~ 2.23	箱状	4	レンズ状	>SK891<SK715・774・ 881・887・992,Pit857・ 860・890・923・941	土器片1点、アスファルト塊1点		

別表2 上層遺構計測表

凡 例

- 1 観察表の記載順は遺構の種別ごと、番号順であり、あわせて分割図版No.・個別図版No.・写真図版No.・本文記載頁を明記し、索引としての役割をもたせてある。
- 2 遺構の分類及び項目・切り合い関係等は、本文第IV章の記述に対応する。
- 3 規模の()内数値は残存部からの復元推定値である。
- 4 重複関係の表示は、>…切る・<…切られる・=…不明。
- 5 住居(SI)の下端規模は床面の規模を示す。

柱穴列(SA)

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時 代	確認面	主軸方向	規 模 (m)		底面標高 (m)	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
										全 長	深 度				
100	110	97	95-96	SA	1541	3J-2H10・15・19・20	Ⅲ	V a	N-0°	3.60	0.28~0.37	2.88~2.80			
102	110	92-97	96	SA	1542	3J-5F23~25,5G16・21	Ⅲ	V b	N-79° -E	4.05	0.13~0.15	2.98~2.93			
105	110	96~98	96	SA	1543	3J-9G5,9H1・6・11	Ⅲ	V a	N-14° -W	4.80	0.25~0.42	3.06~2.90			
105	110	96・98・99	96	SA	1544	3J-9G14・19・24,10G4・5	Ⅲ	V a	N-8° -W	5.10	0.29~0.50	3.01~2.78	柱根(w1)	329	
105	111	96-99	96	SA	1545	3J-10H4・9	Ⅱ	V a	N-29° -W	2.40	0.43~0.75	2.78~2.51			
104	111	94・99	96	SA	1546	3J-9D9・10・13・14,9E6	I	V a・V b	N-68° -E	5.10	0.64~0.75	2.60~2.48	柱根(w2)	329	
106	111	94-99・100	96-97	SA	1547	3J-10E1・6・7・12・17	I	V a	N-11° -W	5.10	0.31~0.79	2.92~2.49	柱根(w3-4)	329	
106	112	94・100・101	97	SA	1548	3J-10D12・13・18・23,4J-1D3・4	I	V a	N-21° -W	7.50	0.18~0.75	3.05~2.53	柱根(w5)	330	
106	112	93・101	97	SA	1549	4J-1D25,1E21,2E1・2	I	V b	N-57° -W	4.20	0.74~0.80	2.28~2.20	柱根(w6-7)	330	

柱穴列ピット(P)

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構		グリッド	確認面	規 模 (m)				底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
							上 端		下 端			深 度	平 面							断 面
							長 軸	短 軸	長 軸	短 軸										
100	110		SA1541	P1	3J-2H10	V a	0.18	0.15	0.11	0.09	0.28	2.88	円形	U字状	-	-				
100	110			P2	3J-2H15	V a	0.15	0.13	0.10	0.09	0.28	2.87	円形	U字状	-	-				
100	110	97	SA1542	P3	3J-2H19・20	V a	0.29	0.28	0.10	0.09	0.37	2.80	円形	階段状	2	柱痕				
102	110	97		P1	3J-5F23・24	V b	0.27	0.21	0.14	0.13	0.13	2.98	円形	台形状	-	-				
102	110	97	P2	3J-5F24・25	V b	0.28	0.25	0.12	0.10	0.15	2.93	円形	台形状	-	-					
102	110	97	P3	3J-5G16・21	V b	0.26	0.24	0.12	0.11	0.14	2.94	円形	U字状	-	-					
105	110	97	SA1543	P1	3J-9G5	V a	(0.29)	0.22	0.17	(0.16)	0.42	2.90	楕円形	U字状	3	レンズ状	<Pit702			
105	110	98		P2	3J-9H6	V a	0.27	0.22	0.10	0.09	0.38	2.91	楕円形	U字状	5	柱痕				
105	110	98	P3	3J-9H11	V a	0.27	0.19	0.11	0.08	0.25	3.06	楕円形	U字状	2	柱痕					
105	110	98	SA1544	P1	3J-9G14	V a	0.32	0.31	0.12	0.09	0.35	2.99	略方形	階段状	6	柱痕				
105	110	98		P2	3J-9G19・24	V a	0.24	0.22	0.09	0.08	0.29	3.01	円形	U字状	-	-				
105	110	98・99	P3	3J-10G4・5	V a	0.23	0.18	0.16	0.15	0.50	2.78	円形	U字状	3	柱痕	>SE798,SX797	柱根(w1)	329		
105	111	99	SA1545	P1	3J-10H4	V a	0.34	0.33	0.14	0.12	0.75	2.51	隅丸方形	階段状	-	-	<SK628			
105	111	99		P2	3J-10H9	V a	0.34	0.32	0.12	0.10	0.43	2.78	隅丸方形	漏斗状	11	柱痕				
104	111	99	SA1546	P1	3J-9D13	V b	0.54	0.42	0.28	0.19	0.64	2.60	隅丸方形	台形状	1	柱痕	<SD800			
104	111	99		P2	3J-9E6	V a	0.53	0.53	0.27	0.25	0.75	2.48	隅丸方形	漏斗状	6	柱痕	<SD158	柱根(w2)	329	
106	111	99	SA1547	P1	3J-10E1	V a	0.32	0.26	0.14	0.12	0.31	2.92	楕円形	階段状	8	柱痕				
106	111	100		P2	3J-10E7・12	V a	0.34	0.29	0.23	0.17	0.58	2.66	円形	U字状	4	柱痕		柱根(w3)	329	
106	111	100		P3	3J-10E17	V a	0.31	0.29	0.21	0.15	0.78	2.49	円形	U字状	7	柱痕		柱根(w4)	329	
106	112	100	SA1548	P1	3J-10D12	V a	0.45	0.35	0.15	0.12	0.53	2.75	楕円形	U字状	-	-				
106	112	100		P2	3J-10D18	V a	0.50	0.45	0.37	0.29	0.75	2.53	円形	漏斗状	5	柱痕		柱根(w5)	330	
106	112	100		P3	3J-10D23	V a	0.32	0.29	0.15	0.10	0.48	2.76	円形	U字状	6	柱痕				
106	112	101	SA1549	P4	4J-1D4	V a	0.30	0.26	0.17	0.16	0.18	3.05	円形	U字状	5	柱痕				
106	112	101		P1	4J-1D25	V b	0.53	0.49	0.31	0.17	0.74	2.28	隅丸方形	漏斗状	3	柱痕		柱根(w6)	330	
106	112	101		P2	4J-2E2	V b	0.58	0.52	0.19	0.18	0.80	2.20	隅丸方形	漏斗状	3	柱痕		柱根(w7)	330	

掘立柱建物(SB)

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構	グリッド	時代	確認面	主軸方向	規 模				形 態	付帯施設	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
									桁 行		梁 行								身舎 面積
									間	(m)	間	(m)							
102	113	92・101	98	SB	1550	3J-5F25,6F4・5・8・9	Ⅲ	V a	N-64°-E	2間以上	(7.66)	2間以上	(4.54)	—	側柱	東西棟			
104	113	92・102	98	SB	1551	3J-6F12～14・16～19・21～24	Ⅲ	V a	N-85°-E	2間以上	(4.74)	2間	2.55	—	側柱	東西棟	南庇		
104	114	92・103・104	98	SB	1552	3J-6F21,7E10・14・15・19・ 20,7F1・2・6・7・11・12・16	Ⅱ	V a	N-48°-E	3間	7.80	2間以上	(4.30)	—	側柱	南北棟		須恵器大甕(17)	289
104	115	92・104・105	98・99	SB	1553	3J-7E14・15・18～20・23～25	Ⅱ	V a	N-85°-E	2間以上	(3.38)	3間	3.72	—	側柱	東西棟?			
104	115	92・106	99	SB	1554	3J-7E14・19・20・23～25,8E3～5	Ⅰ	V a・V b	N-7°-W	2間以上	(6.00)	2間	3.60	—	側柱	南北棟		土師器甕胴部片1点	
104	116	92・107	99	SB	1555	3J-7F4・5・9・10・14・15,7G1・2・ 6・7・11・12	Ⅳ	V a	N-0°	1間	3.30	1間	2.10	6.93	側柱	南北棟	東下屋?		
104	116	92・107・108	99	SB	1556	3J-8F2・3・7・8・12・13	Ⅲ	V a・V b	N-10°-W	2間	3.36	1間	1.80	6.23	側柱	南北棟			
104	117	92・108～110	100	SB	1557	3J-8F3～5・8～10・13・14	Ⅲ	V a・V b	N-80°-E	2間	3.90	2間	3.30	12.78	側柱	東西棟			
104 105	118	93・110～112	100	SB	1558	3J-7G15・20・25,7H11・12・16・ 17・21・22,8G5,8H1・2	Ⅱ	V a・V b	N-17°-W	3間	5.40	2間	3.90	21.06	側柱	南北棟			
104 105	118	93・112・113	100	SB	1559	3J-7H21～23,8H1～3・6～8	Ⅲ	V a	N-80°-E	2間	3.90	1間	2.70	10.53	側柱	東西棟	北庇		
105	119	93・113～116	100・101	SB	1560	3J-8G15・20,8H7・8・11～14・ 16～19・21・22	Ⅱ	V a	N-79°-E	3間	5.55	2間	3.90	21.65	片棟持柱	東西棟		土器片、土師器甕胴部 片、柱根	
105	120	93・116～118・ 153・154・174	101	SB	1561	3J-8G15・20・25,8H8・9・11～ 14・16～19・21～23	Ⅳ	V a	N-77°-E	3間	7.80	2間	3.60	28.08	棟持柱	東西棟		柱根(w8～10)	331
104	121	94・118・119	101	SB	1562	3J-8D20・25,8E16・21,9D4・ 5,9E1	Ⅰ	V a・V b	N-8°-W	1間以上	(4.20)	1間以上	(3.56)	—	側柱?	南北棟?	<SD800	土器小片2点、 柱根(w11)	331
104	121 122	95・119～121・198	101・102	SB	1563	3J-9E10・14・15・19・20・24・ 25,9F6・11・16・21・22,10E5・ 10,10F1・2・6・7	Ⅲ	V a	N-15°-W	3間	9.00	2間	3.90	34.69	総柱	南北棟		柱根(w12～19)	332～ 334
104	123 124	95・122～125・183	102	SB	1564	3J-9E15・20・25,9F7・11・12・16 ～18・21～24,10F1～4・6～9	Ⅳ	V a	N-15°-W	3間	8.55	2間	4.35	37.62	側柱	南北棟	南東1間下屋	柱根(w20)・ 礎盤(w21)	334
104 105	125	95・96・125・126	102	SB	1565	3J-9F20・25,9G16・ 21,10F5,10G1・2	Ⅳ	V a	N-9°-W	2間	4.00	1間	2.20	8.34	側柱	南北棟		珠洲焼甕(399)	305
104 105	125 126	95・96・126～128	102・103	SB	1566	3J-9G1～3・6～8・11～13・16 ～18・21～23	Ⅳ	V a	N-11°-W	3間	7.00	1間	3.60	25.20	側柱	南北棟		箸状木製品(w22)	334
105	127	96・129	103	SB	1567	3J-9H13～15・18～20・24	Ⅰ	V a・V b	N-45°-W	1間	2.70	1間	1.95	5.27	側柱	東西棟	南庇	土器片	
104 106	127	95・130	103	SB	1568	3J-9F21,10E3～5・9・10・14・ 15・19,10F1・6・7・11・12	Ⅰ	V a	N-14°-W	1間	5.10	1間	5.10	26.01	側柱	南北棟		磨石類(s2)、柱根	314
105	128	95・96・131・132	103	SB	1569	3J-10G3～5・7～10・12～15・ 18～20・23～25,10H11・16・21	Ⅳ	V a	N-12°-W	3間	7.05	1間	5.55	39.13	棟持柱	南北棟		柱根(w23～25)・ 用途不明品(w26)	335
105	129	96・133～135	103・104	SB	1570	3J-10H3・6～9・11～14・17 ～20・22～25,4J-1H3～5・9・ 10,11	Ⅱ	V a・V b	N-30°-W	4間	11.1	2間	4.35	48.29	側柱	南北棟		柱根(w27～31)、柱根	335・ 336
105 107	130	95・135～137	104	SB	1571	3J-10F23～25,4J-1F3～5・8～ 10・14,1G6	Ⅳ	V a	N-21°-W	2間	5.25	1間	4.20	21.69	側柱	南北棟		用途不明品(w32)	336
107	131	95・137・138	104	SB	1572	4J-1F5・8～10・13～15・18～20・ 24・25,1G1・6・11・16・21・22	Ⅲ	V a	N-7°-W	2間	6.60	2間	5.40	35.64	総柱	南北棟			
105 107	132	96・138～140	104・105	SB	1573	4J-1G15・19・20・24・25,1H11・ 12・16・17・21・22,2G5,2H1	Ⅲ	V a	N-70°-E	1間	4.05	1間	5.70	23.09	棟持柱	南北棟			
105 107	133	96・140・141	105	SB	1574	4J-1H3・7～9・12～14・17～ 19・22・23	Ⅰ	V a	N-7°-W	3間	7.65	1間	3.90	—	棟持柱	南北棟			
106 107	133	93・141・142	105	SB	1575	4J-3D4・5・9・10・14・15,4E1・6・ 11	Ⅰ	V b	N-88°-E	1間	2.70	1間	2.55	6.89	側柱	東西棟		柱根(w33)	336

掘立柱建物柱穴(P)

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構	グリッド	確認面	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
						上 端		下 端		深度		平 面	断 面						
						長軸	短軸	長軸	短軸										
102	113	101	SB1550	P1	3J-5F25	V a	0.26	0.22	0.11	0.07	0.27	3.02	円形	U字状	-	-			
102	113			P2	3J-6F5	V a	0.17	0.16	0.06	0.05	0.25	3.06	円形	U字状	-	-			
102	113	101		P3	3J-6F4・9	V a	0.23	0.22	0.11	0.08	0.20	3.10	円形	階段状	-	-			
102	113			P4	3J-6F8	V a	0.19	0.13	0.08	0.07	0.15	3.16	楕円形	U字状	-	-			
104	113	102	SB1551	P1	3J-6F12・13	V a	0.28	0.24	0.14	0.12	0.17	3.11	円形	U字状	-	-			
104	113	102		P2	3J-6F13・14	V a	0.35	0.29	0.14	0.12	0.46	2.83	円形	U字状	-	柱痕			
104	113	102		P3	3J-6F18・19	V b	0.31	0.29	0.18	0.15	0.26	3.04	円形	U字状	-	-			
104	113	102		P4	3J-6F18・19	V a	0.23	0.23	0.19	0.17	0.42	2.90	円形	U字状	-	-			
104	113			P5	3J-6F17・18	V a	0.21	0.18	0.15	0.14	0.46	2.82	円形	U字状	1	単層	<SK15		
104	113	102		P6	3J-6F17・22	V b	0.42	0.28	0.18	0.14	0.49	2.83	楕円形	階段状	4	柱痕			
104	113	102		P7	3J-6F23・24	V a	0.23	0.19	0.14	0.12	0.15	3.16	円形	台形状	-	-			
104	113			P8	3J-6F21・22	V a	0.21	0.20	0.09	0.07	0.15	3.16	円形	台形状	-	-			
104	114	103	SB1552	P1	3J-7F1・2	V a	0.46	0.32	0.23	0.21	0.44	2.90	楕円形	台形状	-	-	<Pit146	須恵器大甕(17)	289
104	114	103		P2	3J-7F7	V b	0.26	0.26	0.13	0.12	0.39	2.95	円形	台形状	-	-	<SE57		
104	114	103		P3	3J-7F6・7・11・12	V b	0.35	0.33	0.11	0.09	0.65	2.70	円形	U字状	7	レンズ状			
104	114	103		P4	3J-7E15・20,7F11・16	V a	0.35	0.32	0.15	0.13	0.42	2.93	円形	台形状	-	-			
104	114	103・104		P5	3J-7E20	V a	0.25	0.21	0.17	0.14	0.22	3.13	円形	台形状	5	ブロック状	<Pit547		
104	114	104		P6	3J-7E19	V a	0.24	0.23	0.16	0.15	0.55	2.79	円形	U字状	7	レンズ状	>Pit1516		
104	115	104	SB1553	P1	3J-7E14・15	V a	0.32	0.27	0.18	0.17	0.47	2.81	円形	U字状	9	柱痕			
104	115	104		P2	3J-7E15	V a	0.25	0.23	0.17	0.13	0.34	2.97	円形	U字状	4	柱痕			
104	115	104・105		P3	3J-7E20	V a	0.20	0.17	0.10	0.09	0.33	2.95	円形	U字状	5	柱痕			
104	115	105		P4	3J-7E20	V a	0.17	0.15	0.10	0.07	0.23	3.06	円形	U字状	5	ブロック状			
104	115	105		P5	3J-7E20	V a	0.28	0.25	0.21	0.20	0.32	2.96	円形	U字状	3	柱痕	>Pit747		
104	115	105		P6	3J-7E25	V a	0.23	0.22	0.08	0.06	0.51	2.89	円形	階段状	10	柱痕			
104	115	105		P7	3J-7E24	V a	0.28	0.26	0.14	0.09	0.38	2.93	円形	U字状	-	-			
104	115		SB1554	P1	3J-7E14	V b	0.34	0.33	0.27	0.20	(0.68)	2.66	円形	U字状	1	単層			
104	115	106		P2	3J-7E19・20	V a	0.29	0.28	0.19	0.11	0.44	2.89	円形	箱状	5	ブロック状			
104	115	106		P3	3J-7E24・25,8E4・5	V a	0.46	0.40	0.15	0.11	0.61	2.71	方形	台形状	6	ブロック状			
104	115	106		P4	3J-8E4	V a	0.48	0.41	0.15	0.12	0.46	2.85	方形	台形状	4	柱痕		土師器藥胴部片1点	
104	115	106		P5	3J-8E3	V a	0.31	0.27	0.19	0.13	0.33	2.99	円形	U字状	4	柱痕	>SK889		
104	116	107	SB1555	P1	3J-7F4	V a	0.32	0.27	0.08	0.07	0.38	2.83	円形	漏斗状	-	-			
104	116	107		P2	3J-7F5,7G1	V a	0.33	0.29	0.17	0.13	0.37	2.89	円形	漏斗状	-	-			
104	116	107		P3	3J-7F15,7G11	V a	0.42	0.36	0.12	0.11	0.27	2.98	円形	漏斗状	-	-			
104	116	107		P4	3J-7F14	V a	0.39	0.37	0.16	0.13	0.30	2.95	円形	U字状	-	-			
104	116			P5	3J-7F5,7G1	V a	0.31	0.26	0.06	0.05	0.33	2.95	円形	U字状	-	-			
104	116			P6	3J-7G1・2	V a	0.31	0.27	0.21	0.19	0.32	2.96	円形	U字状	-	-			
104	116			P7	3J-7G6	V a	0.12	0.11	0.06	0.05	0.08	3.18	円形	U字状	-	-			
104	116	107		P8	3J-7G11・12	V a	0.26	0.22	0.13	0.12	0.31	2.96	円形	U字状	-	-			
104	116	107	SB1556	P1	3J-8F2	V a	0.35	0.31	0.10	0.08	0.64	2.68	円形	U字状	7	柱痕	<Pit658		
104	116	107		P2	3J-8F3	V a	0.32	0.25	0.18	0.13	0.28	3.03	楕円形	U字状	2	レンズ状			
104	116	108		P3	3J-8F8	V a	0.33	0.32	0.19	0.16	0.61	2.71	円形	U字状	9	柱痕			
104	116			P4	3J-8F13	V a	0.21	0.20	0.11	0.09	0.31	3.02	円形	U字状	-	-	<SX521		
104	116	108		P5	3J-8F12	V a	0.32	0.29	0.17	0.15	0.39	2.93	円形	U字状	11	柱痕			
104	116	108		P6	3J-8F7	V a	0.23	0.18	0.09	0.08	0.33	2.99	円形	U字状	4	柱痕	<Pit642		

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構	グリッド	確認面	規 模 (m)				底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
						上 端		下 端			深度	平 面							断 面
						長軸	短軸	長軸	短軸										
104	117	108	SB1557	P1	3J-8F3	V a	0.21	0.18	0.07	0.06	0.27	3.08	円形	U字状	3	レンズ状			
104	117	109		P2	3J-8F4	V a	0.31	0.30	0.12	0.11	0.59	2.75	円形	U字状	-	-			
104	117	109		P3	3J-8F5	V a	0.28	0.27	0.14	0.11	0.43	2.90	円形	U字状	4	柱痕			
104	117	109		P4	3J-8F5	V a	0.30	0.23	0.21	0.16	0.47	2.85	楕円形	U字状	8	柱痕			
104	117	109		P5	3J-8F10	V a	0.32	0.28	0.19	0.16	0.68	2.65	円形	U字状	-	-			
104	117	109		P6	3J-8F9・10	V a	0.34	0.29	0.09	0.08	0.85	2.43	円形	漏斗状	-	-			
104	117	110		P7	3J-8F8・13	V a	0.29	0.28	0.16	0.15	0.26	3.05	円形	U字状	-	-	<SX521		
104	117	110		P8	3J-8F8	V a	0.33	0.27	0.10	0.09	0.51	2.82	楕円形	漏斗状	11	柱痕			
104	118	110	SB1558	P1	3J-7G20	V b	0.29	0.24	0.18	0.15	0.32	2.90	隅丸方形	U字状	3	柱痕			
104	118	110		P2	3J-7H11	V b	0.26	0.25	0.16	0.15	0.49	2.73	隅丸方形	U字状	4	柱痕			
104	118	110・111		P3	3J-7H12	V b	0.30	0.28	0.15	0.13	0.39	2.83	隅丸方形	U字状	3	柱痕			
104・105	118	111		P4	3J-7H17	V b	0.33	0.31	0.17	0.15	0.25	2.98	隅丸方形	箱状	3	柱痕			
104・105	118	111・112		P5	3J-7H22	V b	0.29	0.27	0.16	0.14	0.35	2.85	隅丸方形	箱状	3	柱痕			
105	118	112		P6	3J-8H1・2	V b	0.32	0.31	0.16	0.15	0.45	2.78	隅丸方形	U字状	5	柱痕			
104・105	118			P7	3J-8G5,8H1	V a	0.33	0.25	0.18	0.16	0.33	2.88	楕円形	U字状	-	-			
104	118	112		P8	3J-7G25	V b	0.37	0.36	0.24	0.19	0.33	2.88	隅丸方形	U字状	4	柱痕			
104	118	112		P9	3J-7G20・25	V b	0.27	0.24	0.14	0.13	0.27	2.95	隅丸方形	U字状	2	柱痕			
104・105	118	112	SB1559	P1	3J-8H1	V a	0.41	0.27	0.08	0.07	0.54	2.77	楕円形	台形状	-	-			
105	118	113		P2	3J-8H2	V a	0.37	0.26	0.14	0.12	0.63	2.68	楕円形	U字状	3	柱痕			
105	118	113		P3	3J-7H23,8H3	V a	0.29	0.27	0.16	0.09	0.41	2.94	隅丸方形	階段状	-	-			
105	118	113		P4	3J-8H8	V a	0.31	0.29	0.17	0.16	0.46	2.89	隅丸方形	台形状	-	-			
105	118			P5	3J-8H7	V a	0.48	0.33	0.21	0.18	0.60	2.74	楕円形	台形状	-	-			
105	118			P6	3J-8H6	V a	0.40	0.37	0.30	0.26	0.50	2.83	隅丸方形	台形状	-	-			
104	118	113		P7	3J-7H21	V a	0.42	0.30	0.18	0.16	0.75	2.59	隅丸方形	台形状	-	-			
104・105	118	113		P8	3J-7H21・22	V a	0.32	0.29	0.13	0.10	0.40	2.93	隅丸方形	階段状	-	-			
105	118	113		P9	3J-7H22	V a	0.28	0.24	0.12	0.10	0.25	3.08	隅丸方形	台形状	-	-			
105	119	113・114	SB1560	P1	3J-8G15	V a	0.33	0.31	0.24	0.23	0.55	2.82	円形	U字状	6	柱痕		柱根	
105	119	114		P2	3J-8H11	V a	0.24	0.21	0.13	0.12	0.86	2.52	円形	U字状	4	柱痕	>SD158	土師器甕胴部片	
105	119	114		P3	3J-8H7・12	V a	0.25	0.22	0.19	0.17	(0.54)	(2.84)	円形	U字状	-	-			
105	119	114		P4	3J-8H8	V a	0.56	0.44	0.26	0.23	(0.56)	(2.78)	楕円形	U字状	-	-	>SD158		
105	119	114		P5	3J-8H14	V b	0.30	0.21	0.09	0.08	0.42	2.94	楕円形	U字状	-	-			
105	119	115		P6	3J-8H18・19	V a	0.32	0.27	0.26	0.18	0.39	2.97	円形	U字状	4	柱痕			
105	119	115		P7	3J-8H17・22	V a	0.34	0.24	0.18	0.17	0.35	3.02	楕円形	U字状	5	柱痕			
105	119	115		P8	3J-8H21	V a	0.28	0.26	0.14	0.12	0.42	2.95	円形	U字状	7	柱痕			
105	119	115		P9	3J-8H21	V a	0.31	0.27	0.16	0.13	0.44	2.91	円形	U字状	6	柱痕		土器片	
105	119	116		P10	3J-8G20,8H16	V a	0.25	0.22	0.13	0.12	0.23	3.13	円形	U字状	2	柱痕		柱根	
105	120	116	SB1561	P1	3J-8G15	V a	0.36	0.31	0.22	0.21	0.44	2.87	隅丸方形	U字状	11	柱痕		柱根(w8)	331
105	120	116		P2	3J-8H11	V b	0.34	0.29	0.25	0.23	0.69	2.61	円形	U字状	-	-	>SD158		
105	120	116		P3	3J-8H12	V a	0.26	0.25	0.11	0.09	0.39	2.91	円形	U字状	-	-			
105	120	116・117		P4	3J-8H9・14	V b	0.39	0.37	0.19	0.14	(0.69)	2.82	隅丸方形	U字状	4	柱痕			
105	120	117		P5	3J-8H14	V b	0.30	0.29	0.13	0.12	(0.50)	2.80	円形	U字状	-	-			
105	120			P6	3J-8H19	V b	0.29	0.25	0.08	0.07	0.37	2.91	円形	U字状	-	-			
105	120	117		P7	3J-8H18・23	V a	0.48	0.39	0.19	0.17	0.48	2.80	楕円形	U字状	-	-			
105	120	117		P8	3J-8H21・22	V a	0.39	0.33	0.20	0.18	0.83	2.49	隅丸方形	U字状	6	柱痕	<Pit613	柱根(w9)	331
105	120	117・118		P9	3J8G25	V a	0.30	0.30	0.15	0.14	0.61	2.70	隅丸方形	U字状	4	柱痕		柱根(w10)	331
105	120	118・153・154・174		P10	3J-8G20	V a	0.52	0.32	0.08	0.07	0.39	2.92	長楕円形	台形状	10	柱痕	>SE556,SK555		
104	121	118	SB1562	P1	3J-8E16・21	V a	0.54	0.44	0.38	0.29	0.61	2.65	隅丸長方形	台形状	12	柱痕			
104	121	118		P2	3J-9E1	V a	0.70	0.54	0.20	0.18	0.55	2.73	隅丸長方形	漏斗状	4	柱痕		土器小片2点	
104	121	118・119		P3	3J-9D5	V a	(0.43)	(0.42)	0.25	0.18	0.70	2.55	隅丸方形	漏斗状	7	柱痕	<SD800	柱根(w11)	331

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構	グリッド	確認面	規 模 (m)				底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
						上 端		下 端			深度	平 面							断 面
						長軸	短軸	長軸	短軸										
104	121・122	119	SB1563	P1	3J-9E14	V a	0.26	0.25	0.11	0.08	0.33	2.92	隅丸方形	U字状	5	柱痕	>SX841		
104	121・122			P2	3J-9E10・15	V a	0.20	0.19	0.11	0.10	0.45	2.78	隅丸方形	U字状	1	単層	>SE853	柱根(w12)	332
104	121・122	119		P3	3J-9F6	V a	0.26	0.24	0.14	0.12	0.53	2.73	隅丸方形	U字状	10	柱痕		柱根(w13)	332
104	121・122	119		P4	3J-9F11・16	V a	0.24	0.22	0.15	0.14	0.38	2.88	隅丸方形	U字状	3	柱痕		柱根(w14)	332
104	121・122	120		P5	3J-9F21・22	V a	0.26	0.24	0.16	0.14	0.43	2.87	隅丸方形	漏斗状	5	柱痕	<SD869	柱根(w15)	332
104	121・122	120		P6	3J-10F2・7	V a	0.32	0.25	0.14	0.13	0.47	2.85	隅丸方形	U字状	5	柱痕	<SD869	柱根(w16)	333
104	121・122	120		P7	3J-10F6	V b	0.22	0.19	0.12	0.11	0.43	2.87	隅丸方形	U字状	5	柱痕		土器片1点,柱根(w17)	333
104	121・122	120		P8	3J-10E10	V a	0.23	0.22	0.12	0.10	0.35	2.96	隅丸方形	U字状	2	柱痕		柱根(w18)	334
104	121・122	121		P9	3J-9E25,10E5	V a	0.30	0.29	0.16	0.13	0.63	2.97	隅丸方形	U字状	2	柱痕	>Pit919	柱根(w19)	334
104	121・122	121・198		P10	3J-9E19	V a	0.29	0.24	0.20	0.18	0.53	2.72	隅丸方形	U字状	10	柱痕	>SX871		
104	121・122	121		P11	3J-9E20	V a	0.28	0.25	0.12	0.11	0.42	2.84	隅丸方形	漏斗状	5	柱痕	<Pit1168		
104	121・122	121		P12	3J-9F21	V a	0.23	0.20	0.15	0.11	0.37	2.95	隅丸方形	U字状	5	柱痕			
104	123・124	122	SB1564	P1	3J-9E15	V a	0.24	0.15	0.11	0.10	0.18	3.07	長楕円形	U字状	4	柱痕	>SE853		
104	123・124	122		P2	3J-9F11	V a	0.31	0.26	0.19	0.17	0.31	2.92	円形	U字状	5	レンズ状			
104	123・124	122		P3	3J-9F11	V a	0.18	0.16	0.11	0.08	0.22	3.04	円形	U字状	4	柱痕			
104	123・124	122		P4	3J-9F7・12	V a	0.29	0.26	0.19	0.17	0.30	2.95	円形	U字状	2	柱痕	Pit539		
104	123・124	123		P5	3J-9F12・13	V a	0.32	0.32	0.24	0.21	0.14	3.15	円形	台形状	4	柱痕			
104	123・124	123		P6	3J-9F18	V a	0.52	0.49	0.24	0.19	0.59	2.72	隅丸方形	漏斗状	6	柱痕		柱根(w20)	334
104	123・124	123		P7	3J-9F23	V a	0.35	0.28	0.23	0.20	0.21	3.10	円形	台形状	5	柱痕			
104	123・124	123・124・183		P8	3J-10F8	V a	0.37	0.35	0.25	0.22	0.38	2.92	隅丸方形	U字状	3	レンズ状	<Pit896		
104	123・124	124		P9	3J-10F7	V a	0.21	0.20	0.13	0.10	0.26	3.09	円形	U字状	3	柱痕	<SD869		
104	123・124	124		P10	3J-10F6	V a	0.23	0.22	0.15	0.14	0.21	3.10	円形	U字状	4	柱痕			
104	123・124	124		P11	3J-10F1	V a	0.28	0.25	0.14	0.11	0.36	2.99	円形	U字状	5	柱痕			
104	123・124	124		P12	3J-9E20,9F16	V a	0.30	0.23	0.14	0.11	0.28	3.00	円形	U字状	4	柱痕			
104	123・124	124		P13	3J-9F24	V a	0.30	0.28	0.14	0.14	0.37	2.95	円形	U字状	-	-			
104	123・124	125		P14	3J-10F4	V a	0.31	0.25	0.18	0.15	0.55	2.78	楕円形	U字状	6	柱痕		礎盤(w21)	334
104	125	125	SB1565	P1	3J-9F20	V a	0.23	0.18	0.08	0.06	0.20	3.15	楕円形	階段状	3	柱痕	<SK691		
104・105	125	125		P2	3J-9G16	V a	0.28	0.20	0.18	0.12	0.12	3.24	楕円形	U字状	2	レンズ状	>Pit684	珠洲焼甕(399)	305
105	125	125・126		P3	3J-9G21	V a	0.32	0.29	0.13	0.12	0.33	3.00	円形	U字状	6	柱痕			
105	125	126		P4	3J-10G1・2	V a	0.19	0.17	0.11	0.08	0.30	3.04	円形	U字状	4	柱痕			
105	125	126		P5	3J-10F5	V a	0.28	0.23	0.19	0.17	0.67	2.68	楕円形	U字状	4	レンズ状			
104・105	125	126		P6	3J-9F25,9G21	V b	0.55	0.47	0.30	0.26	(0.89)	2.43	隅丸方形	U字状	2	レンズ状	>SX1477		
104	125・126	126・127	SB1566	P1	3J-9G1・6	V a	0.31	0.28	0.17	0.15	0.77	2.58	円形	U字状	8	レンズ状			
104・105	125・126	127		P2	3J-9G2・3	V a	0.36	0.34	0.15	0.12	0.79	2.55	円形	U字状	4	レンズ状			
105	125・126	127		P3	3J-9G8	V a	0.39	0.33	0.11	0.11	0.85	2.51	楕円形	U字状	5	柱痕			
105	125・126	127		P4	3J-9G13・18	V a	0.29	0.27	0.19	0.17	0.74	2.59	円形	台形状	9	柱痕			
105	125・126	127・128		P5	3J-9G18・23	V a	0.31	0.27	0.15	0.12	0.64	2.70	円形	U字状	10	ブロック状			
105	125・126	128		P6	3J-9G21・22	V a	0.34	0.27	0.12	0.10	0.97	2.38	楕円形	U字状	7	レンズ状			
104・105	125・126	128		P7	3J-9G16	V a	0.30	0.28	0.18	0.14	0.84	2.53	円形	U字状	6	柱痕	<Pit683		
104	125・126	128		P8	3J-9G11	V a	0.34	0.33	0.17	0.16	0.95	2.41	円形	U字状	10	レンズ状		箸状木製品(w22)	334
105	127	129	SB1567	P1	3J-9H14	V a	0.24	0.16	0.12	0.09	0.30	2.89	楕円形	U字状	3	レンズ状			
105	127	129		P2	3J-9H20	V b	0.23	0.22	0.16	0.15	(0.46)	2.75	方形	漏斗状	2	柱痕			
105	127	129		P3	3J-9H19	V a	0.19	0.19	0.12	0.12	0.35	2.89	円形	U字状	3	ブロック状	<SD157		
105	127	129		P4	3J-9H13	V a	0.23	0.22	0.07	0.06	0.38	2.82	円形	U字状	-	-			
105	127	129		P5	3J-9H18	V a	0.26	0.24	0.19	0.17	0.34	2.87	方形	U字状	1	単層		土器片	
104・106	127	130	SB1568	P1	3J-10E3・4	V a	0.28	0.24	0.18	0.17	0.46	2.80	円形	漏斗状	3	柱痕		柱根	
104	127	130		P2	3J-9F21	V a	0.26	0.25	0.17	0.15	0.30	3.01	円形	台形状	6	柱痕			
104・106	127	130		P3	3J-10F12	V a	0.35	0.28	0.21	0.19	0.29	3.05	楕円形	台形状	6	ブロック状			
106	127	130		P4	3J-10E14・19	V a	0.31	0.30	0.16	0.13	0.22	3.07	円形	台形状	5	柱痕		磨石類(s2)	314

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構	グリッド	確認面	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
						上 端		下 端		深度		平 面	断 面							
						長軸	短軸	長軸	短軸											
105	128	131	SB1569	P1	3J-10G7	V a	0.26	0.20	0.12	0.08	0.52	2.81	楕円形	U字状	5	柱痕		柱根(w23)	335	
105	128	131		P2	3J-10G3・4	V a	0.23	0.22	0.13	0.10	0.42	2.89	円形	U字状	6	ブロック状				
105	128	131		P3	3J-10G5	V a	0.10	0.09	0.08	0.06	0.78	2.48	円形	U字状	2	柱痕		柱根(w24)	335	
105	128	131		P4	3J-10G15,10H11	V a	0.33	0.27	0.15	0.14	0.42	2.91	楕円形	U字状	5	柱痕		用途不明品(w26)	335	
105	128	131・132		P5	3J-10G24・25	V a	0.31	0.23	0.15	0.12	0.25	3.01	楕円形	U字状	4	柱痕				
105	128	132		P6	3J-10G23	V a	0.30	0.29	0.21	0.19	0.19	3.11	円形	台形状	4	ブロック状				
105	128	132		P7	3J-10G18	V a	0.23	0.22	0.12	0.11	0.72	2.60	円形	U字状	2	柱痕		柱根(w25)	335	
105	128	132		P8	3J-10G13	V a	0.26	0.25	0.18	0.14	0.36	2.97	円形	U字状	5	ブロック状				
105	129	133	SB1570	P1	3J-10H6	V a	0.27	0.25	0.17	0.09	0.56	2.73	隅丸方形	U字状	8	柱痕		柱根(w27)	335	
105	129	133		P2	3J-10H7	V a	0.32	0.27	0.14	0.07	0.91	2.38	円形	U字状	5	柱痕		柱根(w28)	335	
105	129	133		P3	3J-10H3	V a	0.43	0.34	0.19	0.17	0.61	2.63	隅丸方形	U字状	6	柱痕		柱根(w29)	336	
105	129	134		P4	3J-10H9・14	V a	0.31	0.26	0.22	0.16	0.66	2.65	円形	U字状	3	柱痕		柱根(w30)	336	
105	129	134		P5	3J-10H19	V a	0.39	0.35	0.19	0.18	0.54	2.70	円形	U字状	3	柱痕		柱根		
105	129	134		P6	3J-10H25	V a	0.34	0.30	0.20	0.16	0.49	2.77	円形	U字状	7	柱痕		柱根(w31)	336	
105	129			P7	4J-1H10	V b	0.17	0.10	0.05	0.03	(0.38)	2.95	長楕円形	U字状	1	単層				
105	129	135		P8	4J-1H9	V a	0.28	0.22	0.23	0.16	0.20	3.09	楕円形	U字状	5	柱痕				
105	129	135		P9	4J-1H3	V a	0.31	0.29	0.19	0.16	0.48	2.79	円形	U字状	10	柱痕				
105	129	135		P10	3J-10H22・23	V b	0.30	0.31	0.26	0.24	(0.49)	2.79	円形	台形状	2	柱痕				
105	129	135		P11	3J-10H12・17	V a	0.37	0.35	0.14	0.12	0.56	2.73	円形	U字状	1	単層				
107	130	135	SB1571	P1	3J-10F23	V a	0.38	0.36	0.29	0.24	0.32	2.99	円形	U字状	-	-				
105・107	130	136		P2	3J-10F25	V a	0.31	0.26	0.18	0.16	0.44	2.87	円形	U字状	5	柱痕				
105・107	130	136		P3	4J-1F5	V a	0.26	0.23	0.13	0.12	0.28	2.93	円形	U字状	-	-		用途不明品(w32)	336	
107	130	136		P4	4J-1G6	V a	0.48	0.48	0.36	0.32	0.34	2.92	円形	U字状	4	柱痕	<Pit1064			
107	130	136		P5	4J-1F14	V a	0.31	0.26	0.23	0.13	0.55	2.74	円形	U字状	7	柱痕	>Pit1241			
107	130	137		P6	4J-1F3	V a	0.29	0.27	0.21	0.15	0.25	3.06	円形	U字状	4	柱痕				
107	131	137	SB1572	P1	4J-1F8	V a	0.28	0.26	0.15	0.13	0.24	3.07	円形	台形状	2	レンズ状				
107	131	137		P2	4J-1G1	V a	0.26	0.26	0.16	0.14	0.16	3.06	円形	台形状	2	水平				
107	131	137		P3	4J-1G21・22	V a	0.24	0.22	0.15	0.13	0.11	3.13	円形	半円状	3	ブロック状	<Pit1158			
107	131	138		P4	4J-1F25	V a	0.21	0.21	0.16	0.14	0.25	2.99	円形	台形状	3	水平				
107	131	138		P5	4J-1F24	V a	0.28	0.27	0.19	0.17	0.34	2.91	円形	箱状	6	ブロック状				
107	131	138		P6	4J-1F13・14	V a	0.30	0.24	0.10	0.09	0.27	2.98	楕円形	漏斗状	4	柱痕				
107	131	138		P7	4J-1F15	V a	0.41	0.30	0.15	0.15	0.18	3.08	楕円形	半円状	6	柱痕				
107	132	138・139	SB1573	P1	4J-1G19	V a	0.32	0.24	0.11	0.10	0.46	2.78	楕円形	U字状	6	柱痕				
105・107	132	139		P2	4J-1G15	V a	0.16	0.14	0.08	0.06	0.32	2.95	円形	U字状	5	柱痕				
105	132	139		P3	4J-1H12	V a	0.27	0.25	0.12	0.09	0.57	2.71	円形	U字状	5	柱痕				
107	132	139		P4	4J-1H22	V a	0.26	0.25	0.14	0.11	0.42	2.86	円形	U字状	10	柱痕				
107	132	139・140		P5	4J-1H21,2H1	V a	0.22	0.20	0.13	0.12	0.45	2.81	円形	U字状	7	柱痕				
107	132	140		P6	4J-2G5	V a	0.30	0.24	0.12	0.12	0.51	2.75	円形	U字状	6	柱痕				
105	133	140	SB1574	P1	4J-1H7	V a	0.43	0.38	0.31	0.25	0.24	3.06	円形	台形状	4	水平				
105	133	140		P2	4J-1H3・8	V a	0.16	0.13	0.11	0.07	0.12	3.18	楕円形	U字状	3	水平				
107	133	140・141		P3	4J-1H23	V a	0.31	0.27	0.15	0.14	0.60	2.68	円形	漏斗状	8	柱痕				
105・107	133	141		P4	4J-1H17	V a	0.30	0.25	0.23	0.17	0.34	2.98	円形	台形状	5	柱痕				
105	133	141	SB1575	P5	4J-1H12	V a	0.24	0.21	0.10	0.09	0.58	2.73	円形	U字状	5	柱痕				
106	133	141		P1	4J-3D4	V b	0.29	0.23	0.08	0.06	(0.37)	2.67	隅丸方形	漏斗状	5	柱痕				
106・107	133	141・142		P2	4J-3E1	V a	0.33	0.32	0.25	0.24	0.30	2.75	隅丸方形	漏斗状	7	柱痕				
106・107	133	142	P3	4J-3D14	V b	0.23	0.21	0.14	0.13	(0.32)	2.74	隅丸方形	台形状	2	柱痕		柱根(w33)	336		

ピット(Pit)

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構	グリッド	確認面	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
						上 端		下 端		深 度		平 面	断 面						
						長 軸	短 軸	長 軸	短 軸										
102			Pit 1	3J-5F25	V a	0.24	0.23	0.07	0.06	-	-	隅丸方形	-	-					
102	134		Pit 2	3J-5F25	V a	0.31	0.29	0.14	0.12	0.44	2.87	隅丸方形	台形状	-	-				
102			Pit 3	3J-6F4	V a	0.23	(0.19)	0.15	0.12	-	-	楕円形	-	-	<Pit4				
102			Pit 4	3J-6F4	V a	0.27	0.27	0.05	0.04	-	-	隅丸方形	-	-	>Pit3				
104			Pit 7	3J-6F8	V a	0.29	0.23	0.12	0.10	-	-	楕円形	-	-	カクラン				
102・104			Pit 8	3J-6F8	V a	0.29	0.27	0.22	0.20	-	-	方形	-	-					
102・104	134		Pit 9	3J-6F9	V a	0.35	0.31	0.22	0.19	0.36	2.96	円形	箱状	-	-				
104			Pit 18	3J-6F13	V a	0.13	0.11	0.05	0.04	-	-	円形	-	-					
104			Pit 19	3J-6F13	V a	0.22	0.18	0.13	0.10	-	-	円形	-	-					
104			Pit 20	3J-6F13	V a	0.19	0.19	0.15	0.13	-	-	円形	-	-					
102			Pit 21	3J-6F4・5	V a	0.36	0.22	0.07	0.05	-	-	不整形	-	-					
102・104	134		Pit 24	3J-6F9	V a	0.28	0.23	0.20	0.16	0.34	3.00	楕円形	箱状	-	-				
102・104			Pit 25	3J-6F9	V a	0.22	0.14	0.14	0.09	-	-	楕円形	-	-					
104			Pit 26	3J-6F14	V a	0.21	0.17	0.12	0.07	-	-	楕円形	-	-					
104			Pit 27	3J-6F19	V a	0.28	0.24	0.18	0.16	-	-	楕円形	-	-					
104			Pit 29	3J-6F23	V a	0.18	0.18	0.11	0.09	-	-	円形	-	-					
104			Pit 31	3J-6F24	V a	0.11	0.11	0.07	0.06	-	-	円形	-	-					
104			Pit 32	3J-6F24	V a	0.19	0.19	0.12	0.10	-	-	円形	-	-					
102			Pit 33	3J-6F10	V a	0.17	0.15	0.10	0.07	-	-	楕円形	-	-					
102			Pit 34	3J-6F9・10	V a	0.13	0.11	0.05	0.05	0.15	-	円形	箱状	-	-				
102・104	134		Pit 35	3J-6F9・14・15	V a	0.25	0.22	0.13	0.12	0.39	2.95	隅丸方形	箱状	-	-				
104			Pit 36	3J-6F20	V a	0.15	0.12	0.07	0.06	-	-	円形	-	-					
102			Pit 37	3J-6F10	V a	0.22	0.15	0.15	0.08	-	-	長楕円形	-	-					
102			Pit 38	3J-6F10	V a	0.09	0.07	0.03	0.03	-	-	楕円形	-	-					
102	134		Pit 39	3J-6F10	V a	0.36	0.34	0.22	0.21	0.43	2.92	円形	U字状	-	-				
102・104			Pit 41	3J-6F15	V a	0.29	0.26	0.17	0.13	-	-	円形	-	-					
102			Pit 42	3J-6F5	V a	0.27	0.27	0.07	0.05	-	-	円形	-	-					
102			Pit 44	3J-6F5	V a	0.26	0.19	0.21	0.14	-	-	楕円形	-	-					
102			Pit 45	3J-6F10	V a	0.14	0.09	0.07	0.06	-	-	楕円形	-	-					
102			Pit 46	3J-6F10	V a	0.21	0.20	0.06	0.06	-	-	円形	-	-					
102	134		Pit 47	3J-6F10・15	V a	0.41	0.37	0.19	0.19	0.44	2.90	隅丸方形	台形状	-	-	須恵器大甕(18)	289		
104			Pit 50	3J-7F1	V a	0.27	0.25	0.08	0.08	-	-	円形	階段状	-	-				
104			Pit 51	3J-7F1	V a	0.29	0.27	0.11	0.05	-	-	円形	階段状	-	-				
104	114		Pit 52	3J-7F2	V a	0.24	0.23	0.07	0.05	(0.18)	-	円形	階段状	-	-				
104	114		Pit 53	3J-7F2	V a	0.17	0.15	0.12	0.11	(0.19)	-	楕円形	U字状	-	-				
104			Pit 55	3J-7F2	V a	0.24	0.23	0.06	0.05	-	-	円形	階段状	-	-				
104			Pit 59	3J-7F8・9	V a	0.29	0.26	0.14	0.11	-	-	円形	-	-					
104			Pit 60	3J-7F8	V a	0.26	0.24	0.17	0.17	-	-	方形	-	-					
104			Pit 68	3J-7F15	V a	0.20	0.18	0.08	0.06	-	-	円形	-	-					
102			Pit 70	3J-5G9	V a	0.37	0.35	0.12	0.09	-	-	長方形	-	-					
102			Pit 72	3J-6G1	V a	0.27	0.25	0.15	0.14	-	-	円形	-	-	>SD157	須恵器大甕(19・20)	289		
102			Pit 74	3J-6G6	V a	0.18	0.15	0.06	0.05	-	-	円形	-	-					
102・104			Pit 77	3J-6F15・20,6G11・16	V a	0.50	0.39	0.33	0.25	-	-	楕円形	-	-					
102			Pit 82	3J-6G2	V a	0.23	0.23	0.12	0.11	-	-	円形	-	-	>SD157				
102			Pit 84	3J-6G8	V a	0.27	0.21	0.22	0.18	-	-	楕円形	-	-					
102	134		Pit 85	3J-6G12	V a	0.33	0.31	0.14	0.12	0.32	2.81	方形	台形状	-	-	>Pit86			
102	134		Pit 86	3J-6G7・12	V a	0.32	0.30	0.21	0.18	0.32	2.81	方形	箱状	-	-	<Pit85			
102			Pit 87	3J-6G12	V a	0.25	0.23	0.14	0.09	-	-	隅丸方形	-	-	>SD157				
102			Pit 88	3J-6G12	V a	0.31	0.28	0.08	0.08	-	-	隅丸方形	-	-	>SD157				
102	134		Pit 90	3J-6G8	V a	0.41	0.29	0.19	0.17	0.41	3.11	方形	箱状	-	-				
102			Pit 91	3J-6G8	V a	0.11	0.10	0.06	0.05	-	-	円形	-	-					

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構		グリッド	確認面	規 模 (m)				底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
							上 端		下 端			深 度	平 面							断 面
							長 軸	短 軸	長 軸	短 軸										
102			Pit	92	3J-6G13	V a	0.37	0.35	0.08	0.06	0.28	-	円形	半円状	-	-		砥石(s3)	314	
102	134		Pit	93	3J-6G13	V a	0.36	0.33	0.23	0.21	0.31	2.83	円形	台形状	-	-	>SD447			
102・104	134		Pit	94	3J-6G17・18	V a	0.35	0.31	0.23	0.20	0.19	2.95	楕円形	台形状	-	-				
102			Pit	95	3J-6G18	V a	0.33	0.29	0.06	0.05	-	-	円形	-	-	-				
102	134		Pit	96	3J-6G10	V a	0.40	0.35	0.24	0.23	0.22	2.90	円形	台形状	-	-				
102	134		Pit	97	3J-6G20	V a	0.33	0.29	0.18	0.17	0.35	2.84	円形	台形状	-	-				
102			Pit	98	3J-6G20	V a	0.31	0.26	0.17	0.12	-	-	円形	-	-	-				
104			Pit	104	3J-7G11	V a	0.22	0.19	0.11	0.10	-	-	円形	-	-	-				
104			Pit	106	3J-7G17	V a	0.21	0.20	0.08	0.07	-	-	円形	-	-	-				
104			Pit	108	3J-7E5	V a	0.36	0.31	0.16	0.14	-	-	円形	-	-	-				
102			Pit	109	3J-5F20,5G16	V a	0.34	0.31	0.20	0.17	-	-	方形	-	-	-				
102			Pit	110	3J-5F23	V a	0.43	0.31	0.16	0.12	-	-	楕円形	階段状	-	-				
102			Pit	111	3J-5F23,6F3	V a	0.33	0.28	0.18	0.15	-	-	円形	-	-	-				
102			Pit	113	3J-5H13・18	V a	0.44	0.43	0.35	0.32	-	-	円形	-	-	-				
104			Pit	129	3J-6F11	V a	0.28	0.26	0.10	0.10	0.07	-	円形	半円状	-	-				
104			Pit	130	3J-6F16	V a	0.30	0.28	0.23	0.17	-	-	円形	-	-	-				
104			Pit	131	3J-7F1	V a	0.10	0.07	0.03	0.02	-	-	楕円形	-	-	-	>Pit1539			
104			Pit	132	3J-7F14	V a	0.22	0.16	0.11	0.10	-	-	楕円形	-	-	-				
102			Pit	133	3J-7F15	V a	0.19	0.16	0.11	0.08	-	-	円形	-	-	-				
102			Pit	134	3J-6G3	V a	0.25	0.21	0.11	0.10	-	-	円形	-	-	-				
102	134		Pit	135	3J-6G15	V a	0.32	0.29	0.17	0.16	0.28	2.86	円形	U字状	-	-				
102			Pit	136	3J-6G14	V a	0.32	0.32	0.09	0.06	-	-	円形	-	-	-				
102			Pit	137	3J-6G19	V a	0.31	0.29	0.10	0.08	-	-	円形	-	-	-				
102			Pit	139	3J-6F5・10	V a	0.25	0.23	0.11	0.07	-	-	円形	-	-	-				
104	114		Pit	140	3J-6F21,7F1	V a	0.45	0.42	0.11	0.09	-	-	円形	-	-	-	<Pit161			
104			Pit	141	3J-7F1	V a	0.36	0.33	0.16	0.12	-	-	円形	-	-	-				
104			Pit	142	3J-6F22,7F2	V a	0.24	0.24	0.14	0.09	-	-	円形	-	-	-				
104			Pit	143	3J-7F2	V a	0.18	0.14	0.06	0.06	-	-	楕円形	-	-	-				
104			Pit	144	3J-7F2	V a	0.32	0.30	0.22	0.12	-	-	円形	-	-	-				
104	114		Pit	145	3J-7F1	V a	0.32	0.19	0.10	0.08	-	-	長方形	-	-	-	<Pit146			
104	114		Pit	146	3J-7F1・2	V a	0.44	0.34	0.24	0.22	0.31	2.99	楕円形	台形状	-	-	>SB1552P1,Pit145			
104			Pit	151	3J-7F3	V a	0.25	0.21	0.14	0.10	-	-	楕円形	-	-	-				
104	114		Pit	161	3J-6F21,7F1	V a	0.42	0.32	0.15	0.14	0.60	2.73	楕円形	U字状	4	レンズ状	>Pit140・1529	珠洲焼甕(400)	305	
102・104			Pit	164	3J-6G16・17	V a	0.28	0.26	0.19	0.16	-	-	円形	-	-	-				
102			Pit	165	3J-6G12	V a	0.14	0.14	0.11	0.11	-	-	円形	-	-	-				
102			Pit	166	3J-6G12	V a	0.21	0.19	0.13	0.12	-	-	円形	-	-	-				
104	136		Pit	167	3J-7G17	V a	0.32	0.29	0.17	0.15	0.49	2.68	円形	台形状	-	-	Pit449と同一			
102			Pit	169	3J-5G21	V a	0.31	0.25	0.16	0.14	-	-	楕円形	-	-	-				
103			Pit	171	3J-6H13	V a	0.29	0.27	0.23	0.22	-	-	隅丸方形	-	-	-				
103			Pit	172	3J-6H12	V a	0.34	0.32	0.25	0.24	-	-	隅丸方形	-	-	-				
102			Pit	177	3J-5H5,5H1	V a	0.24	0.23	0.06	0.05	-	-	隅丸方形	漏斗状	-	-				
102			Pit	179	3J-4H24	V a	0.21	0.17	0.06	0.05	-	-	隅丸方形	漏斗状	-	-				
102			Pit	180	3J-4H24	V a	0.21	0.18	0.12	0.11	-	-	隅丸方形	-	-	-				
102			Pit	181	3J-6G7	V a	0.24	0.21	0.19	0.17	-	-	隅丸方形	-	-	-				
104			Pit	182	3J-7E5	V a	0.44	0.38	0.19	0.17	-	-	円形	-	-	-				
104	135		Pit	185	3J-7F7	V a	0.35	0.25	0.17	0.14	0.42	2.92	楕円形	U字状	-	-				
104			Pit	186	3J-7F7	V a	0.29	0.24	0.12	0.09	-	-	楕円形	-	-	-				
104			Pit	187	3J-7F7	V a	0.37	0.26	0.21	0.18	-	-	楕円形	-	-	-				
104			Pit	188	3J-7F7	V a	0.39	0.36	0.10	0.08	-	-	円形	階段状	-	-				
104			Pit	189	3J-7F7	V a	0.33	0.30	0.06	0.04	-	-	円形	階段状	-	-				
102			Pit	191	3J-4H2	V a	0.38	0.33	0.20	0.14	-	-	楕円形	-	-	-				
102			Pit	201	3J-5G10・15	V a	0.42	0.38	0.29	0.21	-	-	円形	-	-	-				

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構		グリッド	確認面	規 模 (m)				底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
							上 端		下 端			深 度	平 面							断 面
							長 軸	短 軸	長 軸	短 軸										
102			Pit	202	3J-5G15	V a	0.24	0.22	0.18	0.15	—	—	円形	—	—	—				
102	134		Pit	206	3J-6G7・8	V a	0.18	0.17	0.08	0.07	0.50	2.80	円形	U字状	—	—				
105	140		Pit	216	3J-8H13	V a	0.20	0.19	0.11	0.10	0.50	2.85	隅丸方形	U字状	—	柱痕				
102			Pit	253	3J-6G9・14	V a	0.35	0.32	0.11	0.09	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	254	3J-6G9・14	V a	0.25	0.23	0.14	0.12	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	255	3J-6G14	V a	0.29	0.26	0.17	0.08	—	—	円形	—	—	—				
104			Pit	256	3J-7G7	V a	0.21	0.17	0.12	0.09	—	—	楕円形	—	—	—				
104			Pit	258	3J-7F20	V a	0.23	0.21	0.13	0.13	—	—	楕円形	—	—	—	>Pit1527			
104			Pit	259	3J-7G11・16	V a	0.19	0.17	0.13	0.10	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	261	3J-4H13・18	V a	0.21	0.20	0.15	0.14	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	262	3J-4H24	V a	0.31	0.26	0.25	0.18	—	—	楕円形	—	—	—				
102			Pit	263	3J-4H17・18	V a	0.23	0.21	0.17	0.16	—	—	円形	—	—	—				
100	162		Pit	277	3J-2I4・9	V a	0.24	0.20	0.14	0.11	0.17	2.75	円形	U字状	1	単層	>SD219			
102	134		Pit	299	3J-5F24	V a	0.26	0.26	0.12	0.10	0.32	2.78	円形	U字状	—	—				
105	140		Pit	305	3J-8H20,8H16	V a	0.36	0.33	0.16	0.12	0.44	2.87	方形	台形状	—	—				
105			Pit	307	3J-7H21・22,8H1・2	V a	0.29	0.21	0.19	0.15	—	—	楕円形	—	—	—				
102			Pit	308	3J-3H2	V a	0.16	0.15	0.12	0.11	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	312	3J-3H18	V a	0.16	0.13	0.10	0.03	—	—	楕円形	—	—	—				
102			Pit	313	3J-3H23	V a	0.18	0.16	0.10	0.07	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	314	3J-3H24	V a	0.16	0.14	0.10	0.07	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	315	3J-3H19	V a	0.14	0.11	0.10	0.05	—	—	楕円形	—	—	—				
102			Pit	316	3J-3H9	V a	0.21	0.16	0.12	0.07	—	—	楕円形	—	—	—				
102			Pit	336	3J-6G4	V a	0.28	0.25	0.20	0.20	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	344	3J-5F25	V a	0.23	0.20	0.09	0.07	—	—	隅丸方形	—	—	—				
102			Pit	345	3J-5F25,6F5	V a	0.29	0.28	0.11	0.09	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	346	3J-5G22	V a	0.22	0.19	0.06	0.04	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	349	3J-2H24	V a	0.26	0.15	0.20	0.12	—	—	長楕円形	—	—	—				
100・102			Pit	350	3J-3H9・10	V a	0.20	0.16	0.13	0.10	—	—	楕円形	—	—	—				
102			Pit	351	3J-3H14	V a	0.39	0.22	0.35	0.19	—	—	長楕円形	—	—	—				
102			Pit	352	3J-3H19	V a	0.19	0.17	0.08	0.06	—	—	円形	階段状	—	—				
102			Pit	353	3J-4H4	V a	0.20	0.19	0.16	0.13	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	358	2J-10I14・19	V a	0.37	0.33	0.27	0.22	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	359	2J-10I24	V a	0.15	0.14	0.11	0.08	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	360	2J-10I24・25	V a	0.33	0.28	0.24	0.21	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	361	3J-1I4	V a	0.17	0.13	0.08	0.07	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	362	2J-10J22,3J-1I12	V a	0.24	0.18	0.19	0.15	—	—	楕円形	—	—	—				
100			Pit	363	3J-1J3	V a	0.15	0.13	0.07	0.04	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	365	3J-1J3・8	V a	0.17	0.15	0.10	0.08	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	366	2J-10J24,3J-1J4	V a	0.24	0.21	0.13	0.11	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	367	3J-1J4	V a	0.30	0.20	0.14	0.12	—	—	楕円形	—	—	—				
100			Pit	368	3J-1J4・9	V a	0.33	0.28	0.25	0.24	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	369	3J-1J4	V a	0.19	0.17	0.14	0.09	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	370	3J-1J4	V a	0.24	0.23	0.19	0.18	—	—	隅丸方形	—	—	—				
100			Pit	371	3J-1J5	V a	0.15	0.14	0.07	0.05	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	372	3J-1I12	V a	0.35	0.26	0.17	0.15	—	—	楕円形	—	—	—				
100			Pit	374	3J-2I8	V a	0.28	0.16	0.20	0.08	—	—	長楕円形	—	—	—				
100			Pit	375	3J-2I8・13	V a	0.23	0.18	0.18	0.11	—	—	楕円形	—	—	—				
100			Pit	376	3J-2I4	V a	0.19	0.18	0.14	0.09	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	377	3J-2I9	V a	0.20	0.14	0.11	0.06	—	—	楕円形	—	—	—				
100			Pit	378	3J-2I9	V a	0.22	0.21	0.10	0.09	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	379	3J-1I20	V a	0.24	0.18	0.17	0.12	—	—	楕円形	—	—	—				
100			Pit	381	3J-2J1・2・7	V a	0.26	0.19	0.14	0.13	—	—	長楕円形	—	—	—				

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構		グリッド	確認面	規 模 (m)				底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
							上 端		下 端			深 度	平 面							断 面
							長 軸	短 軸	長 軸	短 軸										
100			Pit	382	3J-1J17	V a	0.22	0.11	0.10	0.06	—	—	長楕円形	—	—	—				
100			Pit	383	3J-1J7	V a	0.22	0.15	0.09	0.05	—	—	楕円形	—	—	—				
100			Pit	384	3J-1J12	V a	0.13	0.12	0.08	0.06	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	385	3J-1J18	V a	0.43	0.28	0.33	0.22	—	—	不整形	—	—	—				
100			Pit	386	3J-1J9	V a	0.14	0.14	0.10	0.07	—	—	楕円形	—	—	—				
100			Pit	387	3J-1J10	V a	0.21	0.19	0.17	0.13	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	388	3K-1A11	V a	0.35	0.33	0.20	0.15	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	389	3K-1A14	V a	0.21	0.18	0.08	0.07	—	—	円形	—	—	—				
101			Pit	391	3K-2B2・7	V a	0.35	0.32	0.13	0.07	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	392	3J-3H6	V a	0.26	0.25	0.20	0.20	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	393	3J-3H13	V a	0.15	0.15	0.12	0.11	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	394	3J-2H23・24	V a	0.38	0.36	0.15	0.08	—	—	円形	—	—	—				
100・102			Pit	395	3J-3H4	V a	0.13	0.12	0.09	0.08	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	396	3J-3H9	V a	0.22	0.18	0.17	0.12	—	—	楕円形	—	—	—				
100			Pit	397	3J-2I13	V a	0.25	0.21	0.15	0.13	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	398	3J-2I18・23	V a	0.30	0.28	0.18	0.18	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	399	3J-3I3	V a	0.25	0.24	0.14	0.13	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	400	3J-2I23	V a	0.19	0.18	0.13	0.09	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	401	3J-3I3	V a	0.17	0.15	0.09	0.08	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	402	3J-2I23・24	V a	0.22	0.21	0.16	0.12	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	403	3J-3I4	V a	0.14	0.12	0.10	0.08	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	404	3J-3I4	V a	0.13	0.12	0.06	0.05	—	—	円形	—	—	—				
100			Pit	405	3J-3I10	V a	0.17	0.13	0.07	0.05	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	406	3J-3H16	V a	0.22	(0.17)	0.09	0.08	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	407	3J-3H17	V a	0.13	0.12	0.08	0.07	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	408	3J-3H17	V a	0.13	0.11	0.08	0.07	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	409	3J-3H23	V a	0.26	0.21	0.23	0.16	—	—	楕円形	—	—	—				
102			Pit	410	3J-3H23	V a	0.16	0.13	0.10	0.08	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	411	3J-4H3	V a	0.19	0.11	0.08	0.06	—	—	長楕円形	—	—	—				
102			Pit	412	3J-3H23・24	V a	0.26	0.18	0.17	0.14	—	—	楕円形	—	—	—	<Pit1522			
102			Pit	413	3J-3H24	V a	0.17	0.13	0.14	0.09	—	—	楕円形	—	—	—				
102			Pit	414	3J-3H19	V a	0.20	0.14	0.13	0.09	—	—	楕円形	—	—	—				
102			Pit	415	3J-4H4・5	V a	0.14	0.10	0.08	0.07	—	—	楕円形	—	—	—				
102			Pit	416	3J-3H25	V a	0.21	0.20	0.13	0.11	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	417	3J-3H25	V a	0.16	0.14	0.12	0.11	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	418	3J-3H25	V a	0.21	0.15	0.14	0.12	—	—	楕円形	—	—	—				
100			Pit	419	3J-3J16	V a	0.28	0.23	0.23	0.21	—	—	円形	—	—	—				
100・102			Pit	420	3J-3I25,3J21	V a	0.24	0.20	0.18	0.16	—	—	円形	—	—	—				
100・101			Pit	421	3J-3J23	V a	0.14	0.14	0.08	0.05	—	—	円形	—	—	—				
104			Pit	428	3J-7G14・15	V a	0.50	0.50	0.27	0.15	—	—	円形	—	—	—				
102			Pit	430	3J-3H23	V a	(0.22)	0.19	(0.15)	0.10	—	—	円形	—	—	—	<SD14			
105	140		Pit	433	3J-8I2	V b	0.34	0.29	0.07	0.06	0.23	2.90	円形	階段状	—	—	—			
102・104			Pit	434	3J-7H1・6	V b	0.20	0.19	0.12	0.09	—	—	円形	—	—	—				
105	179		Pit	435	3J-8I25	V b	0.16	0.10	0.08	0.07	0.12	2.87	長楕円形	台形状	—	—	—			
105			Pit	436	3J-8H14・19	V b	0.24	0.23	0.13	0.11	—	—	円形	—	—	—				
105			Pit	438	3J-8H19	V b	0.35	0.27	0.10	0.08	—	—	楕円形	—	—	—				
104	113	102	Pit	441	3J-6F18	V b	0.32	0.29	0.16	0.13	0.24	3.05	楕円形	台形状	—	—	—	<SB1551P3		
104	135		Pit	443	3J-7F7	V b	0.23	0.23	0.11	0.08	0.48	2.88	円形	U字状	—	—	—			
104	165		Pit	446	3J-6F17	V b	0.23	0.23	0.12	0.10	—	—	円形	—	—	—	>SE460			
104			Pit	448	3J-7G22	V b	0.20	0.19	0.08	0.06	—	—	円形	—	—	—				
104			Pit	450	3J-7G12・17	V b	0.30	0.25	0.11	0.10	—	—	楕円形	—	—	—				
105	119	114	Pit	456	3J-8H14	V b	(0.28)	0.30	(0.25)	0.19	0.36	3.00	円形	台形状	—	—	—			

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構		グリッド	確認面	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
							上 端		下 端		深 度		平 面	断 面							
							長 軸	短 軸	長 軸	短 軸											
104			Pit	462	3J-7E10	V b	0.18	0.16	0.08	0.07	—	—	楕円形	—	—	—					
103・105	136		Pit	463	3J-7H20	V b	0.64	0.48	0.38	0.27	(0.46)	2.89	楕円形	U字状	3	レンズ状	<SD155				
102			Pit	464	3J-5F24・25	V b	0.28	0.26	0.17	0.15	—	—	円形	—	—	—					
102	134		Pit	466	3J-5F24	V b	(0.41)	(0.33)	(0.15)	(0.13)	0.43	2.69	楕円形	台形状	—	—	—				
103	189		Pit	472	3J-6J16	V b	(0.24)	(0.23)	(0.13)	(0.11)	—	—	—	—	—	—	—				
107	161		Pit	478	4J-3E11	V a	0.48	0.34	0.21	0.15	0.35	2.63	楕円形	台形状	—	—	—				
107	161		Pit	479	4J-3E12	V a	0.33	0.28	0.20	0.16	0.31	2.61	方形	台形状	—	—	—				
104	137		Pit	487	3J-8E20,8F16	V a	0.32	0.27	0.17	0.14	0.20	3.11	楕円形	U字状	3	レンズ状					
104	136		Pit	489	3J-7F23	V a	0.27	0.23	0.13	0.12	0.37	2.85	円形	U字状	5	レンズ状					
104			Pit	492	3J-8F3	V a	0.13	0.11	0.08	0.08	0.08	3.09	円形	半円状	1	単層					
104	139		Pit	495	3J-8G7	V a	0.28	0.25	0.08	0.06	0.46	2.87	円形	U字状	2	レンズ状					
104	135		Pit	498	3J-7F11	V a	0.26	0.24	0.10	0.10	0.36	2.97	方形	U字状	2	斜位	>Pit499				
104	135		Pit	499	3J-7F11	V a	0.24	0.24	0.11	0.09	0.43	2.93	方形	U字状	6	ブロック状	>Pit589 <Pit498				
104	135		Pit	506	3J-7F16	V a	0.39	0.31	0.09	0.08	0.51	2.83	長方形	U字状	4	レンズ状					
104	137		Pit	507	3J-8E5	V a	0.28	0.26	0.17	0.14	0.35	2.97	方形	U字状	5	ブロック状					
104	137		Pit	509	3J-8E9	V a	0.20	0.19	0.13	0.10	0.35	2.91	円形	箱状	7	ブロック状					
104	137		Pit	511	3J-8E9	V a	0.18	(0.13)	0.10	0.08	0.26	3.01	方形	U字状	5	ブロック状	<SK484				
104	138		Pit	513	3J-8F11	V a	0.24	0.23	0.20	0.16	0.18	3.15	方形	U字状	3	レンズ状					
104	136		Pit	514	3J-7F18	V a	0.28	0.26	0.11	0.09	0.47	2.87	長方形	U字状	4	レンズ状					
104	135		Pit	515	3J-7F17	V a	0.32	0.29	0.17	0.13	0.62	2.69	円形	漏斗状	8	水平ブロック	>SE504				
104	138		Pit	517	3J-7F25,8F5	V a	0.27	0.21	0.16	0.11	0.36	2.95	長方形	U字状	4	レンズ状					
104	134		Pit	518	3J-7E15	V a	0.35	0.33	0.20	0.18	0.53	2.79	円形	U字状	—	—					
109	161		Pit	530	4J-5D7	V b	0.11	0.08	—	—	—	0.45	円形	箱状	—	打込み		柱根(w49)	338		
109	161		Pit	531	4J-5C5,5D1	V b	0.09	0.08	—	—	—	0.71	円形	箱状	—	打込み		柱根(w48)	338		
108・109	161		Pit	532	4J-5C5	V b	0.08	0.07	—	—	—	0.77	円形	箱状	—	打込み		柱根(w46)	338		
108・109	161		Pit	533	4J-5C5	V b	0.11	0.11	—	—	—	0.30	円形	箱状	—	打込み		柱根(w47)	338		
104	143		Pit	539	3J-9F7・12	V a	0.35	0.32	0.19	0.17	0.24	3.07	円形	U字状	5	ブロック状	SB1564P4,Pit1382	土師器小囊(22)	289		
104	136		Pit	544	3J-7F25	V a	0.30	0.27	0.13	0.12	0.17	3.01	方形	台形状	—	—					
104	136		Pit	545	3J-7F25	V a	0.30	0.28	0.08	0.07	0.61	2.55	方形	U字状	—	—					
104	189		Pit	551	3J-8E4	V a	0.25	0.21	0.16	0.14	0.50	2.80	方形	箱状	2	垂直					
104	138		Pit	552	3J-8F1	V a	0.22	0.20	0.11	0.08	0.57	2.72	方形	U字状	—	—					
104	168	152	Pit	561	3J-7F17	V a	0.29	0.26	0.11	0.09	0.45	2.84	長方形	箱状	5	レンズ状	>SX542				
104	167		Pit	562	3J-7F12・17	V a	0.31	0.28	0.25	0.21	0.50	2.80	方形	U字状	6	レンズ状	>SE504				
104	143		Pit	566	3J-9F9	V a	0.33	0.28	0.20	0.16	0.19	3.09	方形	台形状	5	ブロック状					
104	139		Pit	567	3J-8F25,9F5	V a	0.32	0.27	0.15	0.15	0.58	2.75	方形	U字状	5	水平レンズ					
104	142		Pit	568	3J-9F3	V a	0.30	0.27	0.21	0.17	0.35	2.95	方形	U字状	9	ブロック状					
104	142		Pit	569	3J-9F2・3・8	V a	0.32	0.27	0.15	0.13	0.26	3.04	方形	U字状	8	ブロック状	>SK990				
104	139		Pit	570	3J-8F25	V a	0.21	0.18	0.08	0.07	0.35	2.98	円形	U字状	4	垂直					
104	139		Pit	571	3J-8G21	V a	0.24	0.22	0.15	0.12	0.24	3.09	円形	台形状	3	ブロック状		珠洲焼壺(401)	305		
104	143		Pit	572	3J-9F13	V a	0.25	0.23	0.21	0.19	0.39	2.94	方形	箱状	5	ブロック状		珠洲焼中甕(402)	305		
104	138		Pit	574	3J-8F15・20	V a	0.24	0.21	0.11	0.11	0.41	2.92	円形	U字状	4	レンズ状					
104	139		Pit	575	3J-8G22	V a	0.29	0.24	0.16	0.15	0.32	3.04	円形	箱状	6	ブロック状					
104	143		Pit	579	3J-9F7	V a	0.28	0.24	0.11	0.09	0.39	2.93	円形	階段状	5	ブロック状					
104	139		Pit	580	3J-8F22,9F2	V a	0.25	0.24	0.19	0.15	0.28	2.95	円形	U字状	3	ブロック状					
104	143		Pit	581	3J-9F9・10・14・15	V a	0.28	0.25	0.19	0.15	0.41	2.92	円形	U字状	6	柱痕		柱根(w37)	337		
104	143		Pit	582	3J-9F13	V a	0.23	0.18	0.18	0.13	0.23	3.10	円形	U字状	5	ブロック状					
104	143		Pit	583	3J-9F13	V a	0.27	0.25	0.20	0.15	0.30	3.00	方形	U字状	—	—					
104	144		Pit	584	3J-9F18	V a	0.27	0.24	0.19	0.18	0.19	3.13	方形	箱状	4	ブロック状					
105	146		Pit	585	3J-9G10	V a	0.23	0.23	0.14	0.14	0.42	2.91	円形	U字状	5	斜位レンズ					
105	146		Pit	586	3J-9G10	V a	0.25	0.20	0.17	0.10	0.41	2.93	円形	U字状	4	水平ブロック					
104	144		Pit	587	3J-9F19	V a	0.26	0.21	0.17	0.14	0.44	2.86	円形	U字状	6	レンズ状		珠洲焼甕(403)	306		
104	135		Pit	589	3J-7F11・12	V a	0.44	0.41	0.27	0.15	0.25	3.07	円形	台形状	—	—	<Pit499	柱根(w34)	336		

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構	グリッド	確認面	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
						上 端		下 端		深 度		平 面	断 面							
						長 軸	短 軸	長 軸	短 軸											
104	143		Pit	590	3J-9F13	V a	0.26	0.26	0.15	0.15	0.67	2.65	方形	U字状	6	水平ブロック		礎盤(w38)	337	
104	143		Pit	592	3J-9F13・18	V a	0.35	0.34	0.28	0.27	0.56	2.73	方形	箱状	2	柱痕		柱根(w39)	337	
104	144		Pit	594	3J-9F18	V a	0.34	0.27	0.12	0.10	0.22	3.10	方形	半円状	3	レンズ状				
104	144		Pit	595	3J-9F19	V a	0.22	0.21	0.13	0.12	0.32	3.00	円形	U字状	7	ブロック状				
104	144		Pit	596	3J-9F18・19・23・24	V a	0.24	0.22	0.15	0.12	0.15	3.18	円形	半円状	3	レンズ状				
104	143		Pit	597	3J-9F13・14	V a	0.23	0.21	0.16	0.14	0.24	3.07	方形	U字状	4	水平				
104	143		Pit	598	3J-9F14	V a	0.26	0.25	0.14	0.12	0.25	3.07	方形	U字状	5	レンズ状				
104	143		Pit	599	3J-9F12	V a	0.25	0.23	0.19	0.16	0.31	2.99	方形	箱状	2	垂直				
104	137		Pit	600	3J-8E3・8	V a	0.30	0.27	0.10	0.09	0.35	2.94	方形	階段状	7	水平ブロック				
104	137		Pit	602	3J-8E13	V a	0.35	0.22	0.22	0.15	0.49	2.82	長楕円形	U字状	6	ブロック状	>SX1506			
104	136		Pit	603	3J-8E3	V a	0.26	0.22	0.13	0.09	0.41	2.92	円形	U字状	7	レンズ状				
104	190		Pit	605	3J-8E23	V a	0.19	0.14	0.15	0.11	0.13	3.18	長方形	箱状	3	レンズ状	>SX1506			
104	135		Pit	606	3J-7F13	V a	0.27	0.26	0.17	0.12	0.12	3.19	円形	半円状	2	レンズ状				
104	136		Pit	607	3J-8E2・7	V a	0.43	0.33	0.28	0.26	0.28	3.02	楕円形	台形状	11	ブロック状				
104	137		Pit	608	3J-8E7	V a	0.33	0.27	0.16	0.15	0.25	2.99	円形	U字状	5	レンズ状				
104	143		Pit	609	3J-9F6	V a	0.28	0.25	0.13	0.12	0.52	2.78	円形	U字状	7	ブロック状				
104	137		Pit	610	3J-8E8	V a	0.24	0.23	0.16	0.10	0.52	2.67	楕円形	台形状	—	—				
104	137		Pit	611	3J-8E18	V a	0.26	0.18	0.20	0.11	0.23	3.03	楕円形	箱状	6	レンズ状	>SK666			
105	140		Pit	612	3J-8H16	V a	0.30	0.27	0.25	0.21	0.32	2.96	円形	U字状	7	水平レンズ	>SD157			
105	140		Pit	613	3J-8H21・22	V a	0.34	0.32	0.24	0.23	0.31	3.00	円形	箱状	5	レンズ状	>SB1561P8,SD157			
105	140		Pit	614	3J-8H17・22	V a	0.33	0.28	0.23	0.21	0.35	2.90	方形	箱状	8	ブロック状				
104	137		Pit	616	3J-8E10	V a	0.37	0.26	0.09	0.08	0.51	2.78	楕円形	階段状	12	ブロック状				
104	137		Pit	617	3J-8E9	V a	0.31	0.28	0.24	0.14	0.54	2.71	円形	箱状	6	ブロック状	>SX1378			
104	137		Pit	618	3J-8E12・13・17・18	V a	0.20	0.15	0.17	0.12	0.48	2.85	長方形	箱状	4	水平	>SX1020	須恵器杯蓋(21)	289	
105	145		Pit	621	3J-9G4	V a	0.20	0.16	0.11	0.09	0.27	3.08	円形	U字状	6	レンズ状				
105	155		Pit	624	3J-10H3	V a	0.29	0.25	0.18	0.17	0.37	2.90	方形	台形状	9	ブロック状				
105	155		Pit	625	3J-10H3・8	V a	0.27	0.23	0.19	0.11	0.27	3.03	方形	台形状	—	—				
105	155		Pit	626	3J-10H8・13	V a	0.45	0.37	0.22	0.17	0.68	2.64	楕円形	U字状	9	レンズ状				
105	155		Pit	630	3J-10H11	V a	0.55	0.39	0.37	0.29	0.32	3.01	楕円形	U字状	5	レンズ状				
105	155		Pit	632	3J-10H11	V a	0.12	0.10	0.06	0.05	0.28	3.02	円形	U字状	—	—				
104	135		Pit	633	3J-7F14	V a	0.24	0.22	0.09	0.07	0.51	2.68	円形	U字状	—	—				
104	141		Pit	634	3J-9E10	V a	0.29	0.27	0.23	0.21	0.44	2.85	円形	箱状	5	水平ブロック				
104	141		Pit	635	3J-9E5	V a	0.48	0.40	0.07	0.06	0.36	2.92	長楕円形	段状	5	水平				
104	138		Pit	636	3J-8F11・16・17	V a	0.32	0.25	0.24	0.18	0.27	3.03	長方形	箱状	6	ブロック状				
104	141		Pit	638	3J-9E10	V a	0.35	0.31	0.25	0.20	0.29	3.00	方形	箱状	6	ブロック状				
104	138		Pit	639	3J-8E25	V a	0.26	0.24	0.17	0.16	0.27	3.06	円形	箱状	3	レンズ状				
104	141		Pit	640	3J-9E10	V a	0.21	0.20	0.17	0.12	0.15	3.14	円形	箱状	2	水平				
104	138		Pit	641	3J-8E25	V a	0.27	0.25	0.21	0.19	0.17	3.13	方形	台形状	3	レンズ状				
104	116	108	Pit	642	3J-8F7	V a	0.32	0.29	0.15	0.12	0.50	2.81	方形	U字状	11	レンズブロック	>Pit550			
104	138		Pit	643	3J-8F12・17	V a	0.28	0.19	0.16	0.09	0.24	3.08	長方形	U字状	3	レンズ状				
104	138		Pit	644	3J-8F12	V a	0.29	0.25	0.13	0.11	0.12	3.19	方形	弧状	2	レンズ状				
104	138		Pit	645	3J-8F17	V a	0.23	0.18	0.10	0.09	0.22	3.06	楕円形	U字状	2	レンズ状				
104	142		Pit	646	3J-9F1	V a	0.26	0.24	0.10	0.07	0.48	2.79	円形	U字状	4	ブロック状	>SD158			
105	145		Pit	650	3J-9G4	V a	0.23	0.21	0.14	0.11	0.14	3.20	方形	半円状	3	レンズ状				
105	147		Pit	651	3J-9G23	V a	0.32	0.30	0.25	0.23	0.38	2.95	方形	箱状	2	柱痕	<SD690			
105	159		Pit	655	4J-1H1	V a	0.28	0.25	0.17	0.14	0.22	3.08	円形	半円状	4	ブロック状				
104	116		Pit	658	3J-8F2	V a	0.28	0.26	0.11	0.09	0.22	2.96	方形	U字状	3	レンズ状	>SB1556P1			
104	145		Pit	659	3J-9G2	V a	0.18	0.15	0.10	0.09	0.40	2.95	方形	U字状	3	レンズ状				
104	145		Pit	660	3J-9G2	V a	0.27	0.23	0.14	0.13	0.49	2.88	楕円形	U字状	3	レンズ状				
105	147		Pit	662	3J-9H6	V a	0.24	0.20	0.09	0.08	0.64	2.65	隅丸方形	U字状	8	レンズブロック				
105	147		Pit	663	3J-9H6	V a	0.25	0.23	0.13	0.12	0.43	2.86	方形	U字状	4	レンズ状				
102	175	164	Pit	664	3J-6G3	V a	0.30	0.27	0.14	0.13	0.48	2.83	円形	U字状	—	—	>SK1517			

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構		グリッド	確認面	規 模 (m)				底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
							上 端		下 端			深 度	平 面							断 面
							長 軸	短 軸	長 軸	短 軸										
104	136		Pit	665	3J-8E2-3	V a	0.28	0.21	0.13	0.09	0.32	3.00	楕円形	台形状	-	-				
104	143		Pit	668	3J-9F10	V a	0.22	0.21	0.12	0.10	0.38	2.95	方形	U字状	4	ブロック状				
104	143		Pit	669	3J-9F15	V a	0.27	0.25	0.12	0.11	0.23	3.12	円形	半円状	-	-	>Pit717			
104	146		Pit	670	3J-9G16	V a	0.30	0.29	0.15	0.10	0.63	2.70	円形	U字状	7	ブロック状				
104	146		Pit	671	3J-9G16	V a	0.30	0.16	0.18	0.14	0.18	3.16	長方形	箱状	3	ブロック状				
104	146		Pit	674	3J-9G16	V a	0.16	0.14	0.09	0.07	0.10	3.24	方形	U字状	2	水平				
104	146		Pit	675	3J-9G16	V a	0.22	0.19	0.14	0.14	0.11	3.23	方形	台形状	4	ブロック状				
104	138		Pit	676	3J-8E22	V a	0.29	0.27	0.17	0.15	0.42	2.90	方形	U字状	8	ブロック状				
104	135		Pit	677	3J-7F2	V a	0.29	0.24	0.24	0.20	0.34	2.97	長方形	箱状	-	-				
105	146		Pit	679	3J-9G14	V a	0.33	0.24	0.18	0.11	0.82	2.51	長方形	U字状	6	水平				
104	189		Pit	680	3J-8E4	V a	0.31	0.26	0.14	0.13	0.28	3.00	隅丸方形	半円状	-	-	>Pit763			
104	144		Pit	681	3J-9F15,9G11	V a	0.32	0.25	0.12	0.10	0.30	3.04	楕円形	U字状	7	ブロック状				
104	144		Pit	682	3J-9F20	V a	0.29	0.26	0.13	0.12	0.75	2.61	隅丸方形	U字状	6	レンズ状				
105	146		Pit	687	3J-9G20,9H16	V a	0.25	0.23	0.17	0.14	0.54	2.78	隅丸方形	U字状	4	レンズ状				
105	146		Pit	688	3J-9G13	V a	0.27	0.27	0.14	0.11	0.61	2.58	円形	U字状	4	垂直	<SD690			
105	145		Pit	689	3J-9G8・13	V a	0.22	0.20	0.09	0.07	0.39	2.93	円形	U字状	4	レンズ状	<SD690			
105	146		Pit	696	3J-9G18	V a	0.23	0.22	0.12	0.12	0.25	3.08	円形	U字状	5	水平	<SD690			
105	146		Pit	698	3J-9G13・18	V a	0.19	0.17	0.08	0.05	0.20	3.13	円形	U字状	-	-				
105	146		Pit	699	3J-9G19	V a	0.18	0.13	0.09	0.08	0.25	3.10	長楕円形	U字状	4	レンズ状	>SD690			
105	146		Pit	700	3J-9G10	V a	0.25	0.22	0.14	0.14	0.44	2.90	円形	U字状	8	ブロック状				
105	145	97	Pit	701	3J-9G5	V a	0.26	0.20	0.13	0.12	0.69	2.63	長方形	U字状	5	レンズ状				
105	110	97	Pit	702	3J-9G5	V a	0.24	0.22	0.11	0.10	0.35	2.97	円形	U字状	4	柱痕	>SA1543P1			
104	105		Pit	706	3J-8G15	V a	0.32	0.28	0.19	0.17	0.33	3.02	円形	半円状	2	レンズ状	>SD158			
105	152		Pit	708	3J-10G2	V a	0.35	0.29	0.21	0.19	0.40	2.92	方形	箱状	7	ブロック状				
104	138		Pit	711	3J-8F2・7	V a	0.26	0.23	0.14	0.13	0.42	2.89	楕円形	箱状	12	ブロック状	<SK524			
104	139		Pit	712	3J-8F21,9F1	V a	0.46	0.40	0.20	0.15	0.34	2.91	楕円形	台形状	7	ブロック状	>SD158			
104	138		Pit	713	3J-8E25,8F21	V a	0.44	0.36	0.32	0.22	0.46	2.85	楕円形	台形状	8	柱痕	>SD158	柱根(w35)	336	
104	142		Pit	714	3J-9F1	V a	0.24	0.22	0.10	0.08	0.54	2.70	円形	U字状	6	レンズ状				
104	142		Pit	715	3J-9F1	V a	0.19	0.18	0.10	0.09	0.29	2.96	円形	台形状	5	レンズ状				
104	143		Pit	717	3J-9F15	V a	0.23	0.22	0.14	0.13	0.25	3.11	方形	U字状	4	ブロック状	<Pit669	磨石類(s5)	314	
105	152		Pit	718	3J-10G1	V a	0.40	0.34	0.26	0.19	0.52	2.82	方形	U字状	8	レンズブロック		須惠器有台杯(23)	290	
105	147		Pit	719	3J-9G23	V a	0.26	0.22	0.10	0.08	0.42	2.91	円形	U字状	3	水平				
105	146		Pit	721	3J-9G18	V a	0.33	0.31	0.14	0.11	0.48	2.83	円形	U字状	-	-	>SE710			
105	147		Pit	722	3J-9G23	V a	0.25	0.20	0.07	0.06	0.33	3.03	楕円形	U字状	-	-	>SD690			
104	139		Pit	725	3J-8F21	V a	0.29	0.23	0.06	0.04	0.32	2.96	楕円形	U字状	-	-	>SD158 <Pit728			
104	134		Pit	727	3J-7E19	V a	0.39	0.35	0.08	0.07	0.59	2.73	隅丸方形	U字状	9	レンズ状	>Pit730			
104	139		Pit	728	3J-8F21	V a	0.25	0.24	0.11	0.09	0.12	3.16	円形	台形状	4	レンズ状	>Pit725			
104	134		Pit	730	3J-7E19	V a	0.28	0.27	0.12	0.11	0.38	2.92	円形	U字状	-	-	<Pit727			
104	135		Pit	732	3J-7E19	V a	0.31	0.29	0.11	0.09	0.44	2.90	隅丸方形	階段状	7	レンズ状				
104	136		Pit	733	3J-7F21	V a	0.32	0.29	0.19	0.15	0.44	2.85	円形	U字状	-	-				
104	135		Pit	734	3J-7F16	V a	0.16	0.15	0.09	0.08	0.10	3.17	円形	半円状	3	レンズ状				
104	136		Pit	735	3J-7F22	V a	0.27	0.26	0.14	0.13	0.43	2.88	方形	U字状	-	-	>SE542			
104	138		Pit	736	3J-8F1	V a	0.38	0.35	0.08	0.07	0.57	2.70	円形	階段状	-	-	<SE485			
104	177	167	Pit	739	3J-7F12	V a	0.33	0.25	0.14	0.13	0.16	3.12	楕円形	半円状	6	ブロック状	<SK738			
104	135		Pit	740	3J-7E25	V a	0.16	0.14	0.12	0.09	0.08	3.19	円形	台形状	2	レンズ状				
104	135		Pit	742	3J-7F16・17	V a	0.27	0.21	0.08	0.08	0.13	3.13	楕円形	半円状	4	斜位				
104	136		Pit	743	3J-7F17	V a	0.25	0.22	0.09	0.08	0.38	2.88	円形	U字状	8	レンズ状				
104	135		Pit	744	3J-7F12	V a	0.24	0.16	0.08	0.07	0.32	2.94	楕円形	U字状	8	ブロック状				
104	135		Pit	745	3J-7F12	V a	0.31	0.23	0.17	0.15	0.28	3.02	楕円形	箱状	8	ブロック状				
104	135		Pit	746	3J-7F12	V a	0.20	0.20	0.13	0.12	0.41	2.82	方形	U字状	5	レンズ状				
104	135		Pit	750	3J-7E20	V a	0.28	0.21	0.11	0.10	0.38	2.90	楕円形	U字状	7	レンズ状				
104	135		Pit	751	3J-7F16	V a	0.25	0.21	0.11	0.11	0.29	3.00	隅丸方形	U字状	6	レンズ状				

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構		グリッド	確認面	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
							上 端		下 端		深 度		平 面	断 面						
							長 軸	短 軸	長 軸	短 軸										
104	135		Pit	752	3J-7E20	V a	0.24	0.23	0.19	0.13	0.21	3.09	隅丸方形	箱状	8	ブロック状				
104	135		Pit	754	3J-7E19	V a	0.26	0.20	0.12	0.09	0.21	3.09	楕円形	台形状	7	レンズ状				
104	134		Pit	755	3J-7E14	V a	0.32	0.30	0.11	0.11	0.37	2.91	隅丸方形	階段状	12	ブロック状				
104	134		Pit	756	3J-7E10	V a	0.17	0.15	0.09	0.06	0.10	3.21	円形	半円状	2	レンズ状				
104	135		Pit	759	3J-7E19	V a	0.30	0.24	0.12	0.11	0.36	2.94	円形	U字状	9	レンズ状				
104	136		Pit	762	3J-7F18	V a	0.29	0.23	0.12	0.10	0.32	2.95	楕円形	U字状	7	レンズ状				
104	189		Pit	763	3J-8E4・9	V a	0.49	0.36	0.25	0.23	0.29	3.00	楕円形	半円状	8	ブロック状	<Pit680			
104	137		Pit	764	3J-8E8	V a	0.24	0.23	0.14	0.13	0.28	2.98	円形	台形状	4	水平				
104	137		Pit	767	3J-8E8・9	V a	0.37	0.32	0.25	0.19	0.22	3.02	長方形	台形状	-	-				
104	136		Pit	768	3J-7F20	V a	0.28	0.27	0.18	0.16	0.18	3.32	円形	箱状	10	ブロック状				
104	136		Pit	769	3J-7F22,8F2	V a	0.27	0.21	0.12	0.10	0.20	3.00	隅丸長方形	漏斗状	10	ブロック状				
104	136		Pit	770	3J-7F23	V a	0.26	0.24	0.19	0.17	0.21	3.05	隅丸方形	箱状	9	ブロック状				
104	138		Pit	771	3J-8F11	V a	0.16	0.14	0.08	0.07	0.13	3.12	楕円形	半円状	4	ブロック状				
104	138		Pit	772	3J-8F12	V a	0.22	0.20	0.08	0.07	0.24	3.01	円形	U字状	6	レンズ状				
104	138		Pit	773	3J-8F2	V a	0.33	0.32	0.19	0.14	0.32	2.96	隅丸方形	台形状	3	レンズ状				
104	138		Pit	775	3J-8F19	V a	0.23	0.22	0.15	0.14	0.19	3.02	円形	箱状	6	斜位	>SD158			
104	138		Pit	776	3J-8F9	V a	0.26	0.24	0.21	0.20	0.20	3.04	円形	箱状	9	ブロック状				
104	138		Pit	778	3J-8F3	V a	0.32	0.28	0.18	0.16	0.30	2.97	円形	台形状	-	-		台石(s4)	314	
104	136		Pit	779	3J-7G21	V a	0.27	0.26	0.21	0.17	0.55	2.73	隅丸方形	箱状	9	レンズ状				
105	146		Pit	781	3J-9G19	V a	0.18	0.17	0.10	0.08	0.32	3.00	円形	U字状	3	レンズ状				
105	146		Pit	782	3J-9G19	V a	0.18	0.16	0.11	0.09	0.30	3.03	円形	U字状	3	レンズ状				
105	146		Pit	783	3J-9G19	V a	0.31	0.30	0.18	0.16	0.83	2.51	隅丸方形	U字状	6	柱痕		柱根(w40)	337	
105	147		Pit	784	3J-9G20	V a	0.28	0.24	0.20	0.18	0.31	3.02	隅丸方形	箱状	4	ブロック状				
105	148		Pit	786	3J-9H24	V a	0.32	0.31	0.25	0.20	0.38	2.93	隅丸方形	箱状	3	ブロック状				
104	138		Pit	787	3J-8F1	V a	0.18	0.18	0.13	0.12	0.18	3.09	円形	台形状	-	-				
105	154		Pit	788	3J-10H1	V a	0.28	0.25	0.15	0.13	0.42	2.82	隅丸方形	台形状	4	水平ブロック				
105	148		Pit	789	3J-9H12	V a	0.27	0.24	0.07	0.05	0.30	2.98	方形	台形状	3	水平				
105	148		Pit	790	3J-9H12	V a	0.22	0.20	0.15	0.13	0.19	3.13	円形	台形状	3	垂直				
105	110		Pit	792	3J-9H11	V a	0.20	0.18	0.15	0.12	0.23	3.08	方形	箱状	2	垂直				
105	148		Pit	793	3J-9H11	V a	0.21	0.20	0.14	0.12	0.39	2.91	円形	U字状	3	レンズ状				
105	154		Pit	794	3J-10H1・2	V a	0.27	0.24	0.18	0.16	0.18	3.06	円形	台形状	3	ブロック状				
104	141		Pit	799	3J-9E5,9F1	V a	0.30	0.29	0.21	0.21	0.22	3.00	円形	台形状	8	ブロック状	>Pit839,SD158			
104	143		Pit	801	3J-9F6	V a	0.24	0.20	0.17	0.15	0.20	3.06	円形	箱状	7	レンズ状				
104	142		Pit	802	3J-9F1	V a	0.22	0.18	0.17	0.16	0.15	3.09	方形	箱状	5	ブロック状				
104	141		Pit	803	3J-9E15	V a	0.36	0.32	0.17	0.15	0.34	2.91	円形	U字状	8	ブロック状				
104	143		Pit	807	3J-9F6	V a	0.23	0.18	0.13	0.12	0.28	2.98	楕円形	U字状	6	柱痕				
104	141		Pit	808	3J-9E18	V a	0.37	0.28	0.05	0.05	0.51	2.75	楕円形	階段状	10	ブロック状				
105	155		Pit	809	3J-10H12	V a	0.23	0.17	0.11	0.09	0.23	3.06	楕円形	U字状	2	レンズ状	>SK810			
104	141		Pit	816	3J-9E18	V a	0.25	0.19	0.10	0.09	0.28	2.93	楕円形	U字状	8	ブロック状				
104	142		Pit	817	3J-9E19	V a	0.21	0.19	0.12	0.09	0.20	3.05	円形	U字状	7	ブロック状				
104	142		Pit	818	3J-9E14・19	V a	0.25	0.24	0.19	0.18	0.43	2.82	円形	階段状	8	ブロック状				
104	141		Pit	819	3J-9E14	V a	0.22	0.18	0.19	0.15	0.17	3.08	楕円形	箱状	5	水平	>SX841			
105	159		Pit	822	4J-1H13	V a	0.47	0.40	0.35	0.29	0.30	3.02	円形	箱状	3	ブロック状				
105	186	192	Pit	823	4J-1H18	V a	0.28	0.27	0.14	0.12	0.20	3.10	円形	U字状	2	レンズ状				
105	159		Pit	824	4J-1H13・14	V a	0.29	0.29	0.26	0.21	0.23	3.10	円形	箱状	5	ブロック状				
105	159		Pit	827	4J-1H2・7	V a	0.29	0.24	0.10	0.10	0.57	2.72	楕円形	U字状	6	ブロック状				
105	159		Pit	828	4J-1H7	V a	0.29	0.27	0.24	0.21	0.27	3.05	円形	箱状	5	ブロック状				
105	159		Pit	829	4J-1H3・8	V a	0.22	0.21	(0.16)	0.14	0.19	3.12	円形	箱状	4	レンズ状				
105	159		Pit	830	4J-1H3	V a	0.23	0.21	0.17	0.15	0.10	3.22	円形	台形状	2	レンズ状				
105	153		Pit	831	3J-10G5	V a	0.33	0.30	0.19	0.17	0.51	2.76	隅丸方形	台形状	5	レンズ状				
104	180		Pit	832	3J-9E19	V a	0.23	0.20	0.08	0.06	0.21	3.05	円形	U字状	7	ブロック状	>SK833			
105	154		Pit	835	3J-10G15	V a	0.34	0.33	0.10	0.10	0.41	2.87	円形	階段状	8	ブロック状				

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構		グリッド	確認面	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
							上 端		下 端		深 度		平 面	断 面						
							長 軸	短 軸	長 軸	短 軸										
104	137		Pit	836	3J-8E21	V a	0.76	0.64	0.35	0.31	0.55	2.74	楕円形	U字状	18	ブロック状	>Pit837			
104	137		Pit	837	3J-8E21・22	V a	0.60	0.52	0.47	0.34	0.51	2.78	楕円形	箱状	9	ブロック状	<Pit836			
104	141		Pit	838	3J-9E1・6	V a	0.42	0.35	0.30	0.19	0.37	2.90	楕円形	U字状	11	ブロック状				
104	141		Pit	839	3J-9E5	V a	0.15	0.14	0.05	0.04	0.30	2.95	円形	U字状	—	—	>SD158 <Pit799			
104	142		Pit	840	3J-9E24・25	V a	0.21	0.20	0.09	0.06	0.28	3.01	円形	U字状	5	水平				
105	153		Pit	842	3J-10G6	V a	0.26	0.24	0.17	0.15	0.29	3.05	円形	台形状	4	レンズ状				
105	153		Pit	843	3J-10G6	V a	0.23	0.18	0.11	0.07	0.33	3.01	楕円形	U字状	3	レンズ状				
105	153		Pit	844	3J-10G11	V a	0.26	0.25	0.13	0.10	0.67	2.68	円形	U字状	4	レンズ状				
105	153		Pit	845	3J-10G11	V a	0.23	0.22	0.16	0.16	0.38	2.94	円形	箱状	3	柱痕				
105	153		Pit	846	3J-10G6	V a	0.29	0.23	0.20	0.19	0.27	3.06	楕円形	U字状	2	レンズ状				
105	153		Pit	847	3J-10G7	V a	0.25	0.21	0.20	0.14	0.28	3.06	楕円形	箱状	4	レンズ状				
105	154		Pit	850	3J-10G23	V a	0.25	0.23	0.19	0.15	0.51	2.79	円形	台形状	1	単層				
105	186	192	Pit	857	4J-1H17	V a	0.20	0.18	0.11	0.09	0.18	3.10	隅丸方形	台形状	3	ブロック状				
105	159		Pit	859	4J-1H7・8	V a	0.23	0.20	0.17	0.16	0.25	3.05	円形	台形状	5	ブロック状				
105	154		Pit	860	3J-10G22・23	V a	0.25	0.23	0.11	0.11	0.21	3.09	円形	半円状	1	単層				
104-105	145		Pit	861	3J-9F25,9G21	V a	0.42	0.34	0.06	0.05	0.27	3.05	長方形	階段状	4	レンズ状		礫石(s6)	315	
105	181	178	Pit	862	3J-9G21,10G1	V a	0.25	0.24	0.14	0.13	0.41	2.91	隅丸方形	U字状	3	レンズ状	>SK863			
104	142		Pit	864	3J-9F1	V a	0.18	0.18	0.09	0.08	0.28	2.98	円形	U字状	5	レンズ状				
105	151		Pit	865	3J-10F5・10	V a	0.55	0.48	0.24	0.23	0.79	2.57	隅丸方形	階段状	7	ブロック状	<Pit866			
104-105	151		Pit	866	3J-10F5	V a	0.39	0.38	0.13	0.10	0.73	2.61	隅丸方形	階段状	8	ブロック状	>Pit865			
105	153		Pit	867	3J-10G6	V a	0.31	0.25	0.11	0.11	0.66	2.69	楕円形	U字状	6	ブロック状	>Pit868			
105	153		Pit	868	3J-10G6	V a	(0.24)	0.24	0.15	0.15	0.22	3.11	円形	U字状	3	レンズ状	<Pit867			
105	154		Pit	872	3J-10G21	V a	0.25	0.23	0.17	0.15	0.30	2.98	円形	U字状	6	レンズ状				
105	154		Pit	873	3J-10G21	V a	0.25	0.22	0.15	0.13	0.25	3.02	円形	U字状	4	レンズ状				
104	141		Pit	874	3J-9E8	V a	0.24	0.20	0.10	0.09	0.16	3.10	円形	U字状	5	レンズ状	>Pit986,SX841			
105	151		Pit	875	3J-10F10	V a	0.26	0.26	0.16	0.14	0.26	3.06	円形	U字状	4	水平				
105	151		Pit	876	3J-10F10	V a	0.21	0.20	0.14	0.10	0.22	3.11	円形	箱状	3	ブロック状				
104-105	151		Pit	877	3J-10F9・10	V a	0.24	0.23	0.11	0.10	0.55	2.78	隅丸方形	U字状	5	ブロック状				
104	141		Pit	878	3J-9E17	V a	0.24	0.23	0.5	0.14	0.45	2.83	隅丸方形	U字状	7	ブロック状				
105	152		Pit	880	3J-10F14	V a	0.20	0.19	0.11	0.08	0.58	2.76	円形	U字状	4	柱痕		柱根(w41)	337	
104-105	151		Pit	881	3J-10F9	V a	0.22	0.21	0.18	0.12	0.33	3.01	円形	箱状	5	ブロック状				
105	152		Pit	884	3J-10G1・6	V a	0.24	0.23	0.12	0.11	0.23	3.10	円形	台形状	3	レンズ状	>Pit1123			
104	141		Pit	885	3J-9E1	V a	0.28	0.18	0.14	0.10	0.19	3.11	長楕円形	半円状	5	レンズ状				
104	151		Pit	886	3J-10F4	V a	0.26	0.22	0.11	0.09	0.48	2.83	円形	U字状	5	レンズ状				
104	137		Pit	887	3J-8E9・10	V a	0.41	0.35	0.26	0.16	0.30	2.98	円形	台形状	8	ブロック状				
105-107	157		Pit	890	4J-1G1・2	V a	0.30	0.28	0.14	0.13	0.26	3.02	隅丸方形	U字状	5	ブロック状	>SK892			
105	157		Pit	891	4J-1G1	V a	0.22	0.21	0.15	0.13	0.35	2.95	隅丸方形	U字状	7	ブロック状	>SK892			
105-107	157		Pit	893	4J-1G1	V a	0.28	0.18	0.11	0.10	0.24	3.02	長楕円形	U字状	4	ブロック状				
105-107	152		Pit	895	3J-10F24	V a	0.24	0.23	0.17	0.14	0.24	3.08	円形	台形状	8	ブロック状				
104	183	183	Pit	896	3J-10F8	V a	0.43	0.35	0.13	0.10	0.62	2.69	楕円形	U字状	8	ブロック状	>SB1564P8,SK926			
104	151		Pit	898	3J-10F7	V a	0.23	0.17	0.12	0.09	0.19	3.15	楕円形	U字状	2	垂直	>Pit899			
104	151		Pit	899	3J-10F7	V a	0.22	0.17	0.08	0.07	0.22	3.11	楕円形	U字状	1	単層	<Pit898			
104	145		Pit	901	3J-9F23	V a	0.23	0.22	0.17	0.15	0.20	3.12	円形	台形状	4	水平				
104	145		Pit	902	3J-9F23,10F3	V a	0.37	0.32	0.05	0.04	0.48	2.85	方形	階段状	7	ブロック状				
104-106	150		Pit	903	3J-10E3	V a	0.28	0.24	0.11	0.10	0.68	2.59	隅丸方形	U字状	7	レンズ状				
104-106	142		Pit	904	3J-9E22	V a	0.23	0.21	0.11	0.09	0.23	3.00	隅丸方形	U字状	6	ブロック状				
104	142		Pit	905	3J-9E22・23	V a	0.24	0.21	0.12	0.11	0.36	2.88	円形	U字状	6	ブロック状				
104	142		Pit	906	3J-9E22	V a	0.18	0.18	0.11	0.10	0.14	3.10	円形	半円状	3	ブロック状				
104-106	140		Pit	907	3J-9D20	V a	0.22	0.19	0.11	0.10	0.38	2.90	方形	台形状	7	レンズ状				
104-106	141		Pit	908	3J-9D25	V a	0.16	0.15	0.11	0.10	0.14	3.15	円形	台形状	4	ブロック状				
106	140		Pit	909	3J-9D24	V a	0.21	0.18	0.07	0.05	0.21	3.06	円形	台形状	5	レンズ状				
106	149		Pit	910	3J-10E1	V a	0.22	0.20	0.05	0.04	0.37	2.85	隅丸方形	階段状	8	ブロック状	>Pit1021			

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構		グリッド	確認面	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
							上 端		下 端		深 度		平 面	断 面						
							長 軸	短 軸	長 軸	短 軸										
104	151		Pit	913	3J-10F8・13	V a	0.30	0.26	0.20	0.15	0.18	3.15	隅丸方形	台形状	5	ブロック状				
104・105	151		Pit	914	3J-10F9	V a	0.17	0.17	0.13	0.11	0.22	3.10	円形	箱状	3	ブロック状				
104・105	151		Pit	915	3J-10F9	V a	0.20	0.19	0.13	0.11	0.23	3.09	円形	台形状	3	斜位				
104	122	121	Pit	919	3J-9E25,10E5	V a	0.32	0.25	0.17	0.15	0.38	2.91	楕円形	台形状	4	レンズ状	<SB1563P9			
106	140		Pit	922	3J-9D24	V a	0.42	0.41	0.17	0.12	0.83	2.62	円形	台形状	10	水平レンズ		皿(w36)	336	
106	150		Pit	924	3J-10E2	V a	0.24	0.21	0.18	0.17	0.45	2.80	円形	U字状	10	柱痕				
104	140		Pit	925	3J-9D15	V a	0.20	0.17	0.11	0.10	0.24	3.02	円形	台形状	3	斜位				
104・106	142		Pit	931	3J-9E22	V a	0.27	0.21	0.23	0.19	0.34	2.90	楕円形	箱状	7	ブロック状				
104・106	150		Pit	932	3J-10E2	V a	0.22	0.21	0.17	0.14	0.33	2.88	円形	箱状	4	レンズ状				
104	144		Pit	933	3J-9F19	V a	0.44	0.37	0.16	0.14	0.74	2.59	隅丸長方形	台形状	9	ブロック状				
104	144		Pit	934	3J-9F19	V a	0.23	0.19	0.11	0.10	0.24	3.08	円形	U字状	4	斜位				
104	144		Pit	935	3J-9F19・20	V a	0.26	0.23	0.14	0.09	0.20	3.11	円形	台形状	3	斜位				
104	144		Pit	937	3J-9F20	V a	0.23	0.18	0.07	0.07	0.32	3.02	楕円形	階段状	4	斜位				
104・105	146		Pit	938	3J-9G16	V a	0.24	0.22	0.16	0.15	0.23	3.14	円形	箱状	9	柱痕				
104・105	147		Pit	939	3J-9F25,9G21	V a	0.24	0.23	0.15	0.14	0.46	2.87	円形	U字状	4	水平				
104・105	147		Pit	940	3J-9G21	V a	0.37	0.35	0.23	0.21	0.30	3.02	円形	台形状	-	-				
104	145		Pit	941	3J-9F24	V a	0.28	0.26	0.08	0.06	0.46	2.86	円形	階段状	6	柱痕				
104	145		Pit	942	3J-9F17・22	V a	0.24	0.22	0.12	0.10	0.18	3.13	円形	台形状	6	ブロック状				
104	151		Pit	943	3J-10F7	V a	0.26	0.22	0.16	0.14	0.18	3.17	円形	台形状	2	レンズ状				
104	151		Pit	955	3J-10F6	V a	0.19	0.17	0.05	0.04	0.27	3.05	隅丸方形	階段状	3	斜位				
104・106	150		Pit	966	3J-10E4・9	V a	0.27	0.25	0.14	0.13	0.47	2.80	円形	台形状	10	柱痕				
106	150		Pit	967	3J-10E9	V a	0.41	0.31	0.18	0.16	0.47	2.81	楕円形	漏斗状	10	ブロック状				
104・106	150		Pit	968	3J-10E10・15	V a	0.20	0.19	0.08	0.07	0.14	3.15	円形	階段状	1	単層				
104	151		Pit	970	3J-10F7・12	V a	0.46	0.30	0.28	0.19	0.26	3.08	楕円形	台形状	6	柱痕				
104・106	152		Pit	971	3J-10F11	V a	0.26	0.22	0.13	0.12	0.21	3.12	楕円形	U字状	4	ブロック状				
105	152		Pit	972	3J-10F15	V a	0.25	0.25	0.13	0.13	0.64	2.69	円形	U字状	6	柱痕				
104	151		Pit	973	3J-10F2	V a	0.20	0.17	0.08	0.08	0.24	3.08	円形	漏斗状	2	柱痕				
106	152		Pit	974	3J-10F11	V a	0.18	0.15	0.07	0.06	0.22	3.07	円形	漏斗状	4	柱痕				
104・106	152		Pit	975	3J-10F11	V a	0.18	0.18	0.06	0.06	0.32	2.99	円形	V字状	-	-				
104	151		Pit	976	3J-10F6	V a	0.26	0.25	0.20	0.18	0.14	3.18	円形	箱状	3	ブロック状				
104	144		Pit	980	3J-9F21	V a	0.24	0.18	0.17	0.13	0.24	3.08	楕円形	台形状	2	柱痕				
104	144		Pit	981	3J-9F21	V a	0.23	0.20	0.14	0.12	0.23	3.08	円形	U字状	3	レンズ状				
104	144		Pit	982	3J-9F21	V a	0.35	0.30	0.12	0.11	0.44	2.85	楕円形	階段状	7	水平	>Pit983			
104	144		Pit	983	3J-9F21	V a	0.35	0.26	0.17	0.15	0.27	3.01	楕円形	箱状	4	斜位	<Pit982			
104	141		Pit	986	3J-9E8・13	V a	0.39	0.39	0.12	0.12	0.32	2.93	円形	V字状	3	斜位	<Pit874			
106	149		Pit	988	3J-10E1	V a	0.29	0.28	0.25	0.22	0.16	3.07	円形	台形状	3	斜位	>Pit989・1021			
106	149		Pit	989	3J-10E1	V a	0.33	0.28	0.18	0.17	0.14	3.09	隅丸方形	台形状	5	斜位	<Pit988			
104	139		Pit	991	3J-8G16・21	V a	0.24	0.22	0.11	0.10	0.32	2.97	円形	U字状	9	柱痕	<SD158			
104	139		Pit	992	3J-8F24	V a	0.26	0.23	0.19	0.19	0.21	3.04	円形	箱状	7	柱痕				
104	139		Pit	993	3J-8F24・9F4	V a	0.23	0.22	0.16	0.15	0.26	2.99	円形	U字状	8	ブロック状				
104	139		Pit	994	3J-8F24・9F4	V a	0.26	0.24	0.19	0.18	0.24	3.02	円形	台形状	6	水平				
104	139		Pit	995	3J-8F24	V a	0.26	0.23	0.05	0.05	0.31	2.94	円形	漏斗状	6	柱痕				
104	142		Pit	996	3J-9F3	V a	0.20	0.18	0.13	0.12	0.18	3.06	円形	台形状	5	柱痕				
104	144		Pit	997	3J-9F15	V a	0.19	0.17	0.10	0.09	0.24	3.10	円形	U字状	5	ブロック状				
104	151		Pit	999	3J-10F7	V a	0.26	0.25	0.20	0.19	0.43	2.91	円形	U字状	4	水平	<SD869			
104	151		Pit	1000	3J-10F7	V a	0.36	0.34	0.17	0.14	0.54	2.80	円形	U字状	4	柱痕	<SD869			
104	144		Pit	1002	3J-9F16	V a	0.39	0.37	0.18	0.16	0.53	2.74	円形	U字状	7	レンズ状				
104	142		Pit	1003	3J-9E20・9F16	V a	0.31	0.27	0.17	0.15	0.34	2.92	円形	台形状	4	ブロック状				
104	145		Pit	1004	3J-9F22・10F2	V a	0.32	0.26	0.22	0.20	0.22	3.09	楕円形	箱状	3	斜位				
104・106	180	176	Pit	1006	3J-9E21	V a	0.25	0.24	0.15	0.13	0.26	2.98	円形	U字状	6	柱痕	>SK1090			
104	142		Pit	1009	3J-9F5	V a	0.28	0.26	0.23	0.21	0.27	2.98	隅丸方形	箱状	4	柱痕				
104・106	180		Pit	1011	3J-9D14	V a	0.20	0.19	0.09	0.08	0.31	2.96	円形	V字状	2	水平状	<SK1010			

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構		グリッド	確認面	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
							上 端		下 端		深 度		平 面	断 面						
							長 軸	短 軸	長 軸	短 軸										
105	152		Pit	1012	3J-10G3・8	V a	0.29	0.27	0.16	0.12	0.41	2.93	円形	U字状	-	-				
105	153		Pit	1013	3J-10G3・8	V a	0.24	0.23	0.21	0.18	0.29	3.06	円形	箱状	5	水平レンズ				
104	145		Pit	1018	3J-9F21・22	V a	0.22	0.21	0.11	0.09	0.33	2.91	円形	U字状	4	柱痕	<SD869			
106	149		Pit	1021	3J-10E1	V a	0.23	0.19	0.16	0.13	0.16	3.07	隅丸方形	台形状	-	-	<Pit910・988			
105	157		Pit	1023	4J-1G3	V a	0.23	0.22	0.11	0.08	0.24	3.00	円形	漏斗状	3	ブロック状				
105	157		Pit	1024	4J-1G3	V a	0.29	0.27	0.21	0.18	0.43	2.84	円形	U字状	7	ブロック状		部材(w44)	338	
107	158		Pit	1026	4J-1G6	V a	0.22	0.20	0.09	0.08	0.21	2.99	円形	U字状	3	斜位				
107	158		Pit	1029	4J-1G12	V a	0.24	0.22	0.14	0.12	0.21	3.01	円形	台形状	3	ブロック状				
104	143		Pit	1030	3J-9F7・8	V a	0.25	0.21	0.14	0.14	0.24	3.03	楕円形	台形状	4	柱痕				
105	140		Pit	1031	3J-8G24・9G4	V a	0.31	0.28	0.25	0.21	0.25	3.07	円形	箱状	4	柱痕				
105	140		Pit	1032	3J-8G25	V a	0.25	0.23	0.13	0.12	0.35	2.96	円形	U字状	4	柱痕				
105	153		Pit	1033	3J-10G13・14	V a	0.34	0.34	0.06	0.06	0.51	2.80	円形	階段状	6	水平				
105	154		Pit	1034	3J-10G19	V a	0.30	0.21	0.12	0.11	0.52	2.77	楕円形	漏斗状	8	柱痕				
107	172	158	Pit	1035	4J-1G6・7	V a	0.29	0.28	0.21	0.20	0.31	2.89	円形	台形状	8	ブロック状	>SE1037			
107	172	158	Pit	1036	4J-1G7	V a	0.28	0.26	0.11	0.10	0.14	3.07	円形	半円状	2	水平	>SE1037			
104	143		Pit	1038	3J-9F14	V a	0.18	0.16	0.12	0.10	0.18	3.06	円形	台形状	4	柱痕				
104	143		Pit	1039	3J-9F6	V a	0.21	0.20	0.14	0.13	0.14	3.12	円形	半円状	2	レンズ状				
104	142		Pit	1043	3J-9E24	V a	0.30	0.22	0.09	0.08	0.45	2.80	長方形	漏斗状	4	柱痕				
106	150		Pit	1044	3J-10E8・9	V a	0.27	0.26	0.22	0.18	0.23	3.02	円形	箱状	6	柱痕				
104	142		Pit	1045	3J-9F1	V a	0.17	0.13	0.08	0.07	0.33	2.92	楕円形	U字状	1	単層	>SD158			
106	150		Pit	1047	3J-10E15	V a	0.24	0.24	0.17	0.09	0.18	3.10	円形	台形状	6	ブロック状				
106	152		Pit	1048	3J-10F11	V a	0.26	0.20	0.04	0.04	0.25	3.05	楕円形	漏斗状	6	ブロック状				
104	144		Pit	1054	3J-9F19	V a	0.14	0.14	0.07	0.06	0.14	3.17	円形	漏斗状	2	柱痕				
105	152		Pit	1055	3J-10G2	V a	0.22	0.21	0.16	0.11	0.26	3.09	円形	U字状	4	柱痕				
105	147		Pit	1056	3J-9G22・23	V a	0.21	0.18	0.11	0.11	0.51	2.83	円形	漏斗状	9	柱痕				
105	154		Pit	1057	3J-10H1	V a	0.45	0.27	0.18	0.17	0.40	2.87	不整形	漏斗状	6	柱痕	>P1198	柱根(w43)	338	
105	155		Pit	1058	3J-10H11	V a	0.30	0.25	0.20	0.18	0.44	2.78	楕円形	U字状	7	斜位				
107	158		Pit	1060	4J-1G12	V a	0.19	0.19	0.09	0.08	0.30	2.94	円形	U字状	5	柱痕				
104	151		Pit	1061	3J-10F8	V a	0.26	0.22	0.07	0.06	0.24	3.11	円形	V字状	4	ブロック状	>Pit1472			
105	153		Pit	1062	3J-10G13・14	V a	0.13	0.11	0.04	0.04	0.42	2.91	円形	V字状	1	単層		柱根(w42)	338	
105	153		Pit	1063	3J-10G10,10H6	V a	0.30	0.29	0.18	0.17	0.29	2.95	円形	台形状	8	ブロック状				
107	130	136	Pit	1064	4J-1G6	V a	0.27	0.26	0.15	0.12	0.64	2.64	隅丸方形	U字状	7	レンズブロック	>SB1571P4			
105	154		Pit	1066	3J-10G15	V a	0.19	0.17	0.11	0.11	0.15	3.15	円形	U字状	2	レンズ状	<SX1059			
107	158		Pit	1068	4J-1G11・16	V a	0.32	0.26	0.15	0.11	0.59	2.64	楕円形	U字状	4	水平	>Pit1531			
107	157		Pit	1072	4J-1F20・25,1G16・21	V a	0.38	0.35	0.14	0.13	0.47	2.77	円形	台形状	5	水平				
107	157		Pit	1076	4J-1F14	V a	0.33	0.27	0.19	0.14	0.31	2.95	楕円形	U字状	5	柱痕				
107	157		Pit	1078	4J-1F13	V a	0.35	0.28	0.13	0.12	0.34	2.93	楕円形	漏斗状	5	柱痕				
107	157		Pit	1079	4J-1F8	V a	0.32	0.29	0.19	0.18	0.34	2.95	円形	U字状	5	柱痕				
107	157		Pit	1082	4J-1F10・15	V a	0.22	0.21	0.12	0.11	0.28	2.97	円形	漏斗状	3	柱痕				
104	150		Pit	1085	3J-10E4	V a	0.20	0.18	0.08	0.07	0.22	3.06	円形	V字状	3	柱痕				
105	145		Pit	1089	3J-9G9・14	V a	0.22	0.16	0.12	0.10	0.15	3.18	楕円形	半円状	5	ブロック状				
106	150		Pit	1092	3J-10E21,4J-1E1	V a	0.23	0.23	0.12	0.10	0.24	3.03	円形	台形状	3	水平				
106	149		Pit	1093	3J-10D25・10E21	V a	0.27	0.24	0.22	0.17	0.18	3.08	円形	箱状	3	ブロック状				
106	149		Pit	1094	3J-10D25・10E21	V a	0.23	0.21	0.17	0.15	0.12	3.10	円形	箱状	4	柱痕				
106	149		Pit	1095	3J-10D20・25	V a	0.48	0.40	0.19	0.17	0.59	2.64	楕円形	階段状	8	柱痕				
106	149		Pit	1096	3J-10D20	V a	0.20	0.19	0.13	0.12	0.16	3.07	円形	半円状	3	柱痕				
106	149		Pit	1097	3J-10D15・10E11	V a	0.28	0.26	0.19	0.17	0.46	2.80	円形	台形状	4	柱痕		珠洲焼片口鉢類(404)	306	
106	149		Pit	1100	3J-10D15	V a	0.46	0.36	0.15	0.11	0.39	2.87	楕円形	階段状	5	ブロック状				
106	149		Pit	1101	3J-10D15	V a	0.24	0.18	0.14	0.12	0.38	2.87	楕円形	台形状	5	柱痕				
106	150		Pit	1102	3J-10E11	V a	0.24	0.21	0.17	0.13	0.20	3.05	円形	U字状	2	レンズ状				
106	149		Pit	1105	3J-10D10	V a	0.23	0.20	0.12	0.11	0.34	2.90	円形	U字状	7	ブロック状				
106	149		Pit	1106	3J-10D9	V a	0.28	0.24	0.17	0.13	0.32	2.93	円形	U字状	4	ブロック状				

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構		グリッド	確認面	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
							上 端		下 端		深 度		平 面	断 面						
							長 軸	短 軸	長 軸	短 軸										
106	149		Pit	1107	3J-10D9	V a	0.32	0.31	0.18	0.13	0.28	2.97	円形	U字状	6	レンズ状				
106	182		Pit	1108	3J-10D8・9	V a	0.24	0.22	0.15	0.12	0.20	3.06	円形	U字状	—	—	>SD958			
106	182	181	Pit	1109	3J-10D7・8	V a	0.21	0.20	0.11	0.09	0.23	3.04	楕円形	U字状	3	水平	>SK1115			
106	149		Pit	1111	3J-10D11	V a	0.21	0.20	0.16	0.13	0.21	3.02	円形	U字状	2	レンズ状				
106	149		Pit	1112	3J-10D17	V a	0.20	0.18	0.08	0.07	0.14	3.11	円形	半円状	3	柱痕				
106	149		Pit	1113	3J-10D14	V a	0.23	0.21	0.14	0.08	0.39	2.85	円形	U字状	4	ブロック状				
106	182	181	Pit	1114	3J-10D8	V a	0.18	0.16	0.11	0.09	0.16	3.08	円形	箱状	3	ブロック状	>SD958,SK1115			
106	150		Pit	1116	3J-10E22・23	V a	0.22	0.21	0.15	0.12	0.22	3.03	円形	台形状	3	レンズ状				
106	150		Pit	1117	3J-10E19・24	V a	0.28	0.26	0.12	0.09	0.51	2.78	円形	V字状	4	レンズ状				
106	156		Pit	1118	4J-1F1	V a	0.27	0.25	0.11	0.10	0.53	2.78	円形	U字状	7	柱痕				
107	157		Pit	1119	4J-1F6・7	V a	0.24	0.23	0.13	0.10	0.23	3.05	円形	半円状	3	柱痕				
107	157		Pit	1121	4J-1F13	V a	0.24	0.23	0.13	0.12	0.19	3.08	円形	台形状	4	柱痕				
107	158		Pit	1122	4J-1G13	V a	0.21	0.18	0.15	0.13	0.50	2.70	円形	U字状	2	水平	<SK1028			
105	152		Pit	1123	3J-10G1	V a	0.28	0.23	0.16	0.13	0.18	3.16	楕円形	台形状	1	単層	<Pit884			
107	158		Pit	1124	4J-1G12	V a	0.14	0.13	0.05	0.04	0.31	2.91	円形	U字状	—	—	<SK1028			
105	130	136	Pit	1125	3J-10F20・25	V a	0.31	0.28	0.14	0.13	0.19	3.13	円形	台形状	1	単層	<SB1571P2			
105	153		Pit	1126	3J-10G9・10	V a	0.25	0.23	0.16	0.10	0.36	2.93	円形	U字状	6	柱痕				
105	153		Pit	1127	3J-10G10	V a	0.16	0.13	0.09	0.08	0.24	3.04	円形	U字状	3	レンズ状				
105	155		Pit	1128	3J-10H1・6	V a	0.14	0.13	0.08	0.07	0.44	2.82	円形	U字状	4	水平				
105	148		Pit	1129	3J-9H22・23	V a	0.44	0.35	0.10	0.08	0.41	2.80	楕円形	漏斗状	10	柱痕	>Pit1151 <SX795			
105	147		Pit	1131	3J-9G25,10G5	V a	0.13	0.12	0.07	0.06	0.29	2.98	円形	台形状	7	ブロック状				
105	153		Pit	1132	3J-10G10	V a	0.21	0.19	0.13	0.11	0.30	2.99	円形	台形状	5	柱痕				
105	148		Pit	1133	3J-9H22,10H2	V a	0.19	0.16	0.08	0.04	0.40	2.84	円形	V字状	5	水平				
105	155		Pit	1134	3J-10H2	V a	0.17	0.17	0.14	0.10	0.19	3.05	円形	箱状	2	水平				
105	153		Pit	1135	3J-10G3・4・8・9	V a	0.37	0.32	0.26	0.24	0.14	3.18	円形	箱状	6	ブロック状				
105	154		Pit	1136	3J-10G15	V a	0.14	0.13	0.06	0.05	0.28	3.01	円形	U字状	—	—				
104	144		Pit	1137	3J-9F13・18	V a	0.24	0.24	0.14	0.13	0.31	2.94	円形	台形状	4	ブロック状				
107	159		Pit	1138	4J-1H21	V a	0.34	0.33	0.22	0.18	0.45	2.83	円形	台形状	10	柱痕				
107	159		Pit	1139	4J-1H21・22	V a	0.27	0.24	0.19	0.18	0.43	2.85	円形	箱状	11	ブロック状				
107	160		Pit	1144	4J-2H6	V a	0.24	0.23	0.13	0.13	0.45	2.80	円形	U字状	9	柱痕				
107	158		Pit	1147	4J-1G18	V a	0.26	0.24	0.17	0.13	0.28	2.93	円形	箱状	8	柱痕				
105	159		Pit	1149	4J-1H11	V a	0.19	0.19	0.11	0.11	0.11	3.12	円形	半円状	4	レンズ状				
105・107	159		Pit	1150	4J-1H17	V a	0.21	0.21	0.11	0.10	0.17	3.10	円形	台形状	4	レンズ状				
105	148		Pit	1151	3J-9H22	V a	0.14	0.13	0.08	0.08	—	—	円形	—	—	—	<Pit1129,SX795			
105	147		Pit	1152	3J-9G24	V a	0.27	0.26	0.18	0.14	0.30	3.02	円形	台形状	8	ブロック状	>Pit1189			
107	158		Pit	1154	4J-1G17	V a	0.29	0.27	0.16	0.15	0.20	3.02	円形	台形状	6	柱痕				
107	158		Pit	1155	4J-1G16・17・22	V a	0.36	0.31	0.24	0.18	0.50	2.73	円形	U字状	9	ブロック状	>Pit1204			
107	157		Pit	1156	4J-1F11・12	V a	0.28	0.26	0.09	0.09	0.39	2.86	円形	台形状	4	レンズ状				
105	147		Pit	1157	3J-9G23	V a	0.22	0.19	0.11	0.09	0.26	3.07	円形	U字状	7	柱痕				
107	131	137	Pit	1158	4J-1G21・22	V a	0.26	0.25	0.15	0.12	0.20	3.04	円形	半円状	8	ブロック状	>SB1572P3			
106	182	181	Pit	1160	3J-10D3	V a	0.40	0.35	0.14	0.08	0.41	2.80	円形	漏斗状	2	水平	<SD958,SK758			
105	148		Pit	1161	3J-9H16	V a	0.24	0.22	0.13	0.12	0.47	2.79	円形	台形状	—	—	<SX795			
105	159		Pit	1162	4J-1H6	V a	0.23	0.22	0.15	0.12	0.30	2.96	円形	U字状	—	—				
105	146		Pit	1163	3J-9G15	V a	0.30	0.29	0.25	0.24	0.30	3.04	方形	箱状	10	ブロック状				
104	144		Pit	1164	3J-9F17	V a	0.34	0.33	0.06	0.05	0.14	3.03	円形	弧状	1	単層	<SD869,SK1050			
105	155		Pit	1166	3J10H17	V a	0.24	0.23	0.15	0.11	0.37	2.93	円形	U字状	1	単層				
105	145		Pit	1167	3J-9G9	V a	0.20	0.17	0.10	0.09	0.29	3.05	円形	U字状	3	レンズ状				
104	122	121	Pit	1168	3J-9E20	V a	0.20	0.15	0.10	0.09	0.37	2.88	楕円形	U字状	3	柱痕	>SB1563P11			
106	150		Pit	1170	3J-10E11	V a	0.25	0.25	0.15	0.13	0.16	3.09	円形	半円状	2	レンズ状				
105	148		Pit	1173	3J-9H22	V a	0.18	0.17	0.08	0.08	0.24	2.83	円形	漏斗状	6	水平	<SX795			
105	148		Pit	1174	3J-9H22	V a	0.27	0.23	0.16	0.13	0.30	2.95	楕円形	U字状	3	レンズ状	<SX795			
105	148		Pit	1175	3J-9H22	V a	0.30	0.23	0.14	0.12	0.26	2.99	楕円形	U字状	3	レンズ状	>SK1177 <SX795			

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構		グリッド	確認面	規 模 (m)				底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
							上 端		下 端			深 度	平 面							断 面
							長 軸	短 軸	長 軸	短 軸										
107	157		Pit	1176	4J-1F22	V a	0.25	0.22	0.15	0.14	0.25	2.98	円形	U字状	7	柱痕				
105	152		Pit	1178	3J-10G3	V a	0.30	0.26	0.15	0.13	0.60	2.73	円形	U字状	10	ブロック状				
105	181	179	Pit	1179	3J-9H16	V a	0.36	0.34	0.28	0.21	0.26	3.04	方形	階段状	6	レンズ状	>SK1180			
107	160		Pit	1181	4J-2G3	V a	0.25	0.21	0.17	0.17	0.20	2.99	円形	台形状	3	柱痕				
107	158		Pit	1182	4J-1G24	V a	0.19	0.18	0.10	0.09	0.16	2.96	円形	台形状	1	単層	<SD477			
107	158		Pit	1183	4J-1G23	V a	0.20	0.19	0.12	0.11	0.09	2.98	円形	弧状	1	単層	<SD477			
106	150		Pit	1185	3J-10E25	V a	0.20	0.20	0.14	0.13	0.24	3.06	円形	台形状	3	柱痕				
107	158		Pit	1186	4J-1G7	V a	0.26	0.23	0.18	0.16	0.16	3.03	円形	箱状	5	柱痕				
107	157		Pit	1187	4J-1F19	V a	0.24	0.23	0.15	0.11	0.25	3.00	円形	台形状	2	水平				
105	147		Pit	1188	3J-9G24	V a	0.21	0.20	0.15	0.14	0.24	3.04	円形	箱状	6	柱痕	>Pit1189			
105	147		Pit	1189	3J-9G24	V a	0.31	0.28	0.15	0.12	0.49	2.81	円形	U字状	11	柱痕	<Pit1152・1188			
107	157		Pit	1190	4J-1F3・4	V a	0.30	0.28	0.20	0.19	0.21	3.06	円形	箱状	11	柱痕				
105	159		Pit	1192	4J-1H12	V a	0.33	0.28	0.23	0.16	0.34	2.94	円形	台形状	7	レンズ状				
107	158		Pit	1193	4J-1G12	V a	0.32	0.27	0.18	0.18	0.27	2.96	楕円形	U字状	6	柱痕				
107	152		Pit	1194	3J-10F23	V a	0.28	0.28	0.22	0.16	0.23	3.09	円形	箱状	5	柱痕				
106-107	152		Pit	1195	3J-10F23	V a	0.27	0.21	0.16	0.09	0.12	3.20	楕円形	半円状	7	ブロック状				
104	141		Pit	1196	3J-9E2・3	V a	0.28	0.28	0.12	0.07	0.24	2.85	円形	V字状	2	斜位	<SD158			
105	154		Pit	1198	3J-10H1	V a	0.30	0.26	0.15	0.15	0.18	2.98	円形	台形状	-	-	<Pit1057			
106	152		Pit	1199	3J-10F21・22	V a	0.22	0.18	0.13	0.11	0.38	2.95	楕円形	台形状	-	-				
107	158		Pit	1204	4J-1G21・22	V a	0.24	0.22	0.13	0.10	0.41	2.83	円形	U字状	6	水平	<Pit1155			
106	149		Pit	1206	3J-10D22	V a	0.42	0.41	0.26	0.25	0.46	2.71	円形	台形状	8	ブロック状				
104	145		Pit	1207	3J-9F22	V a	0.17	0.16	0.09	0.08	0.12	3.20	円形	台形状	-	-				
105	156		Pit	1208	3J-10H24	V a	0.32	0.29	0.23	0.22	0.35	2.95	円形	台形状	-	-	<SX648			
105	156		Pit	1211	3J-10H20	V a	0.31	0.30	0.15	0.15	0.18	3.00	円形	台形状	3	水平	>SX1219	土師器無台碗(25)	290	
105	156		Pit	1212	3J-10H20・10H16	V a	0.45	0.35	0.14	0.12	0.21	2.98	楕円形	漏斗状	5	レンズ状	>SX1219 <SD156			
107	158		Pit	1213	4J-1G12	V a	0.27	0.23	0.11	0.07	0.30	2.93	楕円形	漏斗状	6	ブロック状				
105	156		Pit	1215	3J-10H20	V a	0.30	0.26	0.18	0.16	0.36	2.86	円形	台形状	6	水平				
105	159		Pit	1216	4J-1H4	V a	0.37	0.37	0.33	0.22	0.35	2.93	円形	箱状	8	水平				
105	156		Pit	1217	3J-10H24	V a	0.20	0.18	0.13	0.10	0.14	3.00	円形	箱状	2	レンズ状	<SX648			
105	159		Pit	1218	4J-1H4	V a	0.39	0.33	0.18	0.13	0.12	3.17	楕円形	弧状	2	レンズ状				
105	184	186	Pit	1220	3J-10H7・8	V a	0.48	0.43	0.39	0.29	0.22	3.08	方形	箱状	2	レンズ状	>SK1240			
105	156		Pit	1221	3J-10H25	V a	0.29	0.25	0.21	0.16	0.25	3.05	円形	台形状	5	レンズブロック				
105	156		Pit	1224	3J-10H19	V a	0.43	0.41	0.18	0.15	0.29	2.92	円形	半円状	6	レンズ状				
105	156		Pit	1225	3J-10H19・20	V a	0.31	0.27	0.28	0.20	0.20	3.02	円形	箱状	5	水平				
105	147		Pit	1227	3J-9G22	V a	0.18	0.17	0.10	0.09	0.19	3.12	円形	台形状	-	-				
105	147		Pit	1228	3J-9G22	V a	0.22	0.22	0.11	0.11	0.36	2.96	円形	台形状	-	-				
105	146		Pit	1229	3J-9G17・22	V a	0.20	0.20	0.16	0.13	0.12	3.20	円形	台形状	-	-				
105	146		Pit	1230	3J-9G17	V a	0.20	0.20	0.11	0.09	0.18	3.18	円形	台形状	-	-				
105	146		Pit	1231	3J-9G12・17	V a	0.26	0.23	0.20	0.17	0.14	3.18	円形	箱状	3	柱痕				
106	150		Pit	1232	3J-10E13・14	V a	0.25	0.24	0.10	0.09	0.33	2.93	円形	U字状	4	水平				
106	152		Pit	1233	3J-10F21	V a	0.14	0.11	0.07	0.06	0.20	3.12	円形	U字状	2	水平				
107	157		Pit	1234	4J-1F3	V a	0.34	0.30	0.19	0.19	0.23	3.07	円形	台形状	6	レンズ状				
107	157		Pit	1235	4J-1F10	V a	0.28	0.28	0.25	0.20	0.14	3.12	円形	箱状	5	ブロック状				
106	150		Pit	1237	3J-10E1・6	V a	0.25	0.23	0.15	0.13	0.26	2.97	円形	台形状	5	ブロック状				
106	141		Pit	1238	3J-9D25,10D5	V a	0.20	0.17	0.12	0.11	0.26	2.97	円形	台形状	4	ブロック状				
107	157		Pit	1239	4J-1F3・4	V a	0.48	0.42	0.27	0.20	0.25	3.03	円形	半円状	5	水平				
107	130		Pit	1241	4J-1F9・14	V a	0.30	0.26	0.15	0.13	0.22	3.06	円形	台形状	2	斜位	<SB1571P5			
105	185	191	Pit	1242	4J-1H4・5	V a	0.34	0.33	0.25	0.25	0.28	3.03	円形	箱状	5	水平	>SK1243			
106	150		Pit	1245	3J-10E20	V a	0.20	0.17	0.09	0.08	0.14	3.15	円形	半円状	3	ブロック状				
105	146		Pit	1249	3J-9G17	V a	0.29	0.29	0.19	0.17	0.33	2.99	円形	台形状	-	-				
104	139		Pit	1251	3J-8G6	V a	0.24	0.23	0.15	0.14	0.30	2.93	円形	台形状	5	ブロック状				
107	161		Pit	1253	4J-3E12	V a	0.23	0.18	0.15	0.11	0.16	2.89	円形	台形状	4	水平				

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構	グリッド	確認面	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
						上 端		下 端		深 度		平 面	断 面						
						長 軸	短 軸	長 軸	短 軸										
107	161		Pit	1254	4J-3E13	V a	0.22	0.21	0.10	0.08	0.33	2.70	円形	V字状	5	ブロック状			
105	147		Pit	1255	3J-9G22・23,10G2	V a	0.30	0.28	0.17	0.17	0.26	3.08	円形	台形状	2	レンズ状	>Pit1528		
105	153		Pit	1256	3J-10G5	V a	0.25	0.20	0.11	0.09	0.40	2.88	楕円形	U字状	5	柱痕			
107	158		Pit	1257	4J-1G20	V a	0.27	0.20	0.11	0.10	0.41	2.70	楕円形	U字状	4	柱痕	<SK1203		
105	156		Pit	1258	3J-10H21,4J1H1	V a	0.31	0.29	0.20	0.16	0.33	2.99	円形	台形状	3	ブロック状	<SX1222		
105	159		Pit	1259	4J-1H1	V a	0.18	0.16	0.09	0.09	0.28	2.91	円形	U字状	5	柱痕	<SX1222		
107	161		Pit	1261	4J-3D20,3E16	V a	0.41	0.34	0.22	0.20	0.36	2.52	方形	台形状	6	柱痕	<SX473		
106	160		Pit	1262	4J-3D5	V a	0.30	0.30	0.17	0.17	0.36	2.70	円形	台形状	12	ブロック状			
105	153		Pit	1263	3J-10G3	V a	0.21	0.21	0.12	0.12	0.29	3.04	円形	U字状	5	ブロック状			
105	152		Pit	1264	3J-10F25	V a	0.21	0.19	0.08	0.08	0.12	3.16	円形	漏斗状	2	レンズ状			
106	150		Pit	1265	3J-10E23・24	V a	0.33	0.25	0.09	0.08	0.27	3.03	楕円形	漏斗状	3	ブロック状			
105	155		Pit	1268	3J-10H16	V a	0.23	0.21	0.18	0.16	0.27	3.03	円形	箱状	4	水平			
105	154		Pit	1269	3J-10G19・20	V a	0.19	0.18	0.13	0.11	0.07	3.20	円形	弧状	3	ブロック状			
105	155		Pit	1270	3J-10H16	V a	0.41	0.39	0.31	0.28	0.23	3.06	円形	箱状	3	斜位			
105	157		Pit	1272	4J-1G5	V a	0.28	0.28	0.09	0.09	0.31	3.00	円形	階段状	6	柱痕			
105-107	158		Pit	1273	4J-1G15	V a	0.20	0.18	0.07	0.06	0.38	2.85	円形	V字状	-	-			
105	158		Pit	1275	4J-1G5	V a	0.42	0.29	0.10	0.08	0.19	3.12	楕円形	漏斗状	3	柱痕	>Pit1276		
105	158		Pit	1276	4J-1G5	V a	0.24	0.20	0.11	0.09	0.22	3.08	楕円形	台形状	2	水平	<Pit1275		
105	155		Pit	1280	3J-10H17	V a	0.33	0.29	0.08	0.07	0.22	3.10	方形	漏斗状	4	水平			
105	154		Pit	1281	3J-10G24	V a	0.27	0.25	0.12	0.10	0.45	2.83	円形	U字状	6	水平			
105	156		Pit	1285	3J-10H21	V a	0.26	0.24	0.06	0.05	0.53	2.77	隅丸方形	階段状	4	ブロック状			
105	148		Pit	1288	3J-9H24	V a	0.20	0.19	0.16	0.15	0.19	3.01	円形	箱状	4	ブロック状			
105	155		Pit	1289	3J-9H23,10H3	V a	0.27	0.23	0.20	0.17	0.19	3.05	楕円形	箱状	6	柱痕	須恵器有台杯(24)	290	
105	154		Pit	1291	3J-10G14・19	V a	0.27	0.26	0.15	0.14	0.52	2.75	円形	台形状	8	ブロック状			
105	153		Pit	1292	3J-10G10	V a	0.21	0.21	0.15	0.15	0.16	3.09	円形	箱状	6	柱痕			
104-105	145		Pit	1293	3J-9G3	V a	0.24	0.20	0.18	0.15	0.25	3.07	楕円形	箱状	8	柱痕			
105	154		Pit	1296	3J-10G18	V a	0.16	0.16	0.13	0.12	0.19	3.08	円形	箱状	1	単層			
105	154		Pit	1297	3J-10H1	V a	0.28	0.25	0.17	0.13	0.32	2.93	楕円形	U字状	7	レンズブロック			
105	147		Pit	1299	3J-9G25	V a	0.28	0.21	0.21	0.15	0.22	3.05	楕円形	箱状	5	レンズ状			
105	140		Pit	1301	3J-8H21	V a	0.13	0.12	0.10	0.08	0.14	3.18	円形	箱状	3	ブロック状			
105	147		Pit	1302	3J-9H1	V a	0.21	0.18	0.11	0.10	0.20	3.11	円形	U字状	4	ブロック状			
105	155		Pit	1303	3J-10H3	V a	0.44	0.33	0.12	0.11	0.46	2.79	楕円形	漏斗状	6	ブロック状			
105	153		Pit	1304	3J-10G14	V a	0.34	0.29	0.05	0.04	0.28	3.00	円形	漏斗状	5	柱痕	>Pit1305		
105	153		Pit	1305	3J-10G14	V a	0.26	0.21	0.17	0.12	0.13	3.16	円形	台形状	2	レンズ状	<Pit1304		
105	154		Pit	1306	3J-10G25,10H21	V a	0.37	0.34	0.23	0.21	0.36	2.92	円形	台形状	6	ブロック状			
104	143		Pit	1307	3J-9F10	V a	0.18	0.17	0.12	0.12	0.30	3.01	円形	U字状	7	水平			
104-105	151		Pit	1309	3J-10F9	V a	0.18	0.17	0.15	0.12	0.13	3.18	隅丸方形	箱状	5	レンズ状			
105	155		Pit	1312	3J-10H6	V a	0.14	0.13	0.05	0.04	0.19	3.08	円形	V字状	-	-	<SK1310		
104	145		Pit	1313	3J-9G1	V a	0.21	0.19	0.07	0.06	0.31	3.02	円形	階段状	5	柱痕			
105	154		Pit	1314	3J-10G22	V a	0.16	0.14	0.09	0.08	0.15	3.13	円形	U字状	4	ブロック状			
107	160		Pit	1315	4J-2H6	V a	0.23	0.17	0.16	0.12	0.32	2.95	楕円形	U字状	7	柱痕			
105	155		Pit	1316	3J-10H3	V a	0.31	0.25	0.24	0.15	0.17	3.06	楕円形	箱状	5	レンズ状			
107	160		Pit	1318	4J-2H1	V a	0.21	0.20	0.13	0.12	0.42	2.81	円形	U字状	9	ブロック状			
107	160		Pit	1319	4J-2H2	V a	0.29	(0.24)	0.25	0.18	0.31	2.94	円形	箱状	6	柱痕			
105	154		Pit	1320	3J-10G14	V a	0.23	0.20	0.16	0.14	0.24	3.05	円形	箱状	4	ブロック状			
107	160		Pit	1321	4J-2G5・10	V a	0.22	0.18	0.18	0.12	0.24	3.02	楕円形	箱状	5	柱痕			
107	158		Pit	1322	4J-1G13	V a	0.18	0.17	0.15	0.13	0.26	2.99	円形	箱状	4	レンズ状			
105	159		Pit	1323	4J-1H6	V a	0.15	0.14	0.05	0.05	0.12	3.13	円形	半円状	2	水平			
105	155		Pit	1324	3J-10H10	V a	0.24	0.22	0.15	0.09	0.20	2.98	円形	半円状	6	レンズ状			
105	181	180	Pit	1332	3J-9H21	V a	0.33	0.21	0.24	0.14	0.13	3.09	楕円形	台形状	1	単層	>SK1327		
107	161		Pit	1336	4J-3D20,3E16	V a	0.35	0.32	0.25	0.19	0.36	2.46	円形	U字状	-	-	>Pit1342 <SX473		
107	160		Pit	1337	4J-3D15	V a	0.31	0.28	0.20	0.18	0.14	2.71	方形	半円状	6	柱痕	<SX473		

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構		グリッド	確認面	規 模 (m)				底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
							上 端		下 端			深 度	平 面							断 面
							長 軸	短 軸	長 軸	短 軸										
107	160		Pit	1338	4J-3D15,3E11	V a	0.42	0.30	0.15	0.13	0.32	2.67	方形	階段状	11	ブロック状				
107	161		Pit	1342	4J-3D20,3E16	V a	0.30	0.26	0.06	0.04	0.18	2.62	円形	階段状	5	ブロック状				
105	154		Pit	1345	3J-10G15	V a	0.26	0.19	0.15	0.10	0.34	2.95	楕円形	U字状	-	-	<SX1059			
105	148		Pit	1346	3J-9H21	V a	0.17	0.16	0.09	0.07	0.23	3.00	円形	U字状	-	-	<SX795・SK1327			
107	160		Pit	1347	4J-3D15・20	V a	0.24	0.24	0.19	0.16	0.26	2.65	円形	箱状	5	柱痕	<SX473			
106・107	160		Pit	1351	4J-3D10・3E6	V a	0.17	0.17	0.13	0.10	0.14	2.88	円形	箱状	5	ブロック状				
106	150		Pit	1352	3J-10E11・16	V a	0.30	0.24	0.19	0.14	0.19	3.06	楕円形	半円状	4	ブロック状				
105	155		Pit	1355	3J-10H17	V a	0.34	0.32	0.18	0.17	0.26	3.04	円形	半円状	1	単層				
105	155		Pit	1356	3J-10H13	V a	0.20	0.17	0.11	0.08	0.44	2.85	円形	U字状	-	-				
105	155		Pit	1357	3J-10H13	V a	0.20	0.16	0.07	0.05	0.37	2.92	円形	U字状	-	-				
105	155		Pit	1358	3J-10H12	V a	0.25	0.22	0.11	0.10	0.28	3.00	楕円形	U字状	-	-	<SK810			
105	156		Pit	1359	3J-10H18	V a	0.22	0.20	0.10	0.08	0.13	3.13	楕円形	台形状	3	レンズ状				
105	156		Pit	1360	3J-10H17	V a	0.28	0.25	0.23	0.18	0.17	3.08	円形	箱状	4	レンズ状	>Pit1361			
105	156		Pit	1361	3J-10H17	V a	(0.37)	0.33	0.20	0.15	0.20	3.09	楕円形	台形状	6	レンズ状	<Pit1360			
105	148		Pit	1364	3J-9H22・23	V a	0.41	0.38	0.14	0.13	0.43	2.78	円形	U字状	4	水平				
105	127	129	Pit	1365	3J-9H14	V a	0.34	0.20	0.17	0.07	0.28	2.95	長楕円形	U字状	2	レンズ状				
105	181	179	Pit	1367	3J-9H5	V a	0.40	0.32	0.18	0.16	0.36	2.68	楕円形	半円状	4	ブロック状	>SK1368 <SD156			
105	154		Pit	1370	3J-10G25	V a	0.40	0.34	0.08	0.07	0.34	2.94	円形	V字状	3	水平				
105	155		Pit	1371	3J-10H11	V a	0.29	0.24	0.11	0.10	0.20	3.08	楕円形	U字状	3	斜位				
105	140		Pit	1372	3J-8H18	V a	0.30	0.27	0.15	0.14	0.11	2.94	円形	弧状	2	柱痕				
104	137		Pit	1376	3J-8E4・9	V b	0.42	0.40	0.24	0.23	0.35	2.76	隅丸方形	U字状	5	レンズ状	>SX1378			
105	149		Pit	1379	3J-9I23	V b	0.68	0.55	0.36	0.32	0.35	2.83	円形	U字状	6	レンズ状				
103	140		Pit	1381	3J-8J1・6	V b	0.82	0.59	0.14	0.10	0.18	2.87	楕円形	弧状	2	レンズ状				
104	143		Pit	1382	3J-9F12	V b	0.12	0.12	0.08	0.07	0.04	2.99	円形	弧状	1	単層	<Pit539			
102・103	134		Pit	1384	3J-6I6・7	V b	0.39	0.38	0.23	0.21	0.10	2.67	方形	弧状	3	柱痕				
105	145		Pit	1385	3J-9G5	V b	0.24	0.20	0.07	0.06	0.25	2.85	円形	漏斗状	4	柱痕				
105	146		Pit	1386	3J-9G15	V b	0.08	0.08	0.06	0.06	0.09	3.06	円形	U字状	1	柱痕				
105	145		Pit	1387	3J-9G3	V b	0.19	0.17	0.06	0.04	0.15	2.90	円形	V字状	1	単層				
105	146		Pit	1388	3J-9G10	V b	0.16	0.16	0.09	0.08	0.11	2.97	円形	半円状	2	レンズ状				
105	146		Pit	1389	3J-9G10	V b	0.18	0.13	0.07	0.05	0.07	2.99	楕円形	弧状	1	単層				
104	145		Pit	1390	3J-9G1・2	V b	0.17	0.17	0.08	0.07	0.18	2.89	円形	U字状	2	斜位				
105	145		Pit	1391	3J-9G9	V b	0.12	0.12	0.09	0.08	0.11	2.98	円形	箱状	1	単層				
105	147		Pit	1392	3J-9H2・7	V b	0.21	0.19	0.15	0.10	0.11	2.90	円形	半円状	1	単層	<SD157			
102	134		Pit	1393	3J-6F9	V b	0.15	0.15	0.09	0.09	0.07	2.83	円形	弧状	1	単層				
102	134		Pit	1394	3J-5G21・22	V b	0.24	0.23	0.07	0.06	0.52	2.31	円形	漏斗状	4	柱痕				
105	146		Pit	1395	3J-9G10・15	V b	0.17	0.17	0.10	0.07	0.07	3.00	円形	弧状	1	単層				
105	140		Pit	1396	3J-8J17	V b	0.30	0.29	0.19	0.14	0.16	2.59	方形	台形状	2	レンズ状	<河138			
105	147		Pit	1398	3J-9H11	V b	0.19	0.16	0.07	0.07	0.14	2.89	円形	半円状	1	単層				
105	148		Pit	1399	3J-9H12・13	V b	0.39	0.34	0.34	0.25	0.11	2.83	楕円形	箱状	2	レンズ状				
105	148		Pit	1400	3J-9H25	V b	0.18	0.16	0.09	0.08	0.15	2.78	円形	U字状	2	柱痕				
105	148		Pit	1402	3J-9H12	V b	0.23	0.22	0.09	0.08	0.21	2.88	方形	V字状	1	柱痕				
105	181	179	Pit	1404	3J-9H16・17・21・22	V b	0.19	0.18	0.10	0.09	0.13	2.84	円形	半円状	1	単層	>SK1405 <SX795			
105	140		Pit	1406	3J-8H23・24	V b	0.29	0.26	0.15	0.14	0.14	2.83	円形	弧状	2	レンズ状				
105	140		Pit	1407	3J-8H18	V b	0.25	0.20	0.17	0.13	0.07	2.93	方形	弧状	2	レンズ状				
105	140		Pit	1408	3J-8H16	V b	0.16	0.15	0.12	0.10	0.06	3.04	円形	弧状	1	単層				
105	140		Pit	1409	3J-8H21	V b	0.18	0.18	0.12	0.11	0.05	3.07	円形	弧状	1	単層				
105	140		Pit	1410	3J-8H21	V b	0.14	0.14	0.05	0.05	0.39	2.71	円形	V字状	1	単層				
105	147		Pit	1411	3J-9H4	V b	0.16	0.15	0.09	0.08	0.16	2.78	円形	台形状	1	単層				
105	147		Pit	1412	3J-9H4	V b	0.21	0.19	0.09	0.08	0.12	2.84	方形	漏斗状	1	単層				
104・105	145		Pit	1413	3J-9G7	V b	0.25	0.23	0.19	0.18	0.15	2.88	円形	箱状	2	レンズ状				
104・105	145		Pit	1414	3J-9G7	V b	0.16	0.15	0.07	0.06	0.16	2.98	円形	V字状	1	単層				
104	144		Pit	1415	3J-9F15	V b	0.24	0.19	0.07	0.07	0.11	2.94	円形	弧状	1	単層				

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構		グリッド	確認面	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
							上 端		下 端		深 度		平 面	断 面						
							長 軸	短 軸	長 軸	短 軸										
104	136		Pit	1416	3J-7F18	Vb	0.19	0.19	0.13	0.13	0.12	2.93	円形	台形状	6	ブロック状	<SD761			
104・105	139		Pit	1417	3J-8G23・24,9G3・4	Vb	0.19	0.14	0.10	0.09	0.08	3.08	楕円形	弧状	1	単層				
104・105	139		Pit	1418	3J-8G23	Vb	0.29	0.22	0.16	0.13	0.22	2.95	楕円形	台形状	1	単層				
104・105	140		Pit	1419	3J-8G24	Vb	0.22	0.18	0.12	0.11	0.12	3.23	楕円形	台形状	1	単層				
105	139		Pit	1420	3J-8G19・24	Vb	0.19	0.17	0.09	0.07	0.14	3.06	円形	半円状	1	単層				
104・105	139		Pit	1421	3J-8G19・24	Vb	0.23	0.22	0.17	0.15	0.10	3.04	円形	台形状	1	単層				
104・105	139		Pit	1422	3J-8G19	Vb	0.15	0.13	0.07	0.06	0.15	2.96	円形	台形状	1	単層				
104	139		Pit	1423	3J-8G18	Vb	0.15	0.13	0.12	0.11	0.03	3.11	円形	弧状	1	単層				
104・105	139		Pit	1424	3J-8G10・15	Vb	0.14	0.12	0.08	0.07	0.08	2.92	円形	半円状	1	単層	<SD158			
104	141		Pit	1425	3J-9E5,9F1	Vb	0.24	0.22	0.15	0.14	0.32	2.93	円形	弧状	1	単層	>SD158			
104	139		Pit	1426	3J-8G22	Vb	0.24	0.20	0.06	0.06	0.12	3.01	楕円形	半円状	1	単層	<SX1051			
105	148		Pit	1427	3J-9I1	Vb	0.13	0.13	0.07	0.07	0.08	2.82	円形	半円状	1	単層				
105	148		Pit	1428	3J-9I11	Vb	0.23	0.22	0.10	0.10	0.12	2.81	円形	V字状	1	単層	<SD155			
105	148		Pit	1429	3J-9I7	Vb	0.13	0.12	0.07	0.07	0.12	2.74	円形	台形状	1	単層				
105	148		Pit	1430	3J-9I18	Vb	0.24	0.23	0.14	0.13	0.12	2.77	円形	台形状	1	単層				
105	148		Pit	1431	3J-9I18・23	Vb	0.17	0.17	0.07	0.07	0.10	2.78	円形	弧状	1	単層				
105	148		Pit	1432	3J-9I22・23	Vb	0.17	0.16	0.08	0.07	0.06	2.81	円形	台形状	1	単層	<SD154			
105	148		Pit	1433	3J-9I16	Vb	0.26	0.21	0.12	0.11	0.14	2.79	楕円形	台形状	1	単層				
105	148		Pit	1434	3J-9I17	Vb	0.20	0.18	0.12	0.11	0.09	2.83	楕円形	台形状	1	単層				
105	154		Pit	1435	3J-10G15	Vb	0.17	0.14	0.07	0.07	0.23	2.95	円形	U字状	2	柱痕	<SX1059			
105	140		Pit	1436	3J-8H8	Vb	0.15	0.15	0.08	0.06	0.08	2.78	円形	台形状	1	単層	<SD158			
104	142		Pit	1438	3J-9F2	Vb	0.14	0.14	0.07	0.07	0.06	2.82	円形	弧状	1	単層				
104	138		Pit	1439	3J-8F12	Vb	0.13	0.12	0.05	0.04	0.12	2.85	円形	V字状	1	単層				
105	155		Pit	1440	3J-10H7	Vb	0.19	0.18	0.09	0.08	0.08	2.90	円形	台形状	1	単層	<SK1220			
104・105	152		Pit	1441	3J-10F14	Vb	0.17	0.14	0.11	0.08	0.09	3.01	円形	台形状	1	単層				
105	156		Pit	1442	3J-10H21	Vb	0.22	0.18	0.11	0.08	0.06	2.90	楕円形	弧状	1	単層				
105	156		Pit	1443	3J-10H21・22	Vb	0.18	0.17	0.08	0.08	0.10	2.85	円形	台形状	1	単層				
105	155		Pit	1444	3J-10H15	Vb	0.19	0.18	0.10	0.10	0.05	2.76	円形	弧状	1	単層				
105	156		Pit	1445	3J-10H21	Vb	0.18	0.15	0.10	0.10	0.08	2.89	楕円形	弧状	1	単層				
104	151		Pit	1446	3J-10F7	Vb	0.19	0.18	0.14	0.12	0.28	2.91	円形	台形状	1	単層				
106	156		Pit	1447	4J-1E22	Vb	0.25	0.22	0.15	0.13	0.16	3.01	楕円形	台形状	1	単層				
105	156		Pit	1448	3J-10I6	Vb	0.17	0.17	0.11	0.11	0.06	2.92	円形	弧状	1	単層	<SD155			
106	150		Pit	1449	3J-10E14・15	Vb	0.40	0.33	0.15	0.14	0.34	2.93	楕円形	半円状	1	単層				
105	156		Pit	1451	3J-10I6	Vb	0.21	0	0.15	0.13	0.14	2.84	方形	台形状	1	単層				
107	157		Pit	1453	4J-1F15,1G11	Vb	0.35	0.34	0.13	0.12	0.23	2.93	円形	台形状	1	単層				
105	152		Pit	1454	3J-10F10・15,10G6・11	Vb	0.41	0.36	0.17	0.15	0.40	2.82	円形	台形状	1	単層				
104	142		Pit	1455	3J-9E19・20	Vb	0.24	0.24	0.19	0.17	0.05	2.78	円形	弧状	1	単層	<SX871			
106	156		Pit	1456	4J-1E16	Vb	0.25	0.24	0.10	0.10	0.36	2.83	円形	U字状	4	水平				
106	156		Pit	1457	4J-1E21	Vb	0.29	0.26	0.15	0.15	0.23	2.97	円形	半円状	2	レンズ状				
106	156		Pit	1458	4J-1C21・22	Vb	0.15	0.15	0.06	0.05	0.20	2.57	円形	U字状	2	レンズ状				
106	160		Pit	1459	4J-2C1	Vb	0.17	0.16	0.12	0.12	0.09	2.67	円形	台形状	1	単層				
107	160		Pit	1460	4J-2F25	Vb	0.24	0.24	0.15	0.14	0.25	2.75	円形	U字状	1	単層				
105	154		Pit	1462	3J-10G22	Vb	0.15	0.14	0.07	0.07	0.10	2.94	円形	V字状	1	単層				
104	144		Pit	1463	3J-9F19	Vb	0.17	0.14	0.09	0.09	0.08	2.94	楕円形	台形状	1	単層				
104	144		Pit	1464	3J-9F20	Vb	0.11	0.10	0.05	0.05	0.22	2.81	円形	V字状	1	単層				
105	148		Pit	1465	3J-9H20	Vb	0.25	0.24	0.21	0.18	0.05	2.77	円形	弧状	1	単層	<SD156			
105	147		Pit	1466	3J-9H5	Vb	0.40	0.36	0.25	0.22	0.40	2.71	円形	U字状	1	単層	<SK1368			
104	136		Pit	1469	3J-7F25	Vb	0.17	0.16	0.10	0.09	0.16	2.87	円形	台形状	1	単層				
107	152		Pit	1470	3J-10F24	Vb	0.14	0.12	0.10	0.10	0.05	2.93	円形	台形状	1	単層				
107	152		Pit	1471	3J-10F23・24	Vb	0.46	0.37	0.30	0.25	0.10	2.86	方形	弧状	1	単層				
104	151		Pit	1472	3J-10F8・9	Vb	0.34	0.34	0.22	0.21	0.51	2.84	円形	U字状	1	単層	<Pit1061,SK926			
107	160		Pit	1473	4J-2G21	Vb	0.68	0.54	0.49	0.39	1.00	1.90	楕円形	U字状	1	単層	<SK1479			

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構		グリッド	確認面	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
							上 端		下 端		深 度		平 面	断 面						
							長 軸	短 軸	長 軸	短 軸										
104	151		Pit	1474	3J-10F8	Vb	0.17	0.15	0.06	0.06	0.08	2.89	円形	V字状	1	単層				
107	159		Pit	1475	4J-1G25,2G5	Vb	0.31	0.23	0.16	0.14	0.38	2.53	方形	U字状	3	柱痕				
107	158		Pit	1476	4J-1G23	Vb	0.18	0.16	0.10	0.09	0.20	2.85	楕円形	U字状	1	単層	<SD477			
107	161		Pit	1480	4J-4F4・5	Vb	0.27	0.27	0.12	0.10	0.19	2.90	円形	半円状	1	単層				
106	160		Pit	1481	4J-2C12	Vb	0.21	0.21	0.13	0.12	0.49	2.25	円形	U字状	3	水平				
107	161		Pit	1487	4J-3E22・23	Vb	0.41	0.38	0.35	0.31	0.23	2.66	円形	箱状	1	単層				
106	160		Pit	1488	4J-2D24	Vb	0.11	0.10	0.09	0.07	0.66	2.34	円形	漏斗状	1	柱痕		柱根(w45)	338	
107	161		Pit	1489	4J-3E23	Vb	0.26	0.22	0.17	0.15	0.16	2.71	円形	台形状	1	単層				
106	149		Pit	1490	3J-10D20,10E16	Vb	0.32	0.24	0.14	0.14	0.46	2.77	楕円形	U字状	1	単層				
107	161		Pit	1493	4J-3E6・7	Vb	0.45	0.34	0.11	0.09	0.34	2.60	方形	漏斗状	7	柱痕				
107	160		Pit	1496	4J-2F11	Vb	0.25	0.24	0.14	0.13	0.16	3.07	円形	台形状	1	単層				
107	161		Pit	1497	4J-3F21	Vb	0.11	0.11	0.05	0.04	0.06	2.87	円形	台形状	1	単層				
107	161		Pit	1499	4J-3E11	Vb	0.13	0.12	0.07	0.07	0.09	2.77	円形	台形状	1	単層				
106	149		Pit	1502	3J-10D4・5	Vb	0.23	0.21	0.15	0.14	0.16	2.74	隅丸方形	台形状	1	単層				
105	159		Pit	1508	4J-1H8	Va	0.28	0.20	0.19	0.14	0.10	3.20	楕円形	台形状	-	-				
105	186	192	Pit	1509	4J-1H17	Va	0.12	0.11	0.09	0.06	0.07	3.19	隅丸方形	台形状	1	単層				
105	181	178	Pit	1510	3J-9G21,10G1	Va	0.36	0.30	0.31	0.22	0.22	3.10	長楕円形	台形状	-	柱痕	>SK863	台石(s7)	315	
104	144		Pit	1511	3J-9F16・17	-	0.37	0.34	0.13	0.12	0.19	2.69	隅丸方形	U字状	-	-	<SD869,SK1050			
105	159		Pit	1512	4J-1H2	Va	0.29	0.27	0.14	0.14	0.21	2.95	円形	台形状	-	-				
102	188		Pit	1513	3J-6H23	Va	0.37	0.35	0.21	0.20	-	-	円形	-	-	-	>SX227			
102	188		Pit	1514	3J-7H3	Va	0.37	0.35	0.19	0.18	-	-	円形	-	-	-				
104	114		Pit	1516	3J-7E19	Va	0.24	0.19	0.09	0.09	0.17	3.12	楕円形	U字状	1	単層	<Pit753・SK731			
102	175	164	Pit	1519	3J-6G3	Va	0.22	0.18	0.10	0.08	-	-	楕円形	-	-	-	>SK1517			
104			Pit	1520	3J-7E10	Va	0.13	0.12	0.07	0.06	-	-	円形	-	-	-				
102			Pit	1521	3J-3H18・19	Va	0.18	0.17	0.14	0.12	-	-	円形	-	-	-	<SD14			
102			Pit	1522	3J-3H23・24	Va	0.16	0.14	0.12	0.10	-	-	円形	-	-	-	>Pit412			
100			Pit	1523	3J-1J7	Va	0.12	0.09	0.06	0.03	-	-	楕円形	-	-	-				
100			Pit	1524	3J-1J7	Va	0.18	0.11	0.08	0.05	-	-	長楕円形	-	-	-				
100			Pit	1525	3K-1A1・6	Va	0.38	0.27	0.17	0.16	-	-	楕円形	-	-	-				
102	166	149・150	Pit	1526	3J-6 G 6	Va	(0.49)	0.42	0.19	0.18	0.40	2.73	隅丸方形	階段状	1	単層	<SE78			
104			Pit	1527	3J-7F20	Va	0.26	0.23	0.13	0.07	-	-	円形	-	-	-	<Pit258			
105	147		Pit	1528	3J-9G22	Va	0.50	0.42	0.39	0.31	0.28	3.09	円形	台形状	3	レンズ状	<Pit1255			
104			Pit	1529	3J-6F21	Va	(0.33)	(0.16)	(0.16)	0.07	-	-	長楕円形	-	-	-	<Pit161			
107	158		Pit	1531	4J-1G11・16	Va	0.30	0.28	0.13	0.10	0.56	2.66	楕円形	V字状	5	ブロック状				
100			Pit	1534	3J-2I5	Va	0.16	0.12	0.05	0.04	-	-	円形	-	-	-	<SD219			
102			Pit	1535	3J-3H17	Va	0.22	0.17	0.16	0.08	-	-	楕円形	-	-	-	<SD22			
103	174		Pit	1536	3J-4J13	Va	(0.16)	0.15	0.07	0.06	-	-	円形	-	-	-	<SK268			
103	176		Pit	1537	3J-5J24・25	Va	0.22	0.20	0.07	0.07	-	-	円形	-	-	-				
104			Pit	1539	3J-7F1	Va	0.20	0.15	0.09	0.08	-	-	隅丸方形	階段状	-	-	<Pit131			

溝状遺構(SD)

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時代	確認面	走行方向	規 模 (m)				底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備考	
										上 端		下 端			平面	断面							
										長軸	短軸	長軸	短軸										深度
102	162	144	107	SD	13	3J-3H16~20	IV	V a	N-69° -E N-74° -W N-68° -E N-70° -W	7.58	0.21~0.36	7.48	0.12~0.25	0.09	3.04	-	台形状	2	レンズ状	>Pit406,SD22,SK311			
102	162	144	108	SD	14	3J-3H17~19・21~23	IV	V a	N-75° -E	(4.79)	0.52~0.81	(4.64)	0.38~0.74	0.07	3.08	-	台形状	1	単層	>Pit430・1521,SD22			
102	162		107	SD	22	3J-3H12・17・22	IV	V a	N-18° -W	(2.48)	0.48~0.65	(2.45)	0.37~0.62	0.10	3.06	-	台形状	1	単層	>Pit1536 <SD13・14			
100 102	162	142 143 162	107	SD	76	3J-2H10・15,216・11・16・ 21,311・6・7・11・12・16・ 17・21・22,411・2・6・7	IV	V a	N-2° -W	21.10	0.41~0.73	20.86	0.21~0.48	0.05	2.96	-	弧状	1	単層	>SD153 <SK260	須惠器杯蓋(30)、切子玉 (k1)	290 374	
100・102	162	143	107	SD	99	3J-2H23・24	IV	V a	N-90°	3.48	0.35~0.63	3.41	0.24~0.55	0.07	3.08	-	弧状	2	レンズ状				
100 102 103	162	142 143	107	SD	153	3J-1H20・25,116・11・ 12・21・22,2H5,211・2・ 6・7・11・12・16・17・21・ 22,311・2・6~8・11~13・ 17・18・22・23,412・3・7~ 9・12~14・18・19・23~ 25,513~5・9・10・14・15・ 19・20・25,511・16・21・ 22,615,6J1・2・6~8・11~ 13・17~19・23~25,7J3 ~5・9・10・14・15・20・ 25,3K・7A6・11・16・21	III	V a	N-9° ~17° -W	(66.10)	2.28~2.92	(66.10)	1.77~2.32	0.34	2.78~2.52	-	台形状	5	レンズ状	>SD219・303,SK150 <SD76,SK79	弥生土器甕(1)、壺(2)、土 師器高杯(7)、須惠器無 台杯(26)・有台杯(27)・甕 (28)、土師器小甕(29)、白 磁碗(406)・珠洲焼片口鉢 類(407)・甕(408・409)、 部材(w50)・用途不明品 (w51)	288 290 306 338	
103 105	163	145	109	SD	154	3J-6H25,6I21,7H5,7I1・ 6・11・16・17・21・22,8I1・ 2・6・7・11・12・16・17・21・ 22,9I1・2・6・7・12・17・22・ 23,10I2・3・7・8・12	III	V a	N-6° -W	(34.10)	1.31~1.76	(34.10)	0.67~1.08	0.28	3.05~2.98	-	台形状	5	レンズ状	<Pit1432,SK236・ 266・647・1507, 河138 =SD158	須惠器杯蓋(81・82)・有台 杯(83)・小瓶(84)・甕(85 ~89)、砥石(s23)・分割礫 (s24)	292 317	
102 103 105	163	145	109	SD	155	3J-6H13・14・18・19・ 24・25,7H4・5・9・10・ 14・15・20・25,8H5・ 10・15・20・25,8I6・11・ 16・21,9H5・10・15・ 20・25,9I1・6・11・16・ 21,10I1・6・11・16・21	III	V a	N-5° ~10° -W	(42.60)	1.03~1.25	(42.60)	0.43~0.74	0.23	3.09~2.97	-	弧状	4	レンズ状	>Pit305・463・1428・ 1448,SD156・157・ 785, SX227 <SD158,河138	土師器器台(8)、須惠器杯蓋 (63)・無台杯(64・65)・有台 杯(66~69)・甕(70~73)、 土師器無台碗(74)・小甕 (75~78)・長甕(79)、黒色 土器高杯(80)、珠洲焼片口 鉢類(412・413)・壺(414)・ 甕(415~419)、土師質土器 皿(420~422)、瓦質土器插 鉢(423~425)、支脚(d5)・ 羽口(d6)、磨石類(s14・ 15)、砥石(s16~21)、加工 痕のある礫(s22)、鉄鍋(k3)	288 292 306 307 313 316 374	
103 105	163	145	108	SD	156	3J-7H9・14・19・20・24・ 25,8H4・5・9・10・14・ 15・19・20・25,9H5・10・ 15・25,9I21,10H5・10・ 15・20,10I1・6・11・16・ 21	II	V a	N-5° ~10° -W	(34.90)	(0.60~ 1.14)	(34.90)	(0.23~ 0.84)	0.17	3.11~3.06	-	弧状	2	レンズ状	>Pit1212・1367・ 1405,SD157, SK1368, SX1219, <SD155・158	須惠器杯蓋(90~92)・無台 杯(93~96)・有台杯(97・ 98)、土師器杯蓋(99)・小甕 (100)・長甕(101~103)、 珠洲焼甕(426・427)、瓦質 土器插鉢(428)、円筒形土 製品(d7)、砥石(s13)	292 293 307 313 316	
102 104 105	162 163	144	108	SD	157	3J-5F20,5G16・21,6G1・ 2・6・7・12・17・22,7G2・ 3・7・8・13・14・18~ 20・24・25,8G4・5・ 10・15,8H6・11・16・ 17・21~23,9H2・3・ 7・8・13・14・18・19・ 24・25,10H4・5・10・ 15,10I6・11・16・17	I	V a	N-10° ~30° -W	(55.60)	0.88~1.38	(55.60)	0.35~0.73	0.53~0.75	2.68~2.58	-	台形状	4	レンズ状	>SB1567P3・Pit1392 <SB1560P8・ SB1561P2・Pit72・82・ 87・88・109・169・ 439・612・613・786, SD155・156・158・ SE80,河138	弥生土器甕(3)・土師器 甕(9)、須惠器杯蓋(32~ 36)・有台杯(37~40)・提 瓶(41)・長頸瓶(42~44)・ 甕(45~47)、土師器無台 碗(48)・高杯(49・50)・鉢 (51)・小甕(52~54)・長甕 (55~62)、土師質土器皿 (411)、羽口(d1~4)	288 290~ 292 306 313	

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時代	確認面	走行方向	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備考	
										上 端		下 端		深度		平面	断面							
										長軸	短軸	長軸	短軸											
104 105	163	144 145	108	SD	158	3J-8E24・25,8F17~ 25,8G9~19,8H3~ 12,8I1・6,9D10・15,9E2 ~9,9F1・2	II	V a	N-73° -E	43.7	1.52~1.97	2.00	1.29~1.75	0.16~0.24	3.18~2.98	-	台形状	4~ 6	レンズ状	>Pit775-991・1196・ 1424・1436,SD155・ 156・157,SE520, SK916・1515, SX521・841・1197 <SA1546P2,SB1559P4 ~P6,SB1560P1~P4, Pit127-646・706・713・ 714・715・799・839・ 864・1045・1425,SD800 =SD154	須恵器杯蓋(110・111)・ 有台杯(112・113)・長頸瓶 (114)・甕(115~117)・ 土師器小甕(118・119)・ 土師器(120・121)・青磁 碗(431)・珠洲焼片口鉢 (432・433)・壺(434)・甕 (435・436)・土師質土器皿 (437)・磨石類(s8~10)・ 砥石(s11・12)・箸状木製 品(w52)・古銭(k4)	293 307 315 316 338 374		
100 102	162	143	107	SD	174	3J-2H10・15・20・ 25,3H5・10・15	IV	V a	N-0°	13.1	0.31~0.80	12.92	0.22~0.65	0.08	3.06	-	弧状	2	ブロック状		青磁碗(410)	306		
100	162	142・143	107	SD	219	3J-2I4・5・7~10,2J1	IV	V a	N-80° -E	(8.93)	0.67	(8.89)	0.59	0.09	2.80	-	弧状	1	単層	<SD153				
102	162	144	108	SD	232	3J-3H20・25,4H5・10・ 15・20・25,5H5・10	IV	V a	N-3 ~10° -W	(14.60)	0.23~0.34	(14.52)	0.09~0.23	0.08	3.14~3.08	-	弧状	2	レンズ状		土師器長甕(31)	290		
102	162	144	108	SD	233	3H-4H5・10・15・20・ 25,4I11・16・21,5I1	IV	V a	N-4 ~12° -W	(9.70)	0.28~0.48	(9.62)	0.19~0.42	0.09	3.07~3.19	-	弧状	2	レンズ状					
100	162	142	106	SD	279	3J-1I4・5・9・10・15・20・ 25,1J21,2J1	IV	V a	N-18° ~35° -W	11.11	0.28~0.52	11.03	0.18~0.43	0.09	2.92~2.88	-	弧状	1	単層	>SD283	珠洲焼片口鉢類(405)	306		
100	162	142	106	SD	280	2J-10I25,3J-1I5・10・ 15,1J6・11・16・21・ 22,2J2・7・8・13・14・18・ 19・24,3J4・5	IV	V a	N-22° -W N-31° -W N-14° -W	23.50	0.23~0.38	23.40	0.19~0.31	0.06	2.96	-	半円状	1	単層					
100	162	142	106	SD	283	3J-1I3・4	IV	V a	N-83° -W	(2.16)	0.71~0.84	(2.16)	0.62~0.78	0.03	2.92	-	弧状	1	単層	<SD279				
100	162	142・144	107	SD	284	3J-2J18・23	IV	V a	N-26° -W	3.44	0.17~0.22	3.35	0.09~0.16	0.08	2.89	-	台形状	1	単層					
103	163	145	109	SD	303	3J-7J5,3K-7A1	IV	V a	N-68° -E	(2.64)	0.29~0.44	(2.64)	0.13~0.29	0.09	2.89	-	半円状	1	単層	<SD153				
106 107	164	146	110	SD	474	4J1C21~23,2C3~5・ 9・10・14・15,2D6・11・ 12・16・17・22・23,3D3・ 4・8~10・15,3E6・11	現代	V b	N-47° -W	(23.63)	0.97~1.81	(23.39)	0.58~1.45	0.25	3.24~2.70	-	階段状	5	レンズ状		土師器小甕小片・長甕小片			
107	164	146	110	SD	475	4J-3E6・11~13・17~ 19・23~25,4E5,4F1			N-50° -W	12.20	1.44	11.97	1.15	0.11					<Pit478・479	土師器小甕小片・長甕小片				
107	164	146 147	110	SD	477	4J-1G19・21~24,2F4~ 12,2G1~3	II	V a	N-68° -E	16.72	1.24	16.36	0.96	0.14~0.49	3.12~2.77	-	弧状	8~ 11	レンズ状					
106 108	164	147	110	SD	480	4J-2B5・10,2C1・6・7・ 11~14・18~20・24・ 25,3D1・6・11・12・16・ 17・22,3G5・10,4D2	I	V a	N-19° -W N-30° -W N-71° -W N-48° -W	(25.50)	0.32~0.43	(25.44)	0.14~0.24	0.18~0.25	2.69~2.55	-	弧状	3~ 4	レンズ状		須恵器杯蓋(122・123)・無 台杯(124)・有台杯(125)・ 横瓶(126)・土師器長甕 (127~133)	293 294		
105	125	128	102・103	SD	690	3J-9G8・13・14・18・19・ 23・24	IV	V a	N-79° -E N-11° -W	7.62	0.49~0.36	7.53	0.33~0.22	0.10	3.24~3.23	-	弧状	3	レンズ状	>Pit651・688・689・ 696・698 <Pit699・ 722		SB1566 雨落溝		
105	164	146	109	SD	785	3J-10I11・12・17	I	V a	N-46° -W	(1.95)	0.56	(1.86)	0.50	0.29	2.95	-	台形状	4	斜位レンズ	<SD155				
104 106	163	145	109	SD	800	3J-8D25,9D4・5・8~10・ 13~15	III	V a	N-72° -E N-18° -W	(10.68)	1.65~2.28	(8.70)	0.62~1.02	0.42	2.83	-	弧状	11	レンズ状	>SA1546P1,SB156 2P3,SD158,SK1052	須恵器杯蓋(104~106)・壺 蓋(107)・把手付鉢(108)・ 円面碗(109)・珠洲焼甕 (429・430)・アスファルト 塊3点	293 307 377		
104 106	163	146	109	SD	869	3J-9F16・17・21・ 22,10F1・2・7・12・13・ 17・18	II	V a	N-40° -W N-6° -W	10.87	1.35	10.63	1.08	0.22	3.08	-	台形状	2	レンズ状	>SB1563P5~P6・ SB1564P9	珠洲焼甕(438)	308		

井戸(SE)

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構	グリッド	時代	確認面	主軸方向	規 模 (m)					底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
									上 端		下 端		深度		平面	断面						
									長軸	短軸	長軸	短軸										
104	165	148	111	SE	11	3J-6F8・9・13・14	IV	V a	N-10° -W	0.73	0.61	0.37	0.35	0.81	2.48	円形	U字状	5	レンズ状			
104	166	149	111	SE	49	3J-6F25	III	V a	N-4° -W	0.85	0.73	0.53	0.39	0.89	2.37	円形	U字状	8	ブロック状			
104	166	149	111	SE	56	3J-6F23,7F3	IV	V a	N-81° -W	1.07	0.96	0.33	0.25	1.19	2.10	円形	漏斗状	10	ブロック状		珠洲焼壺(439)、部材(w55)	308・339
104	167	151	112	SE	57	3J-7F2・3・7・8	III	V a	N-67° -W	2.05	1.87	1.73	1.63	1.02	1.94	円形	U字状	10	ブロック状	>SB1552P2	土師器長甕(140)、土師質土器皿(445)、磨石類(s31・32)、砥石(s33)、曲物底板(w72)、部材(w73・74)、用途不明品(w75)	294・308・319・342
102	166	149 150	111	SE	78	3J-6G6・7・11・12	III	V a	N-1° -E	1.55	1.36	1.16	1.10	0.91	2.01	楕円形	U字状	5	レンズ状	>Pit1526	須惠器甕(135)、珠洲焼片口鉢類(441・442)	294・308
102	166	150	111・112	SE	80	3J-6G12・17	IV	V a	N-5° -W	0.98	0.97	0.47	0.43	1.24	2.06	円形	漏斗状	7	ブロック状	>SD157	須惠器杯蓋(136)・甕(137)、珠洲焼片口鉢類(443)、土師質土器皿(444)、砥石(s29)、石核(s30)、曲物底板(w59)、部材(w60～63)	294・308・319・339
102	166	149	111	SE	89	3J-6G3	IV	V a	N-40° -W	0.58	0.48	0.17	0.12	0.71	2.52	円形	U字状	5	レンズ状		珠洲焼片口鉢類(440)、磨石類(s25)、台石(s26・27)、砥石(s28)、礫4点	308・317・318
104	169	152	113	SE	105	3J-7G16	IV	V a	N-11° -E	0.99	0.86	0.61	0.58	1.14	2.14	円形	U字状	14	ブロック状		青磁碗(451)、箸状木製品(w85～91)、部材(w92～96)、柱根(w97)、用途不明品(w98)	308・342・343
103	166	150	112	SE	170	3J-6I7・8・12	III	V a	N-9° -W	1.34	1.23	0.67	0.57	0.63	2.38	円形	半円状	7	ブロック状		土師器無台碗(138)	294
100	165	147	110	SE	173	3J-2H18・19	IV	V a	N-34° -E	0.71	0.68	0.41	0.35	0.88	2.27	円形	漏斗状	7	ブロック状		箸状木製品(w53)、部材(w54)、アスファルト塊1点	339
104	167	150 151	112	SE	183	3J-7E10,7F1・2・6・7	III	V a	N-35° -E	2.06	1.94	0.78	0.74	1.93	1.43	円形	漏斗状	12	ブロック状		土師器小甕(139)、田下駄(w64・65)、曲物(w66～68)、箸状木製品(w69)、部材(w70)、用途不明品(w71)	294・339～341
103	165	148	110・111	SE	242	3J-5J8・13	III	V a	N-57° -E	1.61	1.38	0.68	0.56	1.01	2.07	円形	台形状	5	レンズ状		須惠器甕(134)	294
104	165	148	111	SE	460	3J-6F16・17・21・22	III	V b	N-26° -E	2.29	(1.45)	0.68	(0.45)	1.14	1.96	楕円形	漏斗状	12	レンズ状	<SB1551P6, Pit446		
104	168	152	113	SE	485	3J-7F21・22,8F1・2	IV	V a	N-76° -E	1.68	1.41	1.16	1.03	1.10	2.18	円形	箱状	21	レンズ状	>Pit736	珠洲焼甕(450)、曲物蓋(w81)、折敷(w82)、箸状木製品(w83)、用途不明品(w84)、アスファルト塊2点	308・342
104	167	151	112	SE	497	3J-7F11・16	IV	V a	N-8° -E	0.75	0.71	0.46	0.44	0.87	2.43	円形	U字状	14	レンズ状		珠洲焼甕(446)、部材(w76)、用途不明品(w77)	308・342
104	167	151	112	SE	504	3J-7F12・17・18	IV	V a	N-20° -W	1.61	1.56	1.13	1.08	1.15	2.14	円形	箱状	38	レンズ状	<Pit515・562	アスファルト塊1点	377
104	169	153	113	SE	520	3J-8F19・24	IV	V a	N-70° -E	1.06	0.88	0.87	0.70	1.02	2.04	楕円形	箱状	13	レンズ状	>SD158	土師器長甕小片	
104	169	153 173	113	SE	522	3J-8F13・14	IV	V a	N-35° -W	0.96	0.93	0.58	0.49	0.99	2.30	円形	U字状	17	レンズ状	<SX521	須惠器杯蓋(142)、珠洲焼片口鉢類(452)、皿(w99)、部材(w100・101)	295・308・343
105	169	154	113	SE	523	3J-8G25,8H21	IV	V a	N-48° -W	0.87	0.83	0.59	0.48	0.73	2.59	円形	台形状	17	レンズ状			
105	170	155	114	SE	541	3J-9G3・8	III	V a	N-36° -W	1.19	0.96	0.82	0.65	1.15	2.19	円形	漏斗状	20	レンズ状		部材(w140)・用途不明品(w141)	347
104	168	151 152	112	SE	542	3J-7F16・17・21・22	III	V a	N-25° -W	2.11	1.82	1.57	1.48	1.22	2.05	楕円形	箱状	53	レンズ状	<Pit561・735	須惠器有台杯(141)、青磁碗(447)、珠洲焼中甕(448)、部材(w78・79)、鉄碗(k5)	294・308・342・374

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時代	確認面	主軸方向	規 模 (m)					底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
										上 端		下 端		深度		平面	断面						
										長軸	短軸	長軸	短軸										
105	169	118 153 154	113	SE	556	3J-8G19・20	IV	V a	N-36° -E	1.05	0.85	0.50	0.46	1.17	2.17	楕円形	U字状	16	レンズ状	<SB1561P10	鐵(w102)・椀(w103)・曲物(w104~107)・折敷(w108)・箸状木製品(w109~117)・楔(w118)・部材(w119~125)・柱根(w126・127)・用途不明品(w128~131)・瓢箪(w132・133)	344 ~ 346	
104	170	154 155	114	SE	577	3J-9F1・2・6・7	IV	V a	N-34° -W	0.89	0.83	0.73	0.50	1.29	1.97	円形	U字状	18	レンズ状	<SX576	珠洲焼甕(453)、土師質土器皿(454)、椀(w134)・皿(w135)・用途不明品(w136・137)	308 346	
104	168	152	112・113	SE	588	3J-7F17・18	IV	V a	N-35° -E	0.76	0.62	0.62	0.42	1.22	2.07	楕円形	U字状	13	レンズ状		珠洲焼片口鉢(449)、台石(s34)、曲物(w80)	308 320 342	
105	171	156	114	SE	709	3J-9G17・22	IV	V a	N-35° -W	1.22	1.22	0.71	0.64	1.16	2.16	円形	漏斗状	13	レンズ状		台石(s35・36)、砥石(s37)、軽石製石製品(s38)、下駄(w142)	320 321 347	
105	170	155	114	SE	710	3J-9G17・18	III	V a	N-48° -E	1.45	1.36	1.29	1.14	1.03	2.28	方形	箱状	15	レンズ ブロック	<Pit721	須恵器杯蓋(143)、珠洲焼甕(456)	295 308	
105	171	157	115	SE	798	3J-10G4・5・9・10	IV	V a	N-25° -W	1.34	1.34	0.55	0.55	1.07	2.21	円形	台形状	12	レンズ状	>SA1544P3, SX797	砥石(s40)	321	
105	172	158	115	SE	805	4J-1G5・10,1H1・6	IV	V a	N-44° -W	1.12	1.12	0.46	0.41	0.64	2.66	円形	U字状	11	レンズ状		須恵器杯蓋(146)	295	
104	170	154	113・114	SE	853	3J-9E10・15	III	V a	N-60° -E	1.40	1.24	0.97	0.79	1.20	2.04	円形	台形状	18	レンズ状	<SB1563P2, SB1564P1	板状金属製品(k6)	374	
105 107	171	156 157	115	SE	882	3J-10F25	IV	V a	N-38° -E	0.97	0.75	0.82	0.57	1.05	2.23	楕円形	U字状	11	レンズ ブロック		土師器小型壺(10)、須恵器甕(145)、椀(w144)・折敷(w145)・部材(w146)・用途不明品(w147)	288 295 347	
106	171	156	114・115	SE	912	3J-10E15,10F11	IV	V a	N-48° -W	0.79	0.76	0.45	0.40	1.09	2.18	円形	U字状	10	レンズ状		須恵器杯蓋(144)、砥石(s39)、箸状木製品(w143)	295 321 347	
104	170	155	114	SE	917	3J-9F23	IV	V a	N-2° -E	1.06	0.85	0.45	0.29	1.31	1.98	楕円形	漏斗状	15	レンズ状	>SX1533	珠洲焼甕(455)、紡錘車(d8)・蓋(w138)・部材(w139)、アスファルト塊7点	308 313 347	
107	172	159	116	SE	920	4J-2H2	IV	V a	N-83° -E	0.85	0.82	0.42	0.40	0.85	2.41	円形	U字状	11	レンズ状		折敷(w170)・刳物(w171)	352	
105	172	157・158	115	SE	987	4J-1G2・3	IV	V a	N-88° -W	0.82	0.70	0.55	0.47	0.99	2.27	円形	U字状	9	水平レンズ		曲物側板(w151)、鑿(k7)	348・374	
107	172	158	115	SE	1037	4J-1G6・7	III	V a	N-10° -W	0.80	0.73	0.48	0.48	0.93	2.26	円形	U字状	7	ブロック状	<Pit1035・1036	土師器長甕(147)	295	
106	171	157	115	SE	1070	4J-1E5・10,1F1・6	IV	V a	N-48° -E	0.89	0.87	0.76	0.69	1.11	2.17	円形	箱状	10	レンズ状		磨石類(s41)、砥石(s42)、箸状木製品(w148)、用途不明品(w149・150)	321 322 348	
106	171	156	115	SE	1091	3J-10E16・17	IV	V a	N-0°	0.90	0.81	0.81	0.74	1.47	1.80	円形	箱状	15	レンズ ブロック				
107	172	159	116	SE	1363	4J-2F10,2G6	II	V a	N-51° -W	0.89	0.65	0.55	0.50	0.85	2.34	楕円形	台形状	9	水平		鋤(w152~154)・刳舟(w155~162)・櫛(w163)・用途不明品(w164~166)・モモ核(w167~169)	348 ~ 352	
107	172	158・159・190	115・116	SE	1505	4J-1G12・13・18	II		N-0°	0.81	0.66	0.43	0.37	0.60	2.28	円形	台形状	5	水平	<SK1028			
102	165	148・164	110	SE	1518	3J-5G23,6G3・4	IV		N-70° -W	0.82	0.75	0.37	0.35	1.41	1.88	円形	U字状	13	レンズ状	>SK1517	箸状木製品(w56)、用途不明品(w57・58)	339	

土 坑(SK)

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構	グリッド	時代	確認面	主軸方向	規 模 (m)					底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
									上 端		下 端		深度		平面	断面							
									長軸	短軸	長軸	短軸											
102	173	161・162	117	SK	5	3J-3H20	IV	V a	N-3° -W	0.65	0.61	0.52	0.50	0.19	2.90	円形	台形状	2	ブロック状				
102	175	163 164	118	SK	69	3J-5G2・3・7・8	IV	V a	N-10° -E	2.77	1.85	2.05	1.07	0.75	2.53~ 2.50	長方形	台形状	11	レンズ状		須恵器甕(148)、珠洲焼片口鉢類(457)、土師質土器皿(458)、砥石(s43~45)、曲物側板(w173~178)・箸状木製品(w179~w182)・部材(w183~186)・用途不明品(w187~192)	295 309 322 352 353	
102	175	164	118	SK	71	3J-5G17・22	IV	V a	N-55° -W	0.61	0.56	0.46	0.42	0.12	3.12	円形	弧状	2	レンズ状		珠洲焼片口鉢類(459)	309	
102	174	162	117	SK	79	3J-4I14	IV	V a	N-68° -E	1.43	1.08	1.10	0.68	0.29	2.42	楕円形	台形状	1	単層	>SD153			
102	175	164	118	SK	83	3J-5G23・6G3	IV	V a	N-22° -E	1.28	1.12	0.95	0.60	0.97	2.32	円形	台形状	3	レンズ状	>SK1517	須恵器甕(149)、柱根(w193)	295・354	
100	173	160	116	SK	100	3J-2H24・25	III	V a	N-61° -W	0.84	0.37	0.79	0.27	0.04	2.82	長楕円形	弧状	1	単層				
104	177	168	120	SK	102	3J-7G1・6	IV	V a	N-90°	0.97	0.77	0.90	0.66	0.19	3.09	長方形	箱状	1	単層				
102	175	164	118	SK	112	3J-5H6・7・12	IV	V a	N-81° -E	0.89	0.78	0.29	0.25	0.45	2.79	円形	台形状	2	レンズ状				
105	179	174	123	SK	127	3J-8H4・9	—	V a	N-19° -E	0.67	0.49	0.46	0.29	0.14	3.17	楕円形	弧状			>SD158			
102	176	165	118・119	SK	149	3J-5I6・7	III	V a	N-28° -W	0.72	0.56	0.44	0.29	0.11	2.83	楕円形	弧状	1	単層				
102	174	163	118	SK	150	3J-4I23,5I3	III	V a	N-34° W	0.79	0.74	0.54	0.50	0.13	2.78	楕円形	弧状	1	単層	<SD153			
102	174	163	117・118	SK	168	3J-4I21・22,5I1・2	III	V a	N-85° -E	1.37	0.98	1.07	0.79	0.11	2.86	楕円形	弧状	1	単層				
102	175	164	118	SK	175	3J-5I1・2	III	V a	N-28-W	0.63	0.51	0.43	0.36	0.12	2.73	楕円形	弧状	1	単層				
103	176	165	119	SK	176	3J-6I14	IV	V a	N-11° -W	0.85	0.66	0.61	0.29	0.11	2.87	楕円形	弧状	1	単層				
103	176	166	119	SK	210	3J-6J6・11	IV	V a	N-59° -W	(1.13)	(0.36)	(0.62)	(0.23)	0.28	2.74	楕円形	半円状	1	単層	>SX213	柱根(w194)	354	
103	179	174・175	123	SK	223	3J-8J7・8・12・13	IV	V a	N-70° -W	1.53	1.19	0.77	0.57	0.35	2.63	楕円形	台形状	1	単層				
103	180		123	SK	224	3J-8J9	IV	V a	N-55° -E	0.71	(0.59)	0.34	0.33	0.36	2.57	長楕円形	台形状	1	単層				
105	177		120	SK	236	3J-7I21・22,8I1・2	III	V a	N-5° -W	1.47	0.97	0.84	0.40	0.30	2.69	長方形	台形状	4	レンズ状	=SD154			
103	176	165	119	SK	245	3J-5J24・25	IV	V a	N-78° -E	1.79	1.40	1.47	1.16	0.19	2.81	長方形	台形状	1	単層	>Pit1537			
102	174	162	117	SK	246	3J-4G9・10・14・15	III	V a	N-45° -E	1.99	(1.96)	1.61	(1.54)	0.35	2.79	円形	台形状	3	水平				
103	176	166	119	SK	249	3J-6J4	IV	V a	N-5° -W	0.80	0.62	0.52	0.21	0.25	2.71	楕円形	半円状	1	単層				
102	174	162	117	SK	260	3J-4I6・7・11・12	IV	V a	N-9° -E	(1.35)	(1.08)	(1.12)	(0.93)	0.30	2.78	楕円形	台形状	1	単層				
103				SK	266	3J-6I21,7I1	IV	V a	N-17° -W	(0.90)	(0.49)	(0.78)	(0.38)	—	—	長方形	台形状	—	—	<SD154,河138			
103	176	165	119	SK	267	3J-5J25,6J5,3K-6A1	—	V a	N-5° -W	1.21	0.75	0.99	0.47	0.39	2.58	長方形	台形状	—	—				
103	174	163	118	SK	268	3J-4J8・12・13	III	V a	N-74° -E	1.62	1.24	1.19	0.93	0.37	2.31	長方形	台形状	2	レンズ状	>Pit1536	曲物側板(w172)	352	
100	173	160・161	116・117	SK	274	3J-2I5	III	V a	N-68° -W	0.74	0.54	0.61	0.40	0.13	2.81	楕円形	台形状	1	単層				
101	173	162	117	SK	278	3K-3B9・10・14・15	III	V a	N-62° -W	0.77	0.77	0.62	0.59	0.25	2.70	円形	半円状	3	レンズ状				
100	173	161	117	SK	281	3J-2J11	III	V a	N-87° -E	0.83	0.43	0.62	0.25	0.28	2.74	長楕円形	V字状	3	水平				
100	173	159・160	116	SK	285	2J-10J16・21	IV	V a	N-70° -E	1.19	1.11	0.97	0.86	0.41	2.50	方形	台形状	1	単層				
100	173	160	116	SK	286	2J-10J22,3J-1I2	—	V a	N-23° -E	0.68	0.53	0.52	0.42	0.05	2.85	不整形	弧状	1	単層				
100	173	161	117	SK	292	3J-2J3・4・8・9	IV	V a	N-20° -W	1.47	1.27	1.20	0.85	0.42	2.53	方形	台形状	3	ブロック状				
100	173	160	116	SK	293	3K-1A12・13・18	IV	V a	N-16° -W	1.70	1.38	1.50	1.16	0.23	2.67	長方形	台形状	2	水平				
103	176	166	119	SK	300	3J-6I19・24	IV	V a	N-3° -W	0.88	0.86	0.51	0.45	0.60	2.32	隅丸方形	U字状	4	レンズ ブロック				
102	173	161	117	SK	311	3J-3H16	III	V a	N-44° -W	0.72	0.55	0.49	0.37	(0.11)	2.87	楕円形	弧状	2	レンズ状	<SD13			
105	177	168	120	SK	432	3J-7H24,8H4	III	V b	N-62° -E	0.51	0.49	0.23	0.22	0.31	2.93	円形	台形状	3	レンズ状				
109	186	193	131・132	SK	482	4J-4D4・9	IV	V a	N-37° -W	0.77	0.75	0.09	0.09	0.40	2.12	円形	台形状	2	レンズ状				
104	178	170	121	SK	483	3J-8E14・19	IV	V a	N-76° -E	0.77	0.58	0.49	0.35	0.16	3.14	長楕円形	弧状	2	レンズ状				
104	178	170	121	SK	484	3J-8E9・14	IV	V a	N-50° -E	0.75	0.73	0.40	0.38	0.12	3.17	円形	弧状	2	レンズ状	>Pit511			
104	179	172・173	122	SK	486	3J-8F11	IV	V a	N-37° -W	0.42	0.40	0.27	0.25	0.11	3.21	円形	弧状	2	レンズ状				
104	179	173	122	SK	488	3J-8E20,8F16	IV	V a	N-21° -W	0.51	0.34	0.10	0.07	0.25	3.04	長方形	台形状	6	水平				

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構	グリッド	時代	確認面	主軸方向	規 模 (m)					底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
									上 端		下 端		深度		平面	断面						
									長軸	短軸	長軸	短軸										
104	179	173・174	122・123	SK 494	3J-8G6・7	IV	V a	N-51° -E	0.53	0.48	0.36	0.25	0.19	3.14	円形	台形状	5	斜位				
104	179	172	122	SK 503	3J-8F4・5	IV	V a	N-29° -E	0.89	0.83	0.67	0.61	0.50	2.80	円形	台形状	11	レンズ状		古銭(k8)	374	
104	178	169・170	121	SK 510	3J-8E8・9	III	V a	N-68° -W	0.45	0.42	0.32	0.23	0.21	3.09	円形	半円状	7	ブロック状				
104	178		122	SK 519	3J-8F4	IV	V a	N-47° -W	0.47	0.43	0.38	0.31	0.18	3.18	円形	台形状	1	単層				
104	178	171	122	SK 524	3J-8F2・7	IV	V a	N-70° -W	0.55	0.48	0.35	0.29	0.32	2.99	円形	台形状	5	レンズ状				
104	176	166	119	SK 527	3J-7E10・14・15	IV	V a	N-10° -E	0.57	0.28	0.45	0.22	0.14	3.19	長楕円形	箱状	6	水平レンズ				
104	179	173	122	SK 534	3J-8F14	IV	V a	N-27° -W	0.71	0.55	0.50	0.30	0.24	3.01	楕円形	台形状	12	ブロック状				
104	177	168	120	SK 537	3J-7F18	IV	V a	N-40° -E	0.33	0.32	0.21	0.19	0.13	3.19	円形	台形状	3	レンズ状				
104	177	167・168	120	SK 538	3J-7F13・18	III	V a	N-41° -W	0.51	0.47	0.29	0.28	0.20	3.09	楕円形	台形状	7	ブロック状				
104	179	172	122	SK 540	3J-8F10・15	IV	V a	N-28° -W	0.60	0.41	0.42	0.26	0.16	3.15	楕円形	台形状	4	レンズ状				
105	179	118・174	123	SK 555	3J-8G20・25	IV	V a	N-8° -E	1.13	0.99	0.70	0.63	0.65	2.59	円形	箱状	13	レンズ状	<SB1561P10	箸状木製品(w195~197)・ 用途不明品(w198・199)、 板状金属製品(k9)	354 374	
104	179	172	122	SK 558	3J-8F4・9	IV	V a	N-66° -W	0.51	0.45	0.35	0.32	0.14	3.17	円形	台形状	3	レンズ状		土師器小甕小片		
104	179	173	122	SK 559	3J-8F13・18	IV	V a	N-70° -W	1.03	0.55	0.87	0.38	0.12	3.00	長方形	弧状	1	単層	<SX521			
104	178	171	121	SK 619	3J-8E18・23	III	V a	N-22° -W	0.76	0.49	0.59	0.29	0.19	3.11	長楕円形	弧状	5	レンズ状	>SK620・666, SX1506	土師器小甕小片・長甕小片		
104	178	171	121	SK 620	3J-8E23	III	V a	N-73° -E	(1.66)	0.67	(1.53)	0.52	0.15	3.16	長方形	台形状	4	レンズ状	>SK666, SX1506 <SK619	須恵器杯蓋(150)	295	
105	185	189	129	SK 647	3J-10I2・3	IV	V a	N-77° -E	2.33	0.99	1.20	0.79	0.77	2.44	長方形	階段状	7	ブロック状	>SK1507, <SD154	須恵器有台杯(176)	296	
104	178	171	121・122	SK 666	3J-8E18・19・22~ 24,9E3	I	V a	N-24° -E	2.89	1.78	2.61	1.56	0.16	3.13	長方形	台形状	8	レンズ状	>SX1506 <Pit611, SK619・620	須恵器杯蓋(152・153)・ 無台杯(154・155)、高杯 (156・157)、土師器小甕 (158)・長甕(159~161)	295	
104	180	177・178	124	SK 691	3J-9F20	IV	V a	N-87° -W	1.15	0.88	0.93	0.54	0.13	3.21	長楕円形	弧状	6	レンズ状	>SB1565P1, SK695			
104	180	177・178	124・125	SK 695	3J-9F20	III	V a	N-45° -E	0.55	0.45	0.32	0.25	0.21	3.11	楕円形	台形状	5	レンズ状	<SK691			
104	177	167	119	SK 729	3J-7E24	III	V a	N-37° -W	0.59	0.43	0.41	0.30	0.15	3.14	楕円形	台形状	1	単層				
104	176	166・167	119	SK 731	3J-7E19	III	V a	N-73° -E	0.53	0.24	0.41	0.17	0.09	3.22	長楕円形	弧状	4	レンズ状	>Pit1516			
104	177	167	119・120	SK 738	3J-7F12	IV	V a	N-35° -W	0.54	0.38	0.39	0.27	0.25	3.01	楕円形	台形状	10	レンズ状	>Pit739			
104	177	167	120	SK 741	3J-7F12・13	III	V a	N-48° -W	0.58	0.30	0.40	0.19	0.14	3.15	楕円形	箱状	4	水平		砥石(s46)	323	
106	182	181	126	SK 758	3J-10D2・3・7・8	II	V a	N-25° -W	1.92	1.11	1.34	0.59	0.22	3.02	長楕円形	弧状	3	レンズ状	>Pit160,SD958, SX967 <SK1115	土師器小甕(167~169)	295	
104	178	169	120・121	SK 765	3J-8E7	II	V a	N-30° -E	0.32	0.28	0.27	0.21	0.17	3.06	円形	箱状	4	水平				
104	178	170	121	SK 766	3J-8E10・15	II	V a	N-21° -W	1.30	1.13	1.09	0.78	0.25	3.02	円形	台形状	5	レンズ状		須恵器甕(151)	295	
105	184	186	128	SK 796	3J-10H6・11	III	V a	N-6° -E	0.77	0.73	0.43	0.43	0.27	3.01	略円形	台形状	3	水平		土師器長甕小片		
105	184	187	129	SK 804	3J-10H16	III	V a	N-32° -E	(0.75)	(0.50)	(0.65)	(0.45)	0.30	3.00	楕円形	箱状	3	レンズ状		土師器長甕(170)	295	
105	184		128・129	SK 810	3J-10H12	III	V a	N-67° -E	(0.62)	0.21	(0.49)	0.16	0.07	3.21	長楕円形	台形状	2	水平	>Pit1358 <Pit809	土師器長甕小片		
105	186	191・192	131	SK 811	4J-1H13	III	V a	N-48° -E	0.57	0.56	0.43	0.39	0.22	3.06	不整形	台形状	4	水平レンズ				
105	186	191	131	SK 813	4J-1H8	III	V a	N-23° -W	1.23	0.32	1.01	0.23	0.23	3.06	長楕円形	箱状	3	水平	>Pit1508			
105	185	191	130・131	SK 821	4J-1H4・9	III	V a	N-42° -W	0.58	0.51	0.50	0.37	0.20	3.12	円形	箱状	2	水平				
105	186	191	131	SK 826	4J-1H7・8・12・13	I	V a	N-28° -W	0.61	0.28	0.56	0.23	0.10	3.19	長楕円形	箱状	2	水平				
104	180	176	124	SK 833	3J-9E19	I	V a	N-42° -W	(0.50)	0.42	(0.43)	0.35	0.20	3.06	長方形	箱状	3	レンズ状	<Pit832	土師器長甕小片		
105	183	184	127	SK 834	3J-10G25	III	V a	N-63° -W	0.39	0.29	0.29	0.21	0.11	3.21	楕円形	弧状	2	レンズ状				
105	183	183	127	SK 848	3J-10G11・16	I	V a	N-50° -W	0.47	0.46	0.32	0.30	0.33	3.01	円形	箱状	5	レンズ状				
105	186	192	131	SK 858	4J-1H17	III	V a	N-12° -E	0.43	0.32	0.28	0.20	0.17	3.12	楕円形	台形状	2	水平	<Pit857・1509			
105	181	178	125	SK 863	3J-9F25,9G21,10G1	IV	V a	N-37° -W	1.37	1.19	1.10	0.89	0.13	3.16	円形	弧状	3	ブロック状	<Pit862・1510			

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時代	確認面	主軸方向	規 模 (m)					底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
										上 端		下 端		深度		平面	断面						
										長軸	短軸	長軸	短軸										
104	178	169	120	SK	888	3J-8E5	I	Va	N-84°-W	0.79	0.67	0.55	0.39	0.33	2.91	円形	台形状	9	ブロック状				
104	177	168・169	120	SK	889	3J-8E3	I	Va	N-73°-W	(0.59)	0.40	(0.55)	0.22	0.25	3.01	長楕円形	台形状	4	レンズ状	>SK956, <SB1554P5			
106	183	183	126・127	SK	911	3J-10F17	IV	Va	N-58°-W	(0.65)	0.60	0.27	0.24	0.69	2.61	円形	U字状	11	レンズ状				
104	180	176	124	SK	916	3J-9E5・10	I	Va	N-22°-E	0.97	0.86	0.78	0.75	0.24	2.97	円形	箱状	7	水平	<Pit635, SD158	須恵器杯蓋(162・163)	295	
104	183	183	126	SK	926	3J-10F8	II	Va	N-43°-E	0.61	0.47	0.46	0.28	0.26	3.04	楕円形	半円状	3	レンズ状	<Pit896 >Pit1472			
104	177	169	120	SK	956	3J-8E3	I	Va	N-34°-W	0.79	0.41	0.72	0.29	0.17	3.09	長楕円形	台形状	3	水平	<SK889			
104	180	177	124	SK	977	3J-9E25	II	Va	N-35°-E	0.38	0.33	0.32	0.28	0.11	3.18	円形	台形状	2	ブロック状				
104	180	177	124	SK	990	3J-9F2・3	II	Va	N-73°-E	0.46	0.28	0.43	0.21	0.15	3.08	長楕円形	箱状	13	ブロック状	<Pit569			
106	180	175・176	123・124	SK	1005	3J-9D25,9E21	I	Va	N-60°-W	0.78	0.77	0.65	0.58	0.27	2.98	略円形	台形状	8	ブロック状	>SK1090			
104	181	178	125	SK	1008	3J-9G2	IV	Va	N-16°-E	(0.56)	(0.53)	(0.37)	(0.36)	0.33	2.96	円形	台形状	5	ブロック状		須恵器甕(164)	295	
104・106	180	175	123	SK	1010	3J-9D14	I	Va	N-5°-E	0.59	0.55	0.48	0.36	0.18	3.10	円形	半円状	3	ブロック状	>Pit1011			
105	185	190	130	SK	1022	4J-1G8	IV	Va	N-58°-E	0.50	0.49	0.29	0.28	0.13	3.12	円形	台形状	2	水平				
107	185	158・190	130	SK	1028	4J-1G12・13・17・18	III	Va	N-54°-E	1.92	1.59	1.75	1.36	0.37	2.85	楕円形	箱状	7	ブロック状	>SE1505, Pit1122	須恵器長頸瓶(177・178)・甕 (179)、土師器長甕(180～ 182)、アスファルト塊1点	296	
104	180	177	124	SK	1050	3J-9F16・17	I	Va	N-2°-W	0.88	0.80	0.75	0.65	0.21	2.89	方形	台形状	2	水平	>Pit1164・ 1511 <SD869			
104	180	175	123	SK	1052	3J-9D14・15	I	Va	N-24°-W	(0.69)	0.58	(0.50)	0.37	0.15	3.06	円形	台形状	5	ブロック状	<SD800	土師器無台碗小片・小甕小片		
106	182	182	126	SK	1071	3J-10D9・10・14・15	II	Va	N-63°-W	(0.81)	0.77	(0.57)	0.58	0.58	2.67	円形	U字状	13	レンズ状				
106	180	176	124	SK	1090	3J-9E21	I	Va	N-22°-W	0.93	0.75	0.80	0.60	0.30	2.96	楕円形	台形状	2	水平	<Pit1006, SK1005			
106	182	182	126	SK	1098	3J-10D15・20	II	Va	N-61°-W	0.46	0.40	0.29	0.25	0.22	3.06	円形	半円状	2	水平				
106	182	182	126	SK	1099	3J-10D15	II	Va	N-14°-W	0.46	0.31	0.32	0.20	0.27	3.00	楕円形	台形状	3	水平				
106	183	182	126	SK	1103	3J-10E11	II	Va	N-69°-E	0.43	0.35	0.20	0.19	0.21	3.01	楕円形	半円状	3	レンズ状				
106	182	180・181	126	SK	1115	3J-10D2・3・7・8	III	Va	N-80°-E	2.09	1.96	1.81	1.66	0.85	2.41	円形	台形状	18	ブロック状	>SD958, SK758・ <Pit1109・ 1114	須恵器杯蓋(165)、土師器小甕 (166)、支脚(d10)、部材(w200)、 柱根 (w201～206)、用途不明品 (w207)、伐採木(w208～210)、 鉄塊(k10)、アスファルト塊1点	295・313・ 354～356・ 374	
107	185	189	130	SK	1120	4J-1F3	III	Va	N-87°-E	0.36	0.34	0.26	0.22	0.12	3.20	円形	半円状	4	レンズ状				
105	181	178	125	SK	1172	3J-9G25,9H21	I	Va	N-32°-E	0.65	0.60	0.56	0.54	0.19	3.04	円形	箱状	4	レンズ状				
105	181	180	125・126	SK	1177	3J-9H22	I	Va	N-50°-E	1.13	0.38	0.87	0.19	0.29	2.98	長楕円形	U字状	5	レンズ状	<Pit1175,SK795			
105	181	179	125	SK	1180	3J-9H16	I	Va	N-37°-E	1.29	0.85	0.97	0.57	0.22	3.05	長楕円形	台形状	2	レンズ状	<Pit1179			
107	185	189	130	SK	1191	4J-1F6・7・11・12	I	Va	N-54°-E	1.29	0.54	1.09	0.42	0.25	3.05	長楕円形	台形状	3	レンズ状				
106	180	175	123	SK	1201	3J-9D13・14・18・19	I	Va	N-74°-E	0.95	0.71	0.76	0.55	0.12	3.13	長方形	弧状	1	単層				
107	185	190	130	SK	1203	4J-1G20	III	Va	N-58°-W	0.91	0.81	0.79	0.70	0.12	3.11	楕円形	箱状	3	水平	>Pit1257			
105	184	186	128	SK	1240	3J-10H7・8	I	Va	N-32°-W	0.63	0.55	0.42	0.40	0.21	3.07	方形	台形状	2	水平	<Pit1220			
105	185	191	130	SK	1243	4J-1H4・5	I	Va	N-76°-W	(0.68)	0.49	(0.43)	0.30	0.17	3.14	楕円形	半円状	3	レンズ状	<Pit1242			
105	183	184	127	SK	1247	3J-10G15,10H11	II	Va	N-62°-E	0.61	0.49	0.31	0.31	0.23	3.08	楕円形	半円状	6	ブロック状		土師器長甕小片		
105	184	188・200	129	SK	1248	3J-10H22,4J-1H1・2	III	Va	N-3°-E	1.57	1.11	1.05	0.65	0.28	3.02	楕円形	弧状	8	ブロック状	>SX1222	須恵器無台杯(171)・有台 杯(172)、土師器長甕(173・ 174)・鍋(175)	296	
105	183	185	127・128	SK	1271	3J-10H1・2	I	Va	N-47°-W	0.34	0.32	0.25	0.20	0.13	3.13	円形	半円状	2	水平				
105	183	185	127	SK	1274	3J-10G25,4J-1G5	I	Va	N-25°-E	0.53	0.52	0.30	0.24	0.33	2.98	円形	台形状	8	ブロック状				
105	183	184	127	SK	1277	3J-10G25,4J-1G5	I	Va	N-25°-E	0.78	0.48	0.46	0.33	0.23	3.06	長楕円形	台形状	7	ブロック状				
105	184	188	129	SK	1279	3J-10H22	II	Va	N-9°-E	0.77	0.73	0.43	0.41	0.13	3.19	方形	弧状	5	ブロック状	<SX1222			

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時代	確認面	主軸方向	規 模 (m)					底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
										上 端		下 端		深度		平面	断面						
										長軸	短軸	長軸	短軸										
105	183	185	128	SK	1282	3J-10H3・4	I	V a	N-15° -W	0.41	0.38	0.30	0.27	0.14	3.11	円形	台形状	3	レンズ状				
105	183	184	127	SK	1284	3J-10G20	II	V a	N-15° -W	(1.23)	(1.10)	(0.96)	(0.92)	0.15	3.12	円形	弧状	3	レンズ状	<SX1059			
105	183	183	127	SK	1286	3J-10G10・15	II	V a	N-30° -E	0.60	0.34	0.54	0.27	0.21	3.07	長方形	箱状	4	レンズ状		土師器小片		
105	183	185	128	SK	1287	3J-9H23,10H3	I	V a	N-10° -W	0.47	0.32	0.34	0.20	0.12	3.14	楕円形	箱状	4	レンズ状				
105	184	187	129	SK	1294	3J10H16	II	V a	N-79° -W	0.47	0.29	0.42	0.20	0.08	3.23	長楕円形	弧状	1	単層				
105	185	189	130	SK	1300	4J-1G5,1H1	I	V a	N-71° -W	0.49	0.46	0.30	0.27	0.32	2.94	円形	台形状	4	レンズ状				
105	184	186	128	SK	1310	3J-10H6	II	V a	N-88° -W	0.91	0.67	0.68	0.45	0.15	3.13	楕円形	台形状	3	レンズ状	>Pit1312, SK1311, <SK1326	円筒形土製品(d11)	313	
105	184	186	128	SK	1311	3J-10H6	II	V a	N-25° -E	0.61	0.49	0.44	(0.32)	0.18	3.09	楕円形	弧状	3	水平	<SK1310			
105	184	186	128	SK	1317	3J-10H8	I	V a	N-30° -E	0.43	0.32	0.22	0.19	0.15	3.11	楕円形	半円状	4	レンズ状				
105	184	186	128	SK	1326	3J-10H6	II	V a	N-25° -W	0.49	0.45	0.34	0.28	0.11	3.14	円形	弧状	1	単層	>SK1310			
105	181	180	125	SK	1327	3J-9H21	I	V a	N-48° -E	1.15	0.77	0.96	0.59	0.23	2.95	楕円形	台形状	3	レンズ状	<Pit1332・ 1346、 SX795	円筒形土製品(d9)	313	
105	184	187	129	SK	1329	3J-10H13	I	V a	N-50° -E	0.51	0.41	0.27	0.26	0.21	3.10	楕円形	半円状	4	レンズ状				
105	184	187	129	SK	1333	3J-10H12	II	V a	N-46° -E	0.41	0.37	0.27	0.22	0.29	3.02	円形	台形状	5	ブロック状				
108	186	193	131	SK	1348	4J-3C6・7・12	II	V a	N-39° -W	1.00	0.87	0.60	0.58	0.24	2.53	円形	半円状	4	レンズ状				
105	184	188	129	SK	1362	3J-10H17	II	V a	N-47° -W	0.51	0.43	0.24	0.21	0.20	3.11	楕円形	半円状	4	レンズ状				
105	181	179	125	SK	1368	3J-9H5	I	V a	N-56° -W	0.91	(0.73)	(0.68)	(0.50)	0.55	2.76	楕円形	半円状	4	レンズ状	>Pit1466, <SD156, Pit1367			
104	178	170	121	SK	1374	3J-8E16・17・22	II	V b	N-64° -W	0.46	0.28	0.28	0.13	0.17	2.96	長楕円形	半円状	6	レンズ状				
105	181	179	125	SK	1405	3J-9H16・17・22	I	V b	N-50° -E	0.76	0.71	0.56	0.55	0.09	2.84	円形	弧状	1	単層	<Pit1404、 SX795			
105	181		125	SK	1467	3J-9H4・5・9・10	II	V b		0.56	0.49	0.47	0.36	0.10	2.76	円形	弧状	1	単層				
107	186	192	131	SK	1479	4J-2F25,2G21,3F5,3G1	III	V b		0.89	0.49	0.67	0.37	0.15	2.93	長楕円形	台形状	1	単層	>Pit1473			
107	186	193	132	SK	1500	4J-4F11・16	III	V b	N-61° -W	1.55	1.15	1.32	0.93	0.25	2.68	長方形	台形状	3	レンズ状		須恵器有台杯(183)、土師質 土器皿(460)、古銭(k11)	296 309 374	
105	185		130	SK	1507	3J-10I2	III		N-79° -E	0.84	0.51	0.48	0.32	—	—	長楕円形	—	—	—	<SK647			
104	191		124	SK	1515	3J-9E4・9	I		N-17° -W	2.00	(0.58)	1.59	(0.41)	(0.10)	2.91	長楕円形	台形状	—	—	<SX841			
102	175	164	118	SK	1517	3J-5G23,6G3	III		N-22° -W	1.72	(1.48)	1.53	(1.24)	0.48	2.82	円形	弧状	2	水平	<Pit664・ 1519、 SK83・1518			
105	179	174	123	SK	1530	3J-8I25	I	IV b	N-88° -E	0.32	0.20	0.23	0.12	0.11	2.86	長楕円形	半円状	3	レンズ状	<Pit435			
105	186	192	131	SK	1532	4J-1H18	I		N-89° -E	0.53	0.37	0.34	(0.17)	0.20	3.10	楕円形	台形状	3	水平	<Pit823			
106	186	192・201	131	SK	1538	4J-2E2・3	I		N-43° -W	0.95	0.70	0.78	0.49	0.25	2.98	楕円形	台形状	—	—	<SX1088			

性格不明遺構(SX)

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構	グリッド	時代	確認面	主軸方向	規 模 (m)					底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考	
									上 端		下 端		深度		平面	断面							
									長軸	短軸	長軸	短軸											
104	188	194・195	132・133	SX	15	3J-6F17・18・22・23	IV	V a	N-62° -E	2.09	1.88	1.85	1.73	0.13	3.25	不整形	弧状	1	単層	>SB1551P5, SE460	青磁碗(461・462)	309	
104	189	195	133	SX	63	3J-7F9・14	III	V a	N-5° -W	0.88	0.56	0.77	0.49	0.09	3.20	不整形	弧状	2	ブロック状	地葉			
102	187		132	SX	65	3J-4I6	III	V a	N-72° -E	(1.53)	0.36~ (0.42)	(1.34)	0.27~ 0.31	0.04	3.11	長楕円形	弧状	1	単層				
102	188	194	132	SX	148	3J-5I3・8	-	V a	N-58° -E	1.26	1.12	0.94	0.60	0.20	2.76	不整形	台形状	1	単層				
104	189		133・134	SX	160	3J-7G25,8G5	IV	V a	N-29° -W N-13° -W	(2.72)	0.56~ 0.84	(2.57)	0.43~ 0.62	0.07	3.26	不整形円形	弧状	1	単層	<SB1558P8			
102	187	194	132	SX	178	3J-4G10・15,4H11	II	V a	N-55-W	1.00	1.00	0.58	0.37	0.25	2.84	不整形	弧状	5	ブロック状	攪乱			
103	187	194	132	SX	184	3J-4J14・15・19・20	-	V a	N-78-E	2.52	2.03	2.07	1.57	0.30	2.67	長方形	台形状	2	ブロック状	ノイズ			
103	189		133	SX	213	3J-6J11・16・17・21・ 22,7J1・2・6・7・11・ 12・16・17・22,8J2・ 7・12	-	V a	N-0° N-24° -W N-7° -W N-6° -W N-21° -W	(29.52)	0.10~ 0.57	(33.38)	0.07~ 0.93	-	-	-	-	-	-	-			
102 103	188	195	133	SX	227	3J-6H23・24,7H3・4・ 8・9	IV	V a	N-17° -W	4.39	(2.57)	3.21	(1.57)	0.76	2.53	長方形	台形状	6	レンズ状	<Pit1513, SD155	土師器壺(12)、須恵器有台杯 (187・188)・長壺(189)・壺 (190・191)、土師器小甕(192) ・長甕(193~196)、台石(s47・ 48)、砥石(s49)、椀(w214)・ 箸状木製品(w215)・刀子形 (w216)・火鑽白(w217)・部材 (w218~220)	288 296 297 323 356 357	
100	187	193・194	132	SX	275	3J-1I3・7~9・12~ 14	III	V a	N-55° -W	(3.46)	3.81	(3.23)	3.15	0.53	2.38	不整形	台形状	5	ブロック状		土師器高杯(11)、須恵器甕 (184~186)、椀(w211)・部材 (w212)・用途不明品(w213)	288 296 356	
103	189	196	134	SX	302	3J-7I5・10,7J1	II	V a	N-74° -E	2.69	0.47~ 0.77	2.57	0.23~ 0.64	0.29	2.53	長楕円形	U字状	1	単層	<河138			
104	189	196	134	SX	306	3J-7G5・10,7H1・6	-	V a	N-68° -E	2.28	2.03	1.98	1.78	0.30	2.99	不整形	弧状	-	-				
102	188	195	133	SX	447	3J-6G13	III	V b	N-44° -W	1.02	0.12~ 0.24	0.83	0.07~ 0.19	0.10	3.08	長楕円形	半円状	2	レンズ状	<Pit93			
103	189		133	SX	471	3J-6J16・21・22	III	V b	N-75° W	(1.86)	1.26	(1.32)	0.94	0.35	2.52	楕円形	弧状	4	レンズ状	>Pit472, <SX213			
106~109	195	201	137	SX	473	4J-3D12~15・17~ 20・22~25,3E16・ 17・21~23,4D1 ~10・12~15・18・ 20,4E1~4・6~9・11 ~14・16~19	-		N-55° -W	18.43	11.26	-	-	0.35	2.53	不整形	弧状	3	レンズ状	Pit1261・ 1336・ 1337・1342・ 1347 <SK482,	須恵器杯蓋(221~223)・無台 杯(224・225)・有台杯(226)・ 壺(227)・甕(228・229)、土師 器杯蓋(230)・無台碗(231)・高 杯(232)・壺(233)・小甕(234 ~236)・長甕(237・238)・甕 (239・240)、支脚(d14)、磨石類 (s51)・砥石(s52)、部材(w232)	298 313 324 358	
104	191	173・197	134	SX	521	3J-8F8・12~14・17 ~19	IV	V a	N-33° -E	(3.77)	2.59	(3.20)	2.12	0.27	3.04	不整形	弧状	4	ブロック状	>SB1556P4, SB1557P7, SE522,SK559	珠洲焼片口鉢類(463)・甕 (464)、土師質土器皿(465)、 アスファルト塊1点	309	
104	189	195	133	SX	529	3J-7E24,8E4・5	III		N-64° -W	1.85	1.84	1.42	1.32	0.29	3.01	隅丸方形	弧状	1	単層	>SX1378, <SB1554P4, Pit511・680・763	土師器長甕小片		
104	170	154・155	135	SX	576	3J-9F1・2・6・7	IV	V a	N-49° -W	1.07	0.98	0.77	0.68	0.23	3.05	方形	弧状	4	レンズ状	>SE577			
105	193	200	136	SX	628	3J-10H4・9	IV	V a	N-5° -E	2.17	0.98	1.79	0.84	0.15	3.17	長楕円形	台形状	5	ブロック状	>SA1545P1			
105	194	200・201	137	SX	648	3J-10H23・ 24,4J-1H3・4	IV	V a	N-76° -W	2.36	2.28	1.90	1.75	0.28	3.00	方形	台形状	2	水平	>Pit1208・ 1217	土師器小甕小片・長甕小片		
104	189	196	133	SX	761	3J-7F18・19	II	V a	N-83° -W	1.62	0.23	1.39	0.14	0.10	3.15	長楕円形	弧状	4	レンズ状	>Pit1416			
105	193	199	136	SX	795	3J-9H16・17・21・22	II	V a	N-82° -E	3.08	2.60	2.70	2.20	0.27	2.92~ 2.89	不整形	弧状	6	レンズ状	>Pit1151・ 1161・1173・ 1174・1175・ 1346・1404・ SK1177・ 1327・1405			

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時代	確認面	主軸方向	規 模 (m)					底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
										上 端		下 端		深度		平面	断面						
										長軸	短軸	長軸	短軸										
105	192	199	136	SX	797	3J-9G24・25,10G4・5	IV	V a	N-36°-E	2.86	1.43	2.66	1.17	0.22	3.06	長方形	台形状	2	レンズ状	<SA1544P3, SE798	土師器小甕小片, 長甕小片		
104	191	198	135	SX	841	3J-9E3・4・8・9・13・14	III	V a	N-15°-W	4.22	1.75	3.72	1.22	0.34	2.91	長方形	台形状	13	ブロック状	>SK1515 <SB1563P1, Pit819 =SD158	須恵器杯蓋(199)・無台杯(200)・土師器無台碗(201)・小甕(202～204)・長甕(205～209)・筒形土製品(d12)	297 313	
104	192	198	135	SX	871	3J-9E19・20	II	V a	N-68°-W	1.42	1.39	1.21	1.07	0.32	2.93	不整形	台形状	8	ブロック状	>Pit1455 <SB1563P10	須恵器杯蓋(210)	297	
105	193	199・200	136	SX	892	3J-10G22,4J-1G1・2	II	V a	N-45°-E	1.32	1.01	1.19	0.83	0.14	3.12	長方形	弧状	2	レンズ状	<Pit890・891			
104	192	198	135	SX	929	3J-9E23・24,10E3・4	II	V a	N-46°-E	1.51	0.81	0.92	0.54	0.23	3.04	長方形	台形状	11	ブロック状				
107・109	199	202 ～ 204	138	SX	945	4J-4E18～20・23～ 25,4F16～19・21～ 24,5E3～5・8～10・ 13・14,5F1～3・6・7	I	IV b	N-75°-E	12.20	7.17										須恵器杯蓋(260・261)・無台杯(262～272)・有台杯(273～280)・高杯(281～287)・仏鉢(288)・短頸瓶(289)・甕(290・291)・土師器無台碗(292)・高杯(293・294)・小甕(295・296)・長甕(297～299)・壺(300～306)・黒色土器高杯(307～309)・土製有孔円盤(d15～d29)・磁石(s58)・木簡(w290)・權(w291・292)・曲物(w293～295)・円板(w296)・糸串(w297～299)・刀形(w300)・部材(w301～306)・用途不明品(w307～316)・刀子(k13)	300～302 313 325 366～370 375	
108 109	197	202	138	SX	946	4J-4C12～15・17～ 20・23～25,4D16・ 17・21・22,5C3～5・ 9・10,5D1・2・6	II	IV b	N-63°-W	10.53	7.00										須恵器杯蓋(242)・無台杯(243・244)・有台杯(245)・高杯(246)・横瓶(247・248)・平瓶(249・250)・甕(251～254)・土師器長甕(255・256)・甕(257)・磨石類(s53～55)・台石(s56)・磁石(s57)・曲物(w257～261)・刀形(w262)・部材(w263)・用途不明品(w264～267)	298～300 324 325 361～363	
108	198	202	138	SX	947	4J-4C21～23, 5C1～3	II	IV b	N-86°-W	3.80	2.77										土師器小甕(258・259)・曲物(w268・269)・部材(w270・271)・建築部材(w272)・用途不明品(w273～278)	300 363 364	
108	200	202・203	138	SX	948	4J-5B4・5・9・10・14・ 15,5C1・2・6・7・11・ 12	II	IV b	N-60°-W	5.03	4.32										土師器甕(15)・黒色土器無台碗(310)・木槌(w317)・建築部材(w318)・用途不明品(w319)	289 302 371	
108	200	202・203	138	SX	949	4J-5A14・15・19・20	—	IV b	N-40°-E	3.34	3.07										土師器壺(13)・甕(14)	288・289	
108	196	202	137・138	SX	950	4J-4A13～15・18～ 20・23～25,4B11～ 25,4C16・21,5A4・ 5,5B1～5	III	IV b	N-88°-E	16.20	6.11					長楕円形					土師器長甕(241)・刺物(w233)・曲物(w234・235)・硯(w236)・部材(w237～240)・柱根(w241)・用途不明品(w242～255)・伐採木(w256)	298 359～361	
109	198	202 203	138	SX	951	4J-4D23～25, 4E21,5D3～5・ 8～10,5E1・2・6	I	IV b	N-81°-E	7.44	3.74										鐵形(w279)・部材(w280～282)・建築部材(w283)・用途不明品(w284～289)・鉄鏝(k12)	364 365 374	
106	182	181	135	SX	957	3J-9D22・23,10D2・3	II	V a	N-59°-W	(1.98)	1.07	1.80	0.93	0.20	3.08	長楕円形	台形状	2	レンズ状	<SK758			
106	182	181	136	SX	958	3J-10D3・8・9	II	V a	N-70°-W	(3.11)	(0.55)	(2.96)	(0.45)	0.13	3.12	不整形楕円形	台形状	1	単層	>Pit1160, <Pit1108・1114, SK758・1115			
107	194	201	137	SX	998	4J-1H21,2H1・2・6・7	III	V a	N-18°-W	2.52	1.41	2.22	1.22	0.28	2.92	長方形	台形状	2	水平		土師器小甕小片		
104	190	196	134	SX	1020	3J-8E12・13・17・18	II	V a	N-28°-W	3.29	2.33	2.99	2.05	0.31	2.96	不整形	弧状	5	レンズ状	>SX1506, <Pit618	須恵器無台杯(197)・有台杯(198)・軽石製石製品(s50)	297 324	
104	191	197	134・135	SX	1051	3J-8G21・22	I	V a	N-54°-E	1.71	1.08	1.31	0.70	0.20	3.11	長方形	台形状	3	レンズ状				

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	本 文 記載頁	遺 構		グリッド	時代	確認面	主軸方向	規 模 (m)					底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
										上 端		下 端		深度		平面	断面						
										長軸	短軸	長軸	短軸										
105	193	199	136	SX	1059	3J-10G14・15・19・20	I	V a	N-14° -E	1.98	1.28	1.49	1.05	0.11	3.18	長方形	弧状	1	単層	<Pit835			
106	194	192・201	137	SX	1088	4J-2E2・3	II	V a	N-37° -W	1.61	(1.35)	1.44	(1.30)	0.11	3.21	略円形	台形状	-	-	>SK1538	須恵器杯蓋(211)・無台杯(212)・高杯(213)・甕(214・215)・土師器長甕(216~219)・甕(220)	297	
104	191	197	135	SX	1197	3J-9E6・11	III	V a	N-77° -E	1.22	0.45	0.89	0.21	0.30	2.97	長楕円形	半円状	3	水平	<SD158			
105	194	200	136・137	SX	1219	3J-10H15・20,10I11・16	I	V a	N-54° -E	1.89	1.68	1.32	1.25	0.23	2.98	略円形	台形状	5	ブロック状	<Pit1211・1212,SD156	円筒形土製品(d13)	313	
105	194	188 200	137	SX	1222	3J-10H21・22,4J-1H1・2	III	V a	N-18° -E	2.99	2.18	2.72	1.96	0.14	3.06	楕円形	弧状	2	レンズ状	>Pit1258・1259・1512,SK1279, <SK1248			
104	190	196	134	SX	1378	3J-8E3・4・8・9	III	V b	N-82° -E	1.83	1.66	1.28	1.26	1.53	1.57	円形	台形状	25	レンズ ブロック	<Pit617・767・1376, =SX529	曲物(w221・222)・柱根(w223~227)・用途不明品(w228~231)	357・358	
105	191	197	135	SX	1380	3J-8I15・19・20	III	V b	N-30° -E	(1.37)	(0.34)	(1.17)	(0.26)	0.14	2.75	楕円形	弧状	1	単層				
104	192	198・199	136	SX	1477	3J-9F25	III	V b	N-50° -W	0.78	0.71	0.68	0.61	0.16	2.80	不整形	弧状	2	レンズ状	<SB1565P6			
104	190		134	SX	1506	3J-8E13・17~19・22 ~24,9E3	I	V a	N-20° -W	4.51	2.66	4.16	2.14	0.23	3.05	不整形	弧状	1	単層	<Pit602・605・611・618,SK619・620・666			
104	170	155	136	SX	1533	3J-9F23	IV	V a		(0.88)	(0.67)	(0.61)	(0.48)	-	-	楕円形	-	-	-	<SE917			

自然流路

分割 図版 No.	個別 図版 No.	写真 図版 No.	遺 構	グリッド	時代	確認面	主軸方向	規 模 (m)					底面 標高 (m)	形 態		覆土	堆積状況	重複関係	出土遺物	遺物 図版 No.	備 考
								上 端		下 端		深度		平面	断面						
								長軸	短軸	長軸	短軸										
102 103 105	164	147	河 138	3J-5F9・10・14・15・19・20,5G6・11~20・24・25,5H11・16~18・21~24,6H1~4・7~10・13~15・19・20・25,6I11・12・16~18・21~24,7I1~10・12~15・18~20・24・25,8I4・5・9・10・15・20,8J6・11・16・17・21~23,9I1・2	近現代	V a	N-74° -W N-46° -W N-26° -W	(55.30)	5.714	(55.30)	3.97	0.85	2.37	-	半円状	6	レンズ状	>Pit1396,SD154・155,SK266, SX302	土師器甕(16)・須恵器杯蓋(348~351)・無台杯(352~356)・短頸瓶(357)・長頸瓶(358)・平瓶(359)・水瓶(360)・甕(361~373)・土師器無台椀(374・375)・小甕(376・377)・珠洲焼片口鉢類(486~493)・壺(494~496)・小甕(497)・甕(498・499)・瀬戸美濃焼卸皿(500)・土師質土器皿(501~504)・羽口(d30~35)・磨石類(s78~80)・砥石(s81~86)・用途不明品(w329・330)・古銭(k17)・鉄鏝(k18)	289 303~305 310 311 313 327 328 372 375	

別表3 下層出土(縄文時代)土器観察表

凡例

- 1 出土位置の遺構とグリッド両者に記載のあるものは、遺構出土土器と包含層出土土器が接合・同一個体関係にあることを示している。
- 2 出土位置の遺構名は主体的に出土した遺構を前、そのほか客体的な出土の遺構を「+」の後に記載した。
- 3 口径・底径の()内数値は復元値である。
- 4 胴部最大径は、口径よりも胴部に最大径を有するものの値である。
- 5 器高の()内数値は、口縁部から8割程度遺存するものの残存値である。
- 6 施文の原体回転方向は横位方向以外のもののみ()内に表記した。

図版No.	写真図版No.	報告No.	出土位置		所属段階	器種	分類	遺存部位	法量(cm)				遺存率(/36)			胎土	海綿骨針	色調	付着物		文様・施文	備考
			遺構	グリッド					口径	胴部最大径	底径	器高	口縁部	底部	全体				外面	内面		
201	208	1	SI164		Vc	浅鉢	Ⅲ群2類	口~底	19.4	5.0	5.3	5.3	9		9	I a2	灰黄(2.5Y6/2)			口~体:無文 ミガキ		
201	208	2	SI164 + SK102-121・177, SX136	3J-6H19, 6I19	Vc	深鉢	Ⅱ群3類	口~体	(22.2)	(24.0)			5			I a1	灰黄褐(10YR6/2)			口:沈線文 体:燃系文R(縦位)		
201	208	3	SI164		Vc	深鉢	Ⅳ群2類	口					1			I a1	○ 灰黄褐(10YR7/2)			口:結節回転文 体:斜縄文LR(縦位)		
201	208	4	SI164		Vc	深鉢	Ⅳ群4類	口								I a2	灰白(10YR7/1)			斜縄文LR		
201	208	5	SI164 (Pit380)		Vc	深鉢類	—	体								I a2	○ 褐灰(10YR6/1)			体:斜縄文LR		
201	208	6	SI164		Vc	深鉢類	—	底						6		I a2	灰黄褐(10YR6/2)			底:斜縄文LR(縦位)		
201	208	7	SI556, Pit470	3J-6H18・23	Vc	鉢	I群3類	口~体	(17.0)	(17.6)	5.5	12.6	9	36		Ⅱb	にふい黄橙(10YR7/3)	炭化物		口:小波状口縁 平行沈線文帯 体上:雲形文(Z字文)(磨消縄文LR) 体下:斜縄文LR	大洞C2式I期	
201	208	8	SI556 (Pit596)		Vc	深鉢類	—	体								I b1	灰白(10YR8/1)	炭化物		体:斜縄文LR		
201	208	9	SI152 (炉)		Vb	深鉢	Ⅱ群4類	口~体	(14.5)				6			I a2	浅黄(2.5Y7/3)			口:波状口縁 無文帯 体:斜縄文RL	口:横ナデ	
201	208	10	SI152 (SK150)		Vb	深鉢	Ⅳ群2類	口~体	(32.0)				12			I a1	褐灰(10YR4/1)			口:結節回転文 体:網目状燃系文(単軸絡糸体第6類)(縦位)	器面風化	
201	208	11	SI152		Vb	深鉢	Ⅳ群3類	口								I a2	○ 灰白(10YR8/1)			口:網目状燃系文R(単軸絡糸体第5類) 体:網目状燃系文R(単軸絡糸体第5類)(縦位)		
201	208	12	SI152 (Pit6)		Vb	深鉢	Ⅳ群3類	口								I a2	灰白(10YR8/1)			口:網目状燃系文R(単軸絡糸体第5類)		
201	208	13	SI152 (Pit266)		Vb	深鉢	—	体								I a1	○ 浅黄橙(10YR8/3)			体:羽状縄文(LR・RL)(縦位)		
201	208	14	SI152 (Pit199)		Vb	深鉢類	—	体~底			8.3		36			I a2	浅黄橙(7.5YR8/3)	炭化物		体:斜縄文LR		
201	208	15	SI152 + SK140		Vb	深鉢類	I群	底			(4.8)		18			I a2	○ にふい黄橙(10YR7/3)			体:斜縄文LR 沈線文		
201	208	16	SI700		Vb	浅鉢	Ⅱ群3類	口								I a1	○ にふい黄橙(10YR7/3)			船底形 口:刻目文 平行沈線文	器面風化	
201	208	17	SI700 + SK385	3J-9E9	Vb	深鉢	Ⅳ群3類	口~底	(28.0)		(4.4)					Ⅱa	灰黄褐(10YR6/2)			口:網目状燃系文R(単軸絡糸体第5類) 体:網目状燃系文R(単軸絡糸体第5類)		
201	208	18	SI650 + SI580, SK515	3J-9F15, 9G25	Vb	深鉢	Ⅳ群4類	口~体								I a2	浅黄(2.5Y7/3)	炭化物		斜縄文LR		
201	208	19	SI650 + SK658	3J-9E3・9	Vb	—	—	体~底			(5.3)		24			I a2	にふい黄橙(10YR6/4)			体:斜縄文LR(縦位)		
201	208	20	SI580 + SK719・720	4J-1E2	Vb	浅鉢	I群5b類	口~底								I a2	黄灰(2.5Y4/1)			口唇:沈線 口端:刻目文 口:平行沈線文 体:釣針文(磨消縄文LR) 底:平行沈線文	大洞C2式II期古	
202	208	21	SI580		Vb	深鉢	Ⅱ群3類	口~体								I b1	灰黄褐(10YR6/2)			口端:刻目文 口唇:沈線文 口:平行沈線文 体:網目状燃系文(LR・R) 口:磨き		
202	208	22	SI580		Vb	深鉢類	—	体								I b1	にふい黄橙(10YR7/2)			体:網目状燃系文R(単軸絡糸体第6類)(縦位)		
202	208	23	SI580 (Pit739)		Vb	深鉢類	—	体								I a2	灰黄(2.5Y7/2)			体:斜縄文LR(横位・縦位)		
202	208	24	SI580		Vb	深鉢類	—	体								I b1	灰白(10YR8/2)			体:斜縄文RL(縦位)	器面風化	
202	208	25	SI580		Vb	深鉢類	—	体~底			(11.3)		6			Ⅲa	黒褐(10YR3/2)			器面風化		
202	208	26	SI579		Vb	浅鉢	I群6b類	体								Ⅱa	○ 浅黄(2.5Y7/3)			体:雲形文(磨消縄文RL)	大洞C2式II期古~新	
202	208	27	SI579 + SI580	3J-9F22	Vb	浅鉢	I群6b類	体~底			5.0		18			Ⅱa	○ 浅黄(2.5Y7/3)			体~底:平行沈線文 無文帯	26・27同一個体	
202	208	28	SI579		Vb	深鉢	Ⅱ群3類	口								Ⅱb	褐灰(10YR6/1)			口唇:刻目文 口:平行沈線文 体:斜縄文LR		
202	208	29	SI579		Vb	深鉢	Ⅳ群	口								I a2	灰黄褐(10YR5/2)			口:斜縄文RL		
202	208	30	SI579		Vb	深鉢	Ⅳ群	口								I a2	灰黄褐(10YR6/2)			口:斜縄文RL		
202	209	31	SI579		Vb	深鉢類	—	底			(7.0)		8			Ⅲa	浅黄橙(10YR8/3)				器面風化	
202	209	32	SI579 (Pit791)		Vb	深鉢類	—	底			(11.8)		12			Ⅲa	灰黄(2.5Y7/2)				器面風化	
202	209	33	SI579		Vb	深鉢類	—	体~底			8.8		36			I b1	○ にふい黄橙(10YR7/3)			体:斜縄文RL		
202	209	34	SI670 + SK631	3J-10E4・5・9	Vb	壺	Ⅱ群3類	口	(19.7)				4			I b1	○ 灰黄褐(10YR6/2)	アスファルト	アスファルト	口:沈線文		
202	209	35	SI670		Vb	壺	I群4・5類	体								Ⅱc	明赤褐(2.5YR5/8)			体:鉤爪形文または釣針文(磨消縄文LR) 赤彩	大洞C2式II期古	
202	209	36	SI670	3J-10E11	Vb	深鉢類	—	底			(8.0)		3			I b1	浅黄橙(10YR8/3)			体:斜縄文RL		

図版No.	写真図版No.	報告No.	出土位置		所属段階	器種	分類	遺存部位	法量(cm)				遺存率(/36)			胎土	海綿骨針	色調	付着物		文様・施文	備考
			遺構	グリッド					口径	胴部最大径	底径	器高	口縁部	底部	全体				外面	内面		
202	209	37	SI831		V b	浅鉢	Ⅲ群2類	口~体	(8.0)	(8.6)			9		I a 1	灰白(10YR8/2)			無文	器面風化		
202	209	38	SI831		V b	深鉢類	—	体							I b 2	にぶい黄橙(10YR7/2)			体:網目状襷系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)			
202	209	39	SI831		V b	浅鉢	I群	底			(12.0)			4	II b	灰白(2.5Y8/2)			平行沈線文			
202	209	40	SI837		V c	動物形土製品	—	四肢	長さ:3.8	幅:1.9	厚さ:1.1				I a 1	にぶい橙(7.5YR7/4)			四肢:球状貼付文			
202	209	41	SI837		V c	壺	Ⅱ群4類	口~体	(11.3)	(16.0)			12		6	I a 2	にぶい黄橙(10YR7/3)	アスファルト		口唇:沈線 頸:有段 体:斜縄文LR		
202	209	42	SI837		V c	浅鉢	Ⅲ群1類	口	(18.0)				3			I a 1	にぶい黄橙(10YR6/3)			口端:刻目文 口~体:無文 ミガキ		
202	209	43	SI837		V c	浅鉢	—	底			(5.0)			18	II a	○ 灰黄(2.5Y7/2)						
202	209	44	SI837		V c	深鉢	Ⅳ群1c類	口							I a 2	褐灰(10YR4/1)	炭化物		斜縄文RL			
202	209	45	SI837		V c	深鉢	Ⅳ群1c類	口							II a	にぶい黄橙(10YR7/3)			斜縄文RL			
202	209	46	SI837		V c	深鉢	Ⅳ群4類	口							I a 2	○ 灰白(10YR8/1)			口:斜縄文LR			
202	209	47	SI837	4J-1D13・16	V c	深鉢	Ⅳ群3類	口~体							I a 1	にぶい黄橙(10YR7/4)			口:結節斜縄文LR 体:結節斜縄文LR(縦位)			
202	209	48	SI837		V c	深鉢	Ⅳ群1a類	口~体							II b	にぶい黄褐(10YR5/3)			口:無文帯 体:結節斜縄文LR			
202	209	49	SI837		V c	深鉢	Ⅳ群2類	口~体							I b 1	黒褐(10YR3/1)	炭化物		口:結節回転文帯 体:結節斜縄文LR			
202	209	50	SI837	3J-10D8・9	V c	深鉢	Ⅳ群2類	口~体					6		I a 1	にぶい黄褐(10YR5/4)			口:結節回転文帯 体:網目状襷系文L(単軸絡条体第6類)(縦位)			
203	209	51	SI837 + SK906	4J-1D15,2E1・8	V c	深鉢	Ⅳ群3類	口~底	27.3		8.2	30.5	20	18	15	I b 1	にぶい黄橙(10YR7/3)		炭化物	口:突起 斜縄文LR(0段多条) 体:斜縄文LR(0段多条)(縦位)		
203	209	52	SI501(SK619)+SK529	3J-9H6,10E21,4J-1E2・4	V b	浅鉢	I群5a類	口~体	(18.0)			(5.0)	15			I a 1	浅黄橙(7.5YR8/3)			口唇:突起 口端:刻目文 口:平行沈線文 体:釣針状モチーフ(磨滑縄文LR) 平行沈線文	大洞C2式Ⅱ期古	
203	209	53	SI501(SK621)		V b	深鉢類	—	体~底			(6.4)			6		I a 2	にぶい黄橙(10YR6/3)			体:斜縄文RL		
203	209	54	SI501(Pit523・638)+SI831,SK640		V b	浅鉢	Ⅲ群1類	口~底	(23.4)		4.0	8.0	14	36	18	I a 2	黄灰(2.5Y4/1)			口:突起 沈線文 体:無文 丸底		
203	209	55	SI790		V b	深鉢類	—	体							II b	にぶい橙(7.5YR7/4)			体:襷系文R(縦位)			
203	209	56	SI710(炬)		V b	浅鉢	Ⅲ群2類	口							II a	○ にぶい黄橙(10YR7/3)			無文 ミガキ			
203	209	57	SI710		V b	深鉢類	I群・Ⅱ群	口							II a	灰黄褐(10YR6/2)			波状口縁 平行沈線文			
203	209	58	SI710	4J-1E21	V b	深鉢	Ⅳ群2類	口~体							II a	灰白(10YR8/2)			口:結節回転文帯 体:網目状襷系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)			
203	209	59	SI710+SI810,SK719	3J-7H10	V b	深鉢	Ⅳ群2類	口~体	33.6	34.2			9		6	I a 1	にぶい黄橙(10YR7/4)			口端:突起 口:結節回転文 体:網目状襷系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)		
203	209	60	SI710		V b	深鉢	Ⅳ群1c類	口~体							I a 2	灰白(10YR8/2)		アスファルト	口:無文帯 体:網目状襷系文(単軸絡条体第6類)(縦位)			
203	210	61	SI710		V b	深鉢	Ⅳ群1c類	口~体							I a 1	黒褐(10YR3/1)	アスファルト	アスファルト	口:無文帯 体:網目状襷系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)			
203	210	62	SI710		V b	深鉢	Ⅳ群3類	口~体							I b 1	にぶい褐(7.5YR5/3)	炭化物		口:斜縄文LR 体:斜縄文LR(縦位)			
203	210	63	SI710		V b	深鉢類	—	底			6.4			36	I a 2	○ にぶい黄橙(10YR7/2)			体:斜縄文LR(縦位)			
203	210	64	SI810		V b	鉢	I群4a類	口~体							I a 2	にぶい黄橙(10YR7/3)		炭化物	波状口縁 口:平行沈線文 体:直線状雲形文(Z字文)	大洞C2式Ⅱ期古		
203	210	65	SI810(炬)		V b	浅鉢	Ⅲ群2類	口~体					3		I a 2	○ 浅黄橙(10YR8/3)			無文 ミガキ			
203	210	66	SI810		V b	深鉢類	—	体							I b 1	○ にぶい黄橙(10YR7/2)			体:斜縄文RL(横位・斜位)			
203	210	67	SI810(炬)		V b	深鉢類	—	体							III a	褐灰(10YR6/1)			体:斜縄文RL			
204	210	68	SI951,SK961	4J-3G6	V b	浅鉢	I群6a類	口~底	(24.0)	(25.0)	(9.0)	8.3	12	24	14	II a	浅黄橙(10YR8/3)			口:溝底の刺痕 体上:雲形文 体下:無文	大洞C2式Ⅱ期古	
204	210	69	SI951		V b	浅鉢	Ⅲ群2類	口~体	(16.4)				4		I a 2	にぶい黄橙(10YR7/2)			無文			
204	210	70	SI951		V b	壺	—	頸							I a 1	○ にぶい褐(7.5YR5/3)						
204	210	71	SI951		V b	鉢	Ⅱ群2類	口~体	(15.4)	(18.0)			1		4	II a	灰黄褐(10YR5/2)			波状口縁 二溝間の刺突列 斜縄文LR		
204	210	72	SI951		V b	深鉢	Ⅳ群2類	口~体							I a 2	灰褐(7.5YR6/2)			口:結節回転文 体:斜縄文LR			
204	210	73	SI951		V b	深鉢	Ⅳ群2類	口~体							II b	灰褐(7.5YR6/2)			口:結節回転文 体:斜縄文LR			
204	210	74	SI951		V b	深鉢	Ⅳ群2類	口~体							I a 2	にぶい褐(7.5YR6/3)			口~体:結節斜縄文LR			
204	210	75	SI951(Pit978)+SK984	4J-4F5	V b	深鉢	Ⅲ群3類	口~底	(30.2)		(8.8)	(32.0)	18	18	18	I a 2	浅黄(2.5Y7/3)	アスファルト・炭化物	アスファルト	口:指ナデ 体:指ナデ(斜位)		
204	210	76	SI951		V b	深鉢類	—	体							I b 1	灰白(10YR8/2)			体:結節斜縄文LR			
204	210	77	SI951(Pit954)		V b	深鉢類	—	体							I a 2	にぶい黄褐(10YR5/3)			体:羽状縄文(RL・LR)(縦位)			
204	210	78	SI951		V b	深鉢類	—	底			9.5			36	I a 2	にぶい黄橙(10YR7/3)						
204	210	79	SB6(Pit479)	3J-8H2	V c	深鉢類	—	体							I a 1	○ 灰白(2.5Y8/2)			体:網目状襷系文R(単軸絡条体第5類)(縦位)			
205	210	80	SK42	3J-3J12	V c	深鉢	Ⅳ群2類	口~底	(22.0)	(22.8)	(8.8)	(26.0)	3		3	III a	にぶい黄橙(10YR7/2)			口:結節回転文 体:斜縄文LR(縦位)		

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置		所属 段階	器 種	分 類	遺存 部位	法 量(cm)				遺存率(/36)			胎土	海綿 骨針	色 調	付着物		文様・施文	備 考
			遺 構	グリッド					口径	胴部最大径	底径	器高	口縁部	底部	全体				外面	内面		
205	210	81	SK54		V b	深鉢	IV群3類	口~体							I a1		にぶい黄橙(2.5Y8/1)			口:網目状摺系文R(単軸絡条体第6類) 体: 網目状摺系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)		
205	210	82	SK307		V c	深鉢	—	体							I b1		灰白(2.5Y8/1)	炭化物		体:網目状摺系文R(単軸絡条体第5類)(縦位)		
205	210	83	SK308		V c	深鉢	IV群2類	口~体							I b1		灰白(10YR8/2)			口:結節回転文 体:斜縄文RL		
205	211	84	SK308		V c	深鉢類	—	体							I a1	○	褐灰(10YR6/1)			体:斜縄文LR		
205	211	85	SK55	3J-6F24	V b	深鉢	IV群4類	口~体	(31.6)			9		3	I b1		淡黄(2.5Y8/3)			斜縄文LR		
205	211	86	SK64		V b	深鉢類	—	体							I b1		灰白(10YR8/2)			斜縄文LR(斜位)		
205	211	87	SK57		V b	深鉢類	—	体~底							I a2		灰黄褐(10YR6/2)			体:羽状縄文(RL・LR)		
205	211	88	SK58		V b	壺	—	口							I a2		にぶい黄橙(10YR7/2)			口:無文		
205	211	89	SK58		V b	深鉢	II群3類	口							II a	○	黒(10YR2/1)	炭化物	炭化物	口端:刻目文 口:平行沈線文帯 体:斜縄文LR		
205	211	90	SK58		V b	深鉢	IV群4類	口					1		II a		黒褐(10YR3/1)	炭化物	炭化物	斜縄文RL?	器面風化	
205	211	91	SK58		V b	深鉢類	—	体							I b1		にぶい黄橙(10YR7/3)			斜縄文LR		
205	211	92	SK58		V b	深鉢類	—	体							I a1		灰白色(10YR8/1)			網目状摺系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)		
205	211	93	SK60・61・63・ 222・239		V b	深鉢	IV群3類	口~体	(36.0)				3		I a1		にぶい黄橙(10YR6/3)			口:網目状摺系文R(単軸絡条体第6類) 体:網目状摺系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)		
205	211	94	SK63		V b	壺	I群5b類	体							II c		明赤褐(2.5YR5/8)			体:釣針文(磨消縄文LR) 赤彩	大洞C2式II期古 器面風化	
205	211	95	SK239		V b	壺	—	頸							I b1		にぶい橙(7.5YR7/4)				器面風化	
205	211	96	SK63		V b	深鉢類	—	体							I b1		にぶい黄橙(10YR7/3)			網目状摺系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)		
205	211	97	SK235 + Pit255		V b	深鉢	IV群3類	口~底	32.5	8.5	31.0	18	36	24	I a1	○	灰褐(7.5YR6/2)			口:網目状摺系文R(単軸絡条体第5類) 体:網目状摺系文R(単軸絡条体第5類)(縦位)		
206	211	98	SK94		V c	深鉢類	—	体							VI		灰黄褐(10YR5/2)	炭化物		体:斜縄文LR		
206	211	99	SK95		V c	深鉢類	—	体							IV		灰白(10YR8/2)			体:網目状摺系文(縦位)	器面風化	
206	211	100	SK178 + SI164 (Pit176), SK182・ 183, SX136		V c	深鉢	IV群1a類	口~体	(31.2)			1			I b1	○	灰黄(2.5Y5/2)			口:無文帯+結節回転文 体:網目状摺系 文R(単軸絡条体5類)(縦位)		
206	211	101	SK178	3J-6H9, 6I19	V c	深鉢	IV群3類	口~体	28.4	7.8	31.5	35	36	20	I b1	○	灰黄(2.5Y7/2)			口端:突起 口:斜縄文LR 体:斜縄文LR(縦位)		
206	212	102	SK183 + SI164, SD192, SK179	3J-6G8	V c	深鉢	IV群	口~体	(24.0)			6			I b1		灰黄(2.5Y7/2)			口:結節回転文?	器面風化	
206	212	103	SK125	3J-6I25	V c	浅鉢	I群1類	口~底	21.2	8.0	6.5	7	4	6	II a		にぶい黄橙(10YR7/3)			口:平行沈線文帯 体:雲形文(磨消縄文LR)	大洞C1式終末	
206	212	104	SK134		V c	深鉢類	—	体							I b1		灰黄(2.5Y7/2)			網目状摺系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)		
206	212	105	SK135		V c	深鉢類	—	体							I a2		にぶい黄橙(10YR6/2)			網目状摺系文R(単軸絡条体第5類)(縦位)		
206	212	106	SK489		V c	深鉢類	—	体							I b1		にぶい黄橙(10YR7/2)	炭化物		体:斜縄文LR		
206	212	107	SK231		V b	深鉢類	—	体							I a2	○	淡黄(2.5Y8/3)			体:羽状縄文(RL・LR)		
206	212	108	SK208+SK216	3J-7F10, 7G11	V c	浅鉢	I群1類	口~底	(20.8)	8.5	6.5	12	36	18	II a		浅黄橙(10YR8/3)			口:平行沈線文 刺突列(沈線上) 体:雲 形文(磨消縄文LR) 赤彩	大洞C1式終末	
207	212	109	SK257		V b	深鉢類	—	体							I b1		淡黄(2.5Y8/3)			体:網目状摺系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)		
207	212	110	SK226+SK141・ 279, SD192(1層)・ 338(2層)	3J-7F2・14・ 23	V c	深鉢	II群4類	口~体	(22.0)	(22.8)		12		6	I b1		浅黄(2.5Y7/3)	炭化物	炭化物	口:B突起 波状口縁 無文帯 体:斜縄 文RL		
207	212	111	SK248	3J-7G19・20	V b	壺	IV群3類	体		27.8					I a1	○	灰黄褐(10YR5/2)			体:斜縄文LR(横位・斜位)		
207	212	112	SK277		V b	深鉢	IV群3・4類	口							I b1		灰黄褐(10YR6/2)			口:斜縄文RL		
207	212	113	SK278	3J-7F23, 8F24	V b	深鉢	IV群2類	口~体							I a1	○	にぶい黄橙(10YR6/3)			口:結節回転文帯 体:斜縄文LR		
207	212	114	SK278		V b	壺	—	頸							I a2		褐灰(10YR6/1)				器面風化	
207	212	115	SK394		V b	壺	II群3類	口	(12.6)			4			I a2		灰黄褐(10YR5/2)			口唇:突起 沈線文 頸:平行沈線文		
207	212	116	SK346+SK394・ 400	3J-6G20-25, 7F10, 7G4・12-14	V b	深鉢	IV群2類	口~体	38.0	(15.8)		22		12	I a1	○	灰黄褐(10YR4/2)	炭化物	炭化物	口端:突起 口:結節回転文 体:網目状摺 系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)		
207	212	117	SK414		V c	深鉢類	—	体							I b1		にぶい黄橙(10YR7/3)			体:網目状摺系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)		
207	212	118	SK392		V c	深鉢	IV群1a類	口~体							I b2		灰黄褐(10YR5/2)	炭化物	炭化物	口:無文帯+結節回転文(横8字状) 体:斜縄文RL	器面風化	
207	212	119	SK200		V b	深鉢類	—	体							III a		灰黄褐(10YR4/2)			体:斜縄文LR(縦位)		
207	212	120	SK89		V b	壺	IV群4類	口~底	(5.8)	(15.1)	6.1	13.5	4	35	16	I a1		にぶい黄橙(10YR7/3)			頸:有段 体:斜縄文LR	
207	212	121	SK245	3J-8H18, 9F22	V b	浅鉢	I群4a類	口~体							I b2		にぶい黄橙(10YR7/4)			口端:突起・刻目文 体:直線状雲形文(Z 字文)(磨消縄文LR)	大洞C2式II期古	
207	213	122	SK245		V b	深鉢	IV群3類	口							I b2		灰黄褐(10YR6/2)			口:網目状摺系文R(単軸絡条体第5類) 体:網目状摺系文R(単軸絡条体第5類)(縦位)		
207	213	123	SK245	3J-7G15	V b	深鉢	IV群4類	口~体							III a		褐灰(10YR4/1)			口~体:羽状縄文(R・LR)		

図版No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置		所属 段階	器 種	分 類	遺存 部位	法 量(cm)				遺存率(/36)			胎土	海綿 骨針	色 調	付着物		文様・施文	備 考	
			遺 構	グリッド					口径	胴部最大径	底径	器高	口縁部	底部	全体				外面	内面			
207	213	124	SK405		Vb	浅鉢	一	底							I a1	○	にぶい黄橙(10YR7/3)						
208	213	125	SK201 + SK224・ 245・246・293	3J-7G18-23~25, 8G1~4・8・9・13・18	Vb	深鉢	IV群2類	口~体	(33.0)					9		9	I a1	○	浅黄橙(10YR8/3)		口:無文帯+結節回転文 体:擦系文R(縦位)		
208	213	126	SK197		Vb	深鉢	IV群4類	口~体							I a2		灰黄褐(10YR5/2)	炭化物			口~体:結節斜縄文LR(縦位)		
208	213	127	SK339		Vb	深鉢	II群3類	口							II a		にぶい黄橙(10YR6/3)				口:波状口縁 平行沈線文		
208	213	128	SK330		Vb	深鉢	IV群4類	口~体							III a		褐灰(10YR4/1)	炭化物	炭化物		口~体:斜縄文LR		
208	213	129	SK328		Vb	深鉢類	一	体							I b1		灰白(10YR8/2)				体:斜縄文RL(縦位)		
208	213	130	SK327	3J-7E15	Vb	壺	I群	肩~体							V		明赤褐(2.5YR5/8)				体:雲形文?(磨消縄文LR) 赤彩	大洞C2式	
208	213	131	SK403		Vc	深鉢類	一	体							I b1		褐灰(10YR4/1)	炭化物			体:斜縄文LR		
208	213	132	SK560+SD192 (II層)	3J-7E19, 8G8.8H1	Vc	浅鉢	I群2類	口~体							II a		にぶい黄橙(10YR7/2)				口唇:沈線文 口:平行沈線文 体:雲形文 (磨消縄文LR) 黒色塗彩	大洞C2式I期	
208	213	133	SK560	3J-8G8	Vc	深鉢	IV群4類	口~体	(23.2)				5		I a2		にぶい黄橙(10YR7/3)				口~体:斜縄文RL(0段多条)		
208	213	134	SK466		Vc	深鉢類	一	体							I a1		にぶい黄橙(10YR7/4)				体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第6類)(縦位)		
208	213	135	SK365		Vb	深鉢	IV群2類	口~体							I a2	○	褐灰(7.5YR5/1)				口:結節回転文 体:斜縄文LR		
208	213	136	SK566	3J-G5,7H6	Vc	深鉢	IV群1a類	口~体	(29.0)					9		I b1		浅黄橙(10YR8/3)				口:無文帯+結節回転文 体:網目状擦系 文R(第5類)(縦位)	
208	213	137	SK566		Vc	深鉢	IV群3類	口~体	(31.0)					6		I a1		浅黄橙(10YR8/3)				口:網目状擦系文R(第6類) 体:網目状 擦系文R(第6類)(縦位)	
208	213	138	SK249	3J-7H11,7J12, 8H8・9・12	Vb	深鉢	II群2類	口~体	(13.2)	14.8		(11.1)	18		10	II a		にぶい黄橙 (10YR7/2)				口:刻目文 二溝間の刺突列 体:斜縄文 LR	
208	213	139	SK249		Vb	ミニチュア	I群4b類	口~体	6.8		2.8	4.0	18	36	30	I a1		明褐灰(7.5YR7/2)				雲形文(鈎爪形)	大洞C2式II期古
208	213	140	SK249		Vb	深鉢	IV群3類	口~体							I b1		褐灰(10YR4/1)				口:網目状擦系文R(単軸絡糸体第6類) 体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第6類)(縦位)	外面黒漆 ミガキ	
208	213	141	SK249 + SX136		Vb	深鉢	IV群3類	口~体					4		4	I a2		灰白(10YR8/2)				口:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類)(縦位) 体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類)(縦位)	ミガキ
208	213	142	SK249		Vb	深鉢	IV群1c類	口							I b1		灰白色(10YR8/2)				口:無文帯 体:斜縄文LR		
208	213	143	SK249		Vb	深鉢類	一	体~底			(11.8)	9.4		9		III a		浅黄(2.5Y7/3)		炭化物		体:斜縄文LR	
209	213	144	SK252+SD192(II層)		Vc	深鉢	II群2類	口							II a		灰黄褐(10YR6/2)				口:二溝間の刺突列		
209	213	145	SK252	3J-8I9	Vc	深鉢	IV群1a類	口~底	(20.8)		17.3		14	36	18	I a2	○	にぶい黄橙(10YR7/3)		炭化物		口:結節回転文 体:斜縄文LR(縦位)	
209	214	146	SK441		Vc	鉢	II群1類	口~底	(11.3)	(12.2)	(4.4)	(7.0)	2	9	6	I a2		灰白(7.5YR8/2)				口:刻目文 二溝間の刺突列 斜縄文RL	大洞C1式
209	214	147	SK312 + SK316		Vb	深鉢類	一	体							II b		にぶい褐(7.5YR6/3)				斜縄文RL		
209	214	148	SK316		Vb	深鉢類	一	底			(9.0)			36	9	I a1		にぶい橙(7.5YR7/3)		炭化物		体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第6類)(縦位)	
209	214	149	SK363		Vc	鉢	III群2類	口~底	(8.0)	(11.0)	(7.2)	(8.5)	2	10	12	I a1		灰黄(2.5Y6/2)				口~底:無文 ミガキ	器面風化
209	214	150	SK311		Vc	深鉢類	一	体							I b1		にぶい黄橙(10YR7/2)		アスファルト		体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第6類)(縦位)		
209	214	151	SK140		Vb	深鉢類	一	体							I b1	○	にぶい黄橙(10YR7/4)				体:擦系文R(縦位)		
209	214	152	SK261		Vc	注口	I群3類	肩							II a		暗灰黄(2.5Y5/2)				肩:陽刻 体:雲形文(磨消縄文帯)(磨消縄文LR)	大洞C2式I期	
209	214	153	SK160		Vb	壺	IV群	肩							I a2	○	灰黄(2.5Y6/2)				斜縄文?	器面風化	
209	214	154	SK160	3J-8I21	Vb	深鉢類	一	体							I b1		灰白(2.5Y8/2)				体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類)(縦位)		
209	214	155	SK158		Vc	深鉢類	一	体							I b1		淡黄(2.5Y8/3)	アスファルト	アスファルト		体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第6類)(縦位)		
209	214	156	SK746 + SK322	3J-9D22	Vb	深鉢	I群5c類	口~底	(10.8)	(14.3)	5.5	17.5	9	36	18	II b		灰(5Y5/1)	炭化物			口端:刻目文 口:平行沈線文 横位C字 状鈎針文 体:斜縄文LR	大洞C2式II期古
209	214	157	SK502		Vb	深鉢	II群3類	口~体	(18.0)	(21.0)			2		6	I a2		褐灰(10YR4/1)		炭化物		口端:突起・刻目文 口:平行沈線文帯 体:斜縄文LR	
209	214	158	SK747		Vb	深鉢	IV群4類	口~体	(25.8)			(21.0)	9		9	I b1		灰黄(2.5Y7/2)				口~体:斜縄文LR(縦位)	
209	214	159	SK674		Vc	深鉢	IV群2類	口~体							I b1		褐灰(10YR4/1)				口:結節回転文 体:斜縄文RL		
209	214	160	SK281		Vb	深鉢類	II群3類	口~体	(11.0)						4	III a		灰黄褐(10YR6/2)				口:平行沈線文 体:斜縄文LR	
209	214	161	SK355		Vb	深鉢類	一	底							I a2		灰黄褐(10YR6/2)						
209	214	162	SK321		Vb	深鉢類	一	体							III a		にぶい黄褐(10YR5/3)				体:斜縄文LR(縦位)		
209	214	163	SK341		Vb	深鉢類	一	底							III a		にぶい黄橙(10YR7/3)						
209	214	164	SK297		Vb	深鉢類	一	体							I a2	○	灰白(10YR8/1)				体:斜縄文LR(0段多条)		
209	214	165	SK292		Vb	深鉢類	一	底			(7.8)			6		I b1		灰黄褐色(10YR5/2)					
209	214	166	SK313+SK154		Vb	鉢	IV群4類	口~底	14.7		6.0	11.4	24	36	28	I a2		にぶい黄橙(10YR7/2)		炭化物		口~体:斜縄文RL	
209	214	167	SK731		Vb	壺	一	体							IV		にぶい橙(5YR7/4)						
209	214	168	SK593		Vb	深鉢	IV群2類	口							III a		黒褐(10YR3/2)				口:結節斜縄文LR		
209	214	169	SK495		Vb	深鉢	IV群1a類	口~体					1		I b1		浅黄(2.5Y7/3)				口:無文帯 結節回転文 体:斜縄文		

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置		所属 段階	器 種	分 類	遺存 部位	法 量(cm)				遺存率(36)			胎土	海綿 骨針	色 調	付着物		文様・施文	備 考
			遺 構	グリッド					口径	胴部最大径	底径	器高	口縁部	底部	全体				外面	内面		
210	214	170	SK154	3J-9I3	V b	深鉢	I群4b類	口~体	21.6	24.3					I a2		にぶい黄橙(10YR7/3)		炭化物	口:小波状口縁 平行沈線文帯 体:直線状雲形文(鉤爪形) 羽状縄文(RL・LR)	大洞C2式II期古	
210	214	171	SK154		V b	深鉢	IV群4類	口~体							I a1		灰黄褐(10YR6/2)			口~体:斜縄文RL		
210	214	172	SK528		V b	深鉢類	—	体							I a1		黄灰(2.5Y5/1)			体:斜縄文LR(横位・斜位)		
210	214	173	SK482		V b	深鉢類	—	底							I a1		灰黄褐(10YR5/2)				器面風化	
210	214	174	SK1015		V b	浅鉢	I群6b類	口~底	(19.0)		(9.0)	7.5	27	33	30	I b1		浅黄橙(10YR8/4)		口:平行沈線文 体上:雲形文(磨消縄文LR) 体下:無文	大洞C2式II期新	
210	214	175	SK749		V b	深鉢類	II群	口							II a		灰黄褐(10YR4/2)			口:沈線文		
210	214	176	SK797		V c	浅鉢	—	底							I b1		にぶい黄橙(10YR7/2)					
210	214	177	SK483 + SI951	3J-9G1,10G8	V b	壺b	IV群4類	口~底	(8.7)	14.9	5.4	14.8	18	36	27	I b1		にぶい黄橙(10YR7/2)			口:突起 体:斜縄文LR	
211	215	178	SK759	4J-1D20	V b	浅鉢	II群3類	口~底	(20.0)	(12.5)	(8.0)				I a2	○	浅黄橙(10YR8/4)			船底形 口:刻目文 平行沈線文 体:羽状縄文(RL・LR)		
211	215	179	SK504		V b	深鉢	IV群2類	口~体	(26.4)						II a		灰黄褐(10YR5/2)			口:結節回転文 体:斜縄文LR(0段多糸)		
211	215	180	SK504		V b	壺	—	体							I a2		灰黄褐(10YR5/2)			体:羽状縄文(LR・RL)	口:横ナデ	
211	215	181	SK835		V b	深鉢	IV群1b類	口~体	(35.0)	(39.4)					I a1		にぶい黄橙(10YR7/4)	アスファルト	アスファルト	口:無文 頸:網目状擦系文R(単軸絡糸体第6類) 体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第6類)(縦位)		
211	215	182	SK935 + SD846		V c	浅鉢	IV群4類	口~底	(19.0)		8.7	5.9	4	36	32	I a1		にぶい黄橙(10YR7/3)			斜縄文LR 底面:斜縄文LR	
211	215	183	SK839		V c	深鉢類	—	体							I b1	○	灰白(10YR8/1)			体:斜縄文LR		
211	215	184	SK920		V b	浅鉢	III群1類	口~底	(16.5)	(17.2)	(5.0)	7.3	25	33	30	I b1		にぶい黄橙(10YR7/2)			口端:突起 口:平行沈線文 体:無文 底:平行沈線文	
212	215	185	SK950 + SK962-1004	4J-3G6-7	V b	鉢	I群4a類	口~底	12.8	15.2	5.6	11.6	22	36	20	I a2		黒褐(2.5YR3/1)		炭化物	口:突起 刻目文 二溝間の截痕 体:直線状雲形文(Z字文) 体:斜縄文LR	大洞C2式II期古
212	215	186	SK950		V b	深鉢	IV群4類	口~体							I a2	○	褐灰(10YR4/1)			口~体:羽状縄文(RL・LR)		
212	215	187	SK1002		V c	深鉢類	—	体							I b2		にぶい黄橙(10YR7/2)		赤色顔料	体:斜縄文LR		
212	215	188	SK583		V b	深鉢	IV群4類	口~体							I a2		灰黄褐色(10YR7/2)			口~体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類)(縦位)		
212	215	189	SK722		V c	浅鉢	I群2類	体							II a	○	黒褐(10YR3/1)			体:雲形文(磨消縄文LR)	132と同一個体	
212	215	190	SK722 + SK718, Pit721-882		V c	深鉢	IV群2類	口~体	(24.4)	(25.1)					II a		黒褐(10YR3/2)	炭化物	炭化物	口:結節回転文(横8字状) 体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類)(縦位)		
212	216	191	SK722		V c	深鉢	IV群4類	口							III a		褐灰(10YR5/1)			口:斜縄文RL		
212	216	192	SK722+SI837		V c	深鉢	IV群2類	口~体							I b1		褐灰(10YR6/1)			口:結節回転文 体:斜縄文LR(縦位)		
212	216	193	SK714		V b	深鉢類	—	体							I b1		にぶい橙(7.5YR7/3)		炭化物	体:斜縄文RL		
212	216	194	SK715		V c	深鉢	IV群2類	口~体							I a2		灰黄褐(10YR6/2)	炭化物		口:結節回転文 体:擦系文R(縦位)		
212	216	195	SK716		V b	深鉢類	—	底			(9.0)				I a2		浅黄橙(10YR8/3)					
212	216	196	SK718		V c	鉢	III群1類	口~体	(9.0)	(10.9)			4		I b2		浅黄橙(10YR8/4)			頸:平行沈線文		
212	216	197	SK855		V c	深鉢類	—	体							I b1		橙(7.5YR7/6)	炭化物		体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第6類)(縦位)		
212	216	198	SK922		V c	浅鉢	I群2類	口~体	(24.0)				(4.6)		I a2		にぶい黄橙(10YR7/3)			口唇:突起、沈線文 口端:刻目文 口:平行沈線文 体:雲形文(磨消縄文LR)	大洞C2式II期	
212	216	199	SK922		V c	深鉢	IV群4類	口~体	(23.2)						I b1		灰黄褐(10YR5/2)	炭化物		口~体:斜縄文LR		
212	216	200	SK891		V c	深鉢類	—	体							I a2		にぶい黄橙(10YR7/3)			体:斜縄文LR		
212	216	201	SK943		V c	深鉢類	—	体							I a1		褐(7.5YR4/4)			体:斜縄文LR		
212	216	202	SK843	4J-3E15, 3F11	V b	深鉢	I群4b類	口~体	(17.8)						I b1		にぶい黄橙(10YR6/3)			口:波状口縁 平行沈線文 体:直線状雲形文(鉤爪形) 斜縄文RL	大洞C2式II期古	
212	216	203	SK897-968		V b	深鉢	IV群4類	口~体							II a		灰黄褐(10YR6/2)			口~体:斜縄文LR		
212	216	204	SK969		V b	壺	I群	頸							I a2	○	褐灰(10YR4/1)			頸:帯状隆帯		
212	216	205	SK969		V b	深鉢類	—	底			7.5				I a2		にぶい黄橙(10YR7/2)					
212	216	206	SK1004		V b	深鉢類	—	体							I a1		灰黄褐(10YR5/2)			体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第6類)(縦位)		
212	216	207	SK1004		V b	深鉢類	—	体							I a2		にぶい橙(10YR6/4)			体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類)(縦位)		
212	216	208	SK894		V b	深鉢類	—	体							I a2		灰黄褐(10YR5/2)			体:結節斜縄文RL(縦位)		
212	216	209	SK961		V b	深鉢	IV群1c類	口~体	(12.6)	(13.6)		(9.6)			I b1		にぶい黄橙(10YR7/2)			口:無文 体:斜縄文(LR)	口:横ナデ	
212	216	210	SK985 + SK967	4J-2F10	V b	深鉢	IV群2類	口~体							I b2		灰褐(7.5YR4/2)	炭化物	炭化物	口:結節回転文 体:結節斜縄文RL(縦位)		
212	216	211	SK985		V b	深鉢	IV群3類	口~体	(33.8)	(34.6)		(27.3)	18	18	18	III a		黄灰(2.5Y4/1)	炭化物	アスファルト	口:斜縄文LR 体:羽状縄文(LR・RL)(縦位)	
213	216	212	SK985		V b	深鉢類	—	底			(8.0)				I b1		灰黄(2.5Y7/2)				器面風化	
213	216	213	Pit488		V b	壺a	IV群4類	肩							I a1		褐灰(10YR4/1)			頸:有段 体:斜縄文LR	ミガキ	
213	216	214	Pit259		V c	浅鉢	III群2類	体							I a2	○	灰黄褐(10YR5/2)			体:無文 ミガキ		

図版No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置		所属 段階	器 種	分 類	遺存 部位	法 量(cm)				遺存率(/36)			胎土	海綿 骨針	色 調	付着物		文様・施文	備 考
			遺 構	グリッド					口径	胴部最大径	底径	器高	口縁部	底部	全体				外面	内面		
213	216	215	Pit381		Vb	深鉢類	—	体							II a	灰白(10YR8/2)			体:網目状撫系文R(単軸絡条体第5類)(縦位)			
213	216	216	Pit387	3J-8F17	Vc	壺	I群	口~肩	(12.4)				9		II c	明赤褐(2.5YR5/8)			口端:突起 体:鉤爪形文様(磨消縄文LR) 赤彩			
213	216	217	Pit357		Vb	深鉢類	—	体							I b1	にぶい黄橙(10YR7/2)	アスファルト	体:網目状撫系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)				
213	216	218	Pit936		Vc	深鉢類	—	体							I a1	褐灰(10YR5/1)	炭化物	体:羽状縄文(LR・RL)				
213	216	219	Pit709		Vb	深鉢	IV群4類	口							I b1	にぶい橙(10YR7/3)		口:斜縄文LR				
213	216	220	Pit780		Vc	深鉢類	—	底					6		III a	灰黄褐(10YR4/2)						
213	216	221	Pit765		Vc	深鉢類	—	体							I a1	にぶい黄橙(10YR7/2)	炭化物	体:斜縄文LR				
213	216	222	Pit852		Vc	深鉢類	—	体							I a1	灰黄褐(10YR6/2)		体:網目状撫系文R(単軸絡条体第5類)(縦位)				
213	216	223	Pit770		Vc	壺	—	口							I b1	褐灰(10YR5/1)		口:刻目文 沈線文 頸:沈線文				
213	216	224	Pit766		Vb	壺a	IV群4類	肩							VI ○	褐灰(10YR5/1)		頸:有段 体:斜縄文RL				
213	216	225	Pit884		Vc	深鉢類	—	体							I a2	灰黄褐(10YR5/2)		体:斜縄文LR(縦位)				
213	216	226	Pit991		Vb	鉢・浅鉢	III群2類	口							I a2	灰白(10YR8/2)		無文				
213	216	227	Pit991		Vb	深鉢	—	体~底		(4.2)			4		I b1	灰白(10YR7/1)		体:網目状撫系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)				
213	216	228	SX136		Vc	深鉢	I群	口	(22.3)		8.0				I a2	にぶい黄橙(10YR6/3)		波状口縁 口:平行沈線文 体:雲形文?				
213	216	229	SX136		Vc	壺b	IV群2類	頸~肩							I b1	褐灰(10YR6/1)	アスファルト	体:結節斜縄文LR				
213	216	230	SX136		Vc	壺	IV群	肩							I a1	灰黄(2.5Y6/2)		体:羽状縄文(R・L)				
213	216	231	SX136		Vc	深鉢	IV群2類	口~体	(32.5)				6	3	I b1	浅黄(2.5Y7/3)		口:B突起 結節回転文 体:斜縄文LR				
213	216	232	SX996	3J-8G11	Vc	深鉢	II群4類	口~体	(16.0)		(8.8)	7	6		I b2 ○	灰黄褐(10YR4/2)		突起 波状口縁 口:無文 体:結節斜縄文LR				
213	217	233	SX996		Vc	深鉢類	III群3類	体							I a2	にぶい黄橙(10YR7/2)		体:無文 ケズリ				
213	217	234	SX996		Vc	深鉢類	—	体							II b ○	浅黄(2.5Y7/3)		体:直前段反摺LLR(斜位)				
213	217	235	SX439		Vb	深鉢	II群4類	口~体							I a2 ○	灰黄褐(10YR5/2)	炭化物	口:小波状口縁 無文帯+結節回転文帯 体:網目状撫系文R(単軸絡条体第5類)(縦位)				
213	217	236	SX444		Vb	深鉢類	—	体~底					6		I a1	にぶい黄(2.5Y6/3)		体:斜縄文RL	器面風化			
213	217	237	SX343 + SD338		Vb	深鉢	II群3類	口~体	(12.5)	(12.9)			12		I a2	灰白(10YR8/2)		口端:沈線文 口:平行沈線文 体:羽状縄文(LR・RL)				
213	217	238	SX424		Vc	深鉢	II群3類	口~体	(17.0)	(18.1)	(11.7)	15	7		I a1	にぶい黄橙(10YR7/3)	炭化物	波状口縁 口:平行沈線文 体:結節斜縄文LR				
214	217	239	SX320		Vc	深鉢類	—	体							I b1	灰黄(2.5Y7/2)	炭化物	体:網目状撫系文R(単軸絡条体第5類)(縦位)	器面風化			
214	217	240	SX832		Vc	深鉢類	—	体							I a1	灰黄褐(10YR5/2)		体:結節斜縄文RL(縦位)				
214	217	241	SX945		Vb	深鉢	IV群4類	口				2			I b1	にぶい黄橙(10YR6/3)		網目状撫系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)				
214	217	242	SX945	4J-2F25	Vb	深鉢	IV群2類	口~体							I a2	にぶい黄橙(10YR6/3)	赤色顔料	口:結節回転文 体:斜縄文LR				
214	217	243	SX768		Vb	深鉢類	—	体							I a2	灰白(10YR8/2)		体:斜縄文LR				
214	217	244	SX949		Vb	深鉢類	—	体							I a1	にぶい黄橙(10YR7/2)		体:斜縄文LR				
214	217	245	SX952		Vc	浅鉢	III群	体							I a1	にぶい褐(10YR6/3)		体:無文 ミガキ				
214	217	246	SX204		Vc	浅鉢	I群3類	体							VI	灰白(10YR8/1)		体:雲形文(磨消縄文LR)	大洞C2式I期			
214	217	247	SX733		Vb	深鉢類	—	体							II a	オリーブ黒(5Y3/1)		体:斜縄文LR	内面:ナデ			
214	217	248	SX760		Vb	浅鉢	II群3類	口~体							II a ○	灰黄褐(10YR5/2)		船底形 口:刻目文 平行沈線文 体:羽状縄文(RL・LR)				
214	217	249	SX799		Vc	浅鉢	III群2類	口~体	(14.0)				4		VI ○	浅黄橙(10YR8/3)		口~体:無文 ミガキ				
214	217	250	SX799		Vc	深鉢類	—	底		(9.0)			4		I b1 ○	灰黄(2.5Y7/2)		底:無文 沈線文				
214	217	251	SX966		Vb	深鉢	IV群4類	口							I a1	にぶい黄橙(10YR7/3)		口:斜縄文RL	器面風化			
214	217	252	SX947		Vb	深鉢類	—	体							I a1	にぶい黄橙(10YR7/2)		体:斜縄文LR				
214	217	253	SD192 I層		Vc	注口	I群3類	肩~体	(22.5)				6		I a2 ○	褐灰(10YR5/1)		雲形文(鉤爪形)(磨消縄文LR)	大洞C2式I期			
214	217	254	SD192 I層		Vc	注口	I群	頸							VI ○	灰黄褐(10YR5/2)		磨消縄文帯(磨消縄文LR)				
214	217	255	SD192 I層		Vc	注口	I群3類	肩							I a1 ○	褐灰(10YR5/1)		肩:陽刻 体:雲形文(磨消縄文LR)	253と同一個体か			
214	217	256	SD192 I層	3J-7H12・17,8H25	Vc	浅鉢	I群3類	口~体							I b2 ○	灰黄(2.5Y7/2)		口端:突起 口:平行沈線文 体上:雲形文(Z字文)(磨消縄文LR) 体下:斜縄文LR	大洞C2式I期 479と同一個体			
214	217	257	SD192 I層		Vc	浅鉢	III群2類	口	(17.0)				6		I b2 ○	褐灰(10YR4/1)		無文 赤色塗彩				
214	217	258	SD192 I層		Vc	深鉢類	I群	体							II b	灰黄褐(10YR6/2)		体:平行沈線文 斜縄文LR				
214	217	259	SD192 I層	3J-7G17・19・23,8G2~4・9	Vc	壺b	IV群4類	口~底	(9.3)	(17.6)	(7.0)	13.5	14	27	27	I b1	にぶい黄褐(10YR7/2)		頸:有段 体:羽状縄文(LR・R)			
214	217	260	SD192 I層		Vc	壺b	IV群2類	口~体	(10.8)	(24.8)			10	7	I a2	にぶい黄橙(10YR7/4)		頸:結節回転文 体:斜縄文LR				
214	217	261	SD192 I層		Vc	深鉢	II群4類	口~底	(10.4)	(13.0)	(5.0)	11.8	6	11	I a2	にぶい橙(5YR6/4)		口端:刻目文 口:無文 体:結節斜縄文LR				
215	217	262	SD192 I層		Vc	深鉢	IV群1a類	口~体	(40.0)				6		I a2	浅黄橙(10YR8/4)		口:無文帯+結節回転文 体:網目状撫系文R(単軸絡条体第5類)				

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置		所属 段階	器 種	分 類	遺存 部位	法 量(cm)				遺存率(/36)			胎土	海綿 骨針	色 調	付着物		文様・施文	備 考
			遺 構	グリッド					口径	胴部最大径	底径	器高	口縁部	底部	全体				外面	内面		
215	217	263	SD192	I層	Vc	深鉢	IV群2類	口~体							I b1		にぶい橙(7.5YR6/4)			口:結節回転文 体:斜縄文LR(縦位)		
215	217	264	SD192	I層	Vc	深鉢	IV群1a類	口							I a1		にぶい黄橙(10YR6/4)			口:無文帯+結節回転文		
215	217	265	SD192	I層	Vc	深鉢	IV群3類	口~体							I a2		浅黄橙(10YR8/3)			口:結節斜縄文LR 体:結節斜縄文LR(縦位)	器面風化	
215	217	266	SD192	I層	Vc	深鉢	IV群3類	口~体	(28.2)				3		I b1	○	にぶい黄橙(10YR7/3)			口:斜縄文LR 体:斜縄文LR(斜位・縦位)		
215	218	267	SD192	I層	Vc	深鉢	IV群3類	口~体							I a1	○	灰黄褐(10YR4/2)	炭化物		口:擦系文R 体:擦系文R(縦位)		
215	218	268	SD192	I層	Vc	深鉢	IV群3類	口~体							I a2		黒褐(10YR3/1)	炭化物		口:擦系文R 体:擦系文R(縦位)		
215	218	269	SD192	I層	Vc	深鉢	IV群3類	口							I a1		灰黄褐(10YR5/2)	炭化物		口:網目状擦系文R(単軸絡条体第6類)		
215	218	270	SD192	I層	Vc	深鉢	IV群4類	口~体	(27.6)				12		I a2		灰白(10YR8/2)		炭化物	斜縄文LR 補修孔		
215	218	271	SD192	II層+III層	Vc	浅鉢	I群2類	口~底	21.4	(14.0)	4.4	25	18	20	II a	○	灰黄(2.5Y6/2)			口端:突起 沈線文(磨消縄文LR) 裝飾口縁 口:平行沈線文帯 体:雲形文(磨消縄文LR) 内面:有段	大洞C2式I期	
216	218	272	SD192	II層+III層	Vc	浅鉢	I群2類	口~底	(30.8)	(17.7)	9.3	6	12	16	II a		黄灰(2.5Y4/1)				大洞C2式I期	
216	218	273	SD192	II層	Vc	注口	I群	注口							II a		黄灰(2.5Y5/1)					
216	218	274	SD192	II層	Vc	浅鉢	III群2類	口~底	(13.2)	(10.0)	3.7	3	14	8	I a1	○	にぶい黄橙(10YR7/2)			口~底:無文 ミガキ		
216	218	275	SD192	II層	Vc	浅鉢	III群2類	口~底	(13.2)	(4.0)	5.6	5	12	9	II a		にぶい黄橙(10YR6/3)			無文 磨き		
216	218	276	SD192	II層	Vc	浅鉢	III群2類	口~体	(21.0)						I a1	○	灰黄褐(10YR6/2)			無文		
216	218	277	SD192	II層	Vc	浅鉢	III群2類	口~底	(24.8)	(15.5)	(6.7)	2	36	28	I a1	○	浅黄橙(10YR8/3)			無文		
217	218	278	SD192	II層	Vc	壺	—	口	(11.3)						II c	○	黄灰(2.5Y4/1)					
217	218	279	SD192 II層 +SK144・145・264		Vc	壺a	IV群4類	口~底	(8.1)	(12.8)	6.5	13.6	12	36	27	I b1	○	灰白(2.5Y7/1)			頸:有段 体:羽状縄文(LR・RL) 有段	
217	218	280	SD192	II層	Vc	壺	IV群	体~底		20.1	7.6				I a1		浅黄(2.5Y8/3)	アスファルト	アスファルト	斜縄文LR		
217	219	281	SD192	II層	Vc	深鉢類	I群?	口							I b2		にぶい黄橙(10YR7/3)			口:平行沈線文 体:斜縄文LR		
217	219	282	SD192	II層	Vc	深鉢	II群3類	口							II a		黒褐(10YR3/2)	炭化物	炭化物	口:波状口縁 平行沈線文 結節回転文		
217	219	283	SD192	II層	Vc	深鉢	IV群3類	口~体	(19.5)				20		I b1		灰黄褐(10YR6/2)	炭化物	炭化物	口:斜縄文LR 体:斜縄文LR(縦位)		
217	219	284	SD192	II層	Vc	深鉢	IV群2類	口							I a2	○	灰黄褐(10YR6/2)	炭化物	炭化物	口:結節回転文 体:網目状擦系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)	285と同一個体	
217	219	285	SD192	II層	Vc	深鉢	IV群2類	体~底		9.0			24	15	I a2	○	にぶい黄橙(10YR7/2)		炭化物	網目状擦系文(単軸絡条体6類)(縦位)	284と同一個体	
217	219	286	SD192	II層	Vc	深鉢	IV群3類	口~体							I a2		黒褐(10YR3/2)	炭化物		口:網目状擦系文R(単軸絡条体第6類) 体:網目状擦系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)		
217	219	287	SD192	II層	Vc	深鉢類	—	体							I a2		にぶい黄橙(10YR7/2)	炭化物		体:網目状擦系文R(単軸絡条体第5類)(縦位)		
217	219	288	SD192	II層	Vc	深鉢	IV群3類	口~体	(30.2)				1	6	I b1		灰黄(2.5Y7/2)	アスファルト	アスファルト	口:網目状擦系文R(単軸絡条体第5類) 体:網目状擦系文R(単軸絡条体第5類)(縦位)		
217	219	289	SD192	II層	Vc	深鉢類	—	体							I a1		灰白(10YR8/2)	炭化物	炭化物	体:網目状擦系文R(単軸絡条体第5類)(縦位)		
218	219	290	SD192	II層	Vc	深鉢	IV群3類	口~体	27.5		(21.3)	9	9		I a1		にぶい黄橙(10YR7/2)			口:網目状擦系文R(単軸絡条体6類) 体:網目状擦系文R(単軸絡条体6類)(縦位)		
218	219	291	SD192 II層+ SK171		Vc	深鉢	IV群3類	口~体	(28.0)		(18.2)	16	9		I a2		にぶい黄橙(10YR7/3)	炭化物		口:突起 網目状擦系文R(単軸絡条体第5類) 体:網目状擦系文R(単軸絡条体第5類)(縦位)		
218	220	292	SD192 II層+ SK252		Vc	深鉢	IV群3類	口~体	(32.0)				12		I b1		黄褐(2.5Y5/4)	炭化物	アスファルト	口:網目状擦系文R(単軸絡条体第5類) 体:網目状擦系文R(単軸絡条体第5類)(縦位)		
218	220	293	SD192	II層	Vc	深鉢	IV群3類	口~体					6		I a2		にぶい黄橙(10YR7/2)			口:斜縄文LR 体:斜縄文LR(縦位・斜位)		
218	220	294	SD192	II層	Vc	深鉢	IV群4類	口~体							I a1		にぶい黄橙(10YR7/2)			口~体:斜縄文LR		
218	220	295	SD192	II層	Vc	深鉢類	—	体							I a1	○	にぶい黄橙(10YR6/3)			結節斜縄文LR		
218	220	296	SD192	II層	Vc	深鉢	IV群4類	口~体	37.7				3	6	I b1		にぶい黄橙(10YR6/3)	炭化物	アスファルト	口~体:斜縄文LR(斜位)		
219	220	297	SD192	II層	Vc	深鉢類	—	体~底			7.0		18		I a2		灰黄褐(10YR5/2)	炭化物		体:結節斜縄文LR		
219	220	298	SD192	II層	Vc	深鉢類	—	底		(6.0)			12		III a		にぶい黄橙(10YR7/2)				器面風化	
219	220	299	SD192	II層	Vc	深鉢類	—	底		(7.6)			9		I b1		灰黄褐(10YR4/2)					
219	220	300	SD192	II層	Vc	深鉢類	—	底		(11.0)			9		I a1	○	灰黄(2.5Y6/2)			底面:ケズリ		
219	220	301	SD192	II層	Vc	深鉢類	—	底		(12.0)			12		III a		褐灰(10YR4/1)				器面風化	
219	220	302	SD192	III層	Vc	壺	III群2類	口~肩	(9.0)				8		VI	○	赤褐(10R4/4)			口端:突起 赤彩 補修孔 体:無文		
219	220	303	SD192	III層	Vc	壺b	IV群4類	口~体	(7.5)	(16.0)			31	15	I a2		浅黄(2.5Y7/3)			斜縄文LR		
219	220	304	SD192	III層	Vc	鉢	II群3類	口~体	(17.0)	(18.2)			8	4	I b2		にぶい黄橙(10YR7/3)	炭化物	炭化物	波状口縁 口:B突起 平行沈線文帯 体:斜縄文LR(0段多糸)		
219	220	305	SD192	III層	Vc	鉢	II群3類	口~体							II a		黄灰(2.5Y5/1)			口:平行沈線文 体:斜縄文LR		
219	220	306	SD192	III層	Vc	深鉢	IV群2類	口~体							I a2		にぶい橙(7.5Y7/4)	炭化物	炭化物	口:結節回転文 体:網目状擦系文R(単軸絡条体第5類)(縦位)		

図版No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置		所属 段階	器 種	分 類	遺存 部位	法 量(cm)				遺存率(/36)			胎土	海綿 骨針	色 調	付着物		文様・施文	備 考
			遺 構	グリッド					口径	胴部最大径	底径	器高	口縁部	底部	全体				外面	内面		
219	220	307	SD192 Ⅲ層 +SK95・100		Vc	深鉢	Ⅳ群2類	口	(20.6)				6			I a2	灰白(10YR8/2)			口端:突起 口:結節回転文 体:斜縄文LR(縦位)		
219	220	308	SD192 Ⅲ層		Vc	深鉢	Ⅳ群1a類	口~体	41.0				9			I b1	にぶい黄橙(10YR7/3)			口:無文帯+結節回転文 体:斜縄文RL		
219	220	309	SD192 Ⅲ層		Vc	鉢	Ⅳ群4類	口~底	(19.2)			14	36	15		I a1	にぶい黄橙(10YR7/3)			口~体:斜縄文LR		
219	220	310	SD192 Ⅲ層	3J-7H9・14	Vc	深鉢類	—	体~底			(7.0)			18		I b1	浅黄橙(10YR8/3)			体:斜縄文LR(縦位)		
219	220	311	SD192 Ⅲ層	3J-8G9	Vc	深鉢類	—	体~底			(9.0)			9		I a2	浅黄橙(10YR8/3)	炭化物		体:燃糸文R(斜位・横位)		
219	220	312	SD338 2層		Vc	壺	I群2類	体								II c	灰白(2.5Y8/1)			体:台形状?副要素(磨消縄文LR)	大洞C2式I期	
219	220	313	SD338 2層		Vc	壺	I群・II群	口	(14.0)					3		I a1	明褐灰(7.5YR7/2)			口:内外面に沈線文		
219	221	314	SD338 1・2層 +SK279・307・326・ 392.Pit426	3J-7F7・20・ 23・25	Vc	深鉢	Ⅳ群3類	口~体	(34.0)				12		7	I b1	○ 浅黄橙(10YR8/4)			口:網目状燃糸文R(単軸絡条体6類) 体:網目状燃糸文R(単軸絡条体6類)(縦位)		
219	221	315	SD338 2層		Vc	深鉢	Ⅳ群2類	口~体								I a1	にぶい黄橙(10YR7/2)		炭化物	口:結節回転文 体:斜縄文?	器面風化	
219	221	316	SD338 2層		Vc	鉢	Ⅳ群4類	口~底	(13.0)		(5.1)	10.1	7	14	12	I a1	浅黄(2.5Y7/3)		炭化物	口~体:斜縄文LR		
220	221	317	SD846 1層		Vc	深鉢	Ⅱ群3類	口~体								III a	黒褐(10YR3/1)	炭化物		口:波状口縁 平行沈線文帯 体:斜縄文LR		
220	221	318	SD917 6層		Vc	深鉢	Ⅱ群3類	口~体								II a	にぶい黄橙(10YR7/3)			口:平行沈線文 体:斜縄文LR 平行沈線文		
220	221	319	SD917 6層	4J-3E14	Vc	深鉢	Ⅱ群4類	口~体								I a2	灰黄褐(10YR4/2)			口:波状口縁 口:無文 体:結節斜縄文LR		
220	221	320	包含層	3K-1A14	Vc	浅鉢	I群7類	体~底			15.0	(3.5)		33		I a2	○ 暗灰黄(2.5Y5/2)			体:直線状雲形文 平行沈線文	大洞C1式	
220	221	321	包含層	3K-1A	Vc	深鉢	Ⅳ群2類	口~体	38.3	40.2		(27.3)	22		12	I b1	○ 浅黄橙(10YR8/4)			口端:突起 口:結節回転文 体:網目状燃糸文R(単軸絡条体第5類)(縦位)		
220	221	322	包含層	3K-1A	Vc	深鉢類	—	体								I a2	にぶい黄橙(10YR7/2)			斜縄文LR(0段多条)(縦位)		
220	221	323	包含層	3K-1A	Vc	深鉢類	—	体						8		I b1	灰黄(2.5Y7/2)			網目状燃糸文R(単軸絡条体第5類)(縦位)		
221	221	324	包含層	3K-3B19	Vc	深鉢	Ⅳ群4類	口~体	31.0				12		6	I b1	○ にぶい黄橙(10YR7/3)			口~体:網目状燃糸文(単軸絡条体第6類)(縦位)		
221	222	325	包含層	3J-1I24	Vc	浅鉢	I群1類	口								V	灰(5Y6/1)			裝飾口縁 口:平行沈線文帯 体:雲形文	大洞C1式	
221	222	326	包含層	3J-1I24	Vc	深鉢	—	体						4		I b1	灰黄褐(10YR5/2)	炭化物		燃糸文(R)(縦位)		
221	222	327	包含層	3J-1J10	Vc	深鉢	Ⅳ群4類	口	(17.1)				2			I b1	灰黄褐(10YR4/2)			口:斜縄文LR		
221	222	328	包含層	3J-2H12・15・ 19・20	Vc	浅鉢	I群1類	口~体	(26.4)	(27.4)		(8.6)	3			II a	灰黄(2.5Y6/2)			口:二溝間の截痕 体:雲形文(磨消縄文LR)	大洞C1式終末	
221	222	329	包含層	3J-2H20	Vc	壺	Ⅱ群3類	頸								II a	黄灰(2.5Y5/1)			平行沈線文		
221	222	330	包含層	3J-2H14	Vc	深鉢	Ⅳ群4類	口					1			II a	灰黄褐(10YR4/2)			斜縄文LR		
221	222	331	包含層	3J-2H14・18・ 19・24,5I20	Vc	深鉢	Ⅳ群4類	口~体					1			I a2	黄灰(2.5Y6/1)			網目状燃糸文R(単軸絡条体第5類)(縦位)		
221	222	332	包含層	3J-2H22	Vc	深鉢	Ⅳ群4類	口~体					1			I a1	暗灰黄(2.5Y4/2)			網目状燃糸文R(単軸絡条体第5類)(縦位)		
221	222	333	包含層	3J-2H18	Vc	深鉢類	—	体								II a	黒(2.5Y2/1)			体:網目状燃糸文R(単軸絡条体第5類)		
221	222	334	包含層	3J-2H14・15・ 18・19・22	Vc	深鉢	Ⅳ群3類	口~体	(31.0)				6		6	I a1	浅黄(2.5Y7/3)			口:網目状燃糸文R(単軸絡条体第5類) 体: 網目状燃糸文R(単軸絡条体第5類)(縦位)		
221	222	335	包含層	3J-2J9	Vc	深鉢類	—	底			10.0			36		I b1	灰黄(2.5Y7/2)			体:網目状燃糸文R(単軸絡条体第6類)(縦位)		
221	222	336	包含層	3J-3G15	Vc	鉢	Ⅱ群1類	口~体	(19.7)				5			I a2	黒(2.5Y2/1)	炭化物	炭化物	口:波状口縁 二溝間の截痕 体:羽状縄文(R・LR)	大洞C1式	
222	222	337	包含層	3J-3H14・23・25	Vc	深鉢	Ⅳ群4類	口~体					2			III a	灰黄褐(10YR6/2)			羽状縄文(R・LR)		
222	222	338	包含層	3J-3H2	Vc	深鉢類	—	体								II a	浅黄橙(10YR8/4)			体:燃糸文R		
222	222	339	包含層	3J-3I11	Vc	浅鉢	I群	底								I a2	にぶい黄橙(10YR7/2)			二溝間の截痕 内面有段	大洞C1式	
222	222	340	包含層	3J-3I16	Vc	壺b	Ⅳ群4類	口~肩			5.2		9	18	9	I a1	褐灰(10YR5/1)			口:無文 体:斜縄文LR		
222	222	341	包含層	3J-4G22	Vb	深鉢	Ⅳ群1a類	口					1			II a	灰黄褐(10YR4/2)			口:無文帯+結節回転文	器面風化	
222	222	342	包含層	3J-4G16・22	Vb	深鉢	Ⅳ群3類	口~体	(27.2)				4			I b1	浅黄(2.5Y7/3)	炭化物	炭化物	口:網目状燃糸文R(単軸絡条体第5類) 体:網目状燃糸文R(単軸絡条体第5類)(縦位)		
222	222	343	包含層	3J-4I16・22	Vc	鉢	I群1類	口~体	(12.6)	(13.6)						I a1	黒色(10YR2/1)			波状口縁 口:平行沈線文 溝底の刺痕 体:雲形文		
222	222	344	包含層	3J-4I12	Vc	鉢	Ⅳ群3類	口~体	(12.0)	(12.7)			3			II a	黒褐(10YR3/2)	炭化物	炭化物	口端:刻目文 口:平行沈線文 体:斜縄文LR		
222	222	345	包含層	3J-4I21・22	Vc	深鉢	Ⅳ群1a類	口~底			5.8		1	36		I a1	褐灰(10YR6/1)	炭化物	炭化物	口:突起 無文帯+結節回転文 体:斜縄文RL		
222	222	346	包含層	3J-3H16・ 17,4J19	Vc	深鉢	Ⅳ群1a類	口~体					1			I b1	浅黄橙(10YR8/4)			口:無文帯+結節回転文 体:燃糸文R(縦位)		
222	222	347	包含層	3J-4J19	Vc	深鉢類	—	体~底			6.0			36		I b1	灰黄(2.5Y7/2)			体:斜縄文LR(附加条?)		
222	222	348	包含層	3J-5G23	Vb	深鉢	Ⅳ群2類	口~体								I b1	褐灰(10YR6/1)			口:結節回転文 体:斜縄文LR(縦位)	器面風化	

図版No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置		所属 段階	器 種	分 類	遺存 部位	法 量(cm)				遺存率(/36)			胎土	海綿 骨針	色 調	付着物		文様・施文	備 考
			遺 構	グリッド					口径	胴部最大径	底径	器高	口縁部	底部	全体				外面	内面		
222	222	349	包含層	3J-5G23	V b	深鉢	IV群4類	口~体							I b1		にぶい黄橙(10YR7/2)			斜縄文LR(0段多条)		
222	222	350	包含層	3J-5H25	V b	深鉢	IV群3類	口~体					1		I a2		淡黄(2.5Y8/4)			口:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類) 体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類)(縦位)		
222	222	351	包含層	3J-5I6・11	V c	深鉢	IV群2類	口~体	(37.0)				16		I a2	○	浅黄(2.5Y7/3)			口:結節回転文 体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第6類)(縦位)		
222	223	352	包含層	3J-5I2	V c	深鉢	IV群2類	口~体					1		I b1		暗灰黄(2.5Y5/2)			口:結節回転文 体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類)(縦位)		
222	223	353	包含層	3J-5I3・8	V c	深鉢	IV群3類	口~体	(28.0)				3		I a2		にぶい黄橙(10YR6/3)			口:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類) 体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類)(縦位)		
222	223	354	包含層	3J-5I15	V c	深鉢	IV群3類	口~体					1		I a1		灰黄(2.5Y6/2)			口:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類) 体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類)(縦位)		
222	223	355	包含層	3J-5I20	V c	深鉢	IV群3類	口~体					1		II a		黒褐(2.5Y3/1)			口:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類) 体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類)(縦位)		
222	223	356	包含層	3J-5I3	V c	深鉢	IV群3類	口					1		I a2		浅黄(2.5Y7/3)			口:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類) 体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類)(縦位)		
222	223	357	包含層	3J-5I5	V c	深鉢	IV群3類	口					1		I b1		灰黄(10YR6/2)			口:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類)		
222	223	358	包含層	3J-5I9・19	V c	深鉢	IV群4類	口~体					1		I b1		浅黄(2.5Y7/3)		炭化物	口~体:斜縄文LR		
222	223	359	包含層	3J-5I10	V c	深鉢	IV群4類	口~体							I a1		にぶい黄橙(10YR7/2)			口~体:斜縄文LR		
222	223	360	包含層	3J-5J19・23・24	V c	壺	II群3類	口	(12.0)				12		I b1		浅黄(2.5Y7/3)			口端:沈線文		
222	223	361	包含層	3J-5J11	V c	深鉢類	II群3類	口					1		III a		灰黄褐(10YR4/2)	炭化物	炭化物	口端:刻目文 口:平行沈線文 体:斜縄文RL		
222	223	362	包含層	3J-5J21	V c	深鉢	I 群	体							II a		にぶい黄橙(10YR7/3)			平行沈線文 羽状縄文(RL・LR)		
222	223	363	包含層	3K-5A2.3J-5J5・7・10・22	V c	深鉢	IV群2類	口~体	(36.0)				9		I a2		にぶい黄橙(10YR7/3)			口:結節回転文 体:網目状擦系文R(単軸絡糸体6類)(縦位)		
222	223	364	包含層	3J-5J2	V c	深鉢	IV群3類	口~体					1		I b1		にぶい黄橙(10YR7/4)			口:網目状擦系文 体:網目状擦系文(縦位)	器面風化	
222	223	365	包含層	3J-5J16	V c	深鉢類	—	底		(8.0)				9	I b1		浅黄(2.5Y7/3)			体:斜縄文LR		
223	223	366	包含層	3J-5J21・23・24	V c	深鉢	IV群1a類	口~体						6	I b1	○	浅黄(2.5Y7/4)			口:無文帯+結節回転文 体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第6類)(縦位)		
223	223	367	包含層	3J-6F18	V b	深鉢類	—	底		9.3				36	I b1		にぶい黄橙(10YR7/3)			網目状擦系文?	器面風化	
223	223	368	包含層	3J-6F20	V b	深鉢類	—	底							I a1		灰黄褐(10YR6/2)					
223	223	369	包含層	3J-6G15	V b	深鉢類	—	体~底	(4.0)				12		III a	○	にぶい橙(7.5YR7/4)			体:羽状縄文(LR・RL)		
223	223	370	包含層	3J-6H18	V b	壺	II群3類	口	10.0				9		I a2		浅黄(2.5Y8/3)			口端:沈線文		
223	223	371	包含層	3J-6H9	V b	深鉢	IV群4類	口~体	(29.2)				6		I b2		にぶい黄橙(10YR7/2)			口~体:斜縄文LR		
223	223	372	包含層	3J-6H6	V b	深鉢	IV群	口							I b1		褐灰(7.5YR4/1)			不明	器面風化	
223	223	373	包含層	3J-6H21	V b	深鉢類	—	底		(7.0)				6	I b1		灰褐(7.5YR6/2)				器面風化	
223	223	374	包含層	3J-6H6	V b	深鉢類	—	底		6.3				36	I a2		明褐灰(7.5YR7/2)				器面風化	
223	223	375	包含層	3J-6I7	V b	深鉢類	II群3類	口							I a2		橙(7.5YR6/6)			口:平行沈線文		
223	223	376	包含層	3J-6I8	V c	壺	—	口							I a2		にぶい黄橙(10YR7/2)			口:無文		
223	223	377	包含層	3J-6I20	V b	壺 a	IV群4類	肩							I b1		にぶい黄橙(10YR7/2)			頸:有段 体:羽状縄文(L・R)		
223	223	378	包含層	3J-6I8	V b	深鉢	IV群4類	口							I b1	○	灰黄(2.5Y7/2)			口~体:擦系文R(縦位)		
223	223	379	包含層	3J-6I18	V b	深鉢	IV群4類	口							I a2		灰白(2.5Y7/1)			口:斜縄文LR		
223	223	380	包含層	3J-6I10・15	V b	深鉢	II群3類	口~体	(22.9)				6		I b2		暗灰黄(2.5Y5/2)	炭化物		口:波状口縁 平行沈線文 体:斜縄文LR		
223	223	381	包含層	3J-6I2	V c	深鉢類	—	底		(5.4)				12	I a2		にぶい黄橙(10YR7/3)			斜縄文LR		
223	223	382	包含層	3J-6I14	V b	深鉢類	—	底		(11.0)				6	I b2		褐灰(10YR5/1)					
223	223	383	包含層	3J-6I20	V c	深鉢類	—	底		(8.8)				9	I a2		灰黄(2.5Y7/2)			網目状擦系文R(単軸絡糸体第6類)(縦位)		
223	223	384	包含層	3J-6I9	V b	壺	—	底		10.0				6	I b1		灰黄(2.5Y7/2)			斜縄文LR		
223	223	385	包含層	3J-6J6	V c	深鉢	IV群	口							I a1		灰黄褐(10YR6/2)			不明	器面風化	
223	223	386	包含層	3J-6J23	V c	深鉢類	—	体							I b1		にぶい黄橙(10YR7/3)	炭化物		体:結節斜縄文LR		
223	223	387	包含層	3J-7F1	V c	壺	—	口	(14.0)					6	I b1		浅黄橙(7.5YR8/6)			口:突起 ミガキ		
223	223	388	包含層	3J-7F1	V c	壺	—	頸							I a1		灰黄褐(10YR6/2)			無文		
223	223	389	包含層	3J-7G15	V c	浅鉢	I 群1類	口~体							I a2		灰白(2.5Y8/2)			口:二溝間の截痕 体:雲形文	大洞 C1 式終末	
223	223	390	包含層	3J-7G15	V c	深鉢類	II群1類	口							II a		黒褐(10YR3/1)			口端:B突起 刻目文 口:二溝間の截痕		
223	223	391	包含層	3J-7G11	V b	壺	I 群	口							I a2		灰黄褐(10YR6/2)		アスファルト	口:突起		
223	223	392	包含層	3J-7G4	V b	浅鉢	III群2類	口							I a2		灰黄(2.5Y7/2)			無文		
223	223	393	包含層	3J-7G15	V b	深鉢類	I 群	体							I a2		灰白色(10YR7/1)			体:平行沈線文 羽状縄文(LR・RL)		
223	223	394	包含層	3J-7G25	V c	壺 b	IV群	頸~体							I a2		にぶい黄橙(10YR7/2)			体:斜縄文LR		
223	223	395	包含層	3J-7G20	V b	深鉢	IV群1a類	口~体							I a1		にぶい黄橙(10YR4/3)			口:無文帯+結節回転文 体:斜縄文LR		

図版No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置		所属 段階	器 種	分 類	遺存 部位	法 量(cm)				遺存率(/36)			胎土	海綿 骨針	色 調	付着物		文様・施文	備 考
			遺 構	グリッド					口径	胴部最大径	底径	器高	口縁部	底部	全体				外面	内面		
223	223	396	包含層	3J-7G6,7F12	V b	深鉢	IV群2類	口~体							I b1	○	灰黄褐(10YR4/2)	炭化物	炭化物	口:結節回転文 体:斜縄文?	器面風化	
223	223	397	包含層	3J-7G7	V b	深鉢	IV群4類	口							II c		にぶい黄橙(10YR6/4)			口:斜縄文LR		
223	223	398	包含層	3J-7G15	V b	深鉢類	—	底			7.8				I a2	○	褐灰(7.5YR5/1)					
223	223	399	包含層	3J-7H6	V b	鉢・浅鉢	II群2類	口~体							I a2		灰白(2.5Y8/1)			口:溝底の刺痕 体:地文		
223	223	400	包含層	3J-7H8	V b	浅鉢	II群3類	口~体							II a		黄灰(2.5Y5/1)			口:平行沈線文 体:不明	器面風化	
224	223	401	包含層	3J-6G20・25, 7H11~14・16	V c	深鉢	I群1類	口~底	24.5	26.5	8.0	(25.0)	33	36	27	I a2		にぶい黄橙(10YR7/3)			小波状口縁 口:平行沈線文帯 溝底の刺痕 B突起 体:雲形文(磨消縄文LR) 羽状縄文(LR・RL)	大洞C1式終末
225	224	402	包含層	3J-7H20	V c	深鉢	IV群1a類	口~体							III a		褐灰(10YR4/1)			口:無文帯+結節回転文 体:斜縄文LR		
225	224	403	包含層	3J-7H20・25	V b	深鉢	IV群4類	口~体	(40.0)					4	I a2		浅黄橙(10YR8/3)			口~体:網目状撚糸文R(単軸絡糸体5類)(縦位)		
225	224	404	包含層	3J-7H17	V b	深鉢	IV群3類	口~体							I a1		黒褐(10YR3/1)	炭化物		口:斜縄文LR 体:斜縄文LR(縦位)		
225	224	405	包含層	3J-7H9	V b	深鉢	IV群4類	口~体							I b1	○	にぶい黄橙(10YR7/2)		炭化物	口~体:斜縄文LR		
225	224	406	包含層	3J-7H10	V c	深鉢類	—	体~底			(6.6)				I b1		浅黄橙(10YR8/3)			体:斜縄文LR(縦位)	器面風化	
225	224	407	包含層	3J-7H15	V b	深鉢類	—	底			7.4				I a2		淡黄(2.5Y8/3)				器面風化	
225	224	408	包含層	3J-7H23	V b	深鉢類	—	底			8.6				I a1		にぶい黄橙(10YR7/4)					
225	224	409	包含層	3J-7I10	V c	浅鉢	I群	口							II a	○	灰白(2.5Y8/2)			口端:突起 沈線文 口:平行沈線文 体:雲形文		
225	224	410	包含層	3J-7I15	V c	深鉢	II群2類	口							I a2		にぶい橙(7.5YR6/4)			口:二溝間の刺突列		
225	224	411	包含層	3J-7I22	V b	深鉢	II群4類	口~体							II a		黒褐(10YR3/2)	炭化物	炭化物	口:波状口縁 無文 体:斜縄文RL		
225	224	412	包含層	3J-7I11	V c	深鉢	IV群1a類	口~体							III a		暗灰黄(2.5Y5/2)			口:無文帯+結節回転文 体:斜縄文LR		
225	224	413	包含層	3J-7I25	V c	深鉢	IV群2類	口~体							I b1		にぶい黄橙(10YR4/3)			口:結節回転文 体:斜縄文LR(縦位)		
225	224	414	包含層	3J-7I15	V c	深鉢	IV群1b類	口~体							I a2		灰黄褐(10YR5/2)			口:無文帯 体:撚糸文R(縦位)		
225	224	415	包含層	3J-7I23	V b	深鉢	IV群4類	口~体					1		I a1		黒褐(10YR3/1)			斜縄文LR		
225	224	416	包含層	3J-7I15	V c	深鉢類	—	底							I b1		にぶい黄橙(10YR7/3)					
225	224	417	包含層	3J-7I17	V b	深鉢類	—	底			6.2				I a2		にぶい黄橙(10YR7/2)			体:斜縄文LR		
225	224	418	包含層	3J-7I19	V c	深鉢類	—	体~底			(4.0)				II a		にぶい橙(7.5YR7/3)		アスファルト	体:斜縄文LR 沈線文		
225	224	419	包含層	3J-7J11	V b	鉢	I群4a類	口~体	(10.0)	(11.0)					I a2		にぶい黄橙(10YR7/3)			口:波状口縁 平行沈線文 体:直線状雲形文(Z字文) 斜縄文LR	大洞C2式II期古	
225	224	420	包含層	3J-7J1	V b	深鉢	IV群1a類	口~体							I a2		黒褐(10YR3/1)	炭化物	炭化物	口:無文帯+結節回転文 体:斜縄文RL		
225	224	421	包含層	3J-7J13	V c	深鉢	IV群2類	口~体							III a		灰黄褐(10YR5/2)			口:結節斜縄文LR 体:斜縄文LR(縦位)	器面風化	
225	224	422	包含層	3J-7J11	V b	深鉢	IV群3類	口~体							II a		灰白(2.5Y8/2)			口:網目状撚糸文R(単軸絡糸体第5類) 体:網目状撚糸文R(単軸絡糸体第5類)(縦位)		
225	224	423	包含層	3J-7I15, 7J1-7	V b	深鉢	IV群3類	口~底	16.7		6.7	14.3	29	36	34	I a1		にぶい黄橙(10YR7/3)			口端:突起 口:直前段反摺LL 体:直前段反摺LL(縦位)	
225	224	424	包含層	3J-7J9	V b	深鉢類	—	底			(7.0)				I a2		灰白(10YR8/2)		アスファルト	体:斜縄文		
225	224	425	包含層	3J-7J6・11	V b	深鉢類	—	体~底			8.2				I a2		にぶい黄橙(10YR7/3)	アスファルト				
225	224	426	包含層	3J-7J11	V b	深鉢類	—	底			(7.0)				I a1	○	浅黄橙(10YR8/3)			体:斜縄文LR 底:ケズリ		
225	224	427	包含層	3J-8E15	V b	浅鉢	I群4a類	口							II a	○	黄灰(2.5Y4/1)			裝飾口縁 口:平行沈線文 体:直線状雲形文	大洞C2式II期古	
225	224	428	包含層	3J-8E25	V b	浅鉢	I群4a類	口~体							II b		灰白(2.5Y8/2)			口:平行沈線文 体:直線状雲形文 斜縄文LR	大洞C2式II期古	
225	224	429	包含層	3J-8E3	V b	壺	I群	口	(12.6)					6	II a		浅黄橙(10YR8/4)			裝飾口縁	器面風化	
225	224	430	包含層	3J-8E20	V c	壺	I群2類	体							II a		灰白(10YR7/1)			体:雲形文(磨消縄文LR)	大洞C2式I期	
225	224	431	包含層	3J-8E18・19・23・24	V b	深鉢	II群3類	口~体	(14.7)	(16.0)					I b2		にぶい黄橙(10YR7/2)			口:波状口縁 平行沈線文帯 体:斜縄文LR(縦位)		
225	224	432	包含層	3J-8E25	V b	深鉢	I群	体							I a1		灰黄褐(10YR6/2)			平行沈線文 羽状縄文(RL・LR)		
225	224	433	包含層	3J-8E5	V c	深鉢	IV群1a類	口~体							I b1	○	灰白(2.5Y8/1)			口:無文帯+結節回転文 体:網目状撚糸文(単軸絡糸体第5類)(縦位)		
225	224	434	包含層	3J-8E24	V b	深鉢	IV群2類	口~体							I a1	○	灰黄褐(10YR6/2)			口:結節斜縄文 体:網目状撚糸文R(単軸絡糸体第6類)(縦位)		
225	224	435	包含層	3J-8E20	V b	深鉢	IV群3類	口							III a		灰黄褐(10YR6/2)			口:結節斜縄文LR 体:結節斜縄文LR(縦位)		
225	224	436	包含層	3J-8E24	V c	—	—	底			(9.8)			4	II a		にぶい黄橙(10YR5/3)	アスファルト	アスファルト			
225	224	437	包含層	3J-8F17	V b	深鉢	IV群3・4類	口							I a2		灰黄褐(10YR5/2)			口:斜縄文LR		
225	224	438	包含層	3J-8G9	V c	壺	III群1類	口	(8.7)						VI	○	明赤褐(2.5YR5/6)			口端:突起 体:無文 赤彩	439と同一個体	
225	224	439	包含層	3J-8G9	V b	壺	III群1類	肩~体	(10.0)						VI	○	にぶい黄橙(10YR7/2)			頸:平行沈線文 赤彩	438と同一個体	
225	224	440	包含層	3J-8G10	V c	鉢・浅鉢	III群2類	口							I b1		灰白(10YR8/1)			無文 ミガキ		
226	224	441	包含層	3J-7G10, 8G25	V b	深鉢	IV群3類	口~体	(28.0)						I a1	○	浅黄橙(10YR8/3)			口:網目状撚糸文R(単軸絡糸体第5類) 体:網目状撚糸文R(単軸絡糸体第5類)(縦位)		

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置		所属 段階	器 種	分 類	遺存 部位	法 量(cm)				遺存率(/36)			胎土	海綿 骨針	色 調	付着物		文様・施文	備 考
			遺 構	グリッド					口径	胴部最大径	底径	器高	口縁部	底部	全体				外面	内面		
226	224	442	包含層	3J-8G24	V b	深鉢	IV群3類	口~体					1			I a2	にぶい橙(7.5YR7/4)			口:網目状擦系文 R 体:網目状擦系文(縦位)	器面風化	
226	224	443	包含層	3J-8G10	V b	深鉢	IV群4類	口~体								I b2	黄灰(2.5Y6/1)			口~体:網目状擦系文 R(単軸絡糸体第6類)(縦位)		
226	224	444	包含層	3J-8G7	V b	深鉢類	—	体~底								I a2	にぶい褐(7.5YR6/3)	炭化物		体:羽状縄文(横位RL・縦位RL)		
226	224	445	包含層	3J-8H20	V c	注口	I群3類	肩								I a1	褐灰(10YR5/1)			肩:陽刻 体:雲形文 斜縄文 LR	大洞C2式I期	
226	224	446	包含層	3J-7I16, 8H17-18	V b	深鉢	II群2類	口~体	(31.4)				1			II a	灰黄褐(10YR5/2)			口端:刺突文 口:平行沈線間に刺突文 体:斜縄文 LR		
226	224	447	包含層	3J-8H12・13	V b	深鉢	II群3類	口~体	(15.4)	(15.9)			4			I a1	○ にぶい黄橙(10YR6/4)	炭化物	炭化物	口端:刻目文 口:平行沈線文 体:擦系文 R(縦位)		
226	224	448	包含層	3J-8H1	V c	深鉢	IV群2類	口~体								I b2	○ 橙(7.5YR7/6)			口:結節回転文 体:斜縄文 LR		
226	224	449	包含層	3J-8H1	V c	深鉢	IV群2類	口~体								I a2	○ 褐灰(10YR5/1)			口:結節回転文 体:斜縄文 LR		
226	224	450	包含層	3J-8H25	V b	深鉢	IV群4類	口~体								II b	灰黄褐(10YR6/2)			口~体:斜縄文 LR		
226	224	451	包含層	3J-8H25	V c	深鉢	IV群2類	口								I a2	灰黄褐(10YR6/2)			口:結節回転文 体:斜縄文 LR		
226	224	452	包含層	3J-8H4	V b	深鉢	IV群2類	口~体								I b1	黒褐(10YR3/2)	炭化物	炭化物	口:結節回転文 体:斜縄文 LR 補修孔		
226	224	453	包含層	3J-8H25	V c	深鉢	IV群3類	口~体								I b1	灰白(10YR8/2)			口:網目状擦系文 R(単軸絡糸体第5類) 体:網目状擦系文 R(単軸絡糸体第5類)		
226	224	454	包含層	3J-8H2	V b	深鉢	IV群3類	口~体								I a2	灰白(10YR8/1)			口:網目状擦系文 R(単軸絡糸体第5類) 体:網目状擦系文 R(単軸絡糸体第5類)(縦位)		
226	224	455	包含層	3J-8H20	V c	深鉢	IV群3類	口~体								I b1	灰白(10YR8/2)			口:網目状擦系文 R(単軸絡糸体第5類) 体:網目状擦系文 R(単軸絡糸体第5類)(縦位)		
226	224	456	包含層	3J-8H10	V b	深鉢	IV群3類	口~体								I a1	○ 黒褐(10YR3/1)			口:網目状擦系文 R(単軸絡糸体第5類) 体:網目状擦系文 R(単軸絡糸体第5類)(縦位)		
226	224	457	包含層	3J-8H20	V c	深鉢	IV群4類	口~体	(33.8)				8			I b2	にぶい黄橙(10YR7/3)	炭化物		口:突起 口~体:斜縄文 RL		
226	225	458	包含層	3J-8H25	V b	深鉢	IV群3類	口~体	(22.8)		(14.3)		5	2		I b1	にぶい褐(7.5YR6/3)	炭化物		口:結節斜縄文 LR 体:結節斜縄文 LR(縦位)		
226	225	459	包含層	3J-8H2	V b	深鉢	IV群3類	口~体	(33.0)				5			I a2	にぶい黄橙(10YR7/4)			口:斜縄文 LR 体:結節斜縄文 LR(縦位)		
226	225	460	包含層	3J-8I18	V b	深鉢	IV群2類	口~体								I b1	灰褐(7.5YR6/2)	アスファルト		口:突起 結節回転文 体:網目状擦系文 R(単軸絡糸体第6類)(縦位)		
226	225	461	包含層	3J-8I6	V b	深鉢	IV群	口								I a1	暗褐(10YR3/2)			不明	器面風化	
226	225	462	包含層	3J-8I12	V b	深鉢	IV群4類	口								I b1	にぶい黄橙(10YR7/3)			口:斜縄文 LR		
226	225	463	包含層	3J-8I18	V b	深鉢	IV群4類	口~体								I b1	灰黄褐(10YR5/2)	炭化物	炭化物	口~体:斜縄文 LR		
226	225	464	包含層	3J-8I1	V c	深鉢	IV群4類	口~体	(20.0)		(13.6)		4	2		I a1	暗灰黄(2.5Y4/2)			口~体:斜縄文 LR		
226	225	465	包含層	3J-8I4・9	V b	深鉢類	—	底		(8.0)			9			I b1	浅黄橙(10YR8/1)	赤色顔料		体:斜縄文 LR		
226	225	466	包含層	3J-8I14	V b	深鉢類	—	体								I a2	にぶい黄橙(10YR7/3)			体:擦系文 L(縦位)		
226	225	467	包含層	3J-8I13	V b	深鉢類	—	底		(9.0)			24			I a1	○ 浅黄橙(7.5YR8/3)					
226	225	468	包含層	3J-8I2	V c	深鉢類	—	体~底		(9.0)			8			VI	○ 浅黄橙(10YR8/3)			体:網目状擦系文 R(単軸絡糸体第6類)(縦位)		
226	225	469	包含層	3J-8J1	V b	浅鉢	III群1類	口								II a	浅黄(2.5Y7/3)			口端:沈線文 口:平行沈線文 体:無文		
226	225	470	包含層	3J-8J1	V b	深鉢	II群3類	口~体								VI	○ 灰黄褐(10YR6/2)	炭化物	炭化物	口:刻目文 平行沈線文 体:斜縄文 LR		
226	225	471	包含層	3J-8J1	V c	深鉢	IV群2類	口~体								I a2	浅黄(2.5Y7/3)			口:結節回転文 体:斜縄文 LR		
226	225	472	包含層	3J-8J8	V c	深鉢類	—	底		(10.0)			14			II a	浅黄橙(10YR8/3)		炭化物	不明	器面風化	
227	225	473	包含層	3J-9D22	V b	深鉢類	—	体~底		(8.0)			9			I a2	にぶい褐(7.5YR7/3)			体:網目状擦系文 R(単軸絡糸体第6類)(縦位)		
227	225	474	包含層	3J-9D23	V b	深鉢類	—	底		(9.0)			12			I a1	浅黄橙(10YR8/3)				器面風化	
227	225	475	包含層	3J-9E	V b	深鉢	II群3類	口~体								I a2	灰黄褐(10YR4/2)			口端:刻目文 沈線文 口:平行沈線文帯 体:斜縄文 LR		
227	225	476	包含層	3J-9F2	V c	深鉢	IV群2類	口								III b	黒褐(10YR3/2)	炭化物		口:結節回転文 体:斜縄文 LR		
227	225	477	包含層	3J-9F21	V b	深鉢類	—	体~底		5.1			36			III a	浅黄橙(10YR8/3)			体:斜縄文 LR(横位・斜位)		
227	225	478	包含層	3J-9H1	V c	深鉢	II群3類	口								II a	黒褐(10YR3/2)			口:波状口縁 平行沈線文 体:斜縄文 LR		
227	225	479	包含層	3J-9I6	V c	浅鉢	I群3類	体								I a1	○ にぶい黄橙(10YR7/3)			雲形文(磨消縄文 LR)	256と同一個体	
227	225	480	包含層	3J-9I15	V b	壺	—	口	(8.3)				4			I a1	にぶい黄橙(10YR7/3)					
227	225	481	包含層	3J-9I5	V c	深鉢	IV群4類	口~体								I a2	灰黄褐(10YR5/2)			口~体:結節斜縄文 RL		
227	225	482	包含層	3J-10D24	V b	深鉢	I群	体								II a	黒褐(10YR3/1)			体:平行沈線文 斜縄文 LR		
227	225	483	包含層	3J-10D11	V b	深鉢	IV群3・4類	口								I b2	○ 灰褐(7.5YR5/2)			口:直前段反擦 RR		
227	225	484	包含層	3J-10D3	V b	深鉢類	—	底		(7.0)			6			I a1	にぶい黄橙(10YR7/3)					
227	225	485	包含層	3J-10E13	V b	浅鉢	I群	底		(8.6)			6			I a2	灰黄(2.5Y7/2)			平行沈線文		
227	225	486	包含層	3J-10E13	V b	深鉢類	—	底		(9.0)			18			III a	にぶい黄橙(10YR7/3)				器面風化	
227	225	487	包含層	3J-10F10	V b	深鉢	IV群2類	口~体								I a2	灰黄褐(10YR4/2)	炭化物	炭化物	口:結節回転文 体:斜縄文 R L		

図版No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置		所属 段階	器 種	分 類	遺存 部位	法 量(cm)				遺存率(/36)			胎土	海綿 骨針	色 調	付着物		文様・施文	備 考
			遺 構	グリッド					口径	胴部最大径	底径	器高	口縁部	底部	全体				外面	内面		
227	225	488	包含層	3J-10F1	V b	深鉢	IV群4類	口~体							I a2	灰黄褐(10YR5/2)			口~体:斜縄文LR			
227	225	489	包含層	3J-10F5	V b	深鉢	—	底			(6.0)			4	III a	にぶい黄橙(10YR7/2)						
227	225	490	包含層	3J-9G23,10G4・5	—	深鉢	IV群4類	口~体							II b	灰黄褐(10YR4/2)			口~体:斜縄文LR			
227	225	491	包含層	3J-10G5	—	深鉢	IV群4類	口~体							I b2	灰白(10YR8/2)			口~体:斜縄文LR			
227	225	492	包含層	3J-10G1	—	深鉢類	—	底			(6.0)			6	I a1	灰白(10YR8/2)			体:斜縄文LR			
227	225	493	包含層	3J-10G22・23	V b	深鉢類	—	底			(9.5)			27	I a1	浅黄橙(10YR8/3)			体:斜縄文LR			
227	225	494	包含層	3J-10I2・3・7	V b	深鉢	II群3類	口~体							I a2	黒褐(2.5Y3/1)		炭化物	口端:刻目文 口:平行沈線文帯 体:結節羽状縄文(RL・LR)			
227	225	495	包含層	4J-1C15	V b	鉢	II群2類	口~体	(9.7)	(11.1)			9	5	II a	黄灰(2.5Y4/1)			口:波状口縁 頸:二溝間の刺突列 B突起 体:斜縄文LR			
227	225	496	包含層	4J-1C5	V b	深鉢	II群3類	口~体							I a2	灰黄褐(10YR6/2)			口:小波状口縁 沈線文 体:斜縄文LR			
227	225	497	包含層	4J-1C9・10・15	V b	深鉢	II群3類	口~体	(16.0)	(17.6)			11	4	I a2	にぶい黄橙(10YR7/3)		炭化物	口:小波状口縁 平行沈線文帯 体:斜縄文LR			
227	225	498	包含層	4J-1C10	V b	深鉢	IV群4類	口~体							I a1	にぶい黄橙(10YR7/3)		炭化物	口~体:斜縄文RL			
227	225	499	包含層	4J-1C8	V a	深鉢	IV群4類	口~体					1		I a2	にぶい黄橙(10YR7/2)			口~体:斜縄文LR			
227	225	500	包含層	4J-1D20,1E7・16・21,1F21	V b	壺	IV群	肩~体		(27.0)				12	I a2	浅黄橙(10YR8/3)			体:羽状縄文(結節斜縄文R 横位・縦位) 結節回転文 斜縄文R			
227	225	501	包含層	4J-1D18	V b	深鉢	IV群2類	口							I a2	にぶい黄橙(10YR6/3)			口:結節回転文			
227	225	502	包含層	4J-1D13	V b	深鉢	IV群3類	口~体							I a1	灰黄褐(10YR6/2)		炭化物	口:網目状燃系文R(単軸絡条体第5類) 体:網目状燃系文R(単軸絡条体第5類)(縦位)			
227	225	503	包含層	4J-1D17	V b	深鉢	IV群4類	口~体							I b1	にぶい黄橙(10YR7/2)			口~体:斜縄文LR			
227	225	504	包含層	4J-1D10	V c	深鉢	IV群4類	口~体							I b1	褐灰(10YR4/1)		炭化物	口~体:斜縄文LR			
227	225	505	包含層	4J-1D12・13・15・18・19・23	V b	深鉢	IV群2類	口~体	(41.5)			(24.0)	6	6	II c	にぶい橙(7.5YR7/4)			口:結節回転文 体:網目状燃系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)			
228	226	506	包含層	4J-1D13・23・24	V b	深鉢類	—	底			(9.0)			18	III a	浅黄橙(10YR8/3)						
228	226	507	包含層	4J-1D24	V b	深鉢類	—	体~底			(10.0)			9	I a2	浅黄橙(10YR8/3)			体:網目状燃系文(縦位)	器面風化		
228	226	508	包含層	4J-1E4	V b	深鉢	IV群2類	口~体							I b1	褐灰(10YR4/1)			口:結節回転文 体:斜縄文LR(縦位)			
228	226	509	包含層	4J-1E1	V b	壺?	—	体~底			6.0			36	I a2	にぶい橙(7.5YR7/4)			体:斜縄文LR			
228	226	510	包含層	4J-1E17	V b	深鉢類	—	体~底							I b1	にぶい黄橙(10YR7/2)			体:直前段反燃RRL			
228	226	511	包含層	4J-1D15,1E25	—	深鉢類	—	底			4.0			33	I a2	橙(5YR6/6)			体:斜縄文LR			
228	226	512	包含層	4J-1E21	V b	深鉢類	—	底			(6.0)			18	III a	浅黄橙(7.5YR8/3)						
228	226	513	包含層	4J-1G3	V b	壺	IV群	口~体	(9.0)	(13.8)			9		I a1	褐灰(10YR4/1)			体:斜縄文LR	器面風化		
228	226	514	包含層	4J-2D20・25	V c	浅鉢	III群2類	口~底	(16.8)		4.3	7.3	1	36	12	II a	灰白(10YR8/2)			無文		
228	226	515	包含層	4J-2D18	V c	壺	—	頸							I a1	にぶい黄橙(10YR7/2)			無文 ミガキ			
228	226	516	包含層	4J-2D25	V c	深鉢類	—	底			(5.0)			6	I b1	にぶい橙(7.5YR7/3)						
228	226	517	包含層	4J-2E4	V b	深鉢	IV群4類	口~体							I a2	にぶい黄橙(10YR7/3)			口~体:羽状縄文(LR・RL)			
228	226	518	包含層	4J-2F5	V b	深鉢	IV群2類	口							I b1	にぶい黄橙(10YR7/3)			口:結節回転文 体:斜縄文LR			
228	226	519	包含層	4J-2G4	V b	深鉢	IV群2類	口~体							I b1	褐灰(10YR4/1)			口:結節回転文 体:斜縄文LR(縦位)			
228	226	520	包含層	4J-2G25	V b	深鉢	IV群4類	口~体							I b1	灰黄褐(10YR4/2)			網目状燃系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)			
228	226	521	包含層	4J-3E25	V c	深鉢類	—	底			(9.0)			18	I b1	浅黄橙(10YR8/3)						
228	226	522	包含層	4J-3F4	V b	深鉢類	I群・II群	口							I a2	にぶい黄橙(10YR7/3)			口:突起			
228	226	523	包含層	4J-3F11	V c	深鉢類	—	口							II a	灰黄褐(10YR6/2)			口:波状口縁 無文			
228	226	524	包含層	4J-3F11	V c	深鉢	IV群3類	口~体					1		I a1	にぶい黄橙(10YR7/4)			口:網目状燃系文R(単軸絡条体第6類) 体:網目状燃系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)			
228	226	525	包含層	4J-3F23	V b	深鉢	IV群4類	口~体							I a1	灰黄褐(10YR6/2)		炭化物	口~体:斜縄文RL			
228	226	526	包含層	4J-3F10	V b	深鉢	IV群4類	口					1		I b1	にぶい黄褐(10YR5/3)			口:斜縄文LR			
228	226	527	包含層	4J-3F19	V b	深鉢類	—	体~底	(7.0)				6		I a2	浅黄橙(10YR8/3)						
228	226	528	包含層	4J-3G12	V b	壺	—	頸							I a2	褐灰(10YR5/1)				器面風化		
228	226	529	包含層	4J-3G11・13	V b	壺 a	IV群4類	頸~肩							I a2	褐灰(10YR5/1)			頸:有段 体:斜縄文RL			
228	226	530	包含層	4J-3G12	V b	深鉢	IV群2類	口					1		I a1	明黄褐(10YR6/6)			口:結節回転文			
228	226	531	包含層	4J-3G7	V b	深鉢	IV群3類	口~体							I a2	にぶい褐色(7.5YR5/4)			口:網目状燃系文R(単軸絡条体第6類) 体:網目状燃系文R(単軸絡条体第6類)(縦位)			
228	226	532	包含層	4J-3G6	V b	深鉢	IV群4類	口							I a2	にぶい褐(10YR6/3)			口:斜縄文LR(縦位)			
228	226	533	包含層	4J-3G6	V b	深鉢類	—	底			(5.6)			4	I a2	灰黄褐(10YR6/2)						
228	226	534	包含層	4J-3G3	V b	深鉢類	—	底			(7.7)			12	I b2	浅黄橙(10YR8/3)			斜縄文LR			

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置		所属 段階	器 種	分 類	遺存 部位	法 量(cm)				遺存率(/36)			胎土	海綿 骨針	色 調	付着物		文様・施文	備 考
			遺 構	グリッド					口径	胴部最大径	底径	器高	口縁部	底部	全体				外面	内面		
228	226	535	包含層	4J-3G12	V b	深鉢類	—	底			(9.0)			6		I a1	にぶい橙(7.5YR6/4)					
228	226	536	包含層	4J-3G12	V b	深鉢類	—	底								I a2	灰黄褐(10YR4/2)				器面風化	
228	226	537	包含層	4J-4F4	V b	深鉢類	I 群 4a 類	口~体								I a2	浅黄橙(10YR8/3)			口:平行沈線文 体:直線状雲形文?	大洞C2式Ⅱ期古	
229	226	538	倒木痕(3J-7E15)		—	深鉢	IV群 3 類	口~体	(31.2)					9		I b1	にぶい黄橙(10YR7/3)			口:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類) 体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類)(縦位)		
229	226	539	倒木痕(3J-7E15)		—	壺	Ⅲ群 3 類	口~底	5.7	12.8	5.0	11.5	33	36	35	I b1	○ にぶい黄橙(10YR7/3)			無文 ナデ ケズリ		
229	226	540	倒木痕(3J-7E15)		—	深鉢類	—	底			4.6					Ⅲ a	浅黄橙(10YR8/3)					
229	226	541	上層SD153		—	深鉢類	I 群	口								I a1	灰白(2.5Y8/2)			突起		
229	226	542	上層SE485		—	深鉢	IV群 2 類	口~体	(20.4)					9		Ⅲ b	にぶい黄褐(10YR5/2)	炭化物		口:結節回転文 体:斜縄文LR(縦位)		
229	226	543	上層SD157		—	深鉢	—	口								I b1	○ 灰白(10YR8/1)			不明	器面風化	
229	226	544	上層SD158		—	深鉢	IV群 4 類	口~体								I a1	黒褐(10YR3/1)			斜縄文	器面風化	
229	226	545	上層Pit1379		—	深鉢類	—	体~底			(8.0)			9		I b1	○ にぶい橙(7.5YR7/4)	炭化物		結節回転文	器面風化	
229	226	546	河138 (近現代自然流路)		—	鉢	I 群 4a 類	体								I a2	○ 褐灰(10YR4/1)	炭化物	炭化物	体:直線状雲形文(Z字文)	大洞C2式Ⅱ期古	
229	226	547	河138 (近現代自然流路)		—	深鉢類	Ⅱ群 3 類	口								I a1	にぶい黄橙(10YR7/3)			口:平行沈線文帯		
229	226	548	河138 (近現代自然流路)		—	深鉢	IV群 1a 類	口								I b1	灰黄褐(10YR6/2)			口:無文帯+結節回転文		
229	226	549	河138 (近現代自然流路)		—	深鉢	IV群 2 類	口~体								I a1	○ 灰黄褐(10YR6/2)		炭化物	口:結節回転文 体:斜縄文LR	器面風化	
229	226	550	河138 (近現代自然流路)		—	深鉢	IV群 3 類	口~体								I a2	灰黄褐(10YR6/2)			口:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類) 体: 網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類)(縦位)	器面風化	
229	226	551	河138 (近現代自然流路)		—	深鉢	IV群 3 類	口~体								I a2	にぶい黄橙(10YR6/3)			口:網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類) 体: 網目状擦系文R(単軸絡糸体第5類)(縦位)		
229	226	552	河138 (近現代自然流路)		—	深鉢	IV群	口								I a2	灰黄褐(10YR5/2)			不明	器面風化	
229	226	553	河138 (近現代自然流路)		—	深鉢	IV群	口								I a2	灰黄褐(10YR5/2)			斜縄文	器面風化	
229	226	554	河138 (近現代自然流路)		—	深鉢	IV群	口								I b1				斜縄文	器面風化	
229	226	555	河138 (近現代自然流路)		—	深鉢類	—	底			(3.5)			12		Ⅲ a	灰黄褐(10YR4/2)	炭化物		体:斜縄文RL		
229	226	556	攪乱		—	台付鉢	Ⅱ群 3 類	口~体	(9.8)	(11.0)		(5.9)	6	5		I b1	○ 黒褐(2.5Y3/1)		炭化物	口:刻目文 平行沈線文 突起 体:斜縄文LR		
229	226	557	攪乱		—	深鉢類	Ⅱ群 2 類	口~体								I a2	褐灰(10YR4/1)			口:溝底の刺痕 平行沈線文 体:斜縄文		
229	226	558	暗渠(3J-8G18)		—	深鉢	IV群 2 類	口~体								I b1	灰黄褐(10YR4/2)	炭化物		口:結節回転文 体:網目状擦系文R(単軸絡糸体第6類)(縦位)		
229	226	559	攪乱		—	深鉢	IV群 4 類	口~体								I b1	灰白(10YR8/1)			口~体:斜縄文RL		
229	226	560	攪乱		—	深鉢	IV群 4 類	口~体								I a2	灰黄褐(10YR6/2)			口~体:斜縄文LR		

別表4 下層出土(縄文時代)石器

別表4 下層出土(縄文時代)石器観察表

凡例

法量の()内数値は欠損資料の残存値である。

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置		所属 段階	器 種	分類	状 態	石 材	法 量(cm.g)				備 考
			遺 構	グリッド						長さ	幅	厚さ	重量	
230	227	1	SI164(SK16)	3J-6I14	Vc	磨石類	D2		流紋岩	12.4	9.4	6.5	1083.8	
230	227	2	SI164(SK16)	3J-6I14	Vc	磨石類	D2		花崗岩	(9.5)	8.9	6.9	689.2	
230	227	3	SI164(SK16)	3J-6I14	Vc	磨石類	—	風化	花崗岩	9.4	8.5	7.5	740.6	
230	227	4	SI556	3J-8E9	Vc	石鏃	C1	中茎欠	玉髓	2.0	1.3	0.5	0.7	
230	227	5	SI556	3J-8E14	Vc	石鏃	C1	先端・中茎欠	玉髓質珪質頁岩	2.4	1.1	0.5	1.2	アスファルト付着
230	227	6	SI152	3J-8I6	Vb	磨石類	D2		安山岩	9.1	8.5	6.0	704.3	
230	227	7	SI152	3J-8I6	Vb	敲石	A1		変質チャート	2.5	1.8	1.6	8.6	
230	227	8	SI152	3J-8I8	Vb	石皿・台石類	A3a	分割片	石英安山岩(デイスайト)	11.9	13.4	4.4	960.3	
230	227	9	SI700	3J-9E6	Vb	不定形石器	B1		玉髓	1.4	1.3	0.3	0.5	
230	227	10	SI700(SK666)	3J-9E7	Vb	磨石類	G2		砂岩	11.6	6.7	2.7	286.5	
231	227	11	SI700(Pit664)	3J-9E17	Vb	石皿・台石類	—	分割片	石英安山岩(デイスайト)	10.1	6.3	3.8	168.4	
231	227	12	SI700	3J-9E11	Vb	敲石	B	分割片	石英安山岩(デイスайト)	8.6	10.2	3.1	327.2	
231	227	13	SI579	3J-10D13	Vb	石鏃	C1		珪質頁岩	2.1	1.4	0.4	0.9	アスファルト付着
231	227	14	SI579	3J-10D22	Vb	不定形石器	E2		玉髓	2.8	1.8	1.1	5.3	
231	227	15	SI580	3J-10D11	Vb	石鏃	C1		玉髓	2.6	1.1	0.4	0.8	
231	227	16	SI580	3J-10D11	Vb	石鏃	C1	先端欠	玉髓	1.8	1.1	0.3	0.5	
231	227	17	SI580	3J-10D16	Vb	砥石	A		砂岩	8.0	6.3	3.4	221.6	
231	227	18	SI580	3J-10D12	Vb	磨石類	D5	一部欠	流紋岩	8.9	8.0	5.8	196.6	
231	227	19	SI580	3J-10D16	Vb	砥石	A		砂岩	8.3	8.2	2.5	196.6	
321	227	20	SI580	3J-10D6	Vb	加工痕のある礫石器		分割片	安山岩	5.2	7.0	3.2	142.6	
231	228	21	SI670	3J-10E8	Vb	軽石			軽石	7.9	6.4	3.0	60.8	
231	228	22	SI670(SK695)	3J-10E14	Vb	石皿・台石類	A3b	分割片	安山岩	8.9	14.2	5.9	808.5	
232	228	23	SI837	4J-1D14	Vc	石鏃	C3	左側縁欠	珪質凝灰質頁岩	2.5	1.0	0.6	0.9	
232	228	24	SI837	4J-1D13	Vc	不定形石器	E1		珪質頁岩	4.5	5.8	1.0	31.0	
232	228	25	SI837	4J-1D13	Vc	両縁剥離痕のある石器	A		玉髓	2.0	2.6	0.8	3.5	
232	228	26	SI837	4J-1D7	Vc	不定形石器	B1		玉髓	2.1	2.9	1.0	5.2	
232	228	27	SI837(Pit905)	4J-1D13	Vc	磨石類	D2		安山岩	9.8	9.4	5.9	713.2	アスファルト付着
232	228	28	SI837	4J-1D10	Vc	砥石	B		砂岩(アルコース質アレナイト)	8.9	7.2	5.5	450.8	
232	228	29	SI837	4J-1D15	Vc	敲石	B	分割片	変質チャート	9.2	5.5	4.9	303.2	
232	228	30	SI837(Pit792)	4J-1D9	Vc	石皿・台石類	A3b		閃緑岩	14.5	14.1	5.2	1728.2	
232	228	31	SI837(Pit905)	4J-1D13	Vc	石皿・台石類	A3a		安山岩	15.0	14.9	3.0	1070.9	
233	228	32	SI790	4J-1F21+2F2	Vb	敲石	A2		砂岩(アルコース質アレナイト)	8.6	7.9	7.1	220.4	
233	229	33	SI501(SK616)	4J-1E2	Vb	磨石類	D2		流紋岩	13.1	12.1	5.0	1079.7	
233	229	34	SI501(SK524)	3J-10E22	Vb	磨石類	D2		石英安山岩(デイスайト)	10.0	9.7	6.8	934.7	アスファルト付着
233	229	35	SI501(SX619)	4J-1E3	Vb	不定形石器	E1		凝灰岩				8.9	
233	229	36	SI710	4J-2F17	Vb	石鏃	C2	先端欠	玉髓質珪質頁岩	2.5	1.3	0.4	1.3	アスファルト付着
234	229	37	SI710(SK698)	4J-2F12	Vb	磨石類	D2		花崗岩	12.7	7.9	7.5	1163.5	
234	229	38	SI710	4J-2F12	Vb	磨石類	D2		安山岩	8.0	6.6	4.1	290.6	
234	229	39	SI710(SK698)	4J-2F12	Vb	磨石類	—	風化	凝灰岩	11.6	7.2	5.0	534.7	
234	229	40	SI710(SK697)	4J-2F12	Vb	磨石類	F1		砂岩(アルコース質アレナイト)	12.8	7.5	5.8	860.0	
235	229	41	SI710(SK698)	4J-2F12	Vb	磨石類	D5		花崗岩	11.6	10.0	6.2	1101.2	
235	229	42	SI710	4J-2F18	Vb	敲石	A2		砂岩(アルコース質アレナイト)	7.7	7.3	6.1	488.4	
235	229	43	SI710(SK697)	4J-2F12	Vb	磨石類	D2		花崗岩	11.3	9.2	6.5	1082.0	アスファルト付着
235	230	44	SI710(SK698)	4J-2F12	Vb	石皿・台石類	A3b		安山岩	14.7	13.9	5.2	1703.8	
236	230	45	SI710(SK698)	4J-2F12	Vb	石皿・台石類	B2		流紋岩	18.6	6.7	6.0	3188.5	
236	230	46	SI710	4J-2F13	Vb	石皿・台石類	B3	風化	花崗岩	23.4	15.6	10.1	5140.0	
236	230	47	SI951	4J-4F13	Vb	不明	—		玉髓	3.4	1.5	0.6	3.3	
236	230	48	SI951	4J-4F14	Vb	磨石類	B		アブライト	11.0	8.8	5.7	697.4	
236	230	49	SI951	4J-4F9	Vb	磨石類	—	風化	花崗岩	12.0	8.9	6.9	1047.3	
237	231	50	SK27	3J-4J20	Vc	石皿・台石類	B3		流紋岩	32.7	29.1	12.9	11410.0	
238	231	51	SK38	3J-1I24	Vc	石皿・台石類	A3b	分割片	安山岩	18.5	10.5	6.5	1791.6	
238	232	52	SK28	3J-4J15	Vc	石皿・台石類	B3		流紋岩	22.4	18.7	13.4	5690.0	
238	232	53	SK58	3J-6F21	Vb	不定形石器	B2		玉髓質珪質頁岩	2.0	1.6	0.9	2.9	
238	232	54	SK206	3J-6I24	Vc	磨石類	D2		安山岩	10.0	8.7	7.3	326.0	
239	232	55	SK206	3J-6I24	Vc	磨石類	F1		砂岩(アルコース質アレナイト)	9.1	6.7	5.3	366.0	
239	232	56	SK206	3J-6I24	Vc	磨石類	D3		流紋岩	10.0	8.2	7.8	710.0	
239	232	57	SK206	3J-6I24	Vc	磨石類	—	風化	花崗岩	10.2	7.5	6.9	850.0	
239	232	58	SK206	3J-6I24	Vc	磨石類	C1		花崗岩	9.6	6.3	4.8	368.2	
239	232	59	SK206	3J-6I24	Vc	磨石類	D1		流紋岩	11.8	9.5	8.0	953.7	
239	232	60	SK206	3J-6I24	Vc	石皿・台石類	A3b		閃緑岩	18.2	14.9	4.7	2104.5	
240	232	61	SK126	3J-6J22	Vc	敲石	A1		変質チャート	8.3	7.9	4.0	381.3	
240	232	62	SK552	3J-7E25	Vc	磨石類	D2		花崗斑岩	9.8	8.1	6.7	789.5	
240	233	63	SK552	3J-7E25	Vc	石皿・台石類	A2b	分割	流紋岩	28.6	23.8	6.3	5200.0	
241	233	64	SK489	3J-7E24	Vc	石皿・台石類	A2b		花崗岩	29.8	25.6	8.1	8600.0	
242	234	65	SK489	3J-7E24	Vc	石皿・台石類	A3b	分割	安山岩	30.0	18.8	8.7	6910.0	
242	234	66	SK208	3J-7F4	Vc	敲石	A1		砂岩(アルコース質アレナイト)	5.0	3.5	2.7	44.4	
242	234	67	SK257	3J-7F8	Vb	石鏃	D		珪質頁岩	2.6	0.9	0.5	1.2	アスファルト付着
242	234	68	SK257	3J-7F7	Vb	磨石類	F2		安山岩	12.9	12.4	2.5	519.5	
242	234	69	SK277	3J-7F19	Vb	磨石類	D2		凝灰岩	11.7	9.5	6.7	844.1	
242	234	70	SK246	3J-7F14	Vb	石鏃未成品	A		珪質頁岩	4.3	2.2	0.7	7.7	
242	234	71	SK246	3J-7F14	Vb	不定形石器	A		緑色凝灰岩?	4.1	3.0	0.9	9.8	
243	234	72	SK278	3J-7F23	Vb	石皿・台石類	—	分割片	石英安山岩(デイスайト)	4.5	7.1	2.6	69.5	
243	234	73	SK216	3J-7G11	Vc	磨石類	D2		花崗岩	8.7	7.3	5.4	507.4	
243	234	74	SK212	3J-7G12	Vc	磨石類	D2		花崗岩	11.9	9.1	6.3	1070.0	

別表3 下層出土(縄文時代)石器

図版 No.	写真図版 No.	報告 No.	出土位置		所属段階	器種	分類	状態	石材	法量(cm.g)				備考
			遺構	グリッド						長さ	幅	厚さ	重量	
243	234	75	SK212	3J-7G12	Vc	磨石類	—	風化	花崗岩	11.1	7.7	5.9	713.2	
243	235	76	SK212	3J-7G12	Vc	石皿・台石類	A2b		閃緑岩	29.4	25.0	7.3	7810.0	
244	235	77	SK248	3J-7G20	Vb	敲石	A1		砂岩(アルコース質アレナイト)	8.0	7.9	6.1	592.3	
244	235	78	SK337	3J-8G20	Vc	石錐	B1		玉髄	2.4	1.2	0.8	2.7	
244	235	79	SK196+	3J-7I6+8I24	Vc	石皿・台石類	B2	分割	流紋岩質凝灰岩	15.3	18.1	5.4	1307.7	
244	235	80	SK367	3J-8G1	Vb	敲石	A1		安山岩	10.6	7.0	7.0	743.3	
244	235	81	SK463	3J-8G20	Vc	磨石類	D2		花崗岩	11.2	9.1	6.9	1022.8	
244	235	82	SK440	3J-8G23	Vc	磨石類	C2		流紋岩	10.2	8.5	5.4	615.2	
245	236	83	SK440	3J-8G23	Vc	磨石類	D2		花崗岩	11.6	8.8	5.4	820.0	
245	236	84	SK368	3J-8G22	Vb	敲石	A1		変質チャート	10.7	9.3	5.5	739.7	
245	236	85	SK566	3J-8G18	Vc	軽石			軽石	8.0	6.9	3.4	37.1	
245	236	86	SK249	3J-8H15	Vb	磨石類	D2		流紋岩	13.2	9.5	5.7	825.1	
245	236	87	SK249	3J-8H15	Vb	磨石類	D2		花崗斑岩	8.6	7.8	5.6	562.4	
245	236	88	SK249+	3J-8H15+4J-2E14	Vb	石皿・台石類	A2a	分割	安山岩	15.5	12.6	2.5	603.0	
246	236	89	SK249	3J-8H15	Vb	石皿・台石類	A3a	分割	石英安山岩(デイサイト)	16.7	16.2	4.2	1576.7	
246	236	90	SK151	3J-8I18	Vb	敲石	A1		砂岩(アルコース質アレナイト)	3.7	3.4	2.5	36.5	
246	236	91	SK140	3J-8I12	Vb	磨石類	D2		安山岩	10.5	7.9	6.5	817.6	
246	236	92	SK413	3J-8H25	Vc	磨石類	B		凝灰岩	12.3	10.3	7.3	1289.6	
246	236	93	SK649	3J-9F7	Vc	砥石	C		流紋岩	9.1	6.6	5.5	419.7	
246	236	94	SK541	3J-9H3	Vc	磨石類	F1		安山岩	9.3	6.9	6.5	601.6	
246	237	95	SK349	3J-9H17	Vc	磨石類	D2		砂岩(アルコース質アレナイト)	10.6	8.4	4.9	643.8	
246	237	96	SK594	3J-10D25	Vb	磨石状礫	—	風化	石英安山岩(デイサイト)	13.4	9.0	5.6	935.2	
247	237	97	SK495	3J-10E12	Vb	磨石類	C2		安山岩	11.1	8.5	6.8	980.1	
247	237	98	SK495	3J-10E12	Vb	加工痕のある礫石器			流紋岩				2639.2	
247	237	99	SK495	3J-10E12	Vb	石皿・台石類	B1		安山岩	16.3	13.5	8.0	2933.8	
248	237	100	SK517	3J-9F23	Vb	石皿・台石類	B2		砂岩	21.7	16.2	9.2	5000.0	
248	238	101	SK517	3J-9F23	Vb	石皿・台石類	A2b		流紋岩	24.2	19.1	7.1	4400.0	
248	238	102	SK935	4J-2C4	Vc	石皿・台石類	—	分割片	凝灰岩	9.5	6.3	5.4	240.0	
249	238	103	SK835	4J-1D24	Vb	石皿・台石類	A2b	分割	安山岩			8.1	6550.0	
249	238	104	SK459	4J-2G4	Vb	磨石類	D2		流紋岩	12.8	8.6	6.3	946.7	
249	238	105	SK459	4J-2G4	Vb	磨石類	D2		花崗岩	11.6	8.8	5.6	838.0	
249	239	106	SK921	4J-2C5	Vc	敲石	A1		変質チャート	13.7	10.6	7.6	1381.6	
250	239	107a	SK921	4J-2C5	Vc	剥片			ホルンフェルス	3.1	3.1	1.0	9.1	
250	239	107b	SK921	4J-2C5	Vc	石核	A		ホルンフェルス	6.4	10.1	6.0	469.5	
250	239	107c	SK921	4J-2C5	Vc	石核	A		ホルンフェルス	5.5	13.5	6.1	558.0	
250	239	107d	SK727	4J-2D24	Vc	剥片			ホルンフェルス	5.2	5.1	1.3	35.2	
250	239	107e	SK727	4J-2C5	Vc	剥片			ホルンフェルス	5.6	3.7	0.8	17.5	
250	239	107f	SK727	4J-2C5	Vc	剥片			ホルンフェルス	4.6	2.7	1.0	9.4	
251	240	108	SK839	4J-2E9	Vc	石皿・台石類	—	風化	花崗岩	25.1	22.0	8.6	7600.0	
251	240	109	SK839	4J-2E9	Vc	磨石類	D2		安山岩	9.7	9.4	5.6	787.3	
251	240	110	SK839	4J-2E9	Vc	磨石類	D1		花崗岩	11.6	9.6	8.3	1315.5	
251	240	111	SK839	4J-2E9	Vc	磨石類	D1		閃緑岩	10.2	9.5	6.2	910.5	
252	240	112	SK839	4J-2E9	Vc	磨石類	D2		花崗岩	10.3	10.2	5.8	888.0	
252	240	113	SK920	4J-2G14	Vb	磨石類	D5		安山岩	16.0	7.9	5.9	1183.4	
252	240	114	SK1002+	4J-2G21+3J-10D20	Vc	砥石	C		流紋岩質凝灰岩				9.5	
252	241	115	SK1002	4J-2G21	Vc	石皿・台石類	B2	分割	砂岩(アルコース質アレナイト)	28.2	17.0	10.4	6400.0	
253	241	116	SK963	4J-2G24	Vc	石皿・台石類	B2		砂岩(アルコース質アレナイト)	20.4	13.8	8.2	3100.0	
253	241	117	SK714	4J-3E6	Vb	石錐未成品	A		玉髄	4.8	2.8	1.0	15.0	
253	241	118	SK715	4J-3E6	Vc	敲石	A1		変質チャート	5.7	3.6	3.0	93.6	
253	241	119	SK722	4J-3D5	Vc	石剣	A		緑色片岩	5.5	2.4	0.9	16.4	
253	241	120	SK722	4J-3D5	Vc	石剣	A	分割片	結晶片岩(黒色片岩)	2.8	2.1	0.5	5.3	
253	241	121	SK722	4J-3D5	Vc	石錐未成品	B		玉髄	2.0	1.3	0.5	1.4	
253	241	122	SK722	4J-3D5	Vc	敲石	A1		変質チャート				30.3	アスファルト付着
253	241	123	SK718	4J-3D5	Vc	石錐未成品	A		流紋岩	4.8	3.3	1.3	18.1	
253	241	124	SK586	4J-3E7	Vc	磨石類	D2		花崗斑岩	12.4	9.8	5.2	977.0	
253	241	125	SK586	4J-3E7	Vc	磨石類	D5		ドレイイト(粗粒玄武岩)(輝緑色)	10.7	8.2	5.1	699.7	
253	241	126	SK586	4J-3E7	Vc	磨石類	D2		花崗岩	11.5	10.1	8.3	1260.1	
254	242	127	SK586	4J-3E7	Vc	磨石類	D2		アブライト	8.9	8.5	6.4	678.5	
254	242	128	SK915	4J-3F21	Vc	石錐	C1	中茎欠	玉髄	2.0	1.2	0.5	0.8	
254	242	129	SK1005	4J-3G2	Vc	敲石	B	分割片	流紋岩	5.4	7.4	2.4	73.0	
254	242	130	SK985	4J-3G12	Vb	磨石類	—	風化	花崗岩	10.6	8.6	6.7	762.9	
254	242	131	SK965	4J-3F15	Vb	鉄鉱石		被熱	鉄鉱石	2.3	2.5	1.3	16.1	
254	242	132	Pit445	3J-7F25	Vc	石剣	—	破片	砂岩(アルコース質アレナイト)	2.5	1.3	0.3	1.1	
254	242	133	Pit445	3J-7F25	Vc	石剣	—	破片	砂岩(アルコース質アレナイト)	1.7	1.2	0.2	0.6	
254	242	134	Pit488+	3J-8G1+7F23	Vb	石核	D	分割	凝灰岩	10.6	7.9	6.3	552.5	
254	242	135	Pit936	4J-2C4	Vc	石皿・台石類	A3b		花崗斑岩	16.7	14.4	4.4	1733.4	
254	242	136	Pit475	3J-8H20	Vc	不定形石器	B1		玉髄質珪質頁岩	1.5	1.2	0.4	0.7	
255	242	137	SX996	4J-8G6	Vc	石皿・台石類	B2		流紋岩	24.8	22.1	9.7	5600.0	
255	243	138	SX424	3J-7G8	Vc	敲石	A1		変質チャート	10.1	9.5	6.7	703.8	
255	243	139	SX424	3J-7G13	Vc	石皿・台石類	A3b	分割片	花崗斑岩	12.9	7.1	6.2	790.9	
256	243	140	SX799	4J-2D4	Vc	台石状礫			石英安山岩(デイサイト)	21.6	17.6	8.9	3100.0	
256	243	141	SX799	4J-2D4	Vc	磨石類	—	分割片	安山岩	3.7	6.4	3.9	106.6	
256	243	142	SD192	3J-7H18	Vc	石錐	C1		玉髄	1.8	0.8	0.4	0.5	
256	243	143	SD192	3J-7H23	Vc	石錐	D		珪質頁岩	3.5	1.0	0.4	1.1	アスファルト付着
256	243	144	SD192	炭化物集中内	Vc	石錐	C2	先端・中茎欠損	玉髄質珪質頁岩	1.5	1.1	0.4	0.5	
256	243	145	SD192	炭化物集中内	Vc	石錐	C		玉髄質珪質頁岩	1.2	0.7	0.4	0.4	
256	243	146	SD192	炭化物集中内	Vc	石錐	C		玉髄質珪質頁岩	1.7	0.8	0.3	0.4	
256	243	147	SD192	3J-7H19	Vc	石錐	B2		玉髄質珪質頁岩	2.3	0.9	0.4	1.0	

別表4 下層出土(縄文時代)石器

図版No.	写真図版No.	報告No.	出土位置		所属段階	器種	分類	状態	石材	法量(cm.g)				備考
			遺構	グリッド						長さ	幅	厚さ	重量	
256	243	148	SD192	3J-7H23	Vc	石錐	A		碧玉(鉄石英)	3.4	1.7	0.9	2.6	
256	243	149	SD192	3J-7H23	Vc	石核	D		珉質凝灰質頁岩				127.4	
257	243	150	SD192+包含層	3J-7J6+7I12	Vc	剥片	-	分割	凝灰岩	6.3	16.1	8.7	506.4	
257	243	151	SD192	3J-7H15	Vc	磨石類	G1	被熱破砕	流紋岩	6.3	5.1	3.6	67.7	
257	243	152	SD192	3J-7G24	Vc	磨石類	C1		砂岩(アルコース質アレナイト)	10.5	6.2	5.6	501.5	
257	243	153	SD192	3J-7G23	Vc	磨石類	C2		花崗岩	14.2	10.0	5.8	1283.3	
257	243	154	SD192	3J-8G4	Vc	磨石類	D2		花崗岩	9.4	8.2	4.8	543.1	
257	244	155	SD192	3J-7J12	Vc	磨石類	D5		流紋岩	10.6	8.4	8.2	929.9	
258	244	156	SD192	3J-8G7	Vc	磨石類	D2		花崗岩	8.3	7.9	5.7	524.3	
258	244	157	SD192	3J-7I11	Vc	磨石類	D2		閃緑岩	9.2	7.5	5.4	565.8	
258	244	158	SD192	3J-8G3	Vc	磨石類	D2		石英斑岩	10.2	8.6	5.5	617.1	
258	244	159	SD192	3J-7I18	Vc	磨石類	D2	分割	石英安山岩(デイサイト)	5.6	9.3	7.2	461.6	
258	244	160	SD192	3J-7H15	Vc	敲石	A1		変質チャート	7.0	4.7	4.2	196.0	
258	244	161	SD192	3J-7H22	Vc	石皿・台石類	B3	分割	花崗岩	17.6	14.0	10.4	2461.7	
258	244	162	SD192	3J-7H15	Vc	石皿・台石類	-	分割片	礫岩	8.7	7.6	3.9	380.5	
259	244	163	SD192+包含層	3J-6H・6J・7H18・7J・7・8H	Vc	石皿・台石類	A3a	分割	石英安山岩(デイサイト)	27.0	25.3	4.1	2940.6	
259	245	164	SD192	3J-7H22	Vc	石皿・台石類	A2a	分割	花崗斑岩	27.3	19.9	5.2	2196.0	
259	245	165	SD338	3J-7F23	Vc	石剣	B		砂岩(アルコース質アレナイト)	5.7	2.1	1.3	24.4	
260	245	166	SD338	3J-7F18	Vc	磨石類	D2		花崗岩	10.8	9.5	5.7	908.5	
260	245	167	SD846	4J-2D12	Vc	磨石類	D2		安山岩	16.4	7.8	2.3	422.6	
260	245	168	包含層	3J-1I12	Vc	磨石類	F2	被熱	安山岩	12.8	12.6	4.1	997.2	アスファルト付着
260	245	169	包含層	3J-1I18	Vc	アスファルト付着礫	-	被熱	チャート?	3.7	3.0	1.4	20.0	アスファルト付着
260	245	170	包含層	3J-1I24	Vc	磨石類	B		花崗岩	11.3	9.3	5.6	804.9	
260	245	171	包含層	3K-1A4	Vc	磨石類	A		砂岩(アルコース質アレナイト)	10.4	9.8	8.0	1044.5	
261	246	172	包含層	3J-2I23	Vc	石皿・台石類	A3b		花崗岩	25.8	21.3	9.2	7150.0	
261	246	173	包含層	3J-2I3	Vc	磨石類	F2	分割	安山岩	9.4	5.8	6.1	316.4	
261	246	174	包含層	3J-3H4	Vc	磨製石斧	-	基部のみ残存	閃緑岩	4.7	3.7	2.5	63.0	
261	246	175	包含層	3J-3H9	Vc	不定形石器	C		玉髓質珉質頁岩	2.1	1.7	0.4	1.0	
261	246	176	包含層	3J-3I6	Vc	敲石	A1		変質チャート	5.5	3.7	3.3	77.1	
261	246	177	包含層	3J-3I14	Vc	敲石	A2		変質チャート	9.3	9.2	6.9	770.0	
262	247	178	包含層	3J-3I4	Vc	石皿・台石類	B3	分割	流紋岩	26.8	26.8	10.4	6710.0	
262	247	179	包含層	3J-4H24+3H18	Vc	磨製石斧	A	刃部のみ残存	閃緑岩	5.3	4.9	2.2	86.6	
262	247	180	包含層	3J-4H8	Vc	磨石類	C2		安山岩	9.0	8.9	4.5	592.3	
263	247	181	包含層	3J-4H18	Vc	敲石	A1		変質チャート	8.6	7.1	4.7	354.9	
263	247	182	包含層	3J-4I16	Vc	磨製石斧	-	分割片	緑色凝灰岩	4.5	3.2	1.8	26.0	
263	247	183	包含層	3J-4I22	Vc	磨石類	G1		ホルンフェルス	5.3	3.2	1.8	44.3	
263	247	184	包含層	3J-4I20	Vc	敲石	A1		チャート?	5.2	4.7	2.4	79.0	
263	247	185	包含層	3J-4I20	Vc	磨石類	F2		安山岩	10.0	9.5	3.2	371.0	
263	248	186	包含層	3J-4J13+4J-1E13	Vb	磨製石斧	B		ドレライト(粗粒玄武岩)(輝緑色)	10.8	5.2	2.5	172.6	
263	248	187	包含層	3J-4J22	Vc	磨製石斧	A		閃緑岩	14.1	5.4	2.9	292.0	
263	248	188	包含層	3J-4J21	Vc	石皿・台石類	A3b		花崗斑岩	16.5	15.2	4.9	2032.0	
264	248	189	包含層	3J-4J20	Vc	石皿・台石類	A2b		花崗岩	24.6	18.3	6.7	4820.0	
264	248	190	包含層	3J-5I16	Vb	磨石類	D2		花崗岩	9.9	8.8	5.1	702.7	
264	248	191	包含層	3J-5I-J・6H~J・8G-1	Vc	石皿・台石類	A3a	分割	石英安山岩(デイサイト)	16.0	27.1	6.7	1892.2	
265	249	192	包含層	3J-5I5	Vc	磨石類	D2		流紋岩	12.8	9.0	7.5	592.3	
265	249	193	包含層	3J-5I5	Vc	磨石類	-	分割片	花崗斑岩	7.2	5.1	6.7	346.2	
265	249	194	包含層	3J-5J22	Vb	石錐	A	中茎欠	玉髓質珉質頁岩	2.4	1.8	0.4	1.7	
265	249	195	包含層	3J-5J11	Vc	石錐	C3	先端欠	玉髓質珉質頁岩	2.8	1.8	0.4	1.8	
265	249	196	包含層	3J-5J14	Vc	不定形石器	D		変質チャート	2.0	2.0	1.0	4.9	
265	249	197	包含層	3J-5J16	Vc	剥片	-		流紋岩	8.6	6.6	1.5	99.0	
265	249	198	包含層	3J-5J16+5I25	Vc	磨石類	D1	分割	安山岩	11.2	8.4	5.9	535.1	
265	249	199	包含層	3J-5J18	Vc	磨石類	-	風化	安山岩	11.6	7.1	5.0	588.0	
265	249	200	包含層	3J-5J17	Vc	磨石類	-	分割片	花崗岩	7.8	4.9	5.3	232.0	
266	249	201	包含層	3J-5J14	Vc	石皿・台石類	A1	分割	安山岩	22.8	24.7	9.0	5750.0	
266	249	202	包含層	3J-5J23+8H15	Vc	磨石類	-	被熱破砕片	流紋岩	7.5	8.7	6.2	252.5	
266	249	203	包含層	3J-5J19	Vc	敲石	A1		砂岩(アルコース質アレナイト)	5.1	4.0	2.9	78.0	
266	249	204	包含層	3J-6F9	Vb	石錐	B		玉髓	3.0	1.3	0.3	1.5	
266	249	205	包含層	3J-6F23	Vc	石皿・台石類	A3	分割片	安山岩	9.1	6.8	5.7	391.3	
267	250	206	包含層	3J-6G25	Vb	石皿・台石類	A3b		花崗斑岩	17.2	16.0	4.4	1970.0	
267	250	207	包含層	3J-6G3	Vb	石皿・台石類	A3	分割片	石英安山岩(デイサイト)	12.5	8.6	6.0	654.8	
267	250	208	包含層	3J-6H7	Vb	石錐	-	錐部のみ残存	碧玉(鉄石英)	1.8	0.8	0.2	0.6	
267	250	209	包含層	3J-6H11	Vb	敲石	B		砂岩(アルコース質アレナイト)	3.6	2.9	2.9	25.8	
267	250	210	包含層	3J-6H6	Vc	磨石類	A		安山岩	7.8	6.9	4.5	347.8	アスファルト付着
267	250	211	包含層	3J-6H22	Vb	磨石類	D2		流紋岩	13.0	6.7	6.6	807.0	
267	250	212	包含層	3J-6H18	Vb	磨石類	D4		花崗岩	13.0	9.7	7.7	1337.6	
267	250	213	包含層	3J-6H11	Vb	石皿・台石類	A3	分割片	砂岩(アルコース質アレナイト)	11.1	8.6	6.1	532.7	
268	250	214	包含層	3J-6H13	Vb	石皿・台石類	A3	分割片	流紋岩	14.2	6.7	3.5	216.4	
268	250	215	包含層	3J-6I25	Vc	石錐	C3	中茎欠	玉髓質珉質頁岩	1.9	0.9	0.4	0.7	アスファルト付着
268	250	216	包含層	3J-6I1	Vc	石錐	-	つまみ部欠	玉髓質珉質頁岩	1.6	0.7	0.5	0.5	
268	250	217	包含層	3J-6I18	Vc	石錐	-	つまみ部欠	玉髓質珉質頁岩	2.0	0.9	0.3	0.8	
268	250	218	包含層	3J-6I3	Vb	石核	D		碧玉(鉄石英)	3.9	5.2	1.4	22.6	
268	250	219	包含層	3J-6I2	Vc	敲石	A1		流紋岩	9.7	5.6	4.9	277.3	
268	250	220	包含層	3J-6I25	-	磨石類	F2		花崗岩	9.8	7.4	4.7	444.3	
268	250	221	包含層	3J-6I18	Vb	磨石類	F2		安山岩	9.2	8.3	2.9	286.0	
268	250	222	包含層	3J-6I20	Vc	不定形石器	E1	分割	砂岩	5.3	6.5	1.8	58.2	
268	250	223	包含層	3J-6J3	Vc	磨石類	D2		安山岩	9.4	7.9	4.9	559.0	
268	250	224	包含層	3J-6J3	Vc	磨石類	D2	分割	安山岩	7.7	8.6	5.5	541.3	
269	251	225	包含層	3J-6J17	Vc	敲石	A1	敲打による欠損	流紋岩	10.6	8.5	6.4	633.6	

別表4 下層出土(縄文時代)石器

図版No.	写真図版No.	報告No.	出土位置		所属段階	器種	分類	状態	石材	法量(cm.g)				備考
			遺構	グリッド						長さ	幅	厚さ	重量	
269	251	226	包含層	3J-6J23	Vc	敲石	A1		変質チャート	4.7	3.6	2.8	79.0	
269	251	227	開渠	3J-6J3	Vc	石皿・台石類	A3b		石英斑岩	15.5	14.8	5.5	1826.0	
269	251	228	包含層	3J-6J3	Vc	石皿・台石類	A2b		流紋岩	23.2	24.2	5.6	4220.0	アスファルト付着
270	251	229	包含層	3J-7E5	Vc	磨石類	—	風化	砂岩	10.5	9.3	6.6	857.0	
270	251	230	包含層	3J-7E24+7F14+8E15	Vc	磨石類	D2	分割	花崗岩	11.0	8.0	6.5	36.2	
270	251	231	包含層	3J-7E19	Vc	石皿・台石類	A3b	風化	花崗岩	15.9	13.6	4.9	1682.8	
270	251	232	包含層	3J-7F23	Vc	石鏃未成品	B		玉髓	2.2	1.1	0.6	1.4	
270	251	233	包含層	3J-7F4+3J-8F18	Vb	磨石類	D4		ホルンフェルス	13.0	9.0	7.0	929.7	
270	251	234	包含層	3J-7F21	Vc	敲石	A1		砂岩	9.7	8.5	5.6	459.0	
270	252	235	包含層	3J-7F12	Vc	石皿・台石類	—	分割片	凝灰岩	15.3	12.9	6.1	2041.0	
271	252	236	包含層	3J-7G6	Vb	石鏃	C1		珉質珉質頁岩	2.4	1.0	0.4	0.7	アスファルト付着
271	252	237	包含層	3J-7G6	Vb	石鏃	C3	先端・中茎欠	珉質凝灰質頁岩	1.6	1.0	0.5	0.8	
271	252	238	包含層	3J-7G7	Vc	磨製石斧	—	基部のみ残存	ドレライト(粗粒玄武岩)(輝緑色)	5.8	4.2	2.8	117.2	
271	252	239	包含層	3J-7G23	Vb	磨製石斧	—	基部のみ残存	ドレライト(粗粒玄武岩)(輝緑色)	7.9	4.2	2.4	129.8	
271	252	240	包含層	3J-7G2	Vc	小形石皿様石器	—		安山岩	7.1	6.0	2.9	3.3	
271	252	241	包含層	3J-7G19+8H3+8H14	Vc	磨石類	D2	分割片接合	花崗岩	11.7	13.5	4.5	812.5	
271	252	242	包含層	3J-7H10	Vc	石鏃未成品	A		珉質頁岩	4.7	2.5	0.8	12.0	
271	252	243	包含層	3J-7H10	Vc	両縁剥離痕のある石器	B		珉質頁岩	2.5	3.4	1.3	10.0	
271	252	244	包含層	3J-7H11	Vc	磨製石斧	—	刃部のみ残存	透閃石岩	5.0	6.7	2.2	89.1	
271	252	245	包含層	3J-7H9	Vc	磨石類	D2		閃緑岩	10.7	9.0	5.7	865.5	
271	252	246	包含層	3J-7H5	Vc	磨石類	D2		安山岩	8.0	7.0	4.6	363.9	
271	252	247	包含層	3J-7H13	Vc	磨石類	D2		花崗岩	7.9	7.9	4.9	387.1	
272	252	248	包含層	3J-7H10	Vc	磨石類	D2		安山岩	8.7	7.4	5.7	555.9	
272	252	249	包含層	3J-7H18	Vb	磨石類	G2		砂岩	11.2	4.9	3.9	285.4	
272	252	250	包含層	3J-7H7	Vb	敲石	A1		砂岩(アルコース質アレナイト)	10.9	5.9	4.8	214.2	
272	252	251	包含層	3J-7H12	Vb	磨石類	A		流紋岩	12.8	12.1	2.4	422.8	
272	253	252	包含層	3J-7H6	Vb	石皿・台石類	A3b	分割	礫岩	11.7	14.4	2.9	558.8	
272	253	253	包含層	3J-7H8	Vc	石皿・台石類	A3a	分割	安山岩	18.3	11.0	4.3	1034.1	黒色付着物
273	253	254	包含層	3J-7I10	—	石皿・台石類	A3b	分割	花崗岩	18.4	14.0	7.2	2061.0	
273	253	255	包含層	3J-7I5	Vc	敲石	B	分割	凝灰岩	7.0	9.1	4.9	330.9	
273	253	256	包含層	3J-7J11	Vc	石鏃	D		珉質頁岩	5.2	0.8	0.4	1.6	アスファルト付着
273	253	257	包含層	3J-7J2	Vc	磨石類	D2		花崗岩	10.0	8.8	7.2	902.2	
273	253	258	包含層	3J-7J6	Vc	敲石	A1		安山岩	11.0	9.9	8.0	931.4	
273	253	259	包含層	3J-7J11	Vc	敲石	A1		変質チャート	6.1	5.0	4.0	149.1	
273	253	260	包含層	3J-7J17	Vc	磨石類	F2		花崗岩	10.4	8.9	6.8	758.7	
273	253	261	包含層	3J-7J1	Vc	敲石	B		砂岩(アルコース質アレナイト)	9.7	8.7	4.8	487.9	
274	253	262	包含層	3J-7J17	Vb	砥石	C		石英安山岩(デイスайト)	13.4	6.1	5.8	701.4	
274	254	263	包含層	3J-7J17	Vb	石皿・台石類	B3		砂岩(アルコース質アレナイト)	17.6	12.8	6.7	1653.2	
274	254	264	包含層	3J-7J2	Vc	石皿・台石類	A3	風化	花崗岩	19.1	16.9	5.5	2903.0	
274	254	265	包含層	3J-8E8	Vb	石鏃	C1	先端欠	玉髓質珉質頁岩	2.2	1.2	0.4	0.9	
274	254	266	包含層	3J-8E10	Vc	砥石	C		頁岩	7.8	4.8	3.5	204.1	
274	254	267	包含層	3J-8F10	Vb	鉄鋳石	—	被熱	鉄鋳石	3.0	1.7	1.7	17.7	
274	254	268	包含層	3J-8F5	Vc	敲石	A1		凝灰岩	10.2	7.3	4.0	247.3	
274	254	269	包含層	3J-8G6	Vc	石鏃	C3	中茎欠	珉質頁岩	2.0	0.9	0.6	1.0	アスファルト付着
274	254	270	包含層	3J-8G3	—	石鏃	C3	先端欠	珉質頁岩	2.4	1.0	0.3	0.9	アスファルト付着
274	254	271	包含層	3J-8G10	Vb	不定形石器	E1		玉髓質珉質頁岩	4.1	4.0	0.5	8.1	
275	254	272	包含層	3J-8G18	Vc	敲石	A1		変質チャート	12.8	8.2	4.4	630.8	
275	254	273	包含層	3J-8G18	Vc	敲石	A1		変質チャート	9.3	6.1	4.9	418.5	
275	254	274	包含層	3J-8G21+7J4	Vc	磨石類	C3		頁岩	14.1	10.4	7.3	922.8	
275	254	275	包含層	3J-8G15	Vc	不定形石器	E1		流紋岩	6.2	6.7	1.7	68.1	
275	254	276	包含層	3J-8G13	Vc	敲石	A1	分割	花崗岩	6.5	8.6	4.2	221.5	
275	254	277	包含層	3J-8H7	Vc	石鏃	B		玉髓	3.3	1.6	0.4	1.8	アスファルト付着
275	254	278	包含層	3J-8H13	Vc	石鏃	C1		珉質頁岩	1.6	1.1	0.3	0.6	
275	254	279	包含層	3J-8H23	Vc	不定形石器	B1		凝灰質頁岩	3.6	4.2	1.0	12.1	
275	254	280	包含層	3J-8H13	Vb	磨石類	F2		安山岩	8.0	8.0	5.4	430.4	
275	255	281	包含層	3J-8H14	Vb	磨石類	D5		花崗岩	10.3	7.9	4.9	590.6	
275	255	282	包含層	3J-8H23	Vc	敲石	A1		砂岩(アルコース質アレナイト)	10.8	6.7	4.8	479.5	
276	255	283	包含層	3J-8H7	Vc	砥石	C		流紋岩	7.9	3.0	2.2	80.5	
276	255	284	包含層	3J-8H22+23	Vb	磨石類	—	被熱破砕片	安山岩	9.7	4.8	5.7	231.9	
276	255	285	包含層	3J-8H12	Vb	磨石類	—	分割片	花崗岩	4.5	5.2	3.1	62.9	
276	255	286	包含層	3J-8H14	Vc	石皿・台石類	A3a	分割片	安山岩	6.8	10.9	2.7	235.7	
276	255	287	包含層	3J-8I22	Vc	石鏃	C3	中茎欠	玉髓質珉質頁岩	2.4	1.0	0.5	1.2	
276	255	288	包含層	3J-8I9	Vc	不定形石器	E1			5.7	7.2	1.4	46.8	289と接合
276	255	289	包含層	3J-9F5	Vc	不定形石器	E1		珉質頁岩	5.7	7.2	1.4	46.8	288と接合
277	255	290	包含層	3J-8I21+4H16	Vb	石皿・台石類	B3	分割	流紋岩	22.6	17.4	8.8	2836.2	
277	255	291	包含層	3J-8I5	Vc	磨石類	G1		閃緑岩	6.8	4.8	3.3	145.0	
277	255	292	包含層	3J-8I1	Vc	敲石	A1		変質チャート	6.8	4.5	4.2	184.9	
277	255	293	包含層	3J-8J7	Vc	石鏃	C1	先端・中茎欠	碧玉(鉄石英)	1.5	1.0	0.4	0.5	
277	256	294	包含層	3J-9D15	Vb	石皿・台石類	A2b		花崗岩	20.5	18.5	4.4	2529.8	
278	256	295	包含層	3J-9D14	Vb	石皿・台石類	A2b	分割	花崗斑岩	25.9	21.8	8.9	6820.0	
278	256	296	包含層	3J-9G21	Vb	磨石類	F1		流紋岩	11.1	7.4	5.6	594.9	
278	256	297	包含層	3J-9G1	Vb	磨石類	D2		安山岩	12.5	9.0	7.2	1228.9	
278	256	298	包含層	3J-9G8	Vb	敲石	B	分割	安山岩	10.9	9.0	4.9	441.3	
278	256	299	包含層	3J-9H3	Vc	磨石類	F1		砂岩(アルコース質アレナイト)	9.6	5.9	5.6	428.9	
279	257	300	包含層	3J-9H15	Vb	石核	D		珉質頁岩	4.5	5.3	1.5	25.0	
279	257	301	包含層	3J-9I23	Vb	石皿・台石類	A3b		安山岩	23.5	23.5	6.4	4700.0	
279	257	302	包含層	3J-10D23	Vb	石鏃	C1		珉質凝灰質頁岩	2.7	1.4	0.6	1.4	アスファルト付着
279	257	303	包含層	3J-10E5	Vb	磨石類	—	分割片	流紋岩	10.2	5.6	5.6	284.6	

別表4 下層出土(縄文時代)石器

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置		所属 段階	器 種	分類	状 態	石 材	法 量(cm.g)				備 考
			遺 構	グリッド						長さ	幅	厚さ	重量	
279	257	304	包含層	3J-10F6	Vb	石皿・台石類	B3	分割	安山岩	13.4	14.6	5.5	1086.3	
280	257	305	包含層	3J-10G19	Vb	石皿・台石類	A3b		安山岩	17.9	14.8	6.7	2515.7	
280	257	306	包含層	3J-10H25+4J-2H4	Vb	敲石	A1	分割	変質チャート	12.0	8.0	8.0	552.0	
280	257	307	包含層	3J-10H2+10I7	Vb	石皿・台石類	A3a	分割	砂岩(アルコース質アレナイト)	16.8	11.5	3.2	789.7	
281	258	308	包含層	3J-10I7	Vb	磨石類	D2		安山岩?	12.3	9.7	7.4	1129.2	
281	258	309	包含層	4J-1C10	Vb	石核	D		玉髓	3.0	4.4	2.1	25.7	
281	258	310	包含層	4J-1C9	Vb	敲石	B	分割	安山岩	6.3	7.8	4.5	224.2	
281	258	311	包含層	4J-1D24	Vb	石鏃未成品	B		玉髓質珪質頁岩	1.8	1.0	0.3	0.6	
281	258	312	包含層	4J-1D23	Vb	不定形石器	E2		玉髓	2.2	2.5	0.5	2.6	アスファルト付着
281	258	313	包含層	4J-1D23	Vb	磨石類	E		流紋岩	13.5	6.6	5.6	697.5	
281	258	314	包含層	4J-1D18	Vb	敲石	A1		砂岩(アルコース質アレナイト)	10.1	9.0	5.9	724.7	
281	258	315	包含層	4J-1E22	Vb	磨石類	D2		花崗岩	11.5	7.7	7.3	906.5	アスファルト付着
281	258	316	包含層	4J-1E20	-	敲石	A1		砂岩(アルコース質アレナイト)	6.0	5.5	3.0	115.0	アスファルト付着
282	258	317	包含層	4J-1E2	Vb	敲石	A1		流紋岩	6.2	5.3	4.4	182.0	
282	258	318	包含層	4J-1E23	Vb	石皿・台石類	B3	分割	凝灰岩	11.2	12.1	7.0	921.5	
282	258	319	包含層	4J-1F9	-	磨石類	G1		凝灰岩	7.2	3.5	2.6	82.9	アスファルト付着
282	258	320	包含層	4J-1G1	Vb	石核	A		変質チャート	4.2	5.3	1.9	51.5	
282	258	321	包含層	4J-1G15+3J-7I4	Vb	磨石類	-	分割片	閃緑岩	9.5	7.7	4.4	480.8	
282	258	322	包含層	4J-1G25	Vb	磨石類	D2		花崗岩	9.9	8.7	6.0	666.2	
282	258	323	包含層	4J-2D5	Vb	磨石類	C1	分割	石英斑岩	10.7	7.3	6.4	658.0	
282	258	324	包含層	4J-2E15+2G21	Vb	敲石	A1		変質チャート	7.2	4.3	3.9	28.0	
283	259	325	包含層	4J-2E7	Vb	磨石類	D2		流紋岩	12.9	9.8	8.4	1382.6	アスファルト付着
283	259	326	包含層	4J-2E13	Vb	敲石	A1		変質チャート	9.3	7.9	7.2	42.8	
283	259	327	包含層	4J-2E4	Vb	敲石	A1		ホルンフェルス	10.9	9.5	7.2	982.8	
283	259	328	包含層	4J-2E13	Vb	石皿・台石類	B2		流紋岩	17.4	12.6	7.3	2516.9	
283	259	329	包含層	4J-2F23	Vb	石鏃	C1		玉髓質珪質頁岩	2.5	1.1	0.5	1.0	アスファルト付着
283	259	330	包含層	4J-2F25	Vb	敲石	A1		チャート	4.1	3.0	2.0	22.4	アスファルト付着
283	259	331	包含層	4J-2G21	Vb	磨石類	B		流紋岩	7.7	7.4	7.8	527.7	
284	259	332	包含層	4J-2G3	Vb	石皿・台石類	A3b	風化	花崗岩	17.5	16.3	4.2	1796.0	
284	259	333	包含層	4J-3F24	Vc	磨石類	-	分割片	石英斑岩	7.9	8.5	7.0	398.8	
284	259	334	包含層	4J-3F24	Vb	磨石類	-	風化	花崗岩	10.4	8.2	5.4	636.0	
284	259	335	包含層	4J-3F18	Vb	石核	B		頁岩				579.2	
284	259	336	包含層	4J-3G1	Vb	磨石類	F2		頁岩	7.7	6.5	4.6	261.5	
284	259	337	包含層	4J-3G8	Vb	敲石	B	分割	砂岩(アルコース質アレナイト)	4.2	5.5	3.6	57.9	アスファルト付着
284	259	338	包含層	4J-4D18	-	敲石	A1		石英安山岩(デイサイト)	11.1	10.5	6.1	679.7	
285	260	339	包含層	4J-4F12	Vb	石鏃	C1	先端・中茎欠	玉髓	1.7	1.3	0.4	0.6	
285	260	340	包含層	4J-4F4	Vb	砥石	C		凝灰岩	8.0	5.2	2.5	192.3	
285	260	341	包含層	4J-4G6	Vb	敲石	A1		流紋岩	7.6	5.9	3.7	148.3	
285	260	342	包含層	4J-4G6	Vb	磨石類	F2		凝灰質砂岩	7.9	6.1	4.6	267.3	
285	260	343	II~IV層	3J-4I8	-	石鏃	B	先端欠	珪質頁岩	3.1	1.3	0.4	1.1	
285	260	344	河138	3J-7I19	-	石鏃	E	左側縁欠	珪質頁岩	2.1	0.9	0.3	0.5	アスファルト付着
285	260	345	河138	3J-7I25	-	石鏃未成品	B		玉髓質珪質頁岩	2.2	1.4	0.6	9.0	
285	260	346	SD153	3J-6J23	-	石鏃	C		玉髓質珪質頁岩	1.9	1.0	0.5	0.6	
285	260	347	-	-	-	石鏃	B2	錐部欠	玉髓質珪質頁岩	(1.9)	0.6	0.4	0.5	
285	260	348	-	4J-3D	-	石核	C		玉髓質珪質頁岩	3.3	2.7	1.3	15.1	
285	260	349	攪乱	3J-7I15	-	不定形石器	E2		珪質頁岩	4.8	4.7	1.1	36.0	
285	260	350	攪乱	3J-5F24	-	石核	C		流紋岩	3.1	2.3	1.7	9.4	
285	260	351	攪乱	4J-1D	-	不定形石器	E2		玉髓				4.6	
285	260	352	河138	3J-6I22	-	不定形石器	E2		玉髓質珪質頁岩				1.5	
285	260	353	攪乱	3J-5F20	-	敲石	A1		ホルンフェルス	4.9	3.2	1.3	27.0	
285	260	354	攪乱	3J-6F4	-	敲石	B		砂岩(アルコース質アレナイト)	3.4	3.6	2.9	38.3	
285	260	355	攪乱	3J-2H14	-	磨石類	D2		安山岩	10.4	7.5	5.7	638.3	
285	260	356	攪乱	3J-3H2	-	敲石	B	分割片	砂岩(アルコース質アレナイト)	6.5	10.9	4.1	268.4	
286	260	357	攪乱	3J-8D24	-	磨石類	D5		花崗岩	14.6	9.8	7.6	1514.6	
286	260	358	攪乱	3J-8D20	-	磨石類	D2		安山岩	9.1	8.5	5.5	616.8	
286	260	359	攪乱	3J-10D	-	磨石類	-	分割片	安山岩	8.9	5.4	6.2	307.6	
286	260	360	攪乱	3J-10D5	-	磨石類	D2		花崗岩	9.3	8.4	4.7	555.3	
286	260	361	-	3J-10H	-	磨石類	-	分割片	安山岩	7.7	4.7	5.2	188.7	
286	261	362	攪乱	4J-1C3	-	磨石類	D2		花崗岩	12.0	8.9	6.3	1019.2	
286	261	363	攪乱	4J-1F3	-	敲石	B	分割片	砂岩(アルコース質アレナイト)	11.4	5.2	5.1	1919.2	
286	261	364	攪乱	4J-1F3	-	敲石	B		安山岩	12.5	11.0	5.9	1919.2	
287	261	365	攪乱	4J-1F5	-	磨石類	F2		花崗岩	7.0	6.2	5.1	280.6	
287	261	366	攪乱	4J-3F17	-	石皿・台石類	A3a	分割	安山岩	23.1	16.4	5.5	3370.0	
287	261	367	攪乱	4J-3F17	-	石皿・台石類	B3		流紋岩	28.2	15.4	10.0	9100.0	
287	261	368	包含層	3J-7H	Vc	不定形石器	E2		不明	1.6	1.3	0.8	2.3	

別表5 上層出土土器観察表

凡例

- 1 出土位置 遺構名・グリッド名を記した。
- 2 器種 第V章に記した。
- 3 径高指数 器高/口径×100
- 4 底径指数 底径/口径×100
- 5 法量 口径・底径・器高を示す。括弧付きの数値は推定値である。
- 6 胎土 胎土中に含まれる鉱物等について記した。石英:石、長石:長、チャート:チャ、海綿骨針:海、雲母:雲、白色凝灰岩:白凝、角閃石:角、輝石:輝。産地については第V章に記した。
- 7 色調 『新版標準土色帳』[小山・竹原1967]の記号を記した。
- 8 焼成 酸化焙焼成・還元焙焼成の区別を記した。須恵器で酸化としたものは褐色あるいは橙色の色調で軟質なものを表す。白色・灰白色のものは含まない。
- 9 手法 特徴的な手法のみを記し、網羅的な記載は行っていない。底部の切り離し技法のうちで、「糸切り」・「ヘラ切り」等の記載は回転台を用いた手法を示している。回転方向は、回転台の回転方向が判るもののみ記した。
- 10 遺存率 分数表示で遺存割合を示した。

弥生土器

図版No.	写真図版No.	報告No.	出土位置			種別	器種	法量(cm)			器高指数	底径指数	胎土	色調		焼成	手法			遺存率			備考
			遺構	グリッド	層位			口径長軸	底径短軸	器高厚さ				外面	内面		外面	内面	底部	口縁部	底部	全体	
288	263	1	SD153	3J-4I23	1	弥生土器	甕	(10.8)	—	(2.2)	20.4	—	石・チャ	10YR5/3にぶい黄褐	10YR2/1黒	酸化	ナデ	ナデ		3/36	—	1/36	有段口縁甕 北陸系(法仏式並行)
288	263	2	SD153	3J-2I17	4	弥生土器	壺	—	(6.0)	(4.3)	—	—	石・チャ・海	10YR5/2灰黄褐	2.5Y6/2灰黄	酸化	RL縄文(横位)	ナデ		—	9/36	1/36	天王山式系
288	263	3	SD157	4J-3B24	IV b	弥生土器	甕	(22.0)	—	(5.0)	22.7	—	石	10YR3/1黒褐	10YR8/3浅黄橙	酸化	刻み(斜位)、刺突(斜位)、鋸歯状文、交互刺突文、沈線(横位)	刻み(斜位)、沈線(横位)		2/36	—	1/36	天王山式系
288	263	4	包含層	3K-1A19	IV	弥生土器	甕	—	—	(2.1)	—	—	石・チャ・海	10YR3/1黒褐	10YR7/2にぶい黄橙	酸化	斜行刺突文	ナデ		—	—	1/36	北陸系(法仏式並行)
288	263	5	包含層	3K-5A2	IV	弥生土器	甕	(17.4)	—	(15.9)	91.4	—	石・雲・チャ	10YR4/2灰黄褐	10YR3/2黒褐	酸化	斜行刺突文	ナデ		7/36	—	5/36	有段口縁甕 北陸系(法仏式並行) 破片を図上復元
288	263	6	包含層	4J-3B17	IV b	弥生土器	壺	—	5.3	(1.1)	—	—	石・長・雲・チャ	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	酸化	RL縄文(横位)	ナデ		—	—	1/36	天王山式系

古墳時代土器

図版No.	写真図版No.	報告No.	出土位置			種別	器種	法量(cm)			器高指数	底径指数	胎土	色調		焼成	手法			遺存率			備考
			遺構	グリッド	層位			口径長軸	底径短軸	器高厚さ				外面	内面		外面	内面	底部	口縁部	底部	全体	
288	263	7	SD153	3J-4I8	1	土師器	高杯	—	—	(5.0)	—	—	石・チャ・海	10YR6/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	酸化	ナデ	ナデ		—	—	3/36	
288	263	8	SD155	3J-8H5	2	土師器	器台	—	—	(4.4)	—	—	石・海	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	酸化	透かし(円形)、ナデ	ナデ、ハケメ		—	—	6/36	
288	263	9	SD157	3J-7G13	1	土師器	甕	(17.6)	—	(2.9)	16.5	—	石・チャ	10YR7/4にぶい黄橙	10YR8/4浅黄橙	酸化	ナデ	ナデ		5/36	—	1/36	
288	263	10	SE882	3J-10F	一括	土師器	小形壺	—	—	(3.5)	—	—	石・長・海	7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR7/2明褐灰	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		—	—	1/36	
288	263	11	SX275	3J-1I8	1	土師器	高杯	—	—	(5.1)	—	—	石・チャ	10R5/6赤	10YR6/3にぶい黄橙	酸化	ミガキ	ナデ		—	—	9/36	外面赤彩
288	263	12	SX227	3J-6H24	攪乱	土師器	壺	—	—	(4.4)	—	—	石・チャ	2.5YR5/8明赤褐	2.5YR4/8赤褐	酸化	ケズリ	ナデ		—	—	1/36	内外面赤彩
288	263	13	SX949	4J-5A14	IV b	土師器	壺	(8.9)	3.5	26.4	296.6	39.3	石・長・チャ・海	10YR8/3浅黄橙	10YR7/2にぶい黄橙	酸化	ハケメ	ハケメ		1/36	36/36	18/36	スス付着
289	263	14	SX949	4J-5A14-15	IV b	土師器	甕	(24.0)	(8.0)	(44.0)	183.3	33.3	石・チャ・海・白色粒	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	酸化	ハケメ	ハケメ、ナデ	ハケメ	6/36	17/36	7/36	新潟シンボ8期
289	264	15	SX948	4J-5B10	IV b	土師器	甕	(18.2)	(3.5)	(24.2)	133.0	19.2	石・雲・海	2.5Y8/3淡黄	2.5Y8/3淡黄	酸化	ケズリ、ハケメ	ハケメ、ナデ	ナデ	22/36	16/36	31/36	新潟シンボ8期 外面スス、内面炭化物付着
289	264	16	河138	3J-7I4	6	土師器	甕	(12.8)	—	(1.4)	10.9	—	石・チャ	2.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	酸化	不明瞭	不明瞭		2/36	—	1/36	小型甕

古代土器

図版No.	写真図版No.	報告No.	出土位置			種別	器種	分類	法量(cm)			器高指数	底径指数	胎土		色調		焼成	手法			遺存率			備考
			遺構	グリッド	層位				口径長軸	底径短軸	器高厚さ			含有物		外面	内面		外面	内面	底部	口縁部	底部	全体	
														產地	産地										
289	264	17	SB1552P1	3J-7F2	1	須恵器	大甕		—	—	(10.2)	—	—	石・白凝	B	5Y6/1灰	5Y6/1灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
289	264	18	Pit46	3J-6F10	1	須恵器	大甕		—	—	(2.8)	—	—	石・長	B	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
289	264	19	Pit72	3J-6G1	1	須恵器	大甕		—	—	(4.6)	—	—	長・海	B	7.5Y5/1灰	7.5Y5/1灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
289	264	20	Pit72	3J-6G1	1	須恵器	大甕		—	—	(4.6)	—	—	石・白凝	B	N7/灰白	N7/灰白	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
289	264	21	Pit618	3J-8E	一括	須恵器	杯蓋	AⅢ	(12.2)	—	(1.3)	10.7	—	石・長・雲・海	A	7.5Y7/1灰白	7.5Y8/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	1/36	
289	264	22	Pit539	3J-9F	一括	土師器	小甕	Ac	(10.3)	—	(3.9)	37.9	—	石・チャ		5YR7/3にぶい橙	5YR8/3淡橙	酸化	ハケメ	ナデ		1/36	—	1/36	
290	264	23	Pit718	3J-10G	一括	須恵器	有台杯		—	(9.4)	(1.4)	—	—	長・チャ	A	N6/灰	N7/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	へら切	—	6/36	2/36	
290	264	24	Pit1289	3J-10H3	V	須恵器	有台杯		—	(8.0)	(2.1)	—	—	石・白色粒	B	N7/灰白	N7/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	へら切	—	5/36	2/36	転用碗
290	264	25	Pit1211	3J-10H20	一括	土師器	無台碗	A	(9.7)	6.7	4.8	49.5	69.0	石・長・海		10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	酸化	へらナデ	ケズリ、ナデ	へらナデ	24/36	36/36	33/36	
290	264	26	SD153	3J-6J24	Ic~IV	須恵器	無台杯	CⅡ	(11.0)	(6.4)	(3.2)	29.1	58.2	白凝	C	2.5GY5/1オリーブ灰	2.5GY5/1オリーブ灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36	5/36	5/36	
290	264	27	SD153	3J-3I7-12	2b	須恵器	有台杯	BVI	14.8	9.8	4.5	30.4	66.2	石・長	B	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	へら切	13/36	35/36	35/36	底部外面一部転用碗
290	264	28	SD153	3J-5I9	1	須恵器	甕		—	—	(7.8)	—	—	石・チャ	B	10YR6/1褐灰	10Y6/1灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
290	264	29	SD153	3J-4I3	Ⅱ~Ⅳ	土師器	小甕		—	(4.8)	(3.0)	—	—	石・長・白凝		7.5YR6/1にぶい橙	10Y6/1灰	酸化	ナデ	指頭痕		—	6/36	1/36	
290	264	30	SD76	3J-3I11	1	須恵器	杯蓋	BVI	(14.8)	—	(2.0)	13.5	—	石・チャ・白凝	E	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	酸化	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		1/36	—	2/36	
290	264	31	SD232	3J-4H20	1	土師器	長甕	Aa	(17.8)	—	(2.5)	14.0	—	チャ・白凝		2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	酸化	不明瞭	不明瞭		1/36	—	1/36	
290	264	32	SD157	3J-9H25		須恵器	杯蓋	BVI	(15.2)	—	2.6	17.1	—	石・長・白色粒・チャ	D	N6/灰	N7/灰白	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ			14/36	—	18/36	
290	264	33	SD157	3J-10H10	1	須恵器	杯蓋	BVI	(15.4)	—	2.9	18.8	—	石・長・白色粒	D	N6/灰	2.5Y8/2灰白	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		10/36	—	19/36	
290	264	34	SD157	3J-8H22		須恵器	杯蓋	AⅢ	12.0	—	2.4	20	—	石・長・チャ・白色粒	D	N7/灰白	N7/灰白	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		28/36	—	34/36	
290	264	35	SD157	3J-5G21	Ic~IV	須恵器	杯蓋	AⅣ	(13.2)	—	(0.8)	6.7	—	白凝	D	7.5Y5/1灰	7.5Y5/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
290	264	36	SD157	3J-5G16	1	須恵器	杯蓋		—	(0.8)	(0.8)	—	—	石	D	10Y5/1灰	7.5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	—	1/36	
290	265	37	SD157	3J-10H10	1	須恵器	有台杯	BVI	14.7	8.0	4.1	27.9	54.4	石・白色粒・チャ	D	外	N6/灰	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ	へら切	6/36	36/36	21/36	
290	265	38	SD157	3J-10H		須恵器	有台杯	BVI	(12.9)	(8.8)	(4.2)	32.6	68.2	石・チャ	B	N6/灰	N7/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	2/36	2/36	
290	265	39	SD157	3J-10H4	1	須恵器	有台杯		—	(10.0)	(2.0)	—	—	石・白色粒	B	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	へら切	—	5/36	2/36	
290	265	40	SD157	3J-10H		須恵器	有台杯	BⅣ	(12.9)	(8.8)	(4.4)	34.1	68.2	石・白色粒・チャ	B	N6/灰	N7/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		6/36	7/36	6/36	
290	265	41	SD157	3J-10I1	V	須恵器	提瓶		—	—	(20.9)	—	—	長・海	B	N5/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロケズリ	—	3/36	7/36	
290	265	42	SD157	3J-10H3		須恵器	長頸瓶		(10.8)	(9.2)	(26.1)	241.7	85.2	石・チャ	E	10YR7/1灰白	2.5Y8/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	15/36	13/36	自然釉
290	265	43	SD157	3J-9H-1		須恵器	長頸瓶		—	(9.4)	(3.2)	—	—	石・白色粒	B	7N/灰白	6N/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	へら切	—	9/36	1/36	自然釉
290	265	44	SD157	3J-8H11	3	須恵器	長頸瓶		(12.0)	—	(2.4)	20.0	—	石・長・雲	B	N6/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	1/36	
291	265	45	SD157	3J-9H5		須恵器	甕		(42.0)	(丸底)	66.2	157.6	—	長	B	2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		12/36	—	18/36	
291	265	46	SD157	3J-6G17	1	須恵器	甕		—	—	(6.3)	—	—	石・チャ	D	2.5Y2/1黒	7.5Y7/1灰白	還元	ロクロナデ、波状文	ロクロナデ		—	—	1/36	自然釉
291	265	47	SD157	3J-8H22		須恵器	甕	AⅠ	—	—	(6.9)	—	—	石・長	B	2.5GY5/1オリーブ灰	10Y6/2灰オリーブ	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		—	—	1/36	
291	265	48	SD157	3J-7G13	2	土師器	無台碗	A	(11.0)	—	(3.3)	30.0	—	石・長		10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	酸化	ナデ	ナデ		6/36	—	4/36	
291	265	49	SD157	一括		土師器	高杯		—	(14.0)	(2.2)	—	—	石・チャ・海		2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	酸化	ナデ	不明瞭		3/36	—	1/36	
291	265	50	SD157	3J-7G19	2	土師器	高杯		—	(11.9)	(2.1)	—	—	石・長・海		2.5Y7/2灰黄	10YR7/3にぶい黄橙	酸化	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ		2/36	—	1/36	
291	265	51	SD157	3J-7G13	2	土師器	鉢		(22.2)	—	(3.3)	14.9	—	石・チャ		10YR8/4浅黄橙	2.5YR7/4淡赤橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	内面赤彩
291	266	52	SD157	3J-7G8-19、3J-7G13	1	土師器	小甕	Ab	—	8.3	(16.8)	—	—	石・チャ・白凝		10YR7/2にぶい黄橙	10YR7/2にぶい黄橙	酸化	ナデ、ケズリ	ナデ		—	36/36	18/36	
291	266	53	SD157	3J-7G13	1	土師器	小甕		—	(5.0)	(1.9)	—	—	石・チャ		2.5Y8/2灰白	2.5Y7/2灰黄	酸化	ナデ	ナデ		—	12/36	3/36	
291	266	54	SD157	3J-7G8	上層	土師器	小甕		—	(7.0)	(2.9)	—	—	石・チャ		2.5Y8/4淡黄	2.5Y8/4淡黄	酸化	ナデ	ナデ	ナデ	—	5/36	1/36	
291	266	55	SD157	一括		土師器	長甕	Aa	(19.2)	(9.0)	(25.0)	130.2	46.9	長・海		7.5YR7/4にぶい黄橙	7.5YR7/4にぶい黄橙	酸化	ハケメ	ハケメ、ナデ	ケズリ	1/36	30/36	5/36	
291	266	56	SD157	3J-7G13	2	土師器	長甕		—	—	(4.3)	—	—	石・長		2.5Y7/3浅黄	2.5Y7/3浅黄	酸化	へらケズリ	ハケメ、ナデ		—	—	1/36	
291	266	57	SD157	3J-7G3	2	土師器	長甕		—	—	(3.7)	—	—	石・長・海		10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	酸化	ハケメ	ハケメ、ナデ		—	—	1/36	
291	266	58	SD157	3J-7G13	1	土師器	長甕		—	(9.29)	(3.0)	—	—	石・白凝		7.5YR7/3にぶい橙	2.5Y7/3浅黄	酸化	ナデ	ナデ		—	2/36	1/36	
291	266	59	SD157	3J-7G13	1	土師器	長甕		—	—	(4.3)	—	—	石		2.5Y7/1灰黄	2.5Y7/1灰黄	酸化	ハケメ	ナデ		—	—	1/36	
291	266	60	SD157	3J-7G19	2	土師器	長甕		—	—	(4.6)	—	—	石・チャ		2.5Y7/4浅黄	2.5Y3/1黒褐	酸化	ハケメ	ハケメ		—	—	1/36	
292	266	61	SD157,掘削	3J-7G7-19-25		土師器	長甕		—	(7.6)	(12.9)	—	—	石・長・チャ		5YR7/3にぶい橙	5Y4/1灰	酸化	ハケメ	ハケメ		—	—	7/36	スス

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置			種別	器種	分類	法量(cm)			器高 指数	底径 指数	胎土		色調		焼成	手法			遺存率			備考
			遺構	グリッド	層位				口径 長軸	底径 短軸	器高 厚さ			含有物	産地	外面	内面		外面	内面	底部	口縁部	底部	全体	
292	266	62	SD157	3J-7G19	1.2底面	土師器	長襖		—	(8.3)	(4.4)	—	—	石・チャ・白凝		2.5Y4/1黄灰	2.5Y6/1黄灰	酸化	ハケメ、ナデ	ナデ	ヘラナデ	—	7/36	1/36	底部外面スス
292	266	63	SD155	3J-8H20	4	須恵器	杯蓋		—	—	(2.5)	—	—	石・白凝	D	7.5Y8/1灰白	2.5Y6/1黄灰	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		—	—	8/36	
292	266	64	SD155	3J-6H24	2	須恵器	無台杯	B2IV	(12.7)	—	(2.8)	22.0	—	海	B	N5/灰	5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
292	266	65	SD155	3J-9H5		須恵器	無台杯	CIII	(12.0)	—	(3.8)	31.7	—	石・白色粒	D	N5/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	2/36	
292	266	66	SD155	3J-9H・I		須恵器	有台杯	BIV	(13.2)	(9.3)	(4.3)	32.6	70.5	石・白色粒・チャ	B	N7/灰	N7/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	3/36	16/36	9/36	
292	266	67	SD155	3J-9H5	III	須恵器	有台杯		—	(9.0)	(2.9)	—	—	石	C	外	5Y7/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	8/36	4/36	
292	266	68	SD155	3J-9H・I		須恵器	有台杯		—	(8.8)	(1.4)	—	—	石・長・白色粒・チャ	B	2.5Y5/1黄灰	2.5Y6/1黄灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	10/36	5/36	自然釉
292	266	69	SD155	3J-8H15	4	須恵器	有台杯	AIV	(13.0)	—	(5.0)	38.5	—	石・白凝	B	5Y5/1灰	5Y5/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	2/36	
292	266	70	SD155	3J-9H5	3	須恵器	襖		(26.0)	—	(4.2)	16.2	—	石・長・白色粒	D	N7/灰白	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36	—	1/36	
292	266	71	SD155	一括	2	須恵器	襖		—	—	(3.1)	—	—	雲?	B	2.5Y6/2灰黄	2.5Y6/2灰黄	還元	タタキメ、ハケメ	あて具痕		—	—	1/36	内外面アスファルト付着
292	266	72	SD155	3J-9H5	III	須恵器	襖		—	—	(6.1)	—	—	石・チャ・白色粒	B	N4/灰	7.5Y6/1灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	転用砥石
292	266	73	SD155	3J-8H25	4	須恵器	襖		—	—	(10.1)	—	—	石・チャ	E	2.5Y8/1灰白	2.5Y7/1灰白	酸化	ロクロナデ、波状文	ロクロナデ		—	—	1/36	
292	266	74	SD155	3J-8H15	4	土師器	無台椀	B	—	(6.0)	(2.1)	—	—	石・長・チャ	10YR8/3浅黄橙	10YR8/2浅黄橙	酸化	不明瞭	不明瞭		—	9/36	6/36		
292	266	75	SD155	3J-916		土師器	小襖	Ac	(10.6)	—	(3.6)	34.0	—	石・チャ・海	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	酸化	ハケメ	不明瞭		6/36	—	2/36		
292	266	76	SD155	3J-6H24	2	土師器	小襖		—	—	(4.8)	—	—	石・海	2.5YR6/4にぶい橙	2.5Y7/3浅黄	酸化	不明瞭	ハケメ		—	—	1/36		
292	266	77	SD155	3J-8H20	4	土師器	小襖		—	(7.8)	(2.9)	—	—	石・長・チャ・白凝	2.5YR6/6橙	2.5YR6/6橙	酸化	ナデ	ナデ		—	—	9/36	1/36	
292	266	78	SD155	3J-10I21	IV	土師器	小襖		—	(6.8)	(2.2)	—	—	石・チャ・海・焼土粒	5YR8/3淡橙	5YR8/4淡橙	酸化	不明瞭、ナデ?	剥離により不明瞭	ヘラナデ	—	18/36	1/36		
292	267	79	SD155	3J-6H24	2	土師器	長襖		—	—	(7.0)	—	—	石・海	2.5Y6/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	酸化	ハケメ	ハケメ、ヘラナデ		—	—	1/36	スス	
292	267	80	SD155	3J-916	一括	黒色土器	高杯		—	—	(2.7)	—	—	雲・海	2.5Y7/3淡黄	2.5Y2/1黒	酸化	一部ミガキ全体的に不明瞭	ミガキ		—	—	1/36		
292	267	81	SD154	3J-1018	II	須恵器	杯蓋		—	—	(1.3)	—	—	長	B	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	ツマミ 30/36	2/36	
292	267	82	SD154	3J-7I21	I c~IV	須恵器	杯蓋		—	—	(1.7)	—	—	石・チャ	B	5Y6/1灰	5Y6/1灰	還元	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ		—	—	2/36	
292	267	83	SD154	3J-8I16	1	須恵器	有台杯		—	(8.0)	(3.9)	—	—	石・白凝	C	10YR7/1灰白	10YR6/1灰黄褐	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	9/36	7/36	外面自然釉
292	267	84	SD154	3J-8I22	1	須恵器	小瓶		—	—	(1.8)	—	—	海	B	7.5Y6/1灰	N7/灰白	還元	カキメ	カキメ		—	—	1/36	
292	267	85	SD154	3J-7I1	1	須恵器	襖		—	—	(2.2)	—	—	石	C	N6/灰	N6/灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
292	267	86	SD154	3J-9I17	1	須恵器	襖		—	—	(3.7)	—	—	長・雲	C	7.5Y6/灰	N6/灰	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕、ナデ		—	—	1/36	
292	267	87	SD154	3J-8I16	1	須恵器	襖		—	—	(2.8)	—	—	石	C	N4/灰	N6/灰	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		—	—	1/36	
292	267	88	SD154	3J-8I11	1	須恵器	襖		—	—	(4.3)	—	—	石・白凝	C	N6/灰	N6/灰	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		—	—	1/36	
292	267	89	SD154	3J-8I7	1	須恵器	襖		—	—	(4.9)	—	—	石	C	5Y6/1灰	5Y7/1灰白	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
292	267	90	SD156	3J-9H15-20		須恵器	杯蓋	BVII	(16.0)	—	(1.4)	8.8	—	石・長	D	N5/灰	N5/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		7/36	—	2/36	
292	267	91	SD156	3J-9H20	1	須恵器	杯蓋	BVI	(14.6)	—	(1.1)	7.5	—	白凝・石・長・海	B	7.5Y7/7灰白	7.5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	—	4/36	
292	267	92	SD156	4区北一括		須恵器	杯蓋	BVII	(16.0)	—	(1.0)	6.3	—	白凝・石・長・海	B	N51灰	N61灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	3/36	
292	267	93	SD156	3J-8H20	1	須恵器	無台杯	CII	10.6	7.5	3.0	28.3	70.8	石・長	C	2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	4/36	21/36	13/36	
292	267	94	SD156	3J-9H15-20	一括	須恵器	無台杯	CV	(14.0)	—	(3.1)	22.1	—	石・長・雲・海	B	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
292	267	95	SD156	3J-8H20	1	須恵器	無台杯	CIII	(12.0)	—	(1.4)	11.7	—	不明	C	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
293	267	96	SD156	3J8H10、 3J-8H25	4.1	須恵器	無台杯	C	—	7.0	(1.6)	—	—	石・チャ・白凝	B	10YR7/2にぶい黄橙	10YR7/2にぶい黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		—	27/36	12/36	
293	267	97	SD156	3J-9H15-20		須恵器	有台杯		—	(8.6)	(1.7)	—	—	石・白色粒・チャ	D	N5/灰	N6/灰	還元	—	—	ヘラ切	—	16/36	5/36	
293	267	98	SD156	3J-9H15-20		須恵器	有台杯	AIV	(12.7)	(8.6)	(4.5)	35.4	67.7	長・白色粒・チャ	B	7.5Y7/1灰白	2.5Y6/1黄灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	4/36	8/36	5/36	
293	267	99	SD156	3J-8H4	1	土師器	杯蓋	IV	(13.2)	—	(1.2)	9.1	—	石	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36		
293	267	100	SD156	3J-9H15-20		土師器	小襖	Ab	(16.0)	—	(3.1)	19.4	—	石・長	7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR4/2灰褐	酸化	ハケメ	ハケメ		3/36	—	1/36		
293	267	101	SD156	3J-9H15-20		土師器	長襖	Ac	(14.2)	—	(10.7)	75.4	—	石・長・海	5YR7/6橙	5YR5/3にぶい赤褐	酸化	ハケメ	ケズリ		9/36	—	6/36		
293	267	102	SD156	3J-9H15-20		土師器	長襖	Aa	(20.0)	—	(3.8)	19.0	—	石・チャ・海	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙	酸化	ハケメ、ナデ	不明瞭		2/36	—	1/36		
293	267	103	SD156	3J-9H15-20		土師器	長襖		—	(8.0)	(2.2)	—	—	石・チャ	5YR7/3にぶい橙	2.5Y6/6橙	酸化	摩耗により不明瞭	ハケメ	ヘラナデ	—	5/36	1/36		
293	267	104	SD800	3J-9D	一括	須恵器	杯蓋	BIII	(12.0)	—	(1.9)	15.8	—	長・海・雲	B	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
293	267	105	SD800	3J-9D	一括	須恵器	杯蓋	AIII	(12.0)	—	(1.0)	8.3	—	石・長・雲	B	5Y8/1/灰白	5Y8/1/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
293	267	106	SD800	3J-9D	一括	須恵器	杯蓋		—	—	(1.6)	—	—	石・白色粒	B	N8/灰白	N7/灰白	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		—	—	4/36	
293	267	107	SD800	3J-9D	一括	須恵器	壺蓋		(12.9)	—	(4.6)	35.7	—	石・白色粒	E	2.5GY8/1灰白	N8/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	8/36	7/36	5/36	
293	267	108	SD800	3J-9D	一括	須恵器	把手付鉢		—	—	(12.3)	—	—	石・白色粒	B	N6/灰	N5/灰	還元	カキメ、ロクロナデ	ロクロナデ		—	—	2/36	
293	267	109	SD800	3J-9D19		須恵器	円面硯		—	(9.0)	(2.7)	30.0	—	石・長・白色粒	D	5Y7/2灰白	N7/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
293	267	110	SD158	一括		須恵器	杯蓋	AIV	(13.0)	—	(1.1)	8.5	—	石	D	2.5Y8/1灰白	2.5Y7/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	1/36	
293	267	111	SD158	3J-8H6	2	須恵器	杯蓋	BVII	(16.0)	—	(1.4)	8.8	—	石・長	B	10Y6/1灰	10Y5/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
293	267	112	SD158	3J-9E		須恵器	有台杯	BV	(13.7)	(9.0)	4.3	31.4	65.7	長	B	N7/灰白	N7/灰白	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ	ヘラ切	10/36	1/36	21/36	

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置			種別	器種	分類	法量(cm)			器高 指数	底径 指数	胎土		色調		焼成	手法			遺存率			備考
			遺構	グリッド	層位				口径 長軸	底径 短軸	器高 厚さ			含有物	産地	外面	内面		外面	内面	底部	口縁部	底部	全体	
293	267	113	SD158	一括		須恵器	有台杯	A VI	(15.0)	(10.4)	(7.5)	50.0	69.3	石・白色粒	B	2.5Y6/1黄灰	N7/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	9/36	5/36	
293	268	114	SD158	3J-8H9	2	須恵器	長頸瓶		--	--	(3.0)	--	--	石・長	B	7.5Y5/1灰	7.5Y5/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		--	--	1/36	
293	268	115	SD158	3J-8G16	2	須恵器	甕		--	--	(6.4)	--	--	長・雲・海	B	N6/灰	N6/灰	還元	タタキメ	あて具痕		--	--	1/36	
293	268	116	SD158	3J-8G16	2	須恵器	甕		--	--	(6.8)	--	--	長・雲	B	N6/灰	N6/灰	還元	タタキメ	あて具痕		--	--	1/36	
293	268	117	SD158	3J-8H6	2	須恵器	甕		--	--	(2.1)	--	--	石	D	2.5Y7/1灰白	N7/灰白	還元	タタキメ	あて具痕		--	--	1/36	自然釉
293	268	118	SD158	一括		土師器	小甕	Ac	(12.4)	--	(2.2)	13.8	--	チャ・白色粒		7.5YR6/1褐灰	7.5YR6/1褐灰	酸化	ナデ	不明瞭		1/36	--	1/36	
293	268	119	SD158	3J-8F20	3	土師器	小甕		--	(7.2)	(3.3)	--	--	石・長・雲・チャ・海		10YR7/3にぶい黄褐	10YR4/1褐灰	酸化	不明瞭	不明瞭	ハラナデ?	--	9/36	1/36	
293	268	120	SD158	3J-8F20	2	土師器	長甕		--	(8.7)	(1.7)	--	--	石・長・雲		7.5YR8/3浅黄橙	5YR7/6橙	酸化	不明瞭	不明瞭	ハラナデ	--	9/36	1/36	
293	268	121	SD158	3J-9E		土師器	長甕		--	--	(10.7)	--	--	長・雲		10YR5/3にぶい黄褐	10YR7/4にぶい黄褐	酸化	ハケメ	ハケメ		--	--	3/36	
293	268	122	SD480	4J-2C19	IV	須恵器	杯蓋	A IV	(12.8)	--	(1.9)	14.8	--	白色粒	B	7.5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	還元	ロクロズリ後ナデ?	ロクロナデ		18/36	--	14/36	
293	268	123	SD480	4J-3D6	IV	須恵器	杯蓋	A VI	(15.2)	--	(1.7)	11.2	--	長・海	B	N5/灰	2.5Y6/1黄灰	還元	ロクロナデ、ロクロズリ	ロクロナデ		--	--	1/36	
293	268	124	SD480	4J-2C20	IV	須恵器	無台杯	C VI	(14.8)	(8.0)	(4.0)	27.0	54.1	白色粒	E	2.5Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	5/36	5/36	
293	268	125	SD480	4J-3C5	IV	須恵器	有台杯	B V	(14.0)	(10.8)	(4.2)	30.0	77.1	石・チャ	B	N7/灰白	N8/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	6/36	6/36	
294	268	126	SD480	4J-2C25	IV	須恵器	横瓶		(20.0)	--	(20.9)	104.5	--	長・白色粒・チャ・海	B	5B6/1青灰	5B6/1青灰	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		17/36	--	1/36	
294	268	127	SD480	4J-3C5	IV	土師器	長甕	Aa	(15.8)	6.9	20.8	131.6	43.7	石・チャ・海・白色粒		10YR7/3にぶい黄橙	10YR8/3浅黄橙	酸化	ハケメ	不明瞭		3/36	36/36	17/36	外面スス
294	268	128	SD480	4J-2C	一括	土師器	長甕	Aa	(25.6)	--	(3.8)	14.8	--	長・雲・海		10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	酸化	ナデ、ハケメ	ハケメ		3/36	--	1/36	
294	268	129	SD480	4J-2C6	2	土師器	長甕		--	--	(3.7)	--	--	長・雲・海		7.5YR6/3にぶい褐	10YR7/3にぶい黄橙	酸化	ハケメ	ハケメ		--	--	1/36	
294	268	130	SD480	4J-2C1	3	土師器	長甕		--	--	(4.5)	--	--	長・長・雲・海		10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	酸化	ハケメ	ハケメ		--	--	--	
294	268	131	SD480	4J-2C19	IV	土師器	長甕		--	(8.8)	(2.4)	--	--	長・雲・チャ・海		2.5Y7/3浅黄	2.5Y7/3浅黄	酸化	ハラケズリ、ナデ	ナデ?不明瞭	ナデ	--	9/36	1/36	
294	268	132	SD480	4J-3D22	IV	土師器	長甕		--	(8.6)	(3.0)	--	--	石・長・雲		10YR7/4にぶい黄橙	2.5Y6/2灰黄	酸化	不明瞭	ハラナデ	ハラナデ	--	12/36	1/36	
294	268	133	SD480	4J-3C5	IV	土師器	長甕		--	(7.0)	(2.0)	--	--	長・雲・海		10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	酸化	ハラケズリ	ハラケズリ		--	10/36	1/36	球胴甕
294	268	134	SE242	3J-5J13	5	須恵器	甕		--	--	(3.9)	--	--	石・海	B	7.5Y6/1灰	7.5Y5/1灰	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		--	--	1/36	
294	268	135	SE78	3J-6G11	2	須恵器	甕		--	--	(4.9)	--	--	石・海	B	5Y6/1灰	5Y5/1灰	還元	タタキメ	あて具痕		--	--	1/36	外面自然釉塊
294	268	136	SE80	3J-6G17	1	須恵器	杯蓋	A V	(14.0)	--	(1.0)	7.1	--	白癩	B	N5/灰	N5/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	--	1/36	
294	268	137	SE80	3J-6G17	2	須恵器	甕		--	--	(3.8)	--	--	石・長・角・脚・海	B	5Y5/1灰	5Y5/1灰	還元	タタキメ	あて具痕		--	--	1/36	自然釉
294	268	138	SE170	3J-6I7	1	土師器	無台碗	A	(12.2)	--	(2.6)	21.3	--	白癩		10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	酸化	不明瞭	ナデ		2/36	--	1/36	
294	268	139	SE183	3J-7F6	1	土師器	小甕		--	(8.0)	(1.4)	--	--	石・長		10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	酸化	不明瞭	不明瞭		--	7/36	1/36	
294	268	140	SE57	3J-7F4	2	土師器	長甕		--	(9.0)	(2.8)	--	--	石・長・チャ		10R6/4にぶい橙	7.5YR7/2明褐灰	酸化	ケズリ、ナデ	ナデ		--	5/36	3/36	
294	268	141	SE542	3J-7F16-17-21-22		須恵器	有台杯		--	(8.3)	(2.4)	--	--	石・白色粒	B	7.5Y5/1灰	N7/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切	--	2/36	1/36	
295	268	142	SE522	3J-8F13	IV	須恵器	杯蓋	B VII	(16.0)	--	(2.1)	13.1	--	石・長・白色粒	B	N7/灰白	N6/灰	還元	ロクロナデ、ロクロズリ(右回転)	ロクロナデ		7/36	--	11/36	
295	268	143	SE710	3J-9G	一括	須恵器	杯蓋	A V	(14.2)	--	(1.4)	9.9	--	長・雲・海	B	10YR8/3浅黄橙	10YR8/2灰白	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	--	1/36	軟質
295	268	144	SE912	3J-10E	一括	須恵器	杯蓋	B VII	(16.0)	--	(1.8)	11.3	--	長・海	B	N6/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	--	2/36	
295	268	145	SE882	3J-10F	一括	須恵器	甕		--	--	(3.4)	--	--	長・海	B	N8/灰白	N6/灰	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		--	--	1/36	
295	268	146	SE805	4J-3C24	IV	須恵器	杯蓋	A	--	--	(1.0)	--	--	長	D	5Y6/1灰	5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		--	--	2/36	外面自然釉付着
295	269	147	SE1037	4J-1G7	12	土師器	長甕		--	(7.7)	(2.4)	--	--	石・チャ・海		5YR5/1褐灰	2.5Y8/2灰白	酸化	ケズリ	ハラナデ	ハラナデ	--	11/36	1/36	
295	269	148	SK69	3J-5G7	9	須恵器	甕		--	--	(5.5)	--	--	石	C	2.5Y6/1黄灰	2.5Y4/1黄灰	還元	タタキメ	あて具痕		--	--	1/36	
295	269	149	SK83	3J-6G3	1	須恵器	甕		--	--	(5.8)	--	--	石・長	C	7.5YR6/1褐灰	7.5YR5/2灰褐	酸化	タタキメ、カキメ	あて具痕		--	--	1/36	
295	269	150	SK620	3J-8E	一括	須恵器	杯蓋	A VI	(14.7)	--	(2.1)	14.3	--	石・海	B	5B5/1青灰	5B6/1青灰	還元	ロクロナデ、ロクロズリ	ロクロナデ		18/36	--	15/36	
295	269	151	SK766	3J-8E	2	須恵器	甕		--	--	(2.2)	--	--	長・雲	B	N6/灰	N6/灰	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		--	--	1/36	
295	269	152	SK666	3J-8E	一括	須恵器	杯蓋	B V	(14.0)	--	(2.5)	17.9	--	長・白色砂粒・海	B	2.5Y6/1黄灰	2.5Y7/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	--	4/36	
295	269	153	SK666	3J-8E	一括	須恵器	杯蓋		--	--	(1.2)	--	--	長・海	B	7.5Y6/1灰	N5/灰	還元	ロクロナデ、ロクロズリ	ロクロナデ		--	--	12/36	
295	269	154	SK666	3J-8E23-24	一括	須恵器	無台杯	B1 VII	(16.8)	9.0	(4.9)	29.2	53.6	石・白色粒・海	D	5P6/1紫灰	2.5Y6/1黄灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切	12/36	8/36	11/36	
295	269	155	SK666	3J-8E,包含層	不明	須恵器	無台杯	B1 III	(11.5)	(8.1)	(3.2)	27.8	70.4	石・白色粒	D	7.5Y3/1オーブ黒	N7/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ハラ切	14/36	19/36	9/36	外面自然釉付着
295	269	156	SK666	3J-8E	一括	須恵器	高杯		(10.0)	--	(0.9)	9.0	--	長・海・雲	D	N5/灰	N5/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	--	1/36	
295	269	157	SK666	3J-8E	一括	須恵器	高杯	VII	(16.0)	--	(3.5)	21.9	--	石・海・白色粒	D	N7/灰白	7.5Y7/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		6/36	--	9/36	
295	269	158	SK666	3J-8E	一括	土師器	小甕	Ac	(10.2)	(5.9)	(11.0)	107.8	57.8	石・長・海		5YR7/4にぶい橙	10YR8/4浅黄橙	酸化	ハケメ、ケズリ	不明瞭	ケズリ	4/36	9/36	9/36	
295	269	159a	SK666	3J-8E	一括	土師器	長甕	Ab	(17.3)	--	(6.7)	38.7	--	石・海		10YR6/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	酸化	ハケメ、ナデ	ナデ		3/36	--	3/36	
295	269	159b	SK666	3J-8E	一括	土師器	長甕	Ab	--	--	(8.4)	--	--	石・海		10YR6/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	酸化	ハケメ、ナデ	ナデ		--	--	--	
295	269	160	SK666	3J-8E18-23-24	一括	土師器	長甕		--	--	(5.1)	--	--	石・長・雲・チャ		10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	酸化	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ		--	--	1/36	
295	269	161	SK666	3J-8E	一括	土師器	長甕		--	(10.2)	(2.0)	--	--	長・チャ・雲・海		10YR8/4浅黄	5YR7/6橙	酸化	ナデ、摩耗により不明瞭	ハラナデ、摩耗により不明瞭		--	10/36	1/36	ナデ、摩耗により不明瞭

図版No.	写真 No.	報告 No.	出土位置			種別	器種	分類	法 量(cm)			器高 指数	底径 指数	胎 土		色 調		焼成	手 法			遺存率		備 考	
			遺構	グリッド	層位				口径 長軸	底径 短軸	器高 厚さ			含有物	産地	外 面	内 面		外 面	内 面	底部	口縁部	底部		全体
295	269	162	SK916	3J-9E	一括	須恵器	杯蓋	B V	(14.4)	-	(1.8)	12.5	-	石・長・海	E	2.5Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	-	2/36	
295	269	163	SK916	3J-9E	一括	須恵器	杯蓋	A I	(10.0)	-	(1.1)	11.0	-	長・海	B	N6/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	-	1/36	
295	269	164	SK1008	3J-9G	一括	須恵器	甕		-	-	(4.9)	-	-	長・雲	C	N6/灰	N6/灰	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		-	-	1/36	
295	269	165	SK1115	3J-10D	一括	須恵器	杯蓋	B VII	(16.0)	-	(1.6)	10.0	-	石・長・白色粒・海	B	N7/灰白	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	-	4/36	
295	269	166	SK1115	3J-9II		土師器	小甕	Aa	-	(7.0)	(2.3)	-	-	長		10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	酸化	不明瞭	不明瞭		-	6/36	1/36	
295	269	167	SK758	3J-10D2	1	土師器	小甕	Aa	(11.2)	-	(4.4)	39.3	-	長		7.5YR7/4にぶい橙	10YR8/4浅黄橙	酸化	ナデ	ナデ		3/36	-	3/36	
295	269	168	SK758	3J-10D3	1	土師器	小甕	Ac	11.0	5.0	9.9	90.0	45.5	石・長		10YR8/3浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	酸化	磨耗のため不明瞭	ナデ		5/36	33/36	10/36	
295	269	169	SK758	3J-10D3	1	土師器	小甕	Aa	(13.9)	-	(7.7)	55.4	-	長・海		7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	酸化	著しく磨耗のため不明瞭	著しく磨耗のため不明瞭		4/36	-	3/36	
295	269	170	SK804	3J-10H16	一括	土師器	長甕	A	-	-	(3.7)	-	-	石・チャ・海		2.5YR8/2灰白	2.5YR8/2灰白	酸化	不明瞭	ハケメ		-	-	1/36	
296	269	171	SK1248	4J-1H2	一括	須恵器	無台杯	C IV	(13.0)	(8.0)	(3.5)	26.9	61.5	石・雲	B	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	3/36	10/36	6/36	
296	269	172	SK1248	4J-1H2	一括	須恵器	有台杯		-	(9.0)	(2.0)	-	-	石・長	B	7.5Y6/1灰	7.5Y7/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	-	3/36	2/36	
296	269	173	SK1248	4J-1H2	一括	土師器	長甕	Ab	(17.0)	-	(3.2)	18.8	-	石・チャ・白色粒		2.5YR8/2灰白	2.5YR8/2灰白	酸化	ハケメ	ナデ		3/36	-	1/36	
296	269	174a	SK1248	4J-1H2	6	土師器	長甕	Aa	(20.0)	-	(2.7)	13.5	-	石・長・チャ・海		5YR8/3淡橙	10YR8/3淡黄橙	酸化	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	1/36	30/36	1/36	a-口縁 b-底部
296	269	174b	SK1248	4J-1H2	6	土師器	長甕	Aa	-	(7.0)	(1.5)	-	-	石・長・チャ・海		5YR8/3淡橙	10YR8/3淡黄橙	酸化	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	-	-	1/36	a-口縁 b-底部
296	269	175	SK1248	4J-1H2	6	土師器	鍋		-	(12.4)	(3.3)	-	-	石・長・海		7.5YR7/3にぶい橙	10YR7/4にぶい黄橙	酸化	カキメ	不明瞭		-	2/36	1/36	
296	269	176	SK647	3J-10I	一括	須恵器	有台杯		-	(9.2)	(1.2)	-	-	石	B	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		-	5/36	2/36	
296	270	177	SK1028	4J-1G13	2	須恵器	長頸瓶		(15.8)	-	(2.9)	18.4	-	石・白色粒	E	N4/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36	-	1/36	
296	270	178	SK1028	4J-1G13		須恵器	長頸瓶		(14.0)	-	(6.2)	44.3	-	石・長	E	10YR4/1灰	10YR4/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36	-	1/36	
296	270	179a	SK1028	4J-1G13		須恵器	甕		(23.0)	-	(17.3)	75.2	-	長・白色粒	C	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	還元	タタキメ	あて具痕		24/36	-	9/36	
296	270	179b	SK1028	4J-1G13		須恵器	甕		-	-	(23.5)	-	-	長・白色粒	C	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	6/36	
296	270	180	SK1028	4J-1G13		土師器	長甕	Aa	(18.4)	-	(22.9)	124.5	-	石・長・白色粒・チャ		10YR6/3灰黄褐	2.5Y7/2灰黄	酸化	ナデ	ハケメ、ナデ		4/36	-	27/36	
296	270	181	SK1028	4J-1G13	一括	土師器	長甕	Aa	(24.4)	-	(15.1)	61.9	-	長・チャ・海		10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	酸化	口縁ナデ、胴部ハケメ	磨耗により不明瞭		2/36	-	4/36	スス
296	270	182	SK1028	4J-1G13	2	土師器	長甕		-	(10.0)	(2.5)	-	-	石・長・チャ・海		2.5Y7/2灰黄	2.5Y6/1黄灰	酸化	ケズリ、ナデ	ヘラナデ		-	10/36	1/36	糊痕
296	270	183	SK1500	4J-4F11・16	1	須恵器	有台杯	B V	13.3	8.8	4.4	33.1	66.2	石・長・チャ	A	N6/灰	N7/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		25/36	36/36	30/36	
296	270	184	SX275	3J-1I8	1	須恵器	甕		-	-	(3.5)	-	-	石・白凝	B	N5/灰	N5/灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	
296	270	185	SX275	3J-1I8	1	須恵器	甕		-	-	(2.0)	-	-	石・白凝	B	2.5GY6/1オリーフ灰	7.5Y6/1灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	
296	270	186	SX275	3J-1I8	1	須恵器	甕		-	-	(7.0)	-	-	石・白凝	B	N5/灰	N6/灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	
296	270	187	SX227	3J-6H24	6	須恵器	有台杯	B VI	15.0	(9.6)	(4.5)	30.0	64.0	石・白凝	B	N6/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	7/36	14/36	9/36	
297	270	188	SX227	3J-7H3		須恵器	有台杯		-	(10.1)	(1.3)	-	-	石・チャ	B	N7/灰白	N7/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	-	5/36	4/36	
297	270	189	SX227	3J-7H3、 3J-7I10	4Ic~IV	須恵器	長胴壺		-	-	(8.4)	-	-	石・長	E	N4/灰	N5/灰	還元	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ		-	-	1/36	
297	270	190	SX227	3J-7H3	5	須恵器	甕		-	-	(4.0)	-	-	石・白凝	B	2.5Y6/1黄灰	5Y6/1灰	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		-	-	1/36	
297	270	191	SX227	3J-6H25	8	須恵器	甕		-	-	(5.3)	-	-	石・長	B	7.5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	
297	270	192	SX227	3J-6H24	2	土師器	小甕		-	(7.4)	(3.2)	-	-	石・チャ		10YR8/4浅黄橙	7.5YR8/6浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		-	9/36	3/36	
297	270	193	SX227	3J-7H3	2	土師器	長甕		-	-	(3.3)	-	-	石・チャ・海		10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	酸化	ナデ、磨耗により不明瞭	ナデ、ハケメ		-	-	1/36	
297	270	194	SX227	3J-7H9 + 3J-4G15	1.5	土師器	長甕		-	(8.8)	(3.7)	-	-	石・長・チャ・白凝・海		7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	酸化	ナデ	ナデ		-	14/36	1/36	
297	270	195	SX227	3J-7H3	2	土師器	長甕		-	-	(4.4)	-	-	石・チャ・白凝・海		10YR7/3にぶい黄橙	2.5Y7/3浅黄	酸化	ナデ	ハケメ、ナデ		-	-	1/36	輪積痕
297	270	196	SX227	3J-7H3	4	土師器	長甕		-	(9.0)	(2.4)	-	-	石・長		10YR7/3にぶい黄橙	5YR5/6明赤褐	還元	ナデ	ナデ		-	1/36	1/36	
297	270	197	SK1020	3J-8E	一括	須恵器	無台杯	B2 III	(12.0)	-	(2.7)	22.5	-	長・海	B	N5/灰	N5/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	-	1/36	
297	270	198	SX1020	3J-8E	一括	須恵器	有台杯	A IV	(13.0)	-	(3.9)	30.0	-	長・海・雲	B	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	-	1/36	
297	270	199	SX841	3J-9E	一括	須恵器	杯蓋		-	-	(1.9)	-	-	長・海	B	N5/灰	7.5Y6/1灰	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		-	-	6/36	
297	270	200	SX841	3J-9E	一括	須恵器	無台杯		-	(9.0)	(1.7)	-	-	石・海・白色粒	B	5B6/1青灰	N7/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	-	2/36	1/36	
297	271	201	SX841	3J-9E	一括	土師器	無台碗	A	8.4	5.0	6.5	77.4	59.5	石・長・チャ		10YR8/3浅黄橙	7.5YR7/6橙	酸化	ハケメ	不明瞭	ナデ	12/36	36/36	20/36	
297	271	202	SX841	3J-9E	一括	土師器	小甕	Ad	(13.8)	-	(10.8)	78.3	-	石・長・白色粒		7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	酸化	ハケメ、ナデ	口縁部ハケメ、ナデ		19/36	-	17/36	
297	271	203	SX841	3J-9E	一括	土師器	小甕	Aa	(12.8)	-	(4.3)	33.6	-	長・チャ		5YR7/3にぶい橙	2.5YR7/4淡赤橙	酸化	ハケメ、ナデ	不明瞭		2/36	-	1/36	
297	271	204	SX841	3J-9E	一括	土師器	小甕		-	(8.2)	(2.4)	-	-	石・長・海		7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR7/3にぶい橙	酸化	磨耗のため不明瞭	磨耗のため不明瞭	ガキ?	-	11/36	3/36	底部・磨耗のため不明瞭
297	271	205	SX841	3J-9E	一括	土師器	長甕	Aa	(20.0)	-	(8.5)	42.5	-	石・長・海・雲		10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	酸化	ハケメ	ハケメ、ナデ		4/36	-	2/36	
297	271	206	SX841	3J-9E	一括	土師器	長甕	Aa	(24.0)	-	(4.0)	16.7	-	長		7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	-	1/36	
297	271	207	SX841	3J-9E	一括	土師器	長甕	Aa	(21.9)	-	(2.4)	11.0	-	石・チャ・海		10YR6/2灰黄褐	10YR8/2灰白	酸化		不明瞭		2/36	-	1/36	
297	271	208	SX841	3J-9E	一括	土師器	長甕		-	(7.0)	(2.3)	-	-	チャ・海		10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	酸化	磨耗により不明瞭	磨耗により不明瞭		-	13/36	1/36	底部・磨耗により不明瞭
297	271	209	SX841	3J-9E	一括	土師器	長甕		-	8.4	(2.5)	-	-	石・長・チャ		7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR7/3にぶい橙	酸化	ナデ	ナデ	木葉痕	-	36/36	1/36	

図版No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置			種別	器種	分類	法 量(cm)			器高 指数	底径 指数	胎 土		色 調		焼成	手 法			遺存率			備 考
			遺構	グリッド	層位				口径 長軸	底径 短軸	器高 厚さ			含有物	産地	外 面	内 面		外 面	内 面	底部	口縁部	底部	全体	
297	271	210	SX871	3J-9E(3J-9E19他)	V	須恵器	杯蓋	B V	(14.6)	—	3.7	25.3	—	石・長・白色粒・チャ・海	A	N7/灰白	5Y7/1灰白	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		10/36	—	20/36	
297	271	211	SX1088	4J-2E	一括	須恵器	杯蓋	A III	(11.0)	—	(1.0)	9.1	—	石・長・雲	B	2.5Y8/1/灰白	2.5Y8/1/灰白	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
297	271	212	SX1088	4J-2E3	一括	須恵器	無台杯	A II	11.2	7.0	4.4	39.3	62.5	長・白色粒	E	2.5Y8/1灰白	N8/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	27/36	36/36	34/36	底部穿孔
297	271	213	SX1088	4J-2E3	一括	須恵器	高杯		—	—	(2.6)	—	—	石・白色粒・チャ・海	D	N5/灰	N5/灰	還元	ロクロナデ	ナデ		—	—	2/36	
297	271	214	SX1088	4J-3D20	IV最下部	須恵器	甕		(21.5)	—	(2.1)	9.8	—	石・長・雲・海	D	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	還元	ロクロナデ	カキメ		1/36	—	1/36	
297	271	215	SX1088	4J-4F23	IV b	須恵器	甕		—	—	(5.5)	—	—	長・雲・海	D	2.5Y7/2灰黄	10YR7/4にぶい黄橙	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
297	271	216	SX1088	4J-2E3	一括	土師器	長甕	Ab	(14.1)	—	(7.4)	52.5	—	石・チャ・海		10YR6/3にぶい黄橙	10YR5/2灰黄褐	酸化	ケズリ、カキメ	カキメ、ナデ		10/36	—	15/36	
297	271	217	SX1088	4J-2E3	一括	土師器	長甕	Aa	(20.0)	—	(3.8)	19	—	石・長・雲		7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙	酸化	摩擦により不明瞭	摩擦により不明瞭		3/36	—	1/36	
297	271	218	SX1088	4J-2E2	一括	土師器	長甕		—	(9.0)	(4.4)	—	—	石・チャ・海		7.5YR8/3浅黄橙	7.5YR8/3浅黄橙	酸化	ナデ	ナデ		—	16/36	1/36	底部：ナデ、摩擦により不明瞭
297	271	219	SX1088	4J-2E3	一括	土師器	長甕		—	7.0	(5.4)	—	—	石・チャ		10YR7/3にぶい黄橙	10YR8/3浅黄橙	酸化	ヘラナデ	ヘラナデ		—	9/36	1/36	
297	271	220	SX1088	4J-2E2	一括	土師器	甕		—	—	(3.4)	—	—	石・チャ・海		10YR6/2灰黄褐	10YR4/1褐灰	酸化	ハケメ	ハケメ		—	—	1/36	
298	271	221	SX473	4J-3E21		須恵器	杯蓋	A III	12.0	—	2.8	23.3	—	石・長・チャ・海	B	N5/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		17/36	—	32/36	
298	271	222	SX473	4J-3D12	III	須恵器	杯蓋		—	—	(1.9)	—	—	石・長・白色粒	B	10Y6/1灰	10Y7/1灰白	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		—	—	1/36	
298	271	223	SX473	4J-4E3	III	須恵器	杯蓋	A VII	(16.0)	—	(1.4)	8.8	—	長・海	B	N4/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
298	271	224	SX473	4J-3D20	IV最下部	須恵器	無台杯	B1 III	11.5	6.0	3.4	29.6	52.2	白色粒	B	N6/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		17/36	21/36	19/36	底部：ヘラ切、ロクロケズリ
298	271	225	SX473	4J-3D20	III	須恵器	無台杯	B2 III	(12.0)	—	(2.2)	18.3	—	白色粒	B	N6/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	—	3/36	
298	271	226	SX473	4J-3D13	IV	須恵器	有台杯	B IV	(13.0)	—	(2.7)	20.8	—	石・長・海・雲	B	5Y5/1灰	5Y5/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	—	2/36	
298	271	227	SX473	4J-3E16	III	須恵器	壺		—	—	(5.5)	—	—	石・長・チャ・白色粒	D	2.5Y7/2灰黄	2.5Y8/2灰白	酸化	ナデ	あて具痕		—	—	1/36	
298	271	228	SX473	4J-4E3	III・IV	須恵器	甕		—	—	(5.0)	—	—	長	B	7.5Y5/1灰	7.5Y6/1灰	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		—	—	1/36	
298	272	229	SX473	4J-3D25	4	須恵器	甕		—	—	(11.7)	—	—	石・長	B	N6/灰	N6/灰	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		—	—	2/36	
298	272	230	SX473	4J-3E16	IV最下部	土師器	杯蓋	V	(14.0)	—	(1.1)	7.9	—	長・雲・海		2.5Y7/3浅黄	2.5Y7/3浅黄	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
298	272	231	SX473	4J-3D12	IV	土師器	無台碗		—	5.6	(1.1)	—	—	石・チャ		7.5YR7/4にぶい橙	10YR8/4浅黄橙	酸化	摩擦により不明瞭	摩擦により不明瞭	糸切	—	36/36	1/36	
298	272	232	SX473	4J-3D20	III	土師器	高杯		—	—	(3.7)	—	—	石・白色粒		2.5Y7/3浅黄	2.5Y7/3浅黄	酸化	ナデ	ナデ		—	—	2/36	
298	272	233	SX473	4J-3D20	IV	土師器	壺		—	—	(9.9)	—	—	石・長・海		7.5YR7/4にぶい橙	10YR7/3にぶい黄橙	酸化	ハケメ、ナデ	ハケメ、指頭圧痕		—	—	3/36	
298	272	234	SX473	4J-3D	一括	土師器	小甕	Aa	(16.0)	—	(3.6)	22.5	—	長・雲・海		10YR7/6明黄褐	10YR7/6明黄褐	酸化	摩擦により不明瞭	摩擦により不明瞭		3/36	—	1/36	
298	272	235	SX473	4J-3D25	III	土師器	小甕	Bb	(14.0)	—	(3.0)	21.4	—	長・雲・海		10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	1/36	
298	272	236	SX473	4J-3D20	IV最下部	土師器	小甕		—	(5.5)	(2.1)	—	—	石・長・雲・海		10YR6/1褐灰	7.5YR5/1褐灰	酸化	不明瞭	ナデ	ケズリ	—	10/36	1/36	
298	272	237	SX473	4J-3D20	IV最下部	土師器	長甕	Aa	(22.0)	—	(4.6)	20.9	—	石・チャ		10YR8/3浅黄橙	10YR7/2にぶい黄橙	酸化	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ		1/36	—	1/36	
298	272	238	SX473	4J-3D14	4	土師器	長甕		—	—	(3.6)	—	—	長・長・雲・海		10YR6/2灰黄褐	10YR6/2灰黄褐	酸化	ハケメ	ハケメ		—	—	1/36	
298	272	239	SX473	4J-3D20	IV最下部	土師器	甕		(18.6)	—	(9.3)	50.0	—	海・白色粒		10YR7/2にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	酸化	ハケメ	口縁ハケメ・ナデ		7/36	—	2/36	
298	272	240	SX473	4J-3E21	IV最下部	土師器	甕		—	—	(7.2)	—	—	石・白色粒・海		10YR6/2灰黄褐	10YR3/1黒褐	酸化	ハケメ	ハケメ?		—	—	1/36	
298	272	241	SX950	4J-4B17	IV b	土師器	長甕	Aa	(17.5)	—	(2.7)	15.4	—	長・雲・海		10YR5/3にぶい黄褐	10YR4/2灰黄褐	酸化	カキメ	ナデ、ハケメ、ミガキ		3/36	—	1/36	
298	272	242	SX946	4J-4C20	IV b	須恵器	杯蓋	B VII	(16.6)	—	(1.7)	10.2	—	長・雲・チャ・海	E	7.5Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	2/36	
298	272	243	SX946	4J-4D21	IV	須恵器	無台杯	B2 II	11.4	6.4	3.5	30.7	56.1	石・海・白色粒	E	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	24/36	36/36	32/36	
298	272	244	SX946	4J-5D1	IV b	須恵器	無台杯	A III	12.0	6.4	4.3	35.8	53.3	白色粒	E	5Y7/1灰白	5Y5/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	18/36	36/36	33/36	
298	272	245	SX946	4J-4C20	IV b	須恵器	有台杯	B V	(14.0)	—	(2.7)	19.3	—	長・雲	E	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	1/36	
298	272	246	SX946	4J-5C5	IV b	須恵器	高杯		(15.5)	(8.4)	(5.3)	34.2	54.2	石	E	5YR8/2灰白	10YR8/1灰白	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	13/36	17/36	16/36	
298	272	247	SX946	4J-4C25	IV	須恵器	横瓶		—	—	(24.5)	—	—	白色粒	B	N8/灰白	5Y8/1灰白	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		—	—	12/36	外面黒漆
299	272	248	SX946	4J-4C24	IV b	須恵器	横瓶		(18.0)	—	(3.5)	19.4	—	石・長・白色粒・海	B	N5/灰	7.5Y5灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		6/36	—	1/36	
299	273	249	SX946	4J-4C18	IV b	須恵器	平瓶		—	(丸底)	(15.6)	—	—	長・海	D	N5/灰	2.5GY明オリープ灰	還元	ロクロナデ、カキメ、タタキメ	ロクロナデ	ロクロケズリ	—	27/36	27/36	
299	273	250	SX946	4J-4C19	IV b	須恵器	平瓶		—	(丸底)	(11.5)	—	—	石・長・海	B	2.5Y7/1灰白	10YR7/1灰白	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ	ロクロケズリ	—	36/36	12/36	胴部下アスファルト付着
299	273	251	SX946	4J-3C5	IV	須恵器	甕		(27.0)	—	(5.6)	20.7	—	チャ	E	N8/灰白	7.5Y8/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		6/36	—	1/36	
299	273	252	SX946	4J-5C4	IV	須恵器	甕		—	—	(18.3)	—	—	長・海	E	7.5Y5/1灰	10YR4/1褐灰	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		—	—	1/36	
299	273	253	SX946	4J-4C19	IV b	須恵器	甕		—	—	(31.7)	—	—	白色粒	D	N8/灰白	N8/灰白	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	6/36	
299	274	254	SX946	4J-5C5	IV b	須恵器	甕		(24.0)	—	(1.9)	7.9	—	石・チャ・白色粒	E	2.5Y8/1灰白	2.5Y5/3黄褐	還元	ロクロナデ	ハケメ、ナデ		8/36	—	1/36	
300	274	255	SX946	4J-5C5	IV b	土師器	長甕		—	(7.2)	(5.9)	—	—	雲・海		2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	酸化	ケズリ、摩擦により不明瞭	摩擦により不明瞭		—	9/36	1/36	
300	274	256	SX946	4J-4C25	IV	土師器	長甕		—	(11.0)	(2.4)	—	—	長・雲・チャ		7.5YR8/4浅黄橙	2.5Y6/1黄灰	酸化	ナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	—	7/36	1/36	
300	274	257	SX946	4J-4C24	IV	土師器	甕		(22.0)	10.8	35.8	162.7	49.1	石・チャ・海		10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	酸化	ハケメ、ナデ、ミガキ	口縁ミガキ、ハケメ	ナデ	13/36	36/36	24/36	
300	274	258	SX947	4J-5C1	IV	土師器	小甕	Aa	—	—	(6.1)	—	—	石・長・雲・海		10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	酸化	ハケメ、ナデ、工具痕?	ハケメ、ナデ		—	—	4/36	
300	274	259	SX947	4J-4C21</																					

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置			種別	器種	分類	法 量(cm)			器高 指数	底径 指数	胎 土		色 調		焼成	手 法			遺存率			備 考	
			遺構	グリッド	層位				口径 長軸	底径 短軸	器高 厚さ			含有物	産地	外 面	内 面		外 面	内 面	底部	口縁部	底部	全体		
																										外 面
300	274	260	SX945	4J-4E25		須恵器	杯蓋	A V	(14.2)	-	(2.6)	18.3	-	長・海	B	5B5/1青灰	7.5Y5/1灰	還元	ロクロナデ,ロクロケズリ	ロクロナデ			12/36	-	16/36	
300	274	261	SX945	4J-5E5	IV b	須恵器	杯蓋	B V	(14.0)	-	(2.9)	20.7	-	長・チャ	B	7.5Y5/1灰	7.5Y5/1灰	還元	ロクロナデ,ロクロケズリ (右回転)	ロクロナデ			5/36	-	5/36	
300	274	262	SX945	4J-5F5	IV b	須恵器	無台杯	B2 III	12.4	5.9	4.2	33.9	47.6	長・白色粒・チャ	A	5Y5/1灰	5Y4/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	32/36	36/36	35/36		
300	274	263	SX945	4J-4E20	IV	須恵器	無台杯	B2 III	12.2	7.0	4.0	32.8	57.4	輝・海・白色粒/少	B	N6/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ(右)	ロクロナデ	ヘラ切	8/36	36/36	21/36		
300	274	264	SX945	4J-5E5	IV b	須恵器	無台杯	B2 III	12.3	6.7	4.0	32.5	54.5	石・海	A	2.5Y5/1黄灰	2.5Y5/2暗灰黄	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	29/36	36/36	35/36		
300	274	265	SX945	4J-5F1	IV b	須恵器	無台杯	A I	10.3	8.3	3.9	37.9	80.6	石・長	B	5Y4/1灰	5Y4/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	36/36	36/36	36/36		
300	275	266	SX945	4J-5F1	IV b	須恵器	無台杯	A II	11.0	7.5	3.9	35.5	68.2	石・長・海	A	5Y3/1オリーブ黒	5Y4/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	23/36	36/36	34/36		
300	275	267	SX945	4J-4E24	IV b	須恵器	無台杯	B1 III	11.7	7.9	3.9	33.3	67.5	長・海	B	10YR7/3にふい黄橙	10YR5/1褐灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切, ナデ	28/36	36/36	34/36		
300	275	268	SX945	4J-5E5	IV b	須恵器	無台杯	C III	12.0	7.6	3.9	32.5	63.3	チャ	E	7.5Y7/1灰白	7.5Y7/1灰白, 底10YR5/1褐灰	還元	ロクロナデ?	磨耗著しく不明瞭	ヘラ切	11/36	36/36	27/36		
301	275	269	SX945	4J-5F1	IV b	須恵器	無台杯	B1 II	10.6	8.0	3.5	33.0	75.5	石・長	A	N4/暗灰	5Y5/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	34/36	36/36	35/36		
301	275	270	SX945	4J-5F1	IV b	須恵器	無台杯	B2 III	(12.4)	-	(2.8)	22.6	-	長・チャ	D	2.5Y4/1黄灰	2.5Y4/1黄灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	-	3/36		
301	275	271	SX945	4J-5E5	IV b	須恵器	無台杯		(12.0)	-	(2.0)	16.7	-	石・長	D	2.5Y8/2灰白	2.5Y6/1黄灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	-	2/36		
301	275	272	SX945	4J-4E25	IV b	須恵器	無台杯		-	6.0	(1.2)	-	-	白色粒	D	N6/灰	N4/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		-	18/36	9/36		
301	275	273	SX945	4J-4F22	IV	須恵器	有台杯	A IV	12.8	6.7	5.1	39.8	52.3	石・長・チャ	B	2.5Y6/1黄灰	2.5Y7/1灰白	還元	ロクロナデ,ロクロケズリ	ロクロナデ	ヘラ切	6/36	36/36	22/36		
301	275	274	SX945	4J-4F22	IV	須恵器	有台杯	B VI	(15.0)	(8.8)	(4.2)	28.0	58.7	白色粒	B	N6/灰	N7/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	3/36	7/36	9/36		
301	275	275	SX945	4J-5F1	IV b	須恵器	有台杯	B V	(13.8)	-	(3.4)	24.6	-	石・長	D	N5/灰	N5/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		25/36	-	9/36		
301	275	276	SX945	4J-4F21	IV	須恵器	有台杯	B V	(14.0)	-	(2.9)	20.7	-	石・海・角	D	2.5YR7/3淡赤橙	2.5YR6/1赤灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36	-	2/36		
301	275	277	SX945	4J-4E25	IV b	須恵器	有台杯	B V	(14.0)	-	(2.8)	20.0	-	長・雲・海	D	7.5Y7/1灰白	7.5Y7/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	-	1/36		
301	275	278	SX945	4J-4E25	IV b	須恵器	有台杯	A III	(12.0)	-	(2.9)	24.2	-	石・海・雲	D	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		6/36	-	2/36		
301	275	279	SX945	4J-4F22	IV	須恵器	有台杯	A I	(10.0)	-	(4.1)	41.0	-	石・白色粒	D	5Y6/1灰	2.5Y7/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		4/36	-	3/36		
301	275	280	SX945	4J-5F1	IV b	須恵器	有台杯	B III	(12.0)	-	(1.6)	13.3	-	長・海・雲	D	5Y5/1灰	5Y7/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	-	1/36		
301	275	281	SX945	4J-5E5	IV b	須恵器	高杯		(15.0)	-	(3.2)	21.3	-	石・白色粒・チャ	D	2.5Y4/1黄灰	2.5Y3/1黒褐	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		9/36	-	6/36		
301	275	282	SX945	4J-5F1	IV b	須恵器	高杯		-	(9.4)	(6.5)	-	-	石・長・白色粒・海	D	N5/灰	7.5Y4/1灰	還元	ロクロナデ	ナデ		-	9/36	8/36		
301	275	283	SX945	4J-5F1	IV b	須恵器	高杯		-	(10.2)	(5.8)	-	-	石・長・白色粒・チャ	D	10Y4/1灰	10Y5/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		-	8/36	9/36		
301	275	284	SX945	4J-5F1	IV b	須恵器	高杯		-	(4.4)	-	-	-	石・白色粒	D	N5/灰	N7/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		-	-	3/36		
301	275	285	SX945	4J-5E5	IV b	須恵器	高杯		-	(10.6)	(1.3)	-	-	石・長・白色粒・チャ・海	D	2.5Y5/1黄灰	2.5Y4/1黄灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		-	8/36	1/36		
301	275	286	SX945	4J-5E5	IV b	須恵器	高杯		-	(10.3)	(0.8)	-	-	長	D	5Y5/1灰	5Y3/1オリーブ灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		-	5/36	3/36		
301	275	287	SX945	4J-5E5	IV	須恵器	高杯		(9.8)	-	(0.9)	9.2	-	石・長・雲	D	N4/灰	N4/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	-	1/36		
301	275	288	SX945	4J-5E5	IV b	須恵器	鉢		(13.0)	(8.0)	(5.5)	42.3	61.5	石・白色粒	E	5Y5/2灰オリーブ	5Y5/2灰オリーブ	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	12/36	8/36	10/36		
301	275	289	SX945	4J-4F22	III	須恵器	短頸瓶		-	-	(4.6)	-	-	長・雲	B	N4/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		-	-	1/36	外面黒斑	
301	275	290	SX945	4J-5E5	IV b	須恵器	鉢		-	-	(8.3)	-	-	石・海・白色粒	D	N6/灰	N4/灰	還元	タタキメ,カキメ	あて具痕		-	-	1/36		
301	275	291	SX945	4J-4F	一括	須恵器	甕		-	-	(10.2)	-	-	石・長・雲・海	D	2.5Y7/2灰黄	2.5Y5/1黄灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36		
301	275	292	SX945	4J-5E5	IV b	須恵器	無台杯	B III	(11.5)	-	(3.3)	28.7	-	石・長・白色粒・チャ	E	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/3浅黄	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		12/36	-	6/36		
301	275	293	SX945	4J-4E25	IV b	土師器	高杯		(14.0)	-	(3.3)	23.6	-	石・長・海		10YR7/2にふい黄橙	5YR7/3にふい橙	酸化	ミガキ	ミガキ		5/36	-	2/36		
301	275	294	SX945	4J-4F21	IV	土師器	高杯		-	-	(7.7)	-	-	石・白色粒・チャ・海		2.5Y7/1灰白	2.5Y8/2灰白	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		-	-	10/36		
301	275	295	SX945	4J-4E5+25	IV b	土師器	小甕	Ad	(18.0)	-	(5.3)	29.4	-	石・長・チャ・海		10YR5/1褐灰	10YR5/1褐灰	酸化	ケズリ,ハケメ	ナデ		5/36	-	2/36		
301	276	296	SX945	4J-4F18	IV b	土師器	小甕	B	-	5.4	(2.6)	-	-	石・白色粒・チャ		2.5Y4/2明灰黄	2.5Y6/2灰黄	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	-	30/36	1/36		
301	276	297	SX945	4J-4E25	IV	土師器	長甕	Aa	(18.4)	-	(14.1)	76.6	-	石・長・チャ・海・白色粒		7.5YR7/4にふい橙	10YR7/2にふい黄橙	酸化	ハケメ	ナデ		18/36	-	9/36		
301	276	298	SX945	4J-4E20	IV	土師器	長甕		-	9.5	(8.3)	-	-	石・海		10YR3/1褐灰	10YR6/2灰黄褐	酸化	ケズリ,ハケメ	ナデ	ヘラケズリ	-	36/36	3/36		
301	276	299	SX945	4J-5F1	IV b	土師器	長甕		-	(7.3)	(7.3)	-	-	石・長		10YR6/3にふい黄橙	17.5YR2/2黒褐	酸化	ハケメ	ヘラナデ,ミガキ	ハケメ	-	36/36	2/36		
301	276	300	SX945	4J-5F1	IV	土師器	甕		(18.7)	-	(18.9)	101.1	-	石・長・海		10YR6/2灰黄褐	10YR3/2黒褐	酸化	ハケメ	ケズリ		13/36	-	9/36		
302	276	301	SX945	4J-5F1	IV	土師器	甕		(24.0)	(12.1)	(28.5)	118.8	50.4	石・長・白色粒		10YR7/3にふい黄橙	10YR6/3にふい黄橙	酸化	ハケメ	ヘラナデ	砂痕・上付底, ハケメ	1/36	13/36	17/36	砂底土器 口頸部1条横走	
302	276	302	SX945	4J-5F1	IV b	土師器	甕		(20.0)	-	(22.7)	113.5	-	石・長・チャ・海		10YR5/2灰黄褐	10YR4/2灰黄褐	酸化	ハケメ	ナデ,ハケメ		6/36	-	9/36	外面スス	
302	277	303	SX945	4J-4E20	IV	土師器	甕		(21.0)	-	(6.9)	18.6	-	石・海		10YR3/1褐灰	10YR6/2灰黄褐	酸化	ナデ,ハケメ	ナデ		6/36	-	3/36		
302	277	304	SX945	4J-4F21	IV	土師器	甕		-	-	(8.2)	-	-	石・チャ		7.5YR7/4にふい橙	7.5YR3/1黒褐	酸化	ケズリ,ハケメ	ハケメ		-	-	2/36		
302	277	305	SX945	4J-4E25	IV b	土師器	甕		-	(8.0)	(6.8)	-	-	石・白色粒・チャ・海		2.5Y6/2灰黄	2.5Y6/2灰黄	酸化	ケズリ	ナデ,ハケメ		-	-	5/36	1/36	
302	277	306	SX945	4J-4E25	IV b	土師器	甕		-	(7.8)	(1.4)	-	-	石・チャ・海		10YR5/2灰黄褐	10YR2/1黒	酸化	ハケメ	ヘラナデ	ハケメ, ナデ	-	11/36	1/36		
302	277	307	SX945	4J-5F1	IV b	黒色土器	高杯		11.8	8.0	8.9	75.4	67.8	石・長・チャ		10YR1.7/1黒	10YR1.7/1黒	酸化	ハケメ,ミガキ	ミガキ,脚ケズリ,ナデ		18/36	36/36	7/36	身部内面黒色	

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置			種別	器種	分類	法 量(cm)			器高 指数	底径 指数	胎 土		色 調		焼成	手 法			遺存率			備 考
			遺構	グリッド	層位				口径 長軸	底径 短軸	器高 厚さ			含有物	産地	外 面	内 面		外 面	内 面	底部	口縁部	底部	全体	
302	277	308	SX945	4J-5E4	IV b	黑色土器	高杯		10.6	7.3	8.0	75.5	68.9	石・長・海		2.5Y6/3にぶい黄	2.5Y2/1黒	酸化	ハケメ、ミガキ	ミガキ、脚ケズリ、ナデ		23/36	36/36	33/36	身部内面黒色
302	277	309	SX945	4J-5E5	IV b	黑色土器	高杯		(14.0)	—	(3.7)	26.4	—	石・チャ・海		7.5YR1.7/1黒	7.5YR1.7/1黒	酸化	ハケメ、ミガキ	ミガキ		3/36	—	3/36	身部内面黒色
302	277	310	SX948	4J-5B9	IV b	黑色土器	無台碗		(15.8)	—	(3.9)	24.7	—	焼土粒?		10YR7/3にぶい黄	10YR1.7/1黒	酸化	ロクロナデ	黒色処理後ミガキ		3/36	—	2/36	内面黒色
302	277	311	包含層	2J-10I20.25	II~IV	須恵器	杯蓋	BV	(14.0)	—	(1.7)	12.1	—	白凝	B	5Y5/1灰	5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
302	277	312	包含層	2J-10I20.25	II~IV	須恵器	有台杯	B	—	(9.0)	(2.7)	—	—	石・チャ・白凝	B	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		—	8/36	4/36	
302	277	313	包含層	2J-10I20.25	II~IV	須恵器	囊		—	—	(2.5)	—	—	チャ	C	2.5Y6/1黄灰	7.5YR6/2灰褐	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		—	—	1/36	
302	277	314	包含層	2J-10I25	II~IV	須恵器	囊		(22.8)	—	(6.4)	28.1	—	石・長	C	7.5Y5/1灰	7.5Y5/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36	—	1/36	
302	277	315	包含層	3J-2I13	II~IV	土師器	高杯		—	—	(1.6)	—	—	石・白凝		2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		—	—	1/36	
302	277	316	包含層	3K-2A15	II~IV	須恵器	囊		—	—	(5.1)	—	—	白凝	C	7.5Y6/1灰	5Y7/1灰白	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
302	277	317	包含層	3K-3A6	I a	須恵器	杯蓋		—	—	(1.0)	—	—	石・チャ	B	N5/灰	N5/灰	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		—	—	1/36	天井部自然釉
302	277	318	包含層	3J-3H16	II~IV	須恵器	囊		—	—	(8.0)	—	—	石・長	C	2.5Y6/1黄灰	2.5Y6/1黄灰	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		—	—	1/36	
303	277	319	包含層	3J-5H25	I c~IV	須恵器	無台杯	C	—	(9.0)	(1.0)	—	—	白凝	B	10Y6/1灰	10Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	6/36	2/36	
303	277	320	包含層	3J-5I21	I c~IV	須恵器	杯蓋	A II	(11.0)	—	(1.0)	9.1	—	白凝	B	2.5GY5/1オリーブ灰	10Y5/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
303	277	321	包含層	3K-4A10	II~IV	須恵器	有台杯		—	(9.0)	(1.6)	—	—	石・長・チャ・白凝	B	N6/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	6/36	2/36	
303	277	322	包含層	3K-4A17	II~IV	須恵器	長頸瓶		—	—	(1.8)	—	—	長・チャ・白凝	B	7.5Y5/2灰オリーブ	N7/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	—	1/36	外面自然釉、内面黒斑
303	277	323	包含層	3K-4B18	II~IV	須恵器	有台杯	BIV	(13.4)	(7.8)	(3.9)	29.1	58.2	石・チャ・白凝	B	N6/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	7/36	3/36	
303	277	324	包含層	3K-5A3	II~IV	須恵器	囊		(24.1)	—	(5.2)	21.6	—	石・チャ・白凝	B	5Y6/1灰	5Y7/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
303	277	325	包含層	3K-5A1・6	II~IV	土師器	無台碗	VI	14.8	—	(4.9)	33.1	—	石・チャ		5YR8/4淡橙	5YR8/4淡橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		12/36	—	10/36	
303	277	326	包含層	3J-6F5	I a	須恵器	無台杯	C II	(11.4)	—	(2.8)	24.6	—	長・白凝	B	N4/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		3/36	—	2/36	
303	277	327	包含層	3J-6I6	I c~IV	須恵器	囊		—	—	(4.0)	—	—	長・白凝	B	2.5Y7/1灰白	2.5Y6/1黄灰	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		—	—	1/36	
303	277	328	包含層	3K-6A6		須恵器	杯蓋	A IV	(13.4)	—	(1.6)	11.9	—	石・白凝	B	7.5Y6/1灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
303	277	329	包含層	3J-7H20	I c~IV	須恵器	無台杯		—	(9.2)	(1.1)	—	—	石・長	D	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	還元	不明瞭	不明瞭		—	1/36	1/36	
303	277	330	包含層	3K-7A7	I a	須恵器	囊		—	—	(3.7)	—	—	長・白凝	B	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		—	—	1/36	
303	277	331	包含層	3J-8E		土師器	小囊	Ba	(15.6)	—	(8.0)	51.3	—	石・長・雲・海		10YR8/6黄橙	2.5Y8/6黄	酸化	口縁ロクロナデ、胴部ハケメ	摩耗により不明瞭		6/36	—	3/36	
303	277	332	包含層	3J-8J5	I c~IV	須恵器	有台杯	A VII	(19.0)	—	(4.9)	25.8	—	石・白凝	B	N5/灰	N5/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	2/36	
303	277	333	包含層	3J-9D	一括	須恵器	無台杯	C	—	(8.0)	(1.8)	—	—	長	C	7.5Y5/1灰	7.5Y7/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	6/36	3/36	
303	277	334	包含層	3J-9E2	V	須恵器	囊		(21.9)	—	(5.0)	22.8	—	白色粒・チャ	A	N6/灰	N5/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	1/36	
303	277	335	包含層	3J-9H23	IV	土師器	小囊		—	(6.2)	(1.6)	—	—	石・チャ・海		5YR7/3にぶい橙	2.5Y8/3淡黄	酸化	ケズリ	摩耗により不明瞭	ナデ	—	11/36	1/36	
303	277	336	包含層	3J-9I15	V a	須恵器	杯蓋	B VII	(16.5)	—	(1.2)	7.3	—	長	B	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	
303	277	337	包含層	3J-10H		須恵器	無台杯	C IV	13.2	(7.7)	(3.8)	28.8	58.3	長・白色粒	E	7.5Y6/1灰	7.5Y7/1灰白	還元	タタキメ	タタキメ	ヘラ切	10/36	23/36	14/36	
303	278	338	包含層	4J-2C19	IV	須恵器	杯蓋	A VII	(16.0)	—	(2.0)	12.5	—	長・雲・海	B	N7/灰白	N7/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	2/36	
303	278	339	包含層	4J-2C24		須恵器	杯蓋		—	—	(1.4)	—	—	白色粒	B	N7/灰白	N7/灰白	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		—	—	3/36	
303	278	340	包含層	4J-2C9	5	須恵器	無台杯	C	—	(8.0)	(1.3)	—	—	長・雲	B	10YR6/1灰	10YR6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	8/36	3/36	
303	278	341	包含層	4J-2D11	IV	須恵器	高杯		—	—	(3.5)	—	—	長・白色粒	E	10Y4/1灰	10Y6/1灰白	還元	ロクロナデ	ナデ		—	—	1/36	
303	278	342	包含層	4J-2D21	IV	土師器	囊		—	(8.6)	(4.1)	—	—	石・長・チャ・海		10YR7/1灰白	2.5Y8/2灰白	酸化	ハケメ	不明瞭	ヘラナデ	—	7/36	1/36	砂底土器
303	278	343	包含層	4J-3D20	V a	土師器	囊		—	(6.0)	(2.1)	—	—	長・雲		10YR8/2灰白	10YR5/3にぶい黄褐	還元	ハケメ	ナデ、ミガキ		—	7/36	1/36	
303	278	344	包含層	4J-4C2	IV・IV b	須恵器	杯蓋	A II	(11.0)	—	(2.4)	21.8	—	石	E	N6/灰	N7/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	8/36	外面自然釉
303	278	345	包含層	4J-4C8	IV b	土師器	長囊		(19.6)	—	(3.5)	17.9	—	長・雲・海		10YR6/1褐灰	10YR5/1灰黄褐	酸化	ハケメ、ナデ	ミガキ、ナデ		4/36	—	1/36	
303	278	346	包含層	4J-4D19	III	須恵器	囊		—	—	(7.2)	—	—	石・長・雲	B	N6/灰	N6/灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
303	278	347	包含層	4区不明		須恵器	長頸瓶		—	(14.0)	(3.0)	—	—	雲・海	B	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	高台貼付	—	4/36	1/36	
303	278	348	河138	3J-5G19	6	須恵器	杯蓋		—	—	(0.9)	—	—	石・白凝	B	5Y6/1灰	—	還元	ナデ	なし		—	—	1/36	
303	278	349	河138	3J-5G18	6	須恵器	杯蓋		—	—	(2.0)	—	—	石	B	N4/灰	7.5Y6/1灰	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		—	—	6/36	
303	278	350	河138	3J-6I22	6	須恵器	杯蓋		—	—	(1.2)	—	—	石・白凝	B	5Y7/2灰白	5Y6/2灰オリーブ	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	—	4/36	
303	278	351	河138	3J-7I13	上層	須恵器	杯蓋		—	—	(1.0)	—	—	白凝	B	N6/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ		—	—	1/36	
304	278	352	河138	3J-5G12,3J-5H16-22	I c~IV,6	須恵器	無台杯	C VI	(15.0)	(11.8)	(3.9)	26.0	78.7	石	C	7.5Y6/1灰	5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	1/36	19/36	16/36	
304	278	353	河138	3J-5G20	6	須恵器	無台杯	VI	(15.0)	—	(3.1)	20.7	—	石・白凝	C	5Y6/1灰	5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	—	2/36	
304	278	354	河138	3J-6I22	6	須恵器	無台杯		—	6.0	(1.6)	—	—	石・長・海	A	10Y5/1灰	5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	32/36	12/36	
304	278	355	河138	3J-5H8,3J-5G7,3J-5G19-20	I c~IV,6	須恵器	無台杯	C	—	9.4	(2.0)	—	—	白凝	B	N5/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	—	21/36	12/36	
304	278	356	河138	3J-7I1	6	須恵器	無台杯	C	—	(6.6)	(1.5)	—	—	石・チャ	D	10YR8/1灰白	10YR8/1灰白	酸化	ロクロナデ?	ロクロナデ?	ヘラ切	—	4/36	2/36	

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置			種別	器種	分類	法 量(cm)			器高 指数	底径 指数	胎 土		色 調		焼成	手 法			遺存率			備 考				
			遺構	グリッド	層位				口径 長軸	底径 短軸	器高 厚さ			含有物	産地	外 面	内 面		外 面	内 面	底部	口縁部	底部	全体					
																										外 面	内 面	底部	口縁部
304	278	357	河138	3J-5G6	1~5	須恵器	短頸瓶		-	-	(1.8)	-	-	石・白凝	B	5Y7/1灰白	N7/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		-	-	2/36	頸部外周自然釉 2条平行沈線				
304	278	358	河138	3J-5G18	6	須恵器	長頸瓶		-	(9.6)	(4.0)	-	-	長	E	5Y5/2灰オリーブ	5Y5/2灰オリーブ	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	高台貼付	-	-	14/36	2/36	内外面自然釉			
304	278	359	河138	3J-6I16	6	須恵器	平瓶		-	-	(1.9)	-	-	チャ・白凝	E	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		-	-	6/36	3/36	内面転用靨			
304	278	360	河138	3J-5G19	6	須恵器	水瓶		-	-	(5.7)	-	-	石	E	7.5Y5/1灰	7.5Y7/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		-	-	3/36	2/36	2条平行沈線			
304	278	361	河138	3J-6I23	6	須恵器	甕	(28.6)	-	-	(4.3)	15.0	-	白凝	B	2.5Y7/3浅黄	2.5Y7/4浅黄	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	-	1/36					
304	278	362	河138	3J-6I16	6	須恵器	甕		-	-	(3.8)	-	-	石・白凝・海	B	N5/灰	N5/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ、タタキメ		-	-	1/36					
304	278	363	河138	3J-5F14	6	須恵器	甕		-	-	(4.6)	-	-	白凝	B	5Y6/1灰	5Y6/1灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36					
304	278	364	河138	3J-5G11	6	須恵器	甕		-	-	(5.9)	-	-	白凝	B	5Y5/1灰	5Y6/1灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36					
304	278	365	河138	3J-5G12	Ic~IV	須恵器	甕		-	-	(11.5)	-	-	石・白凝	B	10Y5/1灰	10Y6/1灰	還元	タタキメ	あて具痕、ナデ		-	-	1/36	1/36	転用砥石			
304	278	366	河138	3J-5G12	Ic~IV	須恵器	甕		-	-	(9.4)	-	-	石	B	N6/灰	N6/灰	還元	タタキメ	ナデ		-	-	1/36	1/36	転用砥石			
304	278	367	河138	3J-5G18	6	須恵器	甕		-	-	(5.8)	-	-	白凝	B	7.5GY4/1暗緑灰	2.5GY5/1オリーブ灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	1/36	自然釉			
304	278	368	河138	3J-5G19	6	須恵器	甕		-	-	(6.8)	-	-	白凝	B	2.5Y7/2灰黄	2.5Y6/1黄灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	1/36	自然釉			
304	278	369	河138	3J-5H22	6	須恵器	甕		-	-	(5.5)	-	-	白凝	B	2.5Y6/2灰黄	2.5Y7/1灰白	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	1/36	自然釉			
304	279	370	河138	3J-5H23	6	須恵器	甕		-	-	(5.5)	-	-	白凝	B	5Y5/1灰	2.5Y7/1灰白	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	1/36	自然釉			
304	279	371	河138	3J-6H20	6	須恵器	甕		-	-	(6.2)	-	-	白凝	B	5Y5/1灰	5Y6/1灰	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		-	-	1/36	1/36	自然釉			
304	279	372	河138	3J-6I16	6	須恵器	甕		-	-	(6.8)	-	-	石・白凝	B	7.5Y6/1灰	5Y6/1灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	1/36	自然釉			
304	279	373	河138	3J-6I22	6	須恵器	甕		-	-	(6.4)	-	-	石・白凝	B	10Y5/1灰	7.5Y6/1灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	1/36	転用砥石			
305	279	374	河138	3J-5H22	6	土師器	無台碗	B	-	(6.0)	(1.8)	-	-	石・白凝	B	10YR6/2灰黄	10YR6/4にぶい黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		-	3/36	2/36					
305	279	375	河138	3J-6I22	6	土師器	無台碗	A	-	(11.0)	(1.3)	-	-	石・チャ	B	10YR5/3にぶい黄褐	10YR7/3にぶい黄橙	酸化	ナデ	ナデ		-	9/36	4/36					
305	279	376	河138	3J-6I16	6	土師器	小甕	B	-	(7.0)	(2.3)	-	-	石・チャ	B	10R6/4にぶい橙	10R6/4にぶい橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		-	5/36	3/36					
305	279	377	河138	3J-5H17	6	土師器	小甕	A	-	(7.0)	(2.7)	-	-	石・長・チャ	B	7.5YR7/4にぶい橙	5Y6/1灰	酸化	ナデ	不明瞭		-	2/36	1/36					
305	279	378	暗渠	3J-9E		須恵器	杯蓋	AVI	(15.0)	-	(1.0)	6.7	-	雲	B	5Y5/1灰	5Y5/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	-	1/36					
305	279	379	暗渠埋土	3J-6I6	1	須恵器	有台杯		-	(8.0)	(2.2)	-	-	石・白凝	B	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		-	3/36	2/36					
305	279	380	暗渠	4J-1H2		土師器	無台碗	A I	(10.0)	(6.4)	(3.6)	36.0	64.0	石・海	B	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	酸化	ナデ	ナデ		1/36	3/36	2/36					
305	279	381	攪乱	3J-7I23	1	須恵器	杯蓋	BVII	(16.2)	-	(2.3)	14.2	-	石・長	B	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		1/36	-	4/36					
305	279	382	攪乱	3J-10G	一括	須恵器	杯蓋	AVI	(15.0)	-	(1.3)	8.7	-	石・白色粒・海	B	N5/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	-	1/36					
305	279	383	攪乱	3J-10G	一括	須恵器	杯蓋	BVII	(16.0)	-	(1.5)	9.4	-	石・長・雲	C	N6/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		1/36	-	1/36					
305	279	384	攪乱	3J-10G	一括	須恵器	無台杯	CV	(13.9)	-	(3.5)	25.2	-	白色粒・チャ	C	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	-	1/36					
305	279	385	攪乱	3J-10H23		須恵器	有台杯	B I	(10.0)	(6.4)	(3.1)	31.0	64.0	石	C	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		5/36	6/36	8/36					
305	279	386	攪乱	3J-10G	一括	須恵器	高杯		-	(12.0)	(2.0)	-	-	長・海・雲	E	7.5Y8/1灰白	7.5Y8/1灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	-	1/36					
305	279	387	攪乱	3J-9I23	IV	須恵器	水瓶		-	-	(4.9)	-	-	長・雲・海	B	N5/灰	N5/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ、しぼり痕		-	-	1/36	1/36	1条沈線			
305	279	388	攪乱	3J-4H4		須恵器	甕		-	-	(5.8)	-	-	石・長・海・白凝	B	5Y6/1灰	5Y6/1灰	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		-	-	1/36	1/36	転用砥石			
305	279	389	攪乱	3J-5F15		須恵器	甕		-	-	(1.7)	-	-	石	C	5Y5/1灰	N7/灰白	還元	タタキメ、カキメ	あて具痕		-	-	1/36	1/36	転用砥石			
305	279	390	攪乱	3J-6I1	1	須恵器	甕		-	-	(7.6)	-	-	石・長	B	10YR6/4にぶい黄橙	7.5Y6/1灰	酸化	タタキメ	あて具痕、ハケメ		-	-	1/36	1/36	転用砥石			
305	279	391	表探	3J-10H		須恵器	有台杯	B II	(11.2)	-	(3.4)	30.4	-	石	C	2.5GY7/1明オリーブ灰	N7/灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	-	3/36					
305	279	392	表探	4J-4A	-	土師器	甕		(21.8)	-	(6.1)	28.0	-	石・長・角		10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	酸化	ハケメ、口縁ナデ	ハケメ、口縁ナデ		3/36	-	1/36	1/36	ハケメ、口縁ナデ			
305	279	393	排土	4区排土		須恵器	仏鉢		11.4	-	(2.6)	22.8	-	石	C	N6/灰	N6/灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	-	1/36	1/36	ハケメ、口縁ナデ			
305	279	394	試掘 54T			須恵器	甕		-	-	(4.1)	-	-	石・長・チャ	B	灰(5Y 6/1)	灰(5Y 6/1)	還元	タタキ	あて具痕		-	-	-	-	1/36	1/36	転用砥石	
305	279	395	試掘 64T			須恵器	甕		-	-	(10.2)	-	-	石・長	B	灰(5Y 6/1)	灰(5Y 5/1)	還元	タタキ	あて具痕		-	-	-	-	1/36	1/36	転用砥石	
305	279	396	試掘 70T			須恵器	壺		-	(7.3)	(1.9)	-	-	石・長	D	灰(N 5/0)	灰(5Y 5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切	-	-	-	-	-	1/36	1/36	内外面自然釉
305	279	397	試掘 70T			土師器	無台碗	A	-	(6.0)	(1.1)	-	-	石・チャ		灰黄(2.5Y 7/2)	灰黄(2.5Y 7/2)	酸化	ナデ	ナデ		-	-	-	-	-	1/36	1/36	スズ
305	279	398	試掘 108T			土師器	無台碗	A	12.7	3.1	5.8	45.7	24.4	長・チャ・海		灰褐(7.5YR 6/2)	にぶい黄橙(10YR 7/3)	酸化	ミガキ	ミガキ	ナデ	-	-	-	-	-	3/36	3/36	外面胴部～底部漆状 付着物

中世土器

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置			種別	器種	分類	法 量 (cm)			器高 指数	底径 指数	胎 土	色 調		焼成	手 法			遺 存 率			備 考
			構 構	グロット	層位				口径 長軸	底径 短軸	器高 厚さ				外 面	内 面		外 面	内 面	底部	口縁部	底部	全体	
305	279	399	SB1565P2	3J-9G	一括	珠洲焼	甕		-	-	(5.1)	-	-	石	N6/灰	N6/灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	
305	279	400	Pit161	3J-7F1	3	珠洲焼	甕		-	-	(4.9)	-	-	石・長	5Y5/1灰	5Y5/1灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	
305	279	401	Pit571	3J-8G	一括	珠洲焼	壺	R種	(24.0)	-	(2.6)	10.8	-	白色粒・海	5Y6/1灰	5Y6/1灰	還元	クロコナデ	クロコナデ		1/36	-	1/36	
305	279	402	Pit572	3J-9F13	1	珠洲焼	中甕		(52.0)	-	(11.8)	22.7	-	石・白色粒・海	5BG6/1青灰	5G6/1緑灰	還元	タタキメ	あて具痕		3/36	-	1/36	
306	279	403	Pit587	3J-9F	一括	珠洲焼	甕		-	-	(6.3)	-	-	石	N6/灰	N5/灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	
306	279	404	Pit1097	3J-10D	一括	珠洲焼	片口鉢類		-	-	(4.2)	-	-	石	5Y6/1灰	5Y5/1灰	還元	クロコナデ	クロコナデ、卸目11本 一単位(幅2.3cm)		-	-	1/36	
306	279	405	SD279	3J-1120	1	珠洲焼	片口鉢類		-	(12.1)	(6.2)	-	-	石・白凝	2.5Y7/2灰黄	10YR5/2灰黄褐	還元	クロコナデ	卸目9本一単位(幅3.1cm)		-	6/36	4/36	外面炭化物付着。焼成不良
306	279	406	SD153	3J-4114	I c	白磁	碗	VI	-	(5.0)	(2.0)	-	-		2.5GY8/1灰白	2.5GY8/1灰白	還元	高台内露胎	欄目文12本一単位		-	5/36	2/36	
306	280	407	SD153	3J-519	1	珠洲焼	片口鉢類	C III	(31.1)	-	(4.7)	15.1	-	石	N5/灰	N5/灰	還元	クロコナデ	クロコナデ、卸目8本一 単位(幅1.8cm)		3/36	-	1/36	
306	280	408	SD153	3J-4118	1	珠洲焼	甕		-	-	(7.7)	-	-	石・白凝・海	N6/灰	N6/灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	外面下部漆付着
306	280	409	SD153	3J-4118	II~IV	珠洲焼	甕		-	-	(6.2)	-	-	石	N5/灰	N5/灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	外面炭化物付着
306	280	410	SD174	3J-2H15	2	青磁	碗	B	-	-	(2.5)	-	-		10Y6/2オリーブ灰	10Y6/2オリーブ灰	還元	蓮弁文			-	-	2/36	
306	280	411	SD157	3J-6G17	1	土師質土器	皿	RH種	(11.3)	(7.6)	3.3	29.2	67.3	石	10YR8/2灰白	10Y6/2オリーブ灰	酸化	クロコナデ	クロコナデ		-	18/36	9/36	磨耗が著しい
306	280	412	SD155	3J-9I23		珠洲焼	片口鉢類	A I	(24.2)	-	(7.4)	30.6	-	石・白色粒	7.5Y5/1灰	2.5Y2/1黒	還元	クロコナデ	クロコナデ、卸目11本 一単位(幅2.9cm)		5/36	-	4/36	内・外面スス付着
306	280	413	SD155	3J-9H5	3	珠洲焼	片口鉢類	B II	(25.5)	-	(2.9)	11.4	-	白色粒	5Y6/1灰	2.5Y7/1灰白	還元	クロコナデ	クロコナデ		3/36	-	1/36	
306	280	414	SD155	3J-8H20	3	珠洲焼	壺	R種	-	8.3	(5.9)	-	-	石・白凝	N4/灰	N4/灰	還元	クロコナデ	クロコナデ	静止糸切	-	36/36	8/36	底部外面、破断面炭化物付着
306	280	415	SD155	3J-9H		珠洲焼	甕		-	-	(13.4)	-	-	石・白色粒	N6/灰	N6/灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	
306	280	416	SD155	3J-9H5	一括	珠洲焼	甕		-	-	(9.7)	-	-	石・白色粒	2.5GY6/1オリーブ灰	5Y6/2灰オリーブ	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	内面、破断面スス付着、 外面アスファルト付着
306	280	417	SD155	3J-9I11	2	珠洲焼	甕		-	-	(5.7)	-	-	石・白色粒	N7/灰白	7.5Y5/1灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	
306	280	418	SD155	3J-9H5	3	珠洲焼	甕		-	-	(9.0)	-	-	石・白色粒	N6/灰	7.5Y6/1灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	
306	280	419	SD155	3J-8H5	4	珠洲焼	甕		-	-	(6.6)	-	-	チャ・海	N5/灰	N5/灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	破断面に二次使用痕あり。 外面スス付着
307	280	420	SD155	3J-9H5		土師質土器	皿	Tc種	(12.0)	-	(2.4)	20.0	-	石	2.5Y8/2灰白	2.5Y7/2灰黄	酸化	クロコナデ	クロコナデ		5/36	-	3/36	
307	280	421	SD155	3J-9H5		土師質土器	皿	Tb種	(12.9)	-	(2.5)	19.4	-	石・チャ	5Y6/6橙	5Y6/6橙	酸化				4/36	-	3/36	
307	280	422	SD155	3J-9I6		土師質土器	皿	RH種	-	(7.8)	(1.2)	-	-	雲	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	酸化	クロコナデ	クロコナデ		-	9/36	3/36	内・外面、破断面炭化物付着
307	280	423	SD155	3J-8H15	4	瓦質土器	揃鉢		(30.8)	-	(7.8)	25.3	-	石・チャ	2.5YR7/6橙	10YR7/2にぶい黄橙	還元	クロコナデ	卸目、ハケメ		6/36	-	4/36	内面炭化物、外面スス付着 内面横位3条沈線
307	280	424	SD155	3J-8H20	4	瓦質土器	揃鉢		(30.5)	-	(6.5)	21.3	-	石	2.5Y8/1灰白	2.5Y3/1黒褐	還元	ハケメ	ハケメ		5/36	-	3/36	内面炭化物・外面スス付着
307	281	425	SD155	3J-6H24	2	瓦質土器	揃鉢		-	(8.0)	(4.0)	-	-	石	2.5Y7/2灰黄	2.5Y3/1黒褐	還元	ケズリ	卸目、ハケメ		-	8/36	1/36	内・外面炭化物付着、3条沈線
307	281	426	SD156	3J-9H15・20		珠洲焼	甕		-	-	(8.1)	-	-	石・白色粒	N7/灰白	N6/灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	
307	281	427	SD156	3J-8H15	1	珠洲焼	甕		-	-	(5.2)	-	-	長・赤色粒	N5/灰	N5/灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	
307	281	428	SD156	3J-9H15・20	一括	瓦質土器	揃鉢		(30.6)	-	(6.3)	20.6	-	白色粒	2.5Y8/1灰白	2.5Y2/1黒	酸化	カキメ? ナデ指頭圧痕	卸目、ハケメ		3/36	-	1/36	外面スス、内面炭化物付着、口 縁部2条沈線、内面3条沈線
307	281	429	SD800	3J-9D	一括	珠洲焼	甕		-	-	(9.5)	-	-	石・白色粒・海	N7/灰白	N6/灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	
307	281	430	SD800	3J-9D	一括	珠洲焼	甕		-	-	(7.9)	-	-	白色粒・海	N6/灰	N6/灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	
307	281	431	SD158	3J-8G17	2	青磁	碗	B	-	5.3	(2.2)	-	-		5GY7/1明オリーブ灰	5GY7/1明オリーブ灰	還元	蓮弁文		高台貼付	-	36/36	10/36	内面文様あり
307	281	432	SD158	3J-8H8	2	珠洲焼	片口鉢類	A II	(29.8)	-	(3.4)	11.4	-	石・白色粒	7.5Y5/1灰	7.5Y5/1灰	還元	クロコナデ	クロコナデ		4/36	-	1/36	内・外面アスファルト付着
307	281	433	SD158	3J-8F24		珠洲焼	片口鉢類	B IV	(35.7)	-	(4.5)	12.6	-	石	2.5Y6/1黄灰	N7/灰白	還元	クロコナデ	クロコナデ、卸目		2/36	-	1/36	
307	281	434	SD158	3J-8F22	3	珠洲焼	壺	T種	-	-	(5.2)	-	-	白色粒・海	N5/灰	N6/灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	
307	281	435	SD158	3J-8F1	2	珠洲焼	甕		-	-	(5.5)	-	-	石	7.5Y6/1灰	2.5Y6/1黄灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	
307	281	436	SD158	3J-8F20	2	珠洲焼	甕		-	-	(9.4)	-	-	石・白色粒	5Y5/1灰	5Y5/1灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	外面アスファルト付着
307	281	437	SD158	3J-9E		土師質土器	皿	Tc種	(13.0)	-	(3.6)	27.7	-	石	10YR7/3にぶい黄橙	10YR8/2灰白	酸化	クロコナデ	クロコナデ		7/36	-	5/36	
308	281	438	SD869	3J-9F22	V	珠洲焼	甕		-	-	(15.7)	-	-	石・白色粒・海	10BG5/1青灰	10BG6/1青灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	
308	281	439	SE56	3J-7F3	1	珠洲焼	壺	T種	-	-	(4.1)	-	-	石・長	7.5Y4/1灰	7.5Y4/1灰	還元	タタキメ	あて具痕		-	-	1/36	
308	281	440	SE89	3J-6G3	2	珠洲焼	片口鉢類	A I	(23.8)	-	(3.9)	16.4	-	石・白凝・海	N5/灰	N5/灰	還元	クロコナデ	クロコナデ		3/36	-	1/36	

図版No.	写真図版No.	報告No.	出土位置			種別	器種	分類	法 量(cm)			器高 指数	底径 指数	胎 土	色 調		焼成	手 法			遺存率		備 考				
			遺構	グリッド	層位				口径 長軸	底径 短軸	器高 厚さ				外 面	内 面		外 面	内 面	底部	口縁部	底部		全体			
308	281	441	SE78	3J-6G6	1	珠洲焼	片口鉢類		—	—	(4.5)	—	—	石・長	5Y4 /1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	卸目		—	—	1/36				
308	281	442	SE78	3J-6G11	2	珠洲焼	片口鉢類		—	(11.0)	3.5	—	—	石・長・角	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切		—	5/36	2/36			
308	281	443	SE80	3J-6G17	1・2	珠洲焼	片口鉢類	A II	(27.3)	—	(4.5)	16.5	—	石・海	N5/ 灰	N5/ 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	—	—			
308	281	444	SE80	3J-6G17	4	土師質土器	皿	R種	(12.2)	(7.3)	(3.0)	24.6	59.8	石・白凝	N2/ 黒	N2/ 黒	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36	7/36	4/36	内・外面炭化物付着		
308	281	445	SE57	3J-7F8	2	土師質土器	皿	RH種	12.0	8.8	3.7	30.8	73.3	石・チャ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/2 灰白	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切		20/36	23/36	21/36	内面スス付着		
308	281	446	SE497	3J-7F	一括	珠洲焼	甕		—	—	(10.8)	—	—	石・白色粒	5 Y 5/1 灰	5 Y 5/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕			—	—	1/36	外面自然釉		
308	281	447	SE542	3J-7F	一括	青磁	碗	B	(14.9)	—	(2.6)	17.4	—	—	7.5Y6/2 灰オリブ	7.5Y6/3 オリブ黄	還元	蓮弁文				3/36	—	1/36			
308	282	448	SE542	3J-7F	一括	珠洲焼	中甕		(49.1)	—	(13.5)	27.5	—	石・白色粒	N6/ 灰	7.5Y6/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕				5/36	—	2/36		
308	282	449	SE588	3J-7F18	一括	珠洲焼	片口鉢類	C II	(25.8)	—	(8.5)	32.9	—	石・海	7.5Y4/1 灰	2.5Y4/1 黄灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ、卸目 11本一単位(幅1.8cm)			4/36	—	4/36			
308	282	450	SE485	3J-8F18	一括	珠洲焼	甕		—	—	(5.5)	—	—	石・白色粒	N6/ 灰	5Y6/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕			—	—	1/36			
308	282	451	SE105	3J-7G16	2	青磁	碗	A	—	—	(3.5)	—	—	—	7.5GY7/1 明オリブ灰	7.5GY7/1 明オリブ灰	還元	蓮弁文				—	—	2/36			
308	282	452	SE522	3J-8F13	4	珠洲焼	片口鉢類		—	(12.0)	(8.6)	—	—	石・白色粒	5Y5/1 灰	2.5Y5/1 黄灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ、卸目 8本一単位(幅1.5cm)	静止糸切		—	9/36	5/36	外面スス付着		
308	282	453	SE577	3J-9F2	21	珠洲焼	甕		—	—	(11.4)	—	—	石・白色粒	N6/ 灰	N4/ 灰	還元	タタキメ	あて具痕、ナデ			—	—	1/36	内・外面スス付着		
308	282	454	SE577	3J-9E1	14	土師質土器	皿	R種	(12.0)	—	(3.0)	25.0	—	海	2.5Y8/2 灰白	2.5Y3/1 黒褐	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	—	3/36	外面スス、内面炭化物付着		
308	282	455	SE917	3J-9F	一括	珠洲焼	甕		—	—	(4.3)	—	—	石・白色粒	N6/ 灰	N7/ 灰白	還元	タタキメ	あて具痕			—	—	1/36			
308	282	456	SE710	3J-9G	一括	珠洲焼	甕		—	—	(3.4)	—	—	石・白色粒・海	N6/ 灰	7.5Y6/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕			—	—	1/36			
309	282	457	SK69	3J-5G7	9	珠洲焼	片口鉢類	A II	(28.4)	—	(5.4)	19.0	—	石	N5/ 灰	N5/ 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36	—	1/36		
309	282	458	SK69	3J-5G8	4	土師質土器	皿	R種	(13.0)	(8.4)	(3.7)	28.5	64.6	石	10YR4/1 褐灰	10YR6/2 灰黄褐	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切		1/36	7/36	3/36	内・外面スス付着		
309	282	459	SK71	3J-5G17	1	珠洲焼	片口鉢類	B I	(23.8)	—	(3.4)	14.3	—	石・海	N4/ 灰	N4/ 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36	—	1/36		
309	282	460	SK1500	4J-4F11	IV	土師質土器	皿	RH種	11.0	5.0	3.2	29.1	45.5	石	10YR6/2 灰黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36	12/36	6/36	内・外面スス付着	
309	282	461	SX15	3J-6F17	1	青磁	碗	A	—	—	(3.4)	—	—	—	2.5GY7/1 明オリブ灰	2.5GY7/1 明オリブ灰	還元	蓮弁文				—	—	4/36			
309	282	462	SX15	3J-6F17	1	青磁	碗	C	—	—	(4.6)	—	—	—	2.5GY5/1 オリブ灰	2.5GY5/1 オリブ灰	還元	蓮弁文?				—	—	4/36			
309	282	463	SX521	3J-8F18	1	珠洲焼	片口鉢類	B II	(26.0)	—	(3.0)	11.5	—	白色粒	7.5Y5/1 灰	7.5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36	—	1/36		
309	282	464	SX521	3J-8F18	1	珠洲焼	甕		—	—	(6.3)	—	—	石・チャ・白色粒・海	N6/ 灰	N6/ 灰	還元	タタキメ	あて具痕				—	—	1/36	外面スス付着	
309	282	465	SX521	3J-8F13	1	土師質土器	皿	Ta種	(11.9)	—	(2.9)	24.4	—	長・石	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	酸化	ナデ	ナデ				12/36	—	9/36	内面に黒斑	
309	282	466	包含層	2J-10I20,25	II～IV	珠洲焼	片口鉢類		—	(16.0)	(3.9)	—	—	石・長	10Y3/1 オリブ黒	10Y3/1 オリブ黒	還元	ロクロナデ	卸目 8本一単位(幅2.1cm)			—	4/36	1/36	外面、底部にスス付着		
309	282	467	包含層	3J-11I9	II～IV	珠洲焼	片口鉢類	C II	(26.0)	—	(5.0)	19.2	—	石	N6/ 灰	N6/ 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ、卸目 7本一単位(幅1.7cm)			4/36	—	1/36			
309	282	468	包含層	3J-2J3	II	珠洲焼	片口鉢類	B II	(30.0)	—	(4.1)	13.7	—	石・長	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	還元	ロクロナデ	卸目、ロクロナデ				1/36	—	1/36		
309	282	469	包含層	3J-3H18	II～IV	珠洲焼	片口鉢類		—	(12.4)	(6.2)	—	—	石・海	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	卸目	静止糸切		—	9/36	5/36			
309	282	470	包含層	3J-3J4	II～IV	珠洲焼	甕		—	—	(8.2)	—	—	石・海	N4/ 灰	N4/ 灰	還元	タタキメ	あて具痕			—	—	1/36			
309	282	471	包含層	3J-4H3	II～IV	珠洲焼	片口鉢類	C III	(32.3)	—	(5.1)	15.8	—	石・白凝・海	N5/ 灰	N5/ 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				1/36	—	2/36		
309	282	472	包含層	3J-5G8	I c～IV	土師質土器	皿	Ta種	(12.0)	—	(2.7)	22.5	—	長・石	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36	—	1/36	内面に黒斑	
309	282	473	包含層	3J-5G3	I c～IV	土師質土器	皿	RH種	(12.0)	—	(2.8)	23.3	—	石	7.5YR5/2 灰褐	7.5YR3/1 黒褐	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36	—	2/36	内・外面スス付着	
309	282	474	包含層	3J-5J25	I c～IV	瀬戸美濃焼	柄付片口		(15.4)	—	(7.0)	45.5	—	—	10Y7/2 灰白	10Y7/2 灰白	還元						6/36	—	1/36	内・外面灰釉	
309	283	475	包含層	3J-6H25	I c～IV	珠洲焼	片口鉢類		—	12.0	(4.8)	—	—	石・長	10Y5/2 オリブ灰	10Y5/2 オリブ灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切		10/36	—	3/36	内面の摩滅が著しい		
309	283	476	包含層	3J-6I8	I c～IV	瀬戸美濃焼	卸皿		—	(9.0)	(2.1)	—	—	—	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白		ロクロナデ	格子状の卸目	回転糸切		—	6/36	4/36			
310	283	477	包含層	3J-6I20	I c～IV	珠洲焼	片口鉢類	B II	(28.0)	—	(4.0)	14.3	—	石・長	5Y6/1 灰	2.5Y7/2 灰黄	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36	—	1/36		
310	283	478	包含層	3J-7E10	I a	珠洲焼	片口鉢類		—	(14.2)	(4.5)	—	—	石	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	還元	ロクロナデ、ナデ	卸目 11本一単位(幅2.1cm)	静止糸切		—	8/36	2/36			
310	283	479	包含層	3J-8J8	I c～IV	土師質土器	皿	Tc種	(12.0)	—	(2.8)	23.3	—	石	10YR2/1 黒	10YR2/1 黒	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36	—	2/36	内面アスファルト、外面スス付着	
310	283	480	包含層	3J-8J8	I c～IV	土師質土器	小皿	RH種	(7.5)	(6.5)	(1.0)	13.3	86.7	石	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切			3/36	5/36	4/36	外面に黒斑	
310	283	481	包含層	3J-9F		珠洲焼	甕		—	—	(5.8)	—	—	石・白色粒・海	5BG6/1 青灰	5BG6/1 青灰	還元	タタキメ	あて具痕			—	—	1/36			
310	283	482	包含層	3J-9I1	IV	瓦質土器	掃鉢		—	7.8	(2.1)	—	—	雲	10YR2/1 黒	10YR2/1 黒	還元		ハケメ	ヘラ切		—	12/36	3/36	外面炭化物付着		
310	283	483	包含層	3J-10F5	IV	珠洲焼	壺	R種	—	—	(4.2)	—	—	—	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			—	—	1/36			
310	283	484	包含層	3K-4A24	II～IV	珠洲焼	片口鉢類	C III	(30.5)	—	(5.2)	17.0	—	石・長	10Y5/1 灰	10Y5/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ、卸目				1/36	—	1/36		

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置			種別	器種	分類	法 量(cm)			器高 指数	底径 指数	胎 土	色 調		焼成	手 法			遺存率			備 考
			遺構	グリッド	層位				口径 長軸	底径 短軸	器高 厚さ				外 面	内 面		外 面	内 面	底部	口縁部	底部	全体	
310	283	485	包含層	—	—	珠洲焼	片口鉢類		—	—	(9.1)	—	—	石・長	5Y5/1 灰	5Y6/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ、卸目8本一単位(幅1.1cm)		—	—	3/36	
310	283	486	河138	3J-5G20	6	珠洲焼	片口鉢類	A II	(28.8)	—	(7.7)	26.7	—	石	7.5Y6/2 灰オリーブ	N5/ 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ、卸目9本一単位(幅3.0cm)		5/36	—	1/36	
310	283	487	河138	3J-5G20	6	珠洲焼	片口鉢類	A I	(24.0)	—	(5.0)	20.8	—	石・海・黒色粒	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	1/36	炭化物付着
310	283	488	河138	3J-5G18	6	珠洲焼	片口鉢類	A II	(29.2)	—	(7.4)	25.3	—	石・白凝・海・黒色粒	N4/ 灰	N4/ 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ、卸目8本一単位(幅1.4cm)		1/36	—	1/36	
310	283	489	河138	3J-6H3	6	珠洲焼	片口鉢類	A III	(34.0)	—	(8.8)	25.9	—	チャ・白凝・海	7.5Y5/1 灰	7.5Y5/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ、卸目15本一単位(幅2.5cm)		5/36	—	4/36	
310	283	490	河138	3J-5G13	I c~IV	珠洲焼	片口鉢類		—	—	(6.1)	—	—	石・白凝・海	10Y5/1 灰	10Y5/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ、卸目		—	—	1/36	
310	283	491	河138	3J-5G19	6	珠洲焼	片口鉢類		—	—	(4.8)	—	—	石・白凝	10Y5/1 灰	10Y5/1 灰	還元	ロクロナデ	卸目		—	—	1/36	
310	283	492	河138	3J-5G20	6	珠洲焼	片口鉢類		—	—	(5.8)	—	—	石・白凝・海	10Y5/1 灰	10Y5/1 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ、卸目17本一単位(幅2.9cm)		—	—	1/36	
310	283	493	河138	3J-6H3	6	珠洲焼	片口鉢類		—	(11.6)	(5.6)	—	—	石・白凝	10Y5/1 灰	10Y2/1 黒	還元	ロクロナデ	ロクロナデ、卸目9本一単位(幅2.9cm)	静止糸切	—	7/36	3/36	内面・破断面スス付着
311	283	494	河138	3J-5G11	6	珠洲焼	壺	T種	(19.0)	—	(6.0)	31.6	—	石・白凝	10Y5/1 灰	10Y5/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕		1/36	—	1/36	
311	283	495	河138	3J-719	6	珠洲焼	壺	T種	—	—	(3.0)	—	—	石	N5/ 灰	N4/ 灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
311	283	496	河138	3J-719	6	珠洲焼	壺	R種	—	(7.8)	(5.7)	—	—	石・海・黒色粒	10Y7/1 灰白	7.5R4/6 赤	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切	—	12/36	2/36	外面スス付着、内面赤色
311	283	497	河138	3J-6I24	I c~IV	珠洲焼	小甕		(29.2)	—	(4.1)	14.0	—	長	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	還元		ハケメ		3/36	—	1/36	
311	283	498	河138	3J-5G18	1~5	珠洲焼	甕		—	—	(4.6)	—	—	石	N6/ 灰	N3/ 黒	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	内・外面スス付着
311	283	499	河138	3J-7I24	6	珠洲焼	甕		—	—	(4.1)	—	—	石	5Y5/1 灰	2.5Y7/3 浅黄	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	内・外面スス付着
311	283	500	河138	3J-7I3	6	瀬戸美濃焼	卸皿		(16.0)	—	(2.5)	15.6	—	—	2.5Y7/2 灰黄	7.5Y7/2 灰白	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		2/36	—	1/36	内面施軸
311	284	501	河138	3J-6I22	6	土師質土器	皿	Tc種	(12.0)	(6.1)	(3.0)	25.0	50.8	石・海	2.5Y6/3 にぶい黄	2.5Y6/3 にぶい黄	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		6/36	4/36	3/36	
311	284	502	河138	3J-719	6	土師質土器	皿	RH種	12.3	7.4	(3.8)	30.9	60.2	石・チャ	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	酸化	ロクロナデ、沈線二条	ロクロナデ	回転ヘラ切	4/36	20/36	9/36	口縁部一孔穿つ。内・外面黒斑
311	284	503	河138	3J-5G17	6	土師質土器	皿	RH種	—	(8.1)	(1.1)	—	—	石	2.5Y7/4 浅黄	—	酸化	ロクロナデ、ケズリ		回転ヘラ切	—	—	2/36	内面欠損
311	284	504	河138	3J-7I3	6	土師質土器	皿	R種	—	(8.0)	(2.6)	—	—	石	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	—	4/36	1/36	内・外面黒斑
311	284	505	暗渠(攪乱)	3J-5F15	—	珠洲焼	片口鉢類	A I	(20.0)	—	(3.0)	15.0	—	石・長	N4/ 灰	N4/ 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		3/36	—	1/36	
311	284	506	暗渠(攪乱)	—	—	瓦質土器	播鉢		—	(15.0)	(3.2)	—	—	石	10Y8/1 灰白	10Y8/1 灰白	還元			静止ヘラ切	—	5/36	1/36	外面底部スス、内面炭化物付着
311	284	507	攪乱	3J-7E	一括	珠洲焼	片口鉢類		—	(9.0)	(3.6)	—	—	雲・チャ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	酸化	ナデ、ハケメ		静止糸切	—	11/36	1/36	
311	284	508	攪乱	3J-6F21	1	珠洲焼	壺	T種	—	—	(4.7)	—	—	石・長	N5/ 灰	N5/ 灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
311	284	509	攪乱	4J-1E	—	珠洲焼	甕		—	—	(12.9)	—	—	石・白色粒・海	5BG5/1 青灰	5BG6/1 青灰	還元	タタキメ	あて具痕、ナデ		1/36	—	1/36	
311	284	510	攪乱	3J-7I23	1	珠洲焼	甕		—	—	(8.5)	—	—	石・白凝・海	N6/ 灰	N5/ 灰	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	
311	284	511	攪乱	3J-8E5	1	珠洲焼	甕		—	—	(11.5)	—	—	白色粒	N6/ 灰	5Y6/1 灰	還元	タタキメ	あて具痕、ハケメ		—	—	1/36	
311	284	512	攪乱	3J-8E5,3J-8F2-20,3J-9F	1・2	珠洲焼	甕		—	—	(21.4)	—	—	石・白色粒	N6/ 灰	N7/ 灰白	還元	タタキメ	あて具痕、ハケメ		—	—	1/36	
311	284	513	攪乱	一括	—	瀬戸美濃焼	端反皿		(19.0)	—	(3.4)	17.9	—	—	7.5Y6/2 灰オリーブ	7.5Y6/3 オリーブ黄	還元				1/36	—	2/36	内・外面施軸
312	284	514	攪乱	3J-7G20	3	瓦質土器	播鉢		(30.8)	—	(6.0)	19.5	—	石	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y2/1 黒	還元	ロクロナデ	卸目、ハケメ		—	—	1/36	外面スス、内面炭化物付着
312	284	515	攪乱	3J-7I12	1	瓦質土器	播鉢		(30.8)	—	(4.0)	129.9	—	長	2.5Y2/1 黒	2.5Y2/1 黒	還元	ロクロナデ	卸目、ハケメ		4/36	—	1/36	内・外面炭化物付着
312	284	516	攪乱	3J-7I18	1	瓦質土器	播鉢		—	—	(3.6)	—	—	石・長	5Y7/1 灰白	5Y4/1 灰	還元	ロクロナデ	卸目		—	—	1/36	外面炭化物付着
312	284	517	攪乱	一括	—	土師質土器	皿	Tb種	(12.2)	—	(3.3)	27.0	—	石	2.5Y2/1 黒	2.5Y2/1 黒	酸化				3/36	—	2/36	外面スス、内面炭化物付着
312	284	518	表探	3J-6H	—	珠洲焼	甕		—	—	(6.5)	—	—	長・雲	5Y6/1 灰	5Y5/1 灰	酸化	タタキメ	あて具痕		—	—	1/36	3区北壁出土?外面を二次的使用
312	284	519	立会表探	—	—	珠洲焼	甕		—	(16.0)	(2.4)	—	—	石・長・赤色粒	N5/ 灰	N5/ 灰	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切	—	5/36	1/36	立ち会い調査資料
312	284	520	立会表探	3K-4A5	—	瀬戸美濃焼	小型仏花瓶		—	(3.2)	(7.4)	—	—	—	灰黄(2.5Y 7/2)	オリーブ黄(7.5Y 6/3)	還元	沈線3条		回転糸切	—	—	—	立ち会い調査資料
312	284	521	立会表探	3K-4A5	—	珠洲焼	甕 or 壺 (T種)		—	—	(6.8)	—	—	石・長	灰(5Y 4/1)	灰(5Y 5/1)	還元	タタキメ	あて具痕、ハケメ		—	—	—	立ち会い調査資料
312	284	522	試掘 54T	—	—	珠洲焼	片口鉢類		—	—	(3.1)	—	—	石・長・海	灰(5Y 6/1)	灰(5Y 5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		—	—	—	
312	284	523	試掘 64T	—	—	珠洲焼	壺	T種	—	—	(5.2)	—	—	石・長・チャ・海	灰(N 5/0)	灰(5Y 5/1)	還元	タタキメ	あて具痕		—	—	—	

別表 6 上層出土土製品観察表

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置			種別	器種	法 量(cm)			胎 土	色 調		焼成	手 法			遺存率 /全体	備 考
			遺構	グリッド	層位			口径 長軸	底径 短軸	器高 厚さ		外 面	内 面		外面	内面	底部		
313	285	1	SD157	3J-7G14	1層	土製品	(羽口)	長:(9.4)	外径:(6.6)	孔径:(3.6)	石・雲・海	2.5Y6/4にぶい黄	2.5Y6/4にぶい黄						
313	285	2	SD157	3J-9H14		土製品	羽口	長:5.2	外径:(5.2)	孔径:(3.0)	石	5Y5/1灰	2.5Y8/3淡黄	酸化	—	—	—	—	
313	285	3	SD157	3J-9H3	1	土製品	羽口	長:4.0	外径:(5.0)	孔径:(1.9)	石	N7/灰白	10YR8/2灰白	酸化	—	—	—	—	
313	285	4	SD157	3J-8G5	1層	土製品	(羽口)	長:(3.4)	外径:(4.6)	孔径:(2.6)	長	10Y6/1褐灰	5YR7/6橙						
313	285	5	SD155	3J-9E8	V	土製品	支脚	長:(7.5)	短:4.2	厚:(3.4)	石・チャ	2.5Y7/3浅黄	—	酸化					
313	285	6	SD155	3J-9H5	一括	土製品	羽口	長:6.1	外径:(7.4)	孔径:(2.9)	石・チャ	N7/灰白	10YR8/2灰白	酸化	—	—	—	—	
313	285	7	SD156	3J-10H6		土製品	円筒形土製品	—	5.7	(2.5)	石・長・チャ	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/6明黄褐	酸化	ハケメ	指ナデ	ナデ	1/36	
313	285	8	SE917	3J-9F	一括	土製品	紡錘車	長:7.3	短:(3.4)	厚:2.7	石・チャ	10YR5/1褐灰	—	酸化	—	—	—	18/36	
313	285	9	SK1327	3J-9H	一括	土製品	円筒形土製品	—	5.7	(3.1)	石・チャ・海	2.5Y8/1淡黄	2.5Y8/1淡黄	酸化	ハケメ	ナデ	ナデ	1/36	
313	285	10	SK1115	3J-10D	一括	土製品	支脚	長:11.5	短:5.1	厚:4.2	石・チャ	10YR7/2にぶい黄橙	—	酸化					
313	285	11	SK1310	3J-10H6	2	土製品	円筒形土製品	(8.3)	—	(6.0)	石・チャ	10YR3/1灰白	10YR7/2にぶい黄橙	酸化	ハケメ	ナデ		6/36	
313	285	12	SX841	3J-9E	一括	土製品	円筒形土製品	(10.0)	—	(8.4)	石・長・海	5YR7/3にぶい橙	5YR7/3にぶい橙	酸化	ハケメ	ハケメ		5/36	
313	285	13	SX1219	3J-10H20	1	土製品	円筒形土製品	(10.1)	—	(7.8)	長・チャ・海	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	酸化	ナデ	ナデ		7/36	
313	285	14	SX473	4J-4E3	Ⅲ	土製品	支脚	長:(7.0)	短:4.9	厚:5.0	石・白色粒・海	2.5Y7/3浅黄	—	酸化	ナデ				
313	285	15	SX945	4J-4E25		土製品	有孔円盤	長:3.2	短:2.7	厚:0.6	石・雲	表 2.5Y7/2灰黄	裏 2.5Y7/2灰黄	酸化				36/36	
313	285	16	SX945	4J-4E25		土製品	有孔円盤	長:3.2	短:2.8	厚:0.8	石・雲・白色粒	表 2.5Y4/1黄灰	裏 2.5Y6/2灰黄	酸化				36/36	
313	285	17	SX945	4J-4E25		土製品	有孔円盤	長:3.0	短:2.8	厚:0.8	石・海	表 2.5Y6/1黄灰	裏 2.5Y6/2灰黄	酸化				36/36	
313	285	18	SX945	4J-4E25		土製品	有孔円盤	長:2.7	短:2.6	厚:0.4	石・海	表 2.5Y7/3浅黄	裏 2.5Y7/3浅黄	酸化				36/36	
313	285	19	SX945	4J-4E25		土製品	有孔円盤	長:2.7	短:2.6	厚:0.8	石・海	表 2.5Y6/1黄灰	裏 2.5Y6/2灰黄	酸化				36/36	
313	285	20	SX945	4J-4E25	Ⅳb	土製品	有孔円盤	長:3.3	短:2.7	厚:0.8	石・チャ・海	表 2.5Y6/1黄灰	裏 2.5Y6/2灰黄	酸化				36/36	
313	285	21	SX945	4J-4E25	Ⅳb	土製品	有孔円盤	長:3.4	短:(3.3)	厚:0.7	石・海	表 2.5Y6/3にぶい黄	裏 2.5Y5/2暗灰黄	酸化				33/36	
313	285	22	SX945	4J-4E26	Ⅳb	土製品	有孔円盤	長:4.4	短:(3.7)	厚:0.7	石・チャ・海	表 2.5Y7/2灰黄	裏 2.5Y6/2灰黄	酸化				36/36	
313	285	23	SX945	4J-4F16	Ⅳb	土製品	有孔円盤	長:3.0	短:3.0	厚:0.6	石・海	表 2.5Y7/2灰黄	裏 2.5Y6/2灰黄	酸化				36/36	
313	285	24	SX945	4J-4F21		土製品	有孔円盤	長:3.3	短:2.9	厚:0.6	石・チャ・海	2.5Y6/2灰黄	2.5Y5/2暗灰黄	酸化	—	—	—	36/36	
313	285	25	SX945	4J-4E25		土製品	有孔円盤	長:3.0	短:(2.9)	厚:0.6	石・白色粒	表 2.5Y7/2灰黄	裏 2.5Y7/2灰黄	酸化				34/36	
313	285	26	SX945	4J-4E25	Ⅳb	土製品	有孔円盤	長:3.1	短:2.2	厚:0.7	石・雲・長	表 2.5Y7/2灰黄	裏 2.5Y7/2灰黄	酸化				36/36	
313	285	27	SX945	4J-4E25	Ⅳb	土製品	有孔円盤	長:3.0	短:(2.8)	厚:0.8	石・チャ	表 2.5Y7/2灰黄	裏 2.5Y6/2灰黄	酸化				33/36	
313	285	28	SX945	4J-4E25		土製品	有孔円盤	長:3.1	短:(2.0)	厚:0.4	石・チャ・海	表 2.5Y6/2灰黄	裏 2.5Y6/2灰黄	酸化				18/36	
313	285	29	SX945	4J-4E25		土製品	有孔円盤	長:2.9	短:(2.4)	厚:0.5	石・長	表 2.5Y6/3にぶい黄	裏 2.5Y7/2灰黄	酸化				18/36	
313	285	30	河138	3J-7I25	I c~Ⅳ層	土製品	(羽口)	長:(3.9)	外径:(7.2)	孔径:(4.0)	石・長	N7/灰白	7.5YR8/6浅黄橙						
313	285	31	河138	3J-7I4	6	土製品	羽口	長:(5.4)	外径:(7.7)	孔径:(4.5)	石・長・白凝	7.5Y5/2灰オリーブ	7.5YR7/6橙	酸化					
313	285	32	河138	3J-7I3	6	土製品	羽口	長:(4.3)	外径:(6.8)	孔径:(3.5)	白凝	5Y6/1灰	5YR7/6橙	酸化					
313	285	33	河138	3J-7I25	6	土製品	羽口	長:(4.4)	外径:(6.4)	孔径:(4.0)	石・長	5Y6/2灰オリーブ	7.5YR6/4にぶい橙	酸化					
313	285	34	河138	3J-7I4	6	土製品	羽口	長:(3.3)	外径:(7.2)	孔径:(3.9)	石・白凝	2.5Y5/3黄褐	7.5Y6/8橙	酸化					
313	285	35	河138	3J-6H20	6	土製品	羽口	長:(5.1)	外径:(6.0)	孔径:(3.3)	石・長	7.5Y4/1灰	7.5YR7/6橙	酸化					
313	285	36	暗渠	3J-6H	—	土製品	支脚	長:(8.2)	短:4.3	厚:4.0	石・長・雲・チャ	7.5Y7/3にぶい橙	—	酸化					
313	285	37	暗渠埋土	3J-6I6	1	土製品	土錘	長:5.4	幅:2.0	孔径:0.5	石・角	2.5Y8/3淡黄	—	酸化	ナデ			35/36	

別表 7 上層出土石製品

別表 7 上層出土石製品観察表

凡例

法量の()内数値は欠損資料の残存値である。

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土位置			器種	分類	遺存状態	石材	法量(cm)			重量(g)	備考
			遺構	グリッド	層位					長	幅	厚		
314	286	1	包含層	3J-4I20	IV	磨製石斧	B		ドレライト	2.8	2.4	1.2	4.3	弥生時代
314	286	2	SB1568P4	3J-10E19	—	磨石類	C2		安山岩	10.5	9.0	5.5	797.3	正裏:磨
314	286	3	Pit92	3J-6G13	1	砥石	C2- I		砂岩(アルコース質アレナイト)	15.4	9.1	7.6	1,471.2	
314	286	4	Pit778	3J-8F3	一括	台石	B1		流紋岩	21.2	16.1	8.9	3,717.8	アスファルト付着
314	286	5	Pit717	3J-9F15	一括	磨石類	B		安山岩	11.9	10.2	6.3	960.3	スス付着
315	286	6	Pit861	3J-9F15	1	砥石	B2- I	分割片	砂岩(アルコース質アレナイト)	12.1	9.2	7.9	1,509.1	スス付着
315	286	7	Pit1510	3J-10G1	—	台石	B2		流紋岩	26.0	22.8	8.9	5,100.0	アスファルト付着
315	286	8	SD158	3J-8F20	—	磨石類	G1	分割片	変成チャート	7.3	7.1	3.7	194.5	アスファルト付着
315	286	9	SD158	—	2	磨石類	D5	分割片	砂岩	10.9	8.6	6.8	894.9	
315	286	10	SD158	—	2	磨石類	C3	分割片	変成チャート	12.5	5.0	6.6	513.1	スス付着
315	286	11	SD158	3J-8F24	2	砥石	C2- II	分割片	流紋岩	9.8	7.9	6.1	365.4	
316	286	12	SD158	3J-8H12	2	砥石	C2- I	分割片	砂岩(アルコース質アレナイト)	5.4	9.3	4.3	205.0	スス付着。台石破片の転用か
316	286	13	SD156	—	一括	砥石	B1- II	分割片	流紋岩	8.9	6.0	5.2	212.9	
316	286	14	SD155	3J-6H24	2	磨石類	B2	分割片	アブライト	5.2	6.6	4.0	158.0	
316	286	15	SD155	3J-7H25	4	磨石類	B3	一部欠損	デイサイト	6.4	5.7	4.6	190.0	
316	286	16	SD155	3J-9H5	一括	砥石	C1- II		デイサイト	11.5	5.1	3.6	179.8	
316	287	17	SD155	3J-9H5	上層	砥石	C1- I		流紋岩	13.2	6.8	4.1	601.9	
316	287	18	SD155	3J-9H5	—	砥石	B2- II	分割片	流紋岩	10.8	15.6	6.0	988.3	スス付着
316	287	19	SD155	3J-8H10	4	砥石	C1- II	分割片	凝灰岩	4.4	4.6	2.2	30.5	
316	287	20	SD155	3J-8H15	1	砥石	C2- II	分割片	凝灰岩	21.8	12.6	13.3	4,076.1	
316	287	21	SD155	3J-8H20	4	砥石	C1- II		流紋岩質凝灰岩	6.9	5.8	2.6	124.2	
316	287	22	SD155	3J-8H25	4	加工のあま磨石	—		安山岩	9.8	8.1	4.6	303.3	
317	287	23	SD154	3J-7I11	4	砥石	C2- II	分割片	流紋岩	12.1	9.9	8.5	886.7	
317	287	24	SD154	3J-7I11	1	分割礫	—	分割片	デイサイト	6.8	10.5	5.5	377.0	スス付着
317	287	25	SE89	3J-6G3	5	磨石類	G2		デイサイト	14.2	8.7	8.0	1,325.0	スス付着
317	287	26	SE89	3J-6G3	5	台石	B3		デイサイト	17.0	12.6	6.6	1,520.0	スス付着
318	287	27	SE89	3J-6G3	5	台石	B3		流紋岩	20.3	18.6	13.4	4,250.0	スス付着
318	288	28	SE89	3J-6G3	5	砥石	C2- II	分割片	流紋岩	19.3	12.3	10.4	2,385.5	スス付着
319	288	29	SE80	3J-6G18	5	砥石	C2- I	分割片	砂岩(アルコース質アレナイト)	11.9	7.7	4.9	614.1	スス付着
319	288	30	SE80	3J-6G7	1	石核	D		玉髄もしくは石英			1.2	4.0	自然面あり
319	288	31	SE57	3J-7F3	9	磨石類	F2		アブライト	8.2	7.3	6.6	549.7	
319	288	32	SE57	3J-7F9・4	1	磨石類	C2		砂岩(アルコース質アレナイト)	11.5	8.7	4.8	633.7	スス付着
319	288	33	SE57	3J-7F3	4	砥石	B1- I		アブライト	11.2	11.2	9.5	575.0	
320	288	34	SE588	3J-7F18	—	台石	B2	分割片	砂岩(アルコース質アレナイト)	17.4	14.0	6.7	2,427.8	
320	288	35	SE709	3J-9G22	—	台石	B3	分割片	流紋岩	26.6	11.5	10.0	1,827.0	スス付着
321	288	36	SE709	3J-9G22	—	台石	B2	分割片	砂岩(アルコース質アレナイト)	9.4	10.0	8.0	1,175.4	スス付着
321	289	37	SE709	—	一括	砥石	A- III	分割片	凝灰岩	7.5	4.4	2.2	75.9	スス付着
321	289	38	SE709	—	一括	軽石製石製品	—		軽石	3.7	4.6	3.8	14.6	磨耗
321	289	39	SE912	—	一括	砥石	C1- I		砂岩(アルコース質アレナイト)	11.9	7.6	4.3	556.3	破断面に使用痕あり。被熱
321	289	40	SE798	—	一括	砥石	C2- II	分割片	凝灰岩	6.0	3.5	4.9	68.1	スス付着
321	289	41	SE1070	4J-1E5	—	磨石類	F1	分割片	変成チャート	12.3	6.3	6.2	529.0	
322	289	42	SE1070	—	一括	砥石	C2- II		デイサイト	25.9	18.9	11.8	7,910.0	
322	289	43	SK69	3J-5G7・8	1	砥石	A- III		凝灰岩	8.3	3.5	2.0	64.6	
322	289	44	SK69	3J-5G8	上層	砥石	B1- II		凝灰岩	17.5	6.8	6.1	728.4	
322	289	45	SK69	3J-5G8	上層	砥石	C2- I	分割片	砂岩(アルコース質アレナイト)	13.9	10.6	5.1	855.6	
323	289	46	SK741	—	1	砥石	C2- I	分割片	砂岩(アルコース質アレナイト)	17.4	9.1	9.9	2,104.1	被熱
323	290	47	SX227	3J-6H24	5	台石	B3		流紋岩	17.7	10.9	9.9	1,725.0	スス付着
323	290	48	SX227	3J-7H4	6	台石	B3	分割片	流紋岩	8.5	7.3	8.6	500.0	スス付着。2点接合
323	290	49	SX227	3J-6H24	2	砥石	C2- II	分割片	流紋岩	18.7	15.5	7.9	2,682.3	被熱
324	290	50	SX1020	—	一括	軽石製石製品	—		軽石	7.4	4.4	2.2	40.6	
324	290	51	SX473	4J-3E16	IV最下部	磨石類	A		流紋岩	10.2	6.5	3.4	234.6	
324	290	52	SX473	4J-3E16	IV	砥石	B1- II		凝灰岩	14.3	6	4.3	396.2	
324	290	53	SX946	4J-4C19	IVb	磨石類	C1		デイサイト	8.6	7.9	4.8	364.4	
324	290	54	SX946	4J-4D21	IV	磨石類	B2	分割片	流紋岩	3.2	7.2	5.2	114.5	特殊磨石、片側縁のみ使用痕
324	290	55	SX946	4J-5C5	IVb	磨石類	D2	欠損	アブライト	11.3	8.2	5.5	649.1	スス付着
324	290	56	SX946	4J-4C23	IVb	台石	B2	分割片	変成チャート	5.2	7.7	6.7	275.5	スス付着
325	290	57	SX946	4J-5C5	IVb	砥石	C2- I	欠損	砂岩	20.9	18.7	6.7	3,052.3	
325	291	58	SX945	4J-5E2	IVb	砥石	C1- I		砂岩(アルコース質アレナイト)	12.3	6.1	4.0	402.5	スス付着
325	291	59	包含層	3J-1F3	IV	磨石類	F1		安山岩	6.5	5.0	3.7	143.1	
325	291	60	包含層	3K-1A19	II~IV	磨石類	B		安山岩	(12.6)	(8.4)	(6.6)	904.0	
325	291	61	包含層	3J-2I9	II~IV	砥石	B1- III	欠損	凝灰岩	4.9	2.9	2.1	40.4	
325	291	62	包含層	3J-3H16	II	砥石	C2- II	分割片	流紋岩質凝灰岩	10.2	6.9	2.1	159.9	
325	291	63	包含層	3J-4J8	III-2	磨石類	D1		安山岩	9.8	8.2	6.6	1,533.1	
326	291	64	包含層	3J-4J8	III-2	磨石類	D2		花崗岩 / 石英安山岩	10.3	8.7	5.1	733.3	
326	291	65	包含層	3J-5I21+6I1	1	砥石	C1- II	欠損	凝灰岩	9.3	4.9	1.7	51.0	
326	291	66	包含層	3J-5J8	II~IV	砥石	C1- II		凝灰岩	8.4	6.9	4.4	247.5	
326	291	67	包含層	3K-5A2	IV	砥石	C1- II		流紋岩質凝灰岩	8.3	5.2	1.8	84.8	
326	291	68	包含層	3J-9H10	IV	砥石	C2- II	分割片	流紋岩	11.1	7.7	5.3	474.6	
326	291	69	包含層	3J-10D	攪乱	軽石製石製品	—		軽石	9.8	6.8	3.3	97.2	
326	291	70	包含層	4J-1F20	一括	砥石	C1- II	分割片	凝灰岩	7.8	5.6	2.3	98.5	
326	291	71	包含層	4J-2G4	IV	砥石	C2- I	分割片	砂岩(アルコース質アレナイト)	10.3	9.7	8.8	1,111.2	スス付着
327	291	72	包含層	4J-3D11	IV	砥石	C1- II		デイサイト	10.3	7.7	6.8	627.9	
327	291	73	包含層	4J-3E9	—	磨石類	D2		安山岩	13.2	8.1	6.7	1,113.4	
327	291	74	包含層	4J-3E9	—	磨石類	D5		デイサイト	7.9	6.7	4.5	360.8	
327	292	75	包含層	4J-4C18	IVb	磨石類	D2		砂岩	15.7	10.8	7.0	1,637.1	被熱
327	292	76	包含層	4J-4C18	IVb	砥石	C1- I	分割片	砂岩	9.9	9.4	4.9	515.1	
327	292	77	包含層	4J-4C18	IVb	砥石	C1- II		流紋岩	12.5	10.2	4.8	649.3	被熱
327	292	78	河138	3J-5F15	1~5	磨石類	C1		花崗岩	11.4	7.6	5.4	665.7	
328	292	79	河138	3J-6J3	6	磨石類	C1		安山岩	(7.8)	(7.3)	(6.3)	498.8	
328	292	80	河138	3J-8J21	6	磨石類	C1	分割片	閃緑岩	10.1	7.1	6.8	531.0	被熱
328	292	81	河138	3J-5F15	1~5	砥石	C1- I		砂岩	9.2	7.1	7.6	484.3	
328	292	82	河138	3J-5G8	6	砥石	C2- II	分割片	流紋岩質凝灰岩	14.5	12.3	9.2	1,230.9	被熱?
328	292	83	河138	3J-5G12	6	砥石	B1- II	分割片	流紋岩	6.5	3.3	6.0	114.2	
328	292	84	河138	3J-6H3	6	砥石	B1- II	分割片	凝灰岩	4.4	4.1	3.0	25.0	
328	292	85	河138	3J-6I17	6	砥石	B1- II	分割片	流紋岩	6.8	3.7	2.4	77.2	被熱

別表 8 上層出土木製品観察表

凡 例

法量の()内数値は欠損資料の残存値である。

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土地点		器 種	形状	分類 1	分類 2	法 量(cm)			木 取	樹 種	備 考
			遺 構	グリッド					長さ	幅	厚さ			
329	293	1	SA1544P3	3J-10G5	柱根		IV	D	(46.2)	7.7	11.6	半裁材	クリ-コナラ属コナラ節	
329	293	2	SA1546P2	3J-9E6	柱根		III	A1	(60.0)	27.0	13.8	榎目		
329	293	3	SA1547P2	3J-10E7	柱根		I	B	(36.7)	16.5	14.4	丸木	ヤナギ属	
329	293	4	SA1547P3	3J-10E17	柱根		IV	D	(49.2)	17.9	12.0	半裁材		
330	294	5	SA1548P2	3J-10D18	柱根		I	D	(71.7)	12.3	11.1	丸木	クリ	
330	294	6	SA1549P1	4J-1D25	柱根		IV	A1	(38.0)	24.0	12.6	半裁材	モクレン属	
330	294	7	SA1549P2	4J-2E2	柱根		IV	B	(69.5)	25.8	15.6	芯去半裁材	モクレン属	
331	294	8	SB1561P1	3J-8G15	柱根		I	A1	(16.0)	13.0	11.0	丸木	クリ	
331	295	9	SB1561P8	3J-8H21	柱根		I	B	(77.7)	13.3	10.0	丸木	クリ	
331	295	10	SB1561P9	3J-9F21	柱根		I	B	(62.5)	9.5	9.5	丸木	クリ	
331	295	11	SB1562P3	3J-9D5	柱根		I	A1	(34.3)	15.0	12.6	丸木	クリ	
332	295	12	SB1563P2	3J-9E15	柱根		I	A1	(9.2)	10.6	9.1	丸木	ハンノキ属ハンノキ節	
332	295	13	SB1563P3	3J-9F6	柱根		I	A1	(21.0)	13.0	8.8	丸木	ハンノキ属ハンノキ節	
332	295	14	SB1563P4	3J-9F16	柱根		I	A1	(27.1)	11.7	8.6	丸木	ハンノキ属ハンノキ節	
332	296	15	SB1563P5	3J-9F21	柱根		IV	A2	(21.6)	(8.9)	5.3	丸木	ハンノキ属ハンノキ節	
333	296	16	SB1563P6	3J-10F2	柱根		IV	B	(27.4)	10.6	7.0	丸木	ハンノキ属ハンノキ節	
333	296	17	SB1563P7	3J-10F6	柱根		I	A1	(20.3)	9.2	6.3	丸木	ハンノキ属ハンノキ節	
334	296	18	SB1563P8	3J-10E10	柱根		IV	C	(23.4)	9.5	6.3	丸木	ハンノキ属ハンノキ節	
334	296	19	SB1563P9	3J-10E5	柱根		IV	B	(41.0)	15.3	10.0	芯持半裁材	ハンノキ属ハンノキ節	
334	296	20	SB1564P6	3J-9F18	柱根		I	D	(15.7)	14.3	14.8	丸木		
334	297	21	SB1564P14	3J-10F4	礎盤		IV	C1	(24.3)	12.2	3.6	ミカン割り	ブナ科	
334	297	22	SB1566P8	—	箸状		II	—	(3.4)	0.55	0.45		スギ	
335	297	23	SB1569P1	3J-10G7	柱根		I	B	(32.5)	9.9	7.5	丸木		
335	297	24	SB1569P3	3J-10G5	柱根		I	A1	(77.3)	5.5	5.3	丸木		
335	297	25	SB1569P7	3J-10G18	柱根		I	B	(52.6)	10.8	8.0	丸木		
335	297	26	SB1569P4	3J-10H11	用途不明品	薄板状	I	A1	(7.2)	2.2	0.2			
335	297	27	SB1570P1	3J-10H6	柱根		III	C	(29.6)	(10.5)	9.2	芯持半裁材	クリ	
335	297	28	SB1570P2	3J-10H7	柱根		III	A1	32.5	(6.1)	5.5	ミカン割り	クリ	
336	298	29	SB1570P3	3J-10H3	柱根		IV	A2	(22.0)	14.9	13.5	芯持半裁材	クリ	
336	298	30	SB1570P4	3J-10H14	柱根		III	C	(42.8)	16.5	13.2	芯持半裁材		
336	298	31	SB1570P6	3J-10H25	柱根		III	B	(11.7)	8.2	5.0	ミカン割り	クリ	
336	298	32	SB1571P3	4J-1F5	用途不明品	棒状	III	B	(18.4)	4.1	3.1	板目	腕木カ	
336	298	33	SB1575P3	—	柱根		III	D	(23.2)	12.3	7.2	板目		
336	298	34	Pit589	3J-7F11	柱根		—	D	(22.7)	12.0	2.5	芯去半裁材		
336	298	35	Pit713	3J-8F21	柱根		IV	C	(18.4)	15.1	10.5	丸木		
336	298	36	Pit922	3J-9D24	皿		挽物	白木	口径 8.6	底径 6.4	器厚 0.2	横木	広葉樹	器高 1.0cm
337	298	37	Pit581	3J-9F10	柱根		I	D	(15.6)	13.0	7.2	丸木		
337	299	38	Pit590	3J-9F13	礎盤		I	C1	(23.0)	13.7	4.8	芯去半裁材	ブナ科	
337	299	39	Pit592	3J-9F18	柱根		I	A2	(35.3)	18.9	16.9	丸木	ヤナギ属	
337	299	40	Pit783	3J-9G19	柱根		I	A1	(81.2)	12.6	8.7	丸木		
337	299	41	Pit880	3J-10F14	柱根		I	D	(59.2)	9.7	8.3	丸木		
338	299	42	Pit1062	3J-10G14	柱根		I	D	(43.2)	3.5	3.1	丸木		
338	299	43	Pit1057	3J-10H1	柱根		I	C	(50.2)	11.8	11.2	丸木		
338	299	44	Pit1024	4J-1G3	部材	板状	I	A1	(5.2)	(1.7)	0.2			
338	299	45	Pit1488	4J-2D24	柱根		I	D	(65.6)	3.2	4.0	丸木		
338	300	46	Pit532	南谷部	柱根		I	D	(40.4)	6.2	6.4	丸木	コナラ属コナラ節	
338	300	47	Pit533	南谷部	柱根		I	C	(131.5)	9.3	9.2	丸木	イヌエンジュ	
338	300	48	Pit531	南谷部	柱根		I	B	(37.5)	9.1	8.7	丸木		
338	300	49	Pit530	南谷部	柱根		I	B	(48.5)	7.7	7.0	丸木		
338	300	50	SD153	3J-5I20	部材	棒状	III	—	(7.0)	1.55	1.0			
338	300	51	SD153	3J-5I20	用途不明品	板状	IV	A2	(9.2)	2.6	0.4			部材カ
338	300	52	SD158	3J-8G14	箸状		II	D	(11.8)	5.5	4.5			
339	300	53	SE173	3J-2H19	箸状		III	D	(9.0)	0.5	0.4			
339	300	54	SE173	3J-2H19	部材	板状	IV	A2	(16.0)	(10.6)	0.3	榎目	曲物底板カ	
339	300	55	SE56	3J-7F3	部材	板状	IV	A2	(5.9)	2.4	0.4		側板	
339	300	56	SE1518	3J-6G3	箸状		I	D	(19.1)	0.6	0.5		スギ	
339	300	57	SE1518	3J-6G3	用途不明品	板状	II	B	(7.6)	3.1	0.9			
339	300	58	SE1518	3J-6G3	用途不明品	棒状	I	B	(34.3)	2.8	2.3			
339	300	59	SE80	3J-6G17	曲物		—	—	(7.5)	(4.7)	0.4	榎目	底板	
339	300	60	SE80	3J-6G17	部材	板状	II	B2	17.9	(5.3)	0.6	榎目	スギ	箱・側板
339	300	61	SE80	3J-6G17	部材	板状	I	A1	18.3	4.2	0.2	榎目		
339	300	62	SE80	3J-6G17	部材	板状	I	A1	21.8	2.4	1.1	榎目	スギ	
339	300	63	SE80	3J-6G17	部材	棒状	III	—	(16.1)	0.6	0.5	板目	スギ	
339	300	64	SE183	—	田下駄				31.0	23.5	1.3		ケヤキ	
340	301	65	SE183	—	田下駄				43.0	18.2	2.2		ケヤキ	
340	301	66	SE183	上段	曲物				器高 31.7	径 62.5	1.3~1.8		井筒	
341	301	67	SE183	—	曲物				器高 30.5	径 65.6	2.0~3.0		井筒	
341	301	68	SE183	3J-7F6	曲物				(20.0)	(2.3)	0.3		側板	

別表 8 上層出土木製品

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土地点		器 種	形 状	分類 1	分類 2	法 量(cm)			木 取	樹 種	備 考
			遺 構	グリッド					長さ	幅	厚さ			
341	301	69	SE183	3J-7F6	箸状		II	—	(6.3)	0.5	0.3			
341	301	70	SE183	—	部材	板状	IV	C1	(39.5)	2.6	0.9		スギーヒノキ科	背面にはつり痕井戸枠接合大型の楔
341	301	71	SE183	—	用途不明品	棒状	III	B	(5.9)	(0.6)	0.5			
342	301	72	SE57	—	曲物		E		(38.2)	(3.5)	0.3	榎目		底板
342	301	73	SE57	—	部材	板状	I	A1	11.5	4.0	0.2	榎目		
342	301	74	SE57	—	部材	板状	I	A1	11.3	4.5	0.2	榎目		
342	301	75	SE57	—	用途不明品	板状	II	D1	(9.9)	2.9	0.7	榎目		
342	301	76	SE497	—	部材	板状	IV	A2	(19.6)	(5.8)	0.7	榎目		
342	301	77	SE497	不明	用途不明品	板状	II	D2	(6.9)	3.7	0.6	榎目	スギ	木筒状板材をへらに転用?
342	301	78	SE542	3J-7F17	部材	板状	II	A1	(14.3)	7.1	0.8	榎目		
342	302	79	SE542	3J-7F16	部材	板状	IV	A1	34.8	8.3	0.6	榎目		
342	302	80	SE588	3J-7F18	曲物				(13.7)	(4.7)	0.2			側板
342	302	81	SE485	3J-8F1	曲物				42.0	(4.9)	0.9	榎目	スギーヒノキ科	蓋
342	302	82	SE485	3J-8F1	折敷				27.8	(5.1)	0.5	榎目	スギ	
342	302	83	SE485	3J-8F1	箸状		II	D	20.9	0.6	0.3			
342	302	84	SE485	一括	用途不明品	棒状	III	—	(17.9)	1.7	2.1			
342	302	85	SE105	—	箸状		II	—	(7.2)	0.7	0.4			
342	302	86	SE105	—	箸状		III	—	(4.0)	0.4	0.4			
342	302	87	SE105	—	箸状		III	D	(9.6)	0.6	0.5			
342	302	88	SE105	—	箸状		I	A1	(11.4)	0.5	0.5			
343	302	89	SE105	—	箸状		I	—	(19.7)	0.5	0.4		スギ	
343	302	90	SE105	—	箸状		I	D	(10.2)	0.4	0.4			
343	302	91	SE105	—	箸状		I	D	23.0	0.6	0.6			
343	302	92	SE105	—	部材	琴柱状	IV	A2	6.7	3.2	0.5		スギ	把手カ
343	302	93	SE105	3J-7G16	部材	板状	II	—	(14.8)	1.6	0.4			
343	302	94	SE105	3J-7G16	部材	板状	I	—	(9.6)	1.0	0.5	榎目		
343	302	95	SE105	3J-7G16	部材	板状	I	A2	(17.3)	2.2	0.8	板目		
343	302	96	SE105	—	部材	棒状	III	A2	21.9	1.5	1.0	板目		
343	302	97	SE105	—	柱根		I	D	(30.5)	8.3	(6.5)	丸木		
343	302	98	SE105	3J-7G16	用途不明品	棒状	I	D	(8.7)	1.1	0.7	榎目		斎串の先端カ
343	302	99	SE522	3J-8F14	皿		挽物	漆器	口径(9.0)	底径(7.0)	器厚0.5	横木	散孔材	器高1.1cm
343	302	100	SE522	3J-8F13	部材	板状	I	—	27.3	4.4	0.4	榎目	スギ	
343	303	101	SE522	3J-8F13	部材	薄板状	I	—	(16.5)	5.2	0.5	榎目		被熱
344	303	102	SE556	3J-8G20	鉢				22.5	14.7	4.9		コナラ属コナラ節	
344	303	103	SE556	3J-8G20	椀		挽物	漆器	口径15.8	底径8.3	器厚0.6	横木	散孔材	器高(5.6)cm
345	303	104	SE556	3J-8G20	曲物		F		35.5	(17.4)	1.05		スギ	底板
345	303	105	SE556	3J-8G20	曲物		F		(8.5)	(2.3)	0.3		スギ	側板
345	303	106	SE556	3J-8G20	曲物		F		(8.3)	(4.1)	1.2			底板
345	303	107	SE556	3J-8G20	曲物				9.2	(3.7)	0.3			側板
345	303	108	SE556	3J-8G20	折敷		I	—	(15.9)	(3.4)	0.8	板目	スギーヒノキ科	側板
345	303	109	SE556	3J-8G20	箸状		II	A1	(7.4)	0.4	0.2			
345	303	110	SE556	3J-8G20	箸状		III	—	(17.7)	0.6	0.5			
345	303	111	SE556	—	箸状		II	—	(12.5)	0.5	0.3			
345	303	112	SE556	—	箸状		III	D	(14.3)	0.4	0.3			
345	303	113	SE556	—	箸状		III	—	(5.8)	0.5	0.4			
345	303	114	SE556	—	箸状		I	D	(6.6)	0.4	0.4			
345	303	115	SE556	—	箸状		III	D	(15.9)	0.6	0.4			
345	303	116	SE556	—	箸状		II	—	(6.1)	1.0	0.8			
345	303	117	SE556	3J-8G20	箸状		III	—	(16.9)	0.5	0.4			
345	304	118	SE556	3J-8G20	楔	板状	IV	C2	6.3	3.3	0.4	榎目		
345	304	119	SE556	3J-8G20	部材	板状	I	A1	(7.4)	4.0	0.6	榎目		箱・側板
345	304	120	SE556	3J-8G20	部材	板状	I	—	(9.8)	(1.1)	(0.5)	板目		
345	304	121	SE556	3J-8G20	部材	棒状	III	—	(18.6)	1.5	0.8		スギ	
345	304	122	SE556	3J-8G20	部材	棒状	III	A1	(18.8)	(1.2)	1.0		スギ	
345	304	123	SE556	3J-8G20	部材	棒状	III	—	(30.6)	1.2	1.0		スギ	
346	304	124	SE556	3J-8G20	部材	棒状	III	B	(16.3)	1.3	0.9		スギ	
346	304	125	SE556	3J-8G20	部材	棒状	III	—	(10.7)	0.8	0.4	板目		
346	304	126	SE556	3J-8G20	柱根		I	D	(37.7)	7.4	8.0	丸木		
346	304	127	SE556	3J-8G20	柱根		I	C	(24.3)	5.1	6.3		ヤナギ属	
346	304	128	SE556	3J-8G20	用途不明品	板状	I	B2	(18.0)	(2.1)	0.3	板目	スギーヒノキ科	曲物底板転用カ
346	304	129	SE556	3J-8G20	用途不明品	薄板状	II	D1	3.9	1.7	0.2	板目		楔カ
346	304	130	SE556	3J-8G20	用途不明品	棒状	III	B	30.4	1.2	0.8	板目	スギーヒノキ科	湾曲
346	304	131	SE556	3J-8G20	用途不明品	板状	I	B2	(14.3)	1.6	0.7	榎目		
346	304	132	SE556	3J-8G20	瓢箪				(6.4)	径(14.0)	0.6			
346	304	133	SE556	3J-8G20	瓢箪				(31.8)	径(14.0)	1.0			
346	304	134	SE577	3J-9F1	椀		挽物	漆器	口径15.0	底径7.2	器厚0.4	縦木	トチノキ	器高5.2cm
346	305	135	SE577	3J-9F2	皿		挽物	漆器	口径9.3	底径6.8	器厚0.3	横木	針葉樹	器高1.3cm
346	305	136	SE577	—	用途不明品	棒状	II	—	(9.8)	0.8	0.5	榎目		
346	305	137	SE577	—	用途不明品	板状	II	D1	(7.1)	4.2	0.8			
347	305	138	SE917	3J-9F23	蓋		挽物	漆器	口径7.4	—	器厚0.4	横木	広葉樹	器高1.2cm
347	305	139	SE917	3J-9F23	部材	板状	IV	A2	27.0	23.5	0.6	榎目	スギーヒノキ科	容器底板

別表 8 上層出土木製品

図版 No.	写真図版 No.	報告 No.	出土地点		器 種	形 状	分類 1	分類 2	法 量(cm)			木 取	樹 種	備 考	
			遺 構	グリッド					長さ	幅	厚さ				
347	305	140	SE541	3J-9G3	部材	板状	IV	A2	19.1	2.0	0.5	榎目			
347	305	141	SE541	3J-9G3	用途不明品	板状	I	D1	(8.6)	2.4	0.3	榎目			
347	305	142	SE709	3J-9G22		下駄			17.7	10.1	1.4		スギ		
347	305	143	SE912	—		箸状	II	D	(17.8)	0.7	0.5		スギ		
347	305	144	SE882	3J-10F25		椀		挽物	漆器	口径9.4	底径6.0	器厚0.5	横木	トチノキ	器高3.6cm
347	305	145	SE882	3J-10F25		折敷			27.8	7.2	0.6	榎目	スギ	側板	
347	305	146	SE882	3J-10F25	部材	板状	I	A2	26.2	5.7	0.5	榎目	スギ	底板	
347	305	147	SE882	3J-10F25	用途不明品	板状	IV	B1	(13.9)	2.4	0.5	板目			
348	305	148	SE1070	—		箸状	II	D	(10.5)	0.8	0.5				
348	305	149	SE1070	4J-1F1	用途不明品	板状	IV	B2	8.9	(0.8)	0.2	榎目		曲物カ	
348	305	150	SE1070	4J-1E5	用途不明品	板状	I	B1	20.0	3.7	1.5	榎目	スギ		
348	305	151	SE987	4J-1G3		曲物			(17.7)	(1.8)	0.2	榎目		側板	
348	306	152	SE1363	4J-2G6		鋤			33.8	13.9	1.8		広葉樹	身	
348	306	153	SE1363	4J-2G6		鋤			(9.4)	4.5	2.6		広葉樹	柄	
348	306	154	SE1363	4J-2G6		鋤			5.4	2.0	1.0		クスノキ科	接着材	
349	306	155	SE1363	4J-2G6		剝舟			(18.0)	9.0	3.3		クリ		
349	306	156	SE1363	4J-2G6		剝舟			(26.9)	13.3	3.4		クリ		
349	306	157	SE1363	4J-2G6		剝舟			(23.9)	(6.6)	(2.0)		クリ		
349	306	158	SE1363	4J-2G6		剝舟			(47.7)	8.1	4.7		クリ		
349	307	159	SE1363	4J-2G6		剝舟			(38.7)	8.5	3.5		クリ		
350	307	160	SE1363	4J-2G6		剝舟			(63.3)	(53.0)	5.3		クリ		
351	308	161	SE1363	4J-2G6		剝舟			(65.0)	(45.0)	6.8		クリ		
352	308	162	SE1363	4J-2G6		剝舟			(52.5)	9.2	6.7		クリ		
352	308	163	SE1363	4J-2F10		櫛			14.2	4.8	1.2		ナン亜科		
352	308	164	SE1363	4J-2G6	用途不明品	棒状	I	A2	(37.4)	1.1	1.1			火鑽杵未製品カ	
352	308	165	SE1363	4J-2G6	用途不明品	板状	I	C1	(43.0)	4.0	0.4	榎目			
352	308	166	SE1363	4J-2G6	用途不明品	板状	II	D1	(9.2)	5.0	1.1	板目			
352	308	167	SE1363	4J-2G6		モモ核			(2.2)	2.1	0.4				
352	308	168	SE1363	4J-2G6		モモ核			(2.3)	2.3	0.3				
352	308	169	SE1363	4J-2G6		モモ核			(2.2)	2.2	0.4				
352	309	170	SE920	—		折敷	IV	A2	(13.2)	6.0	0.5	板目	スギ		
352	309	171	SE920	4J-2H2		剝物	IV	A1	14.1	10.0	3.45	板目	クリーコナラ属コナラ節		
352	309	172	SK268	3J-4J13		曲物			(5.5)	(1.9)	0.2	榎目		側板	
352	309	173	SK69	(3J-5G)		曲物			(7.7)	(1.9)	0.4	板目		側板	
352	309	174	SK69	(3J-5G)		曲物			(12.4)	(1.3)	0.3	板目		側板	
352	309	175	SK69	3J-5G7		曲物			a (19.5) b (17.7)	a (1.8) b (1.4)	a 0.4 b 0.4	板目		側板	
353	309	176	SK69	(3J-5G)		曲物			(12.0)	(2.8)	0.3	榎目		側板	
353	309	177	SK69	3J-5G7		曲物			(6.5)	(2.0)	0.2	榎目		側板	
353	309	178	SK69	3J-5G3		曲物			(9.6)	(3.0)	0.3	榎目		側板	
353	309	179	SK69	3J-5G7 IV		箸状	II	B	7.9	0.8	0.4				
353	309	180	SK69	—		箸状	III	—	(6.7)	0.4	0.4				
353	309	181	SK69	—		箸状	II	D	(9.8)	0.5	0.4				
353	309	182	SK69	3J-5G7		箸状	I	D	(20.2)	0.5	0.3				
353	309	183	SK69	3J-5G7		部材	板状	IV	A2	(31.4)	5.1	0.9	榎目		
353	309	184	SK69	(3J-5G)		部材	板状	I	D1	(9.3)	(1.9)	0.3			
353	309	185	SK69	—		部材	板状	IV	—	(8.8)	6.1	0.2	榎目		箱カ
353	309	186	SK69	(3J-5G)		部材	板状	II	—	(7.6)	2.8	0.6	板目		箱カ
353	309	187	SK69	3J-5G7	用途不明品	板状	IV	—	(31.0)	7.9	1.5	榎目			
353	309	188	SK69	—	用途不明品	板状	II	D1	4.9	3.6	1.1	板目			
353	309	189	SK69	3J-5G7	用途不明品	枝状	I	B	(15.4)	1.6	1.5	丸木			
353	309	190	SK69	3J-5G7	用途不明品	枝状	I	B	(17.9)	1.4	1.4	丸木			
353	309	191	SK69	(3J-5G)	用途不明品	枝状	I	B	(8.4)	1.3	1.2	丸木			
353	309	192	SK69	—	用途不明品	棒状			(11.0)	(5.6)	(3.0)	板目	広葉樹		
354	310	193	SK83	—		柱根	I	A1	(22.7)	11.8	9.0	丸木			
354	310	194	SK210	—		柱根	I	A1	(67.6)	12.7	9.6	丸木			
354	310	195	SK555	3J-8G20		箸状	III	D	(11.3)	0.4	0.3				
354	310	196	SK555	3J-8G20		箸状	II	—	(7.9)	0.6	0.3				
354	310	197	SK555	3J-8G20		箸状	III	D	11.2	0.6	0.5				
354	310	198	SK555	3J-8G20	用途不明品	板状	I	D1	(8.6)	1.5	0.8	榎目		形カ	
354	310	199	SK555	3J-8G20	用途不明品	板状	IV	D2	(15.5)	(1.7)	0.7	榎目	スギーヒノキ科	斎串カ	
354	310	200	SK1115	3J-10D8		部材	板状	II	A1	(12.1)	5.1	0.5	榎目	スギ	
354	310	201	SK1115	3J-10D8		柱根	I	D	(68.1)	4.6	4.1	丸木			
354	310	202	SK1115	3J-10D8		柱根	I	D	(48.9)	10.3	8.6	丸木			
355	310	203	SK1115	3J-10D7		柱根	I	D	(71.9)	9.6	8.5	丸木			
355	310	204	SK1115	3J-10D8		柱根	I	D	(26.4)	3.1	2.4	丸木			
355	311	205	SK1115	3J-10D8		柱根	I	D	(74.2)	14.9	11.5	丸木	散孔材		
355	311	206	SK1115	3J-10D8		柱根	I	B	(43.8)	11.5	10.4				
355	311	207	SK1115	3J-10D8	用途不明品	棒状	III	A1	(77.3)	2.5	1.6	丸木			
355	311	208	SK1115	3J-10D8	伐採木	棒状			47.1	26.4	13.0				
356	311	209	SK1115	3J-10D8	伐採木	棒状			134.8	15.3	14.3		エノキ属		
356	311	210	SK1115	3J-10D8	伐採木	棒状			77.3	14.2	17.0		クリーコナラ属コナラ節		
356	311	211	SX275	—		椀		挽物	漆器	口径14.4	底径8.4	0.7	横木		器高5.1cm

別表 8 上層出土木製品

図版 No.	写真図版 No.	報告 No.	出土地点		器 種	形状	分類 1	分類 2	法 量(cm)			木 取	樹 種	備 考
			遺 構	グリッド					長さ	幅	厚さ			
356	312	212	SX275	3J-1I8	部材	板状	I	B1	17.4	5.9	0.9	板目		箱・側板
356	312	213	SX275	3J-1I8	用途不明品	板状	II	—	(14.5)	2.1	0.3	板目		
356	312	214	SX227	3J-7H4	椀		挽物	漆器	口径13.0	底径7.3	器厚0.9	横木	クリーコナラ属コナラ節	器高3.7cm
356	312	215	SX227	3J-7H4	箸状		III	A2	19.7	0.5	0.4			
356	312	216	SX227	3J-6H24	刀子形				(19.1)	1.9	0.8	榎目		
357	312	217	SX227	3J-7H4	火鑢白				(18.5)	3.7	2.1	板目		
357	312	218	SX227	3J-7H4	部材	板状	IV	B2	9.7	(5.2)	1.6	榎目		
357	312	219	SX227	3J-7H4	部材	板状	IV	B1	(5.8)	(2.1)	0.4	板目		
357	312	220	SX227	3J-7H4	部材	棒状	III	—	—	—	1.3	榎目		粹カ
357	312	221	SX1378	3J-8E3	曲物				11.1	(5.3)	1.1	榎目	スギ	蓋
357	312	222	SX1378	3J-8E3	曲物				8.05	7.6	1.7	榎目		蓋
357	312	223	SX1378	3J-8E4	柱根		I	B	(101.1)	7.8	7.9			
357	312	224	SX1378	3J-8E9	柱根		I	B	(64.6)	9.6	6.1			
357	312	225	SX1378	3J-8E9	柱根		I	B	(75.8)	8.0	7.8			
357	312	226	SX1378	3J-8E9	柱根		I	B	(75.3)	10.3	7.0			
358	313	227	SX1378	3J-8E9	柱根		I	C	(93.8)	9.5	9.5			
358	313	228	SX1378	3J-8E8	用途不明品	板状	I	C1	(16.4)	(4.2)	0.4	板目		樹皮を加工
358	313	229	SX1378	3J-8E3	用途不明品	板状	IV	C2	(22.9)	29.3	2.4	板目		剝舟転用カ
358	313	230	SX1378	3J-8E3	用途不明品	板状	IV	C2	(22.6)	26.2	1.6	板目		剝舟転用カ
358	313	231	SX1378	3J-8E8	用途不明品	板状	IV	D2	(25.0)	30.7	2.5	板目		剝舟転用カ
358	313	232	SX473	4J-4D13	部材	板状	IV	—	(16.9)	5.0	1.6	榎目	スギーヒノキ科	
359	313	233	SX950	—	剝物				(34.9)	11.0	6.5	板目	スギ	容器
359	314	234	SX950	4J-4B18	曲物				17.5	17.0	0.9	榎目	ヒノキ	蓋
359	314	235	SX950	4J-4B24	曲物		F		(16.6)	(6.4)	0.7	榎目		底板
359	314	236	SX950	4J-4B25	楔	板状	IV	D1	11.2	5.0	1.1	榎目	スギ	
359	314	237	SX950	4J-4C16	部材	板状	IV	B2	(18.2)	4.3	0.8	榎目		底板カ
359	314	238	SX950	4J-5B5	部材	板状	IV	A2	12.1	2.5	0.5	板目		
359	314	239	SX950	4J-4B22	部材	板状	I	—	(11.8)	(1.1)	0.4	板目		
360	314	240	SX950	4J-4B23	部材		II	A2	14.0	15.2	2.3	板目	スギ	
360	314	241	SX950	4J-4B21	柱根		I	D	(24.4)	3.7	3.7			
360	314	242	SX950	4J-4B25	用途不明品	板状	I	D1	(5.9)	2.6	0.8	榎目		
360	314	243	SX950	4J-4B20	用途不明品	板状	I	D1	(4.7)	(2.3)	0.7	榎目		
360	314	244	SX950	4J-4B20	用途不明品	板状	II	C1	(71.2)	11.6	2.4	榎目		
360	314	245	SX950	4J-4B12	用途不明品	板状	IV	D1	(5.1)	6.0	0.4	榎目	スギ	
360	314	246	SX950	4J-4A23	用途不明品	板状	I	D1	(26.7)	2.4	0.6	板目		
360	314	247	SX950	4J-4B24	用途不明品	板状	IV	A2	(60.4)	2.2	0.7	板目		
360	314	248	SX950	4J-4A24	用途不明品	板状	I	A2	(85.7)	3.8	1.8	板目	スギ	
360	315	249	SX950	4J-4B19	用途不明品	棒状	I	D	(59.7)	2.0	1.7		クスノキ科	
360	315	250	SX950	4J-4B21	用途不明品	板状	II	—	(74.9)	9.5	3.0	芯去半裁材		
361	315	251	SX950	4J-5B3	用途不明品	棒状	I	A2	(41.2)	1.8	1.6			弓の可能性あり
361	315	252	SX950	4J-4A19	用途不明品	棒状	III	D	(9.8)	1.1	1.1	板目	マツ属複縦管東亜属	
361	315	253	SX950	4J-4A19	用途不明品	棒状	III	C	(37.3)	2.7	1.9	榎目	スギ	
361	315	254	SX950	4J-4B17	用途不明品	棒状	IV	D	55.6	6.0	3.3	芯持半裁材		
361	315	255	SX950	4J-4B24	用途不明品	棒状	IV	A1	62.5	9.4	4.2	芯持半裁材		
361	315	256	SX950	4J-5B3	伐採木	棒状	I	—	(63.0)	2.6	2.6			
361	315	257	SX946	4J-4C20	曲物		F		18.6	18.6	0.9	榎目	スギ	底板
361	315	258	SX946	4J-5C9	曲物		F		22.6	22.9	1.3	榎目	スギ	底板
361	315	259	SX946	4J-5D1	曲物		—		(11.7)	(3.0)	0.7	榎目	スギーヒノキ科	底板
362	315	260	SX946	南部	曲物		—		(14.0)	2.5	0.6	榎目		底板
362	315	261	SX946	4J-5C9	曲物				(10.2)	(3.1)	0.3	板目	スギ	側板
362	316	262	SX946	4J-4D17	刀形				(108.0)	3.2	1.7	板目	スギーヒノキ科	
362	316	263	SX946	4J-4C14	部材	板状	IV	B1	(14.1)	4.1	1.3	板目	スギ	
362	316	264	SX946	4J-4C24	用途不明品	板状	IV	B2	103.7	9.5	2.3	榎目		
362	316	265	SX946	4J-4C23	用途不明品	板状	IV	B2	(52.6)	8.5	2.1	榎目	クリーコナラ属コナラ節	
362	316	266	SX946	4J-5D2	用途不明品	板状	I	B1	(30.0)	6.8	2.2	榎目		
363	316	267	SX946	4J-5C3	用途不明品	板状	I	B1	(40.9)	2.0	0.8	板目		
363	316	268	SX947	4J-4C23	曲物		F		—	18.3	0.8		スギーヒノキ科	側板、底板
363	316	269	SX947	4J-4C22	曲物		F		(19.3)	3.1	0.7		スギ	側板
363	316	270	SX947	4J-4C22	部材	板状	I	—	(22.1)	4.1	0.7	板目		箱カ
363	316	271	SX947	4J-5C3	部材	板状	I	—	(20.9)	2.0	0.7	板目	スギ	箱カ
363	317	272	SX947	4J-4C22	建築部材	棒状	I	B	43.0	11.7	10.2	丸木		
364	317	273	SX947	4J-4C22	用途不明品	板状	IV	—	(21.3)	2.6	0.7	板目	スギーヒノキ科	
364	317	274	SX947	4J-5C3	用途不明品	棒状	III	B	15.3	1.3	1.0	板目		
364	317	275	SX947	4J-5C3	用途不明品	棒状	III	D	26.8	1.2	1.0	榎目	スギ	
364	317	276	SX947	4J-5C3	用途不明品	棒状	III	D	21.3	1.0	1.1	榎目		部材カ
364	317	277	SX947	4J-4C22	用途不明品	棒状	IV	—	(39.9)	10.7	4.4	芯去半割材		
364	317	278	SX947	4J-4C22	用途不明品	棒状	I	B	186.0	4.3	5.0		広葉樹	伐採もしくは形カ
364	317	279	SX951	4J-5D5	鋳形				38.5	3.1	1.0	板目	スギ	
364	317	280	SX951	4J-5D9	部材	板状	IV	A1	24.0	6.5	1.0			箱カ
364	317	281	SX951	4J-5D9	部材	板状	I	—	(14.2)	2.4	0.8	榎目		
364	317	282	SX951	4J-4D25	部材	板状	IV	A1	(19.1)	4.0	2.0	榎目	スギ	支脚
365	317	283	SX951	4J-5E1	建築部材	角柱状	IV	A1	176.0	12.6	7.5	ミカン割り		

別表 8 上層出土木製品

図版 No.	写真 図版 No.	報告 No.	出土地点		器 種	形状	分類 1	分類 2	法 量(cm)			木 取	樹 種	備 考		
			遺 構	グリッド					長さ	幅	厚さ					
365	318	284	SX951	4J-5D4	用途不明品	板状	I	—	(53.9)	2.8	0.4	板目	スギ	部材カ		
365	318	285	SX951	4J-5D5	用途不明品	板状	II	B2	(81.4)	4.0	1.1	板目		形カ		
365	318	286	SX951	4J-5D5	用途不明品	板状	I	C1	(65.9)	3.2	1.5	板目				
365	318	287	SX951	4J-5D8	用途不明品	棒状	III	B	(34.6)	4.2	2.5	丸木				
365	318	288	SX951	4J-5D3	用途不明品	棒状	III	A1	(56.5)	3.2	2.3	板目				
365	318	289	SX951	4J-5D5	用途不明品	棒状	—	—	(57.8)	(5.5)	3.5	ミカン割り				
366	318	290	SX945	4J-4F21		木筒			(20.9)	3.7	0.4		スギ			
366	319	291	SX945	4J-4E23		櫛			(50.6)	6.9	1.6		スギ			
367	319	292	SX945	4J-5E3		櫛			(39.0)	9.3	3.4		ケンボナン属			
367	319	293	SX945	4J-5F1		曲物			(44.2)	10.5	0.6		ヒノキ	側板		
367	319	294	SX945	4J-5F1		曲物			(72.2)	16.5	0.5		ヒノキ	側板		
368	319	295	SX945	4J-4F16		曲物	F		(16.0)	(9.3)	0.9		スギ	底板		
368	320	296	SX945	4J-5E4		円板			17.4	17.3	3.0	榎目	クリ	底板		
368	320	297	SX945	4J-4E25		斎串			38.7	2.2	1.1	板目	スギ-ヒノキ科			
368	320	298	SX945	4J-4E20		斎串			(8.8)	2.7	0.4	榎目	スギ			
368	320	299	SX945	4J-5E5		斎串			(8.1)	(1.2)	0.4	板目				
368	320	300	SX945	4J-5E4		刀形	III	—	(67.6)	3.6	2.4	板目				
368	320	301	SX945	4J-5F1		部材	板状	I	B1	(7.8)	2.6	0.4	板目			
368	320	302	SX945	4J-4E20		部材	板状	IV	B1	(11.2)	3.0	0.6	榎目		箱型部材カ	
368	320	303	SX945	4J-4E20		部材	板状	IV	D1	(8.5)	3.0	0.5	榎目		箱型転用楔カ	
369	320	304	SX945	4J-5F1		部材	板状	I	B1	37.7	(5.9)	0.5				
369	320	305	SX945	4J-4E24		部材	板状	IV	—	(26.5)	5.7	1.0		スギ		
369	320	306	SX945	4J-4E23		部材	板状	IV	B1	(33.0)	4.1	0.8				
369	320	307	SX945	4J-5E5	用途不明品	板状	IV	—	(30.5)	6.6	1.8	榎目				
369	320	308	SX945	4J-5E5	用途不明品	板状	IV	C1	(39.9)	6.8	0.7	榎目	環孔材			
370	321	309	SX945	4J-5E10	用途不明品	棒状	III	—	(71.5)	2.5	1.5	榎目		網棒カ		
370	321	310	SX945	4J-4E25	用途不明品	板状	I	—	(50.8)	2.0	0.8	榎目	スギ			
370	321	311	SX945	4J-5E4	用途不明品	板状	IV	—	(15.8)	3.5	1.5	板目		形カ		
370	321	312	SX945	4J-5E4	用途不明品	棒状	—	—	27.5	3.1	2.0			断面三角形被熱		
370	321	313	SX945	4J-5F6	用途不明品	棒状	I	A2	(27.0)	1.3	1.3		スギ			
370	321	314	SX945	4J-4E25	用途不明品	棒状	IV	—	(30.6)	4.0	1.5	半裁材				
370	321	315	SX945	4J-4F23	用途不明品	棒状	III	A	(16.5)	2.0	1.2			部材カ		
370	321	316	SX945	4J-4E23	用途不明品	棒状	III	C	(26.0)	2.1	1.4	板目	スギ			
371	321	317	SX948	4J-5C1		木槌			(22.8)	6.7	6.3	丸木	コナラ属クスギ節			
371	321	318	SX948	4J-5C6	建築部材	棒状	III	B	(77.5)	5.6	4.7	榎目				
371	322	319	SX948	4J-5C11	用途不明品	棒状	I	A2	(27.3)	2.7	2.1					
371	322	320	包含層	3J-9E23		曲物			(9.4)	(9.4)	0.2			側板		
371	322	321	包含層	3K-1A1		部材	板状	IV	A1	(11.1)	(4.5)	0.3	板目			
371	322	322	包含層	3K-5A12	用途不明品	板状	IV	C2	(15.3)	1.9	0.9	榎目				
371	322	323	包含層	3K-5A15-5B11		柱根	I	D	(61.1)	12.1	(8.5)	丸木				
372	322	324	包含層	4J-4C12		田下駄			(22.4)	9.7	1.5		スギ			
372	322	325	包含層	4J-4G6		柱根	I	D	(60.6)	5.4	3.5	丸木				
372	322	326	包含層	4J-5A8	用途不明品	棒状	IV	—	(31.0)	2.8	1.3	半裁材				
372	322	327	包含層	4J-5A12	用途不明品	棒状	I	A2	(43.8)	2.2	1.8					
372	322	328	包含層	—		曲物	F		(7.5)	(6.6)	0.8		スギ	底板		
372	322	329	河138	3J-7I9	用途不明品	板状	IV	B2	(15.0)	(3.9)	1.3					
372	323	330	河138	3J-7I9	用途不明品	板状	I	A1	(22.9)	4.5	0.5	榎目		曲物底板カ		
372	323	331	攪乱	—	用途不明品	棒状	IV	B	(6.7)	4.0	2.4			被熱		
372	323	332	南谷部	4J-5E2		瓢箪			(2.6)	(5.1)	0.5					
372	323	333	南谷部	—		挽物			(9.0)	(7.7)	(0.8)	横木	ケヤキ			
373	323	334	南谷部	—		舟形			24.5	5.2	0.6		スギ-ヒノキ科			
373	323	335	南谷部	—		刀形			(45.6)	2.6	1.4					
373	323	336	南谷部	—		弓形			(42.8)	2.1	2.2		イヌガヤ			
373	323	337	南谷部	—	用途不明品	棒状	I	A2	(19.7)	1.4	1.1		スギ			
373	323	338	黒溝直上	3I22		楔	板状	II	D1	6.5	3.1	0.85	榎目			
373	323	339	溝直上	グリッド5	用途不明品	棒状	—	—	(9.8)	2.0	1.7					
373	323	340	遺構外	—		曲物			(13.5)	9.3	0.4			側板		
373	323	341	遺構外	南北トレンチ		部材	板状	I	D1	14.1	4.3	1.0		広葉樹		
373	323	342	遺構外	08T-2	用途不明品	棒状	III	D	51.5	2.7	1.5					

別表9 上層出土ガラス・金属製品

別表9 上層出土ガラス・金属製品観察表

凡例

法量の()内数値は欠損資料の残存値である。

図版No.	写真図版No.	報告No.	出土位置				種別	器種	法量(cm, g)				材質	備考
			調査区	グリッド	遺構	層序			長軸	短軸	厚さ	重量		
374	324	1	1区	3J-3I21	SD76	1	ガラス製品	切子玉	1.9	1.2	1.2	3.4	水晶	
374	324	2	4区	4J-3D1	包含層		ガラス製品	小玉	0.6	0.6	0.5	0.2		完形
374	324	3	4区	3J-9I11	SD155		金属製品	鉄鍋	底径 15.6			27.7		
374	324	4	4区	3J-8F・G・H	SD158		金属製品	古銭	2.9	2.4	0.7	15.5		天聖元寶(初鑄1023年)
374	324	4	4区	3J-8F・G・H	SD158		金属製品	古銭						開元通寶(初鑄621年)
374	324	4	4区	3J-8F・G・H	SD158		金属製品	古銭						
374	324	4	4区	3J-8F・G・H	SD158		金属製品	古銭						
374	324	4	4区	3J-8F・G・H	SD158		金属製品	古銭						
374	324	5	4区	3J-7F	SE542		金属製品	鉄椀	口径 (10.9)		器高 2.7	19.7		
374	324	6	4区	3J-9E15	SE853		金属製品	板状製品	5.2	5.5	3.5	11.4		
374	324	7	4区	4J-5E	SE987		金属製品	鑿	柄長 10.7	柄幅 2.3	柄厚 0.7			刃長11.0、刃幅1.9、仕込み6.7
374	324	8	4区	3J-8F5	SK503	6	金属製品	古銭	2.4	2.4	0.1	1.9		元豐通寶(初鑄1078年)
374	324	9	4区	3J-8G20	SK555	23	金属製品	板状製品	9.7	1.0	0.3	12.4		
374	324	10	4区	3J-10D	SK1115		金属製品	鉄塊	4.2	3.5	2.6	47.9		
374	324	11	4区	4J-4F16	SK1500		金属製品	古銭	2.5	2.5	0.15	2.5		神功開寶(初鑄765年)
374	324	12	4区	4J-5D8	SX951	IVb	金属製品	鉄鏃	14.5	0.6	0.3	-		
375	324	13	4区	4J-1G3	SX945		金属製品	刀子	22.2	2.2	0.7			
375	324	14	南地区上層	3J-6H10	包含層	I c ~IV	金属製品	古銭	2.5	2.5	0.1	2.7		皇宋通寶(北宋1039年)緑青付着
375	324	15	南地区上層	3J-7I7	包含層	I c ~IV	金属製品	古銭	2.3	2.3	0.1	1.6		嘉祐通寶(北宋1056~1063年)
375	324	16	南地区上層	3J-7J3	包含層	I c ~IV	金属製品	不明	4.7	1.1	0.5	15.3		穿孔2ヶ所。緑青付着
375	324	17	1区	3J-6I22	河138	6	金属製品	古銭	2.4	2.4	1.0	3.5		元豐通寶(初鑄1078年)
375	324	18	1区	3J-8I10	河138	6	金属製品	鉄鏃	8.2	0.8	0.8	8.7		
375	324	19	4区	4J-1G	東側土側溝		金属製品	管状製品	12.4	0.6	-	29.3		
375	324	20	南地区上層	3J-8I3	攪乱	1	金属製品	古銭	2.4	2.4	0.1	3.3		嘉祐元寶(北宋1056年)緑青付着
375	324	21	4区	-	表採		金属製品	古銭	4.8	3.1	0.3	16.5		天保通寶(初鑄1835年)

別表 10 上層主要遺構出土古代土器種構成率

遺構名	種別	食器具												酒飲具								貯蔵具											供養具			その他	合計						
		土脚器				黒色土器				須恵器				土脚器				土脚器				須恵器			平瓶				提瓶				壺	壺蓋	把手付鉢	水甕		仏鉢	円面甕				
		杯蓋	無台碗	高杯	鉢	無台碗	高杯	杯蓋	無台杯	有台杯	高杯	小壺	長壺	壺(北方系)	罏	壺	壺	長頸瓶	短頸瓶	長頸壺	短頸壺	平瓶	提瓶	横瓶	壺	壺蓋	把手付鉢	水甕	仏鉢	円面甕													
SE485	口縁数(点)																																										
	器数(点)																																										
	体数(点)																																										
	総点数(点)																																						1	100.0%			
	総重量(g)																																						2.2	100.0%			
SE520	口縁数(点)																																										
	器数(点)																																										
	体数(点)																																										
	総点数(点)																																							2	100.0%		
	総重量(g)																																							37.7	100.0%		
SE522	口縁数(点)																																										
	器数(点)																																										
	体数(点)																																										
	総点数(点)																																								0.19	100.0%	
	総重量(g)																																								1	100.0%	
SE541	口縁数(点)																																										
	器数(点)																																										
	体数(点)																																										
	総点数(点)																																									1	100.0%
	総重量(g)																																									3.3	100.0%
SE542	口縁数(点)																																										
	器数(点)																																										
	体数(点)																																										
	総点数(点)																																										
	総重量(g)																																										
SE577	口縁数(点)																																										
	器数(点)																																										
	体数(点)																																										
	総点数(点)																																										
	総重量(g)																																										
SE709	口縁数(点)																																										
	器数(点)																																										
	体数(点)																																										
	総点数(点)																																										
	総重量(g)																																										
SE710	口縁数(点)																																										
	器数(点)																																										
	体数(点)																																										
	総点数(点)																																										
	総重量(g)																																										
SE798	口縁数(点)																																										
	器数(点)																																										
	体数(点)																																										
	総点数(点)																																										
	総重量(g)																																										
SE805	口縁数(点)																																										
	器数(点)																																										
	体数(点)																																										
	総点数(点)																																										
	総重量(g)																																										
SE853	口縁数(点)																																										
	器数(点)																																										
	体数(点)																																										
	総点数(点)																																										
	総重量(g)																																										
SE882	口縁数(点)																																										
	器数(点)																																										
	体数(点)																																										
	総点数(点)																																										
	総重量(g)																																										

別表 10 上層主要遺構出土古代土器器種構成率

遺構名	種別	食器										酒器								貯蔵具										供養具			その他		合計
		土師器					黒色土師					須恵器			土師器								須恵器		水瓶			仏鉢							
		杯	蓋	無台碗	高杯	鉢	無台碗	高杯	杯蓋	無台杯	有台杯	高杯	小	長	甕(北方系)	甕	壺	長頸瓶	短頸瓶	長頸壺	短頸壺	平瓶	提風	横瓶	壺	壺蓋	把手付鉢	水瓶	仏鉢	内面観					
SE912	口残線							0.08	100.0%																						0.08	100.0%			
	口縁数(点)							1	100.0%																						1	100.0%			
	底点数(点)																																		
	総重量(g)																																		
	口残線								0.03	100.0%																						0.03	100.0%		
SE917	口縁数(点)							1	100.0%																						1	100.0%			
	底点数(点)							3	15.3%				5	26.3%	11	57.9%															19	100.0%			
	総重量(g)							14.4	27.0%				19.9	37.3%	19.0	35.7%															53.3	100.0%			
	口残線																																		
	口縁数(点)																																		
SE920	口残線																																		
	口縁数(点)																																		
	底点数(点)																																		
	総重量(g)																																		
	口残線																																		
SE1070	口残線																																		
	口縁数(点)																																		
	底点数(点)																																		
	総重量(g)																																		
	口残線																																		
SE107	口残線		0.03	100.0%																															
	口縁数(点)		1	100.0%																															
	底点数(点)												0.19	34.5%	0.36	65.5%																			
	総重量(g)																																		
	口残線																																		
SK69	口残線																																		
	口縁数(点)																																		
	底点数(点)																																		
	総重量(g)																																		
	口残線																																		
SK83	口残線																																		
	口縁数(点)																																		
	底点数(点)																																		
	総重量(g)																																		
	口残線																																		
SK556	口残線																																		
	口縁数(点)																																		
	底点数(点)																																		
	総重量(g)																																		
	口残線																																		
SK558	口残線																																		
	口縁数(点)																																		
	底点数(点)																																		
	総重量(g)																																		
	口残線																																		
SK619	口残線																																		
	口縁数(点)																																		
	底点数(点)																																		
	総重量(g)																																		
	口残線																																		
SK820	口残線																																		
	口縁数(点)																																		
	底点数(点)																																		
	総重量(g)																																		
	口残線																																		
SK647	口残線																																		
	口縁数(点)																																		
	底点数(点)																																		
	総重量(g)																																		
	口残線																																		

別表 10 上層主要遺構出土古代土器種類構成率

遺構名	種別	食器類										酒器類										貯蔵具								供養具		その他	合計				
		土脚器				黒色土器			須恵器			土脚器			土脚器			須恵器		平瓶		提風		壺		壺蓋	把手付鉢	水瓶	須恵器	仏鉢	円蓋						
		杯	蓋	無台碗	高杯	鉢	無台碗	高杯	杯蓋	無台杯	有台杯	高杯	小	大	長	斐(北方系)	罎	壺	費	長頸瓶	短頸瓶	長頸壺	短頸壺	平瓶	提風	壺	壺蓋	把手付鉢	水瓶	須恵器	仏鉢	円蓋					
SK666	口縁線										0.14	9.2%	0.83	54.6%																				1.52	100.0%		
	口縁数(点)							2	18.2%	2	18.2%	2	18.2%	1	9.1%	4	36.3%																	11	100.0%		
	底縁線													0.75	44.4%																			1.69	100.0%		
	底縁数(点)													2	22.2%																		9	100.0%			
	体部数(点)																																	235	100.0%		
	総点数(点)																																	255	100.0%		
SK758	口縁線																																	2077.1	100.0%		
	口縁数(点)																																	3.33	100.0%		
	底縁線																																	0.92	100.0%		
	底縁数(点)																																	1	100.0%		
	体部数(点)																																		9	100.0%	
	総点数(点)																																		13	100.0%	
SK766	口縁線																																		216.2	100.0%	
	口縁数(点)																																				
	底縁線																																				
	底縁数(点)																																				
	体部数(点)																																				
	総点数(点)																																				
SK796	口縁線																																				
	口縁数(点)																																				
	底縁線																																				
	底縁数(点)																																				
	体部数(点)																																				
	総点数(点)																																				
SK804	口縁線																																				
	口縁数(点)																																				
	底縁線																																				
	底縁数(点)																																				
	体部数(点)																																				
	総点数(点)																																				
SK805	口縁線																																				
	口縁数(点)																																				
	底縁線																																				
	底縁数(点)																																				
	体部数(点)																																				
	総点数(点)																																				
SK810	口縁線																																				
	口縁数(点)																																				
	底縁線																																				
	底縁数(点)																																				
	体部数(点)																																				
	総点数(点)																																				
SK833	口縁線																																				
	口縁数(点)																																				
	底縁線																																				
	底縁数(点)																																				
	体部数(点)																																				
	総点数(点)																																				
SK916	口縁線																																				
	口縁数(点)																																				
	底縁線																																				
	底縁数(点)																																				
	体部数(点)																																				
	総点数(点)																																				
SK1008	口縁線																																				
	口縁数(点)																																				
	底縁線																																				
	底縁数(点)																																				
	体部数(点)																																				
	総点数(点)																																				
SK1010	口縁線																																				
	口縁数(点)																																				
	底縁線																																				
	底縁数(点)																																				
	体部数(点)																																				
	総点数(点)																																				
SK1028	口縁線																																				
	口縁数(点)																																				
	底縁線																																				
	底縁数(点)																																				
	体部数(点)																																				
	総点数(点)																																				

遺構名	種別	食器											酒器											貯蔵器											供養器		その他	合計
		土器				黒色土器				須恵器			土器				土器				須恵器			平瓶				提風	横瓶	壺	壺蓋	把手付鉢	水瓶	仏鉢	円面鏡			
		杯蓋	無台碗	高杯	鉢	無台碗	高杯	杯蓋	無台杯	有台杯	高杯	小	費	費(北方系)	罎	壺	壺	費	長頸瓶	短頸瓶	長胴壺	短頸壺	平瓶	提風	横瓶	壺	壺蓋	把手付鉢	水瓶	仏鉢	円面鏡							
SK1052	口残線											0.03	100.0%																			0.03	100.0%					
	口縁数(点)												1	100.0%																		1	100.0%					
	底残線																																					
	底縁数(点)																																					
	体部数(点)																																					
SK1115	口残線		0.08	20.5%				0.14	35.9%	0.03	7.7%																											
	口縁数(点)		2	22.2%				2	22.2%	1	11.1%																											
	底残線												0.16	100.0%																								
	底縁数(点)												1	100.0%																								
	体部数(点)								5	4.6%		3	2.8%																									
SK1219	口残線																																					
	口縁数(点)																																					
	底残線																																					
	底縁数(点)																																					
	体部数(点)																																					
SK1248	口残線																																					
	口縁数(点)																																					
	底残線																																					
	底縁数(点)																																					
	体部数(点)																																					
SK1247	口残線																																					
	口縁数(点)																																					
	底残線																																					
	底縁数(点)																																					
	体部数(点)																																					
SK1284	口残線																																					
	口縁数(点)																																					
	底残線																																					
	底縁数(点)																																					
	体部数(点)																																					
SK1286	口残線																																					
	口縁数(点)																																					
	底残線																																					
	底縁数(点)																																					
	体部数(点)																																					
SK1500	口残線																																					
	口縁数(点)																																					
	底残線																																					
	底縁数(点)																																					
	体部数(点)																																					
SD76	口残線																																					
	口縁数(点)																																					
	底残線																																					
	底縁数(点)																																					
	体部数(点)																																					
SD153	口残線																																					
	口縁数(点)																																					
	底残線																																					
	底縁数(点)																																					
	体部数(点)																																					
SD154	口残線																																					
	口縁数(点)																																					
	底残線																																					
	底縁数(点)																																					
	体部数(点)																																					

別表 10 上層主要遺構出土古代土器種類構成率

遺構名	種別	食糧具											煮炊具											貯蔵具									供養具			その他		合計
		土器器				黒色土器				須恵器			土器器				土器器			土器器			土器器			土器器			土器器									
		杯蓋	無台碗	高杯	鉢	無台碗	高杯	杯蓋	無台杯	有台杯	高杯	小 壺	長 壺	甕(北方系)	罏	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺	壺			
SD155	口縁数(点)							0.14	24.6%	0.16	28.1%	0.16	28.1%	0.08	14.0%																			0.57	100.0%			
	底縁数(点)			0.24	9.8%						0.22	30.0%	0.92	37.7%			0.14	5.8%																8	100.0%			
	体数数(点)			1	11.1%						1	11.1%	3	33.4%			1	11.1%																2.44	100.0%			
	総点数(点)			3	3.0%			1	1.0%	1	1.0%	2	2.0%	5	5.0%	1	1.0%																	100	100.0%			
	総重量(g)			4	3.4%			1	0.9%	1	0.9%	2	1.7%	8	6.8%	6	5.1%																	117	100.0%			
SD156	口縁数(点)	0.03	2.5%	0.06	5.0%			0.38	31.4%	0.22	18.1%	0.11	9.1%			0.11	9.1%	0.30	24.8%															1.21	100.0%			
	底縁数(点)	1	7.7%	1	7.7%			3	23.1%	3	23.1%	1	7.7%			2	15.3%	2	15.4%															13	100.0%			
	体数数(点)							1	39.0%	3	84.8%																							2.20	100.0%			
	総点数(点)			1	1.1%			1	1.1%	2	2.2%	4	4.5%			45	50.0%	37	41.1%					1	1.1%	1	1.1%							90	100.0%			
	総重量(g)			2.1	0.2%	2.4	0.3%			4	3.7%	5	4.6%	8	7.4%			47	43.1%	40	36.7%			1.7	0.2%	13.3	1.4%							109	100.0%			
SD157	口縁数(点)			0.24	8.7%	0.14	5.0%	0.03	1.1%			1.46	52.7%			0.03	1.1%																	3.29	100.0%			
	底縁数(点)			1	6.7%	2	13.3%	1	6.7%			4	26.6%			3	20.0%							1	6.7%	2	13.3%							15	100.0%			
	体数数(点)																																	4.83	100.0%			
	総点数(点)			2	1.7%	2	1.7%	1	0.8%			1	1.1%			2	2.2%	4	4.5%					32	34.0%	5	5.3%							94	100.0%			
	総重量(g)			33.7	0.2%	19.4	0.1%	8.5	0.1%			420.7	2.3%			261.3	1.5%							601.9	3.4%	1235.2	7.0%							1769.8	100.0%			
SD158	口縁数(点)			0.03	4.1%			0.11	14.9%	0.19	25.6%	0.30	40.5%			0.11	14.9%																	0.74	100.0%			
	底縁数(点)			1	8.3%			2	16.7%	4	33.3%	2	16.7%			3	25.0%																		12	100.0%		
	体数数(点)			0.11	10.8%					0.08	7.8%	0.27	26.5%			0.24	23.5%	0.32	31.4%																1.02	100.0%		
	総点数(点)			1	14.2%					1	14.2%	2	28.7%			1	14.2%	2	28.7%																7	100.0%		
	総重量(g)			2	1.2%			4	2.4%	11	6.5%	2	1.2%			63	41.7%	74	49.0%					5	3.3%	1	0.7%							151	100.0%			
SD174	口縁数(点)			18.0	1.2%			63.3	4.2%	35.7	2.4%	225.2	15.1%			378.7	25.4%	622.9	41.7%					138.9	9.3%	11.1	0.7%							1493.8	100.0%			
	底縁数(点)																																					
	体数数(点)																																					
	総点数(点)																																					
	総重量(g)																																					
SD219	口縁数(点)																																					
	底縁数(点)																																					
	体数数(点)																																					
	総点数(点)																																					
	総重量(g)																																					
SD222	口縁数(点)																																					
	底縁数(点)																																					
	体数数(点)																																					
	総点数(点)																																					
	総重量(g)																																					
SD223	口縁数(点)																																					
	底縁数(点)																																					
	体数数(点)																																					
	総点数(点)																																					
	総重量(g)																																					
SD474	口縁数(点)																																					
	底縁数(点)																																					
	体数数(点)																																					
	総点数(点)																																					
	総重量(g)																																					
SD475	口縁数(点)																																					
	底縁数(点)																																					
	体数数(点)																																					
	総点数(点)																																					
	総重量(g)																																					
SD480	口縁数(点)							0.48	36.4%	0.11	8.3%	0.11	8.3%			0.16	12.1%																					
	底縁数(点)							1	16.7%	1	16.7%	1	16.7%			2	33.2%																					
	体数数(点)									0.14	6.6%	0.16	7.8%			1.81	85.8%																					
	総点数(点)							2	3.8%	2	3.1%	1	1.6%			4	66.0%																					
	総重量(g)							5	5.4%	2	3.8%	2	3.1%			25	47.2%	1	1.9%																			
SD800	口縁数(点)							0.11	26.2%																													
	底縁数(点)							3	49.9%																													
	体数数(点)																																					
	総点数(点)							2	1.9%	2	1.9%					39	36.8%	50	47.2%					3	2.8%													
	総重量(g)							5	4.5%	2	1.8%					39	34.8%	51	45.4%					3	2.7%													

別表 10 上層主要遺構出土古代土器種類構成率

遺構名	種別	食器												酒器												貯蔵器												供養具		その他		合計
		土師器				黒色土師				須恵器				土師器												須恵器												須恵器		須恵器		
		杯	蓋	無台碗	高杯	鉢	無台碗	高杯	杯蓋	無台杯	有台杯	高杯	小	長	壺(北方系)	罎	壺	長頸瓶	短頸瓶	長胴壺	短頸壺	平瓶	提瓶	横瓶	壺	壺蓋	把手付鉢	水瓶	仏鉢	内面観												
SX947	口残破												0.19	100.0%																	0.19	100.0%										
	口縁数(点)												3	100.0%																	3	100.0%										
	底面数(点)											0.49	49.0%	0.22	31.0%																0.71	100.0%										
	体部数(点)											1	25.0%	3	75.0%																4	100.0%										
	総点数(点)											16	66.7%	8	33.3%																24	100.0%										
総重量(g)											17	54.8%	14	45.2%																31	100.0%											
SX948	口残破																														0.08	100.0%										
	口縁数(点)																														1	100.0%										
	底面数(点)																																									
	体部数(点)																																									
	総重量(g)																																1	100.0%								
SX949	口残破																																									
	口縁数(点)																																									
	底面数(点)																																									
	体部数(点)																																									
	総重量(g)																																									
SX950	口残破																																									
	口縁数(点)																																									
	底面数(点)																																									
	体部数(点)																																									
	総重量(g)																																									
SX951	口残破																																									
	口縁数(点)																																									
	底面数(点)																																									
	体部数(点)																																									
	総重量(g)																																									
SX957	口残破																																									
	口縁数(点)																																									
	底面数(点)																																									
	体部数(点)																																									
	総重量(g)																																									
SX958	口残破																																									
	口縁数(点)																																									
	底面数(点)																																									
	体部数(点)																																									
	総重量(g)																																									
SX998	口残破																																									
	口縁数(点)																																									
	底面数(点)																																									
	体部数(点)																																									
	総重量(g)																																									
SX1020	口残破																																									
	口縁数(点)																																									
	底面数(点)																																									
	体部数(点)																																									
	総重量(g)																																									
SX1088	口残破																																									
	口縁数(点)																																									
	底面数(点)																																									
	体部数(点)																																									
	総重量(g)																																									
SX1222	口残破																																									
	口縁数(点)																																									
	底面数(点)																																									
	体部数(点)																																									
	総重量(g)																																									
SX1378	口残破																																									
	口縁数(点)																																									
	底面数(点)																																									
	体部数(点)																																									
	総重量(g)																																									
河138	口残破																																									
	口縁数(点)																																									
	底面数(点)																																									
	体部数(点)																																									
	総重量(g)																																									

報告書抄録

ふりがな	おおさわやちいせきに							
書名	大沢谷内遺跡Ⅱ 第7・9・11・12・14次調査							
副書名	一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第2・4・6・7・9次発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	細野高伯・伊比博和・立木宏明・前山精明・相沢 央・松井 章・三ツ井朋子・(株)古環境研究所 (株)火山灰考古学研究所・(財)元興寺文化財研究所							
編集機関	新潟市文化観光・スポーツ部文化財センター							
所在地	〒950-1122 新潟県新潟市西区木場2748番地1 TEL 025-378-0480							
発行年月日	西暦 2012年3月26日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃〃	東経 〃〃	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおさわやちいせき 大沢谷内遺跡Ⅱ	にいがたけんにいがたし 新潟県新潟市 あきはくあまがさわ 秋葉区天ヶ沢 あざまるやまちない 字丸山内	15105	342	37° 44′ 30″	139° 04′ 50″	20050807～ 20091228	上層遺跡 8,004.4 下層遺跡 7,684.4	一般国道403号 小須戸田上バイパス 整備工事に伴う発掘 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
大沢谷内遺跡Ⅱ	集落	中世(13世紀～14世紀)	掘立柱建物7、井戸26、溝15、土坑42、性格不明遺構9、ほかピット多数	珠洲焼、中世土師器、輸入陶磁器(白磁・青磁)、瀬戸美濃焼、瓦質土器、土製品(紡錘車)、石製品(砥石・台石)、木製品(鎌・下駄・剝物・曲物・蓋・折敷・椀・皿・箸状・刀子形・火鑽白・楔・部材・柱根・礎盤・瓢箪)、金属製品(古銭・鑿)、ガラス製品(切子玉)、アスファルト塊			アスファルト付着漆椀	
	集落	飛鳥～古代(7世紀中葉～9世紀前半)	掘立柱建物19、井戸14、溝11、柱穴列9、土坑96、谷斜面遺物集中、ほかピット多数	須恵器、土師器、土製品(有孔円盤・羽口・支脚・円筒形土製品)、石製品(砥石・磨石類・台石)、木製品(木槌鋤・田下駄・剝舟・櫛・櫛・剝物・曲物・椀・円板・箸状・斎串・刀形・鎌形・舟形・弓形・木筒・楔・部材・柱根)、金属製品(古銭・鉄鍋・鉄鉢・鉄鎌・刀子・鉄塊)、アスファルト塊				
	遺物包蔵地	弥生後期～古墳前期	なし	弥生土器、土師器、石器(磨製石斧)				
	集落	縄文時代晩期中葉前半	住居15、掘立柱建物7、土坑318(デポ遺構・土坑墓含む)、ピット204、小竪穴状遺構2、焼土遺構37、炭化物集中34、溝状遺構5	縄文土器、動物形土製品、石器(石鎌・石錐・磨製石斧・磨石類・敲石・石皿・台石類・石剣ほか)、アスファルト塊、赤色顔料			アスファルト付着土器・石器	
要約	大沢谷内遺跡は、新津丘陵と信濃川にはさまれた沖積地に位置し、飛鳥時代・古代・中世の上層遺跡と縄文時代晩期中葉の下層遺跡からなる。上層遺跡は飛鳥時代・古代を中心とした掘立柱建物・井戸・溝・土坑等で構成される集落跡で、南側の谷部においては大量の須恵器・祭祀木製品からなる祭祀場が確認された。県内では希少な飛鳥時代の集落跡と祭祀場の例として注目される。さらに上層遺跡からは遺物のみであるが弥生時代後期・古墳時代前期の土器も散見された。下層遺跡では縄文時代晩期中葉前半の短期間に営まれた集落跡が検出された。また天然のアスファルト塊、アスファルト付着土器・石器が出土しており、当該期の利用方法の解明に重要な資料といえる。							

大沢谷内遺跡Ⅱ 第7・9・11・12・14次調査

— 一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う
大沢谷内遺跡第2・4・6・7・9次発掘調査報告書 —

本文編

2012年 3月15日印刷

2012年 3月26日発行

編 集	新潟市文化財センター 新潟県新潟市西区木場 2748 番 1 〒950-1122 TEL 025(378)0480
発 行	新潟市教育委員会 新潟県新潟市中央区学校町通一番町 602 番地1 〒951-8550 TEL 025(228)1000
印 刷	株式会社 第一印刷所 新潟県新潟市中央区和合町2丁目4番 18 号 〒950-8724 TEL 025(285)7161